OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	アングロノルマン研究 -フランス語教本およびアングロノルマン文学-
Author(s)	福井, 秀加
Citation	大阪大学, 1995, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3104944
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

アングロノルマン研究

——フランス語教本およびアングロノルマン文学——

福　井　秀　加
HIDEKA FUKUI

アングロノルマン研究
——フランス語教本およびアングロノルマン文学——

Contents

I　アングロノルマン時代と文学 …… 1

II　アングロノルマン語の推移 …… 9

III　フランス語教本 …… 27

1) *Tractatus Orthographiae* T. H. Parisii Studentis …… 29
——パリの学生 T. H. による正綴論——

2) *Orthographia Gallica* …… 47
——「ガリア語正綴法」訳述——

3) *Tractatus Ortogrphie Gallicane* by M. T. Coyfurelly …… 81
——M. T. コワフュルリの「ガリア語正綴論」——

4) Walter de Bibbesworth のフランス語教本
- 語彙集 : *Le Tretiz* …… 111
- Gautier de Biblesworth : *Le Tretyz* …… 205

5) アングロノルマン「礼節」論
—— *Anglo-Norman Treatise on Courtesy* ——
- *Noreture* …… 267
- *Les Curtesyes* …… 291

6) *La Manière de Langage* …… 315
——フランス語の話し方，書き方教本——

7) 書簡文範 Epistolography …… 365

8) Treatise : *Femina* …… 381

9) *Liber Donati* …… 601

10) アングロノルマン語の顕著な特徴 …… 611

IV　アングロノルマン文学 …… 615

1) *Amys e Amillyoun* …… 617

2) Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon* …… 673

3) Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut* …… 691

4) *Les Dytees* attributed to Walter de Bibbesworth …… 707
——ビブズワスの *Les Dytees*「詩(うた)」——

5) *Le Jeu d'Adam* An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century …… 723
——アングロノルマン「アダム劇」——

Select Bibliography …… 763

I　アングロノルマン時代と文学

I　アングロノルマン時代と文学

ウィリアム征服王がイングランドに渡った1066年より前に，当地の上流社会にはフランスの風俗と言語とがかなり広まっていたのであるが，ウィリアムに続いて主に，ノルマンディ地方の人々が多数イングランドに定着してから，彼等とその子孫達は数世紀の間，イングランドの言語と文化とに著しい影響を与えることになった。この人達の作り出した文学がアングロノルマン文学と呼ばれる。言語はアングロノルマン語である。彼等以外にも土着のイギリス人や大陸のフランス人，ノルマン人もこの文学の担い手となった。

この言語と文学が人びとの興味を引いたのは18世紀後半に遡る。しかしその研究は1939年に至っても「細部をつみ重ねて綜合することが可能になったにすぎない･･･しかもそれは，まだ決定的な研究となり得ていない」のであった。[1] 1963年にオクスフォードから *Anglo-Norman Literature and its Background* を刊行された Legge 教授は，今でもこの分野の研究が不充分であることに言及されていた。[2] 1954年であったが，Ruth Dean 教授は英国およびフランスに400余のアングロノルマン語（AN）による写本が現存していることに注目し，それらが全て翻字され，刊行される日の近いことを切望して 'A Fair Field Needing Folk : Anglo-Norman'[3] と AN に興味をもつ人々に呼びかけられた。フランス語による最初の抒情詩，聖書の翻訳，典礼劇，歴史書，年報，武勲詩，ロマンス等々の作品が大陸フランスに先がけてアングロノルマン語で作成されている。英文学を眺望し，また英語史を繙くにあたっても等閑にすることのできないアングロノルマン時代とその文学の諸特徴をまず述べてゆこう。

912年にノルマン人はフランク王からノルマンディ地方を譲与され，それを領有してノルマンディ公国を建設した。彼等は10世紀初頭から11世紀にかけて巧妙な政治手腕をもって其の地に強力な政体をつくり上げ，Bec や Caen にはパリに先駆ける優れた学問所を作った。そこでは高い文化水準が保持されたという。当時のノルマン人は実際的な人びとであり，強い好奇心をもち，真面目な宗教心を抱いていたようである。彼等は11世紀になってもまだ先祖の冒険心を失なわなかったらしく，巡礼や商人や兵士となり，或いはこの三者一体となった集団でフランスやイスパニアの諸地方にはいり込み，地中海の諸港に出入りした。ウィリアム征服王がイングランドを掌握している間に，この集団は南イタリアにおよび，其の地に強力な王国を建設した。ノルマン人がこのように急速に作りあげた勢力は制海権に立脚したものであったといえる。

海洋雄飛を好むノルマン人の嗜好を裏書きするかのように，海の冒険物語の「聖ブレンダヌスの航海」[4] がイングランドに居を定めたノルマン人によっていちはやくラテン語からアングロノルマン語に翻訳されている。これは当時大層人気のあったものらしく，120余のラテン語による Navigatio Sancti Brendani が現在残っている。西方の大海の中にある不思議な魔法の島々へ旅をし，地獄と天国とをかいま見る聖者 Brendan とその17人の弟子の遍歴の物語である。彼等は神に反逆した天使達の中で罪の軽いものたちだけが白い鳥になって住んでいる鳥の島を訪れたり，地獄の炎からひとときを逃れて，大海の真ただ中の岩に坐り，荒波に打たれながら贖罪をしている，骨と皮ばかりのユダに遭遇したりする。現存する最古のアングロノルマン語の写本[5] によって伝えられているこの作品は，最近の研究によると，ヘンリー１世の最初の后 Maud に捧げられたもののようである[6]。「聖ブランダン」の作者の Benedeit とほぼ同

じ時に Philippe de Thaon が1119年頃「暦法」[7] をあらわした。ついで彼は博物学に関する手引書ともいうべき *Physiologus* を翻訳して「動物誌」*Bestiaire*[8] を書いた。アングロサクソン語の Physiologus はイングランドに存在していたが，これはフランス語の中で一番古い「動物誌」(1121—1135) である。*Bestiaire* は実在と架空の動物をとりまぜて動物たちの習性をえがき，それらを比喩的な象徴であらわしている。例えばペリカンは胸を引裂いて血を与え，我が子の生命を救うといわれ，キリストになぞらえてある。Philippe de Thaon は *Lapidaire*「宝石誌」も書いた。最も古い *Lapidaire* もアングロノルマンのものが残っている。[9] このような作品が他の様式より早く現われたことはアングロノルマン文学の性格の一端，すなわち早熟性 Precocity[10] を示していると言ってもよいであろう。

歴史と年代記も又この文学の中で重要な位置を占める。フランス本土では Froissart の出現までは王家の年代記ないし編年史が殆どラテン語で作成されていたが，イングランドでは多くの韻文のアングロノルマン語による年代記が作られた。Geoffery Gaimar はブリトン人の歴史物語を書き，それに続いて *L'Estoire des Engleis* (1147—1151)[11] を *Saxon Chronicle* を典拠に用いて作り上げた。Jersey 島に生まれ Caen に住んだ学僧 Wace も Geoffrey of Monmouth のラテン語の *Historia Regum Britanniae* (*ca.* 1136)「ブリテン列王史」[12] を翻案して，*Roman de Brut* (1155)[13] を世に出した。Geoffrey の *Historia* に同じく，彼はブリテン王国の建国伝説の王 Brutus の曾祖父 Eneas がトロイを逃れる所から物語を始めて，ブルータスとブリトン人が Albion に定住する話におよび，ブリテン最後の王 Cadwalader (689 A. D.) が国を離れ，かわってサクソン王 Athelstan がイングランドの王となり Cadwalader の子孫たちが後にウェールズに戻って落着く所で叙述を終えている。これには事実と架空の物語がいり混っているけれども，出来る限り読者に信憑性のある知識を与えようとする意図がある。ワースはそれをヘンリー2世の后 Eléonore に献じた。この「ブリュ物語」は詩人としてのワースの優れた技量を示しており，この分野の傑作である。ヂェフリーによって紹介され，ワースに導かれてアーサー王と円卓の騎士は，その後の文学の広い舞台に登場することになる。ワースはノルマンディ公歴代の物語 *Roman de Rou* (1160—1174)[14] にも着手したが，それは完成せずに終えた。彼と同時代にありヘンリー2世の寵愛を受けた Benoît de Sainte Maure は *Chronique des Ducs de Normandie*[15] を書き，ノルマンディ公の年代記をヘンリー1世の時代まで叙述した。ヘンリー2世とその息子たちとの当時の争いは歴史は Jordan Fantosme の Chronicle に残っている。[16]

文学史上アングロノルマン時代はヘンリー1世の時代に始まるとされているが，[17] その後，ヘンリー2世と Eléonore d'Aquitaine 王妃の宮廷には各地から学者や詩人や騎士が集まった。ヘンリー2世の領地はスコットランドからピレネまで拡がり，西ヨーロッパに勢力を誇示していた。エレオノール王妃の祖父ポワチエ伯は大貴族であったがプロヴァンス文学を世に広めたトルーバドゥールの一人であったといわれる。このヘンリー2世の宮廷は英国の歴史に重要な意味をもたらすことになるのである。当時 British Isles はスカンディナヴィア諸国と共にヨーロッパ文化圏のいわば外縁に位置していたから，大陸との交渉が断絶すれば歴史の潮流の動きからとり残される危険を含んでいた。イングランドはノルマンディとの交流を通じてこの断絶をまぬがれ，中世全期にわたって地中海文明との交渉を維持する様になった。ヘンリー2世以後プランタジネット朝宮廷の果たした役割は歴史的にも文学的にも高く評価されなければならない。冒険心と投機心とに溢れ，巧みな外交手腕や実務能力を具え，優れた文学，美術観を持ち合わせていたノルマン人が，沈滞したイングランドの主に知的な面に貢献したということは見逃してはならない。

フランス文学の叙事詩の傑作 *La Chanson de Roland*[18] や *Le Pèlerinage de Charlemagne*[19] はアングロノルマン語の写本が残っている。この両作品がアングロノルマン語で保存されており，更にイングランドの地で模倣されて中世英語の作品となり *Roland and Vernagu*[20] や *Song of Roland*[21] や *The*

Lyf of the Noble and Crysten Prince Charles the Grete[22] としてこの地に広まったことは興味深い。

アングロノルマン文学ないし文明が持っていた真の値価は，互いに離れて存在していた二つの国，イングランドとフランスとの間に人種的障害を越えて，活発な知的交流を行なったことにある。この文明の特徴は 'Cosmopolitanism' にあるといえよう。*King Horn*[23]，*Havelock the Dane*[24]，*Richard Coer de Lion*[25]，*Fouke Fitz Warin*[26]，や *King Dermot*[27] が新しい型の叙事詩の主人公になった。此等の叙事詩には *La Chanson de Roland* におけるような戦う戦士たちの荒々しい雰囲気が和らげられている。これらは既にでき上った貴族社会のなかで，平和的な安定した雰囲気を持って生まれてきた。つまりそれはロマンスの騎士道物語や冒険物語となった。イングランドに落着いたノルマン人の子孫はこのような社会的，文学的条件のもとで，12世紀にはかつての敵であったアングロサクソンの事蹟をもほめたたえ始めた。*Gui de Warewic*[28]，*Bueve de Hantone*[29] は Roland や Olivier と同様に著名な英雄になった。物語はまずアングロノルマン語で書かれた後，中世英語のロマンスとなって残った。

この他，アングロノルマン時代の人々はイングランドを古典古代の文明に再び接触させる役割をも果した。フランス文学で古代物とよばれる一群の作品，トロイ物語[30] やテーベの話[31] アレクサンダー大王の物語[32] 等がイングランドに伝わり此等はまた其の後中世英語の文学作品の主題にとり入れられて流布された。このことはカロリンガ・ルネサンスの波をアングロノルマン文学がイングランドの岸辺にもたらしたことを意味するであろう。

フランク王の所有する北フランスを侵略し，略奪をほしいままにしていた頃のノルマン人は，慓悍で好戦的であり，10世紀以前にはノルマンディ地方を徹底的に荒らしたのだったが，ノルマンディに公国をうち建ててからは敬虔で熱心なキリスト教信者となり，教会の保護者となった。イングランドに渡ったこのヴァイキングの子孫も宗教に非常な関心を示したのである。Ely，Canterbury，York，Durham などに居住していたノルマン人の建築家がたてた石碑に宗教詩がきざまれている。これは彼等の宗教的作品の最初のものであろう。彼等はノルマン様式の修院や教会を僧侶や学僧のために建立した。そして僧侶や学僧の宗教的知識の分け前にあづかろうと熱心であった。聖書の物語 *Li Quatre Livres des Reis*[33] の現存する５写本のうち最古のものがアングロノルマン語である。其の他「詩篇」[34] や「黙示録」[35] も又この言葉で書かれている。アングロノルマン文学作品とされているもののうちでは聖者伝や説教や教訓物語は極めて多く重要な部分を占めている。[36] フランス文学史上最古の聖者伝である *La Vie de St. Alexis*[37] にも，また最も古い劇作品である *Le Mystère d'Adam*[38] にもアングロノルマン語の特徴がみられる。

アングロノルマン文学という立場からこの文学の担い手たちの果たした最大の功績を指摘するならば，それは彼等がケルト的素材―ブリタニアの素材 *Matière de Bretagne* を西ヨーロッパに広めたことにある。ケルト人とサクソン人とは何世紀もの間，時には敵対し，或る時は平和な隣人として共存してきたが，サクソン人はケルトの文学的素材をイングランドの地ではみのらせることができなかった。ノルマン人がイングランドに定着するや，持前の強い好奇心によってでもあろうか，このケルトの素材，空想と驚異の物語が文学的創造の源となり始めた。目に見えぬ客の住む館，人間の愛を求める妖精，魔法の剣，魔法使や，トリスタンとイズーが示す不可思議な情熱や，アーサーと円卓の騎士の話などが新しい文学を生み出して行った。[39] このようなケルトの素材をあつかった物語はウエールズ語やアイルランド語によっては文学的成功を獲得し得なかったであろうが，アングロノルマン語を媒介にしてその豊かな発展をみせたのであった。

アングロノルマン文学の担い手たちは北フランスの騎士物語や，プロヴァンスの洗練された宮廷恋愛物語の影響も受け，ケルトの伝説をも用いて英仏海峡の両岸で文学史上に重要な文学作品を創造した。彼等の文学は様々な様式にわたっている。アングロノルマン文学は，中世イギリス文学に深い影響を与

えただけではなく，フランス文学にも大きな貢献をなしたのである。

注

1. Ruth J. Dean, "*Anglo-Norman Studies*", *The Romanic Review*, XXX (1939), p. 3.
2. M. Dominica Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background* (Oxford, 1963), pp. 1-2.
3. Ruth J. Dean, "A Fair Field Needing Folk : Anglo-Norman", (*PMLA* 69 No. 4 pt. 1, 1954) pp. 965-978. cf. 1965年 K. V. Sinclair 教授は第二次大戦後より60年代に至る AN 研究ならびに新たな写本校訂についての該博なる解説論文を世に問われた。K. V. Sinelair, "Anglo-Norman Studies : The Last Twenty Years", *Australian Journal of french studies* 2 (1965) pp. 113-55, 775-78.
4. *The Anglo-Norman Voyage of St. Brendan* ed, Ian Short & Brian Merrilees (Manchester Univ. Press 1979)
5. MSS. A : London, British Library Cotton Vesp. BX, 1. ff. 1^{r}-11^{r}
   B : Paris, Bibliothèque Nationale, nouv. acq. fr. 4503 ff. 19^{v}-42^{r}
   C : Oxford, Bodleian Library, Rawlinson D, 913 f. 85^{r}
   D : York, Dean and Chapter Library 16, K 12(1) ff. 23^{r}-36^{r}
   E : Paris, Bibliothèque de l'Arsenal 3516 ff. 96^{r}-100^{v}
6. R. L. G. Ritchie, "The Date of the Voyage of St. Brendan", *Medium Aevum*, XIX (1950), pp. 64-66.
7. (1) *Li Compoz Philippe de Thaün*, mit einer Einleitung, ed. E. Mall (Strassburg, 1873)
   (2) *Philippede Thaon, Comput* ed. Ian short (Anglo-Norman Text Seciety, Plain Texts Series 2 1984)
8. *Le Bestiaire de Philippe de Thaün*, ed. E. Walberg (Lund, 1900)
9. *Anglo-Norman Lapidaries*, ed. Paul Studer and Joan Evans (Paris, 1924)
10. M. Dominica Legge, "La Précocité de la Littérature anglo-normande", *Cahiers de Civilisasion Médiévale*, 8 (Poitiers, 1965), p. 334.
11. (1) *The Anglo-Norman Metrical Chronicle of Geoffrey Gaimar*, ed. Thomas Wright (Caxton Society, 1850, rpt. New York, 1967)
    (2) *Estoire des Engleis* by Gaimer ed. A. Bell〔ANTS XIV-XV 1960〕
12. *The Historia Regum Britanniae of Geoffrey oF Monmouth, with contributions to the study of its place in early British History*, ed. Acton Griscom and Robert Ellis Jones (London, 1929)
13. *Le Roman de Brut de Wace*, ed. Ivor Arnold, 2 vol. (Paris, 1938, 1940), 〔SATF〕
14. *Le Roman de Rou de Wace*, ed. A. J. Holden, 2 vol. (Paris, 1970, 1971)
15. *Chronique des Ducs de Normandie par Benoît, trouvère anglo-normand du XIIe siècle*, publiée pour la première fois d'après un manuscrit du Musée Britannique, 3 vol. ed. Francisque Michel (Paris, 1836)
16. *Chronicles of the Reigns of Stephen, Henry II, and Richard I*, ed. R. Howlett (Rolls Series, 1886)
17. M. Dominica Legge, *op. cit.* (2), p. 7.
18. *La Chanson de Roland*, ed. F. Whitehead (9th impression, Oxford, 1970)
19. *Charlemagne, An Anglo-Norman Poem of the Twelfth Century*, ed. Francisque Michel (London-Paris, 1836).
20. *Roland and Vernagu*, Ms. Auchinleck (Nat. Lib. Scotland, 19, 2, 1) : ed. S. J. Herrtage, (Oxford, 1882), 〔EETS, Es. 39〕 The English Charlemagne romances, pt. V.
21. *The Song of Roland*, Ms. Lansdowne 388 : ed. S. J. Herrtage, (Oxford, 1879), 〔EETS, Es. 35〕 The English Charlemagne romances pt. II.
22. *Charles the Grete*, Caxton's edition. 1485., ed. S. J. Herrtage, (Oxford, 1880) rpt. 1967.

〔EETS, Es. 36, 37〕 The English Charlemagne romances pt. III & IV.

23. (1) *King Horn, Floris and Blauncheflur*,re-ed. George H. Mcknight (Oxford, 1901), 〔EETS Os. 14〕
(2) *The Romance of Horn by Thomas*, ed. Mildred K. Pope, 2 vol. (Oxford, 1955, 1964) 〔ANTS XII-XIII〕

24. (1) *Le Lai d'Haveloc and Gaimar's Havelock Episode*, ed. Alexandre Bell (Manchester, 1925)
(2) *The Lay of Havelok the Dane*, re-ed. W. W. Skeat (Oxford, 1868), 〔EETS Es. 4〕

25. *Richard Coeur de Lyon* : MS. Auchinleck, Caius College, Cbg. 175 : Critical ed. all MSS K. Brunner (Wien, 1913)

26. (1) *Fouke Fitz Warin, roman du* XIVe *siècle*, ed. Louis Brandin (Paris, 1930) 〔CFMA〕
(2) *Fouke le Fitz Waryn, ed.* E. J. Hathaway, P. T. Ricketts, C. A. Robimson & A. D. Wilshire (*London*, 1975) 〔ANTS XXVI-XXVII〕

27. *Song of Dermot and the Earl*, ed. G. H. Orpen (Oxford, 1892).

28. (1) *Gui de Warewic, roman de* XIIIe *siècle*, 2 vol. ed. Alfred Ewert (Paris, 1933) 〔CFMA〕
(2) *The Romance of Guy of Warwick, 15th Century Version*, ed. J. Zupitza, Pts. I & II. (Oxford, 1875), 〔EETS Es. 25, 26〕

29. (1) *Der Festländische Bueve de Hantone*, ed. A. Stimming (Dresden, 1911)
(2) *The Romance of Sir Beves of Hamtoun*, ed. E. Kölbing, Pts. I-III (Oxford, 1855-1894), 〔EETS Es. 46, 48, 65〕

30. *Le Roman de Troye, par Benoît de Sainte-Maure, publié d'après tous les mss. connus*, ed. Lépold Constans 6 vol. (Paris, 1904-1912), 〔SATF〕

31. *Le Roman de Thèbes, édition critique d'après tous les mss. connus*, ed. Léopold Constans 2 vol. (Paris, 1890), 〔SATF〕

32. (1) *Le Roman de toute chevalerie* ; by Thomas of Kent ed. B. Foster 2 vol. (London 1976-77), 〔ANTS XXIX-XXXIII〕
(2) *Kyng Alisaunder*, ed. G. V. Smithers 2 vol. (Oxford, 1952, 1957), 〔EETS Os. 227 237〕

33. *Li Quatre Livres des Reis*, Die Bücher Samuelis und der Könige in einer franz. Bearbeitung des XII Jahrh. ed. E. R. Curtius (Halle, 1911), 〔Gesellschaft für romanische Literatur, XXVI〕

34. *Libri Psalmorum* Versio Antiqua Gallica, ed. Francisque Michel (Oxonii, 1860)

35. *An Anglo-Norman Rhymed Apocalypse* with Commentary, from the Gijfard MS. formerly in the possession of Sir John Fo*x* and now in the Bodleian, ed. Olwen Rhys. with a Historical Introduction by Sir John Fox (Oxford, 1946), 〔ANTS VI〕
Apocalypse Anglo-Normande, Cambridge Trinity College MS R. 16. 2.
ed. Y. Otaka & H. Fukui (Osaka, 1977) 〔CRAN〕

36. cf. M. Dominica Legge, *op. cit.* cf. Johan Vising, *Anlgo-Norman Language and Literature* (originally published in 1923, by Oxford University Press, rpt. London 1970)

37. *La Vie de Saint Alexis*, ed. C. Storey (Oxford, 1958)

38. *Le Mystère d'Adam, édition diplomatique accompagnée d'une reproduction photographique du ms. de Tours et des leçons des éditions critiques*, ed. Leif Sletsjöe (Paris, 1968)

39. cf. *Marie de France, Lais*, ed. A. Ewert (Oxford. 1969) Blackwell's French Texts.
Marie de France. Le Lai de Lanval, ed. J. Rychner (Paris, 1958), 〔TLF〕
Béroul, Le Roman de Tristan, ed. E. Muret (Paris, 1970), 〔CFMA〕
Thomas, Les Fragments du Roman de Tristan, ed. B. H. Wind (Paris 1960) 〔TLF〕
Wace, Le Roman de Brut, op, cit. (13)

II　アングロノルマン語の推移

——11世紀より15世紀まで——

II　アングロノルマン語の推移

——11世紀より15世紀まで——

I　アングロノルマン語の発達と衰退

イングランドでは，度重なるデーン人の侵入とその圧迫に抗するために，Æthelred 2世がノルマンディ公家のEmmaと婚姻を結んだ時より，僅かながらもフランス語がこの地に根を下ろし始めていたと言えるであろう。'Unræd'（No-Counsel）という諢名のアゼルレッド王は，当時，ノルウェー王であり，デンマーク王をも兼ねていたSwein Forkbeard王自らのひきいる船団の来襲に抗しきれず，遂に1013年，ノルマンディへと亡命した。

その後のイングランドにおけるデーン王朝（1016-1042）断絶の後，ノルマンディから帰国して即位した，アゼルレッドの王子Edward王（位1042-66）は，一族や，多くのノルマン人を従えて海を渡って来た。青年期をノルマンディで過ごしたエドワード王は，言語，思想，感情もフランス的であったろうし，ノルマンの移住者たちはフランス本土におけるよりも優遇されたので，さらに多くの異邦人がイングランドに流れ込んだのであった。彼等は移住地の慣習や制度をさほど尊重しなかったと言われる。そしてフランス語（Norman-Frenchと呼ばれる）を使用していた。しかしこれは，Guillaume le Conquérantによるイングランド征服後に起こったフランス語伝播の，大きな勢いを恰も予告する，ほんの序曲に過ぎない。

ウイリアム征服王（位1066-87）に続いて，多数の征服者たちがこの地に渡来した。数千人のフランス人（主にノルマンディ出身）が宮廷，裁判所，教会や学校の重要な地位につき，商人もLondonやその他の町に定住した。そして，クリュニー派やアウグスティヌス修道会の修道士が数多くイングランドに送り込まれた。ノルマン人の大小封建領主が次々とイングランドの土地を支配し，ウイリアム王が，ウエストミンスター寺院で英国王として戴冠してより20年後の1086年には，国内に存在する男爵領を所領する，英国人の領主は二人だけになってしまったという[1]。

ノルマン・コンクェストの結果，イングランドの支配階級の多数がフランス大陸よりの移住者となったために，フランス語は貴族の宮廷用語となっただけではなく，法律の用語となり，民衆を相手とする裁判の用語ともなった。こうして，フランス語の使用は急速に広まり，古英語の古い法律文はフランス語に，また，ラテン語に翻訳された。それは時代の要請であったのだ。

ここにウイリアム征服王の法律文書がある。これはイングランドにおいて，フランス語で作成された条文である。ノルマン・コンクェスト以後の英国を歴史的にアングロノルマンの時代と考えることが出来るが[2]，ノルマン王朝成立以後の英国で用いられ続けたフランス語（最初は主にノルマンディ方言）は，大陸フランス語と異なる発達を遂げるので，これを言語学上，アングロノルマン語（AN）とよぶのである[3]。ウイリアム王の条文は，いうまでもなく，アングロノルマン語で作成された法律文の最初のものであった。

E s'il ne pot guarant ne testimonie aver, si perderad e parsoudrad e pert son were vers sun seinur. Ceo est en Merchenelahge e en Denelahge. En Westsexenelahge ne vocherad il mie sun guarant devant iceo qu'il seit mis en guage. En Denelahge mettrad l'om l'aveir en uele main, de ici qu'il seit derehdned[4];

「当該者は，保証人を得ざれば，領主に対し，自己の財産を失うべし。これは Mercia 地域ならびに Dane 地域に於けるものなり。West-Saxon 地域に於いては，当該者の，保証人を得ざる前に，当該者を保証人として出廷させ得ることを得ず。Dane 地域に於いては，財産は末子に至るまで平等に分割せらるる。」この原文はやがて公文書用に，ラテン語に翻訳された。

司教や修道院長や，また，修道士が，英仏海峡を往来し，イングランドの学者たちも，フランスの司教座教会付属学校や，教会付属学校や，後には，パリ大学に学んだ。

ロンドンは商売に好都合な場所となったために，ノルマンディの主要都市，Rouen や Caen に生まれた者は，ロンドンに移住して定住し，フランス語は商業界の言語ともなった。このことは，現存する都市法や商業ギルドの条例が，全てフランス語ないしラテン語で書かれてあることによって知られる。[5]

Anjou 家よりイングランドの王が即位してからは南フランスのアンジュー領と Southampton のような海港との間に葡萄酒貿易が行われるようになり，フランス語は海洋貿易用語としても使用されるようになった。[6]

また，12世紀末に発布された条令「侵奪不動産占有回復訴訟法」'assize of noveldisseisin' によって全ての自由民は，（主としてアングロサクソン以来の freeholders であるが，ノルマン人の貴族が支配階級になってからは，アングロサクソン時代の上流階級の者も多数この自由民になった）土地所有の権利を侵害された場合，領主の裁判所に訴訟をもち込むのではなく，王室裁判所に訴えることとなった。王の裁判所はフランス語を使用するのである。ゆえに，この条令はフランス語をイングランドの諸地方にまで広く行き亘らせるのに大いに役立ったのであった。[7]

学校ではフランス語の教育が行われ，フランス人でない者も身分の高いものは手紙もフランス語で認めた。Oxford, New College の創設者，William of Wykeham はイギリス人にもフランス語で手紙を書いたという。[8]

次に Earl of Hereford であった Humphrey de Bohun が Henry 3 世に送った手紙の一節を紹介する。

> Sacez, sire, ke icest Mardi feimes asembler la comune de Londres, e en la presence de tuz feimes lire vostre maundement ; e quant nos lur avium diit ceo ke fut afere, asez s'en apaerent a noz avis. De autre part, sire, nus lur avium comande ke les chaenes ke furent remises ke mentenaunt saunz delai seent abatues, e les clefs des portes rondues, e nul debat n'i trovames.[9]

「陛下に言上奉ります。去る火曜日にロンドン市民を集合させ，全員の目前にて，王陛下の御命令を朗読致させました。致すべきことに就きましては，多くの者が我々に同意致しました。一方，再び繋ぎました鎖はこれを一刻も早く解き，城門の錠を潰すよう命じてございます。異議を申す者はございませんでした。」

ここには，後に詳記することであるが，アングロノルマン語の特徴がよく現われている。

AN はまた，祈禱や，讃美歌に用いられた。アングロノルマン語とラテン語を混用した祈禱もある。また，'Mayden moder milde, Oiez cel oreysoun'，と，このように，当時の英語と AN が混淆した祈禱も残っている。[10]

明らかに素人の手になる，恋文風の散文のような小詩にも，AN に英語を交ぜて作ったものがみられる。

> M., ma especiele,
> Vus estes bone e bele ;
> Gardez qe vus seez lele

Aval la mamele,
Ceo vus mand vostre abe de grant reverence.
Loke nou that hit so be in obedience.
Vus estes mout naturele
Pur ceo l'en vus apele
Mergerete la bele;
Vus ne estes pas pucele
Pur ceo qe vus estes frele,
L'amour e le especialté
Entre nous seit privé,
Qe nul esclandre pusse lever.
De ces vus pri e requer.[11]　　*ll.* 1-15.

「親しきM.（マルガリト），善良で美しいお方，乳房の下を忠実に守りませ。尊き尊師がこれを貴女に申します。従順に，そうするように，気をつけなされ。貴女は大層素直なお人，それゆえ，美しいマルガリトと，人はいう。貴女は処女（おとめ）にあらぬゆえ，誘惑には，もろいお人だ。我々の愛情，そしてこの格別の間柄は，何の躓きも起きぬよう，秘めやかにしておかねばなりませぬ。」

作者はかなりの要職にある聖職者らしい。Chaucer や Langland に非ずとも，顰蹙させられる程の厚顔破廉恥な僧侶の姿は，この時代の一面の現実であったようだし，このように巫山戯たフランス語も又然りであった。

イングランドにおけるアングロノルマン文学の隆盛を証明するものは，AN で書かれた写本の数である。宮廷や，教会，大貴族や小貴族が学問と文学を奨励したために，AN で書かれた多くの作品がイングランドに生まれた。これらは主に宗教文学，教訓文学，歴史，ロマンス，諷刺物語であり，抒情詩，劇詩，自然科学に関する作品も含まれている。

12世紀末葉に，イングランドで文筆活動を行った Hue de Rotelande は，彼の韻文物語 *Ipomedon* の冒頭で次のように言う：

「ラテン語で書いたから，叙述がまずいというのではありませんが，学のある者より俗人の方が多いのです。ラテン語は翻訳しなければ全然理解出来ない人達が沢山です。ですから私はできるだけ簡潔に，ロマンス語で話しましょう。そうすれば，学のある人も無い人も，分かって下さるでしょう。」

ロマンス語というのはもちろんフランス語のことであって，Rotelande の場合は，イングランドにおいて書かれた特徴をもった，アングロノルマン語のことである。

Ne di pas, q'il bien ne dit / Cil, qien latin l'ad descrit / Mes plus i ad leis ke lettrez : / Si li latin n'est translatez, / Gaires n'i erent entendanz ; / Por ceo voil (jeo) dire en romanz / A plus brev (e)ment, qe jeo saurai, / Si entendrunt clerc e lai.[12]　　*ll.* 25-32.

Roteland と同時代に活躍した Denis Pyramus による，*La Vie Seint Edmund le Rei* にも同じ趣旨の事柄が述べられてある。「私はこれをおしまいで，英語と，ラテン語から，訳した。フランス語でなら，立派な人々も，身分の低い人々も理解できるのだから。」

Translaté l'ai desque a la fin,
E del engleis e del latin,
Que en franceis le poent entendre,

E (tut) li grant, e (tut) li mendre.[13]　　*ll.* 3267-3270.

説教をフランス語（AN）で書くについての弁明もある。「学問のない者がしりごみすることのないように，私はラテン語をやめて，ロマンス語で申しましょう。」

Jeo larrei le latin sil dirrai en romanz ; / Cil ki ne sunt gramaires ne seient pas dutanz.[14]
ll. 7-8.

フランスの女流詩人 Marie de France は Rouen 近辺の Vexin 地方に生まれ，イングランドに渡り，Henry 3 世に仕えて Roteland や Pyramus と同時代に文筆生活をし，Shaftesbury 尼修道院長となって他界した，と推定されているが，彼女も聖者伝 *Espurgatoire Seint Patriz* の冒頭に，このように書き残している。「この書き物（ラテン語の本）にありますその侭を，ロマンス語に書きうつして，人々の記憶に留まるようにいたしましょう。」

Voeil en Romanz mettre en escrit, / Si cum li livre le nus dit, / En remembrance e en memoire[15] ;　　*ll.* 3-5.

ラテン語から，多くの人々の理解するロマンス語（AN）に訳すことは当時の文人のつとめであった。同じく Marie de France の抒情譚詩集 *Lais* の序の一節から，当時の多くの文人たちが，きそってフランス語への翻訳を試みたという例証があげられる。「私はラテン語をロマンス語に訳しまして，何か良い話を書きたいと存じましたが，あれ程多くの方達が翻訳という仕事に携っておいでです。ゆえに同じ仕事を手がけましても，あまり評判は得られぬと存じました。」

Pur ceo començai a penser / De aukune bone estoire faire / E de latin en romaunz traire ; / Mais ne me fust guaires de pris ; / Itant s'en sunt altre entremis.[16] / *ll.* 28-32.

このようにして，イングランドに広まっていった AN，またその文学は13世紀半ばにしてその最盛期に達するのであるが，この言語は，しかしながら，大陸フランス語とは異なる，島嶼フランス語となって，時代の経過とともに大陸フランス語との劈開を徐々に深めて行った。Marie de France は彼女自身敏感に，この言語の動向を感じ取っていた様子で，「私はマリィと申します。フランス生まれです。」[17]と，わざわざ自分が生粋のフランス生まれであると *Fables* の跋文に断わって物語を書いた。Guernes de Pont-Sainte-Maxence による *La Vie de Saint Thomas Becket* (1172-1176) の中にも，早くから Marie de France の趣旨と同じ言葉が見える。「私の言葉は良いのです，フランス生まれですから。」Mis languages est bons, car en France fui nez. *l.* 6165.[18]

フランス本土に生まれた作家は，自分の出生地に敢えて言及することによって，自身の言葉の良いこと，その正統性を暗に強調した。この種の発言は屢見られるようになり，イングランドにおいてフランス語（AN）を用いる文人たちは以後，自分たちの言葉と大陸フランス語との相違をますます判然と認識するようになってくる。

アングロノルマン語がこうしてイングランドに広まり，定着しながら，次第にその社会的優位を失ってゆく社会的原因としては，次のいくつかが挙げられるであろう。

(1)　13世紀初頭に，英国王 John（位1199-1216）は，フランスのフィリップ尊厳王（位1180-1223）によって，ノルマンディ及びその隣接諸州を没収された。その結果，イングランドと大陸との生活は以前ほど緊密な関係を保ち得なくなった。大陸におけるジョン王の領土没収という社会的不安はジョン王の領土に関係していた多くのフランス人をイングランドへ引きよせる結果となり，ジョン王も彼等を優遇

した。その故もあって，13世紀のアングロノルマン文学は活発な盛況を呈するのであるが，この政治的事態は究極的にはAN，文学を衰退へと導くこととなった。

(2) Oxford大学がParis大学に較べて遜色のない名声を確立した。Robert GrossetestやDuns Scotusなどの優秀な教育陣容はイングランドの学者のパリ留学を事実上不必要なものにした。それはますます島嶼語であるANを孤立状態に置くことになったのである。

(3) 大陸との諸関係が変化し，イングランドの現状と将来性が更に大きく変化して，従来は主としてフランス語を話していた諸階級の人たちの間に英語が用いられるようになり，フランス語使用に反対する国民的動向が徐々に明確な形をとり始めた。例えば，ヘンリー3世のフランス一辺倒の政策（フランスから渡ってきた外国人による政治的支配）に対して1258年「オクスフォード改善案」（法令）が成立した。王から不当に，土地や城を贈与されていた外国人（ポアトウ人の貴族たち）は追放されたのである。[19] ヘンリー3世は1258年には，フランス語と英語とによって布告を出した。エドワード1世(位1272-1307)は1295年の議会から，永続的にcommons（イギリス人の平民)も地方の代表として議会に召集した。教育界においては14世紀半ばまでフランス語が教育の手段に使用されていたが，Trevisa訳のHigden「万国史」*Polychronicon*の年代記によると，Merton College Schoolで文法を教えていたJohn of Cornwallはそれをフランス語によらず，英語で解釈させるようにしたという。[20] 1347年にJohn Cornwallは6人の少年を教えていたらしい。[21] これらはイギリスの国民性の覚醒であり，イギリス人による母国語，英語への復帰であった。

このような動向はしかし，直ちにANの衰退に連なったものではない。文学や法律や教育の分野ではフランス語がしっかりと根を下ろしており，英語はゆっくりとフランス語にとってかわったのである。

宮廷では英語を母国語とする最初の王，Henry 4世の治世まで，ANが用いられ続け，征服者の言語としての社会的威信を保っていた。Ranulf Higdenの「万国史」がその様子を物語っている。

「･･･故に貴族の子供たちは，揺籃で揺られている頃からフランス語を話すように教えられ，ガラガラの玩具で遊びながらフランス語を話すようになる。そして山家育ちの連中も，貴族の真似をしたがり，人に尊敬されるために，大いに努力してフランス語を話そうとする。」

Also gentil men children beeþ i-tauȝt to speke Frensche from þe tyme þat þey beeþ i-rokked in here cradel, and kunneþ speke and play wiþ a childes broche; and vplondisshe men wil likne hym self to gentil men, and fondeþ wiþ greet besynesse for to speke Frensce, for to be i-tolde of. (Trevisa's translation)[22]

英語の方言は多種多様であったからANは便利な共通語として用いられ続けたのである。「･･･というのは，Kentの人であれ，南部であれ，西部であれ，北部の人であれ，フランス語ならば発音も，言葉も同じように話すが，母国語の英語ならば，そうはできない。」ANの特殊性を示す，このような言葉もHigden「万国史」にみられる。

....for a man of Kente, southern, western and northern men spoken Frensshe al lyke in sowne and speche; but they can not speke theyr Englyssh so.[23]

ここで，ひとまず，我々はアングロノルマン語の時期的区分にも留意せねばならない。ANの歴史は主要な2時期に分かれる。

§第1期は即ち発展期であって1250年頃までに至る。
それは，フランス本土との社会的関係の変動がフランス語使用に影響を及ぼし始め，イギリス人の間に，イギリス人としての自覚が生まれ，英語使用への積極的動向が明確な形をとり始めた時期までである。

この時期にはANは，フランス語の一方言とみなし得る。この言語が蒙った特殊な諸条件によって段々と変化したとは言え，世代から世代へと受継がれた，生きた地方的言語形態をもっている。

発展期はさらに1120年頃を境に，2分することができる。前半は，フランス西部方言と殆どかわらず，征服者とその子孫との言語であった。後半は，12世紀前半から13世紀前半までであって，ANが，混血家族や純粋のイギリス系の人々によっても，広く使用され続けた時期である。この時期にANは英語の言語習慣による影響と，島嶼語として置かれた孤立状態という立場のために，かなり独得の発展形態を示している。イングランドの島がフランス大陸の様々な地方と政治的，商業的関係を保つようになり，フランスの様々な地域の言語がイングランドに持ち込まれた。この言語の雑多な状態は孤立した島嶼語の不安定性を高めた要因でもあった。

§第2期は衰退期であって1250年頃より15世紀初頭に至る。

この時期にANはその基盤から切り離され，使用をますます制限され，誰の母語でもなくなり，常に習得されるべき言語となった。音と形を無差別に使用するという特徴をもったこの島嶼AN語は，大陸フランス語との劈開をますます広げたのであった。[24]

一人のイギリス人僧侶が書いた，13世紀の *Poème sur l'Antechrist et le Jugement dernier* には，フランス語に自信のないことがくどくどしく述べられてある。

「私はロマンス語で物語を作ったり，説教をラテン語から訳したりよう致しませぬ。と申しますのは，私はパリにも，サン・ドニの修院にも，おりましたことがございませんのでして。そうでございますゆえ，私がロマンス語で上手に語れませんでも，誰方もお咎め下さいますな。」

Jeo ne sai guers romanz faire / Ne de latyn ma sermon traire, / Car jeo ne fu unques a Parys / Ne al abbaye de saint Denys, / Pur ceo nul homme ne me doit blamer / Si jeo ne sai mye bien roumauncer;[25]

13世紀後半に書かれた，*Life of Edward the Confessor* にも興味深い一節がある。

「私が文法の規則を守らなくとも，規則にかかわらなくとも，非難されることはありますまい。どうすることもできないのですから。ラテン語では主格のものをロマンス語では対格にいたします。私の知っておりますのは，イングランドのまやかしフランス語でございます。それを学びに，よそへ参りませんでしたもの。けれど，他国で言葉を習われた貴方様は必要とあれば，これをお直し下さいませ。」

この序文は断片で残っているだけであるが，女性が書いたものである。ANに対する絶望的な口調が読みとれる。

Si jeo l'ordre des cases ne gart,
Ne ne juigne part a sa part,
Certes nen dei estre reprise,
Ke nel puis faire en nule guise.
Qu'en Latin est nominatif
Co frai romanz acusatif
Un faus franceis sai d' Angletere
Ke nel alai ailurs quere,
Mais vus ki ailurs apris l' avez,
La u mester iert, l' amendez.[26]　*ll.* 41-50.

Wilham de Wadington も13世紀末の作品，*Manuel des Pêchéz* において同様の弁解をしている。

「フランス語で韻文を踏めませぬが，誰方もお咎めなきように。イングランドに生まれ育ち，秘蹟を受けた者でありますゆえ。」

De le français ne del rimer / Ne me dait nuls hom blamer, / Kar en Engletere fu né / E nurri lenz e ordiné.[27] /

この頃，英語勢力挽回を特に意図して書いた書物も多い。14世紀にノーサンブリアで書かれた *Cursor Mundi* の作者は言った。「この書物は英語で読むよう，イギリス人のために，メリーイングランドのイギリス人，世俗の人にわかるよう英語に訳した。われわれはふつう，この国で，フランス語の韻文を読むが，それはフランス人のために作られたもの。フランス語のわからぬ者には何の役にたとう。イングランドの国民は，一般にイギリス人なのだ，その人達のよく分かる言葉で，大方話す必要がある。」

þis ilke boke es translate, / vnto engliss tung to rede / For þe luue of englijs lede, / Englis lede of meri ingeland / For þe comen to vnþerstand. / Frenkis rimes here i rede / Comunli in ilka stede ; / Mast es it wroght for f*r*ankis man : / Q*u*at is for him na f*r*ankis can ? / Of Ingland the nacion, / Es Inglis man þar in co*mmu*n ; / þe speche þ*a*t man wit mast may spede, / Mast þat-wit to speke war nede ; (*ll.* 232-244.)[28]

14世紀末の *Speculum Vitae* では，William of Nassyngton が，何故英語で著述するかという理由を長々と説明している。「私としばらくおつき合い下さいますなら，英語でお話し申しましょう。ラテン語などは使わずに，皆さんの話す英語で，イングランドに生まれた者なら誰にも分る英語で語りましょう。この言葉はお偉い方も世間の人も，たいがい使います。まこと，ラテン語は，学校で習った者しか分かりません。宮廷に出入りし，その中にいる者にはフランス語が分かり，ラテン語の分からぬ人たちがおります。また，ラテン語が少々，フランス語は覚束ない者もおります。しかしラテン語もフランス語も分からぬ者でも，英語はよく分かる人たちがおります。学者もそうでない人も，老いも若きも，皆，英語は理解します。ですから，たしかに，われわれは誰でも分かるその言葉を，つまり学者でない人々，世間一般の人たちのために使おうと思います。」

In English tonge I schal 3ow telle, / 3if 3e wyth me so long wil dwelle. / No Latyn wil I speke no waste, / But English, þat men vse mast, / þat can eche man understande, / þat is born in Ingelande ; / For þat langage is most chewyd, / Os wel among lered os lewyd. / Latyn, as (ms. al) I trowe, can nane / But þo, þat haveth it in scole tane, / And somme can Frensche and no Latyn, / þat vsed han cowrt and dwellen þerin ; / And somme can of Latyn a party, / þat can of Frensche but febly ; / And somme understoned wel Englysch, / þat can noþer Latyn nor Frankys. / Boþe lered and lewed, olde and 3onge, / Alle vnderstonden english tonge ; / þer fore I holde most syker þan, / We(ms. Wo) schewe þat langage þat eche man can, / And al for lewed men namely, / þat can no maner clergy. (*ll.* 61-82)[29]

対岸のフランス大陸では，13世紀に，当時のイングランドで使われていたフランス語（AN）を揶揄した作品が現われていた。かの人気を博した「狐物語」*Le Roman de Renart* の中でも，イギリスの旅芸人に化けたルナール狐の滑稽なアングロノルマン語が誇張されて，描き出されている。ルナールの言葉には，AN の特徴とみなされている，語末音の脱落（e. g. *Sir, Angleter* における語末の－ẹ），語頭音の消失（e. g. *pris,* における語頭音 a－の消失），母音の混同（ü と（u>）o, e. g. *fot,*），性の誤り（e. g. ta raison の代りに *ton raison*），動詞活用（e. g. *m'ansaing, avra, trover, fout*），鼻子音 m と n の混

用（e. g. compaing の代りに *conpaing*），文章法上の誤りなどがあり，それらは次の引用文中に見ることができる。（イタリック体筆者）

Ez vos Renart qui le salue ;
≪ Godehere, fait il, bel *sir*,
ne sai rien de *ton* raison dir.
—Et Diex vos saut, fait il, amis,
dom estes vos ?　de quel païs ?
vos ne futes pas nez de France
ne de la nostre connoissance.
—Naie, seignor, mes de Bretaing,
s'avra tot perdu mon gaaing
et *fot* cerchié par men *conpaing*,
ne *trover* neant que *m'ansaing*.
Toute France et tote *Angleter*
fout cerchié por mon conpaing quer ;
si voil Paris torner ainçois.
tant avrai mout bien *pris* françois,[30]　*ll.* 2402-2416.

また，13世紀の Fabliaux に *De deux angloys et de l'anel* という話がある。病人が多少元気になり，丸々とした羊の体が食べたいというので友達はさっそく小羊の肉を買求めに出かけるが，羊という発音ができない。（即ち硬口蓋音 gn [ɲ] はアングロノルマンに残らなかった音である）agnel と言っているつもりだが，asnel の肉が欲しいのだと肉を売る相手は合点し，それなら，と友人は小羊肉ならぬ驢馬の肉を買わされる破目になった。さて，イギリス人がフランス語を話すとこのような次第，というわけでアングロノルマン風のフランス語がからかわれているのである。[31]

14世紀になると，イングランドでは，フランス語の学習が奨励された。オクスフォードの学生は，フランス語又はラテン語を話すよう定められ，大学側もフランス語教育を奨励した。[32] 13世紀の末，Canterbury や Westminster のベネディクト派修道院の修道士たちは学校と修院回廊ではフランス語またはラテン語で会話をするように規定されたという。[33] Merton College School では，14世紀半ば，John Cornwall が少年たちに，文法を英語で解釈させたのであったが，1340年に創立されたオクスフォードの Queen's College の学寮では，少年たちは，絶えずラテン語か，フランス語で話しているように躾られていた。[34]

政治的な見地からもフランス語の習得は必要であった。カペー王朝のシャルル4世が男嗣なく身罷った後，エドワード3世が王位継承権を主張して英仏百年戦争を没発させた時期である。エドワード3世の1332年の議会においては，フランス語を習得させるように，と定められたのであった。

「諸侯，豪族，騎士および立派な町の立派な人たちは全て，子供たちにフランス語を教え，学ばせるように鋭意専心し，それによって子供たちが，戦争に対して一層の心構えを持ち，一層役に立つことができるように，と命じられた。」

Encorres fu-il ordonné et aresté que tout seigneur, baron, chevalier et honnestes hommes de bonnes villes mesissent cure et dilligence de estruire et aprendre leurs enfans le langue françoise par quoy il en fuissent plus able et plus coustummier en leurs gherres.[35]

既にこの時期には，イングランドに根を下ろしていたANは大陸フランス語から隔絶した，島嶼語の色彩を強く帯びていた。そして，それは最早真に生きた言語ではなかった。貴族，上流市民階級，聖職者および法律家という一定の階級間で使われ，諸規則，公の記録の作成や，書簡に使われていたこの言語は，この時期には，学習し，教えられねばならぬ言葉となっていた。

II　中世イングランドのフランス語教本

貴族の幼い子供たちが「しっかりとフランス語を学ぶために，」....pur ben aprendre, / En fraunceis....*l.* 216.[36]と，13世紀末に作られた教科書が残っている。子供たちだけではなくイギリス人のために，フランス語教本は必要であった。フランス語をイングランドで教えるための'manual'などは，恐らく，この時期よりも尚早い頃から作られてあったものと推察される[37]。しかし，13世紀より14世紀にかけて現われたフランス語教本は相当の数に上ったらしい。この時期においては，衰退した島嶼語をよいフランス語へと復帰させるために，正字法論や文法論も書かれたのであった。現存する，フランス語教本に関する写本は概ね，13世紀より以後に作られたものである[38]。

1923年にオクスフォードより刊行された，アングロノルマン語，文学についての概説書 *Anglo-Norman Language and Literature* は，斯界の碩学 John Visingの手になる文献であって，この書の目録には，当時のイングランドで書かれた，フランス語教本に関しての，現存する写本が記されており，それらの刊本，研究書が挙げられてある。以下，Visingを参照しながらそれらを詳解しよう。(University of London, Anglo-Norman Text Societyにおいて，1992年度よりVising目録の増補改定版上梓が計画され作業は現在進行中である。)

The Thirteenth Century:

1. (321) (viz. Vising's catalogue number) *De Utensilibus*, Latin treatise with AN glosses by Alexander Neckam (d. 1217)
   1) Hunt, Tony "Les Gloses en langue vulgaire dans les manuscrits du DE NOMINIBUS UTENSILIUM d'Alexandre Nequam", *Revue de Linguistique romane* XLIII. 1979, pp. 235-62.
   2) Wright, T. in *A Volume of Vacabularies*, London, 1837, p. 96.
   3) Scheler, ed. "Trois Traités de Lexicographie latin du XIIe et XIII^{e}s.", *Jahrbuch für romanische und englishe Literatur*, VII, p. 58.

   British Library, MS Titus D xx (XIII)
   Oxford, St. John's College, MS 178
   Oxford, Bodley, MS Digby 37
   Oxford, Bodley, MS Rawlinson G 99
   Cambridge, Trinity College, MS O. 7. 9 (XIII)
   Bibliothèque Nationale, fonds lat. MS 217 (XVI), fonds lat. MS 7679 (XV)

2. (322) *Latin Glossary with* AN Glosses. c. 1200.
   1) Gröber, "Strassburger Festschrift Phil. und Schulmanner Altfranzösische Glossen", *Festschrift zur XLVI Versammlung deutscher Philologen*, 1901, p. 39. seqq.

   Hunt, Tony "The Vernacular Entries in the *GLOSSAE IN SIDONIUM* (MS Oxford Digby

172)" *Zeitschrift für französische Sprache und Literature* LXXXIX 1979, pp. 130-150.
Oxford, Bodleian, MS Digby 172

3. (323) *Latin-French Glossary* (1st half of XIII)
1) Extr. Meyer, P. in *Jahrbuch für romanische und englische Literatur*, VII, 37. also in *Docum. manuscrits*, p. 123.
Glasgow, Hunterian Museum, MS R. 7. 14 (middle XIII)
Ewert, Alfred "The Glasgow Latin-French Glossary", *Medium Aevum* XXV, pp. 154-163.

4. (324) *Legal Terms*, a short list (Middle XIII)
1) Wright, T. & Halliwell, J. O. *Reliquiae Antiquae*, vol. 1, 1841, p. 33.
British Library, MS Cotton Jul. D vii (f. 127) (c. 1250), MS Cotton Galba E iv (f. 46) (1285-1330)

5. (325) *Plant Names*, Latin-French-English list (middle XIII)
1) Wright, T. & Halliwell, J. O. *Reliquiae Antiquae* i, 1841, p. 36.
2) Wright Thomas and Wülcker, R. P. ed. *Anglo-Saxon and Old English Vocabularies*, i, London, 1884, p. 553.
British Library, MS Harley 978 (2nd half of XIII)

6. (326) *Nominale*, Latin-French.
1) Hunt, Tony "The Anglo-Norman vocabularies in MS Oxford Bodleian Library Douce 88" *Medium Aevum* LXIX, 1980, pp. 5-25.
Oxford, Bodley Library, MS Douce 88 (late XIII)
The MSS not mentioned in Vising, are:
Oxford, Magdalen College, MS 188 (f. 5r, 7r) nominale, Latin-French-English.
Oxford, All Souls College, MS 182 (f. 322r-323r, 327, 331)
British Library, MS Harley 219 (f. 152v) proverbs
British Library, MS Stowe 57 (f. 156, f. 158) c. 1200.

7. *Grammtieal Treatise* (early XIII)
1) Meyer, P. *Romania* XXXII, pp. 65-66. Another Latin treatise on conjugation Cambridge,
2) Södergard, Östen "Le plus ancien traité grammatical français" *Studia Neophilogica* 27, 1955, pp. 192-4.
Trinity College, MS. R. 3. 56 (XIII) ff. 49^{v}-50^{r}

8. *Tractatus Orthographiae* of T. H. Parisii Studentis,
1) Pope, M. K. "The '*Tractatus Orthographiae*' of T. H., Parisii Studentis", *The Modern Language Review*, Vol. 5, 1910, pp. 185-193.
British Library, MS Addit. 17716 end of (XIII) ff. 88^{r}-91^{r}
The Fourteenth Century

9. (327) *Nominale sive Verbale*, 888 *ll.* mostly rhymed, with English translation (End of XIII)

1) Skeat, ed. *Transactions of* the *Philological Society*, 1903.
Cambridge, Univ. Library MS Ee 4.20 (about 1340)

2) Ewart, Alfred "A fourteenth-Century French Nominale", *Medium Aevum* III, pp. 13-18.

10. (386) *A Treatise on the French Language* (with special treatment of homophones) about 1140 *ll.*, by Walter de Bibbesworth, c. 1300.

1) Wright, T. and Halliwell, J. O. *Reliquiae Antiquae*, ii. 78.
Cambridge, Univ. Library, MS Gg 1.1 (early XIV) ff. 279va-294rb
Cambridge, Trinity College, MS B. 14-40 (XV) ff. 88^{r}-146^{v}
British Library, MS Roy 13 A iv (XIII-XIV) fragment, MS Cotton Vesp. A vi (XIV), MS Harley 490 (XIV) fragment, MS Harley 740 (XIV), MS Arundel 220 (early XIV) ff. 299^{r}-305^{r} MS Sloane 809 (XIV), MS Sloane 513 (XIV) ff. 139^{v}-153^{v}
Oxford, Bodley Library, MS Selden supra 74 (XIV) fragment
Oxford, Bodley, MS 39 (XIV) fragments
Oxford, All Souls College, MS 182 (XIV) ff. 331^{r}-340^{r}
Cambridge, Corpus Christi College, MS 450 (XIV) ff. 241^{r}-251^{r}
Cambridge, Trinity College, MS O. 2. 21 (early XIV) ff. 120^{r}-133^{v}
British Library, MS Addit. 46919 (1st half of XIV) ff. 2^{r}-14^{v}
Cheltenham, MS 8188 (Bibliothèque Nationale nouv. acq. lat. MS. 699) ff. 92^{r}-107^{r}

2) La Rue, Abbé de. (Extr.) *Essais historiques sur les Bardes, les Jongleurs et les Trouveres normands et anglo-normands*, Caen, 1834.

3) Michel Francisque *Rapports à M. le Ministre de l'Instruction Publique sur les anciens Monuments de l'Histoire et de la Littérature de la France*, 1838, p. 14.

4) Palsgrave, J. *Lesclarcissement de la Langue Francoyse*, 1530; reprinted by Génin in *Documents inédits de l'histoire de France*, Paris, 1852.

5) Meyer, P. *Recueil d'Anciens Textes*, Paris, 1887 p. 360. also in *Romania* XIII, p. 502, *Ronamia* XXXII, p. 44.

6) Onions, C. T. in *Times Literary Supplement*, 1922 Apr. 6, p. 228.

7) Owen, Annie ed. *La Traité de Walter de Bibbesworth sur la langue française*, Paris, 1929.

8) Fukui, Hideka ed. "A Treatise on the French Language by Walter de Bibbesworth" Journal of OTEMAE Women's University X, XV, 1976, 1981, pp. 1-39, pp. 23-58.

9) Rothwell, William ed. *Walter de Bibbesworth: Le Tretiz*, Anglo-Norman Text Society, *Plain Texts Series* 6. London, 1990.

11. (387) *Orthographia Gallica*, Latin prose treatise with AN examples and rules (1st half of XIV)

1) Stürzinger, J. ed. *Orthographia Gallica: Ältester Traktat über Französische Aussprache und Orthographie, Altfranzösische Bibliothek,* VIII, *1884*, rpt. 1968.

2) Johnston, R. C. ed. *Orthographia gallica*〔ANTS plain Texts Series 5〕1987.
London, Lincoln's Inn Library, MS Misc. 178 (XIV) ff. 215^{r}-216^{v}

Oxford, Bodley, Rawlinson MS C 507 (XIV) pp. 106-8.
Cambridge, Corpus Christi College, MS. 335 (XV) (f. 132^{r}, f. 132^{v})
British Library, MS Harley 4993 (XVI) f. 22^{r}
Cambridge, Univ. Library, MS Ee 4. 20 (about 1340) ff. 152^{v}-154^{v}
Oxford, Magdalen College, MS 188 (XV) ff. 1^{r}-4^{v}
Dublin, Trinity College, MS 605 (E. 5. 13) (XV) pp. 427-435.
Warminster, Longleat House MS 37 (XV) ff. 70^{r}-72^{v}
British Library, MS Sloane 513 (XV) f. 139^{r}
British Library, MS Harley 4971 (XIV) ff. 4^{r}-6^{v}

12. (388) *Tractatus Ortographie Gallicane*, Latin prose treatise with AN words and phrases, by Coyfurelly (End of XIV)
1) Stengel, E. ed. "*Tractatus ortographie gallicane per M. T. Coyfurelly*", *Zeitschrift für neufranzosische Sprache und Literatur*, 1879, 1. pp. 16-24.
Oxford, All Souls College, MS. 182 (XIV) ff. 340^{v}-344^{r}

13. (389) *Manière de Langage*, phrase-book
1) Meyer, P. "La Manière de Langage qui enseigne à parler et à écrire le français", *Revue Critique d'Histoire et de Littérature*, 1873, pp. 373-408.
British Library, MS Harley 3988 (XIV) ff. 1^{r}-26^{r}
British Library, MS Addit. 17716 (XV) ff. 101^{r}-106^{r}
Oxford, All Souls College MS 182 (XIV) ff. 305^{r}-316^{r} 372^{r}-373^{r}
Cambridge, Univ. Library MS Dd 12. 23 (early XV) ff. 7^{v}-13^{r}
Cambridge, Univ. Library MS Ii 6. 17. (XIV)
Cheltenham, MS 8188 (Bibl. nat. nouv. acq. lat. 699)
2) Stengel, E. "Manière de Langage", (Short continuation) *Zeitschrift für neufranzosische Sprache und Literatur*, 1, pp. 6-15.
3) Extr. Meyer, P. *Romania* XV, pp. 262-63.
also mentioned in *Romania* XXXII, p. 59.

14. Treatise on Courtesy
1) Parsons, H. Rosamond. *Anglo-Norman Books of Courtesy and Nurture* Oxford, 1929.
2) Stengel, E. "De Courtoisie" *Zstf. für französ. Spr. und Lit.* XIV, 1892, p. 151.
3) Nicholls, J. W. *The Matter of Courtesy* Suffork, 1985.
Oxford, Bodley, MS Selden supra 74 (XIII) ff. 33^{v}-35^{v}
Oxford, Bodley, MS Douce 210 (c. XIII) ff. 43^{r}-45^{r}
Oxford, Bodley, MS 39 (end of XIII) fragment
Oxford, Bodley, MS 425 (XIV) ff. 107^{r}-113^{v} Contains: "Edwards, entendez bonement", (332 lines) "Bon enfant doit a son lever" (89 lines) "Urbain le Courtois" (136 lines)
Oxford, Bodley, MS 9 (c. 1430) Contains: "Urbain" (128 lines) ff. 55^{v}-58^{r} "L'aprise de Nurture" (237 lines) ff. 61^{v}-67^{r} "Un Petit Traitise de Nurture" (190 lines) ff. 81^{v}-85^{v}

Cambridge, Trinity College MS O. 1.17 (XIV) "Urbain" (146 lines) ff. 265^{r}-266^{r}
Cambridge, Trinity College MS B. 14. 39-40 (XV) ff. 129^{r}-138^{v}
"Urbain" は *Femina nova* の中にも収められてある。De moribz infantis と小見出しが付されてある14行目から *Urbain le Courtois* が始まる。

15. (391) *Treatises* on AN Epistolography, with Examples (partly of the XV)
1) Uerkvitz, W. *Tractate zur Unterweisung in der anglo-normanischen Briefschreibekunst*, Greifswald, 1898.
Cambridge, Univ. Library, MS Ee 4. 20 (about 1340) (letters from 1327-1340, based on formularies drawn up by a teacher Thomas Sampson) Univ. Library. MS. li 5. 17 f. 98v, f. 100r)
British Library, MS Addit. 17716 (letters, first half of the XIV cent.) 94^{v}-99^{v}
British Library, MS Harly 4971 (letters from 1396-99) 13^{r}-22^{v}
Oxford, All souls College, MS 182 (letters from 1400-8) ff. 344ra-359^{v}
British Library, MS Harley 3988 (XV) (letters from the first quarter of the XV cent.) ff. 27^{v}-67^{v}
Oxford, Magdalen College, MS 188 (f. 8r, 8v)
Cambridge, Trinity College, MS B. 14. 39-40 (XV) ff. 162^{r}-177^{r}

The Fifteenth Century :

16. *Liber Donati*
A fifteenth-Centuly Manual of French
1) Merrilees, B. Sitarz-Fitzpatrick, B. ed. "Liber Donati : A fifteenth-Century Manual of French "*Anglo-Norman Text Society, Plain Texts Series* 9. London, 1993.
2) Stengel, E. "Donait françois" *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literature* 1. pp. 25-40.
Cambridge, Univ. Library, MS Dd. 12. 23 (XV) ff. 1^{r}-13^{r}
Cambridge, Univ. Library, MS Gg. 6. 44 (XIV) ff. 19^{r}-30^{r}
Cambridge, Univ. Library, MS Ee. 4. 20 (XIV) ff. 154^{r}. 160^{r-v}, 165^{r}-166^{r}. 当該 MS には Thomas Sampson の model letters や dictaminal treatises も収まっている。
Liber Donati は grammatical section と dialogue section とを含むものであるが写本によりどちらかが欠けていることもある。
Oxford, All Souls College, MS 182 (XV) ff. 316^{v}-321^{v}, 361^{r}-363^{r}. John Barton による *Donait françois* が収録されている。

17. (401) *Femina*, (so named 'quia sicut femina docet infantem loqui maternam sic docet iste liber iuvenes rethorice loqui gallicam'), about 600 four-line stanzas, consisting throughout of two lines of French alternating with two lines of the English equivalent. c. 1400.
1) Wright, W. A. ed. *Femina*, 1909.
Cambridge, Trinity College, MS B. 14. 39-40 (XV) ff. 88^{r}-146^{v}

18. (402) *Dialogues*, Inn *Dialogues*.
   1) Meyer, P. *Romania*, XXXII, 49.
   2) Extr. in Stürzinger, *Orthographia Gallica*, p. xv.
      British Library, MS Addit. 17716 (XV)
      Cambridge, Univ. Library, MS Dd. 12. 23 (early XV)
      Cammbridge, Univ. Library, MS li 6. 17 (late XV) (f. 100^{v} f. 106^{r})
      The Grenville's Libraly, MS 7570 (Dialogues of W. de Word)

以上を大別すると，現存する，これらフランス語教本は，(1)語彙集　(2)文法書（文字論）　(3) 会話作文教本　(4)書簡文範に分けることが出来る。

語彙集（Nominalia）の中で最も良い教本として残っているものにWalter de Bibbesworthが書いた，貴族の子供にフランス語を教えるための書がある。13世紀末，よいフランス語を覚えるために，と書かれたこの'treatise'には，ANの多くの特徴を見出し得る。教本そのものが，大陸フランス語の正統フランス語ではない，アングロノルマン語で書かれてあるのである。

中世英文学に輝かしい業績を残したGeoffrey Chaucerは，晩年の作，*The Canterbury Tales*の中で，カンダベリー寺院への巡礼の一人，上品なPrioress，尼僧修道院長の堪能なフランス語を揶揄して，彼女のフランス語は'Stratford atte Bowe'の流儀であって，パリのそれではないと言及した[39]。礼節正しく，つつましやかなMadam Eglantineは，恐らく，ベネディクト派の修道院で話されていた，ANを習い覚えたのであろう。

ウイリアム征服王以来，イングランドのフランス語として使用されてきた，アングロノルマン語の特徴はどのようなものであるのか，現存するフランス語教本および文学作品から資料を得て，その言語的発展と，衰退のあとを辿り，また，どの様な種類の語彙，どのような文体が現実であったのかその一端を明らかにしたいと思う。正綴教本，文法書，語彙集，会話作文教本，教訓書，書簡文範より主要な教本を紹介しつつ問題点を詳解してゆく。

注

1　F. M. Stenton, *Anglo-Saxson England ; The Oxford History of England* (Oxford, 1943), pp. 617-618
2　歴史上の区分から言えば，Anglo-Norman Englandという名称を使用し得るのはノルマン王朝の終わり，1154年までであろう。しかし，アングロノルマン文学史から見ると，アングロノルマン文学が開花するのは，ヘンリー1世時代である。アンジュー王朝にその最盛期を迎え，文学作品の創造は15世紀初頭まで続く。
3　15世紀に至るまでイングランドで用いられたこの言語を総称してアングロノルマン語という。この言語に対して，中世では種々の名称があった。即ち，lingua gallica, Gallicana, lingua romana, idioma gallicum, franceis, などである。現代においても，この言語を時代的に二期に分け，前期をAnglo-norman,（13世紀に至るまで）後期をAnglo-Frenchと呼んで区別することもある。これらの名称に関する論文は，L. M. Menger, *The Anglo-norman Dialect* (New York, 1904), p. 4. および，P. Studer, *The Study of Anglo-Norman*, (Oxford, 1920), pp. 4-16. を参照のこと。
4　J. E. Matzke, *Lois de Guillaume le Conquérant, en français et en latin, texte et étude critique* (Paris, 1899) p. 19.
5　P. Studer, *The Oak Book of Southampton*, I (Southampton, 1910) pp. xii-xv.
6　*Ibid,, Supplement*, pp. 8-9.

7 F. Pollock, & F. W. Maitland, *The History of English Law*, I (Cambridge, 1895) rpt. 1968, pp. 83-84.

8 A. L. Leach, *The School of Medieval England* (London, 1915) rpt. 1969, p. 181.

9 F. J. Tanquerey, *Recueil de Letteres Anglo-Francaises*, 1265-1399, (Paris, 1916) p. 1.

10 David L. Jeffrey and Brian J. Levy ed. *The Anglo-Norman Lyric*, Canada 1990, pp. 41-43. cf. J. Vising, *Anglo-Norman Language & Literature* (Oxford, 1923) rpt. 1970, p. 58.

11 P. Meyer, "Mélanges Anglo-Normands," *Romania*, 38 (1909) pp. 434-35.

12 E. Kölbing und E. Koschwitz, *Hue de Rotelande's Ipomedon*, Ein französischer abenteurroman des 12 jahrhunderts. (Breslau, 1889) p. 1.

13 F. L. Ravenel, ed. *La Vie Seint Edmund Le Rei, an Anglo-Norman poem of the twelfth century by* Denis Pyramus, Bryn Mawr College Monographs, Monographs Series 5 (Philadelphia, 1906), p. 151.

14 A. Gabrielson, *Le Sermon de Guischart de Beaulieu, édition critique d'après tous les mss. connus* (Leipzig, 1909) p. 3.

15 T. A. Jenkins, ed. *Espurgatoire Seint Patriz by* Marie de France (Geneve,1974) Slatkine rpt. p. 53.

16 A. Ewert, ed. *Marie de France LAIS* 18th ed. (Oxford, 1969) p. 1.

17 A. Ewert, ed. *Marie de France FABLES* (Oxford, 1966) p. 61.

18 E. Walberg, ed. *Guernes de Pont-Sainte-Maxence, La Vie de Saint Thomas Becket* (Paris, 1964) [CFMA], p. 190.

19 M. Powicke, *The Thirteenth Century* 1216-1307 : *The Oxford History of England* (Oxford, 1953) p. 140.

20 Ranulph Higden, "Polychronicon," trans. Trevisa in *Rerum Britannicarum Medii Ævii Scriptores,* Rolls Series, 41. 2 (London, 1869) rpt. 1964, p. 161.

21 Leach, p. 196.

22 Higden, p. 159.

23 *Ibid*., p. 161.
しかし，フランスの本国では，イングランドの国と同様に多種多様のフランス語があることにも言及している。

24 M. K. Pope, *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman* (Manchester, 1934) pp. 424-426.

25 P. Meyer, ed. "Poëme sur l'Antechrist et le Jugement dernier", *Romania*, 29 (1900) p. 80.

26 A. T. Baker, ed. "Fragment of an Anglo-Norman Life of Edward the Confessor," *MLR*, 3 (1907-8) p. 374.

27 Wilham de Wadington, *Manuel des péchéz*, quoted by J. Vising, p. 27. British Library MS Harley 4971 ff. 93^{r}-108^{v}.

28 R. Morris, ed. *Cursor Mundi, A Northambrian Poem of the XIVth Century*. [EETS Os. 57. I] (London, 1874) rpt. 1961, pp. 21-23.

29 J. Ullmann, ed. "Speculum Vitae," in "Studien zu Richard Rolle de Hampole," *Englische Studien*, 7 (Heilbronn, 1884) rpt. 1967, p. 469.

30 Mario Roques, ed. *Le Roman de Renart, première Branche, Jugement de Renart* (Paris, 1970) [CFMA] p. 81.
そこでルナール狐は会釈した。「御気嫌よう，大将，旦那の仰有ることは分かりかねますが。」イザングランが答えた。「神のお救いを！　兄さんは何処のお人で，何処の国から来なすった，フランス生まれじゃないようだ。知っている所でもないね。」「いや，その通り，旦那衆，ブルターニュの者でして。儲をすっかりすって仲間に追われていますんです。しかし，あたしの手がかりは何もありやいたしません。フランス中，イ

ングランド中，仲間は隈なく探したんですがね。あたしはパリに戻り，フランスことばを立派に会得してえと思っとります。」

31 A de Montaiglon, et G. Raynaud, "De deux angloys et de l'anel", *Recueil général et complet des FABLIAUX des XIII*[e] *et XIV*[e] *siècles* tome II. Paris 1877, pp. 179-182.

32 H. Rashdall, *The University of Europe in the Middle Ages*, III (Oxford, 1895) rpt. 1969, pp. 162-63.

33 *Customary of the Benedictine Monasteries of Saint Augustine, Canturbury, and Saint Peter, Westminster, ed.* E. H. Thompson, Henry Bradshaw Soc. XXIII, p. 210 ; XVIII, p. 164.

34 Leach, p. 195.

35 G. J. Dilles, ed. *Froissart : Chroniques, dernière rédaction du premier livre. édition du manuscrit de Rome Reg. Lat.* 869 (Paris, 1972) 〔TLF〕 p. 232.

36 A. Owen, ed. *Le Traité de Walter Bibbesworth sur la Langue Française* (Paris, 1929) p. 65.

37 Alexander Barcley, *Introductorie to write and to pronounce Frenche* (London, 1521) の Prologue において 'The same tretyse hath ben attempted by dyvers men before my dayes....' と書かれてあることや，J. Palsgrave, *Lesclarcissement de la Langue Françoyse*, 1530. に，'....Whan it was commaunded that the grammar maisters shulde teche the youth of Englande joyntly Latin with Frenche, there were diverse suche bokes divysed.' と引証されてあることなどを参照。cited in J. Stürzinger, *Orthographia Gallica*, Einleitung, p. 1.

38 *Vising*, p. 68 seqq.

39 F. N. Robinson, ed. "General Prologue," *The Canterbury Tales, in The Works of Geoffrey Chaucer*, p. 18. *ll*. 124-126.

III　フランス語教本

1) *Tractatus Orthographiae* T. H., Parisii Studentis

——パリの学生 T. H. による正綴論——

ノルマンディ公ウイリアムのイングランド征服はその後少くとも3世紀余の間，イングランドの支配階級の言語をフランス語（AN）と変えたのであった。

イングランド王でありながらフランス大陸に広範囲の領地を所有していたヘンリー2世(1154—1189)はアキテーヌのエレオノールを王妃に迎えて領土を拡げ，西ヨーロッパにその勢力を示していたのであった。彼の宮廷には各地から栄達，栄誉を求めて人々が集まり，文学作品その他アングロノルマン語による作品も数多く作成された。

しかしジョン王（1199—1216）の治世にアキテーヌ，ガスコーニュを除くフランス領地が失われたという政治的事態の変化は一つの引き金となってアングロノルマン語を徐徐に衰退へとむかわせる。13世紀半ばとなるとイングランドに広まっていたアングロノルマン語，またその文学は最盛期に達するのであるが，この言語は，しかし時の経過とともに，島嶼フランス語となって，大陸フランス語との差異を深め，誰の母語でもなくなり，学習しなければならない言語となっていたのである。イングランドにおけるフランス語の優勢は14世紀半ばごろから次第に衰えてゆく。しかし，14世紀になるとイングランドではフランス語の学習が奨励された。エドワード3世がフランスの王位継承権を主張して英仏百年戦争を勃発させた時期である。フランスとの関係を緊密にするための先々への配慮でもあったのだろう。

13世紀より14世紀にかけてイングランドのイギリス人のために，フランス語教本が相当数作られたらしい。現存する最も古いフランス語教科書（AN の）と言えるものは Walter de Bibbesworth の「語彙集」Nominale であろう。最も普及した教本は14世紀前半に作られた *Orthographia Gallica*[1] であった。これはラテン語によるフランス語文字論，正綴法の書で文法書と言えるものである。この種の文法書には Orléans 出身の司教座聖堂参事会員 Coyfurelly の編纂したフランス語正書法に関する論文 *Tractatus Ortographie Gallicane*[2] もある。そして，Coyfurelly が原典としたと推測される *Tractatus Orthographiae*[3] も現存している。これは Paris で勉強したという T. H. の頭文字を持つ学生が作成した。これらはフランス語教本として初期のものであるから文法の記述となると不完全なところが多いが，当時のアングロノルマン語の実態を知る上で貴重な文献である。何となれば教本は大陸フランス語を正しく示そうとしているけれども，その記述には教本の著者が身近に親しんできた言語，即ちアングロノルマン語の特徴が随所に現われてきているからである。しかし彼等はフランス語の地方的な差異に留意しようと心掛けた。*Tractatus*[4] には Gallicum と Romanicum との音声状況の相異も説明され，特にイングランド人のフランス語発音や書法についても言及されている。

本稿は現存するフランス語文法論の中で一番古いものであろうと見做される[5] *Tractatus Orthographiae T. H., Parisii Studentis* を翻訳し，アングロノルマン語の実態を推測させ得る個所や，曖昧な個所，明らかな間違いの個所には注釈をほどこすこととした。翻訳には M. K. Pope ed., The 'Tractatus Orthographiae' of T. H., Parisii Studentis を基とし，写本 British Libary Addit. 17716 ff. 88^r—91^r を参照している。なお，筆者のコメントは＊印を付して原文と区別する。

——訳——

どのような人の援助をも欠いている者がすみやかに助けを得たいと期待しているところで私はそれを扶ける。というのは，若い時に様々な能力をもって花咲かそうと多くの者が望んでいるからだ。それはあたかも様々なみどりなす木といきいきとした草木を立派に植え込んである庭が初夏に屡々果実をみのらせ，幸せにも芳り高い香気を馥郁と漂わせるのを見るようなものである。

従って，一つにして三つの位におわします三位一体のお導きにより，私は力及ばざる者ではあるが，ガリア人の言葉とガリア語の規則と共に書きかたを守ろうと意図する。そしてまた，海の此方の国々と同様，海を越えた国々における現今の人達の慣習に従ってそれをやさしく説明する。草木の枝々はその習性と知識によってまず花開き，ついで他の枝の中においても花は美しく現れ得るであろう。すべての王の寛容のお蔭によって。

〔コメントには以下＊印を付す〕

1．まず最初に，字母の中のあるものは母音で，あるものは子音であると知るべきだ。母音は5つ，即ちa, e, i, oとuである。それらが母音と言われるのは，おのずから完全な音を持ち，それら無くしては字母の如何なる音も発音し得ぬからである。

これらの五つの母音のうち，二つは子音の性質に移行する。即ちiとuである。それはそれらが音節の始めに置かれ，そして後続母音と同じ音節を作る時だ。例えば：
ivere, vaulter, jouster, verserなど。また，同様の言葉にあっても同じである。

＊ iとuが半母音になる場合の説明。であるがverserの例は適当でない。

2．時にAはほとんど字母eのように発音しなければならないということを知るべきである。即ち：
Savez vouz faire un chauncoun.（詩歌がつくれますか）
Savez vous traire de l'ark（弓がひけますか）
Savez vous raire la barbe.（ひげを剃れますか）
など，そしてこれに同様の場合である。

＊ この記述においてはAと書くのは不正確であって正しくはaiと書かねばならない。アングロノルマンの綴りaiとeiの互換性については M. K. Pope「アングロノルマン語」[6] [47. 1. —2.] に記載されている。二重母音ai, eiは水平化されて［ε］の音価を持っていた。Pope : [35. 3. 1. 0., 35. 3. 3. 0]

(a) a, en a, およびia, という言葉が動詞habetとして理解される時，それらはいずれも同じ意味である。

そのあとに字母dを添えずに書かねばならない。従ってこの文をa, en a, と書くときdをもって書く者は間違っている。何故ならばガリア人(gallicos)によるとdは決して書かれもせず，発音されもしないからである。

＊ 語末にdを付すのが間違っているとは言い切れない。adと書くのは古形であって語源的にはラテン語の語末子音を保持していることであるから。アングロノルマン語(AN)の特徴としてはこの古形が多く見られる。Pope : [38. 1. 1. 3.—4.] これはアングロノルマンの一面の保守性である。secundum gallicos（ガリア人によると）という表現は大陸フランス人を指しているのであろうが，正確

にはどの地方の人々を示すかは不明瞭である。

(b) avra（彼は持つだろう）en array（私はそれを持つだろう）という文は語中にｅを発音せず［また真中のｅ無しに書かねばならない］美しいフランス語によればｖなしに発音する。例へばaray，en arrayと発音し，この二文はどちらを書いてもよい。

しかし，ローマ人（Romanici）ブリタニア人（Britannici）アングリア人（Anglii）は語中にｅを添えて同じ語を次のように：averay，J'averayと書く。そして同様の言葉にあっても同じである。

＊ これはANの顕著な特徴の一つである渡り音ｅをｖとｒの間にaveraの如く挿入するという現実を示している。この現実を*Tractatus Orthographiae*の作者は指摘し，矯正せんとするのである。しかし，arayと書いてもよいし，arrayとｒｒと綴りをもって書いても同じだ，という記述もANの特徴である。ローマ人，ブリタニア人，アングリア人という記述も，どの民族どの地方の人々を正確に指しているのか判然としない。作者は美しいフランス語dulce gallicumを専ら記述しようと意図しているけれども，作者自身の中に大陸フランス語とANとの混乱があり，往々にしてANの特徴を「美しいフランス語」と解しているらしいところがみられる。

3．Ｂは語中では発音しなければならない。debriserやtrubulerなどのように。但し次の語は除く：debt，endebt，subgetや，同じく動詞doubter，redoubter，substituer。

そしてまた，同様の語にあってはｂは真中に書かれねばならないが，発音してはならない。

＊ ANでの語中のｂをあるものは発音し，あるものは発音しなかったようだ。substituerはsoustituerと，substanceはsustanceと共存する。英語における借用はOEDの初例にca. 1300：*Cursor Mundi* 9762行のsubstanceが見られる。

4．Ｃはしかし語中でまたｓの音を持つ。次の語：ca，pica，recoi，frauncois，rauncon，chauncounなどと同じく。従ってｓをもって書く者は間違いである。

＊ ANではｓの音価を持つｃの場所にｓの綴りも現われている。例えばfransois，offis（office）など。［アンダーライン筆者］

5．Ｅが文の中で消え，jeo aime（私は愛する）やjeo eusse loie（聞くことができよう）や同様の語におけるようにｅの後に続く語がａ，ｅ，またはｏで始まる時，ｅは完全に削除される。そしてjaime，jeousse loieのように二つの語から一つの語が作られる。しかし子音の性質に移行する母音はこの規則に従わない。

＊ 問題はjeoのｅがaime，eusseの前で，leのｅがoieの前で消失することを論じているのであろう。また例文jeousse loie（jeo/usse/l'/oie）にあってはusseに対するeusseの語頭のｅの省略も考えられていたのかもしれない。また，oieが'鷲鳥'であればこの場合はANの特徴であるところのlaにかわるleのｅ省略ということだ。Pope：[63. 3.]

6．Ｇが語中で母音と子音の間に置かれるとほとんどngの音を持つ：compaignoun，compaignのようにである。

＊ この記述にあってはngの音が不明である。ｎの硬口蓋音［ɲ］の表記に一定の法則がない。gn，ngnのどちらの綴りも現存した。［ɲ］音は英語の借用語にあっては受け入れられ難い音であった。ANでは［ɲ］が［n］に移行している例が非常に多い。Pope：[38. 2. 1. 0.] は次の例を挙げている。

Brendan[7] 235-6 plein-desdeign, 215-6 feignent-peinent, 591-2 semaine-cumpaine, 713-4 meinet-enseignet.

7．Hは字母ではなくて気音の記である。例えば次の語における如く：heitez, haiez, huis, hors, hounte, honye, hopeland, herd, harde, aherder これらではhは常に発音されていた。
しかし次のような語ではhを発音してはならない。huit, huie, hier, heyer, heur, hostiller, he, helas, honour そして同様の言葉においても同じである。

＊ 大陸フランス語ではゲルマン語起源の語においても13世紀には気音のhは発音されなくなっていた。ANにあっては英語の音体系の影響がみられたと思える。

8．Iとその他の母音は語中で，二つの子音間にはさまれるか，母音と子音の間にはさまれるか，あるいは語の最後におかれた時，両方の音を持つようになる。
biens, riens, ciens, liens, meins, eins, joie, voie, arraier など，このような場合である。

＊ 上述の記述はiが二重母音の一つの要素となることを言うのであろう。iが半子音（半母音）となる場合では biens, riens, ciens, liens におけるように ien は半子音［jen］となり，半母音となる場合では，meins, eins におけるように［ejn］となる。joie, voie では［oj］，arraier では［aj］となるということらしい。

9．Lは語中にあって母音が直後にくるとき，個有の音を保持する。例えば ovelement, parlant における場合である。しかし子音が直後に続くとlはuの音を持つ：loialment, principalment のようにである。ここでただ ils という語だけは例外とする，この語ではlはu音をほとんど持たない。
ils vount enscamble（彼等は一緒に行く）
ils ount fait（彼等は成した）
Lがまた語末におかれ，そして次にくる語が子音で始まると，lは個有の音を失い，uの音を保つ。
l'amirall d'engliter（英国の将）
chivalt sorelt（栗毛の馬）
fel de makerell mavez est（鮪のはらわたは悪い）
beal fitz（美しい子息）
しかしまことに次にくる語が母音で始まるとlは個有の音を保つ。
mult aultre（多くの他のもの）
mult amy（多くの友人）
loial hom（忠実な者）
tiel usage（そのような用法）などがある。
またしかし，lが単音節の語末に置かれ，そのあとに子音がすぐ続くとu音もその特質も持たない。
il s'en est alé（彼は行った）
je le voilt ben（私はそれをとても望む）
これは同様の言葉においても同じ。

＊ 子音の前でlがuの音を表わしていたために，フランス大陸ではlの代りにuと書くようになった。上述の例文にあっては子音の前にlの発音の混乱を示している。例えば belの綴りにも幾通りかがみられる。beal, beau, beaul, beu, beel, biau fitz などである。語末のlは子音が続くとuの音になると例題は示しているが，ANにおいては語末のlが多くの場合個有の音を持っていた可能

性は強い。しかし，例文 je le voilt ben における voilt では l がどの様な音価を示していたのか不明である。

10. N は 1 人称復数における任意の動詞では m の場所に書かれ，そして m の音を持つ。例えば：aymons, ensignons, lisons などの場合である。同様に子音の前でもまた m と発音されるべきである。ensi, penser sentiere, envoiere, entiere, coumaunder, vendersdy の如くである。

＊ 1 人称複数動詞の活用語尾は —ons であって —oms ではない。例題の綴りは正しいが —oms の m の場所に n が書かれて m の音を持つという記述は極めて興味深い指摘である。AN の特徴である語尾 —oms を使用していたであろうという事実がうかがわれる。Pope : [74. 1.] また，s, f/v, t/d, という子音の前で n を m と発音するという現象も AN の特徴であろう。

11. P は単音節の語で二子音間にあるときは音を持たない：temps, corps などである。そしてこれらの語および他の類似の語においては p を省略して次のように書いても間違いではない。
tens, cors, semagn など，このように。
12. Q はフランス語の綴りによると，ある語においては二つの母音が直後にくるのでなければ書いてはならない。即ち qui, que, quar などであるが，同種の語においては q と k のいづれを書いてもよい。また，quar という語については書く人の意思により k, q, c のいづれを用いて書いてもよいのである。

＊ AN では q に代る k の使用が往々にして見られる。desque の代りに dekes, jesque のかわりに jekes, kes (que+les) などもある。Pope : [cf. 46.]

13. R は時に語末で r 音を保持し，時には z という音を持つ。
vuilez vouz aler (貴方は行きたいのですか) 又は
voilez vous alez 等々。

＊ [r] は母音間で [z] となる現象がある。上記の記述はこの現象の影響とも考えられる興味のある言及ではあるが，語末で母音に先行しないとき，aler が alez となる音変化はないと考えられる。

14. 語の中において単独の S は直後に子音が続く場合，発音してはならない：tres redoubte, tres noble, sisme, disme などのように。[アンダーライン筆者] この規則から次の語が除外される：
prosperite, chastelt, chestaine, substance, meschaunt, obstant, augustus, instance, register, sustenance, espirer, sustener, substituer, escharn, transgliter, enspirer, descharger, estauncher, estendre, espaundre, peschere, constrayner, despenser, escuter, このような語の全てに関係した名詞と，どの様な方法にせよそれから派生した副詞，動詞も除く。除かれた語においては子音がすぐ直後にくるなら s は常に発音しなければならない。

＊ 記述は不明確である。s を発音する語として掲げられている上記の語を現代発音規則に照合すると，語中の s を発音する場合と，発音しない場合に分かれる。

母音が直後にくるときは，s は固有の音を完全に保持する：
tres excellent (まことに卓越した)，tres hautisme (いと高き)
tres honoure (畏敬すべき)，tres humble (いとつつましき)
などのように。

＊ 固有の音 sonum proprium というのは無声子音の [s] であろう。上述の場合，連音に際しての有

声子音［z］であるのかどうか。

複合字 ss は語中におかれる場合常に発音しなければならない：
poissoun, puissaunt などのように。

＊　無声子音［s］としてであろう。

もし単独の s が語末に置かれると，それらの語がたとえ代名詞，動詞，接続詞又は前置詞であろうと，次の語が子音で始まる時には自己の音を最少限に保つ：
dieu vouz save et guarde（神が貴方を救い護られんことを）
vouz sentez vous sainz en coer（ご気分はよろしいのですね）
voillez vouz manger（召し上りますか）
vuillez vouz juer（競技をなさいますか）
などのように。

＊　自己の音とは無声か有声かは不明であるし，最少限に minime という表現も曖昧である。綴りには s と z との混同が見られる。

しかし，もし次の語が母音で始まると，s は発音しなければならない。このように：
avez vouz fait（できましたか）
veuz em pri（どうぞ）［アンダーライン筆者］
seiez vouz（お坐り下さい）
ja estez vouz un de eaux（貴方は既に彼等の一人です）
そして同様のものもまた同じ。

＊　上記の説明に対し avez vouz fait と seiez vouz の 二例は適当ではない。

しかし分詞，形容詞，名詞そして感投詞においては，語末の単独の s はもし子音が直後にくると自己の音を保持せねばならない。このように：
vouz avez assez de viand（貴方には肉が十分あります）［アンダーライン筆者］
jeo sui assez ben amez de mez servauntz（私は使用人たちから大変慕われている）
loiez soit dieux（神はあがめられるべし）
そして同様のものもまた同じ。

＊　綴りには再び s と z の混同が見られる。assez の綴りには asses もあった。assez の z を s 音として発音させるという記述も興味深い。mez servauntz の mez の z も，loiez soit dieux の loiez の z も無声［s］あるいは有声［z］で発音することとなるのか，不明である。

15. T が語末に置かれ，次の語が子音で始まる時は，自己の音を完全に消さなければならない：
qu'est ceo qu'il dist（彼は何と言ったのか）
il est prest（用意ができた）
il ne poet chaloyre（必要ではあり得ない）
il fuist tout esbaye（彼はすっかり驚いて逃げた）
il fist que sage（彼は賢明に振舞った）
il n'ia que vanite en cest mound（この世には虚栄しかない）等々である。

しかしtは時にはこの規則にもかかわらず自己の音を語末において持つ：

an tu fait prest nostre sopere（我々の夕食の準備はすっかりできましたか）

il prent deux marcz par an（彼は毎年2マルクを得る）

nos vesins nous ayment ben（我々の隣人は我々を非常に愛する）

il boit trope hault（彼は大酒飲みだ）

il puit malement（彼は悪臭を放つ）

これらおよび同様のものにあっては，直後の語において子音が直ちに続こうともtは個有の音を保つ。

＊ tが時には語末で自己の音 sonum snum を保つという現象は中期フランス語の時期まで見られるのであろうが，上記の記述はちょうど語尾の子音が発音されなくなってゆく過渡期の現象を示しているようである。

(a) 名詞と現在分詞の単数においてtで終るすべては複数においてtを失い，sまたはzをもって書き，発音する：

単数における saint, faisaunt, alant は複数では sains, faisauns, alans 等々である。

＊ 語末のtに複数を表示するsを付す場合は，ts はzと表記されるのが，古フランス語の規則であった。故にsを書くということは正しくない。すなわち sains は sainz と書くのが正しいのだが，AN第2期においてはz，sが相互に交換されるようになった。Pope：[50.]

女性を示す母音（e）が直後にくると語中のTは常に完全な音を持つ。例へば：

lez saintez virges du ciel（天上の聖女たち）

ad toutz et quauntez foitz vouz plerra venir, vous serrez bien venuy

（お越しになりたい時はいつでも貴方を歓迎しましょう）

beaucop dez femmez en Loundrez sount merchauntz

（ロンドンの多くの婦人は商人です）等々。

＊ この時代では toutz, merchauntz は toutez (toutes), merchauntes と綴るべきであろう。中期フランス語において女性を示す語にeをつける傾向が一般化された。その傾向を早くも指摘している。

(b) ガリア語によると次の語でtは省略される：liz, pounz, porpoinz, そしてまた，zあるいはsを伴ったいくつかの語にあっても同様。

＊ この場合 ts はzと表記すると書かなければならないだろう。

しかし，ガスコニア人（Vasconici）とアングリア人（Anglici）はtをもって書く，このように：

amy sount noz litz faitz［アンダーライン筆者］

（さあ，我々の寝台は準備されているか）

sount noz porpointz prestez（我々の胴衣は用意されているか）

なぜならば ガスコニア語は決してガリア語ではないからだ。

＊ 作者にとっても，また当時の人々にとってもtsをzであらわすということが充分に理解されていなかったようである。

(c) ガリア語で用いられている接続詞 et におけるtは書かれてあっても発音されない。

16. Lについては，doulz, ceulz, peaulzのような語においてはlをもって書いてもよいしlなしに書いてもよい。

＊ 古フランス語においてはzはlsである。dolceはlなしにdozと書きうる。子音に先立つlの母音化はANにあっては徐々に進んだ。Pope : [38. 1. 3. 0.] (18. を参照)

そしてlが語末に置かれ，子音に先立つとき，lはuの音を持つ，例えばveaulのように。しかしgentil de corpsや同様の場合もある。

＊ 例題gentilのlがどのような音を保持していたかは定かでない。

OEDが初例としてあげるgentilは1225年に借用されている。

gentle (aj.) 1225 *Ancr. R.* 166 Noble men and gentile ne bereð nout packes (well-born)

1330 R. Brunne *Chron.* 188 Gentille of norture, and noble of lynage (courteous)

17. Uは語中に置かれた場合，個有の音を失う，例えば：que, qui, quar, guerri, langue quel, quatre, quereなどである。

18. Xは語末に置かれるとsのように発音してもよく，またzのように発音してもよい：

no chivalx (我々の馬), chivelx, huiselx, ceulx, telx, doulx, meulx, これらのような語はx, sまたはzのいずれをもって書いてもよい。そして同様のものもまた同じ。

＊ 上記の例ではsをxと考えている。xはusである。

(a) このdieuxという字は，時にはxをもって書かれ，時にはxなしに書かれるが，たとえ書かれても発音しない：

dieux vouz save (神が貴方を救い拾わんことを)

dieux soit garde de vouz (神が貴方をお守り下さるように)

＊ usに当るxを，この時代にはsと混同しているようである。

しかし呼格に置かれる時，xは音を保持する，例へば：

dieux, eiez pite de moy (主よ，私を憐れみ給え) と。

＊ 男性単数主格語尾にはsが付されていたので，上記の例文によるとxをsと理解していたことが分かるであろう。

そしてもし子音が続くときは，dieux mercye (神のお加護) 等々のようにxを発音しない。

＊ この場合dieuxは資格と考えられるからxは不要である。

(b) このdoulzという語は男性および中性においては語末にxをもって書かれ，女性においてはcをもって書かねばならない。

＊ lはuになっていたからdulcisはdousとなる。doulzにおけるlはhypercorrectionの結果であり，zはsに対応する。また，xはusであるからdulcisはdoxともなるだろう。しかし12世紀ごろにxはsとみなされたらしい。従って男性形はdoux，女性はdoceないしdouceであったことを示している。dolzに対してdozもある (16. を参照)

19. ovecという語は語中にsなしにいろいろと次の様に書き得る：oveque, oveques と。

(a) solonque という語は n に終ってもよく，また c に終ってもよい。solon または soloncque のように c を以て。但し c は発音してはならない。

(b) escue, esau(?), escuiele, cuiler 等々という語は c をもって書き，q をもって書いてはいけない。

＊ 当時における q と c の慣習的用法を論じている。

20. Y はどのような場合でも i という音を持ち，多くの場合 i の代りに書かれる。それは飾り文字のためである。特に個有の都市や村の名前，男性または女性の名前，官職位階の名称においてそうである。

＊ y についての当時の見解である。この使い方は AN 独特のものであろう。

21. Z は事実上語末にあっては s のように発音する，例えば：querez, serchez aimez などのように。

＊ z は ts だから発音されたとすれば [s] ではなく z [ts] である。この記述の信憑性は少ない。

22. 先に部分的に母音のところで叙述したように次のことを知らねばならない。単音節の語が母音で終り，次の語が母音で始まるその時はいつも，その二つの語は発音されるべき一語のように互いに結び合わされねばならない。最初の母音は書いても発音してもいけない，例へば：

la abbe ないし l'abbe（修道院長）
l'on（人）ないし la on
masdre d'argent（銀の盃）
j'aime（私は愛する）等々。

＊ abbe は abbé か abbaie か，が不明瞭であるが la と le の混同は考えられる。la on の la は on が代名詞とすれば誤りである。le と la の混同は屢々AN に見られる特徴であった。

上記の説明は a と e の母音省略を la, de, je について論じている。

23. すべての動詞においてその各々の活用語尾が s に終る場合は書き手の意志により s と書いてもよいし z と書いてもよい，例えば：

amez, veniez, ditez, lisez, pensez と。(cf. 21)

＊ s と z の使用が現在と異なることは屢指摘してきた。一般に動詞の活用語尾が s に終るのは 2 人称単数の場合であるし，z に終るのは 2 人称複数である。作者はこの差異をどのように認識していたのだろうか，明らかではない。

また男性であれ女性であれ，e に終るすべての分詞はその分詞を派生させるもとの動詞と異なって語末に二重の ee を書かねばならない。

＊ 過去分詞について説明しようとしているのであるが叙述は不充分である。二重の ee を書くのは女性単数語尾に限られる。

例へば過去分詞 amee をその動詞 ame と区別するために，enseignee は動詞 enseigne と区別するために書く。同様の語についても同じである。

＊ ame および enseigne は 1 人称，3 人称単数現在形であるのか，英語の不定法の形の類推から，不定形と混同されているのか，不正確な記述とみなされる。

24. c, ff または g で終る名詞は単数においては blane, viff, long のように，複数においては，ガリア

人に従えば語末にsを付して完全にc, ff, gなどを除去してblans, vis, lonsのように書く。

＊ 当時の習慣をあらわす。しかし12世紀中葉あるいはもっと早くから，屈折のsの前に語幹末子音を導入する傾向があり，例えばvifs hommes（発音はvys hommes）のように書いた。Pope：[57. 1. 2.]

25. siとseは区別する。すなわちガリア語のsiはラテン語のsicであり，ガリア語におけるseはラテン語のsiである。

26. ラテン語に対応するすべてのガリア語の単語はできる限りラテン語の書法に従うべきである。Pope：[44. 1.]

＊ *Orthographia Gallica* も次のように言う：「たいていの場合，ラテン語で書いてあるように，ガリア語でも書けばよい。例えば，computumはcompte, septemはsept, prebendaはprebendre, opusはoepsの如く[8]」と。この時期にしては注目すべき記述である。

27. どのような性であれ語末にeeという二重音を持つとなるすべての名詞は二つのeeをもって書かねばならない。例えばpensee, privee, finee, rousee, vineeなど上述の過去分詞同様のものについても。このように論述し且つ終る。

注

1. J. Stürzinger, ed., *Orthographia Gallica*：*Ältester Traktat über Französische Aussprache und Orthographie,* Altfranzösische Bibliothek 1884, Ⅷ. rpt., Wiesbaden, 1968.
2. E. Stengel ed., "Tractatus Ortographie Gallicane per M. T. Coyfurelly", *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur,* 1879, 1, pp.16-24.
3. M. K. Pope ed., "The *Tractatus Orthographiae* of T. H., Parisii Studentis", *Modern Language Review*, vol. 5, 1910, pp. 185-193.
4. Karl Brunnerは *Die englische Sprache : Ihre geschichtliche Entwicklung* 2 vol, 1961においてGallicumをフランス語，Romanicumを北フランス語と理解していたようである。K. ブルンナー「英語発達史」共訳松浪有，小野茂，忍足欣四郎，秦宏一，大修館1973 pp. 116-17. Université de Montréalより *Parler vulgairement, Les intellectuels et la langue française. aux XIIIe et XIVe siècles*, 1987を出版したSerge Lusignanは Coyfurellyの *Tractatus Ortographie* に言及し，Coyfurellyの指すlingua romanicaをanglo-normandeと解し，lingua gallicanaをle français parisienと解している see：pp. 102-3.
5. see：Introduction by M. K. Pope in The *Tractatus Orthographiae of* T. H., Parisii Studentis pp. 185-189.
6. M. K. Pope「アングロノルマン語」英語学ライブラリー(67)大高順雄・福井秀加　訳述，研究社，1984，第3版。本書はM. K. Pope, *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*, Univ. of Manchester 1934, rpt. London 1966より Part V. Anglo-Norman Chap. 1-V pp. 420-485を訳述したものである。
7. Ian Short and Brian Merrilees ed., *Benedeit : The Anglo-Norman voyage of St Brendan*, Manchester University Press, 1979.
8. *Orthographia Gallica* op. cit. (CO 85), p. 16.

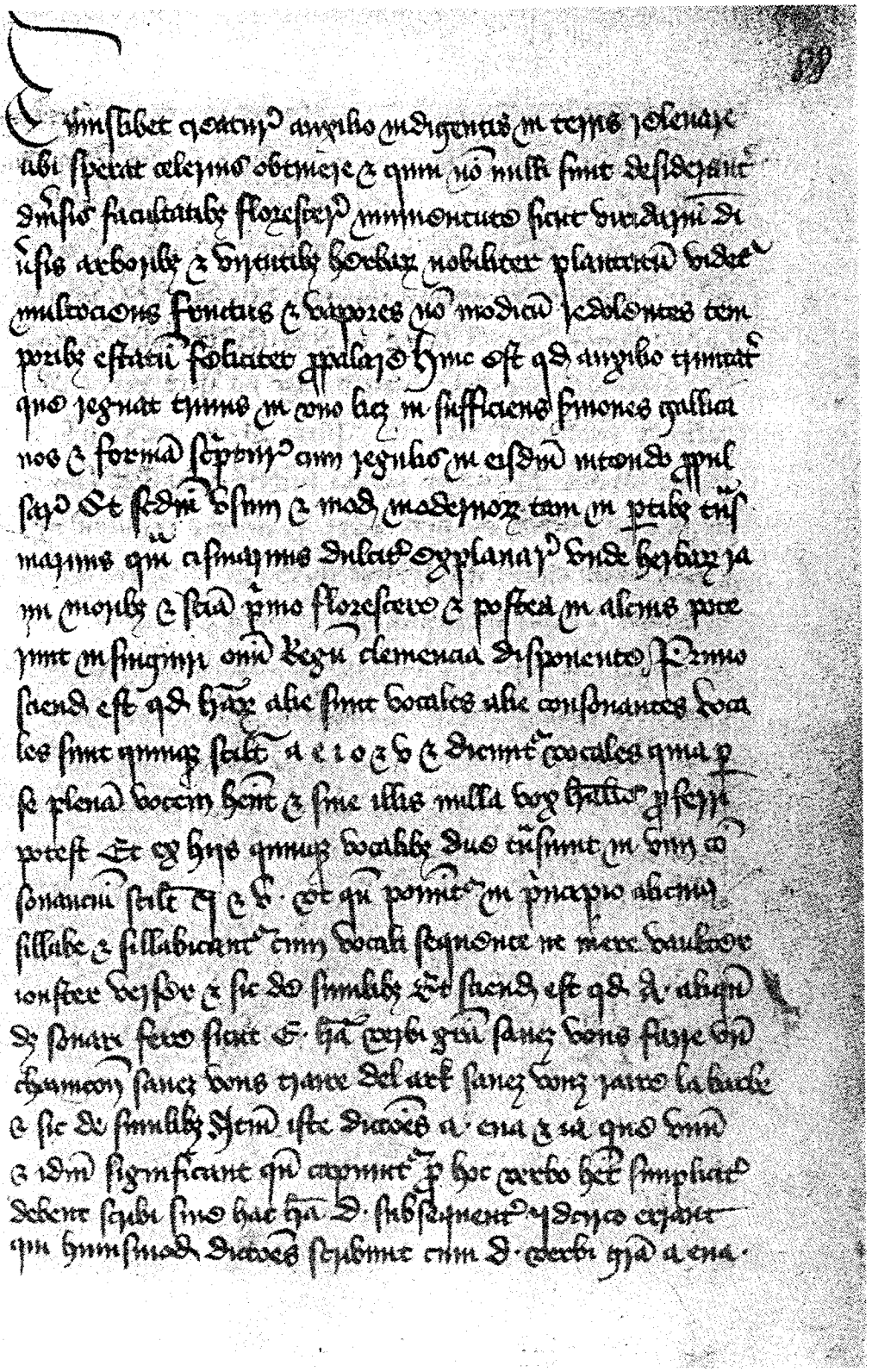
Tractatus Orthographiae

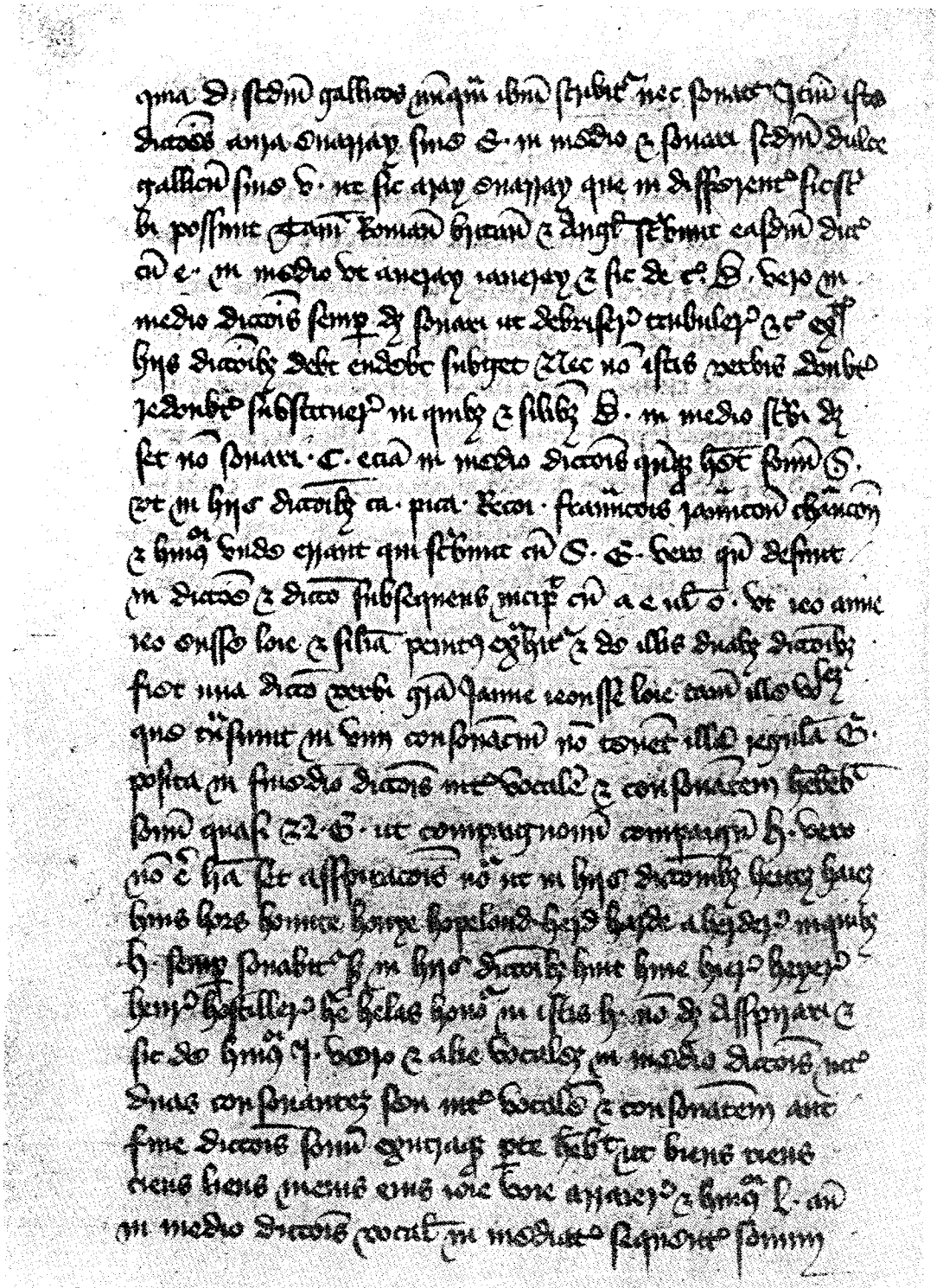
T. H., Parisii Studentis

British Library MS Addit. 17716

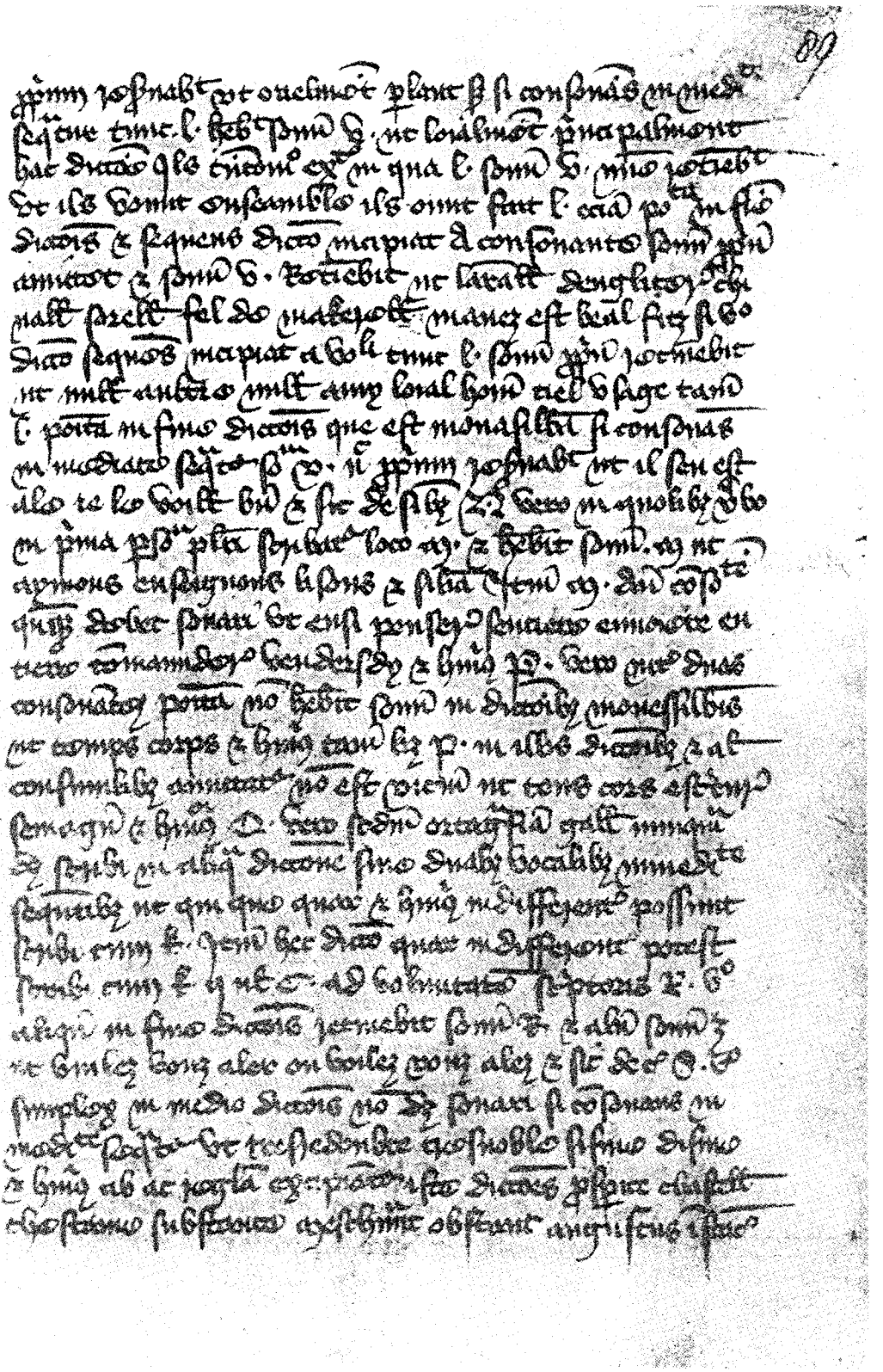
ff. 88^{r}-91^{r}

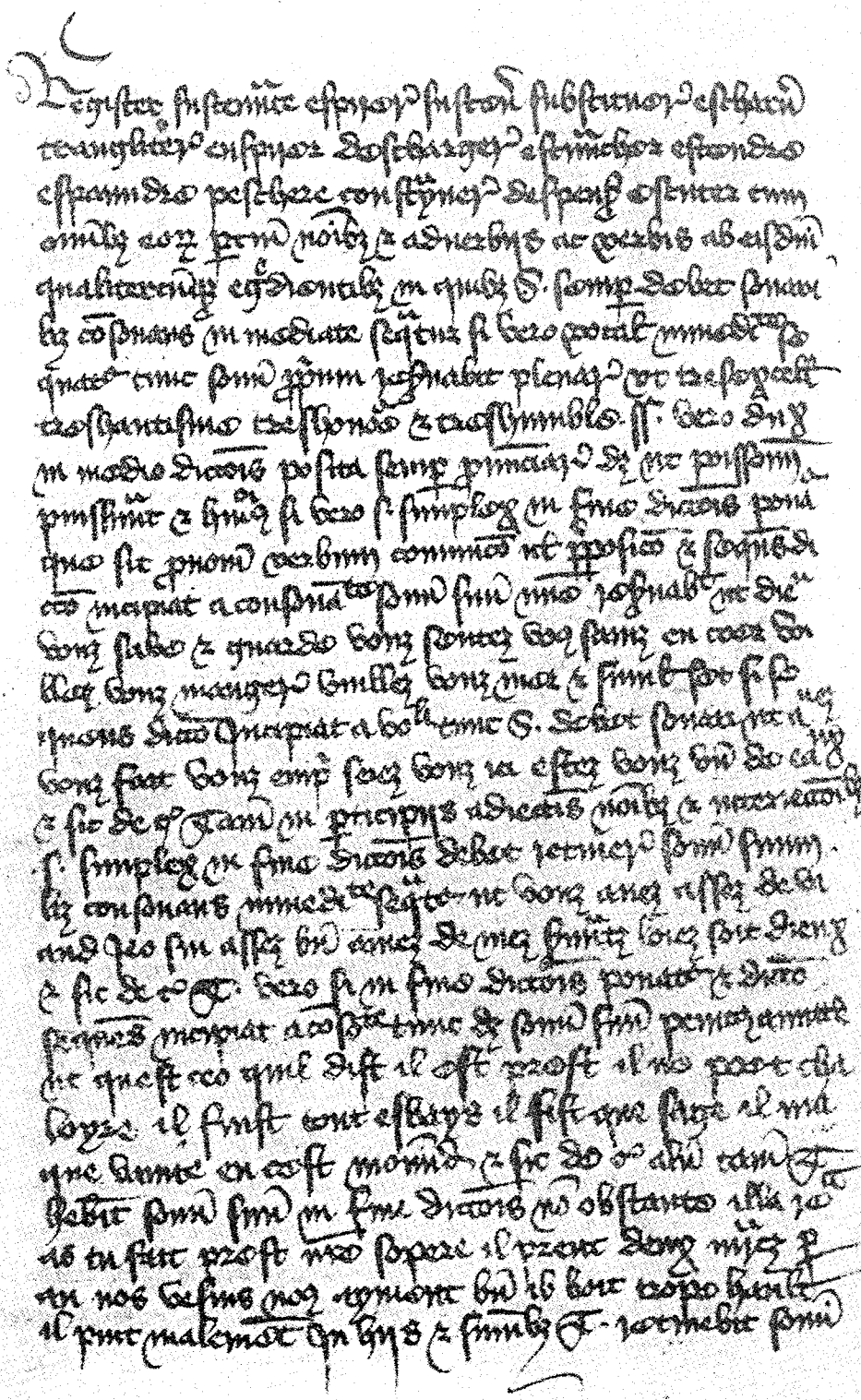
88r



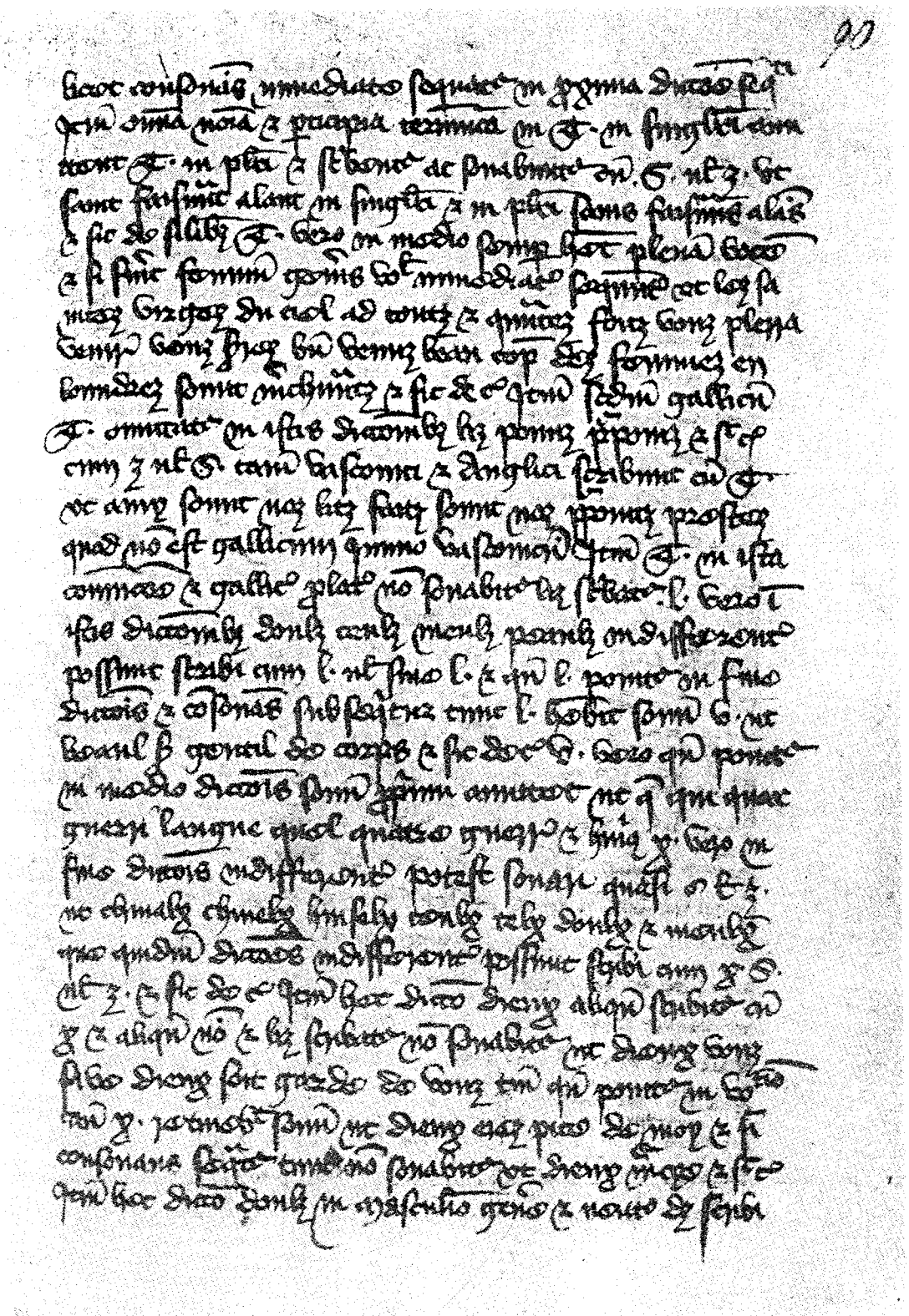


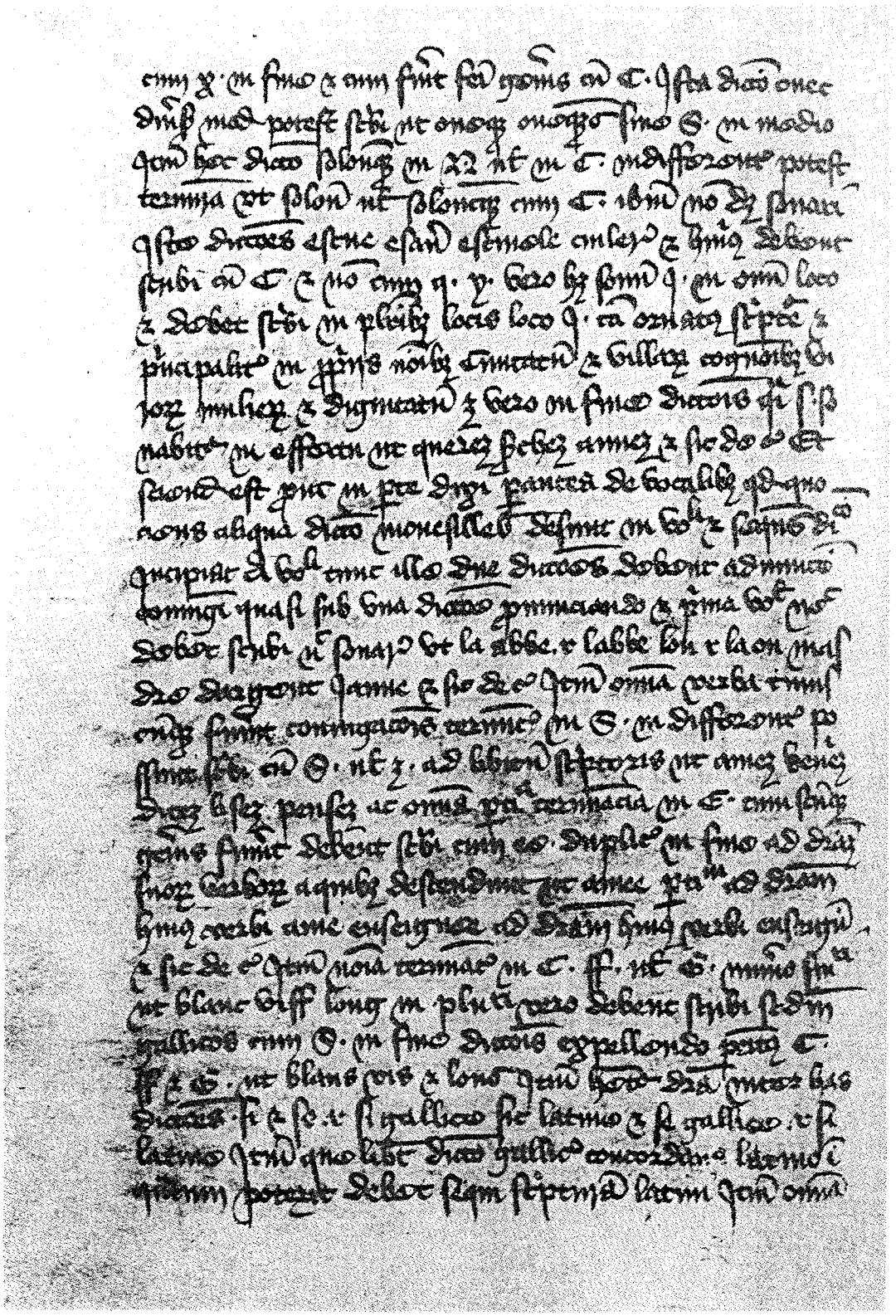
89r



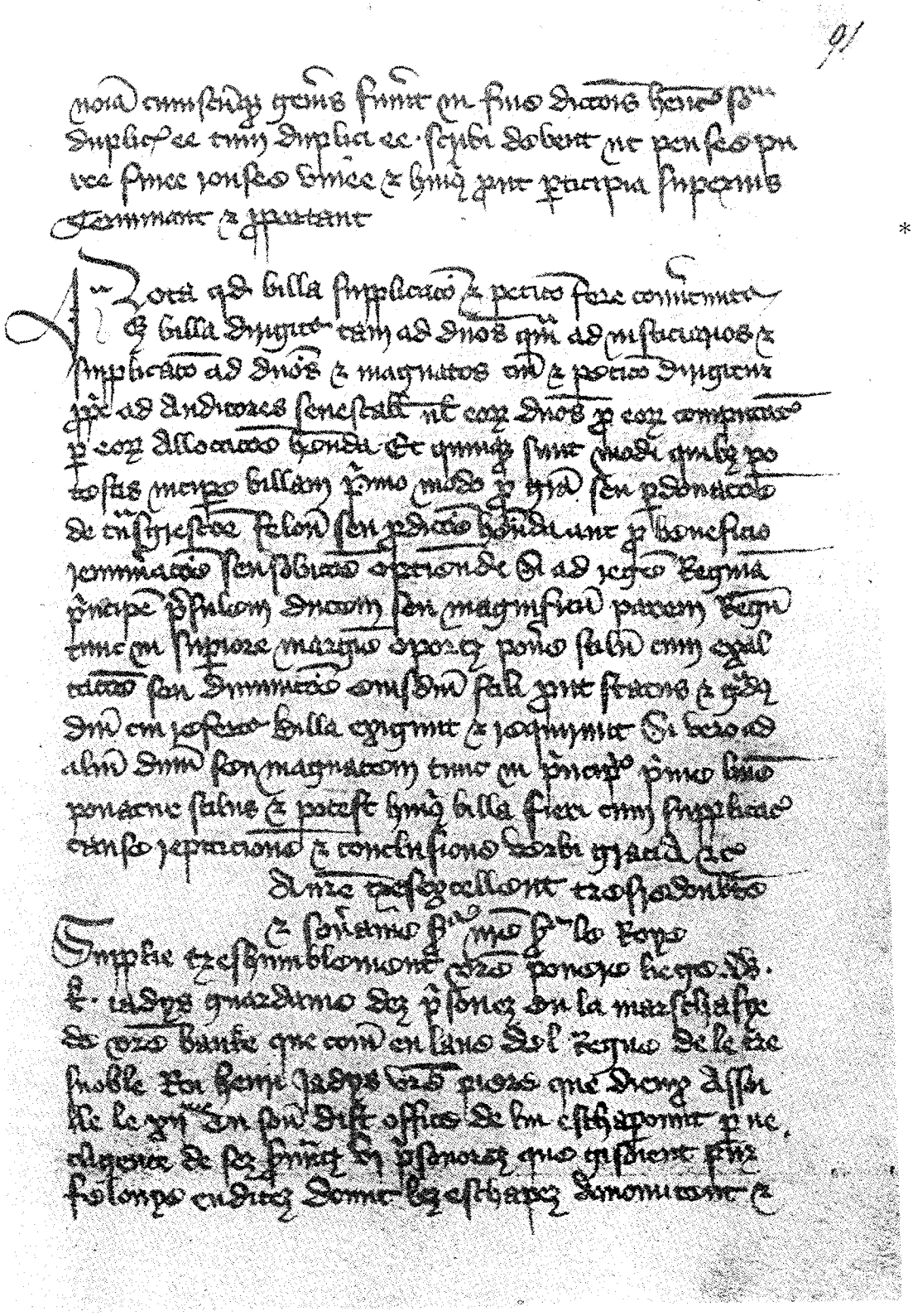


90r





91r



2) *Orthographia Gallica*

——「ガリア語正綴法」訳述——

前述の如く中世イングランドにおいて最も普及したフランス語教科書と見做されているのは14世紀前半に作成された *Orthographia Gallica* である。正綴法であるから，教本には主として語の綴り方，発音が示されているが，本文は複数の作り方や動詞の人称変化，活用，前置詞，冠詞，代名詞，形容詞，副詞の扱い方などにも言及し，論述は統語論，文章法にも及ぶ。しかし教本の随所にアングロノルマン語の特徴を持った綴りや，不正確な文法の記述が見られるのは事実である。それらはとりもなおさずノルマン征服以後数世紀に亘りイングランドで使われていたAN語の実態を示している。

AN研究について不可欠な研究書を出版したM. K. Popeの大著 *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman,* Univ. of Manchester, 1934, rpt. 1966.（前掲）にはANの詳解に際して *Orthographia Gallica* より数多い引用がなされている。

本稿は *Orthographia Gallica* を翻訳して，注釈をほどこした。翻訳は J. Stürzinger ed. *Orthographia Gallica : Ältester Traktat über Französische Aussprache und Orthographie,* Altfranzösische Bibliothek 1884, Ⅷ（rpt. Wiesbaden, 1968）を基としている。

編者のStürzingerは *Orthographia* の刊本を作成するに際し，4写本，即ちBL. MS Harley 4971（ff. 4^{r}-6^{v}）14世紀，Cambridge Univ. Library MS Ee. 4. 20（ff. 152^{v}-154^{v}）14世紀，Oxford Magdalene College MS 188,(ff. 1^{r}-4^{v}) 15世紀，Lincoln's Inn Library Misc. MS 178（ff. 215^{r}-216^{v}）14世紀，を用いて主題ごとに本文の叙述をまとめ，原文行順を並べかえた。そして異本を並記し，ＨＣＯＴ［H（Harley）C(Cambridge) O(Oxford) T(Towerdocument,［すなわちLincoln's Inn Misc 178］）と記号を付した。筆者の翻訳はstürzingerの刊本に従い記号も使っている。なお筆者の注釈には ＊ 印をつけて原文と区別しておいた。

(H1) ガリア語において第一音節あるいは中間音節に，狭い口で発音するｅをもっているといわれる語は，書く場合そのｅの前にｉの文字を必要とする。例へば：bien（良い），rien（物），chien（犬）と。
(T1) ガリア語において，第一音節あるいは中間音節に，狭い口で発音するｅをもっているといわれる語は，書く場合，例えば，bien，dieu（神），mieuz（より良い），trechier（最後の），mier（海）および同類の語におけるようにｅの前で文字ｉを発音しなくてはならない。
(CO1) ガリア語において第一音節あるいは中間音節に，狭い口で発音するｅをもっているといわれる語は，書く場合そのｅの前にｉの文字を必要とする。例へば：bien，rien，chien，piere（父），miere（母）等々。
(H2) しかし，もし一方このｅという母音が鋭く発音されるならば先行するｉという母音なしにそれ自体で存在しなければならない。例えば：beevez (beivre)，menez (mener)，tenez (tenir)，pernez (prendre) と。
(CO2) 母音ｅが鋭く発音されるときはいつでも，先行するｉなしにそれ自体で存在しなければならない。例へば：bevez (boivre) tenez (tenir) lessez (laissier) と。
(H3) しかしこの先行の規則は不明瞭である。上述のｅがａｂｃ全ての文字のあとで，先に述べたとおりに発音されるかぎりそのｅの前にｉをやはり同時に書くようにと理解すること。ｂのあとではbiez

[bien?] のように，c のあとでは ciez [chien?] のように，そしてその他同様に。だからこの規則はラテン語で言うとすれば [e を第一音節に持っている] 綴りについ理解されてきたし，また理解されるだろうと考えておくこと。

(H4) e の前の音節の中においては，従って venez (venir) のように i を書かないのだと知っておくように。

(H4a) しかし上述の文字 e が長いかぎり，その e の前で i を発音する場合は biez, ciez のように，一つの音節が i で終り，他の音節が e で始まる語についてあてはまるであろう。

[このように完全な規則をもって全ての場合に真実である]

(CO3) たとえ，ある音節のはじめにある e が鋭く発音されてもその前の音節の最後に i を置くのがよい：biez (beivre?), priez (prier), liez (lier), affiez (afier) のように。

* (H1) (T1) (H3) AN における二重母音〔ie〕は著しい水平化を示した。英語の音体系では子音後に j の現われることが稀であつたから島嶼語 AN の〔jẹ〕>〔ẹ〕, >〔jẽ〕>〔ẽ〕という変化は大いに促進されたと言つてよいだろう。これは12世紀後半以後 AN の際立った特徴となったのである。cf. Pope : [35. 1. 0. 0]

ラテン語の e [ɛ] から生じた [je] の AN における縮減形 [e] を，音においても，綴りにおいても ie [je] に代えなければならないと *Orthographia Gallica* は教えているのである。cf. Pope : [39. 1. 2.]

(H2) '鋭く発音される母音 e' という表現は e にアクセントを置くという意味であろうか。狭い e と考えられる。

(H4a) 'その e の文字が長いかぎり' という指示は不正確である。この場合ラテン語では e は短かく開いているからである。

(H5) さらに完全に発音された e に終る語はもし女性であれば語末に二重 ee をもって書かねばならない。例へば：

Femme amee, douee et enseigne[e] (天賦の才あり教養ある，愛されし婦人) と。

(CO4) 完全に発音された e に終る女性形容詞は e を重複させて tres honuree dame (令夫人) のように書く。

(T3) さらに完全に発音された e に終る語は重複 ee をもって書かねばならない，即ち：donee (与えられた)，amee (愛された) のように。

(H6) しかし半分だけ完全に発音される場合は e を重複させない，即ち次のように：

Meinte feme est bone (多くの婦人は善良だ) と。

(CO6) 男性形容詞が un homme (一人の男)，meynt homme (多くの男) のように e で終らないとしても女性の形容詞は半分完全に発音する一つの e で終る。

meynte femme (多くの婦人)，une femme (一人の婦人) のように。

(T4) 半分完全に発音される e に終る語は e を重複させない，即ち：meynte feme est bone と。

(H7) しかしこの規則もいささか若い人達にとっては曖昧である。従ってこれはもっと明瞭に説明されねばならない。なぜなら時には語末で二重 ee を持たぬ語を書く。時には一つの e だけを持って書き，時には二重 ee をもって書く場合があるからだ。

男性における形容詞，即ち Franc home (立派な男)，rud home (粗野な男)，sotil home (馬鹿な男) のような場合は語末に e を付さない。

女性における形容詞は France dame (立派な婦人)，sotile dame (愚かな婦人) のように語末に e を付

す。
男性が一つのｅをもっている時，女性は二つのｅ即ち形容詞は二重 ee を付す：
Tres honure sire（まことに尊敬さるべき殿方）
tres honuree dame（まことに尊敬さるべき婦人）と。
(CO5) 男性形容詞は完全に発音されるｅをもって終ろうともｅを重複させない：
tres honure sire のように。
(CO5a) しかし名詞では un Countee [a shire], un counte [a counte] のように作り，小文字や大文字でさまざまな形がある。
un counte counte[e] [a counte(s) countid]（ある伯爵の領地）
de le Counte de tiel Counte（その州の伯爵の）

＊ (CO4) (T3) (CO6) (H7) 形容詞の女性形語尾にｅを付すよう注意をうながしている。過去分詞形の女性単数語尾は殊に混乱を招いていた様子である。
過去分詞女性形語尾に ee を付すその綴りは payee などとなって英語に借用されている。
(CO5a) un Countee は英語の綴りでは county となった。
M. T. Coyfurelly の *Tractatus Ortographie Gallicane* は過去分詞の語尾について次のように記述する：「e で終る全ての分詞は男性も女性もそれらの語から派生する語の音と区別するために語末においてｅｅと二つのｅをもって書かねばならない。例えば過去分詞 amee は二つのｅをもって aimez と区別するために書く。」cf. E. Stengel ed., '*Tractatus Ortographie Gallicane* per M. T. Coyfurelly', *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur,* 1879. I. p. 22. この記述も曖昧である。男性過去分詞語尾は-ee とならない。

(H89) 一つの音節が，二つの母音の性質をとる時，その二つの母音は，発音において一つの母音のように考えられる。例えば jeo (pron. pers.), ceo (pron. demonstr.) のように。ｅのかわりに ea を書く cea, ceaux（それら），deaux（数詞）のように，これらを書く場合はその語の中でより大きな音を持つ母音を先に書く。
(CO7) 一つの音節が二つの母音の性質をとるときその二つの母音は poet (pooir) のように一母音とみなされる。その際大きい音を持つ母音を先に書く。
(T5) 一音節が二つの母音をもつとき，それは発音において jeo, ceo, poet, moet のようになる。
(H90) しかし次のような綴り，あるいは単語 jeo, ceo はｏなしでｅをもって je, ce と書き得る。
(CO8) je, ce, jeo, ceo という綴りは ceo と書くのもよいしｏなしの ce と書いてもよい。
(CO49) deaux, ceaux, eaux（彼等），veaux（望み）などはａをもって，あるいはａなしに，どちらでも書き得る。

＊ (H89) (H90) (CO8) (CO49) AN 綴りの実態を示している。jeo, ceo は二重母音の発音ではないが，綴りは AN 綴りの特徴を現わす。ｅのかわりに ea を書くのも AN 綴りである。
cea は ce, ceaux は ceux (pl.), deaux は deux, eaux (pl.) は eus と書かなければならない。veaux は veux であろう。

(T6) 名詞と動詞の複数で最後の音節に母音ｅを持つ場合は字母ｚを必要とする，即ち：amez (amer), enseignez (enseignier) のように。
(T9) 単数にあってｔに終る語は，複数では字母ｚを必要とする。すなわち単数で dyt (dire), fet (faire) となる語は複数ではｚを付して dytez, fetez となる。

(CO9) 単数の動詞で語末に字母tを持つものは，複数で字母zを必要とする，例えば：
単数でamet [he loveth] lisetは，複数でamez [ye love], lisez [ye rede] となる。
(CO10) s音に終る全ての動詞，形容詞，分詞はzをもって書かねばならない。
(CO10a) 文脈不明
(H36) 直説法の全ての時制の複数1人称，および直説法完了の単数2人称はsに終る。
(H37) 他の全ての時制の2人称はtで終り，複数の2人称と全ての分詞の語尾はzで終る。

＊ (T6) 動詞の複数とは2人称の場合であろう。名詞の場合zを語末に必要とするのは語尾にeを持つ場合とは限らない。過去分詞の複数を示すsをzと理解しているらしい。
(T9) 複数語尾sのかわりにzを使うというのは混乱である。名詞の場合も過去分詞の場合も複数語尾はsをとる。但しdireとfaireに対しては歴史的な音変化を現わしていないdyt, fet形が採用されている。複数形はdyz, fezとなれば正しい。
(CO10) sとzの混同を示している論述。
(H37) 一般に2人称単数語尾はsである。tに終るという記述は間違っている。現在分詞の語尾はtであるのでzはtsを示す。

(CO11) 全ての形容詞はsをもって書いてもよくzをもって書いてもよい：ces, cez [these] あるいはles, lez [they] と。そしてtoutz [all] などのようにuがs音に先行するのでなければこれは正しい。
(CO12) s音で終る全ての名詞はsをもって書かなければならない：seignours [lords] dames [ladyes] (しかし下にあげる動詞についてはそれは起らない。即ち第1人称…)
(H38) 単数でtに終る形容詞，名詞は複数では書き手の任意に従ってsまたはzに終る：tenements (小作地) またはtenemenz, ses (pron. pers.) またはsezのように。
(CO13) tenement, gent (人), lent (緩慢な) などのように単数がtに終る場合，複数では区別なくsまたはtzと書くことができる。
(H93) teあるいは二重eeで終る名詞のあとはfeez (信仰), amistez (友情), bountez (寛大さ), leez (側) のようにzをつけ加えること。そしてdで終る言葉のあとにはredz (薪), bledz (麦) のようにzを書く。
(H94) lのあとでもgenulz (膝) のように。
(CO95) 文脈不明
(CO14) 単数においてlのあとにsを付すときはいつでもsのかわりにzが書かれる：filz (子息) のように。
(H73) eisnez (第一子), puissnez (第二子) のような語，およびその他のいくつか尊敬をあらわす名前はzをもって書き，そしてそれは発音しない。
(CO15) lまたはuがaあるいはeのあとに置かれ，直後にsが続けられるときはdeux, loialxのようにsはxにかえられるべきである。

＊ (CO11) zをもって書くというのも，uがs音に先行するのでなければ，という記述も誤りである。toutはtous (pl.) となりtoute (f.) はtoutesとなる。toutzの綴りはAN風綴りと言える。
(CO12) 指摘している動詞の例題が欠除している。
(H38) tsはzである。従ってsesをsezと書く，と指示するのは誤りである。
(CO13) tで終る名詞の複数語尾をsあるいはtzと書き得るという指示は誤りである。語尾はtsあるいはzとなる。(CO11) の記述と同じく語尾にtzと書くのはAN綴りである。

(H93) 語尾の te, ee のあとには複数の場合 s を付す。z を付すとするのは誤り。また, d のあとにも s を付す。複数の表示に s と z が混乱されている論述である。
(H94) l のあとも z ではなく s を付す。
(CO14) そして ls は z で表記する。故に fil の複数は fils または fiz と書かれるべきところ, filz と書くのは AN 綴りと言える。
(H73) z は s と書くべきである。語末の s を発音しなくなった傾向を示しているのは正しいが, 高い身分をあらわす敬称という説明には例文が付されていないので不明瞭である。
(C15) 伝統的な考え方によると不正確な記述である。us は x であるから。loialx のように x を付すと l は不用である。もっともこの点については大陸フランス語においても混乱が見られる loyal の複数は loyaux である。

(H75) また, ego (1 人称主格) mei (属格) という代名詞 [あるいは 2 人称の] については nous, nos ; (CS CR) vous, vos ; (CS CR). のように z なしに v と ous [または os] と書く。
(H76) しかし nostre, vestre, noz, voz は noz, voz letres (我々の, 貴方達の手紙) のように書く。
(CO16) ego mei または 2 人称から生じる代名詞 nous, vous は us をもって, あるいはその場所に nous [we], nos [us], vous [ye] vos と書かねばならない。
(CO17) noster, nostra, nostrum (pl. m. f. n.) または vester, vestra, vestrum (pl. m. f. n.) から生じる nos, vos は z あるいは s のいずれをもっても o のあとで u なしに書くことができる。
(H91, CO18) ある音節があたかも呼気をもつように発音される時, その音節は s と t をもって呼気にかわりに書く, 例えば : est (estre), cest (pron. demonstr), plest (plaire) のように。
(T7, H29) 呼気をもってかのように発音されるいくつかの音節は s と t をもって書くことができる。例えば : est, plest, cest と。
(H35) s が t に付されると h の音を持つ。例えば est, plest は eght, pleght と発音されるようになる。

* (CO17) 人称代名詞 1 人称と 2 人称の複数, 主格, 賓格は nos, vos である。nos, vos が大陸フランス語の形であって noz, voz は正しくない。記述にある z と s の互換は誤り。
(H91, CO18) (T7, H29) (H35) 子音 t の前では s が有気音となり消えてゆくという非常に古い音変化を示している。極めて興味ある指摘である。

(H30) 現在と過去の動詞においては batist (bastir) のように s を書くと心得よ。
(H31) しかしいつ s を書き, いつ s を書かぬかを理解すること。まず t と e, i, o, u の間には, 現在および過去の動詞においては batist 等々のように書く。e は est のように, i は fist のように, o は tost のように, u は lust のように, である。
(CO73) 現在時制と過去時制の動詞においては i, e, o, u のあとで st と書くこと。例えば : batist, fist (faire), est, tost (toster), lust (luir) のように。
(CO96) 現在時制と過去時制においては i, e, o, u と t の間に s が書かれなければならない : est, fist, tost, lust など。
過去形では a と t の間に s を書く : amast (amer) のように。
(CO67) ascun (誰かが) aucun と発音されるように, 時には s を書き u と発音する。
(H32, 61) ascun や blasmer (非難する) のように, 時にまた s を u のかわりに書くこと。そしてそれは aucun と発音する。
(cf. H8) s は [音においては変化させられるが文字においては変化がない] ascun のように書き, acun

と読む。
(H33) また一方 n のかわりに s を書く：enpernez (enprendre) のかわりに espernez となるように。
(H34) また同じく美しい書き方として s を書くように：meme (同じ)のかわりに mesme, trechier (親愛なる) のかわりに treschier と。
(CO19) もし e のあとに d を書き m がすぐあとに続くと d は s に変えることができる。
(CO21) 字母 s を母音のあとに書き，次にすぐ m が続くと s を発音しないこと，例えば：mandasmes (mander), fismes (faire), duresme (durer) のように。
(CO93) 様々な音節および一つの語において m が e あるいは i に続くとき，s を介入させなければならない：duresme, fismes, feismes のように。
(CO94) a が語の中間音節にあり m が直後に続くときは s を mandasmes のように介入させるが s は発音しない。

* (H30) (H31) (CO73) (CO96) 例には 3 人称単数があげられている。直説法単純過去ないし接直法半過去の動詞に s を付すことは多いが，3 人称の現在形には大部分あてはまらない。例題で現在時制を示すものは est のみであるがこの動詞の活用は例外と言える。
(CO96) 直説法単純過去の説明の例に amast と，この場合は接続法半過去の形が示されている。単純過去形には passé faible と fort の違いもある。
(H32, 61) blasmer の s は語源に由来する。しかし ascun の s は語源に由来しない，AN 綴りである。
(H33) 接頭字 in に由来する en と x に由来する es との交換を論じている。。enpernez は AN に頻繁にあらわれる形で enprenez の mētathèse。
(H34) s を介入させるのが美しい書き方であるというところは興味深い。
(CO93) 語源的にみて s が入る場合と s を介入させない場合がある。起動をあらわす挿入字 esc に由来する s に言及しているようだが，s を類推も含めて多く用いる傾向を示している。

(H95, CO97) 未来時制 1 人称は ay で終り，3 人称は a で終る。
(H39) 母音で始まるある語が母音で終る他の音節に続く時，先行する音節の母音を省略しなければならない，そしつ結合していた子音は次の語の母音と連続させなければならない，即ち：malme (私の魂), Dengleterre (イングランドの), Dirlande (アイルランドの) となり，それらは休止なしに発音しなければならない。
(CO22) 母音で始まる語が母音で終る音節に続く時はいつでも前の音節の母音を省略しなければならない。そしてそれに結合している子音は後続する母音と結合させなければならない。例へば：de Engleterre, de Irlande は Dengleterre [of Englond], Dirlande [of Irlande] と書く。
(T8) 母音で始まる語が母音で終る語の直後に続く時はいつでもその二つの母音は一音節と数えられるが間隔をおかずに結びつけて発音しなければならない，例えば：malme, maye (私の援助), Dengleterre, Dyrlaunde, Dexcestre (エクセターの) と。
(H22) 母音で始まる語が母音で終る音節の後につくとき，[前の] 音節の母音は省略すること。
(H40) この規則はその語の意味が奪われたり取り除かれたりしない限り正しい。例えば：de eaux (彼等の) のかわりに deux, または si ay (そして私は持つ) のかわりに say とするような場合である。
(H40^a) そして良い話し手は，話し言葉で solempne bone est (厳粛なのは良い) のように一つの母音を他の母音に続けるようなことはしない。また一方，話し手にとってはそれらの語の性質を忠実にあらわすようにしなければならない。

(CO28) 省略によって語の音が，あるいは文字の変更によって語の意味が疑わしくなったり，変化させられたり，あるいは文字の付加によって（そのようになる）場合は常に書かれているように発音されるべきである：
de eaux のかわりに deux と書き，sy ay のかわりに say と書く時など。

* (H40, CO28) 母音省略によって意味が不明瞭にならない限り母音省略は可能であるとしているが悪い例が挙げられている。eaux は eux に対する AN 綴りである。deux（数詞の 2）と d'eux の混乱をさけようとしたのか，say は savoir の直説法現在 1 人称単数活用 sai とまぎらわしくなる。

(H47) さらに，a, e, o のあとに l を持つ第一音節あるいは中間音節でその l のあとにすぐ他の子音が続くと，その l は u のように発音しなければならない：malme, malveis（悪い）のように。
(CO23) a, e, o のあとに l の字が置かれ，もし他の子音が l のあとに続く時 l は u のように発音されねばならない。即ち：
malme [my soule], loialment（忠実に），bel compaignoun（美しい友）のように。
(H48) しかし一方この規則は，del bien（良きものの）のような場合は適用しない。
(H49) 一つの母音が語の中で音節の終りにくる l に続きとき，l は個有の音を持ち，次の母音とつながれる：beal[e]ment（美しく）のように。
(CO24) 母音が l に続けられるとき，l の字はそれに続く母音と連結して自己の個有の性質を保つこととなる。
(H50) そして又，時には次のように書く：del, de, du, des, al, au, a, as と。
(CO78) 時には de, du, del, a, au, al, as そしてまた de, a, などと書く。
(H51) 従って一方あるいは他方を書く時，充分に注意するように。de が le の前にくる時，le の e は取除かれ，l が de に結びつけられる，例えば：de l[e] Evesque は del Evesque（司教の）となり，[de le seignour] は del seignour（領主の）と書く。
(CO30) 英語において the の印は，常にフランス語においては le 又は la を用いる。もし de あるいは a がその印に先立つならば le の e は省略し，l を a または de と結合しなければならない，即ち：
a le tresdoute seignour（いと畏き主君に）は al tresdoute seignour と，de le tresnoble seignour（いと気高き君の）は del tresnoble seignour となる。
(CO31) 一つの母音が le の印の直後に続くとき，e を取除き l は次の母音に続ける，即ち：
a le honourable seignour（尊敬すべき主君に），または a le Evesque（司教猊下に）は a lonourable seignour, a levesqe 等々と書かなければならない。
(H52, 60) しかし la と書くとき，そして de が la の前にくるとき，その a は取除かれず，de la dame（奥方の）の，de la vale（谷間の）等々となる。
(CO32) 女性において la という印を書く時はいつでも，たとえ直後に子音が続き，de または a が先行しても la はいかなる分割もなく自己の性質を保つ，即ち：
de la dame, a la tresreverent dame（いと尊き奥方に）のように。
(CO32a) 女性において la を書き，一つの母音が直後に続くときはいつでも l を後続する母音と結合することもできるし，また自己の個有の性質を保つこともできる。
a la abbesse（尼僧修道院長に），de la esglise（教会の）と書いてもよいし a labesse, de lesglise と書いてもよい。
(H53) 男性と女性と町をあらわす個有名詞の前には de を書く。
(CO78a, s.o.CO78) de, a について。the という印が後続せぬときは：

a mon seignur le counte d'Oxonforde（我が主君オクスフォード伯に）
de mon seignur Thomas d'Irlonde（我が主君アイルランドのトマス殿）と書く。
[Johan de Waynflete] のように名前がすぐ続くとき seignour または sire を短かく省略して書くこと。seignour のかわりに ſᵉのようにeを上に，また，sire からくるeを上に ſᵉと書く，あるいはeなしに monſとこのように書くこともできる。
(CO79) del, al [または al のかわりの au] について。
the が続き，子音がその印に続くと，上述のように del の l は u に変える必要はない。
(CO79a) しかし al の l はよく保れる得る。du はそれのみで de le または del のような意味を持つ，即ち：de le dit portour（上述の荷持係りの）のかわりに du dit portour となる。
(H55) 形容詞の前で時には de を書き，時には du を書く：de は de ceste chose（この物の）のように，du は du dit portour などのように。
(H56) また en については問題は別だ：en は en de ceste assavoir（この知識について）のように書く。
(CO33) 印 le を書き，子音が直後に続き en が先行するときはいつでも n を省略し，l は e と結合されなければならない，即ち：
en le countee（伯領において）は el countee と書く。
(H54) 単数で de または del と書くとき，複数では des と書くこと。
(CO34) 単数において el, al, del を用いる場合はいつでも複数では，es, as, des と書かなければならない。
(CO80) 単数の印をもった全ての語に対して複数では es, as と書かなければならない。
(H57) le が a のあとにくる時，al と書かれ，複数では as となる。
(H58) しかし la は a la dame のように変化しない。
(H59) また，時には od のかわりに de と書くこと：od le bouche にかわって de bouche（口で）のように。
(CO81) 時には od のかわりに de を書く：od le bouche のかわりに vous dirray de bouche（私は貴方に口で申しましょう）と。
(O82) cum のかわりに od または ou と書くこと。
(CO83) vel あるいは ubi のかわりに ou と書くこと。

＊ (H48) de+le=du となるのであるが，del をそのままに発音し，du と発音しない例として興味深い。それは AN の傾向であったかもしれない。
(H50) より (CO83) までは語形と語彙の問題である。例題には AN 綴りが多く見られる。
(CO79) は (H48) に対応する。所有をあらわす del は例外と考えられていたのか。
(H56) 例題の en de ceste assavoir には不用の de が加えられてある。
(H57) al の複数形は as のほかに aus, aux がある。 (H58) は (H52) と対応。

(H64) また時に字母 y を si のかわりに書く：y vous plest（そこは貴方の気に入る）のように。そして場所，其処に，をあらわすために jeo y serray（私はその場所にいましょう）と書く。
(CO49a) 字母 y は時には si のかわりに用い，si vous plest と言うかわりに y vous plest と言う。時には '其処に' のかわりに用いられ，jeo y serray と，このようになる。
(CO49b) 時には強調的，指示的表現のためには j' ay mys mon seal a ycestes（私はそこに印璽を置きました）と，このように言う。
(H74) 時には memes のかわりに y を書く。例えば：mesme cesty dismaigne（この同じ日曜日）のか

わりに y dismenge となる。
(H65) entre, pentre に対しても。

＊ (H64) (CY49a) si のかわりに y を用いるという指示は間違いである。y vous plest はこの場合 s'il vous plât を意味していると思える。
(H74) mesmes のかわりに y を書くことも不可解である。特殊な AN 的表現であったのかもしれない。
(CO49b) また ycestes の y は AN 綴りと見做される。アングロノルマン綴りでは y を好む傾向があった。
(H65) entre (間に, で, の) と pentre (に対して) とは別の語である。後者は ancien francais には稀な語。

(H62) 様々な意味に対して s と c の間にある相異に充分注意することが必要であると心得よ。
celo に対しては ciel (空) と, sal は seel (塩)
sigillo は seal (印璽) cervo は cerf (鹿)
servo は servant (召使) serf と書く。
(CO50) 発音において類似していても様々な書き方がいくつかの語の相異を作る。
ciel (空), seel (手桶), seal (印);
celee (かくれたもの), ceele (それ);
coy (静か), quoy (なに);
moal (卵黄), moel (臼石);
cerf (鹿), serf (農奴);
teindre (色を変える), tendre (柔らかな), tenir (持つ);
attendre (待つ), atte[i]ndre (到達する);
esteant (存在する), esteyant (立っている);
aymer (愛する), amer (苦しい);
foail (燃料), fel (胆嚢), feal (忠実な);
veel (犢), viel (年老いた);
veile (葡萄の巻きひげ), veille (目を醒ましていること);
vile (地方の家), ville (村);
brahel (半ズボン), brael (ベルト);
herde (群 [動物]), erde (結びつく), enherde (付着する);
essil (破壊), huissel (腋窩), assel (車軸);
nief (土着の), neif (雪), noef (9 : 数詞);
baaile (あくび), baile (引渡し), bale (袋), balee (梱);
litter (敷きわら), littere (担いかご);
fournier (用意する), forrier (略奪者), forer (糧秣);
rastel (熊手), rastuer (削り器具);
mesure (尺度), meseire (苦しみ);
piel (白黒のぶちの子馬), peel (皮);
berzis (草, ハーブ), berzize (発酵前の麦芽浸出液);
grisil (霰), greele (細い), grele (上衣);

towne（容量単位），　　tonne（調子）；
neym（倭人），neyn（哀れた者）；など。
(H66) huissel, assel, essel（心棒）という語は音が非常に似ている。
(H8) 次の字母は音が変るが，書き方は変らないことを理解するように：c, d, e, f, g, l, n, p, s と t.
Cは母音で始まる語の前では次のように書き，そして読みなさい：vifs cliercs est il（彼は元気な書記だ）と。
Dは ruds homme est il（彼は荒々しい男だ）のように，
Eは larges home est il（彼は大男だ）のように，
F Fは vifs home est il（彼は元気な男だ）のように書き，vif と読む。
Gは rougs home est il（彼は赤ら顔の男だ）のように，そして roug[e]と読む。
Lは nul home（誰か）のように，そして nuls と読む。男性では nul と書き，女性では nule と書く。
cil と celle, il と elle この場合，読むときに一つの l は発音しない。
Nは bon home（好人物）や bon gre（善意）のように書き，その時 n は母音の前では個有の音で発音し，bons homme と読む。
Pは oept（作品）のように，
Sは ascun のように書き，そして acun と読む。
Tは子音の前に書くと d と読むように，母音の前ではその通りの発音される。
Fについては，男性も女性も v にかわる。男性においてはその儘に読むこと。
Gについて，母音の前では rougs home と読むように。
(CO51) 文字母 c, d, e, f, g, l, n, p, s と t は音においては変えるべきだが，書き方は変えるべきでないと知っておくように。
c は clerici 即ち cliers におけるように，母音の前の c はガリア語では clers と発音しなければならない。
荒々しい男 ruds hommes は ruz hommes と発音せねばならない。善良な婦人，即ち bones femmes は bons femmes と発音し，その際 n は半明瞭に発音すべきである。元気な男 vifs hommes は vys hommes と発音されねばならない，その他同様。
(CO77) l と r は書き方において時には二重に重ねられるが，発音においてはそうではない，例えば：celle (pron. dem.), elle (pron. pers.) terre [londe], guerre [werre] は tere, gere, ele, cele 等と発音しなければならない。

＊ (H8) 例題には名詞，形容詞の主格 CS と賓格 CR の混乱が見られる。主格に付す s が書き方においてもまた発音においても意識されているようであるが vifs, rougs と書いて vif, roug[e]と読むと教え，また nul と書いて nuls と読むと教える。bon home と書き，そして bons homme と発音するようにと教える場合など，音を示す時の例題の綴りが不正確である。CS を正しく書けば bons hom でありその複数は bon home となる筈だ。CR の複数であれば bons hom(m)es となる。例題の home, homme はすべて CS の場合に CR の形を使用している。当時における，殊に AN における，CS と CR の混同の実態が示されている例であろう。
屈折の s の前に屈折しない語幹の語末子音を導入する傾向も AN である。Pope : [57･1]。混乱は更に屈折の s を -ę に終る男性名詞の単数主格にも付す場合があった。peres という綴りなどに見られる。Pope : [57･2]

Cは cliercs の綴りでk音を発音しないようにとの注意であろう。AN では clerc, clerk の綴りがある。Fについては男性も女性もfがvに変るという指摘は正しくない。男性のfに対して女性ではfに母音eが続くのでfはvに変り得る。

(H98) フランス語 (Fraunceis) はラテン語 (Latyn) のように短かく書かれない，なぜならフランス語は完全な語を要求するからである。
(CO84) ラテン語 (Latinum) は短かく書き得るが，ガリア語 (Gallicum) は完全な語を要求する。
(H63) 多くのところでフランス語はラテン語と一致する，例えば：septem は sept (7：数詞)，prebenda は prebendre (食料) である。それは provendre のように発音される。
(CO85) 大部分ラテン人の間で書かれるようなガリア語を書くこと，例えば：
compotum は compte (計算)，septem は sept，prebenda は prebendre，opus は oeps 等々。
(CO86) 次の語については相異がある：
apprendre (習う) と prendre (取る) reprendre (再起する)；oez (聞く) と oeps (仕事)；vys (意見) と huys (入口)；kynil (犬の群) と kenil (管)
(H9) 従って次のように言うよう心得ること：
rougs homme (赤い服の男)，chival rous (赤毛の馬)，harang sor (褐色燻製鰊)，escuede goules (輝くあかい楯)，vin vermail (赤葡萄酒)，rose [vermaile] (深紅のバラ)，drap rouge (赤い布)
しかし私はこれを綴りについて言うのではなく，多くの言い方に対応する英語 (Engleys) のこの red という言葉の多様性について言うのだ。
(O87) 英語の reed という語に対してガリア語はいろいろの言葉がある，即ち：rous chivaler (緋色の騎士)，chival [rous]，harang soor，escuede goules，vin [vermail]，rose vermaile，と。
(CO88)breke というこの動詞に対しては：
fruchez chaud payn (熱いパンを千切る)，debrisez l'os (骨を折る)，rumpez la corde (綱を切る) enfraignez covenaunt (約束を破る)，debrisez la hanap (杯を割る) などがある。
(CO89) blowe に対しては：
ventulez od le vent (風をおこす)，corneiez od le corne (角笛を吹く)，suflez de bouche (口笛を鳴らす) がある。
(CO90) estreym (strawe) と estreyn (hansel) の間には相異がある。
(CO91) daym (雄鹿) と dayn (地方執事) は異なる。

* (H98) (CO84) ラテン語はフランス語より長い綴りが多い。従って論述は不正確。
(CO86) (H9) (O87) (CO88, 89, 90) 語彙論である。殊に英語に対応してフランス語を教えようとする意図が窺える。

(H78) 子音に始まる語が，意味上連関ゆく文において子音に終る語に続くとき，前の語の子音はたとえ書かれてあっても，音を出してはいけないし，文を読む時に発音してもいけない。
(CO27) 子音に始まる語が意味上連関する子音に終る語に続く時はいつでも，前の語の子音は書いておくことはできるが文の読みにおいては発音してはならない。
例えば：apres manger (食べたあと) は apre manger と発音される。
(CO28a) あるいは複数のかわりに単数を発音する。
例えば：tenementz (所有物)，gentz (人々) のかわりに tenement，gent と。sachantz (知ること) のかわりに sachant と発音する。

(H78a) もっともm, nとrは別である。それらは文の読みにおいて発音を省略してはならない。即ち：pur Dieu, William, faitz mon talent（神かけてウィリアムよ，私の意図するところを行え）[下線訳者] と読む。

(CO29) l, m, n, r, t, c, kは子音が次にきてもそれ自体充分に発音されるか，または字母を変化させて発音することができる。

(H79) いくつかの語の末尾，または語の真中にあるときは充分に発音されるのがよい。

例えば：cez sont mes compaignons（彼等は私の仲間です）のように。

(CO20) Williamが使われるかわりに，もし字母を他の部分から引き出すときはG[u]illiamと書く習慣がある。

＊ (CO28a) 語尾の子音を発音しなくなるという傾向を示すものであろうか。語尾の綴りはしかし複数tzではなく，ts又はzである。tzはAN綴りといえる。

(H78a) 例文の動詞faitzもfaitesまたはfaisである。

(CO29) per mutacionem littere '字母を変えて' という表現は不明瞭。

(H79) この項の意味も不明瞭である。cez sontのtについて説明しているのであろうか。cezのzはsとなるべきところである。

(T13) grant, quantは三文字の上に省略記号をもってg^{a}nt, q^{a}ntのように短縮して書き得る。

(T13a) 女性形はgrande（大きい）とか，quante foiz（幾度か）のように書く。

(H11) quant, grant, demandant, sachant, tantおよび全ての分詞はuなしにnをもって書く。しかし，読む時にはuの音を持つ。

(H12) 女性と結びつくそのような分詞は単数ではeに終り，男性ではeなしに終る。

(H13) grantが女性と結ばれるとき，tはdに変る，例えば：grant piteのように。

(CO36) quant, grant, demandant, sachantおよび同様の音節ないし語はuなしに単なるnをもって書かねばならない。しかし発音においてはuが発音されなければならない。

(O52, C53) このgrantという語が，'大なる' という意味を示し，女性につけ加えられる時はeが続くように，そしてtがdに変るようになる：

grande dame（領主婦人），grande charge（大責任）

(O53, C52) grant seignour（大領主）のようにgrantが男性につけ加えられる時，そしてまた許可を意味する時は，たとえeがそれに続いてもtはdに変らない。例えば：j' ay grante（私は許可を持つ）のように。

(H14) gとqのあとではuを発音してはならない：

quatre（4：数詞），guerre（戦い）のような場合，qatre, gereと読む。

(CO54) gまたはqのあとにuが書かれてあってもquatre, guerreのようには発音されずqatre, gereのように発音しなければならない。

＊ (H11) (CO36) 鼻母音ãが鼻子音と同じ音節にあって発音される場合，綴りaunが用いられたのは13世紀初頭からのAN綴りの顕著な特徴であった。Pope：[34.1.] この項で教えている綴りはaunの綴りを否定し，anと書くべき綴りなのであるが，読む時，すなわち発音する時にはu音を挿入するというのは，綴りは否定してもAN語の極めて特徴的な音を保持するようにと指示していることに他ならない。

(H24) (CO54) quatre, guerreのような場合uを発音しないと指示しているところも興味深い。

ANの実態はu音を発音していた可能性強いからである。

(H41) moy, toy, soy, Royという語は，ガリア語の多様性に従ってoまたはeをもって書き得る。また，iまたはyをもって書き得る。
(CO26) moy, toy, soyはe又はoをもって書いてもよい。iをもって又はyをもって書いてもよい。
(H42) また時にはmoyを，時にはmeを書く：si rien soit devers moy（もし何かが私に対してあれば）や，me recommandetz a un tel（私をある人に紹介して下さい）のように。
従って，いつでもある与格がmoi, toi, soiの対格に続くとき，それらはme, te, seと変る。
(H43) 主格，対格のego, meiと，2人称と3人称単数はme, te, seと書く。もし何も，そして他の前置詞もこの形をくずさなければ，である。
前置詞と共にあってはdevers moy（私に対して），devant [toy]（君の前）のようになる。
(H43a) その他の全ての斜格はmoy, toy, soyのようにyで終る。
(CO58) 単数の対格においてはmeが，その他の格においてはmoyが書かれる。
(CO59) 対格がある記号と共に置かれる時はmoyと書かねばならない。例えば：
si rien[thinge] soit devers moyのように。
(CO62) 全ての斜格はluy, moy, toyのように書かねばならない。ただしその前に対格が用いられる場合を除く。
(CO60) 複数では全ての格においてmes, ter, les等々と書くこと。
(H44) 時にはmoyまたはluyと言い，時にはjeoまたはcilと言いなさい。例えば：cil et moy（その人と私）とかjeo et luy（私と彼）のように。
(H44a) だから，次のようにこの規則を守ると知っておくこと：主格にはjeoとcilを，斜格にはmoyとluyを用いる。そして貴方の前の誰かを指し示す時はcil et moyとなる。このmoyは斜格のようになる。もしjeo et luyと言う場合，そのluyは斜格である。
(CO61) 主格の代名詞jeとcilのいづれかを（他の代名詞に）先立てる時，後に続くものは斜格として用いる，例えば：je et loyとかcil et moyのように。

＊ (H41) (CO26) 大陸フランス語においては12世紀前半にmeiにおける二重母音のeiはoiに変化した[Pope 16. 3. 1., 35. 3. 30]。ANにおいては13世紀にかけてeiが水平化して［ę］となるかあるいはei>oiという変化を生ぜずeiのまま残ったのである。moy, toyなどはフランス語の多様性に従ってoまたはeをもって書いてもよいという指摘は依然としてeiが多く用いられた事実を示しているし，またそれは大陸フランス語のei>oi発展段階を意識している記述として興味深い。そしてまた，iあるいはyを区別なく書き得るという指摘もANの一つの特徴である。Coyfurellyの*Tractatus Ortographie Gallicane*にも次の説明が見える。「yはどんな場所でもiの音を持ち，非常に多くの場合iに書きかえるべきだ」(E. Stengel ed., *Tractatus Ortographie Gallicane* p. 20)
(H42) 人称代名詞の強形と弱形の用法を論じようとするのであるが，強形および弱形を使用する際の条件が理解されていない。一般に弱形(formes faibles)は動詞の前で用い，強形(formes fortes)は前置詞および動詞の後，および不定詞，分詞，動名詞の前にも用いる。
弱形はme, te, le, la, li, se, 強形はmoi, toi, lui, li, soi, eus, eles。
(H43) 主格と対格についての明確な概念が消失していたのか，Et sachetz qe le nominatyf et l'acusatyf de *ego mei,* secunde et tercie persone el singuler serront escriptz *me te se,*という論述は誤りである。
(CO58) (CO59) (CO62) においては強形と弱形を格の概念で処理しようとするので混乱が起って

いる。それは(H42)においても見られるところである。問題の取扱いは不正確，叙述には取り違えがある。

(H43a) i にかわる y は英語で好まれた綴りと思えるが賓格であるから y を書くというのは誤りである。そしてまた，強形は賓格だけに用いるのではない，moy，toy，soy は主格にも用いる。

(CO60) mes, tes は possessifs の複数，3 人称は ses である。les は所有形容詞ではなく人称代名詞 3 人称賓格弱形の複数。尚，mes は男性主格単数形でもあり，主格複数形は mi, ti, si。AN にあっては，特に当時格の概念が非常に不明確で混乱していたと思えるが，*Orthographia Gallica* には格を強いて教えようとするところが見受けられる。

(H44a) (CO61) 再び moy と luy を斜格であるとするのは誤りである。強形と格とを混同。

(H45, cf. 86) また時には cestes，時には ceaux と書くこと。この場合 cestes は主格と対格としてであること，ceaux は他の全ての格において書かれることを知っておくように。

(CO76) 主格と対格においては cestes, celles と書きなさい。また，その他の格においては，特定されたものが存在するのでなければ ceux と書くこと。そして cestes を j'ay mys mon seal a ycestes (あの人達の所に私は印璽を置いた) と，このように書きなさい。

(H86) is (主格)，eius (属格) の複数主格と対格は celles と書かれる。属格，与格，奪格は ceaux となる。

(H45a) しかし，もし物事が現存するか，はっきりあるものとして示される場合，ceaux は cestes にかわる。例えば：de cestes choses (これらのものについて)，あるいは en cestes chosez me troverez prest (私がこれらについて準備しているのが分かるでしょう) のように。

(H46) また時には totes，時には touz と書くように。それは即ち：主格と対格が totes で他の斜格が touz ということだ。

＊ (H45, cf. 86) cestes は指示代名詞 女性複数において主格，賓格に用いられる。しかし ceaux が他の全ての格において用いられるということはない。ceaux＝ceus は男性複数・賓格に用いられるのである。この項ではまた，近称と遠称の問題と格の問題が混乱している。

(CO76) cestes は女性複数の近称 celes は遠称である。そして cil の男性複数賓格が ceux となる。指示代名詞の機能に対する理解が乏しい。

(H86) celles は女性複数の主格，賓格に用いられる。ceaux は男性複数である。再び女性形と男性形の混乱が見受けられる。

(H45a) (CO76) と同じ。

(H46) この項においても男性形と女性形の区別が混乱している。touz (toz) は男性単数主格あるいは複数の賓格であり totes は女性複数。故に totes が主格，賓格に用いられるのは女性形で，touz が賓格に用いられるのは男性複数である。

(H15) jeo, moy, nous, vous, luy, les 等々はつねに動詞の前に書かれる，例えば：

vous vous aforcez (貴方は自分自身努力する)

nous vous mandons (我々は貴方に依頼する)

il vous prie (彼は貴方に願う)

cil vous manace (それは貴方を脅かす)

(CO55) jeo, moy, me, nous, vous, luy, les は一般に動詞の前で，印なしに次のように書かれる：

de touz les biens quelles vous m'envoiastes (彼女達が貴方のために私に送った全ての財産)

(H15a) また，ego の与格および対格 mei と 2 人称，3 人称は名詞と同じく，動詞の前に置かれる。
(H67) jeo と対格は動詞の前に置き，ついで動詞の後には与格を置く。
(H67a) 与格が文を始めるような時は，その与格は与格の印を持つ，例えば：
jeo me recomant a vous（自己紹介をします）などのように。
冒頭ではこう言う：A vous sire et a ma tres honuree dame vostre compaigne jeo me recommant（貴方様と御同伴の令婦人に私を推挙します）
(CO56) jeo, moy, nous, vous, luy, les などが動詞のあとに書かれると，印（即ち a）を前に置く必要がある，例えば：jeo me recommant a vous のように。
(CO57) 前述の vous または luy など，あるいはそれらのどれかが動詞の前に置かれる時，そして話している人の名前がすぐあとに置かれると印を vous の前に置く，例えば：
A vous seignour, sire Justice（裁判官閣下に），a les Justices（裁判官の皆様に），a la tresexcellente dame（いと尊き御婦人に）など。
(H68) そして vous が動詞のあとにおかれた場合，2 人称については devers vous というようになる。
(CO75) 大部分の場合，対格は記号(印)と共に与格のかわりに用いる。尊敬をあらわすためには，例えば：vous manderay ma lettre（貴方に私の手紙をお送りしよう）は，je manderay ma lettre devers vous（貴方様に対して私の手紙を差し上げましょう）となる。

* (H15) 与格を動詞の前に書くという叙述である。例文の vous vous aforcez は代名動詞の直接目的語であるから例としては不適当。
(CO55) ante verba sine signo '動詞の前に記号なしに' というように，signo（印）という語が頻出する。この場合印は前置詞を意味する。
(H67) 与格を動詞のあとに置くという叙述であるが，この場合，前置詞に先立たれた人称代名詞強形を与格と考えているらしい。強形は次のように動詞のあとにくる場合がある：Et quant j'ai avant perdu lui＝puisque je l' ai perdu auparavant (*La Chastelaine de Vergi v.* 815)
(CO75) 対格が記号と共に与格のかわりに用いられるという叙述は，前置詞を伴う間接目的語を指す。尊敬をあらわすためには前置詞を伴った形を用いるという記述も興味深い。

(H69) vostre または sue に対して la または le を次のように書くと知っておくこと。例えば：jeo suy le vostre escoler（私は貴方の生徒です），あるいは（jeo suy le）vostre servant en qanqe jeo puisse faire（私ができる事は何事においても私は貴方のしもべです），あるいは jeo suy la sue ancelle（私は彼女の娘です），またこのように le vostre en tut tel（全てにおいて貴方様の）などである。それは最も丁寧に話すためであって，特に jeo suy le vostre（私は貴方様のもの）のように，名詞が示されていない時である。
(H16) あなたが誰かに依頼する時は jeo を置かずに vous pri[e]と言うことができる。
(CO63) 誰かから何かを要求するとき jeo なしに vous pri と言い得る。
(H17) 誰か他の者が懇願する時には cil または il vous prie（彼は貴方に願う）と書くこと。他の人たちは cil または il vous plest（彼は貴方の気に入る）と書くがそれは誤りである。何故なら pry と plest は意味が異っているからだ。
(CO64) 誰かが他の人に依頼する時は cil vous prie（彼は貴方に頼む）と言いなさい。
(H18) jeo は次のように動詞の前に置く：jeo vous pry（お願いします），jeo m' affy（たしかです）と。
(H19) jeo を消して y のかわりに i を書く，そしてそれに e をつけ加える：vous prie, m' affie のよう

に。これはyで終る動詞においてのことと知るべきであるが，子音で終る動詞でその前にjeoを置くものは動詞語尾にeをつけ加えない。即ち：jeo vous manc（私は貴方にとって不足です）など，そして同様のもの。

(CO65) vous pryのように，動詞の前に印をはっきりと置かない時はpryまたはm' affyをyで終らせるべきである。

(CO66) もし印がはっきりと置かれているならばyはiにかえられて，そしてeが加えられる，例えば：je m' affie, jeo vous prieのように。

この規則は語がyで終る場合は理解されるが，もし語が子音で終る時は規則があてはまらない。例えば：je vous mancのような場合である。

＊ (H69) 所有形容詞の前に冠詞を使う習慣を示している叙述であるがla sueは古形を保存するANのconservatismをあらわす側面であろう。

(H19) 13世紀には主にer動詞直説法･現在1人称単数語尾にeをつける傾向が現われた。3人称のanalogyのeであるが(H18)に示されているようにeを加える場合も加えない場合もみられた。語幹が子音に終る動詞にはeを付す傾向がANでは遅かったらしい。

(CO65) 1人称単数の主語jeが省略される場合，signumは人称代名詞1人称単数主格を意味するのであろうが，直説法現在の語尾をyで終らせよと指示するのは，yをiの代りに用いるというANの習慣である。(cf. CO49, H74) ANでは既述の如くyの綴りが多い。

(CO66) signum（印）というこの場合はjeあるいはjeoを指している。人称代名詞を書いても，あるいは省略をしてもeをつけ加えることにかわりはない。jeという人称代名詞がなければ語尾がyの儘で終るという叙述は正しくない。

(H20) ラテン語のiste（その）ipse（それ自身）という代名詞はフランス語ではcをもってcilと書く。

(CO68) 代名詞ille（かの），ipse, iste, hic（これ）等々はcをもって書かねばならない。単数ではcele, cest hommeと書き，複数ではcelles hommes, cestesと書く。

(H21) しかしsuns（男性），-a（女性），-um（中性）はsをもってsonとsaと書かれる。

(CO69) suus, -a, -umはsをもってsonとsa［これは単数である，複数はcなしにsez］と書かねばならない。

(CO70) citra（此方）のようにcをもって書くラテン語の言葉は，ガリア語綴りでは変化しない，例えば：de cea la mear（海の此方）のように。

(H23) そしてその他のところでは随意にcilないしilと書いてよい。

(CO71) cilを書いて，それにsiが先立つときはcilのcは取除かれ，siのsがilに付け加えられる。si cil（もしそれが）はsilと書かなければならず，それは誰か一人を意味している。

(H24) 時にcはsを取るがその時sは発音されずcのみを発音する，例えば：

[j']ay resceu（受けとりました）はj'ay re(s)ceuと発音される。

(CO72) 時にはcが自らの前にsを取る。しかしそのsは発音してはならない。例えばresceuはreceuと発音されねばならない。

(H25) また時にはssと二重に書かれてあっても単にsと発音する。puisse (pouvoir), fuisse (être), eusse (avoir) のように。

(T15) quoer, cuoir（心臓）という言葉はeあるいはoのどちらを書いてもよい。

(H26) 時にはcあるいはqこのどちらを書いてもよい。cuer又はqoerのように書く。

(H27) また時にはqi, cum, qeのようにラテン語に従う。

＊ (H20) ecce＋ille＞cil, cel となる。この項は代名詞の語源が理解されていない叙述と言える。ipse, iste は cil とはならない。

(CO68) ecce＋iste＞cist, cest となる。ここにもラテン語の語源を理解しなかったために生じた記述が見える。ちなみに ceste は cist の女性形（近称），cele は cil の女性形（遠称）である。例文は指示詞の男性と女性形を混用している。CR であれば例文は cel homme, cest homme となる。また複数で CR の場合は cels hommes, ces hommes となる。

(CO69) suus の対格 suum が son, sua の対格 suam が sa となる。複数は sez ではなく ses である。c なしにという記述も奇妙にきこえるが頻出する sces の形を不正確としているのであろう。(cf. H24, CO72)

(CO70) de cea la mear は AN 綴りである。deça de la mer となるのであるが deça は ecce hac に由来する。語源は citra ではない。

(H23) cil の系統と il の系統の分離が意識されていない。AN における古い用法 cil と il の併存状態を示している記述と言える。ラテン語 ille(＞il)は指示形容詞と代名詞のどちらにも用いられていたが指示形容詞としては残らなくなった。

(CO71)si cil は sil とはならない。enclise によって si＋le＞sil, si＋il＞sil となる。

(H24) (CO72) s 音をあらわす sc 綴りは AN の特徴である。

(T15) coer の異形は AN では quer, queor, quoer, cuoir, cuer, qoer など。AN においては[œ]をあらわす綴りが一定しなかった。

(CO46) qi, qe, qant は k をもって書かれるのを常としたが，今日の人々の間では k を q に変える。それはラテン語によりよく一致するためである。なぜならば quando（時に），quis（誰），quod（qui の中性形）の中に k は現われないからである。

(H27) 時にはラテン語に従って qui, cum, qe のように。

(H28) k は人および町の個有名詞において用いられる，例えば：Katerine（キャサリン），Kyngesmortoun などのように。

(CO47) 土地および人の個有名詞と，人名においては k をもって書くべきである。例えば：Katerine, dame de Knap toun（クナップ町の令夫人）[O Kamptoun]

(CO48) car（何故なら）および nam（何となれば）のようにラテン人の間で q が現われないその他の語は書く人の意志によって c または q をもって書いてよい。

(CO98) 接続詞 qe は q̄ と書いてもよいし qe と書いてもよい。しかし疑問詞として置かれた qi は省略なしに書かなければならない。だが quel と quelle は関係詞として書く。

(C99) ガリア人のようにイギリス人にあっても時に関係詞は接続詞的に用いられる。例えば：the woman that was yesturday at Oxonforde（オクスフォードに昨日いた婦人）or the woman wylke was yesturday at Oxonforde これは即ち：la femme q̄ estoit（[其処に] いた婦人）[または q' estoit hier a Oxonie]（その人はオクソニイに昨日いた）または la femme la quele estoit hier a Oxonie（オクソニイに昨日いた婦人）となる。

(T10) que または qui は古人の使用習慣に従って k をもって書かれるのを常としたが今日人々の間では k は q にかわる。しかし，たとえば次のような個有名詞と人名は除く：Kateryne de Kyrkeby

＊ (H28) (CO47) (T10) 人名，地名に K の綴りを用いるのは AN の特徴。

(C99) qui は主語，que は属詞をあらわす関係代名詞である。

(H70) 人や土地の全ての名称と地名，さらに職名と尊称をあらわす名詞，この世の支配者たちの約款の始まりは大文字で書かねばならず，特に法令文書においてはそうである。
(C100) 人や土地の名をあらわす全ての名詞，地名，尊称，条文の始まりは大文字で書かれる。
(T16) 全ての個有名詞，貴顕および現世の支配者たちの尊称名は，文の始まりでは大字を書く。特に法律文書にあっては，語頭は大文字をもって書かれるべきと留意すること。
(H71) 文章の途中で大文字を用いずに一休止すべき時には，構成の句読点を用いること。
(C101) しかし文の途中では大文字で始めずに，二つの句読点を打ちなさい。
(CO35) 大文字で書かれた語が小文字で書かれた同一の語と別の意味をもつ時，例えば：un counte counte[e]（訴訟の話），del Count de tiel[e] Count[e]（ある伯領の伯爵の）un Roy assist un roy（王が規則を制定する）などがある。
(H80, CO37) 多くの文字が読みとれるあるいくつかの形容詞でなければ，m を除いて如何なる文字のかわりにも省略記号(titulus)を書いてはならない。また更に習慣的に，例えば datur（それが与えられる）などのように。
(H81, CO38) ある語の中で省略記号 (titulus) が複数の字母を含む時はいつでも次のような場合に書くのがよい。それをもって，語がよりよく限定されるような字母の上に省略記号を書くこと，ただしそれは今日の知識ある読者の共通の方法が要求するところであって，何等それを不明瞭にしないとき。

＊ (H70) (C100) (T16) 大文字の使い方を統一しようとする意図が述べられている。
(CO35) 大文字と小文字の明確な使いわけによって，語の意味が異なることを教えようとする記述は興味深い。
(H80, CO37) (H81, CO38) 写本における略字の解釈が曖昧になってきていることを示す記述であろう。

(H82) 字母 n を g のあとで書く時はいつでも signifiant のように n を先に書いてはいけない。
(CO39) 字母 n が g の前にたとえ発音されても g の直後に続く時は例えば signifiant のように g の直前に書いてはならない。
(H83) しかし，もし後に置くのでなければ，前に置かれる。
(CO40) もし n を g の前で発音し，そして g の後に続けない時は g の直前に書いてもよい。
(T20) ある語の中で n(m)が子音 g に続くときは n は先立ててはならない，即ち busoignes（必要）やその他，同様。

＊ (H82) (CO39) (H83) (CO40) 硬口蓋子音 n [ɲ] の表記について (H82) (CO39) と (H83) (CO40) の記述は対立し混乱を示している。前者は gn 後者は ng と書くように指示する。この [ɲ] 音がアングロノルマンでは困難な音となっていたのは事実であろう。ngn と n を g の前に書いてはいけないと指示しているようであるが，既述のフランス語教本，Coyfurelly の *Tractatus Ortographie Gallicane* には ngn を良しとする記述がある：
「g はところで語中にあって母音と子音の間に置かれるとほぼ n と g の音を持つ：compaignon, compaignie, moigne, maigne のように。しかしガリア人 (Gallici) は大部分の人たちが語中に n を書く：compaingnon, compaingnie, moingne, maingne のように。この場合のほうが良い。」(no. 5)
英語の音体系に存在しなかったこの硬口蓋子音 [ɲ] が AN では早い時期に，歯音 [n] となり始めるのである。そして表記には混乱が生じた。

(T20) ちなみに bosoigne の異形の例をあげると次の如く多様性を持つ：
busoingne, bozoyne, bosuygne, bosongne, bosuine, bosoinne, busing, bosoyng と。

(H84) meus (私の), tuus (君の), suus (彼の) などは男性に付加える時 mon, ton, son と書くべきである。
(CO41) meus, tuus, suus を男性に付加える時は moun, toun, soun と書くべきで, moun seignour (私のあるじ), toun seignour (君のあるじ), soun seignour (彼のあるじ) のようになる。
(H85) 女性に付加える時は ma, ta, sa である。
(CO42) 女性に付加える時は ma, ta, sa と書くべきで, ma dame (私の女主人), ta dame (お前の女主人), sa dame (彼女の女主人) のようになる。
(H87) 中性の meus, tuus, suus はその次にくる名詞が動作を受けるものよりも, 動作をする人としてそれらと一致するときに son と書く。
(CO43) 中性に付け加えるときは, 中性が動作を受けるものよりは動作を行うものと, あるいは付随者よりも主体者と一致するとき moun chief (私の頭) のように moun, toun soun と書かねばならない。何となれば, ここで caput (頭) は主体者の身体の部分とよばれるからである。
(H88) ただし sa を除く。
(CO44) 主体者よりもそれが動作を受けるもの即ち附随的ないし第二義的な諸部分と一致するときは ma teste (私の頭部) のように ma, ta, sa を用いる。何となれば, ここで頭は身体の他の諸部分同様に, 身体の部分とよばれるからである。
(H77) 単数では nortre (我々の), vostre lettre (貴方達の手紙) となる。
(CO45) 単数の noster (pron. poss.) vester (pron. poss.) -ra -rum は全ての性において nostre, vostre と書き, 複数では nos, vos と書かなければならない。

* (CO41) moun, toun, soun は AN 綴りの特徴である。AN 第二期 (1250年以後) の特徴として O+鼻母音の表記に oun, oum が認められる。
(H87) (CO43) 被所有物が物をあらわす場合における所有形容詞の用法を明らかにしようとしたと思われる。しかしフランス語において中性に存在しない。suus の対格 suum が son となったという記述は正しい。しかしフランス語の所有形容詞の性の一致は所有される人, 物をあらわす名詞の性に対して行い, 所有者の性とは関係がない。故に行為者としての名詞, あるいは動作を行うものと一致する, という記述は誤りである。
所有形容詞とそれに続く名詞との関係が充分に理解されていなかった様子である。所有形容詞はそれに続く名詞の性と数と一致するのである。sa mere は彼女の母でもよいし, 意味内容から彼の母でもあり得る。この項の記述は英語の his, her の概念をあてはめようとして起っている誤りのように見受けられる。
(CO44) この項も所有形容詞と名詞との一致を説明しようと試みているのではあるが, 名詞の性と数に所有形容詞が一致するという規則がはっきりとは認識されていないのである。

(H92) m と n または u の間に母音の i をおくとき, その字母がより読み易くなるように i を y に変えてよい。
(CO25) 字母 i が m と n または u の間に置かれるときはいつでも, その字母が読み易くなるように y に変えることができる, 例えば：Comyngtoun のように。
(H96) i と n が二つの音節に分かれる場合は, その間に g を書く, 例えば：certaignement (たしかに)

のように。
(T17) iがm, nまたはuの直前あるいは直後にあるときはいつでも，更に読み易くあるように，あるいはその本来の性質において存在するようにyを変え得る。
(CO92) いくつかの音節をもった語の中でnがiに続くときgを介在させる，例えば：certaignement, benignement（寛大に）などのように。しかしgは発音されるべきではない。
(H97) しかし（iとnが）同時に音節を作る場合はcerteinのようにgを書かない。

＊ (H92) (CO25) iをyに変えようとするのはAN綴りで好まれる傾向である。
(H96) (CO92) (H97) はAN風の規則と考えられる。certainから生じたcertaignementにはgが介入することはない。綴りはcertein, certeinementが大方を占めるがANの作品の中にはcerteygneの綴りも散見される。例：cele maladie me tout *certeygnes* houres de jour tut le seen; (*Fouke Fitz Warin* 45.1)。ただし，benignementの語源はbenignusに由来する。

(T18) 一音節の語がsで始まる場合，その語は完全に書くことを常とする，例えば：sum, si, se, set, そしてその他，同様。
(T19) ガリア人の間ではmund（世界）とmunt（山）等々，は異なっている。
(T21) mがある語で子音t [n?] に先立つときはいつでも，dampnum（破滅）のようにpを介在させねばならない。
(T22) 語と語の間の空間は字母nの幅を持つべきであると心得ておくこと。
(T23) 行末でもし必要ならば，語は分節を作ることができる。しかし一音節は決して分離されない。
(T24) 長い字母が行間の途中まで伸び，語が長い字母を含むときは省略記号をもって書く。例：absconderē（隠す），Galfrid^{9}などの如く。
(T25) 等しく揃った文字を行ごとに書くのであるから，写本の羊皮紙はその上部を折り畳むか，線を引くべきである。そして，最初の線あるいはその折り目はまっすぐに整えなければならない。
(T26) 字母，音節，語を続けて書くに際しては，先行する字母と隣接する字母を考慮すべきである。
(T27) 字母lを用いている全てのラテン語にあっては，それに由来するガリア語においてはlを用いなければならない。例えばラテン語のmultmu（沢山）はmoltまたはmultとガリア語で言われる。

＊ (T18) 単音節の語では省略字を使用してはいけないという，写字生に対する注意であろう。
(T19) 古フランス語においては一般に語尾のdとtは交換可能であった。
(T21) 鼻子音が続くときpを介在させるのは中期フランス語の特徴である。その傾向を先取りしている模様である。
(T22) (T23) (T24) (T25) (T26) 専ら写字生に対して文章の書き方の説明を行っている。(T24) Galfrid^{9}は主格のusが省略されていると見られる。absconderもabsconderuntとなるのであろうか。
(T27) 語源にさかのぼれという意図がみえる。lはu音になっているからこの考え方はhypercorrectionと見做してよい。いわゆるmots demi-savantsである。

記

1987年R. C. Johnstonは Anglo-Normon Text Society, Plain Text Series 5において，*Orthographia Gallica*のeditionを刊行した。Johnstonのeditionは*Ortographia Gallica*写本のshort versionとlong versionを区別し，各底本を定めた。Short versionはLondon Lincoln's Inn Library Misc.

178 ff. 215^{r}-216^{v} (14世紀) [Sturzingerは本写本がLondon, Towerdocumentとして Record Officeに記録されてあったところから，転写の際，記号として（T）を用いた] を基とし，long versionは Cambridge University Library Ee. 4. 20 ff. 152^{v}-154^{v} (14世紀) [Stürzinger(C)] を底本として転写を行ない，フランス語写本 [Stürzinger(H)] をまた別個に転写している。Stürzingerの editionは各主題別順に各写本を再構成してあるので原文そのものよりも刊本は 'learned look' であるから，原文を忠実に転写した，というのがJohnstonの方針である。Stürzingerは緻密に写本を起こしており，転写に際してのあやまりは少ない。筆者は訳述を行なうにあたってStürzingerの構成を可とし，これに従った。

Johnston は Stürzingerの edition以後，*Orthographia Gallica* の写本があらたに認識されたとつけ加えている。それらは short versionの Cambridge Corpus Christi College 335, f. 132^{r-v} (15世紀), Oxford Bodleian Rawlison C 507, pp. 106-8 (14世紀), British Library Harley 4993, f. 22^{r} (incomplete 16世紀) であり，long versionは Dublin Trinity College 605 (E. 5. 13) pp. 427-435 (15世紀), Warminster Longleat House 37, ff. 70^{r}-72^{r} (15世紀), British Library Sloane 513, f. 139^{r}(illegible 15世紀) である。

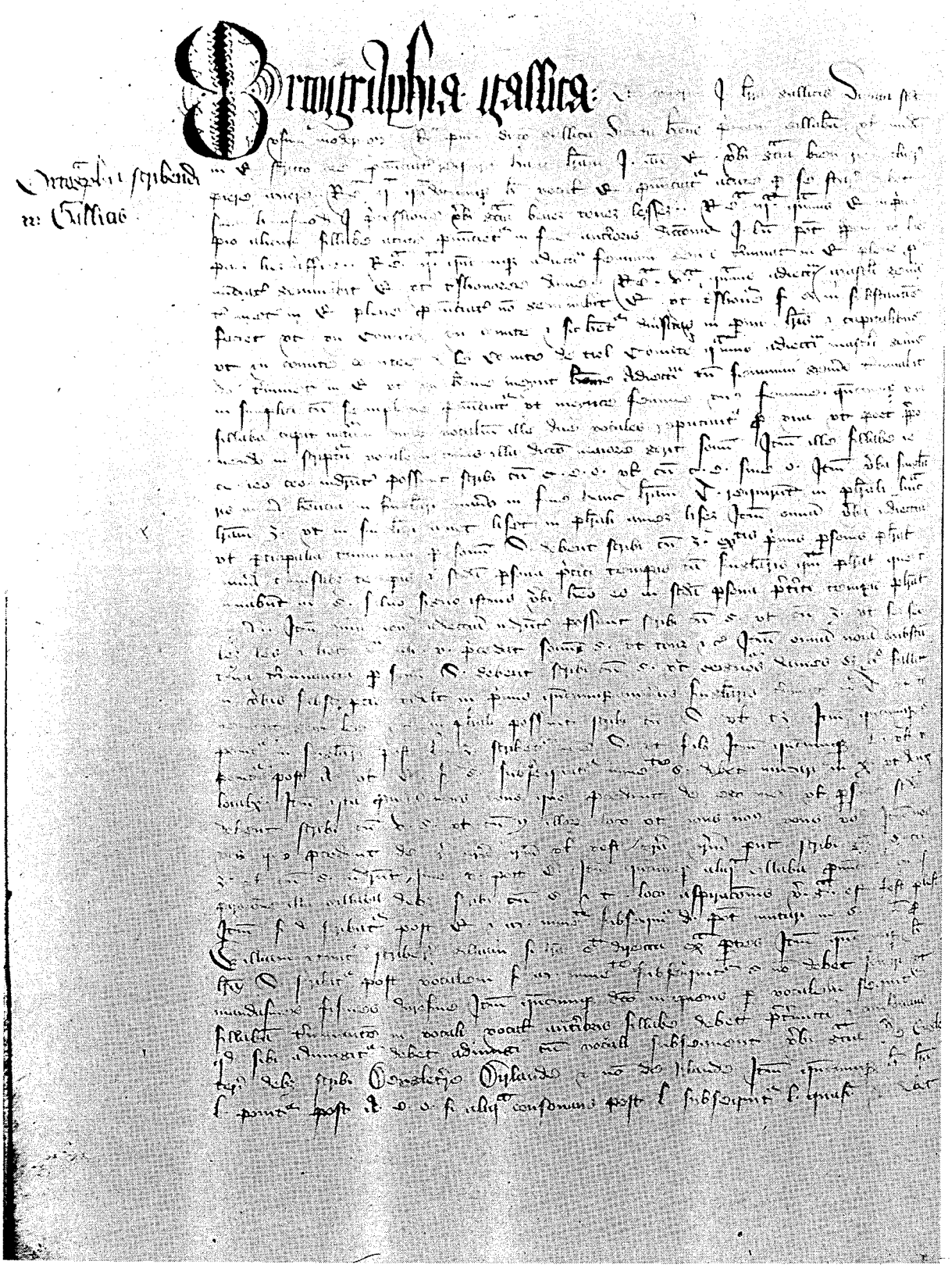
Orthograplia と綴られた titleは Dublin MS, Longleat MSに認められる。C. O. には *Ortographia* とあり，MS Harley 4993には *Ortografia* とある。その他の写本では表題が付されていない。

Cambridge University Library MS Ee 4. 20 ff. 152^{v}-154^{v} および British Library MS Harley 4971 ff. 4^{r}-6^{v} のファクシミリ版を掲載しておく。

Orthographia Gallica

Cambridge University Library

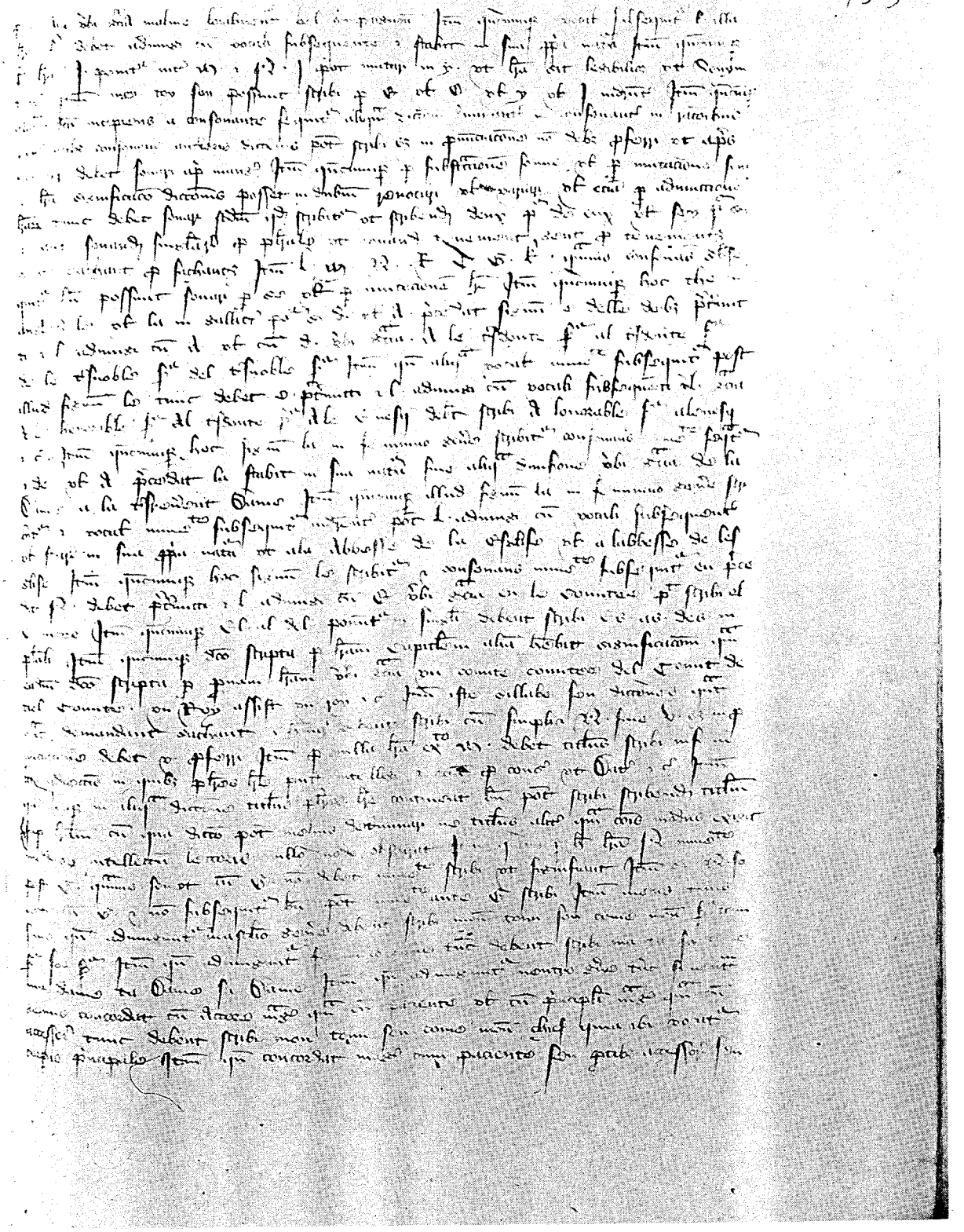
MS Ee 4. 20 ff. 152^{v}-154^{v}

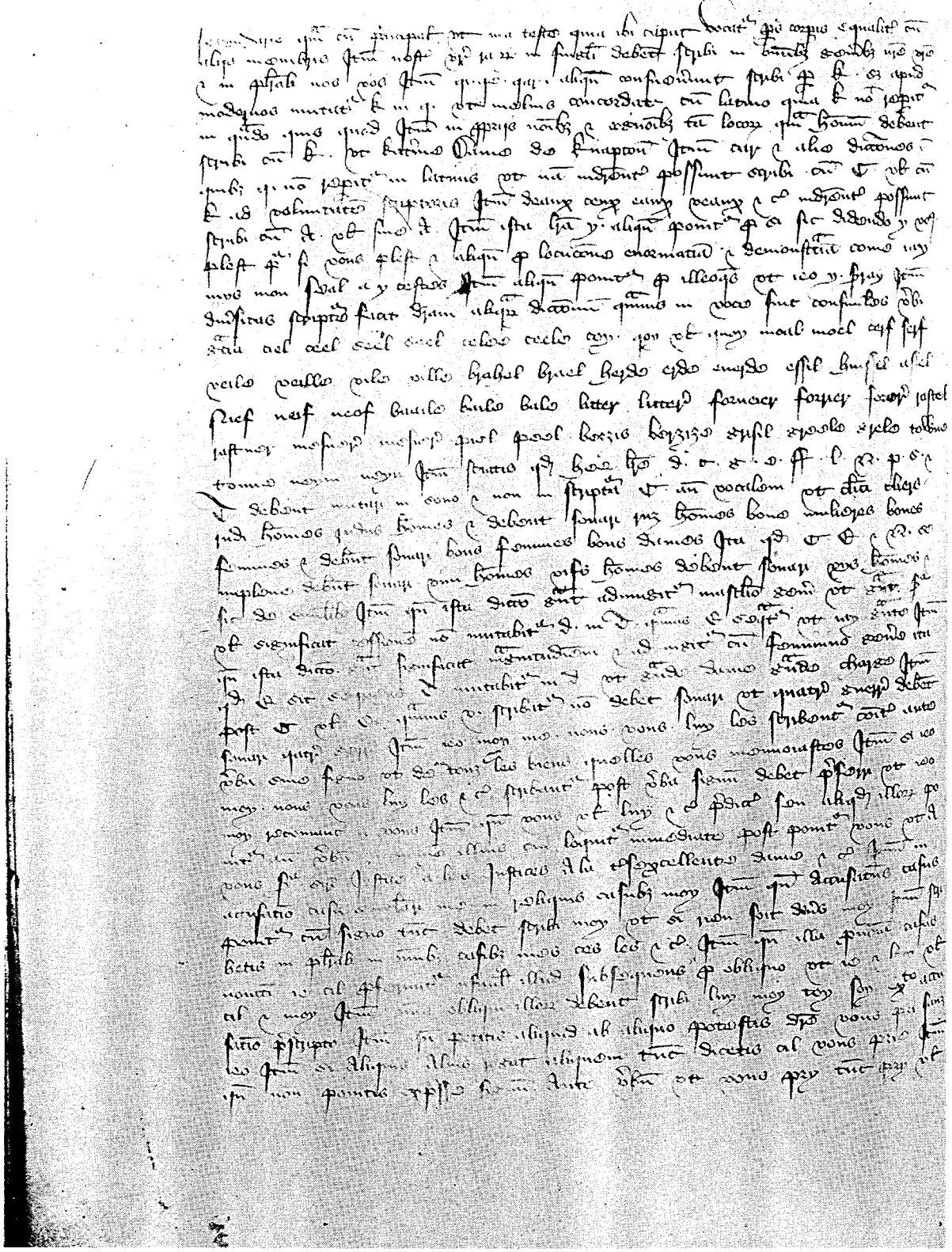


153r

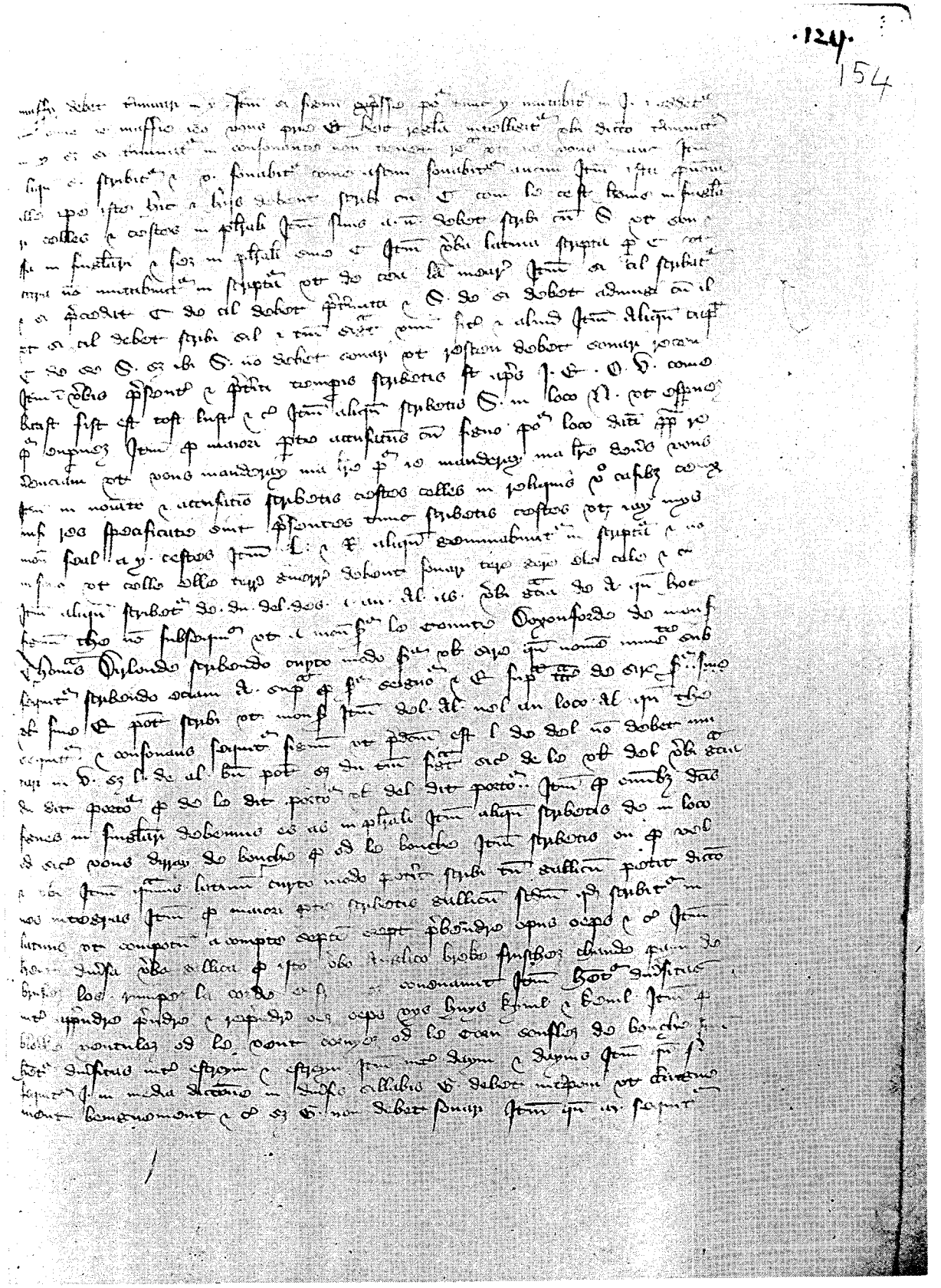
·12·

153

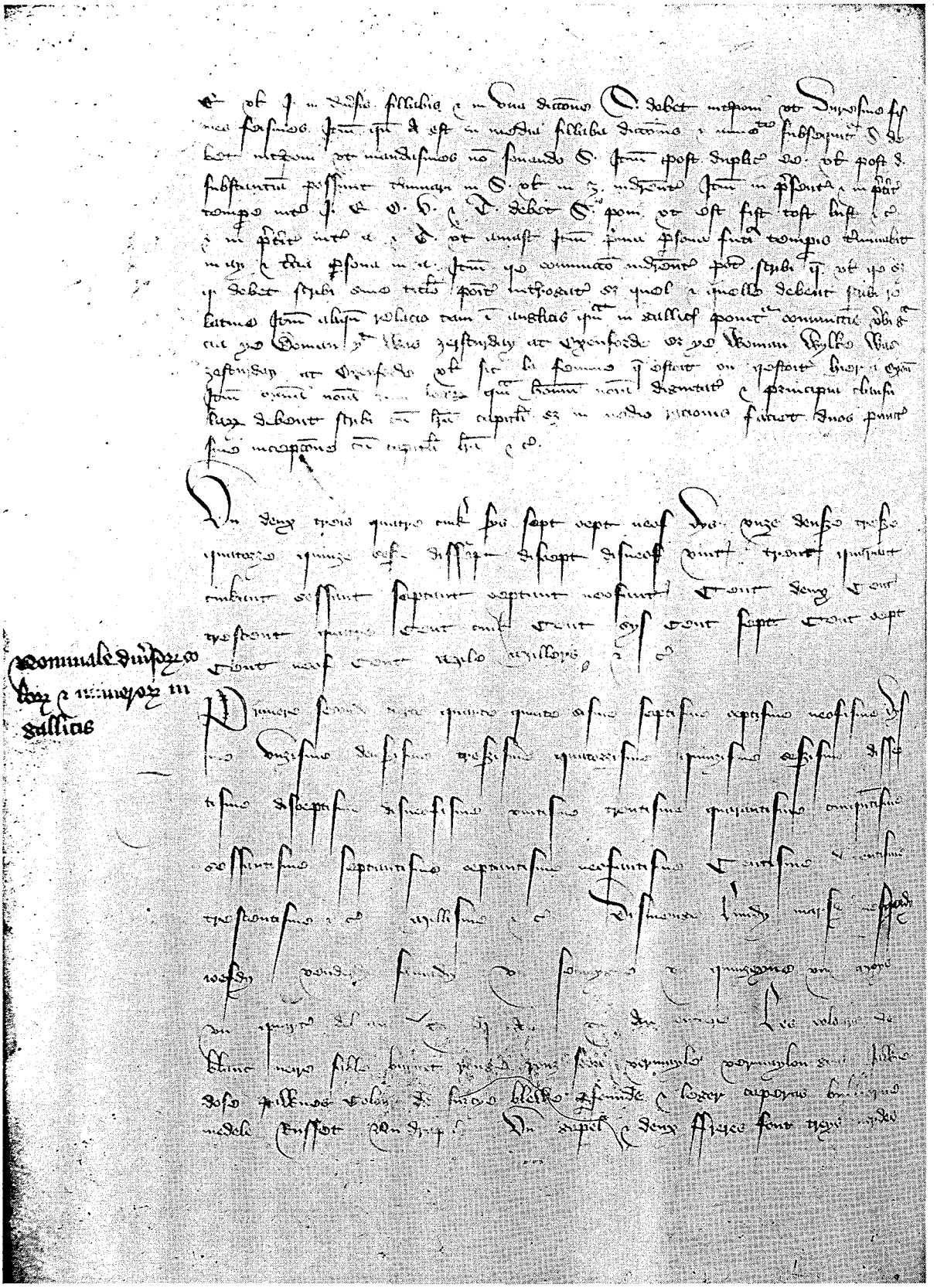




154r



154v

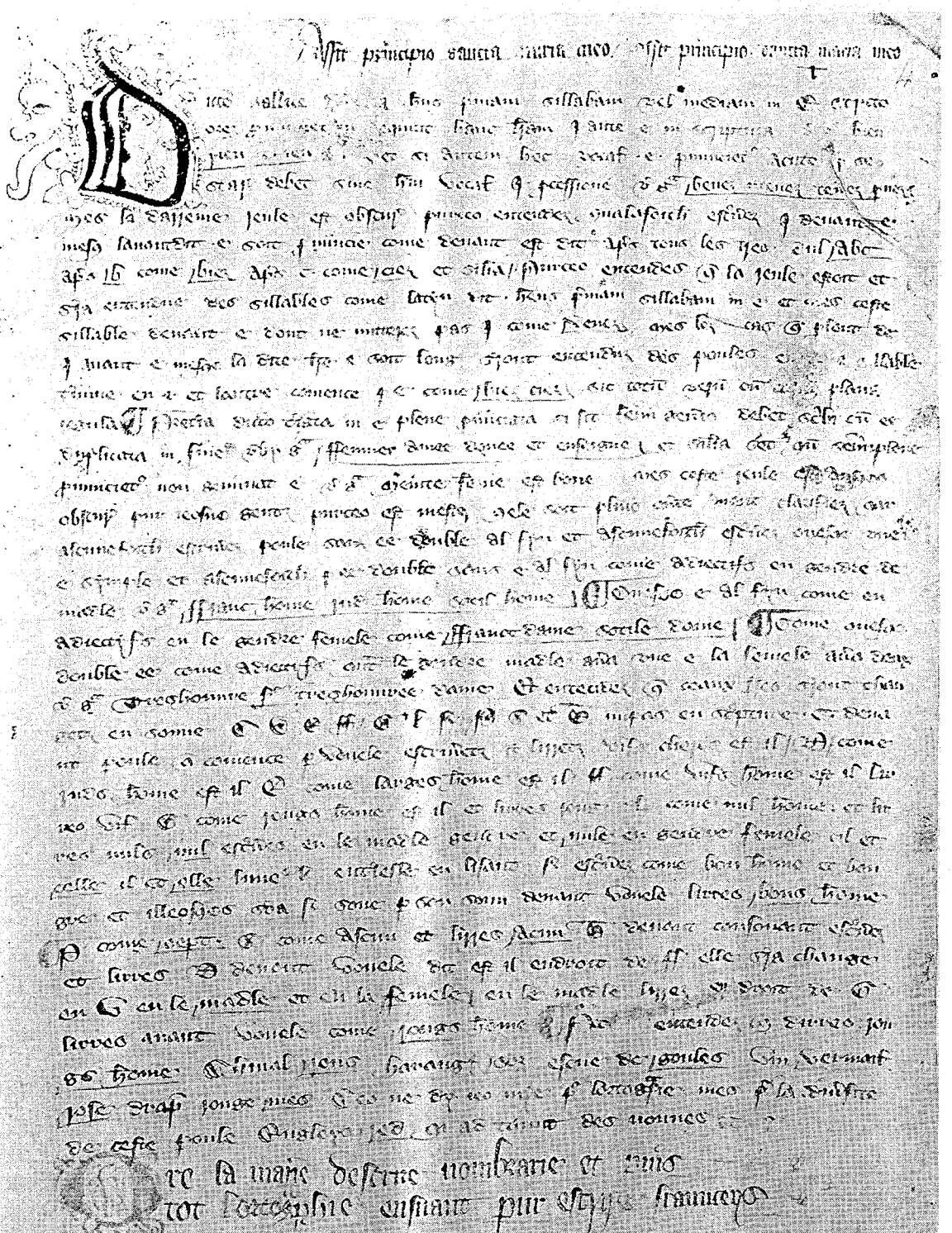


Nominale diuersorum colorum et numerorum in gallicis

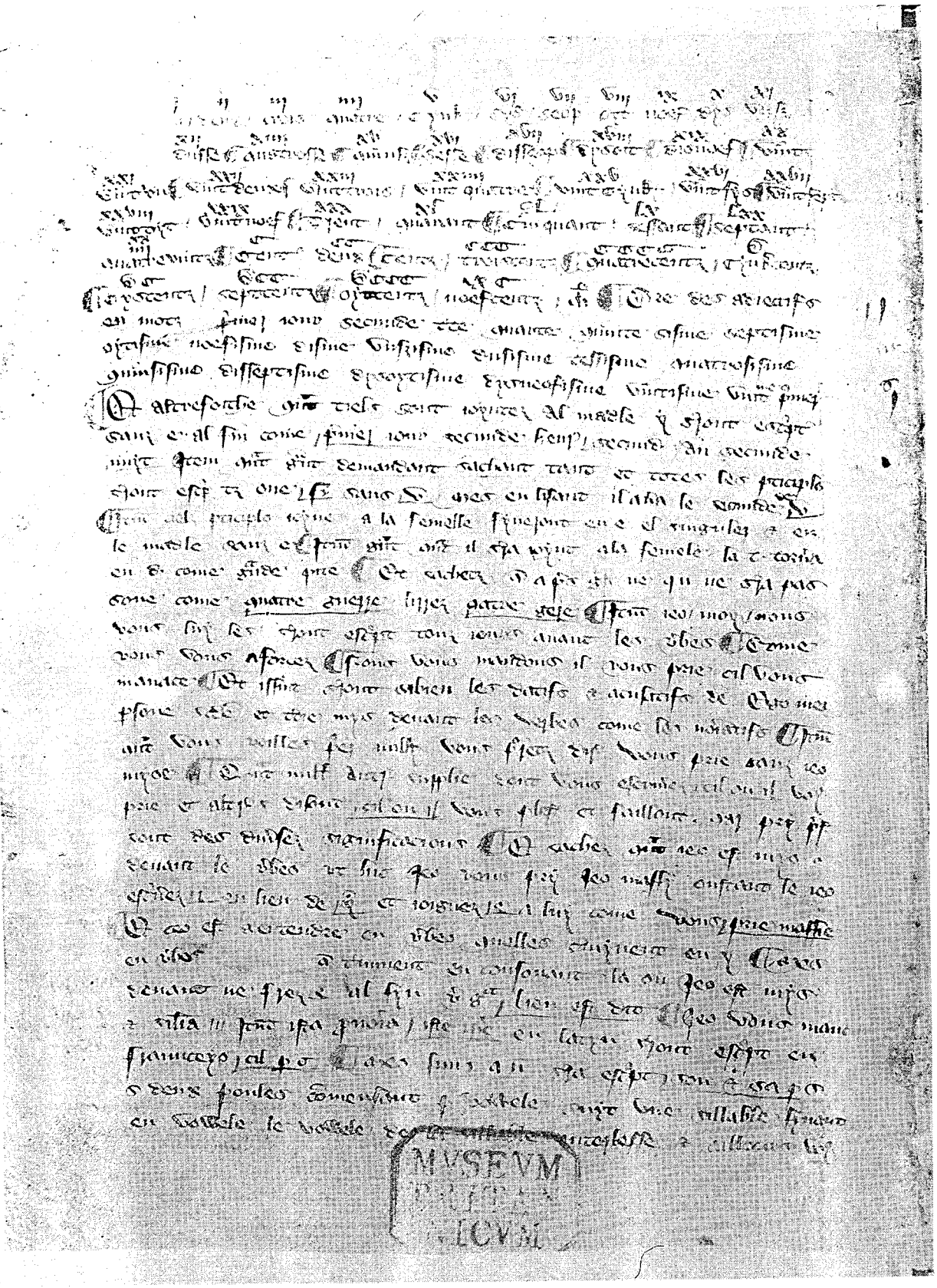
Orthographia Gallica

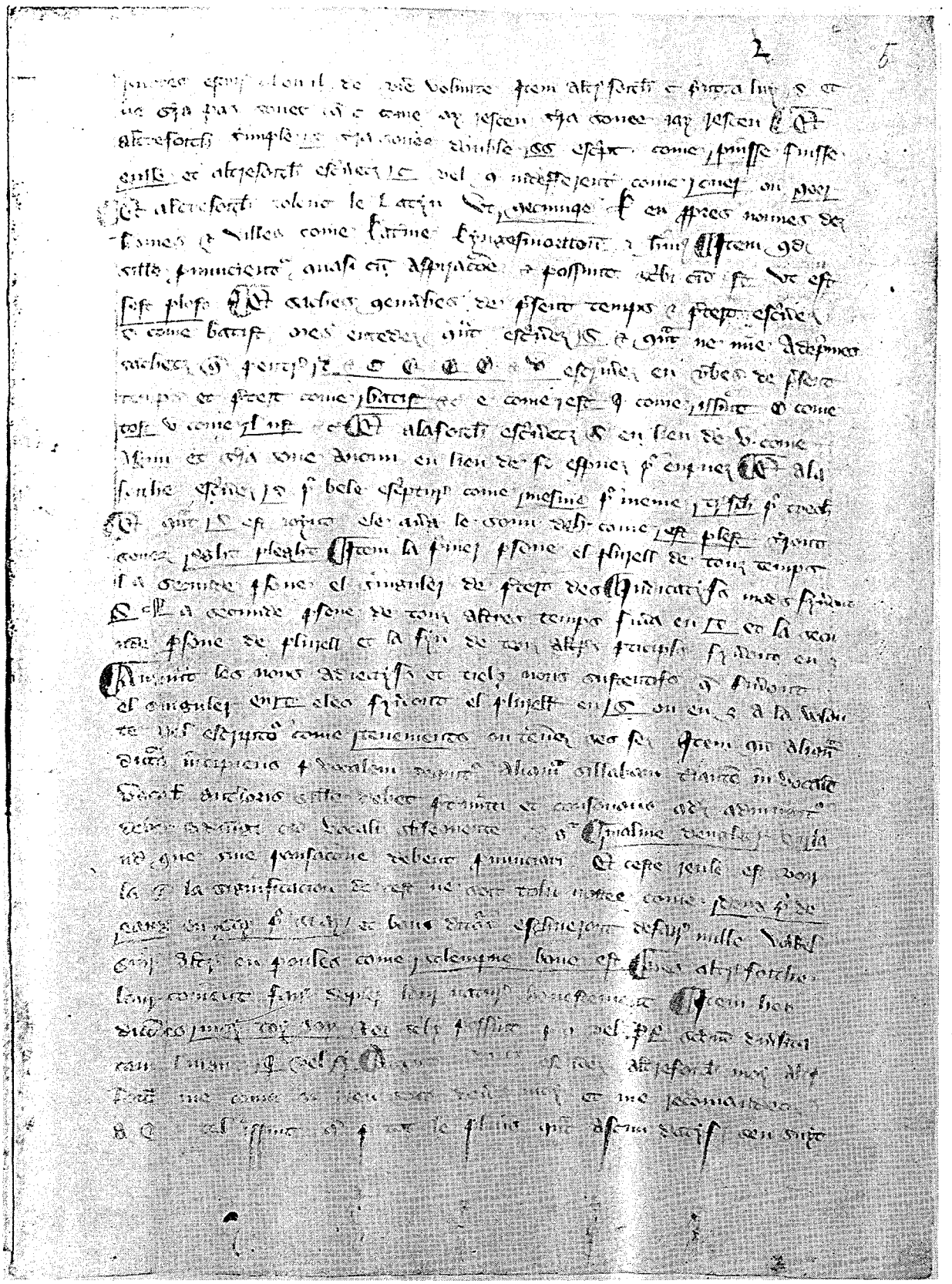
British Library

MS Harley 4971 ff. 4^{r}-6^{v}

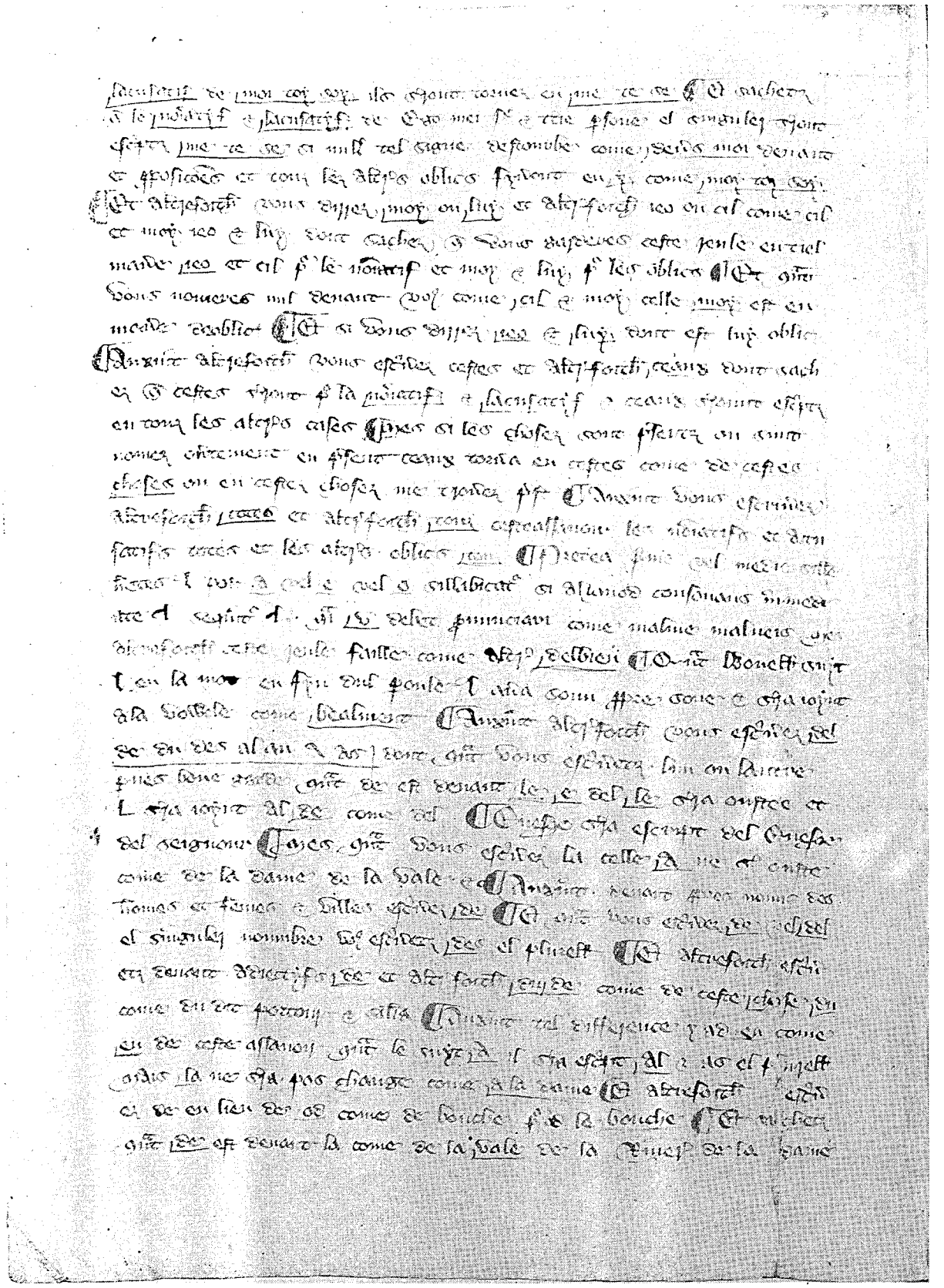


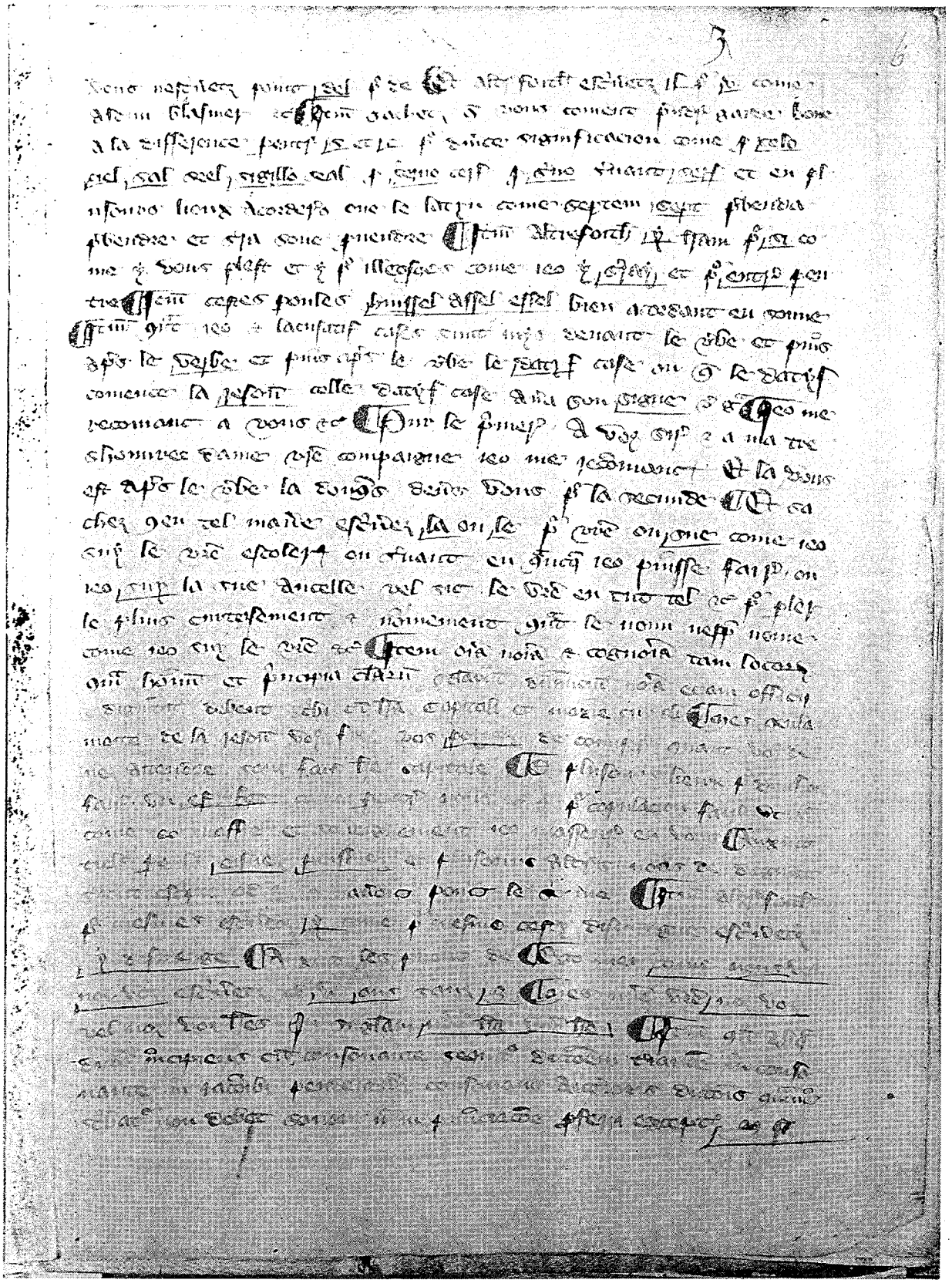
4v



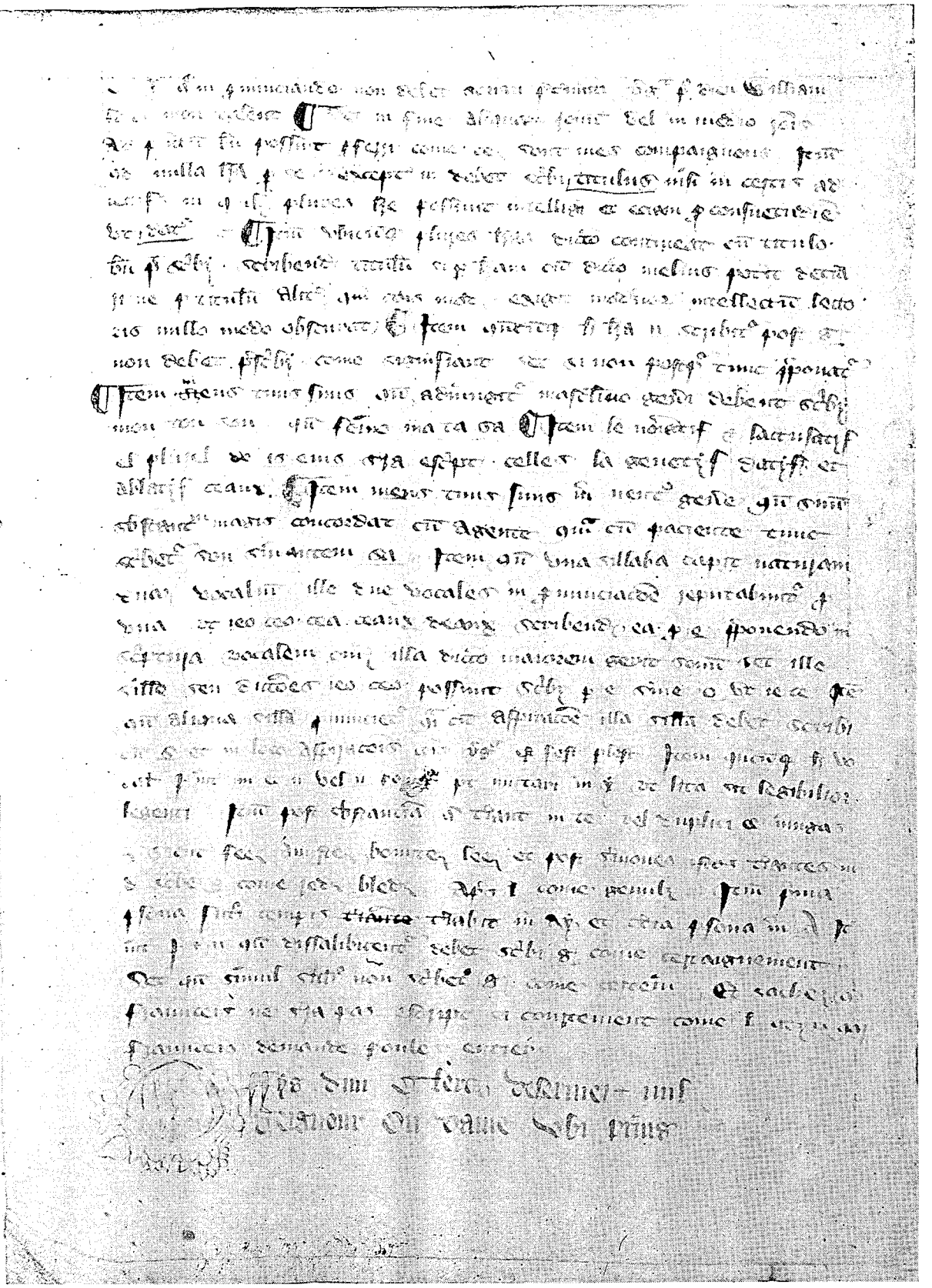


5v





6v



3) *Tractatus Ortographie Gallicane*
M. T. Coyfurelly

——M. T. コワフュルリの「ガリア語正綴論」——

訳

援助を必要とする者は誰であれ，すみやかに助力を得たいと望むところで自らの困窮を知らせる必要がある。何となれば，若い時に様々な能力をもって花を咲かせようと望む者は多いからだ。それはあたかも様々な若木と力づよい草木をしっかりと植え込んである庭園が多くの果実をみのらせ，早い夏に蒸り高い香気を馥郁と漂わせるのを見るようなものである。

従って，一つにして三つの位におわします三位一体のお導きにより，私は力及ばざる者ではあるが，ガリア人の言葉とガリア語規則に従った書き方を知らしめたいと意図する。そして海の彼方の国々における習慣に従いより美しく発音させようと思う。そこから草木の枝はその習性と練磨によってまず花を咲かせ，ついで更に立派な姿をみせることになるであろう。王の王なるお方のお慈悲によって。

さて，まず第一にガリア諸国のアルファベットに従って字母の音を知ること。今日において正確に書かれているままに説明しよう。

a *b* *c* *d* *e* *f* *g* *h* *i* *l* *m* *n* *o* *p* *q* *r* *s* *t*

ae. bey. cey. dey. ea. efa. gey. assh. ij. k. al. am. an. o. pey. queu. aar. esa. tey.

u *x* *y* *z*

yu. eyx. y. edez. [.....] amen.

最初に字母の中のあるものは母音であり，あるものは子音であると知るべきだ。母音は五つ，即ちa, e, i, oとuである。それらが母音と言われるのは，おのずから完全な音を持ち，それら無くしては如何なる字母の音も発し得ぬからである。

そしてその五つの母音の中で，二つが子音の性質に移行する。iとuである。丁度それらがある音節のはじめに置かれる時は次に続く母音と同じ音節を作るように，例えば：

juex（遊び），vanter（自慢する），jouster（馬上槍試合をする），voiser（楽しむ）等々である。

1．Aはほとんど字母eと同じように発音しなければならないと知るべきである：

Savez vous faire un chancon（歌をつくることができますか）

Savez vous trair del arc（弓をひけますか）

Pierre remaint al hostel（ピエールは宿に留まる）

Saint Jaques est un tresnoble saint（サン・ジャックは高徳の聖者です）

J'en ai un bonne hopelande de pearce（私は上等の皮の上衣を持っている）

J'en ai grand paour（私は大層恐ろしい）

Je l'ay achivee（私はそれを成し遂げた）［アンダーライン筆者］

また斯様に。同様の語については同じように判断をすべきである。ローマ風の言葉（AN？）はまことに明確な完全な声でaを発音する。faire（成す），traire（引張る）とこの如く。

2．Bは，語の中間に置かれると発音される。例えば：

debruiser（破壊する），tribuiller（苦しめる），troubler（混乱させる）等々のように。ただしdebtee（借

金のある），endebtee（負債のある），soubz（下に），desoubz（その下に）という語およびdoubter（疑う），redoubter（おそれる），soubstituer（代える）という動詞は例外である。全ての法と時制，単数および複数でbは発音されない。
まさにそれらの動詞から派生した全ての名詞と分詞においても発音されない。それらの語の中にbと書かねばならないが発音してはいけない。従ってdoubtee（おそれ多き）やtresdoubtee（いと畏き）などの語において語中にbなしにdoutee，tredoutee と書く者は間違っている。

さて，a (avoir) やen a (il y en a　それがある）という語は同じ意味である，というのは動詞habetとして理解されるのであるから。それらの文字に付け加えて多くの字母を書く事なく，単純にそれだけを書かねばならない。故にadやen adのように語末にdを付してこれらの語を書く人は間違っている。これらの語からdという字母の音は決して生じぬからである。また，このような語avrai，en avrai（私はそれを持つだろう）は語中にeなしに書き，そのように発音しなければならない。しかしガスコニア人やその他の人達はこの語で常にeを発音し，eを語の中に書く：
averai，en averaiのように。それはガリア語ではなく，いわんやローマ語（すなわちANか）でもない。また次の語，即ち：
je，jeo，jo，jou，ce，ceo，cou，chouは多様な言葉の習慣と正しい音に従って，それと明らかに分かるように書いて発音しなければならない。

3．Cは語中に置かれると確かにzあるいはsの音を持つ。例えば：
ça（其処に），pieça（昔），tanquenta（同数の），reçoi（受取り），ainçois（このように），françoys（フランスの），doulçour（優しさ），beneicon（祝福），rançon（身代金）等々の語において。これらの語は常に上記のその形で書くべきである。時にcはkの音を持つ，例えば：
cas（場合），car（何故なら），canter（歌う）等々の語におけるように。

4．Eはほとんど字母aのような音を持つ。特に語末にあっては短く鋭いアクセントで発音するべきである。即ち：
Je vien i endrois（私はそのあたりへ来る），Veicy belle chose（ここに美しい物がある）と。

5．Gはところで，語中にあって母音と子音の間に置かれるとほとんどnとgの音を持つ：
compaignon（同僚），compaignie（同伴）
moigne（修道師），maigne（傷つけられた）のように。
しかしガリア人は大部分の者が語中にcompaingnon，compaingnie，moingne，maingneのようにnを書く，このほうがよい。

6．Hは字母ではなく気音のしるしである。例えば次の語において：
huit（8：数詞），hors（外），hounte（恥），hony（恥ずかしい），hault（高い），hopeland（外套），herde（群），aherder（群がる），Jehan（ヨハネ），hard（綱）これらではhは常に発音する。
しかし次の語ではhは呼気をもって発音すべきではない：
hinc（ここから），huy（今日），hier（昨日），heure（時間），le hostel（宿），helas（あゝ：感嘆詞），huiseux（布製），regehir（告白する）等々。

7．Iとeあるいは他の二つの母音が相互に結ばれている場合，iとeは語中にあって二つの子音間，あるいは母音と子音の間，又は語末に置かれた時，実際にはその両方の部分から音を取る，即ち：
biens（財産），ciens（此処に），siens（彼のもの），liens（きずな），miens（私のもの），riens（事柄），

arraier（並べる），baier（あくびをする），joye（喜び），voie（道），je（わたくし）等々。
だからこれらの語における i 又は e が完全に音を失なうべきであるという人は，ローマ語（AN）においてであれ，ガリア語においてであれ間違っている。何故ならガリア人もローマ人（アングロノルマン語を話す人々？）もこのような語にあっては常に i と e を発音する。
しかしローマ人は言葉において同じようには書かない。まさに，次のように書く，即ち：
beins, ceins, leins, meins, reins, sceins, bein や jeo などのように。
この場合ガリア人は biens, liens, je と上記のように書く。

8．K はローマ語（AN）では，ガリア語におけるようにではなく，c と h のかわりに書き，発音しなければならない。例えば，ガリア語における chival（馬力）のかわりに kival と，また chien（犬）のかわりに kien のように，vache（牛）のかわりに vake のように。
そして時には q を書く，chesne（樫の木）のかわりに quesne のように，である。ローマ人によれば c の場所に c と h が書かれる。このように pour chou 又は pour cheu に対してガリア語では pource（そのために）又は pourceu である。decka に対して deca（此処から），tres douche に対しては tresdoulce（大変優しい）となる，その他同様の語についても同じ。

身分，尊称や職名を示すローマ語（AN）は，実際には単数であるが，複数で書かれる。即ち：
lui papes de Rome（ローマ教皇）
l'empereurs d'Alemaigne（ドイツ皇帝）
lui rois d'Engleter et de France（イングランド及びフランスの王）
lui chauncellers du Saint Peres（聖ペテロ寺院の枢機卿）
lui tresoreres mons.（財務長官）
lui duques de Launcastre（ランカスター公）
lui recevours madame la roigne（女王の収税人）
lui Sainz Esperes vous garde（聖霊の守りあらんことを）
この場合ガリア人は s なしに，これらの名詞を単数で書く。例えば：
le pape de Rome, l'empereur de R.
le roy d l'Engleterre 等々と。そのほうがより美しく簡潔である。

9．L は語中におかれて，母音がすぐに続く時は固有の音を保つ。即ち：
ennelement（早く），parlant（話している）と。
しかし，もし子音がすぐ続くとその時は u と発音されねばならない。即ち：
loialment（忠実に），principalment（最初に）のように。
ils という語はしかし例外であって，この語にあっては l は u 音を殆んど保たない。即ち：
ils vont ensamble（彼等は一緒に行く），ils ont fait（彼等が成した）と。
又 l が語末におかれ，次にくる語が子音で始まるときは固有の音を消失し，現実にはあたかも u のように発音する。即ち：
l'amiral d'Engleterre（イングランドの提督）
chival soor（赤い馬），fiel de fust（木材の樹液），seal d'argent（銀の印璽）
fiel de makerel malvais est（鯖の肝は悪い）
beal filz escoutez（良い子よ，聞きなさい）［アンダーライン筆者］
もしまことに次の語が母音で始まると，固有の l 音をまちがいなく保持する。即ち：
nul aultre（ある誰かの），nul enemy（どんな敵も），nul ignorant（或る無智なる人），nul homme

(ある人), nul usage (何等かの用法)
語末におかれたl, すなわち単音節の語末にある時は, 直後に子音がくるとuという音も個有の音もほとんど保たない。即ち:
il s'en est alee (彼は行ってしまった), il le vuil bien (彼はそれを大層望む) 等々。
美しいガリア語に従えば, 次の語では疑いなく決してlは発音してはならないということを知るべきである: hostel (宿), oil (然り), ombril (臍), penil (櫛), seel (印璽), sil (もし彼が), nonil (否)
しかし, 次のような語, 即ち:
ael (葱), ael (祖父), ciel (空), ciel (瞼), voel (私は望む), veil (望み) においてはlはそこから生ずるいかなる例外もなしに, 常に発音される。
又一つ, 次のような語, 即ち:
fiel (真実の), chapel (礼拝堂), chatel (家財), chastel (城), pel (皮屑), pol (池), col (首), fol (無礼な) にあっては, 例外なく美しいガリア語の正しい音に従ってlはuの音を持つだろう。二重子音LLが語中にある時はその音は完全に充分きこえる声で発音しなければならない:
fille (娘), fillete (小娘), oraille (耳), orailler (枕), aille (翼), oaille (羊) と。
しかし, 次の若干の語elle (彼女), belle (美しい), ycelle (その), nulle (何でも), quelle (どのような) 等においてはllをやさしく発音しなければならない。
ローマ人 (ANの人々) はまことに, 特にlをどの様な場所でも何の支障もなく発音する。

10. Nは母音と子音にはさまれ, ある語の語末に位置すると規則上は発音しない。その語は時制のいかんを問わず, 直説法ないし願望法の三人称複数動詞である:
ils aiment (aimer), ils lisent (lire), ils dient (dire), ils amoient (ind. impf.), ils lisoient, ils disoient, ils amerent (prêt.), ils listrent, ils distrent, ils amassent (subj. imp.), ils laissassent, など。しかし, 次の動詞は例外, 例えば:
vont (aller), ont (avoir), font (faire), avoient, eurent, estoient (être), furent, fesoient, firent であってこれらの全ての複合動詞についても同様。即ち:
en vont (其処から行く), en ont (それを持つ), en font (それでもって成す), en sont (其処から存在する), enavoient (それを持っていた) など。これらの語ではnは固有の音を完全に保つ。

11. Pが語末に置かれた時, 子音が直後にくる場合, 固有の音を完全に失わなければならない。例えば:
ne massez ja trop grand avoir (余り多くの財産を蓄積するな)
語末の屈折語尾のpで終わる固有名詞は別である: pはPhilipのように発音する。
更にもし母音が直後にくるならば固有の音を完全に保つ:
mieulx vaut assez que trop avoir (多く持ちすぎるよりほどほどの方が価値がある) のように。
また, 名詞dras (布), tens (時間), cors (体) という語はpなしに書くべきである, その場所で正確な音が要求するように。
ローマ人はその規則を守らない, なぜなら大部分の場合pを常に書く。
そしてガリア語でも次のように書くことがある: draps, temps, corps と。

12. Qは常に弱くはないが柔かな音を持つ。そして直後にくるuで始まる二つの母音なしには次のいくつかの語で書いてはならない:
qui (誰), que (それを), quar (何故なら), querre (探す), querir (求める), quir (皮), quarre (四角い), auquant (いくつかの) などである。このような語でuを伴なわずにqを書く者は間違ってい

る。即ち：
qi, qe, qar, qerer などのように。
そのような書き方をするのは不適当で規則を逸している。何故ならそれはガリア語の綴りの規則に従っていないからである。教える人の気に入るということだけで，合理的な基礎も理由もない。賢者は言う，弱い基礎は作品を台無しにする，と。そのように事実が存在するという以上のことを言ったり教えたりすることや，そのような学説や教訓が存在するはずだからといって合理的な理由を正しく見ないことは何の価値もなく，たしかに拒否されるべきものだ。
quar という語は書く人の意志により k, q 又は c のいづれをもって書いてもよい。というのは k, q と c は常に同じ効果を持つ。しかしある語にあっては第一音節に関して直後にくる母音なしには決して書いてはならない。また同じ様に綴られるのではない，なぜなら q がある語に用いられると，どの様な用法であってもラテン人の間で，特にラテン語の技巧では常に二つの母音が続く場合に書かれるのであるから。その最初の一つは u である。

13. R は語末に置かれると常に z のように，あるいは r のように発音してもよい。例えば：
j'en ay grand mal ou cuer（心に大きな苦しみを持つ）
j'en ay bon quer（優しい心を持つ）このように。
しかしガリア語では r というより z と同じ音の方がより優しい。しかしこの規則は次の語における如く全ての語で守られるわけではない：
quar, querir, ferir（嵌込む），ferrer（鉄を打つ）等。
これらの語では r は常に固有の音を持って発音される。

14. 単独の S は直後に子音がくると語中では発音してはならない。例えば：
tresdoubte（畏れ敬われた），trenoble（大変高貴な）
tresgracious（いと優雅な）これらのように。
この規則から例えば，次のような語が例外とされる。即ち：
chastel（城），chastayne（栗の実），substance（実質），mesdant（悪い），Augustins（アウグスティヌス），instance（例示），registrer（登録する），fust（木），oscurte（暗がり），oscure（薄暗い），oscurement（暗く），oscurer（曖昧にする），sustiner（支える），substituer（代える），escharnir（あざける），transglouter（飲み込む），inspirer（吹き込む），discharger（荷物をおろす），estancher（枯らす），estendre（拡げる），espaundre（説明する），peschier（魚を釣る），estreindre（締めつける），dispenser（消費する），escuser（許す）
又，これらと同じ語から何等かの方法で作られたもの，あるいは派生した全ての分詞，名詞，そして副詞などにあってはたとえ子音がすぐ後にあっても s は常に発音しなければならない。
そしてもし母音がすぐ後に続くなら s は本来の音を完全に保つ。即ち：
tresexcellent（卓越せる），treshaultisme（いと高き），treshonuré（まことに尊敬された），tres humble（いとつましき）等々。
複合字の SS は語中におかれる場合，常に発音される。即ち：
trespassant（通過する），tresfoissable（いと誠実な）あるいは tresfoiable（まことに忠実な）などである。
もし s が単独にある語の語末におかれると，その語がたとえ代名詞，動詞，接続詞又は前置詞であろうと，次に子音で始まる語が続く時には本来の音を最小限に保存する。即ち：
dieux vous saut et garde, vous seintez, vous sainz au cuer（神が貴方を助け守り給い，心をすこや

かに保たせられますように）
veullez vous manger（召し上りますか），vuillez vous juer（一勝負しますか），he regardez（さあ，見なさい），mon tresgentil compaignon（私の親切な友人）
coment leur vestimentz sount bien et fetisement entailliez selon le guise du France
（如何に彼等の衣服が立派に形よくフランス流に裁断されていることか）
par le foy que je doy a Dieu, mon tresdoulz amy, j'en ay veu beaucop des gens huy ou marchee
（神にかけて親しい友よ，私は今日市場で多くの人達を見た）
しかし，もし次の語が母音で始まるとsは発音せねばならない。即ち：
vous aimez（貴方は愛する），vous em priez（貴方は祈る），soiez vous icy（此処にいて下さい），vous oustez la table（テーブルを片附けるように），estez vous un d'eux（貴方は彼等のうちの一人ですか）等々。
そして，このような他の語も同様である。ただし vous ditez vray（貴方は真実を言う），vous le disoiez vraiement（貴方はその事を本当に言った），ils ount fait（彼等は成した）だけは除く。これらの語にあってはたとえ母音が直後に従ってもsは発音しない。
ローマ人（ANの人々）は大部分の者が常に語中にあるsを発音する。例えば：
dont estez vous?（どこからこられたのですか）
je m'en iray al ostel et je revenrey tantost（宿へ行ってすぐに戻ってきましょう）
qu'est la droite au Liege?（リエージュへのまっすぐな道はどれですか）と。
ガリア語においても同じ：
qu'est la droit chemyn vers Liegez（どれがリエージェへの正しい道ですか）
mon amy, vous irez a devant（友よ先に行って下さい）
et quant vous serrez la, vous ne pourrez nient marrir（其処へ行ったら困ることは何もないでしょう）。
全ての名詞，分詞，副詞そして感投詞においてsが単独に語末におかれている場合，単数でも複数でもsは必ず発音しなければならない。例えば：
temps（時），corps（体），bras（腕），dos（背），huis（戸），fois（機会），noes（舟），noces（結婚），poirs（梨），pourrez（pouvoir），orguelleus（傲慢な），dispeteux（軽蔑的な），crementeux（恐ろしい），paourez（驚く），tremans（震え），trechans（切れる），estans（池），dis（数詞），lis（百合），assez（かなり），ades（常に），jadys（且て），helas等々。
この規則から次の語が除外される：
viz（顔），pis（胸），mis（私の），quantes（いくつの），longnes（長い），tous（全て），bons（良い），petiz（小さい）そしてgrans（大きい）
それらは男性と女性とを問わない。又副詞pasも数詞disも同様である。
これらの語pasとdisではsを時に発音し，時には発音してはならない。もし直後に母音がくるとsは音を保つ：
il en y a dis hommes loeggez a nostre hostell（我々の宿に10人の人達が泊っている）と，このように。
しかし子音がくる場合は発音しない。例えば：
j'en ay dis livres（私は本を十冊持っています）となる。
また，disが過去分詞として理解される時はsはそこで自らの音を保つ。即ち：
les sermons sont dis certainement（誓いの言葉が確かに言われる）

又，直後に母音が続かない guaires（殆ど），waires（多く）は除外される。このような場合 je m'aresterai guaires en marchee（私は歩いている間殆ど休まない）のほか，これらの語は s を発音してはいけない。また s はある語の語末に来るのでなければ発音しない：
deal filz ne demourrez guaires（美しい子よ，ここに少しでも留まってはいけない）このように。

15. T がある語の語末におかれる時，その語が動詞三人称単数の直説法現在時制又は過去の場合，あるいは代名詞の場合，次にくる語が母音で始まる時は発音しなければならない。即ち：
est il prest?（準備できていますか），estoit a l'oster（宿にいた），il fut enmervaillé（彼は驚いた），il fut ignel（彼は足が早かった），il fut oiseax（彼は暇であった），il fuit humbles（彼は謙遜であった），cest escuier icy chante tresbien（此処にいる騎士の従者は巧みに唄う）
しかし次にくる語が子音で始まる場合は t を完全に除外しなければならない。即ち：
qu'est ce q'il dit?（あの人は何と言っていますか），il est prest（用意ができている）
il ne peut chaloir（必要ではあり得ない）
il ne fait que pour esbatement（彼は楽しみのためだけに行なう）
que dit vostre meistre?（貴方の主人は何と言っていますか）
que fait monseigne*ur*?（その人は何をしますか）
monseigne*ur* vous ottroit de vous donner deux noble d'or（主人は二枚の金貨をお前に与えることを許す）
il estoit bien gracieus（彼は大層優雅であった）
il fut noble chevalier et vaillant（彼は気高く勇敢な騎士だった）
il fut tout dis joyeus（常に彼は陽気であった）
il fut vaillant, gentil et sage（彼は勇気があり礼儀正しく賢明であった）
il n'y a que vanitee ou ceste siecle（この現世には虚栄しかない）等々。
ただし次の語，即ち list（lire），et（そして），prent（prendre）は例外である。それらの語から派生した全ての複合語も例外であって，それらにあっては t は常に発音されねばならない。また，語末の t は第三人称単数命令法の動詞においては音を最少限度に発音する。例えば：
Dieux vous beneit, monseigneur et la compaigne（貴方とお連れの方を神が祝福されますように）
Dieux vous ottroit de bien faire（神が貴方に善行を許されますように），
Dieux vous conduist et avance（神が貴方を導き進ませ給わん事を），
male semaigne soit a vous mis（悪い一週間になるように）と。
しかしながら boit（boir），puit（puir），poit（pouvoir），eit（avoir），gart（garder）と ait（aider）は除かれる。これらにあっては t は常に発音しなければならない。例えば：
boit il a l'aultre（彼は他のものに乾杯する），il puit malvaisement（悪い臭いがする），il peit vilainement（彼はひどい飼い方をする），Dieux vous ait tout dys en sa garde（神が常に貴方をお守り下さるように）
Dieux vous gart biau sire（御立派なお方，神の守護がありますように）
si Dieux m'ait（神が私をお助け下さるよう），vous estez proudomme（貴方は立派な人だ）と。
単数において t に終る全ての名詞，分詞は複数では語末に s 又は z をもって書かねばならない。それらの語では正しい音が要求するように t を完全にとり去るべきである。例えば：
単数で終る saint（聖者）の t は複数では sainz となる。pourpoint（胴衣）は複数で pourpoins，pot（壺）は pos，li part（部分）は li pars，dovet（衣服の布地）は dovés，tout（全て）は tous，gent（人）は

gens, tenant (保有者) は tenans, merchant (商人) は marchans, fait (事実) は fais, hault (高さ) は hauls, dit (言われた事) は dis, lit (寝台) は lis などである。こういう次第で, ガリア語の正字法に従うと複数で tz 又は ts をもってこのような語を書くのは間違いである。それはガリア人の間で一般的な規則であるから。

何となれば, ある語の中にどんな場合でも t がおかれるとはっきりと発音し, 無音にしてはいけないのである。であるから直後に母音がくるのでなければ, たとえ女性の語であっても語中に t を書いてはいけない。

次のような場合である：

les saintes vierges de ciel ne cessent ades de loier nostre sires (天上の聖女達は絶えず我等が主をほめたたえる)

Dieu pour la grande grace et misericorde qu'il les a fait et moustré (神が彼女等に下し示された大いなる恩寵と慈悲のゆえに)

a toutes et quantes fois vous plerra venir, vous serrez tresbien venu (お気に召す時は何時でもおいで下さい)

il en y a des fammes en ce pais icy que soit bien richez merchauntz (この国には大変裕福な商人の御婦人方がおられる) 等々。

しかし同じ様にこれらの語 sains (聖者), touz (全ての), merchanz (商人) や同様の語に子音を書いてはいけない。これらは男性で語末に tz 又は ts を持つのである。例えば saintz, tous, merchanz のように。従ってこれらの語は単数は t で終るが複数では t の音をいささかにも保たない。

しかしまた, 過去分詞と理解される時, dis (dire) という語にこの規則が適用されないと言われるとすれば, 数詞の dis と区別するために語末に tz をもって書くべきである。かくして名詞あるいは動詞については, 言葉の本来の多義性のために用法において対立が生じるが, 自らの綴りの習慣を変えることはない。例えばある語は三つの意味を持ち, ガリア語の動詞 faire は六つの意味を持つ, それはその他の多くの言葉についても同様である。異なった話し方によって話の内容が充分に伝えられるのであるから, おのずからの多様性があろうと書き方は変えない。その点においてラテン語であれガリア語であれ他のいくつかの語に多義性がないと言うのは誤りである。

従って sains, tous, merchans などの語は複数においては語末を, ある時は s, ある時は z をもって書くのであって saintz, tous, merchans のように ts や tz をもって書くべきではない。何となれば tz と ts は同じ価値を持ち, この場合 z は s 音を完全な声で保つのである。

しかしガスコーニュ人は前記の規則を守らない。何故なら彼等は上述の語を末尾において tz, ts をもって書く。このように：

mon car amys, sont voz litz uncores faitz? (親しい友よ, 貴方の寝床はすでに準備されていますか)

mon amys, sont mes pourpointz faitz? (友よ, 私の胴着は作ってありますか)

まことにこのガスコーニュ人の言葉はガリア人に従って次のように書かねばならない：

mon amy, sont mes pourpoins uncores? faits (友よ, 私の胴着はもう作られていますか) と。

次の語は：

fiuls (子息), mieulx (より良く), fois, ades, asses, vous poez (pouvoir), vous puiez (pouvoir), vous poiez (pouvoir), amiez (aimer), enseignez (enseigner), lisez (lire), oiez (ouïr) 等々と書くべきである。従って tz をもって例えば fitz, mieultz, foitz 等々と書くのは間違っている, それらはガリア語ではない。それらの語からガリア語は t という音も綴りもいささかも保たぬ。それらは正しい音に従って正しく書かれるべきである。もしそれらの語が s または z で終る動詞あるいは前置詞である限

り，tz 又は ts が語末に書かれる。そしてもし子音が従う時は，例えばこの二人称の動詞 poetz のかわりに poet と発音するとすれば，それはガリア語ではない。語末におかれた一つの s についての規則において上記の如く完全に承認されたようにそれはたしかにガスコニア語である。また同様に二人称の動詞単数，名詞または副詞は音において，あるいは綴においてｔをいさゝかも保たない。例へば二人称の動詞 tu peus に対しては tu peut と言わないが，この場合よいのである。かように fiulz という語に対しては，決してそのまま発音せずに fitz というのだがそれは悪い音である。従って：

fuilz, mieulx, fois, adés, assés, vous poez などのような語は正しい音に従って，ｔなしに書き，発音しなければならない。

また，ｔは et という接続詞にあってはガリア語では書くけれども発音されない：

et je vous fais savoir que vous n'echiverez ja, se ce n'est par la soveraigne Dieu（また，貴方に知らしめる，もし全能の神の加護がなければ貴方は決して成功せぬであろう）と。

16. U は語中におかれると固有の音を省略せねばならない，ちょうどラテン語，ガリア語，その他キリスト教国の多くの語において見られるように。すなわち，もし g，q，またｓの三つの文字が語の中におかれる場合である。このように：

qui, que, longue（舌），longuage（言語），guerre（戦い），guerry（治った），guaires（多く），suef（柔らかい）等々。

ひとたび非子音のｕが母音の前につけ加えられると，それは力を失う。例えば：

suavis（心持よい），queror（求める）あるいは aqua（水），lingua（言葉）などの語がそれを証明する。ｇのあと，ｑのあと又はｓのあとに隠れたｕが認められる。我々の用法によれば二重母音はｕから始まらない。注意すべきことは，著者の証明するところによると二重母音とは二つの母音が，相互にそれぞれ同一の音節の中で自らの音を保って結合している音のことであって，次の如き四つの二重母音がある。即ち：

auris（耳）における au，euge（眼）における eu，musae（音楽の女神）における ae，poema（詩）における oe である。

ただしこの四つのうち最後の二つ ae，oe は使われていない。これらのことから明らかな如く，全ての二重母音は au のようにａで始まるか，eu のようにｅか，oe のようにｏで始まる。

従って：

suavis, lingua, queror, qui という語においてはその二重母音は存在しない。なぜなら二重母音はｕで始まらないからである。また次の語，unguentum（油），unguis（塗油），lingue（言葉）にあってはｕは子音ではなくて自らの力を完全に失っている。その理由は ungentum, ungis, linga 等々とｕが力を失うように読むべきとある人達は信じているから。しかしそれは間違っている。というのは，たとえｕが固有の音を失ったとしても其処に置かれている場合は，特にｅとｉという母音との連関において一般にｕを発音すべきであるとｕが認めさせるからである。従ってｕが其処におかれていない時でも，其の場所に別様に無益におかれていると理解すべきである。

また，unguis という名詞と，ungo（油を塗る），ungis という動詞の間に差異はない。そこで次のことが生ずる。ｕはそれらの語においては書かなければならないが，発音してはならないということである。ただし，ガリア語の動詞，sui（être），su（savoir），sue（suer）およびそれら全ての法と時制を伴った形ならびに前置詞 dessus は例外である。これらの語にあってはｕは常に，たとえｓが前にあっても発音される。

またしかし，ピカルディ，ブルゴーニュ，リエージュの町の人は上記の三つの文字［g，q，s］のあとで

やはりuを発音する。例えば：
quatre（4：数詞），quarrant（40）のように。しかしそれは不適当で規則に反する。
イングランド人，スコットランド人はuをそれらの文字のあとで発音する。特にラテン人の間では彼等の母語においてそういうことだ。このように：
quartus（第四の），quatuor（数詞），quare（何となれば），quaier（帳面）等々。

17．Xは語末においてsまたはzのように発音し得る。例えば：
chivalx（馬），chiveux（毛髪），huiseux（布），oisealx（鳥），tieulx（そのような），ceulx（彼等），sealx（印），sielx（塩），およびmieulx。
これらの語および同類の語はs，x，またはzのいづれをもって書いてもよい。
知っておくべきことはDieuxはxを語末において保持しないということだ。全く単独で主格または呼格にあるときは別であって，韻律上の理由がある場合も別である。
こういう格でxをたとえ保っていても発音する場合としなくてもよいときがある。それはちょうど主格においてxが存在し直後に子音がつづく場合などであって子音が続くとxは発音しない。このように：
Dieux vous garde（神が貴方を守られますように）又は
Dieux soit gart de vous（神が貴方の守護となって下さるように）
dieuxが呼格にある時は常に音を保つ。次のように：
beal sire Dieux regardez moy en party
（うるわしき主なる神よ，私が出掛ける時は見守って下さい）
さて次の語：
ferai（faire），serai（être），serrai（asseoir），verai（voir），orai（ouir）
このような語は一つのrをもって正しい音に従い，書かれなけれならない。次のような語とは異るのである：ferrai，serrai，pourrai（pouvoir），verraiやorraiなど。
しかし下記の語はrrと重ねて書くべきだ：
crerra（croire），morra（mourir），pourra（pouvoir），parra（paraitre），lerra（laisser），plerra（plaire），larron（盗賊）やlierres（泥棒）のような語はちょうど正しい音が要求するように正しい綴りrr二つをもって書かねばならない。
ovec（共に）という語は，明らかに見られるように，aveque，avuec，avecques，avecと様々な地方の習慣に従っていろいろに書き得る。しかしsを語の中にovesqueと書くのは間違っている。
このselonc（従って）という語ではnまたはcをもってどちらで終っても良い。selonまたはselonc のように。
次の語，escu（楯），escuire（楯持ち），escueille（杯），cueller（スプーン）およびこれらの語から派生する全ての分詞と名詞は，ちょうど正しい音が要求するようにcをもって書き，qをもって書いてはいけない。なんとなればqをもってesquier，esquelleというように書くと，我々はeskier，eskelleと発音することになるだろうから。これはガリア語ではない。丁度uに関する規則によってそれが充分に証明されるようにである。

18．Yはどんな場所でもiの音をもち，非常に多くの場合書き方の装飾のゆえにiのかわりに書かれるべきだ。特に町，人，男性，女性の名前をあらわす個有名詞，そして敬称の名詞などである：
Gunnyngton，Guynton，Guylliam de Boytonと，いうように。

19．Zは語末においてはほとんどsのように事実上発音される：

requerez (querir), sarchez (chercher), aimez (aimer), lisez (lire) のように。
そして同様の語についても。既に述べた我々のガリア語の論述においても同じ説明が示されている。
また，次のことを知るべきだ。ある単音節の語が母音で終り，次にくる語が母音で始まる時はいつもそれら二つの語は両者で一語のように発音されなければならず，最初の母音は書かれるべきではないし，自らの音を保持すべきでもない。このように：
l'abbe (大僧正), l'abbeye (僧院), l'ombre (影), l'oue (あひる), d'or (金の), d'argent (銀の), qu'est (être), qu'ore (その時), n'a (avoir), n'est (être), n'y a (其処にない), n'envoier (送らない) 等々と。
全ての動詞で活用形がsに終る場合はいつでも書く人の意志によってsあるいはzをもって書くことができる：
aimez (aimer), beneiz (benir), ditez (dire), prennez (prendre) のように。
eで終る全ての分詞はどの性であれ，それらの語から派生する語の音と区別するために語末においてeeと二つのeをもって書かねばならない。
例えば過去分詞 amee は二つのeをもって上述の語と区別するために書かなければならない。enseignee はその動詞 enseigne(enseigner) と区別するために，menee は mene(mener) と，donee は donne (donner) と区別するために。
またいくつかの男性の現在分詞でtに終る場合，excellent (すぐれた) についても，女性になると音においても綴においてもeを加えeと発音しなければならない。しかし分詞の語末のeの前にiがある場合はこの限りではない，例えば：
appareillie (appareiller), veillie (veiller) と，このようになる。
c, f, gで終る全ての男性名詞単数は blank (白い), vif (元気な), long (長い) となり，複数は語末にsをもって書く。その際，c, f, gは完全になくなって blans, vis, lons となる。しかし次のような語 long, sang (血液) は単数ではcまたはgのどちらをもって書いてもよい。例えば lonc, sanc, long, sang のようにである。
男性であれ，女性であれ全ての名詞で語末に二重の母音の音 ee を持つものは ee をもって書く。このように：
amee (愛されたもの), pansee (考えられたもの), puree (純粋にされたもの), rousee (露がしたたるもの), vinee (樽に入れられたぶどう), sunee (音を立てられた) 等々，と。
男性単数においてtで終るような女性形容詞，sainte (聖なる), mainte (多くの) などはもちろん例外である。それら上記の分詞および名詞にあっては，音においても書き方においても ee は二重にそして完全に書かなければならない。同様の語においても上述した如く同じである。

さて，学識ある修学僧たちは，各人の時間を労費することなく，彼等を力づける三位一体の御加護により花を咲かせ得るであろう。彼等すべて，および各々は上記のことおよびその他のことについても正しく教えられる事を望むものである。
三位一体においてしろしめす全能の父は，善意と恩寵と幸運を与えられ私，パリの T. H. なる学生に諸国の言語についてのあらゆる形と書き方の真実をひき出さしめ給うであろう。習わしにおいても知識においても不足する者であると雖も。敬虔なる愛をもって，アーメン。
オルレアンの司教座参事会員，両学博士 M. T. Coyfurelly がここにパリの習慣と形式に従って新しく上梓した「フランス語正綴論」は終わる。

記

本文は14世紀後半に作成されたものと考えられる。*Orthographia Gallica* より後に作成されたものであろうか，M. K. Pope は実際に論文が作られた年代をエドワードIII世の時代の後半，あるいはリチャードII世の時代としている。(前掲 M. K. Pope ed., "The 'Tractatus Orthographiae' of T. H., Parisii Studentis," *MLR*, vol. 5, pp. 187-88.) コワルフュルリ自身が論文の末尾に記している如く，パリの学生 T. H. による「正綴論」を新しく書き改めたものである。

コワルフュルリの論文は1879年に E. Stengel によって一度 Oxford, All Souls College 写本 182 ff. 340^{r}-344^{r} より転写されて，*Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur*, Band I に収録された。(この第一巻には，ある英国人の著わしたフランス語会話書 *La manière de language* (1396年)，MS Oxford All Souls College 182 ff. 314^{r}-315^{r}, 323^{v}-326^{v} や，John Barton 編の *Donait francois*, MS Oxford All Souls College 182 ff. 316^{v}-321^{v}, 361^{r}-362^{v}. も収められている)

今回再び Coyfurelly の *Tractatus Ortographie Gallicane* を MS 182 (Oxford All Souls College) ff. 340rb-344ra より転写した。Stengel の読み違いを修正し，Stengel の読みにおいて欠落しているところは補ってある。翻訳に際しては写本を参照した。Coyfurelly の *Tractatus* は MS 182 にあっては Bibbesworth の *Tretiz* (ff. 331rb-340ra) についで，同じ筆写体で続けられている。

Tractatus Ortographie Gallicane

Cuiuslibet creature auxilio indigentis intererit revelare suum gravamen, ubi 340rb sperat celerius subsidium obtinere. Et quia nonnulli sunt desiderantes diversis facultatibus florescere in juventute, sicut viridarium diversis arboribus et virtutibus herbarum nobiliter plantatum videtur multociens fructus et vapores non modicum redolentes temporibus estatum feliciter propalare. Hinc est quod auxilio Trinitatis que regnat trinus in uno, licet insufficiens, sermones gallicanos et formam scripture cum regulis in eisdem intendo propulsare et secundum usum in partibus transmarinis dulciter sonare, unde herbarum rami moribus et scientia primo florescere et postea in altius poterunt insigniri, disponente clemencia Regis omnium Regum. Et primo cognosce. Sonum literarum secundum alphabetum in partibus gallicanis recolo explanare prout in aperto scribitur in presente:

a b c d e f g h i l m n o p q r s t
ae bey cey dey ea efa gey assh ij k al am an o pey queu aar esa tey
u x y z
yu eyx y edez [.....] (ms. illegible) amen.

Et primo sciendum est quod literarum alie sunt vocales, alie consonantes. Vocales sunt quinque, sive *a*, *e*, *i*, o et *u*. Et dicuntur vocales, quia per se plenam vocem faciunt et sine illis nulla vox literalis proferri potest. Ex hiis quinque vocalibus due transeunt in vim consonancium, sive *i* et *u*, ut quando ponuntur in principio alicuius sillabe et sillabicantur cum vocali sequente, ut *juex*, *vanter*, *jouster*, *voiser*, et sic de similibus.

Et sciendum est quod *a* fere debet sonari, sicut *e* literam, verbi gracia: *Savez | vous faire un chançon? Savez vous traïr de l'arc? Pierre remaint a l'hostel.* 340va *Saint Jaques est un tresnoble saint. J'en ai un bonne hopelande de pearce. J'en ai grand paour. Je l'ay achivee*, et sic de similibus. Simile sit iudicium. Romanici vero proprie et plena voce sonant *a*, ut *faire*, *traire* et huiusmodi.

B vero in medio diccionis posita [.....] (ms. none) ut *debruiser*, *tribuiller*, *troubler* et huiusmodi, exceptis hiis diccionibus *debtee*, *endebtee*, *soubz*, *desoubz*, necnon istis verbis *doubter*, *redoubter*, *soubstituer*, cum omnibus modis et temporibus suis tam pluralis numeri quam singularis et cum omnibus nominibus et participiis ab eisdem verbis descendentibus, in quibus in medio scribi debet *b* set non sonari. Unde errant, qui scribunt *doubtee*, *tresdoubtee* et huiusmodi sine *b* in medio, ut *doutee*, *tresdoutee*. Item iste dicciones *a* et *en a*, que unum et idem representant, quia capiuntur pro hoc verbo *hebet*, simpliciter per se debent scribi sine pluribus literis eisdem connexis. Unde errant, qui scribunt huiusmodi dicciones cum *d* in fine, ut *ad*,

en ad, ex quo sonus istius litere *d* ibidem nunquam habeatur. Item iste dicciones *aurai*, *en aurai* sine *e* in medio scribi debent et sonari. Tamen Vaconici et alii *e* in huiusmodi semper sonant atque scribunt in medio, ut *averai*, *en averai*, quod non est gallicum, ymmo romanicum. Item iste dicciones, videlicet *je*, *jeo*, *jo*, *jou* ; *ce*, *ceo*, *çou*, *chou* secundum modum et rectum sonum diversarum linguarum, prout hic evidenter patet, scribi debent et sonari.

C eciam in medio dic|cionis posita quoque habet sonun *z* vel *s*, ut in hiis 340vb
diccionibus *ça*, *pieça*, *tanquença*(sic), *recoi*, *ainçois*, *françoys*, *doulçour*, *beneiçon*, *rançon* et huiusmodi, que dicciones semper scribi debent modo et forma supradicta. Et aliqnando *c* habet sonum *k*, ut in hac diccione *cas*, *car*, *canter* et huiusmodi.

E vero sonum fere tenebit sicut *a* littera et principaliter in fine diccionis cum brevi et acuto accentu pronunciandum, verbi gracia *Je vien i endrois. Veicy belle chose.*

G autem posita in medio diccionis inter vocalem et consonantem habebit sonum quasi *n* et *g*, ut *compaignon*, *compaignie*, *moigne* et *maigne*. Tamen Gallici pro majori parte scribunt *n* in medio, ut *compaingnon*, *compaingnie*, *moingne*, *maingne*, quod melius est.

H vero non est litera, sed aspirationis nota, ut in hiis diccionibus *huis*, *hors*, *hounte*, *hony*, *hault*, *hopelande*, *herde a herder*, *Jehan*, *hard*, in quibus *h* semper sonabitur. Sed in hiis diccionibus *huit*, *huy*, *hier*, *heure*, *le hostel*, *helas*, *huiseux*, *regehir*, *h* non debet aspirari, et sic de huiusmodi.

I vero et *e*, seu alie due vocales ad invicem conjuncte, quando ponuntur in medio diccionis inter duas consonantes seu inter vocalem et consonantem aut in fine diccionis, sonum ex utraque parte capient in effectu, ut *biens*, *ciens*, *siens*, *liens*, *miens*, *riens*, *arraier*, *baier*, *joye*, *voie*, *ie* et huiusmodi. Unde errant, qui dicunt quod *i* vel *e* in huiusmodi diccionibus sonum penitus amittere debent, tam in Gallicis quam eciam in Romanicis, quia Gallici et Romanici *i* et *e* semper sonant in huiusmodi, sed non simili modo scribunt in sermonibus Romanici. Namque scribunt sic, videlicet *beins*, *ceins*, *leins*, *meins*, *reins*, *seins*, et *bein* | et *ieo*, ubi Gallici scribunt *biens*, *liens* 341ra
et *ie*, ut supra.

K eciam in lingua romanica, non autem in lingua gallicana, nomine et loco *c* et *h* scribi debet et sonari, ut *kival* id est gallice *chival*, *kien* id est *chien*, *vake* id est *vache*, et aliquado *q*, ut *quesne* id est *chesne*. Necnon loco *c* debent scribi *c* et *h* secundum Romanicos, ut *pour chou* vel *pour cheu* id est gallice *pour ce* vel *pourceu*, *deçha* id est *deça*, *tresdouche* id est *tresdoulce*, et sic de aliis consimilibus. Item Romanica(sic) nomina dignitatis ut officii, que sunt singularis numeri, scribunt pluraliter in effectu, ut *lui papes de Rome*, *l'empereurs d'Alemaigne*, *lui rois d' Engleter et de Ff*rance, *lui chauncellers du Saint Peres*, *lui tresorerers Monseigneur*, *lui duques de Launcastre*, *lui recevours Madame la roigne*, *lui sainz esperes*(*sic*) *vous garde*, ubi vero Gallici sine *s* scribunt huiusmodi nomina siugulariter, quod pulcrius et brevius est, ut *le pape de Rome*, *l'empereur de Roy*, *le Roy de l'Engleterre*, et sic

de ceteris.

L autem posita in medio diccionis, vocali immediate sequente, sonum proprium reservabit, ut *onnelement, parlant*. Sed si consonans immediate sequatur, tunc debet sonari sicut *u*, ut *loialment, principalment*, hac diccione *ils* tantummodo excepta, in qua *l* sonum *u* minime retinebit, ut *ils vont ensamble, ils onl fait*. *L* eciam posita in fine diccionis, si sequens diccio incipiat a consonante, sonum suum proprium dimittet et quasi *u* sonabitur in effectu, ut *l'amiral d'Engleterre, chival soer, fiel de fust, seal d'argent, fiel de makerel malvais est, beal filz escoutez*. Si vero sequens diccio incipiat | a vocali, tunc *l* sonum proprium procul dubio retinebit, ut 341[rb] *nul aultre, nul enemy, nul ignorant, nul homme, nul usage*. Tamen *l* posita in fine diccionis, videlicet in diccionibus monosillabis, si consonans immediate sequatur, sonum *u* nec proprium sonum minime reservabit, ut *il s'en est alee, il le vuil bien*, et sic de ceteris. Et sciendum est quod in hiis diccionibus, sicut *hostel, oil, ombril, penil, seel, sil, nonil*, procul dubio *l* nunquam debet sonari secundum dulce gallicum. Tamen in hiis diccionibus, sicut *ael, ael, ciel, ciel, voel, veil, l* semper pronunciabitur sine aliqua excepcione inde sequente. Item in hiis diccionibus, videlicet *fiel, chapel, chatel, chastel, pel, pol, col, fol, l* semper habebit sonum *u* secundum rectum sonum dulcis gallicis sine excepcione aliqua. *LL* vero duplex in medio diccionis integre et plena oris voce in sono pronunciabitur, ut *fille, fillete, oraille, orailler, aille, oaille*, set iste dicciones nonnulle *elle, belle, ycelle, nulle, quelle*, dulciter sonari debent, et sic de similibus. Romanici vero presertim *l* sonant in omni loco nullo obstaculo impediente.

N autem posita inter vocalem et consonantem in fine alicuius diccionis, que sit verbum, tercie persone pluralis numeri modi indicativi vel optativi cuiuscumque temporis fuerit, de jure non sonabitur, verbi gracia *ils aiment, ils lisent, ils dient, ils amoient, ils lisoient, ils disoient, ils amerent, ils listrent, ils distrent, ils amassent, ils laissassent* et huiusmodi. Tamen ista verba excipiuntur, sicut *vont, ont, sont, font, avoient, eurent, estoient, furent, fesoient* et *firent*, cum omnibus eorum compositis, ut *en vont, en ont, en font, en sont, en avoient* et huiusmodi, in quibus *n* sonum proprium tota|liter reservabit. 341[va]

P vero posita in fine diccionis, consonante immediate sequente, sonum suum penitus amittere debet, verbi gracia *ne massez ja trop grand avoir*, exceptis propriis nominibus in *p* desinentibus ut *Philip*. Set si vocalis immediate sequatur, sonum suum plenarie reservabit, ut *mieulx vaut assez que trop avoir*. Item ista nomina *dras, tens, cors*, sine *p* sunt scribenda, prout rectus sonus exigit in hac parte. Tamen Romanici non tenent illam regulam, quia pro majori parte *p* in huiusmodi semper scribunt. Et in gallico bene potest itaque scribi, ut *draps, temps, corps*.

Q vero semper lenem, necnon mollem, habet sonum et nunquam scribi debet in aliqua diccione sine duabus vocalibus immediate sequentibus, quarum prima erit *u*, ut *qui, que, quar, querre, querir, quir, quarré, auquant* et huiusmodi. Unde errant, qui scribunt *q* in huiusmodi diccionibus sine ista vocali *u*, ut *qi, qe, qar, qerer*. Qui

quidem modus scribendi indecens et irregularis est, ex quo non sequitur regulam orthographie gallicane, cum non habeat pro se racionabile fundamentum nisi causa, quia sic placuit instituenti, set ut dicit sapiens, «Debile fundamentum fallit opus.» Et ulterius dicere seu docere quod ita res esset, et non videre regulariter causam racionalem, quare taliter existere deberet illa insinuacio seu doctrina, nullius est valoris, ymmo omnino est refutanda. Item hec diccio *quar* indifferenter potest scribi cum *k*, *q* vel *c* ad voluntatem scriptoris, quia *k*, *q* et *c* semper sunt ejusdem effectus, que nunquam debent scribi in aliqna diccione sine vocali immediate sequente, habendo respectum ad principium sillabarum. | Non tamen simili modo sillibicantur, 341vb quia *q* in aliqua diccione posita, cuiuscumque ydiomatis fuerit, inter Latinos et principaliter in latinis artificibus(sic) semper scribi debet cum duabus vocalibus imme-diate sequentibus, quarum prima erit *u*.

R autem in fine diccionis indifferenter potest sonari quasi *z* vel *r*, ut *j'en ay grand mal ou cuer, j'en ay bon quer*. Set dulcior est sonus quasi *z* in lingua gallica quam quasi *r*. Tamen hec regula non tenet in omnibus, ut in hiis diccionibus *quar*, *querir*, *ferir* et *ferrer*, in quibus *r* proprie debet sonari, et sic de similibus.

S vero simplex in medio diccionis non debet sonari, si consonans immediate sequatur, ut *tresdoubté*, *tresnoble*, *tresgracious*. Ab hac regula excipiuntur iste dicciones, videlicet *chastel*, *chastayne*, *substance*, *meschant*, *Augustins*, *instance*, *registrer*, *fust*, *oscurté*, *oscure*, *oscurement*, *oscurer*, *sustiner*, *substituer*, *escharnir*, *transglouter*, *inspirer*, *discharger*, *estancher*, *estendre*, *espaundre*, *peschier*, *estreindre*, *dispenser*, *escuser*, cum omnibus participiis, nominibus et adverbiis ab eisdem verbis qualitercumque exeuntibus vel egredientibus, in quibus *s* semper debet sonari, licet consonans immediate sequatur. Si vero vocalis immediate sequatur, tunc sonum proprium plenarie reservabit, ut *tresexcellent*, *treshaultisme*, *treshonuré*, *treshumble*. *SS* vero duplex in medio diccionis posita semper pronunciari debet, ut *trespassant*, *tresfoissable* u(sic) *tresfoiable*, et huiusmodi. Item si *s* simpliciter in fine alicuius diccionis ponatur, que sit pronomen, verbum, conjunccio, vel preposicio, et sequens dictio inci|piat a consonante, tunc sonum minime reservabit, ut *Dieux vous saut et* 342ra *garde vous seintez, vous sainz au cuer; veullez vous manger ? vuillez vous juer ? he regardez, mon tresgenlil compaignon, coment leur vestimentz sount bien et fetisement entaillez selon le guise du Ffrance; par le foy que je doy a Dieu, mon tresdoulz amy, j'en ay veu beaucop des gens huy ou marchee*. Set si sequens dicctio incipiat a vocali, tunc *s* debet sonari, ut *vous aimez, vous em priez, soiez vous icy, vous oustez la table, estez vous un d'eux*, et sic de aliis diccionibus, hiis exceptis *vous ditez vray, vous le disoiez vraiement, ils ount fait* tantummodo reservatis, in quibus non sonabitur, licet vocalis immediate sequatur. Romanici vero pro majori parte semper sonant *s* in medio diccionis, ut *dont estez vous ? je m'en iray a l'ostel et je revenrey tantost; qu' est la droite au Liege ?* Idem est gallice *qu'est la droit chemyn vers Liegez ? mon amy, vous irrez a devant, et quant vous serrez la, vous ne pourrez nient marrir*. Item in omnibus nominibus, participiis, adverbiis et interjeccionibus, in quibus *s* sim-

pliciter in fine diccionis profertur, tam singulariter quam pluraliter, sine dubio semper est sonandum, ut *temps, corps, bras, dos, huis, fois, noes, noces, poirs, pourrez, orguelleus, dispeteus, crementeux, paourez, tremans, trechans, estans, dis, lis, assez, adés, jadys, helas*, et sic de similibus. Ab hac regula excipiuntur iste dicciones *viz, pis, mis, quantes, longues, tous, bons, petiz*, et *grans*, tam masculini generis quam feminini, et istud adverbium *pas* et hoc nomen numerale *dis*, in quibus *s* aliquando debet sonari et aliquando non, ut si vocalis immediate se|quatur, tunc *s* sonum 342[rb] retinebit, ut *il en y a dis hommes loeggez a nostre hostell*, si vero consonans, tunc non sonabitur, ut *j'en ay dis livres*. Set quando *dis* capiatur pro participio, tunc *s* sonum suum semper retinebit, ut *les sermons sont dis certainement*. Item excipiuntur iste dicciones *guaires, waires*, in quibus *s* non debet sonari, nisi vocalis immediate sequatur, ut *je m'aresterai guaires en marchee*, vel nisi evenit in fine alicuius diccionis, ut *beal filz, ne demourrez guaires*.

T quoque posita in fine alicuius diccionis, que est verbum, tercie persone singularis numeri modo indicativi presentis temporis vel preteriti, seu pronomen, si sequens diccio a vocali incipiat, debet sonari, ut *est il prest ? estoit a l'oster, il fut enmervaillé, il fut ignel, il fut oiseux, il fuit humbles, cest escuier icy chante tresbien.* Set si sequens diccio incipiat a consonante, tunc debet sonum penitus amittere, ut *qu'est ce q'il dit ? il est prest, il ne peut chaloir, il ne fait que pour esbatement, que dit vostre meistre ? que fait monseigneur ? monsieigneur, vous octroit de vous donner deux nobles d'or, il estoit bien gracieus, il fust noble chevalier et vaillant, il fut tout dis joyeus, il fut vaillant, gentil et sage, il n'y a que vanitee ou ceste siecle*, et sic de aliis, exceptis hiis verbis, sive *list, ot* et *prent*, cum omnibus suis compositis, in quibus *t* semper pronunciari debet. Item *t* in fine diccionis, videlicet in verbis, tercie persone singularis numeri modi imperativi, sonum minime propalabit, ut *Dieux vous beneit, monseigneur et la compaignie, Dieux vous octroit de bien faire, Dieux vous conduist et avance, male semaigne soit a vous mis*, hiis diccionibus *boit, puit, poit, eit, gart* et *ait*, tantummodo reservatis, in quibus *t* | semper debet sonari, ut *boit* 342va *il a l'aultre, il puit malvaisement, it peit vilainement, Dievx vous ait tout dys en sa garde, Dieux vous gart, biau sire, si Dieu m'aït, vous estez proudomme.* Item omnia nomina et participia terminancia in *t* numero singulari, in plurali vero cum *s* vel *x* scribi debent in fine diccionis, *t* penitus amovenda, prout rectus sonus exigit, ut *saint* terminans in *t* in singulari, in plurali vero facit *sainz, pourpoint* facit in plurali *pourpoins*; *pot, pos*; *li part, li pars*; *douet, doués*; *tout, tous*; *gent, gens*; *tenant, tenans*; *merchant, merchans*; *fait, fais*; *hault, hauls*; *dit, dis* ; *lit, lis*, et sic de similibus. Unde errant, qui scribunt huiusmodi dicciones cum *tz* vel cum *ts* in plurali secundum ortographiam gallicanam, quia hec est regula generalis inter Gallicos, quod quocienscumque ponatur in medio alicuius diccionis, plena voce est pronunciandum et non tacendum, et non debet scribi in medio diccionis, que sit nomen feminini generis, sine vocali immediate sequente, ut *les saintes vierges de ciel ne cessent adés de loier* (*sic*) *nostre sires Dieu pour la grande grace et misericorde qu'il les a fait et moustré*; *a*

toutes et quantes foiz vous plerra venir, vous serrez tresbien venu; il en y a des fammes en ce pais icy que sont bien richez merchantz, et sic de similibus. Set non esset simili modo consonum scribere *sainz*, *touz*, *merchanz* et huiusmodi dicciones, que sunt masculini generis, cum *tz* vel *ts* in fine, ut *saintz*, *tous*, *merchans*, ex quo huiusmodi dicciones termiment in *t* in singulari et in plurali sonum *t* non retinent aliquo modo. Et si dicatur quod hec regula fallit, ut in hac diccione *dis*, quando capitur pro participio, debet scribi cum *tz* in fine diccionis ad differentiam huius nominis numeralis *dis*, obicitur sic con|tra nomina vel verba equivoca propter suas 342vb equivocaciones, cuiuscumque ydiomatis fuerint, suam scripture certitudinem quovismodo non mutabunt, ut hec diccio tria habet significaciones et hoc verbum gallicanum *faire* habet sex significaciones, et sic de pluribus aliis, prout per diversos modos loquendi plenius poterit intimari, cum propter suas equivocaciones suam non mutant scripturam suam, tunc sequeretur quod non essent alique dicciones equivoce, latine seu gallice, quod non est verum. Ideo per consequens iste dicciones, videlicet *sains*, *tous*. *merchans* et huiusmodi, in plurali debent scribi in fine tantum cum *s* vel *z* et non cum *ts* nec *tz*, quoniam tantum valet *tz* et *ts*, ex quo *z* sonum *s* retinet plena voce. Tamen Vasconici non tenent regulam precedentem, quia scribunt huiusmodi dicciones prenotate in fine cum *tz* vel cum *ts*, verbi gracia *mon car amys, sont voz litz uncores faitz ? mon amys, sont mes pourpointz faitz ?* Que quidem oraciones vasconici secundum Gallicos debent scribi modo subsequenti *mon amy, sont mes pourpoins uncores faits ?* Item iste dicciones *fiuls*, *mieulx* (ms. *mielux*), *fois*, *adés*, *assés*, *vous poez*, *vous puiez*, *vous poiez*, *amicz*, *enseignez*, *lisez*, *oiez* et huiusmodi sunt scribende. Unde errant, qui scribunt huiusmodi dicciones cum *tz*, verbi gracia *fitz*, *mieultz*, *foitz* et huiusmodi, quod non est gallicum, ex quo sonum aut scripturam *t* quovismodo non retinet sermo gallicus, et huiusmodi dicciones secundum rectum sonum verissime scribi debent, quia si huiusmodi vocabula, ad minus que sunt verba vel preposiciones in *s* vel in *z* desinentes, cum *tz* vel *ts* scriberentur in fine diccionis. Et consonans immediate sequeretur, tunc sonaremus sic *poet* pro | secunda persona 343ra huius verbi *poetz*, quod non est gallicum, ymmo vasconicum, prout superius in regula de *s* simplici in fine diccionis posito plenius approbatur. Nec huiusmodi verba in secunda persona numeri singularis, nomina seu adverbia in sono aut scriptura *t* quovismodo non retinent, ut pro isto verbo secunde persone *tu peus*, nos dicimus eciam *tu peut*, quod non est in hoc loco inconveniens. Et sic diceremus nec eciam pro diccione *fiulz* nos dicimus eciam *fitz*, quod esset malus sonus. Ideo per consequens huiusmodi dicciones, videlicet *fiulz*, *mieulx*, *fois*, *adés*, *assés*, *vous poez* et sic de huiusmodi, prout dictum est, sine *t* secundum rectum sonum scribi debent et sonari. Item *t* in ista conjunccione *et* gallice prolata non sonabitur, ut *et je vous fais savoir que vous n'echiverez ja, se ce n'est par la soveraigne Dieu.*

U vero in medio diccionis posita proprium sonum debet amittere, videlicet in latinis, gallicis ac pluribus aliis linguis cristianitatis, si istas tres literas, videlicet *g*, *q* vel *s*, in medio sequatur, ut *qui*, *que*, *longue(sic)*, *longuage(sic)*, *guerre*, *guerry*,

guaires, *suef* et huiusmodi. Una versus vocali prejungitur *u* non consona, vimque perdit, et hec *suavis*, *queror* aut *aqua*, *lingua* probabit. Post *g*, post *q* vel *s* latebras *u* cernere possis. Nam diptongus ab *u* nostro non inchoat usu. Notandum est quod testante auctore, diptongus est duarum vocalium ad invicem in eadem silba(sic) vim suam retinencium conglucinacio. Et quatuor sunt diptongi, sive *au* ut *auris*, *eu* ut *euge*, *ae* ut *musae*, *oe* ut *poema*, unde et isti duo ultimi *ae* et *oe* non sunt in usu. Ex hiis patet omnem diptongum ab *a* incipere ut *au*, aut ab *e* ut *eu*, vel | ab *o* ut *oe*. 343rb Unde in talibus diccionibus *suavis*, *lingna*, *queror*, *qui* et huiusmodi, diptongus non est, eo quod diptongus ab *u* non incipiat. Nec in talibus est *u* consonans, set perdit totaliter vim suam. Racione(sic) cuius rei quidam credunt quod in talibus, seu *unguentum*, *unguis*, *lingue*, sic legere debemus *ungentum*, *ungis*, *lingo* et huiusmodi, eo quod *u* perdit vim suam. Quod falsum est, quia licet *u* vim suam perdat, dat tamen intelligere, quando ibi ponitur, quod generaliter debet sonari maxime respectu harum vocalium *e* et *i*, quoniam quando ibi non ponitur, aliter enim *u* ibi frustra poneretur. Nec est differencia inter hoc nomen *unguis* et hoc verbun *ungo*, *ungis*. Unde sequitur quod *u* in huiusmodi diccionibus debet scribi et non sonari, exceptis hiis verbis gallicanis *sui*, *su*, *sue* cum omnibus modis et temporibus suis et iste preposiciones *dessus*, in quibus *u* semper sonabitur, licet *s* precedat. Tamen Picardi, Burgundii et Leodieni post predictas tres literas quoque sonant *u*, quod indecens et irregularis est, ut *quatre*, *quarrant*. Anglici vero et Scotici eciam sonant *u* post huiusmodi literas et principaliter in latinis, ac eciam in eorum linguis maternis, ut *quartus*, *quatuor*, *quare*, *quaier* et huiusmodi.

X autem in fine diccionis indifferenter potest sonari quasi *s* vel *z*, ut *chivalx*, *chiveux*, *huiseux*, *oisealx*, *tieulx*, *ceulx*, *sealx*, *sielx*, et *mieulx*, que dicciones indifferenter possunt scribi cum *s*, *x* vel *z*, et sic de similibus. Item sciendum est quod hec diccio *Dieux* non retinet *x* in fine diccionis, nisi solummodo in nominativo et vocativo casu, nisi fuerit causa rithmice et quamvis retineat *x* in istis casibus, | 343va tamen *x* aliquando sonari debet, aliquando non, ut si fuerit in nominativo casu et consonans immediate sequatur, tunc *x* non sonabitur, ut *Dieux vous garde* vel sic *Dieux soit gart de vous*. Si vero fuerit in vocativo casu, tunc sonum semper reservabit, ut *beal sire Dieux*, *regardez moy en party*. Item iste dicciones *ferai*, *serai*, *serrai*, *verai* et *orai* secundum rectum sonum cum simplici *r* sunt scribende ad differenciam istarum diccionum *ferrai*, *serrai*, *pourrai*, *verrai* et *orrai*. Set iste dicciones *crerra*, *morra*, *pourra*, *parra*, *lerra*, *plerra*, *larron* et *lierres* eum duplici *rr*, prout rectus sonus exigit, veraciter debent scribi. Item hec diccio *ovec* diversi mode potest scribi secundum modum et usum diversarum provinciarum, prout hic patet evidenter *avecque*, *avuec*, *avecques*, *ovec*. Unde errant, qui scribunt *s* in medio ut *ovesque*. Item hec diccio *selonc* in *n* vel in *c* indifferenter potest terminari, ut *selon*, *selonc*. Item ista nomina *escu*, *escuier*, *escueille*, *cueller*, cum omnibus participiis et nominibus ab eisdem descendentibus, cum *c* debent scribi et non cum *q*, prout rectus sonus exigit, quia si scriberentur cum *q*, ut *esquier*, *esquelle*, tunc sonaremus sic

eskier, *eskelle*, quod non est gallicum, prout per regulam de *u* plenius approbatur.

Y vero habet sonum *i* in omni loco et debet scribi in pluribus locis loco *i*, causa ornatus scripture et principaliter in propriis nominibus civitatum, virorum et cognicionibus virorum et mulierum ac eciam in nominibus dignitatis, ut *Gunnyngton*, *Guynton*, *Guylliam de Boy|ton*. 343vb

Z in fine diccionis quasi *s* sonabitur in effectu, ut *requerez*, *sarchez*, *aimez*, *lisez*, et sic de similibus. Simile sit indicium in nostris sermonibus gallice prelibatis. Et sciendum est quod quocienscumque aliqua diccio monasilliba(sic) desinit in vocali et sequens diccio incipit a vocali, tunc ille due dicciones debent ad invicem quasi sub una diccione pronunciari (ms. pronunciando) et prima vocalis non debet scribi nec sonum retinere, ut *l'abbé*, *l'abbeye*, *l'ombre*, *l'oue*, *d'or*, *d'argent*, *qu'est*, *qu'ore*, *n'a*, *n'est* (ms. *n'este*), *n'y a*, *n'envoier*, et sic de huiusmodi. Item omnia verba, cuiuscumque sint conjugacionis terminancia in *s*, possunt scribi cum *s* vel *z* ad libitum scriptoris, ut *aimez*, *beneiez*, *ditez*, *prennez*. Item omnia participia terminancia in *e*, cuiuscumque generis fuerint, debent scribi cum *ee* duplici in fine diccionis ad differentiam suorum verborum, a quibus descendunt, ut *amee* participium debet scribi cum duplici ad differentiam huius diccionis *enseignee*, ad differentiam huius verbi *enseigne* ; *menee*, *mene* ; *donnee*, *donne*. Et sic de ceteris participiis masculini generis terminantibus in *t*, ut *excellent*, que in feminino genere *e* simplice ms. simplicem in sono et scriptura debent sonari, nec non participiis habentibus *i* ante *e* in fine diccionis, ut *appareillie*, *veillie*, tantummodo reservatis. Item omnia nomina, masculini generis terminancia in *c*, *f* vel *g* numero singulari, ut *blank*, *vif*, *long*, in plurali vero debent scribi cum *s* in fine diccionis, *c*, *f* et *g* penitus expellendis, ut *blans*, *vis*, *lons*. Tamen hec dicciones *long* et *sang* in singulari possunt scribi indifferenter cum *c* vel *g*,| ut *lonc*, *sanc*, *long* et *sang*. Item omnia nomina, 344ra cuiuscumque generis fuerint, in fine diccionis habent sonum duplicis *ee*, cum duplici *ee* debent scribi, ut *amee*, *pansee*, *puree*, *rousee*, *vinee*, *sunee* et huiusmodi nominibus adjectivis feminini generis, ut *sainte*, *mainte*, que in masculino genere et numero singulari terminant in *t*, dumtaxat exceptis, in quibus quidem participiis ac nominibus supradicitis, [.....] (ms. illegible), *ee* dupliciter in sono et scriptura plenarie representantur, et sic de aliis huiusmodi prout superius declaratum est.

Unde clerici doctores sine detrimento singularis temporibus florescere potuerunt auxilio Trinitatis illos confortante, quibus omnibus et singulis in huiusmodi promoneri de cetero affectant. Graciam et fortunam bone voluntatis dignetur concedere Pater omnipotens, qui regnat trinus in uno, bene perseverare et me T. H. parisius studentem forme et scripture cuiuslibet sermonis de partibus ibidem veritatem depulsare, licet non sufficiens semper excusare moribus et sciencia. Devoto cum affectu, Amen.

Explicit Tractatus Ortographie Gallicane per M. T. Coyfurelly canonicum Aurilianum doctorem utriusque juris de novo editus secundum modum et forman Parisius.

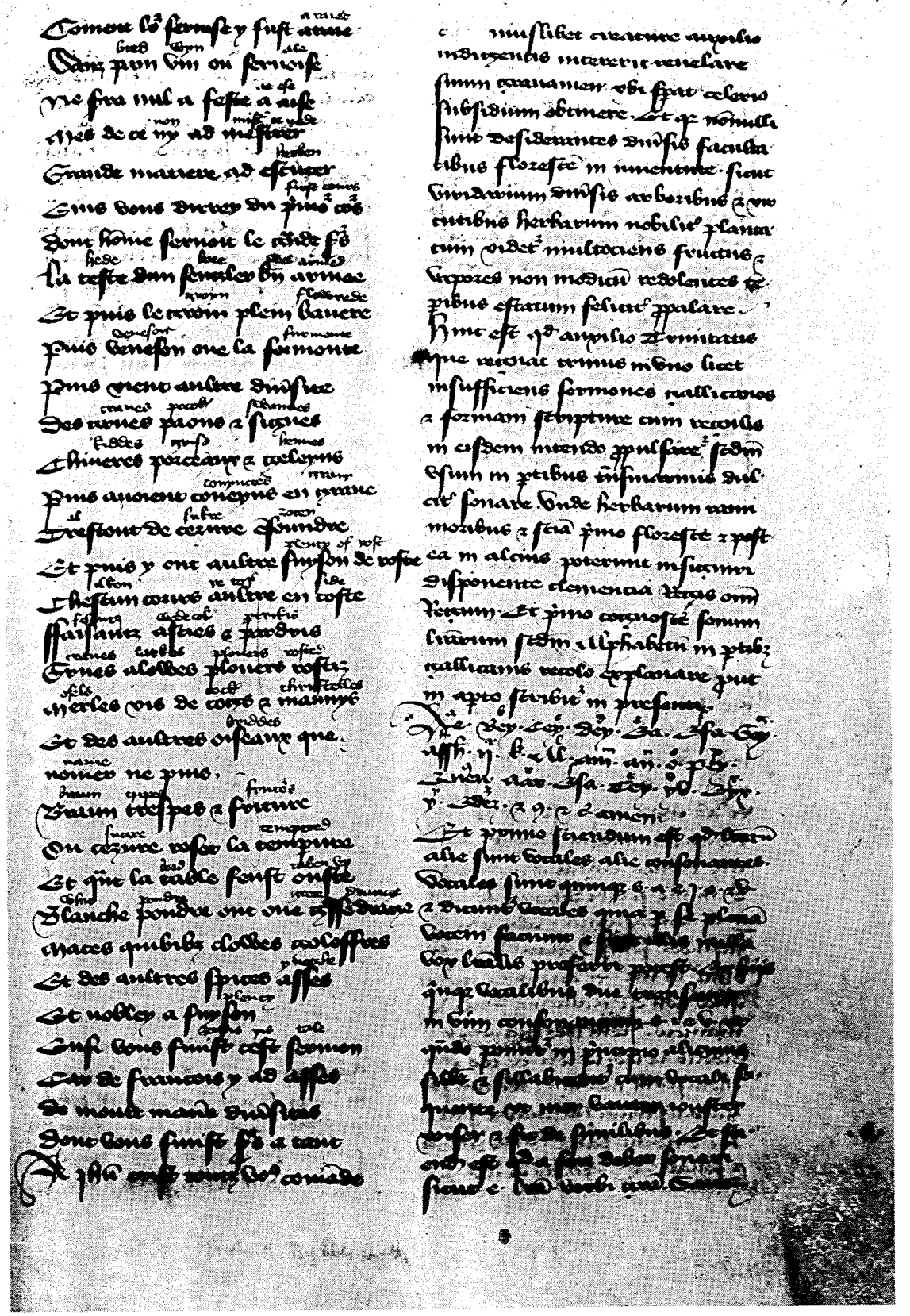
Tractatus Ortographie Gallicane

Oxford All Souls College

MS 182 ff. 340rb-344ra

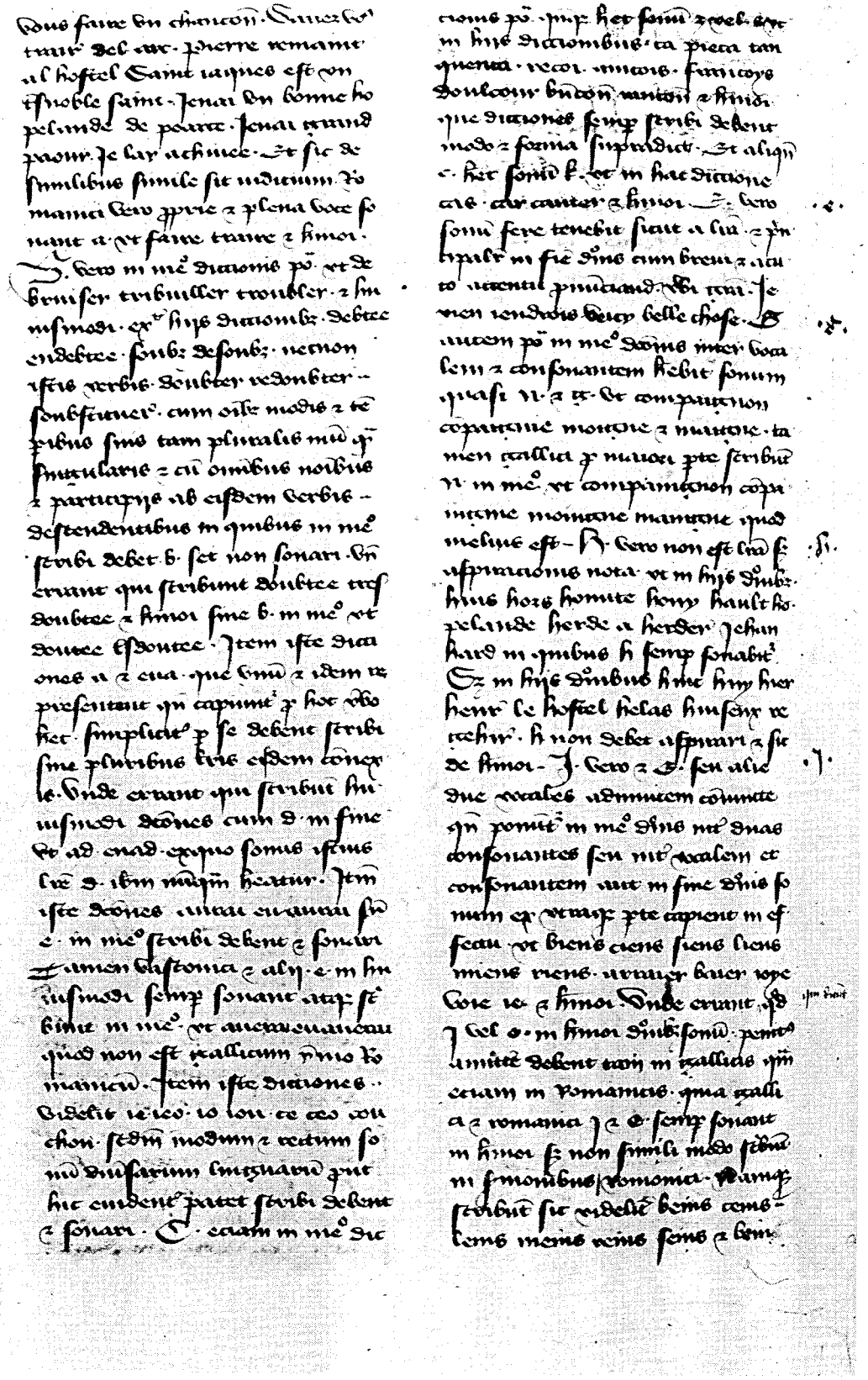
340ra

340rb



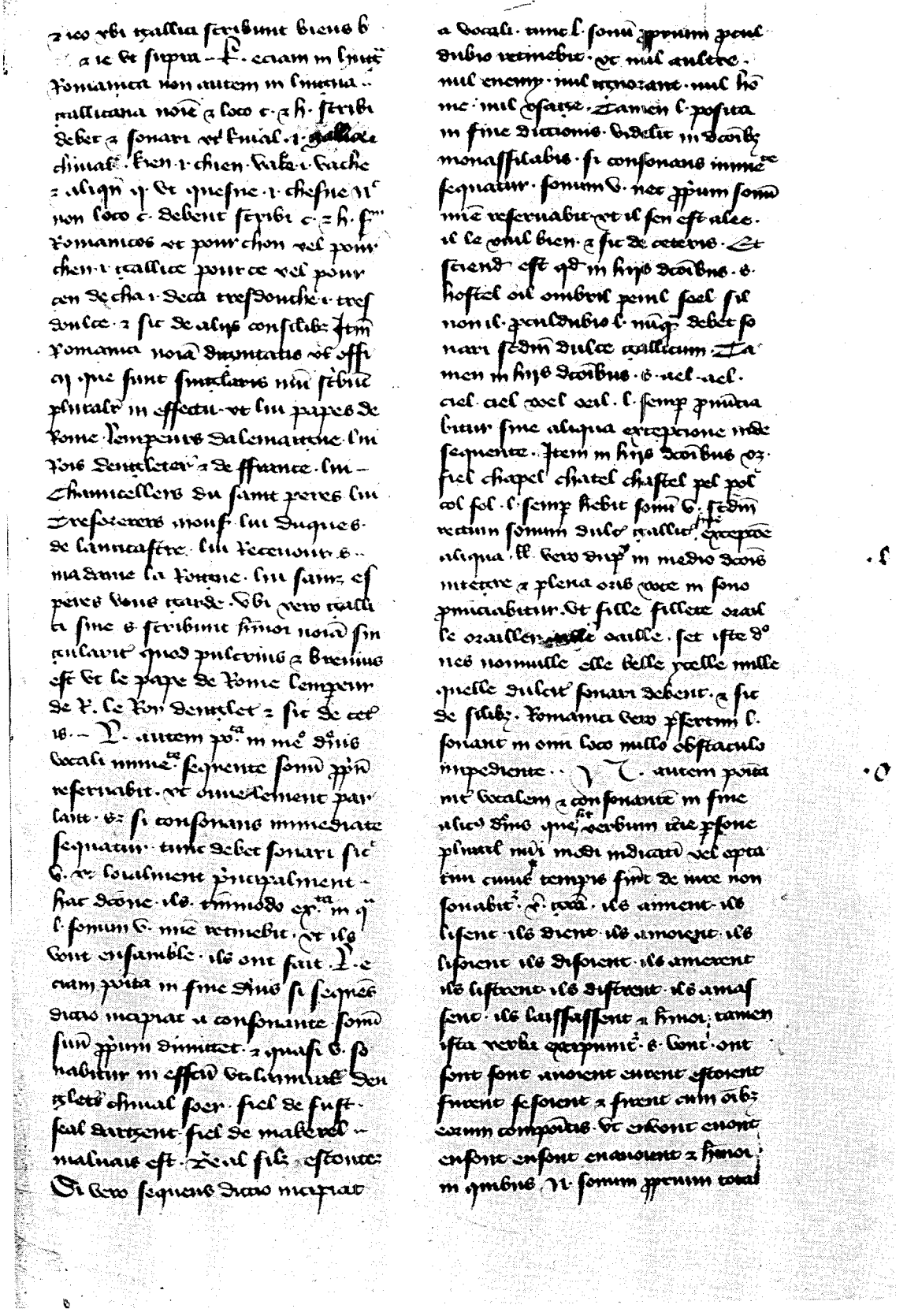
340va

340vb



341ra

341rb



341va

liter vesenabit. ·P· Vero ponta in fine dictionis consonantice immediate se quentes sonū suum plenum amittere debet & quā. Venassez ra trop grād quantitē · eapropter pons nobis in passionibus et plurib⁹ · set si dictionis immediate sequat³ sonum suū plenarie vesenabit · et immerito quia assez que trop quantitem · sed ista nova dicendi regula cōis sine p. sunt scribenda. Dicunt tamen romani non teneri illam regulam · qua pro maiori parte p in finali semper scribunt. Et in gallica bene pe tamen scribi · et duplex tempus corpus. ·T· Vero semper lenem necnon mollem hec sonum & nullum scribi debet in aliqua dictione sine diabolis vocalibus immediate sequentibus quarum prima erit C. et qui que quar quelre q uevr quir quarel an quant · et similes. Unde cavant qui scribunt q in finali dictionibus sine ista cōli C. de qui que quar quelre. Iam quidem modus scribendi videtur & regularis est quia non sequit³ regulam autoritatis gallicane · cui non licet p se rationabile fundamentum nisi causa · quia sic placuit instituentibus. Set et dicit sapiens · debile fundamentum fallit opus. Et Tullius dicens seu dicere quod una res esset & nullam (non) regulariter eam vocat & quare talis existere debuerit · ista infinita ratio sui doctoris nullius est valoris quia ratio est reprobanda. Item hic dico quar · indifferenter potest scribi cum k. q. vel c. ad placitum scribentium scripturis · quia k. q. & c. semper sunt eiusdem effectus que magis debent scribi in aliqua dictione sine C. nisi immediate sequentes ipsum de respectum ad principium syllabarum non tamen sibi modo syllibicante³ quia q. in aliqua dictione ponta in gallicis & romanis frequenter inter latinos & principaliter in latinis artificialib⁹ semper scribi debet cum diabolis vocalibus immediate sequentibus quarum prima erit C. ·Q· Et alicui in fine dictionis mediate ponatur quasi z. vel r. vel ten ay vraiment mal in cuer · Jenay bon cuer. Set dulcior est sonus quasi z. in lingua gallica quia quasi r. Tamen hec regula non tenet in omnibus et in hiis dictionibus quarum scam & scorer in quibus r. potius debet sonari & sic de similibus. ·S· Vero simplex in medio dictionis non debet sonari · si consonans immediate sequat³ · ut tresdouhre tresdouhre thoble tsrancois Nb hic regula capiunt³ iste dictiones · ordelie chastel chestayne estanier mesthine amoistine instance veristrer fuist estuve estuve estenement estuer sustiner substituer esthavuir transglutir nsginer disthavuir estanchier estendre espandre pesthier estendre disperser estuser · et omnibus participiis nominibus & adverbiis ab eisdem verbis qualitercumque grammatice vel extraordinariis in quibus s. scribi debet sonari · licet consonans immediate sequat³. Si vero vocalis immediate sequat³ · tunc sonus primum plenarie vesenabit · et trespercelent esthaubtesine esthomme esthumble. ·ſſ· Vero duplex in medio dictionis pō · semper punctuari debet et trespassement trespassable · et trespassable & humor · quem si s. simplex in fine alicuius dictionis ponat³ que sic pronuntiatur idem comunes del prosterno · & sequens dictio ini-

341vb

·P·

·S·

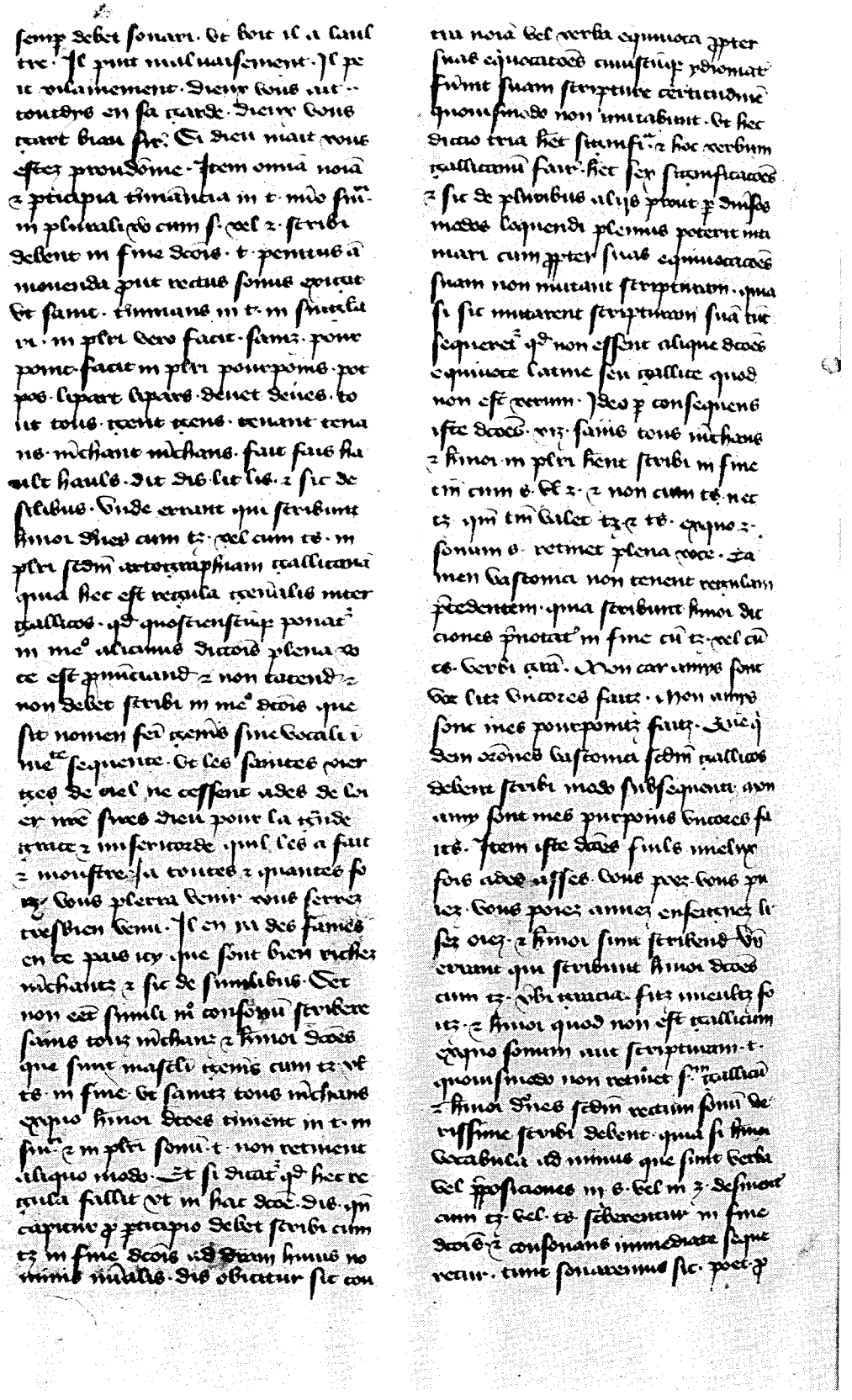
·ſſ·

342ra

342rb

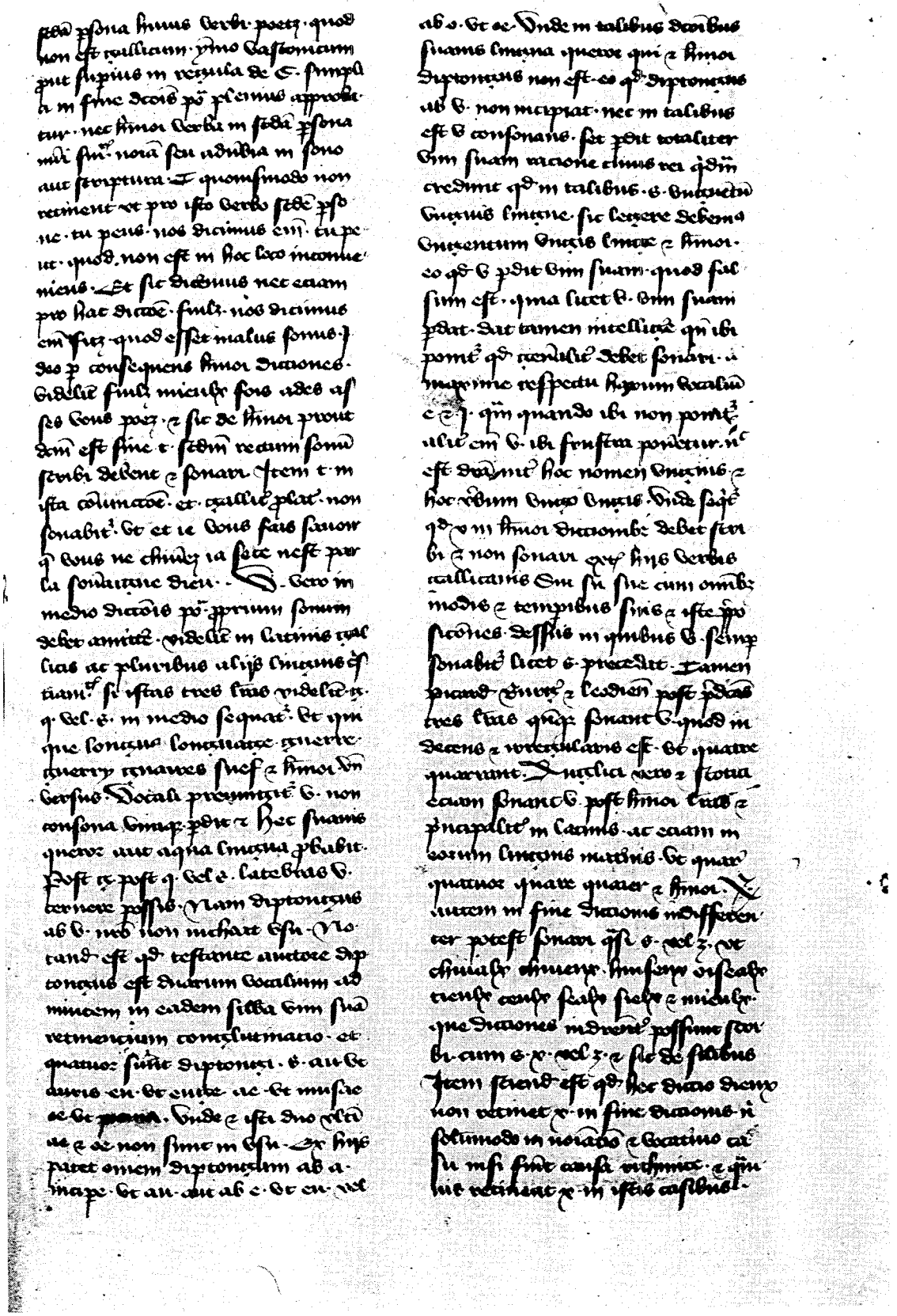
342va

342vb



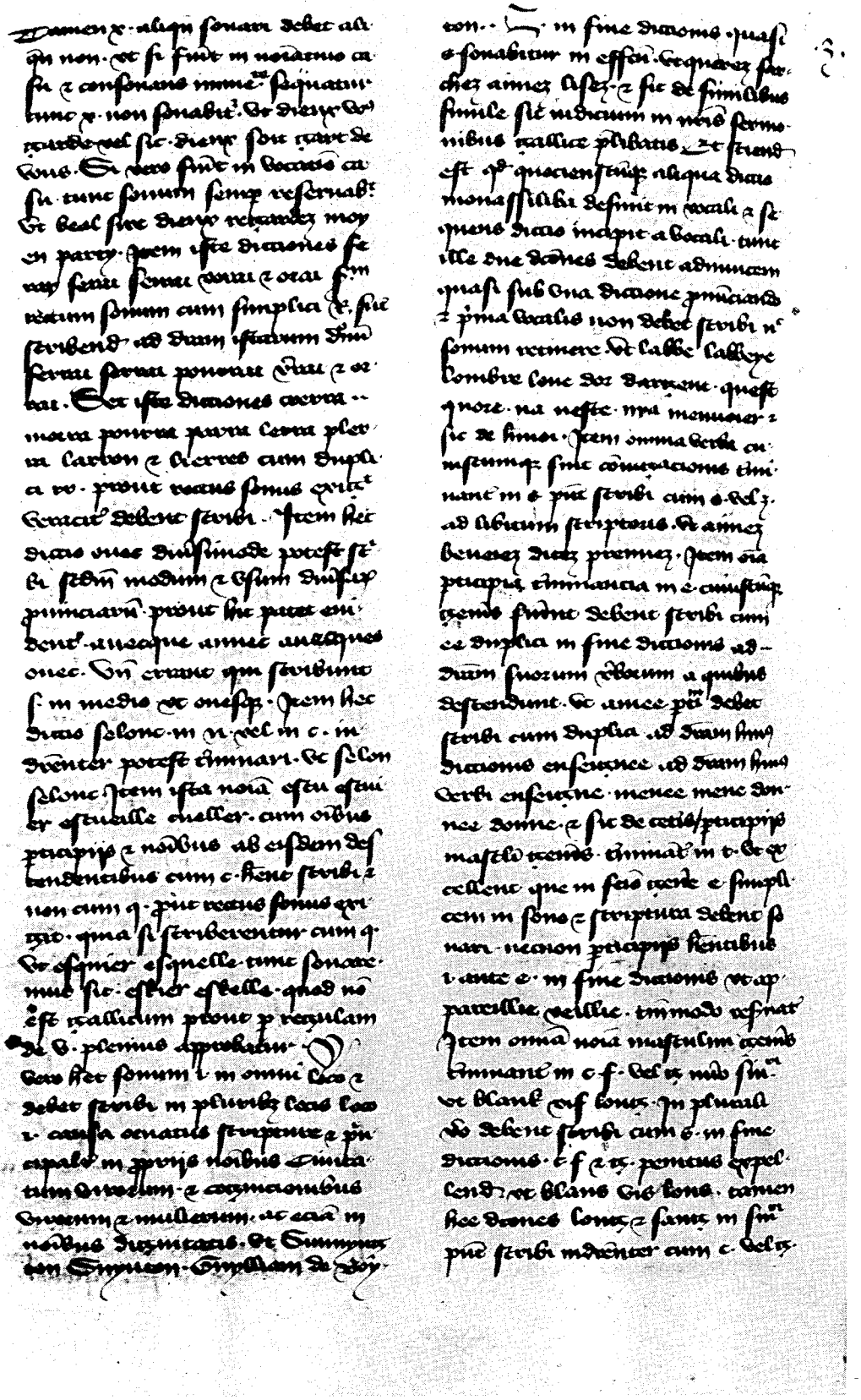
343ra

343rb



343va

343vb



343ra

ut lonc sanc. long et sang. Item
omnia nomina cuiuscumque generis
fuerint in fine dictionis habent
sonum duplicis ee. cum duplici
ee debent scribi ut amee pausee
puree rousee vinee simee et huiusmodi
nominibus adiectivis sed generis
ut sainte mainte. que in masculo
genere et numero singulari terminant in t.
dumtaxat exceptis. In quibus quidem
participiis ac nominibus supradictis
exceptis preexceptis ee. dupliciter in sono et
scriptura plenarie representantur
et sic de aliis huiusmodi prout superius
declaratum est. Unde clerici doctorum
sine detrimento singularis tem-
poribus florescere poterunt auxilio
trinitatis illos confortante quibus
omnibus et singulis in huiusmodi pro-
moveri decetero affectantur gratiam
et fortunam bone voluntatis dig-
netur concedere pater omnipotens
qui regnat trinus in uno bene
perseverare. et me T. H. parisius stu-
dentem forme et scripture cuius-
libet sermonis de partibus idem
veritatem depulsare licet non
sufficiens semper excusare mori-
bus et scientia devote cum affectu a-
men..

Explicit tractatus ortographie
gallicane per M. T. Coyfurel
ly. canonicum Aurelianensem docto-
rem utriusque iuris de novo edi-
tus secundum modum et formam pa-
risius..

* *

344rb

Salus vous mandons que
vienez cestes facez batre vint
quarters de fourment dis quar-
tres de segle. Cinq quartres
dorge. quarante quarters dave-
yns. cinquante quarters de feves
cessante quarters de poys blanks
cynk de poys vertz. dusze de poys
grisez ou griseux. xvij. quartres
de vestes. xix. de lentils. sicque nous
eions a la somme de iiij. xj. quar-
ters de touz manns de blees que
vous avez en nez granges. Et
aussi ferez trere de nostre estore chi-
vaulx affres juvenctz veaulx tores
toretz boefs bouetz vaches juven-
ces cenglers troyes vielx et ioesuez
porcs porchetz et porcelx. berbis
motons oueilx hoggetz ierces aig-
nelx garsez oues cignes cignetz
paons oue lour paonnetz chapons
coq gelines et pucyns asnes et
malardes. et tout aultre manere
de pultrie. columbes et columbelx
des oefs. miel cier quiers peaulx
launtz pelletz estrain blank et
paile fenethe et paisauche et tielx
menidres issues. sauve certain
parcelle suffisant pour litre as
chambres et as chivaulx et autres
proffitz que soient mieulx pour
nostre avantage et proffit a rendre
et les vendez iusques a la value
de xl. li. et nous envoiez mesme
la somme issint que nous la ei-
ons a loudres dymenge a un
quinzeisne proschein avenir.
Et oultre facez lever mes fer-
mes et rentz de cest fest de saint
michel ensemblement oue les
arreraiges des termes passez et

4) Walter de Bibbesworthのフランス語教本

語彙集：*Le Tretiz*

I. Text

Cambridge University Library, MS Gg 1.1 ff. 279va-294rb

Prologue —— *ll.* 1140

① Le tretiz ki munseignur [279va]
Gauter de Bithesweth fist
a ma dame Dyonise de Mounte-
④ chensi pur aprise de langage.
E co est a saver de primere tens
ke home neistra ou tut le lan-
gage par sa nature en sa juven-
⑧ te. Puis tut le fraunceis cum
il encurt en age e en estate de
husbondrie e manaungerie co*m*
pur arer, rebingner, warret*er*,
⑫ semer, searcler, syer, fauger,
carier, muer, batre, ventre, e
mouwere, pester, brescer, bracer,
haute feste araer. Puis tut
⑯ le fraunceis des bestes, e des oy-
seaus chescune assemblé e par
sa nature apris. Puis trestuit
le fraunceys des boys, preez e de [279vb]
⑳ pastures, vergers, gardins, cur-
tillages, ové tut le fraunceis
des flurs, e des fruz quil i su*nt*
e tut issint troverez vo*us* le dreit
㉔ ordre en parler e en respundre
qe nuls gentils homme covei*nt*
saver. Dount tut dis troverez
vo*us* primes le fraunceis e puis le
㉘ engleise amount.
Femme ke ap*ro*che sun teins
to belittre
De enfaunter moustre seins

midwif
Quant se purveit de une ventrere
Qui seit avisé cunseillere.
þe childe born
E quant li emfez serra neez [280ra]
swaþclut
Coveint k'il seit maylolez,
cradel
Puis en berce le cochez
a rockere
E de une bercere vo*us* purveez.
to crepe
Le enfant comence a chatener
Einz k'il sache a peez aler ;
slaverez
E qu*ant* il baave de nature,
fro slavering
P*ur* ces dras sauver de baavure ;
to his rockere
Dites dount a sa bercere
a slavering clout
Ke ele lui face une baavere
E qu*ant* comence de aler
cley bilagge him
De tay se veet espaluer,
laminge hurting
E pur maine e pur blesure
Garszoun ou garce li deit suire,
stomble falle
Qu'il ne cece ne ne checе.
Ensi coveint il bone pece,
E qu*ant* il encurt a tele age
Qui prendre se poet a langage,
E[n] f*ra*unceis lui devez dire
Cum p*ri*mes deit sun corz descr*ivr*e
Pur l'ordre aver de moun, e ma, [280rb]
Ton, e ta, soun, e ça, le, e la
Qu'i[l] en p*ar*ole seit meuz apris
E de nul autre escharnis.
Ma teste ou moun chef ;
þe scheld
La greve de moun chef
þe shed
Fetes la greve au laver

þe feldefare
E mangez la grive au diner,
lockes crispe
Jeo ai les cheveuz recercillez
hevese
Moun toup, vo*us* prie, estanchez :
foretop
En vo*st*re chief vo*us* avez toup,
hechele a toppe of flax
E serencez *de* lin le toup ;
atte toppe
En la rue juez au toup ;
wind the yarne
E la lute desr*e*nés le toup,
horn panne
Ill i ad moun hanepel,
brayn
Moun frount e ma cervele
Moun haterel ou mes temples ;
E les mousters dist hom te*m*ples.
Vostre regarde est graciose,
goundi
Mes vostre eel est chaciouse.
þe gounde
Des eus oustés la chacie [280va]
maldrop
E de nes le rupie.
Meuz vaut la rubie par .b.
Ki ne fet le rupie par .p.,
Car ci bource eut tant des rubies
Cum le nes ad des rupies,
Mult serreit riches de pirie
preciouse stones
Qui taunt eut de la rubie.
be appel of þe eie
De le oile est sauf la purnel
þe eie lidde
Si le pauper seit bon e bel.
heres
En les pauperes sunt les cilz ;
browes
Amount les eus su*n*t les surcilz,
E ausi avez vo*us* par reisun
þerles gristel
Deus nariz e un tendroun.

þe co
Mes war ki la chouve
cheke
Ne touche v*ost*re jouwe.
lippe þe *hare*
Vous avez la levere e le leverer,
þe pount *bock*
La liver*e* e le livre:
La lever*e* c'est ke enchost les dens,
Le lever*e* ki boys se tent dedeins;
La liver*e* sert de marchaundie, [280vb]
Le livere no*us* aprent clergie.
rof
En la bouche amount est palet,
Tasterés vos chose orde ou nette;
bissi
E les dames sunt ententives
þe gomes
Pur bien laver lur gingives,
E l'encheisun est bien certeine
honde
Ki eles le funt pur bone aleine.
Le col, la gorge e le mentoun
Dunt le fraunceis est com*m*un.
þe ȝroteboll
Dedens la gorge est le gargate
miderede
E pluis parfunt si gist rate.
faxwax
E si ad derere le wen au col
A chescune sage e au fol.
kanelbon
Desouz la launge est la fourcele,
Os fourché fraunceis l'apele.
E n'est pas mester tut a descriver
Du fraunceis ki chescun seit dire,
wombe *back* *bacbon*
Du ventre, dos ne de l'escine,
schuldir *arme* *breste*
Espaul, bras ne la peitrine:
Mes jeo vous frai la mustreisoun [281ra]
De fraunceis noun pas si com*m*un.
En chef devant en la fontayne,
neþere
La sovereine lever*e* e la suzaine.

wangeteth
En la buche sunt messeleres
E dens foreins, si tu les quers.
dalke
Au col avez un fossolet ;
þe skale
Desouz la lange est le filet.
hole
Chescun orail si ad molet.
rime *of hernes*
Par kakenole est cervele nest,
E pur certefier la parole
Conestre coveint la kakenole.
þonewonges
Desouz le oraie est le g*r*enoun ;
scholderbon
A l'espaule avez blazoun.
armole
Desouz le bras avez ascel ;
axetre
Parmi le char gist le escel.
mist
Desouz la mountayne surd le broil ;
erþe
En bace tere ad bon soil.
strif
Entre pledours sourt le toil.
north hest
Le vent de bise m*u*lt greve le oyl.
Aprés le aust si chet le foil ; [281rb]
þowinge
Aprés gele si vient remoil.
Cestes paroles ensi vo*us* coil
E l'emcheisun dire vo*us* coil
Pur meuz acorder en parlance
E descorder en variaunce.
Des espaules issint les braz ;
helbowes
Coustez ne meins ne lerrum pas,
Mes entre le bras en la mein
þe virste
Si est trové la kouue de la mein
þe back
La paume dedeinz, la clay dehors.
E le poyne ceste la mein enclos ;
E un poiné ki avez en mein

C'est la mein trestut plein ;
E ambesdeus les meins pleins
þe spone
E[n] F*ra*uncze apel hom galeins.
Kar meuz vodroie petite poiné
De gengeve*re* bien trié
þe spen
Ki ne ferroie cent galeins
De filaundre tut pleins
a ribbe *of a side*
Une coste de une costee ; [281va]
Adam en out deus enosté
Quant dame Eve primes fist.
Ne porte charge pur quei il gist,
Nepurqu*an*t ceo mot vient en place,
Mes bon est ke l'om le f*ra*unceis sace
De la coste quei signefie,
Car tote gent ne sevent mie.
Mes en le ventre est le umbile
shzare
E par desouz est le penile.
þees *bottokes* *clift*
Q*ui*ses e nages ou la fourchure
riding
Funt g*ra*nt eyse pur chivechure.
legges *knes*
Jaumbes e genois conoissez :
N'ad mester qe voz seient tochez,
hammes
Mes jaumbes sanz genois e karrez
starke
D'engeneler serreint trop rez.
hammes *garþors*
Au garrez unt ore gareters
Nos garzouns e nos esquiers,
carteres
Ne mie pur estre charretters,
Mes pur sauver lur lainers.
kalf
En la chaunbe avez la zure, [281vb]
E tant cum braoun i est ensure
tristes him
De meillur force home le assure
shzinebon *hurting*
Si l'eskanel seit saunz blezure.

sole *to* *hele*
Plaunte i ad, urtil e taloun
Dunt le fraunceis est *com*mun,
ankel *pinne*
Mes kevil de pé e kyvil de fust
Vodra jeo bien qe chescun le sust
ankles
Au pés avez les keviles:
Ne dites pas kyviles,
Kar kevil fet hom ferm ester
E kyvil fet li carpenter.

Ore pur aprise de ceo ki est dedenz le cors de homme:

Dedens le cors ad chescun hom
herte livre *longen*
Quere, foy e pomoum,
milte *þarme* *kidenere*
Esplen, bouele e reynoun,
mawe *senewes*
Estomak, veine e nerf enviroun;
bleddre
E ne ubliez ja la vescie,
helþe
Ky au ventre fet *gr*ant aie
Pur ceo qe urine la quiloms.
þees
Ne les reynes ja ne oblioms. [282ra]
galle
Ore ni faut si le fel noun
De quanqe est dedenz le cors avom.
a skine
Si avez par dehors une pel,
huide
E de une beste quire apel.
fleyx *wayn*
Vos avez la char e le char,
scorn
Mes cuntregardom de *eschar:*
Eschar par folur hom revilist;
quakes
La char par hidour en hom fremist.
fleyz *wayn*
Jeo vi la char seer en char
scorn
E de la char fere eschar.

Mes eus par dolur ensecchisent ;

swellin

Le nerfs du bevour engurdisent.

skinne

Home e femme ount la pele,

huide

De mort beste quir apele.

laste knel

Le clercke soune le drener apel.

Li prestre feste a Rome apel.

Ore avez oy la force du cors,

Dedeins ausi e dehors.

Ore du fraunceis de nostre vesture
od tut nostre autre herneis :

Vestez vo*us* dras, beaus duz enfiauns [282rb]

Chaucez vos gauns, souleres e brais ;

Mettez le chaperoun, coverez le chief ;

Tachez vos botuns e derecef

De une coreie vo*us* ceintez.

Ne di pas 'vo*us* enceintez'

Kar femme est par home enceinete

E de une ceinture est ele ceinte.

D(e) la ceinture le pendaunt

bokel

Passe p*ar*mi trespase le mordaunt ;

tongge

E ausi deit li hardiloun

bore of a nalfin

Passer par tru de subiloun.

Si juvene enfaunt estent la main

Au matin vers le pain,

lompe

Une bribe dunc li donez,

szyvere

Ou une lesche si plus n'avez.

Au diner li donez des ouwes ;

Si les attirés a ses eus.

schelle *soupe*

Oustés l'eschale einz q'il hume,

L'entruit ausi e le aubume,

yolke

E li donez le mouvel. [282va]

A home seine bon morcel,

sterene
Mes remuez la germinoun,
Mal a desire pur chescun hom.
Des poumes vo*us* die ensement
La manere e l'affetement.
Quant poumes mangent p*ur* ceo les eime*nt*
E de dreit enfanz a reson les cleime*n*t,
stalk
Oustez l'estiche e la parure,
Si lur donez la morsure.
kore
La pepinere vo*us* engettez
E les pepines le plauntez.

Ore le fraunceis des bestes e oyseus
chescune asemblé par son naturele langage :

Beaus duz enfanz, p*ur* ben ap*r*endre
En fraunceis devez entendre
Ki de chescune manere asemblé
Des bestes ki Deus ad formé
E des oyseaus ensement
Coveint parler p*ro*prement.
hertes
Primes ou cerfs sust assemblé
Une herde est apelé [282vb]
cranes
E des gruwes ausi une herde,
E des grives sauns .h. eerde;
partriz
Nyé de feisauntz cové de p*ar*triz,
larkes
Dameie des alouues, trippe de berbiz ;
coltes
Harras dist hom des poleins ;
cherles
Grant fouleie dist hom del vileins,
Soundre des porckes, sundre des esturneus,
smale briddes
Bovee des herouns pipee des oyseauz,
Route de beofs, mute des chiens,
Coumble de blé, soume des biens,
mork
Masse de argent, fimer*e* des feins,
teles
Greile des gelins, turbe de c*re*celes,

Luire de faucouns, luyre de puceles.

houting

Mes pucele ceo est saunz juper
Les gentils faucouns aluirer.
Eschele dist home de bataille ;
Foysun dist home de vif aumaille
Des dames dist hom compaignie
E des ouwes ne chaungez mie
Car de une fraunceis nient le deit ; [283ra]
Ly mestre baudiment l'oustreit.

Ore de la naturele noise des toutes manere des bestes :

Ore oiez naturément
Des bestes le diversement
Checun de eus e checune,
Solum ki sa nature doune.

berre

Home parle, ourse braie
Ki a demesure se desraie ;

cow lowes crane crekez
Vache mugist, gruue groule,

romies hasil quakez
Leoun rougist, coudre croule,

neyez larke
Chivaule henist, alouwe chaunte,

croukes
Columbe gerist e cock chaunte,

mewith cisses
Chate mimoune, cerpent cifle,

roreth suen cisses
Asne rezane, cine recifle,

wolfe yollez berkes
Louwe oule, chein baie

fereth
E home e beste sovent afraye.

fulimard sterez
Putois li aynel afraie.

fax welleth brocke
Gopil cleye, thesson traie
Quant li venour li quer praie.

gandre
Ouwe jaungle, jars agroile, [283rb]

enede quekes
Ane en mareis jaroile,

quekine trappe
Mes il i ad jaroil e garoile;
La difference dire vo*us* voile:
Li ane jaroil en rivere
Si hom de falcoun la quere,
Mes devant un vile en guere
þe trappe
Afichom le garoil en tere
Pur le barbecan defendre
A l'assaut ke home veut rendre,
Si ki la porte i perde rien
Si l guerreour le seet bien.
tode crodeth frogge
Crapaut coaule, reyne gaille,
snake
Collure proprement regaille.
gris wineth boor yelleth
Purcel gerist, cengler releie,
kide muteres bole yelleth
Cheverau cherist e tor torreie.
soune grounes draf
Troye groundile quant drache quert;
doukere
Faucoun tercel le plounoun fert.
kakeles
Ausint diez li geline patile
leyth
Qu*ar*t pouné ad en gardin ou en vile,
Car de Fraunce ai tele estile [283va]
a henne coppet leith and kakeles
Ki geline huppé poune et patile,
E ki trop se avaunce sanz resoun.
A la geline est compaignoun
Ki plus se avaunce p*ur* un eof
Ki sa arure ne fet li boef.
szep bleteth hoppeth
Berbiz baleie, dame bale,
bagge
Espicer prent ces mers de bale.
gones
Par trop veiller home baal;
A sun serjaunt sa chose baille.
raxes him
Aprẽs dormer hom se espreche;
Le prestre en le eglise preche

Li peschour en viver pesche

nette *hock*
Ore de sa rey, ore de son hesche.

Faily lest la tere fresche

Pur achater la char freische.

ring
Qu*an*t povre femme mene la tresche,

spade
Plus la vaudreit en mein la besche,

Car el n'ad en sa abesche

lompe *szivere*
A payn ne a b[ri]be ne a lesche.

liketh
Soun chael la paele lesche. [283vb]

lappen
Ore donez a chauel a flater

dewe
Ki lesche la rosé de l'herber.

losenge
Eschuez flatour ki seet flater

glonden
E les genz espeluper.

E tun chaperoun ne vent lesser

a mote
Un poyton, tant ad cher

catel
Noun pas tei, mes tun aveir

have
Ke desire de tei aver.

Ore de diverseté de fraunceiz ki tut est dist de un engleis :

Veez ci veint devaunt vous

Un chivaler bieau tut rous

reed
Qui une destrere sor se est munté,

reed
Esku de goules ad porté

Un launce rouge en l'uyn mein,

De vin vermaille l'autre plein,

Q*i* ne manjuwe point de peschoun

reed
S[i] de le haranc sor noun.

quene
Je vie uine reyne sanz rey

frock
Pur une reyne fere desray
Ki enmye le reume le rey [284ra]
forwe *nette*
En un reoun fist en un rey.
in myn hevede lond
Un vileint vint e⟨n⟩ ma forer
don out of time
Ki eins oy foreiner
E dist qu'il voleit foreir,
þef
Li lers qu'il veit forveier.

Ore le fraunceis du prẽ e du chaumpe e de carier les blez :

Ore aloms as prẽs e as champs
Pur enformer vos enfaunz.
sicthe mowe a swathe of mede
De faus fauchez un andenne de prẽ ;
sikel rap a rep
De faucil liez un javele de blẽ
repes *szeves*
Les javeles en garbes liez ;
En trosseaus les garbes mettez.
a pese ris
Un warrott de peis suz arascez
beene *szeves*
E les favots du warrott liez.
Mes n'ad mester ke vo*us* dioms
De tute manere de blẽ les nouns,
rie *barli*
De segle, orge ne forment
Ke co*m*mune sunt a tote gent.
Mes de autre semail trop i crest
Ki pur mei a dire ne est : [284rb]
darnel *dranck*
Le yverai i crest e le betel
thar *kokil*
Le azoun ausi e le neel,
bloweth *malue*
Le blaverole e le mauwe ausi
szerlok
Caroil e autre qe ne vo*us* die,
Car trop avereit trop a fere
to telle
Si tuz semaus vo*us* die retrere.

Mes qu*an*t tens est de carier
Vos charettez fetes charger,
Mes chivaus deit li charetter
haling wippe
De sa riote demener.
mouwe
En grange vos blez muez
Dohors la grange vos blez tassez,
reke
Car une moye est dit en g*r*ange
stake
E une thase dehors la grange.
reke
Moilom apellez ceo qe est en feyn
E thas dist hom ceo qe est en grein,
anenes eyles
En graunge gardez vo*us* des arestez
En chaumpe vo*us* blez des autre bestes.
En sale chauntez vo*us* lẽ gestes
Pur oblier grefs e molestes [284va]
Au muster verrez degysẽ testes
Ke resemblent cornu bestes
biddest
Mes si vo*us* quillez genz a festes,
Priez ceuz que sunt en questes
Pur lur malicez qe sunt si prestes,
De fere grevaunces e molestes.
Mes devisẽ point ne estes
A ceuz donez les chars restes.

Ore pur pestre vostre pain au fourn le fraunceis :

Quant vos*t*re blẽ est ben batu
windewith grounden
Puis ventez e puis molu,
Mes pur plus p*ar*fitement
Parler devaunt bone gent
Il ad suffler, venter e corneer
Dunt la resoun fet a saver ;
Le fu suffle li quistroun
E le vent vente p*ar*mi le busschoun,
Mes venour p*ro*prement corneie
Qu*an*t chace prent de pure preihe.

grist *mele*
Mes par le moudre devint farin [284vb]
Ceo qi en greine fust huy matyn
E de farine ja deveint flour
Par le bulenge le pestour ;
bolting cloth
Car par le bulenge est severé
branne
La flour en fourfre einz demoré
A vos chivaus le fourfre donez.
Eawe teve a la flour medlez
E v*ost*re paste ensuit pestrez
ribbe *trhow*
E de un rastuer le auge moundez.
rake *ribbe*
Mes il i ad raster e rastuer
Ki servent de diverse mester,
Li pestour ad en mein la rastel
ribbe *trhow*
Mes li rastuer fest li auge bel ;
Car qu*ant* le paste a auge aerd
Li rastuer de ceo lur cert,
E tant cum feins sunt en prés
Est li rastel sovent manez.
feron
Eschauffez le fourn de feugere
Pur defaute de littere.
Littere e littere sunt divers [285ra]
Discordaunt dient ces clers.
þe mouwe *mouweth*
Li faucheour littere fauche
Pur eise en littere hom chivauche.
Littere p*ro*prement sauz faille
En pure frauncé dist hom 'paile'.
chaf *stre*
Pail e paille sunt nomez
Q*uan*t du greine sunt severez
E si paile ne seit pas,
pese stre
Pernez dunc le pesaz.
E quant le forn est bien chauffé
Du pel seit le past entré.

Ore le fraunceis de ceo ki a bone

mesuere apent :

Quant le past est au four
E de pestre i prent sojour,
housewif
E demesters la mesuer
Ne serra pas trop nunchaler,
Einz devendra bone curteller.
lynsede
Ore alez semer vostre lyneis
E ne ubliez ja v*ost*re canois,
filax bolles
Car de lyn averez les bucheaus [285rb]
E de caumbre les cordeaus.
wede hit
Vostre lyn par tens sarchez
E par tens le arascez,
rette hit
Puis aprés la rehaez
druwe hit
E puis ou solail le secchez.
E pur tut sauver, m*u*lt fest bel
swingle stock
Uncore coveint sere au pessel
swingle
Pur escuger v*os*tre lyn
Car autrement n'est pas fin
E jeo requer, dame Muriel,
Ore vo*us* devez au pessel ;
Mes qu*an*t au pessel ad sun dever
ribbe
Dunt irrez a rastuer,
hchele
E la serence dunt pernez
E v*os*tre lyn serencez ;
rocche
E de un conoil vo*us* purveez
Mes le fusil ja ne ubliez,
werne
E le virel ki a ceo suffist.
Ne sai ki plus vo*us* serreit dist,
Mes ci ad diverseté [285va]
Dunt chescun n'est mie avisé.
spinel
De treys choses seert le fusil :
Le fil est filé du fusil,

flint *virhirne*
E le fu de cailloun fert le fusil
mulne spinel
E le blé est molu par le fusil.
Quant vostre fil est bien filee,
E vostre fusil tut emplee
to þe rel
Au trauil coveint dunt aler
þe yerne to relend
Vostre fileie trauiller.
yarnewinde
E puis coveint a la voidere,
Cum du filleie est la manere
to winden *rel*
Pur voider aprés le trauil
weven
E puis aprés tristrer le voil.
Mes quei fest ore ma dame Hude
a clewe *wides*
Un lussel de ses voiders wude.
werpen
E la tristresce quant peru le ha
spooles
Tantost ses trames voidra,
E pur estre saunz blame
a webbing szaly
Purveier coveint de une lame.
Autre chose i apent
Mes ne sai verrement.

Ore le fraunceis pur breser brece e bracer cerveise :

Puis ki desore suffist
Le fraunceis qe vous ai dist,
Ore ferreit bien a saver
breser
Cum l'en deit breser e bracer
A la manere ke hom fest serveise
kisses
Pur fere nos noces bien a ese
a keiex
Allumés, auncele, une frenole,
a cake of spices
Quant averas mangé de kakenole,
fat
En une cuve large e leez

[285vb]

stepe
Cel orge la enfondrez
E quant il est bien enfondré,
laden outh
E le eauwe seit descouelé
Mountez dunc cele haut soler
swepen
Si le facez bien baler,
E la coucherez v*ost*re blé
spired
Taunt cum seit bien germee ;
E de cele houre apeleras
malt
Breez qe einz blé on nomaz. [286ra]
Le breez de v*o*stre mein movez
rouwes
En mounceus ou est re*n*gez,
lepe
E puis le portés en une corbail
kulne
Pur ensecher au torrail,
Car corbail ou corbailloun
Vos servirunt tut a foisoun.
grounden
Puis serra le brez molu
E de eauwe chaude bien enbu.
Si le lessez descoure ataunt
mahissing fate
Hors de keverel meintenaunt
Taunt cum la bresceresce entent
wort
Ki ele eit bersil a talent,
grout
E puis le berzize prendra
De forment ou orge ki ele a,
berme *worte*
E par le geeste e le berzille
Dunt home plus se sutille,
Par dreit dever de bracerye.
Mes tut diviser ne sai jeo mie,
Mes tut issint de art en art
Attirez chescune part [286rb]
Deskes vo*us* eez bone serveise,
Dount home devient si ben a eise

Ki les une en p*r*enent taunt
Ke il enyverent meintenant.
Serveise fet miracles e merveilles:
De une chaundaile deus chaundailes,
Yveresce tent lais home a clerke
Home mesconu fet aver merke;
Yveresce fet hom fort chatoner
hose *houten*
Home aroé fet haut juper;
Yveresce fet coyfe de bricoun
Rouge teint saunz vermeilloun,
E dunt dist home ki p*ar* seint Jorge
Trop ad il bu grece de orge.
A telez li auctour se repose,
Car parler veut de autre chose.

Ore pur peschour en viver
ou en estaunck le fraunceis:

Si saver voillez la manere
fische
Cum pescher devez en vivere,
Vivere est p*ro*prement nomé [286va]
Ou ewe vif est trové;
laden hout
E euwe de servour p*ri*mes espuchez
Car du peissoun la ne faudrez,
pole
E si vo*us* faudrez a cel estauncke
alwei
Ou le eauwe est a descoraunt,
abidige
Alez dount saunz delai
gret pol
Ou espleiteromes tut dreit au lay
muire
Car c'este eauwe en butemay.
szyne
La coveint pescher de nace
neth
Ou petite rei ne trove grace.
szine *ridel*
Il i ad nace e crivere ausi
Commune fraunceis a chescuni.
smale
La nace est menume*n*t overez,

Mes plus large par tuz assez
Ad le crivere pur quei le di,
Car autre difference n'ad ici.
Mes returnoms a la matire
Ki de pescher vo*us* voille dire,
þe bobem *torn hep*
Le gurget de nace revercez
fulþe
L'ordure leins engettez ; [286vb]
tode *hevete*
Capaude e lezart ne esparniez
neddre *snake*
Serpent e colure ausi tuez ;
greet *flint*
Gravele e cailloun eruez
snayl
E lymaçoun ausint destruez.
Si du pessohun i trrovez
gilles
Par les vemberges le p*r*enez.
kelinge
Ci il seit mulewel de mer
Overez le devez e espander,
Le no tantost en oustez
Bouwele e eschine ensi le frez.
Si returnez ver mesoun
gappe
Du gardin par cele crevessoun
grene balke
Tant cum venes au vert tenail
Ou le pastour est ou le aumail,
szadewe
Puis pa(r) corbois en cel umbrail
wode hevese
Passerez desouz le hourail.
stepinstones
Mes dount servent a tant des peres
Ki sunt appelez passueres
stremes
Pur passer secke le russeles
Ki sunt si clers e si beles, [287ra]
Il i ad ourail par .h. escrit
Orail ausi saunz .h. est dist.
hevese *lindes huides*
Desouz le hourail se keuve laroun

Et par le orail est meint hom.
Mes einz ki passez plus avaunt
balke
De tenail vo*us* ert plus disaunt,
Pur ceo qu'il ad plus de sens
Dunt tel i ad il difference.
Il ad tenoun e tenail
E tenailles ki n'est merveille.
handel *tilier*
Ki tenoun tent li cotuyer
E par le tenail passe meinte ber,
tonges *colles*
Mes tenailles servent des carbuns
En yver qu*a*nt au fu seoms,
smith
E au fevre sert de custume
Qu*a*nt du martel sert sur l'enclume.

Ore pur beau temps e pur tempeste :

Ore pleut, ore geele ;
þaweth
Ore remet, ore regele.
Pur la gelé avez vo*us* glace [287rb]
E par la glace avez vo*us* ve*re*glace,
E si n'est pas bon trop hastere
Sur vereglace pur vereglacere,
E geele e pluwe deguttaunt
szlidinde
Fount le chemin trop lidaunt.
sletes
Ore negge, ore cymeie.
Le cyme enpire v*o*stre veie ;
a flake of snowe
La bouche me entre un aumfe de neif,
Ja quident qi jeo euse g*r*ant seif.
haileth
Nos averoms grisil puis q'*i*l grele
smale
Assez trop non pas trop grele.
þonner *þondres*
Jeo oy toner, veir il toune
toune
Dunt la cerveise empire en toune,
slepeth
Ore ne suffrez mon pee toune.

Nul de vo*us* mot ne soune.
Freid eit de l'yver l'orer
Un devinail voil demustrer:
En yver quant l'orere chaunge
Une verge i crest estrange,
Verge qui est saunz verdour [287va]
Sauns foil crest e saunz flour.
Qu*an*t vendra le chaut esté
La verge ne ert ja moustré.
En yver qu*an*t l'orere chaunge
E le tens devient estraunge
Qi a meint hom fet fort endurer,
Pur le destreit de l'yver
comeled
Dunt avez la mein si estomie
Ki pur le freit ne purrez mie
hant motile
De deis feir la capinole.
Mes vodroie suz plume mole
Seer pres du fu ki a la carole,
garlond *bloweth*
Chapeu vestu de blauverole
Ou de quiller primerole
Pur fere chapeus a clers d'escole
keix
Ki par bost qui ne vaut frenole
E par knyvet ou virole
Sovent attrere femme fole,
Dunt teus ki sunt de tel escole
Vaudroient plus en la jayhole [287vb]
Ki jevene femme en oriole,
Car quer de femme est si mole
beclippe hure
Esquier ou clerke qu*an*t l'acole,
Ki sovent a bref parole
Femme fole le recole.
Ore pleut a Deu qe tels foles
pokes
Ussent faces pleins de veroles,
maselinges
E ceus ribaus les rugeroles.
Si lerreint dunt les braceroles
E les foles les karoles,

Eschurent les blaces foles.
Mes pur aprendre ces innocens
Des viroles dirrai plus de sens:
Il i ad virole e verole
Ki sunt de diverse escole.
La virole la maunche garde
De cotel li mau musard,
Mes la verole la face enpire
Ne seit ja de si grant sire,
Mes c'este une varole pure
Ki de cholet crest par nature.
Un verme ki vert est coluré
En Fraunce est varole nomé.

Ore le fraunceis des flurs et des fruz du verger :

Le jour devient beaus e cler;
pleyen
Alom dedure ou banoer
Au verget ou sunt les fluris
Dunt en issent les duz odurs,
Herbes ausi pur medicine
Dunt les noms ci vous divine.
lilie
Fluir de rose e fluir de lys:
Liz vaut pur roingne, rose pur pis.
solicle
Ausi i crest la fluir de surcye,
helpe
Ki a les eus fet grant aye.
kousloppe
Primerole e prineveir
Qui tost le mustrent en tens de veir.
Here du bois e here terrestre
En ceo boys devient crestre.
weibrede
Ci ert assez de plauntayne
E bugle ausi, herbe saine; [288rb]
herte tonge *chine*
Cerlaunge ki sovent crest en crevez,
Une herbe qe severouse redrez
E ausi troverez plenté des navez,
dayseie
Consoude la blanche fluir

smerdocke
E mercurial le gr*an*t valour.
surdoke
Pur sause vaut la surele
roddok
Pur home teignous la parele.
Parele i ad parele e parraus :
De tote manere des oyseaus
Une couple ad de mal e femel ;
C'est un parel nom pas parele.
E ausi sunt pareaus nomez
Puis ki ensemble sunt niez.
Uncore as flures me voil aler
Ki ne fest mie a ublier,
moywed
Car hermoise vo*us* troverez
E plantayne si la semmez.
E si vo*us* trovez au verger
mayre
Ameroke e gletoner,
tuybil
Les arassez de une besagu [288va]
E plauntez cholet en lur liu.

Ore le fraunceis des arbres du verger :

En ceo verger des arbres creisse*n*t
Par charge des fruiz le uns abesent
appiltre peretre chiritre
Pomer, perere e coreiser,
haish brom plontre
Freine, genest e pruner,
hawethen hawes
Ceneiller qe ceneilles port
sloborne *slos*
E le fouder qe le foudeines aporte ;
brere *hepes*
Englenter ki les peperonges co*m*porte
bolastre *bolas*
Crekere ki les crekes forporte.
cirnetre *cirnes*
Ly alier port les alies,
Dunt Alianore en auncieneries
Le noun reçust de une rey
Ki out aliez en or devaunt sei.

quincetre
Tut ausi crest li coingner
Sovent le veit hom au v*er*ger.
Mes si ad diversité grant
Ki ne sevent mie aquaunt.
in stockes
Li seignur fet l'un cneif coignier
stockes
En ces ceps pur chastier. [288vb]
Pernez un coing, si bates le secke coigner
a wegh
E coupez du coin un coigner ;
E coingne est il ensement
Ki fet la moneie de l'argent.
Des autres arbres i sunt ausi,
Pur meuz aprendre chescuni,
box palmetre mapil
Buit i ad, paumere e arable
Ki n'est suffert en tere arable
holintre
Mes a verger crest la houce,
tabart
Ki de nint ne vaut p*ur* houce
helren
E le sueau li crest ausi,
Co*m*mune fust a chescuni.
wilwe hoke iv
Sauz i crest e cheine e yf,
De ceo fraunceis n'ad guers d'estrif
Car le langage est ben co*m*mune
E de clerck e de clerjoune.
helre
Du sueth l'em fet sueaus
Un manger bo*n* e beaus.

Ore le fraunceis des oyseaus de bois :

Quant du verger avom le chois, [289ra]
Aloms ore juer a boys
Ou la russinole, þe nichtingale,
houle
Meuz chaunte ki houswan en sale.
prostel bose
E meuz chaute mauviz en busson
Ki ne fet chauf sorriz en meisoun.

osel
En branche set le menue merle
sheldedrake
En mareis demert la herle ;
stare
Uncore il ad ausi filaundre
wodelarke
E le oysel ki ad noun chalaundre
cricket
Au four meint le salemaundre
scheden hifronne
Suffrez le pesschon espaundre ;
Mes il i ad espandre e espaundre
Espendre ensement e pandre.
telles
Cil espandi conceil d'amy
Ki li deskevre a nuly,
schedes
E li enfez de grẽ espaunde
Hors de sa quele sa viande ;
flakerers
E des eyles paunde peschoun
Quant vif en rei le prent hom.
spele
Mes espandere est la quarte parole [289rb]
E ceo funt le clerjouns d'escole,
Car espeau naturement
Ki les lettres ensemble prent.
Eyles e eeles sunt divers
Descordaunt dient des clers :
finnent
Des eiles neent ces peschons,
sparwes
Den eeles volent ces moschoms.
Ausi ad il naer e noer e nager
Dunt la resoun fest a saver.
swimmeth
En mer nee li peschoun
drounes
E en mer noe mainte prodom ;
hores *rowen*
Mes des virouns deivent nager
bot *szipman*
En bateles li mariner.
snowe
Mes en yver veoms negger

flakes
E les aumfes avaler.
Ore a oyseaus rediroms
Ou plus aprendre i purroms.
En chaumbre e aillurs ausi
woddekoc
Depeint home ceste oysel asci
Mes veez ou tapist un ascie ; [289va]
Fraunceis veut ke l'em li die.
Plus avaunt ore venés
E ceo ki verrez entendés,
roddocke
Car il i ad vereder e verder
forester
L'un oysel, l'autre forester ;
un wranne
Car par cy vole le vereuder
E par la voit li forester.
Ci vient volaunt un restel
stouc
E ce trest ver cele tresel ;
Car de ascies meuz vaut a restel
stouc
Ki vironer en un beau trescel,
fiþele
Ki un beau treste de la viele
floute
Ou nule note de frestele.
titomoze
Uncore avez le musinge
þoursekes
Ki les haies u boys renge.
yer gurdel
Deslacez, valet, toust ta renge
Si renger volez le musenge.
þe rede fleye
Uncore i ad la palevole
golfinges
E ausi la chardonerole.
boterfleie
E si ad des papilouns [289vb]
þisteles
Ki volunters seent en chardoms,
breirs
E en les runces ensement
Usent de seer naturelment

greshop
E ceo ne fet pas li grissilour
Ki en curtillage ad sun sojour,
hirchoun
Ne li hirchoun tient lui pluis
Ki prent le poume qe chet jus
fleiez *gnattes*
Ne mouches ne wibes ne su*n*t mie,
netle
Car il eiment plus la urtie.
dike *doukere*
Ausi ad il anede e plumjoun
Ki en yvere unt lur mansioun.
wipes
En mores meinent les waneles;
lanes
En viles sunt les veneles.
fanne
En graunge usom la vaanne
haterade
En quer de enviouse e*st* le haane.
wilde *ges*
Ci vient volaunt un ouwe roser
Un blaret ou li associer.
E meuz serroie de un blareth pu
rock
Ke ne serroie du char de fru.
swalwe
E pluis est ignele un arounde [290ra]
storcke
Ki nul sygoun p*ar*mi le munde
hevesing
E severoundel a la cheverounde
swalwe
Prent le meissoun e le arounde,
snyte
E li oisel ke ad noun bekas
streing
Pres du river est pris a las.
kochou
Le chaunt de kokel ent recous
E si n'est guers delicious.
Poyne serreit si riotuse
Si sun chaunt fu graciouse.
E plus est oi en oriol

wodewale
Ki la noise l'orkoil.

Ore le fraunceis des bestes du boys :

En fraunceis plus avant me voile
Por veer les estres du boyse.
brocke
Jeo vi vener un graunt tesschom
Ki ad guerpi sa mansioun
fox
Pur les fens du gupil
Ki l'ad mis en exil.
fulymard
E maudist seit li mauputois,
Car seit en vile ou en boys [290rb]
Ne fet fors mes k'il eit
glading
Grace geleine a sun reheite.
wassele
E plus vaudreit un beleth
ratonz
Pur fere ma graunge des raz neth
Ke totez les taupes de ci ki a Paris,
moldewarpes
Ki funt taupaines en pais.
E meuz amase ensement
Si jeo le huisse a talent,
Char le cerf ou de feoun
Ki chaunt de asne ou de poun.
tayl
E meuz aime kou de poun
Ki en l'escheker math de poun
E de pooun la bele couwe
Doune delit a la veuwe.
a boske of breres
Je vi ci desouz la dume
feþeres
Un oisel plumé, ci gist la plume,
Mes ki k'il seit ki l'ad plumé
polt
Meuz vodrois q'il ut nois bluché.
dweruf
Jeo vi ester un petit neim
Sur la river ke est dit Sein. [290va]

angulkoc
En sa main tent un neyn,
sleth
Pescher vout, ne pout pur ceyn.

Ore pur un charet
descrivre le fraunceis :

kart
Pur un charret descrivere
Le fraunceis vous met en livere.
weles
Dunt les reos vous di au primour
bontes
Pur les wendeaus ki sunt entour.
Desouz les bendeaus qe sunt de fer,
Sunt les jauntes attachez de fer.
spokes
E les jauntes entrent les rais,
bemes
E du solail issent les rais
E de la mer veinent les raies
szlakes
E ver la feire vount les rais ;
Mes les rais de charette
naþes
En les moyeaus ount lur recet.
naþes *wel*
Dit li moail de la reof
yolke *hei*
Tut dreit au mouwel de l'oef :
'Jeo su fort a fes porter'.
'E jeo', feste li autre, 'bon a manger'.
axetre
Mes en les moyeaus gist le essel [290vb]
pinnes
Ki par deuz heces le tient ouwel.
cloutes
Les esseles unt lur juneres
Ki les eident cum bone freres.
cartbody
Sur les esseiles gist le chartil,
E pur sauver le peril
Le chaltil est de becheus
Ferm liez a les esseus.
Entre le chartil e le moyeaus
Sunt hurteuers trovez deus.

E chescune charet ki mene blez

ronges
Deit aver rideles au costez.

staves
En les rideles vount roilouns

nayles
Pur les trus, sanz nuls clavoms.

lethern clout
E si outre les moyeaus seent sauners

laddres
Dunt n'i faut ci noun eschelez.

Mes pur estre plus artillons

Des esseaus plus vo*us* dirroms.

axetre clout
Il ad essel e assel

armeholle
E li tierz ki ad a noun ascel.

Le chartil lyoms sur les esseaus ; [291ra]

En les moyeaus su*nt* les esseaus.

armeholles
Mes les asceles avez vo*us*

En ambesdeuz les bras a desouz.

þilles *þille hors*
En lymons veet li limower

Ki ades porte le dosser

womberop
E au ventre le ventrer

taylrop
E a la couwe le vauner.

Ventrer e ventrere i a,

Divers cum vo*us* orrez i a :

Ventrere est p*ro*prement nomé

Une femme ke est demorré

Pur eider en cas sa veisine

childing
Q*ua*nt ele girra en gysine ;

womberop
Mes p*ro*prement dist hom ventrer

þilke hors
Q*i* au ventre porte li lymoner.

eyhe
Li traices ad la bracerole

bicluppes
Ki les lymons enbrace e cole.

pinnes
Devaunt les braceroles sunt billez

Tailés de coteus ou de hachez.
hambrowes
Les couls de chivaus porte*nt* esceles [291rb]
homes
E colers du quir en lur osseles.
En la charet est le somer
La ou seet le charetter.
haling wippe
Si le charetter eit sa roirte
Dunt ces chivaus en curs resorte,
Dunt ad q*a*nke li appent
Kar ataunt suffist q*e* ki l'entent.
Mes pur estre plus sachaunt
Vo*us* dirrai einz qe passe avant
Que en meyn tendra le charetter
E quei en mein avera le caruer:
Li charetter avera sa riorte
gode
Mes li carruer la aguilloun enporte,
horscome
E si li charetter estle avera
Dunt ces chivaus counreera;
scorne
E li cotivers ne tinc a gaz
wispe
Ki ben ne forte de torbas
Einz qu'il seent enbeverez.
watred
Mes au seir serrunt waez.
Vayour i ad proprement [291va]
Ceo dist li auctour ki ne ment,
Dunt les beofs e les chivaus su*nt* vaes
E de tutes autres bestes sunt lavez.

Ore le fraunceis des propretez de carue:

Puis ki deshore suffist du charret
De la carue ore me entrement.
En la carue avez vous
Divers nouns e merveillous:
foth
Primes le chef e le penoun
handel *stulte*
Le manual e le tenoun;

ploureste
Pardesouz est le oroilloun
sheldebred
E plus amou*n*t est l'escuchoun.
koltre *shzar*
La soke ausi e le vomer
Avera carue de dever,
Mes war ki ne tuche
La zoke la zouche.
plougbem
E longe la carue gist la haie
hegh
Ki vent du boiz ou du haie.
La carue ad un maillet
E un moundilloun p*ur* fere le neth. [291vb]
Devaunt la claie sunt clavouns
Ou sunt atachez les tenouns.
yokes
Les boefs portent les jus
E pur Cristienes e pur Gius;
E par les arczouns en jus fermés
streigned
Sunt les boefs cy forte artez
Ki les covent maugrer lour
Par le agoilloun eschuer errour.

Ore pur meisoun edifier :

Si vo*us* avez en penser
Mesoun ou chaumbre edefier,
Il covient au comencement
K'il eit bone fundament;
helewoth
E puis leverez vo*us* la mesere
husewif
Dunt femme est dit mesuere,
Car ceste est mur q'enclost la curte,
E mesere ou coumble aourt.
Mes il i ad messer e mesere;
Entendez en diverse manere.
haiward
Ly messere ad li chaumpe en cure [292ra]
Mes mesere fet mesoun suire.
Suir la mesere en travers outre

þe wivertre
Amount le celer mettez le poutre.
Au pieler desouz le poutre
De chevestre liez le poutre ;
E en vostre soler desuz le poutre
gistes
Trestuz les seillouns mettez outre ;
E desuz les seillouns la plauncie
De bordes ou de plastre pavie.
Sur la mese*re* les traes mettez,
E deuz cheverouns un couple facez
Ki ferme estera sur la mesere
pinne *nauger*
Par kivil et par terere,
Dunt n'i faut si coumble noun
Ou tut amount la meisun
pantre
Covient en lunge aver genchour
Dunt le cumble ert m*u*lt plus sur.
Pur ceo fetes le cumble apert
E qu'il seit trop bien couvert.
Mes pur plus avaunt parler, [292rb]
Vo*us* ne devez ublier
lathyes
K'il ne covent aver grenchouns
E clous ficchez en vos mesouns.
splentes
E trenchons a la meisoun ausi.
Car pur aprise le vo*us* die,
Mes chescun home ne seet pas
K'il seit difference en ceo cas,
splentres
Car trenchons sunt a mesoun eese
gnawinges
E trenchesouns a plusur despleise ;
E a chivaus nomeement
Trenchesouns apel hom p*ro*prem*e*n*t*.
Uncore fest plus a saver
Endreit de mesoun edifier.
De dreit dever i covent estre
lover
Li aumeire e la fenestre.
Aumeire e aumaire i a :

A l'aumere fume istra
Car en fraunceis est aumere nomé
Ki ci est 'lover' apelee.
Mes ceo p*ro*prement aumaire [292va]
Ou l'em mette viaunde e viaire.
perswalde
A l'entré de l'hus est la lyme
hoverdogne
E outre la teste est la sullime.
dorsbodes
De coste sunt gymeaus deus
Ou sunt ficchez les aneaus.
hokes
En un gymel sunt les gouns
hengles
Si deuz verteveles eoms.
Ore fetes clike en serrure ;
Si ert la meisun plus sure.

Ore pur attirere le fu :

Fetez ore prest apparailler
Ki nous puissoms tost manger.
Une valet de vo*us* quatre
Va toust munder cele astre.
mochul
Portez les cendres au fimer
szhides
Les asteles fetes anlumer
Par un tysoun de fu enpris.
Ki de la quisine serra pris.
Les asteles mettez en travers
aundhirnes
Les chenes furchez du fers. [292vb]
hambors
Si des osceles du chival
szhides
Facez asteles, vos fres mal.
Mettez au fu ascele du cheine
holre *ayhs*
Coupé de aune ou de freyne,
becche
E va dunc quere la fue
Quir enclowé de fust de feu.
grenhed *szides*
Mes pur la v*er*dour des asceles

sparkes
Jeo ne vei issir estenceles.
imbreis *szherd*
Va quere breses en un teske;
Attirez le feu, si vient le veske.
Ore agardez, beau duce frere
glading
Ne averez tost bele here.
huysseles
Gardez vos dras des flammecches;
Mettez en breses peires e peeses.

Ore pur attire bel la mesoun:

Moundes la mesoun, si la jungez
Asseez la table, si la coverez;
hendes *sydes*
Les bous de la table e les cures
Coverez de nape devaunt seignurs.
Au meint ki ceo point seit estable [293ra]
De blaunche nape coverez la table.
E la secunde ausi coverez
De blaunche nape, si vo*us* l'eez.
soly
E si la nape seit trop sale
halle
N'est mie avenaunt en sale;
Kar blaunche nape mult usé
biselet
Vaut plus ke novele enboulré.
Lavés les hanapes, mundez les que*l*es
nailes
Coupés des cysours de umbles les eles.
fleyshhock
Va t'en quistroun, ou toun havez
Estrere le hagis del postnez.
huive
E mettez vos*t*re veille rouche
ladil
Desuz vos pos, noun pas la louche.
szhike
Priez Jonet ki ta coyfe i leuche
szhikin ston *ladil*
De un lucchere suiz la louche,
wele
E mettez la teille a l'ydol de lith

welwit
Pres de la rose qe ja enflestrith.
Mes a la vile rouche redirroms,
Ou plus aprendre i pouns.
bees
La rouche server deit les ees [293rb]
swarmes
Dount no*us* veom voler les dees;
E un p*ar* sei singulerement
An hony bee est p*ro*prement,
E p*ro*prement un de dees ees
En engleis est *a suarme of bees*.
honny come
E c'est une brecche de mel nomé
Ki en la rouche funt les ees de gré.

Ore pur diverse paroles :

Requillez genz bel a manger
Si poez meimes alloser.
Taillez ceo pain que est paré;
paringes
Les bisseaus seient pur Deu doné.
Du cotel trenchoms les bisseaus
Du quiller mangoms mieaus.
Frussés ceo pain qi vent de fourn;
Debrusés cel os de venour
Rumpés la cord qe fet nusa*u*nce;
Enfreinés covenaunt de deceivaunce.
lappes
Partiez, valet, en vo*us* escous
Le haranc sor de frahel rous, [293va]
steppes
Kar par devaunt sunt vos escous
E d'encoste sunt vos gerouns.
E donez tost a celui pelryn
Ke port un chape de hermin.
bispirnit
Cy vint un garzoun esclavoté,
La pruve vo*us* ert ja mustré;
Kar trop avera des esclavos
steppes
Ki du chivaul suwe les esclos.
Fens estreit de puaunt souz

soly cloth
Fest sale nape e grace chouz ;
E herbe qe crest a l'huis de l'estable
Fet blaunche nape e megre table.
Deus garzouns chacent g*ra*nt p*rei*e ;
wlaffez
A chescun mot l'un baubeye
E li autre ne peut parler
snyvele
Une parole sanz nascier.
Mes ne me chaut s'il nascie
a pile of garlec
Kar il ne vaut pas un aillie ;
slavereth
E li meins vaut, il baave tut dis.
Si crere voulist moun avis, [293vb]
Il enpriereit sa mere
slavering clout
Ki ele le feise un baavvere.
Mes veez, si vient Mestre Huge,
stotteth
Ki ren ne parle si il ne buge.
horer
Mes de femmes ai dedeing g*ra*nt
Ki par orgoille se aforcent tant
En parler bleser tut dis
wlispen
Pur meuz pleiser a lur amis.
kouwe spete
Ausi ad il tusser e escouper
bolke spywe snese
Ruper, vomer e esternuer.
Home dist qu'il tousse de dreit
Ki mout de ruge serveise beit ;
wamblez
E cil qui trop laumbei au quer
Sovent li esteut escouper ;
fleye cheuwes suolwes
E cil qe mouche masche ou gouste
Un grant gate li mettez jouste,
bolke
Car rup*er* li esteint tresben
spewe
Ou il vomera maugré soen.
Mes est*er*nnuer sovent

Saunté est e aleggement. [294ra]

Ore le fraunceis pur un feste araer :

Un vallet de la noveilerie
Ki vint her de un mangerie,
E de la feste no*us* ad cunté
Cum lur servise fust araé.
Saunt pain, vin e cerveise
Ne serreint nuls a feste a ese.
Mes tut treis mout enliz
Il en hurent, nos ad diz.
Mes de autre feste a parler,
Des cours k'il urent au manger.
Primes la teste de sengler ben armé
E le groin plein banneré ;
Puis venesoun ove la formenté
Puis meinte autre diverseté :
cranes pokockes suannes
Grues poeuns e cynes,
kides porceaus heunes
Chevereaus, purceaus e gelines
Puis averent coins en gravé,
Trestut de zugre enfundré,
Maces, quibibes e clous gilofrez [294rb]
E autre espicerie ascez,
Viaunde de Cypre e maumerie
Vin vermaile e blaune a plente,
Puis i out autre foysen de roste
Checun de eus autre encouste.
woddekoches
Feyzauns, asciez e p*ar*driz,
feldefare larkes
Grives, alawes e plovers rostiz,
Braoun, crispes e fruture
Ove zucre roset la temprure.
E q*ua*nt la table fust ousté
Blaunche poudre en grose dragé.
E de autre noblei au foisoun.
Einsi vo*us* finist cest sarmoun.
Car du fraunceis i ad assez
E de meinte manere div*er*setez.
Dunt vous finist, seignurs entau*n*t :

1140 Au Fiz Deu trestuz vo*us* comaunt.

Amen

II．ビブズワスの語彙集　訳

ディオニーズ・ド・モンテチェンシイの奥方様へゴーテ・ド・ビゼスウェイが謹んで捧げた言葉を習い覚えるための教本，それは人が誕生してより子供の頃に自然に覚えるフランス語，その後成人し，やがて家政に携わるようになる頃のフランス語を，すっかり知るためのものです。家政というのは耕したり，鋤いたり，堀り返したり，種蒔き，片附け，鋸挽き，鎌で刈り，車で運び，乾草，麦藁などを山積みにし，穀物を打ち，箕でふるい，粉に挽き，小麦粉を捏ね，麦を撹きまぜたり，麦を醸造したり，立派な祝宴の用意を整えたりすることです。それから，集まったそれぞれの獣や鳥の，生来知られている事柄について，フランス語を学び，また，森や，牧場や，田園や果樹園や，庭園や，小園や，その処にある花や果物についてのフランス語を全て学びます。そしてまた，話したり，答えたりする時の正しい語順もこの教本で教えます。それは高貴なお人の誰もが知るべきことでありましょう。さて，どの場合にも，まずフランス語をしるし，その上に英語を書き添えておきます。

産月の間近い婦人は，賢明な産婆の助言者が側に付添うよう配慮する良い。みどり児が誕生すると産衣でくるみ，揺籃に寝かせ，乳母を付添わせなさい。赤ん坊は這い這いを始め，それから立ち歩きを覚える。幼児が涎を流すようになれば着物を汚さぬため，涎掛けを作るようにと乳母に伝えなさい。子供は歩き始めると泥塗れになる。傷をせぬよう，怪我をせぬよう，男の子でも女の子でも，躓いたり，倒れたりせぬよう，その後についてゆかねばならない，長い間これは必要だ。

子供が言葉を覚える時期になると，フランス語で話しかけるように。私の，という時の男性，女性の区別，お前の，あの人の，それ，あれ，という時の，男性，女性の規則を知るために，まず自分の身体について述べよう。その規則は話して聞かせる方が，どの様な方法よりも良く覚えられる。

私の頭 ma teste（女性所有代名詞を使う場合），又は私の頭 moun chef（男性所有代名詞を使う場合），私の髪の分け目，髪を洗って分け目をつけなさい。食事には鵜を食べなさい（食べ物は好き嫌いをせぬように）。私の髪は縮れている，私の頭の髪の毛 toup を結わえてほしい。貴女の頭には前髪 toup がある。亜麻の束 toup を梳櫛で梳きなさい。独楽 toup は道で遊び，雄羊は争いで勝負する。

私（男性）の頭蓋があり，私（男性）の額，私（女性）の脳漿，私（男性）の項，私の（複数）顳顬 temples，がある。教会堂のことを聖堂 temples，とも言う。

貴方の目付は優しいが，眼には眼脂がある。両の目から眼脂を除き，鼻から鼻水を拭いなさい。'p' のある鼻水 rupie よりも 'b' の綴りのルビー rubie は価値がある。鼻に鼻水があると同じ位この財布にルビーがあれば，(50) それだけ沢山ルビーを入れておれば，宝石で大層金持になるだろうに。

眼瞼が丈夫で美しいと眼の瞳は傷つかない。眼瞼には睫毛がある。眼の上に眉がある。それから当然鼻軟骨と鼻孔が二つある。頬に蛾が止まらぬよう注意なさい。貴方には唇 la levere（女性定冠詞使用）がある。兎 le leverer（男性定冠詞使用）もいる。それからリーヴル le livere（女性）と，本 le livre（男性）。唇は歯を守り，兎は森の中にいる。リーヴル貨幣は商品に使い，本は我々に知識を教える。

口の中の上側が口蓋，汚ない物や清潔なものに触れて御覧。婦人方は歯茎を綺麗に洗う。綺麗な息をするため，という理由は全く明らかだ。

首や喉や，顎のフランス語は皆良く知っている。喉の中に食道がある。更に深い奥に脾臓がある。首の後ろに腱がある。これは賢明な人にも愚かな人にも同様。舌根の下に鎖骨がある。フランス人はそれを熊手の骨と言う。腹部，背中，背骨，肩，腕，胸など良く知っているフランス語についてすっかり述

べることはないだろうから，余り知らないフランス語を教えよう。

前頭の泉門，上唇は la sovereine levere とも言い la suzaine levere とも言う。口腔には探せば，臼歯，外歯がある。首にはくぼみがある。舌の下に小帯，両耳に小葉がある。kakenole という菓子で，頭がすっきりする。この言葉を証明するには，その菓子を知らねばならない。耳の下に顎髭があり，肩に肩甲骨がある。腕の下には脇下 ascel がある。車の中にあるのは車軸 escel という。(100)

山の低地から霧が湧き，低地には良い土壌がある。訴訟人の間に議論が湧き，冬の北風は眼を痛める。8月が過ぎると木の葉が落ち，霜の後で氷が溶ける。この様な言葉を教える理由を言っておこう。それは話が良く通じる様に様々な論議が良くできるように，ということだ。

肩や，腕や，肘，手も忘れないように。腕と手の間に手首がある。掌は中に，手の甲は外にある。拳は閉じた手，手の一つかみ，un poine とは片手一杯のことであり，両手一杯をフランス語では galeins と言う。両手に百杯の細糸よりも，私の欲しいのは選りわけた生姜のほんの片手一杯の方だ。神はエヴァを造り給う時，アダムの脇腹からあばら骨を取られた。そうであるからと言って関わりはないが，それにも拘わらずこの言葉は此処に現われる。しかし人がフランス語を知っているのは良いことだ，というのは，あばら骨は何の意味か，誰も知らないのだから。

腹部には臍がありその下に恥丘がある。腿，臀部，股は乗馬を楽にする。脚や膝という語を覚えなさい。貴方の脚や膝を触れさせてはいけない。膝のない脚は角張っていて，跪くには大層ぎこちない。子供達や楯持ちは腿に靴下止めをつける。車を曳くのではなく，彼等の靴下を守るために。脚にはふくらはぎがあり，筋肉がついている。筋肉があるかぎり脛骨に傷がなければ足は丈夫で信頼できる。足の裏も足指も踵もあり，これらのフランス語は皆よく知っている。(150)しかし足の踝 kevil があり，木の桁 kyvil もある。一人一人踝をよく拭いなさい。足にあるのは踝 keviles であって，それを桁 kyviles と言ってはいけない。踝は人をしっかりと立たせ，木の桁は大工が作る。

(さて人間の身体の中にあるものを学ぶために)

誰にでも身体の中には心臓，肝臓，肺臓，脾臓，腸，腎臓，胃と，それらをとりまく血管と神経がある。膀胱を忘れてはならない。それは腹部を大層安楽にする。何故ならそれが尿を貯えるから。又腎臓を忘れてはならない。また，胆汁がなければ身体の中のものは役に立たない。身体の外部に皮膚があり動物の場合はそれを皮と言う。肉体は la char で車は le char，しかし人を嘲らぬ eschar ようにしよう。愚劣な嘲りは人の価値を下げる。人間の身体は恐怖で震える。私は肉体が車に坐り，肉体を嘲笑っているのを見た。私の眼は苦悩によって焦悴する。酒飲みの神経は鈍くなる。男にも女にも皮膚がある。死んだ動物についてはそれを皮と呼ぶ。学僧が晩鐘を鳴らす。司祭がローマの助力を乞う。さて身体の機能について内部のことも外部のことも説明した。

(次は我々の衣服，その他の馬具についてのフランス語)

可愛いい良い子たちよ，衣服を着けなさい。上衣と，靴と下穿を着けなさい。帽子を被り頭を覆いなさい。更にボタンを嵌め，革紐の帯を締めなさい。締めること ceintez を enceintez と言ってはいけない。というのは女は男によって妊娠 enceintez するからであり，帯を締めるからである。帯の紐を留め金の穴に通しなさい。引き結びのくつ紐も突錐の穴に通す。

若し小さい子供が朝パンに手を出せば，パン一片をあげなさい。それもなければ小さく千切ったパンでもよい。食事には卵を与えよう。若しそれが好きならば，(200) それを啜る前に穀を取り，小胞と白味を除いて卵の黄味を子供に食べさせよう。健康な大人は卵をそのまま食べてもよい。ただし卵の胚はよく掻き回すように。それは誰にも良くないのだから。また，リンゴとその食べ方について貴方がたに言おう。リンゴを好むから食べるので，良い子は当然リンゴを欲しがる。柄と皮を取って一口分をあ

げなさい。芯と沢山の種も捨てよう。

(次は集まった獣や鳥とそのなき声のフランス語)

可愛いい良い子たちよ，しっかりと学ぶためにはフランス語が解らなければならない。神が造り給うた動物の，集まった様子について，また小鳥についても同じく，正しく話せるようにしよう。まず，鹿の集まりを群れ herde とよぶ。鶴の群も同じ herde，鵜は 'h' なしで eerde という。一巣の雛の雉子は nye，岩鳩鴿の一孵りは cove，数羽の雲雀は damei，牝羊の群は trippe，若駒の集りを harras という。農民については群衆 grant fouleie という。一腹の豚は soundre，椋鳥の群がりも sundre，同じ季節に孵った青鷺の群は bovee，小鳥の集まりは pipee，牛の群は route，犬の群については mute，山盛りの小麦は coumble，多額の財は soume，沢山のお金は masse，肥料の山は推肥 fimere と言い，雌鶏の嗄れ声は greile，馬糞鷹の一群は，turbe，鷹の囮は，luire，娘を惹き寄せるのは luyre という。しかし娘には声高に呼びかけるのではない。高貴な人たちは鷹狩りをする。戦士の一団を eschele といい，多数の大きい家畜を foysun という。婦人の連れは compaignie といい，雁についてもそれは変らない。フランス語では，一つのものについては，殊更何も言わないが，フランス語に精通するお方も，このことには全く同意するだろう。

(あらゆる種類の動物の自然ななき声について)

さあ，雄も雌も，どれにも，これにも，自然に具わった多種多様な動物の啼き声を聞きなさい。人間は話し，熊は唸る。どちらも極度に腹を立てる。牝牛はもうもう，鶴は一声，(250) ライオンは咆哮し，榛は震える。馬は嘶き，雲雀は歌い，鳩は愛情こめて鳴き，雄鶏はときを告げ，雌猫はにゃぁおと啼き，蛇はしゅうしゅうと音を立て，驢馬はひんひん，白鳥は声高くひゅうと鳴く。雌狼は遠吼えし，雄犬は吠える。動物は時々人間をこわがり，小羊はいたちを怖れる。狐はこんと啼き，穴熊は地を這う。狩人が獲物を探す時雌鷲鳥はぎゃぁぎゃぁ鳴き，雄鷲鳥はがぁがぁと鳴く。沼の雌鴨はぐぁっぐぁっと鳴く。しかし啼き声の jaroil と罠の garoile がある。その区別を話そう。人が鷹狩で獲物を探すと雌鴨は河でぐぁっぐぁっと鳴く。戦っている町の前に，相手が襲う攻撃に対し，外堡を守るために，地面に罠をしかける。戦士がそれをしっかりと作れば，城門は破壊されない。

蟾蜍はわめき立て，殿様蛙はげろげろ，無毒の蛇はしゅうしゅう，と音を出す。小豚は細く啼き，猪は唸り声をたてる。小羊はめえめえ，牡牛はも一と太く啼く，牡豚はおいしい食物を求めてぶうぶう鳴く，猛禽の鷹は飛び込んでくる。雌鶏は七面鳥が庭や町にいると我を忘れてくぁっくぁっと鳴く。つまりフランスではこんな状態である。得意顔の鶏は卵を産み，こっこっと鳴くと，とにかく前へ進み出る。雌鶏の仲間は，仕事の順を弁えて卵に向かって走り寄る。牡羊はめーと鳴き baleie，奥方は踊る bale，小間物商人は商品の荷物 bale を取る。夜ふかしをし過ぎて，人はあくびをし baal，召使に自分のものを与える。眠った後で人は大声を出し，司祭は教会で説教をする。釣人は池で網や餌針をもって釣をする。性悪者は生身の肉体を買うために，土地を耕さず放っておく。貧しい女がロンドを踊るよりは手に鋤を持つがよい，というのは食料の一塊も，一片も，一かけもないのだから。(300) 彼女の小犬が鍋を舐める lesche，小犬に舐め flater させておこう。小犬は庭園のバラを荒らして lesche ちぎってしまう。お世辞の上手な人を避けよう。彼等は人を無一物にする。お前の帽子も見逃しはしない。ほんの小さいものも，大層価値がある。お前を欲しいと望む者は，お前をではなく，お前の財産だ。

(次は様々なフランス語が一つの英語で言われる場合)

貴方の前に現われた褐色 rous の美しい騎士を見て御覧。輝く goules(reed)楯を持ち，栗毛 sor(reed)

の馬にうち乗り，赤い rouge 槍を片手にし，赤葡萄酒 vermaille をもう一方の手に持っている。彼はこんがり焼いた sor (reed) 鰊以外の魚は口にしない。私は王のいない女王様が，蛙のためにまごまごするのを見る。王国には王様がおられる。葡萄畑の傾斜面には網をかけた。一人の百姓が森のはずれにやって来た。彼は以前によそ者が盗みを働こうと言っていたのを聞いた。泥棒を追い払いにやって来たのだ。

(今度は牧場や畠のフランス語と麦についての作業)

子供たちを教えるために牧場や野原に行こう。長柄の鎌で草を一歩一歩刈りとろう。束ねた麦を半円形の鎌で刈ろう。麦の堆積を束にしよう。麦の束を荷にまとめよう。飼料の豆を引き抜き豆の茎を束ねよう。全ゆる種類の麦の名前を覚える必要はない。麦，大麦，小麦などは誰にもよくわかる。しかし他の種からも多くのものが生えるが，私が言うこともない，毒麦，燕麦も，からす豌豆の実も，黒麦も，矢車菊も，葵も野性大根もあえて言わない。種の全てを述べるとすれば言うことは余りに多過ぎるだろうから。

車で運ぶ時期になれば車に荷を積もう。車を引く者は馬を鞭で駆さねばならない。小麦を穀物倉へ運び，(350)倉の外に山積みにしなさい。倉の中ではその堆積を moye と言い，倉の外の乾草の山を thase という。秣を moilom と言い，穀物の収獲の山を thas という。小作地では麦ののぎを保護し，畑では小麦を他の獣から守ろう。広間では唄を歌い悲しみや苦しみを忘れよう。教会堂で仮装した頭がみえる，それは角のある獣のようだ。もし，人を祭りに迎えたら，悪業のために，切羽詰まって罪を嘆き，苦悩している人のために祈りなさい。人をしたたかにやっつける人々と，貴方たちも余りかわりはしない。

(さてパンを竈で作るためのフランス語)

麦が充分打たれると，風にふるい分けられ，それから砕かれる。しかし，人の前でもっと正確に話すには，吹く，という言葉にも suffler, venter, corneer があるということ，またその意味を知らなければならない。料理人の下働きの少年は火をおこすために吹く，風は森の中で吹く。狩人は狩で良い獲物を捕えると，すぐさま角笛を吹く。さあ，今朝穀粒であったものは挽かれて粉になった。粉から上質の小麦粉になり，篩われて捏物になる。すなわち篩い布で選りわけて，外皮の混った粉は置いておく。馬には穀類を挽いた残滓の混合麦を与えよう。なまぬるい水を粉に混ぜて，捏粉を捏ろう。熊手 rastuer で飼槽を掃除しよう。しかし，熊手の rastuer と火かき棒，まぐわの rastel があって，種々に使われる。パンを捏ねる人は手に火掻棒を持つ。しかし熊手は飼槽をきれいにする，餌料が槽に附着すると，熊手が役に立つ。堆肥が牧場にある限り，まぐわが用をたす。藁がなければ歯朶で竈を暖めよう。藁と駕籠，littere と littere は異なる。学者はそれを，相違があるという。草刈りは藁を刈り取る，(400) 人は楽に駕籠で進む。正しいフランス語では，確かに間違いなく，藁 littere のことを paile (藁) という。穀粒が選り分けられる以前のものを，莢と藁という。若し藁がなければ，豆穀を使う。そして窯を十分に暖めたら鍋から，捏物を入れなさい。

(良い家計に関するフランス語)

パン種を窯に入れるとしばらくその中に置き，主婦はその工合を見る。主婦はその間家の仕事に無関心であってはならず，畑作りをしっかりとせねばならない。亜麻の種を蒔きに行こう。大麻も忘れぬように。亜麻からは乾物用の桝を作り，大麻からは紐を作る。時には亜麻の雑草を取り，時期がくるとそれらを引き抜こう。それから水を打ち，日に干して乾かそう。全てを知っているのは大層よいことだ。また，麻を打つために麻打機の台に坐るがよい。そうしなければ終りにならぬ。ミュリエルの奥様に私はそう頼む，さあ，麻打台の所へ行って下さい。麻打の仕事が終れば，歯の大きな櫛のある所に行って

下さい。麻梳櫛をとって貴方の麻を梳いて下さい。紡錘竿をとりあげ，紡錘も忘れぬように，それに必要な錘の車も。これ以上何と言ってよいか分らぬ。誰にも分らぬことが沢山ある。fusil というものは三つの役に立つ。つむ fusil から糸がつむがれる。火口金 fusil は火打石の役に立つ。そして石臼の心棒 fusil があるので，小麦は粉になる。貴方の糸が十分紡げ，つむが一杯になれば，糸車の所へ行かねばならない。紡いだ糸を巻き，巻枠にかけるように，糸は糸車から繰枠に巻きとるのが手順です。それから思うように織る。(450) ユード奥様はさて何をしておいでですか。糸繰機から糸玉を繰っておられる。はた織りが糸をよじったら，とやかく言われぬように直ぐに糸巻きの糸を繰り，横糸を入れるとよい。他の事も関係するのだが，私は本当にこれ以上は知らない。

(砕いた麦を掻きまぜ，ビールを醸造するためのフランス語)

今まで話してきたフランス語が更に充分役立つように，発酵させたり，撹拌したりしてビールを作る方法も良く知っておこう。女を相手に気楽に飲み騒ぐためにも。娘よ，竈に火を燈せ。お菓子を食べ終えると，広い大きな醸造用桶に大麦を入れよう。大麦が充分に水を吸うと水を捨て，あの高い天井の部屋に登り，其処を綺麗に掃除させよう。そして麦がしっかり芽を出すまで，其処にねかせておこう。それまで麦と言っていたものを其の時から麦芽という。そのモルトを手で掻きまわして山盛りにし，籠に入れて運ぼう。干し場で乾かすために。大籠であれ小籠であれ，大量を運ぶ役に立つ。それから麦は砕かれ，熱湯に浸される。ビール造りの者が思惑どおりの，求めるだけの発酵麦芽を今度は桶から外に流し出す。小麦であれ大麦であれ，その泡や発酵麦芽をビール醸造の正しい方法で巧妙に操作するのだ。全ての作業を話すことはできない。しかし一つの作業から次の作業へと工程の一つ一つを整えて，人においしく飲まれる，よいビールになるまで注意してかかろう。それを沢山飲んだ人たちは酔払ってしまう。(500) ビールは奇蹟や驚異を生み出すものだ。毛編シャツ一枚を，二枚に見せる。酔は俗人を聖職者にしたて，名もなき人を有名人にし，人を猫のように這わせ，節度ある人間を大声で叫ばせる。酔で人は馬鹿になり，赤く染めなくとも頭は赤くなる。そこで，聖ジョルジュ様の名にかけて，大麦の脂っこいビールを飲み過ぎた，と人は言うのだ。筆者はここで一息入れよう，というのは他の事も話したいから。

(養魚池あるいは池で釣をするためのフランス語)

さて養魚池でどの様に釣をすればよいか，知り度いと思っておいでのようだ。湧き水のある所をまさしく養魚池という。まず池の水を汲み出そう。そこに魚は必ずみつかる。流水のある池を求めるならば，ただちに急いで真直に森の池へ行くとよい。沼池のその水は簗で魚を捕るに適している。小さな網は適当ではない。簗もあり，篩もある。どちらも良く知っているフランス語だ。簗は小さく作ってある，もっと相当大きいものを何故か篩という。というのも，他に違う点はないのだ。では本題に戻って魚釣について話そう。簗の口を逆にして中の泥を捨てよう。蛙や蜥蜴も惜しまぬよう。大蛇や無毒の蛇も殺し，砂利や小石を捨て，かたつむりも捨てよう。そうすれば魚がみつかる。魚の鰓をつかまえ，もしそれが鱈であれば，腹をさいて開こう。肺臓や腹わたを捨て，腸や背骨も除こう。

家の果樹園に戻るために，あの山あいを通るならば，やがて，羊飼いが家畜の群れを連れている緑の土手 vert tenail にやって来る。木蔭を通って森を通り抜け，(550) こんもりとした森の下を通り過ぎよう。其処を通るには踏み石とよばれる多くの石が役に立つ。大層美しい綺麗な小川を濡れずに渡るために。ourail は 'h' で書き出すが，その 'h' は発音しない。森のはずれの境には盗人が隠れている。多くの人がその噂を聞く。さて，もっと先に進む前に土手 tenail のことについて更に話そう。それには多くの意味があり，このような相異があるのだから。tenoun 柄と tenail 土手があり，tenailles やっとこ，こ

れは珍らしくない。たてもの師は枘を操り，土手を多くの人が通る。しかし冬の火の側にいる時は，やっとこで炭をつかむ，鍛冶屋が鉄床を叩く時，槌はいつも役立つものだ。

(次は良い天気と嵐について)

さて雨が降り，氷がはる。また雨が降り，再び凍る。凍ると氷がとれ，氷が張ると，雨氷ができる。雨氷のために雨氷に覆われた上を余り急ぐのはよくない。凍てつきと不快な雨は道を大層滑り易くする。さて雪が降る。みぞれが降る。みぞれのために生活が辛くなる。私の口に雪の粉がはいる。粉雪は私の喉が喝いていると思っているのだ。霰が降り，そして雹がはげしく降る。雷が聞こえる。雷の鳴るのが見える。雷が鳴る toune と，樽のビールは悪くなる。私の足をしびれた侭に toune しないで欲しい。貴方たちの誰も一言も言わぬ。冬が近づくと寒い。一つ謎々を教えてあげよう。冬に季節が移りかわると，緑のない裸の枝が奇妙に大きくなる。花もなく葉もなくそそり立つ。暑い夏がくるとそれは姿を消すのだ。冬がくると天気が変って，人々は大いに耐えしのばなければならない。(600) 冬の厳しさのために貴方の手は痺れ，寒さのためにその手は指で鐘を鳴らすこともできない。

しかし私は柔らかい羽根ぶとんの上で，カロルを踊っている火の側に坐っていたい。矢車菊の頭飾りをつけ，桜草を摘んでいたい，学校の先生にもその帽子を作って上げるために。先生は空威張りをし，そして小刀やナイフの嵌め輪をもって，愚かな女を屢々惹きつける。その様な学校に行く者は牢屋にはいった方がよい。門口の若い女も。つまり女の心はとても脆くて，桶持ちや学僧が，たいがい手短かに話しかけて，首に抱きついたりすると，愚かな女はそれを覚えている。どうかこの様な阿呆な顔はあばたづらになり，そうした放蕩者は麻疹にかかりますように。そうなれば馬鹿な者や女も踊りの輪をはずれて，つまらぬ場所を避けるだろう。さてしかし，このように何も知らぬ人を教えるために，viroles についてもっと詳しく説明しよう。剣の柄の嵌め輪の virole と，天然痘 verole がありこれらは別のものだ。嵌め輪は悪者の刃から袖を守る。しかし天然痘はどんな立派な殿方の顔をも醜くする。また，この自然のままの虫 varole は，ひとりでにキャベツから生まれる。緑色のこの虫をフランス語では varole という。

(果樹園の花と果物のフランス語について)

昼の日中は大層美しく晴れ渡った。かぐわしい香りの花が咲きみだれる，果樹園に行って気晴らしをし，日光を浴びよう。草木も薬用になる。それらの名前を言い当てよう。薔薇の花，百合の花，百合は皮膚病によく，薔薇は胸に効く。金盞花の花も咲いている。それは眼に大層効き目がある。蜀葵や桜草は，春に花開く，木にまつわる蔦，地上の蔦草 (650) などがこの森に育つ。車前草も沢山生え，腐らない牛舌草もある。こたにわたりは，よく岩の裂け目に生え，香りばらも伸びる。

また，蕪も沢山あり，白い花の雛菊や，大層高価な，やまあい属の種類もある。深山かたばみはソースによい。地衣類は頭部皮疹に罹った人に効く。地衣と，同類と，仲間，という言葉がある。どんな種類の鳥にも雄と雌の番があり，それは同類 parel といい，地衣 parele ではない。また仲間 parraus ともいう，それらは一諸に孵ったものだ。もう一度忘れてはならぬ花について述べておこう。さあ，貴方がたは，にがよもぎを探し出す。種を蒔くと，おおばこも生える。また，アメロークや，グレトネールが果樹園でみつかれば，二又の鑿でそれらを抜き取り，そのかわりに玉菜を植えよう。

(果樹園の木々のフランス語について)

この果樹園には木々が育ち果実をつけて木が撓む。林擒の木，梨の木，実桜の木，桴，えにしだ，李，実をつける山査子，実を結ぶ野梅，実をもつ野ばら，実の生る橡木，実が稔るちずもも，Alianore はそ

の昔ある王様がちずももにちなんでつけた名前，彼女は黄金のななかまどを身近に置いていたのだ。まるめろも生えている，果樹園で人はそれをよくみかける。しかし，いろいろと種類が多いので一度では見分けがつけ難い。

領主殿は下人を仕置板に入れさせる，この仕置板で徴らしめるために。端を取って乾いた楹枠を打ちなさい。楔のかどを切りなさい。また鋳造貨幣 coingne という似た言葉もある。それは銀に刻印して銀貨をつくることだ。

それぞれ良く覚えておかねばならない他の木も其処にある。黄楊の木，棕梠，楓の木 arable，この木は耕地 tere arable では十分育たない。(700) 外套 houce の役に立たぬ柊 houce はしかし，果樹園で育つ。庭常も生える，柊も庭常も皆よく知っている，柳もある，樫の木も水松もある。これらのフランス語については少しも問題がない，というのは学者にとっても，勉強中の者にとってもそれは同じ言葉であって良く使われるものだから。庭常から人は美味しい食物の，そくずを作る。

(森の小鳥についてのフランス語)

果樹園を見終えたなら森へ行って遊ぼう。其処では小夜鳴鳥が部屋の中のみみづくよりも上手に歌い，家の中の蝙蝠よりも，薮の鶫はうまく歌う。小鶫は枝にとまり，野鴨は沼に住む，また椋鳥もいる。そして森雲雀という名の鳥もいる。火とかげは炉の中にいる。魚に卵を生ませ殖やそう。然し明らかにするという言葉 espandre，拡げるという espaundre，同じような言葉の，費す，espendre，それから拡げるといういみの pandre もある。友人の考えを広める者はそれを他人に明らかにする。子供は好みによって口から食物を吐き出す。人が生きた侭の魚を網で捕えるとそれは鰭ではね上る。また，解釈するという espandere は第 4 番目の言葉になる。学校の生徒がそれをする，というのは文字を一緒に合わせて当然説明するのだ。

鰭 eyles と翼 eeles は異っている。学問のある人はこれを相違があるという。魚は鰭で泳ぎ，雀は翼で空を飛ぶ。さらに泳ぐ naer と，溺れる noer と，漕ぐ nager という言葉がある。そのいみを知らねばならぬ。魚は海の中で泳ぐ，海で多くの人が溺れる。また，舟乗りは舟に乗り，櫂で漕がなければならない。然し我々は冬には雪が降るのを見る。雪片が舞いおりるのが見える。

さて鳥たちのことを再び取り上げよう。鳥についてもっと沢山のことがわかる。この鳥，山しぎを人は部屋の中でもその他の場所でも描く。(750) いま，山しぎが何処へ隠れるか見よう，フランス語はこのように言うのだ。

さあ更に先へ進もう，眼で見るものを理解するように。というのは森番人 vereder と，かわらひわ verder という言葉がある。一方が鳥で他方は森番だ，このあたりをかわらひわが飛び，森番はあのあたりを眺める。一羽のみそさざいがこちらへ飛んでくる。それから千草の山の方へ行く。ヴィオラの美しい音色よりも，フルートのどんな音色よりも，美しい干草積台をめぐって歌うのは山鴫より鷦鷯にふさわしい。また，四十雀がいる，それは生垣や森を飛び廻る。若者よ，すぐに肩帯をおはずし，もし四十雀を追い払うつもりなら。其処には赤とんぼもいる，五色ひわもいる，蝶々もいる。蝶は好んで薊にとまり，茨にもとまる，自然に止まる習慣がある。こおろぎはそのようなことをしない，蟋蟀は野原や庭に住む。木から落ちる林檎を取る針鼠もそうはしない，蝿も小蝿もいない，つまりそれらは蕁麻の方が好きであるから。又其処には冬の住家を持つ鴨とあびがいる。沼には田鳧が住み，町には小さな通り鴨がある。穀物倉では箕を使う。嫉妬深い心には憎悪が宿る。さあ野鴨が飛んでくる，大鶴も一緒だ。みやまがらすの肉よりは大鶴を食べた方がよいだろう。世界中のこうのとりよりも燕の方が早く飛ぶ。軒端につけた網が雀や燕を捕える。山鴫という名の鳥も池のそばで捕えられる，かっこう鳥の歌声はしわがれていて全然楽しくない。若し歌が優雅であったなら，騒々しくはなかっただろう。(800) それは高

麗鶯の声よりももっとよく小路で聞かれる。

(さて森の獣についてのフランス語)

森の状態をみるためにフランス語でさらに先へ進みたい。私は大きな穴熊が自分の住家を捨ててやってくるのを見た。狐の計略が彼を追放したのだ。長毛いたちは呪われろ，町であれ森であれ，とにかくねらうのは，肥った雌鶏だけなのだから。納屋の鼠を一掃するために，この地方でもぐら塚を作っている，ここからパリ迄のもぐら全部よりも一匹の鼬が欲しい。思う存分手に入るのなら，私は今驢馬の歌や孔雀の歌よりも雄鹿か仔鹿の肉を好む。将棋盤で詰めをするよりも孔雀の尻尾のほうが良い。孔雀の美しい尾は眼を楽しませる。私は此処の茨の茂みの下に羽を毟った鳥を見た。羽がそこにある。然し誰が羽を毟ったにせよ皮を剝いだくるみを入れて欲しい。私は小人が立っているのを見た。セーヌと呼ばれる河の上で手に釣針を持っている。霙が降ってはだめだが，魚を釣るつもりだ。

(車に関するフランス語の叙述)

車を説明するためにフランス語をこの本に書いておく。先づ周囲に外輪がついている車輪について話そう。鉄で作られたその外輪の上に留金が鉄で留めてある。留金具は車の輻 rais の中には入る，太陽からは光線 rais が迸る，海から摂れるのは魚の鱈 raies である。市に向かって糸の荷 rais がゆく。しかし車の輻は轂に収まる。それを車輪の轂という。それは卵の真中の黄身という意味もある。私は荷を運ぶのに力がある。もう一方の卵の方は美味しく食べられるようにする。また轂の中に車軸がある。それは二つの鉤留で車を支える。(850) 車軸は金属の覆い板をつけており，それらは仲の良い兄弟のように車軸を守る。車軸の上に車体が置かれる。車体は危険をさけるために皮帯で車軸をしっかりと結ばれる。車体と轂の間に二つの接続部品がある。麦を運ぶ車はそれぞれ両側に横木を渡さねばならない。横木の間に横桟を入れる。穴には釘は使わなくてよい。轂のほかには皮の覆いがある，その他には梯子があるだけだ。然しもっと熟達するように車軸についてもう少し話そう。車軸 essel と心棒 assel がある。第三番目には脇の下の ascel という言葉がある。車体は車軸の上に結び付ける。轂の中には心棒がある。しかし，貴方がたには両腕の下の脇のくぼみ asceles がある。長柄の荷馬が繋がれてゆく，それは長柄で車体を曳く。馬の腹には腹帯をつける。尻尾には袴革をつける。腹帯は ventrer，産婆は ventrere という。耳で聞くと相異がある。女性が産褥にいる時，側におり世話をする人を正しくは産婆という。しかし轅に繋ぐ馬がつけるものは，正しくは腹帯といわれる。馬具の輓革には革紐が付き，それは轅をかかえ込む。その紐の前に刀か斧で切った棒がある。馬の首には首かけがある，馬具には皮の首掛がある。車には坐台があり，車曳きは其処に坐る。若し駆者が鞭を使えば，走っている馬はそれでとび上る。必要なものは全てある。望みのものがすぐ手には入る。

さて，更に物知りになるために，先へ進む以前に荷車曳きが手に何を持つか言おう。そして畠を耕やす車を牽く者が手に何を持つか教えよう。(900) 車曳きは鞭を持つだろう。百姓は突棒を運ぶ，若し駆者が馬櫛を持つなら，それで馬に櫛をあてるだろう。水を飲ませる前にわら束で馬をこすらない農夫は愚かではない。夕方には水浴びをさせなさい。牛や馬に水を飲ませ，他の家畜を洗ってやる人を vayour という，これは嘘をつかない著者のいうことだ。

(さて車の特性についてのフランス語)

車についてはこれで充分話したので，これから鋤について話そう。犁にはいろいろと面白い名前がある。まづ犁先と風見，杷手，柄，その上に犁べら，更に上には撥土板，犁べらは soke とも vomer とも言う。どうしても犁は必要だ。しかし，犁べらには手を触れぬように注意すること。鋤とともに繋具を

つけられた家畜がいる。それは森かあるいは垣の茂みからやってくる。鋤には小さな槌がついている。また，種を綺麗に落すための細工もある。棚の前に釘がある，釘に柄をかける。牛が頚木をつけるのはキリスト教徒にとっても，ユダヤ人にとっても同じこと。閉じた頚木の前輪で牛はしっかりと留められる。それは牛が嫌がっても刺針で失敗を避けさせるのだ。

(さて家を建てるために)

もし家や部屋を造ろうと考えているのなら，最初に良い基礎を作らなければいけない。それから壁 mesere を積み上げる。女性は家政を行なう主婦 mesuere という，中庭を囲むのは壁であり，壁は屋根組に付く。さて農作物の番人 messer と支えの壁 mesere がある。その違いを理解すること。農作物の番人は畠の世話をし，支えの壁は家をしっかりさせる。壁の上に斜に，物置の上に梁を置くように。(950) 梁の下の柱に枠根太で梁を結び付けよ。大梁の下の貴方の部屋にも。その他にも梠を置く，梠の下に板を張るか，あるいは漆喰を敷きつめる。壁の上に梁を置く。二つの垂木で対を作る。その対は壁の上に釘と錐でしっかりと付けよう。家の一番上には屋根が必要なだけだ。やがて食物倉庫が必要になる。その屋根はもっとしっかり作らなければならないだろう。充分覆いができるように屋根は別に作ることだ。更に話を先へ進めると，貴方の家には貫板や打込んだ楔を使うという事を忘れぬように。木摺も家には大切である。こういう事を教えるために貴方に言う。然しこの場合にも相違があるのを人は知らぬ。塗壁(ぬりかべ)の下地の木材 trenchons は家を安定させ，切端 trenchons は多くの人がないがしろにする。とくに馬の激しい腹痛を trenchesoun と実際に言う。まだまだ家を正しく建てる為には更に沢山のことを覚えていなければならない。是非家に必要なものは煙出しと窓だ。煙出し aumeire と戸棚 aumaire がある。煙出しからは煙が出る。フランス語では aumere というが此処では lover と呼ばれる。また，こちらの方は正しくは戸棚であって肉や食物を入れておく。家の入口に敷居がある。頭の上に横木がある。横には二本の釘があり，其処に輪が嵌めてある。鉤釘には蝶番をつける。それに閂の輪が二つ。鍵に掛金をつけよ，そうすれば家はもっと安全だ。

(火を熾すために)

我々が早く食事のできるように急いで準備させなさい。貴方がた四人に対して一人の給仕が直ぐにこの広間を綺麗にし，(1000) 灰を堆肥のある場所へ持ってゆく。台所から取ってきた燃え残りの焚き木で，まきに火をつけなさい。鉄の股の付いた薪掛けにまき斜めに置くように。もし馬の首輪の両側の曲棒を薪にするなら，それはよくない。樫の木の木片を火に入れなさい。榛木か，とねりこを切り，それから樌を探しに行きなさい。皮を巻いた樌の幹を。然し薪がまだ青いので，火花の散るのが見えない。火消し壺の消炭を探しに行きなさい。司祭様が来られる，火を熾しなさい。さあ，注意して，立派な兄弟よ，すぐに良い顔はしないこと。貴方の衣服に火花が飛ばないように注意をして，梨と桃をおき火に入れよう。

(家を美しく整えるために)

散らかっている家を掃除し，テーブルを置き，それを覆う。卓の端とわき，主人の前を卓上布で蔽えるようにする。そのところが動かないようにして白いテーブル掛けを卓にかける。できることなら二番目の卓も白い布を掛けること。もし卓上布が大変汚れておれば，それは広間にふさわしくない。というのは新しくて汚れているものより，使い古されていても白い布は価値がある。盃を洗い，鉢を清潔にし，鋏で爪のささくれを切りなさい。走り使いの子供よ，お前の肉鉤の所へゆき，料理鍋から細かく切った肉を取り出しておいで，古い巣箱 rouche を柄杓の下ではなく足許に置きなさい。お前の冠り物に鍍をか

けるJonetに頼んで磨き石でひしゃくを磨きなさい。枯れてしまったバラのそばの寝台の絵に布をかけなさい。いや，しかし再びあの古い蜂の巣箱rouche のことを取り上げよう。もっと学ぶことができるから。巣箱は蜜蜂を守る。我々はそこから蜂が群をなして飛ぶのを見る。特に一匹のは a honey bee と実際に言う。正しくは一群の蜜蜂のことを英語では suarme of bees という。(1050) そして，それは蜜蠟とよばれる。これは蜂が巣の中に喜んで作るものだ。

(さて様々な言葉について)

人びとを喜んで食事に招待しよう，そうすれば褒めて貰える。準備されたパンを切り，パンの皮は神に捧げよう。パンの端をナイフで切り取る。匙の方が上手く食べられる。炉からでてきたパンを千切れ，狩の獲物の骨を折り，邪魔になる糸を切る。便利な誤魔化しはしないように。

下働きの者よ，前掛けの中で褐色の籠の鰊を分けなさい。貴方の膝は身体の前にあり，胸当前掛は脇まである。白貂の長袍を着ている巡礼者に急いで施しをしなさい。

此処へ泥まみれの子供がやってきた。汚れている理由を教えよう。この子は馬の後ろについて歩いていたので泥を被ったのだ。堆肥は臭く布を汚し特別のものだ。厩の入口に育つ薬草は布を白くし，脂気のない食事を作る。二人の青年が大きな獲物を追う。一つ一つの言葉を一人は口ごもり，他の一人は鼻声を出さずに話すことができない。しかし，鼻にかかった声を出したからといって，私はかまわない。その様なことは大蒜の一かけらにも価しない。つまり何時も涎を流しているのは価値がない。もし私の意見を聞くのなら，彼は母親に頼んで涎掛けを作って貰うことだ。Huge さんが来られるかどうか見てごらん。彼は口ごもらずに話す。然し私は女性を大層軽蔑する。というのは女は思い上って，男達の気に入られようとして何時でもおしゃべりの中で，s, z の音を θ, ð, th の音にして発音しようと努めるのだから。又，咳をする，唾を吐く，噯気を出す，呕吐する，嘘をするという言葉がある。赤い大麦のビールを沢山飲むと当然咳をすると人は言う。又，心臓に病 laumbei を持っている人は屢唾を吐く必要がある。そして食物を噛んだり，味わったりしている人の側に大きな鉢を置いてやれ。(1100)何故なら，その人はきっと随分おくびを出すだろうし，意志に反しても吐くだろうから。しかし，よく嘘をするのは健康であり気晴らしになる。

(祝いの日の準備をするためのフランス語)

食物を扱う店から昨日来た新入りの召使いが，祭りの時にはどのように接待すれば良いかということを我々に話した。パンや葡萄酒や大麦ビールがなければ，誰も祭りで楽しくなかろう。彼等は喜んでそれら肝心の三つを用意したと彼は我々に言った。さあ，御馳走のコースのある，他のお祝いについて話さねばならない。先づ充分に餝りたてた，いのししの頭，旗を餝りつけた豚の鼻，次に小麦のスープと多種多様に沢山の鳥獣の肉類。鶴，孔雀，白鳥，小山羊，小豚，雌鶏，それから砂糖に浸しておいた兎のシチュー，にくずく，畢澄茄，干し丁字の蕾，その他いろいろ沢山の香料，キプロス産の肉と麦芽，ふんだんにある紅白の葡萄酒，山盛りのロースト，各人の側にその各々を置く。雉子，山しぎ，鷓鴣，鶫，雲雀，干鳥の焼肉，骨付き肉，クレープ，フルーツ，それらを甘い赤ぶどう酒に浸したものなどなど。さて食卓を片附けた後には，大量の白い粉，いわゆる消化剤，それにその他の珍らしいものもどっさりと供する。このようにして，貴方へのこの話は終る。というのも，これでフランス語は充分だから。いろいろ様々な話しであったが，皆さん，さあこれで終りです。神の御子が皆様がたを導かれんことを，アーメン。

III. Treatise「語彙集」の作者ビブズワスとその言語

イングランドにおいて，アングロノルマン語が最も多く使用されたのは，13世紀半ば以降と見做される。しかしこの言語は13世紀初頭には既に衰退のきざしを見せていた。

上掲の「語彙集」は13世紀の終りに書かれたものである。フランス語をしっかりと会得するための教本，といわれる。特に英語を母語とする者が，フランス語に熟達するようにという目的であったろうか，フランス語の単語または熟語に対して，作者は英語をもって注釈をつけている。

作者はこの教本の中で実益のフランス語を子供たちに教えようとし，各主題ごとにフランス語をえらび，同音異義語は丁寧に言葉の意味を説明し，また，性と綴りに配慮する。彼は人体について，鳥獣について，田園の生活についてなどを，多くの語彙を用いて詳述する。しかし，我々が，注意をして認識しなければならないことは，この教本のフランス語が，大陸フランス語と言えないことである。作者の言う「正しいフランス語」とは，イングランドで用いられていた，当時のアングロノルマン語（島嶼悟）の特徴の数々を示すものであった。

教本の作者について多くは知られていない。しかし序言の冒頭に見られる Bibbesworth (Bithesweth) という名は，Oxford MS Fairfax No. 24 に収録されている，アングロノルマンの詩，*Débat or La pleinte* の中にも見える。エドワード１世の治世に，時の Lincoln 伯であった，Henry de Lacy と対等に話しあっている，Walter de Bibbeesworth なる人物がこの詩に登場してくる。

更にヘンリー３世の頃，Essex 州 Hertfordshire, Kimpton の教区，Great Waltham, South House に Chelmsford の百夫長であった，Hugh de Bibbesworth の子息として，Walter de Bibbesworth の名が記録されており，エドワード１世の治世の始まりの頃，Walter は Essex, Saling Hall の館のあるじとなっていて他界した。Cambridge MS. Gg 1.1 に記されてある Bithesweth という綴りの姓は Bibbesworth であろうと考えるのが，大方の見解と思える。

Bibbesworth は Dionysia de Mountechensy とよばれる婦人のために，この教本「語彙集」を書き，それを献呈した。彼女の家柄は13世紀の Essex では名門であった。Dionysia Mountechensy は1293年にケムブリッジの近郊 Waterbeche の尼僧修道院を建立した夫人である。彼女には令息 William と令嬢 Joan があり，William の息女は，彼女の祖母と同名の Dionysia という。令夫人は孫娘の Dionysia にフランス語を教える手だてとして，同時代の人である Bibbesworth にこの語彙集を依頼したものであろうか。彼女は1304年に亡くなった。Chelmsford の百夫長の中の Hanningfield の領主たちが，隣接する，Mountechensy の人達に Bibbesworth の名を教えたということも可能である。

Walter de Bibbesworth がエドワード１世の治世の始めに死去していた事実や（c. 1290），貴婦人 Dionysia の孫娘の結婚の年月日（1297），彼女の死（1314），さらに，彼女の父君 William 公の暗殺された年月日（1289），などから考察して，Walter が「語彙集」を作成した時期は，Dionysia 嬢の誕生した頃の1280年より Walter の死までの1290年間と考えることができる。（然し現在も尚確証は得られていない）

現在 Bibbesworth の「語彙集」は16の写本が残っている。散文ではなく，いずれも韻文であり，８音節２行詩句から成る。しかし押韻は屢不完全な所がある。現存する16の写本のうち，Cambridge, Trinity College 所蔵の MS. O 2.21 は，作者 Walter が Mountechensy の奥方に宛てて書いた教本に最も近いものであろうと見做されている。本書に転写された，Cambridge University Library 所蔵の MS. Gg 1.1 に見られる *Tretiz* は令夫人宛てに書かれてあった教本に Walter がさらに手を加え，補い，また，改訂などを工夫して，広く一般のフランス語テキストとして用いるよう，書き直したものであったろう。この両写本の他に現存する写本は，これ等両写本のいづれかを祖本として書かれたものか，あるいは両者を混合して書いたものと考えられる。

我々が見る Bibbesworth の言語の乱れは，勿論写字生に帰する所の多いことも考慮しなければならないが，音韻論的にも，それらがアングロノルマンの特徴をもつというだけではなく，語形論から考察しても，アングロノルマンと見做され得る混乱を生じている。

まず音韻と綴について，テキストにみられる Bibbesworth の言語の特徴を指摘しよう。次のような現象が明らかである。

Anglo-Norman の特徴

〔1〕 音と綴り

(当時の大陸フランス語の綴りと比較し，AN 語の特徴と見做される綴りをあげる)

A．母音

－1－ 鼻母音の表記

母音 a が鼻子音に従われる場合，13世紀初頭から綴り aun，aum が頻繁に用いられた：[Pope 34.1]

1) chaunt 797, 800, 820, chaunte 714, 715, entaunt 1139, graunt 805, sauns 224, 595, saunt 1109, saunz 148, 455, 508, 521, 557, 594, taunt 52, 474, 499, 1139,

2) ataunt 485, 896, auncele 465, avaunt 560, 753, 967, blaunche 1026, 1028, 1031, 1076, 1134, chaumbre 749, 938, chaumpe 357, 947, chaundaile 502, chaunbe 145, devaunt 371, 686, 929, 1024, 1065, enfaunt 195, enfaunz 327, estraunge 599, fraunce 281, fraunceis ⑧, ⑯, ㉑, 23, 74, 80, 82, 86, 130, 150, 216, 242, 460, 527, 706, 752, 803, 834, 985, 1137, fraunecys ⑲, feisauntz 225, feyzauns 1129, graunge 356, 785, 814, jaumbes 137, 139, launce 314, launge 79, maunche 630, mordaunt 192, plauncie 955, plaunte 149, plauntayne 652, pendaunt 191, saunte 1104, seriaunt 290, viaunde 988, 1125,

3) auncieneries 684, chalaundre 720, estauncke 519, filaundre 719, nusaunce 1061, avenaunt 1030, covenaunt 1062, deceivaunce 1062, deguttaunt 578, maintenaunt 486, salamaundre 721,

〔Verb〕 avaunce 283, chaungez 241, chaunte 252, 253, chauntez 358, comaunt 1140, descoraunt 520, disaunt 561, enfaunter 2, espaunde 727, espaundre 722, 723, jaungle 261, lidaunt 579, paunde 729, plauntez 214, 674, sachaunt 897, volaunt 759, 787,

－2－ AN 第2期 (1250年以降) の特徴

o＋鼻子音は(a) oun, oum, 又は(b) un, um と表記された：[Pope 45.1, 49.1]

(a)

1) braoun 146, 1131, dount ㉖, 13, 552, 1046, frount 40, moun 25, 29, 30, 34, 39, 40, 41, 1084, noun 86, 165, 308, 317, 685, 864, 868, 961, 1038, nouns 335, 916, poun 820, 821, 822, poun 823, soun 26, 301, toun 1035,

2) mounceus 478, mountayne 101, poume 778, poumes 207, 209, poune 280, soume 232, toune 587,

〔Verb〕 counreera 904, doun 247, fount 579, groundile 277, moundes 1021, mountez 387, 471, ount 177, 844, poune 282, soune 179, 589, toune 586, 588, vount 842, 861,

3) amount 920, 962, arounde 791, 794, blazoun 98, bricoun 507, busschoun 375, clavouns 929, coumble 232, 944, 961, falcoun 266, faucouns 237, feoun 819, foisoun 482, 1135, garzoun 1069, garzouns 18, 142, 1077, grenoun 97, gerouns 1066, grenchouns 969, hirchoun 777, herouns 230, laroun 558, leoun 251, meisoun 716, 971, mesoun 938, 948, 975, 1021, mesouns 970, meissoun 794, mentoun 73, peissoun 518, penoun 917, peschoun 316, 741, plumjoun 781, pomoun 158, quistroun

1035, resoun 283, 740, roilouns 861, sarmoum 1136, sygoun 792, taloun 149, tendroun 58, tenoun 564, 918, tenouns 930, tysoun 1003, virouns 743,

4) agoilloun 936, aquilloun 902, chaperoun 185, cheverounde 793, cheverouns 958, cleriouns 732, compaignoun 284, corbailloun 481, enviroun 160, escuchoun 920, germinoun 205, hardiloun 193, lymacoun 539, mansioun 782, 806, mustreisoun 85, moundilloun 928, papilouns 771, subiloun 194, severoundel 793, venesoun 1117,

(b)

1) cum 852, 878, 1108, dunc 1011, dunt 492, 641, 643, 684, 740, 835, 864, 894, 895, 904, 911, 942, 961, 964, 1139, sun 776, 812, tun 308,

2) cumble 964, 965, cuntregardom 170, munde 792, runces 773, secunde 1027,

3) cunseillere 4, fundament 940, munseignur ①,

4) botuns 186, carbuns 568, encheisun 71, foysun 239, reisun 57,

〔Verb〕 cunté 1107, enfundré 1122, funt 816, 1052, jungez 1021, munder 1000, mundez 1033, munté 312, respundre ㉔, serrunt 908, sunt 697, 779, 784, 836, 837, 858, 870, 887, 911, 912, 928, 930, 934, 975, 991, 992, 993, 1065, 1066, unt 782, 851,

—3— 自由母音 o

(a) ou と表記された：〔AN の綴り ou は eu に変化しない段階でとどまり，これは AN の保守性と考えられる〕[Pope 16.3.1]

1) flour 380, 383, 385, 595, houre 475, lour 935,

2) auctour 910, bevour 176, errour 936, flatour 304, peschour 293, pestour 381, pledours 103, verdour 594,

3) artillous 865, delicious 798, enviouse 786, graciouse 800, merveillous 916,

(b) o と表記された：

〔Verb〕 demorré 880

(c) u と表記された：

1) duz 183, 215, 641, fu 441, 606, jus 931, lur 844, 890, 1092, 1108, pur ④, ⑪, 12, 17, 25, 70, 72, 95, 109, 128, 136, 143, 144, 163, 206, 209, 215, 269, 285, 319, 327, 339, 364, 370, 423, 425, 449, 455, 464, 530, 554, 603, 609, 626, 692, 698, 702, 807, 814, 832, 833, 836, 854, 862, 865, 881, 897, 929, 932, 965, 967, 972, 1013, 1056, 1092, tru 194, trus 862,

2) urtie 780, urtil 149,

3) aillurs 749, dolur 175, flurs ㉒, riotuse 799, seignur 691, seignurs 1024,

—4— 拘束母音 o（強勢母音と非強勢母音とを区別しない）

(a) ou と表記された：

encouste 1128, fourn 396, louche 1038, oustés 201, rouche 1037, 1043, 1045, 1052, route 231,

(b) u と表記された：

buche 89, bulenge 381, curteller 414, duce 1017, munseignur ①, purcel 275, russinole 713, turbe 234, tut ⑥, ⑧, ⑮, ㉑, ㉖, 81, 124, 311, 423, 444, 482, 494, 495, 522, 687, 1111, tute 335, tuz 345, 529,

〔Verb〕 respundre ㉔; suffrez 722, tusser 1093, ublier 668, ubliez 161,

—5— 〔13世紀にかけて二重母音 ei は急速に水平化して e になるか，もしくは大陸フランス語のような ei>oi という変化を生せず，ei のまま残った〕[Pope 16.3.1, 35.3.30]

(a) ei を保存：

1) dreit ㉓, 210, 981, 1095, feyn 354, freid 590, meins 1083, quei 451, 530, 900, rey 685, sei 686, 1047, seif 583, seins 2, tei 308, treys 439,

2) cerveise 1109, emcheisun 108, feire 842, meissoun 794, peires 1020, peissoun 518, peitrine 84, serveise 497, 501, teille 1041, veisine 881,

〔Verb〕aveir 308, beit 1096, creissent 675, deit 18, 24, 193, 242, 860, 1045, espleiteromes 522, seir 908, seit 809, 810, 827, 966, 1025, 1029, seient 138, 1056, seit 4, 6, 27, 54, 82, 406, 409, 470, 474, 542, 633, vei 1014, veir 586, veit 688,

(b) e と表記される：

perere 677, peschoun 741, pesschon 722, veneles 784,

〔Verb〕aver 25, 309, 860, 969, asscez 1022, crere 1084, dever 429, saver ⑤, ㉖, 373, 740, 979, seer 173, 606, 774, seent 772, seet 272, 304, 892, veer 804, veet 16, veez 310, 751, 1087,

—6—

1) o, ou のかわりに e, eo が現われる：

demert 718, deskevre 726, reof 845, reos 835,

2) e のかわりに語頭音節に o が現われる：

coreiser 677, sojour 776,

3) on にかわる en：

foysen 1127,

4) e のかわりに i, y が現われる：[Pope 39.3.2]

chivaler 311, chivauche 401, chivaul 1072, chivaule 252, chivaus 348, 384, 889, 894, 904, 911, 977, chivechure 136, fusil 434, 440, 442, grisil 584, grissilour 775, gysine 882, hirchoun 777,

5) u にかわる i：

fimer 1001,

6) e, ei が i に対応する：

coreiser 677, geleine 812, gerouns 1066, maces 1123,

—7—

1) oi のかわりに ui, u が現われる：[Pope 49.2.0]

buit 699, juneres 851,

2) ui のかわりに u が現われる：[Pope 35.3.6.1]

busschoun 375, busson 715, fruture 1131, fruz ㉒, fusil 441, hus 989, lussel 452, nusaunce 1061,

〔Verb〕dedure 639, destruez 539, espuchez 517, groule 250,

—8— 二重母音 ie のかわりに e が現われる：〔AN において je>ẹ, jẽ>ẽ という変化が促進され，それは13世紀後半以降 AN の際立った特徴となった〕[Pope 35.1.1, 39.2.4]

1) ben 215, 368, 498, 707, 906, 1115, chef 29, 30, 87, fel 165, fens 1073, her 1106, mel 1051, pee 588, pes 153, peez 10, ren 1088, veille 1037,

〔Verb〕 set 717, tent 831, vent 306, 926, 1059,

2) bracer 462, cengler 275, coingner 687, coigner 693, 694, colers 890, dosser 874, drener 179, manger 710, mester 81, 334, 389, mousters 42, pece 20, peres 552, pieler 951, pomer 677, pruner 678, river 830, sengler 1115, somer 891, tresben 1101, verder 755, viver 796, ventrer 875,

〔Verb〕 covent 935, 969, 981, nager 743, negger 745, tendra 899, tochez, 138, vendra 596, venes 548,

3) baavvere 1086, ceneiller 679, charetter 892, 893, 899, 901, 903, coreiser 677, demesters 412, derere 77, destrere 312, escheker 822, fimere 233, forester 756, 758, littere 397, 398, 400, 402, lymoner 884, manere 208, 217, 335, 448, 463, 513, 662, 946, 1138, mariner 744, mesere 941, 945, 948, 949, 957, 959, perere 677, primere ⑤, rivere 265, souleres 184, terere 960, ventrere 877, vereuder 757, vivere 514, 515, volunters 772,

〔Verb〕 caruer 900, carruer 902, devendra 414,

—9— ien のかわりに ein：

chein 256, coveint ㉕, 6, 20, 96, 424, 445, 447, 456, 524, deveint 380, veinent 841,

—10— ai と ei と e が AN では無差別に用いられたらしい：[Pope 35. 3. 2]

1) ai にかわる ei, ey：

einz 907, eise 498, eyles 729, freische 296, grein 355, greine 379, greile 234, mareis 262, mein 113, 114, 116, 117, 118, 314, 602, 900, meins 112, 119, meinte 742, 1118, 1138, meintenant 500, maintenaunt 486, meisoun 716, meisun 962, moneie 696, meyn 899, neyn 831, plaunteyne 652, rey 318, reheite 812,

〔Verb〕 depeint 750, despleise 976, eit 488, 590, 811, 893, 940, eiment 209, 780, eident 852, eider 881, enpriereit 1085, feir 814, meint 721, neistra ⑥, pleiser 1092, serreit 799, vaudreit 813,

2) ei にかわる ai：

rais 842, solail 840,

3) ai にかわる e：

breses 1015, brez 483, bresceresce 487, eese 975, fere 814, fes 847, megre 1076, pledours 103, reson 210, resoun 283, 740, tesschom 805, treste 763, tretiz ①,

〔Verb〕 estrere 1036, fet 691, 696, 709, 716, 775, 811, 948, 1061, 1076, fere 174, 319, 344, 365, 928, fest 979, fetes 965, 1002, fetez 997, retrere 345, seet 973, trest 760,

4) ai にかわる ee：

veet 873,

—11— a のかわりの e, e のかわりの a：

breser 462, chescun 82, 93, 152, 157, 206, checun 246, chescune ⑰, 78, 217, checune 246, garbes 330, 331, grece 510, herde 222, 223, nomaz 476,

—12—

1) ai にかわる aa, a にかわる aa が現われる：

baave 11, 1083, baavere 14, baavure 12, baavvere 1086, haane 786,

2) e のかわりに ee, u のかわりに uu があらわれる：

geele 572, 578, gruue 250, neez 5, preez ⑲, seert 439,

—13— 渡り音 e が現われる：

cheverau 276, cheverouns 958, chevereaus 1120, la levere 61, 63, 88, la livere 62, 65, le livere 66, le levere 64 livere 834, overez 543, vereder 755, yverai 340,

〔Verb〕 avera 900, 901, 903, 922, 1071, avereit 344, averent 1121, averez 417, 1018, coverez 1024, 1026, 1027, estera 959, enbeverez 907,

B. 子音

—1— 語末歯音 d の保存：[Pope 38. 1. 1. 3, 42. 3]

1) ad 39, 50, 77, 93, 102, 138, 149, 218, 263, 280, 299, 307, 313, 334, 372, 429, 510, 530, 531, 556, 562, 563, 564, 663, 689, 699, 706, 720, 723, 739, 755, 769, 771, 776, 781, 795, 806, 808, 827, 867, 868, 885, 895, 909, 927, 945, 947, 1093, 1107, 1112, 1137,

2) l の前で ð の硬音化した d の保存：medlez 385

—2— 前口蓋破擦音 ts と dz が保存される綴りには cch, g, gg, が用いられる：[Pope 38, 1. 5. 0]

1) enseecher 480, ficchez 970, 992, flammecches 1019, lucchere 1040.

2) gouns 993, gouste 1099, grenchouns 969, gymeaus 991, gymel 993, negge 580, negger 745.

3) ch にかかわる g の綴り：

hagis 1036, jungez 1021.

—3— ch が ç に対応する：

hirchoun 777, trenchons 971, 975.

—4— 綴り h の挿入：

pessohun 540, preihe 377, thas 355, thase 353, thesson 259,

—5— k, ck が多く見られる：[pope cf. 46]

bekas 795, clerck 708, clercke 179, clerke 503, 617, clike 995, crekere 682, crekes 682, deskes 497, eskanel 148, esku 313, estauncke 519, estomak 160, eveske 1016. kakenole 466, kar 896, karoles 624. keuve 558, keverel 486, kevil 151, 155 keviles 153, kivil 960, knyvet 611, kokel 797, kou 821 kouue 114, kyvil 151, 156, kyviles 154, orkoil 802, porckes 229, qanke 895, secke 554, 693 soke 921, teske 1015.

〔Verb〕 escheker 822, deskevre 726.

—6— 口蓋音 ļ に l が対応する：

baal 289, tailes 888, taillez 1055, vermaile 1126,

—7— n が gn に対応する：[Pope 38. 2. 1]

cynes 1119, juneres 851, russinole 713.

—8— on, ons のかわりに om, oms, um が用いられる：[Pope 74. 1]

1) chardoms 772, tesschom 805, plumjoun 781,

〔Verb〕 afichom 268, aloms 326, 712, averoms 584, avom 166, 711, cuntregardom 170, dioms 334, dirroms 866, espleiteromes 522, lyom 869, mangoms 1058, oblioms 164, puissoms 998, purroms 748, quiloms 163, rediroms 747, redirroms 1043, trenchoms 1057, usom 785, veom 1046, veoms 745,

2) n のかわりに m が用いられる：

aubume 202, emcheisun 108, emfez 5,

—9— r のかわりに rr が現われる：

demorre 880, dirrai 898, ferreit 461, girra 882, irrez 430, redirroms 1043, serra 413, 483, 1004, serreint 140, 1110, serreit 436, 799, serroie 789, 790, serrunt 908, torrail 480, verrement 458,

—10— sch, ssch, sc の使用：

1) abesche 299, besche 298, busschoum 375, escheker 822, eschelez 864 moschoms 738, peschoun 741, pesschon 722, tesschom 805,

〔Verb〕masche 1099, pescher 832,

2) ascez 1124, bresceresce 487, nascie 1081, nascier 1080, yveresce 503, 507,

〔Verb〕arascez 420,

3) s と c が交換される：

cengler 275, chaciouse 44, houce 702, nace 524, 528, 534; sygoun 792,

—11— th が用いられる：

lith 1041, math 822, neth 928, sueth 709,

〔Verb〕enflestith 1042,

—12— w の保存

1) war 59, waneles 783, warrott 332, 333, wen 77, wendeaus 836, wibes 779, wude 452,

〔Verb〕waez 908, war 923,

2) alawes 1130, alouwe 252, bouwele 545, couwe 823, 876, eauwe 470, 484, 520, 523, euwe 517, ewe 516, gruwes 223, houswan 714, jouwe 60, limower 873, louwe 256, mauwe 342, mouwel 846 mulewel 542, ouwe 261, ouwel 850, ouwes 199, 241, pluwe 578, veuwe 824,

〔Verb〕enclowé 1012, manjuwe 316, mouwere ⑭, suwe 1072,

—13— y が用いられる：

ceyn 832, cy 1069, foysen 1127, gysine 882, lyme 989, neyn 831, yvere 782,

〔Verb〕lyoms 869,

—14— cz の使用：

arczouns 933; Franncze 120,

—15— z の使用：

garzouns 1077, mauviz 715, sauz 705, totez 815, zouche 924, zucre 1132, zugre 1122, zure 145,

—16— 音位転換：

bersil 488, berzille 491, drener 179, pernez 407, 431, 693,

—17— 古形：

ees 1045, 1049, 1052, enfez 727, ydol 1041,

〔Verb〕descrivere 833,

〔Pronoun〕ceo 706, 732, 754, 775, 910, 965, 987, jeo 805, 818, 829, 847, 848, 1014,

〔Indefinite Pronoun〕

checun 1128, chescun 973, 1078, chescune 859, chescuni 704,

—18— 指小辞 (diminutive)：

charette 843, charret 833; clerioune 708, cleriouns 732, postnez 1036, quistroun 1035,

—19— 動詞の不定法語尾 -er が -ir を吸収：

escouper 1093, 1098, pleiser 1092, seer 774, tusser 1093, vomer 1094,

—20— Anglicism：cneif 691

〔2〕「語彙集」MS Gg I. I に特有の綴り

—1— 不要の e：

andenne 328, aubume 202, ascie 751, bateles 744, chaumpe 947, chivaule 252, hastere 576,

orgoille 1090, oriole 615, perere 677, pieler 951, porckes 229, reheite 812, reynes 164, russinole 713, une destrere 312, veie 581, vereglace 577, vereglacere 577, yvere 782,

—2— 類推のeの存在：

forte 934, ignele 791,

〔Verb〕 aime 821, espaunde 727, voile 803,

—3— eの脱落：

eschuer 936, farin 378, ferm 155, frai 85, frez 545, guers 798, lainers 144, lerreint 623, matire 532, pauper 54, ventrer 883,

—4— geの脱落：

plounoun 278,

—5— hの添加：

hourail 551, 558,

—6— iの嵌入：

bieau 311, enfiauns 183, pluis 777,791, roilouns 861, suir 949, teins 1, uine 318,

—7— lの嵌入：

coulds 889,

—8— nの嵌入：

englenter 681

—9— pとbとの混同：

blaces 625,

—10— 不要のr：

leverer 61, maugrer 935, tristresce 453, tristrer 450,

—11— sの嵌入：

nest 94, fest 463, toust 767,

—12— ssのかわりのz：

blezure 148,

〔3〕 Infrequence

aillie 1082, asci 750, ascel 868, assel 867, auctour 910, aumail 239, 549, aumaire 983, 987, aumeire 982, 983, aumfe 582, aumfes 746, aumere 984, 985, auncieneries 684, baavvere 1086, becheus 855, bendeaus 837, betel 340, blaune 1126, bost 610, bracerole 885, braceroles 887, breeche 1051, canois 416, capinole 604, caroil 343, carpenter 156, ceneiller 679, ceneilles 679, ceyn 832, chaltil 855, chardonerole 770, chaunbe 145, clous gilofrez 1123, coigner 694, coins en gravé 1121, colure 537, cotuyer 566, cyme 581, dedeing 1089, dees 1046, 1049, dume 825, eel 44, eeles 738, eiles 737, en lunge 889, esclavos 1071, esclavoté 1069, esclos 1072, escous 1063, 1065, escuchoun 920, esqueles 1033, 867, esseles 851, estle 903, fens 807, fileie 446, filleie 448, foudeines 680, fouder 680, fouleie 228, frahel 1064, frenole 610, fru 790, fruture 1131, galein 120, gareters 141, garoil 263, 268, garrez 141, genchour 963, gengevere 122, gingives 70, grenchouns 969, gracechouz 1074, greste 491, grissilour 775, guerreour 272, haranc 1064, houce 701, 702, hurtevers 858, husbondrie ⑩, jauntes 838, 839, jayhole 614, kakenole 94, 96, 466, laumbei 1097, leuche 1039, lucchere 1040, manaungerie ⑩, maugrer 935, maumerie 1125, mauputois 809, mauviz 715, messer 945, messere 947, mesuere 942, moail 845, mouvel 203, mouwel 846, moyeaus 844, 849, 857, 863, 870, musenge 768, musinge

765. noblei 1135, orer 590, orere 592, 598, oriol 801, orroilloun 919, osceles 1007, osseles 890, ouwe roser 787, palevole 769, pardriz 1129, paumere 699, peeses 1020, peperonges 681, pesaz 407, plovers 1130, poeuns 1119, pooun 823, poun 820, 821, 822, poyton 307, primour 835, quer 786, 1097, quibibes 1123, rastuer 387, 388, 391, 393, 430, raz neth 814, recous 797, restel 759, reynoun 159, runces 773, sauners 863, sauz 705, seillouns 954, 955, solum 247, taupaines 816, taupes 815, torbas 906, traes 957, trenchesouns 976, 978, treste 763, trescel 762, vaanne 785, varole 637, vemberges 541, vile 1043, voidere 447, voiders 452,

〔Verb〕 agroile 261, araer ⑮, baubeye 1078, bluché 828, cleye 259, coaule 273, cures 1023, cymeie 580, enboulré 1032, espeluper 305, estermuer 1103, estomie 602, escuger 425, gerist 253, groule 250, mimoune 254, naee 739, regaille 274, rehaez 421, releie 275, rezane 255, torreie 276, toune 587, voidra 454,

Ⅳ. Bibbesworth の *Tretiz*

以上ビブズワス「語彙集」の音と綴りに関して，AN の特徴と思われる点を本文より挙げてきた。語彙集には鼻母音 ã, õ の軟口蓋化を示す，大陸フランス語にはない aun, oun の綴りや，二重母音 ie より e への水平化が広範囲にみられ，対強勢母音 e が先行する ts̆，あるいは後続する j̣，ḷ，n̤のために上昇して i になったことを示す語形などが見られる。ラテン語の自由長母音〔e〕に由来する二重母音 ei は oi に変化せずに残り，o̤>ou は eu とならずにとどまった。o̤>u の変化も綴りに現われている。

子音群 cr, tr, dr, fr, vr における渡り音 e の発達も AN の特徴の一つであろう。語頭及び語末の w の保存や，k, ck, sch 綴りの使用も顕著である。

また，教本の内容からも我々は，イングランドにおける当時のフランス語の曖昧な実状を窺い知ることができる。ビブズワスは曖昧な発音および綴りからくる混乱を防ごうと心を配った。例えば，似た言葉があり，その違いを正しく教えようとする個所で，“唇と，野兎と，リーヴル貨幣と，本がある…61-66.” という一節であるが，唇の ‘la levre’ には，AN の特徴の渡り音 e がはいり ‘levere’ となっており，兎の ‘le lievre’ は二重母音 ie の水平化と渡り音によって ‘levere’ となっている。貨幣単位のリーヴルにも，本にも，渡り音 e がはいり ‘la livere’, ‘le livere’ となった。このように，作者の折角の努力にも拘わらず，この 4 種の単語はビブズワスの教本どうり，男性，女性の冠詞を付して，正しく発音し，正しく綴ったところで，尚大陸フランス語の発音と，綴りとは異なったものであったのだ。テキストの中に，同音異義語の多いことは，当時の発音を知る上からも興味深い。

AN の音や綴りという見解をはなれてこの作品を読んでみると，その頃の文学作品，ロマンスや，聖者伝や，年代記などには見られない，13世紀後半のイングランドの日常生活の風俗を身近に感じることができる。“両手に抱えきれぬ程の細糸よりも，ほんの片手一杯の生姜が欲しい･･･121-124.” という表現から，我々は当時，13世紀から14世紀にかけて，生姜の砂糖漬が pâte du roi とよばれて，大層珍重された嗜好品であったことをあらためて思い出し，働き者の主婦は，パンを竈に入れて焼く間にも，時間を惜しんで畑仕事に出かけることや，手造りのビールを飲んで酩酊する人々のありさまや，魚釣りのありさま（魚掬いと言うべきか）や，花園の花，薬草の知識などさまざま教えられて楽しい。

Bibbesworth が教本の冒頭で，家政 husbondrie e manaungerie についてのフランス語を習い，ついで田園，果樹園，森の花，小鳥，動物の名や生態も学ぶ，と記しているとおり，主題はまず①②人体について，③身の廻り，④鳥獣の群と⑤その啼き声，⑥フランス語の多様な表現，⑦畠の作業，⑧窯まわりの作業，⑨亜麻打ち，糸紡ぎ，⑩ビールの醸造，⑪魚釣，⑫天候，⑬果樹園の草花，⑭果樹園の木々，⑮森の小鳥，⑯森林の動物，⑰荷車，⑱耕作用鋤車，⑲家屋，⑳火を熾すこと，㉑家うちを整えること，

㉒日常の様々な言葉，話し方，㉓お祝いの御馳走の準備，となっている。

①②教本はまず嬰児をどのように扱うべきかというところから話し始めて身体の各部分，内臓の名称を教える。意図されてあるところは単数，複数，冠詞，所有代名詞の性別を認識させることにある。しかし，そこで例えば，上述の唇という言葉を教える際，同時に同音異義語あるいは類似語も教えておこうとするから叙述は身体についての主題から離れてゆく。屢その親切な同音異義語の説明はアングロノルマンの特徴をもった言葉を登場させる結果となっている。脇下 ascel から車の車軸 escel へと話は飛躍するし，足の踝 kevil は木の桁 kyvil と区別する。kevil は大陸フランス語では clavicula に由来する cheville であるが，この語は踝の意味も木釘の意味も持つ。綴りを変えて kevil と kyvil を区別するのはアングロノルマン独特の言葉であろう。③ enfaunt や pendaunt，mordaunt に aun の綴りが見られ，chaperoun，hardiloun，sublioun には oun の綴りが現われる。

④群れの獣や鳥を指す時のさまざまな呼び方が記されているが鹿の群，鶴の群を herde と言い鵜は特に 'h' を発音せずに eerde というのも面白い。herd は heord に由来する言葉である。教本に英語彙が多く借入されているわけではないが，この呼び方などは英語彙も摂入れた当時のアングロノルマン語の話し方を如実に示している。

⑤幼い子供たちが言葉を覚えようとする際，動物の啼き方を教えて，その啼き方の擬声語が動物を認識させる語となるのは今も昔も変らない。雌猫はにゃおと啼く 'chate mimoune' というが，現在フランスの幼児の絵本もさまざまな動物の啼き声を早い時期に教えるのである。《Miaou ! Miaou !》dit le chat というように。⑥フランス語の多様な表現に対して英語はひとつの単語で対応するとしている。成程そのような場合もある。たとえば馬にしても destrer(destrier)，sorel(sorrel)，equins(equine)，rounci (roncin) はアングロノルマン時代に借入された。

⑦⑧中世の邸における日常生活で農作業は欠かせない。多人数の食事を用意する台所まわりの仕事も大切である。吹くという言葉も英語の blow に対して suffler，venter，corneer がある。藁は littere と綴った。litière の [jɛ] が [ɛ] となって水平化している。このアングロノルマンの発音が英語に借入されたと思われる。現在英国では公用の大きな屑籠に litter の文字が記されている。駕籠の意味では Anglo-Norman Dictionary (1983) が W*aldef* から一例のみを挙げている。En litteir se fet porter … 6069 と。litteir は litere の variant であって litere (litiere) には藁と駕籠の両義があり特に綴りを以て区別することはなかった。Bibbesworth は '相異がある' divers, discordaunt dient ces clers 398-9 と言っているけれども。

⑨⑩家政をつかさどる婦人は多忙である。糸を紡ぎ小麦を粉にする石臼を挽く。火口金を使って火を熾す。OF fuisil にはいろいろの意味があるがこの語は AN では二重母音 ui が u となって fusil と綴られ，また [u] と発音されたと思われる。ビールの醸造も楽しい仕事である。ビールを飲んで酔うと大言壮語，俗人を聖職者に仕立てるとは少々Bibbesworth のからかいの口調が読みとれる。ビールは奇蹟もおこす。驚異も生み出す。Serveise fet miracles e merveilles 501，毛編シャツ 1 枚 chaundaile を二枚に見せたりするから。

⑪⑫池で釣りをしているのどかな田園風景が浮かぶ。*The Complete Angular*「釣魚大全」をものした Isaak Walton の口調さながらである。いづこの風景であろうか，緑のない裸の木々の枝が奇妙にそそり立つイングランドの冬の気候も語られている。そのような寒々とした冬にはチロチロ燃える炉のそばが快適である。燃える火の側の暖かい想像は春の野原で桜草の花輪を作るところを心に画き，その花輪を学校の先生にあげることへと飛躍し，やがて先生や学僧たちの甘言に脆い女性への厳しい批判となる。viroles からの類推でつけ加えられた畠の青虫 varole がキャベツから生まれるというのも楽しい。畠の風景から次は果樹園へと移ってゆく。

⑬よく晴れた日，薬草も植えてある果樹園へ急ぐ。Alom dedure ou banoer 639 をフランシアン綴りにすると Alon deduire ou baigner となる。1人称現在複数動詞語尾が -om となるのは AN の顕著な特徴である。dedure の u も ui[<uc] が u となった AN の特徴。果物 fruz も同様の変化を示している。ui[ɥi] は AN に受け入れ難い音であったようだ。baigner に見られる gn[ɲ] は AN では [n] となり，綴りは bainer，あるいは ai を a と表記する異綴 banoer となった。[o̯] に由来する fleur の綴りは flour となるがここでは flurs，fluir もあらわれている。

⑭果樹園には englenter (eglantier) や，freine (frêne)，alier (alisier) が育つ。englenter は女性の名にも使われる可憐な野ばら (eglantine) を咲かせ，果実 peperonges [大陸フランス語には稀な語] をつける。とねりこ freine は Marie de France の短詩に登場する佳人の呼び名でもある。Bibbesworth はこの物語の連想から alier と Alianore (Eleanor) を結んだのでもあろうか。ともあれ Henry 2 世の后エレオノールの名前が，彼女の身に付けていた黄金のちずももに由来するという言い伝えがあったらしいという事を知るのはこの教本の記述による。作者が名を挙げる花，草木，果実は薬用，食用となって実益に供されるものが多い。また，先にも述べておいたが Bibbesworth は教本で特に同音異義語に留意し，homonyms を口調よく並べようと努力する。その結果 homonyms への関心が先行すると当然内容は，主題の果樹園の話から逸れて説明はさまざまな方向へと向かう。coingner (cognassier) 'まるめろ' の homonym は coingnier (coincer) '足枷をはめる' もあるし coingne (coin) '貨幣の鋳型' といういみもある，という工合に学習が進む。フランス語で一般に熟知されていると思われる言葉には繰返し Car le langage est ben commune 707. と注釈が入る。

⑮森の小鳥たちの中でも russinole (rossignal) '小夜鳴鳥' は nitheingale とふつう呼ばれフランス語への借用語になっていた。我々が日常生活の中で鳩や鶴の絵，模様を見慣れているように当時の人々は ascie (bécasse) '山鳴' の絵姿を見慣れていたのだ。しぎ鳥は捕え易いということで古くから愚かな女の代名詞であった。火の中に住むという伝説の '火とかげ' salamaundre に書き添えられてある英語は，多分家こおろぎ criket のつもりだろう。salamaundre は山椒魚でもある。その連想から次の語句 espaundre の説明には魚の話が持ち出されたと考えられる。espandre (espondre<L exponere) と espaundre (L expandere)，espendre (L expendere) と pandre (L pandare) は語源が異なっているが混同しやすい言葉である。第4番目の言葉として espandere が登場すると我々も迷ってしまう。この言葉は expandere に由来するものであろうが書き添えられてある英語をみると espeudre の混乱した異形かとも考えられぬことはない，容易に判断を下し兼ねる。Bibbesworth がこの項では，また，殊更に 'i' の音と 'e' を区別しようと腐心しているところが見受けられる。eyles と eeles を綴りわけて区別しようとするのは，独特の AN 的特徴と言えるだろう。彼はさきに kevil と kyvil (151-4) とに綴りをわけて聞きわけられる音と共に意味の区別をしようと試みた。

⑯森の動物には tesschom (blaireau) '穴熊' や gupil (renard) '狐' が現われる。ルナール狐の奸計にはめられ，蜂蜜を嘗め損なった熊のお馴染の話を我々は想い出す。この主題の中にも，比較表現とともに接続法の用例も現われる。仮定文における動詞に接続法が使用されるのは Anglo-Norman のテクストに屢見られる形である。比較の接続詞 que，ke のかわりに qi，qui，ki の綴りが現われるのも Anglo-Norman の特徴といえるであろう。

例. E meuz *amase* ensement / Si jeo le *huisse* a talent / Char le cerf ou de feoun / *Ki* chaunt de asne ou de poun 817-820.

⑰⑱当時はイングランドの大部分の人々が，農業を営む生活であった。故に日常の耕作仕事に必需品の車についての叙述は大変詳しい。moiel (moyeu) '轂' などという言葉も特有の綴り moail で教えられる。卵の黄身を意味する moiel には別の綴り mouwel を使う。char の縮小形 charret, charet, charette

が好まれ，chartil ‘車体’ という綴りも現われる。charetter は荷馬車の御者であり，carruer は鋤車で耕す者である。charret と carue の説明は入念に行なわれ，k 音，ch 音が頻出する。ノルマンディには農耕用の伝統的な charrette，charrue が現在に伝わっている。charrue の発音はアングロノルマン諸島において様々で kéru, teéru, káru, kehu などである。ventrer (ventrier) ‘馬の腹帯’ と ventrere (ventriere) 助産婦は違っていて，それは Divers cum vous orrez i a 878. と作者が念を押す所だけれども，再び二重母音の ie が水平化して e と変化している。Bibbesworth は ‘正しいフランス語’ を教えようとした，しかし作者が言うようにこの両者に差異をつけてしっかりと発音しても尚大陸フランス語とは微妙な違いがあったことになる。

⑲⑳家屋を造ること，火を熾すこと。家は自分たちが作るものだ。木組みをして基礎をこしらえ，壁を造る。この主題の中にも曖昧な綴りが見られ，大陸フランス語を対応させた場合の混乱は避け難い。la mesere (mesiere) ‘支えの壁’ ly messere (messier) ‘農作物番人’ には再度 ie の水平化による AN の特徴が見える。mesuere (ménagère) ‘主婦’ という綴りもある。この項には前置詞の使用が多く，実際の使い方は滑らかなリズムに乗った口語表現で示されてある。aumeire と aumaire が特に書き出されているのにも興味がある。aumaire は (L armarium＞armoire) AN Dictionary が異形 variants に al-; a(u)meire, almarie, -ary, erye; aumaile を記載し，意味は repository, storehouse という。aumeire は variants が -aire, er; ameire で，意味は louver とあり，AN Dictionary fasc. I. には *Femina* よりの用例一例が挙がっているだけの稀な言葉である。Tobler-Lommatzsch: *Altfranzosisches Wörterbuch*, Wiesbaden. および F. Godefroy: *Dictionaire de l'ancienne langue Française*, Paris. に aumeire という語は加えられていない。即ちこの語は特殊な意味を持つに至ったアングロノルマンの言葉ではないかと考えられる。日常の生活で火を熾すのは畠を耕やすと同様に大切なことだ。使役動詞 feire, fere が使われており，tutoiement が現われる。忙しく立ち働く様子のうかがえる言葉づかいである。衣服に火の粉が飛び散らぬように注意しながら，とろ火の中に梨や桃を入れて焼きリンゴならぬ焼き梨を作るのはさぞ楽しいだろう。

㉑㉒家うちを整えることや様々な言葉について。新しくても汚れているテーブル掛けの布より，たとえ洗い古したものでも白い布がよほど良いなど実際に即することを細やかに教える。鋏で手の爪も切らなくてはならない。農家で飼っているだろうと思える蜂の巣箱や蜜蠟の話もある。honey bee という言葉もフランス語へ広く借用されていたのだろう。パンの堅い端を神に捧げるという習慣は奇妙に聞こえる。パンの堅い耳よりも柔い内側を我々は有難がるならわしであるから。下働きの者は巾広の前掛をつけ，女性は頭を頭布で覆っていた。その大きな前掛の中で干物の魚や豆類をよりわけたのだ。鰊は常食であったらしい。騎士殿の好物でもあった。(cf. 311-317) さて，Bibbesworth はこのフランス語教本を Essex の Mountechensy の奥方に献呈したのだった。彼女は孫娘の Dionysia にフランス語を教えるために語彙集の作成を依頼したといわれているが，作者は女性に対して遠慮会釈のない厳しい批判を教本の中で行なう。愚かな女は学校の先生がお世辞に差し出す小刀や嵌め輪などに惹きつけられ，楯持ちや学僧の一寸した言葉に脆くも靡く。(cf. 609-619) 女性は男の気に入るようにと気取って，高慢ちきに硬口蓋歯摩擦音を使っておしゃべりをする。私は女性を大層軽蔑する Mes de femmes ai dedeing grant 1089. と作者は言い切り，皮肉も言う。

㉓大詰めのお祝いの日の準備は大童である。先づ充分に飾りつけた猪の頭だとか，美事な旗飾りをつけた豚の鼻だとかを食卓に並べる。種々の贅沢な香料，珍味が次々と並べられる。葡萄酒に大麦ビールは欠かせない。ゴール人は昔から大麦のビールに酔っぱらい大法螺を吹いたことだろう。ビールは奇蹟を起こすものだ，一枚のシャツが二枚に見えてくる，と Bibbesworth は記していた。(501-510) 鶴に，孔雀に，白鳥の肉，これは珍味に過ぎるとしても雉，山鳴，鷓鴣，鶫，雲雀，千鳥のローストは地方の

自慢料理であったのだろうか。coins en grave は兎 conins (variant) のシチューと読んだ。御馳走をたらふく食べ終って満腹の後には白い粉の消化剤，胃腸薬が供されるというところまで作者はつけ加えるのだ。この一言で我々は，まのあたりにまるで Hogarth が描きそうな絵画，一題して '饗宴の satiety' ―を一幅の実感をこめて見る思いがする。

Bibbesworth の Treatise が書かれてある写本 Cambridge MS Gg I. I には，断片であるけれども同じように貴族の子供たちのための教本 *Urbain le Courtois* が含まれている。フランス語を教えるのが主目的ではなく，やがては立派な士族になる騎士見習いの少年たちに礼儀作法を教えるものである。Anglo-Norman で書かれてあるのは幾種類か現存する。大陸フランスで作成された *L'art d'aimer* にみられる courtoisie elaborée とは異なる実際的な教本である。アングロノルマン文化というものを作り上げたウィリアム征服王の子孫や所縁の者たちは国民性として大層 practical minded であったということだ。教本には，食卓について御馳走の分配が，自分には少なくとも不平顔をするなとか，貴人の食卓で給仕をする場合，まずパンを供し，それからゆったりと寛いで食事をして貰えるようにビールの杯を置くとか，いろいろと作法の実質が教えられてある。身分の良い少年達は何よりもまず行儀を良くし，そして，フランス語を上手に話さなければいけない。礼節を学ばぬ者は恥であって，即ちこの礼節 noreture とは実利を伴なう社交上の躾なのだ。Bibbesworth の教本は *Books of Courtesy and Nurture* とは異なる，フランス語の語彙をもっぱら教える目的の *Nominale* に属する。然し礼節と修身の書である *Urbain* も，*Apprise de Nurture* も，Bibbesworth の Treatise も，内容において大層実際的なことを実証的に教えようとするところは大差がない。ノルマン征服以来，イングランドに定住し，異民族との混淆の中で彼等の経済，科学，文化をつくり，言語を伝えてきたノルマンの子孫たちの日常生活，彼等の関心事，趣味嗜好の断片をこの教本に垣間見ることが出来る。彼等はロマンスの虚構の世界の住人ではない，現実の世界の住人である。Bibbesworth の教える言語という点から再びこの教本をふり返る時，その言語は社会的威信を長らく保ち続けたイングランド上流階級の共通語として用いられたものである事を念頭に置かなくてはならない。AN は母語(英語)では地方的に方言の異なりを持つ人々の共通語であったのだ。AN は当時のフランス語としては言語の早熟性 precocity も示すと同時に保守性 conservatism をも示すのである。Bibbesworth の教本の何よりの特徴は作者が苦心する所の類似語への配慮である。それには①異なる語源を持つ言葉が類似の形になっているものと②同じ語源である言葉が違った意味と綴り，時には異なった音を持つようになったと判断されているものがある。興味深いことに，そして又皮肉なことに作者の配慮する①にも②にもかえって Anglo-Norman の特徴が明らかであり，それらは Anglo-Norman 特有の稀な語と思える形になっているものが多い。文法という規則にあてはめて教本をみる場合，教本には冠詞，名詞，代名詞，形容詞の用い方に混乱が認められ，動詞活用にも特殊性が認められる。その言葉の独特の響きは，いづれ faus français d'Angleterre として崩壊してゆく運命であったと言い切ることもできるが，一方において Bibbesworth の言葉は口ずさんでみると，尚，アングロノルマンがフランス語の一方言として確立し得た，ある種の親しみ深い魅力を残す koine の風格を具えていると言えるのである。

記

Annie Owen ed. *Le Traité de Walter de Bibbesworth sur la langue français* Paris, 1929 は Bibbesworth *Tretiz* の variants を挙げて edition を作成したが，585行 assez trop non pas trop grele を転写せずにおり，この行は Owen 校本から抜け落ちた。行数において Owen と筆者が異なることを記しておく。

cf. W. Rothwell ed. Walter de Bibbesworth *Le Tretiz, Anglo-Norman Text Society* Plain Texts

Series 6, 1990.

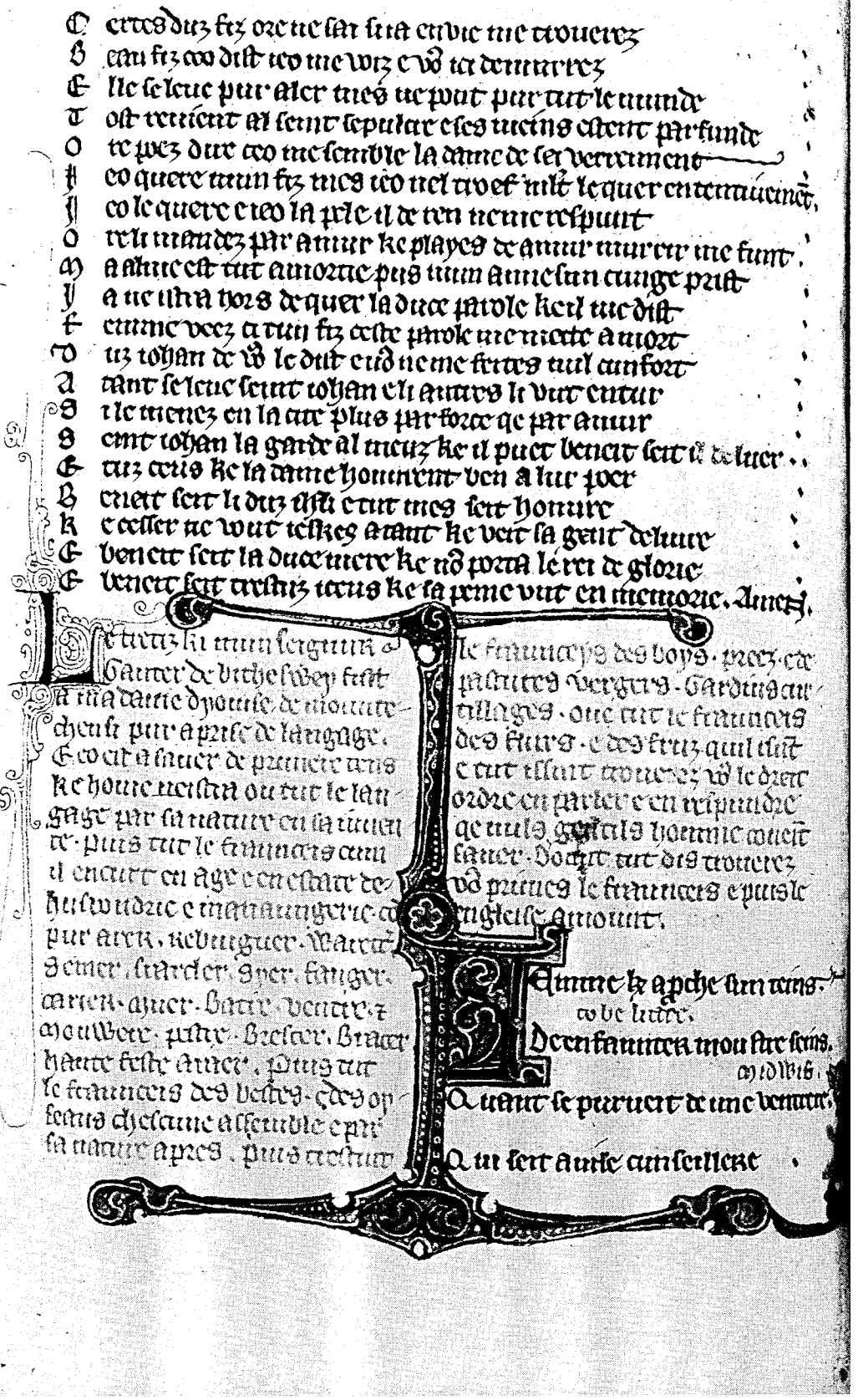
Rothwell が校訂した *Tretiz* は筆者が転写をした *Tretiz* と同様のものである。本校訂では文意が読みとれるかぎり写本の文言，綴りを写した。Rejected readings も Rothwell と細部において異なっている。

Rothwell は *Modern Language Review* vol. 77, 1982 pt. 2, pp. 282-293 に "A Mis-judged Author and a Mis-used Text : Walter de Bibbesworth and his 'TRETIZ'" と題する論文を掲載し，A. Owen の edition に見られる誤記，写本と転写の不一致を克明にとり上げた。

Walter de Bibbesworth : *Le Tretiz*

Cambridge Univ. Library MS Gg. 1. 1

ff. 279va-294rb



Certes duz fiz ore ne sai si ta emie me trouerez
Beau fiz coo dist ico me voiz e vo ta demurez
Ele se leue pur aler mes ne put pur tut le mund
Ost trestut al sent sepulcre eles meins atent parfund
Ne pez dire coo me semble la dame de ceo verrement
Ico quere mun fiz mes ico nel trof nule le quer en remaneth
Ico le quere e ico la prie il de ten ne me respunt
Vei mi mendez pur amur ke plaies de amur murrent me funt
Amie est tut amonte pus mun ame lun cunge prist
A ne tint vos de quer la duce parole ke il me dist
Emme veez a tun fiz ceste parole me mette a mort
Vz tolyan de vo le dut e vo ne me ferez nul confort
Tant se leue seint tolyan eli amurs le vint entur
Ne menez en la cite plus par force qe par amur
Sent tolyan la garde al meuz ke il puet venir sent le luer
Taz cels ke la dame honurent ven a lur pier
Venir sert li duz issi e tut mes sert honure
Ceiser ne vout teskes a tant ke vit sa gent delure
Ven sert la duce mere ke no porta le fiz de gloire
Venez sert cristiz tens ke la peine vut en memoire. Amen.

* *

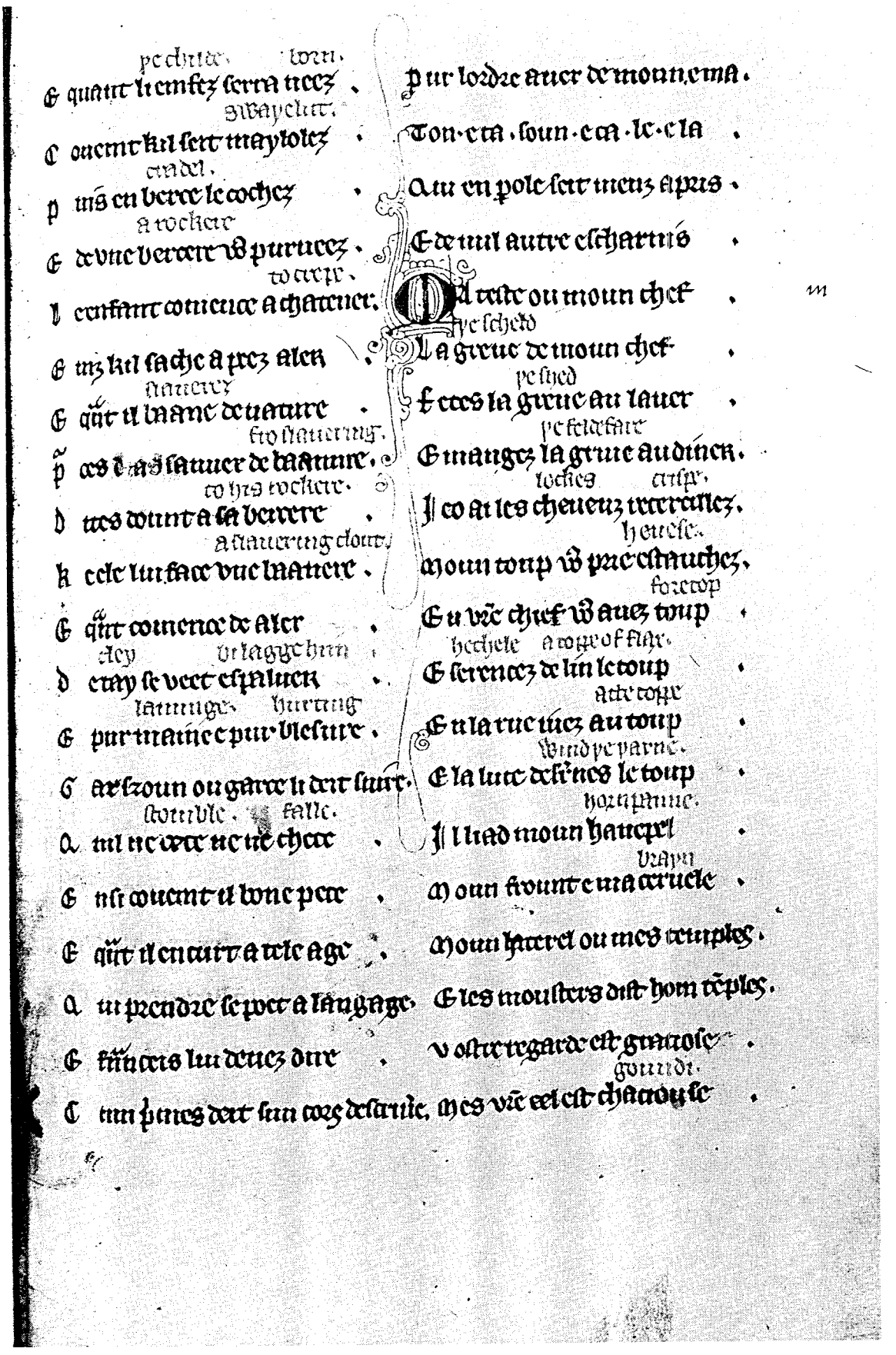
Ce tretiz ki mun seignur
Gautier de biche lebey fist
A ma dame dyonise de monte-
chensi pur a prise de langage.
E co est a saver de premere anis
ke houme neisse ou tut le lan-
gage par sa nature en sa vuien
te. Puis tut le femminers cum
il encrest en age e en estat de
hu le wndue e mal aungerie co
pur aver, rebuigner. Waucr
gemer, luirder, gyer, fangyr.
carier, ajuer. Batre. vendre. e
ayoulbere. pidre. Brasser. Brucr
hanter feste aurer. Puis tut
le femminers des bestes. e des oi-
seaus chescune a sa semble e pri
sa nature apres. Puis ne chut

le femminers des boys. pres. e
pasture. vergers. Gardins ar-
tilages. Ore tut le femminers
des fleurs. e des fruz qui sunt
e tut issant trouerez vo le dreit
ordre en parler e en respundre
qe nuls gentils homme ne set
saver. Dount tut dis trouerez
vo pruues le femminers e puis le
englesse amount.

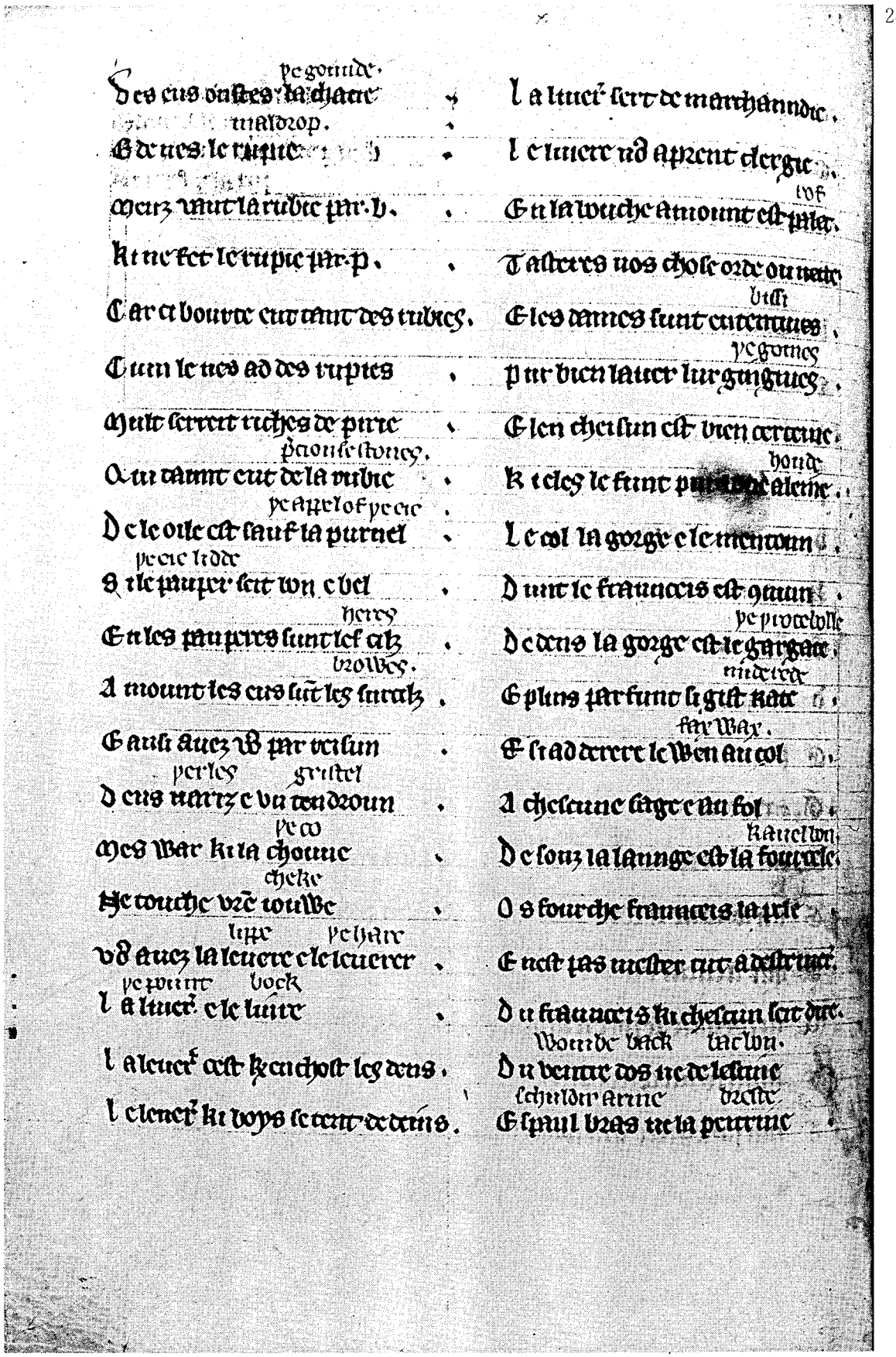
Amme le apche sun ame. ⁊
ou be lure.
Deen fammera mon sire seins.
ou dubis.
Quant se pursuert de une venture.

Qui sert a ule amsellere

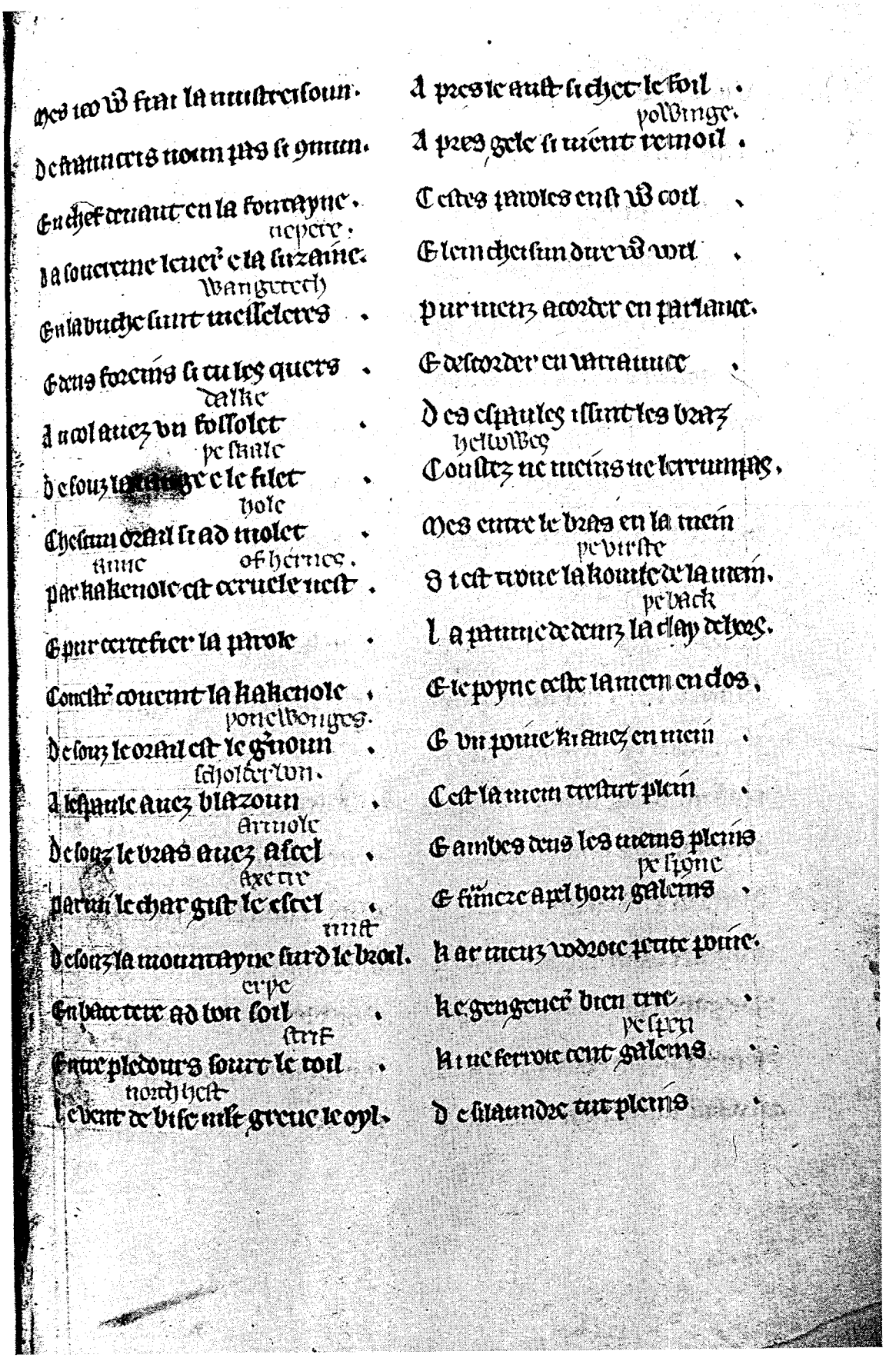
280r



ye childe. born.
E quant li enfez serra neez . Pur lordre auer de moun e ma .
swayelut.
Couenit kil seit maylolez . Ton . e ta . soun . e ca . le . e la .
cradel.
Pins en berce le cochez . Au en pole seit menz apris .
a rockere
E de vne bercere vo purueez . E de nul autre escharnis .
to crepe.
Le enfant comence a chatener . Ol teste ou moun chef .
ye scheld
Enz kil sache a peez aler . La greue de moun chef .
slauerez ye shed
E quant il baane de nature . Fetes la greue au lauer .
fro slauering. ye feldefare
Pces [illegible] sauuer de baanne . E mangez la grue au diner .
to his rockere. lockes crispe.
Dites dount a sa bercere . Ieo ai les cheueuz recercillez .
a slauering clout. heuese.
Keele lui face vne baanere . Moun toup vo prie estauchez .
foretop
E quant comence de aler . En vre chief vo auez toup .
cley bi lagge him hechele a coppe of flax.
Detay se veet espaluer . E serencez de lin le toup .
lauinge. hurting acte coppe
E pur maine e pur blesure . En la rue iuez au toup .
wind ye yarne.
Car sroun ou garce li deit suire . E la luce desrnes le toup .
stomble. falle. hornpanne.
Ainsi ne cete ne ne chece . Il liad moun hanepel .
brayn
Ensi couenit il bone pece . Moun frount e ma ceruele .
E quant il encurt a tele age . Moun haterel ou mes temples .
Au prendre se poet a langage . E les mousters dist hom temples .
E francois lui deuez dire . Vostre regarde est gracioise .
goundi.
Cum primes deit sun cors descriuere . Mes vre eel est chacioise .



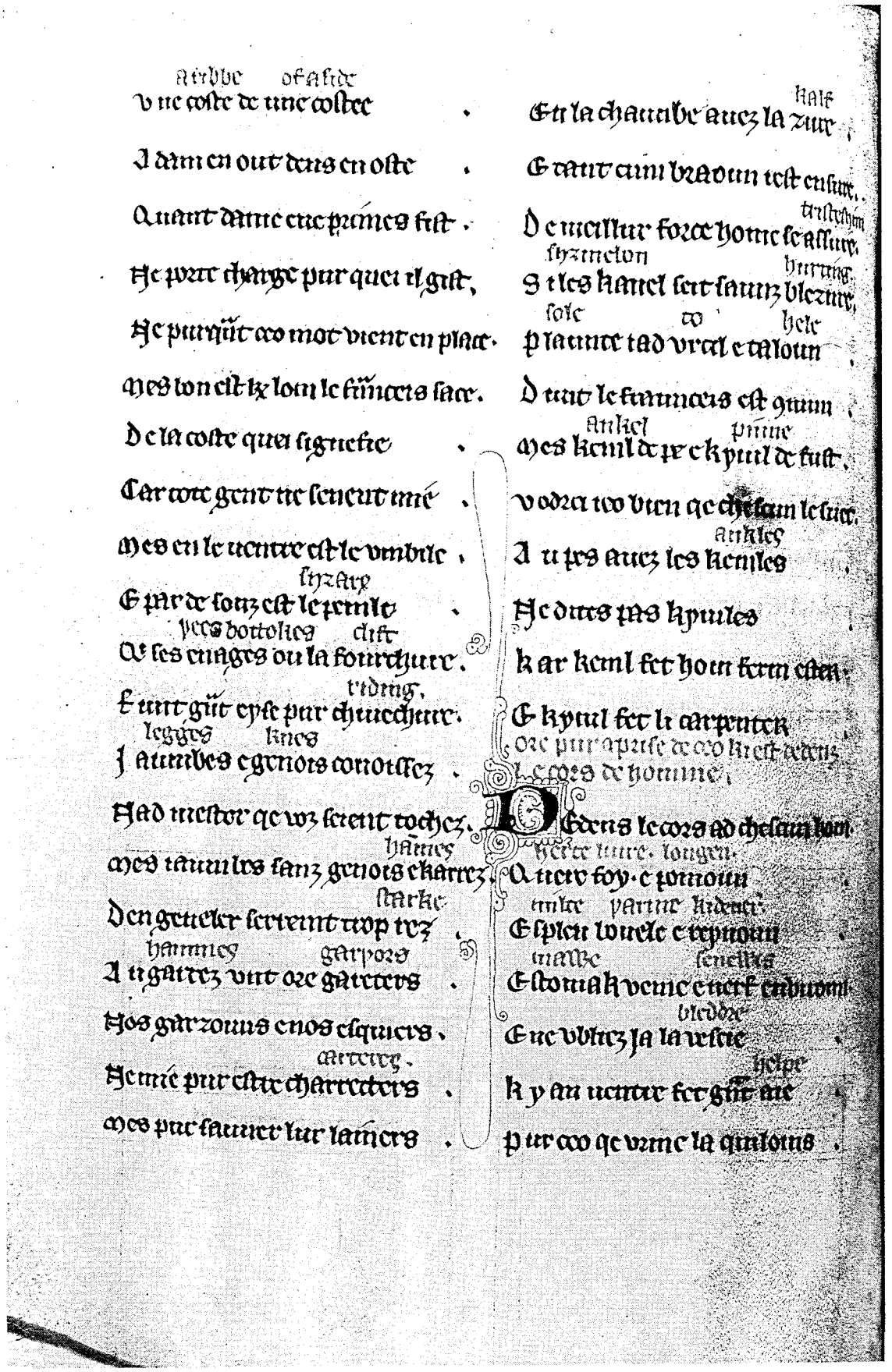
281r



Mes ieo vō frai la mustreisoun.
De fraunceis noun pas si ꝯmun.
En chef deuant en la fontayne.
nepere.
La souereine leuer̄ e la suzaine.
wangetech
En la buche sunt messeleres.
E dens foreins si tu les quers.
dalke
A u col auez vn fossolet.
pe skale
De souz la [illegible]ge e le filet.
hole
Chescun orail si ad molet.
anne of hernes.
Par kakenole est ceruele nest.
E pur certefier la parole.
Conestr̄ couenit la kakenole.
ponewonges.
De souz le orail est le gr̄noun.
scholderwon.
A lespaule auez blazoun.
armole
De souz le bras auez ascel.
axetre
Parmi le char gist le escel.
mist
De souz la mountayne surd le broil.
erye
En bace tere ad bon soil.
strif
Entre pledours sourt le toil.
north hest
Le vent de bise mist greue le oyl.

A pres le aust si chet le foil.
powinge.
A pres gele si uient remoil.
Cestes paroles ensi vō coil.
E lem cheisun dire vō voil.
Pur meuz acorder en parlance.
E descorder en variaunce.
Des espaules issunt les braz
helwwes
Coustez ne meins ne lerrumpas.
Mes entre le bras en la mein
pe virste
Si est troue la koude de la mein.
pe back
La paume de deuz la clay dehors.
E le poyne ceste la mein en clos.
E vn poine ki auez en mein.
Cest la mein trestut plein.
E ambes dens les meins pleins
pe spone
E fumere apel hom galeins.
Kar meuz vodroie petite poine.
Ke gengeuer̄ bien trie.
pe spen
Ki ne ferroie cent galeins.
De silaundre tut pleins.

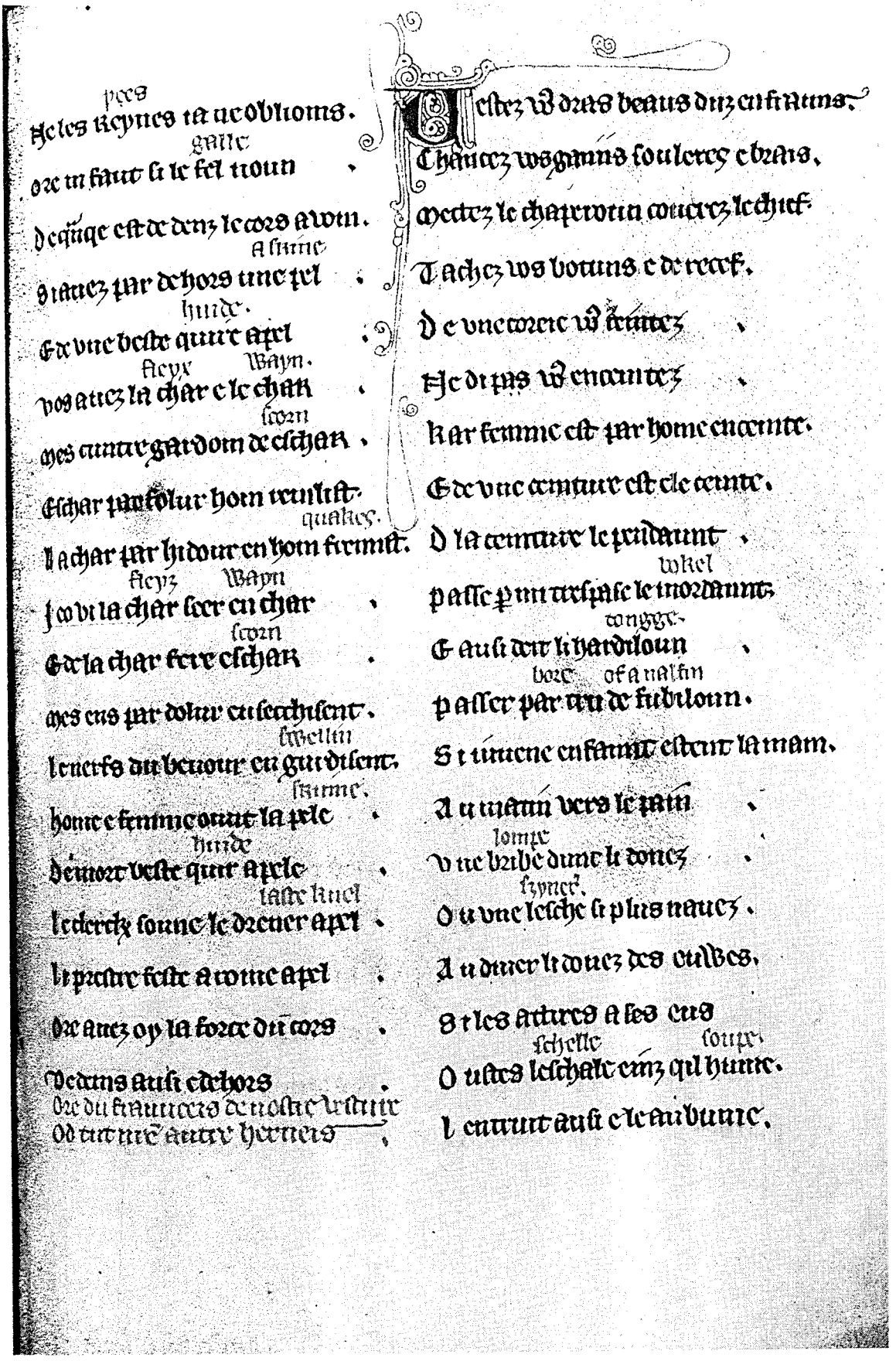
281v



a ribbe of a side
Vne coste de une costee .
A dam en out dens en oste .
Quant dame eue primes fist .
Ne porte charge pur quei il gist,
Ne purquant ceo mot vient en place .
Mes bon est lx lom le fraunceis sace .
De la coste quei signefie .
Car tote gent ne seneut mie .
Mes en le uentre est le umbile .
syzare
E par de souz est le peinle .
yees bottokes clift
Ou ses enages ou la fourchure .
riding.
E unt grant eyse pur chiuechure .
legges knes
Iaumbes e genois conoissez .
Nad mester qe voz seient tochez .
hamnes
Mes iaumbes sanz genois e karrez .
starke
Den geueler serreint trop rez .
hammes garpors
Au garrez unt ore gareters .
Nos garzouns e nos esquiers .
carteres.
Ne mie pur estre charrecters .
Mes pur sauuer lur lainers .

kalf
En la chaumbe auez la zure .
E tant cum braoun iest ensure .
tristeshim
De meillur force home se assure .
syzmelon hurting.
Si les kanel seit saunz blezure .
sole to hele
Plaunte iad vrcil e taloun .
Dunt le fraunceis est gnum .
ankel pinne
Mes keml de pe e kyuil de fust .
Vodrei ieo bien qe chescun le suee .
ankles
Au pes auez les kemles .
Ne dites pas kyuiles .
Kar keml fet hom ferm ester .
E kyuil fet li carpenter .
ore pur aprise de ceo ki est dedens
Le cors de homme .
Dedens le cors ad chescun hom .
herte liure. longen.
Quere foy e pomoun .
milte parme kideuer
E splen bouele e reynoun .
masse senelles
E stomak veine e nerf enbuoun .
bleddre
E ne vbliez ja la vescie .
helpe
Ky au uentre fet grant aie .
Pur ceo qe vrine la quiloins .

282r



pees
Ne les reynes ia ne oblioms.
galle
Ore in faut si le fel noun.
De quanqe est de denz le cors a vom.
a skine
Si auez par dehors une pel.
hinde.
E de une beste quire apel.
fleyx wayn.
Vos auez la char e le chair.
scorn
Mes cuntre gardom de eschar.
Eschar par folur hom remlist.
quakes.
La char par hidour en hom fremist.
fleyz wayn
Jeo vi la char seer en char.
scorn
E de la char fere eschar.
Mes ens par dolur en secchisent.
swellin
Le nerfs du beuour en gurdisent.
skinne.
Home e femme ouut la pele.
hinde
De mort beste quir apele.
laste kuel
Le clerck sonne le drener apel.
Li prestre feste a rome apel.
Ore auez oy la force du cors.
Vedems ausi e dehors.
Ore du frauncois de nostre vesture
Od tut nre autre herneis.

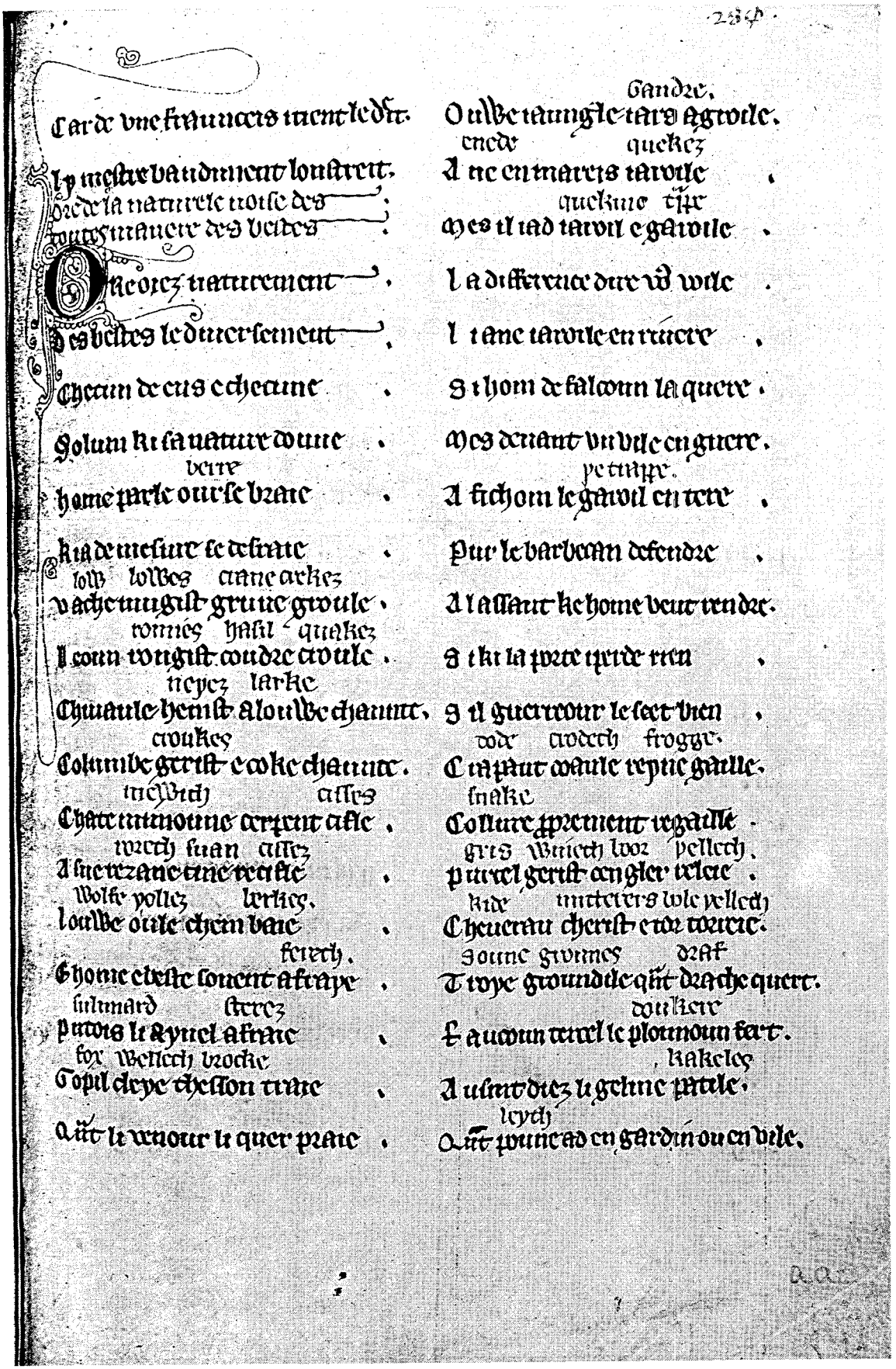
Vestez vos dras beaus duz en frauns.
Chancez vos gaiins souleres e brais.
Mectez le chaperoun couerez le chief.
Tachez vos botuns e de recef.
De une coreie vos ceintez.
Ne di pas vos enceintez.
Kar femme est par home enceinte.
E de une ceinture est ele ceinte.
O la ceinture le pendaunt.
wkel
Passe par mi trespase le mordaunt.
tongge.
E ausi deit li hardiloun.
bore of a nalfin
Passer par tru de fubiloun.
Si iuuene enfaunt estent la main.
Au matin vers le pain.
lompe
Une bribe dunt li donez.
szyner.
Ou une lesche si plus nauez.
Au diuer li donez des euwes.
Si les actres a ses eus
schelle soupe.
Oustes leschale einz qil hume.
Lentruit ausi e le aubume.

282v

polke
E li donez le mouuel . Vne herde est apele
cranes
A home seine bon morcel . E des gruwes ansi vne herde.
sterne.
Mes remuez la germinoun . E des grues sauns . h . eerde.
Mal a desire pur chescun hom . Nye de feisauntz coue de partiz
partiz
Des poumes wo die ensement . Damere des alounes trippe de berbe
larkes
La maniere e laffetement . Harras dist hom des poleins
coltes
Quant poumes mangent pur ceo les eiment. Grant foulere dist hom des vileins
cherles
E de dreit enfanz a reson les cleiment. Soundre des porckes sundre des estrans
scalk
Oustez lestiche e la parure . Bouee des herouns ppee des oyseaus
smale bridde
Si lur donez la morsure . Route de veofs . mute des chiens.
kore
La pepiniere wo engettez . Coumble de ble somme des biens.
mork
E les pepines le plauntez . Masse de argent fuuer des feins.
Ore le frauncois des bestes e oyseus
chescune asemble par son naturele langage. Greile des gelins turbe de cerceles.
teles
Beaus duz enfanz pur ven apprendre. Luir de faucouns luyre de puceles.
honting.
En frauncois denez entendre . Mes pucele ceo est saunz imper.
Ki de chescune maniere asemble. Les gentils faucouns aluirer.
Des bestes ki deus ad forme . Eschele dist home de bataille.
E des oyseaus ensement . Foysun dist home de vif aumaille.
Couenit parler pprement . Des dames dist hom compaignie.
kertes
Prunes ou cerfs sunt assemble E des ouwes ne chaungez mie.

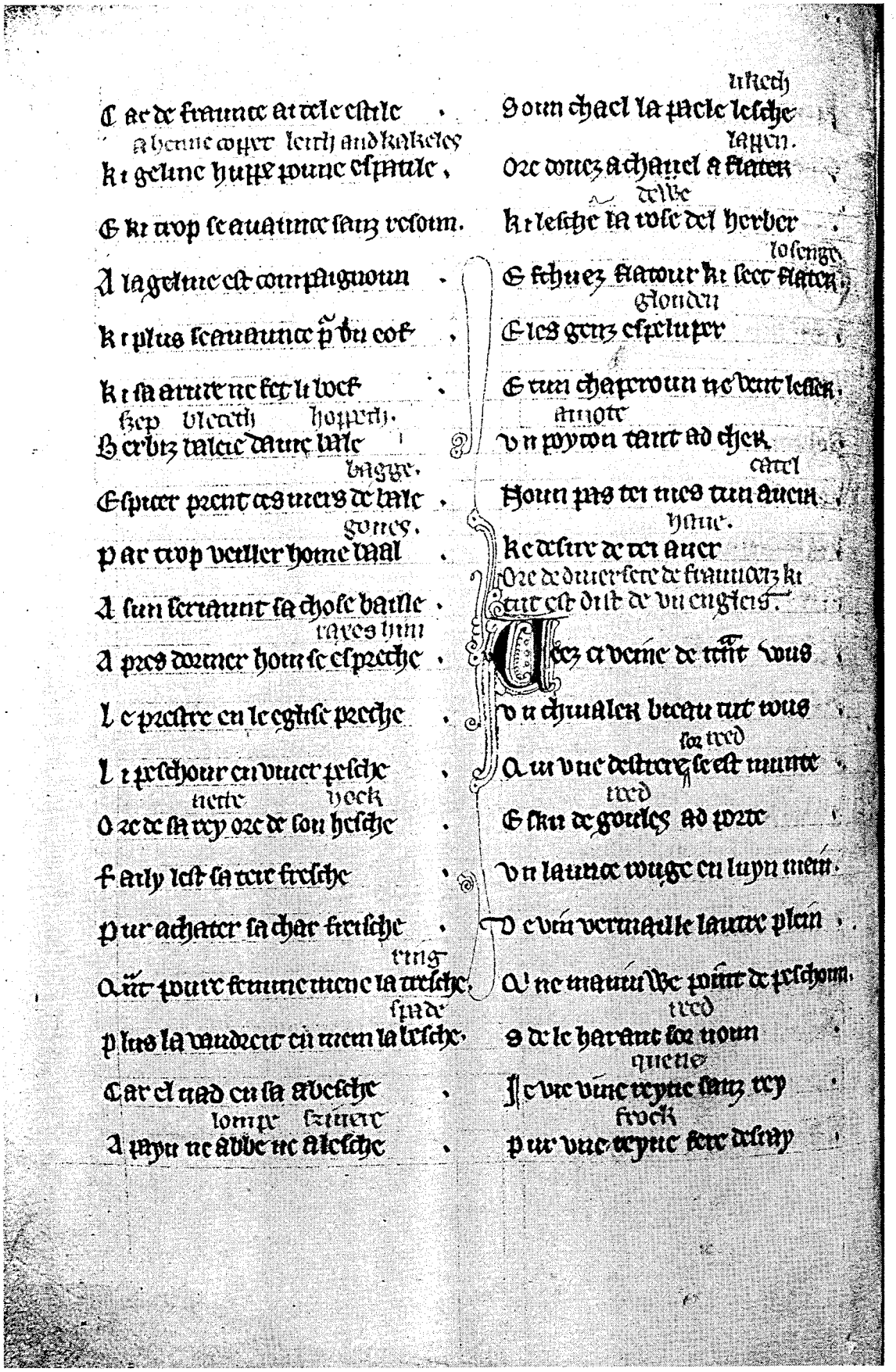
. Car de vn frauncois.

283r



Car de vne fraunceis mient le dit. — Ouwe iaungle iars agroile.
Ly mestre baudiment lonstreit. — A ne en mareis iaroile.
Ore de la naturele noise des — Mes il iad iaroil e garoile.
toutes manere des bestes.
Ore oiez naturement. — La difference dire vo vile.
Des bestes le diuersement. — Li ane iaroile en riuere.
Checun de eus e checune. — Si hom de falcoun la quere.
Solum ki sa nature donne. — Mes deuant vn vile en guere.
home parle ourse braie. — A fichom le garoil en tere.
Ki a de mesure se desraie. — Pur le barbecan defendre.
vache mugist grune groule. — Al assaut ke home veut rendre.
Leoun rongist coudre croule. — Si ki la porte iperde rien.
Chiuaule hemist a louwe chaunte. — Si il guerreour le seet bien.
Columbe gerist e coke chaunte. — Crapaut coaule reyne gaille.
Chate minoune cerpent cifle. — Collure proprement regaille.
A sue rezane tine recifle. — Purcel gerist cengler releie.
Louwe oule chem baie. — Cheuerau cherist e tor torreie.
Ghome e beste souent afraye. — Troye groundile quant drache quert.
Putois li aynel afraie. — Faucoun tercel le plounoun fert.
Copil cleye chesson traie. — Ausint diez li geline patile.
Quant li venour li quer praie. — Quant pounc ad en gardin ou en vile.

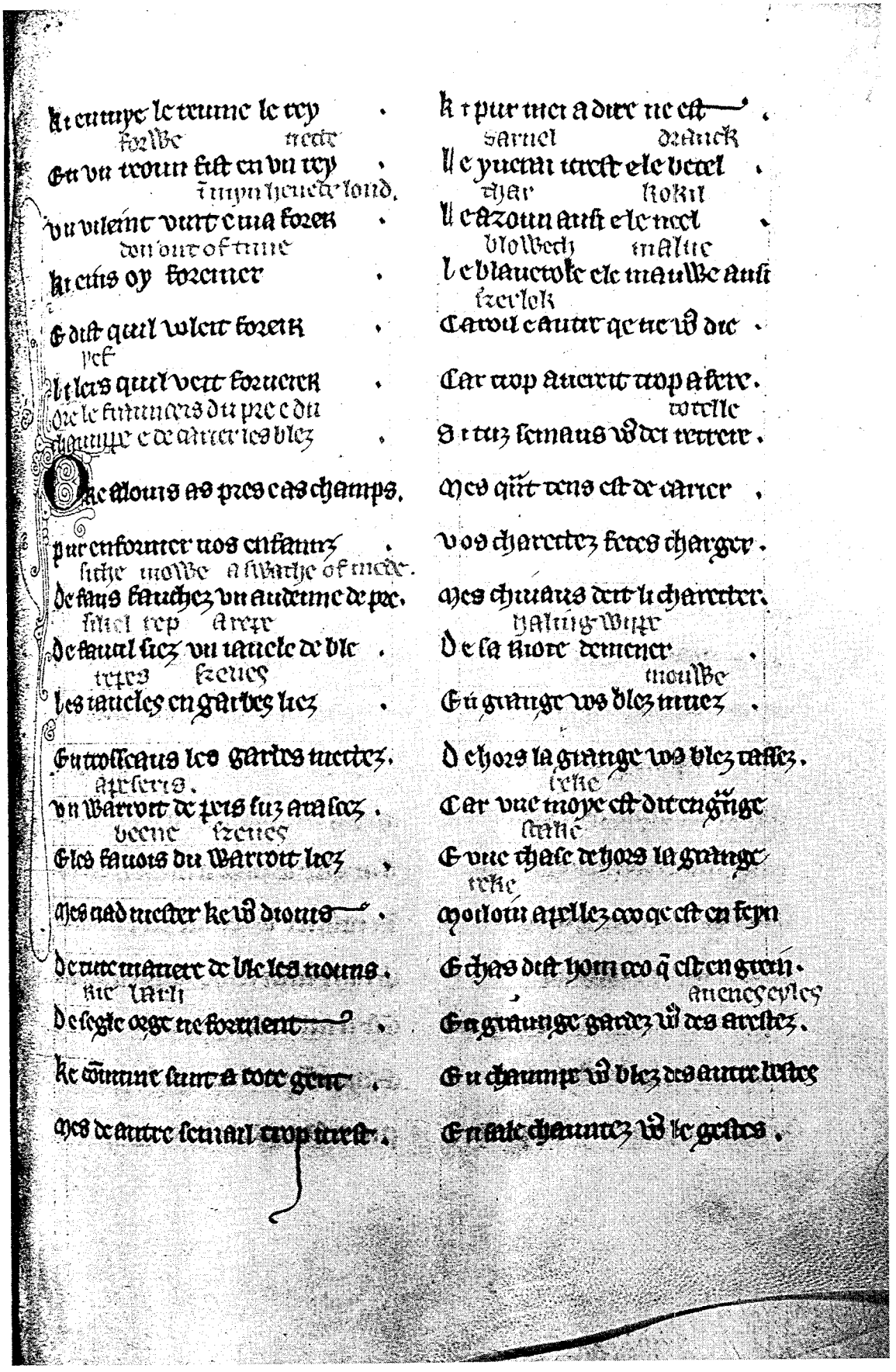
283v



Car de fraunce ai tele estile .
a henne coppet leith and kakeles
Ki geline huppe poune espatile .
E ki trop se auaunce sanz resoun .
A la geline est compaignoun .
Ki plus se auaunce p̄ vn eof .
Ki sa arure ne fet li boef .
szep bleteth hoppeth .
Berbiz baleie dame bale
bagge .
Espicer prent ces mers de bale .
gones .
Par trop veiller home baal .
A sun seriaunt sa chose baille .
raxes him
Apres dormer hom se espreche .
Le prestre en le eglise preche .
Li peschour en viuer pesche .
nette yock
Ore de sa rey ore de son hesche .
Faily lest sa tere fresche .
Pur achater sa char freische .
ring
Quant poure femme mene la tresche .
spade
Plus la vaudreit en mem la besche .
Car el nad en sa abesche .
lompe szinere
A payn ne abbe ne alesche .

liketh
Soun chael la paele lesche
lappen .
Ore douez a chauel a flater
dewe
Ki lesche la rose del herber .
losenge
E fchuez flatour ki seet flater .
glouden
E les genz espeluper
E tun chaperoun ne vent lesser .
amote
Vn poyton tant ad cher .
catel
Noun pas tei mes tun auer .
hane .
Ke desire de tei auer
Ore de diuersete de fraunceiz ki
tut est dist de vn engleis .
Veez ci veine de mont vous
Vn chiualer bieau tut rous
sor reed
Qui vne destrere se est munte .
reed
E sku de goules ad porte
Vn launce rouge en luyn mein .
De vin vermaille lautre plein .
Ne maniuwe point de peschoun .
reed
Sde le harant sor noun
quene
Je vie vine reyne sanz rey
frock
Pur vne reyne fere desray

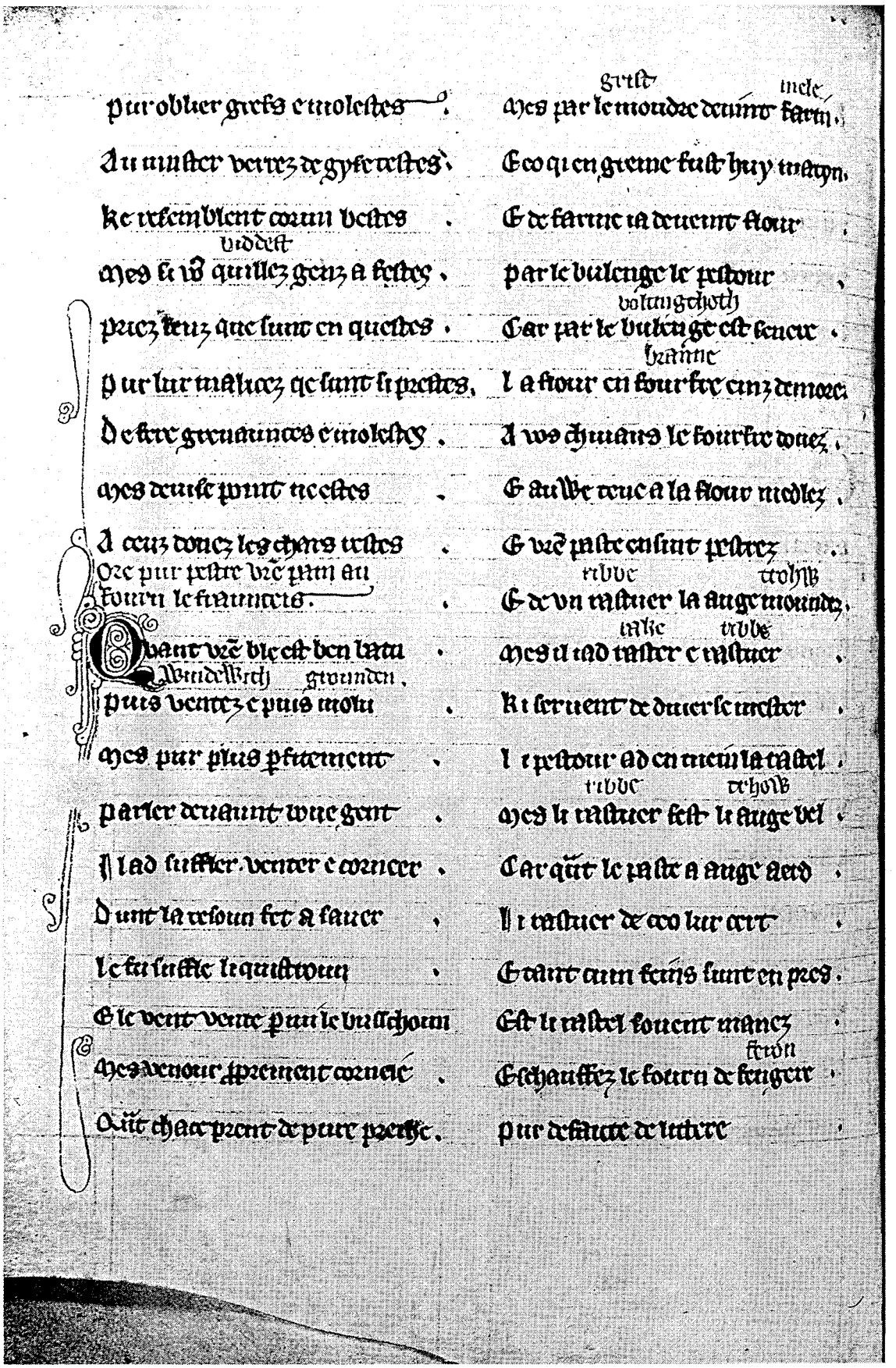
284r



Ki enuye le reume le rey .
forwe nette
En vn reoun fist en vn rey .
i myn heuete lond.
Vn vileint vint e ma forer .
don out of time
Ki eins oy foreiner .
E dist quil voleit forer .
yef
Li lers quil veit forueier .
Ore le fraunceis du pre e du
chaumpe e de carier les blez .
Ore alouis as pres e as champs.
Pur enformer nos enfantz .
siche mowe a swathe of mede.
De fans fauchez vn audenne de pre.
siliel rep arepe
De fauil siez vn iauele de ble .
repes freues
Les iaueles en garbes liez .
En trosseaus les garbes mettez.
apeseris.
Vn warroit de peis suz arascez .
beene freues
E les fauois du warroit liez .
Mes nad mester ke vo dionis .
De tute maniere de ble les nouns .
rie larli
De segle orge ne forment .
Ke comune sunt a tote gent .
Mes de autre semail trop irest .

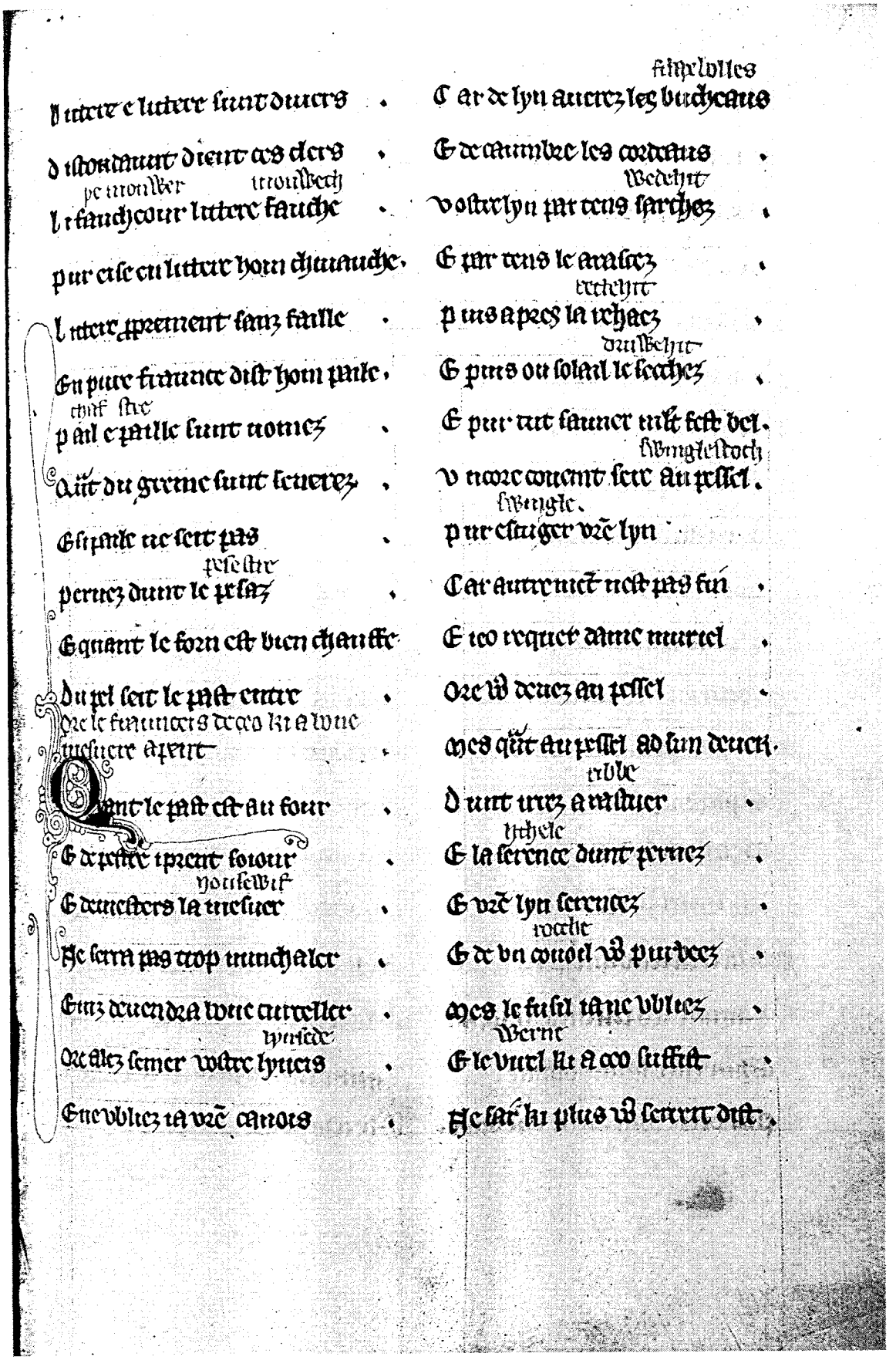
Ki pur mei a dire ne est .
sarnel dranck
Le yuerai irest e le betel .
char kokil
Le azoun ausi e le neel .
blowech malue
Le blauerole e le mauwe ausi
frerlok
Caroil e autre qe ne vo die .
Car trop auereit trop a fere .
totelle
Si tuz semaus vo dei retrere .
Mes quant tens est de carier .
Vos charectez fetes charger .
Mes chiuaus deit li charecter.
haling wipe
De sa riote demener .
mouwe
En grange vos blez muez .
De hors la grange vos blez tassez .
reke
Car vne moye est dit en grange
stake
E vne chase de hors la grange
reke
Moilon apellez ceo qe est en feyn
E chas dist hom ceo q̄ est en grein .
auenes eyles
En graunge gardez vo des arestez .
En chaumpe vo blez des autre bestes
En sale chauntez vo le gestes .

284v



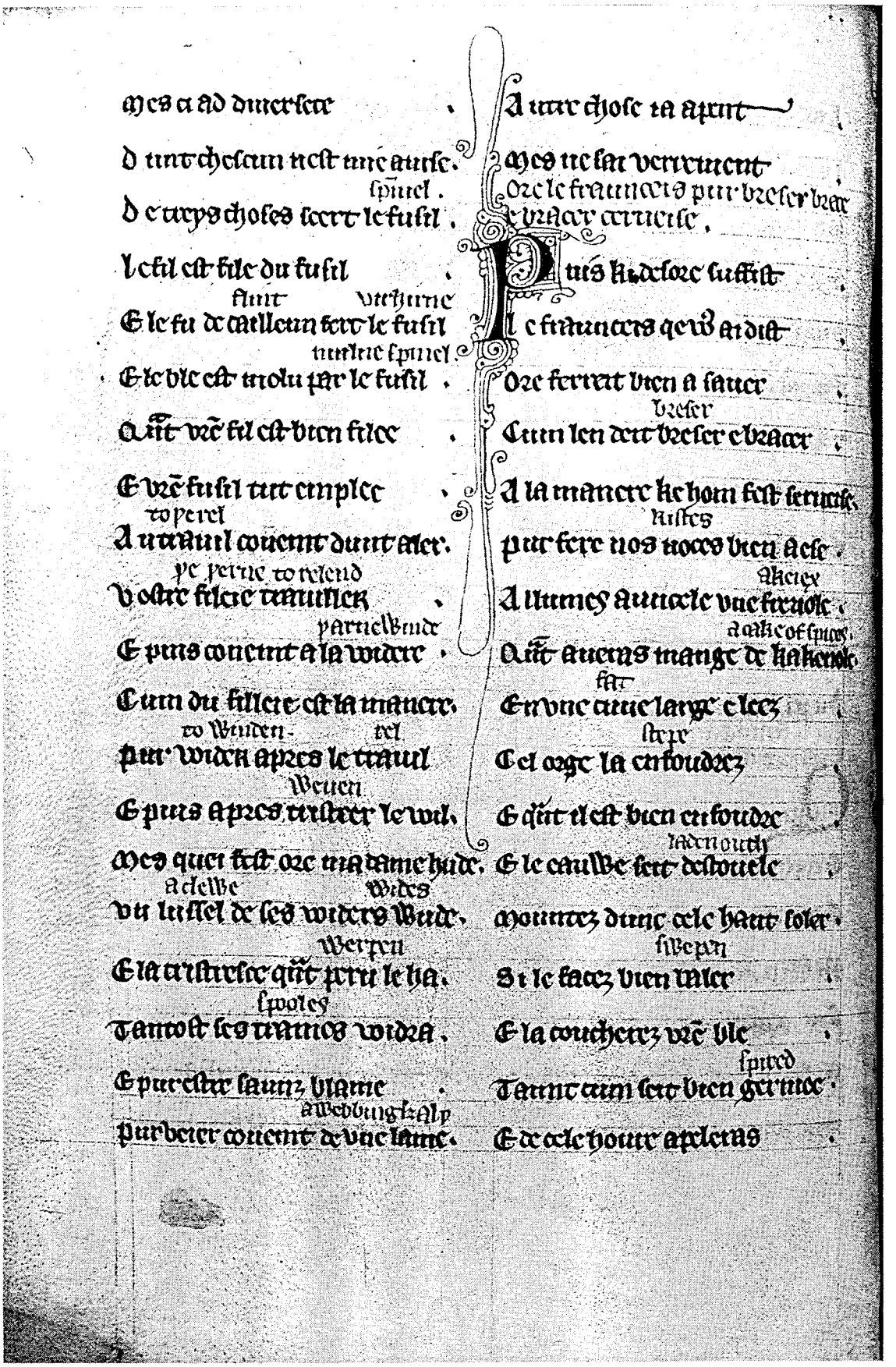
pur oblier grefs e molestes . Mes par le moudre deuint farin .
Au muster verrez de gyfe testes . E co qi en greine fust huy maçon .
Ke resemblent corun bestes . E de farine ia deuenit flour .
Mes si vous quillez genz a festes . par le bulenge le pestour .
Priez leuz que sunt en questes . Car par le bulenge est senere .
Pur lur malicez qe sunt si prestes . La flour en fourfre einz demore .
De fere greuaunces e molestes . A vos chiuans le fourfre douez .
Mes deuise point ne estes . E auwe teue a la flour medlez .
A ceuz douez les chars restes . E vrē paste ensint pestrez .
Ore pur pestre vrē pain au fourn le fraunceis . E de vn rastuer la auge moundez .
Quant vrē ble est ben batu . Mes il iad raster e rastuer .
Puis ventez e puis molu . Ki seruent de diuerse mester .
Mes pur plus pfitement . Li pestour ad en mein la rastel .
Parler deuaunt boue gent . Mes li rastuer fest li auge bel .
Il iad suffler venter e corneer . Car quāt le paste a auge aerd .
Dunt la tesoun fet a sauer . Li rastuer de ceo lur cert .
Le fu suffle li quistroun . E tant cum feins sunt en pres .
E le vent vente pmi le busschoun . Est li rastel souent manez .
Mes venour pprement corneie . Eschauffez le fourn de fengere .
Quāt chace prent de pure preche . Pur defaute de litere .

285r



Littere e littere sunt diuers .
Distondaunt dient ces clers .
pe mouwer mouwech
Li fauch cour littere fauche .
Pur eise en littere hom chiuauche .
Littere proprement sanz faille .
En pure fraunce dist hom paile .
chaf stre
Pail e paille sunt nomez .
Quant du greme sunt seuerez .
Esi paile ne seit pas .
pesestre
Peruez dunt le pesaz .
E quant le forn est bien chauffe .
Du pel seit le past entre .
Ore le fraunceis de ceo ki a bone
mesuere apent .
Quant le past est au four .
E de pestre iprent soiour .
housewif
E de mesters la mesuer .
Ne serra pas trop nunchaler .
Einz deuendra bone curteller .
hynsede
Ore alez semer vostre lyneis .
E ne vbliez ia vrē canois .

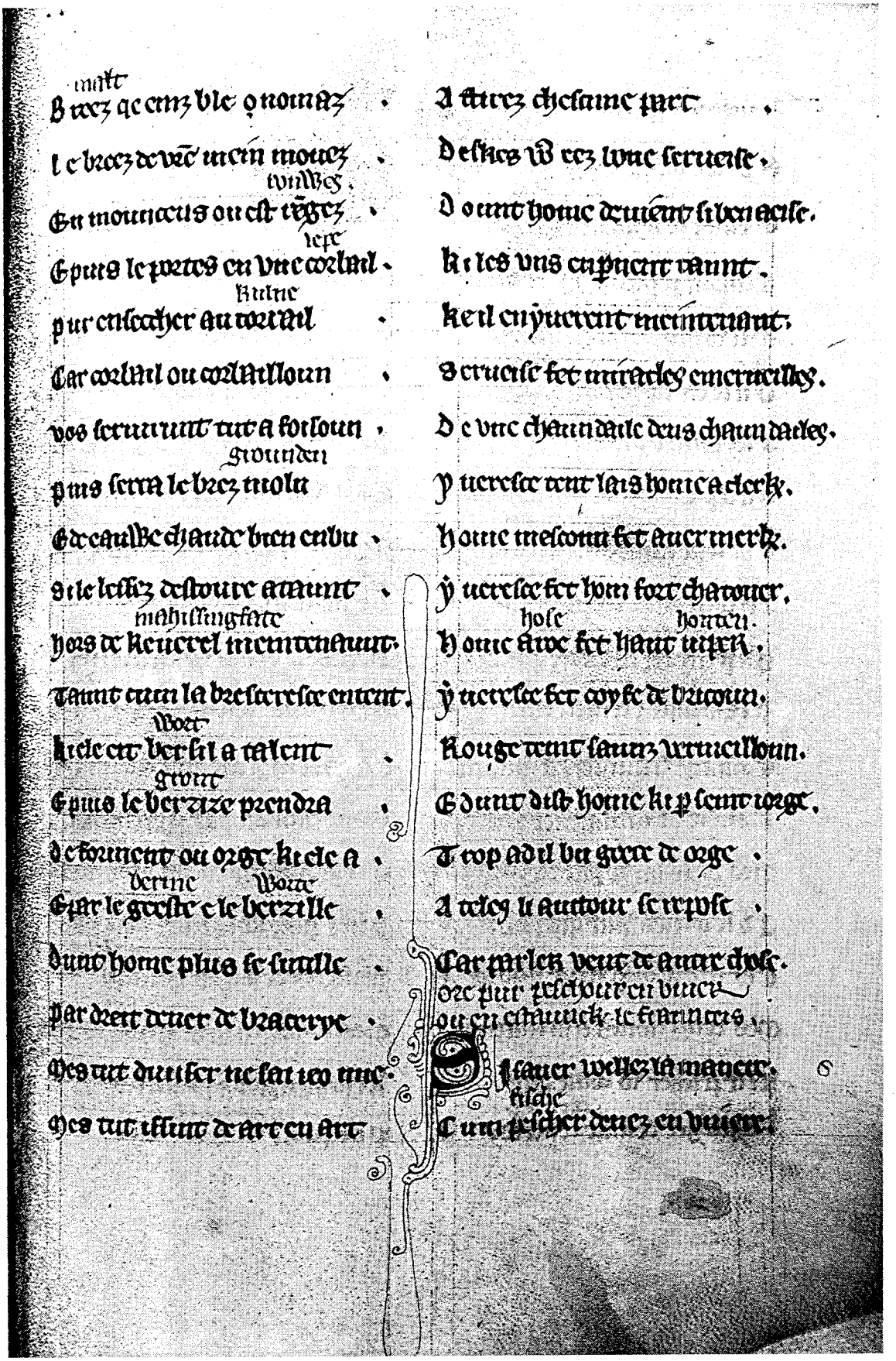
fiaxbolles
Car de lyn auerez les bucheaus
E de caumbre les cordeaus .
wedehit
Vostre lyn par tens sarchez .
E par tens le arascez .
rechehit
Puis apres la rehaez .
druwehit
E puis ou solail le secchez .
E pur tut sauuer mult fest bel .
swinglestoch
Vncore couent sere au pessel .
swingle .
Pur escuger vrē lyn
Car autrement nest pas fin .
E ieo requer dame muriel .
Ore vō deuez au pessel .
Mes quant au pessel ad sun deuek .
ribbe
Dunt irrez a rastuer .
hthele
E la serence dunt pernez .
E vrē lyn serencez .
rocche
E de vn couoil vō purbeez .
Mes le fusil ia ne vbliez .
werne
E le vurel ki a ceo suffist .
Ne sar ki plus vō serreit dist .



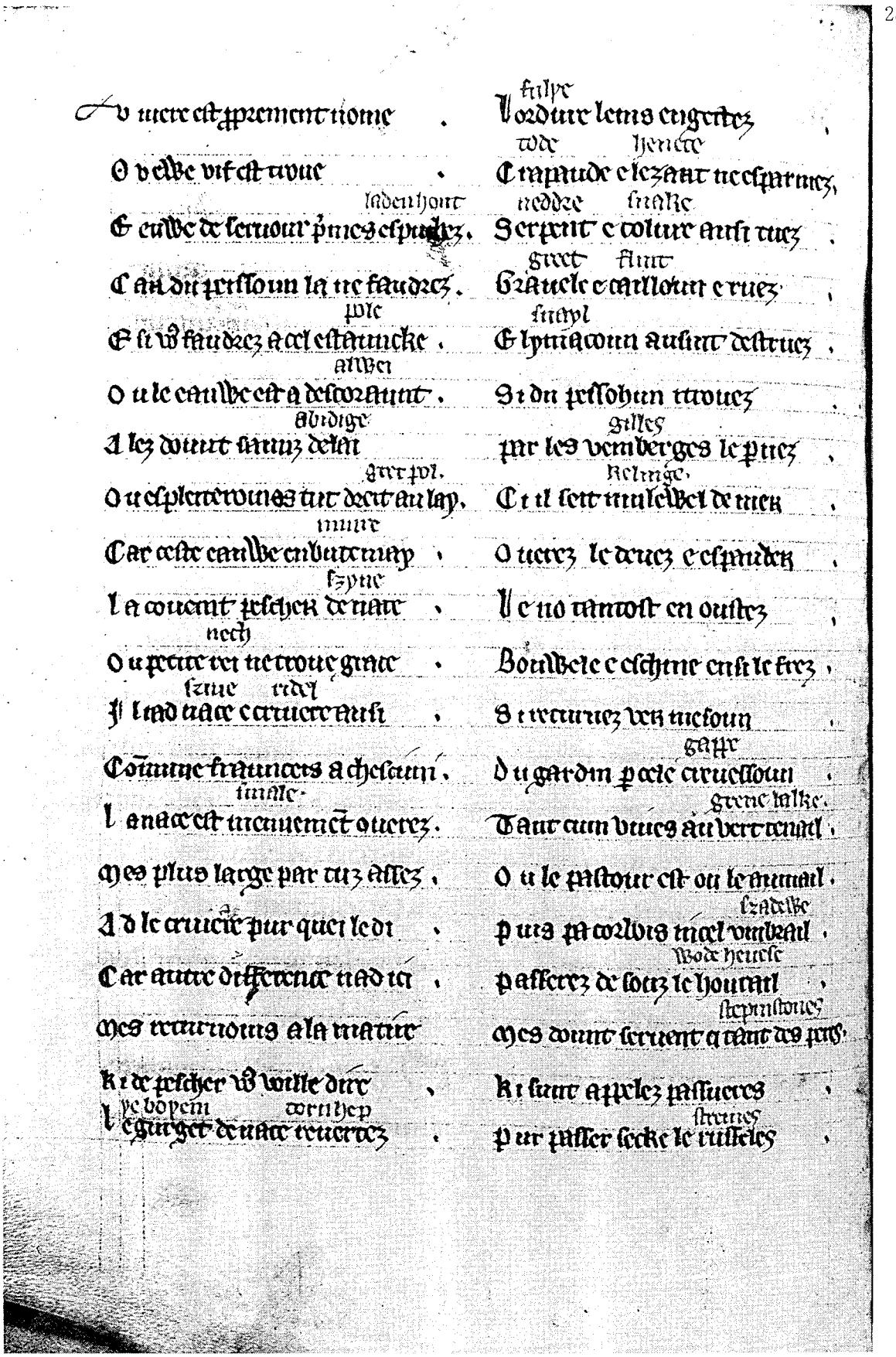
Mes ci ad diuersete .
Dunt chescun nest mie auise .
spinel .
De treys choses seert le fusil .
Le fil est file du fusil .
flint vrhirne
E le fu de cailleun fert le fusil
nuilne spinel
E le ble est molu par le fusil .
Quant vrē fil est bien filee .
E vrē fusil tut emplee .
to yerel
Au trauil couenit dunt aler .
ye yerne to relend
Vostre fileie trauillez .
yarnewinde
E puis couenit a la widere .
Cum du filleie est la manere .
to winden rel
Pur widez apres le trauil
weuen
E puis apres tristeer le wil .
Mes quei fest ore ma dame hude .
a clewe wides
Vn lussel de ses widers wude .
werpen
E la tristresce quant peru le ha .
spooles
Tantost ses trames widra .
E pur estre saunz blame .
a webbing zaly
Pur beier couenit de vne lame .

Autre chose ia apent .
Mes ne sai verrement .
Ore le fraunceis pur breser brace
e bracer cerueise .
Puis ki desore suffist .
Le fraunceis qe vous ai dist .
Ore ferreit bien a sauer .
breser
Cum len deit breser e bracer .
A la manere ke hom fest seruise .
kistes
Pur fere nos noces bien a ese .
akeiex
Allumes auncele vne freriole .
a cake of spices
Quant aueras mange de kakenole .
fat
En vne cuue large e leez .
stepe
Cel orge la enfoudrez .
E quant il est bien enfoudre .
ladenouth
E le eauwe seit destouele .
Mountez dunc cele haut soler .
swepen
Si le facez bien valer .
E la coucherez vrē ble .
spired
Taunt cum seit bien germee .
E de cele houre apeleras .

286r



286v



Ou uiere est proprement nome .
O vewe vif est troue .
laden hont
E eawe de seruour p̄mes espuchez .
Car du pessoun la ne faudrez .
pole
E si vous faudrez a cel estauncke .
alwei
Ou le eauwe est a descoraunt .
abidige
A lez douut sauuz delai
gret pol.
Ou esplenteroines tut dreit au lay .
muire
Car ceste eauwe en butemay .
szyne
La couenit pescher de nate .
nech
Ou petite rei ne troue grace .
szine ridel
Il iad nace e criuere ausi .
Comme fraunceis a chescun .
smale.
La nace est menuement ouerez .
Mes plus large par tuz assez .
Ad le criuere pur quei le di .
Car autre difference nad ici .
Mes returnons a la matire
Ki de pescher vous voille dire .
ye boyem cornhep
Le gurget de nace reuertez .

fulye
Lordure leins engettez .
tode henete
Crapaude e lezart ne esparmez .
neddre snake
Serpent e colure ausi tuez .
greet flint
Grauele e cailloun e ruez .
snayl
E lymacoun ausint destruez .
Si du pessohun itrouez .
gilles
par les vemberges le p̄nez .
kelinge.
Ci il seit mulewel de mer .
Ouerez le deuez e espauder .
Le no tantost en oustez .
Bouwele e eschine ensi le frez .
Si returnez ver mesoun .
gappe
Du gardin p̄ cele creuessoun .
grene lalke.
Tant cum viues au vert tenail .
Ou le pastour est ou le aumail .
szadewe
Puis pa corbois incel vmbrail .
wode heuese
Passerez de souz le houtail .
stepinstones
Mes dount seruent ci tant des pers .
Ki sunt appelez passueres .
streines
Pur passer secke le russeles .

287r

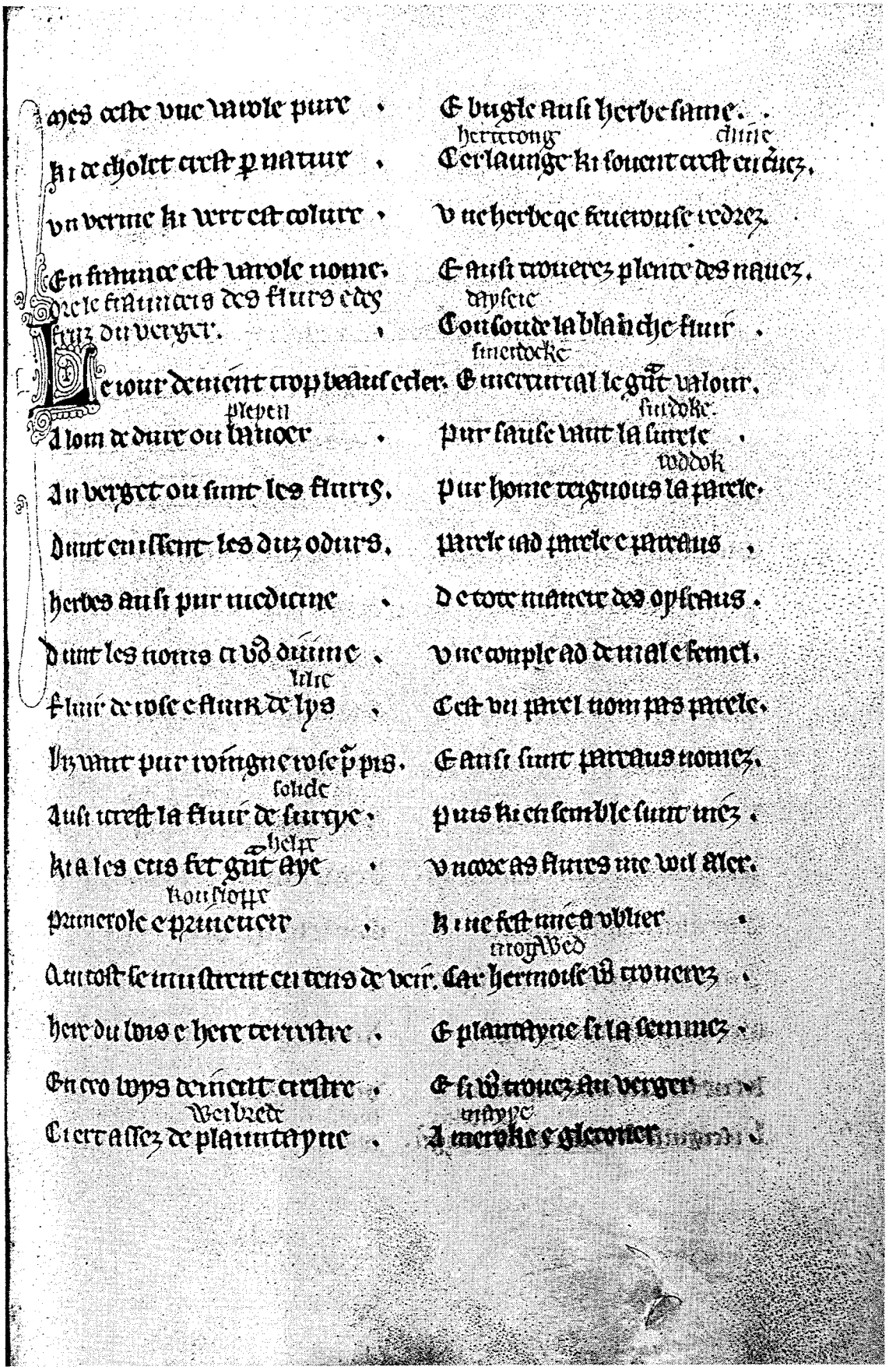
Ki sunt si clers e si beles . Pur la gele auez vo glace .
Il iad ourail par . h . escrit . E par la glace auez vo veglace .
Orail ausi saunz . h . est . dist . E si nest pas bon trop hastere .
heuese lindes hindes.
De souz le hourail se keuue laroun . Sur vereglace pur veglacere .
E par le orail est meint hom . E geele e pluwe deguttaunt .
szlidinde
Mes eniz ki passez plus auaunt Fount le chemin trop lidaunt .
balke sleres
De tenail vo ert plus disaunt . Ore negge ore cymeie .
Pur ceo quil ad plus de sens . Le cyme enpire nre veie .
a flake of snowe.
Dunt tel iad il difference . La bouche me entre vn aumfe de neif .
Il ad tenoun e tenail . Ia quident qi ieo ense grant seif .
hailech.
E tenailles ki nest merueille . Nos aueroins grisil puis ql grele
handel tilier smale
Ki tenoun tent li co tuyer . Assez trop nonpas trop grele .
pomier pondres
E par le tenail passe meinte ver . Ieo oy toner veir il tonne .
tonges. colles. tonne.
Mes tenailles seruent des carbuns . Dunt la ferueise empire en tonne .
slepech
En yuer quant au fu seoins . Ore ne suffrez mon pre tonne .
smith.
E au feure sert de custume . Nul de vo mot ne sonne .
Quant du marcel fert sur leuchime . Freid eit dil yuer lorer .
Ore pur beau temps e pur tempeste . Vn de vmail voil demustrer .
Ore pleut ore geele . En yuer quant lorere chaunge .
yawech.
Ore remet ore regele . Vne verge icrest estrange .

287v.

Verge quiest saluns verdour .
Sauns foil crest e saunz flour.
Quant vendra le chaut este .
La verge ne ert ia moustre .
En yuer quant lorere chaunge.
E le tens deuient estraunge .
Qa meint hom fet fort endurer.
Pur le destreit del yuer .
Dunt auez la mein si estonne. (coueled)
Ki pur le freit ne purrez mie.
De deis fere la capinole . (hant moille)
Mes vodroie suz plume mole .
Seer presdu fu ki a la carole.
Chapeu uestu de blauuerole. (Garloud blowbeth)
Ou de quiller primerole .
Pur fere chapeus a clers descole.
Ki par bost qui ne vaut frinole. (key)
E par kuyuet ou virole .
Souent a trere femme fole .
Dunt teus ki sunt de tel escole.

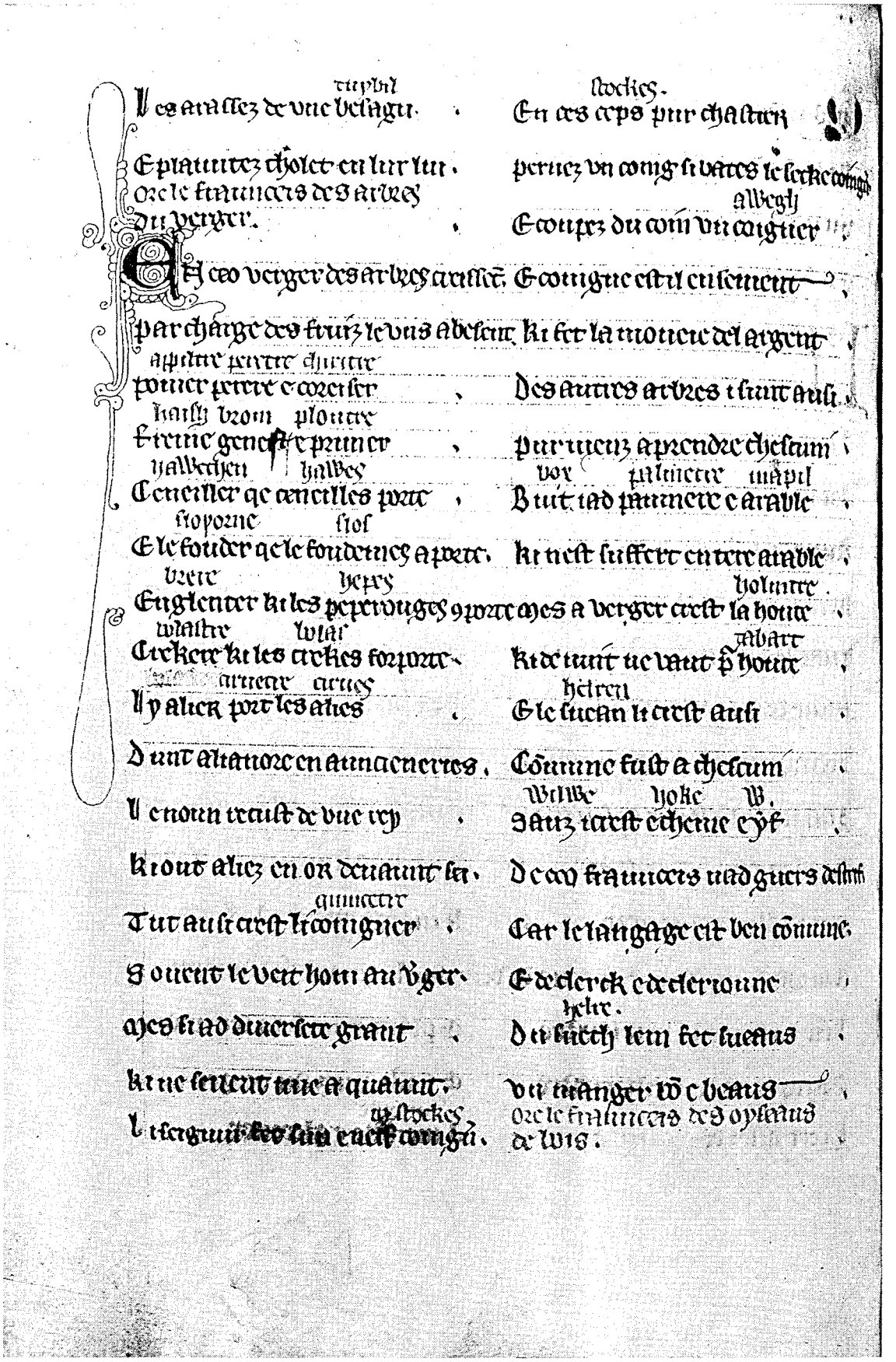
Vaudroient plus en la iayhole.
Ki ieuene femme en oriole .
Car quer de femme est si mole .
E squier ou clerk quant la cole . (bicliffehure)
Ki souent a bref parole .
Femme fole le recole .
Ore pleut a deuqe tels foles .
Vssent faces pleins de veroles . (pokes)
E teus ribaus les rugeroles. (maselinges)
Si lerreint dunt les braceroles.
E les foles les karoles .
Eschurent les blaces foles .
Mes pur aprendre ces uinocens.
Des viroles dirrai plus de fens.
Il iad virole e verole .
Ki sunt de diuerse escole .
La virole la mainche garde.
De cotel li maumusard .
Mes la verole la face enpire.
Ne sert ia de si graut sire .

288r



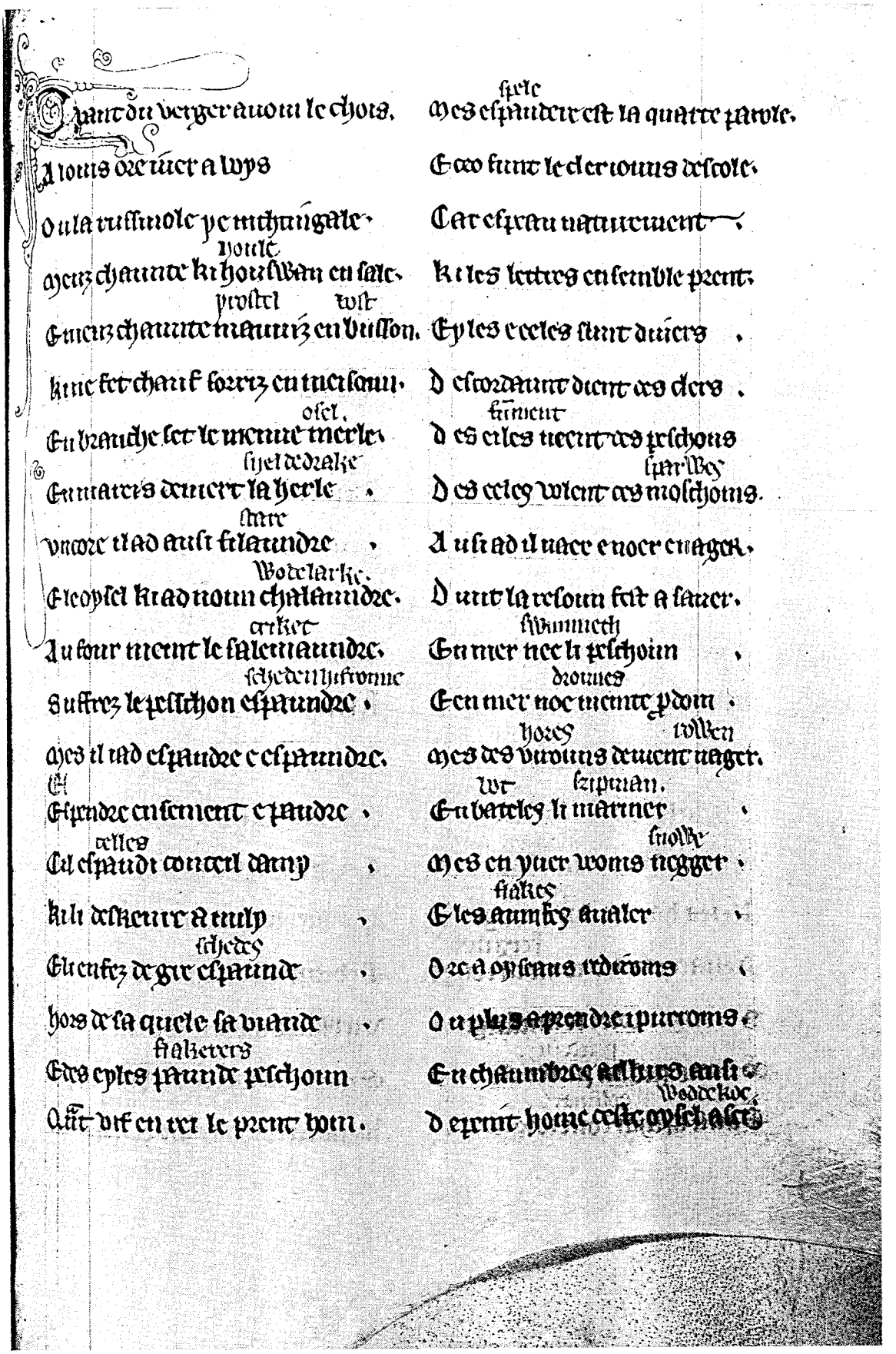
Mes ceste vne varole pure . E bugle ausi herbe same .
heritong chine
Ki de cholet crest p nature . Cerlaunge ki souent crest en cuez .
Vn verme ki vert est colure . Vne herbe qe feuerouse redrez .
En fraunce est varole nome . E ausi trouerez plente des nauez .
Ore le fraunceis des flurs e des
dayseie
Fruz du verger . Consoude la blanche fluir .
smerdocke
Le iour de mient trop beaus ecler . E mercurial le gnt valour .
plepen surdoke
Alom de dure ou bauoer . Pur sause vaut la surele .
roddok
Au verget ou sunt les fluris . Pur home teignous la parele .
Dunt en issent les duz odurs . Parele iad parele e pareaus .
Herbes ausi pur medicine . De tote manere des oyseaus .
Dunt les noms ci vo diuine . Vne couple ad de mal e femel .
lilie
Fluir de rose e fluir de lys . Cest vn parel nom pas parele .
Liz vaut pur roingne rose p pis . E ausi sunt pareaus nomez .
solide
Ausi icrest la fluir de surcye . Puis ki ensemble sunt mez .
helpe
Ki a les eus fet gnt aye . Vncore as flures me voil aler .
kousloppe
Primerole e prineueir . Ki ne fest mie a vblier .
mogwed
Autost se mustrent en tens de veir . Car hermoise vo trouerez .
Here du bois e here terrestre . E plantayne si la semmez .
En ceo boys de mient crestre . E si vo trouez au verger .
weibrede mayye
Ci ert assez de plaintayne . A meroke e gleconer .

288v



tuybil stockes.
Les arassez de vne besagu. En ces ceps pur chastier
E plaintez cholet en lur lui. pernez vn coing si vates le secke coingn
Ore le fraunceis des arbres
Du verger. E coupez du coin vn coigner
awegh
En ceo verger des arbres creissent. E coingne est il ensement
Par charge des fruiz le vns abesent. Ki fet la moneie del argent
appiltre peretre chiritre
Pomer perere e coreiser. Des autres arbres i sunt ausi
haisy brom ploutre
Freine genest e pruner. Pur mieuz aprendre chescun
hawechen hawes vox palmetre mapil
Ceneiller qe ceneilles porte. Buit iad paumere e arable
sioyorne sios
E le fouder qe le foudemes aporte. Ki nest suffert entere arable
brere hepes holintre
Englenter ki les peperouges comporte. Mes a verger crest la houte
wlastre wlas
Crekere ki les crekes forporte. Ki de nunt ne vaut pr houte
tabart
[illegible] ciruetre ciruez helren
Ly alier port les alies. E le sueau li crest ausi
Dunt alianore en auncieneries. Comune fust a chescun
wilwe hoke w.
Le noun recust de vne rey. Sauz i crest e cheme e yf
Ki out aliez en or deuaunt sei. De ceo fraunceis nad guers destrif
quincetre
Tut ausi crest li coingner. Car le langage est ben comune
Souent le veit hom au verger. E de clerck e de clerionne
helre.
Mes si ad diuersete grant. Du suech lem fet sueaus
Ki ne seuent nue a quaunt. Vn manger bon e beaus
stockes
Li seignur fet sun enef coingn. Ore le fraunceis des oyseaus de wis.

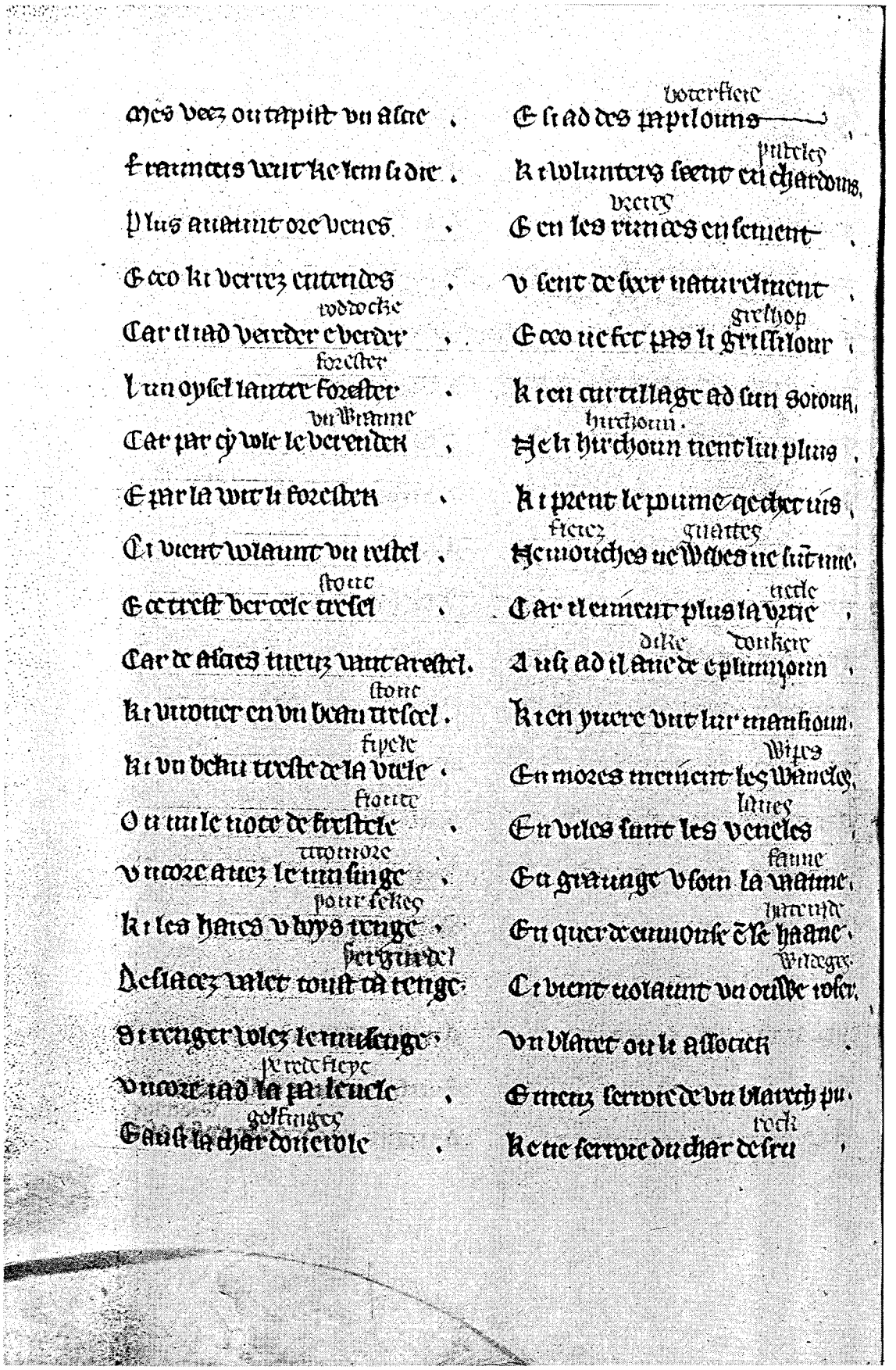
289r



Quant du verger auoin le chois.
A louis ore iuer a loys
Ou la russinole ye nichtingale.
houle
Menz chaunte ki houswan en sale.
prostel wst
E menz chaunte mauuiz en busson.
Ki ne fet chauf sorriz en meisoun.
osel.
En brauche set le menue merle.
syel de drake
En mareis demert la herle.
stare
Uncore il ad ausi filaundre.
Wodelarke.
E le oysel ki ad noun chalaundre.
criket
Au four meint le salemaundre.
scheden hifronne
Suffrez le pesschon espaundre.
Mes il iad espaudre e espaundre.
El
Espendre ensement e paudre.
telles
Cil espaudi conteil damy.
Ki li deskeure a nuly.
schedes
Eli enfez de gre espaunde.
Hors de sa quele sa viande.
fiakerers
E des eyles paunde peschoun
Quant vif en rei le prent hom.

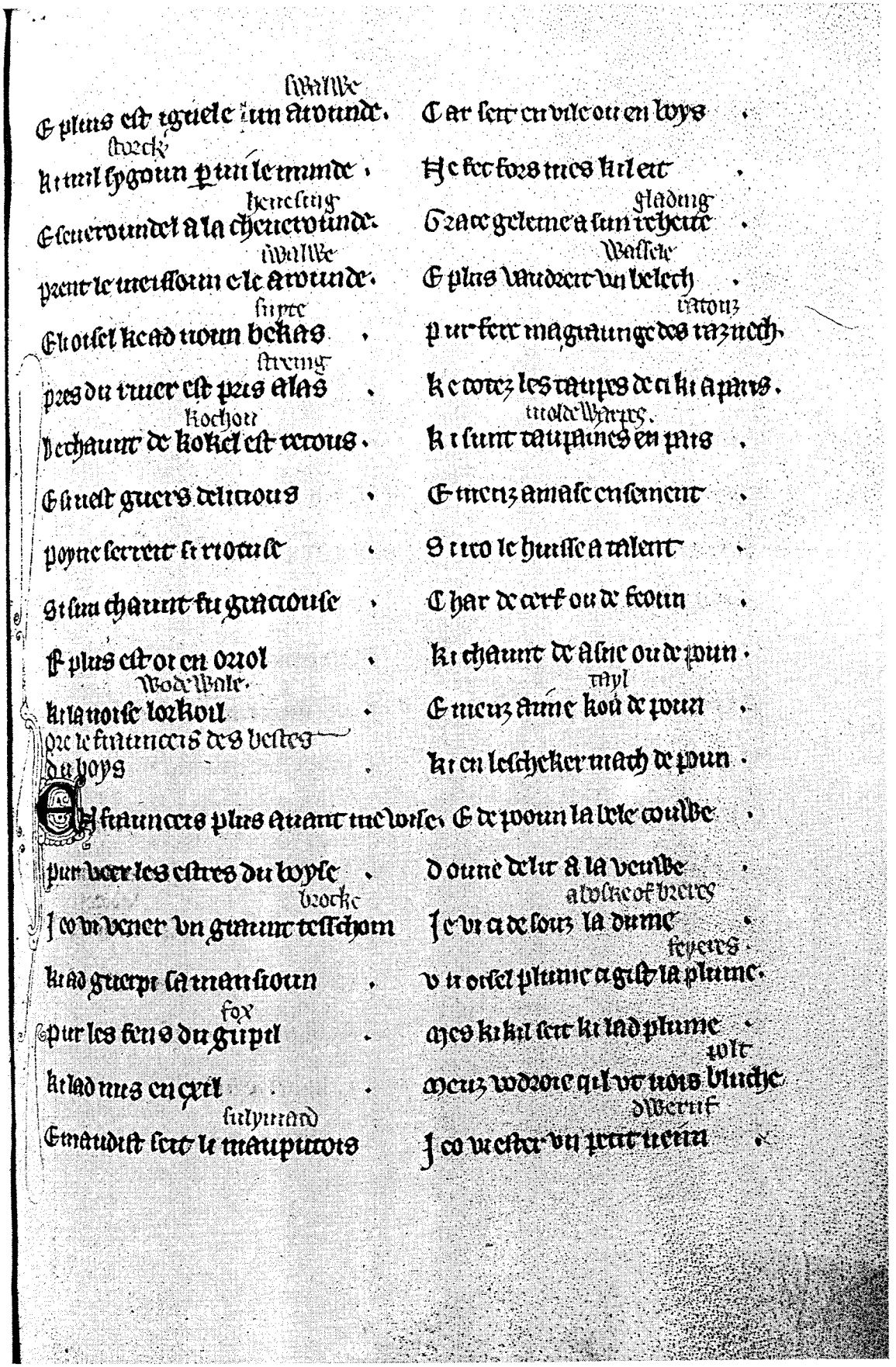
spele
Mes espaudere est la quarte parole.
E ceo funt le clerioun descole.
Car espeau naturement.
Ki les lettres ensemble prent.
Ey les e eeles sunt diuers.
Descordaunt dient des clers.
fumment
Des eiles neent des peschons
sparwes
Des eeles volent ces moschoins.
Ausi ad il naer e noer e nager.
Dunt la resoun fest a sauer.
swimmeth
En mer nee li peschoun.
droumes
E en mer noe meinte pdom.
hores rowen
Mes des virouns deuient nager.
wt szipman.
En bateles li marmer.
snowe
Mes en yuer woins negger.
fiakes
E les aunfes aualer.
Ore a oyseaus rediroins.
Ou plus a prendre i purroins.
En chaumbres a lhurs ausi.
Wodde koe
De peint home ceste oysel asei.

289v



Mes veez ou tapist vn ascie . E si ad des papiloins (boterflere) .
Fraunceis vent ke lem si die . Ki volunters seent en chardoins (pisteles) .
Plus auaunt ore venes . E en les runces en sement (vreres) .
Ecco ki verrez entendes . V sent de seer naturelment .
Car il iad vereder e verder (roddocke) . Ecco ne fet pas li grissilour (greshop) .
Lun oysel lautre forester (forester) . Ki en curtillage ad sun soiour .
Car par cy vole le verender (vn Wranne) . Ne li hirchoun nient lui pluis (hirchoun) .
E par la voit li forester . Ki prent le poume qe chet uis .
Ci vient volaunt vn restel . Ne mouches ne wibes ne sunt mie (fleiez, guattes) .
Ecce trest vercele tresel (stonc) . Car il eiment plus la vrtie (nettle) .
Car de ascies meuz vaut arestel . Ausi ad il aue de e plumioun (dike, donkere) .
Ki vivoner en vn beau trescel (stonc) . Ki en yuere vnt lur mansioun .
Ki vn beau treste de la viele (fipele) . En mores meiment les waneles (wipes) .
Ou nul le note de frestele (flonte) . En viles sunt les veneles (laues) .
Vncore auez le nun singe (tromore) . En graunge vsoin la vaanne (faune) .
Ki les haies v boys renge (pour sekes) . En quer de eunouse e le haane (hatenade) .
Deslacez valet tout ta renge (pergurdel) . Ci vient volaunt vn ouwe roser (wildeges) .
Si renger volez le musenge . Vn blaret ou li associer .
Vncore iad la pa leuele (pe redefleye) . E meuz serroie de vn blarech pu .
E ausi la chardoneole (golfinges) . Ke ne serroie du char de sru (rock) .

290r

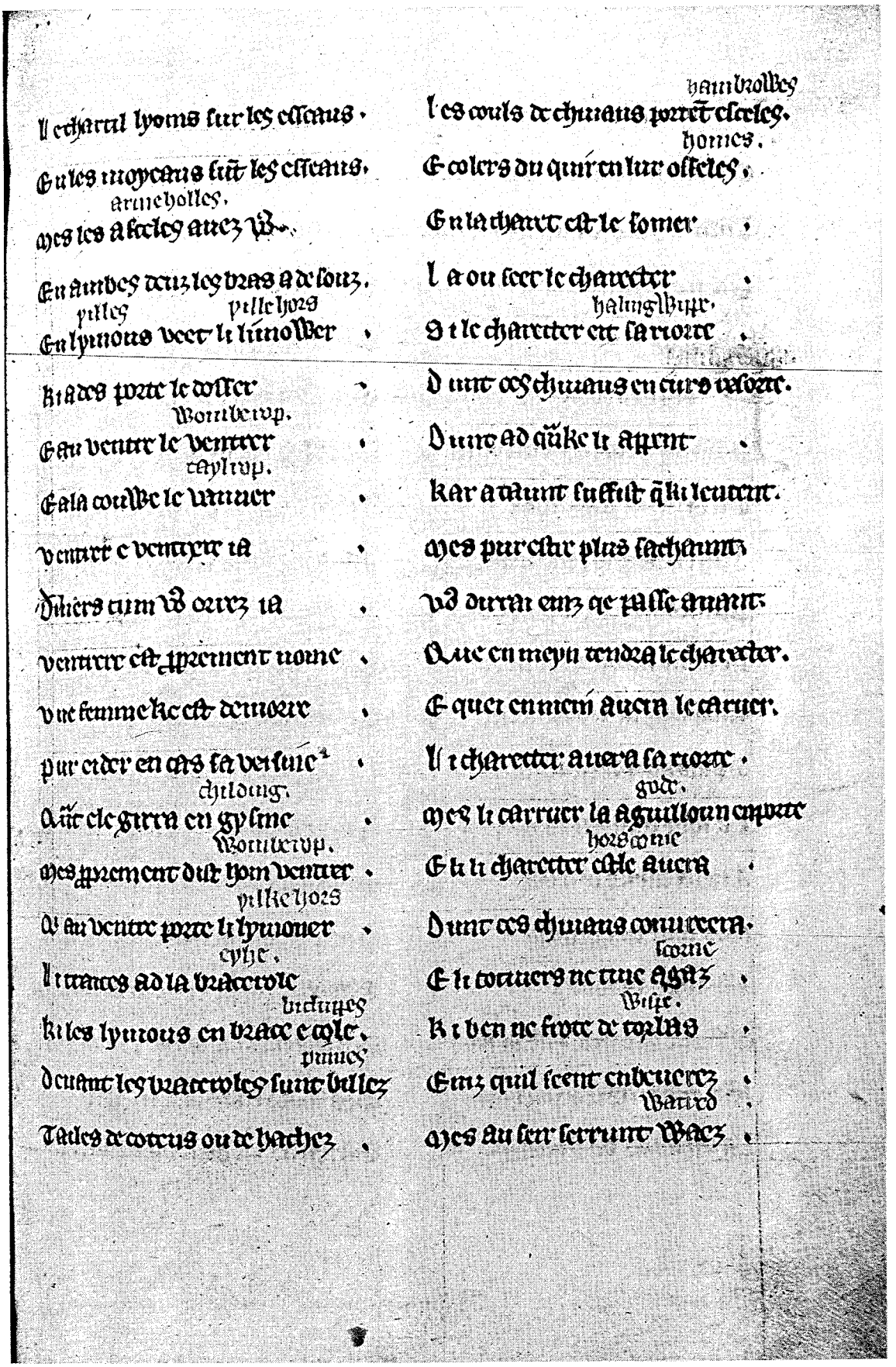


swalwe
E pluis est iguele lun arounde. Car seit en vile ou en boys .
storck
Ki nul sygoun p̄ un le munde . He fet fors mes kil eit .
heuesing
E seueroundel a la cheuerounde. Grace geleine a sun reheite .
swalwe
prent le meissoun e le arounde. E plus vaudreit un belech .
suyte
E li oisel ke ad noun bekas . pur fere ma graunge des raznech.
streing
pres du riuer est pris alas . Ke cotez les taupes de ci ki a paris.
kochou
Le chaunt de kokel est retous. Ki sunt taupaines en pais .
E si nest guers delicious . E meuz amase ensement .
poyne serreit si riotuse . Si ieo le huisse a talent .
Si sun chaunt fu graciouse . Char de cerf ou de feoun .
E plus est oi en oriol . Ki chaunt de asne ou de poun .
wode wale.
Ki la noise lorkoil . E meuz aime kou de poun .
ore le fraunceis des bestes du boys . Ki en lescheker mach de poun .
En fraunceis plus auant me voise. E de poun la bele couwe .
pur veer les estres du boyse . Doune delit a la veuwe .
brocke
Jeo vi vener un graunt tesschom Je vi ci de souz la dume .
ki ad guerpi sa mansioun . un oisel plume ci gist la plume.
fox
pur les fens du gupil . mes ki kil seit ki lad plume .
ki lad mis en exil . meuz vodroie qil vt nois bluche
sulymard
E maudist seit li mauputois Jeo vi ester un petit neim .

290v

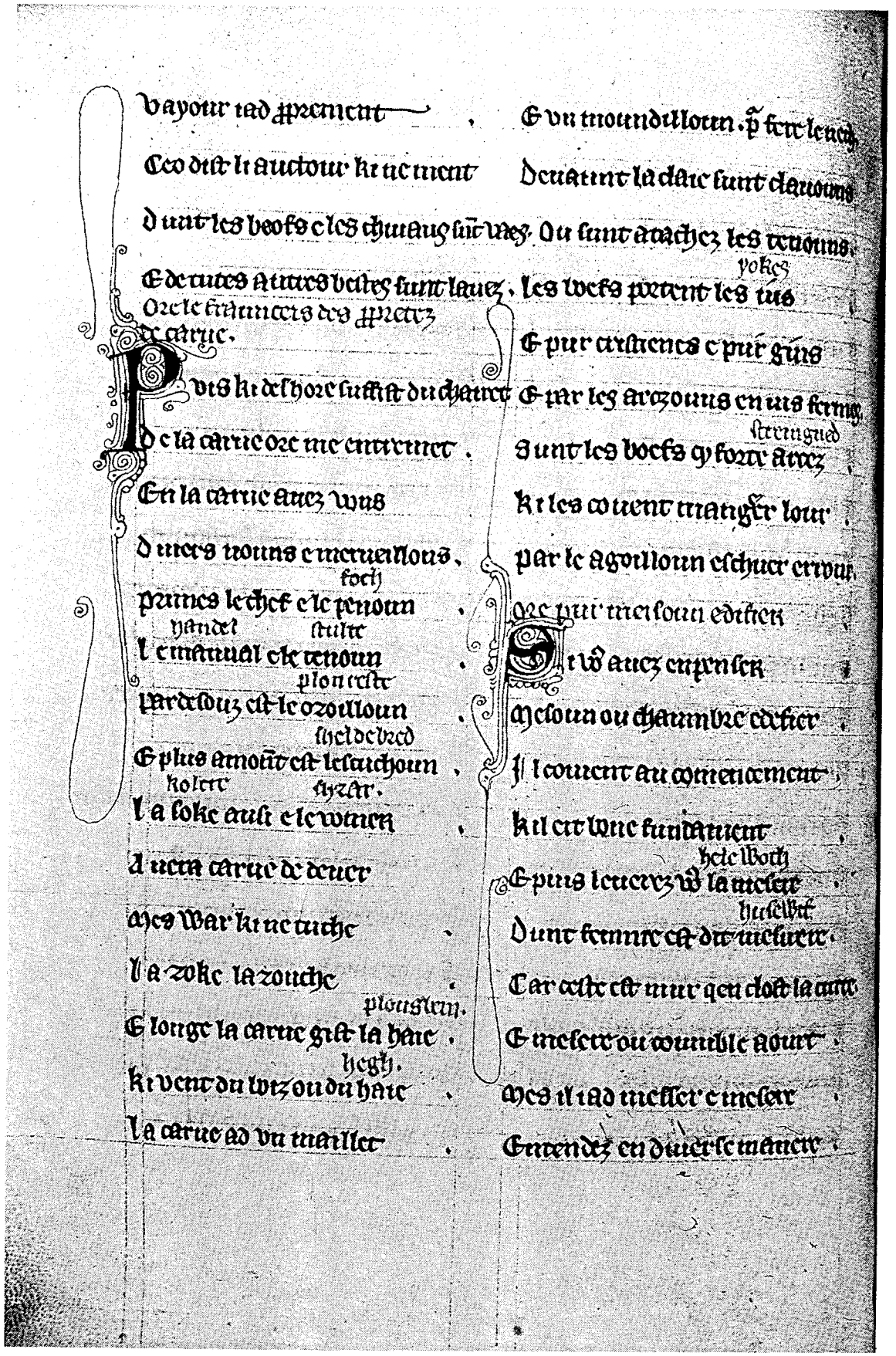
Sur la riuer ke est dit sein . Mes en les moyeaus gist le essel .
(axetre)
(augulkee)
En sa main tent vn neyn . Ki p deuz heces se tient ou wel .
(pinnes)
(sieth.)
Pescher wut ne pout pur ceyn . Les esseles vut lur inneres .
(cloutes.)
(o ce pur vn charet)
Descriure le fraunceis . Ki les eident cum bone freres .
(kart.)
Pur vn charet descriuere . Sur les esseles gist le chartil .
(cartwdy.)
Le fraunceis wt met en liuere . E pur sauuer le peril
(weles.)
Dunt les reos wt di au primour . Le chaltil est de becheus .
(boudes)
Pur les wendeaus ki sunt entour . Ferm liez a les esseus .
De souz les bendeaus ce sunt de fer . Entre le chartil e le moyeaus .
Sunt les iauntes attachez de fer . Sunt hurteuers trouez deus .
(spokes.)
E les iauntes entrent les rais . E chescune charet ki mene blez .
(bemes.)
E du solail issent les rais . Deit auer rideles au costez .
(ronges.)
(staues.)
E de la mer veinent les raies . En les rideles wunt wiloins .
(szlakes.)
E ver la ferre wunt les rais . Pur les trus sanz nuls clauoins .
(nayles.)
(bureles.)
Mes les rais de charette . E si outre les moyeaus seent sauns .
(lecher in clout)
(nayes)
En les moyeaus ount lur retet . Dunt ni faut ci noun eschelez .
(laddres.)
(nayes wel)
Dit li moail de la reof . Mes pur estre plus artillons .
(pollie hei)
Tut dreit au mouwel de loef . Des esseaus plus wt durons .
(axetre clout)
Ieo su fort a fes porter . Il ad essel e assel .
(armeholle.)
E ieo feste li autre bon a manger . E li tierz ki ad auoun a scel .

291r



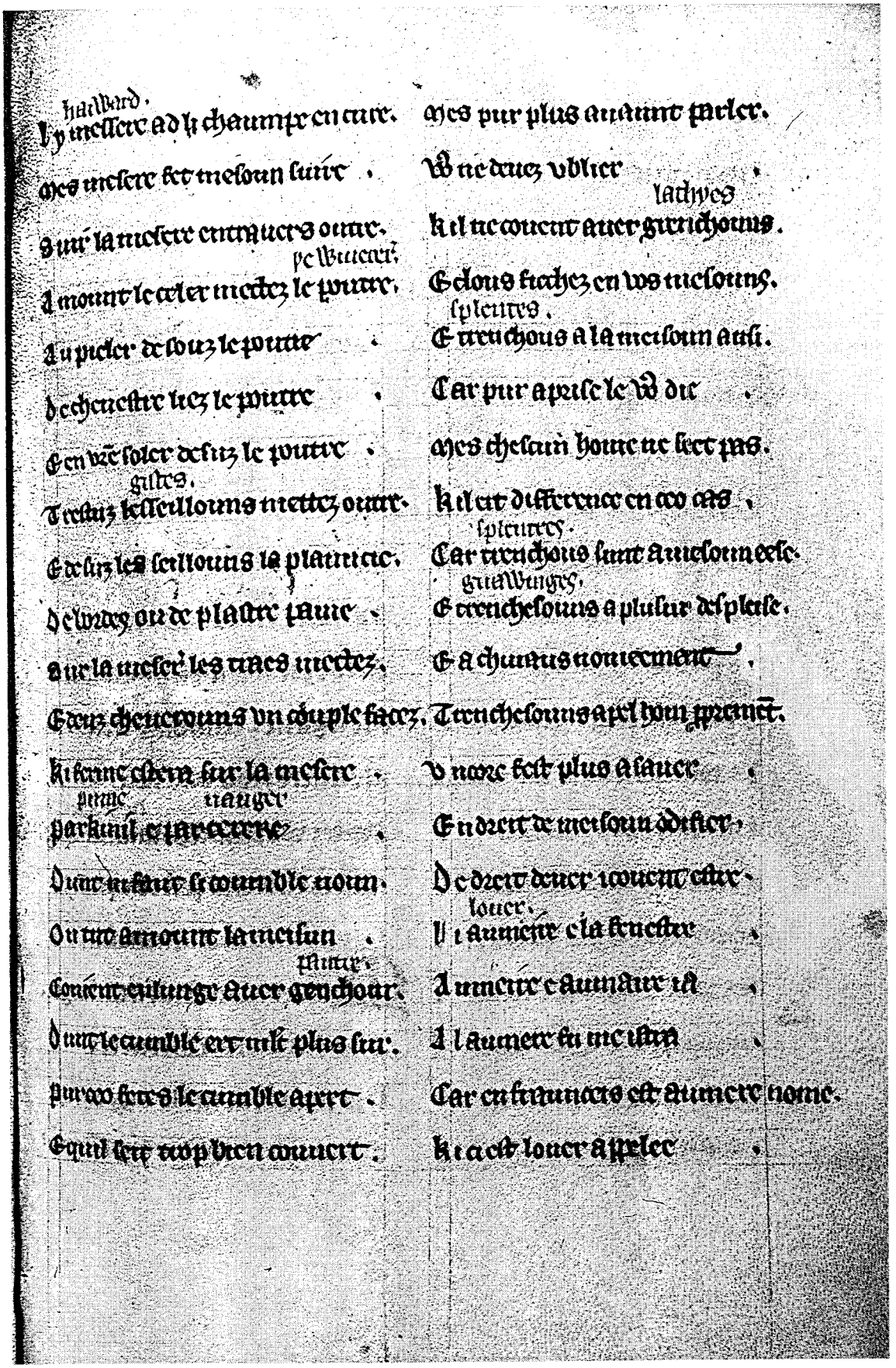
Le chartil lyoms sur les esseaus · Les couls de chuiaus portent esceles.
hambrowes
En les moyeaus sunt les esseaus · E colers du quir en lur osseles.
homes.
arme holles.
Mes les asceles auez vous · En la charet est le somer ·
En ambes deuz les bras a de souz · La ou seet le charecter ·
yilles yille hors
En lymons veet li limower · Si le charecter eit sa riorte ·
halingwiper.
Ki a des porte le dosser · Dunt ces chuiaus en curs resorte.
Wombeirop.
E au ventre le ventrer · Dunt ad quanke li appent ·
taylirop.
E a la couwe le vanuer · Kar a taunt suffist que ki leuent.
Ventrer e ventrere ia · Mes pur estre plus sachaunt.
Diuers cum vous orrez ia · Vous durrai enuz qe passe auant.
Ventrere est proprement nome · Que en meyn tendra le charecter.
Vne femme ke est demorre · E quei en meyn auera le caruer.
Pur eider en cas sa vesine · Li charecter auera sa riorte ·
childing.
Quant ele girra en gysine · Mes li carruer la aguilloun enporte
gode.
Wombeirop.
Mes proprement dist hom ventrer · E li li charecter escle auera ·
hors come
yilke hors
Qu au ventre porte li lymoner · Dunt ces chuiaus conuireera.
eyhe.
Li traices ad la bracerole · E li cotiuers ne tine agaz ·
scorne
bicluppes
Ki les lymons en brace e cole · Ki ben ne frote de torbas ·
wiper.
pinnes
Deuant les bracerolles sunt billez · Enuz quil seent enbeuerez ·
Watred
Tailes de coteus ou de hachez · Mes au seir serrunt waez ·

291v



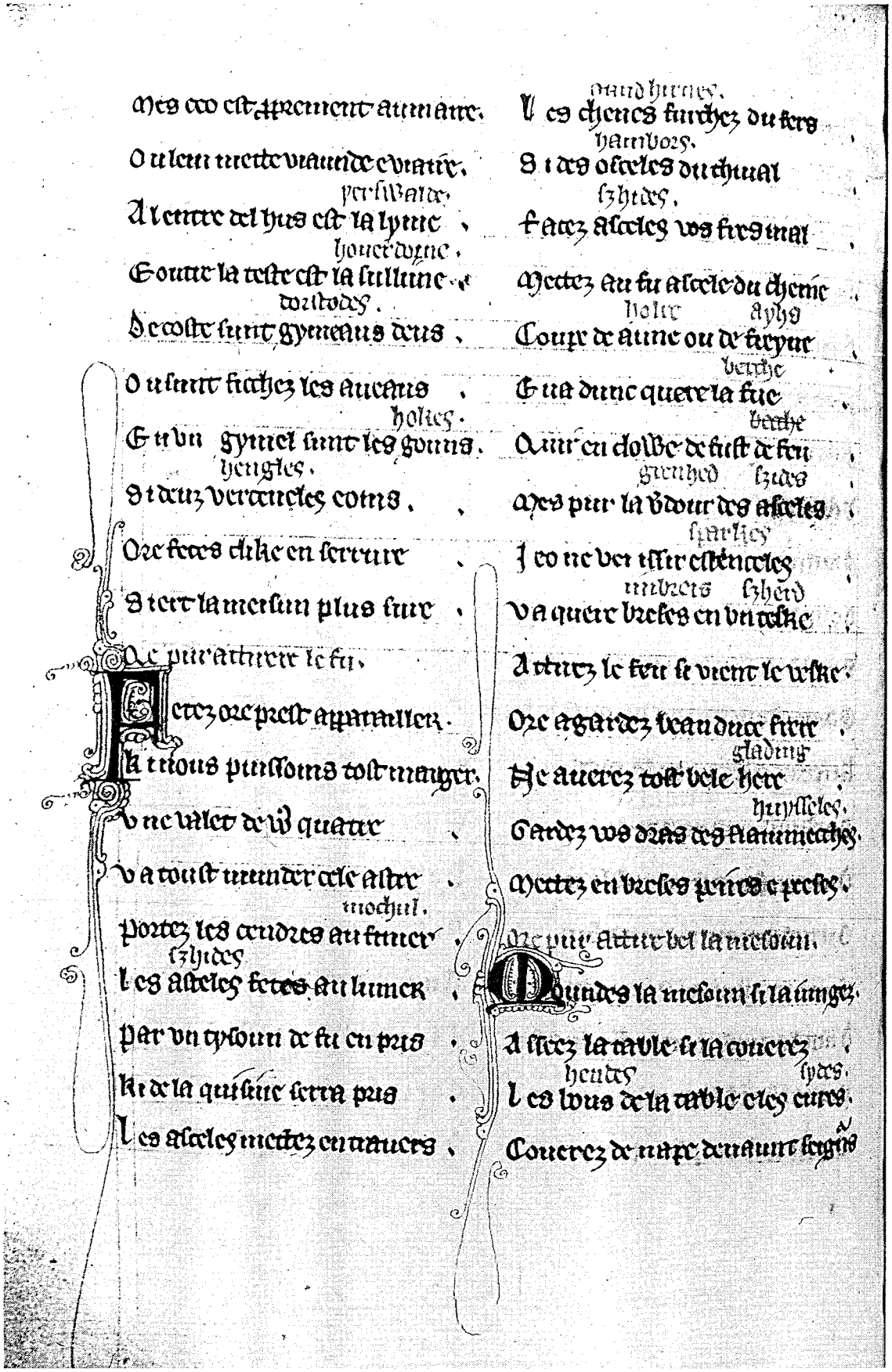
Vayour iad ꝓprement . E vn moundilloun . p̃ fere le neth
Ceo dist li auctour ki ne ment Deuaunt la claie sunt clauouns
Dunt les boefs e les chiuaus sunt vaez . Ou sunt atachez les tenouns .
yokes
E de tutes autres bestes sunt lauez . Les boefs portent les ius
Ore le fraunceis des ꝓpretez de carue .
E pur cristienes e pur gius
Puis ki deshore suffist du chauet E par les arczouns en ius fermez
streingued
De la carue ore me entremet . Sunt les boefs cy forte arcez
En la carue auez vns Ki les couent mangier lour
Diuers nouns e merueillous . Par le agoilloun eschuer errour
foch
Primes le chef e le penoun . Ore pur meisoun edifier
handel stulte
Le manual e le tenoun . Si vo auez enpenser
plon reste
Par desouz est le ozoilloun . Mesoun ou chaumbre edefier
shel de bred
E plus amount est lescuchoun . Il couient au comencement
kolere syzar .
La soke ausi e le vomer . Kil eit bone fundament
hele woch
Auera carue de deuer E puis leuerez vo la mesere
husewif
Mes war ki ne tuche . Dunt femme est dit mesurere .
La zoke la zouche . Car ceste est mur qen clost la cure
plousbein .
E longe la carue gist la haie . E mesere ou coumble aourt
hegh .
Ki vent du boiz ou du haie . Mes il iad messer e mesere
La carue ad vn maillet . Entendez en diuerse manere

292r



hauward.
Ly messere ad li chaumpe en cure. Mes pur plus auaunt parler.
Mes mesere fet mesoun suire . Vo ne deuez vblier .
lathyes
Suir la mesere entrauers outre. Kil ne couent auer grenchouns.
pe wuiecer.
A mount le celer mettez le poutre. Eclous fichez en vos mesouns.
splentes.
Au pieler desouz le poutre . Etrenchous a la meisoun ausi.
De chenestre liez le poutre . Car pur aprise le vo dic .
E en vre soler desuz le poutre . Mes chescun home ne seet pas.
gistes.
Trestuz lesseillouns mettez outre. Kil eit difference en ceo cas .
splentres.
E desuz les seillouns la plauncie. Car trenchous sunt a mesoun eese.
guawinges.
De bordes ou de plastre paine . E trenchesouns a plusur despleise.
Sur la meser les traes mettez. E a chiuaus nomeement .
E deuz cheuerouns vn couple facez. Trenchesouns apel hom ꝓprement.
Ki ferme estera sur la mesere . Vncore fest plus a sauer .
pume nauger
Parkinil e parcerere . En dreit de meisoun odifier.
Dunt ni faut si coumble noun. De dreit deuer i couent estre.
louer.
Ou tut amount la meisun . Li aumeire e la fenestre .
pauter.
Couient enlunge auer genchour. Aumeire e aumaire ia .
Dunt le cumble ert mlt plus sur. A l aumere fu me istra .
Pur ceo fetes le cumble apert . Car en frauncois est aumere nome.
E quil seit trop bien couuert. Ki ci est louer appelee .

292v



Mes ceo est apprement au maire.
Ou lem mette viaunde e viaire.
perswalde.
Al entre del hus est la lyme.
houerdorne.
E outre la teste est la sullime.
dorstodes.
De coste sunt gymeaus deus.
Ou sunt fichez les aueaus.
holkes.
En vn gymel sunt les gouns.
hengles.
Si deuz verceueles coins.
Ore fetes clike en serrure.
Si ert la meisun plus sure.

Ore pur acturer le fu.

Fetez ore prest apparailler.
Ki nous puissoins tost manger.
Vne valet de wi quatre.
Va toust munder cele astre.
mochul.
Portez les cendres au finier.
szhides
Les asteles fetes au lumer.
Par vn tysoun de fu en pris.
Ki de la quisine serra pris.
Les asceles mettez en trauers.

oundhirnes.
Les chenes furchez du fers.
hambors.
Si des osceles du chiual
szhides.
Facez asceles vos fres mal.
Mettez au fu ascele du cheine.
holre ayhs
Coupe de aune ou de freyne.
berche
Eua dunc quere la fue.
berche
Quir en clowe de fust de feu.
grenhed szides
Mes pur la vdour des asceles.
sparkes
Ieo ne vei issir estenceles.
mibreis szherd
Va quere breses en vn teske.
Acturez le feu si vient le veske.
Ore agardez beau duce frere.
glading
Ne auerez tost bele here.
huysseles.
Gardez vos dras des flaumeches.
Mettez en breses peires e preses.

Ore pur acture bel la mesoun.

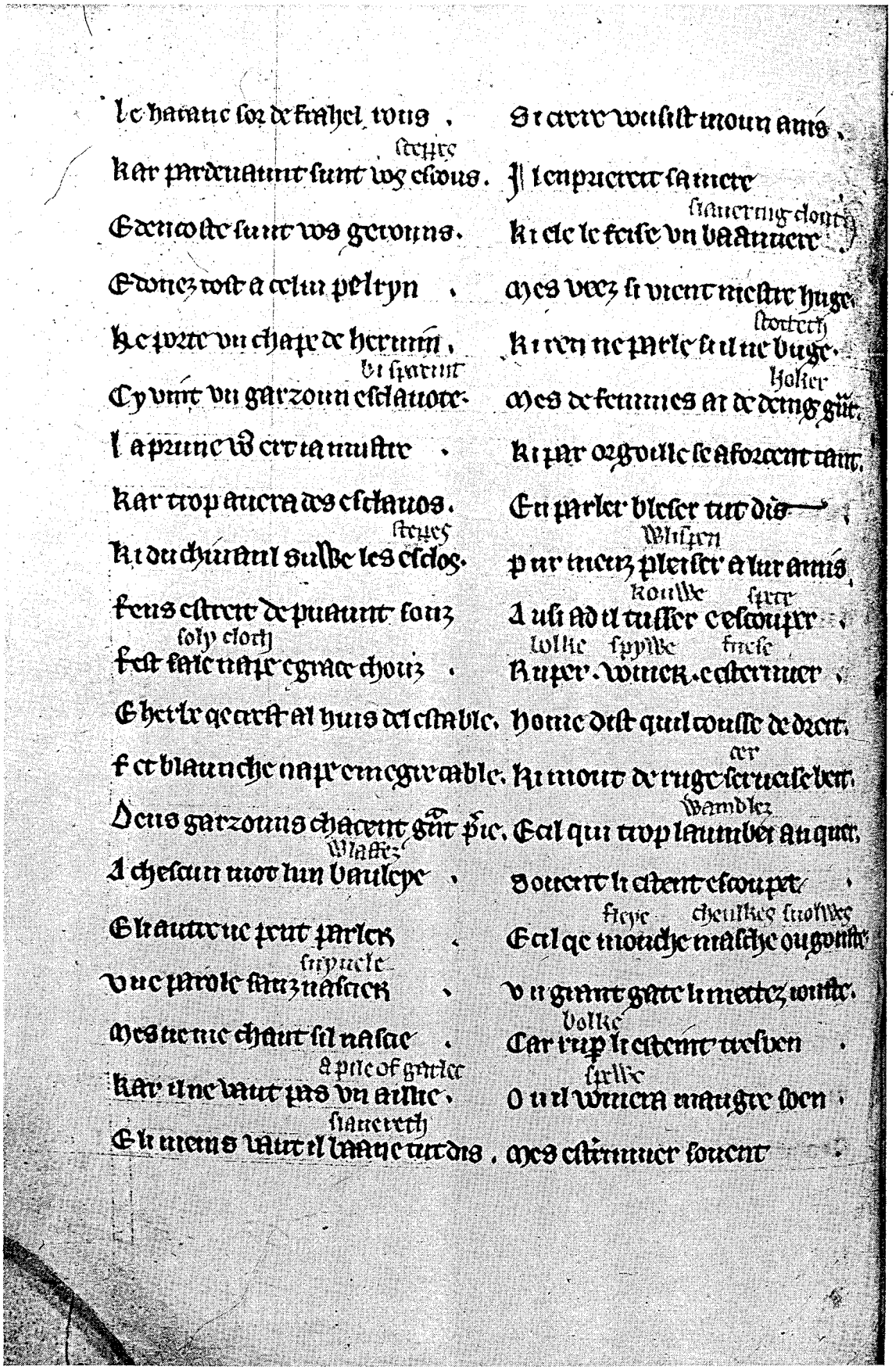
Moundes la mesoun si la iungez.
Asseez la table si la couerez.
hendes sydes.
Les bous de la table e les eures.
Couerez de nape deuaunt seignes

293r

Au meint ki ceo point seit estable.
De blaunche nape couerez la table.
E la setunde ausi couerez .
De blaunche nape si vo leez .
soly.
E si la nape seit trop sale .
halle
Nest mie auenaunt en sale .
Kar blaunche nape mult vse.
biselet
Vaut plus ke nouele en boulke.
Laues les hanapes mundez les q̄les.
nailes
Coupes des cysours de vmbles les eleez
fleyshhoch.
Va ten quistroun ou toun hauez.
Estrere le hagis del postuez .
hume
E mettez vr̄e veille rouche .
ladil
De suz vos pos noun pas la louche.
szhike
Priez ionet ki ta coyfe ilenche.
szhikinston ladil
De vn lucchere suiz la louche .
Wele
E mettez la teille al ydol de lich.
Welwit
Pres de la rose qe ia enflestrich.
Mes a la vile rouche redirroms
Ou plus aprendre ipouns .

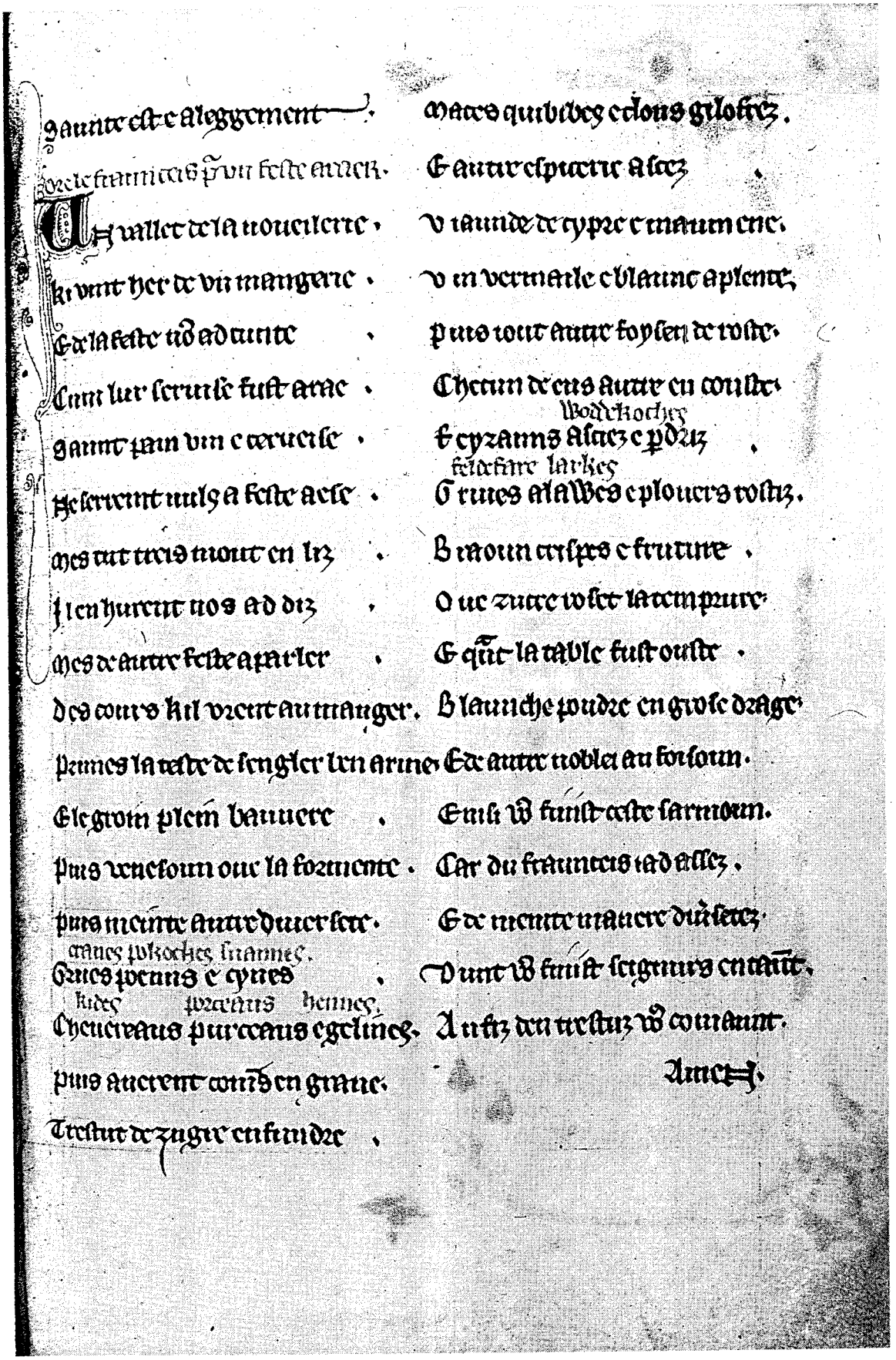
La rouche seruer deit des ees
bees
swaunnes.
Dount no veom voler les dees.
E vn p̄ sei singulerement
Au hony bee est p̄prement
E p̄prement vn de dees ees .
En engleis est a suarme of bees
honny come
E cest vne brecche de mel nome
Ki en la rouche funt les ees degre.
Ore pur diuerse paroles .
Requillez genz vel a manger.
Si poez meimes alloser .
Taillez ceo pain que est pare.
paringes.
Les bisseaus seient pur den done.
Du cotel trenchoms les bisseaus.
Du quiller mangoms mieaus.
Frusses ceo pain qi vent de fourn.
Debruses cel os de venour .
Rumpes la cord qe fet nusance.
Enfremes couenaunt de deceinannce.
lappes
Partiez valet en vo escous .

293v



Le haranc sor de frahel rous . Si crere vousist moun amis .
(steppes)
Kar pardeuaunt sunt vos escous . Il lenprierent sa mere
(slauering clouth)
E dencoste sunt vos gerouns . Ki ele le feise vn baanuere .
E donez tost a celui pelryn . Mes veez si vient mestre huge .
(stotteth)
Ke porte vn chape de hermin . Ki ren ne parle si il ne buge .
(bi sparint) (hoker)
Cy vint vn garzoun esclauote . Mes de femmes ai de deing gnt .
La prune vo ert ia mustre . Ki par orgoille se aforcent tant .
Kar trop auera des esclauos . En parler bleser tut dis .
(steppes) (wlispen)
Ki du chiuaul suwe les esclos . Pur meuz pleiser a lur amis .
(kouwe) (spete)
Fens estreit de puaunt souz . Ausi ad il tusser e escouper .
(soly cloth) (wlike) (spywe) (fnese)
Fest sale nape e grace chouz . Ruper . winer . e esternuer .
E herbe qe crest al huis del estable . Home dist quil tousse de dreit .
(cer)
Fet blaunche nape e megre cable . Ki mout de ruge seruaise beit .
(wandlez)
Deus garzouns chacent gnt pie . E cil qui trop laumbei auquer .
(wlaffez)
A chescun mot lun bauleye . Souent li estent escouper .
(fleye) (cheulkes) (suolwes)
E li autre ne peut parler . E cil qe mouche masche ou gonste .
(suyuele)
Vne parole sanz nascier . Vn grant gate li mettez iouste .
(wolke)
Mes ne me chaut sil nascie . Car rup li esteint tresuen .
(a pile of garlec) (spewe)
Kar il ne vaut pas vn aillie . Ou il wiuera maugre soen .
(slauereth)
E li meins vaut il baane tut dis . Mes esternuer souent .

294r



Saunte est e aleggement.
Ore le fraunceis p̄ vn feste arack.
Un vallet de la noueilerie.
Ki vint her de vn mangerie.
E de la feste nō ad cunte.
Cum lur seruise fust arae.
Saunt pain vin e ceruoise.
Ne serrent nuls a feste aese.
Mes tut treis mout en liz.
Il en hurent nos ad diz.
Mes de autre feste a parler.
Des cours kil vrent au manger.
Primes la teste de sengler ben arme.
E le groin plein bauuere.
Puis venesoun oue la formente.
Puis meinte autre diuersete.
Graues pokoches suannes.
Oues poenns e cynes.
Kides porceaus hennes.
Cheuereaus purceaus e gelines.
Puis auerent comēs en graue.
Trestut de zugre en fundre.

Maces quibibes e clous gilofrez.
E autre espicerie ascez.
Viaunde de cypre e maum ene.
Vin vermaile e blaunc a plente.
Puis iout autre foysen de roste.
Checun de eus autre en couste.
Woddekoches
Feyzanns asciez e pdriz.
feldefare larkes
Grues alawes e plouers rostiz.
Biaoun crispes e fruture.
Oue zucre roset la temprure.
E quant la table fust ouste.
Blaunche poudre en grose drage.
E de autre noblei au foisoun.
Ensi vō finist ceste sarmoun.
Car du fraunceis i ad assez.
E de meinte manere diuersetez.
Dunt vō finist seignurs entaunt.
Au fiz den trestuz vō comaunt.
Amen.

Gautier de Biblesworth : *Le Tretyz*

I. Text

British Library, MS Addit. 46919 ff. 2^{r}—14^{v}

Prologue—*ll.* 1253

	Coe est le tretyz ke Mounsyre	[2ra]	①
	Gautier de Biblesworth first a		②
	Madame Deonyse de *Mountechen-*		⑧
	sy ke nous aprendra le fraun-		④
	ceys de plusour choses de ce mou*n*d,		×
	pur fyz de gentyls home enfour-		×
	mer de langage. Dount tut dys		㉖
	troverez le fraunceys *e* puis le		㉗
	Engleys pardesus.		㉘
	Chere soer, pur ceo ke vous me		×
	pryastes ke jeo meyse en ecryst		×
	pur vos enfaunz acune apryse		×
	de fraunceys en breves paroles,		×
	jeo l'ay fet soulum ceo ke jeo ay a-		×
	prys e soulum ceo ke les paroles		×
	me venent en memore, ke les en-		×
	faunz pusent saver les p*ro*pretez		×
	de choses ke vee*n*t e kaunt dey-		×
	vent dyre : ‹moun› e ‹ma›, ‹soun› e ‹sa›,		×
	‹le› e ‹la›, ‹moy› e ‹jeo›.		×
1	Femme ke aproche soun tens		1
	De enfaunter moustre sens,		2
	Kaunt se proveyt de une vent*re*re		3
4	Ke soyt avysee conseylere.		4
	Kaunt ly enfes serra nez	[2rb]	5
	Cel enfaunt dounk mayllolez,		6
	En soun berz l'enfaunt couchez		7
8	De une bercere vous purvoez.		8
	L'enfaunt comence chatouner		9
	Ainz q'*i*l sache a pez aler,		10
	E kaunt yl baave de nature		11
12	Pur sauver ses dras de bauveure ;		12

Vous direz a sa bercere 13
Ke ele le face une bauviere. 14
Sy toust cum l'enfes comence aler 15
De tay se veut empaluer, 16
E pur mahaim *e* pur blesceure 17
Garce ou garzoun, le deyt sure 18
Ke il ne ceeste ne ne chece. 19
Ensi covient bone pece, 20
E q*ua*nt il encourt a tel age 21
Ke prendre se puet a langgage, 22
Primes en fraunczoys le devez dire ×
Coment sont cors deyt descrire, ×
Pur l'ordre avoyr de ‹moun› e ‹ma›, 25
‹Toun› *e* ‹ta›, *e* ‹soun› *e* ‹sa›, 26
Si q*e* en parole soit meuz apryz 27
E de nul autre escharnys. 28

Ore de la p*re*mere p*ro*preté pur q*ua*n- [2va] ×
qe aprent a la teste ×
Il i ma teste ou moun chef ; 29
Et la greve de moun chef 30
Ffaites la gryve au lever 31
E mangez la gryve au dyner. 32
Jeo ay le cheveus recercilez, 33
Mon toup, vous pry, estaucez : 34
En vostre chef vo*us* avez toup, 35
En la rue jueth ou toup ; ×
E serencez du lyn le toup ; 36
E a la lute derenez le toup. 37
Il i a ausi moun hanapel, 38
Moun frount e moun cervel 40
Moun haterel ove les temples ; 41
E les moustiers dist om temples. 42
Vos regarz sount graciouses, 43
E vost*re* eul est chacious, ×
Mes vous eus sount jaciouses. 44
Des euz oustez la chacye 45
E du nes la rupye. 46
Mieux vaut la rubie par ‹*b*› 47
Ke ne fait la rupie par ‹*p*›, 48
Car si bourse eust tau*u*t de rubyes 49

Come le nes a de rupyes, 50
Riches serroyt de perrye 51
Ky taunt eust de la rubye. 52
De l'euyl est sauvé le purnel [2vb] 53
Si le paupere soit bon *e* bel. 54
En les pauperes sount les cyz ; 55
Amount les eus sount les sourcyz. 56
Le nes deyt aver par resoun ×
Deus narryz *e* un tendroun. 58
Mes war ke le chuhe 59
Ne touche nostre jouhe. 60
Vous avez la lievre *e* le lievre, 61
La livre auxi e le lyvre : 62
La lievere si enclost le denz, 63
Le lievere en bois se tient dedenz ; 64
La lyvre sert en marchaundye, 65
Mays le lyvre nous apre*n*t clergye. 66
En la bouche amount en palet, 67
Tasterez vous chose orde ou net ; 68
E les dames sont ententives 69
Pur bien laver lour gentyves, 70
E si est l'encheisoun certeine 71
Q*e* eles le fount pur bone aleyne. 72
Col y a gorge *e* mentoun 73
Dount le fraunczois est comun. 74
Desouz la launge est la fourcele, 79
Un os fourchee ke frau*n*czois si apele. 80
Dedenz la gorge est la gargate, 75
Le meyns de dame sount aseth beles, ×
Mes se dens sunt agaceles. ×
E checun orayl si ad molet [3ra] ×
E de la bouche veient crachet. ×
Et plus parfound si gyst la rate ×
E si ad le wenne au col derere ×
En droit de l'art plus ma fiere. ×
En chef devaunt est la founteyne, 87
La sovereyne lievere *e* la souzeine. 88
En la bouche sont messeliers 89
E denz foreyns, si tu les quers. 90
Au col avez un fosselet, 91
Desouz la launge est le filet. 92

92	*E* pur certefier la parole		95
	Conoistre covient la cakenole.		96
	Desouz le orayl avez gernoun ;		95
	A l'espaule avez blazoun.		98
96	Desouz le braz avez essuyl ;		99
	Desouz la charette ausy le essuyl.		×
	Sour la mou*n*taigne sourt le broyl,		101
	En basse terre ad bon soyl.		102
100	Entre pledours sourt le toyl		103
	Le vent de byse greve l'uyl.		104
	Aprés le aust si chet la foil ;		105
	Aprés gelee si vient remoyl.		106
104	Par deray cheet sovent duyl		×
	Cestes paroles ensy v*os* koyl,		107
	La resoun pur quey dire v*os* vuyl,		108
	Pur mieuz acorder en parlaunce		109
108	E descorder en variaunce.	[3rb]	110
	Ore des autres membres du corps		×
	endescendaunt aval la teste		×
	Ne est mye mestiers a descrire		×
	Du frau*n*czois q*e* cheascuns siet dire :		×
	Espaule, braz, ne la peytrine,		×
112	De ventre, dos ne de l'eschine.		×
	Mays jeo v*os* fray moustreysoun		×
	De choses noun pas si comoun.		×
	Des espaules yssent les braz,		111
116	Les coustés ne meyns ne lerroms pas.		112
	Mais pur estre en tout certain,		×
	Vous dy du cou de la mayn,		×
	La paume dedenz, la clae dehors.		115
120	Le poyn est dist, kaunt mayn est clos.		116
	E ly feel fert du poygnoun		×
	A travers soun compaignoun.		×
	E une poignee, q*e* avez en mayn		117
124	Ceo est la mayn trestote pleyne.		118
	Deus mayns ensemble viides ou pleynes		119
	En fraunce sount nomes le galeynes.		120
	Car mieux voudroie petite poignee		121
128	De gyngyvere ben tryee,		122
	Q*e* ne feyse cent galeynes		123

De filaundre totes pleynes. 124

Ore du fraunceys pur q*ua*ntqe [3va] ×
vous avez par dehors le corps ×
Une coste du costee ; 125
132 Adam en out Dieux oustee 126
Q*ua*nt dame Eve p*ri*mes fist. 127
Ne vous enchant purquey igyst 128
Ne p*ur*quey le mot vient en place. 129
136 Mais bon est q*e* om le frau*n*czoys sace 130
De la coste, q*e* signefie, 131
Car tote gent ne le sevent mye. 132
Par venteresse en ventre ×
140 Le payn de fourment entre. ×
Enmy le ventre siest le oumbyl, 133
E par desouz est le penyl. 134
Quisses, nages, ove la fourcheure 135
144 Fount g*ra*nt eyse pur chivauchure. 136
Jaumbes *e* geneus conoissez : 137
N'a mestiers q*e* vous soint touchez, 138
Le jaumbes saunz genuz e garez 139
148 De engenuler serreint trop rez. 140
Al garez ount ore gareters 141
Nos garzouns, nos esquiers, 142
Ne mye pur estre chareters, 143
152 Mes pur sauver lour layngneers, 144
E les garettes avez auxi. ×
Pur cele ap*ri*se le vous di [3vb] ×
Q*e* illeok selye om de garetiers, ×
156 Si vint l'usage de charettiers. ×
En la jaumbe avez le assure, 145
E taunt come braoun i est ensure 146
De meilloure force om se assure 147
160 Si le skanel soit saunz blesceure. 148
Ausi avez vous les kevilles : 153
Mais n'entendez pas kivilles, 154
Car keville fait home ferm ester 155
164 *E* kiville fait ly carpenter. 156
La keville du pee, un kivil de fust 151
Vodrey ben ke checun conceust. 152
La plaunte, les ortyz, les talouns 149

Dount le fraunczoys est comuns. 150

Ore de l'ap*r*ise pur q*ua*ntqe vous avez dedenz le corps

Dedenz le corps ad cheascu*n* hom 157
Queor, *e* foye, *e* pomoun, 158
Esplien, bouweles, *e* reynoun, 159
Estomak, veynes, *e* nerfs enviroun. 160
E ne obliez ja la vescye, 161
Q*e* au ventre fait graunt aye 162
Pus q*e* l'urine i aq*ui*lloms. 163
Ne les reyns ne v*os* ublioms, 164
Dount n'y faut sy le feel noun [4ra] 165
De q*ua*nqe dedenz le corps avom. 166
Vous avez la char, e le char, 169
Mes countregardez vous de eschar. 170
Jeo vi la char seer en char 173
E de la char fere eschar. 174
Eschar par folour hom revilyth ; 171
La char par hydour en home fremyt. 172
Ses par dolour ensethisent 175
Le nerfs de levour engourdise*n*t. 176
Ho*m*me e fe*m*me unt la pel, 177
De morte beste quyr jeo apel. 178
Le clerk soune le dreyn apel ; 179
Le prestre fet a Rome apel. 180
Ore avez ceo ke apent a corps, 181
E par dedenz e par dehors. 182

Ore de vostre vesture aveok trestout l'autre harnoys

Vestez vos dras beau douz e*n*fau*nz* ; 183
Chaucez vos brais, soulers *e* gau*nz*, 184
Metez le chaperoun, koeverez le chef, 185
Tachez vos botouns e pus derechef 186
De une corroye vous ceyntez. 187
Ne di pas : ‹Vous enceintez›, 188
Car fe*m*me est par ho*m*me enceinte 189
E de une ceinture est ele ceynte. [4rb] 190
De la ceinture le pendaunt 191
Passe parmy le mordaunt, 192

E eusi doit le hardylloun 193
Passer par tru de subylloun. 194
E si a i moun aumoner, ×
Ma bourse, *e* moun agoiller, ×
Moun cotel auxi, *e* m'espee, ×
Dont li enfes ert enformee. ×
Q*e* q*ua*nt la table ert oustee, ×
Les coteaus serront suwee ×
E vostre espee terderez, ×
Mais nostre nes i mucherez. ×

Ore du fraunczois pur nurrir vos enfauns a la matinee e a la vespree

Si jeofne enfau*n*t v*os* tend la mayn 195
La matinee vers la payn, 196
Une bribe donk le donez. 197
Ou une lesche, si plus ne avez. 198
Mais si v*os* le donez des oefs, 199
Ensi les atyrez a son oes 200
Oustez l'eskale ainz q'*i*l les hume, 201
L'entruit ausi *e* le aubume, 202
Si le donez le moel. 203
Ke a home sein est bon morsel [4va] 204
Mais le germe v*os* en oustez, ×
Q*e* a nul ne apruwe se sachez, ×
Remuez v*os* di le germinoun 205
Mal a desire pur checun hom. 206
E de droyt enfaunz cleyment, 210
Manger poumes p*ur* ceo k'el eyme*n*t. 209
De pomes v*os* di ensement 207
La maniere *e* le affaytement. 208
Oustez l'estiche e la parure, 211
Si li donez la morsure. 212
La pepigniere vous engettez 213
Si les pepignes ne plauntez. 214

Ore de bestes *e* des oyseaus, cheascune assemblee par son naturel Langage en diverser e de lour nouns

Beau douz enfaunz, p*ur* ap*r*endre 215

236	En fraunczois devez ente*n*dre		216
	Q*e* de tote manere de assemblee		217
	Des bestes q*e* Dieux ad fourmee		218
	E des oyseaus ensement		219
240	Parler doit om p*ro*prement.		220
	Primes ou cerfs sont assemblee		221
	Une herde est apelé,		222
	Des gruwes ausi une herde,		223
244	*E* des gryves sanz ‹h› erde,	[4vb]	224
	Nyee de feisaunz, kovee de perdryz,		225
	Dameye des alouwes, tripee de berbyz.		226
	Soundre de pors e de estourneaus,		229
248	Beveye de heyrouns, pypee des oyseaus,		230
	Greille de gelynes, tourbee de cerceles,		234
	Luire de faucouns e de puceles.		235
	Kar pucele seet saunz juper		236
252	Les gentiz faucounz allurer.		237
	Eschiele dit om de bataile,		238
	Fuisoun dist om de vif aumaille.		239
	Haraz dit om des polainz ;		227
256	Ffoleye dist om de vilains.		228
	Bruit de barouns doit om nomer		×
	Ffrape des clers par droit dever.		×
	Array i a des chivalers		×
260	Route i a des esq*ui*ers.		×
	Des burgeys i a auxi route,		×
	Des ribauz *e* des boefs sanz doute.		×
	Some de ble, some de biens ;		×
264	Masse de argent, femier de fens.		×
	Compaignye de dames direz,		×
	E des ouwes ensy le frez		×
	Ceo deus sont associez		×
268	Quele est la resoun ore elysez.		×
	Meute des chiens en venerye,	[5ra]	×
	E de corneyr, quey q*e* hom dye.		×
	Mais pur plus parfitement		×
272	Parler devaunt bone gent,		×
	Il i a saufler, venter e corneer,		×
	Dount la raisoun fait a saver.		×
	Le feu soufle, li quystroun,		×
276	E le vent vente parmy busshoun.		×

Mais venour p*ro*prement corneye ×
Q*ua*nt chace prent de pure preye. ×

Ore de naturele noyse des bestes
***e* des oyseaus**

Ore oez natureument 244
Des bestes le div*er*sement 245
Cheascun de eus *e* cheascune, 246
Solounc q*e* sa nature doune. 247
Home parle, ourse brae 248
Q*e* a desmesure se desrae ; 249
Leoun romyst, gruwe groule, 251
Vache muge e koudre croulle, 250
Chival henyst, alouwe chaunte, 252
Columb geent *e* cok chaunte, 253
Chat myngnoune, serpent cyfle, 254
Asne retane, cyne rescyfle, 255
Lou eule, chen bae, 256
Putoys par afray garaye. [5rb] 258
Gopyl cleye, tesson tralent 259
Q*ua*nt li venour prendre le veut. 260
Ouwe jaungle, garz agroille, 261
En marreis ane jaroille. 262
Mais il i a jaroil *e* garoil ; 263
La difference dire v*os* voyl ; 264
Le ane jaroille en rivere 265
Si nul du faucoun le quiere, 266
Mais devaunt une vyle en guere 267
Affichent le garoil en tere 268
Pur le barbican defendre 269
A l'assaut q*e* om i veut rendre, 270
Si q*e* la porte n'i perde rien 271
Cyl guerreour le sievent bien. 272
Mais a la noyse rediroms, ×
Ou plus aprendre i purroms. ×
Crapaud Koaille, reine gaille, 273
Coleovere p*ro*prement regaille. 274
Purcel gerist, sengler releye, 275
Chevereaus cheyrist *e* tor torreye. 276
Troye groundylle, q*ua*nt drache qert ; 277
Ffauncoun tercel le plounczoun fert. 278

Gelyne natureument patyle 279
316 Q*ua*nt pounté en jardin ou en vile, 280
Kar de Fraunce ay tel estille [5va] 281
Q*e* geline hupee pount *e* patylle. 282
Mais l'estreignal *e* la nascye ×
320 Destourbent q*e* ne pounent mye ×
E ky trop se avaunce saunz reson. 283
A la gelyne est cu*m*paignoun 284
Q*e* plus se avaunce pur un oef 285
324 Q*e* pur sa arrure ne fait un boef. 286
Et q*ua*nt la gelyne chaloyse ×
Et de trepyller fayt la noyse ×
Des oefs le donez germoez ×
328 Noun pas q*e* sont estergulez. ×
Berbyz baleye, dame bale, 287
Espiecer prent ses merz de bale. 288
E du baleys hom baleye ×
332 La sale, ainz q*e* la nincheye, ×
Par trop veiller hom baaille ; 289
A son serjaunt sa chose baille. 290
Aprés dormyr hom se espreche ; 291
336 Ly prestres en l'eglyse preche ; 292
Ly pescheour en rivere pesche 293
De sa rey ou de son hesche. 294
Le faylly leest sa tere freesche 295
340 Pur achater la char freesche. 296
Sa fe*m*me va mener la treesche 297
Plus ly vaudreyt en main la besche, [5vb] 298
Qu*a*nt ele va ou se abesche 299
344 A payn ne a bribe ne a lesche, 300
Son chael la paele lesche. 301
Pur la vyaunde salee ou fresche, ×
Ore donez ceo chael a flater 302
348 Q*e* leesche la rosee de l'herber. 303
Eschvez flatour ke seet flater 304
E les genz espeluper. 305
En toun chaperoun ne vut lesser 306
352 Un poytun, taunt ad cher 307
Ne pas vous, mes toun aver 308
Ke desire de toy aver. 309

Ore de diversete de fraunczois
Ke soune tut un en un engleys
Veez, Ci vient devaunt vous 310
Un tresbeau chivaler rous, 311
Un destrer sor est ja mounté 312
Le esku de goules ad porté, 313
Une launce rouge en l'une meyn, 314
De vin vermail en l'autre pleyn 315
*Q*e ne manjue point peissoun 316
Si del hareng sor noun. 317

Ore de autre diverseté de aprise
Jeo vey une reyne saunz rey, 318
Pur une reine faire desrey [6ra] 319
*Q*e enmy le reaume le rey, 320
En un reoun siet en une rey. 321

Oncore de un autre
Un vilain vient en ma forer 322
Ou par despit fit foreine heer ×
*Q*e ainz oy foreiner, 323
Et dist q'il voloit foreer 234
Dount jeo le fesay forveyer, 325
Le lievere ke vint la foreer. ×

Ore de l'aprise pur ceo qe apent
a pree *e* ensement a chaumps
Ore aloms as prez *e* as chau*m*ps 326
Pur enfourmer nos enfa*u*nz. 327
Du fauz fauchez une aundeyre de pre, 328
Du faucyl syez une javele de ble. 329
Vos javeles en garbes lyez ; 330
Et en trusseaus vos garbes mettez. 331
Un warot de poys araschez 332
E les favaz du warrot lyez. 333
Et si n'a mester q*e* v*os* dioms 334
De tote man*er*e de ble les nouns, 335
De segle, d'orge ne furment, 336
*Q*e comuns sont a tote gent. 337
Mais de autre semail trop i crest 338
*Q*e a cotniers assez desplest. [6rb] ×

Le yveray i crest *e* le betel, 340
388 Le hazoun ausi *e* le nel, 341
Le blaverol *e* le mauve ausi, 342
Karoil *e* autres q*e* ne v*os* di, 343
Kar trop i averoit ore a faire 344
392 Touz semaus ensi attraire. 345
Mais q*ua*nt temps est de carier, 346
Vos charettes faites charger. 347
E ses chivaus doit charetter 348
396 De sa reorte demener, 349
Dount ci a double entendeme*n*t. ×
Q*e* totes genz ne sievent nent. ×
Li carrettiers ad sa reorte ×
400 Mais carruewers le agoilloun eu porte. ×
En la graunge vos bles muwez, 350
Dehors la graunge vos bles tassez, 351
Car une moye est dit en g*ra*unge 352
404 *E* un tas dehors la graunge. 353
En graunge gardez vous de arestes, 356
En chaump vos blez d'autre bestes. 357
En sale chaunterez les gestes 358
408 Pur ublier grefs *e* molestes. 359
Mes si v*os* p*ri*es genz a vos festes, 362
Priez ceus q*e* sont en enq*ue*stes. 363
Moylloun apelez ceo ke est de feyn, 354
412 Et tas ceo ke est de greyn. 355
A moustier verrez deguysee testes, 360
Pur les malices, ke sont si prestes, [6va] 364
De fere grevaunces *e* molestes. 365
416 Mes si desavisee poynt ne estes 366
Ke a ceus doynnez les chars restes. 367

Ore de l'aprise pur pestier vostre pain au four

Qaunt vostre blee est ben batu, 368
Pus ventee *e* pus molu, 369
420 Par le moudre devient faryn 378
Ceo q*e* en grain fu hui matyns 379
Et du faryn veent le flour 380
Pour le bolenge le pestour ; 381
424 Car par bolenger est severee 382

Le flur de four fere demoree 383
A vos chivaus le fourfre donez. 384
Eawe teuve a la flur medlez 385
428 *E* vostre past ensi pestriez 386
De un rastuwer le auge moundez, 387
Dont il i a rastel *e* rastuer 388
Q*e* servent de divers mestier. 389
432 Le pestour use le rastel, 390
Mais rastuer fait auge bel, 391
Les rastel e le rastucheer ×
Sount divers en lour mester. ×
436 Taunt cum feyns sount a preez 394
Est ly rastel manyeez. [6vb] 395
Kaunt le past a l'auge aert, ×
Le rastuer dounk lour seert. ×
440 Eschaufez le four de feugiere 396
Pur defaute de litiere. 397
Litiere e litier sont divers, 398
Descordaunz dient ceus clers. 399
444 Li faucheour litiere fauche ; 400
Pur eyse en litier hom chivauche. 401
Mais ceo est litiere sanz faille 402
Q*e* en pure frau*n*cé dist om paille. 403
448 Pail *e* paille sont nomez 404
Q*au*nt du grain sont severez, 405
Et si du paille n'i ert pas, 406
Pernez donk le pesaz. 407
452 *E* q*au*nt le four est eschaufé, 408
Du peel soit le past entree. 409

Ore de l'aprise pur q*ua*nqe apent
a bone mesure *e* sage

Quaunt nostre past est au four 410
E de pestier i prent sojour, 411
456 Endementiers la mesuere 412
Ne serra pas trop nounchaliere. 413
Ore alez semer vostre lynois 415
E ne ubliez ja le kanois. 416
460 Alez same mesuere, ×
Seez bone curtilere ×
Car du lyn avez les boceaus, [7ra] 417

E du kaunfre les cordeaus. 418
Vostre lyn par temps sarclez ×
E par temps le arraschez, 420
E derechef le sarclez 419
E donk au puiz le rehaez 421
E pus au solail le sechez. 422
E p*us* au batre vous aforcez ×
En yver si v*os* eschaufez. ×
Et p*ur* tout savoir, mult fait bel, 423
Seir v*os* covient au pessel 424
E q*aun*t au pessel ad son dever, 429
Donk irez au rastuer, 430
La serence dounk p*er*nez 431
E vostre lyn i serencez ; 432
E pus du conoyl v*os* purvoiez, 433
Mes les fusil ne lesez, 434
Kar ni faut si fusil noun ×
Q*e* a mesuere deviserom. ×
Sauve le vyrel q*e* a ceo suffyst 435
Ne say q*e* plus v*os* serra dyt. 436
Mais ci ad ore div*er*seté 437
Dont cheascuns n'est mye avisee. 438
De treys choses sert le fusyl : 439
Le fyl est fillee du fusyl, 440
E feu du kaillon fiert fusil, [7rb] 441
E ble est molu par fusyl. 442
Q*ua*nt vostre fyl est ja fyllee, 443
E le fusyl est pleyn chargee, 444
Au trahuil covient donk aler 445
Vostre fyllee trahuiller. 446
E pus alez a la vudiere, 447
Come de fylee est la manere 448
Pur vaudeer aprés le trahuil 449
E pus aprés tister le voyl. 450
E la tystresse, qu*an*t perru le a 453
Tauntost ses tremes veudera, 454
Ke fet hore dame Hude ×
Un lussel de wudres vude. ×
Si vous ay dyt q*ua*ntqe apent ×
Ffors si la lame soulement. ×

Ore pur l'aprise de breser *e* de bracer

Puis ke desore suffist 459
Le fraunczois q*e* vous ay dyt, 460
Desore serroit a saver 461
Come l'en doyt breser *e* bracer 462
A la manere q*e* fait cervoyse 463
Pur faire nos hostes a eyse. 464
Alumez, auncele, la frenole, 465
E kaunt averas mangé de brachole, 466
Une kuve large p*ri*mes pernez [7va] 467
E vostre orge i enfoundrez. 468
Et q*ua*nt il est ben enfoundree 469
E l'eawe soit deskouvelee, 470
Mountez donk en soler, 471
Si le faites bien baleer, 472
E la cocherez vostre blee 473
Taunt q'*i*l soit bien germoee ; 474
E de cele houre apelleras 475
Breis ceo q*e* aint ble nomas. 476
Pus le breis des mains mouez 477
En mounceaus ou en rengees, 478
E p*us* le portez en un corbail 479
Pur ensecchir au torail, 480
Kar corbail ou corbailloun 481
Servyr v*os* doit a fuisoun. 482
E p*us* serra le breis molu 483
E de eawe chaude bien enbu. 484
Si le lessez detoure ataunt 485
Hors de kouverel maintenaunt 486
*D*unsq*e* en un koauge bel, ×
Aprés le sojour en koverel. ×
Taunt q*e* la braceresse entent 487
Q*e* ele eit berzil a talent, 488
Et p*us* le berzise prendra 489
De furment ou de orge q*e* ele a, [7vb] 490
E par le gest *e* le berzille 491
Dont om tut dys se sutylle, 492
Par droit dever de bracerye. 493
Q*e* tout deviser nel peus mye, 494
Mais tout ensi de art en art 495
Attyree cheascune part 496

Taunt q*e* v*os* avez la cervoyse, 497
Dont hom devient si bien a eise 498
Q*e* les uns en pernent taunt 499
Dont il enyvrent maintenaunt. 500
Yvresce tient lays home a cherk ; 503
Home desconu fait avoir merk, 504
Yvresce fait fort home chatouner ; 505
Home aroee fait haut huper, 506
Yvresce fait koiffe de bricoun 507
Rouge teint sanz vermailloun, 508
E donk dist hom par seint Geoge 509
Trop a celuy beu gresse de orge. 510
A tieles le auctour se repose, 511
Q*e* parler pense de autre chose. 512

Ore du fraunczois pur pescher
en vivere ou en estaunk

Si savoir volez la manere 513
Come pescher devez en rivere, 514
Vivere est p*ro*prement nomee [8ra] 515
Ou eawe vive est trovee ; 516
Auqes du cervor i espucheez, 517
Si du peissoun i querez, 518
Et si v*os* faillez a tel estaunk 519
Ou l'eawe est a descoraunt, 520
Alez donk sanz delay 521
Ou l'eawe estiet en betonay. 523
E la pescherez vous de nace 524
Ou petite rey ne troeve grace. 525
Il i a nace *e* crievere ausi, 526
Comun fraunczoys a cheascuny. 527
Le nace est menuement oeverez, 528
Mais plus larges pertuz assez 529
Ad le crievere pur quey le dy, 530
Q*e* autre variaunce n'a de lui. 531
Mais retournoms a la matyre 532
Qe de pescher v*os* doy dire. 533
Le gurget ou nace reversez, 534
L'ordure lienz engettez ; 535
Crapaude ou lesarde si les trovez, 536
Serpente ne koelievre ne esparnyez, 537

Gravele *e* cailloun enruwez, 538
E le limaizoun destorchez. 539
Et si du peissoun i trovez, 540
584 Par les vemberges le p*e*rnez. [8rb] 541
E si il soit myluwel de mer, 542
Overir le devez e espander. 543
Le no tauntost en oustez, 544
588 Buwel, eschine ensi le frez. 545
Si retournez vers maysoun 546
Du gardin vers cele crevisoun 547
Nous voloum porter le peissoun, ×
592 Par le veu verges a mesoun. ×
Taunt q*e* venez au verd tenail 548
Ou li pastour siet ove le aumail, 549
Pus par ceo bois en cel oumbrail 550
596 Passez par desouz le horail. 551
Il i a horail par ‹h› escrit, 556
E orail sanz ‹h› dyt. 557
Desouz le horail se koevere larroun, 558
600 E de l'orail ot cheascun om. 559
Mais ainz q*e* passe plus avaunt 560
Du tenail v*os* ere pl*us* disaunt, 561
Pur ceo q'*i*l i a plus de sens 562
604 Dount il i a tieu differenz. 563
Il i a tenoun *e* tenail, 564
E tenaylles de autre aparail. 565
Le cotyvers tient le tenoun, 566
608 *E* par le tenail passe preudom. 567
Mais tenailles servent de carbou*n*s [8va] 568
En yver, q*ua*nt au fu seoms, 569
E au fievere sert de c*us*tome 570
612 Q*ua*nt du martel fiert a l'enclume. 571
Dount servent cy taunt de pieres ×
Mes sount apelés passueres ×
Pur passer sek les rousseus ×
616 Ke cy sount clers *e* beus. ×

Ore de l'aprise pur beau temps ×
e pur tempeste ×
*O*re pleut, ore geele : 572
Ore remoye, ore regele. 573

Par le geel avez v*os* glaz 574
620 *E* du glaz nient vereglaz, 575
Kar pluye *e* geel sount vereglaz. ×
E si ne vaut guaires trop haster 576
Sur vereglaz pur vereglacer. 577
624 *E* geel *e* pluye degoutau*n*t 578
Font le chemyn trop lydaunt. 579
Ore negge, ore cemoye, 580
Le cem empyre nostre voye. 581
628 La bouche me entre un aunfee de neyf, 582
Si q*ui*dent les uns q*e* soit pur seyf. 583
Nous avoms grisyl p*us* q'*il* geele, greele 584
Auges grosse, noun pas trop gresse. 585
632 Jeo oy tonayre, voyre il toune, [8vb] 586
Dount la cervoyse empyre en toune. 587
Ore attendez, moun pee toune, 588
Nul de vous ja mot ne soune. 589

Oncore de autre diverseté de yver
nayl tempeste

636 Freyd est de yver l'orré ; 590
Un devinayl vous est moustré : 591
En yver q*ua*nt l'orré chaunge 592
E le temps devient si estraunge 599
640 Q*e* maint home fait fort endurer, 600
Pur le destroit de l'yver. 601
Kaunt en yver l'orré chaunge 598
Une verge creest estraunge, 593
644 Verge saunz verdour, 594
Saunz foille *e* saunz flour. 595
Kaunt vendra l'estee 596
La verge ne ert ja trovee. 597
648 *Ked me pys redles what may hyt bee*
Ceo est un esclarril en fraunceys ×
Ou yszikel en engleys. ×
Kaunt avez la mayn tau*n*t estoumie 602
652 Q*e* *p*ur le froid ne poez mye 603
Des doys faire la copinole. 604
Meux vindroit suz plume mole 605
Seer pres du feu q*e* a la carole, [9ra] 606
656 A chapenu vestu de blaverole 607

Ou de quyller primerole
Pur fere chapeus a clers de escoles
Ke par mouwes de fryvole,
Sovent attrere de fe*m*me fole.
Mais queor de femme est si mole
Q*ua*nt beau bachelers le acole,
K*e* sovent a breve parole
Ffemme fole le recole.
Ore pleust a Dieu q*e* teles folos
Eusent faces pleines de veroles,
E les ribauz le rugeroles,
Si larroient donk les places foles.
E les foles, les caroles,
Le fous lerreynt les braceroles.
Mais pur aprendre ceus i*n*nocens
Des veroles v*os* di plus de sens :
Il i a viroles, verole *e* varole
Q*e* sont de divers escole.
La virole la maunche gard
De coutel le mau musard,
E verole la face empyre
Ne soyt ja de si sage sire,
Mais ceo est une varole pure
Q*e* du cholet crest de nature. [9rb]
Le verm q*e* verdz est colouree
En Fraunce est varole nomee.

Ore des flurs qe cressent en boys ou en verger

*L*e jour devient biaux *e* cler ;
Aloms deduire ou banoyer
Au verger, ou sont les flurs
Dont en issent les douz odurs,
Herbes ausi pur medicine,
Dont les nomis cy v*os* devine.
Fflur de rose *e* flur de lyz :
Lyz pur roigne, rose pur pyz,
Ausi i avez la surele.
E pur le teign vaut la parele,
Parele a parel *e* pareaus :
De tote manere des oyseaus

Ou couple ad de male *e* femele ; 663
696 Ceo est un parel, noun pas parele. 664
Car aumdui sont pareaus nomez 665
Pus q*e* ensemble sont nyez. 666
Oncore a flurs me veul aler 667
700 Q*e* ne fait a ublier. 668
Il i a la flur de sourcye, 646
Q*e* a les euz fait graunt aye. 647
Heere du boys *e* heere terestre [9va] 650
704 En ceo verger deyvent crestre. 651
Primerole *e* primeyveyre, 648
Q*e* se moustre*n*t en temps de veire. 649
Et la conseude i crest ausy, ×
708 Comune herbe a cheascuny. ×
Cy ert asez de plaunteyne 652
E bugle auxi, un herbe seyne ; 653
Cerlaunge creest en crevez, 654
712 *E* plenté troverez de navez, 656
Conseude la blaunche flour 657
E mercuryal de graunt valour. 658
Ermoyse ausi i avez 669
716 E plaunteyne, si la semez, 670
Sauge, letuse *e* persylle. ×
Cheverefoil *e* camamille, ×
Ffenoil *e* autre herberye. ×
720 Q*e* nomer totes ne peus mye. ×
Mais si v*os* trovez en verger 671
Ameroke ou gletouner, 672
Les arachez de un besagu 673
724 *E* plauntez cholet en lour liu. 674

Ore des arbres qe cressent en boys ou en verger

Au verger des arbres cressent, 675
Ici vous ferai a savoir ×
Q*e* on doit en memoire avoir, ×
728 Q'*il* a en l'an iiij saisons. ×
Or en pores oir les nons, ×
Par charge du fruit plusors se abesse*n*t. [9vb] 676
Pomer, perer, ceriser, 677
732 Ffresne, genet *e* prumer, 678

	Ceneiller q*e* la ceneylle porte,		679
	Ffourder q*e* la fourdine porte ;		680
	Eglentier ove les peperouges,		681
736	*E* creker ove les crekes roundes.		682
	Un aliher ke porte les alihes,		683
	Dont Alienore en auncyenrye		684
	Le noun receut par un rey		685
740	Ke out alies encore devaunt sey.		686
	Ausi i avez le koigner ;		687
	Sovent le veit om en verger.		688
	Dont il i a variaunce graunt		689
744	Q*e* ne sievent pas li auq*ua*nt.		690
	Ly sires fayt son neyf koigner		691
	En ses ceps pur chastier.		692
	E pernez le koign, abatez le koigner		693
748	*E* coupez du koign un koigner ;		694
	E koigner est il ensement		695
	Q*i* fait la monoye d'argent.		696
	Coupez du coyn une coygnee ;		693
752	Envoyez au coygner ke fait la monee.		×
	De autre arbrerye i a ausi,		697
	Pur aprendre cheascuny.		698
	La p*re*mere si a non ver,		×
756	Estés, autonnes *e* iver.		×
	Vint aprés ices de p*ar*ties		
	L'an p*ar*tent en iiij *par*ties.		×
	Car v*os* comence a la Saint Pere		×
760	Q*e* chas dist iv.c. sospiere.		×
	A Saint Urban faut p*r*ier		
	A le Saint Bartemeu esté		×
	Autonne a feste Sei*n*t AAnes		×
764	Q*e* Diu est commencemen*t*.		×
	Buis i a, paumer *e* arable	[10ra]	699
	Q*e* ne apruwe en t*e*re arable.		700
	E la huise i est en verger,		×
768	Q*e* poy vaut a edifier.		×
	Ensi v*os* di q*e* cete houce		×
	Ne vaut de mut pur fere houce.		×
	La char nue desouz la houce		×
772	Vaudreyt plus gisir en souce.		×
	Et le sueau i est ausi		703

	Qe comun est la cheascuny.		704
	Sauz i a sarail, chesne, *e* yf,		705
776	De ceo frau*n*czois na nul estrif.		706
	L'eeme tortel, koudre, gagger,		×
	Plus n'i a fiert en verger.		×
	Mes de sueau l'em fet suheaus,		709
780	Un manger ke est bon *e* beaus.		710
	Ore pur trestouz les oyseaus		
	qe habitent en boyis ou en foreste		
	Kaunt du verger avoms le chois,		711
	Ore aloms juwer au boys		712
	Oyr du russingnol le gal,		713
784	*Qe* mieux chaunte q*e* huwan en sale.		714
	E mieux chaunte mauvyz en busshoun		715
	Qe chaufe soriz en meysoun.		716
	En braunche siet le menu merle ;		717
788	En mareis demoert la herle ;	[10rb]	718
	Oncore i avez le filaundre,		719
	E li oysel q*e* ad noun chalaundre.		720
	Au four meint le salamaundre.		721
792	Li peissoun des eyles paunde.		×
	Eyles *e* eeles sont divers		735
	Descordaunz dient ceus clers.		736
	Des eyles naent ceus peissouns ;		737
796	*E* des eeles volent ceus musshouns.		738
	Ausi a il noer, naer, nager *e* neger		739
	Dont la raisoun fait a saver.		740
	En mer nae li peissoun		741
800	*E* en mer noee maint preudom :		742
	E des vyrouns deyvent nager		743
	En batel li maryner.		744
	Mais en yver veoms neger		745
804	*E* les aunfees avaler.		746
	Ausi a li espandre *e* espaundre.		723
	Espandre ensement *e* paundre.		724
	Cil espande counsayl d'amy		725
808	Q*i* le deskoevere a nului,		726
	E li emfes de gre espaunde		727
	Hors de ses quele sa vyaunde ;		728
	E des eyles paunde peissoun		729

812	Q*ua*nt vyf en rey le pernoum.		730
	Sachez ke de passeraz		×
	Chars sou*n*t chaudes, megre ou gras.		×
	Mais espeandre est la q*ua*rte parole,	[10va]	731
816	*E* ceo font li clerioun de escole,		732
	Kar cil espeaut natureument		733
	Q*e* les lettres ensemble prent.		734
	Oncore as oyseaus rediroms		747
820	Ou plus aprendre i p*ur*roms.		748
	En chaumbre *e* en place meint		749
	Sont li widekok depeint		750
	Q*e* plusours dyent ascye,		×
824	Mais droit fraunczois n'est il mye		×
	Ainz sont witekok p*r*oprement.		×
	E verdr i a ensement		×
	Dont verder i a *e* vereder,		755
828	Un oysel *e* un forester ;		756
	Kar par ci vole le verder		757
	E par la voit li vereder.		758
	Veez ou tapit un ascye,		751
832	Ffrau*n*czois veot k'ensi le dye		752
	Ke wydekoc ci est lestil		×
	De burgeys de zorkenvyl,		×
	Ci vient volaunt un restel		759
836	Si se trait vers ceo trussel ;		760
	Car plus ayme le restel		761
	En vyroner un haut truessel,		762
	Q*e* nul beau treit de la vyele		763
840	Ou nule note de frestele.	[10vb]	764
	Oncore i avez le musenge		765
	Q*e* les haes en bois renge.		766
	Deslacez, vallet, vostre renge		767
844	Si renger voillez le musenge.		768
	Oncore i a la palenole		769
	E ausi la chardounerole.		770
	E si a il des papyllouns		771
848	Q*e* seir se voillent es chardouns,		772
	E en les rounces ensement		773
	Usent seir natureument.		774
	Mais ceo ne fait pas ly grysyllour		775
852	Q*e* en curtillage ad son sojour,		776

Ne li herysoun nient le plus 777
Q*e* prent la pome ke chiet jus, 778
Ne musches ne wibetz nel sont mye, 779
856 Car il eyment pl*us* le urtye. 780
Ausi a il ane *e* plounczoun 781
Q*i* en rivere unt lour mansioun. 782
En mores meyne*n*t les vaneles ; 783
860 *E* en viles sont veneles. 784
En g*ra*unge usoms le van ; 785
E en l'envyous est le bean. 786
A la vanele *e* ly pounzot ×
864 En more fount lour riet. ×
Ci vient volau*n*t un ouwe roser, [11ra] 787
Un blarret a lui acu*m*paigner. 788
Et mieux serroye de un blarret peu 789
868 Q*e* ne serroye de char de freu. 790
Et plus est ignel une arou*n*de 791
Q*e* nule cygoyne en ceo mounde. 792
Et ceverou*n*del a la ceveroude 793
872 Prent le musshoun *e* le arounde, 794
Et li oysel, q*e* ad noun bekaz 795
Pres de rivere est p*ri*s au laz. 796
Le chaunt du cukoil est bien rocous, 797
876 *E* si ne est guaires delicious. 798
A peyne serroit si ryotous 799
Si son chaunt fut gracious. 800
Mays plus est oy en oriol 801
880 Q*e* la noyse du l'oriol. 802
Et pl*us* vaut pel de fooun ×
Q*e* chaunt de ane ou de pooun, 820
Mais du pooun la bele kuwe 823
884 Est delitable a la vuwe. 824
Car pl*us* eyme dame penne de pooun 821
Q*e* en leschekiere mat de pooun. 822

Ore pur totes les bestes q*e* habitent en boys ou en foreste

Plus avaunt onkore m'en voys 803
888 Pur me dedure en ceo boys. [11rb] 804
Jeo vey venyr un teyssoun 805
Q*i* ad guerpy sa mansioun 806

Pur le feence du gupyl 807
892 Q*i* lui ad mys en exil. 808
Et honys soit li mauputoys 809
Car, soit en vile ou en bois, 810
Ne l'enchant mais q*e* il eyt 811
896 Grasse gelyre a son reheyt. 812
Et pl*us* amasse une belette 813
Pur faire ma g*ra*unge d*e*s raz nette 814
Q*e* totes les taupes de ci q*e* a Paris, 815
Q*i* font taupaynes en pays. 816
900 Jeo vey cy desouz la dume 825
Un oysel plumé, veez cy la plume, 826
Jeo vodrey q'*i*l hut noyz blaunche ×
Cyl q*e* l'oysel ad plumé. ×
904 En la neyf ele ceym, ×
Jeo vey ester un petit neym. 829

Ore pur les propretés de une
Carrette ove q*ua*nqe i apent
Pur une carrette bien desc*ri*vre 833
Le fraunczois v*os* met en lyvre. 834
908 Dont les roes di au p*ri*mour, 835
Pus les bendeaus q*e* sont entour. 836
En les bendeaus, q*e* sont de fer [11va] 837
Sont les jauntez atachez de fer. 838
912 Desouz la bende est la jaunte, ×
Ke a clous de fer l'entree graunte. ×
En les jauntes entrent les raes, 839
E du solail yssent les raes, 840
916 *E* de la mer vienent les raes, 841
E vers la foyre vount les raes ; 842
Mais les raes du charet 843
En les moyaus unt lour rescet. 844
920 Et dist le moal dedenz le roef 845
Tut droit au moel de l'oef : 846
‹Jeo sui, fait il, fort fes a porter. 847
·*E* jeo, fait l'autre, bon a manger›. 848
924 Mais en le moal gyst le essel 849
Q*e* par deus hieces se tient owel. 850
Sur les asseaus gyst le chartyl, 853
E pur sauver le de peryl 854

Si ert le chartil de bons brabeaus 855
Fferm lyez as esseaus. 856
Et si outre les moaus soient sauneres, 863
Donk n'i faut si noun eschieles. 864
Kar entre le chartil *e* les moyeus 857
Sount atachez hourtouheres deus. 858
E chescun charette ke meyne blez 859
Les esseus unt lur juneres. 851
E les eydent cu*m* bon freres. 852
Doit aver rideles a costeez [11vb] 860
En les rideles vount les roulons 861
Par les trus, saunz nul clous. 862
Mais pur estre plus artillous, 865
Des esseaus v*os* dirray plus. 866
Il i a essel *e* assel, 867
E le tiers oncore huissel 868
Le chartyl lyoms sur le assel. 869
Et en le moal gist le essel, 870
Mais le huissel avez vous 871
As ambes les braz a desouz. 872
En lymouns va li lymoer u. l lymouner 873
Q*e* au dos porte le dosser 874
E au ventre le ventrer, 875
E a la kuwe le wauner. 876
Ventrere *e* ventrer i a, 877
Divers come v*os* orrez ja ; 878
Ventrere est p*ro*prement nomee 879
Une fe*m*me q*e* est demoree, 880
Pur ayder en kas sa veysine 881
Q*ua*nt ele girra en gisine ; 882
Mais p*ro*prement dist om ventrer 883
Q*e* au ventre porte li lymeer. 884
Le traycer ad la bracerole 885
Q*e* les lymouns embrace *e* acole. 896
Devaunt les braceroles sount billez [12ra] 887
Taillez de coteaus ou de hacherz, 888
De bon fust round dolerz. ×
Les cols des chivaus portent esceles 889
E coliers de quir ove lour oceles, 890
Et les colier de quyr e bourle hosceles. ×
En charette est le somer, 891

La ou seet le charetter. 892
Et si le charetter ad sa reorte 893
Dont ses chivaus en cours resorte, 894
Donk ad q*ua*nqe a lui apent, 895
Q*e* en taunt suffist q*i* q*e* l'entent. 896
Et pur estre plus sachaunt 897
V*os* diray, ainz q*e* passe avaunt 898
Le droit afaire du caretter ×
E ensement du caruwer. ×
La carretiers estrille avera, 903
Dont les chivaus *con*roera. 904
Et li boiners nel tiegne a gaz 905
Qe bien ne frote du torkaz 906
Ainz q'*i*l soient enbeverez. 907
Mais a soir serront waez. 908
Wayour i a p*ro*prement, 909
Ceo dist li auctour q*e* ne ment 910
Q*e* chival *e* boef font waez, 911
E totes autres bestes lavez. [12rb] 912

Ore pur la carruwe ove tote
la p*ro*preté q*e* il i afiert

Puis q*e* ore suffit du charret, 913
De la carruwe ore m'entremet, 914
En la caruwe avez vous 915
Divers nouns *e* m*er*vaillous : 916
Dont p*ri*mes le chef, *e* le penoun, 917
Le manual, *e* le tenoun ; 918
Pardesouz est le orilloun 919
E plus amount est le escuchoun. 920
La zoche e le vomer 921
Avera caruwe de dever. 922
En lung la caruwe gist la hae, 925
Qe vient de bois ou de hae. 926
E si covient avoir un maillet 927
E un moundylloun pur faire le net. 928
Devaunt la hae sount les clavouns 929
Ou sount atachez les tenouns. 930
Les boefs i portent les juks 931
Pur Crestiens *e* pur Gius ; 932
E par les arczouns es juks fermés 933

Sont les boefs si fort artez 934
Qe les covient maugré lour 935
Par le agoilloun eschure errour. 936
De ceste matire assez avoums, [12va] ×
Redressom ore nos maisouns. ×

Ore de l'apise pur *quanqe* apent
a maisoun edifyer

Si vous avez en penser 937
Maisoun ou chau*m*bre edifier, 938
Il covient au comencement 939
Qe il i ait bon foudement ; 940
E p*us* i leverez la mesiere 941
Dont fe*mm*e est dite mesuere, 942
Il i a messiers *e* mesiere ; 945
Entendu en di*v*erse manere. 946
Ly messiers ad les chau*m*ps en cure 947
Mais mesiere fait la sale sure. 948
Car ceo est meur qe enclost la court, 943
E ceo est mesiere ou coumble le ahourt. 944
E pareye est il ensement ×
Qe de une part *e* de autre prent. ×
Mur est dist de porte en porte, ×
Et la mesiere qe mesoun porte. ×
Sur la mesiere en travers outre 949
Amount le celer mettez la poutre. 950
Le poutre en sale doit om poser, ×
E La poutre en un soler, ×
Mais au piler desus la poutre. 951
Trestouz les seyllouns mettez outre ; [12vb] 954
E sur les seyllouns la plauncyé, 955
De bord ou de plantre pavyé. 956
Au piler desouz le poustre 951
De chevestre liez la june poutre ; 952
Sur la mesiere les traes mettez, 957
De deus cheverouns une couple facez 958
Qe ferm esterra sur la mesiere. 959
Par kivylle *e* par terere, 960
Dont n'i faut si coumble noun, 961
Ou tout amount la maisoun 962
Covient en lung avoir guenchour 963

Dont le coumble ert m*u*lt pl*us* seur. 964
Mais pur plus avaunt parler, 967
V*os* ne devez ublier 968
Q*e* il n'i covient des brenchouns. 969
Clou fichez a nos maisouns, 970
E trenchouns a la pareye ausi. 971
Pur tele aprise le v*os* di 972
Q*e* il i a trenchouns *e* trenchisouns, ×
Dont tien descord i a des nouns ×
Q*e* trenchouns a maisouns eise 975
E trenchisouns as une despleise ; 976
E as chivaus nomeement 977
Car il les manguwent malement. ×
De tote la maisoun est coumble apert, 965
E cel est de tekt dont est covert. 966
Oncore fait bien a saver [13ra] 979
Q*e* endroit de maisoun edifier. 980
De dever il i covient estre 981
Li aumeyre e la fenestre. 982
Aumeyre *e* aumaire i a : 983
A l'aumeyre fumee istra, 984
Mais ceo est p*ro*prement aumaire 987
Ou l'em met viaunde *e* viaire. 988
A l'entree de l'huis est la lyme, 989
E outre la teste est la sullyme. 990
Dencoste sont les gymeaus deuis 991
Ou l'en dont pendre son huis. ×
En l'un gymel pendoms nos gouns 993
Si deus verteveles eoms. 994
Ore faites cliket *e* cerure, 995
Q*e* passe parmy la cerure. ×

Ore pur attyrer sale ou chaum
bre countre la venue des est*r*aunges

Fetes ore appariler, 997
Q*e* nous puissom toust manger. 998
Un vallet de vint e quatre 999
Moundez tauntoust cel hastre. 1000
Portez les cendres au fumer ; 1001
Les hasteles fetes allumer 1002
Par un tysoun de fu enprys 1003

	Q*e* de la quysine serra prys.	[13rb]	1004
1084	Les hasteles mettez en travers		1005
	Les chenes q*e* sont forgés de fers.		1006
	Si des esceles le cheval		1007
	Faitez hasteles, v*os* faites mal.		1008
1088	Mais faites hasteles de chene,		1009
	Ou de aune, ou de frene.		1010
	Pus va quere le fou,		1011
	Q*i* est fet de quyr e de fou.		1012
1092	Mais pur la verdour des asteles,		1013
	Jeo ne voy ysser estenceles.		1014
	Va quere bresses en un teske ;		1015
	Ateyser le fu my veent l'esveske.		1016
1096	Ore agardez, sa beau frere,		1017
	Ne avera ci ja bele chere.		1018
	Gardez vos dras de fameches ;		1019
	Mettez en breses poyres *e* pesches.		1020
1100	Mundez la sale soule,		×
	D'un baleys fayt de boule.		×
	Mundez la sale, si la ninchez,		1021
	Mettez la table *e* la koevere.		1022
1104	Au meins q*e* ceo point soit estable		1025
	De nape koev*er*er la haute table.		1026
	E la secounde ausi koeverez		1027
	De blaunche nape, si v*os* le avez.		1028
1108	*E* si la nape soit trop sale	[13va]	1029
	N'est pas avenaunte en sale ;		1030
	Car blaunche nape mout usee		1031
	Vaut plus q*e* novele enbrouwee.		1032
1112	Les bouts de la table e les cours		1023
	Coverez de nape devau*n*t seignours.		1024
	Lavez les hanaps, moundez esqueles,		1033
	Coupez les ungles dusqe as aeles.		1034
1116	Va t'en quystroun, ou toun havet		1035
	Estrere le hagyz du postenet		1036
	E mettez vostre veille ruche		1037
	Desouz vos poz, noun pas la luche.		1038
1120	*E* priez la dame q*e* ta koyfe luche		1039
	De sa luchiere sur la huche,		1040
	E mette la teyle a l'ydole du lyt		1041
	Pres de la rose ke la enflestrit.		1042

Mais a la ruche rediroms, 1043
Ou plus aprendre i p*or*roms. 1044
La ruche servira des ees, 1045
Dont nous veoms voler les dees ; 1046
Car un e par soy singulereme*n*t 1047
〈An hony bee〉 est p*ro*prement, 1048
E p*ro*prement un de des ees 1049
En engleys est a 〈swarm of bees〉. 1050
E ceo est une bresche de mel nomee 1051
Q*e* en ruche font les ees de gre. [13vb] 1052

Ore pur diverses paroles q*e*
aventurousement menent
en place

Requyllez bel genz a manger ; 1053
Si poez meimes alloser. 1054
Trenchez le pain q*e* est paree ; 1055
Les byseaus soyent p*ur* Dieu donee. 1056
De coutel tre*n*choms ceus byseaus ; 1057
De q*ui*ller mangoms ceus myeaus. 1058

Ore de un autre

Frusshez le pain chaud de foour ; 1059
Druisez le os de char venour. 1060
Roumpez la corde q*e* fait nuisau*n*ce ; 1061
Freignez covenau*n*t de desavenau*n*ce. 1062

Ore de un autre

Ci vient un garzoun esclavotee, 1069
La proeve vos ert ja moustree ; 1070
Q*e* trop avera des esclavoz 1071
Q*i* du chival suwe les esclos. 1072

Ore de un autre

Fiens estreit de puaunt sous 1073
Fait sale nape *e* table gracious ; 1074
E herbe, q*e* crest a huis de estable, 1075
Ffait bele nape *e* meagre table. 1076

Ore de un autre [14ra]

Pernez, vallet, en vos eskours 1063

Le hareng soor du frael rous, 1064
Car par devaunt avez eskours 1065
E d'encoste sont vos girouns. 1066

Ore de un autre

Jeo vey cy venir mestre Huge, 1087
Ke ryen ne parle, si il ne buge. 1088
Ses deus garzouns chacent preye ; 1077
A checun mot ly uns baubeye 1078
E li autres ne puet parler 1079
Une parole sanz nascyer. 1080
E ne m'enchaut si il nascye, 1081
Car il ne vaut pas une aillye estarrie 1082
E q*e* meins vaut il baave tut dys. 1083
Mais si croire vousist moun avys, 1084
Il emprieroyt sa miere 1085
Q*e* lui feist une bauviere. 1086
Mais de fe*m*mes ay desdein grau*n*t 1089
Q*e* par orgoil se afforcent tau*n*t 1090
En parlau*n*t bleseer tut dys 1091
Pur plus plere a lour amys. 1092
Ausi a il tusser *e* escoper, 1093
Ruper, vomyr, esternuer. 1094
Hom dist q*e* cil tousse de droit 1095
Q*i* trop de rouge cervoise boit. 1096
Batayle champele ×
La renumé de cest rei fu espaundue ×
Par sa gentirise par tote teres. ×
E cil q*e* mult laumbeye au queor [14rb] 1097
Mult lui estuet escoper ; 1098
E cil q*e* mouche masche ou gouste 1099
Une graunt gate le mettez jouste, 1100
Car rouper lui esteut tres bien 1101
Ou vomyr maugré le soen. 1102
Mais estuer sovent esternuer 1103
Sauntee est *e* allegement. 1104
Vomyr i a *e* vomer ×
Diversement pur parler, ×
Car q*i* maunde ne puet tenyr ×
A force lui estuet vomyr. ×
Mais eschaumps sert le vomer ×

Qe bien le sievent li caruwer. ×
Et cil l'auraye p*ro*prement ×
Dient les uns comunement ×
Q*i* froid estomak ad en lui, ×
Si suchent le myre ensi. ×

Oncors de autre variau*n*ce ×
Ensi a il cluner, *e* retleer, ×
Roiller, l'encer, *e* gwenyller. ×
Hom clune des euz natureume*n*t ×
Q*ua*nt naturel somoil le prent. ×
E li feloun roille les euz, ×
Q*ua*nt venger se veut par corouz. ×
Le capele de l'espeie fu de fin or, ×
E cil retleye, dist li fraunzois, [14va] ×
Qe l'un eul ad vers le boys, ×
E l'autre au chaump ou au pre. ×
Cestui retleye tout de gre, ×
Mais celui est l'entiers de droit, ×
Q*i* de loinz nule rien ne voit ×
Si ne la mette a l'eul pres ×
Celui l'ente tout adés, ×
Mais gwenillers autre chose ente*n*t, ×
Cil q*i* volaieusement ×
Les eus gette, *e* sa *e* la ×
De mal usage p*ri*me le a. ×

Oncore de un autre
Platez la plate, beauz douz friere, ×
Engleis l'apelent ⟨plate piere⟩. ×
Mais platerel fait a plater, ×
E la pelote a peluser. ×

Our pur parler de l'array de une graunt mangerye
Un vallet de la novelerie 1105
Q*i* vient de une grau*n*t mangerie. 1106
E de la feste nous ad countee 1107
Come lour service fust arraee. 1108
Sanz pain, *e* vin ou cervoyse 1109
Ne serra nuls a feste a eise. 1110

	Assez parmy la mesoun,		×
	De grese *e* de enfermeysoun.		×
1228	Mais au meins fait a saver	[14vb]	1113
	Du cours q'*i*l eurent a p*ri*mer.		1114
	La teste du cengler armee,		1115
	E pus le groign plein baneree ;		1116
1232	Puis veneysoun ove le furmenté,		1117
	Puis mai*n*te autre div*er*seté :		1118
	Des gruwes, poouns, *e* cynes,		1119
	Chevereaus, purceaus, *e* gelynes,		1120
1236	P*us* avoient conyns en gravee		1121
	Trestout de zucre enfoundree.		1122
	E p*us* i out autre foisoun de rost,		1127
	Cheascun de eaus autre encost		1128
1240	Ffeisaunz, ascyez, *e* perdriz,		1129
	Gryves, alouwes, *e* plovers rostis,		1130
	Braoun, crespes, *e* fruture		1131
	Ove zucre roset la temprure.		1132
1244	Maces, q*i*bebes, clou gilofrez,		1123
	E d'autre espiecerye assez.		1124
	Et q*ua*nt la table fu oustee		1133
	Blau*n*che poudre ove la grosse d*ra*gee,		1134
1248	*E* d'autre nobleie a fuisoun.		1135
	Ensi v*os* finyst le sarmoun,		1136
	Car de fraunzoys i a assez,		1137
	De mult de manere div*er*setez,		1138
1252	Dont v*os* finyst, seygnours en tau*n*t.		1139
	Au Fyz Dieu v*os* trestouz comau*n*k *e* Amen.		1140

Explicit ut supra d*ict*um est *et Amen*

II. 本編は Bibbesworth の *Tretyz* の書き写されている写本, BL Addit. 46919 より原文を翻字したものである。さきにこの *Tretyz* の異本を Cambridge, University Library, MS Gg1. 1 より転写し翻訳を付したのであったが BL MS Addit. 46919 の *Tretyz* はいまだ翻刻されていないので翻字の上はやがて, 異綴も多く, 統語法上もそれぞれ特徴を持つ両写本の treatise の比較が容易になるであろう。

ちなみに Addit. 46919 は William Herbert Collection と名指される写本である。Herbert (d. 1333 ?) は Hereford のフランシスコ派修道士であった。Paris および Oxford で学んだ学問僧である Herbert はこの写本を編纂した。Treatises, poems, sermons などを集め, 作品にところどころ注釈をつけ, 自作も加えた。ラテン語の sermons, ME で書かれた religious lyrics, Francien の抒情詩, ロマンスの他にアングロノルマン語による作品が多数集録されている。Nicolas Bozon や Simon de Freine の名前も見られる。殊に Bibbesworth のフランス語教本 *Tretyz* が写本冒頭を飾っているのは, 当時のフランス語

にたいする編纂者 Herbert の関心の程が示されているようである。写本の contents を次に簡単に記しておこう。本文は f. 2^{r} より始まる：

'*Le Tretyz*,' by Gautier de Biblesworth, with vocabularies and glosses (French / English) (AN)
'*Le Chastel de leal amour*,' a poetic and quasi-allegorical disputation (AN)
'*Le arte de venerie*,' by Guillaume Twiti (AN)
Recipes in English, anonymous (E)
Prose treatise on falconry, anonymous (AN)
Poem on the Passion, by Nicholas Bozon (AN)
'*La plainte d'Amour*,' by Nicholas Bozon (AN)
'*Tretis de naturesse*,' courtly poem by Nicholas Bozon (AN)
'*Ave Maria*,' paraphrased by Nicholas Bozon (AN)
'*Ave Virge Marie*,' by Nicholas Bozon (AN)
'*Ave seynte Marie*,' anonymous (AN)
'*De celuy haut seignour*,' anonymous cross-poem (F)
'*Les nouf joies Notre-Dame*,' anonymous (F)
'*Bele mere, ke frai*,' anonymous poem (AN)
'*Douce dame, pie mere*,' poetic prayer to the Virgin (AN)
Prose treatise on the riliglous life, in Anglo-Norman
'*Le Char d'Orgueil*,' by Nicholas Bozon (AN)
'*Vous ke me veez en la croiz morir*,' poem in which Christ addresses sinners from the cross (AN)
'*Cuard est ke amer ne ose*' (F)
'*Les femmes a la pie*,' by Nicholas Bozon (AN)
'*Le meel de ceel*,' by Nicholas Bozon (AN)
Debate between the Body and Soul, by Nicholas Bozon (AN)
'*Reigne couronee, flour de parais*,' by Nicholas Bozon (AN)
'*Comment Nostre Dame e la croiz desputerent sanz nule voiz*,' anonymous (AN)
A series of seven homiletical poems by Nicholas Bozon (AN)
Two homiletical poems by Nicholas Bozon (AN)
A prayer to the Virgin by Nicholas Bozon ? (AN)
'*Ave Maria*' (AN)
A Cross poem (F)
'*La priere de Notre Dame*,' by Thibaut d'Amiens (F)
Latin notes, with Anglo-Norman gloss, on falconry, armour for tournaments and for war, etc.
'*L'ordre de chevalerie*,' of Hue de Tabarie (F)
Allegory on the Passion in which Chirist is represented as a knight by Nicholas Bozon (AN)
Poem on the love of the Virgin (AN)
'*Les Dytees*' by Walter de Bibbesworth (AN)
'*De bone femme la bountē*' by Nicholas Bozon (AN)
Alphabetical list of proverbs (AN)
'*Sermons*' in the hand of William Herbert
'*Le roman de Fortune*,' by Simon de Freine (AN)

'*De la charte du diable fet a conveytous*,' by Peter Pecham (AN)
Paraphrase of the Lord's Prayer (AN)
Extended '*Ave Maria*,' in quatrains
'*Les contes moralisés*,' by Nicholas Bozon (AN)
Treatise on the Sparrowhawk (AN)
'*Conversio*' (F)
Latin sermons of Friar William Herbert interpersed with nineteen Middle English religires lyrics

記

本論の *Tretyz* はケンブリッジ写本 Gg 1.1 の *Tretiz* と較べると表現にも差異があり，追加の文章も見られるので参考までに転写文書の右側に *Tretiz* の行数を付しておいた。×印は *Tretiz* と対応しない個所である。

写本には英語の Glossary が詩行の上に書きこまれているがその転写は MS Gg 1.1 と対照したいので本論文では省いてある。

Gautier de Biblesworth : *Le Tretyz*
(Walter de Bibbesworth)

British Library MS Addit. 46919

ff. 2^{r}-14^{v}

2r

Coe est le tretyz ke moun syre
Gautier de Biblesworth fist a
ma dame Veonyse de Mountchē
sy ke vous aprendra le fraun-
ceys de plusour choses de ce mound
pur fyz de gentyls home enfour-
mer de langage. Vount tut dys
trouerez le fraunceys ⁊ puis le
engleys par de sus.

Chere soer pur ceo ke vous me
pryastes ke ieo meyse en etryst
pur vos enfaunz acune apryse
de fraunceys en breues paroles.
Ieo lay fet soulum ceo ke ieo ay a
prys e soulum ceo ke les paroles
me uenent en memore ke les en-
faunz pusent sauer les ꝓpretez
de choses ke veent e kaunt dey-
uent dyre. Moun e ma. Soun e sa
le e la. Moy e Ieo.

Femme ke a proche soun tens,
De enfaunter: moustre sens.
Kaunt se porueyt de vne ventre. (of a myde / e skyf)
Ke soyt auysee conseylere

Kaunt ly enfes serra nez. (ye chyld / ybore)
Cel enfaunt dounk mayllolez. (sskeye hym)
En soun berz len faunt coucher. (hys cradel)
De une bertere vous puruoer. (of a / lullere / uf norice)
Len faunt comence chatouner. (creopen)
Tant qil sache aper aler.
Et kaunt yl baaue de nature. (draueleth)
Pur sauuer ses dras de bauueure. (of drauelynge)
Vous direz a sa bertere
Ke ele le face vne bauuere. (a drauelyng clout)

Sy toust cum lenfes comence aler.
De tay se ueut empaluer. (fen / hyuulen / of feu / de bosse)
⁊ pur mahaim ⁊ pur blesceure. (bylemynge / hurtynge)
Garte ou garzoun le deyt sure. (volesken)
Ke il ne ceeste ne ne chete. (stumble / valle)
En si couient bone pete.

E quant il en court a tel age.
Ke prendre se puet alanggage.
Primes enfrauncroys le deuez dire
Coment sont cors deyt descrire. (nemnen)
Pur lordre auoyr de moun e ma.
Toun ⁊ ta ⁊ soun ⁊ sa.
Si q̄ en parole soit meur apryz. (ilered)
E de nul autre escharnys. (ascorned)

2v

Ore de la primere pyrcee pur ẽm
qe ayent a la teste.

Si a ma teste ou moun chef.
ye sheede.
Et la greue de moun chef.
ye sheede
Faites la greue au leuer.
ye ueldenage.
Et manger la grene au dyner.

Jeo ay le cheueus pereplez.
her crispe.
ayon tolp uous pry est mucez.
top eyese.
En uostre chef uo auer tolp.
a top.
in ye strete. at ye top.
En la rue nieth ou tolp
hethele of flex ye top.
Et serencez du hyn le tolp.
at ye shirstinge shin ye rom.
Et a la litte derener le tolp.

Si a mis moun hanapel.
brayn panne.
ayoun front et moun tesnel.
brayn.
ayoun hatepel ouc les temples.
ayy nos. ponesshonggen.
Et les mousticrs dist om temples.
churchen.
ul. wster regard est rouelyche.
Vos regnyz sount gracious.
ayes vus eus sount sacious.
ruost eul est chacoul sindy.
Des eus ouster la chacye
ye syn de.
Et ou nes la rupye.
ayal drope.
ayeux naut la rubie pur. b.
a precious ston.
Le ne sunt la ruptie pur. p.
maldrope.
Car si bourse eust taut de rubyes.
stones.
Come le nes a de rupyes
of dropes.
Riches serroyt de perryc.
Ky taunt eust de la rubye.

Del euyl est saime le purnel
ye apelof ye eye.
Si le pupere sont bon et bel.
En les puperes soumt les eyz.
ye heteres i ye hedes.
Et moumt les eus soumt les soupyz.
ye brosses.

Le nes deyt auer pur resoun.
Deus nasprylz et vn tendroun.
nosethorles and a grustele.
ayes shar le le chuhe.
Je touche uostre souhe.
vy chesse.

Vous auez la heuse et le heuse.
La lupe auyi et le syuse.
ye lupe. ye tech.
La heuese si enclost le dent.
ye hare
Le heuese en bois se tient de dent.
shyrimme.
La syuse sert en marchaundye.
a pound chaffa re.
ayays le syuse nous apert clergye.
ye bosk.
En la bouche amount eu pilet.
ye rof ye mouth.
Tastez uous chose orde ou net.
visie.
Et les dames sont entencues.
Pur bien lauer lour gencyues.
goomes.
Et si est lenchesoun certeine.
Qe eles se sount pur bone aleyne.
gods brey.
Col yn. gorge. et mentoun.
Doumt le sumez ois est comun.
De soux la lamige est la soupele
camelon.
Vn os soupchee le sumez ois si apele.
Ke dent la gorge est la gargate.
ye throtebolle.

Ke meyns de deme soumt aseth bele
ayes se dent sumt agnceles.

24 Ethcum oraÿſi ad meſer & ſiez.
& de la bouche veient cracher ſperle

Et plus parfound ſi gÿſt la ſmee. midrif.
& deſcordez en uarraunce.
7 ſi ad le ſeeme en col de pepe. sex shex
Ore des autres membres du corps
endeſcendaunt aual la teſte.
Endroit debaſt plus m a ſiere.
Eu chef deuaunt eſt la ſouuereyne. pe molde.
& eſt mÿe meſtiers a deſcrire
La ſouereyne lieuere 7 la ſouereine. pe ouere lÿre pe nepeſe.
Du ſmaleſcois q̄ cheaſcuns ſiet dire.
En la bouche ſont meſſeiers ſhong ſey
Eſpmile blae. ne la peytrine. brestlon.
7 dent forteÿ
De uentre. dos. ne del eſchine. rugbon
ayÿs ieo v̄ ſmÿ mouſtreÿſouny.
Zhu col auez im foſſelet. pe ſkale. pe halſe in pe neche.
De choſe noun pns ſi comouny.
De ſoue la launge eſt le filet.
7 pur certefier la parole.
Les eſpmiles ÿſſent les braz. pe ellebowes
Conoiſtre coiſent la carpenole. pe rÿme of pe brayn.
Les coiſtes. ne meÿns ne lerroms pns.
ayans pur eſtre en tout certayn.
De ſour le oraÿl auez geynoun. pe her ouer pe ere.
Zſſ eſpmile auez blazoun. ſhuldebon.
vous dÿ du col de la maÿn.
De ſoue le braz auez eſſuyl. pe armpit.
La paume de dent. la clae de hors. pe hond ſhÿdſime pe rug ſhÿpoinen.
De ſoue la chaiere auſſi le eſſuyl. pe exere.
Le poÿn eſt diſt haunt maÿn eſt clos. pe nuſt
Soun la mouſtaigne ſount le bodyl. pe nÿſt.
7 lÿ feel fert du poÿgnoun. knokel vuſt.
En laſſe terre aid bon ſoyl. lou lond
Zl tpuers ſoun compaignoun.
Entre pleddoys ſount le toyl. pe ſtyf.
7 vne poignee q̄ auez en maÿn. on hondful.
Le vent de bÿſe greue luyl. pe ſhÿnd nozy eſt
Ceo eſt la maÿn treſtote pleÿne
Zl pres le auiſt ſi cheet la foil. harueſt pe ſof.
Deus maÿns enſemble vudes en pleÿne.
Zlpres gelee ſi vient ſemoyl. wuſt. vauſhÿn ge.
Enfpmitee ſount nomes le gaſtes.
par deſſÿ cheet ſouent duyl.
Car mieux wudroie petite poignee alitel honſel
Ceſtes paroles enſſÿ v̄ koyl. gadere.
De gÿngÿuere ben tpee.
La reſoun pur quey dire v̄ vuyl.
Qz ne feÿſe cent galeÿnes. zÿſpnes.
Pur mieux acorder en pplaunce.
De filaundre totes pleÿnes. of goſſomer

· ayes eſtudes · mÿ tunebele ·

3v

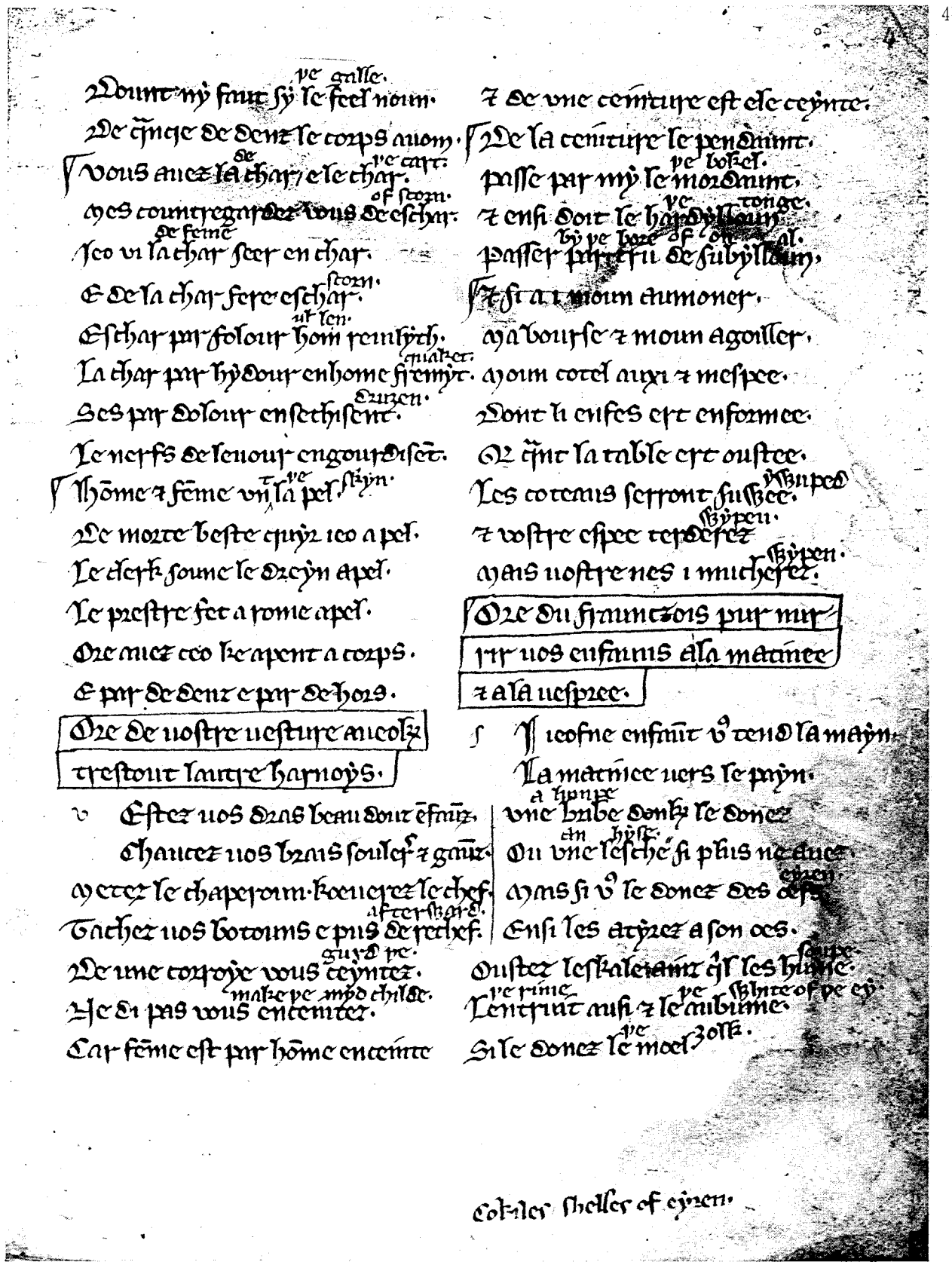
Ore du fraunceys pur cũtre vous pur de hors le corps.

Le coste du coste. (a tyb of pe tyde.)
Clamy en ount dieux ouster.
Qũt dame Eue primes fist.
He vous enchaut pur quey i gyst. (ne zyf no strengye.)
He p quey le mot use en place.
ayns bon est cõ om le fr-añeys sace.
De la coste cõ signefie (of pe tyb)
Car tote gent ne le seuent nyc.
Par ventresse en ventre. (sazenscistepe)
Le payn de fourment entre.
En myl le uentre si est le oumbyl. (pe nauel)
E par de soue est le penyl. (pe schere)
Quisses nages ouc la fourchure (pezes bottokes pe chist)
Foume gnt eyse pur chiualchure. (wr rydinge)
Jaumbes z genus conoissez.
Ha mestiers cõ nous some touchez.
Le jaumbes saunz genuz e gayez (penen z hõmen)
Ne engemiler serrent trop tez (to stif)
Ergayez ount ore gayeters.
Nos gayzoums nos eschuers.
He myc pur estre chyeters.
ayes pur saunler lour layngueers.
Z les gayeres auez auxi. (pe hominen)

pur cele apse le uous dirrez
Quilcoky se lyc om de gayeters
Si vint lusage de chayeteters.
En la jaumbe auez le assiure. (pe spynlyre)
Z tount come braoun i est enfuye. (par opon / in pe fyn lyre)
De meilloure force om se assiure. (tristeth)
Si le estrumel soit saunz blesceure. (pe schynebon hurtynge)
Z lusi auez vous les keuilles. (aunckeen)
Mais ne entendez pus kuilles. (pymes of pre)
Car keuille fait home ferm ester
Z kuille fait ly cayppenter.
La keuille du pee vn kuil de fust. (aunele a pyn of tree)
Dedeyz ben le checun conceust.
La plaunte les orteyz les talons. (pe sole pe toñ pe heles)
Dount le fraunceys est comuns.

Ore del apse pur cũtre vous auez de dens le corps.

E dens le corps as cheasti hom. (beestre lyuyre lunge)
Queor z foye z pounoun. (ayster roynes e lyydenezre)
Esplen boussheles z reynoun. (pe ansse addres senessen)
Estomak veynes z nerfs environ.
Z ne vbliez ia la nestye (pe bladdre)
Qe au ventre fait graunt ayde. (help)
pus cũ lumme i acsllons
He les reyns ne vs vblions.



Nomt my ſuur ſy le ſeel nom. ve galle.
De cynge de denz le corps auom.
Vous auez la char e le char. de ve carc.
ayes countregarder vous de eſchar. of ſtorn.
Seo vi la char ſeer en char. de feme
E de la char fere eſchar. ſtorn.
Eſchar pur ſolour hom reinſyth. ur len.
La char pur hydour enhome fi remyr. quiaker.
Ses pur dolour enſechiſent. duzen.
Le nerfs de lenour engourdiſent.
Vhōme e fēme vn la pel. ve ſkyn.
De morte beſte cuyr ico apel.
Le clerk ſoume le dreyn apel.
Le preſtre fet a rome apel.
Ore auez ceo le apent a corps.
E pur de denz e pur de hors.
Ore de uoſtre ueſture auecoſez
treſtout lautre harnoys.
Eſtez uos dras beau dout ēfuiz.
chaucez uos bras ſouleſ e guiz.
ayetez le chaperon. koeuerez le chef.
Tachez uos botouns e pus de rechef. afterſhard.
De une corroye vous ceyntez. guyrd ve.
Ne di pas vous enceintez. make ve myd childe.
Car fēme eſt pur hōme enceinte
De vne ceinture eſt ele ceynte.
De la ceinture le pendaunt.
paſſe pur my le mordaunt. ve boſel.
e enſi doit le hardyllon. ve tonge.
passer pur eſtre fu de ſubyllaun. by ve bore of of al.
Et ſi a un noun eumoner.
aya bourſe e moun agoller.
ayoun cotel auxi e meſpee.
Dont li enfes eſt enformee.
Qe ēnt la table eſt ouſtee.
Les coteaus ſeſtront fuſtee. ſtuped
e voſtre eſpee repoſer. ſtypen.
ayns noſtre nes i mucheſez. ſtypen.
Qe du ſeaunterois pur mur
pur uos enfaunts ala maūnee
e ala ueſpree.
Ieo ne enſeūr v̄ tend la mayn.
La maūnee uers le puyn.
vne lube donk le donez a tynne
Ou vne leſche ſi plus ne auez. en hyſt.
ayns ſi v̄ le donez des oefs. eyren.
Enſi les atyrez a ſon oes.
Ouſtez leſkaleaunt eſt les hunc. ſcalpe.
Lentrunt auſi e le aubume. ve prime ve ſkyne of ve eye.
Si le donez le moel. ve zolk.

Colter ſheller of eyren.

4v

Ke a home sein est bon morsel.
Mais le germe vous en oustez. (ye striene.)
Or a nul ne aprusse se sachez.
Remuez vous di le germinoun. (ye streene.)
Mal a desire pur checun hom.
Et de droyt enfaunt cleyment.
Manger poumes pur ceo keleymēt.
De pomes vous di ensement.
La maniere et le affaytement.
Oustez lestiche et la parure. (ye sturte)
Ye maniucent / ye bodi.
Si li donez la morsure.
La pepigniere vous engettez. (ye skore)
Si les pepignes ne plaintez. (ye kurneles. settest.)

Ore de bestes et des oyseaus. Che
ascune assemblee par son naturel
Langage en diuersete de lour nouns.

Eau doux enfaunt pur aprendre.
En fraunczois deuez entēdre.
Or de tote manere de assemblee.
Des bestes que dieux ad fourmee. (i shapen.)
Et des oyseaus ensement.
Parler doit om proprement.
Primes ou cerfs sont assemblee. (heortes)
Une herde est apele.
Des gruesses ausi une herde

Et des gryues sant h. erde. (veldeuares.)
Nyee de feisaunt. Rouee de perdryz. (partriches.)
Dameye des alouesses. tripee de berbyz. (of larkes.)
Soundre de pors et de estourneaus. (starlinges.)
Heueye de heyrouns. pypee des oyseaus.
Greille de gelynes. tourbee de cerceles. (of teeles.)
Luire de faucouns et de puceles.
Kar pucele seet saunz iuper.
Les gentiz fauncounz allurer.
Eschiele dit om de bataile (o ost.)
Finsoun dist om de vif aumaille. (of quik orf.)
Harat dit om des polaintz. (of coltes.)
Foleye dist om de vilains. (of cheorles.)
Bruit de barouns doit om nomer.
Frape des clers par droit de uer.
Array i a des chiualers.
Route i a des esquiers.
Des burgeys i a auxi route.
Des ribaut et des boefs sant doute.
Some de ble. Some de biens.
Masse de argent. fenner de fens (dyngehep of dynge.)
Compaignye de dames direz.
Et des ousses ensy le frez.
Ceo deus sont associez.
Quele est la resoun ore elysez.

Meute des chiens en venerye.
et de corneyr quey q̄ hom dye.
Mais pur plus parfitement.
Parler deuaunt bone gent.
Il i a soufler. uenter. et corneer.
Vount la raisoun fait a sauer.
Le feu soufle li quystroun
et le vent uente par my busshoun.
Mais venour ꝓprement corneye.
Q̄nt chace prent de pure preye.

Ore de naturele noyse des bestes et des oyseaus.

Re oez natureument.
Des bestes le diuisement.
Cheascun de eus et cheascune.
Solount q̄ sa nature doune.
lhome parle. ourse brae
Qr a desmesure se desrae.
Leoun romyst. grusse groule.
Vache muge et koudre croulle.
Chiual henyst. alousse chaunte.
Columb geent. et cok chaunte.
Chat myngnoune. serpent cyfle.
Asne retane. cyne recyfle
Lou eule. chen bae.

Putoys par afray garaye.
Gopyl cleye. tesson tralent
Q̄nt li venour prendre le veut.
Ousse iaungle. garz agroille.
Eu marreis ane iaroille
Mais il i a iaroil et garoil.
La difference dire v̄ voyl.
Le ane iaroille en riuere.
Si nul du faucoun le quiere.
Mais deuaunt vne vyle en guere.
Affichent le garoil en tere.
Pur le barbican defendre.
Al assaut q̄ om i veut rendre.
Si q̄ la porte ni perde rien.
Cyl guerreour le sieuent bien.
Mais a la noyse rediroms.
Ou plus aprendre i purroms.
Crapaud koaille. reine gaille.
Coleouere ꝓprement regaille.
Purcel gerist. sengler releye
Cheuereaus cheyrist. et tor torreye
Troye groundylle q̄nt drache q̄rt
Faunicoun tercel le plouncroun fert.
Gelyne natureument patyle.
Q̄nt pount en iardin ou en vile.

5v

Car de fraunce ay tel estille.
Qe geline hupee pount et patylle.
Mais lestreignal et la nascye.
Destourbent qe ne pounent mye.
Et ky trop se auaunte saunz reson.
A la gelyne est cumpaignoun.
Qe plus se auaunte pur un oef.
Qe pur sa arrure ne fait un boef.
Et quant la gelyne chaloyse.
Et de trepyller fayt sa noyse.
Des oefs le donez germoez.
Noun pas qe sont estergulez.
¶ Herbyz baleye. dame bale.
Espieter prent ses merz de bale.
Et du baleys hom baleye.
La sale. ainz qe la nincheye.
Par trop ueiller hom baaille.
A son seriaunt sa chose baille.
¶ Apres dormyr hom se espreche.
Ly prestres en leglyse preche.
Ly pescheour en riuere pesche.
De sa rey ou de son hesche.
Le faylly leest sa tere freesche.
Pur achater la char freesche.
Sa fēme va mener la treesche.

Plus ly uaudreyt en main la besche.
Quant ele ou se abesche
A payn. ne a bribe. ne a lesche.
Son chael la paele lesche
Pur la uyaunde salee ou fresche.
Ore donez ceo chael a flater.
Qe lesche la rosee del herber.
Eschuez flatour ke seet flater
Et les gent espeluper
En toun chaperoun ne vut lesser.
Un poytun taunt ad cher.
Ne pas vous. mes toun auer.
Ke desire de toy auer.

Ore de diuersete de fraunctois
Ke soune tut un en un engleys.

V. Eez ci vient deuaunt vous.
Un tresbeau chiualer rous.
Un destrer sor est ia mounte.
Le esku de goules ad porte
Une launce rouge en lune meyn
Deuin vermail en lautre pleyn.
Qe ne maniue point de peissoun.
Si del hareng sor noun.

Ore de autre diuersete de aprise.

Ieo vey une reyne saunt rey.

Pur vne feme ſinge deſſeÿ
Q en my le reaume le reÿ
En vn reoim ſiet en vne reÿ

Oncore de vn autre.

v Yl vilain vient en ma ſoreſt
Du pur deſpit fit foreme heet.
Q ainz oÿ foreſtes.
Et diſt cyl uolont ſoreſt.
Dount ieo le ſeſaÿ ſouueÿer.
Le ſleuere he vint la foreſt.

Ore del apuſe pur ceo qe apent a pree z enſement a champs.

v Ve aloms aſ prez z aſ champs.
pur enfourmer nos enfantz.
Du ſiate fauchez vne aundeyne de pre
Du fauchyl ſyez vne iaſiele de ble.
vos iaueles en gaſbes hyet.
Et en truſſeaus uos gaſbes metez.
vn ſbaſot de poys ayuſchez.
z les fauaz du ſbaſſot hyez.
Et ſi na meſter q̄ v̄ droms.
Ve corde mane de ble les noms.
Ve ſegle. dorge. ne furment.
Q comms ſont a rote gent.
Ayms de autre ſeemaſ trop i creſt.

Q a cornieſs aſſez deſpleſt.
Le ÿuerny i creſt z le beuel.
Le haroim auſi z le nel.
Le blanchol z le mauue auſi.
Baſol. z autres q̄ ne v̄ di.
Bay trop i aueſport ore a ſaiſe.
Tout ſemaus enſi decaiſe.
Ayms c̄ſt temps eſt de caſter.
vos chaſetes ſaintes chaſgez.
z ſes chiuaus doit chaſeuacer.
Ve ſa reorte demener.
Dount ci a double entendemēt.
Q totes gent ne ſieuent nent.
Li carretiers ad ſa reorte.
Du fauchyl ſyez vne iaſiele de ble.
En la graunge uos blez muſſez.
Ve hors la graunge vos blez tuſſez.
Car vne moye eſt dit en ḡinge
z vn tas de hors la graunge.
En graunge gaſdez vous de aſeſtes.
En champ vos blez dautri beſtes.
En ſale chaumpez les geſtes.
Pur vblier greſs z moleſtes.
ayes ſi v̄ pes gent a uos feſtes.
Priez ceus q̄ ſont en enq̄ſtes.

Ayoÿlloun apelez ceo he eſt de feÿn.
Et tas ceo he eſt de greÿn.

Al ayouſtiez veſtez degruſſee reſtes.

6v

Pur les malices ke sont si prestes.
De fere greuaunces ⁊ molestes.
Mes si desauisee poynt neestes.
Ke a ceus doynnez les chars restes.

Ore del aprise pur pestier uostre pain au four.

Aunt uostre blee est ben batu.
Pus uentee ⁊ pus molu.
Par le moudre deuient faryn.
Ceo q̄ en grain fu hui matyn.
Et du faryn veent le flour.
Par le bolenge le pestour.
Car par bolenger est seueree.
Le flur de fourfere demoree.
A vos chiuaus le fourfre donez.
Easke teuue a la flur medlez.
⁊ uostre past ensi pestriez.
Ve un rastusker le auge moundez.
Vont il i a rastel ⁊ rastuer.
Q̄ seruent de diuers mestier
Le pestour use le rastel.
Mais rastuer fait auge bel.
Les rastel e le rastuheer
Sount diuers en lour mester.
Taunt cum feyns sount a preez.

Est ly rastel manyeez.
Kaunt le past al auge aert.
Le rastuer dounk lour seert.
Eschaufez le four de feugiere.
Pur defaute de litiere.
Litiere ⁊ litier sont diuers.
Descordaunz dient ceus clers.
Li faucheour litiere fauche.
Pur eyse en litier hom chiuauche.
Mais ceo est litiere sant faille.
Q̄ en pure fraunce dist om paille.
Pail ⁊ paille sont nomez.
Q̄nt du grain sont seuerez.
Et si du paille ni eit pas.
Pernez donk le pesaz.
⁊ q̄nt le four est eschaufe.
Vu peel soit le past entree.

Ore dei aprise pur q̄nque apent a bone mesuere ⁊ sage.

Quaunt uostre past est au four.
⁊ de pestier i prent soiour.
En dementiers la mesuere.
Ne serra pas trop nounchaliere.
Ore alez semer uostre lynois.
⁊ ne ubliez ia le kanois.
Alez dame mesuere
Seez bone courtilere.

Car du lyn auez les baceaus.
ye hoppen
Et du launce les cordeaus.
ye ropes.
Voſtre lyn par temps ſarclez.
Wiede hyt.
Et par temps le arraſchez.
pol hyt.
Et deſrechef le ſarclez
Wiede hyt.
Et donez au pied le rehacez / prohez.
reſſe hyt: ſtarke
Et puis au ſolail le ſechez.
Duye hyt.
Et p̃ au batre vous aforcez.
En yuer ſi vꝰ eſchaufez.
Et p̃ tout ſauoir muſt ſtut bel.
Serf vꝰ couient au peſſel.
Wringeſtok.
Et ẽmi au peſſel ad ſon deuer.
Vous ne mi taſtuez.
to ye ribbe.
La ſeruice doimt prez.
ye herhele
Et noſtre lyn i ſeruez.
Et puis du conoyl vꝰ purueez.
of a diſtaf
Ayez les fuſil ne leſez.
ſtrongle
Car mi ſtut ſi fuſil noim.
Qa meſtiere deuſetom.
to hoſe wyf.
Sanue le vyrel ẽ acco ſuffyſt.
Wrouȝe
Ie Say ẽ plus vꝰ ſeyn dyt.
Sans ci ad oze diſcrete.
Dont chenſeins neſt mye auiſee.
De treys choſes ſert le fuſyl.
Le fyl eſt fillee du fuſyl.
vnd ye ſpyndle.

vnyl of ſtute fuyl yren.
Et feu du kaillou fiert fuſil.
lyȝs grouynden mid myhte ſpindle.
Et ble eſt molu par fuſyl.
Qant noſtre fyl eſt ia fyllee.
Et le fuſyl eſt pleyn chargee.
to ye reel
Du trahuil comence donez aler.
Voſtre fyllee traihnillez
zaren releu.
Et puis alez a la vudiere
to ye zarnſtynde.
Come de fylee eſt la maneire.
Puis vaudrez apres le trahuil.
Wyndden ye reel.
Et puis apres tiſtez le wyl
Weuen hyt.
Et la tyſtreſſe ẽmi pert u le a.
yſworen
Tauntoſt ſes tirines veudera.
pinnes .. wynden.
Ilke fer hoze dunc huſe.
a cheſſe
Vn huſſel de ſpindres vuide.
Si vus ay dyt ẽmi ge apent.
Fors ẽ la laine ſoulement.

Oze pur la puſe de breſez et de braez.

Puis ke deſoze ſuffiſt
Le ſimmetrois ẽ vous ay dyt.
Deſoze ſeytout aſmez.
Come len doyt breſez et braez.
maſtren breȝen.
Et la maneire ẽ om ſmt ceſtuoyſe.
Pur ſaue nos hoſtes a eyſe.
Humez muſcle la ſteuole.
ye hex.
Et kunte mieſtas manige de brachole.
of a calf ye fyrſt ſyx ect.

7v

a vat skyd
Vne kuue large primes pernez
stiepe.
Et vostre orge i enfoundrez.
i stiepes.
Et quant il est ben enfoundree.
i laten out of ye vat
Et leasse soit deskouuele.
Mounter donk vn soler
sskopen.
Si le faites bien baleer
Et la cocherez vostre blee.
i chine.
Taunt quil soit bien germoee
Et de cele houre apelleras.
malt
Breis ceo que aint ble nomas.
stire.
Pus le breis des mains mouez.
on hepes. oyer on resses.
En mounceaus ou en rengees.
a lep
Et pus le portez en vn corbail.
at ye host & kulne.
Pur ensetchir au torail.
a lutel basket.
Kar corbail ou corbailloun.
Seruyr vus doit a fuisoun.
i grounde.
Et pus serra le breis molu.
sskel isket.
Et de easse chaude bien enbu.
vrne
Si le lessez decoure a taunt.
out of ye meissling fat
Hors de kouuerel maintenaunt
Dunsque en vn kouuge bel.
Apres le soiour en kouerel.
Taunt que la braceresse entent.
skort to sskille.
Que ele eit berzil a talent.
ye grout
Et pus le berzise prendra.

De furment ou de orge que ele a.
ye berme ye skort
Et par le gest et le berzille.
Dont om tut dys se sutylle
of bresinge.
Par droit deuer de bracerye.
Que tout deuiser nel peus mye.
Mais tout ensi de art en art.
Attyree cheascune part.
Taunt que vus auez la ceruoyse
Dont hom deuient si bien a eise.
Que les vns enpernent taunt.
bicomey dronken
Dont il en yurent maintenaunt.
Yuresce tient lays home a clerk.
Lhome descomu fait auoir merk.
creopen.
Yuresce fait fort home chatouner
hoos zellen.
Lhome aroee fait haut huper.
of a myx
Yuresce fait koiffe de bricoun.
i deihed
Rouge teint sanz uermailloun.
Et donk dist hom par seint George
seym of barlich
Trop a celuy beu gresse de orge.
A tieles le auctour se repose.
Que parler pense de autre chose.

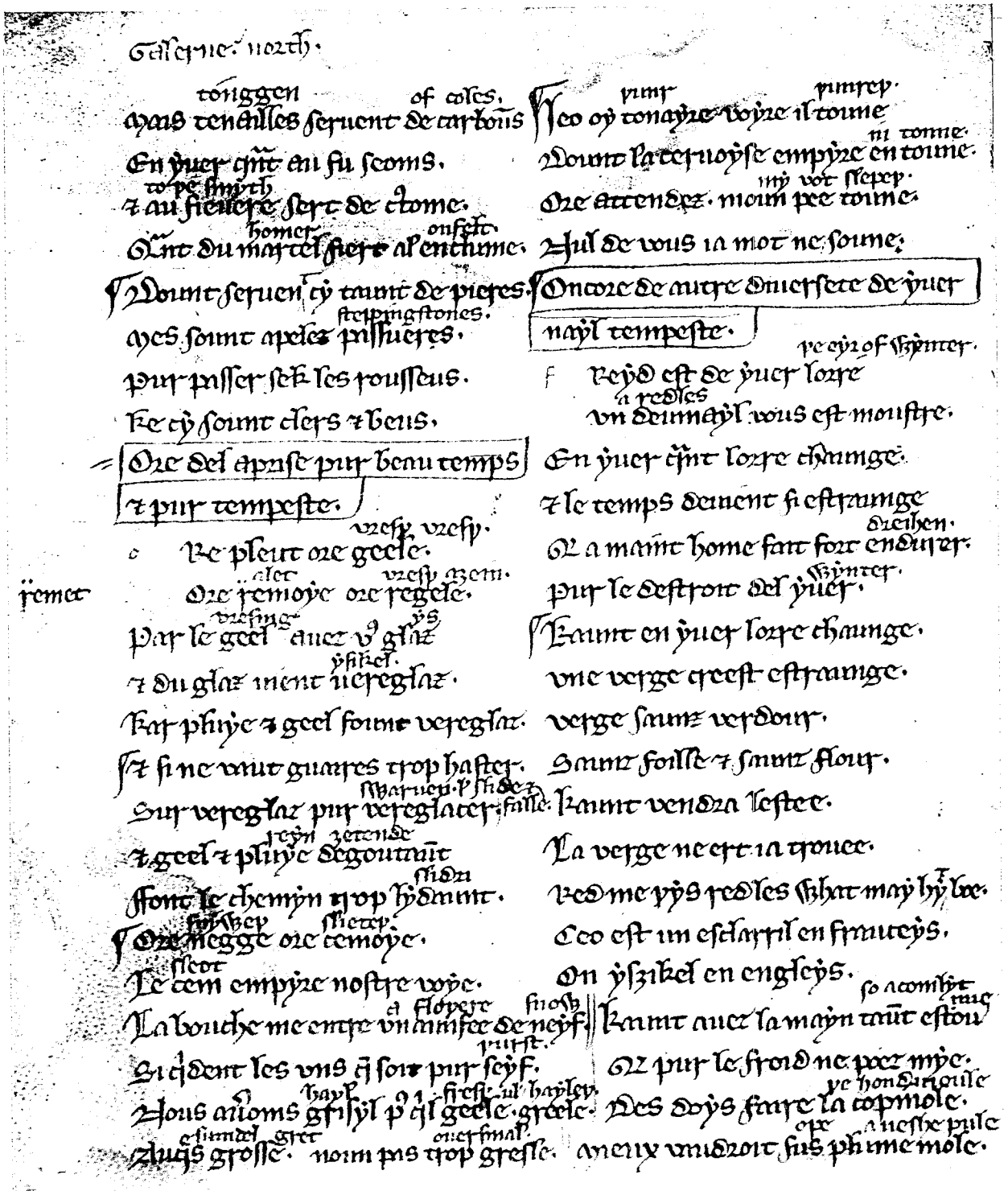
Ore du fraunczois pur pescher
en viuere ou en estaunk.

I sauoir uolez la manere.
Come pescher deuez en riuere.

Vnicſe eſt ꝑprement nomee:
Ou enſſe vne eſt trouee.
Thiges ou cerniol i eſpucheez.
Si ou peiſſoun i queuez.
Et ſi vꝰ ſuiller a cel eſtuuk.
Ou leaſſe eſt a des corumt.
Alez dont ſanz delay.
Ou leaſſe eſtuee en bretonay
7 la peſcheez vous de nace.
Ou petite ſey ne troeue grace.
Sſi a nace 7 crieuere aui.
Comm ſtaumcroys a cheaſtum y.
Le nace eſt memienent ocieſez.
ayns plus laſſez perdre aſſez.
Ald le crieuere. pur cuey le dy.
Q autre vnpaumee na de lin.
Sayns retournoms a la maſyne.
Q de peſcher vꝰ doy dire.
Le guiſſez ou nace reuerſſez
Lordiſe h ent engetter.
Eſpoude ou leſaſde ſi les troier.
Serpente ne breheuſe ne eſtupier.
Gruele 7 cuillouin enpuſſez.
7 le ſmacdoun deſtorbez.
Et ſi ou peiſſoun i troier.

vi ye guiſes
Par les riembeſges le puez.
7 ſi il ſoit myſſuſſel de mer.
openen ſiſalen l'openen
Oiegit le deuez 7 eſtandez.
ye ſoun
Le nꝰ tournoſt en ouſtez.
roupe rigbed
Buſſel eſchyme enſi le ſtez.
Si retournez ueys mayſoun
Ou gardin ueys ceſe creuſoun.
Sous woloun porter le peiſſoun.
pur le veiuegges a meſoun.
Tauut cꝰ venez au verd tenail.
Ou li paſtour ſiet ouc le aumail.
pus pur ceo bois en cel oumbrail.
paſſez pur deſoutz le horail.
Sſi i a horail pur. h. eſcrit.
7 oraiſ ſanz. h. dyt.
Ne ſoit le horail ſe troeuere layſoun.
7 del oraiſ or chealcun oy.
Sayns amt cꝰ paſſe plus auaunt.
Ou tenail vꝰ ere plꝰ diſcaunt.
pur ceo cſi i a plus de ſens.
Voiunt il i a ieu diſſerent.
Sſi i a tenoun 7 tenail.
7 tenayſſes de autre apparail.
Le corpueys tient le tenoun.
7 pur le tenail paſſe preudoun.

8v



Galerne. north.

Mais tenailles seruent de carbons
En yuer quant au fu seoms.
Et au fieuere sert de cotome.
Quant du martel fiert al enclume.
Vount seruent cy taunt de pieres.
Mes sount apeles passueres.
Pur passer sek les rousseus.
Ke cy sount clers et beus.

Ore del aprise pur beau temps et pur tempeste.

Ore pleut ore geele.
Ore remoye ore regele.
Par le geel auer vn glaz
Et du glaz uient uereglaz.
Kar pluye et geel fount vereglaz.
Et si ne vaut guaires trop haster.
Sur vereglaz pur vereglacer.
Et geel et pluye degoutaunt
Font le chemyn trop lydaunt.
Ore negge ore cemoye.
Le cem empyre nostre voye.
La bouche me entre vn aunfee de neyf.
Si cident les vns qui soit pur seyf.
Nous auons grisyl pur quil geele. greele.
Auqs grosse. noun pas trop gresle.

Neo oy tonayre voyre il toune
Vount la ceruoyse empyre en toune.
Ore attendez. moun pee toune.
Nul de vous ia mot ne soune.

Oncore de autre diuersete de yuer nayl tempeste.

Reyd est de yuer lorre
Vn deumayl vous est moustre.
En yuer quant lorre chaunge.
Et le temps deuient si estraunge
Qu a maint home fait fort endurer.
Pur le destroit del yuer.
Kaunt en yuer lorre chaunge.
Vne verge creest estraunge.
Verge saunz verdour.
Saunz foille et saunz flour.
Kaunt vendra lestee.
La verge ne ert ia trouee.
Red me yys redles sshat may hyt boe.
Ceo est un esclarril en frauceys.
On yszikel en engleys.
Kaunt auer la mayn taunt estou
Qu pur le froid ne poer mye.
Des doys faire la copmole.
Mieux vaudroit sus plume mole.

Seer pres du feu q̄ a la carole.
A chapeau uestu de blauerole.
Ou de quyller primerole.
Pur fere chapeus a clers de escole.
Ke par mouskes de fryuole
Souent attrere fem̄e fole.
Mais queor de femme est si mole.
Quant beau bachelers le a cole.
Q̄ souent a breue parole.
Femme fole le recole.
Ore pleust a dieu q̄ teles foles.
Eusent faces pleines de veroles.
Et les ribaus le rugeroles.
Si larroient donk les places foles.
Et les foles les caroles.
Le fous lerreynt les braceroles
Mais aprendre ceus innocens.
Des veroles v⁹ di plus de sens.
Il i a virole. verole. et varole.
Q̄ sont de diuers escole.
La virole la maunche gard.
Ou coutel le mau musard.
Et verole la face empyre.
Ne soyt ia de si sage sire.
Mais ceo est vne varole pure.

Q̄ du cholet crest de nature.
Le verm q̄ uerdz est colouree.
En fraunce est varole nomee.
Ore des flurs q̄ cressent en boys
ou en uerger.
Le iour deuient biaux et cler.
Aloins deduire ou banoyer.
Au uerger ou sont les flurs.
Dont en issent les doux odours.
Herbes aussi pur medicine.
Dont les nouns q̄ v⁹ deuine.
Flur de rose. et flur de lyz.
Lyz pur roigne. rose pur pyz.
Aussi auez la surele.
Et pur le teigu vaut la parele.
Parele a parel et pareaus.
De toute maniere des oyseaus.
Ou couple ad de male et femele.
Ceo est vn parel nom pas parele.
Car aumdeu sont pareaus nomez.
Pus q̄ ensemble sont nyez.
Oncore a flurs me veul aler.
Q̄ ne fait a vblier.
Il i a la flur de sourcye.
Q̄ a les eux fait grauant aye.

9v

Heeſe ou boys ꝛ heeſe ceſtre.
En ceo uerger deyuent ceſtre.
pumerole ꝛ pumeyneyre
Q̃ ſe mouſtrẽt en temps de veere
Et la conſeude ꝛ ceſt auiſy.
Comune herbe a chenſam y.
Cy eſt aſez de plaunteyne
& bugle auxi vn herbe ſeyne.
Ceſtaunge ceſt en ceuer.
ꝛ plente trouerez de nauer.
Conſeude la blaunche flour.
ꝛ mercurial de graunt valour.
Et moyſe auſi ꝛ auez.
ꝛ plaunteyne ſi la ſemez.
Sauge lectuſe. ꝛ perſylle.
Cheuerefoil. ꝛ camamille.
ffenoil ꝛ autre herberye.
Q̃ nomer totes ne peus mye.
ſ Mays si v̄ trouez en uerger.
Limeroke ou gletoimer
Les aſpicher de vn beſagu.
ꝛ plaunter cholet en lour lu.

Par charge en fruit plusors ſe abeſſer
Pomer. perer. ceriſer.
ſſreſne. genet. ꝛ prumer
Ceneiller. q̃ la ceneylle porte.
ſſourder. q̃ la fourdoune porte
Eglenter. oue les peperouges.
ꝛ creſſer oue les creſues roundes.
ſ vn aliher ke porte les alyes
Mont zſhenoie en aumeyenpe.
Le noim receut pur vn rey.
Ke out alies enoie deuaunt ſey.
ſ Auſi i auez le boignez.
Souent le uert om en uerger.
Mont il i a uarraunce graunt.
Q̃ ne ſieuent pas li auſ̃nt.
Ly ſyres fayt ſon nepf boignez.
En ſes ieeps puy chaſtier.
ꝛ pernez le boigh abatez le boignez:
ꝛ coupez du boign vn boignez.
ꝛ boignez eſt il enſement.
Q̃ faut la moneye dargent.
Coupez du coyn vne coyſnee.
Emoyez au coygnez ke faut la moneye
ſ De autre arbreye i a auſi.
Pur aprendre chenſam y.

Ceſt v̄ comence a la ſeint
Q̃ eſt dist iv̄ ſes pieres
zl ſeint urbain faut p̄bre
zl le ſeint beptiſme eſte.
zl toute a feſte ſeint eſtie
Q̃ dix eſt amendemẽt

Ien vous feren a ſauoir
q̃ on doit en memoire auoir
Q̃ a en lan. iij. ſeiſons.
ou en pores ont les noms.

La p̄miere ſi a non ver.
Eſtes. automes. ꝛ ſuer.
vont apres iees de yuer.
Lan. preent en. iij. p̄ties.

box palmtreo mapel
Buis i a. paumer. ⁊ arable.
Q ne aprusse en tre arable. cringlons
holin
⁊ la huise i est eu uerger.
to bulden
Q poy vaut a edifier.
holin
Ensi vs di q̄ cete houce.
couertour
Ne vaut de nuit p̄ fere houce.
La char nue de sour la houce.
vaudreyt plus gisir en souce.
ellern
Et le sueau i est ausi.
Q comun est a cheascuny.
sulsz salsz ok eu
b Saur i a. sarail. chesne. ⁊ yf.
De ceo frauncz ois na nul estrif.
vt
bieth birch boule hasel sualnotetreo
ffou Leeme. torcel. koudre. gagger.
Plus ni afiert eu uerger.
of ellern
a Mes de sueau lem fet suheaus.
sziy milke
Vn manger ke est bons ⁊ beaus.
Ore pur trestout les oyseaus
q̄ habitent en boyis ou en foreste.
k Aunt du uerger auoms le chois.
Ore aloms iusser au boys.
nihtingale
Oyr du russhignol le gal.
oule in halle
Q mieux chaunte q̄ husban en sale.
prostle
⁊ mieux chaunte maunyz en busshoun.
remous
Q chaufesoriz en maysoun.
pe lutel oslebrid
En braunche siet le menu merle.

sheldrake.
En mareis demoert la herle.
se stare
Oncore i auez le filaundre.
sodelarke.
⁊ li oysel q̄ ad noun chalaundre.
criket.
Au four meint le salamaundre.
finnes bat
Li peissoun des eyles paunde.
Eyles ⁊ eeles sont diuers.
Descordaunz dient ceus clers.
finnes sszimmey fisshes.
Des eyles naent ceus peissouns
sziugen fliher sparesses.
⁊ des eeles volent ceus musshouns.
Ausi a il. noer. naer. nager. ⁊ neger.
Dont la raisoun fait a sauer.
sszimmey
En mer nae li peissoun.
drenchey
⁊ en mer noee maint preudom.
oren rousszen
⁊ des vyrouns deyuent nager
in pe bot shipmon
Eu batel li maryner
sniesszen
Mais en yuer ueoins neger
floreren
⁊ les aunfees aualer.
Ausi a il espaudre ⁊ espaundre.
Espeaudre ensement ⁊ paundre.
spredey abrod
Cil espaude counsayl damy
Q le deskoeuere a nului.
sheedey
⁊ li emfes de gre espaunde.
hys mete
Hors de sesquele sa uyaunde
finnes bat pe fish
⁊ des eyles paunde peissoun.
qik in pe net
Qnt vyf en rey le pernoun

ydel. ydel.
vseus oiseus

of sparesses.
Sachez ke de passeraz
Chars sont chaudes megre ou gras.

10v

ayens eſpeniȝre eſt la cyrce pyole
Ou mile note de freſtele.
7 ceo font li oiſeȝoim de eſcole.
Oncore i anez le muſenge.
Kar cil eſpenit naturelmẽt.
Q' les haes en bois renge.
Q' les lettres enſemble prent.
Deſlacez vallet voſtre renge
Oncore as oyſeaus reſnoins.
Si renger vollez le muſenge.
Ou plus aprendre i pꝛoms.
Oncore i a la pilenole.
En chemmbꝛe 7 en plate mẽt.
7 auſi la chardoinerole.
Sont li ſhodeꝛoſes depemt.
7 ſi a il des papyllouns.
Q' pluſours dyent aſtye.
Q' ſeȝ ſe uoillent eſchardouns.
ayens doꝛoit ffruȝtois neſt il myeſt en les pomes enſement.
Tlmz ſont ſhrockok ppꝛement.
uſent ſeȝ naturelmẽt.
7 verdeꝛ ia enſement.
ayens ceo ne faut pas ly gryſſillour.
Mont verdeꝛ i a 7 vereſdeꝛ.
Q' en ciꝛtillage adſon ſoiour.
vn oyſel 7 vn foreſteꝛ.
Ke li heryſoim ment le plus.
Kar pur ci vole le verdeꝛ.
Q' pꝛent la pome ke chet nus.
7 pur la vaut li nereſdeꝛ.
Ke muſches ne ſhibetz nel font myẽ.
Veez ou tapit vn aſcye.
Car il eyment plꝰ le vꝛtye.
ffruȝtois veot benſi le dye.
Tlusi a il ane 7 ploiȝtoim
Ke ſhydeſoc ci eſt leſtil.
Q' en riuere vnt lour maiſoim.
De burgeys de zoꝛk envyl.
En moes meynẽt les vneles.
Ci ment volaunt vn reſtel.
7 en viles ſont veneles.
Si ſe tynt ueys ceo tꝛuſſel.
En ginge vſauns le vin.
Car plus ayme le reſtel.
7 en lemyons eſt le haan.
Emmyoner vn haut tꝛuſſel.
A la vnele 7 ly poiȝeoꝛ
Q' mil ben i tꝛeet de la vyele.
En moe ſoiunt loun tiec.

Ci vient uolant vn ousse roser. (a skildegos)
Vn blarret a lui acumpaigner. (a bernak)
Et mieux serroye de vn blarret peu. (bernak / i fed)
Que serroye de char de freu. (of a rok)
Et plus est iguel vne aroude (skift / a skalesse)
Que nule cigoyne en ceo mounde. (stork)
Et ceueroudel a la ceuerounde. (sparesse net / at ye hous euesinge)
Prent le musshoun et le arounde. (skalesse)
Et li oysel que ad noun bekaz. (snyte)
Pres de riuere est pris au laz. (snare)
Le chaunt du cukoil est bien rotous. (cuckoss)
Et si ne est guaires delicious.
A peyne serroit si rixtous.
Si son chaunt fut gracious.
Mays plus est oy en oriol. (in ye heye tour)
Que la noyse du loriol. (of ye skodesskale)
Et plus vaut pel de foouin.
Que chaunt de ane ou de pooun. (of petok)
Mais du pooun la bele kusse. (tail)
Est delitable a la vusse.
Car plus eyme dame penne de pooun. (vepere of petok)
Que en leschekiere mat de pooun.

Ore pur totes les bestes que habitent en boys ou en foreste.

Lus auaunt onkore men voys.

Pur me dedure en ceo boys.
Jeo uey uenyr vn teyssoun. (a brok)
Qui ad guerpy sa mansioun. (skoning)
Pur le feente du gupyl. (a dunge of a foy)
Qui lui ad mys en exil. (i flemid)
Et honys soit li mauputoys. (fulmard)
Car soit en vile ou en bois.
Nel enchaut mais que il eyt.
Grasse gelyne a son reheyt. (gladning)
Et plus amasse vne belette. (a skesle)
Pur faire ma grunge des raz nette.
Que totes les taupes de ci que a paris.
Que font taupaynes eu pays. (skondesskarpes)
Jeo vey cy de sour la dune. (buske)
Vn oysel plume veer cy la plume. (i polled lo her / ye veyeren)
Jeo vodrey quil hut noyr blaunche.
Cyl que loysel ad plume.
En la neyf ele ceym. (snoss / sleot)
Jeo vey ester vn petit neym. (esserouh)

Ore pur les proprietez de vne carrette oue quanque i apent.

Vr vne carrette bien descure.
Le fraunczois vus met en lyure.
Dont les roes di au primour. (ye skheole)
Puis les bendeaus que sont entour (cart boudes)

11v

En les bendeaus q̄ sont de fer. Doit auer rideles a costeez.
Sont les iauntez atachez de fer. En les rideles vount les roulous.
De sour la bende est la iaunte. Par les trus saunz nul clous.
Ke a clous de fer lentree graunte. Mais pur estre plus artillous.
En les iauntes entrent les raes. Des esseaus v⁹ dirray plus.
Et du soleil yssent les raes. Il i a essel et assel.
Et de la mer uienent les raes. Et le tiers oncore huissel.
Et uers la foyre vount les raes. Le chartyl lyoms sur le assel.
Mais les raes du charet. Et en le moal gist le essel.
En les moyaus vnt lour rescet. Mais le huissel auez vous
Et dist le moal de denz le roef. As ambes les braz a deseuz.
Tut droit au moel del oef. En lymouns va li lymoer.
Ieo sui fait il fort fes a porter. Q̄ au dos porte le dosser.
Et ieo fait lautre bon a manger. Et au ventre le ventrer.
Mais en le moal gyst le essel. Et a la kusse le sauuer.
Q̄ par deus hietes se tient ossel. Ventrere et ventrer i a.
Sur les asseaus gyst le chartyl. Diuers come v⁹ orrez ia.
Et pur sauuer le de peryl. Ventrere est ꝓprement nomee.
Si ert le chartil de bons brabeaus. Vne fēme q̄ est demoree.
Ferm lyez as esseaus. Pur ayder en kas sa veysine.
Et si outre les moaus soient sauuers. Q̄nt ele girra en gisine
Donk ni faut si noun eschieles. Mais ꝓprement dist om ventrer.
Kar entre le chartil et les moyeus. Q̄ au uentre porte li lymoer.
Sount atachez hourtouheres deus. Le trayter ad la bracerole
Echescun charette ke meyne blez. Q̄ les lymouns embrace et acole.

Les esseus vnt sur iuueres.
E les eydent cū bon freres.

12

Deuaunt les braceroles sont billez. (treopinnes)
Taillez de coteaus ou de hachetz.
De bon fust round doletz. (yrsiten)
Les cols des chiuaus portent esceles. (hambersses)
Et coliers de quir oue lour oceles. (bersshames)
vl. Et les colier de quyr et bourle hosceles. (berusham, flockes berulam)
En charette est le somer.
La ou seet le charetter.
Et si le charetter ad sa reorte. (hys sshippe)
Dont ses chiuaus en cours resorte.
Donkz ad quantqe a lui apent.
Qe en taunt suffist qui qe lentent.
Et pour estre plus sachaunt.
Vous diray ainz qe passe auaunt.
Le droit afaire du caretter.
Et ensement du carusser.
Le carretiers estrille auera. (cartare, horscomb)
Dont ses chiuaus croera.
Et li boniers nel tiegne a gaz. (to skorn)
Qe bien ne frote du torkaz. (mis ye sshisp)
Ainz qil soient enbeuerez. (ar, hy habben, ydronke)
Mais a soir serront sshaez. (i sshasshen)
Sshayour i a proprement.
Ceo dist li auctour qe ne ment.
Qe chiual et boef sont sshaez.

Et totes autres bestes lauez.
Ore pur la carrusse oue tote
la proprete qe il i afiert.
Vis qe ore suffit du charret.
De la carrusse ore mentremet.
En la carusse auez vous.
Diuers noms et merueillous.
Dont primes le chef et le penoun. (ye solesshuot, ye solesshefuot)
Le manual et le tenoun. (ye hondle, ye stuilte)
Par de sour est le ozilloun. (r, plosshh rieste)
Et plus amount est le escuchoun. (ye sheldbred)
La zoche et le vomer. (ye culter, ye shar)
Auera carusse de deuer.
En lung la carusse gist la hae. (ye solsshhbem)
Qe uient de bois ou de hae. (of, hegge)
Et si couient auoir vn maillet (a solsshh betel, vl. kuokel)
Et vn moundylloun pur faire le net. (a solsshh staf)
Deuaunt la hae sount les clauouns. (ye, clues)
Ou sount atachez les tenouns.
Les boefs i portent les iuks. (zokes)
Pur crestiens et pur gius.
Et par les artzouns es iuks fermes. (zocbosshen, i vastned)
Sont les boefs si fort artez.
Qe les couient maugre lour.
Par le cigoilloun eschiure errour. (ye gode, mis goinge)

12v

De ceste matire assez auoums.
Redressom ore nos maisoums.
Ore del aprise pur cõtrancie apent
a maisoum edifyer.
I vous auez en penser.
Maisoum ou chaũbre edifier. (buylden)
Il couient au comencement.
Q il i ait bon foundement. (god grounde)
Et p̃ i leuerez la mesiere (ye heleszouh)
Dont fẽme est dite mesuere. (housezif)
Il i a messiers et mesiere.
Entendu en diuise manere.
Ly messiers ad les chaũps en cure. (hayszard)
Mais mesiere fait la sale sure. (ye heleszoszh) (siker)
Car ceo est meur q̃ enclost la court. (szal)
Et ceo est mesiere ou coumble ahourt. (roof) (satteley to)
Et pareye est il ensement. (syd szoszh)
Q de vne part et de autre prent.
Mur est dist de porte en porte.
Et la mesiere: q̃ mesoun porte.
Sur la mesiere en trauers outre.
Amount le celer mettez la poutre. (in ye soler) (ley) (ye bem)
Le poutre en sale doit om poser.
Et la poutre en vn soler.
Mais au piler de sus la poutre.

Trestouz les seyllouns mettez outre. (ye gystes) (soulynes)
Et sur les seyllouns la plauncye. (ye vloor)
De bord ou de plastre pauye. (ben)
Au piler de souz le poustre. (szyuer treo)
De cheuestre liez la iune poutre. (ye filye)
Sur la mesiere les traes mettez. (sulles)
De deus cheuerouns vne couple facez. (sparres & raftres)
Q ferm esterra sur la mesiere. (ye heleszoszh)
Par kuyille et par terere. (wis a pin) (ad szith szymbel)
Dont ni faut si coumble noun.
Ou tout amount la maisoun.
Couient en lung auoir guenchour. (pantreo)
Dont le coumble ert mlt pl⁹ seur.
Mais pur plus auaunt parler.
V⁹ ne deuez vblier.
Q il ni couient des brenchouns. (lappen)
Clouffichez a uos maisouns. (nail fast)
Et trenchouns a la pareye ausi. (splenten)
Pur cele aprise le v⁹ di.
Q il i a trenchouns et trenchisouns.
Dont tieu descord i a des nouns
Q trenchouns a maisouns eise.
Et trenchisouns as vns despleise. (hors szermes) (mispaey)
Et as chiuaus nomeement. (nomeliche)
Car il les manguszent malement.

Ce tote la maisoun est coumble apert
E cel est de tekt dont est couert.

Oncore fait bien a sauer.
Q'en droit de maisoun edifier.
De deuer il i couient estre.
Li aumeyre ⁊ la fenestre. (ye smoke yurl / ye windosse)
Aumeyre ⁊ aumaire i a.
Al aumeyre fumee istra.
Mais ceo est proprement aumaire. (almarie)
Ou lem met viaunde ⁊ viaire. (lyf lode)
Al entree del huis est la lyme (ye preshwald)
⁊ outre la teste est la fullyme. (ye ouerslauch)
Vencoste sont les gymeaus deuis. (doreherren)
Ou len dont pendre son huis.
En lun gymel pendoms nos gouns. (herre / hookes)
Si deus uerteueles coms (hengeles ⁊ tskisten)
Ore faites cliket ⁊ cerure. (lacche / lok)
Q'passe par my la terure. (ye stapel)
Ore pur attyrer sale ou chaum
Vre countre la venue des estunges
Etes ore appariler.
Q'nous puissom toust manger.
Vn uallet de uint e quatre.
Moundez taun toust cel hastre. (yilke heryston)
Portez les cendres au fumer.
Les hasteles fetes alumer. (ye shydes / tende)
Par vn tysoun de fu enprys. (brond / beringe)

Q'de la quysine serra prys.
Les hasteles mettez en trauers (ouerywert)
Les chenes q'sont forges de fers. (aundyres)
Si des esceles le cheual. (of hors hames)
Faitez hasteles v⁹ faites mal.
Mais faites hasteles de chene. (of / ok)
Ou de aune ou de frene. (of alre / oyer / of ash)
Pus va quere le fou. (ye baly)
Q'est fet de quyr e de fou. (of leyer / of beech)
Mais pur la verdour des asceles.
Ieo ne voy ysser escenceles. (sparkes)
Va quere breses en vn teske.
A teyser le fu cy veent les veeske.
Ore agardez sa beau frere.
Ne auera ci ia bele chere.
Gardez vos dras de fameches. (vslen)
Mettez en breses poyres ⁊ pesches.
Mundez la sale soule (clause)
Dun baleys fayt de boule (with abesme / mad of birch)
Mundez la sale si la iunchez. (strauwe hyt)
Mettez la table ⁊ la koeuerez. (wry hyt)
Au meins q'ceo point soit estable.
De nape koeuerez la haute table.
⁊ la fetounde ausi koeuerez.
De blaunche nape si v⁹ le auez.

13v

Hoyȝ
7 ſi la nape ſoit troꝑ ſale.
m halle.
Neſt pas auenaunte en ſale.
yſbeyes
Car blaunche nape mout vſee.
ſimtes
Vaut pluꝰ q̄ nouele enbroudee.

Les bouts de la table e les coyns.
Couerez de nape de meyn ſeignour.

Lauez les hanaps moundez eſcueles
Coupez les vingles duſque as ceeles.
va ten cuyſtroun ou toun hauer.
Eſtrepe le bagyz du poſtener.
7 mettez voſtre veille fruche
De ſoutz vos poez noun paꝰ la fuche.
7 puez la dame q̄ ta leyſe fuche
De ſa fuchiere ſur la fuche.
E mette la teyle al ydole du lyt.
Pres de la poſe le la enfleſtrit.

Vais a la fruche ſeruyroms.
Ou phis apriendre i ꝓroms.
La fruche ſeruyn des ees.
Dont nous veoms voler les dees.
Car vn e pur ſoy ſingilerem̄t.
In hony beo eſt ꝑprement.
ꝑprement vn de des ees.
En engleys eſt a ſſwarm of beos.
7 ceo eſt vne bruſche de mel nomee.

In fruche
En fruche ſont les ees de gyſe.

Ore pur diuerſes paroles q̄
auenturouſement ineuent
en place.

Et cuyllez bel geuz a manger
Si poez memes alloſer.
Trenchez le pain q̄ eſt paſee.
Les byſeaus ſoyent ꝓ dieu donee.
De coutel trēchoms ceus byſeaus.
De cyllere mangoms ceus myeaus.

Ore de vn autre.

Ruſſhez le pain chaud de ſoun.
Lyuiſez le os de char de veoun.
Roumpez la corde q̄ ſaut muſaūce.
Feignez couenaūt de deſauenaūce.

Ore de vn autre.

Jneut vn gayzoun eſclauoncee.
La proeue v̄ eſt la mouſtree.
Qe troꝑ auera des eſclauoz.
Qe du chiual ſuſke les eſclos

Ore de vn autre.

Jens eſtreit de puaunt ſous.
ffaut ſele nape 7 table garnie.
7 herbe q̄ creſt abuns de eſtable.
ffaut bele nape 7 mengere table.

Ore de vn autre.

14

Ore de vn autre.

Ernez uallet en vos eskours.
Le hareng soor du frael rous.
Car par deuaunt auez eskours.
Et dencoste sont vos girouns.

Ore de vn autre.

Jeo vey cy venir mestre huge.
Ke ryen ne parle si il ne buge.
Ses deus garzouns chacent preye.
A checun mot ly vns baubeye.
Et li autres ne puet parler.
Vne parole sanz nascyer.
Et ne menchaut si il nascye.
Car il ne uaut pas vne aillye estarrie.
Et q̄ meins vaut il baaue tut dys.
Mais si croire vousist moun auys
Il emprieroyt sa miere.
Q̄ lui feist vne bauuiere.
Mais de fēmes ay desdein graūt.
Q̄ par orgoil se afforcent taūt.
En parlaūt bleseer tut dys.
Pur plus plere a lour amys.
Ausi a il tusser et escoper.
Ruper. vomyr. esternuer.
Hom dist q̄ cil tousse de droit.
Q̄ trop de rouge ceruoise boit.

Vnyht in velde.
Batayle champele.
La renume de cest rei fu espaundue
par sa gentirise par tote teres.

Et cil q̄ mult laumbeye au queor
Mult lui estuet escoper.
Et cil q̄ musche masche ou gouste.
Vne graunt gate le mettez iouste.
Car rouper lui esteut tresbien.
Ou vomyr maugre le soen.
Mais estuer souent.
Sauntee est et allegement.
Vomyr i a et vomer.
Diuersement pur parler.
Car q̄ maunde ne puet tenyr.
A force lui estuet vomyr.
Mais es chaumps sert le vomer.
Q̄ bien le sieuent li carusser.
Et cil laureye ꝓprement.
Vient les vns communement.
Q̄ froid estomak ad en lui.
Si suchent le myre ensi.

Oncore de autre variaūce.

Ausi a il cluner et recleer.
Roiller. lenter. et gsenyller.
Hom clune des euz natureumēt
Q̄nt naturel somoil le prent.
Et li feloun roille les euz.
Q̄nt venger se veut par corouz.

Le capele del espeie fu de fin or.

14v

baggey
Et cil recleye dist li fraunzois.
Qui lun eul ad uers le boys.
Et lautre au chaump ou au pre.
Cestui recleye tout de gre.
purblind
Mais celui est lentiers de droit.
Qui de loinz nule rien ne voit.
Si ne la mette al eul pres.
Celui lente tout a des.
lokey a squynt
Mais gsseuillers autre chose entent.
Cil qui volaieusement.
Les eus gette et sa et la.
De mal vsage prime le a.

Oncore de vn autre.

ye koiting stou
p Latez la plate beaux doux friere.
Engleis la pelent plate piere.
a trendel trendlen
Mais platerel fait a plater.
for to possen
Et la pelote a peluser.

Ore pur parler del array de vne graunt mangerye.

v. Nu vallet de la nouelerie.
Qui vient de vne graunt mangerie.
Et de la feste nous ad countee.
Come lour serince fust arraee.
Sanz pain et vin ou ceruoyse.
Ne serra nuls a feste a ese.

Assez par my la mesoun. // tyme
of grete tyme and taken out of grete
De grese et de enfermeysoun.

Mais au meins fait a sauer.
Du cours quil eurent a primer.
1 armed
La teste du cengler armee.
ye sgrot ful of banieres
Et pus le groign plein baneree.
mid ye sgheete
Puis ueneysoun oue le furmente.
sundrinesse
Puis mainte autre diuersete.
cranes petokes sgannes
Des gruszes. poouns. et cynes
kides pigges
Cheuereaus. purceaus. et gelynes.
Pus auoient conyns en grauee.
bidrenkt
Trestout de zucre enfoundree
Et pus 1 out autre foisoun de rost.
bisidenoyer
Cheascun de eaus autre encost.
Feisaunz. ascyez. et perdriz.
larken
Gryues. alouszes. et plouers rostis.
Braoun. crespes. et fruture.
ye mienging
Oue zucre roset la temprure.
Maces. quibebes. clougilofrez.
Et dautre espiecerye assez.
Et quant la table fu oustee.
Blauchepoudre oue la grosse dragee.
Et dautre nobleie a fuisoun.
Ensi vus finyst le sarmoun.
Car de fraunzoys 1 a assez.
De mult de manere diuersetez.
Dont vus finyst seygnours en taunt.
Au fyz dieu vus trestout comaunk. etc.

Explicit ut supra dictum est. etc.

5) アングロノルマン「礼節」論

—— Anglo-Norman Treatise on Courtesy ——

Noreture

I. Text

Oxford, Bodleian Library, MS Douce 210

ff. 45^{r}—45^{v} new pagenation

Ci comence noreture, [45^{r}]
Curteisie et g*ra*nt mesure.
Coment ly sages son fitz apent,
Poez oer apertement.
Une sage home de g*ra*nt valour
Qi longe tens vesqui od honour,
De son enfa*u*nt se purpensa
Et de son bone sen ly mostra,
Et dist : Beau fitz, ore escotez,
Si jeo die, bien le entendez.
Noretur*e* vo*us* voile ap*r*endre
Taunt come estez d'age tendre.
Car pur verité et ben vous die,
Ly home est honiz ke n'est norie.
Ore escotez, mo*u*n beau douce fiz,
Coment jeo voile qe seez noriz.
Jeo voile tot a de p*ri*moure
Que tu seez sages et pleyn de douçoure,
Seez deboneir et corteise
Et ke tu saches bien p*ar*ler fra*un*ceys.
Car molt est lengage alosé
De gentil home et mout amé.
Ore retenez cest de moy
O les biens que jeo mettrai.
Si en serrez le plus sacha*u*nt.
Ore escotéz, mo*u*n douce enfaunt,
Vous devez amer le Dieu pussa*u*nt,
Tenez la ley et soun comaunde.
Voluntiers alez a mouster,
Si escotés le Dieu mester.
Car de la s*er*vise Dieu oyr
Ne poet nule male avenir.

Piere et mere honurés
Et bele *gr*ace en averés,
Bone sa*un*té et longe vie
De ceo, chere fiz, ne faudrez myc.
Beau fiz, vos devez esteer
Deva*un*t to*un* seignor a manger,
Et par ta bone volunté
Vo*us* serrez deschaproné.
A pilere ne devez apoer
Ne ta neu chare grater.
Ne rier ne reschiner,
Ne a nuly moker.
Ta*un*t come v*ost*re seignor beit,
Genuler devez de droit,
E a ta dame ensement.
Car ceo a nurture apent.
De s*er*vise devés aprendre
Que tu sachez toy defendre
A mangere devaunt la gent,
Bien et curtoysement.
Vos en irrez tot entour
Come apent a to*un* labour.
Si i seit aprés manger,
De l'eawe devez doner.
A baroun ou chivalere
Vo*us* devez engenulere,
A chevaler ou a p*er*sone,
Car ceo a nurture condoune.
De language apernez
Que entendre le savez,
Et parler apertement
Come a nurture apent.
Si langage ne savez,
Ne aprendre ne volez,
L'em porra parler de vo*us*
G*r*ant male et deshonours.
Si l'em vous doin, petit ou g*r*ant,
Taunt come vo*us* estez enfa*un*t,
En genula*un*t le pernez
Et belement ly merciez.
Pensez de vo*us* bienfesours,

Si les rendez en honours,
Qu*an*qe vo*us* soiez de poer,
Vo*us* li devez mercier.
Si vous alez enchimina*un*t,
Et vous enco*un*tez petit ou g*ra*nt,
Toste ta bouche overez
Et belement li saluez.
Si vo*us* en alez coy avaunt
E ne responez meyntenaunt,
L'em porra toust parler de vo*us*
Ke vous estes mout deynous,
Et ke vous estez maunori.
De ceo pensez, jeo vous pri.
Ne seez pas medisaunt
A home, a femme, ne a enfa*un*t.
Et vo*us* gardez bien touzjors
Que vous ne responez a rebours.
Noveles ava*un*t ne portez,
Si avower ne les poez.
Car l'em vo*us* dirra deshonour
Qe vous estes fort mentour.
A nuly ne promettez
La chose q*e* vo*us* ne avez,
Car beau p*ro*messe e rien doner
Se fest li fole reco*un*forter.
Fues puteynes et hasardrie,
Et la taverne de vynetrie.
Car ki est holers e taverners
Toust avera gasté ses deners.
Si acune amy en avez,
De ceo vo*us* bien avisez.
Ja por vostre fou delite
A li ne facez nule despite.
Toun amy devez touz jours amer,
Et totdys honurer.
Si nule home a vo*us* trespace
De dite, de fete, ou manace,
Le ma*un*dez toust par bone gent
Ke il vo*us* face amendement.
Vos ne p*re*ndrez la venjaunce
De cotel, de espey, ne de launce.

Hastivement devez conquere
Amendement par lay de terre.
Ne seez pas trope hastifs,
Ceo vo*us* prie, mo*u*n chere fiz.
Fole hastivesce mout poy vaut,
De simple home ou de haut.
Car cely que poet bien soeffrir, [45v]
Sovent avera son pleyser.
Entre riches et menes
Belement vo*us* portés.
Ne vos portez ja trop baud,
Ne trope simple ne trop haut,
Mes vo*us* portez menement
C*um* a mesure appent.
Ne seez pas trope orgelous,
Vos prie, chere fiz, per amours.
Orgule regne un poy adés
E g*ra*nt hount vient aprés.
Si sage home devenez,
De ceo vos bien avisez,
Ke acun devez conseiller
Qi ad a vo*us* g*ra*nt mester,
Li consellz bien solom la ley
Et ly diez la droit fey.
Ne li blaundez jeo vo*us* defent
Pur or ne pur argent.
Mes ly diez la droit v*er*ité
Que puys aprés vo*us* sache grê.
Les biens q*e* vo*us* porchacez,
Sagement le despendez,
Hors de fole compaignie,
Beau fiz, et ceo vou prie.
Car no*us* veoms mult sovent,
Une g*ra*nt partie de fole gent
Ke vendent ter*e* et tenement
Et altr*e* chose q*e* a ceo pent,
Lour eritage tot enters
Mettent tot en diners.
Et robent ceo beau damoyseles
Que so*u*nt si avena*u*ns et beals.
Et achatant lour viaundes

Tot aprés lour demaundes,
Bone vyn chapo*u*ns et owes.
Puys aprés eles fount lour mowes,
Et mokent cele despendour
Ke lour fist si g*ra*nt honour.
Car ta*u*nt come la bourse poet dorer,
Amour de femme poez aver.
Et q*ua*nt la bourse par defaute se close,
De fe*m*me ne averez fors un glose.
De ceo seez bien garny,
Beau douce fiz, jeo vos prie.
Ore Dieux no*us* doint issi overir
Que fere pussom so*u*n douce pleyser.

Amen

II. 教養の書 *Noreture* 訳

ここに教養と礼節と優れた節度の教えが始まる，
賢い人がどのようにその息子に話したか，さて，しっかり聞くとしよう．
信義を重んじ年を重ねた　徳高き賢明なる人は
子息のゆくすゑを慮り，自身の良識を彼に示した．
そして言った「よき息子よ，さあお聞き，私の言うのをよく聞きわけよ，
年若いうちのお前に，教養ということを教えておきたい．
まこと，私はお前に言うが，教育のない者は恥をかく．
さあ聞いておくれ優しい子，どのように育って欲しいと願っているかを．
まず第一に望むのは，賢明であり，優しくあって欲しいこと．
人には寛大に　礼儀正しく，フランス語を上手に話せるように，
フランス語は身分ある人が賞賛し，すすんで使うものだから．
私が教える善いことと共に，それをよく覚えておくのだよ．
すれば，一番の物知りとなろう．従順な子よ，聞くがよい，
全能の神を愛し，神の掟を守り，いましめを忘れぬように，
喜んで教会に行き，神への勤行（つとめ）を聞きなさい．
ミサにあづかっておる限り，何の悪いことも起こらない．
父母を敬い，うるわしい寵愛を受けるよう，
健康と永生き，愛する息子よ，それをないがしろに思ってはいけない．
さてわが子，食事の際には御主人の前に立ち
そして，行儀よく帽子を脱ぐこと．
柱にもたれかかったり，肌をぼりぼり掻かぬよう，
笑ったり，しかめっつらをしたり，人をばかにしてはいけない．
お前の御主人が飲物を摂る時，姿勢を正し膝をつくのだ
奥方にも同じようにしなさい，教養にかかわることだから．
給仕については，礼儀正しく
人の前では食べぬよう，その心得を知りなさい．

お前の仕事にふさわしく，周囲に心を配ること
食事が終ったあとならば，きれいな水を差し上げよ．
身分高きお方，騎士どのには，片膝ついて跪くこと．
勲功ある方，司祭どのにも．それが教養を示すのだ．
フランス語を学び，それを理解し
はっきりと話せるようになりなさい．その教育にふさわしく．
フランス語を知らず，覚えようともしないなら
人はお前をけなしもするし，不名誉なことも言うだろう．
お前が幼少である間，いろんな人から頂くときは
跪いてそれを受け，心から感謝するのだよ．
恩恵下さる方々を覚え，敬うように，
肝に命じて，有難く思わなければいけない．
道を歩いて，さまざまなお人に出逢ったら
いそいで口を開き，立派に挨拶しなさい．
だまって行き過ぎ，何も言わぬなら，
人はお前の噂をして，失礼な奴と言うだろう，
教養がないとも言うだろう，よく考えておくのだよ．
男性，女性，子供にも，悪い口をきいてはいけない
つっけんどんに答えないよう，注意してわきまえなさい．
認めることが出来なければ，噂を持ち運ぶのは禁物．
人はお前を大嘘つきと呼び，お前の不名誉を言いふらす．
自分にできないことならば，誰にも約束してはいけない．
良い約束をし，何もできぬというのは，愚かな空約束だから．
いかがわしい女性や賭事，酒を売る店は避けること．
夜ふかし共や居酒屋浸りは，自分の金をまたたく間になくす
そんな友達がいるならば，よく忠告してやることだ．
お前の愚かな優越感で，友だちを軽蔑するべからず．
友達は常に大切にし，尊敬しなければならない．
もし誰か，言葉，行為，あるいは脅迫で，お前を陥れるなら，
ただちに然るべきお方に依頼してその償いを求めるように．
刃物や剣や槍などで，仕返しをするのではない，
国の法律に従って，すみやかに償いをかち得るのだ．
何事も焦ってはならない，愛する息子，それは頼んでおきたい．
つまらぬ者も高貴のお方も，愚かなせっかちは損をするだけ．
充分耐え得る人々には，大抵喜びが訪れる．
裕福な人たち，多くの方々の間では立派に立居振舞うこと．
はしゃぎ過ぎず，つまし過ぎず，またおごらず，
ほどほどにしなさい．良識ある者のように．
あまり傲慢にならぬよう，親愛なる子よ，愛をこめてこれは頼むのだ．
傲慢が，日の眼を見るは束の間で，大きな恥辱がすぐ後にくる．
賢明な人になるのなら，これは胸にきざんで覚えておいで，

誰かがお前をあてにして，忠告をせねばならぬなら　136
法律に従い相談にのり，まこと誠実に言いなさい．
金貨や銀貨のためだといえど，追従おべっかは許さぬぞ．
まことの真実を言うのだよ，いずれ感謝されるように．
お前が骨折った財産は，良識をもって使うのだ　144
馬鹿げた友達からは離れてな，美しい息子よ，是非そうしておくれ．
狂った多くの連中を，見かけることは屢だ．
土地や家屋を売り払い，それにかかわるものなども，
相続財産売りとばし，全てを金に代えている．　152
素敵で綺麗な娘さん，別嬪さんをかっぱらい，
言うが儘にと大散財，まず食物を買い与え，
良い酒，去勢鶏，鵞鳥とくるが，すぐさま娘さん等は苦い顔，
ちやほや大事の　お大盡様をば，ばかにする．　160
財布の金の続く限り，女の愛情はもつけれど，
空っぽになって閉じるとき，女の不平しか残らない．
このことに充分心せよ，美しい優しい息子，是非そう願いたいものだ．
さて神がこのように我等を善く導き，慈悲深き御心もて嘉し賜わんことを．　168

アーメン．

III．品詞別語彙

1. Article

le	25　27　30（3）：la　28　31　51　96　100　113　137　138　141　161　163 (11)：les　24　143　（2）：li　98（1）：ly　3　14（2）
un	164（1）：une　5　148（2）
del	56（1）

2. Substantive

age	12（1）
amendement	112　116（2）
amour	162（1）：amours　130（1）
amy	103　107（2）
argent	140（1）
baroun	57（1）
bienfesours	73（1）
biens	24　143（2）
bouche	79（1）
bourse	161　163（2）
chapouns	157（1）
chare	42（1）
chevaler	59（1）：chivalere　57（1）
chose	96　150（2）
comaunde	28（1）
compaignie	145（1）
cotel	114（1）
curteisie	2（1）

dame 47 (1)
damoyseles 153 (1)
defaute 163 (1)
delite 105 (1)
demaundes 156 (1)
deners 102 (1) : diners 152 (1)
deshonour 93 (1) : deshonours 68 (1)
despendour 159 (1)
despite 106 (1)
dite 110 (1)
douçours 18 (1)
eawe 56 (1)
enfaunt 7 26 70 88 (4)
eritage 151 (1)
espey 114 (1)
femme 88 162 164 (3)
fete 110 (1)
fey 138 (1)
fiz 15 36 37 118 130 146 166 (7) : fitz 3 9 (2)
fraunceys 20 (1)
gent 51 111 148 (3)
glose 164 (1)
grace 32 (1)
grē 142 (1)
hasardrie 99 (1)
hastivesce 119 (1)
holers 101 (1)
home 5 14 22 88 109 120 133 (7)
honour 6 160 (2) : honours 74 (1)
hount 132 (1)
labour 54 (1)
langage 21 65 (2) : language 61 (1)
launce 114 (1)
lay 116 (1) : ley 28 137 (2)
male 32 68 (2)
manace 110 (1)
manger 55 (1)
menes 123 (1)
mentour 94 (1)
mere 33 (1)
mester 30 136 (2)
mesure 2 128 (2)
mouster 29 (1)
mowes 158 (1)
noreture 1 11 (2) : nuture 48 48 60 64 (3)

noveles 91 (1)
or 140 (1)
orgule 131 (1)
owes 157 (1)
partie 148 (1)
persone 59 (1)
piere 33 (1)
pilere 41 (1)
pleyser 122 168 (2)
poer 75 (1)
promesse 97 (1)
puteynes 99 (1)
rebours 90 (1)
recounforter 98 (1)
riches 123 (1)
sages 3 (1)
saunte 35 (1)
seignor 38 45 (2)
sen 8 (1)
servise 31 49 (2)
taverne 100 (1)
taverners 101 (1)
tenement 149 (1)
tens 6 (1)
tere 149 (1) : tere 116 (1)
valour 5 (1)
venjaunce 113 (1)
verité 13 141 (2)
viaundes 155 (1)
vie 35 (1)
volunté 39 (1)
vyn 157 (1)
vynetrie 100 (1)
Dieu 27 30 31 (3) : Dieux 167 (1)

4. Adjective

avenauns 154 (1)
baud 125 (1)
beau 9 15 37 97 146 153 166 (7) : beals 154 (1) : bele 34 (1)
bone 8 35 39 111 157 (5)
chere 36 118 130 (3)
coy 81 (1)
curteise 19 (1)
deboneir 19 (1)
deynous 84 (1)
douce 15 26 166 168 (4)

droit 138 141 (2)
enters 151 (1)
fou 105 (1) : fole 98 119 145 148 (4)
fort 94 (1)
gentil 22 (1)
grant 2 5 68 69 78 132 136 148 160 (9)
hastifs 117 (1)
haut 120 126 (2)
longe 6 35 (2)
medisaunt 87 (1)
neu 42 (1)
orgelous 129 (1)
petit 69 78 (2)
pleyn 18 (1)
pussaunt 27 (1)
sachaunt 25 (1)
sage 5 133 (2) : sages 18 (1)
simple 120 126 (2)
tendre 12 (1)

6. Pronoun

acun 135 (1) : acune 103 (1)
altre 150 (1)
cele 159 (1) : cely 121 (1)
ceo 36 48 60 86 104 118 134 146 150 153 165 (11)
cest 23 (1)
eles 158 (1)
en 25 34 53 74 81 103 (6)
i 55 (1)
il 112 (1)
jeo 10 16 17 24 86 139 166 (7)
ke 14 149 160(3) : ki 101(1) : qe 96 143 150(3) : qi 6 136(2) : que 24 121 154 (3)
l'em 67 69 83 93 (4)
le 10 62 71 111 144 (5) : les 74 92 (2) : li 76 80 106 137 139 (5) : ly 8 72 138 141 (4) : lour 151 155 156 158 160 (5)
moun 15 26 118 (3)
moy 23 (1)
nous 147 167 (2)
nule 32 106 109 (3) : nuly 44 95 (2)
rien 97 (1)
se 7 98 163 (3)
son 3 7 8 122 (4) : soun 28 168 (2) : ses 102 (1)
toun 38 54 107 (3) : ta 3 9 42 47 79 (4)
tot 152 (1)
toy 50 (1)

tu 18 20 50 (3)

vous 11 13 27 40 58 67 69 70 73 75 76 77 78 81 83 84 85 86 90 93 94 96 104 109 112 113 124 127 136 139 142 143(32) : vos 37 53 73 113 125 130 134 166 (8) : vou 146 (1)

vostre 45 105 (2)

6. Verb

(acater)

achatant 155 (1)

aver 162 (1)

ad 136 (1)

avez 96 103 (2)

avera 102 122 (2)

averes 34 (1)

averez 164 (1)

(aler)

alez 29 77 81 (3)

irrez 53 (1)

(aloser)

alosé 21 (1)

amer 27 107 (2)

amé 22 (1)

(apendre)

apent 3 48 54 64 (4)

appent 128 (1)

aprendre 11 49 66 (3)

apernez 61 (1)

apoer 41 (1)

avenir 32 (1)

(aviser)

avisez 104 134 (2)

avower 92 (1)

(beivre)

beit 45 (1)

(blandir)

blaundez 139 (1)

(clore)

close 163 (1)

(comencer)

comence 1 (1)

(condonner)

condoune 60 (1)

conquere 115 (1)

conseiller 135 (1)

conselez 137 (1)

defendre 50 (1)

defent 139 (1)
(deschaperoner)
deschaproné 40 (1)
(despendre)
despendez 144 (1)
(devenir)
devenez 133 (1)
(deveir)
deves 49 (1)
devez 27 37 41 46 56 58 76 107 115 135 (10)
(dire)
die 10 13 (2)
dist 9 (1)
dirra 93 (1)
diez 138 141 (2)
doner 56 97 (2)
doin 69 (1)
doint 167 (1)
(durer)
dorer 161 (1)
(enchiminer)
enchiminaunt 77 (1)
(encuntrer)
encountrez 78 (1)
(engenuler)
engenulere 58 (1)
entendre 62 (1)
entendez 10 (1)
(escuter)
escotés 30 (1)
escotéz 9 15 26 (3)
(estre)
est 14 14 21 101 (4)
estes 84 94 (2)
estez 12 70 85 (3)
sount 154 (1)
serrez 25 40 (2)
seez 16 18 19 87 117 129 165 (7)
seit 55 (1)
soiez 75 (1)
(ester)
esteer 37 (1)
(faire)
fere 168 (1)
fest 98 (1)

fount	158 (1)
fist	160 (1)
facez	106 (1)
face	112 (1)
(faloir)	
faudrez	36 (1)
(fuir)	
fues	99 (1)
(garder)	
gardez	89 (1)
(garnir)	
garny	165 (1)
(gaster)	
gasté	102 (1)
genuler	46 (1)
genulaunt	71 (1)
grater	42 (1)
(honir)	
honir	14 (1)
honurer	108 (1)
honurés	33 (1)
manger	38 (1)
mangere	51 (1)
(mander)	
maundez	111 (1)
(malnurir)	
maunori	85 (1)
mercier	76 (1)
merciez	72 (1)
(mettre)	
mettent	152 (1)
mettrai	24 (1)
moker	44 (1)
mokent	159 (1)
(mostrer)	
mostra	8 (1)
(norir)	
norie	14 (1)
noriz	16 (1)
oyr	31 (1)
oer	4 (1)
overir	167 (1)
overez	79 (1)
parler	20 63 67 83 (4)
(pendre)	

pent 150 (1)
(penser)
pensez 73 86 (2)
(poeir)
poet 32 121 161 (3)
poez 4 92 162 (3)
porra 67 83 (2)
pussom 168 (1)
(porchacier)
porchacez 143 (1)
(porter)
portẽs 124 (1)
portez 91 125 127 (3)
(prendre)
pernez 71 (1)
prendrez 113 (1)
(prier)
pri 86 (1)
prie 118 130 146 166 (4)
(promettre)
promettez 95 (1)
(purpenser)
purpensa 7 (1)
(regnier)
regne 131 (1)
(rendre)
rendez 74 (1)
reschiner 43 (1)
(respondre)
responez 82 90 (2)
(retenir)
retenez 23 (1)
rier 43 (1)
(rober)
robent 153 (1)
(saveir)
savez 62 65 (2)
saches 20 (1)
sachez 50 (1)
sache 142 (1)
(saluer)
saluez 80 (1)
soeffrir 121 (1)
(tenir)
tenez 28 (1)

(trespacer)
trespace 109 (1)
(valoir)
vaut 119 (1)
(vendre)
vendent 149 (1)
(voir)
veoms 147 (1)
(vivre)
vesqui 6 (1)
(venir)
vient 132 (1)
(voloir)
voile 11 16 17 (3)
volez 66 (1)

7. Adverb

a de primoure 17 (1)
adés 131 (1)
apertement 4 63 (2)
aprés 132 142 158 (3)
avaunt 81 91 (2)
belement 72 80 124 (3)
ben 13 (1) : bien 10 20 52 89 104 121 134 137 165 (9)
ci 1 (1)
coment 3 16 (2)
curtoysement 52 (1)
de droit 46 (1)
ensement 47 (1)
entour 53 (1)
hastivement 115 (1)
issi 167 (1)
ja 105 125 (2)
menement 127 (1)
meyntenaunt 82 (1)
molt 21 (1) : mout 22 84 119 (3) : mult 147 (1)
mye 36 (1)
ne 32 36 41 42 43 43 44 65 66 66 82 87 88 90 91 92 95 96 106 113 114 117 125 126 126 129 139 140 164 (29) : n 14 (1)
pas 87 117 129 (3)
plus 25 (1)
poy 119 131 (2)
puys 142 158 (2)
sagement 144 (1)
si 25 30 154 160 (4)
sovent 122 147 (2)

tot	17 53 151 156 (4) : toste 79 (1) : toust 83 102 111 (3)
totdys	108 (1)
touzjours	89 107 (2)
trop	125 126 (2) : trope 117 126 129 (3)
un	131 (1)
voluntiers	29 (1)
8. Preposition	
a	29 38 41 44 47 48 51 54 57 59 59 60 64 88 88 88 90 95 106 109 128 136 150 (23)
aprés	55 156 (2)
de	5 7 8 18 22 23 31 36 49 61 67 73 75 83 86 100 104 110 110 114 114 114 116 120 120 134 148 162 164 165 (30) : d 12 (1)
devaunt	38 51 (2)
en	71 152 (2)
entre	123 (1)
fors	164 (1)
hors de	145 (1)
od	6 (1) : o 24 (1)
par	39 111 116 163 (4) : per 130 (1)
por	105 (1) : pur 13 140 140 (3)
solom	137 (1)
9. Conjunction	
car	13 21 31 48 60 93 97 101 121 147 161 (11)
come	54 64 (2) : cum 128 (1)
et	2 8 9 13 18 19 20 22 28 33 34 35 39 52 63 68 72 78 80 85 89 99 100 108 123 138 146 149 150 153 154 155 157 159 163 (35) : e 47 82 97 101 132 (5)
ke	20 84 85 112 135 (5) : qe 16 94 (2) : que 18 50 62 90 142 168 (6)
mes	127 141 (2)
ore	9 15 23 26 167 (5)
ou	57 59 69 78 110 120 (6)
quanqe	75 (1)
quant	163 (1)
si	10 55 65 69 74 77 81 92 103 109 133 (11)
taunt come	12 45 70 161 (4)
10. Interjection	
amen	169 (1)

Ⅳ. Noretureに就いて

Oxford Bodleian Library蔵のMS Douce 210に収められている*Noreture* ff. 45^{r}—45^{v}は子供の教育のための教訓書であって，このような教訓詩は中世イングランドにおいて多く書かれたと見做されている．教訓詩の中で，アングロノルマンの「礼節」論Anglo-Norman Treatises on Courtesyと呼ばれるものが8写本に現存し[1]，Oxford Bodley図書館，Cambridge Trinity College図書館，Cambridge

Univ. 図書館に所蔵されている.

それらは *Edward* (Bodley MS 425 ff. 107^{r}—112^{r}), *Bon Enfant* (Bodley MS 425 ff. 112^{r}—113^{r}), *L'Apprise de Nurture* (Bodley MS 9 ff. 61^{v}—67^{r}), *Un Petit Traitise de Nurture* (Bodley MS 9 ff. 81^{v}—86^{r}) の4篇と, 中世では *Urbain le Courtois* と言われてきた作品である. 上記の4篇は単独写本に残っているのみであるが, 特に *Urbain*「礼節」論と言われる1篇は8つの写本の中に残されてある. それらは即ち: Bodley MS Selden Supra 74 (S); Bodley MS 39 (fly-leaves) (F); Bodley MS Douce 210 (D); Cam. Univ. MS Gg. 1. 1 (G); Cam. Trin. Coll. MS O. 1. 17 (O); Bodley MS 425 (U); Cam. Trin. Coll. MS B. 14. 40 (B); Bodley MS 9 (C) であって, 13世紀後半より15世紀初頭にかけて作られた写本である.

初期の写本と後期のものの間には百年余の隔たりがあり,「礼節」論の内容もまた初期のものと後期のものに凡そ二分される。The Earlier Version は D, G, O, C と F の一部分と考えられており, The Later Version は F の一部分と, S, U, T. である[2]. S は1892年に E. Stengel によって 'De courtoisie' として, 紹介され, 翻字された. (*cf. Zsft. für französ. Spr. und Lit.* XIV, pp. 151—153.) そして, The Earlier Version と The Later Version は H. Rosamond Parsons によって1929年に刊行された. 然し乍ら Parsons は *Urbain* の原本に最も近い形を再現しようとの試みからか, この教訓詩の構文の, 緻密に構成されていない特徴を生かして, 初期の作品も後期の作品も現存の各写本からある部分を抽出し, 底本となるものに加え, 所謂混淆本文 amalgamation を作り上げたのであった. 写本校定は写本に書かれてある, ありのままの姿を可能な限り示すことも肝要である. よって, 本論では Parsons 氏が Earlier Version の底本となした Oxford MS Douce 210の *Urbain* (筆者はこれを *Noreture* と題する) ff. 45^{r}—45^{v} を茲にあらためて刊行することとし, 転写と共に翻訳, 品詞別語彙とその頻度, さらに, 言語の特徴についての記述を附加した.

さて, アングロノルマン「礼節」論のうちの *Urbain le Courtois* と言われてきたものであるが, この呼び名はラテン語で書かれてあった礼節についての書物の表題の *Urbanus* から借用したらしい. しかし内容は特にラテン語の *Urbanus* の翻訳ではない[3]. *Noreture* は子供の頃の礼儀作法と節度の心得などを成長過程の実際に即して教えている. Ly home est honiz ke n'est norie (14) 教育のない者は恥をかくのであって, その教育は食事中の作法, 目上の人達への礼儀であり, そして誠心誠意誠実であれということだ. 何事も熟考して中庸を重んじ, 愚かな快楽で身を滅ぼすことのないようにと教えるのである. 立派な人は賢明で, 雅びでなければならないし, Que tu seez sages et pleyn de douçoure / Seez deboneir et corteisie (18—19) 優しい人柄であることが大切だ. また, フランス語を上手に話せるように心得ておくことは, プランタジネット王朝の英国においては上流社会, 良家の子弟の教育には先ず必要な条件であった. 何故ならフランス語は宮廷の言葉であり, 身分の高い人々が推賞し, 好んで使う言葉だったから. しかし乍ら, Et ke tu saches bien parler fraunceys (20) フランス語を巧みに話すようにと教えているところで, アングロノルマン独特の鼻母音に u を入れる fraunceys という綴りや, 大陸フランス語とは異なる発音綴りが現れているのも興味深い現象である. (上掲は18—19行引用例も参照)

近代イギリス文字の源流となる作品を世に出した Geoffey Chaucer も少年の頃は礼儀作法を子供の教育のために書かれたこの種の教訓詩から学んだのであったろう. 英語の優れた作品といわれる *The Babees Book*「幼児の書[4]」はラテン語からの翻訳とされているが, その一節が *MS Douce* 210 *Noreture* の一節を siしているのも興味深い発見であった.

「わが子よ, 食事の時は御主人の前に立ち, 行儀よく帽子をぬいで, 柱にもたれかかったり, 肌をひっかいてはならないよ.」(*ll.* 37—42) という教えは英語で youre heede, youre hand, your feet, holde ye

in reste ; / Nor thurhe clowying your flesshe loke yee nat Rent ; / Lene to no poste whils that ye stand present / Byfore your lorde,… (*ll.* 80—83)「手，足，頭を動かさぬよう，肌をがりがりひっかいて傷を作っちゃいけないよ．御主人の前に立つときは柱にもたれたりしないこと．」となっている．この「幼児の書」も官廷での行儀見習いの小姓や良家の子弟のために書かれたもの，如何に振舞うべきかということに関して厳格な教訓を授けているのである．Chaucer の傑作「カンタベリー物語」に登場する騎士見習いの従者 squire は父親につき従って旅をしていた．彼の礼節を心得た好もしい青年であったのだ．Curteis he was, lowely, and servysable[5] (General Prologue *l.* 99)

子供たちの教育について，僧院や大寺院附置の塾の如き教育機関は既に 7 世紀に存在していたのであるが，中世イングランドで，殊にプランタジネット王朝時代には子供たちが，6，7 才になると彼等を他人の家に預けて教育，躾をして貰うことも広く行われていたようである．そのような場合「礼節の書」が諳じられて，教本となった可能性は多い．Curteisie「礼節」と Noreture「教養」を身につけることは，子供たちにとってまず第一の課題であった．礼節正しき姿は，その時代の大いなる理想の姿でもあったのだ．

V．言語の特徴

Chaucer の「カンタベリー物語」に登場する美しい華やかな騎士見習いの若者 squire は，フランス語を主として話していたらしい．彼のフランス語習得がどの程度であったかは知る由もないが母国語の英語も不十分だと謙遜する程，日常はフランス語を使っていたのであろう[6]．Chaucer に言われるまでもなく，その当時良家の子弟，子女にとってフランス語を学ぶことは肝要であった．そしてそれはイングランドのフランス語であった．MS Douce 210の *Noreture* にもそのアングロノルマン語の特徴が見られるので，その特徴を以下に記しておく．

I．母音

①鼻母音の表記：

(1) a＋鼻子音

母音 a のあとに鼻子音が続くと，綴り aun が用いられた．*Femina*（後述）には locution として aun の u を軽く発音するようにとの指示がある．

a) avaunt 81, 91 avenauns 154 comaunde 28 enfaunt 7, 26, 70, 88 demaundes 156 devaunt 38, 51 medisaunt 87 pussaunt 27 sachaunt 25 viaundes 155 venjaunce 113
[verb] enchiminaunt 77 genulaunt 71

b) fraunceys 20 launce 114 saunte 35 taunt 12, 45, 161
[verb] blaundez 139 maundez 111

(2) o＋鼻子音は oun, oum 又は un, um と表記された（アングロノルマン1250年以降の特徴とされる）綴り aun は cf. Pope：[34. 1] oun は [45.1,49.1]

a) baroun 57 chapouns 157 hount 132 moun 15, 26, 118 recounforter 98 soun 28, 168 toun 38, 54, 107
[verb] condoune 60 encountrez 78 fount 158 sount 154

b) cum 128 volunté 39 voluntiers 29

② 自由母音 o の表記：

a) ou : cf. Pope : [16.3.1]
bienfesours 73 deshonour 93 deshonours 68 douçoure 18 honour 6, 160 honours 74 mentour 94 primoure 17 valour 5

b) u:

honurés 33 [verb] honurer 108

c) o:

seignor 38, 45

③ アクセントの前の音節の拘束母音 o は u と書かれた:

corteise 19 curteisie 2 curtoysement 52

④ 13世紀にかけて二重母音 ei は水平化して e になるか, もしくは ei のまま残った: cf. Pope: [16.3.1]

a) ei の保存: (*Femina* にも ei を保存する発音が記されている: 例 boseign, locution boseyne)

corteise 19 curteisie 2 fey 138 ley 28, 137

[verb] beit 45 seit 55

b) e と表記:

[verb] aver 162 seez 16, 18, 19, 87, 129, 165

⑤ 二重母音 ie が e となる: cf. Pope: [35.1.0.0]

a) (—ariu>)

chevaler 59 chivalere 57 deners 102

b) (—en>)

ben 13

c) (—eriu>)

mester 30, 136 mouster 29

d) (sapiatis)

sachez 50

⑥ e の代りの i: cf. Pope: [39.3.2]

chivalere 57

[verb] enchiminaunt 77

⑦ 渡り音の e が表われる:

averés 34 が averez 164 avera 102, 122 overez 79 overir 167

⑧ ei, ey が ai の代りに用いられる:

a) deboneir 19

b) pleyser 122, 168

⑨ 不定法語尾—er と—ir の混同:

pleyser122, 168

⑩ ui が y と交替する:

cely 121

⑪ 語頭音 a の消失:

(apendre) pent 150

II. 子音

① 語末歯音 d の保存: cf. Peope: [38.1.1.3,42,3]

ad 136

② k の使用:

[pronom] ke 14, 149, 160, ki 101

[conjonction] ke 20, 84, 85, 112, 135

[verb] mokent 159

③ 口蓋音 [l] を l が表わす：

orgelous 129

[verb] consellz 137

④ Metathesis：

[verb] apernez 61 pernez 71

⑤ rr の使用：

[verb] serrez 25, 40

⑥ w の使用：

eawe 56 mowes 158 owes 157

[verb] avower 92

III. AN の特徴を示す綴り

① 綴り y が多く見られる：

amy 103, 107 coy 81 curtoysement 52 damoyseles 153 deynous 84 espey 114 fey 138 fraunceye 20 ley 28, 137 meyntenaunt 82 moy 23 mye 36 pleyn 18 pleyser 122, 168 poy 119, 131 puteynes 99 puys 142, 158 totdys 108 toy 50 vyn 157 vynetrie 100

[verb] garny 165 oyr 31

② 1 人称現在単数形：

voile 11, 16, 17

③ 男性単数過去分詞の語尾：

norie 14

④ jeo 10, 16, 17, 24, 86, 139, 166 ceo 36, 48, 60, 86, 104, 118, 134, 146, 150, 153, beals 154；dorer 161；

chivalere 57 engenulere 58 toste 79；piere 33；solom 137；fitz 3, 9

IV. 活用語尾の混用

① 2 人称現在複数動詞語尾—ez と—és の混同がある：

devés 49 escotés 30 portés 124

② 1 人称複数の動詞語尾 on, ons にかわる om, oms：

pussom 168 veoms 147

V. Assonance については不規則を示す例がある

① beit：droit (ei：oi)

45 46

② moy：mettrai (oy：ai)

23 24

③ pernez：merciez (ez：iez)

71 72

poer：merciez (er：iez)

75 76

④ overir：pleyser (ir：er)

167 168
soeffrir : pleyser (ir : er)
121 122

⑤ menes : portés (es : és)
123 124
(moienes)

Ⅵ. Morphology

① 指示形容詞と形容詞女性複教形 celles と belles に対して男性形単数の ceo と beau が用いられる：

Et robent ceo beau damoyseles 153

② 指示形容詞男性単数に対して女性形 cele が用いられる：

Et mokent cele despendour 159

③ 関係代名詞男性主格に対して ke, que が用いられる：

ke n'est norie 14, Ke vendent tere et tenement 149

Ke lour fist si grant honour 160

Car cely que poet bien soeffrir 121

Ⅷ. Syntax

vous と tu の場合の動詞語尾の混同：

[2人称において単数主語に対して複数動詞形が用いられる]

Que tu seez sages et pleyn de douçoure / Seez deboneir et corteise 18—19

Que tu sachez toy defendre 50

注

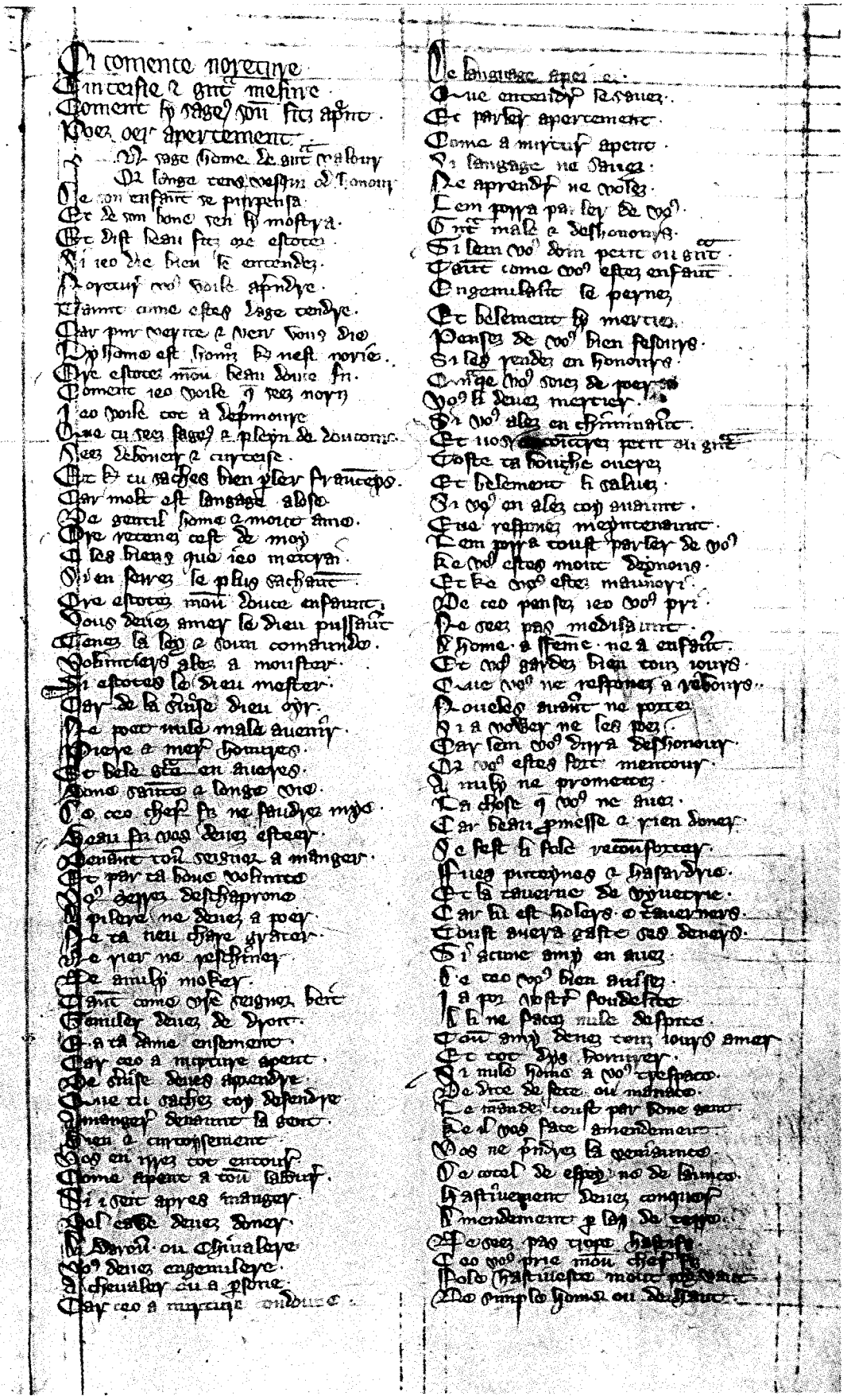
1. H. Rosamond Parsons, *Anglo-Norman Books of Courtesy and Nurture*, Oxford, 1929, p. 1.
2. *Ibid*. p. 4. p. 6.
3. P. Meyer, "Les Maunscrits Français de Cambridge" *Romania* XXXII, 1903, pp. 68—71.
4. F. J. Furnivall ed., *The Babees Book*, EETS Os. 32, London 1868 : New York, Greenwood Reprinting 1969, p. 4 (MS Harley 5086 ff. 86^{r}—90^{r} ca. 1475 A. D.)
5. Geoffrey Chaucer, 'General Prologue' *The Canterbury Tales,* ed. F. N. Robinson, The Riverside Press, Cambridge, 1957.
6. 'The Squire's Tale' in *The Canterbury Tales* op. cit. p. 128. *l*. 37.

Noreture

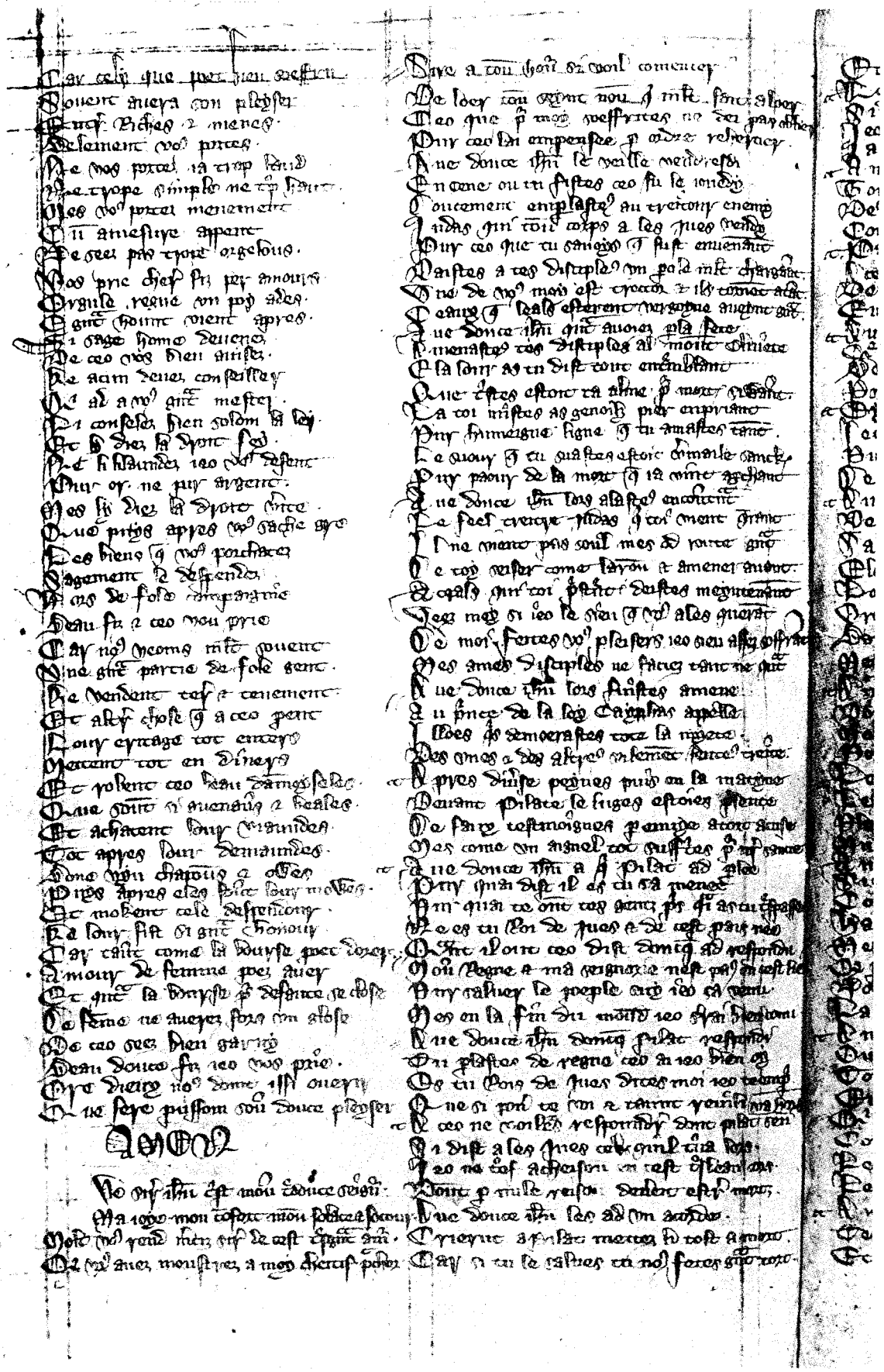
Oxford Bodleian Library

MS Douce 210

ff. 45^{r}-45^{v}



45v



Les Curtesyes

I. Text

Oxford, Bodleian Libary, MS Bodley 425
ff. 113^{r}—113^{v}

0 Ces sount les curtesyes qeux le sage hom*m*e aprent son fitz [113^{r}]
1 Un sage hom*m*e et de graunt valour
Q*e* long temps vesquit od g*r*aunt honou*r*,
De son enfant se purpensa
4 Et de son bien li demonstra.
Et dit : Beau fitz, ore escutez
Si jeo dye, bien l'entendez,
Nurtur vo*us* voil aprendre
8 Taunt come vo*us* estez de age tendre.
Ore escutez, mon ch*er* fitz
Coment voil q*e* vous seez nurrys :
Seez franke et deboner,
12 Saunz mesdit et saunz mesfere.
Jeo voil tut a p*ri*mur
Qe vo*us* seez humble et plein de douzour,
De beale portour entour la gent
16 Nent trop haut, mes menement.
P*ar* taunt serrez le meuth praisé
Et de sage gent appellé.
Veez touz jours q*e* seez sage
20 Et q*e* vo*us* ne facez houterage
Vers veil hom*m*e ne enfaunt.
Et q*ua*nt tu s*e*ras entre la gent
Gardez ta lange sagement.
24 Si vo*us* avez acheson [113^{v}]
De moustrer avaunt v*ost*re reson,
Curteys et brief soit tun langage
Le meuth serrez oy de le sage.
28 Et q*ua*nt vo*us* voillez p*ar*lere
Et v*ost*re resoun demoustrere,
Ou si vo*us* soiez aresonee
De june hom*m*e ou de eyné,

L'entendez bien, ne soiez hastifs.
Et q*u*ant sont passez touz lour disse
Enmy le frount les regardez.
Vo*s* peez ne voz meynes ne crouellez,
Mes sagement et sanz mesdist
Respounez a touz lour dist.
Et fauseté et fause gent
Sur tout rien vous defent
Ne vo*us* lessez venter orgoil,
Jamés a vostre voil,
Kar ceo est la surtz de touz maus
Et chef de pecché c*ri*minaus.
Et ceo est le peché q*e* fet la gent
Purrir et finer malement.
Et totes choses q*e* fere devez
P*re*merment vous purpensez,
A quel chef vo*us* puissez trere.
S'il est bone, bien est a fere
S'il est mauveys, si lassez.
Et p*our* meutz fere vo*us* purpensez,
Seez touzdis bone c*ristien.*
Amez Dieu sur tote rien,
Le meuz vo*us* avendra a touz jours.
A tote gent fetes honours
Et a femmes nomement,
Kar ceo est del mound afaitement
K*e* l'em prent plus a gree.
Et plus i est alosé,
Car d'eles venent les prués,
Les g*r*ans hono*r*s et les hautesces,
Les biens, les joyes, tout a une mot.
Dount me est a vise q'il est sote
K*i* d'eles se fet hayr
Ja ne verrez bien finer,
Que ceo est foli ou g*r*ant peché.
Amez la bien saunz fauseté
Et pus amerez les nettetez.
Et les ordurs eschverez,
Et pus amerez les curteysies.
Mes de une rien vo*us* gardez
K*e* ja en femme ne affiez

Pur sa valour ne pur son pris,
Saunz counsail de voz amys.
Veez q*e* en v*ost*re vie
Ne vo*us* avauntez de vo*st*re amye.
Et q*ua*nt vous voillez p*ar*lere
Et v*ost*re resoun demonstrere,
Sascez q'il est resoun
Saunz mesdit et saunz tensoun,
Si serrez le meuth amé
Et pur sage alosee.
Alez p*ar*tout entour la gent
Si orrez de plusours afaitment,
Kar jammés jeo vous affye
Ne serrez altrement nurrie.
Seez de bele conteinment
Ou q*e* tu vas entour la gent,
Nent trop haut ne trop bass
Q*e* nul se puisse fere de vo*us* gas.
Amez les armes et les chivaus,
Si les avrés bones et beaus
Si les donez autresi vilement,
Come ils vausissent nient.
Ore, escutez q*e* jeo vous die:
Vo*us* gardez bien de tote folie,
Dez maus q*e* vennent de orgoil,
Chastier mon enfaunt voil.
Sur tote rien vo*us* requer
Qe orgoil ne proche v*ost*re cuer.
Veez q*e* ne seez lousengour
Vers amy ne vers seygn*our*.
Et s'il desirent q*e* vo*us* diez
Tote le male q*e* vous savez,
Ne pensez my pur eus paiere
Mes pur bien dire sanz cuer grevere
Et a la meuz q*e* vous poez,
Plus beal counsail lour donez.
Et s'il crusent a cele foez,
Pus aprés vous savrount grez,
Et p*our* Dieu ne vous acustumez
D'escharner hom*m*e q*e* vo*us* veez,
Tout seyt il povr et bosoygn*u*s,

Que il ne seyt si beal come vo*u*s
Ne si p*ro*dome, ne si sachaunt
Ne si curteys, ne si vaillaunt
Ja pur ceo n'echarniez,
Kar pur escharner bien sachez
Ne s*e*rez jam*é*z alosez
Mes haie et rebutez.
Et moult soleit Dieu haier
Ceux q*e* ament l'escharnir.
Et serra li escharnisour
Escharny de chef de tour.
Ne seez pas envyous
Ne plein de ire, ne covetous.
Et si hom*m*e te voet mesdire,
Ne saillez pas pur ceo en ire.
Lessez les dire tout lour voler,
Kar meuz ne lour p*ur*rez venger.
Et q*ua*nt il av*ra* tout counté
Si s*e*ra il pur fole clamé,
Et tu a sage tout tenuz
Le meuz amé et cremuz.
Si vous avez rien bien fet,
Ja p*ar* vous ne soit retret.

II. 賢者が子息に教える礼儀正しき振舞　訳

1 世の尊敬を受けて年を重ねた賢明なる御仁が
息子のゆくすえを思い，良識を我が子に伝えんものと
こう言った「さて良き息子よ，聞きなさい
8 年端のゆかぬお前に教養の糧を教えておきたい
さあ，お聴き，いとしい子，どのように育って欲しいと
願っているかを。
立派な人格の穏やかな人になるのだ
悪口も言わず，わるさもせずに。
まずもって望むのはお前が慎み深く優しいこと
16 皆の前で良い振舞をするよう，尊大な風をせず，中庸であれ，
すれば大いに誉められ，賢い人と言われるのだ。
常に思慮深く気をつけて，年寄り共や子供など
侮辱をしてはいけないよ。人と一緒にいる時は
お前の言葉に注意せよ
24 言いたいことを言う機会あれば
短く礼儀正しく言いなさい，見識ある者は聞いてくれよう。

自分の主張を述べるとき，話しかけられたりするときは
目上目下の区別なく，まず聴くことだ，急がずに。
話が済んでしまったらまっすぐに顔をみるのだよ
両手両足をくんだりせずに，慎重にして悪口叩かず
みんなの話に答えなさい。嘘いつわりや嘘つきは
断じていけないことなのだ。勝手気儘の我侭で
高慢ちきにならぬよう，それは諸悪の根源で
一番重い罪だから。傲慢は人をくさらせて
終りはろくなことがない。お前の成すべき全てのことを
まず第一に考えよ，どんな結果になるのかと。
良いことならばしっかりとやり，悪いのならば止すがよい，
良くなるように頭をお使い。善きキリスト教徒であるように，
何にもまして神を愛せよ。全ての人を敬えば
いつも良いことが訪れる。特に女性を敬うべし。
それは世の中の礼儀だから，さすれば世間の気に入られ
世の人々に褒められる。女性を敬うことにより
勇気と名誉と高遇な心，幸せと喜びそれら全てが訪れる。
だから愚かな話しだよ，彼女たちから憎まれるのは
悪い始末になるだけだ。馬鹿なことだし罪だしね。
嘘いつわりなく善きことをすべし。清潔を愛し
不潔は避けよ。そして礼儀を大切に。
だが一つ注意しなさい，友達に相談もなく
女の価値や大切さなど，信用してはいけないよ。
お前が若い間には，恋人の自慢をしないこと。
意見を述べたいと思うとき，言い分のある時は
悪い言葉や口論はなしに，理路整然と言いない。
すれば人から好かれるし，利口であると誉められる。
あちらこちらの人々に対し，鄭重に耳を傾けること。
はっきり言うが，それより他に教養はつかぬ。
人々の間に立ち交り，どこへ行こうと立派な態度を持つのだよ。
誰にも馬鹿にされぬよう，えらそうにもせず卑下もせず。
武具や馬は大切にして，立派な良いものを持ったなら
まるでねうちがないような，手ひどい扱いはせぬように。
さてもう一言聞いておくれ，あらゆる狂気に気をつけよ。
私は子供をいさめたい。傲慢の悪から身をお守り，
傲慢の心が起こらぬように，何をおいても頼んだぞ。
友人や御領主に対しての，おべっか使いは困るのだ。
知った限りの悪口雑言，たとえ言えとて求められても
それを言うのは慮外千万，心を傷めず良いことを言え。
出来る限りの良き助言，彼等に与えてしかるべきだ。
その時気まづくなったとて，後には感謝されるから。

112 人を侮辱する習慣などはゆめゆめつけるものではない。
如何に貧しく，金がなくとも，お前ほどに見映えせずとも
立派でもなく，物知りでもなく，雅びでもなく，勇敢でなくとも
120 決してそれ故に侮辱をするな。人を侮辱するならば
人は決してお前を褒めず，お前は憎まれ，よそよそしくされる。
神をないがしろにする者を，神は殊更憎み給う。
人を小馬鹿にする者は，最後に馬鹿にされるだろう。
ねたみ心はいけないよ，おこりんぼうも，欲張りも。
128 人から悪口言われても，それで怒ってはならぬのだ。
存分言わせておけばよい。これ以上の仕返しはない。
何だかんだと言いまくる奴は，狂っていると見做される。
お前はたしなみ良き者とされ，皆から好かれ一目置かれる。
136 何か善いことをしたならば，しりごみしてはならないよ。

III.『礼節』論に就いて

中世イングランドの社会において所謂 social etiquette の規範を示す書きもの，Courtesy Books が多く現れるようになったのは12世紀も半ばの頃であったろう。[1] ラテン語で書かれた *Facetus*[2]『優雅な人』が数多くの写本に写され，*Liber Urbani* あるいは *Urbanus*[3]『礼節の書』とも呼ばれて，やがてはこの種の作品を代表する呼び名となった。ヘンリー２世に仕えていた Daniel Church が書いた *Liber Urbani* の断片も現存しているし（Bibli. Nat. MS Lat. 3718），Oxford で講座を開いた Robert Grossteste の名も *Liber Curialis*『宮廷の書』の作者として写本に残っている（Oxford, Trinity College MS 18)[4] ということだ。これらは比較的早い時期に書かれた礼節論と言える。

イングランドおよびフランスにおけるヘンリー２世の強大な勢力はしばしの平和な社会的均衡をもたらし，貴族たちの城館があちこちで賑わいを見せた。封建時代の領主たちにとっては上層階級の子弟の教育が必要であった。殊に城館の内外で，地域社会の中での交流を円滑に行うために礼儀作法や道徳の指針が不可欠であった。そこで，社会の一員としての礼節，教養とは如何なるもので，いかに身を処すべきかを教える教訓の書，礼節を教える教本が現れたのである。このような教訓自体は目新しいものではない。King Alfred 以前の Anglo-Saxon の詩にも，年老いた心賢い父親が息子の立派な成長を願って与えた処世訓 “A Father's Instruction” (Exeter Book ff. 80^{r}—81^{r}) などが残っている。女の愛を警戒せよという親切な教えも含まれていた。然し一般に *Facetus* と呼ばれている Courtesy Books には食卓での作法を重視するという特徴があった。[5] 貴族の館での祝宴の食卓は華やかな行事だったのだから。

プランタジネット王朝のイングランドにあって vernacular (AN) で書かれていた Courtesy Books も現在８写本に残されている。本論は ‘Books of Courtesy’ を刊行した H. R. Parsons が later verrion の底本となした MS Bodley 425 *Urbain*（筆者はこれを *Les Cartesyes* と題する）をあらためて転写し，翻訳，品詞別語彙とその頻度を示し，言語の特徴についての記述を加えた。

Bodley MS 425は113葉から成り，英語とフランス語で書かれている。30×20 cm，14世紀半ばにイングランドで作成されたという。まず，詩篇が英語で第１葉から書き始められており，94葉からフランス語になる。フランス語には AN の特徴が顕著である。告解を奨める詩 ff. 94^{r}—101^{r}，ソロモンの箴言 ff. 101^{r}—106^{r}（これは AN の作家 Nicole Bozon の作とされている。）この次には再び，“In beginning worde it was…” と短い時禱書の文言が英語で記され（ff. 106^{v}—107^{r})，107葉から AN の教訓詩が *Edward, Bon Enfant, Urbain* と続いて書き写されている。“Ces sount les curtesyes…” で始まる最

後の詩 *Urbain*（*les curtesyes*）は完結せぬまま113葉 *verso* で写本は終わる。

Urbain[6] には当時大いに読まれた筈の Dionysus Cato の対句集 *Disticha Catonis* からの影響も見られる。[7] *Urbain* は初期のものと後期のものと多少の差違はあるものの，少年期から青年へ，そして成人してゆく過程における礼節を教えている。少年時代はお小姓として，騎士見習いとしての宮仕えの作法，食卓に侍る折の躾，友人とのつき合い方，殊に目上の人たち，周囲の人たちに対する振舞を教え，また，青年となっては女性に対応する際の心得を説き聴かせるのである。それは且て江戸時代封建体制の社会構造の中で現世的生活倫理として広くゆき渡った実用的な道徳の書，石門心学の教訓をさえ想い起こさせる。曰く，「何にかぎらず，偽をいふたり為たりはなされぬものにて候･･･惣じて人のつつしみて申さぬ不礼なる大口をかたく申さぬものにて候」[8] という如き口調は，"Et fauseté et fause gent / Sur tout rien vous defent 38-39や，Jeo voil･･･ / Qe vous seez humble et plein de douzour, / ･･･Nent trop haut, mes menement" (13-16) と，何事にも慎み深く，中庸であれという教えや，嘘を言ったり嘘つきなどは断じていけない，と禁じているあたりを髣髴とさせる。どちらも social behaviour の教えである。

13世紀になるとイングランドにはかなり多くこの種の教育論が現れたと推測されるが，それはラテン語あるいはアングロノルマン語によるものであったろう。ラテン語からフランシアン語に翻訳されて現存する写本は *Contenance de Table*[9]『食卓の作法』と概ね呼ばれて13世紀末の成立と考えられている。英語による『礼節の書』[10] が現れるのは15世紀を待たねばならない。これらは主に *Facetus* の翻訳，翻案である。英語の Courtesy Books の関心は大部分が食卓の作法に置かれてあって，記述はまことに具体的である。例えば，食事の折にパンをポケットにしまい込んではならぬとか，耳や鼻をほじってはいけないとか，ナイフで歯をつつくなどはもってのほか，という具合だ。[11]

Chaucer の『カンタベリー物語』に登場する美しい修道院長は飲物を摂るとき綺麗に口をお拭きになるが，それもはっきりと Courtesy Books で教えている規則どうりを実行なさっているわけだった。"Wype thi mouthe when þou wyll drinke, / Lest it foule thi copys brinke,"[12] 彼女にとってはお作法 curtesyes が第一である。

ところで，MS 425 *Urbain*（*Les curtesyes*）には食卓で食事を摂る時の作法については記述がない。[13] 殊に later version では対人関係についての賢明なる身の処し方を教えている。まず，良い躾を身につけた者は高貴で率直 franke, 優しく且つ寛大 deboner であるべきだと諭される。高慢 orgoil は諸悪の根源である。orgoil についてこの書は厳しい口調をとる。"Ceo est le peché qe fet la gent / Purir et finer malement"(44-5)。傲慢は人格を台なしにする。まことにそうであろう，世の始まりにかの天使たちでさえ傲慢の罪により地獄の永却の焔へと堕ちていったのだから。そして，特に女性を敬うべしという論調には earlier version には見かけられない展開がある。凡そ amours courtois の世界においては，騎士道精神をあます所なく具現するために修業中の若者は淑徳高き高貴な女性を称え，御婦人に認められるよう精進する。婦人を崇めながら，ひたすら自身の研鑽を積むことにより名誉を与えられ，高遇な精神に到達し得るという図式である。ここにはその様な身分の高い城主夫人のおもかげが修養の対象となって登場する。"Car d'eles venent les pruês, / Les grans honores et les hautesces, / Les biens, les joyes, tout a une mot" (60-2)。つまるところ，喜びも恩恵も騎士としての美徳も全て御婦人に由来するのである。また，若者は広く世間を知って教養を深め，武器や馬を大切に扱うよう努力せねばならぬ。然しである，彼等はロマンスの中の騎士たちのように女性崇拝に浮身をやつすわけではない。冷静な判断力をもって女性を評価する。色香にのぼせてしまっては判断もあやしいものだから，友人に相談せずして女の価値など信用せぬようにと良識ある父親は息子にさとすのだ。最後に念入りに説くところは絶対に人を侮辱するなという教えである。人を侮辱すれば報いとして自分が憎まれる。神をないがしろに

する，敬神の心なき衆生を神は許し給わぬのである。"Kar pur escharner bein sachez / Ne serez jamés alosez / Mes haie et rebutez. / Et moult soleit Dieu haier / Ceux qe ament l'escharnir. / Et serra li escharnisour / Escharny de chef de tour" (118-24)。

Chaucer が描いた squire は若者としての理想の姿を具えていたのだ。彼は高ぶらず謙遜してよく長上に仕える。"･･･Vous seez humble et plein de douzour" (14)。"Et pus amerez les curteysies" (70)。と，このような礼節の書の教えを諳じていたかも知れぬ。そしてまたおそらく，このような礼節の教えは長く語りつがれていったのではなかろうか。『ハムレット』劇に登場する，クローディアス王の宮内長官ポロウニアスがフランスへ旅立つ息子レアーティズに与える教訓も礼節の書にある文言を想い起こさせる。Give every man thy ear, but few thy voice; / Take each man's censure, but reserve thy judgement. *Hamlet : Act I. Sc.* III (68-9) であるとか，あるいは，Neither a borrower nor a lender be; / For loan oft loses both itself and friend, / And borrowing dulls the edge of husbandry. Act I. Sc. III (75-7)[14] などという教えからは，礼節の書の抑揚のなごりが聞こえてくるようでさえある。

Ⅵ. 言語の特徴

MS 425 *Urbain* (*les curtesyes*) の言語が AN の特徴を示しているのは言うまでもない。AN では綴りが一定せず，その上転写に際して誤写も生ずる。例えば上述の escharnir "軽蔑する" という言葉は語尾が -ir であるが AN では語尾の -ir と -er の混同が起こるので escharnir のつもりが写本では escharner となったりする。escharnir はピカルディ方言であったが mocquer に押されて現在は消え去った語彙である。ちなみにフランシアン語の escharner は皮をはぐという意味で語源も異なる。また一つの例を挙げるとロマンスの貴婦人や，立派な騎士を形容する debonaire (=de bon air) も AN 綴りで deboner となっている。ai は AN では e と表記されるのである。(ME には debonaire, debonere, deboneure 等の形がある。) 以下に425 *Urbain* (*les curtesyes*) の中から，気付いた言語の特徴を示しておく。

[Ⅰ] Graphy

(1) 母 音

1. a+n:

1-1 aun= (OF an)

av*aunt* 25 enf*aunt* 21, 98 gr*aunt* 1, 2 sach*aunt* 115 s*aunz* 12, 67, 74, 80 t*aunt* 8, 17 vaill*aunt* 116 [verb]av*auntez* 76

1-2 *eyn*

*meyn*es 35 (OF main)

2. a+yod:

2-1 e (OF ai)

2-1-1 mesf*e*re 12 [verb] f*e*re 46, 49, 51, 90 f*e*t 44, 64, 135 f*e*tes 55 tr*e*re 48 retr*e*t 136

2-1-2 m*e*s 16, 71, 106, 120 (OF mais)

2-1-3 debon*e*r 11

2-1-4 r*e*son 25 r*e*soun 29, 78, 79

2-1-5 [verb]l*a*ssez 50 l*e*ssez 129

3. k / g+a:

ch*e*f 48 (OF chief) [verb] v*e*nger 130 (OF vengier)

4. al+s:

crimin*au*s 43　maus 42

5．e＋l：

5-1　b*eal* 108, 114　beale 15 (OF bel)

5-2　couns*ail* 108 (OF conseil)

6．自由長母音　e：

curt*eys* 26, 116 (OF cortois)　curt*eysies* 70 (OF cortoisie)

[verb] seez 11, 14, 19, 52, 87, 101, 125, (OF seiez / soiez)　s*eyt* 113, 114 (OF seit / soit)　v*eez* 19, 75, 101, 112, (OF veiez / voiez)

7．e＋yod：

v*eil* 21 (OF vieil＜Lat. veclus)

8．自由短母音　e＞ee：

p*eez* 35 (OF pied)

9．三重母音の縮約　ieu＞eu：

m*eu*th 17 m*eu*tz 51 m*eu*z 54, 130, 134 (OF mieuz)

10．自由長母音　o：

10-1　ou：

hon*our* 2　hon*our*s 55　douz*our* 14　escharnis*our* 123　l*our* 33, 37, 108, 129, 130　lousengour 101　plus*our*s 84　port*our* 15　seygn*our* 102　val*our* 73

10-2　u：

bosoygn*us* 113

11．自由短母音　o：

c*ue*r 100, 106　pr*ué*s 60

12．拘束短母音　o：

t*ut* 13 (＜tottu)　cf. tote 53, 55, 96, 99 / totes 46　tout 39, 62, 129, 133 touz 19, 33, 37, 42

13．o＋l＋yod：

voil 7, 10, 13, 98 (OF vueil)　cf. voillez 28, 77

14．o＋n：

oun＝ (OF on)

co*un*sail 108　d*oun*t 63　fr*oun*t 34　m*oun*d 57　res*oun* 29, 78

tens*oun* 80　[verb]co*un*té 131　resp*oun*ez 37　savr*oun*t 110　sount：0

15．二重母音の縮約　ui＞u：

p*us* 68, 70, 110 (OF puis)

16．母音の重複：

b*aa*s 89 (OF bas)

17．語頭音消失　a：

proche (OF aprocher) 100

18．語末のeの添加：

[verb] aresone*e* 30　demonstrer*e* 78　grever*e* 106　paier*e* 105　parler*e* 28, 77　vis*e* 63

19．語末のeの欠如：

foli 66 (OF folie) povr 113 (OF povre)

20. yの使用：

amy 102 amye 76 amys 74 bosoygnus 113 curteys 26, 116 curteysies 70 enmy 34 eyné 31 mauveys 50 meynes 35 my 105 nurrys 10 seygnour 102 [verb] affye 85 dye 6 escharny 124 hayr 64 oy 27 seyt 113, 114

21. 特殊な綴：

foez 109 (OF fois)

(2) 子 音

1. 単子音字：

1-1 h：

*h*outerage 20 (OF outrage)

1-2 g：

lan*g*e 23

1-3 k：

fran*k*e 11 (OF franc) *kar* 42, 57, 85, 118, 130 (cf. car 60) *k*e 58, 72 (cf. qe 14 / que 66, 114) *k*i 64

1-4 z：

douz*o*ur 14

2. 複子音字：

2-1 sc：

haute*sc*es 61 (OF hautece) [verb] sa*sc*ez 79 (OF sachez)

2-2 th：

meu*th* 17 (OF mieuz)

2-3 tz：

fitz 0, 5, 9 (OF fiz)

3. 重子音：

3-1 ll：

[verb] appellé 18 (OF apele)

3-2 *pp*：

[verb] a*pp*ellé 18

3-3 rr：

[verb] se*rr*a 123 se*rr*ez 17, 27, 81, 86, (OF sera, serez)

4. 語末のzの添加：

[verb] cremuz 134 tenu*z* 133

5. 特殊な綴：

5-1 disse 33 (OF s. m. dits)

5-2 pru*é*s 60 (OF proeces)

5-3 qeu*x* 0 (OF que)

5-4 surt*z* 42 (OF sorce)

[II] Morphology

1. jeo は je にかわり，ceo は ce にかわって用いられ，これらは Anglo-Norman 綴の特徴とされている：

   ceo 42, 44, 57, 66, 117, 128

   jeo 6, 13, 85

2. 関係代名詞男性主格に対して qe が用いられる：

   Un sage homme… / *qe* long temps vesquit 1-2

   Dez maus *qe* vennent de orgoil 97

3. 男性形に代わる女性形

   De beal*e* portour entour la gent 15

   Seez touzdis bon*e* cristien 52

   Les biens, les joyes, tout a un*e* mot /

   Dount me est a vise q'il est sot*e* 62-63

   Tote le mal*e* qe vous savez 104

   Si sera il pur fol*e* clamé 132

4. 女性形に代わる男性形：

   Sur *tout* rien vous defent 39

5. de le(OF de) の存続：

   Le meuth serrez oy *de le* sage 27

6. -ir にかわる-ier：

   ha*ier* 121(OF haïr)

7. -ir と-er との混同：

   escharn*er* 112, 118 escharni*r* 122

   (cf. echarniez 117 escharny 124)

[III] Syntax

1. 男性名詞に女性冠詞が用いられる

   Amez *la* bien saunz fauseté 67

2. Veez…que の用法

   接続法が用いられる：

   Veez touz jours *qe seez* sage / Et *qe*

   vous ne *facez* houterage 19-20

3. Vous と tu が混同される：

   Et quant *tu* seras entre la gent /

   Gardez ta lange sagement 22-23

4. Si で始まる条件文に接続法現在が現れる：

   Si vous *soiez* aresonee 30

5. 接続法の代わりに直説法が現れる：

   Ou qe tu *vas* entour la gent 88

6. au mieux に対して a la meuz が用いられる：

   Et *a la meuz* qe vous poez 107

7. 特殊な語法：

Si vous avez acheson /

De *moustrer avaunt* vostre reson 24-25

V. 品詞別語彙

1. Article

le 0 27 34 44 104(5)

la 15 22 42 44 67 83 88(7)

les 0 60 61 61 62 62 68 69 70 91 91 92 93(13)

li 123(1)

un 1(1)

une 62 71(2)

del 57(1)

dez 97(1)

2. Substantive

acheson 24(1)

afaitement 57(1)

age 8(1)

amy 102(1) : amye 76(1) : amys 74(1)

armes 91(1)

bien 4 67(1) : biens 62(1)

chef 43 48 124(3)

chivaus 91(1)

choses 46(1)

conteinment 87(1)

counsail 74 108(2)

cristien 52(1)

cuer 100 106(2)

curtesyes 0(1) : curteysies 70(1)

Dieu 53 111 121(3)

disse 33(1) : dist 37(1)

douzour 14(1)

enfant 3(1) : enfaunt 21 98(2)

escharnisour 123(1)

fauseté 38 67(2)

femme 72(1) : femmes 56(1)

fitz 0 5 9(3)

foez 109(1)

foli 66(1) : folie 96(1)

frount 34(1)

gas 90(1)

gent 15 18 22 38 44 55 83 88(8)

gree 58(1) : grez 110(1)

hautesces 61(1)

homme 0 1 21 31 112 127(6)

honour 2(1) : honours 55 61(2)
houterage 20(1)
ire 126 128(2)
joyes 62(1)
langage 26(1)
lange 23(1)
lousengour 101(1)
male 104(1) : maus 42 97(2)
mesdist 36(1) : mesdit 12 80(2)
mesfere 12(1)
meynes 35(1)
mot 62(1)
mound 57(1)
nettetez 68(1)
nurtur 7(1)
ordurs 69(1)
orgoil 40 97 100(3)
pecché 43(1) : peché 44 66(2)
peez 35(1)
portour 15(1)
pris 73(1)
prués 60(1)
reson 25(1) : resoun 29 78 79(3)
rien 71 99(2)
sage 27(1)
seygnour 102(1)
surtz 42(1)
temps 2(1)
tensoun 80(1)
tour 124(1)
valour 1 73(2)
vie 75(1)
vise 63(1)
voil 41(1)
voler 129(1)

3. Adjective

beal 108 114(2) : beale 15(1) : bele 87(1) : beau 5(1) : beaus 92(1)
bone 49 52(2) : bones 92(1)
bosoygnus 113(1)
brief 26(1)
cher 9(1)
covetous 125(1)
criminaus 43(1)
curteys 26 116(2)

deboner 11(1)
envyous 125(1)
eyné 31(1)
fause 38(1)
fole 132(1)
franke 11(1)
grans 61(1) : grant 66(1) : graunt 1 2(2)
hastifs 32(1)
humble 14(1)
june 31(1)
long 2(1)
mauveys 50(1)
plein 14 126(2)
povr 113(1)
prodome 115(1)
sachaunt 115(1)
sage 0 1 18 19 82 133(6)
sote 63(1)
tendre 8(1)
vaillaunt 116(1)
veil 21(1)

4. Verb

(acustumer)
acustumez 111(1)
(affier)
affye 85(1)
affiez 72(1)
(aler)
vas 88(1)
alez 83(1)
(aloser)
alosez 119(1)
alosé 59(1)
alosée 82(1)
(amer)
amez 53 67 91(3)
ament 122(1)
amerez 68 70(2)
amé 81 134(2)
(apeler)
appellé 18(1)
aprendre 7(1)
aprent 0(1)
(aresoner)
aresonee 30(1)

(avaunter)
avauntez 76(1)
(avenir)
avendra 54(1)
(aver)
avez 24 135(2)
avra 131(1)
avrés 92(1)
chastier 98(1)
(clamer)
clamé 132(1)
(conter)
counté 131(1)
(criendre)
cremuz 134(1)
(croller)
crouellez 35(1)
(corucer)
crusent 109(1)
(defendre)
defent 39(1)
(demonstrer)
demonstrere 29 78(2)
demonstra 4(1)
(desirer)
desirent 103(1)
(dever)
devez 46(1)
dire 106 129(2)
die 95(1)
dye 6(1)
dit 5(1)
diez 103(1)
(doner)
donez 93 108(2)
escharner 112 118(2)
escharnir 122(1)
echarniez 117(1)
escharny 124(1)
(entendre)
entendez 6 32(2)
(escivre)
eschverez 69(1)
(escuter)
escutez 5 9 95(3)

(estre)
  est 42 44 49 49 50 57 59 63 63 66 79(11)
  estez 8(1)
  sont 33(1)
  sount 0(1)
  sera 132(1)
  seras 22(1)
  serra 123(1)
  serez 119(1)
  serrez 17 27 81 86(4)
  seyt 113 114(2)
  soit 26 136(2)
  seez 10 11 14 19 52 87 101 125(8)
  soiez 30 32(2)
fere 46 49 51 90(4)
  fet 44 64/135(p. p.)(3)
  fetes 55(1)
  facez 20(1)
finer 45 65(2)
(garder)
  gardez 23 71 96(3)
grevere 106(1)
hayr 64(1)
  haier 121(1)
  haie 120(1)
(lesser)
  lassez 50(1)
  lessez 40 129(2)
mesdire 127(1)
moustrer 25(1)
(norir)
  nurrie 86(1)
  nurrys 10(1)
(oyr)
  orrez 84(1)
  oy 27(1)
paiere 105(1)
(parler)
  parlere 28 77(2)
(passer)
  passez 33(1)
(penser)
  pensez 105(1)
(poer)
  poez 107(1)

purrez 130(1)
puisse 90(1)
puissez 48(1)
(praiser)
praisé 17(1)
(prendre)
prent 58(1)
(prochier)
proche 100(1)
(purpenser)
purpensez 47 51(2)
purpessa 3(1)
(purir)
purrir 45(1)
(rebuter)
rebutez 120(1)
(regarder)
regardez 34(1)
(requerre)
requer 99(1)
(respordre)
respounez 37(1)
(retreire)
retret 136(1)
(saillir)
saillez 128(1)
(saver)
savez 104(1)
savrount 110(1)
sachez 118(1)
sascez 79(1)
(soler)
soleit 121(1)
(tenir)
tenuz 133(1)
(treire)
trere 48(1)
(valer)
vausissent 94(1)
(veer)
voet 127(1)
verrez 65(1)
veez 19 75 101 112(4)
(venir)
venent 60(1)

vennent 97(1)
venger 130(1)
venter 40(1)
(vivre)
vesquit 2(1)
(voloir)
voil 7 10 13 98(4)
voillez 28 77(2)

5. Adverb

a la meuz 107(1)
afaitment 84(1)
altrement 86(1)
aprés 110(1)
autresi 93(1)
avaunt 25(1)
baas 89(1)
bien 6 32 49 65 96 106 118 135(8)
coment 10(1)
dount 63(1)
haut 16 89(2)
ja 65 72 117 136(4)
jamés 41 119(2) : jammés 85(1)
le meuth 17 27 81(3) : Le meuz 54 134(2)
melament 45(1)
menement 16(1)
meutz 51(1) : meuz 130(1)
moult 121(1)
my 105(1)
ne 20 35 65 72 76 86 101 105 111 114 119 125 126 126 128 130 136(17) : n' 117(1)
nent 16 89(2) : nient 94(1)
nomement 56(1)
ore 5 9 95(3)
ou 88(1)
par taunt̃ 17(1)
partout 83(1)
pas 125 128(2)
plus 58 59 108(3)
premerment 47(1)
pus 68 70 110(3)
sagement 23 36(2)
si 50 81 84 92 93 114 115 115 116 116(10)
tout 62 113 129 133(4)
touzdis 52(1)
touzjours 19 54(2)

trop 16 89 89(3)
tut a primur 13(1)
vilement 93(1)

6. Pronoun

cele 109(1): ceux 122(1)
ceo 42 44 57 66 117 128(6)
ces 0(1)
eles 60 64(2)
i 59(1)
il 49 50 63 79 103 109 113 114 131 132(10) : ils 94(1) : eus 105(1) : les 34 129(2) : li 4(1) : lour 33 37 108 129 130(5) : l' 6 32 112(3)
jeo 6 13 85 95(4)
l'em 58(1)
me 63(1)
mon 9 98(2)
nul 90(1)
plusours 84(1)
quel 48(1)
rien 39 53 135(3)
sa 73(1) : son 0 3 4 73(4)
se 3 64 90(3)
ta 23(1) : tun 26(1)
tote 53 55 96 99 104(5) : totes 46(1) : tout 39 131(2) : touz 33 37 42(3)
tu 22 88 133(3) : te 127(1)
vostre 25 29 41 75 76 78 100(7) : vos 35(1) : voz 35 74(2)
vous 7 8 10 14 20 24 28 30 39 40 47 48 51 54 71 76 77 85 90 95 96 99 103 104 107 110 111 112 114 135 136(31)

7. Relative Pronoun

ke 58(1) : ki 64(1)
qe 2 44 46 95 97 104 112 122(8) : qeux 0(1)

8. Conjunction

car 60(1) : kar 42 57 85 118 130(5)
come 94 114(2)
et 1 4 5 11 12 14 18 20 22 26 28 29 33 36 38 38 43 44 45 46 51 56 59 61 68 69 70 77 78 80 82 91 92 103 107 109 111 113 120 121 123 127 131 133 134(45)
ke 72(1)
mes 16 36 71 106 120(5)
ne 21 32 35 40 73 89 100 102 115 115 116 116(12)
ou 30 31 66(3)
qe 10 14 19 20 75 88 90 100 101 103 107(11) : q' 63 79(2) : que 66 114(2)
quant 22 28 33 77 131(5)
si 6 24 30 127 132 135(6) : s' 49 50 103 109(4)
taunt come 8(1)

9. Preposition

a	37 41 48 49 54 55 56 58 63 109 133(12)
de	1 3 4 8 14 15 18 25 27 31 31 42 43 71 74 76 84 87 90 96 97 124 124 126(24) : d' 60 64 112(3)
en	72 75 128(3)
enmy	34(1)
entour	15 83 88(3)
entre	22(1)
od	2(1)
par	136(1)
pour	51 111(2) : pur 73 73 82 105 106 117 118 128 132(9)
sanz	36 106(2) : saunz 12 12 67 74 80 80(6)
sur	39 53 99(3)
vers	21 102 102(3)

注

1. J. W. Nicholls, *The Matter of Courtesy* (Suffolk : Boydell and Brewer, 1985), p. 57.
2. Nicholls, pp. 10-11. See Arnold Morel-Fatio, "Mélanges de littérature Catalane," *Romania,* 15 (1886), 224-35. Morel-Fatio はラテン語 *Facetus* の edition を掲載している。英国における *Facetus* の写本については Nicholls の Bibliography p. 207が詳しい。*Stans Puer ad Mensam*『食卓の給仕』という表題で知られている写本も多い。
3. Cambridge, St John's College MS 147には *Facetus* と同義語に *Liber Urbani* や *Urbanus* が使用されていたことを示す記述がある。……Liber explicit hicque *Facetus. / Scribitur Urbanus, sit scriptor a crimine sanus. Explicit liber Urbani*, cited by Paul Meyer *in Romania,* 32 (1903), p. 70. [イタリック筆者]
4. Nicholls, p. 11.
5. S. Glixelli, '*Les Contenances de Table*,' *Romania,* 42 (1921), pp. 1-9
6. *Urbain le Courtois* は "優雅な都人(みやこびと)" とでも訳せようがこのグールプのタイトルを筆者は『礼節の書』としてまとめた。

   Cambridge Univ. Library MS Gg 1. 1 の *Urbain* の冒頭 6ᵛには興味深い記述がある。Une sage home de graunt valour / Ki jadis vesquist en honour / *urbane esteit il apelé* (*italic* 筆者)
7. see E. Stengel, "Disticha Catonis hs. Harl. 4657," *Ausgaben und Abhandlungen aus dem Gebiete der romanischen Philologie,* 47 (1886), pp. 110-42.
8. 柴田実編『石門心学；前訓（手島堵庵)』日本思想史大系42 (1971), pp. 164-67.
9. Glixelli, pp. 5-11, 30-40. 食卓の作法について，フランシアンでは 3 系統の写本が現存するという。F. J. Furnivall は *The Babees Book* EETS Os. 32, rpt. 1969に MS Bibliothèque Nationale 1370, BN MS 1181 所収の *Contenance de Table*, 及び Mme de Saint-Surin が1835年に *L'Hotel de Cluny au moyen age,* Paris という表題で刊行した凡そ13世紀末に成立した写本の edition を載せている。
10. Nicholls, pp. 57-63. Furnivall, pp. i-405, *Caxton's Book of Curtesye* (EETS Es. 3, 1868).
11. Furnivall, part I., p. 18. from Bodley Ashmolean MS 61. f. 20.
12. Furnivall, part I., p. 23. from the same MS "The boke of Curtesy".
13. 食卓の作法については *Petit Traitise de Nurture* が詳しい。
14. William Shakespeare, *Hamlet* ed. G. R. Hibbard (Oxford: Oxford Univ. Press, 1987)

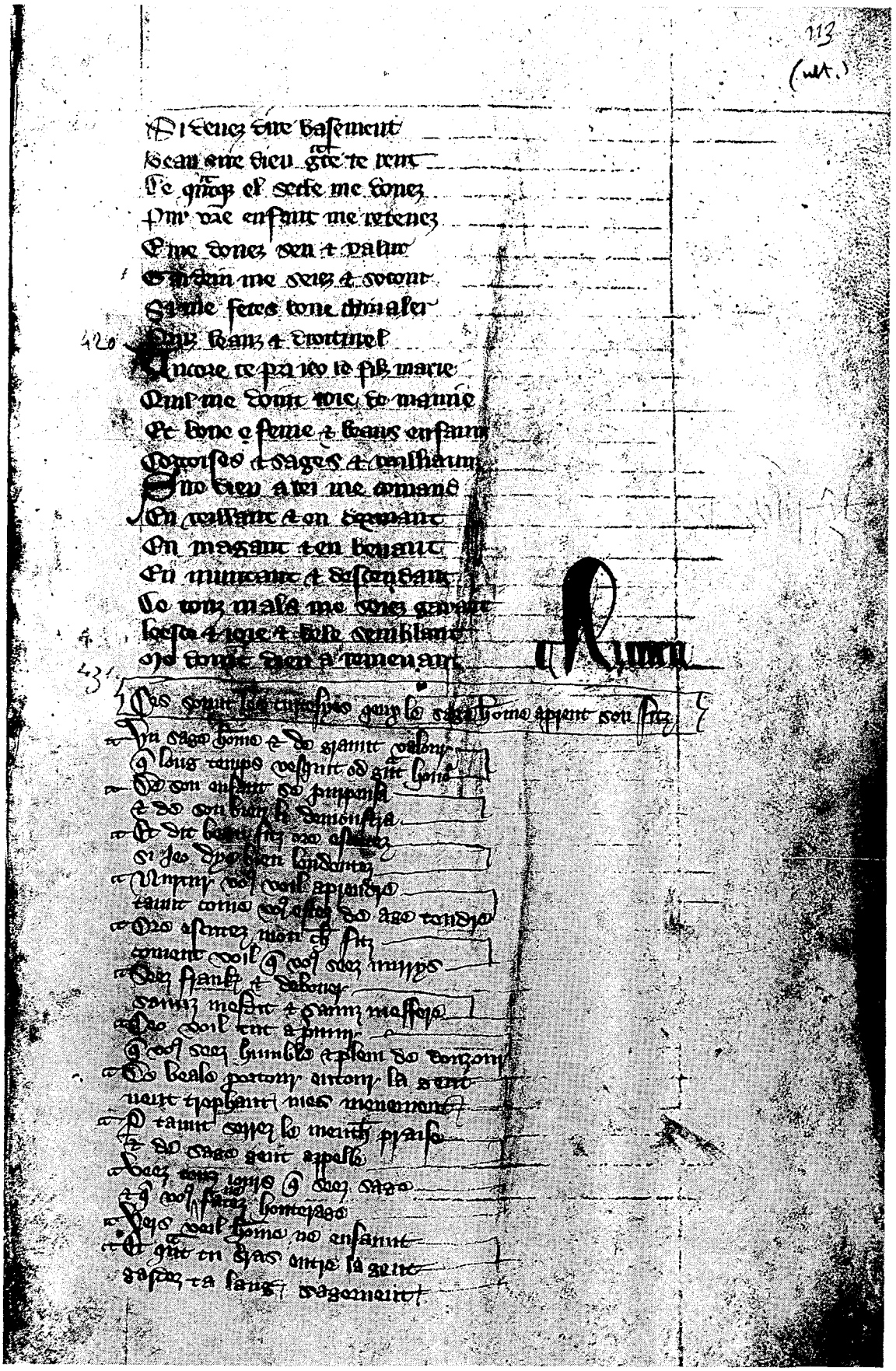
Les Curtesyes

Oxford Bodleian Library

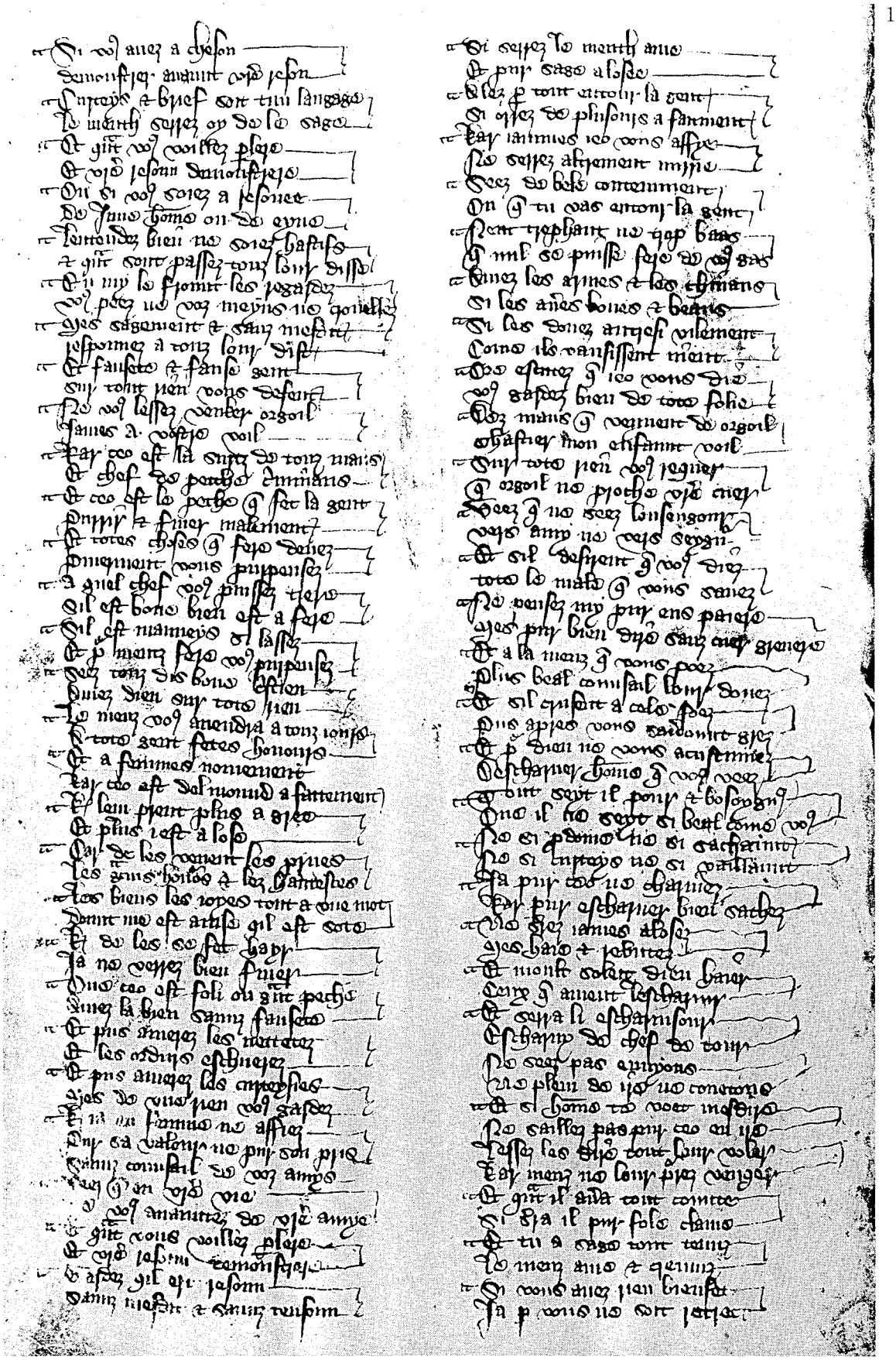
MS Bodley 425

ff. 113^{r}-113^{v}

113r



**



6) *La Manière de Langage*

——フランス語の話し方，書き方教本——

I [f. 1r] 我々は始め，このように言う：父と子と聖霊の御名によりアーメン。

さてここに美しいフランス語を正確に話し，また書くすべをお前に教える「言葉の用い方教本」が始まる。これはフランスの言葉の使い方，習慣に従っているものだ。

先ず最初，この必要な仕事を始めるにあたり，我々は敬虔な心を以て神と，いと優しき御母，至福の処女マリアならびに天の聖なる王国にいます諸々の栄えある方々に祈りを捧げよう。神はその天国に神の友，選ばれた者を置き給うた。あらゆる至高の学問，知恵，恩寵と理解，あらゆる美徳がその高みよりよって来たる。神の慈悲深き思し召しと恵みを以て，この書を学ぶ全ての人々を高邁なる善知恵と理解の恵みに溢る、露に浸し，啓発し給わんことを。

さらにこの人々が，この世で他の如何なる言葉よりも尊敬され，且つ愛されている必修ラテンについで，最も美しく優雅な言葉であり高雅な話し言葉のうましフランス語を，正しく発音し書くための学習の生来の理解力を示すよう導き給え。とりわけフランス語は凡そ神御自らの栄光を称えるためにかくも甘美にして愛すべきものとされたのである。それ故フランス語はその大いなる甘美さと美しさの故に，天上の天使たちの話し言葉にも匹敵し得る。

人間はこの世の中で最も高貴であり，尊厳ある生き物であるから，神は人をその配下にある全ての生きもの，事物の支配者，主(あるじ)であれと命じられた。故に私は人間について，又人間の身体の各部について [f. 1v] そして人間に関して，また人に起こり得る全て必要な事柄についてはっきりと明示し，説明するところから始めよう。

記憶すべきは人間の身体が12の部位に分かれているということである。賢明なる哲学者の述べる如く天の黄道十二宮がこれを支配する。この天の黄道は月が人間の身体の部位に符合する十二宮のひとつに入る時，今述べた人間の部位にたいして大いなる影響と支配力をもつものである。さて私の親しき友よ，人間というものがさかさまの木であると，知って欲しい。即ちその幹と根っこは逆立ちしており，てっぺんは枝と共に下方にある。

人間の頭はそのようになっている。頭は一番高い所にあり，主要な部分であるがそれは木の幹にあたり，髪の毛は根っこにあたるのだ。

また次のことも知っておきたい，人間にはいろいろな部分があるということ。額 la front だとか，耳 les orailles，目 les yeulx，眼瞼 les paupieres，眉 les surcilles，鼻 le nase，鼻孔 les narines，軟骨 la tendron，頬 les jouues，口 la bouche，唇 les lievres，歯 les dens，舌 la langue，顎 la menton，喉 la gorge. 首 le col，甲状腺 le vendon，肩 les espaules，肩甲骨 le blazon，脇 les asselles，腕 les bras，肩先 les mahutres，肘 les coubtes，手 les mains，指 les deis，掌 la paulme，爪 les ongles，関節 les jointes，胸 la poitrin，乳房 les mamels，肋骨 les costes，脇腹 les flans，背中 le dos，骨 les os，脊椎骨 l'escine，腹 le ventre，臍 l'ombril，恥丘 le penil，生殖茎 le vit，精巣 les cueillons，肛門 le cul，腰関節部 les hanches，腿 les queses，鼠径 la lene，膝 les genoilles，脚 les jambes，外腿 la garette，ふくらはぎ le assure，踝 la cheville，足 les pies，踵 le talon，足指 les artols，足の裏 la plane du pie，内臓 les entrailes du corps，脳 le cervel [f. 2r] 咽頭 le gorger，胴体 le corps，心臓 le cuer，肝臓 le foye，肺 le polmoun，脾臓 l'esplien，腸 les boeaux，胃 l'estomac，血管 les

veines, 神経 les nerfs, 髄 la rate, 胆嚢 le fiel, 腎臓 les reignons, 腰 les reynes, 膀胱 la vessie, 皮膚 la pel, および4つの体液, 即ち胆汁 colre, 血液 sang, 粘液 fleume, 黒胆汁 malencolie など, というものである。

II. さてこれから我々にとって必要な事柄とその話し方とを述べよう。

館の主が一人の騎士, あるいは騎士見習い, 又は部屋係, あるいは他の下僕の一人, もしくは従者の若者にむかって言う:「衣裳係を私のところへ呼んでおくれ, 直ぐに来るようにと伝えなさい。」「かしこまりました, 御主人様, 直ちにお言付通りに。」と, それから騎士見習いは衣裳係のもとへと行きこのように丁寧に言う:「ギョームさん, 神の御加護を!」〈あるいは〉(vel sic):「神のおひきたてを!」と。「私の親友, よう来られた。私にできることで何かお望みかな」「え、その通り, 旦那様がすぐ来いとお呼びになっている。承知の助だろ, ぐずぐずしていると旦那様はあんたに腹を立てられる。だから, まごまごせずに, あちらへさあさ急いだ, 急いだ。」

「どんな御用か知っているのかね」「神かけて, 知らないよ。しかしさ, 御主人様の御入用の品々を買うんだろうからお昼前に行かないと, と思いますね」

そこで衣裳係はできるだけ急いで主人の許へ出向き, うやうやしく次のように言う:「御主人様, 何かお気に召しますことは?」〈あるいは〉[f. 2^{v}]「御主人様, 何か御用向きは」「行きつけの布地屋へ行って欲しい。そこで上等の深紅のを12棹(1棹ほぼ1メートル強と思われる)真赤を6棹, 青を8棹, 緋色を9棹とそれに同じく紫と茶色だ。それに白も15棹。それから小間物商のところで10オーヌ(aulne は肘の長さで測るという)の金色の布と赤い純絹の布1枚, それに30オーヌの白いファスチアンあや織りと又同じく灰色のファスチアンあや織り, ランスの布地20オーヌとそれに同量の亜麻布だ。

全部そのようにして済めば, 持ち帰って衣裳棚へ入れ, そこで袖なし外套と小型のマント, 大きなホップランドコートの長いのと短いの, 長い飾りリボンの付いた巾広い頭巾, 腰と尻を覆うかなり長いズボン, そして同じようなしつらえの長いくつ下を裁断しておくれ。それから, 胴着, 短いチュニック, 胸の開いたチョッキ, 短い上着に裁断して仕立てるように。お前が出来る限り, 且つ工夫して仕事を下働きの職人にさせ得る最良の方法でやっておくれ。さっき言っておいたフランスの織物20オーヌと亜麻布は経帷子, 下着, 儀式用ズボンを作るためにしまっておくと承知して欲しい。尚, 腕の立つ, また急ぎ仕事のできる職人を沢山集めてしっかりと縫製した良い仕立てをさせるように。職人の仕事に失敗や手抜きがあってはならない。[f. 3^{r}] 立派な仕立てをしなかったために, 直ぐにも形がくずれ, 縫目がほころびるなどは職人の赤恥だからな。

さて現在のところ, 私の身分にふさわしい家の管理や何やらは, この館に来たばかりだから充分には出来兼ねるので, 管理人にいろいろ調度を整えさせたいと思う。まず, 私の寝室には厚みのある平板に寝台用の藁蒲団, それを購入したら大工あるいは寝台作りを来させ, 寝台を組みてて藁蒲団をはめ込ませる。それから執事は寝具や附属品を買いに行く。

すなわち, 掛け蒲団1枚 un coverture, ベッドの頭部をもち上げる長枕 testre avec la sileure, カーテン les courtines, サージ織りの布 une sarge, 種帷子2組そのうちの1対はランス織りで, あとの1対は上等の亜麻布のもの deux pair de linchiaux, 毛布2枚 deux blanketes, 羽蒲団又は装飾用寝台掛け une keulte ou une keutepoynt (OF colte, cueute pointe ca. 1180)長いクッション付の枕2つ deux oraillers avec un long coissyn, 麻の丈夫なシーツ1枚 canevas de chanvre など。

広間用に購入する品は背のたかいテーブル desse, 立派な壁掛けタピスリ grant doseur と台に掛ける厚布 les tapis bankeurs, クッション quarreaux, テーブル tables, 架台 briches, 酒杯用卓 tables pour

hanapes, 長椅子 bankes, 椅子 chaiers, ベンチ fourmes, あんか scelles, 平板 aes, 平水鉢 bacins, 火鉢 chauffouers と吊下げの手洗い鉢である。

酒房についてはテーブルクロス napes, ナプキン touuailles, 長いクロース longres, 銀カップ tasses d'argent [f. 3ᵛ] 柄付杯 gobles, マドラス木杯 madres, 壺 terrins, 皿 plas, 碗 escuelles, 純銀の皿と小匙 sauciers et cuillers tout de fin argent を買うこと。

厨房の品物は食器棚 dressouers, 赤銅の鍋 pos d'arrein, 大鍋 paelles, 三叉串 troipies, 焼き網 grailles, 鉄串 hasles, 鉄の掛け金と肉焼なべ crockes et lechefris de fer, ふいご souffletes, 井戸の滑車と釣瓶 cackes et sielx pour le puus である。同様にまた, 冬に備えて多くの薪が必要だ。

私の靴屋には, 12足の切込み模様のある靴 soliers escoletez et partusez, と裏皮の靴 3 足 soliers escorchez を作らせ, また私の駅者のために 2 つ結び目のある靴 5 足を作るよう話しておく必要がある。

また, 私の管理人がやがて来たる花の復活祭のために, 私の口に合う 4 樽の赤葡萄酒, それもこの地方でみつけられる最上のものを手に入れておくようにと望むのだ。というのも, 私は大いに飲んだり, 食ったりするだろうから。

III. さあ, 国許を遠く離れて馬で旅をしたり, あるいは徒歩で旅をしようとする人が道中どのように振舞い, どのように話すべきかについて語ろう。

まず, 主人は出発に先立ち召使いにこう言う:「ジョナンよ, あるいはヨハン, ジャック, ピエール, ペラン, ペロット, ポール, あるいはギョームであれ, ギョミノットであれ, さあ, こっちに来い」〈あるいは〉「こっちへ来なさい!」「御主人様, できるだけ急いでやって参りました」「ジョナンよ, 準備しておくれ, 私の馬を鍛冶屋へ連れて行き, 必要なら金具を打たせろ。良く打ち込んだ頑丈な蹄鉄にするのだ」「はい, そういたしましょう。」

それから [f. 4ʳ] 召使いは馬数頭を引いて鍛冶屋へゆき, 主人のいいつけた事を行う。召使いが鍛冶屋から帰るや否や主人は次のように話す:「ジョナンよ, 済ませたか」「はい, たしかに。」〈あるいは〉「はい, しっかりといたしました。」「では, すぐ馬どもに干し草, 大麦, そしてパンをやれ。というのは, 私は朝食が済めば直ちに馬で出掛けることになる。多分すぐに戻ってくるだろう。地方の領地で仕事が山積しているからな。ジョナン, 食卓を置いて支度せよ。ちょうど食事をするによい時間だ。」「かしこまりました, 御主人様。」

召使いはテーブルを置きに行く, よい工合の長さにテーブル覆いを掛けて, それから塩つぼと水を半分満たしたコップを運び, 食卓に置く。そこでパンを取りに行く。干からびたのではなく, よくふくらんだつるつるした, このあたりで見られぬ程の白い良いパンと, 大層上品で口あたりの良いボルドーのすき透った赤葡萄酒と白葡萄酒を探しに行く。さてそこで主人は侍僕の一人にむかって, あるいはお気に入りの誰かにむかって, 物腰も柔らかな調子でこのように言うのだ。「ジョナン君, 調理場へ行って食事が出来上がっていないか尋ねて欲しい」「御主人様, 御言い付けどうりにいたしましょう。」そして彼は全てが準備されるよう見届けるために調理人のところへ話しに行く。そうこうするうち, [f. 4ᵛ] 主人は手を洗い席につきにゆく, そうすれば侍僕や召使いが美味しい肉を給仕するのだ。というのは, まず第一のコースとして, 夏であれば蕪のスープ de soupe des naveux, 冬であれば 鶏肉とキャベツ des chous de porree, あるいは脂身と豆の煮込み des poais aveque la larde, 又は裏漉しのピュレ de puree が供される。そのあと牛肉 de boef とか羊肉 moton, 豚とか仔牛 porc et vial のこってりした肉料理である。第二のコースとしては, とり肉料理 de chapons, 雄鳥 gelines, 雌鳥 pulles の大きなパテが出る。第三のコースには卵 des ouves, 子豚と雌豚をとり合わせたもの petits porceus et porceletes

jostees, 白鳥 cines, つる greus, かささぎ heyrons, さんかのごい bytores, ちどりにうづら pluviers et pardriz, その他いろいろ野鳥の肉である。最後にはチーズ de formage, 梨 poirs, りんご pomes くるみ des noes など。大いに食べたあとで主人がこう言う：「さぁ，食卓をさっさと片附けてくれ，ジョナンよ，馬に鞍を置きに行くのだ。しかし口の中に馬銜を入れる時，黒馬にはよく注意しろ，噛まれんように。鞍を置いたら馬を広間の戸口の前へ引いておいで，そこで私が馬に乗るから。」主人はやおらやって来て馬に乗り目的の道を行く。町のはずれまでくると，みすぼらしい一人の老女，あるいは別の女に尋ねるのだ：「おばさんよ，オルレアンへ行く道はどれかね」「旦那さん，教えましょ。この道を真っすぐ馬に乗ってお行きなさい，谷間のところ [f. 5^{r}] までくると，ちょっと前方に生垣が見えましょう。そこには道が二筋あって十字架が立っております。その十字架を右手に見ながら左の道を進むんですよ。そうすると大きな森が見えます。悪者が沢山隠れているという噂だから，旦那さん，泥棒には注意しなされ。ひどいわるさをするんだそうで。神のお導きにより，あなた様のお気に召す何事にも栄えと喜びありますように。」「美しい奥さん，神と共にあれかし。」〈あるいは〉「あなたに神の御加護を。」さて，この旦那は道を進み次のような，あるいは又別の，自分の気に入る唄を歌い始める：

ほうら，ほら，我等仲間に
今年は葡萄の当り年
心も想いもくれてやる
我等は楽しい仲間たち。
飲んだり，飲んだり，このエキス
黒い葡萄のしたたりを。
唄えや，踊れ，今年は豊年万作だ
神に感謝のひと踊り。
良い酒なしには
うれしい祭りも始まらぬ
ほうら，ほら，甘く切ないこの酒は
人を笑わせ唄わせる。
貧乏人は金持だ
パンやお金がなくっても
お酒の功徳で金持ちだ
酒の御利益ありがたい。
どけちの財布もゆるみます
あとの後悔先立たぬ。
娘さんたち
落穂を拾い [f. 5^{v}]
家に帰れば思い出す
楽しい仲間のお遊びを。
３人，４人と集まって
口を揃えてこう言うよ
飲もうよ，みんな，
ちっちゃな瓶でぐいとやり，
愉快な気持ちになりましょう。
さあさ，行ったり，酒倉へ

恵みの葡萄酒
開けよじゃないか
葡萄を植えた葡萄作りの
長き幸せ，長寿を祈り
この葡萄酒をあけよじゃないか。
これは美味いぞ，
俺の心はとろけたぜ
とろけるロゼが
おいらに歌を唄わせる。
この葡萄酒は，
頭にくるわ
うちの内儀さん，足さかさに
ぶっ倒れさせてしまうまで。

彼は歌を歌い終えると侍僕あるいは侍僕たちに次のように話し始める：「さあ君たち，まもなく夜になる」〈あるいは〉「やがて夜になろう」するとジョナンは自分の主人に大層丁寧にこう答える「さようでございます御主人様，まことにさようで。」〈あるいは〉「そのようでございます。」〈あるいは〉「仰有るとおりで。」「今日は先を急ぐより，この町に泊まった方がよかろう，どう思うかね」「御主人様，思し召しのとおりでございます。」「ジョナンよ」「はい，旦那様」「先に行ってすぐに宿をとっておいで」「さようにいたします旦那様。」そこでわきめもふらず道を進み，宿に行き着くと大変鄭重にこのように言う：「宿の御亭主，御亭主殿。」すると宿の主人は前者に奥からまったく横柄に答える「何だ，誰なんだね」「この怠け者，何でお前さんは私が呼びかけた最初に返事しなかった？」[f. 6^{r}]〈あるいは〉「私がまず戸を叩いた時，どうして返事をしなかったのだ。神かけて災いをふりかけてやるぞ。あんたはここで私を長い間ぼんやり待たせたんだぞ。知ってのとおり，今日ほど寒いのは今年始めてだ。雪は降るし，あられもみぞれもひどいもんだ。水は凍って足の甲みたいになってるじゃないか。凍てついた氷はなかなか溶けないて。さあ，早く戸を開けてそこへ入れて呉れ。さもないと，戸をめちゃめちゃにぶち破るぞ，本当にやるぞ！」「さあさあ！あなた，そんなにかんかんに怒りなさるな，すぐ開けますからに。」宿の主（あるじ）は急いで戸を開けにかかる。戸を開くと，戸を叩いていた人間を見て，彼に言う：「聖マリア様！驚いた，ジョナンさん，あんたでしたか」「そうともさ，私が見えないか」「ジョナンさん，親しい友だちよ，気を悪くせんで欲しい。あんたが其処にいるとは思ってもみなかった。さてさてあなた，御機嫌損じたならどうか御勘弁願いたい。充分つぐないはしますよ。ジョナンさん，心から信頼しているから是非頼むのだが，私がやったことをそちらの主人には言い付けんで欲しい，もしわかったら，そりゃ気を悪くされるだろう。私は御主人のお気に入らんことになる。」[f. 6^{v}]「君，そんな事は心配せずともよい，君が良い友達づきあいをしてくれるのなら，そんな事は言わないよ。」「誓いますよ。親友さん，すばらしい友達になりましょう。私ができることで何かお望みなら，それがお前様のお気に入るなら，言って貰いたい，できる限り喜んでやりますぞ。私は常に，今もこれからもあんたの言う事は聞きますよ。」「それじゃ宿の御亭主，ここの泊まり心地はよろしいかな，言って貰いましょう」「はいはいお客様，お蔭様で…王様のお泊まりを仰せつかっても充分お気に召すような，行き届いた誠実な宿でございますよ」「さて，そのようではあるが。」

そこであるじは次のように答える：「こちらへ来てみて下さい，お客さん御一緒に。さっそく一番綺麗な一番居心地の良い部屋を見て貰いましょう。これまで見たこともない程一層立派に金や絹の布で飾りつけし，しつらえてある部屋です。しかしまず，錠前を開けるための鍵を探してきましょうや。」彼は

戻ってくると戸を開け中に入り，相手に言う：「さあ，この部屋のあたりをぐるっと見廻して下さい，どうですかね」「成程，御亭主，結構な工合で私の気に入るようだね，又，別の点でも大層気に入りますよ，部屋はしっかりとまじめにホウキで掃いてあって埃も塵もないからね，というのは，蚤もしらみも他の虫もいないだろう」「虫なんかあなた，絶対におりませんよ。うけ合って言いますが，皆さんはここで快適にお泊まりになれます。[f. 7r] 勿論ねずみや二十日鼠がたんとおるのは御承知のところだが，それは皆さんにはどうでもよろしいことで——というのは以前に私が作った巧妙な道具，網や仕掛けでねずみ共をしっかりつかまえるように言い付けときました。もっとも鼻高々で言ってるんじゃないですが。ジョナンさん，さあ聴いて下さいよ。御主人は今夜ここに泊まられるかね」〈あるいは〉「御主人さんは今夜ここへ見えるでしょうな」「そりゃ本当ですともさ，しかし，御主人が仲々御ゆっくりなんで不思議に思っているところだよ，というのは先ぶれのために旦那様を後にした時，ここからもう3哩程のところだったから。」「御主人が間違いなく今晩来られるとお前様は知っていなさるのか」「誓って，そうとも。」「それじゃ，まこと私は鳥屋へ行って，にわとり，食用の雄鶏，鴨や小さい野鳥などと夕食のために買うとしましょうや。」「宿の亭主，まずはさあ，薪を切って暖かい火を頼むよ，今日はとても寒いんだから。」

さてそれから道に出て鳥屋へ着くと，（この場合宿の亭主 hosteler が行ったのかジョナン Janyn が行ったのか文脈は曖昧になる）次のように尋ねる：「さて御亭主，これはいくらぐらいのものですかね」〈あるいは〉「おかみさん，これをいくらでわけてくれますか」〈あるいは〉「これでいくらになりますか」〈あるいは〉「この河あひる三羽でいくらですか」「旦那，10ドニエいただきます」「あんた，それは高すぎる，半値で充分だ」「何をおっしゃる，この河のマドラデル三羽には9ドニエ払って貰いますよ。つまりこれは本当に逸品でして…肥えて脂ぎっていますから。うけ合っても良いがこれから先二年経ったってこんな良いやつにお目にかかったり，食べたりはできませんよ。[f. 7v] さあさ，よう見て下さい。もう脂ではち切れているでしょうが。」「ふむ，ふむ，よう分かる。しかし，また法外にふっかけたものだ」「めっそうもない！旦那，私がこうと思えばですね，今日でもあしたの朝でもこのあひるは10ドニエで売れますぜ，これは信用してもらわにゃ」「そんに力むことはないって。それ以上言わんでも最初の言葉でわかっているよ。さあひと言，いくらにするね？」「こりゃ絶対に，その値段をいただきます。さもなくば売りません」「やれやれ！今年取引きした商売のうちでお前さんは一番高値をつける人だ。ほかではこの三羽と同じに良いやつでも7ドニエで手には入るさ。しかしまァ仕方がない。この次にはもっと良いのが見つかるだろう」「パウロ様に誓ってこの値段でこんなに良いのは町中にありませんや，これより上等のあひるなんかお目にかかったことはない筈でさぁ。」「それじゃそれを貰おう，ほらここにあんたのお金だ，あんたを神にお委せしよう」〈あるいは〉「神のお導きを！」〈あるいは〉「守り給う神に！」〈あるいは〉「神と共に！」〈あるいは〉「神の御加護を！」「旦那さん，健康とやすらぎを神が下さいますように！」

そこでジョナンは宿へと帰り主人の夕食のために肉の準備をする。彼は帰ってくると，水を一杯張った鍋を火にかけ，鍋が沸騰し始めると，あひるに火を通すためにに鍋の中へざぶんと浸ける。それから急いで羽を抜く。羽を全部 [f. 8r] 抜き終えるとすぐ尻尾を切る。指をあひるの胴体の中に入れて内臓と汚物を全て引き出し丁寧に水で洗う，それからローストするために焼きぐしに刺し，すっかり出来上がって充分に焼けると串からはずす，その頃主人が宿にやってくる。

そこで宿の女主人あるいは娘が出迎えて客にこのように言う：「旦那様，よくいらっしゃいました」〈あるいは〉「よくおいでなさいました」《もし，馴々しい言い方をすれば，それは疑わしい言い方だが》「旦那さん，ようこそ」「奥さん，御機嫌はいかがかな」〈あるいは〉「お内儀，どうしているかね」〈あるいは〉《次のように言う》「奥さん，あれからずっとどうしておられたか」「まあ，神様とあなた様のお蔭で，お元気なあなた様よりなおぴんぴんいたしとりますわ」「そりゃ大いに結構」「旦那さん，長いこと

お目にかかりませんでしたわね」「その通りだよ，さて美しい奥さん，教えておくれ，いつも貴女の所にいた美しい娘さんは一人もおりませんかな」「お客様，お気に召すなら，大層綺麗な上品な身体つきの娘が二人おります，両手で握り締められるほどのきゃしゃな娘でございますよ。」「それでは是非その娘さんをここへ連れて来て貰おう。その娘達を見る迄は馬から降りませんぞ」[f. 8^{v}] そこで娘達が客人の前に現われる。客曰く：「これはこれは，この前逢った娘さんよりずっと身体つきも良いし，ずい分美しい女性だね。是非とも私のN荘園で一緒に暮らして貰えるとよいが。この娘たちには金や銀やほかの財，いや館までくれてやろう。」そこでやおら客は馬から降り娘の名前を尋ねて言う：「可愛い、恋人たちは何という名前なのかね」年かさの娘がこのように答える：「御主人様，お気に召すなら，私の名はイザベルと言います」そして他の一人が言う：「御主人様，マルガリータでございます。あなた様が善行をほどこされる御恵みを神が下さいますように」「イザベルよ，さあこっちへ来なさい，さあ」〈あるいは〉「さあ，優しい恋人，私のところへいらっしゃい，遠慮せずに。ひどいことはしませんよ，それは約束する。神も御覧あれ，やさしく大切にあつかうよ。」「はい喜んで，旦那様のお言い付け通りにいたします。そこで客は娘を抱き，甘い口づけをする。それから優雅に情熱的な愛情をもって，恋する男の調子で次のように言うのだ：

やさしく美しい恋人よ
つとみやびやかなる人よ
私はお前に愛を捧げた
花の衣装で飾った君は
私がぞっこんの御主人様だ
花園に咲くいとしのバラだ。
しなやかな姿の恋人よ
私は君に心を捧げる
私の愛と，あらゆる楽しみを，
美しい一折の花のように大切なお前。

それから客人は彼女の手をとり広間へ行って言う：「娘さん，夕食を一緒に食べよう」「有難うございます。お客様」[f. 9^{r}] そこで彼は召使いの名を呼んで尋ねる：「ジョナンよ，我々の夕食の支度は出来たかね」「はい御主人様，どうぞいつでもお座り下さい」主人は席に着きあたりを見回して言う：「あゝ，まだテーブルが置いてないじゃないか」そうして召使いたちに腹を立て始めこのように言う：「お前たち二人にはろくな一週間にならぬぞ」〈あるいは〉「お前たちは痛い目にあわせてやる。絶体に。私がここへ到着してからというものお前たちは一体何をしていたのだ。夢でもみてぶらぶらしていただけではないか。すぐに食卓を置いてただちに赤葡萄酒のクラレか白かを飲めるようにして持って来い。喉がからからだぞ，それに腹も空いた」「はいはい，お言い付け通りにいたします，旦那様」この主人はやがて酒を飲み終え，娘も飲むと，彼女にこんな風に言う：「さあ恋人，こっちへ来なさい，この私の前の椅子に坐るのだ」「お客様，それはどうぞお許しを」「おやおや！そうして貰わんとな」「有難うございます，それでは」そうすると客と娘には大層味の良い夕食が供される。客は満足した顔付で大いに喜び言う：「娘さん，どんな工合かね」「旦那さん，喜んでおりますわ，神様とあなた様のお蔭で」「まことに私も嬉しい，どんな人にもましてあんたを歓迎する，是非あんたが気に入る食事をさせてやりたい」「まあとんでもない，充分です，おかげ様で」客は娘に言う：「おや，もう食べないのかい」「あら，いただきますわ旦那様。有難うございます」「では見ていよう」[f. 9^{v}] 二人が食事を終えるや否や客は娘を愛撫し始める。彼女の愛と処女性を獲得するために，彼女に対して感じた愛の大いなる残り火ゆえに，この世で一番甘美な愛に満ちた唄をこのように口ずさんだり大層やさしげに歌ったりするのだ：

愛情こめて見つめる美しい目差しが
私の心にいとしさをそそぎ込む
お前と私が目と目を見交すと
全身の血は失せてその目に吸い込まれてしまう。
お前の優しい魅力で有頂天の私は
いくら見とれていても見あきはしない
お前の姿を心にしっかりと描きとめたから
他の思いがは入り込む余地はない。
こんなに嬉しい思いをしているのだから
お前を忘れるなんてぜったいにないのだよ。

《ここに最も楽しいうたが終る》泊り客はこの唄を歌い終えると娘に大層やさしく話しかける：「ねえ私の恋人，この唄仲々上手に歌っただろう」「さようですねお客さん，非常に上手く歌われましたわ，心も身体もすっかりのぼせ上りましたもの」そこで客は娘の手をとり，男一匹に誓って，一生ほかの女を相手にしないとはっきり約束して言う：「さあ私の恋人，お前さんを私の伴侶とするよ，この点について確約する」それから客は娘とたわむれ，遊ぶので，全ゆる快楽やおふざけのうちに彼の心は有頂天となって，宿のおかみさん，召使連中，部屋付きの者たち，従僕たち［f. 10^{r}］に多くの美しい贈り物をする。つまり，宿の女主人には緑の薄絹の美しい腰帯を，召使いには3スー4ドニエの銀貨を与え，従僕連中には巧みに丈夫に作ってある緑ビロードの財布を一個ずつ与える。財布には赤い純絹の紐がついている。そして12ドニエの銀貨も入れてやる。客人と娘，それから身分のある客の友人たちが皆彼と楽しみ，驚くほどの遊興をする。客の主人は従者の楯持ち，侍従たちにスパイスと飲物をもってくるように命じる。すぐさま，楯持ち，侍従たちは蠟燭を沢山持ってやってくる。ゆうに50本はあるのだ。其処へ全ゆる種類のスパイスが一杯は入った，サラセン風の宝石作りの美しい盃をもち込む。それから彼等は上等のビールと上等の葡萄酒を持ってくる。つまりクラレに赤葡萄酒，白葡萄酒だ，また，ひとつ，ギリシャの酒のような甘いワイン，ヒポクラス，モントローズ，リュネィ，ベルナージュ，アルボワザン，アルザスのオゼイ，香料入りのクラレイ，その他手に入る限りの酒類である。そして又他の飲料，サイダーのようなもの，梨のサイダーや香料入りビールの甘いブラゴットなども持ってくる。その時，客の主人の前に角笛吹きやラッパ吹きがクラリネットやフルートを持って現われ，角笛やクラリネットを吹き鳴らす。すると客の主人，楯持ちたちは真夜中になるまで大いにしゃべり，踊り，踊りの組をくみ，身体をゆすりそして美しいキャロルを歌うのだ。このように騒いですっかり疲れ果て［f. 10^{v}］もうそれ以上踊れなくなると主人はまわりの優雅な友人たちに言う：「さあ皆さん，寝(やす)む時間となりましたよ。もう真夜中過ぎて一時に近い，だからさっさとやすみましょう。私は横になればもうぐうぐうですな」「ほら，ジョナン，恋人を部屋へ案内しろ，靴と服をぬがせてやりなさい。私が部屋に入ったら一緒に休むためにすっかり準備が出来ているように」そして客の主人はやってきて大満足で恋人と寝床に入り彼女に接吻をし，かき抱き，片腕を首の下に置いて彼女に対して親しく夫婦の間柄にあるやさしさと愛撫を与える。朝になると彼は非常に早く起きて部屋付きの者の名を呼ぶ：「ジョナンよ，まだ寝ているのか」「いゝえ，どういたしまして旦那様」「では何をしている」「旦那様，夢を見ているんでして」「目を覚ませ，悪魔と母親とにかけて，何でもよいから起きろ。昨晩お前に言い付けておいたように何故早く私を起こさなかったか」「旦那様，誓って申しますが，お起ししましたよ」「何だと！お前は喉の奥で嘘をついている，一体今何時なのだ」「御主人様，まだ朝早うございますよ」「そんな事はどうでもよい」〈あるいは〉「それはかまわん」〈あるいは〉「つまらぬことを」〈あるいは〉「それは関係ない。」「ほら，起きろ」〈あるいは〉「さあ，すぐ起きるんだ」〈あるいは〉「さあ尻を上げて朝食の支度だ。」

さて主人は起き出し，シャツを自分で着て，胴着と大きなコートを付け，靴を覆く。全部を身につけて [f. 11r] 準備がととのうと部屋の隅の窓の所へ行き手を洗う水を貰う。手を拭くタオルも，其処へ持ってくる。宿の女主人が現われこのように言う：「御客様昨晩は如何でございましたか」〈あるいは〉「昨晩お休みになれましたか」「あゝ結構でした。おかみさん有難う，しかし少々気分が悪くてね。沢山飲みすぎたし，夜ふかしをやらかしたから。ジョナンよ，櫛を取っておくれ，あの娘が髪をとかしつけてくれるだろう。馬に水をやり大麦とかいばをやるよう馬丁に言い付けろ。それからいきの良い魚をどっさり注文するんだ，鰻 anguilles に，やつめうなぎ lampreous，その幼魚 lamprals，生鮭 samon fraisse に塩鮭 et saleie，せたかうお bremes，にしひめじ roches，パーチ perches，舌びらめ soles，かれい pleiz，バーベル barbels，あさがおくらげ luces，鱈 leynge，鱒 treyte，河ひめます grepet，小鱈 cedeleynge，干鱈 merlankes，つのざめ butynge，塩魚 poisson saleie，ひらめ platoun，とげうお espineis，かじか魚 carbouel，きたのかまつか gojoun，ぼら mulet，塩鱈 muluel de mer，きゅうりうお espelankes，ちょうざめ estorjoun，ターボット turbiller，鱏 rais，食用テンダル tendal，くらげ geleis，かに crevis，めかじき rasours，鮫 chien de mer，葡萄酒漬いるか porpeis avec la puree，かき oistrez，紫貝 muscles，とりがい kochavon，にしん heranc blanc，燻製にしん heranc sor，それに，にしききゅうりうお esperlinge と小魚，その他の海の魚や河の魚も沢山にだよ。

この食事が全てととのうと客人は両手を洗い食卓に座る。食事を終えると女主人に次のような場所へ行く道を尋ねる：「此処からパリ近くのエタンプまでどのくらいあるのだね」「御客さん，ほんの10里ほどしかありませんよ」[f. 11v]「夜のうちに着けるかなあ」「えゝお客さん，勿論ですとも」「えーとさて，此処からオルレアンまではどの位だろうか，どの道を通ればよいかな」「旦那さん，エタンプの町を馬でずっと過ぎてゆき，サンロイの門の方へおいでなさいまし，そこから町を離れて半里ほど行くと道が二つありますよ。一つは十字架のある道で一つは細い道です。十字架を右手に見て，緑の一番大きな道をお進みなさい。それからシャルトルの森の方へ道をとるんです。そこへ着きましたらその後すぐにボーシャテル・レ・プレという町に近付きますよ。すると真直ぐにオルレアンにむかっている街道が見えます。横道にはそれません。それをお望みでなければですが—」「さあ，テーブルを片付けてさっそく馬に乗ろう，そこで泊る前にまったく暗くなるだろうから」さて客は女主人に暇を告げ，この言葉を言う：「奥さんではごきげんよう」「旦那さん，御幸せに御達者でいらっしゃいますように，なさること全てに御運がありますように，旦那様本当に御親切によくしていただいて有難うございます」〈あるいは〉「有難うございます旦那様，お目にかかった最初からずっと私共によくして下さった気取らぬ御親切，御心の広さに心から感謝いたします。いずれあなた様に御恩返しが出来ますように，まったくのところ旦那様，，大変有難く存じております」そこで客は馬に乗り恋人の娘に接吻し [f. 12r] 当座の費用にと30フランを渡してやさしく言う：「大切な連れ合いのいとしい恋人，又逢う日まであなたを神にお任せする。私はオルレアンに行き少々気晴らしをしてくる。長くはかからないよ」

そしてこの主は馬で道を急ぎ，町の中へやってくると最初に出逢う人に訊くのだ：「もしもし，あなた」〈あるいは〉「御主人」〈あるいは〉「御子息，今は何時ですかな」〈あるいは〉「時計が今何時を打ちましたかな」〈あるいは〉「いくつ時計が鳴りましたかな」「さあ，たしかに，よく分りませんが 10時を打ったんだと思いますが— というのは，ここのつを打ってから充分一時間はたってますからね」「御若い方，有難う，神のお守りを—」「御主人，神が良い機会と祝福を与えられ，あらゆる危険から守られますように」

Ⅳ．さて次は肉体労働をする労働者や農業に従事する者たちの話し方を述べよう。

小農園で仕事をする者が土を掘り溝を作る土木工事人にこのように言う：「おい，お前，実のところ今週はいくら稼いだのだい」「いやあ，実際，今週一ぱい土掘りをやり，つるはしや棒ぐいを使って深い溝を掘ったのに，たった12ドニエの稼ぎだったのさ」「それはひどい！少ないな」「じゃあ，親方言っとくれ，あんたはいくら稼ぎなさった」「そりゃお前さんには教えてやる。これまでお目にかかったこともないような見事なつぎ木の庭の樹全部にやってな，そいつらは青々としてきたぜ。も一つの庭は土を掘り起こして [f. 12^{v}] キャベツや葱，パセリ，セージ，それからほかの緑の香草をうまく植えたねえ，そいからそこのいらくさとか，しもつけそうとか悪い雑草をみんな引っこ抜いてきれいにし，種の良いのを沢山植えたんだがね，それからいろんな果物の樹，リンゴやら梨やらすももやら桜んぼやらくるみもそこいらきれいに剪定したってことよ。けどな，今週の稼ぎは30ドニエだけさ，いやしかし，先週も同じだけ稼いだから，まあ結構と喜んどるが」「まあ，そんなことはどうでもええ，今日この日手に入るものを稼がにゃ」「おや，あっちこっちの鐘楼で鐘が鳴ってるじゃねえか」「そうよ，明日はありがたい祝祭日だで。そろそろめしの時間だな」「その通りだ」〈あるいは〉「そうしよう」

そこで二人は食事をしようと連れ立って宿屋へ行く，宿につくとバターで味つけして脂ぎったベーコンと一緒に煮たキャベツ，ベーコンと白味も黄味もある殻つき卵が供される。二人は若僧は大層大食なので腹ぺこを早いこと満たすためにむしゃむしゃと噛みもせずに食物をのみ込む。さてすっかり食べ終ると飼犬のマスチフ犬に骨を投げてやる [f. 13^{r}] この恐ろしい犬はものすごい勢いで骨をかじる。犬共はお互いにふざけて戯れ始め，当然それは争いとなり，強い方が弱いのを地面に倒す。そうなると威勢の良い奴が相手に言う：「俺のマスチフの方がお前さんのより強いぜ，まあ犬は離して，我々も力づくで腕だめしをしよう，どっちかが地面に倒えるまでな」「俺達の方はやめとこうや，市場へ行って金槌と木槌を買うんでな。この前の時と同じ，先に降参した方がよいさ。あとは神だのみ，俺は行くぜ」

Ⅴ．また別の話し方。

小麦をふるいにかけて荒挽きと精選とをよりわけているパン屋が従弟の一人に言う：「ピエール，塩を取れ，すぐに水を汲んで大鍋に入れて火にかけるんだ。今夜は粉を捏ねてパン種のは入った9ブッシュルをベルボワさんとこのために焼くぞ。明日のサン・ミッシェルの祝日は御立派な奥方のギュネル様の御埋葬式さね，ベルボワの奥方様はこの前の聖十字架称賛の祭日にお亡くなりだ。」「親方，怒らんで下さい。両手に怪我をしちまったんで，ほんとに，水汲みができません」「何で又そんな怪我をしたのだ [f. 13^{v}] お前はわざとする悪い奴だ」「本当なんです。両手で剣を持ってだち公とふざけていた時，右手をグサッとやられ，手の平を切って骨にとゞと程なんですから，僕の言ってるのが嘘でない証拠を見て下さい。」「なんてこった！ばかなことをしたもんだ，こんなに怪我するまでふざけるとは。今はお前の手がいるんだよ，それなのにお前はぜんぜん役に立たん」「あゝ，それなら親方さん，心配ないですよ。治ってしまうまで僕のかわりの者をみつけますから」「本当にできるのか」「えゝできますとも，大丈夫です」「今にわかるだろ。しかしともかくこんな怪我をして困ったことだ，傷はかなり深いし，危いところだが，まあ元気を出せ。お蔭があれば直ぐにも治るだろう」

Ⅵ．今度は商人たちのもう一つの会話。

商人は年季奉公の見習いに言う：「ギョーム，どこにいるか」「御主人様，ここにおります」「私の所へおいで」〈あるいは〉「こっちへおいで」「旦那さん，はい只今」「お前は一体朝起きてからどこへ行っていたか。お前がちゃんとおったのなら私は朝から市へ出かけていたろうに，品物を売りに行こうと私

が起きたのをお前は知っとるじゃないか。今週は［f. 14r］お前にとって悪い週になるぞ，お前の馬鹿さ加減で今日はあきないを台なしにした」「何はともあれ，旦那さんが昨夜(ゆうべ)言い付けられた通りに，旦那さんの仕事をしてたのは御承知でしょう」「何を嘘を言う，身もちの悪いあばずれ娘たちと一緒にいたんだろ，錆びた鎌で顔でも切られるとよい。お前が馬鹿をやめぬなら，いづれはひどいことになるぞ」「とんでもない，そんな所にはいませんでしたよ」「お前は喉の奥で嘘をついておる。連中と一緒にいたのは分っている」「お願いです，そんなのじゃありません」「だまれ！悪魔にかけて！」〈あるいは〉「静かにせい，さもなくばこれから4日間身にしみて私を忘れんような平手打ちをくわせるぞ。本当だぞ，やって欲しいなら，たしかにやってやる」〈あるいは〉「うるさい」〈あるいは〉「さっさと出て行け」〈あるいは〉「ひどい目に逢うのが嫌なら口答えするな，これ以上つべこべ言えばお前はなぐりつけられて，3週間は私を忘れんようにしてやる。本当だからな，私は言うたことは絶対に守るのだ」「あゝ，おやさしい御主人様，すみません。お腹立ちのところをどうかお赦し下さい。［f. 14v］平身低頭お願いします。神かけて，もう決してあなた様に対し悪いことは致しません」「それでは行け，許してやる」「まことに有難うございます旦那様」

そこで奉公人は主人の品物を売るために市場へ行く。其処には様々の国から沢山の人が商品を買おうとやってくる。見習いはその人たちにむかって礼儀正しくこのように言う：「さあ皆さん，こちらへどうぞ。この町で御みかけになるのと同様上等の布を御覧に入れましょう。ほかのどの町でもできない良い買物ですよ。さあお客さん，みて下さい。如何ですか」〈あるいは〉「さあお気に召しますか。此処に上等の赤紫のとえび茶のが，ございます。ほかにえも言われぬあらゆる色がありますよ，お好みを選んで貰いましょう」そこで客の商人が言う「この緋色のひと巻きはいくらするのか」すると相手はこのように答える：「旦那，2000フランいただきます」「それゃ駄目だよ，あんた，そんなに払えると思うかい？このひと巻きで700フランは払うがねえ」「ねえお客さん，お見かけしたところ御立派で目がお高い。では一言，本当のところ言わしてもらいます。1500フランでどうぞ」「いやなかなか，どうあってもこれ以上は払えないね。それに，まだ高すぎる」「とんでもないです。旦那はちょつと手厳しい。しかし，いづれ又［f. 15r］今後も私の品をもっと買って貰えるでしょうから，では私の買った値でお願いします。つまり1200フランで…しかし今すぐお支払い願えるということで—」「さあ，それは心配しなさんな。神のお気に召せばすぐ支払うよ。支払い日を8月1日にしてくれんかね」「それはまことに，お気を悪くしないでいただきたいですが，そういうのはできません。私の立場がとてもひどい事になってもかまわん，というなら別ですが。貴方様の故で私がのっぴきならぬひどい状態になるなんて，そうなれば良いとはお考えじゃござんせんでしょう。と言いますのは，私は国の人たちに金を沢山借りており，それを今度のクリスマスまで借りている状態です。このために負債はあるわ，まさに祝祭日に支払うわという二重に重なった厳しい負目に縛られとります。ですから，その支払いを部分的に，あるいは全面的に怠るとすれば牢に入れられること請合いです。すっかり支払うと同意するまでは牢から出られませんや。そういうわけでして，旦那さん，心からお頼みしますよ，全額をすぐに払って貰いたいんです。もう待てぬという必要に迫られているんでして。［f. 15v］本当に旦那，この次は貴方様に喜んで同じ額をお貸しいたしますよ」「まぁ，あんた，そう興奮せずに。では金の半分を払おうじゃないか。残り半分はだね，来たるクリスマスの聖ペテロ祭に耳を揃えて支払うという義務をまちがいなく履行しよう」「そうすると言われるなら私も結構です。何としても引き延ばされるより今すぐ私の必要額を支払って欲しいんですが。しかしこれ以外にできんのでしたら，支払い日をお待ちするしかありません」さて，見習いが，買い手と全てを取り決めると次のように言う：「お優しいお客さん，それではこの品はお渡しします。本当に旦那さんは私が買った値段でお買いになりましたよ」〈あるいは〉「やれやれ，私が払ったと同じ値でお客さんは品物を手にいれましたね，さあ商品をお持ち下さい。それが私のものになる筈の利ざやを願わ

くば儲けられますように」「これはこれは親切に有難う。私があと二年このままで行けば，あんたの親切は無駄にはなりませんよ。お蔭があれば，私はお前さんに報いますからね」「旦那さん，[f. 16r] 神の御加護を」「では，親切なお若いの，神がお守り下さるように。」

*　　*　　*　　*　　*

La Manière de Langage と呼ばれているフランス語の教本は14世紀後半にイングランドにおいて作成されたもので現在数種の写本が現存している。フランスの習慣や言葉の使い方に従い，美しいフランス語を正しく話し，正しく書くように 'droit parler et écrire doulz français' と，教えるものである。すなわち Manière は会話とフランス語の書き方教本といえる。Manière を作成したのはイギリス人であろう，しかし名も不明である。教本の後半になって Kirnyngton という名が現われるがこれは写字生の名であろうと見做されている。see : Paul Meyer, La *Manière de Langage qui enseigne à parler et à écrire le* français : Modèles de conversations composés en Angleterre à la fin du xive siècle, et publiés d'après le MS. du Musée Britannique Harley 3988, Paris 1873. p. 373

作者はフランスに滞在したであろうし，当時のフランスの日常的な社会事情にも詳しいようであるが，この時代の他の「フランス語教本」にも見られる如く，アングロノルマン語の特徴がこの教本の中に散見される。文章にも英語の表現法をそのまゝフランス語に直訳した言い回しが現れる。例えば，pourquoi のかわりに英語の why をそのまゝ訳したような quoi が続出するし，il est bien temps のかわりに *il est haut temps* (it is high time) と言い，combien は *quant bien* (how much) となり，surveiller のかわりに *surveoir* (survey), Aportez nous bientôt のかわりに *Aportez nous une fois* (bring at once) と言う。また，綴り方が定まっていないという面も大いにあるけれども日常に用いる用具の名や，御馳走に供せられる魚の名前などには大陸フランス語に現れない綴りや表現が頻出し，訳者を大いに悩ませる。これらは当時のイギリスの美しく，正しいフランス話なのであろう。

会話の主題はもちろん日常の関心事におかれてある。現実に生活する人々に役立つためのフランス語であるから，生々しく，活気溢れる人たちの息づく生活の断片が我々の目に飛び込んでくる。主(あるじ)が従僕や召使いをどのように叱責するか，そして召使いはどのように答えるか，という状況や，お大盡様の旅の遊興，職人たちの些細な楽しみ，それに商売の売り方，買い方の巧妙なかけひきが面白おかしく語られる。面白くなければ言葉は覚えられない，と言ったのはラブレーであったか。

文法教本と合わせてこのような話し方，書き方のマニュアルをつけておくという事も当時は行なわれたようだ。イングランドで incunabula が出回るようになるとラテン語で解説をほどこした英語の文法書が書かれるようになる。*Grammatica nova Anglicana* と呼ばれるものであるが，それら英語文法教本には Manière を模倣したらしい Dialogue も付してある。曰く，道を尋ねる場合，宿屋で宿泊する場合，品物を売買する場合というような状況設定で会話文が続いている。しかしこれにはフランス語の Manière に見られるようなふざけたところがみられない。Manière に現われる雰囲気はガルガンチュアやパンタグリュエルの世界へとやがて通じてゆく様相を呈しているが，ひとたび一つの主題について話し始めると際限なく陳述が続くという手法は英会話本には現われない。イギリスらしいと言おうか会話の全てが上品にとり澄まして仕組まれている。フランス語の会話教本と，それらを手本として作成されたような英語の会話教本を比較研究することも，彼等の現実的な趣味嗜好を知る上で興味ある問題である。

上述の Paul Meyer は BL MS 3988 (13cm×21cm 15世紀) に書き残されている *Manière de Langage* (1r—24v) を転写し，*Revue critique d'histoire et de littérature* xii, 1870. pp. 373—408に掲載した (offprint 1873)。筆者は Meyer の主題分けに従ったところの 1 — 6 番を翻訳したのである。MS 3988

に収められている *Manière* は26^{v} まで続く。27^{r}—67^{v} は Oxford で教鞭をとっていた Thomas Sampson の教材，書簡集の写しである。Sampson は business training の講座をうけもっていたのであるからこの *Manière* のごとき会話教本も副読本として用いたかもしれない。67^{v} で写本は綴じる。1879年，E. Stengel は Oxford All Souls College MS 182の *La manière de langage* ff. 314^{r}—315^{r}を *Zeitschrift fiir neufranzösiche Sprache und Literatur* I. pp. 1—12に Harley 3988の variants と共に発表した。"Die ältesten Anleitungsschriften zur Erlernung der französischen Sprache" が表題である。All Souls MS 182 314^{r}—315^{r} は Meyer が転写しなかった BL Harley 3988の25^{r}—26^{r} にあたる。MS 182は MS Harly 3988の *Manie*re に酷似していると言ってよい。Stengel は，すなわち Meyer が転写を残した 25^{r}—26^{v} に相当する All Souls MS 182の個所を翻字したのである。筆者はここで All Souls MS 182をとりあげ，Stengel が転写を残した 316^{r} までを転写し終えることとした。会話は読み易いように改行してある。

Anglo-Norman の特徴を示す語，句，については注解を付した。*Anglo-Norman Anniversary Essays* edited by Ian Short, *Anglo-Norman Text Society* occasional publication series No 2, London, 1993 pp. 149—157に掲載された論文であるので注解は英文を転載する。

尚，M*anière* の更なる continuation は All Souls MS 182 372^{r}—373^{r} にあらわれる。筆者の知る限りでは現在も inedited の状態である。

The All Souls Continuation of *La Maniere de Langage*

Text

Oxford All Souls College MS 182
ff. 314^{r}—316^{r}

[I]

"Mon tres gentil sire, Dieu vous beneit! [314^{r}]
——Mon tres doulz amy, je pri a Dieu qu'il vous donne bonne encontre. (*vel sic*) Sire, Dieux beneit et la compaignie!
——Beau sire, dont venez vous, s'il vous plaist? (*vel sic*) De que part venez vous, mon tres doulz amy, mais qu'il ne vous desplaise?
——Vraiement, sire, je vien tout droit de Venyse.
——He! mon amy, c'est une ville de Lumbardie?
——Oil, vraiement, beau sire, si est.
——Par mon serement, mon tres gentil sire, j'en ay grand joy de vous que vous estez si bien travaillé, depuis que vous estez si jones, car je pance bien que vous n'avez pas encore xxx. ans.
——Si ay je vraiement et plus. Mais pour ce que je sui bien sains et joliet ou cuer, la Dieu mercy, l'en me dit que je sui plus jones que je ne sui pas.
——Ore, sire, est Venyse une belle et grande ville?
——Oil, vraiement, sire, c'est la plus bealle ville et la plus noble port qui soit en tout le monde, si come m'a l'en dit en cel pais la, qui out travaillé partout.

. . .

Et de que pais estez vous, beau tres doulz amy, mais qu'il ne vous desplaise?

——Vrayement, sire, je sui de France.

——Et de que ville, s'il vous plaist?

——De Parys, sire. (*vel sic*)

En que pais estiez vous nee, beau sire, s'il vous plaist?

——Vraiement, sire, je fu nee ou roialme de France.

——En que ville, beau sire?

——En Parys, sire, si Dieu / m'ait. [314^{v}]

——Vraiement, sire, je vous en croy bien, car vous parlez bien et gracieusement doulz franceis. Et pour ce, il me fait grand bien et esbatement ou cuer de parler avec vous de vostre beau language, car c'est la plus gracieus parler que soit ou monde et de tous gens mieulx prisee et amee que nul autre. Et coment vous est a vis, beau sire, de tres bealle citee de Paris?

——Vrayement, sire, il m'est a vis que ne vi oncques mais jour de ma vie si belle citee come ce est, toutes choses acompteez, car il en y a tant de si beaux chasteux, si grans forteresses et si haultes maisons et fortes, et que sont si honestement apparailliez que, si vous les eussiez veu, vous en seroiez trestout esbahiz.

——Vraiement, sire, il peut bien estre veritable ce que vous ditez. He! pleust a Dieu et a la Vierge Marie, mon tres doulz amy, que je seusse si bien et gracieusement parler franceis come vous savez, car vraiement j'en feusse doncques bien aise a cuer.

——Par Nostre Dame de Clery, je vouldroy que vous seussiez.

Mais toutesvoies, vous parlez bien asses, ce m'est a vis, car je pance bien que vous y avez demouree grand piece, depuis que vous parlez si bien et plainement la language.

——Par saint Pol, sire, je n'y fu oncques mais.

——Et coment savez vous parler si bien donques?

——Vraiement, sire, si come je m'ay acoustumee a parler entre les gentils de ce pais / icy.

——Seinte Marie, j'en sui bien esbahis coment vous le pourrez aprendre en ce pais, car vous parlez bien a droit hardiement.

——Save vostre grace, beau sire, non fais.

——Par Dieu, si faitez aussi bien et gentilment come se vous eussiez demouree a Paris ces vint ans, car vraiement je n'oy oncques mais Englois parler françois si bien a point ne si doulcement come vous faitez, ce m'est a vis toutesvoies.

——He! sire, je vous remercy de ce que vous me prisez plus que je ne sui pas dignes. Toutesvoies et pour ce, je sui tousjours a vostre gentil comandement en quanque je pourrai faire pour l'amour de vous.

——Et vraiement, beau sire, vous estes tres bien venu en ce pais. (*vel sic*) Et par m'ame, sire, vous estez tres bien venu ciens.

——Grand mercy, mon tres gentil sire, de vostre grand gentilesse et courtoisie.

Beau sire, feustez vous oncques mais a Rouan en Normandie?

——Nonil, vrayement, sire, je n'y fu oncques jour de ma vie, mais j'ay esté autre part en beaucoup de lieux, a Tours en Toureyn; j'ay esté au Bloys, a Chartres et a Aurilians aussi bien.

——A! Aurilians. Sainte Marie, c'est bien lonis de cy, car c'est bien pres au bout de la monde, si come nen dit en ce pais icy.

——Vraiement, sire, ils sont bien fols qui le cuident, car c'est ou mylieu du roialme de France.

——Est Aurilians une beau ville?

——Oil, sire, si Dieu m'ait, la plus belle que soit ou roial/me de France aprés Paris. Et aussi il en y a un grand estude des loys, car les plus vaillanz et les plus gentilx clers qui sont ou cristiantee y repairent pour estudier en civil et canon.

——Mon tres doulz amy, je vous en croy bien, mais toutesvoies j'oy dire que l'anemy y apprent ses desciples de nigromancie en une teste.

——Pas voir, par saint Jaques. Toutesvois, il y avoit jadys un Englois qu'estoit fort nigromancien qui est a nom Colyn T., qui savoit faire beaucoup des mervailles par voie de nigromancie.

——Sire, ce n'est pas chose creable, mais qu'il ne vous desplaise, car je say bien que n'y fut oncques mes estude de tel fatras. Mais j'oy bien dire que souleit estre entre les Espaniols mescreans.

Et pour ce, ne le croiez mie.

——Sire, je vous croy bien.

——Ore, alons boire, sire, s'il vous plaist.

——Grant mercy, beau sire.

——Bevez a moy, sire, je vous em pri.

——Vous comencerez, s'il vous plaist.

——Pur Dieu, non ferai."

Et puis dit l'autre, quant il a bu: "Sire, grand mercy de voz grans biens et despenses. (*vel sic*) Grant mercy de voz biens.

——Il n'y a de quoy, beau sire.

——Si est vraiement, car se je vous pourrai jamais veoir en mon pais, je vous rendrai bien la grand gentrise que ore m'avez fait par la grace de Dieu.

——Ore, je recomande a vous et je pri a Dieu qu'il vous donne santee et paix.

——Mon tres gentil sire, a Dieu vous comande et vous donne bon/ne vie et longe." [315r]

[II]

De parler entre compaignons qi demourent ensamble en un hostel, quant il se devent aler coucher.

"Guilliam, avez vous fait nostre lit?

——Nonil.

——Vraiement? Vous, bien meschant, que nostre lit est encore a faire. Sourdez vous le cul e alez vous faire nostre lit, je vous em pri, car je vouldroy estre endormy, (*vel sic*) car je dormisse tres voulantiers, se je feusse couchee.

——He! beau sire, me laissez vous chaufer bien les piés premerement, car j'en ay grand froit.

——Et coment le pourrez vous dire pour verité, quant il fait si grand chaut?

——Alumez la chaundelle e va traire de vin, se vous vueillez, car je ne me bougerai ja.

——Qu'il le meschie que vous en donnra a boire, car je m'en irai querre du vin pour moy mesmes e pour Johan, e par Dieu, se je puis, vous ne bevez mais huy, a cause de vostre malvaise voulantee.

——Vraiement, Perot, vous estes bien malvais. Je pri a Dieu qu'il vous meschie.

——Teis toy, senglant, hideus garçon, vilain mastin, meschant paillart, cornart qui te es, ou tu en avras des horions, que tu les sentiras de cy as quatre jours."

Doncqs, il lui donne un bon buffe sur la jouue, ainsi disant: "Dieu met toy mal an quoy me respondiez vous ainsi!"

Et l'autre se comence a plorer e dit:

"Je pri a Dieu que tu peus rumpre le col avant / que tu t'en iras hors de ciens, ou bougeras de ciens.

——Par Dieu, il te feust mieulx taiser, si ques tu n'as plus de damage.

——Vraiement, je ne suffrerai ja plus estre batu de vous. J'amasse mieulx encore demourer la ou nul me cognoissoie qu'a rester plus longuement icy.

——He! Guilliam. Ne vous chaille! Je ne vous ferai ja plus de mal.

——Ore, buvons nous tost et alons coucher!

——Guilliam, ou alez vous?

——Je m'en vais amont.

——Beau sire, je vous em pri que vous couvrez le feu par moment, et oustez ces busses et tysons tost, e boutez les carbons e les breis ensamble, e mettez dessuz les cendres. E puis nous en irons coucher."

Et puis aprés, ils s'en vont a leur chambre amont. Et quant ils seront la, l'un demandera a l'autre ainsi:

"Ou est Briket le petit chien, e Florette la petite chienne?

——Je ne say my ou Briket est devenuz. Mais toutesvoies, Florette s'en est couchee aval dessoubz les chesnes qui gisent ou jardyn.

——Guilliam, deschaucez vous tost e lavez voz jambes, e puis les ressuez d'un drapelet e els frotez bien pour l'amour de puces, qu'ils ne se saillent mye sur voz jambes, car il y a grand coup gisanz en le poudre soubz les junx."

Et puis il s'en vait coucher. Doncques dit il a l'autre:

"Traihez vous la, car vous estez si froit que je ne puis pas endurer que vous me touchez point. Et dormeons, par Dieu, car j'en ay grand mestier, a cause que j' [315ᵛ]

ay veillez toutes ces / deux nuys passez sanz dormir.

——Que, dea ! vous estez bien chaut, ore que vous suez si fort !

——He ! les puces me mordent fort e me font grand mal et damage, car je m' ay gratee le dos si fort que le sanc se coule. Et pour ce je comence a estre roignous et tout le corps me mange tres malement. Et pour ce je m'en vai demain pour estre estufee sanz plus targer, car j'en ay tres grande necessitee.

——He ! Guilliam, que vous estez bien suef de corps. Pleust a Dieu que je fus si suef et si nette come vous estez !

——He ! Perot, ne me tuchez point, je vous em pri, car je sui bien chatilleus.

——He ! Guilliam, je vous chatoillerai tresbien.

——Doncques, par Dieu, beau sire, finez vous, car il est hault temps a dormir.

——Mais huy, par l'amur Nostre Dame, toutevoies c'en fait mon.

——Ore, ne parlons plus doncques, mais dormons fort et estraingnez la chandelle.

——Guilliam, Dieu vous donne bonne nuyt, e bon repos a moy aussi !

——Quoy ? Ne dions nous noz orisons, si come nous sumez acoustumee ?

——Il ne me souvenoit point.

——Ore, nous dirons. *De Profundis* en louent de Dieu et de Nostre Dame, la benoite Vierge Marie, sa tresdoulce Mere, et de tous les sains de paradis, et pour les ames des trespassez que, la mercy de Dieu, attendant ou paines de purgatoire qu'ils pourront le plus tost estre relesseez de leur paines a cause de noz prieres, et venir a la joy par/durable, laquelle joye Dieu, qui maint en Trinitee sanz fin en cel eire delectable et nous rechata de son precieux sanc, de sa grande misericorde et pitié nous ottroit en la fin, s'il lui plaist ! Amen."

[III]

Mon tres cher et tres honuré seignur, ore, Dieu en soit regraciez, j'ay achevee cest traitis al reverence et instance de vous. Et a mon esciens, je l'ay traitee e compilee si come j'ay entendu et apris es parties dela le mer. Et se j'ay parlé en mainte lieu oscurement et nient escienteusement fait cest busoigne, je vous en supplie de vostre gentilesse, et tous ceux qui cest livre en remirent, de m' avoir escusee, car, combien que je ne sui pas le plus escienteux a parler et escripre doulz franceis ou romance, neantmeins je l'ay fait selon ce que Dieux m'a livree grace, raison, sens et entendement. Et vraiement, mon tres doulz sire, s'il soit bien a point a vostre plaisance, j'en ay tres grand joye et leesce ou cuer, entendans, s'il vous plaist, treshonuré seignur et mon tres doulz amy, que je sui et tousjours serai a vostre gentil comandement de faire voz plaisirs en tous bons poins et honestes, sanz enfraindre heure.

Et Dieux me donne grace, s'il luy plaist, que je vous pourrai rendre, ou temps a venir, du bien et de l'onneur pour les grans biens, naturesses et courtoisies que vous m'avez fait et mustree sanz le mien desiert, / et encore, s'il Dieu plaist,

come j'ay esperance de vous. Et je pri a nostre doulz Seignur Jhesu Crist q'il [316r]
vous donne bonne vie et longe, et vous en donne santee et paix as toutzjours
mais. Escript etc.

———————————o———————————

Among the linguistic features of the text we may note the following graphies: *que* (=*quel*) 5, 21, 24, 26; *jouue* 133; *busses* (=*busches*) 148; *junx* (=*joncs*) 159; *desiert* 213. *Louent* 186 is presumably a variant of *loenge*. Loss of final *-e* occurs at 10, 80, 124, 133, 134, 154, 191; it is added spuriously in *mainte lieu* 199. *Breis* 149 is no doubt for *braises*. Masc. forms such as *nee* 26, 27, *achevee* 196, etc. are widespread. Adventitious *s* is found on *des* 88. Final *-s* is replaced by *-z* on 2nd-pers. pl. verbs: *ditez* 43, *estez* 11, 67, 161, 171, *faitez* 61, *feustez* 69, etc. Examples of the interchange of *la / le* are to be found at 18, 33, 50(masc.), 159, 198(fem.). *Qui / que* are also interchanged: 33, 39, 87, 131, 189.

Of note morphologically is the small number of analogical fem. adj. and pron.: 17, 39, 170, 191. *Une beau ville* 78 is exceptional (but cf. 82, 133, 189, 196). *De le monde* 75 is a graphically re-expanded form. *Ou* representing *en*+*le* is found at 15, 32, 77, 155, 206, 211 (cf. 81, 189). *Nen* 75 for *l'en* is not unknown in Anglo-Norman. Traces of the declension system survive at 12, 15, 16, 55, 63, etc. Notable verbal forms include *est* 87 (=*eut*?), *cognoissoie* 141 and *estraignez* 180 (for *esteignez*?). *Beneit* 1, 3, *meschie* 124, 129, and *ottroit* 194 survive as pres. subj. forms.

Syntactically, there are two examples of reflexive verbs construed with *aveir*: 53, 167 (cf. *estre froit* 161 and *estre chaut* 165). *Pas* is on two occasions attracted by an explicative *ne* in comparatives: 16, 63. *Ne* after negative *nul* is apparently lost at 141. *Point* is used positively at 162. Examples of partitives are: 122, 125, 211. We may note the strong pronominal form preceding an imperative at 157 (cf. 134). The interchange of sing. and pl. 2nd-pers. verbs is attested at 122. *Je vouldray estre endormi* 116 is of note, as is *je vous en supplie···de m'avoir excusee* 200-1. Examples of tense usage in hypothetical clauses are: 40-41, 103-4, 116-17, 205-6, Impf. subj. are found at 43, 44, 45, 47, 59, 138, 140, 171, 172. Indicatives seem to be preferable to subjunctives at 136, 138, 190, 202. Among prepositional uses we may note *Bevez a moy* 96.

Idiomatic phrases include: *il est hault temps a dormir* 176-77, *par moment* 147, *grant coup* 158, *sanz enfraindre heure* 209, *c'en fait mon* 179(=?). Lexically we may note two examples of *travailler* in the sense of 'travel' at 11 and 20, and the following items: *roignous* 'flea-bitten' 168 (cf. *AND* 662a), *estufer* (=*estuver*) 'to take vapour bath' 170 (*AND* 285a), *eire* 'place' 192 (*AND* 19a, 204a), *escienteux* 'skilled' 202, *escienteusement* 199, *franceis ou romance* 203, *naturesses* 'kindlinesses' 212, *gentrise* 'civility, generosity' 104, *horions* 'blows' 131, *chatilleus* 'ticklish' 174 (not in *AND*), *teste* 'text' 85. *mange* 'démange' (cited in Godfroy).

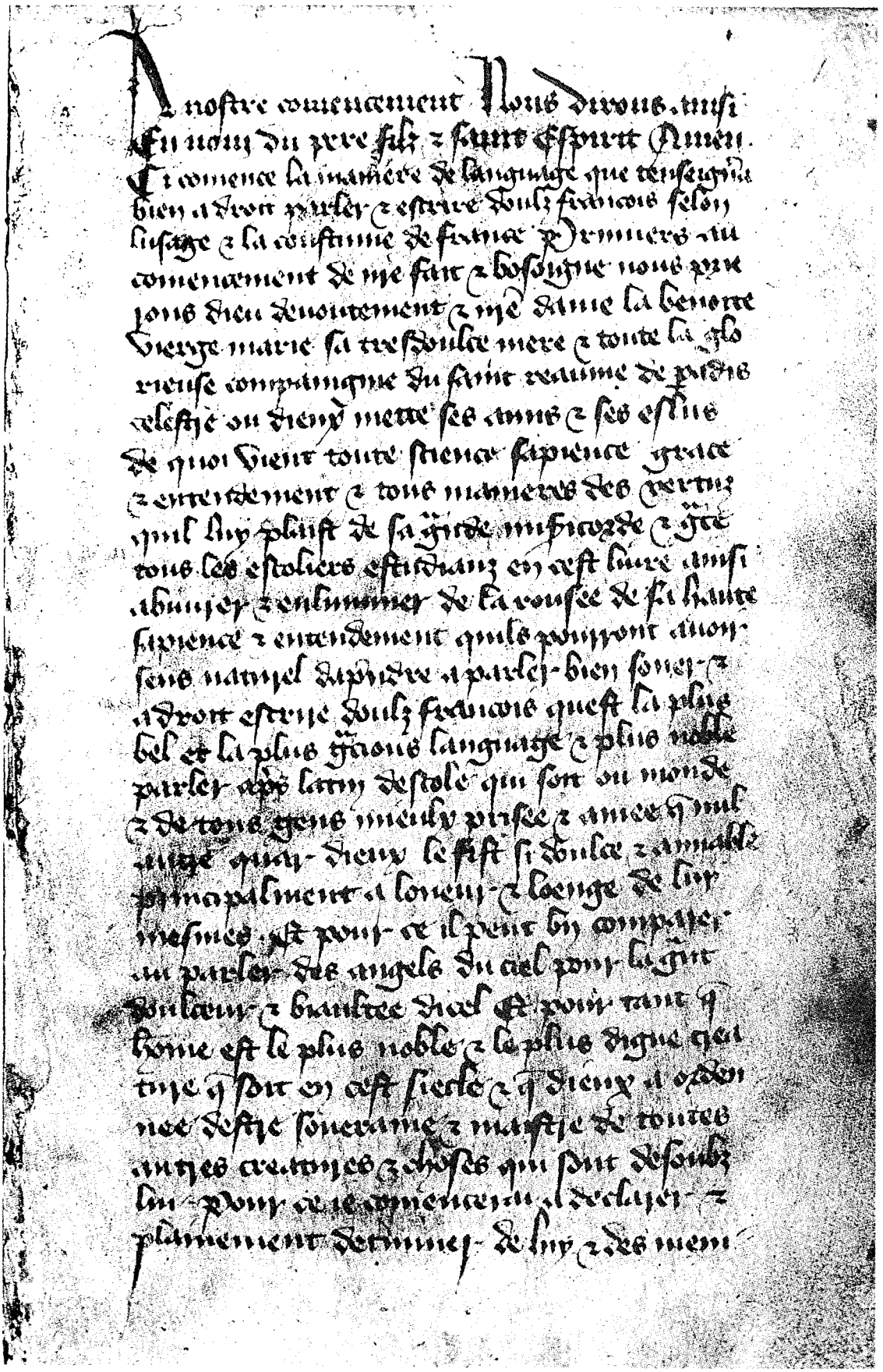
(AND) *Anglo-Norman Dictionary*: The Modern Humanities Research Association FASCICLE 1-7.

La Manière de Langage

British Library MS 3988

ff. 1^{r}-16^{r}

1r



A nostre comencement Nous dirons ainsi
En nom du pere filz et saint Esprit Amen.
Ci comence la maniere de language que tenseigne
bien a droit parler et escrire doulz francois selon
lusage et la coustume de france Premiers au
comencement de nie fait et bosoigne nous prie
jons dieu devoutement et nie dame la benoite
vierge marie sa tresdoulce mere et toute la glo
rieuse compaingnie du saint reaume de paradis
celestie ou dieux mette ses amis et ses eslus
de quoi vient toute science sapience grace
et entendement et tous manieres des vertuz
quil luy plaist de sa grande misericorde et grace
tous les escoliers estudianz en cest livre ainsi
abuvrer et enluminer de la rousee de sa haute
sapience et entendement quils pourront avoir
sens naturel dapendre a parler bien soner et
a droit escrire doulz francois quest la plus
bel et la plus gracious language et plus noble
parler apres latin descole qui soit ou monde
et de tous gens mieulx prisee et amee que nul
autre quar dieux le fist si doulce et amiable
principalment a loneur et loenge de luy
mesmes. Et pour ce il peut bien compaier
au parler des angels du ciel pour la grant
doulceur et biaultee dicel Et pour tant que
home est le plus noble et le plus digne tie
tuie que soit en cest siecle et que dieux a ordon
nee destie souveraine et maistie de toutes
autres creatures et choses qui sont desoubz
lui Pour ce ie comencerai a declaier et
plainement determiner de luy et des mem

bres de son corps et de toutes autres choses et
necessaires qual luy appartiennent ou auiennent
Et fait a remembrer que home est diuisee en
douze parties al maniere et guise de douze
signes du ciel que les gouuernent come dit
le sage philosophre Et les signes ont grant
signeurie et dominacion de les membres susdis
quant la lune seja en aucun de eaux accor-
dant au son membre Et sachiez mes tres
doulz amis que home est une arbre bestour-
nee cest a dire lescot et les racines du quelle
sont versees contre mont et la sumite auec
les ramisiaux en aual. Ainsi est la teste dome
quest la plus haulte et principal partie de lui
quest rassemblee a lescot de larbre et les chi-
neux a les racines Et fait a sauoir quil en a
biaucop des membres come la front les oreil
les yeulx les paupiers les cilles les sincilles
le nase les naimes la tendion les iouues la
bouche les lieures les dens la langue la
menton la gorge le col le vendon les es-
paules le blazon les asselles les bras les
mahutes les coubtes les mains les deis
la paulme les ongles les iointes la poi-
trin les mameles les coustees les costes
les flans le dos les os lesthine le ventre
lombril le penil le vit les tueillons le tul
les hanches les queses la leue les genoil
les les iambes le gaiette le assuie la che-
uille les pies le talon les artols la plane
du pie. ¶ les entrailles du corps. le ceruel.

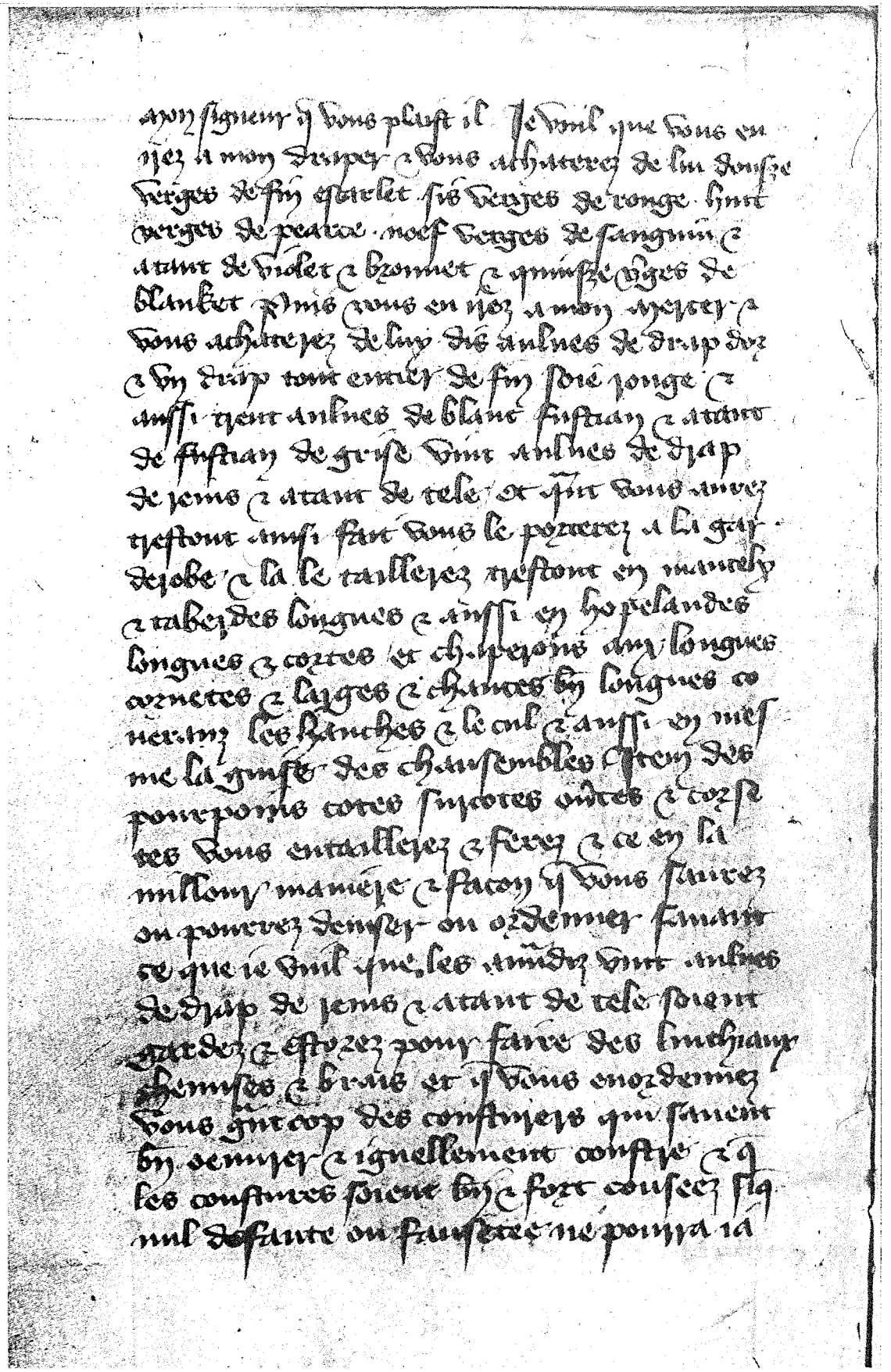
MVSEVM
BRITAN
NICVM

2r

2

le gorger · le corps · le cuer · le faye · le polmoun
lesplien · les boeaux lestomac · les veines
les nerfs · la jate · le fiel · les reignons · les
joynes · la vessie · la pel · avecque les quatre
humours cest a savoir · colre · sang · flemme
malencolie ¶ Ore je vous demeurai les cho
ses necessaires au homme et la maniere du pailer
ffait le signeur de lostel a un chevalier ou
a un escuier · a un varlet ou autrement a
un de ses varletons ou garcons · me faitez
venir devant moy mon gardejober et ditez
lui quil viegne tantost · Voulantiers mon
sr a vre comandement · Et apres son escuier
sen ira au gardejober et lui dira ainsi tout
courtoisement · Guillm mon amy dieux
vous ait · vel sic · dieux vous avance
mon tresdoulz compaingnon bien soiez venu
Vuillez vous riens que je puis faire · Oil
dea · mon sr vous comanda de lui venir
tantost car je sai bien se vous demourez
guaires il sera bien marri de vous · Et pour
ce ne vous arestez mye mais avancez vous
sur vre chemyn · Savez vous riens que lui pleust
non il si dieux mait · mais je pense
bien que vous en irez ja · Mes devant midi
pour achater des dannees a loeps de
mon sr · Doncques venra le gardejober
a son sr on toute le hast quil peut et lui
dira tout honeurablement en cest ma
niere · mon sr a plaist vous · vel sic

2v



mon signeur q vous plaist il Je vuil que vous en
yez a mon draper et vous achaterez de lui douze
verges de fin escarlet six verges de rouge huit
verges de pearce noef verges de sanguin et
atant de violet et brunet et quinze verges de
blanket puis vous en yez a mon mercer et
vous achateiez de luy dis aulnes de drap dor
et un drap tout entier de fin soie jouge et
aussi trent aulnes de blanc fustian et atant
de fustian de grise vint aulnes de drap
de jeins et atant de tele et quant vous aurez
trestout ainsi fait vous le porterez a la gar
de jobe et la le tailleiez trestout en mantely
et tabeides longues et aussi en hopelandes
longues et cortes et chapeions aux longues
cornetes et laiges et chaunces bien longues co
veranz les hanches et le cul et aussi en mes
me la guise des chausembles Item des
pourpoins cotes suicotes ouvertes et corse
tes vous entailleiez et ferez et ce en la
millour manieie et facon q vous saurez
ou pourrez deviser ou ordenner savant
ce que ie vuil que les aumundiz vint aulnes
de drap de jeins et atant de tele soient
gardez et estorez pour faire des linchiaux
chemises et brais et q vous enordenniez
vous grant cop des coustureis qui savent
bien oeuvrer et ignellement coustre et q
les coustures soient bien et fort cousees si q
nul defaute ou fausetee ne pourra ia

3r

3

estre trouvee en leur bosoigne quar il leur
sera grant honte se les coustures feussent tost
apres decousees pour defaute de bon ouvrage
Et pour tant que ie ne suis mye bien pourveu
de menage et dautres choses quapartiennent
a mon estat quant a present a cause que ie
suis de nouvelle venu a cest hostel Je vuil
que mon pourveour les fera achater cest
a savoir premierement pour ma cham
bre daes bien espes et aussi de pesas pour
mon lit et quant ils seront achatees Je
vuil quil fera venir ciens le quarreour ou
le joignour pour appareiller ioingdre et faire
les aes de mon lit et apres de bouter le paille
dedans les aes Et puis apres mon pourveour
sen ira pour achater un lit avecque les
appourtenances cest a dire un cousture une
testie avec la sileure et les cortines et une
sarge deux pair de linchiaux dont lun
pair sera de drap de iems et lautre de
tresbone tele deux blanketes une keulte
ou une kentepoint deux oraillers avec
un long coissyn et un fort canevas de
chanvre Item pour la sale il luy faut a
chater pour la haulte desse un grant dosseur
avecque les tapis bankeurs quarreaux
tables briches table pour hanapes bankes
chaiers fourmes scelles aes bacins chauf
foiers un yaumier pendant Et pour la
boterie napes tonnailles longres tasses

3v

dargent · gobles madres terrins plas escuelles
sauciers et cuilleis tout de fin argent Item
pour la cusine dressoueis · pos daiem pael
les troipies grailles hastes crockes et leche
fris de fer · soufflettes cackes et sielx pour le
puis Ainsement pour tens dyner asses
de boais Item il coment parler a mon cor
delbaner de me faire auoir une douzaine
pair de solieis escoletez et partuseez et trois
pair solieis escorchez et pour mes charioteis
cinque pair solieis ou deux noeans Aussi
ie vuil que mon pourveoir achate contre
le feste de pasques floree prochain qui vient
pour ma propre bouche quatre touelx de
bon vin vermaille et ce du millour qui pourra
estre trouuee en tout ce pais car adonc
ques ie feiai vn grant mangerie Ore ie
vous moustreiai coment vn home chmal
chant ou cheminant se doit contenir et
parler sur son chemin qui vieult aler
vn louis hors de son pais Et primeie
ment le sr parlera a son varlet ainsi
deuant son aler Janyn ou Jehan · Ja
ques Pierre · Perin ou Perot · Pol · Guillm
ou Guillmot vien ca vien vel sic venez
ca / mon sr Je vien a vous iendrois en
tout quanq ie me puis auancer Delui
te doncqs Jany va mener mes chmalx
au forge pour ferrer sil en est mistier et
quils euaient de bons feis et fors et bien
forgez mon sr il sera fait Et puis le

41r

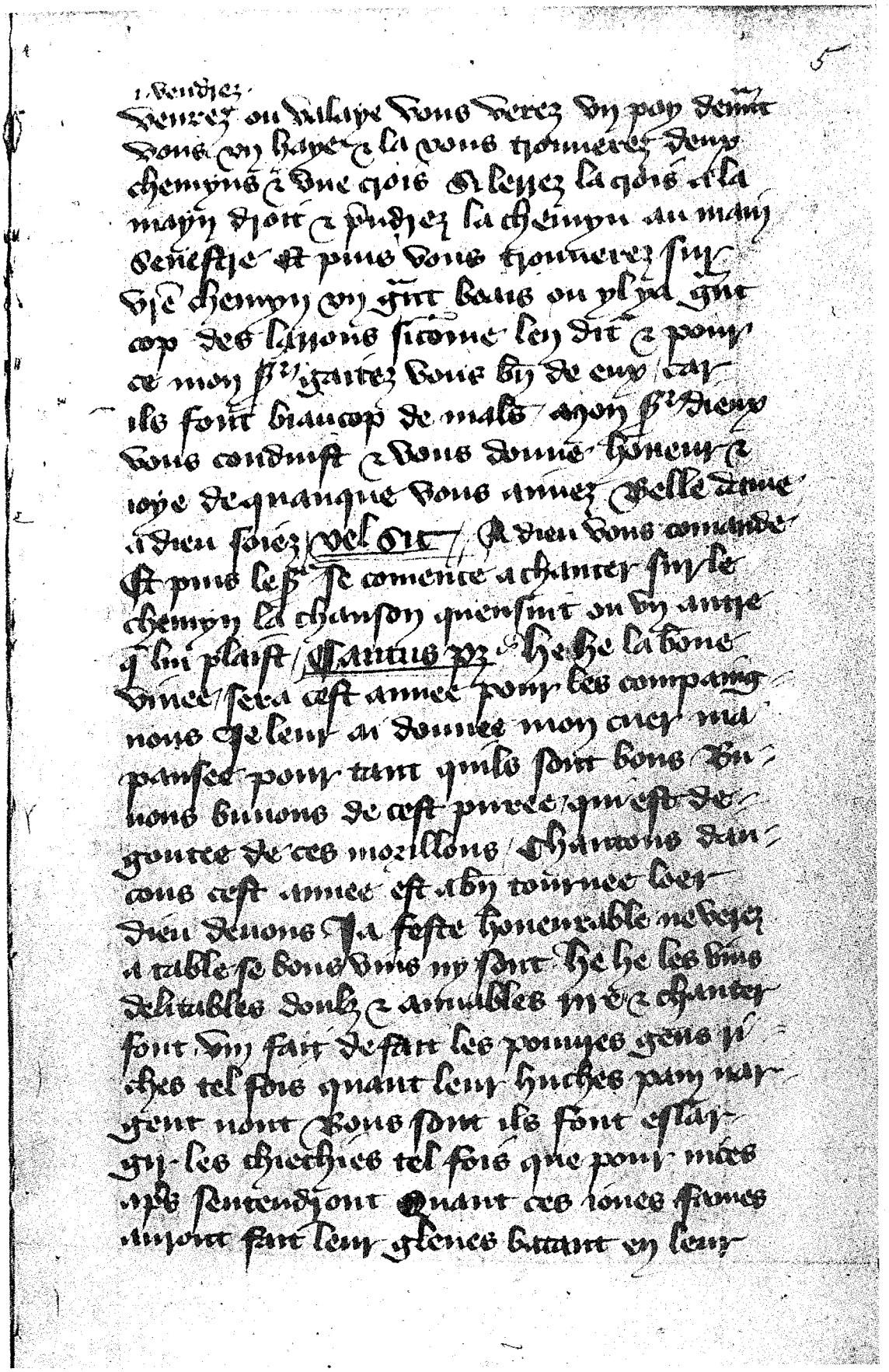
4

varlet sen vait au forge ou les chivalx et fait
le comandement de son s^r. Et sitost que le
varlet sera revenu du forge le s^r lui par-
lera ainsi. Janyn as tu fait. Oil vraiement
mon s^r vel ric. Oil sire tresbien a poynt
Ore va tost et les donnez du fein davenes
et du pain quar sitost que iay desuinee ie
me chivalcherai sur mon chemyn et par
aventure ie ne revenrai en piece a cause
que iay biancop a faire en les parties de
prouvice. Janyn mettez la table tost car
il est hault temps daler dyner. Voulan-
tiers mon s^r. Et puis sen vait a mettre
la table et de le couvrer du nape et longre
bien honestes et apres il apporte les faleys du
seel et les voirs mi plains dyaune et les
mette sur la table. Et puis sen vait querre
du pain non pas chaufmosee mais du bon
pain levee et alis aussi bial et blanc comme
len peut trouver en tout le monde et
aussi du vin vermaille claret et blanc
bien gracions et amiable a boire. Doncques
demandera le s^r a un de ses escuiers ou
dun autre que luy plera tresgracieusement
en cest maniere. Janyn mon amy alez
vous a cusine et la demandez se la viande
soit encore prest. Mon s^r il sera fait a
vre comandement. Et puis il sen vait
parler a le cusinier de le surveoir et
esgarder que tout soit prest. Et en le mein

4v

temps le s. seu ira lauer et seoir. Doncques
lui seruiront ses escuiers et varlés de moult
bon viande cest a sauoir a la premiere course
de soupe des naueux sil soit en estee et sil
soit en yuer des choux de porree ou de po
ais auecque la larde ou de puree. Apres ce
il sera seruy de grant char come de boef
moton port et vial. Et puis a le seconde
course ils luy seruiront de chapons geli
nes et pulles en gros pastees. Et a le tiers
course il sera seruy des ouues petis porceus
et porceletes iostees et des tines greus hey
rons bytores plumers et pardiz et biau
cop des autres oiseaulx sauages. Et au der
ramers ils luy seruiront de fruiage poys
pomes et des noes. Fait le s. apres quil
aura asses mangee. Oustez la table tost
et Jauyn vaten seller mes chinaulx mais
gardez vous bien de morelle quant vous
bouterez le brinde dedans la bouche quil
ne vous morde poynt. Et quant vous lau
rez fait les amenez deuant le huis de
la sale car la ie monterai au chinal. Apres
vient le s. et se monte a chinal et seu vait
chinalcher sur son chemyn et quant il
venra a bouce de la ville il demandera a
vn puceuelle ou a vn autre ainsi. Ma co
mere quest la droit chemyn vers Aurelians
mon s. ie vous dirai. Vous chinalcherez
tout droit par cest chemyn et quant vous

5r



— 342 —

maisons recordant leur game trois ou quatre
ensamble Iront et diront buvons ma voisine
chascune sa chopyne plus aises en serons
Alons alons a nre curine en tresbone estraine
nous desuvrons Bone detinee et longue du
ree a ces vinerons Qui ont labouree et la vigne
plantee dont ces vins benons Bons sont
ils font mamours conquestez les doulz
rousees ore chanter me font Ja ces vins
feront ma fame hurter la front tanquelle
est tourmbee les pies contremont // Et quant
il aura achevee sa chanson il comencera
a parler a son escuier ou a ses escuiers
ainsi disant Mes amys il est bien pres
de nuyt Vel sic Il sera par temps nuyt
Doncques respont Janyn au son sr bien
gentilment en cest maniere Vrayement
mon sr vous ditez dite Vel sic Vous di
tez voir Vel sic Vous ditez vray Je pense
bien quil seroit mieulx pour nous darester
en ce ville que daler plus avant mais huy comet
vous est avis Ainsi come vous vuillez mon
sr Janyn mon sr va devant et prenez
nre hostel par temps Si ferai ie mon sr
Et sen vart tout droit en sa voie et quant
il sera venu a lostel il dira tout courtoi
sement en cest maniere hosteler hoste
ler Et lautre luy respont au derrainers
tout dedeignousement ainsi Quest la
amys Quoy ne mas tu paillart respon
du au premier parole que ie tappelloi

6r

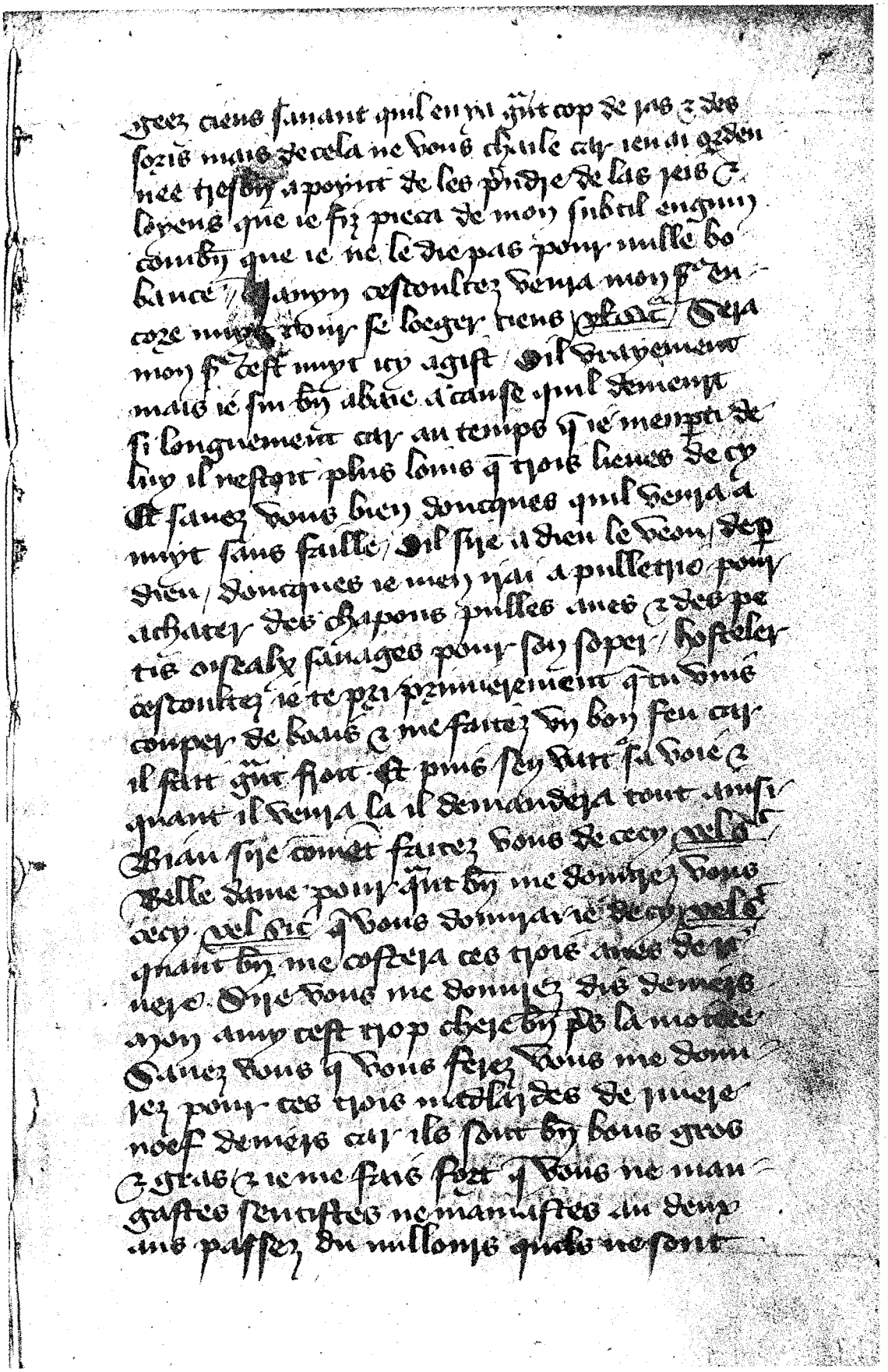
6

Vlsoie. Quoy ne me respondiez vous au
primier fois q̄ ie hurtai a porte. Je pri
a dieu quil te peut mescheoir du corps car
tu mas fait icy long temps muser et tu
sais bn quil ne fesoit si grant froit cest an
nee come il fait a present car il neige gresillie
et gielle si fort que lyaune est aussi espes
engiellee come la laeuie de mon pie par
quoy ie sai bn que le glas du gellee ne se
degiellera en piece. Ouerez la porte tost
et laissez me entrer ciens ou autrement ie
le depecierai trestout par la foy que ie doy
a dieu me creis se tu vuis. He biaux sire
ne vous corucez poynt si ferai ie. Dont
ques losteler sen vait bn hastiement pour
ouerer la porte et quant il la ouerree il le
regart ainsi luy disant. Sainte marie
Janyn estez vous la. Oil dea ne me peus
tu veoir. He Janyn mon tresdoulz amy
ne vous desplaise car vrayement ie ne
cuidoi pas q̄ vous y fustes. Et biau sire
se iay riens mespris ou mal fait envers
vous pardonnez le moy car ie lamende
rai bn. Et Janyn ie vous empri chemen
come ie maffie grandement en vous ne
sonnez vous mot a le maistre de ciens de
ce que ie vous ai fait car ie sai bn sil
ensenft riens il enseroit bn marri et
aussi ieu auroi mal gree de luy. Mon

6v

amy ne vous sourciez de cela car se vous me fai
tez bone compaingnie ie nen parlerai ia par
mon serment mon tresdoulz amy ie vous ferai
tresbone compaingnie Et se vous vuillez riens
que ie puis faire que soit a vostre plaiser ditez le moy
et ie le ferai voulantiers a tout mon pooir car
ie suis et tout temps serai doze en avant a vostre
gentil comandement Ore me ditez hoste
ler avez vous de bone hostelerie ciens Oil
sire si dieux mait bone et honeste asses pour
le roy sil lui pleust estre loegez ciens Ore
il parra Adoncques respont losteler en la
maniere quensuit venez vous en biau sire
avecque moy et ie vous monstrerai maintenant
la plus belle et la plus honeste chambre
et mieulx aournee et maree de fin draps
dor et de soye que vous vistes aucques mais
iour de vostre vie mais premierement ie
men irai querre la claif de le huys pour
ouvrer la serure Et puis il se rement et ouvrit
le huis et sen est entree liens et dit a lautre
ainsi Ore regardez et esgardez tout entour
a latour de ce chambre comment il vous est
avis vrayement sire il mest avis quil est
tresbien appareillie trestout a mon gree et une
autre chose aussi me plest bien que la chambre
est si bien et honestement conraiee des balayes
et nettoie des pouces et pourretes car ie pense
quil nya point des puces ne des poils ne dau
tre ordines ordines ordines
tre ordines Non il sire a dieu le reou car ie
me fais fort que vous serez bien et aisement loe

71r



7v

Ore regardez bien sire comment ils sont tout
jamplis du sain Oil dea ie le veoi bien mais
vrayement vous demandez trop par la mort
dieu bien sire se ie eusse volu ie eusse eu huy
ou matinee pour mesmes les aues x d. Ore
me cioiez se vous vuillez Il ne vous faudra
ia ainsi mier car ie vous encioi bien a prim
mot sans plus sonner. Ore ditez moy a vn
mot que paierai ie Par ma foy ien aurai
atant pour yceulx ou autrement ie naurai
riens Si dieux mait vous estes le plus ch
home ou qui iay marchandee cest annee
car ien aurai ailloirs trois aussi bons
aues come ils sont pour sept deniers mais
il ne peut chaloir car vn autre fois ie ma
iuserai mieulx Par saint pol ie sai bien
que non auiez si bons de la prise en toute
ce ville car ien sui certain que vous ne vistes
aucques mais du millours aues quils ne
sont Baillez ca doncques et veiez cy vre
argent et a dieu vous comande vel sic
dieux vous conduist vel sic A dieu qui
vous gart vel sic A dieu soiez vel sic
dieux soit garde de vous. Sire dieux
vous donne santee et paix. Adoncques
Janyn sen vait a lostel pour appareiller
la viande pour la soper de son s. Et quant
il sera venu il fera mettre le pot sur le
feu plaine dyaune et quant il comencera
a boiller il boutera les aues dedans le
pot pour eschauder Et puis il les des
plumera ignellement Et tost apres quil

8r

8

les auja ainsi desplumee il les decoupeja
les culs et bouteja ses deis dedans les corps
et ousteja les bodeyns et toute lordure dedans
et puis les laueja de lyaume bien et honeste
ment Et apres il les bouteja sur une haste
pour joster et quant il seja tout prest et asses
jostee il les ousteja de les hastes Et par cel
temps seja venu le s^r a son hostel. lors ven
ja la dame de lostel ou la damoiselle et dija
en ce maniere a s^r mon s^r vous estez tres
bien venu Rel sic mon s^r bien soiez venu
Si vero tuiraueris aliquem h^o in iniusionem
tuam per cul du^o jesabis Dial amy bien sois
venu. dame coment vous est il Rel sic
dame coment faitez vous Rel s^r si s^r dna
ma dame coment vous auez vous portee
depuis que ie ne vous vi mais Jes bien mon
s^r dieu mercy et la vie et mieulx que ie
vous vei en bonne santee du corps viaye
ment ien ai grant ioye. he mon s^r il ya grant
piece que ie ne vous vi mais viayement
mamie vous ditez verite Ore belle dame
me ditez vous nauez vous poynt des
belles filletes come vous soloies auoir
mon s^r sil vous plaist ien ai deux tres
belles et tres bien et gracieusement entaillez
du corps et aussi gresles que vous les porez
enpoigner entre voz deux mains he
me faitez venir deuant moy tost cel
les filletes car ie ne descendeja ia de
de mon chinal auant que ie les aurai veu

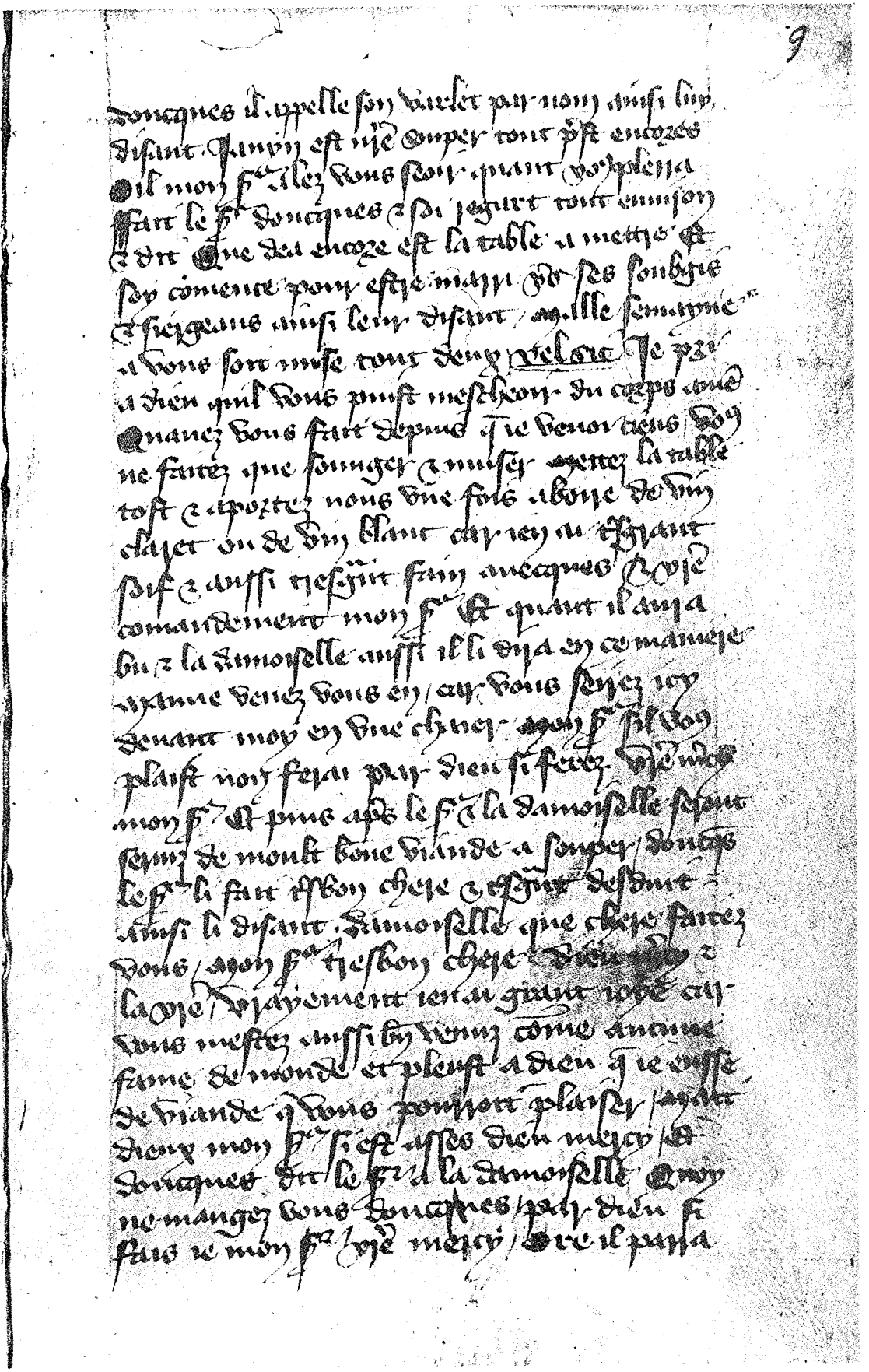
8v

Doncques viennent avant les filletes ou presence
du s^r. Fait le s^r. Ces sont les plus belles fames
et mieulx entailliez du corps ce mest avis que
iay veu pieca et pleust a dieu avecque homme
demonians a mon manoir de N. ie les donn
ioi de loz et de largent et dautres biens et chateux
asses Doncques destent le s^r de son chival et
demande les noms de les filletes et dit ainsi
Mes tres doulces amies comment avez vous a noms
et doncques iespont la plus veile pucelle
et dit ainsi Mon s^r sil vous plaist iay a nom
Isabelle puis dit lautre Mon s^r iay a nom
Margarete Ore ie pri a dieu quil vous donne
grace de bien faire Isabelle vien ca vien vel sic
Venez a moy ma tres doulce amie hardiement
car ie vous promette que ie ne vous feia ia de vi
laynie ains vous feiai sil dieu plaist de bien
et de loueur Voulantiers mon s^r a vie coula
dement Doncques fait le s^r acoler et doulce
ment baiser la damoiselle en la bouche et
puis il li dit gracieusement de bon et feiment
amour et par maniere damoniasser les paroles
queusment Mamie doulce et gracieuse de bien
et de conitoisie plaintivouse a qui iay donnee
mamouis car de toutes les flouies aiou
see vous estez souraine a mon grace et come
la iose entre lilie flouis vel sic Ma dame
gentille de pourtraiture en vous iay mis
toute ma cure et mamour et toute plaisance
ie vous ensuie come de toute beautee la flo^a
Et puis le s^r li mene par la main vers la
sale et li dit ainsi Damoiselle vous soupe
iez avecque moy Giant mercy mon s^r A

9r

9

doncques il appelle son varlet par nom ainsi luy
disant Jauyn est mie souper tout prest encores
Oil mon sr alez vous seoir quant vous plera
fait le sr doncques et soi regart tout environ
et dit Que dea encore est la table a mettre Et
soy comence pour estre marri vers ses soubgis
et siergeans ainsi leur disant Malle semayne
a vous soit mise tout deux Vel sic Je pri
a dieu quil vous puist mescheoir du corps amen
Quanez vous fait depuis que ie venoi ciens vous
ne faitez que songer et muser mettez la table
tost et aportez nous une fois a boire de vin
claret ou de vin blanc car ien ai tresgrant
soif et aussi tresgrant fain avecques Et mie
comandement mon sr Et quant il aura
bu et la damoiselle aussi il li dira en ce maniere
Mamie venez vous en car vous seriez icy
devant moy en une chaier mon sr sil vous
plaist non ferai par dieu si ferez mie merci
mon sr Et puis apres le sr et la damoiselle seront
servis de moult bone viande a souper doncques
le sr li fait tresbon chere et tresgrant desduit
ainsi li disant damoiselle que chere faitez
vous mon sr tresbon chere dieu mercy et
la mie vrayement ien ai grant ioye car
vous mestez aussi bien venuz come aucune
fame de monde et pleust a dieu que ie eusse
de viande que vous pourroit plaiser mait
dieux mon sr si est asses dieu mercy Et
doncques dit le sr a la damoiselle Quoy
ne mangez vous doncques par dieu si
fais ie mon sr mie mercy Ore il parra

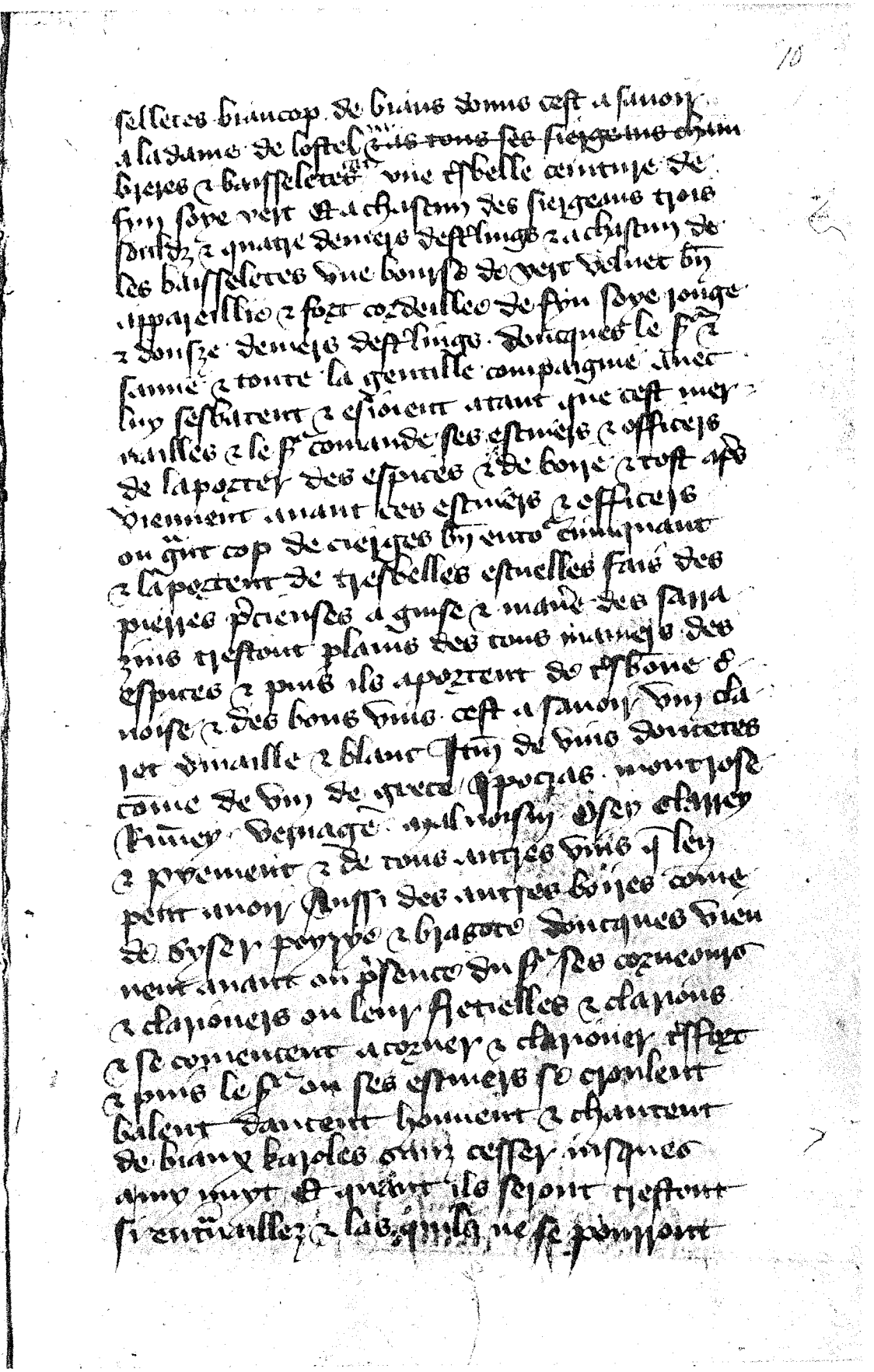


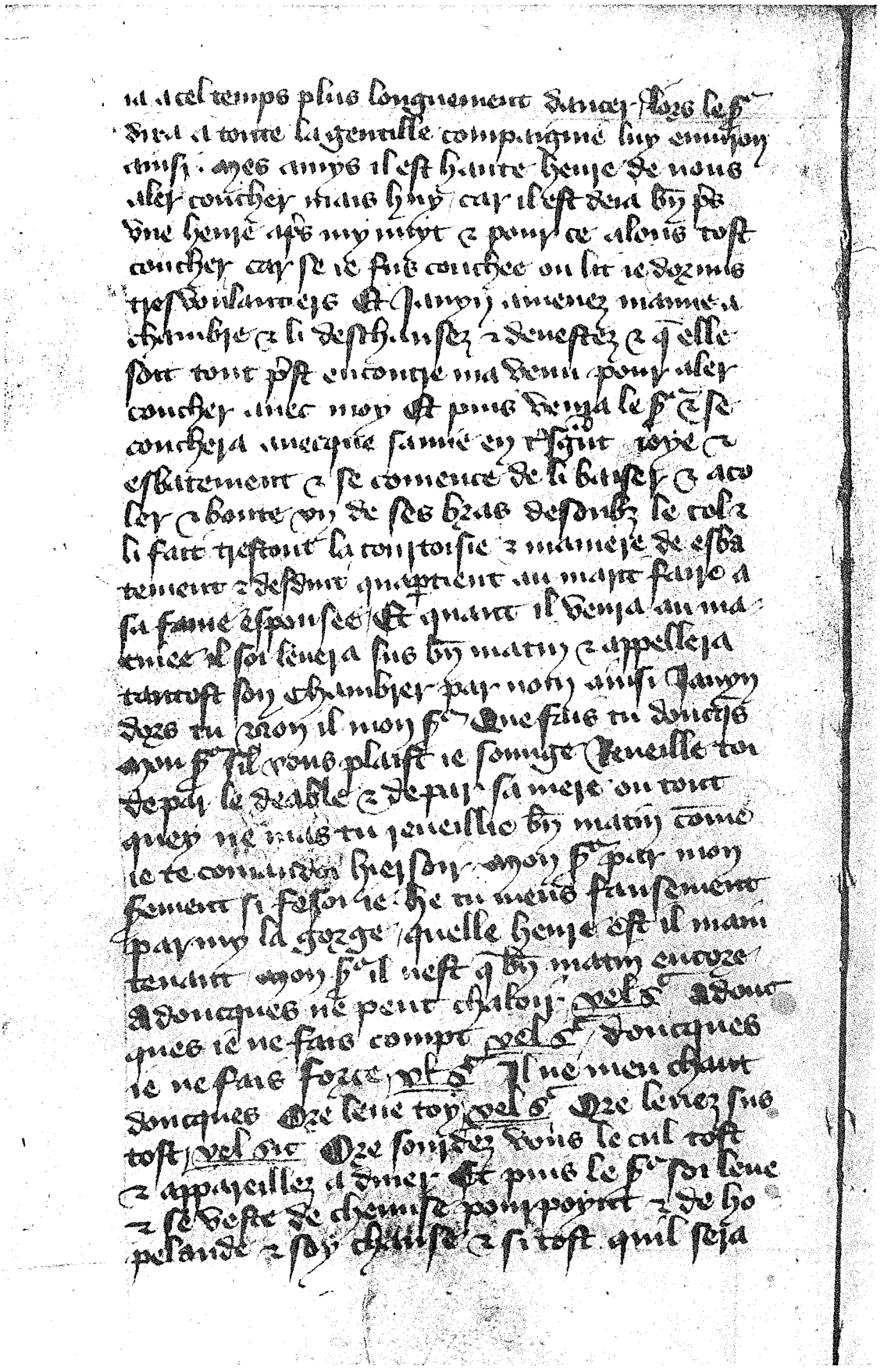
9v

Et si tost quils auront soupez le Signeur comen
cera damoniasser la damoiselle et pour auoir
son amour et sa pucellage Il fait pour le grant
brasier damour quil eua enuers li le plus gra
cious et le plus amerous chanson qui peut
estre en tout le monde en ce maniere disant
ou autrement chantant tres gracieusement
Tres doulz regart amerousement trait tant
de doulceur fera mon cuer entier quant les
miens yeulx te peuent raconter que tout
mon sang me fuit et vers toi trait Et tant
me plaist ton gracious atrait que de veoir ie
ne me puis saouler Je tai pour tant si en
mon cuer pour trait quautre pensee ne ten pour
roit ouster Et tel plaiser fait dedans moy
entier que iamais iour tu nen seras retrait
Et sic finit Cantus dulcissimus Et quant le
seigneur aura achauee sa chanson il parlera a la da
moiselle tout courtoisement en ce maniere
Mamie enuie ai ie bien et parfaitement fait cest
chanson Oil vrayement mon seigneur tresbien a
poynt car vous mauez enauoiee tout le
cuer et le sang Doncques prent le seigneur la fillete
par la main et saffiance ouertement de la
foy de son corps quil naura ia autre fame
que li durant sa vie ainsi disant Mamie
ie vous prime icy a ma compaigne et sur
ce ie vous affiance Et puis le seigneur sesbat
et esioit a tant auecque fame que tout ma
niere de solace desduit et esbatement son
cuer sembat et il donne a dame de lostel
et a tous ses siergeans chambreres et bais

10r

10

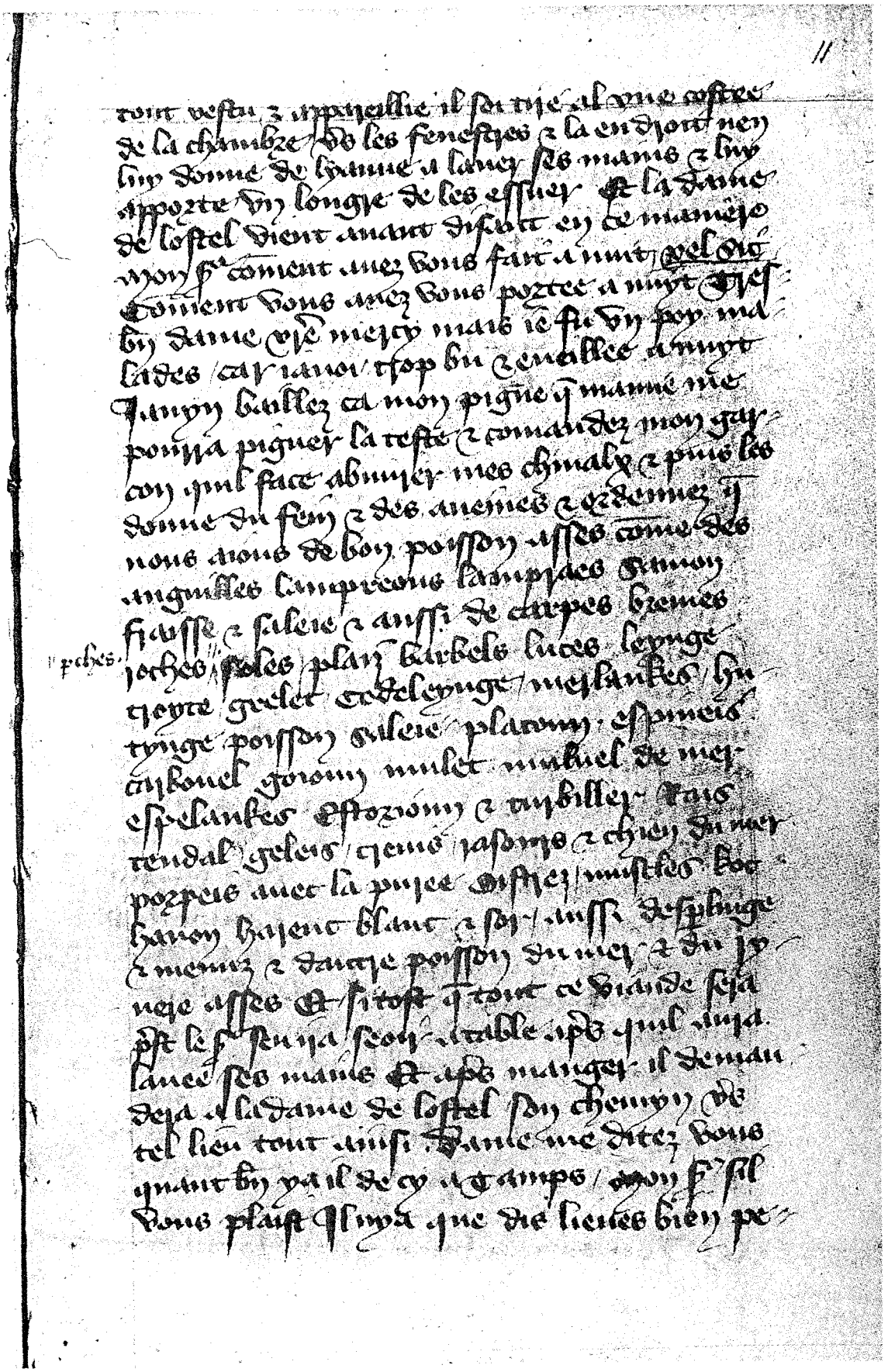




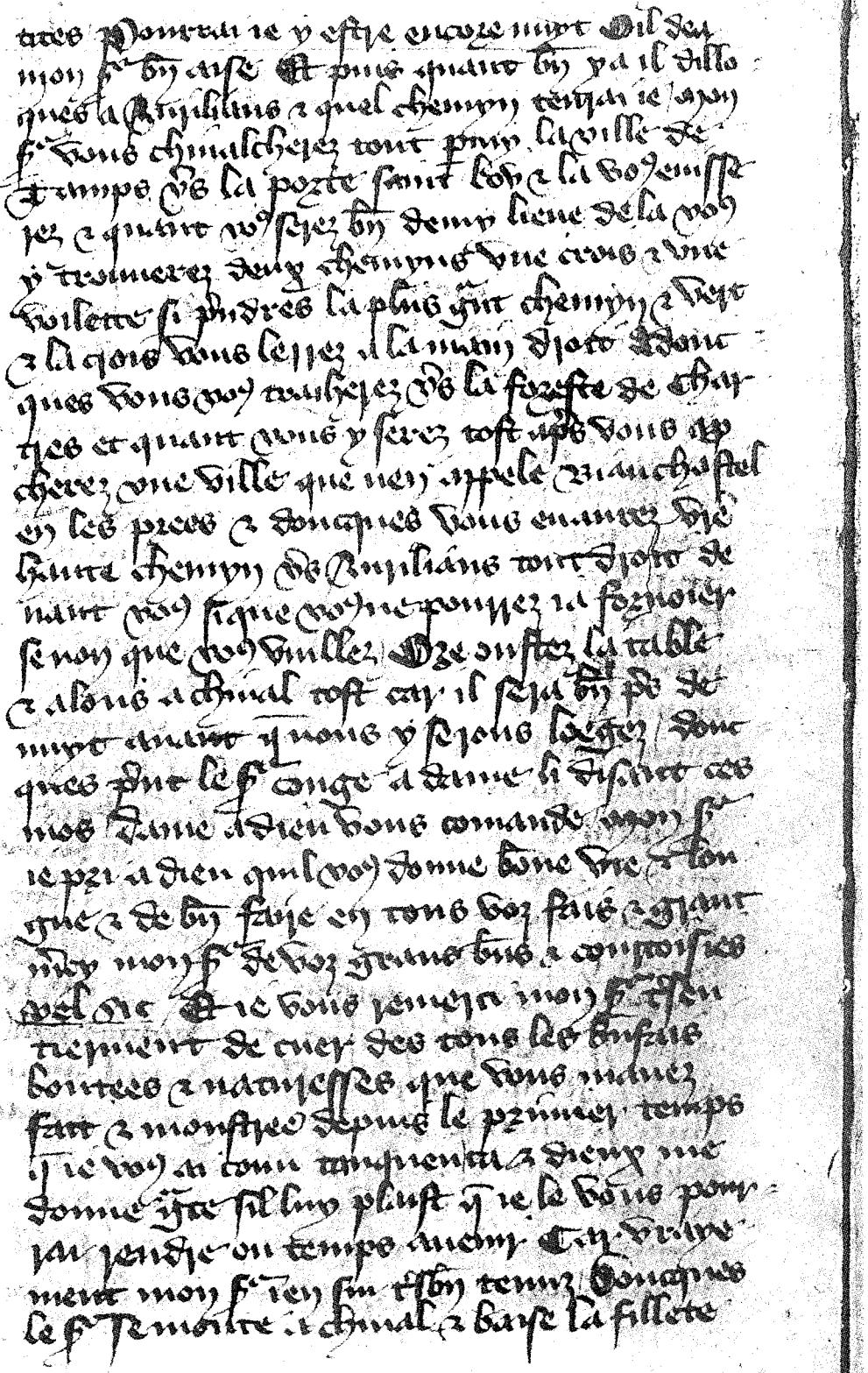
11r

11

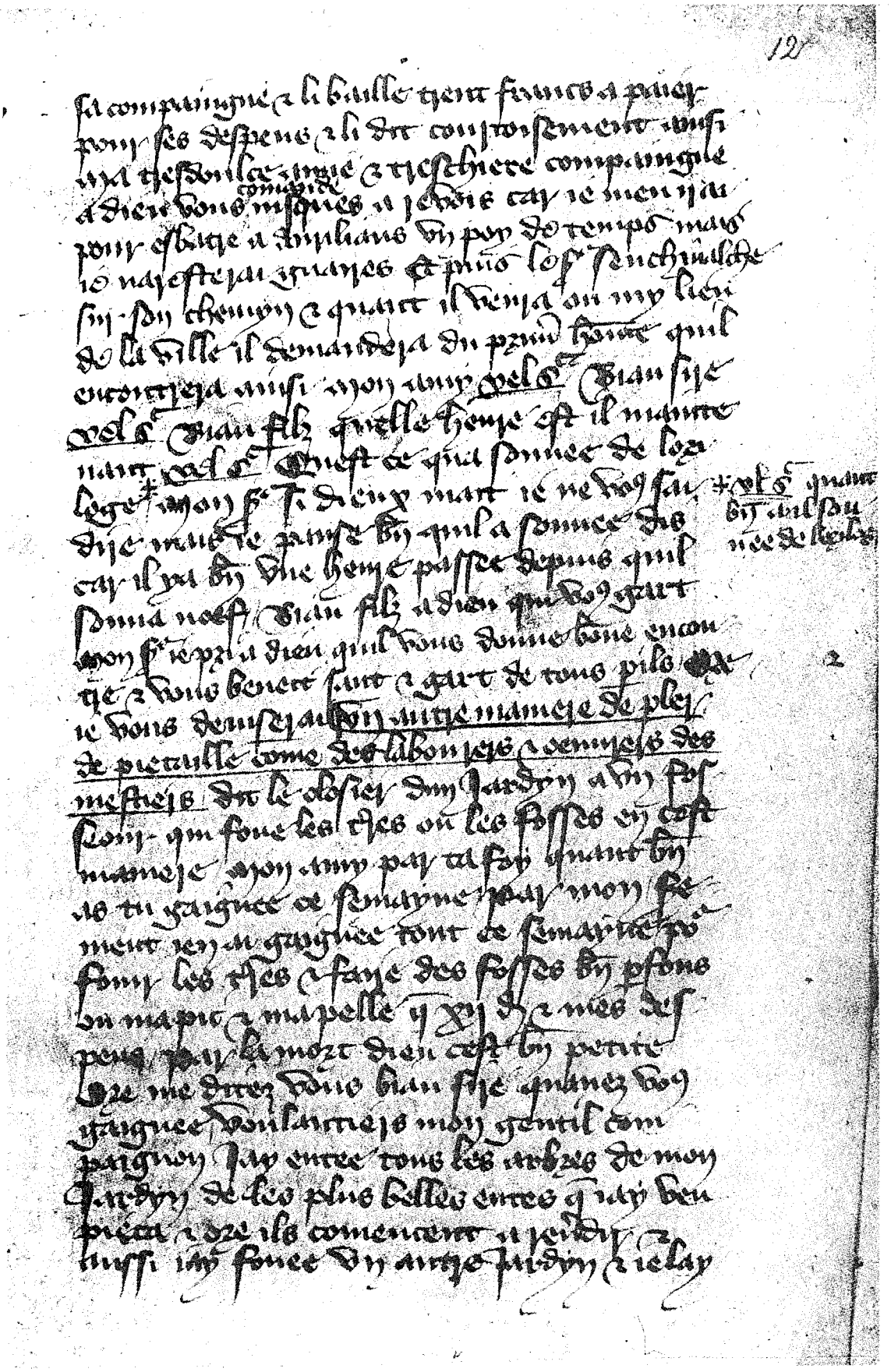
tout vestu et appareillie il soi tire al une costee
de la chambre vers les fenestres et la endroit nen
luy donne de lyaune a laver ses mains et luy
apporte un longre de les essuer Et la dame
de lostel vient avant disant en ce maniere
mon s^r comment avez vous fait a nuit vel sic
comment vous avez vous portee a nuyt Tres
bien dame vre mercy mais ie fu un poy ma
lades car ianoi trop bu et eveillee a nuyt
Jauyn baillez ca mon pigne que mamie me
pourra piguer la teste et comandez mon gar
con quil face abuvrer mes chivalx et puis les
donne du fein et des aveines et ordennez que
nous aions de bon poisson asses come des
anguilles lampreons lampraes samon
fraisse et saleie et aussi de carpes bremes
ioches soles plaiz barbels luces leynge
troyte grelet codeleynge merlankes hu
tynge poisson saleie platoun espineis
carbonel goioun mulet muluel de mer
espelankes estorioun et turbiller rais
tendal geleis tienis iasonis et chien du mer
porpeis avec la puree oistrez muscles koc
hanon haient blanc et sor aussi desperlinge
et menuz et daiccie poisson du mer et du ry
neie asses Et si tost que tout ce viande sera
prest le s^r seu ira seoir a table apres quil aura
lavee ses mains Et apres manger il deman
deia a la dame de lostel son chemyn vers
tel lieu tout ainsi Dame me ditez vous
quant bien ya il de cy a tamps mon s^r sil
vous plaist Il nya que dis lieues bien pe



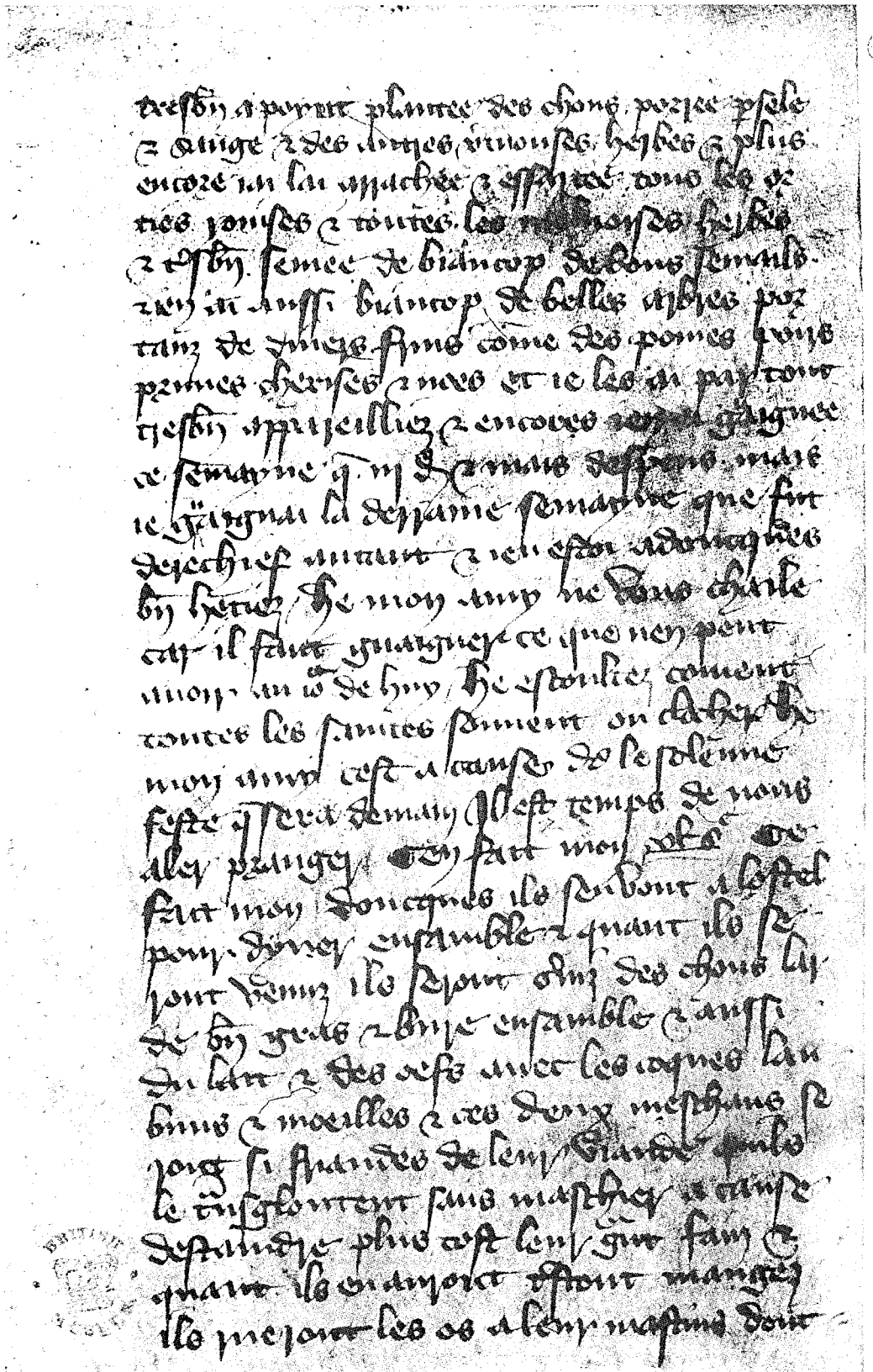
pches



12r



12v



13r

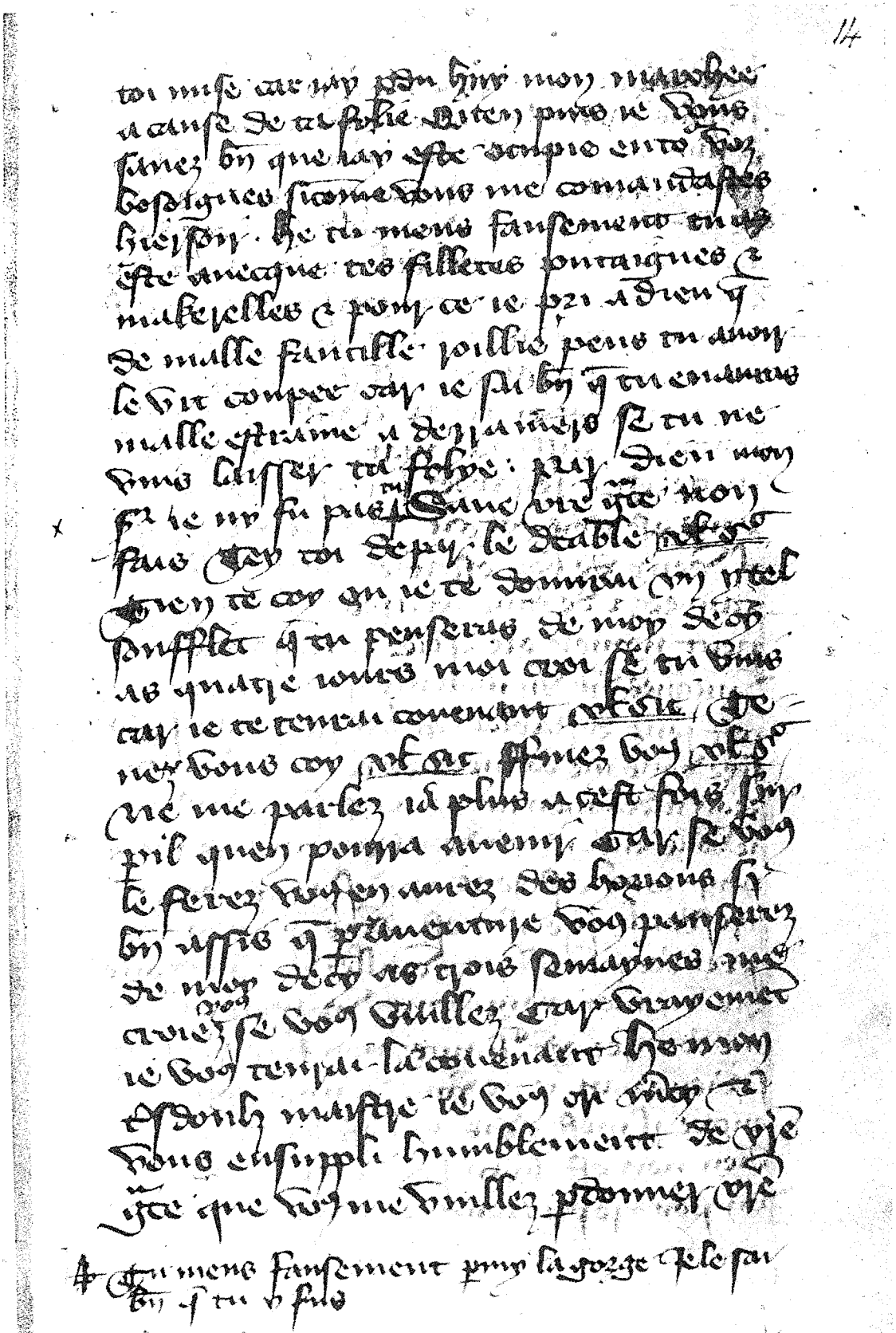
13

ques ils les jungieront si fort q̄ cest deables ⁊ pri
miejement ils se esbatejont atant ensamble
quils combatejont droitement ainsi q̄ le plus
fort abateja le plus feble au tre. Doncques
dit lun vilain a lautre mon mastin est plus
cramant q̄ nest le vre ⁊ pour ce nous les de
partions ⁊ nous assiejons noz forces aussi par
maniere de luter tanq̄ lun sera abatu a
tre. Laions nous ore nre in car il me faut
aler au marchee pour achater vn marteau
⁊ vn malliet car iamejoi mieulx ainsi quen
mesme le cas jeucheoir en quel iay cheu
pardevant. Et dieu vous comande car ie
men vais. Une autre maniere du parler
fait le bolengier qui bulete la bulee ⁊ desoi
ure la gros de lamunt a vn de ses vaple
tons ainsi pierre prinez la siel ⁊ va tiaire
de lyaume tost ⁊ puis le boutez en la gent
paelle ⁊ le metez sur le feu car il me faut
encore nuit faire de paste ⁊ quir noef vn
sels de farine du furment pour le despens
mon sr de realuois car lendemain de saint
michel sera lenterrement de ma tresnoble
dame ma dame de Guineys que fut sa
compaingne ⁊ q̄ trespassa ou feste de lex
altacion sainte croix derrain passee
maistre ie vous empri ne vous desplaise
car vrayement ie ne puis pas espinser
de lyaume a cause q̄ ie sui blessee en les
mains. Et coment fus tu ainsi blessee

meschant paillart qui tu es. Vraiement sire
sicome ie me mai au lespeie de deux mains
avecque vn de mes compaingnons il me
donna vn ytel horion sur la main droite
quil le fendist tout parmy la paulme iusques
al os. Ore veiez vous la proef quil nest
pas mencongé ce que ie vous die. Par la
mort dieu tu fis que fol ainsi mer de
ten blesser en cest maniere. Maintenant
ien ai grant bosoigne de toy et tu ne me
peus riens proufiter. He mon tres doulz
maistre ne vous chaile car ie vous ferai avoir
vn autre en nom de moy desques a leure
que ien serai tout guery. Et savez vous bien
que vous le ferez. Oil dea ne vous souriez
de cela. Ore il parra doncques ma[illegible]ontes
voies ien sui bien mari que tu es ainsi nau
free car la playe est bien parfonde et parilouse
mais ne pourquant te reconforte bien car
sil dieu plaist tu en seras bien guery.
Ore vn autre maniere de parler des mer
chans. Dit vn marchant a vn de ses appren
tiz tout ainsi. Guillaume ou es tu mon sire
ie sui sus cy. Venez a moy. Vel sit. Vien
avant doncques maistre. Je vien a vous.
Ou as tu este depuis que tu te levas. Je
eusse este au marchee pieca se tu ne fus
Et tu sais bien que ien fu bien matin levee
ou matinee pour aler au marchee a
vendre mes daurees. Malle semayne soit

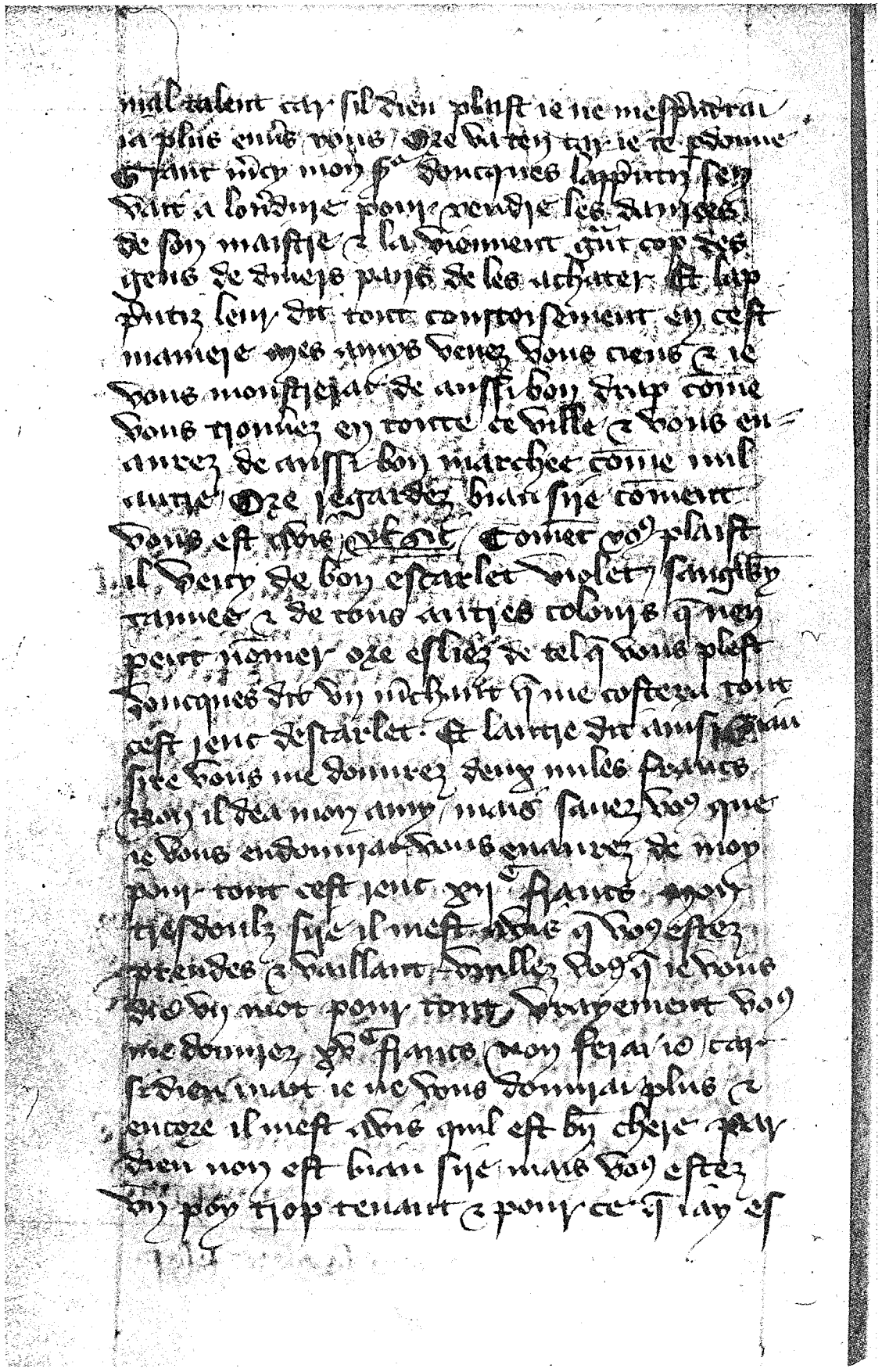
14r

14



— 360 —

14v



mal talent car sil dieu plaist ie ne mesprendrai
ia plus envers vous. Ore va ten car ie te pardonne
Grant mercy mon sire. Doncques lapprentis sen
vait a londrine pour rendre les dances
de son maistre et la viennent grant cop des
gens de diuers pays de les achater. Et lap
prentiz leur dit tout courtoisement en cest
maniere. Mes amys venez vous ciens et ie
vous monstrerai de aussi bon drap come
vous trouuerez en toute ce ville et vous en
aurez de aussi bon marchee come nul
autre. Ore regardez bian sire coment
vous est avis. Et sire. Comment vous plaist
il veiry de bon escarlet violet sangsby
tannee et de tous autres colours que nen
peut nommer ore esliez de tel que vous plest
doncques dit vn marchant que me costera tout
cest ieu descarlet. Et lautre dit ainsi. Bian
sire vous me donnerez deux mules francs
non il dea mon amy mais sauez vous que
ie vous endonnerai vous enaurez de moy
pour tout cest ieu xv c francs. Mon
tresdoulz sire il mest avis que vous estez
prendes et vaillant. Vuillez vous que ie vous
dic vn mot pour tout. Vrayement vous
me donnerez xv c francs. Non ferai io car
si dieu mait ie ne vous donnerai plus et
encore il mest avis quil est bien cheie. Par
dieu non est bian sire mais vous estez
vn poy trop tenant et pour ce que iay es

15r

15

perance q̃ vous achaterez de moy plus de dau
rees ou temps auenir vous laurez de la prise
q̃ me costa cest a sauoir xij.c francs mais q̃
vous me paiez bien maintenant mon amy
ne vous sourciez ie vous paierai tresbien sil
dieu plaist si que vous me donnez iour de
paiement iusques a la goule daoust vraie
ment sire ne vous desplaise ie ne le puis
faire se non quil men seroit grant aierisse
ment et empirement de mon estat la quelle
ie pense bien q̃ vous ne vouldroiez mye de
sier q̃ ien feusse aucunement aierissee ou
empiree a cause de vous car ie doi as
gens du pais grandes somes dargent
q̃ iay emprointee de eux iusques a noel
prochain auenir et sur ce ien sui obligee
et tenu par vne forte obligacion faite
de double de le paier a mesme le feste
Et se ie faiai doncques de mesme la
paiement en partie ou en tout ie me
fais fort q̃ ie seiai mys en prisone et ien
sui certain q̃ ie nisserai mye dilloques a
uant q̃ ien aurai trestout fait gree. Et
pour ce biau sire ie vous empri tant
chement come ie puis q̃ vous me vuillez
paier mon argent tout ensamble ore
a ma grant necessite sans plus longue

15v

delaye Et vrayement sire ie vous apresterai
vne autre fois voulantiers de richief atant
he mon amy ne vous corroucez point car
vous en aurez ore la moitee de largent
et de lautre moitee ie me obligerai a vous
par vne obligacion de vous paier bien
et loyalment ou feste du saint pierre
lamucle prochain qui venra. Enne vous
bien agreerez doncques Jen sui bien
agree mais toutes voies iamerai mieux
de lavoir maintenant a ma grant bo
soigne que plus en delayer mais depuis
quil ne peut estre autrement il me co
ment dattendre le 10e de paiement
Et quant lapprentiz enaura trestout achevee
et accordee avecque luy il luy dira tout
ainsi mon tresdoulz amy maintenant
ces daurees sont les vres vrayement vous
les avez de mesme la price que ie les achatai
vk sic, Si dieux mait vous les avez de aussi
bon marchee come ils me costyent Ore
prenez voz bns et ie pri a dieu quil vous
en donne atant de proufit et encresement
come ie vouldroy en avoir sils feussent
les miens. Sire grant mercy de vre cour
toisie et se ie vivera as deux ans vous
ne perdrez ia riens de vre bnfait car
sil dieu plaist ie le vous rendrai bien

16r

16

* *

Bian sire a dieu vous comande mon tres
doulz amy dieux vous eit en sa garde
Un autre maniere du parler dit un
varlet a un dubbeur des veils draps
en ce maniere Jen ai icy un pourpoint
quest rumpuz en biancop de lieux et
aussi pour la gremour partie les cou
stures sont decousees et pour ce ie vous pri
chement que vous le vuillez adubber bien
et honestement pour mon argent et
me dites que vuillez vous en avoir par
dieu mon amy vous me donnerez sis
deniers a un mot car vrayement lo
uerage dycel bien vaut tant entre deux
freres et ie le vous ferai tresbien a point
bian sire ainsi que vous vous tenrez bien
agree ore il parra et ie vous empri
que ie lay dymenche prochain que vient au
derrainers car ien ai grant meister de
par dieu il ne vous faudra ia de men
parler plus car sil dieu plaist il sera
doncques tout prest tresbien a vostre plaiser
ne vous sourciez Un autre maniere du
parler dit un garcon a son compaig
non ainsi laisse ta ni a le compie
mais huy et vaten a esgarder a tes
chevaulx car se ton maistre te trouvoit

7) 書簡文範

Epistolography

I. Text

BL MS Harley 3988 ff. 57^{v}-60^{r}

f. 57^{v}

① De matre ad filium scolarem

Salut avecque ma benicon, treschier filz. Sachiez que je desire grandement de savoir bons novelles de vous et de vostre estat ; car vostre pere et moy estions a la faisance de ces lettres en bon poynt la Dieu mercy. Et sachiez que je vous envoie par le portour de ces lettres demy marc pur divereses necessairs que vous en avez a faire sans (58^{r}) escient de vostre pere. Et vous pri cherement, bean tresdoulz filz, que vous laissez tous mals et folyes et ne hantez mye mauvaise compaignie ; car se vous le faitez, il vous fera grant damage, avant que vous l'aperceiverez. Et je vous aiderai selon mon pooir oultre ce que vostre pere vous donnra. Dieux vous doint sa benicon, car je vous donne la mienne. Escr. etc.

② Responsio

Honeurs ou tous maniers de filialx obeissances vostre chiere benicon humblement empriant. *vel sic* : Ma chiere et treshoneuree mere, je me recomande a vous en tant comme je puis ou tous honeurs et reverences de vostre treschiere benicon, humblement vous ensuppliant. Et ma treschiere mere moult souvent je vous enmercy de ce que vous m'envoiastez et ne m'avez pas oubliee. Et s'il Dieu plaist, je metteray tant ma diligence et mon pooir d'aprendre que dedens brief temps vous en aurez grant joye de moy et voucherez sauf tous les despens et costages que vous avez despendu pour moy. Et, treschiere mere me (58^{v}) vueillez vous recomander a mon treschier pere et saluer bien souvent de par moy tous mes freres et soers et tous mes aultres amys et compaignons. Nostre Sire soit gart de vous et vous accrese en bien et honeur as tous jours mais. Escr.

③ De sorore ad sororem

Salut et bou amour, treschiere et tresamee soer. Vueillez savoir que mon pere m'a enprocuree un mariage grandemeut encontre ma voulantee, car c'est une leede personne et pour nulle chose de monde il ne fera jamais copulacion entre nous. Pour ce, ma treschiere soer, je vous pri chierement, comme je m'affi de vous, que vous en parlez a vostre sir qu'il me vueille envoier un de ses chivalx, que je puis demourer deux jours ou trois en vostre compaignie tan que sa malencolye soit essuagee et abessee, car il est forment coroucee avecque moy pour ce que j'ay son comandement refusee. Ma treschiere et tresamee soer, je pri a Dieu qu'il vous doint bonne vie et longue et gracious fyn. Escr. etc.

④ Responsio

(59^{r}) Ma treschiere soer, je vous salue par maintes fois de cuer. Et sachiez qu'il me poise grandement de ce que vous avez ainsi mespris contre nostre pere, et pancez bien, ma treschiere soer, qu'il est vostre soverain aide et vous aidera quant tous voz amys vous lerront, et abessez vostre cuer et ne soiez mye si hautayne ne si orgueillouse ne rebelle de respons contre nostre pere comme vous estez, car se vous refuseez sa compaignie par aventure vous devendrez folle pour ce que vous n'avez rien de quoy vous pourrez vivre ne estre sustenu. Et ramembrer vueillez de ce que le sage dit : Mieulx vault la verge que plie, que ne fait cely que rompe. Aultre respons ne vous fay mander quant a present. A Dieu qui vous eit en sa garde. Escr. etc.

⑤ De viro ad eius uxorem

Ma treschiere et tresamee famme, je vous salue si souvent fois comme je say ou puis, desirant tout dis d'oier bons nouvelles de vous et de vostre bon estat et santee que Dieux vueille maintenir (59^{v}) et accroistre a sa louange. Et endroit de le mien vueillez savoir que a la faisance de ces lettres j'estoy bien aise et en bon point, beneoit soit Dieux. Et sachiez que marsdy derrain passee je m'en alay hors de la citee de Londres devers la mer ; d'aultre part ma treschiere famme, sachiez que je doy a W. B. de Londres cordewanier XX s. VI d., lequel argent vous pri que vous luy paiez au plus brief que faire se pourra bonnement pour l'amour de moy. Et saluez bien souvent de par moy tous noz bons amys et voisins, et vous pri de faire bien et sagement en m' absence. Treschiere et tresamee compaigne. Dieux vous eit en sa garde et vous doint grace de bien faire. Escript en hast etc.

⑥ Littera amorose composita

A m'amie tres belle et chiere
En qui est toute ma pansere
Saluz vous mande milles cent
Et moy a vostre commandement,
Tant des fois vous mande saluz
Comme foilles sont ou boais et plus ;
Atant de foys vous salue chierment
Comme estoiles (60^{r}) sont en firmament.
Il n'y a famme que tant desire,
Combien que de vynt porroi eslire.
Vous estez ma mort, vous estez ma vie,
En vous est toute ma druerye.
Et se rien soit que vers moy vueillez,
Privement a moy mandez.
Aultres ne vous say mander,
Mais grant desir vous ai parler.
Pancez de moy comme je de vous,

Que loyal amour soit entre nous.
Ihesu Crist vous donne honours
Et saut de mal tous jours.
Plus vous dire ne say je mye,
Mais vous comande a filz Marie. Escript. etc.

II. F. J. Tanquerey : Recueil de Lettres

⑦ William de Valence, Lord de Pembroke, à sa femme
1267
(Roy. and Hist. Letters, II 657)

William de Valence, seignor de Penbroc, a sa chere compaigne et amie, saluz.

Sachez que nus vus enveoms Sir Robert de Inmer a garnir le chastel de Wyncestre de blez et de vivres, et a demorer oveke vus a garder le avant dit chastel ensemblement od Sir Martin de Roches et Phelip le Clerc.

Et vus lur comandez de par nus que il ovrent en tute choses par un acord et par un conseil, et vus donoms le poer sur eus tuz et de eus tuz a ordener et a purver en tute choses solom ceo que vus verrez que meuz fra a fere. En cui testmoine nus vus enveoms ceste nostre lettre patente.

Done a Berkinge, le Dimeinge procheine apres la Ascencion, le an le rey Henri, fiz le rey Johan, cinquante primer (29 mai).

⑧ Blanche, Duchesse de Bretagne, à Henri III
1263-70
(Roy. and Hist. Letters, II 665)

A son tres haut et tres chier seignour Henri par la grace de Deu roi d'Engleterre, seignour de Yrland e duc d'Aquitene, Blance, duchesse de Bretangne, saluz e reverence, e soi apparellie a ferre sa volente cum a son chier seignour.

Sire, je vous pri, si vous plest, que vous me mandez vostre estate, le queul nostre Sire par sa grace face touz jours bon ; quar sachiez, mon chier seignour, que j'ei mout tres grant joie toutes les foiz que je puiz oir et savoir bones noveles de vous. Sachiez, sire, que ma dame Beatrix, vostre chiere file et la nostre est encor deheite de sa feivre, meis el en est mout amende, la Deu merci ; e nous dient les fizechiens que sa feivre ne li puet par longein durrer. E vous pri, mon cher seignour, que s'il avoit riens en noz parties, que vous le me mandez e comandez cum a la vostre ; quar sachiez, sire, que je arroie mout tres grant joie de ferre vostre volunte a mon poer.

E sachiez, sire, que Artus est mout bon emffant e mout beil, la Dieu merci. E nostre Seigneur vous gart.

⑨ Walter de Bibblesworth à Sir John de Kirkeby
1283
(P. R. O., vol. IX 17)

A sun tres cher ami, sire Johan de Kirkeby, le sen Gauter de Bibblesworth, saluz e bon amur.

Cher sire, souveignez vus de ceo ke jo vus priay ke vus enveisez letters de par le rey as vescuntes k'il delivrassent as esseketurs Sire Hue le Fiz Hotes les gardes le queus il ont de dun le rey e les chateus ; e s'il en eusent riens pris, k'il le rendissent ; c'est a saveir le maner de Derfleye en kunte de Gloucestre, e Hamertone en kunte de Hontedone, e Fissele en kunte de Norfouke ; e si ceste chose n'est fornie, jo vus pri, pur l'amur de mey, ke vus veoillez comander ces brefs sicome vus me promistes, vostre mercy, e fere les bailler au portur de ceste lettre, issi ke l'alme de vostre ami ke mors est n'eit damage par le delai. Saluz.

⑩ Eléonore, reine d'Angleterre, à Jean de Kirkby
1276-84
(P. R. O., vol. X 39)

Alianor, par la grace Deu, reyne de Engletere, dame de Irlaunde e duchesse d'Aquitayne, a son cher clerk, sire Jon de Kirkeby, saluz e bon amour.

Nous vous prioms de quer pur nostre chere benvoillaunte dame Marie de Clare, contesse de Gloucestre et de Hereford, ky bosoynes nous vodrioms ke fusent espleytez sicom les nos, ke, pur l'amour de nous, seiez eydannt e conseillant a ly e a sons, a ses bosoynes esploiter en kaunt ke vous poez a dretoure, si com vous vodriez estre a nous en nos bosoynes demeynes.

Done a Douvere le viij jour de Maii.

⑪ Jean Peckam à Edouard I
1280
(P. R. O., vol. XIX 195)

A tres haut prince e seignur, Edward, Deu grace, roy de Engleterre seygnur d'Irlande, duc d'Aquitaigne, frere Jan, le prestre de Caunterbire, saluz en graunt reverence.

Sire, jo merci mut a vostre hautesce des curtaisies ke vostre bunte m'ad feites sovent e especiaument de graunt plente de viaundes et de vyns ke vous me comaundastes envoier en vostre terre sauvage de Gales, Deu le vous mire. Oveskes, co, sire, sachez ke nos chanoinies de Pencriz ove lur deen unt fet graunt despit a vostre eglise de Caunterbire, cuntre la tuiciun qui est la greinnur fraunchise ke la eglise de Caunterbire eit. E unt fet prendre par lettre de capciun aucune genz qui sunt prossiens de la glise de Lichefeud, la queu chose, jo ne puis suffrir, ke tut mun poeir ne voist a hunte. De la queu chose, jo pri ke il vous pleise a creire sire Antoigne, vostre clerc nostre ami, e ke il vous pleise delivrer ceus qui sunt emprisunez a tort e cuntre la eglise de Rome et le iglise de Caunterbire. E ne vous esmerveillez pas si jo en face mun dever,

sauve vostre dreit a vos chapeles en tutes choses.

Sire, Dieus vous gard e quaunt ke vous amez.

Ceste lettre fu escrite a Sallo pres de Rible, en la voille des uttaves seint Pierre e seint Pou (5 juillet).

Ⅰ. 訳

① 母より勉学中の息子へ

親愛なる息子へ，祝福をもってあいさつを送ります。お前がどうしているのか，良い知らせを知りたいと切に望んでいるとわかって下さい。貴方の父上と私は神の御加護により元気で，この手紙を書いております。この手紙を持たせる者にことづけて，諸経費のためにと，お前に半マルクを送りますがそれは父上の御存知ないところでお前がいろいろとしなくてはならない経費のためです。さて，優しい息子よ，心から頼みますが悪い行いや，愚かなことはせず，悪い友人とはぜったいに付き合わぬようにして下さいよ。もしそんなことをすればお前の気づかぬうちに大変な損害をうけることになるでしょうから。父上がお前に与えられるものに加えて私もできる限りお前を助けましょう。神の祝福がありますように，私は私の祝福を貴方に与えます。

② （息子からの）返事

尊敬とあらん限りの息子の服従を以て貴女の優しい祝福を心より庶幾いながら。(vel sic あるいは—)

大切な敬愛せる母上へ，心から母上のお気に入りますように，深い尊敬と名誉にかけて貴女の親愛なる祝福をへり下って祈ります。愛する母上様，貴女が私にお送り下さったものについて幾重にもお礼を申します。また，私をお忘れでなかったのを感謝いたします。もし神のお気に召すならばいずれ間もなく，私について大層お喜びになろうことをお知らせするために一生懸命努力いたしましょう。私のために使われた出費と経費の全てはお許し下さい。

親愛なる母上，何卒父上によろしくお願いいたします。そして兄弟，姉妹，友人と皆々に私からよろしくと呉々もお伝え下さい。

我等の主が貴女様を守られ，日々貴女様の幸せと名誉を増して下さいますように。

——認む——

③ 妹より姉へ

懐かしい，大好きな姉上へ，大きな愛と共に御あいさつを。

まったく私の意志に反して父様が結婚を取り決めなさったということを知っていただきたいんです。その相手の人は醜男ですの。何があろうと絶対に私たちの間で交わりはできません。ですからね，大好きなお姉様，ねえさまを信用していますから，ほんとうに是非お願いします。ねえさまの旦那様に話して下さって，御手持ちの馬を一頭さし向けて欲しいのです。私の憂鬱が消えて静まるまで，二～三日姉様と一緒にそちらで過ごすことができればと思います。と言うのは父上のお言い付けにそむいたので，父様は私に対し大層腹を立てておられるの。愛する大切なお姉様，どうか神様が貴女に長い良い一生と優雅な最後をお与え下さいますようにとお祈りします。

—— [何月何日] 認む，その他 [——]

④ 姉より妹へ返信

親愛なる妹へ，幾度も心からあなたに挨拶します。あなたが私達の父上をこんなにないがしろにしたのは私にとって大変辛いと承知して下さい。よく考えなさいよ，可愛いい妹。父様は貴女の最高の保護者です。友達が皆あなたを見捨てても貴女を助けて下さるのよ。心を謙虚になさい。貴女が今しているように父上に対してそんなにえらそうに答えたり，傲慢だったり，反抗的だったりしてはいけません。その方と一緒になるのを拒絶したりすれば多分貴女はおろか者よ，つまり貴女の生きるすべも扶養してもらうすべも何もかもなくしてしまうんですからね。賢者の言っていることを想い出してごらん。争いよりも笞のほうが値打がある，争いはこわれるだけだから，と。今のところこれよりほかの答えを貴方には送りません。貴女を助け，お守り下さる神にゆだねます。

——認む，その他——

⑤ 夫から妻へ

いとしい愛する妻よ，私は心得てできる限り何度も繰返しお前に挨拶を送ろう。お前からのよき知らせと日々のよき暮らし，また健康について常に聞きたいと望みながら— そして，神が御自身をほめ称える者を守り，さらに高め賜わんことを，と祈りながら—

私に関しては，この手紙を大変心持よき状態で，元気で書いている，神よ称えられてあれ。さて先週火曜日ロンドンの町の外に出て海の方へ行った。それに，親愛なる妻よ，私がロンドンのW. B. コードバン皮師に20シリング6ペンスを借りていると知っておいて欲しい。その金を私への愛情のしるしに，気持よくできるだけ早く支払って貰いたいと頼んでおく。我々の親しき友人たち，隣人たち皆に私からの鄭重な挨拶を頼む。私の留守中，思慮深くよろしく取り計らっておくれ，大切な，深く愛している伴侶よ，神がお前を見守ってお助け下さるように，善い行いをするように恩寵を与え給わんことを。

とり急ぎしるす，その他

⑥ 恋文

私の全ての思いをやどす美しくいとしい恋人に，
言い付け通り何千回も，御機嫌ようと言いましょう
この木の葉っぱの数より多く，何度も何度も御機嫌よう
大空の星の数ほどたくさんの，愛情深い挨拶を。
たとえ20の数から選ぶとしても
こんなに望む女性(ひと)はいない。
あなたは私の死，そして生，
私の愛のすべては貴女。
何かお望みのことあらば，ひそかに頼んでいただきたい。
代りを送れはしないけれど，ほんとに貴女と話したい。
あなたを想っているように，私のことも想って欲しい。
真摯な愛が二人には，ありますようにと祈ります。
常の悪よりはるかに離れ，神よ栄光を与え給え。
貴女をマリアの御子に委ね，もうこれ以上は申しません。

何某認む

II.

⑦ ヴァランスのウィリアム，ペンブロク卿より夫人へ
1267年

ウィリアム・ド・ヴァランス，ペングロクの領主，いとしき妻へ挨拶を送る。

ウィンチェスタ城に麦と食料を補充し，そなたのもとにとどまるべくロペール・ド・イマーを差し遣わす。マルタン・ド・ロッシュならびにフィリップ・ル・クレールともども城を警備すべし。

全てにおいて合意と相談の上仕事を行うよう，予にかわり彼等に命ずること。そなたの見識に従い，あらゆる点についてよくよく事が運びゆくよう彼等に命じ，監督する権限を与える。そのことに関する証明として予の公式書状をそなたに送る。

被昇天祭に続く次の日曜日，バーキングより発送

ジャン王の王子，ヘンリー王の御代　第51（5月29日）

——○——

ウィリアム・ド・ヴァランスの妻はジャンヌと言い，ヴァリン・ド・モンチェンシ男爵（国王直封）の息女である。妻の権利によってウィリアム・ド・ヴァランスは「ペンブロク伯」の称号を得た。ロベール・ド・イマーはウィリアム・ド・ヴァランスに仕える身であった故に1270年，ペンブロク伯の所用のためアイルランドへ赴いた。マルタン・ド・ロッシュはウィンチェスタ城の家老であって，サザンプトンの州執政長官，領主のオルトン館の管理責仕者を次々とつとめた。(Tanquerey pp. 3-4)

この手紙は実例である。F. J. Tanquerey, *Recueil de lettres Anglo-françaises* (1265-1399) Paris, 1916 に集録されている。

Tanquerey は13世紀，14世紀にアングロノルマン語で書き残された書簡をロンドン Public Record Office に保管の *Ancien Correspondence* 58巻の中より求め，書簡選集を上梓した。筆者は Tanquerey の Recueil より数点を選び，書簡実例として茲にとりあげる。例文からは AN の特徴が読みとられるとともに手紙をしたためた個人の心境も窺い知ることができるであろう。

（この手紙は Tanquerey によると *Ancien Correspondence* 58巻の中の Royal and Historical Letters II. 657番である。）

⑧ ブルターニュ公爵，ブランシュよりヘンリー3世へ
ca. 1263-70

神の御恩寵を蒙り，英国王，アイルランド領主，アキテーヌ公爵たる，いと高貴にして最も親愛なるヘンリー王陛下，ブルターニュ公爵ブランシュよりうやうやしく御挨拶を。

敬愛せる主(あるじ)の君の御気に召すように私が常々心がけておりますと思し召せ。

陛下，御旨でありますれば，貴方様の領地を私に賜わりますよう御願い申し上げます。その地には我等の主たる神がとこしえの御恵みを下されましょう。我が君，貴方様のよき知らせを聞き，且つ知ることができるたび，まことに喜ばしく嬉しく存じておりますと御承知おき下さいませ。

貴方様のいとしい娘，我が娘のベアトリスは発熱して苦しんでおりましたが，大層回復してきているとお知らせします。お蔭様で医師たちはその熱は長びかぬだろうと申しております。何卒御主人様，我が国において何等かの事柄がありますす場合，貴方様御自身の国における如く私にお命じになり，委ねていただきたく存じます。と申しますのは貴方様の思い通りを，力を尽くして行いますことに大きな喜びがあるのでございますから。

アーサーはとても良い子で，神に感謝します。そして大変可愛らしい子だということを覚えておおき下さいませ。神が貴方様をお守り下さいますように。

——○——

Tanquerey p. 4
(Royal and Historical Letters II. 665)

⑨ ウォルター・ド・ビブズワスよりジャン・ド・カービィ殿へ
1283年

親愛なる友ヨハン・ド・カービィ殿へゴーチェ・ド・ビブズワスが友愛をもって挨拶します。

州長官執務室に王の手紙を貴殿から送っていただきたいと願いましたのを覚いておいででしょうか。その内容は没収地管理官から財産管理の権限をユーグ・ド・フィツオットの後見者たちに渡すということであります。後見者たちが承知している王のおくりものや城館について，もし彼等が何も譲渡されていなければ，それは与えられるようにと。すなわちグロスター伯領にはダーフレイ荘園を，オントダン伯領にはハメルトンを，ノーフォーク伯領にはフィセルを与えよということです。もしこの事が履行されていなければ是非，友情にかけて，貴殿がお約束下されたように令状をお送り下さい。それをこの手紙持参者に御渡し願えると有難く思います。遅延することにより亡くなられた貴殿の友人の魂がそこなわれることのありませんように。

敬具

——○——

Tanquerey pp. 40-41

手紙の筆者 Walter de Bibbesworth がフランス語教本 *Tretiz* を作成した本人であるかどうかは明らかではない。Walter de Bibbesworth はしかし Henry de Lacy, Earl of Lincoln とは *Débat*（前述）の中で対等に話しあっている knight であり crusader でもある。

1283年に死亡した Hughes le Fitz Otto は王家の執事であった。1283年3月24日，遺言執行人たちが財産を完全に管理し得る許可が出された。ビブズワスの手紙に対する答えであろう。(cf. P. R. O. Close Rolls 1279-88 p. 204)

(ビブズワスの書簡は P. R. O. vol. IX の17番に保存されている。)

⑩ 英国王妃エレオノールよりジャン・ド・カービィへ
ca. 1276-84

神の御加護によって英国王妃，アイルランド領主夫人，アキテーヌ公爵夫人たるエレオノールより王室輔佐官ジャン・ド・カービィに厚意と挨拶を。

我々の親愛なる，善意溢れるマリー・ド・クレール夫人，グロスター伯，ハーフォド伯夫人のために心からお願いします。私達の用件と同様に，夫人の用件が片附きますように望みます。我々のために，どうか貴方が夫人の用件について助言し，援助を惜しまれませんように。また貴方が我々領主の必要に応じ仕事をして下さる如く，可能なかぎり正当に，彼女の要請が達成されるように取り計らって下さい。

ドーヴァにて5月8日送る。

——○——

(P. R. O. vol. X. 39)

⑪ ジャン・ペッカムよりエドワード1世へ
1280年

いと高貴なる君主エドワード，神みそなわします英国王，アイルランド領主，アキテーヌ公爵閣下へ，カンタベリーの僧ジャン修道士が崇敬の念をもって御挨拶いたします。

陛下，貴方様の御好意がお示し下されました御高配，特にウェールズの御領地の野山から私に送れと御申し付けを賜わりましたあり余りますほどの食料，葡萄酒につきまして衷心より感謝申し上げます。

神が陛下に御報いになられますよう。

感謝と共にではありますが，ペンクリツの教会参事会員が司祭長と共にカンタベリィ教会に対し甚だ遺憾なことを致したと，どうか御承知おき下さい。カンタベリィ教会の保有する最大の特権の聖域に対してであります。逮捕状によってリッチェフェルドの教会教区の何人かを捕えさせました。それは耐え難いことでございます。何と致しましても恥をかきたくはございませぬ。その件につきまして御願い申し上げたいのでありますが陛下の僧侶であり，私奴の友人であるアントワヌ氏を何卒御信用いただきたく存じます。

ローマ教会およびカンタベリィ教会に対して，あやまって投獄されている者たちを何卒御放免下さいませ。陛下の礼拝堂ならびに全てにつきまして陛下の御政道に傷つきませぬよう，私が自己の義務を果たすといたしましてもお驚き遊ばされますな。陛下，神が貴方様と貴方様の愛されます全てをお護り下さいますように。

この手紙はリヴルの近郊サロにて認めました。

聖ペテロ，聖パウロ祝日8日間の前夜において　　7月5日

*　　*　　*　　*　　*

Public Record Office, Ancient Correspondence Collection に収められている書簡は13世紀半ばよりフランス語が多くなる，その時期以前の大半はラテン語の書簡といわれる。また1350年以後は英語の書簡も現われる。Ancient Correspondence Collection には多種多様の手紙が収められている由であるが，数葉を紹介するにあたって形式にはまった公式文書は避けた。ペンブロク卿より夫人への手紙，そしてアキテーヌ公爵夫人よりヘンリー3世への手紙は Tanquerey が集録した164通の書簡の中でも特に個人の感情が表現されていると Tanquerey の述べているものである。カンタベリー大司教ジャン・ペッカムの書簡には王と対決も辞さぬ彼の積極的な姿勢があらわれている。

British Library MS Harley 3988 28^{r}-67^{v} には *Manière de Langage* に続いて多くの書簡範例が記載されている。それらは主として王侯貴族へ家臣からの陳情書であったり，また請願書，報告書，特許状の書式の模範例等であるがその中に私文書の例文も掲げられてある。

14世紀半ばより後半にかけて Oxford には秘書官あるいは書記官のための実技を教える講座があり，その講座において Thomas Sampson（前述）との名を持つ教師が指導にあたっていた。Sampson は自身を 'enformour d'escrire et diter' と称し，4年間のコースであったというが彼は多種多様の書状の様式，そして書簡文の書き方，綴り方を学生に伝授した。[1] Sampson の講義に使用された各種の書式範例は MSS Longleat 37, Harley 4971, Cambridge Ee 4.20 に書き残されており15世紀に作成された Harley 3988 も Harley 4971 に記載されている書簡文と同様の文言が認められる。Harley 4971 に写されてある書簡文は1396-99年の間に書かれたらしい。

筆者はここに Harley 3988 より6点の私文書様式を掲載する（57^{v}-60^{r}）。[2] Tanquerey が編輯した手紙

文の実例も5点をとり上げた。両者の間には年代の異なりがあるがSampsonの書簡例はTanquerey編の実例と比較し得る好材料である。

注

1. Ivor D. O. Arnold, "Thomas Sampson and the *Orthographia Gallica*", *Medium Aevum* 6, 1937 pp. 193-209.

   Arnoldは上掲の論文においてCambridge MS. Ee 4.20ならびにHarley 4971に記載されている *Orthographia Gallica* はSampsonのOxford講座で教科書として使用されていたものであるという。

2. see: F. J. Tanquerey, *Recueil de Lettres Anglo-françaises* (1265-1399) Paris, 1916 pp. 3-4, 22, 40.

Epistolography

British Library

MS Harley 3988

ff. 57^{v}-60^{r}

pour demourer en vre tres honeurable copaignie
sans rien avoir deservy devers vous dont ma
tres chiere dame ie vous requier entierement
de cuer quil ne vous desplaise car ie fiz
convenant par tout cest annee pour demou
rer ou ma tres chiere dame dame Elianore
la dame de T. au ses fees et robes mais
tres honeurable dame voulantiers ie eusse
demouree en vre honeurable copaignie en
cas que vous me eussez comandee par voz
gracieuses lres devant la mayn ma tres
gracieuse dame me vueillez tous iours
comander vre gracieuse voulantee come
cely que le feia sans faire deffault ma
tres honeurable dame dieux vous doint
ioye de quanque vous avez

De matre ad filium scolarem

Salut avecque ma benicon tres chier
filz sachiez que ie desire grandement de sa
voir bons nouvelles de vous et de vre estat
car vre pere et moy estions a la faisance
de ces lres en bon poynt la dieu mercy
Et sachiez que ie vous envoie par le por
tour de ces lres demy mrc pour diverses ne
cessaires que vous en avez a faire sans

58r

50

estient de vre pere Et vous pri chement
beau tres doulz filz q vous laissez tous mals
et folyes et ne hantez mye mauvaise com
paignie car se vous le faitez il vous
fera grant damage avant q vous la perce
verez et ie vous aiderai selon mon pooir
oultre ce q vre pere vous donnra. Dieu
vous doint sa benicon car ie vous donne
la miene Escr &c

Responsio

Honeurs ou tous maniers de filialx obeis
sances vre che benicon humblement em
priant vl s. Ma tres chiere et tres honeuree
mere ie me recomande a vous en tant
come ie puis ou tous honeurs et reverences
de vre tres che benicon humblement vous
ensuppliant Et ma tres che mere moult
souvent ie vous envoy de ce q vous mennoiastez
et ne mavez pas oubliee Et sil dieu plaist
ie metteray tant ma diligence et mon pooir
daprendre q dedens brief temps vous en
aurez grant ioye de moy et voucherez sauf
tous les despens et costages q vous avez
despendu pour moy Et tres che mere me

58v

vueillez vous recomander a mon treschier
pere et saluer bien souuent de par moy tous
mes freres et soeurs et tous mes aultres
amys et compaignons Nre sa soit gart
de vous Et vous accrese en bien et honeur
as tous iours mais Escrit etc.

De sorore ad sororem

Salut et bon amour Tresche et tres
amee soer vueillez sauoir que mon pere
ma enpercuree vn mariage grandement
encontre ma voulantee car cest vne
leede personne et pour nulle chose de
monde il ne fera iamais copulacion
entre nous Pour ce ma tresche soer
ie vous pri chement comme ie maffi
de vous que vous en parlez a vre sa quil
me vueille enuoier vn de ses chiuaulx
que ie puis demourer deux iours ou trois
en vre compaignie tanque sa malen
colye soit essuagee et abessee Car
il est forment corroucee auecque
moy pour ce que iay son comandement
refusee Ma tresche et tresamee soer
ie pri a dieu quil vous doint bone vie
et longue et gracious fin Escrit etc.

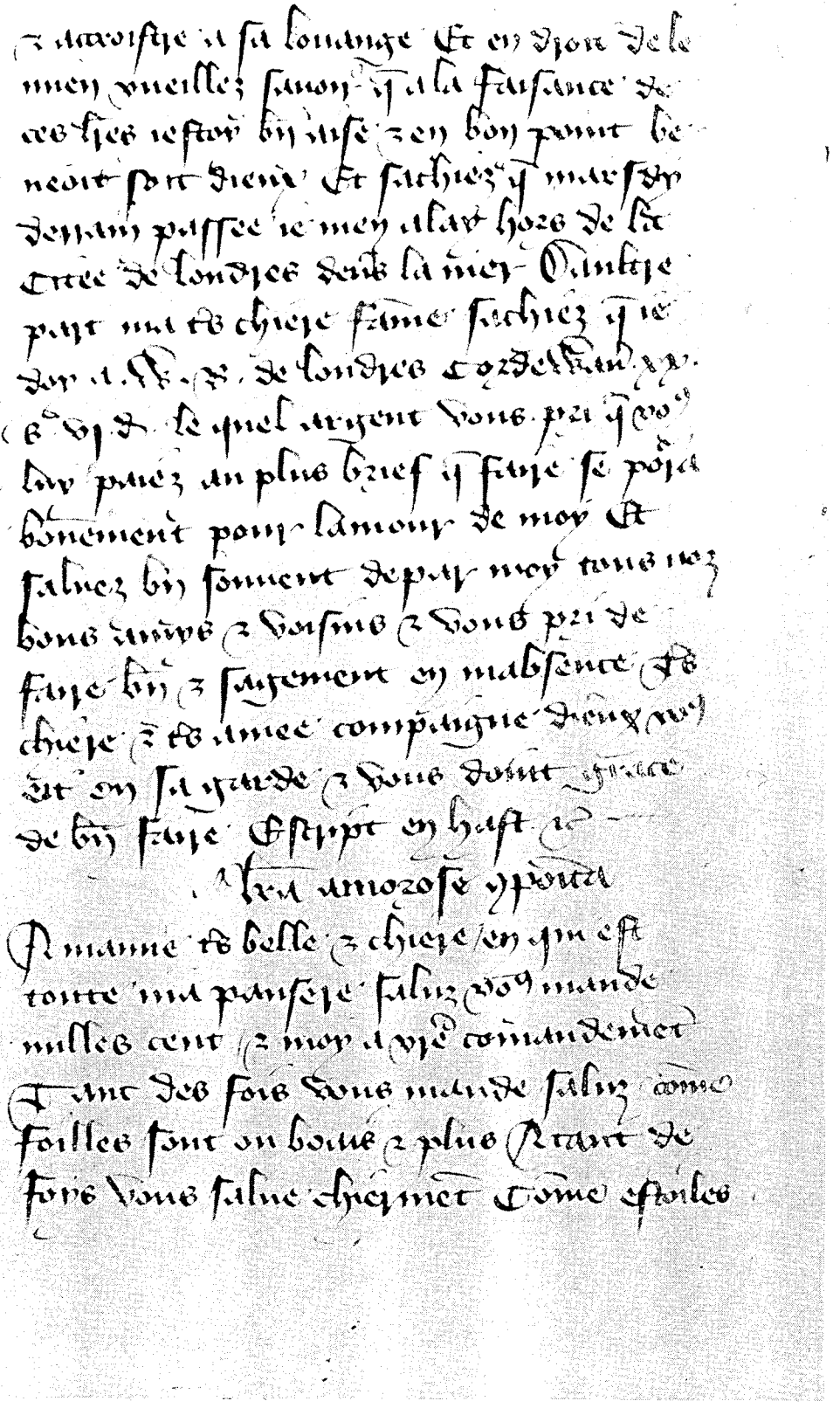
59r

Responsio

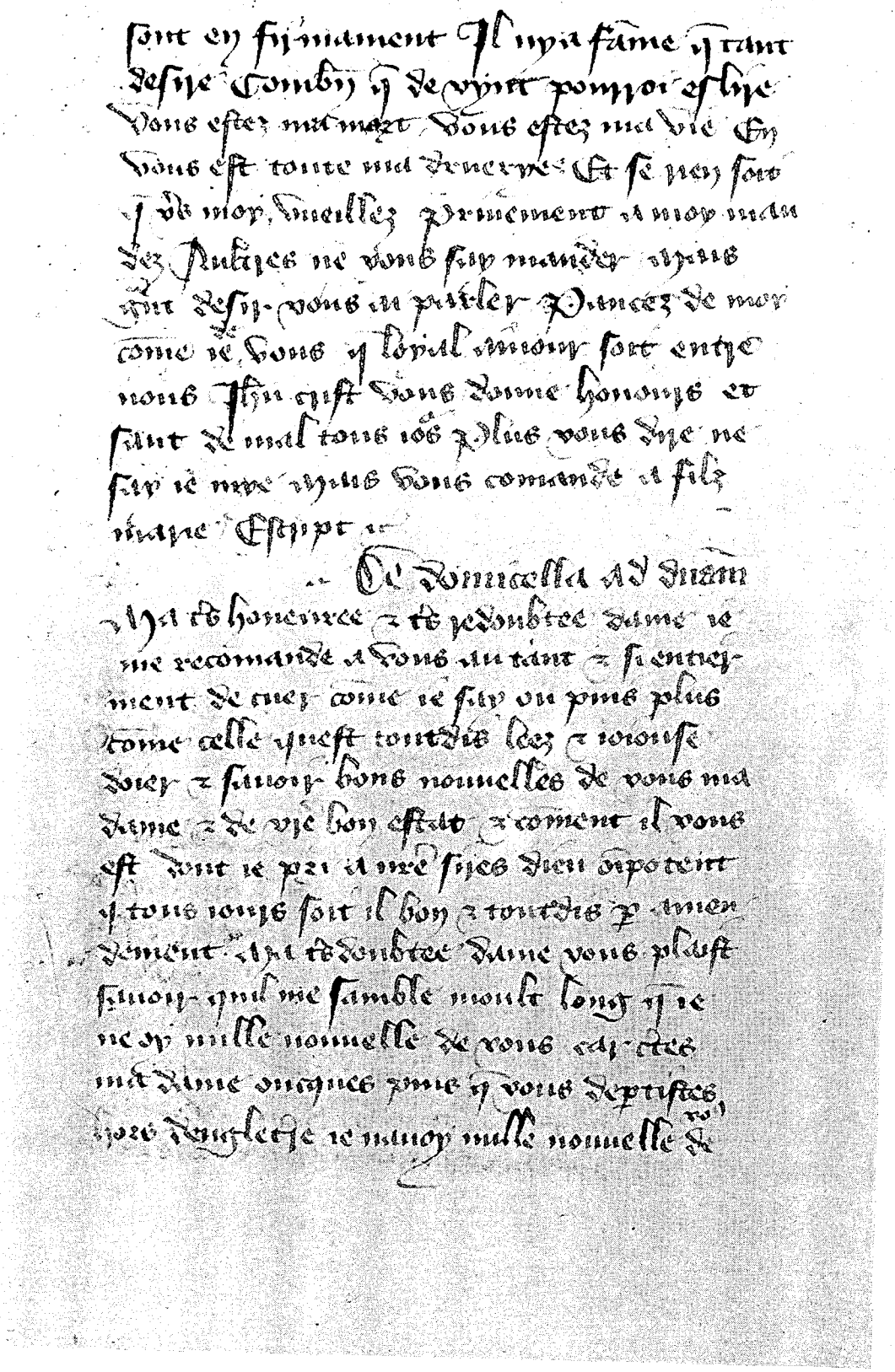
Ma tres chiere soer ie vous salue par
maintes fois de cuer Et sachiez quil
me poise grandement de ce que vous auez
ainsi mespris contre nre pere et pancez
bien ma tres che soer quil est vre souuain aide
et vous aidera quant tous voz amys vous
lerront et abessez vre cuer et ne soiez
mye si hautayne ne si orgueillouse ne
rebelle de respons contre nre pere come
vous estez car se vous refuseez sa co
paigine par auenture vous deuendrez
folle pour ce que vous nauez rien de quoy
vous pourrez viure ne estre sustenu Et
ramembrer vueillez de ce que le sage dit
mieulx vault la verge que plie que ne
fait cely que rumpe Aultre respons ne
vous say mander quant a present A
dieu qui vous eit en sa garde Escrit etc

De viro ad eruxerem

Ma tres che et tres amee famme ie vous
salue si souuent fois come ie say
ou puis desirant tout dis doier bons
nouuelles de vous et de vre bon estat
et santee que dieux vueille maintenir



60r



8) Treatise : *Femina*

Femina が収められてある写本 Cambridge. Trinity College B. 14. 39-40 は小型 18×14 cm の四つ折り判である。もとは 2 部に分かれていたものを39 (ff. 1^r-87^v) と40 (ff. 1^r-93^v) を合わせて現在は 1 冊に纏められてある。[1] 前半 (39) は13世紀後半 (40) は14, 15世紀に成立したと見做されている。

当該の *Femina* は88^r (14. 40の1^rにあたる) より始まり146^vに終る。Walter de Bibbesworth のフランス語教本 *Tretiz* と同じく子供たちにフランス語を教える目的で書かれたものである。*Femina* という表題が用いられているのは教本の編者がまず最初に 'Liber iste vocatur femina, quia sicut femina docet infantem loqui maternam, docet iste liber juvenes rethorice loqui gallicum prout infra patebit. (この書は *Femina* とよばれる。何故ならば *Femina* は母が幼ない子に話し方を教えるごとく, この書はこのあとに記されるように子供たちが修辞法に従ってガリア語を話すことから教えるからである。) と前置きしているところに由来する。編者はまた教本のおわりに「新フェミナ 終る」'Explicit ffemina nova' と記している。'nova' という言葉は13世紀末に作成された Bibbesworth の Treatise を敷衍しているという意味で加えられたものであろう。当時 1 世紀余にわたり読まれつづけたに違いない Bibbesworth の Treatise に, この *Femina* は大綱において従っているが129^rからは「さて幼ない子供たちに nurture について教えよう」という言葉をもって *Urbain le courtois*「礼節の書」の教えが138^vまで続いている。*Femina* の一部分として記されている *Urbain* の中にはこの 'nova' の価値を高めようとの意図によるのか特に Dionysus Cato に対する言及がなされ, 134^r-138^vには「カト一対句集」*Distichs of Cato*[2] に見られるラテン語の格言や, ソロモンの箴言, セネカの処生術, はては Vulgata 聖書 Tobias 4 章11節の引用も見られる。[3] 14世紀にアングロノルマン語で優れた作品を書き残したフランシスコ派の僧侶 Nicholas Bozon 作 *Proverbes de Bon Enseignement*[4] の冒頭, ソロモンの箴言が摂入れられてある個所は *Femina* の編者がそっくり借用した。

この *Femina* が書かれた時期は15世紀初頭である。Bibbesworth の *Tretiz* から凡そ 1 世紀半に近い時を経てこれはフランス語教本 *Tretiz* の流れを汲む最後の教本と言えるであろう。15世紀ともなれば, イングランドの上層階級の間で使われてきたフランス語を, 英語が母語である子供たちに学習させるためには対訳も必要であったにちがいない。*Femina* の特徴はフランス語の対句 couplet の後に英語訳の 2 行が続きこの形が繰返されることである。英語彙の綴りがフランス語綴りに対応している場合も多い。例へば最初の数葉に次のような押韻が現われる：

F	assemblé / appellé 13-14	E	assembled / appeled 13-14
F	batayle / amayle 23-24	E	batayle / bestayle 23-24
F	nomer / dever 37-38	E	name / devere 37-38
F	voyle / ryver 73-74	E	wyl / ryver 73-74
F	bale / baal 101-102	E	bale / baal 101-102

そして138^v-146^vには Rule が付け加えられている。rule とは第 1, どのようにフランス語を綴り (regula scripcionis), 第 2, どのようにフランス語を読み, 発音するか (regula locucionis), 第 3 にそのフランス語彙に対応する英語を理解すること (regula construccionis) を教えるものであって, 第 1, 第 2, 第 3 の縦 3 欄に分けて書かれた語解 glossary である。146^vで *Femina* は終り, 写本は179^vを

最後に綴じている。*Femina* に続いて147^{r}には数詞代名詞が,147^{v}-148^{v}には動詞活用 amer, estre, voloir が記され，149^{r}-154^{v}はフランス語対話，即ち *Liber Donati* 対話篇，語彙篇が続いている。この *Liber Donati* の対話の中で1415年，Agincourt においてヘンリー5世率いる英軍がフランス軍に対して勝利をおさめたこと，捕虜がロンドンへ連行されることなどが語られる。155^{r}-157^{v}は *Orthographia Gallica*, 159^{r}-162^{r}は *Le Manere de Salutacion et Ecriture*, 162^{r}-177^{r}は書簡集，177^{r}-177^{v}は *De Rege ad archiepiscopum*, 178^{r}-179^{v}はフランス語による賢明な婦人の物語（後半は写本の汚濁により判読し難い）179^{r}-180^{v}, *La Manière de Langage* である。

筆者はここにあらためて *Femina* の全文およびそれにつづく Liber *Donati* (grammatical sections) から数詞の1葉，動詞活用を示す1葉を転写するものであるが *Femina* では話しをすすめていく主題の順が Bibbesworth の *Tretiz* (Cambridge MS Gg 1. 1) と異なっているので次に二者の見出し語を対照させておこう。

Femina

1 De assimilitudine bestiarum
2 Quomodo appelluntur secundum eorum voces
3 De proprietatibus infantis
4 De partibus capitis
5 De anteriori parte capitis
6 Adhuc de corpore
7 De vestura infantis capitulum
8 De diversitate nominum
9 De eodem
10 De proprietatibus campi
11 De arte pistoris
12 Semina seminanda
13 Ars braciatricis
14 Ad prendendum pisces
15 De Tempore yemis
16 De nominibus herbarum
17 De nominibus avium
18 De nominibus animalium
19 De proprietatibus bige
20 (De proprietatibus aratri) [the heading proposed by W. Wright]
21 Ad edificandum domos
22 De proprietatibus nominum
23 De moribus infantis (*Urbain le courtois*)

Tretiz

(1) (Pur aprise du gendre en frances) (F3 4, 5, 6) [the heading suggested by the editor]
(2) Pur aprise de ceo ki est dedenz le cors de homme(F6)
(3) du Fraunceis de mostre vesture ad tut mostre autre herneis(F7)

(4) le Fraunceis des bestes e oyseus(F8)
(5) De la naturele noise des toutes manere des bestes(F2)
(6) De diversité de fraunceiz ki tut est dist de un engleis(F8, 9)
(7) Le fraunceis de pre e du chaumpe e de carier les blez(F10)
(8) Pur pestre vostre pain au fourn(F11)
(9) Le fraunceis de ceo ki a bone mesuere apent(F12)
(10) Pur breser brece e bracer cerveise(F13)
(11) Pur peschour en viver ou en estaunck(F14)
(12) Pur beau temps e pur tempeste(F15, 16)
(13) Le fraunceis des flurs et des fruz du verger(F16)
(14) Le fraunceis des arbres du verger(F16)
(15) Oyseaus de bois(F17)
(16) Bestes du boys(F17, 18)
(17) Pur un charet(F19)
(18) Le fraunceis des propretez de carue(F20)
(19) Pur meisoun edifier(F21)
(20) Pur attirere le fu
(21) Pur attire bel la mesoun(F21)
(22) Pur diverse paroles(F22)
(23) Le fraunceis pur un feste araer(F22)

Femina 転写に際しての詩行表示はフランス文と英文とを別けて行数を数え，1 Beau enfaunt pur apprendre に対し (1) Fayr clyld for to lerne と表示しておく。

Femina

I. Text

Cambridge Univ. Library, MS B. 14-40
ff. 88^{r}-146^{v}

Lyber iste vocat*ur* fe*mi*na, q*uia* sicut fe*mi*na doc*et* infa*n*tem loq*ui* mate*r*na*m*, [88^{r}] doc*et* iste liber juvenes rethorice loq*ui* gallicu*m* p*r*out infr*a* patebit.

Cap*itulu*m primum doc*et* rethorice loq*ui* de assimilitudine bestiar*um*.

1 Beau enf*au*nt, pur app*r*endre
En f*r*anceis devez bien entendre

(1) ffayre chyld for to lerne
In frensh ye schal wel understande
Coment vo*us* pa*r*lerez bealme*n*t
4 Et deva*u*nt lez sagez nat*ur*alme*n*t.
How ye schal speke fayre

And afore þyze wyzeme*n* kyndely
f g
Ceo est veir q*ue* vous dy.:
h i
Hony est il q*ui* n'est norry.

That ys soth þat y yow say

Heny ys he þat ys nat tau3th
k l
Parlez tout ditz com affaitês
m
Et ne my come dissafaitês

Speke þ alwey as man ys tauth

And nat as ma*n* untauth

Parlez en p*ri*mer de tout assemblé
n o
Dez bestez q*ue* Dieu ad formé

Speke þ fyrst of man*ere* assemble alle

Of bestes þat God hath ymaked
a a b c d e
beau debet legi beu enfaunt fraunceys bein belement
f g h i k l
ce cet vel ey3tt Iil neot toutdiz afetes
m n o
dissafetês beetez du & non dieu

a
Et dez oseaux ensement [88v]

Parler doyt ho*m*me nat*ur*alme*n*t.

And of bryddys also

Speke schal a ma*n* kyndely

Ubi aute*m* iste lite*re* rub*re* sup*ra* sc*ri*bun*tur* semp*er* p*ro*nosti ca*n*t(sic), q*uo*mo*do* id v*er*bu*m* p*ro*nu*n*ciat*ur*, q*uia* multocie*n*s gallicum uno m*odo* sc*ri*b*itur* & alio p*ro*nu*n*ciet*ur*, ut sic beu debet sc*ri*bi beau, enf*a*unt d*ebez* sc*ri*bi enf*a*nt sine u. Ideoq*ue* semp*er* sc*ru*tate ubi d*icte* l*ite*re su*n*t sc*ri*pte sine rubre l*ite*re & eas q*ue*re in hoc m*er*gine hui*us* libri te doce*n*t q*ua*liter d*ic*ta v*er*ba legu*n*t*ur*.

b
Primez, ou c*er*vez sount assemblé
c
Un herde donqe est appellé.

Ffyrst when h*er*tez beþ assembled

And h*er*de þanne hy3t ys appeled

Dez grues ensy un herde

Et dez g*ri*vez sanz .h. erde.

Of c*ra*nes also an herde

And of feldfares w*ith*oute .h. erde

Nye dez fesauntez coveye dez p*er*dryz,

Dame dez alowez t*ri*ppe dez b*re*byz.

A nye of fesau*n*tes a coveye of p*er*dryz

A dame of larkes a t*ri*ppe of shep

Soundre dez porks & est*u*rnyz

Deveye dez heronez & pipe de oseaux.

Oseus sount cu*m* u eet pors et*ur*nyz

A sondre of hogges & of stares [89r]

A deveye of herones a pipe of bryddys

G*re*yle dez geleynez, t*ur*be dez c*er*cieles

Lure de ffaukones & puselez.

A gr*e*yle of hennes a turbe of teles

A lure of ffaukones & damezeley

Eschele dit homme en batayle

Ffusou*n* dit ho*m*me de vyf amayle

An ost seyþ a ma*n* in batayle

Ffusoun seyþ ma*n* of quyk bestayle

Haraz dit ho*m*me dez poleynez,

Ffolye dit ho*m*me dez vileynez.

Haras seyþ man of coltys

ffoleye seyþ man of chorlys

Su*m*me du blé, su*m*me du bienez

Mace d'argent, fume dez fuez.

Su*m*me of corn su*m*me of goud

Mas of selver fume of fier

Mut dez chiens en ven*er*ie

Et de corner ap*rés* vous die.

A mut of houndez in ven*e*rie

And aft*er* to blowe y shal say

Mut dey chiens vous dirrez

Quater vint racchez ensemble, couplez deux & deux

cercelez echele chein s*ecund*u*m* parisiu*m* chan ap*re* vou deus

A mut of houndes ye shul say [89v]

(32) xxiiij(sic) racchez ycoupled togedere
Un lese dez lev*er*ers[a] est nomé
Q*ua*unt t*re*is en lese sount ensemblé
A lese of g*re*houndes ys y named
When .iij. en lese be þ togedere
Et un b*ra*s est dez lev*er*ers
36 Q*ua*unt deux[b] en lese sou*nt*[e] entiers,
And a b*ra*s of g*re*houndes ys
(36) When ij en lese be þ togedere
Brut dez barones doit ho*m*me nomer,
ffrap dez clerkes[d] & d*ro*it dever.
A brut of barones shal ma*n* name
A ffrap of clerkes w*ith* ry3t devere
Aray dit ho*m*me dez chival*er*s,
40 Route dit ho*m*me dez esq*ui*ers[e].
Aray sey þ ma*n* of kny3ttys
(40) A route sey þ ma*n* of sq*ui*ers
Dez rebaudez ensy un route
Et dez beofs[f] ensy sanz[g] doute.
Of rebaudes also a route
And of oxen also w*ith*oute doute
Et de un chose b*ien* vous gardez,
44 Au p*ar*te senest*re*[h] lev*er*ers menez.

a eet deus ent*er*s clers equers o þ*er* sq*ui*ers q*uia* fert
b f scutu*m* beef saunz cum u h senet*re*

And of o þyng take ye hede [90r]

(44) On þe left half grehou*n*dez ledez
Compaignie[a] dez damez dirrês,
Et dez owes ensy ferrês.
A co*m*panye of ladies ye schal say
And of gees also ye schal do
Qar en f*ra*nceys[b] ten*en*t de d*ro*it

Le maist*re* bauldem*ent* l'ottr*o*it

Ffor on frensch þey holdeþ of ryȝth

(48) þe maist*er* baldely holdeþ þerto

Si vous volez p*ar*fitem*en*t

Parler de*va*nt bon gent.

Yyf ye wylleþ p*ar*fytely

Speke afore goud folke

Il y ad suffler, venter & corner,

Dou*n*t la resou*n* fait a saver.

Me bloweþ in iij man*er*es .i. corner

(52) When of þe resou*n* ys to wyte

Le fieu suffle le quyst*ro*n .i. sufflet p*ropri*e — Venter

Le vent vente p*ar*my le b*ro*usson. — Suffler

þe fyer bloweþ þe quyst*ro*n — Corner

þe wynd bloweþ þoru þe bussh

Mez le venour p*roprem*ent corneie,

Q*ua*unt chas p*r*ent p*ur* quer p*r*eye.

companie sine g, fraunceys cum u metre baudement

vous devant cum v, feet fu quyt*ro*n q*ua*unt cum u

script*um* .i. qua*n*do sine u vel sic q*ua*nt ponit*ur* pro q*ua*nto

But þe hunter p*roper*ly corneþ & bloweþ [90v]

(56) Whanne chas he taket for to seche p*ra*ye

Quomodo appellu*ntur* se*cun*d*u*m eor*um* voces.

Ove oyez nat*ur*alm*en*t

Des bestez le diversem*en*t.

Now hereþ kyndely

Of bestez de div*er*site

Chescun de eux & chescune

(60) Solonqe q*ue* sa nat*u*re done.

Every of hem he & sche .i. maul & femaul

After þat har nat*ur*e yevyþ

Hom*m*e p*ar*le, ours b*ra*ye,

Qi demesure ceo aff*ra*ye.

Man spekeþ bere b*r*ayeþ

þat out of mesure hyt affrayeþ

Lyon romyt, g*r*eve g*r*oule,

64 Vache muche & courdr*e* g*ro*ule.

Lyon romyth c*r*an g*r*auly þ

(64) Kow loweþ hasyl bloweþ

Chyval hi[e]nist, allowe chaunt,

Colure je[f]rist & cok chaunt.

Hors neyeþ larke syngeþ

Coluer*e* jurrut & cok syngeþ

Ch[g]eat minoie, s*er*pent cifflie,

[a]betez [b]checun [c]eus [d]ce [e]hinit [f]jerit [g]chat

[a]Asyne rekane, cigne reciflie. [91r]

68

Kat mewe þ adder*e* cissit or fliet p*ropr*ie

(68) Asse ruge þ swan reflie þ

Lowe & le [b]chien baye,

[c]Q*ua*unt le veno*ur* quert sa pr*a*ye.

þe fox & þe hound baye þ

Wha*n*ne þe hu*nter*e seche þ hys p*r*ay

Owue jangle, jars jaroyle,

72 Mez il ad garoyle & jaroyle.

Goos jangle þ gandre g*r*alle þ

(72) But me ha þ garoyle & jaroyle

La diff*er*ence dire [c]jeo voyle,

L'ane jaroyle en la ryver.

þe differe*n*ce telle y wyl

þe doke q*ue*keth in þe ryver

Q*ua*unt le ffaukou*n* volau*nt* ly q*ue*re,

76 Mez devant une [d]ville en gere.

Whanne þe ffaukou*n* fleynge hir*e* seche þ

(76) But afore a town in werre

Ho*m*me fiche sou*n* baner en t[e]*er*re,

Pur le barbycan defendre.

A ma*n* stikyþ hys ban*er* in g*ro*unde

For þe barbycan to defend
De le sault q*ue* ho*m*me voeut rendre
Se*cun*du*m* pa*r*isiu*m* ayne chaan se*cun*du*m* pa*r*isiu*m* q*ua*unt
cum u ponitur pro quando je vile terr*e* saut veut

80 Ore a le noyse redirroms,
Of þe saut þat ma*n* wole ȝelde
(80) Now to þe noyse say we aȝen
Ou plus ap*r*endre y p*ur*roms.
C*ra*paude coile, reigne gayle,
When more l*er*ne we mowe
ff*ro*gge c*ro*wkeþ tadde pipyþ
Coulur p*ro*p*re*me*n*t regayle,
84 Porcell*e* gerist, sengler releie.
Snake p*ro*p*er*ly swyeþ
(84) Pig wrenneþ boor boweþ
Chevere gerist, ture torrayle,
True g*ro*undille, q*ua*unt d*ra*ge q*ue*rt.
Tyche bletuþ bole belweþ
The sowe g*ron*ekeþ when sche d*raf* secheþ
Ffaukon t*er*ssel le plunison fert,
88 Geline nat*ur*alment patille.
Ffaukon t*er*ssel ye mallard smytyþ
(88) The hen kendely kaklyþ
Q*ua*unt poume en gardyn ou en ville,
Qar en F*ra*unce est tiel estile
When sche leyþ in gardyn or toune
ffor in F*ra*unce ys swyche a stile
Qe gelyne hupe, ruke & patille.
veut redirroums p*ur*rovuns gerit toor patile ville
vile leget*ur* teel etyle patile

92 Et q*ui* t*ro*p se av*au*nte oultre reson,

[91v]

[92r]

þat hen clokkeþ rekleþ & kakleþ

(92) And he þat to moche avantyþ hym above reson

c
A la gelyne s*er*ra compaignon,

c
Qar plus se av*au*nte p*ur* un oeff,

To þe hen he schal be felawe

Ffor more sche avaunteþ for on ey

d e
Qe p*ur* sa arure fait le boef,

96 Et q*ua*unt le gelyne co*m*me*n*cea russille.

þanne for hys erynge doth þe oxe

(96) And whanne þe ha*n* takyþ to russill*e*.

f g h
Et moustre ceo a t*ri*ppeler

i
Dez oefs luy donez le g*er*moes.

And scheweþ þat sche wyl syȝtte abrod

Of eyren ȝyve hyre þe st*re*n

k l
Nou*n* pas quex sou*n*t est*er*gules

100 Barbyz baley, dame balee.

But nat þo þat beþ adle

(100) Schep bletuþ ladyes hoppyþ

m
Et le espic*er* p*re*nt sez mers de bale

Pur t*ro*p veylez ho*m*me baale.

The spic*er* takeþ hys mers out of hys bale

Ffor ou*er*muche waak man gouþe baale

A sou*n* s*er*vant sa chose bayle

a b c d d e
trof se*cun*d*u*m quosd*am* outre compaynoun oof feet boof

f g h i k l m
moutre ce trepiler oofs quens etergulez epyser*e*

I

104 Et ove baleye homme baleye. [92v]

To hys s*er*vaut hys þyng*es* he takeþ

(104) And with baleys me*n* swopyþ

Regardez q*ue* la sale soit juncheie,

a b
Ap*rés* dormer ho*m*me esp*re*che.

Tak hede þat þe halle be rysshet

Aft*er* sleppe ma*n* rakslet

e
Le p*re*st*re* en l'aglyse p*re*che,

Le pischeor[d] en la ryver peche,
þe p*re*st in þe chyrch*e* p*re*cheþ
þe fysser in þe ryver fysseþ
Ove sou*n* rey ou sou*n* eche.
Q*ua*unt la poure femme mene le t*re*sche,
Wyþ hys nett oþer with hys hook
þe poure woma*n* ledyþ þe daunce
Melo*ur* ser*r*oyt en mayn le besche[e],
Qar ele n'ad a v*er*me forps le besche
Bet*er* schold be in hand a spade
ffor she naþ to lyve by but hyr*e* spade
P*ur* payn q*ue*rer, bribe ou lesche[f],
Mo*u*n chael[g] le baele lesche.
ffor bred to gete loof oþ*er* lasse
My welpe þe pa*n*ne lyckeþ
Ore donez ceo chaele a flatier[h],

a ap*ré* b ep*re*che c p*re*t*re* d pichour e beche f leche g cheel h flater

Qe lesche[a] la rose de l'h*er*ber. [93r]
Now gyf þat welpe lape
þat lyckeþ þe rose of þe h*er*ber
Et il est flato*ur*[b] qi soit flat*er*
Et lez gentz[c] qi voet espulip*er*[d][e].
And he ys a flat*er*our þat can flat*er*e
And þes folk þat wyle bygyle

Hoc capit*ul*um doc*et* de p*ro*p*ri*etatib*us* infant*is*.

Q aunt enf*au*nt[f] est primer neez[g],
Covient[h] q'il soit malloeez[i],
When*ne* a chyld ys fyrst ybore
Hit behouyþ þat hyt be swadyd
Puis en sou*n* biers[k] ly cochez,
Et bercere luy p*ur*veiez.
After in hys c*ra*del hy*m* leyþ

And a rokkestere hym purveyþ

Quaunt enfaunt comence a chatoner,

Et einz q'il sache as pies aler,

Whenne a child bygynneþ to crepe

(124) And ere he conne on feet go

Et il bave de sa nature,

Pur sez draps saver de baveure,

And he drevelеþ of hys nature

ffor hys cloŋys to save fram drevelyng

a b c d e f
leche eet gens veut epuliper enfaunt cum
g h i k l m
ne covint maloe bers pes dras

Ditez donqe a sa bercere [93v]

Q'ele face un bon bavere.

Sey ye þanne to hys rokkestere

(128) þat sche make a goud drevelyng clowt

Et puis quaunt il commence d'aler

a b
Et volunters luy mesmes voet enpaluer,

And after whenne he bygynnyþ to go

And gladly wyle hym self byslobbe

Pur mal maym & male blesure,

e d
Ffaitez un gars luy garder sure.

Ffor evyl maym & evyl hurte

(132) Make a boy hym kepe sure

e f
Si q'il ne ceppe ne chie ceo,

Mez garduz en suertē.

So þat he stomble nat ne falle

But kepeth in suerte

g
Et quaunt il court en graunt age,

Mettez ly apprendre langage.

And whenne he renneþ in gret age

(136) Put hym to lerne langage

h i
En fraunceys a luy vous devez dire

k l
Come primez il doit soun corps discri[r]e.

In f*r*ensch to hy*m* ye schal say

How fyrst he shal hys body discr*i*ve

a b c d e f g
memez veut fetes ly che ce q*ua*unt pro q*ua*ndo cum

h i k l
sine u pro q*ua*nto f*ra*unceys vou corps disc*ri*e decr*ie* leget*ur*

Et p*ur* ordre garder de mou*n* & ma,

140 Tou*n* & ta, son & sa, .i. masc*u*li*no* & fe*minino*. [94r]

And for ord*re* to kepe of mo*n* & ma

(140) Tou*n* & ta sou*n* & sa for ma soune*þ*

Quia ma sonat fe*minino*, mou*n* masc*u*li*no*

To femyny*n* gendre & mou*n* to masclyn,

Cy q*ue* en p*ar*le soit b*ien* ap*ri*s

Et de nule ho*m*me escharnis.
a

So *þ*at in speche he be wel lerned

And of no ma*n* y scorned

Capit*u*l*u*m de p*ar*tib*us* capit*is*.

144 Di ma teste ou mou*n* chief
c b

Et la g*re*ve de mou*n* chief.

(144) I say my*n* heved & myn heved

And *þ*e shode of my*n* heved

Featez la g*re*ve a tou*n* lever

Et manger la g*ri*ve a tou*n* dyn*er*.

Make *þ*e shode at *þ*yn upprist .i. in capite

And ete *þ*e feldfar*e* at *þ*yn dyn*er*

148 J'ay lez cheveus rec*er*celez,

Mou*n* toop vous p*ri*e q*ue* estouncez.
d e

(148) I have *þ*yze c*ri*pse lokkys

My toop y praye *þ*at ye sher*e*

En v*ostr*e chief vo*us* avez toop
f

a c b d e f
echarnys te3tte cheef vou etoncez cheef

En la ryme getez un toup. [94v]

In yo*ur* heved ye havy*þ* a top

In *þ*e t*ro*u3gh cast *þ*e toup

Et serencez de lyn le top,
De la lute p*er*nez le tup.
(152) And hechele þ of flex þe top
Of þe wenne take þ þe tup
J'ay [a]auxci mou*n* hanapel,
Mou*n* front ensy & mou*n* cervel,
I have also myn b*ra*yn panne
Myn forhed also & myn b*ra*yn
Mou*n* hat*er*el ove les temples,
Et lez [b]ministr*e*s dit ho*m*me te*m*plez.
(156) Myn pol w*it*h þyse templez
And þyse ministr*e*s sey þ man templez
V*ost*re regard est g*ra*cio*us*,
Mays v*os*tre eul est chacio*us*.
Youre byholdynge ys g*ra*cio*us*
But yo*ur* eyȝe ys spaduous
De l'eul [e]oustez le chacie
Et dez [d]neeaz auxci la rupye.
(160) Of þe eye cast out þe spaduynge
And of þe nose al so þe droppynge
Mult [e]vault la rubye [f]escript par .B.,
[a]aucy cum si [b]mincte*r*es [c]ouȝttez [d]neez [e]vaut [f]ecrip

Mez poy vault il escript p*ar* .P., [95r]
Much ys worth þe rubye ywryte by .B.
But lytyl ys worth he ywryte by .P.
Ewe est rupye issant de [a]neas,
Mez rubye est p*re*cio*us* piers.
(164) Wat*er* ys rupye goy*n*ge f*ra*m nosez
But rubie ys a p*re*cio*us* ston
De l'eul est tout saf le p*ur*nel,
Si la papir*e* soit bon & [b]beal
Of þe eye ys al saff þe appyl
Yyf þe eyeled be goud & fayre

En lez papires sou*n*t lez cielez,[c]
Amo*un*t les eulez so*u*nt lez s*ur*cieles.[d]

(168) In þyse eyeledes beþ þis heres
Above þe eyez beþ þe browys
Auci[e] avez vo*us* par bone reso*un*
Deux[f] narrys & un tend*r*on.
Also have ye by goud resou*n*
Ij nostrels & a g*r*istlon

Vous avez la lyre & le levere,
Le lyv*er*e ensy & le lvyer*er*(sic).

(172) Ye haveþ la lire & le levere balaunce & þe hare
þe book also & þe lyppe
Le lvyre est q*ue* enclose lez dentez[g]
ec*r*ip[a] nees[b] beel cijlez[c] s*ur*cilez[d] aucy[e] cum si deus denz[f g]

Le lev*er*e en boys soy tient[a] dedeinz. [95v]
þe lyppe ys þe encloseþ þe teþ
þe hare in bussh hym holdyþ withynne

La lire s*er*it(sic) en marchaundyze,
Le liv*er*e noz p*r*int al clergize.

(176) þe bal*au*nce s*er*veþ in march*a*undyze
þe boke us techeþ to clergyze
En la bousche[b] amou*n*t est pallet,
P*ur* tast*er* vo*us* chosez orde ou nett.
In þe mouþ on hey3gh ys þe palet
To taste yo*ur* þynges foule oþ*er* clene

Et lez damez sou*n*t ententivez,
P*ur* byen laver lo*ur* genoius.

(180) And þyse ladyes beþ ful besy
For wel to wasshe hare knowes
C'est l'achesou*n* p*ur* c*er*teigne,[c]
P*ur* aver le melo*ur* aleyne.
þis ys þe resou*n* for c*er*teyne
ffor to have þe bettere brethe

184 Ele ad col, gorge & mentou*n*,
Dou*n*t le f*ra*nceys est comou*n*.

(184) Eche havyþ necke gorge & chyn
Wher of þe frensh ys comyn
Desoubz la longe est furchele.
a teint b bouche c *cer*teyne d f*ra*unceys cum u e south

Oos furche en F*ra*unce l'em apele. [96r]
Vnder þe tonge ys þe furche
Boon furcheþ in F*ra*unce me elepeþ
188 Dedeinz le gorge est gargate
Et pluis p*ar*founde la gist le rate.

(188) With ynne þe þrote ys þe gargule
And more deppere so lyþ þe ryngbon

De anteriori p*ar*te capit*is*.
En chief de*va*nt est fonteyne,
Le soubtheyne luyre & sove*r*eine,
In þe heved afore ys a pute
þe ny*þer* lyppe & þe ove*r*er
192 En la bousche sou*n*t mesfall*e*s,
Et donq*ue* foreines, si tu lez q*ue*re.

(192) In þe mouth beth wong teth
And þe*n* þe fore teþ 3yf þu he*m* sekyst
A col vo*us* avez un fosslet,
Desouth la lange est le filet.
At þe nekke yow havyþ a lytyl hol
Under þe tonge ys þe fylet
196 Et p*ur* ce*r*tifie*r*e la p*ar*ole
Conust*re* devez le kakenole.

(196) And for to ce*r*tefie þe speche
Know ye schal þe rem of þe b*ra*yn
a eet b gitt d devaunt e cum u southene f liue*r*e g mefall*e*s h count*re*

Et desouth le orayle avez *ger*non [96v]
A lez espaulez[a] avez blason.

And under þe ere ye havyþ heer

At þe schulders ye have a schulderbon
Desoub[b] le chart gist[c] le essel,

Desoub le b*ra*s avez huissel.

(200) Under þe carte lyþ þe ȝex tre

Under þe arme ye have a putte

Le char chivage en le chare,

Dont lez ho*m*mes fount lo*ur* eschar.[d]

þe fleyssh rydeþ in þe char

Wherof me*n* makeþ har skoryn

Sur le montayn c*ru*st[e] le broyl,

En bas te*r*re[e] est[f] tout foitz bon soil.

(204) Uppon þe hulle groweþ þe myst

In low lond ys alway goud soyl

Entre pledo*ur*us move le toyl,

Le vent de bijs g*re*ve le oyl.

Bytwyn pledo*ur*us ys meved strif

þe wynd of þe eest g*re*veþ þe eye

Ap*ré*s[g] august[h] chiet[i] le foyl,

Ap*re*s gele vient[k] remoyl

(208) Aft*er* August falleþ þe leff

Aft*er* ffrost comeþe þawe

[a] epaulez [b] south [c] gitt [d] ecar [e] crut [e] tere [f] eet [g] apre [h] aust [i] chet [k] veint

Cestez p*ar*olez[a] icy jeo[b] coil

Q'est le chesou*n* vous dire jeo voyl, [97r]

Swych*e* speches her*e* y gader*e*

What ys þe chesou*n* yow y wyl say

P*ur* mutz[c] acorder en p*ar*launce

Et discorder[d] en variance.

(212) ffor muche to acorde in spekynge

And to discorde in varyynge

Adhuc de corp*o*re.

Il n'est pas mist*er* a disc*ri*[r]e
de f*r*aunceys q*ue* chescun[e] sciet[f] di[r]e,

Hit ys non nede to disc*ri*e

þe frenshe þat ev*er*y man ca*n* say

De vent*re*, de doos, ne de chyne,
Dez espaulez[g], b*r*as, ne pet*r*ine.

(216) Of wombe rugge ne chyne

Of shuldres armez ne brestbon
Mez jeo face le must*r*eson[h]

De chose n'est pas cy comu*n*.

But y make þe shewynge

Of thyng þat ys nat so comune

Dez espaulez issint lez b*r*as,

Coutes, ne mayns ne lessom.

(220) Out of þyze shuldr*e*s goth þyse armez

[a]cetez [b]je [c]muz [d]variaunce cu*m* u [e]checun [f]seit
[g]epoulez [h]moutreson

Elbowes ne handez leve we nouth [97v]

Je oy tonn*er*, com*en*t il tonne,
Do*u*nt[a] la s*er*vise pi*e*rt en tonne.

I hurd dondere how he denede

Wh*er*e of þe ale p*er*shede en tonne

224 Mez p*ur* est*re* en tout c*er*teigne[b],
Vo*us*[c] die de la cowe du mayne.

(224) But for to be in al c*er*tayn

Yow y say of þe wrest of þe hand

La paume dedeinz le claie dehors
Et la poyn[d] est la mayn cloos.

þe paume vyþynne þe clouth w*ith*oute

And þe fust ys þe hand cloos

228 Et le fel fert le poignou*n*[e],

A t*rave*rs sou*n* co*m*paignou*n*.

(228) And þe galle beryþ þe longhe

To t*rave*rs hys felawe

Et une poine q'avez en mayn,

Ceo est la mayn t*re*[f]stout pleyn.

And on handful þat ye havyþ in hande

Þat ys þe hand ryȝth ful

Et ambe[g]deux les mayns pleins

En F*ra*unce l'em apelle galeyns.

(232) And bothe þyse handes fulle

[a] pirt [b] certeyne [c] vou [d] eet [e] poynon [f] t*re*tout [g] ambedeus

In f*re*nsh men clepeþ galeynes [98r]

Mez pluis [a]vault une pet*it* [b]poigné

De gyngef*ere* b*ie*n t*ri*é,

But more ys worth a lytyl handful

Of gyngef*ere* wel ytried

Qe sou*n*t lez galeyns

De filaundres toutez pleines.

(236) Þen*ne* beth a hu*n*dred galeynes

Of gossomer al fulle

Une cost de l'un costee

Avoit Adam p*ar* [c]dieux [d]ousté.

A rebbe of a syd

Hath Adam by God uttake

[e]Q*ua*unt dame Eve p*ri*mez [f]fist,

Ne porta charge, [g]lieu q'il [h]gist.

(240) When*ne* dame Eve fyrst he made

Hyt bare no charge in place þere hyt lay

En mylyeu del vent*re* est umbil,

Et p*ar* desouth est le penil.

In mydde place of þe wombe ys þe navyl

And by under þere ys þe share

Quisez & nagez ove le ffurch*ur*e

ffou*n*t g*r*ant ese p*ur* chevachur*e*.

(244) Thies & buttokkes forth w*ith* twyste
a b c d e f g h
vaut peti deu ow3tte q*ua*unt fi3tth leu gitt

Doth g*r*et eze for rydynge

Jambez & Jenoylez conusez, [98v]

a
N'est mist*er* q*ue* a vo*us* soie*nt* tochez.

Shankes & knowes ye shal knowe

Hyt ys no mist*er* þat to yow þey be touched

b
248 Mez en jambe vo*us* avez lassur*e*,

c
Et tanq*ue* b*r*ayn est en sure.

(248) But in legg*es* ye have sparlur*e*

And as b*r*ayn hyt ys þer uppon

De mell*our* fors ho*m*me ce assur*e*

Et si le canel soit sans bleso*ur*.

Of bet*er* st*r*engthe men hy*m* assureþ

And 3yf þe shynbon be w*ith*oute hurt

252 Et lez garteres vo*us* avez auxci.

d
P*ur* cele ap*r*ise jeo vo*us* di.

(252) And þyze gart*er*es ye haveþ also

ffor swyche a lernynge y yow say

De celuy ho*m*me du gart*er*es

e
Si vient l'usage dez garteres.

Of þylke me*n* of þe gart*er*es

So com þe usage of þe gart*er*es

f
256 Auci avez vo*us* lez kevilles,

Mez n'entendez p*as* kivilles.

(256) Also ye havyþ þyse anknees
a b c d e f
neett vou eet je vient keviles

But understa*n*deth*h* nat t*r*een pynnes [99r]

a b
Keville fait ho*m*me ferme estier,

Et la kiville fait le charpent*er*.

Ankne maketh ma*n* faste stande

And þe t*r*een pyn makeþ þe carpe*nter*

Plante ad ho*mm*e, urtil & talon,

Dou*n*t le f*r*a*u*ncés est comou*n*.

(260) Sole haþ ma*n* too & hele

Wherof þe f*r*ensh ys comyn

Dedeinz le corps[c] ad chescun[d] ho*mm*e

Coer, fay & poignone*n*.

W*ith*ynne þe body haþ every ma*n*

H*er*te lyv*e*re & longhen

Splen bowel & reynone*n*

Stomak veyne nerf envyrone*n*

(264) Mylthe þarme & kydeney

Stomake veyne synues al aboute

Et ne obliez pas nou*n* vessie,

Qe al vent*r*e[e] fait g*r*a*n*t aïe.

And forȝytteþ nat þe vessie .i. a bladdere

Þat to þe wombe doþ g*r*et helpe

Puis q*ue* la uryne est aq*ui*lon,

Ne lez roynez ne obliom.

(268) After þat þe uryne ys ygadred

[a]feet [b]eyȝttyr [c]cors [d]checun [e]feet

Ne the reynes forȝete ye nouȝth [99v]

Ore ne fault[a] rien[b] mez fel p*ar* nou*n*

Dedeynz le corps[c] q*ue* ad ho*mm*e.

Now fayleþ nouyþ but þe galle by name

W*ith*ynne þe body þat haþ a man

De vestura infantis ca*pitulu*m.

V estez vo*us* ove voz d*r*a[d]ps, pet*i*t enf*au*nt,

Chaucez voz b*r*a*i*ez petitez & g*r*a[e]ntz.

(272) Cloþe yow w*ith* yo*ur* cloþys lytyl chyld

Doþ on yo*ur* breche hosyn & shon

Mettez le chap*er*on cov*er*ez le chief[f],

Tachez vo*us* botonez dere[g]chief.

Put on þe hoth kev*e*re þe hed

Tache yo*ur* botnes f*ra*m on ende to oþer

276 Ove une corr*e*ye vo*us* seintez,

A vo*us* ne di ne ceyntes.

(276) W*ith* a gyrdyl gyrde yow

To yow y say nat wexe w*ith* chyld

A cause q*ue* fe*m*me est p*ar* ho*m*me enceynte,

Et ove une seint*u*re ele seinte.

Bycause þat womma*n* ys by man w*ith* chyld

And w*ith* a seynt*u*re she ys ygurd

280 De la seint*u*re le pend*au*nt

Passe p*ar*my le mordant.

[a]faut [b]reincors [c]dras [d]g*ra*unz [e]cheyff [f]derecheiff [g]

(280) Of the seynt*u*re le pend*au*nt [100r]

Passeþ þoru þe mord*au*nt

Ensy doyt le mord*au*nt & le hardyllou*n*

Passer p*ar* tru de subilon.

Also shal þe mord*au*nt & þe tonge

Passe þoru þe hool & al

284 Si [a]jeone enf*au*nt [b]tien la mayn

Primez al matyn v*er*s la payn,

(284) 3yf a yong chyld holdyþ hys hand

ffyrst on morn toward breed

Une brybe donq*ue* luy donez,

Ou une lesshe si pluis n'avez.

On lesshe þanne hym 3evyþ

Oþer a sheve 3yf ye no more have

288 Mez sy vo*us* luy donez dez [c]ouefs,

Ensy lez atir*é*s a sou*n* [d]oeps.

(288) But 3yf ye 3eve hym of egges

Also hem atire to hys use

[e]Oustez le chale, eynz q'il hume,

Le tru & la albume.[f]

Cast away þe shulle er*e* he neme hyt

Þe reme also & þe wyte

Et luy donez le moel,[g]

Qy a ho*m*me seyn est bon morsel.

jwne[a] teynt[b] ofes[c] use[d] ou3tthes[e] aubume[f] mool[g]

(292) And hym 3evyth þe yelke [100ᵛ]

That to a man hool ys a goud morsel

Mez le ger*m*e vo*us* en ostez.

Ren ne vault[a] bien vo*us* sachez.

But þe str*e*n ye out caste

Noþyng hyt ys worth wel ye know

Dez pommes vo*us* di e*n*sem*e*n*t*

Le man*e*r*e* & affaitem*e*n*t*.[b]

(296) Of þyse apples y say yow also

Þe man*e*r*e* & þe affetem*e*n*t*

Oustez[c] lez stykes & la p*a*r[d]ure

Et luy donez la morsur*e*.

Cast away þyse steles & þe parur*e*

And hy*m* yevyþ þe body

Lez pipin*e*rs en getez

Et lez pipeims en plantez.

(300) Þize cores cast out

And þyze kerneles setteþ

De div*e*rsitate nominu*m*.

Veyez, Si vient de*ua*nt vo*us*

un chi*val*er tout rous,

Sethe her*e* comeþ afore yow

A knyȝth al red

Qi a chival sore est monté

vawt[a] affetement[b] ou3tthes[c] p*a*r[d]ur*e*

[101r]

Escuue[a] de goulez il porté

(304) þat on an hors red ys ystyȝe
A sheld of red goulez he beruþ
Une launce rouge en l'une mayn.
De vyn v*e*rmoyl sou*n* bousche[b] est plein,
A launce red in on hand
Of wyn*e* red hys mouth ys ful
308 Et ne ma*n*ge de peson,
Mez haryng soor q*ui* ad non.
(308) And he eteþ no ffyssh
But heryng red by name

De eodem.

Jeo[c] veie une roigne sany roy
P*ur* une reyne fayre[d] g*r*ant aff*r*ay.
I sawe a quene wyþoute kyng
ffor a tadde made g*r*et aff*r*ay
312 Et enmy la realme[e] la roy
Est un ryom fait[f] p*ur* un rei.
(312) And in myddys þe reme of þe kyng
Ys afore y mad for a nette

Hoc capit*ul*um docet de p*ro*p*ri*etatib*us* ca*m*pi.

Ore aloms[g] as p*r*ees & champs[h]
P*ur* norrer n*ost*re enfauntez[i].
Now go we to mede and feld

a ecu b bouche c je d fere e reme f feet g alommis h chanis
i enfauncez cum u

[101v]

ffor to norshe oure chyldryn
316 Une faux[a] fauche un ambinge de p*re*,
De faucyl est garbe & javel aucy.
(316) Asyde moweþ a swad of þe mede
Of swad ys sheff & shoffe also
Vos javelez en garbez liez,

En t*ro*[b]sseaux voz garbez mettez.
Youre shoffez in sheffez byndyþ
In t*ru*ssey yo*ur* sheffez putteþ
Un varrot de pois suis arechez,
Et lez feves en warrot liez.
A wa3e of pesyn uppon recheit
And þyse beins in wa3es byndyþ
Mez il n'ad myst*er* q*ue* vo*us* di[c]oms
De toteþ man*er*es[d] dez blez le nounz.
But hyt ys noon ned þat ye say
Of al man*er*e cornes þe names
Del sigle d'orge, ne f*ro*ment
Qe comm*un*s sou*nt* a tout gent,
Of rye ber*e* ne whete
þat comune bethe to al folk
Mez d'aul[e]tre semaile q*ui* c*re*[f]st,
Qi cultivers m[g]ult displ[h]et.
But of oþer seyth þat g*ro*weþ

[a] faws [b] t*ro*sseus [c] diommis [d] nounes [e] d'autre [f] c*ret* [g] mut [h] diplet

þat tiliers much displesyþ [102r]
Reveray il c*re*st & le betoyl,
Le hayson au[a]xcy & le no[b]eil,
D*ra*gge hyt wexyþ & dernell*e*
þe wyld facche also & þe kockyl
Le blaverole & le maw auxci,
Charoyle & aut*re*s q*ue* ne vo*us* di,
þe blewed also & le hocke
Charlok & oþer þat ne yow say
Qar t*ro*[c]p j'av*r*oie ore a fayre
De totez semailez vo*us* dusse t*ra*here.
Ffor overmuche y shold have a do
Of alle sedys yow to say

Mez q*ua*unt d temps est karier,
Bonez chartes e faitez charger.
But whanne tyme ys to karye
Goude cartys doþ ch*ar*ge
Le charit*er* ad sa riorte,
Mez charuers le auguillon porte.
(336) Þe cartere haþ hys whyppe
But þe plowmen þe gode berud
Et le chart*er* f covient q'il porte
Ove g luy h toutfoitez sa ryorte,
Þe cart*ere* behouyþ þat he ber*e*
a aucy b noil c fer*e* d tens e fetez f covint g ly h toutfoiz

Wyþ hym alway hys whyppe [102ᵛ]
Dou*nt* il ad dobble entendem*e*nt
Qe tout gent ne savent a nient.
(340) When of me hath double understa*n*dy*n*g
þat alle folk knowe nou3th
En la g*ra*nge b voz blez mowez,
Dehors la g*ra*nge voz blez tassez,
In þe g*ra*unge yo*ur*e cornes moweþ
Wyþoute þe g*ra*nge yo*ur* cornes tasseþ
Qar un mow est dit en g*ra*nge,
Et un tasse, dehors la g*ra*nge.
(344) ffor a mowe ys seyd in g*ra*unge
And a tas w*ith*oute g*ra*nge
En g*ra*nge gardez vo*us* de hareit,
Es c champs vo*st*re blez d'autere d bestes.
In berne kepe yow f*ra*m þys eilez
In feld yo*ur* corn fram oþ*er* bestes
En sale chaunt*er*ez lez e gestez,
P*ur* obliere lez g*re*vez f molestez.
(348) In halle ye shulle synge þyse gestez
To for3ete þyse g*re*vous hurtes

Mez si vous priez gentz (g) a vo*us* festes (h),
P[ri]ez ceux (i) qui sou*n*t en enq*ue*stez (k),

But 3yf ye p*ra*ye folk to yo*ur* festes
neint (a) vou (b) chams (c) betez (d) getez (e) moletez (f) gens (g)
fetes (h) ceus (i) enq*ue*tez (k)

Pray hem þat ben in enqu*e*st*es* [103r]
352 P*ur* lour malice q*ui* sou*n*t si p*re*stez (a).
(352) ffor hare malice þat ben so redy

De arte pistoris.

Q*ua*unt vost*r*e ble est b*ie*n batu,
Puis venté & b*ie*n molu,
When yo*ur* korn ys wel y þ*ro*sse
Aft*er* y wynwyd & wel y g*roun*de
Par le moule*r*e devient (b) farin,
356 Et donq*ue* pain p*ro*schein (c) matyn.
By þe g*r*indynge comeþ mele
(356) And þen bred nyx3t on morwe
Auxcy (d) de g*ra*yn devient flour
Par le bolenge del pistour (e).
Also of corn comeþ flour
By þe bu*n*tynge of þe baker*e*
Et p*ar* la bolenger est sev*er*e
360 La flour & furfure q'est (f) si clere.
And by þe bunt*er*e ys deceve*r*et
(360) Þe flour and b*r*an þat ys so cler*e*
As voz chivalez lez fourfre donez,
Et ove ewe teen le flour medlez.
To yo*ur* hors þis bran 3evyþ
And wyþ wat*er* warm þe flour medleþ
pretes (a) devint (b) prochein (c) aucy (d) pitour (e) qeet (f)

Et vost*r*e past ensy pester*e*z, [103v]
364 Ove une rastuer (a) vost*r*e auge mu*n*dez.

And yo*ur* past also kned hyt

(364) W*ith* a dowryb yo*ur* trow make clene
Mez il[b] y ad rastuer & rastel[c],
Qe s*er*vent de div*er*s myst*er*.
But me haþ a ryb & a rake
þat serven of div*er*s myst*er*
Le pist*our* tient[d] le rastel,
368 Mez rastuer fait[e] le auge beal[f].
þe baker*e* holdyþ þe oven rake
(368) But þe ryb makeþ þe throw clene
Chaufez le four ove fuger*e*,
Sy vo*us* fault[g] bone lyt*er*e.
Hett þe ovyn wyþ spayes
ȝyf yow fayleþ goud strawe
Lytt*er*e & liett*er*e sount div*er*s,
372 Discord*a*unt diount lez clerkes[h].
Lyt*er*e & liett*er*e sou*n*t div*er*s
(372) Discordant seyþ þyse clerkys
Le faulto*ur*[i], litt*er*e litt*er*e fauche,
P*ur* eze en lit*er*e ho*m*me chivauche.
þe mower*e* st*r*aw moweþ
For eze en lit*er*e men rydyþ

a ratuer, b yl, c rastel, d teint, e fet, f beel, g faut, h clers, i fautor

[104r]

Mez ceo est lit*er*e sanz fayle
376 Q'en doulce[a] Ff*r*aunce ho*m*me dit payle.
But þat ys lit*er*e wyþoute fayle
(376) þat in douce F*r*aunce man clept wombechaf
Paile & pale sou*n*t divers,
Q*ua*unt de g*r*ain sou*n*t sev*er*ez.
Chaf & smal chaf beþ divers
Whanne of g*r*ayn þey beþ severed
Et si p*ai*le ne est pas,

Pernez donque le pesas.
And ȝyf straw ne be nouȝth
Takeþ þanne þis straw
Et q*ua*unt le four est chaufé,
Ove pele soit le past ent*ré*.
And whanne þe oven ys hoot
W*ith* þe peyle be þe past y put yn
Q*ua*unt v*ost*re past est [b]mys en four,
Et le pist*our* p*r*ent soyour,
Whanne yo*ur* paste ys put in oven
And þe baker*e* takeþ reste
Endem*enter*is le mesure,
Ne s*er*ra t*ro*p p*as* nonchalur*e*.
Rechelys out of mesur*e*
Lat nat hyt be to muche y bake
[a]douce [b]myis

Semina seminanda. [104ᵛ]

Ore alez a sem*er* v*ost*re lynois,
Et ne obliez p*as* v*ost*re chaner*e*,
Now goþ to sowe yo*ur* flex
And forȝete nouȝt your*e* hemp*e*
Qar de lynois vo[a]*us* avez lez bus[a]ceaux
Et de ch*an*ear*e* lez [b]cordeaux.
ffor of flex ye have þyze hoppes
And of hemp*e* þyze cordez
V*ost*re lyn en [c]temps sarchez
Et puis en temps sust*re*[d]yez,
Your*e* flex in tyme wedyþ
And aft*er* *in* tyme d*ra*we hyt upp*e*
Et donque en une putte reheitez,
Et puis al solayl le secchez,
And þanne in a putte rette hyt
And aft*er* on þe sonne drye hyt

Et puis abatr*e* vo*us* forcez,
Et ove ceo[e] en yv*er*e vo*us* eschaufez.[f]

And aft*er* to bete hyt ye forseþ
And w*ith* þat in wynt*er* ye hetuþ
P*ur* tout saver mult[g] s*er*roit beal.
Gesir vo*us* covient[h] al pissel,

ffor al to knowe muche hyt were fayr
vou[a] buceus[a] cordeus[b] tens[c] sut*re*yez[d] ce[e] echaufez[f]
mut[g] covint[h]

Ley hyt byhovyþ to þe swynglingstok*e* [105r]
P*ur* byen escucher[a] le lyn,
Qar aut*rem*en*t* n'ert ja fyn.
ffor wel to swyngle your*e* flex
ffor elle*s* shal be þ*er* noon ende
Et q*ua*unt[b] al pessel ad sou*n* dever,
Donque irrés a rastuer.[c]

And wh*a*nne atte swynglyingstok*e* hyt haþ hys deute
þ*a*nne ye shulle go to rybbe
Et puis t*au*ntost[d] serencez,
Et puis un knole vo*us* p*ur*veiz.

And aft*er* anon ryȝt to ecchele
And aft*er* a dystaf ye purveyþ
Et ordeynes vo*us* un fusou*n*
Qe a l'art aver divssom
And ordeyne yow a spyndylle
þat to craft have we shold
Et le virel en failli,
Pluis a l'ore ne vo*us*[e] di,

And þe wherwe lat nat fayle
More at þis tyme nel y yow nat say
Mez unquore mo*n*str*ai*[f] un div*er*sité
Dou*nt*[g] chescun n'est mye avise
But yett y shalshewe a diversyté.

ecu[a]cher q*ua*[b]unt cum .v. ponit*ur* pro q*ua*ndo. rat[c]uer t*au*n-
tou[d]ȝth vou[e] mont[f]*rai* che[g]cun

When everyma*n* ys nat awysed [105v]
De t*re*is chosez serit (sic) le fusill[a]*e*,
Le fil est filé ove le fusill*e*.
Of iij þynges s*er*vyþ þe spindell*e*
Þe þred ys ysp*on*ne w*ith* þe spyndell*e*
Et puis le coilon fert le fusille
Et ble est molue p*ar* le fusill*e*.
And aft*er* flynt smyteþ þe spindell*e*
And corne ys g*ro*unde w*ith* þe spyndell*e*
Q*ua*unt v*ost*re fil est filé
Et v*ost*re fusill*e* est remplé
Wh*a*nne yo*ur* þred ys isponne
And yo*ur* spindell*e* ys yfoold
A la t*ra*yle vo*us* covi[b]ent aler
Et puis irrés a la vau[c]lder.
To þe reel yow byhouyþ to go
And aft*er* ye shulle go to þe yarnewynder
Com de fileie est la man*er*e,
Pondez t*a*nt[d]ost ap*rés*[e] le traul.
As of spy*n*nynge ys þe man*er*e
Weyȝe anon aft*er* þe yarn
Et puis ap*rés* testier le veil
Et la tiste*re*[f]sse, q*ua*unt p*ar*ubble ad.
And aft*er* anon wef þe web
checun fusil[a] covint[b] vauder[c] tantowȝt[d] ap*re*[e] tit*er*[f]esse

And þe webestere whanne worpyn she [106r]
Tantost lez tromez ele vaudrat.
Ore ay vo*us* di q*ua*nt apent.
Anon hyre t*ro*mez she wy*n*deþ uppe
Now y have yseyd how muche longeþ

Fforis[a]pris lalme soulem*en*t
Outtake þe sley onlyche

Ars braciat*ri*cis.

Ore se*rr*oit a saver
De l'art a bresser & brasyr.
Now h*it* schal be to wyte
Of craffte to mylde & to brewe
428 Com*en*t ho*mm*e fa[c]it se*rv*oise
Pur noz ostez fa[d]ire b*ie*n a l'ese
(428) How ma*n* makeþ ale
Ffor oure gestez to make wel at eze
Une keve large p*ri*mez pernez
Et v*ost*re orge enfoundrés.
A keve large first takeþ
And yo*ur* bere aȝoteþ
432 Et q*ua*un[e]t il est b*ie*n enfoundré
Et la ewe es[f]t soit discouelé,
(432) And whanne hyt ys wel yȝote
And þe water be late out

[a] forp*ri*s [b] lame [c] feet [d] fere [e] qu*au*nt cum u ponit*ur* pro qu*um* [f] eet

Moundez donq*ue* un soler, [106ᵛ]
Et veiez q*ue* soit b*ie*n baler.
Make clene þanne a soler
And loke þat hyt be wel yswopud
436 Et la cocherez v*ost*re blé,
Tanq*ue* q'il soit b*ie*n germé.
(436) And þere ye shalle ley youre corn
ffor to hyt be wel acome
Et donq*ue* tu appell*er*as
Brese q*ue* a*va*unt ble nomas.
And þanne þu schalt clepe
Malt þat a fore corn was named

Le bres donq*ue* ove voz maynez mewez
En mou*n*teles ou en renges,
þat malt þ*a*nne w*ith* yo*ur* hand mewe þ
In hepes o þ*er* in rowes
Et puis portez en un corbeil,
P*ur* ensecher al torayl,
And aft*er* beru þ in a leep*e*
Ffor to drye at þe host
Qar corbeil ou corbylon
Vo*us* servira tout al fusou*n*.
ffor leep o þ*er* basket
Ye shal servise al at lust
Puis s*er*ra le b*rey*s molu [107r]
Et en ewe chaude tout enbu,
Aft*er* shal þe malt be g*ro*unde
And in wat*er* warm al yd*ra*we þ
Et donq*ue* voz lessez dec*ur*re t*au*nt
En un coverel maynten*au*nt.
And þanne ye shal let hyt renne so
In a keverel anoon
Desq*ue* q*ue* plein soit un doige beal
Et puis remittés en un coverel,
Into þat ful be a drowe þ fayre
And aft*er* put h*it* aȝen in a messy*n*g what
Jesq*ue* qi la b*ru*ster*e* en cuer tient,
Q'ele eit bercil a sa talent.
In to þe browest*ere* in h*er*te holdy þ
þat hit be wort at hir*e* talent
Et puis la b*er*cil p*r*end*r*a
De f*ro*ment ou d'orge q*u'*ele a.
And aft*er* þe wort she shal take
Of whete o þ*er* ber*e* whe þ*er* she hath
Et p*ar* la gest & la b*er*cile,
Dou*nt* pluis & pluis ho*m*me sotile,

(456) And by þe berme & þe wort
Wher of more & more me*n* sotileþ
a b c d
deq*ue* beel cuer teint

Par droit dever du b*er*cere, [107v]
Dou*n*t tout deviser ne say mye.
By ryȝthe deute of b*ro*wynge
When of al devise ne ca*n* y nat
460 Mez tout yci de art en art,
a
Chescun aut*e*re en sa p*a*rt,
(460) But al her*e* f*ra*m c*ra*ft in c*ra*ft
Every oþer in hys p*ar*t
Tanq*ue* q'il eit bone s*er*voise,
b
Dou*n*t h*o*mme devient si b*ie*n a eise,
In to hyt be goud ale
Wh*er*of man bycomeþ so wel at eze
c
Qar luy mesmez ad perne t*au*nt
Q'il ebir*e* maintena*u*nt.
þat hym self hath ytake so muche
þat he wexit dronke anon
d
Ebiresse tient layez ho*m*mez & clerkys,
e f
Nulle aut*e*re count fait si mers.
D*ro*nknesse holdeþ lewed me*n* & clerkys
Non oþer knoweþ hyt makeþ so derk*e*
468 Ebiresse fait ho*m*me chaton*er*
g
Et ho*m*me aroie fayt hault huper.
(468) D*ro*nkenesse makeþ man to c*re*pe
And man hoȝ hyt makeþ heyȝe to crie
a b c d e f g
checun devint memez clers nule feet hautt

Ebiresse fait face du brykon [108r]
a
Ters ruge sanz vermylou*n*,
D*ro*nkenesse makeþ þe visage of a myx
fful red wyþoute vermyloun

Et donq*ue* dit ho*m*me p*ar* seynt George :

《Or t*r*op ad bu du g*r*ece d'orge》,

(472) And þ*a*nne seyþ ma*n* by seynt Gorge

þat over muche he haþ dronke fat of ber*e*

Qe luy covient (b) d'aler a repose,

A cause q*ue* ne puet faire alt*er* chose.

þat hym byhouyþ go to reste

Bycause þat he may doo noon oþer þynge

Ad prendendum pisces.

Si assaver volez la man*er*e

Com*en*t pissher devez en viv*er*e.

(476) 3yf know ye wylle þe man*er*e

How fysshe m*en* shal in ryvere

Ryv*er* est p*r*opr*em*e*n*t nomé

Ou ewe vif est t*r*ové.

Ryver ys p*r*oper*l*y ynamed

When wat*er* ys quyk yfound

Ove esponge(c)*r* p(d)*r*imez espougez,

Et donq*ue* pissoms e(e)n*que*rez.

(480) Wyþ a sponge fyrst led out

(a) t*re*ruge (b) covint (c) epog*er* (d) epougez (e) pisoums

And þanne fyssh secheþ [108v]

Et si vo(a)*us* failez en tel estank,

Alez t(b)*au*ntost a l'ewe cor(c)ant.

And 3yf ye fayle in swych a pond

Goþ anon to water re*n*nyge

Alez donq*ue* sanz delay

Ou ewe est en batonay.

(484) Goþ þanne wyþoute delay

Wher wat*er* ys in batonay .i. moor

Et la pisshez c ʳe nase,

And þ*er*e ye shulle fysshe*n* w*ith* a yene

Ou pet*it* rey, ou t*ro*vé est g*ra*se.

Ou .i. other lite nett when founde ys gras

488 Yl y ad nase & crev*er*e[d] auxi,

Comune f*ra*uncés ad chescuun[e].

(488) Me haþ redde*re* & yene also

Comune f*re*nshe·to every ma*n*

Le nase est menem*en*t overez,

Mez pluis large p*ar*ties assez.

þe yene ys lytyl openid de forai*n*s

But more large p*ar*tiez ynouȝ

492 Ad le crevere p*ur* quoy[f] jeo dy,

Nulle[g] aut*re*[h] variance est en luy.

(492) Hath þe redde*re* for why y say

[a] vou [b] t*au*ntouȝt [c] coraunt [d] aucy [e] cheeun [f] je [g] nule

[109r]

Non other variaunce ys in hym

Ore redirroms[a] a la mat*er*e,

Qi de pisshe vo*us* doy dire.

Now say we aȝen to þe mat*er*e

þat of fysshy*n*nge yow y shal say

496 La gourge de nase reversez,

L'ordu*r*e dedeinz degettez.

(496) þe botme of þe yene torn upsedou*n*

þe ordure w*ith*ynne cast hyt out

C*ra*paude ou [le]sarde si vo*us* trovez,

Par lez wymb*er*gez lez pernez.

ff*ro*gge oþer ewete ȝyf ye fynde

By þe chellez hem takeþ

500 Et s'il soit morw de mer,

Ov*e*rer[b] luy devez & espander.

(500) And ȝyf hyt be melwel of þe see

Opene hym ye shal & spalde

Le noo[c] t*au*ntost[d] en oustez,

Bowel ou eschyne[e] ensy f*er*rés,

þe sound anon cast hyt out

Bowel & chyne also ye shal do

Et ret*ur*nez a v*ost*re measou*n*. (f)

Jesq*ue* (g) a l'aut*er* sesou*n*

(504) And t*ur*neþ aȝen to yo*ur* hous

variaunce (h) cum u redirruouns (a) epander (b) t*a*untouȝt (c)

ouȝttez (d) echyne (e) meson (f) jeque (g)

In to another tyme [109ᵛ]

Et q*ua*unt vo*us* venez al v*er*de tenayl,

Ou le pasto*ur* est ove l'amayl,

And whe*n*ne ye come to a grene bank

Wher þe h*er*de ys w*ith* hys bestayle

Puis en boys alez soubz (a) l'u*m*b*r*ay,

Passez donq*ue* p*ar* le horayl.

(508) Aft*er* in wode goþ under þe shade

Goþ þ*a*nne by þe wode shaue

Yl y ad horail p*ar* .h. esc*ri*yt,

Et orail sanz .h. dit.

Me haþ horail by .h. ywryte

And orail w*ith*oute .h. yseyd

Desouth le horayl soy kevere le laroun,

Et ove orayl oit chescu*n* hom*m*e.

(512) Under þe wodys efȝe hy*m* kevereþ þe thef

And w*ith* er*e* heruþ ev*er*y ma*n*

Mez q*ue* einz (c) passoms av*au*nt,

De la tenayl s*er*ra disant,

But ere þat we passe forþe

Of þe balk yow hyt shal be seyd

P*ur* (d) ceo qy'l y ad plusou*r*s de sens

Et plusou*r*s dez defe*r*ens.

(516) ffor þat hyt hath manye dev*er*sitez

suz (a) checun (b) passoumis (c) purce (d)

[110r]

And manye differensez

Tenail est & tenoun,

Et tenayles d'aultre apparaile.

Handele pere ys & tenoun

And tenayles of oþer apparail .i. tonges

Lez cultouiers tienent le tenoun,

Et parmy le tenayl passe prudom.

(520) þyse tylyers holdyn þe handle

And þoru þe balk passeþ þe goudman

Mez tenayles servent de carbuns

En yver, quaunt a fyeu syoms.

But tonges serveþ for colez

In wynter whenne by þe fier we sitte

524 Et al fevere serit(sic) de custoume,

Quaunt le martyl fiert al clume.

(524) And to þe smyth þey serve of custum

Whan þe hamer smytyþ on þe anfeld

De tempore yemis.

Ore pluit, ore gele,

Ore remoyle, ore regele,

Now hyt reyneþ now hit frest

Now hyt þaweþ now hit fresuþ aȝen

528 Par le gele avoms glas,

Et de glas vient verre glas.

dautre tenent fu syoumis cotoume quaunt cum u pro qum, feit anoumis vint

[110v]

(528) By fforst we havyþ glas

And of glas comeþ verre glas

Gele & pluuie degetaunt

ffount la chemyn trop ledaunt.

fforst & reyn doun fallynge

Maken þe way over hurtynge

532 Ore nege, ore cemoie.

a b
Tiel temps piert *nostr*e voye.

(532) Now hit snewet now hit sletuþ

Swyche tyme p*er*sheth oure way

c d
En mou*n* bousche vient un anffe de neff,

Jeo croy q*ue* est p*ur* g*ra*nt ceiff.

In myn mowth comeþ a flade of snow

Y leve hyt be for g*re*t derst

e
536 Noz avoms g*re*sile & gele.

Gryssyl g*ra*unt, non pas g*re*le.

(536) We haveþ hayl & forst

Hayel gret noþyng lytyl

Ore entendez mon pe tonne.

f
Nulle de voz mot ne sonne.

Now takeþ hede myn fot slepe*th*

Non of yow a word spekeþ

540 In yv*e*re q*ua*unt l'aure chaunge

g
Et le temps devient si st*ra*nge,

a b c d e f g
tens p*er*t bouche vint anouinis nule devynt

(540) In wynter whan þe weþer chaungeþ [111r]

And þe tyme bycomeþ so strange

Qe ho*m*me ne peut le suffre,

P*ur* la dist*re*sse de l'yv*er*.

þat ma*n* nat suffre hyt

ffor dist*re*sse of wynt*er*

a
544 Dou*n*t lavez la mayn estome,

Qe p*ur* la f*re*yd*ur*e ne poyez mye

(544) Wh*er*fore ye haveþ þe hond so komelet

þat for cold ye may nouȝth

b
Dez deiez fai*r*e la capinole.

c d
Mult ore vault s*ur* plume mole.

W*ith* fyng*re*s make þe hok .i. cumular*e*

Muche now ys word on reyn nesshe

f g
548 Seer p*re*s de fieu divers le karole,

Chap*er*on & vestuez[h] de blave*r*ole,

(548) Sitte by fyer a3eynes cole

Hod & clo þ of blew

Ou de quyler la p*r*imerole

Mez cuer[i] de fe*m*me est si mole,

O þer togad*er*e þe p*r*imerose

But þe herte of a wo*m*man ys so nesshe

552 Q*ua*unt biaux[k] bacheler l'acole

Qe sovent al bref p*ar*ole,

[a] etome [b] fere [c] mut [d] vaut p*r*ede [f] fu [g] vetuz [h] cuyr [i] beu [k]

(552) Wh*a*nne fayr ma*n* hyre byholdy þ [111v]

þat y now3 at short speche

ff*em*me fole le recole.

[a] Jeo ay ore les verolez

Womma*n* foul hy*m* byholde þ

I have now þyze pokkys

556 Et les rubeux[b] ove roles.

Et face*n*t ore lez placez folez,

(556) And þyze red rowes

And make þ now þyze places foule

Et lez foles lez karolez.

Mez p*ur* ap*r*end*r*e ceux[c] i*n*noce*n*s,

And þyze folez þyze karoles

But to teche þyze innoce*n*tes

560 De virolez vo*us* di plus de sens,

P*ur* ceo q'yl y ad virole, verol & varole,

(560) Of virole yow y say mo wyttys

ffor þat me ha þ virole verol & varole

Qe sou*nt* de divers escole[d].

La virole le mambre garde,

þat beth of divers scolys

þe virole þe haft kepy þ

564 Du cotel du mal mussarde.

Et le virole le face enpir*e*
a b c d
je rebeus cens ecole

(564) Of þe knyff of þe lyther grom [112r]

And þ[e] pockes þe face enp*e*rsheþ
a
De chescun fool & sage sire.
b
Mez ceo est un varole p*ur* veire,

Of every foul & wyseman

But þat ys a wort worim for soþ
c
568 Qi de cholet c*re*st de nat*ur*e.
d
Une v*er*me est, q'*e*st v*er*de est de colo*ur*e.

(568) Þat of wortys g*ro*weþ by kynde

A worim hyt ys þat g*re*ne ys of colo*ur*
e
En F*ra*unce varole est nomé.

In F*ra*unce a varole he ys named

De nominibus herbarum.

f g
Le jour devient beau & cler.
h i
Aloms en auste p*ur* juer,

þe day bycomeþ fayr & cleer

(572) Go we in somer to pleye

En v*er*ger ou sou*n*t lez flou*r*es,
k
Dou*n*t issent lez doulcez odo*ur*us,

In erber wher ben þyze flo*ur*us

Wher of gon out þyze swete odo*ur*us

Erbez auxci p*ur* medicine.
l
576 Et lour nouns jeo voile devine.

Erbez also for medicine

a b c d e f g
checu*n* ce c*re*t qeet f*ra*unce cu*m* u devint bew
h i k l
alommis ete doucez je

(576) And her*e* namez y wylle devine [112v]

Fflour de rose, flo*ur* de lys,

Lijz p*ur* royne, rose p*ur* pitz,

Fflour of rose flo*ur* of lilie

Lilie for shorf rose for b*re*ste
Auxci[a] avez la sorele.
Et p*ur* la teste[b] vault[c] la p*ar*eele
Also ye havyþ þyze sorele
And for þe heved ys worth þe dokke
Parele est parel & p*ar*eux[d]
De totez man*er*ez[e] dez oseaux,
P*ar*ele þer ys parel & pareux
Of alle man*er*e of bryddys
Ou couple sou*n*t de male & female:
Ceo est un p*ar*el & non p*as* p*ar*ele,
When couple ys of male & female
þat ys a payr*e* and nouȝth a dokke
Qar ambedeaux[f] sou*n*t p*ar* eux nomez,
Puis qe ensemble sou*n*t en nez.
Ffor boþe togeder*e* þey beþ named
Aft*er* þat togeder*e* þey be in neste
Uncore as flo*ur*us[g] jeo voile aler
Qe ne soit mye oblier.
ȝytt to flo*ur*us y wyl go

a aucy, b tete, c vaut, d pareus, e oseus, f ambedeus, g je

[113r]

(588) þat hyt be nat forȝete
Yl y ad flour de sworcye
Qe as lez eulez[a] fait[b] grant aïe.
Me haþ flour of þe rode
þat to eyen doþ gret helpe
P*ri*merose & p*ri*meveire,
Que moust*rent*[c] en temps[d] de veir*e*.
P*ri*merose & kowslyppe
þat shew*ith* hem in tyme of som*er*
Et la consoude c*re*st[e] auxci[f],
Comune erbe est a chescun[g].
And þe dayesye wex*ith* also

Comune erbe ys to eve*r*y ma*n*
h
Ermoyse auxci trov*er*ez,
596 Et plantayne si lez querez.
Mugwort also ye shal fynd
(596) And waybred ȝyf ye seche
Mez si vo*us* t*ro*vez en v*ost*re erber
Amerok*e* ou glocomer,
But ȝyf yow fynde in erber
Merche oþer clote
Lez arasshez ove un bisacu
i
600 Et plantez cholet en lour lieu.
Hym raseþ upp with a mattok
a b c d e f g
feet g*ra*unt cu*m* u mout*r*ent te*m*s c*r*et aucy checony
h i
aucy leu

(600) And setteþ wort*es* in har*e* place [113v]
En v*er*ger ou arbers c*re*ssent,
P*ur* charge du frut pluso*ur*us abessent.
En erber wher t*re*es wexyþ
Ffor charge of frut manye boweþ
Pomer, perysyr & seryser
604 Ff*re*ne, jenet & p*ru*ner,
Appilt*re* peret*re* & ch*er*ytr*e*
(604) Assh brom & plowmtr*e*
Ceneiler q*ue* ceneilez porte,
Ffourder q*ue* fourdeynez porte,
Hawe þorin þat hawes beruþ
Sloþorin þat sloez beruþ
Et glentr*e* porte lez piperongez,
608 Et c*re*ker q*ue* porte lez c*re*kez roundez.
And bremyl þat beruþ þe hepe
(608) And þe bolace tre þat beruþ þe bolacez rou*n*d
a
Auxci avez lez coign*er*es
En pluso*ur*us des v*er*gers.

Also ye havyþ þys coigne treys
In manye of þis erberes
Dou*n*t il y ad diversité g*ra*nt,
Et multez ne savent q*ua*nt.
Wherof me haþ diversite gret
a
aucy

(612) And manye knowe nat how manye [114r]
Lez seignou*r*es fount lour naifes coigner
En lo*ur* ceeps p*ur* chastiser.
pyse lordes doth þyse bondemen in stokkys
In har*e* kyves for to chaste
Et p*er*nez le coigne, abatez le coign*er*,
Et cepez un coyne du coigner.
And takeþ þe quynz smytt doun þe coynt*re*
(616) And hakkeþ a wegge of þe coynt*re*
Et coignier est il ensement,
Qi fait moneye de bone argent.
And a coyner ys he al so
þat makeþ moneye of goud sylver
Et aut*re*s arbres sount auxci
P*ur* ap*re*ndr*e* chescuny,
And oþer t*re*es þer beþ also
(620) Ffor to lerne of everyche
Biux paulmer & arrable
Qi c*re*st multfoitʒ en ter*e* arable.
Box palmer & mapyl
þat wexyþ manye tymes in lond arable
Et la hiussie y c*re*st aucy en v*erger*,
Qy poy vault p*ur* edifier.
And holun wexyþ also in orchard
a eet b Il c feet d aucy e checuny e palmer f c*re*t f mutfoiʒ
g c*re*t h vaut

(624) þat lytyl ys worth to buld [114v]

Et le lorme il c*r*est aucy,

Coie arbre a chescuny[a],

And þe elle hyt g*r*ewyth also

Comune tre to every man

Saal, chene & yff,

628 Dequele f*r*anceis[b] n'y ad st*r*iff.

Wethy assh & hw

(628) Of wych frensh haþ no strif

De no*min*ib*us* aviu*m*.

Q*ua*unt[c] de v*erger*[d] avoms le choys,

Ore aloms[e] jewer en boys.

When of orchard we havyþ þe choys

Now go we to pleye in wode

Oyer le russinole, le gale

632 Oy mel*our* chaunte syngeþ q*ue* huwayn en sale.

To here þe note of þe nyȝttyngale

(632) þat bet*er* syngeþ þanne doþ þe owle in halle

Et mello*ur* chaunte le maveys en bossoun

Qe le sors in measoun[f].

And better syngeþ þe þrostyl in þe busshe

Þanne þe rethemous in þe hous

En braunche seet la m*er*ele,

636 En mar*e*is dem*ur*mt la herele.

[a] checuny [b] f*r*aunceys cum u q*ua*unt[c] cum u p*ro* q*ua*ndo

[d] avoumis [e] alommis [f] mesoun

In b*r*aunche sett þe þrosshe [115r]

(636) In mareis duellyþ þe sheld d*r*ake

Unquore avez le ffylaundr*e*,

Et le oysel p*ar* noun chalandre.

ȝytt have ye þe star

And þe bryd by name wodelark*e*

En four maynt le salemandr*e*,

Lez pisson ove eylez paunde.

In owen dwellyþ þe c*re*ket

(640) þyse fysshes w*ith* fynnes swymmeþ

Eyle & eley sount divers,

Discord*aun*t diount lez clerks.

Ffynnes & wyngez be divers

Discordynge seyen þyze clerkes

Ove eiles naou*n*t lez pissoms,

644 Et ove elez volent les mussoms.

W*ith* fynnes swy*m*meþ þyze ffysshes

(644) And w*ith* wynges fleeþ þyse sp*ar*ues

Ensi avoms noer, nager & neger,

Dount la resoun fait assaver.

Also we havyþ to drowne swy*m*me rome & snowe

Wherof þe resoun ys to wyte

En mear naee le pissoun,

648 En mear est naee mult p*ro*dom.

discord*a*unt cum u clers avoumis feet meer mut

In see swy*m*meth þe fyssh [115ᵛ]

(648) In see ys d*ro*wned many goudma*n*

Et ove viroums doit ho*m*me nager

En batil, ou est bon mariner.

And w*ith* ores shal ma*n* rowe

In boot wher ys a goud mariner

Mais en yvere veioms neger

652 Et lez amphez envirou*n* voler.

But in wynt*e*r we seyþ snowe

(652) And þyze fladis aboute fle

Avoms auxci espandre & espeandr*e*,

Espandr*e* ensem*e*nt & paundr*e*.

We havyþ also espandr*e* & espeandr*e*

Espandr*e* also & paundr*e*

Il espande conseil d'amy,
Qi discov*er*e ne doit a nu[d]lly.
He sheweþ co*n*seyl of a frend
Þat discov*er*e ne shold to no ma*n*
Et l'enf[e]*au*nt mult[f]foith espeande
Hors de esqu[g]il soun viande.
And a chyld ofte tyme shedeþ
Out of hys dysch hys mete
Et ove eilez paunde pissoun,
Q*ua*unt vif en rey lu[h]y pernoun.
vio[a]umis au[b]cy epan[c]dr*e* nu[d]ly l'enf[e]*au*nt cum u
mut[f]foiȝ equ[g]yl ly[h]

And w*ith* fynnes swy*m*meþ þe fyssh [116r]
Wh*a*nne quyk in nett hym we takeþ
Mez espeandr*e* est un p*ar*ole,
Qi cle[a]rks usent in lou*r* esc[b]ole.
But to spele ys a speche
Þat clerkes usen in har*e* scole
Et si ils espandent nat*ur*alm*en*t,
Toutz lez let[c]rez ensemble p*re*ignent.
And ȝyf þey spele kyndely
Alle þyze l*et*res togeder*e* þey takeþ
Unqor*e* as ose[d]aux redir[e]roms
Ou pluis ap*re*ndr*e* y p*ur*[f]roms.
ȝyt to bryddys say we aȝen
Wher more lerne þ*er*e we mowe
En cha*u*mbre & aillo*ur*us au[g]xci,
Depeint ho*m*me l'oisel asci,
In chambre & oþer placez also
Peyntith man þat bryd wodekok
Et le v*er*reder ensem*en*t.
Et i[h]l ad double entendem*en*t.
And þe rowddok also

And hyt haþ double entendem*en*t

Ly ad v*er*reder & v*er*edir :

672 L'une est oisel, l'autre fores*te*r,
a b c d e f
clers ecole let*re*s oseus rediroumis purroumis
g h
aucy yl

Me haþ v*er*reder & v*er*edir [116ᵛ]

(672) Þe on ys a brydd þat oþer a fores*te*r
a
Qar p*ar* luy vole le v*er*reder,
b
Et ceo vit b*ie*n le v*er*edir.

ffore by hym ffleeþ þe ruddok

And þat seeth wel þe forester

c
Et donq*ue* vient une reistele,

676 Vol*au*nt enviro*un* un t*ra*ssle.

And þanne comeþ a wre*n*ne

(676) Ffleynge aboute a stok
d e
Et mult pleast un petit reistele,
f
A viron*er* un g*ra*nt t*ra*sselle,

And much h*it* plesuþ a lytyl wren*n*e

To go aboute a g*re*t stok
g h i
Qe ascun beal touche du viele

680 Ou le note d'une fistele.

þ*a*n eny fayr touch of þe vyþele

(680) Oþer þe note of þe pipe

Unqore avez un mussenge,

Si lez haies ou boys renge.

ȝytt have ye on hekemose

ȝyf þyze hegges in wod ye seche

Dilacez v*ost*re renge,

684 Si renger volez le mussenge.
a b c d e f g h i
ly ce vint mut pleet g*ra*unt cu*m* u acun beel vile

Ungyrd your swerd gyrdyl [117ʳ]

(684) ȝyf ye wyle seke þe hekemose

Auxci[a] avez le palevole

Et ensem*en*t le chardinole.

Also ye have þe goddyskow

And also þe goldfynch

Unqore[b] avoms lez pampilonis,

688 Qi volunt*er*s volount p*ar* chardoms,

ȝytt have we þyze bott*er*fliez

(688) Þat gladly fleeþ by thystles

Et en lez rounceux[c] ensem*en*t

Usent a seer nat*ur*alment.

And in þyze brer*e*s also

Þey usyn to sytte kyndely

Mez ceo[d] ne veeut[e] p*as* le g*r*issilo*u*r,

692 Qe en c*ur*tilagez prent soun sojour.

But so wyl nat þe grashopp*er*e

(692) Þat in curtelagez takeþ hys reste

Ne le hyrso*u*n[f] n'ayme ryen pluis

Q*ue* p*r*endr*e* po*m*mes q*ue* chient jus.

Ne þe yrchon loved no þyng more

Þ*a*nne take apples þat leth lowe

Mugez & wybez ne fo*u*nt mye,

696 Qar ils ayment pluis la urtie.

[a] aucy [b] avoumis [c] rounseus [d] ce [e] veut [f] ryin

Ffliez ne gnattez ne doþ nouȝth [117v]

(696) Ffor þey love bett*er* þe netle

Ensy avoms[a] ane & pluiso*u*n,

Et en ryver o*u*nt lour ma*n*syon.

Also we havyþ henede & doke

In ryver þey have har*e* dwellyng*e*

En morez maignent lez vanelez,

700 En villez[b] sount lez venelez.

In mores duellyþ þyze lepewynkes

(700) In townes beþ þyze lanez

c
En g*ra*nge usoms la vaan,

Et le envious ad le haan.

In g*ra*unge we usen þe wanne

And þe envious haþ þe hate

d
Cy vient volaunt un [ouwe] roser,

e
704 Une brallet a luy est socier.

Here comyþ fleynge a wylde goos

(704) A b*ra*ndgoos to hy*m* ys felawet

f g
Et mult vault une brallet est*re* pu,

Mult melo*ur* q*ue* char du fru.

And much ys worþ a b*ra*ndgoos yrosted

Muche bete*re* þan þe flesh of a rook

Et pluis est ignel une arounde

h i
708 Qe ascune cygoine q*u'e*st en monde.

a b c d e f g
avouomis viley usouuns vint ly mut vaut
h i
acun qeest

And more ys swyft*er* a swalue [118r]

(708) þ*a*n eny snyte þat ys in world

Et le apie a la severounde

P*re*nt le musso*u*n & l'arounde.

And þe bee at þe hous efȝe

Takeþ þe sp*ar*ue & þe swalue

Et le oisel qi ad noun bibikay

712 P*ré*s la ryver est p*ri*s en las.

And þe bryd þat haþ name beke

(712) By þe ryver ys take in g*re*n

e
Chau*n*t de cokkow en esté avoms,

b
P*ur* p*ra*iser ceo ne tendoms.

Song of kokkow in som*er* we have

To p*re*yse þat take we noun hede

c
Mez pluis vault pel de ffoun

d
716 Qe chaunt d'asyne ou de poun.

But more ys worþ þe skyn of a foyn

(716) Þ*a*n songe of asse o*þer* of pown .i. pane
Mez du poun la beale[e] cowe
Est dilitable a la vewe.
But of þe pokok þe fayr tayl
Ys dilatable to þe syȝthe
Mez pluis ayme arch*er* penne de poun
720 Qe en escheker[f] mat de paun.
avoums[a] tendouuns[b] vaut[c] dayne[d] bele[e] echeker[f]

But more loveþ þe arch*er* þe penne of þe pakok [118v]
(720) Þan in cheker a mat of þe paun

De no*min*ibus animaliu*m*.
Jeo[a] veie un g*ra*nt toisoun
Et guerry ad sa mansion,
I saw a g*re*t brok
And haþ forsake hys dwellyng place
Pur le fein d'un gopyl,
724 Qi luy ad mys[b] en exil.
Ffor þe stynke of a vox
(724) þat hym haþ put owte
Et hony soit le mal putoys,
Si soit en ville[c] ou en boys.
And wo be þe evyl putoyse
ȝyf he be in tou*n* or wode
Et mal aventu*r*e a luy soyt,
728 la g*re*te gelyne a luy[d] retr*a*it.
And evyl aventu*r*e to hy*m* be
(728) Þe gr*e*te hen to hym he drawe þ .
Mez pluis vault[e] un belete
P*ur* fayr[f] ma g*ra*unge de ratou*n*s nete,
But more ys [wor þ] a keme
To make my g*ra*unge of ratones clene
Qe toutz les taulpes[g] jesque[h] a Paris,

a b c d e f g h
je mijs vile ly vaut fere taupes jeque

a
Qe sou*n*t talpines en lez p*r*ees [119r]
Þanne alle þe moulez f*r*am he*n*ne to parys
(732) Þat makeþ molhepes in þys medes

De p*r*op*r*ietatib*us* bige.

b
Le char*e*t jeo voile disc*r*i*r*e
Et mettr*e* yci en n*os*tre liv*er*e.
Of þe cart y wyl disc*r*ive
And put hyt here in our*e* book
De lez roos vo*us* di p*r*imo*ur*
c
Et puis de bendeux q*ue* sou*n*t ento*ur*.
Of þe whyles yow y say fyrst
(736) And aft*er* of þyze bendes þat beþ aboute
En lez bendez q*ue* sou*n*t de fer
Sou*n*t lez ch*au*ntez entachez de fer.
In þis bondez þat beþ of yr*e*
Beþ þyze spichez y tachet of yr*e*
En lez jaunte*y* ent*r*ent lez raes,
Et de solayl issent lez rayes,
In þese felghes ent*r*en þese spokes
(740) And of þe sonne goþ out þese sonne bemes
Mez lez raes en le charet
d
En lez moaux est lo*ur* resset.
But þese spokes in þe cart
In þese nauez ys har*e* resset

a b c d
tapines dic*r*ie bendeus mous

Lez moaux gisent ent*r*e le roof [119v]
a
Toutd*roi*t com le moel de l'oof.
þese namez leggeþ w*ith*ynne þe wheyle
(744) Ryght as þe yelk of an ay
b
Un est fait p*ur* g*r*ant ch*ar*ge porte*r*,

Et luy[c] aut*re* p*ur* bon ma*n*ger.

On ys mad to ber*e* g*re*t charge

þat oþer for g*re*t goud mete

Mez en le moel gist l'essel

748 Et deux[d] hetes se tiegne*n*t.

But in þe nave lyþ þe 3ext*re*

(748) And tuo ronges holdyn hyt evene

Si le chart ait bonez brasez,

Fferme lye as lez esseux[e].

3yf þe cart have goud bondes

Ffaste ybounde to þyze 3ext*re*s

Et si deins lez moaux sou*n*t[f] soverez,

752 Donq*ue* en fault[g] rien fors[h] q*ue*[i] eskeles.

And 3yf w*ith*ynne þese navez be cloutez

(752) þ*a*n fayleþ noþyng but ladderys

Mez p*ur* est*re* pluis artilous,

Dez esseux[k] vo*us* dirr*ai* pluis.

But for to be þe more c*ra*ftious

Of 3ext*re*s yow I shal say more

a mool b feet c ly d deus e esseus f mous g faut h forq*ue*
i ekelez k vou

En le mear[a] naent lez raies [120r]

756 Et v*ers* lez faires veigne*n*t lez raies.

In þe se swymmeþ þese rayes .i. pisces

(756) And toward fayres comeþ rayes .i. vest*ur*a

Auxci avoms[b] essel & assel

Et la tierce p*ar*ole huissell*e*.

Also we havyþ essel & assel

And þe thrydde word huissell*e*

Le chart gist[c] s*ur* le assel

760 Et en le moel gist le essel.

þe cart lyþ on þe 3extr*e*

(760) And in þe nawe lyþ þe 3ex

Mez le huissell avez vous
En v*ost*re bras p*ar* desoubz[d].

But þe arm hole have yow
In yo*ur* armez bynethe
En lez lymonis vat le lymeour
Et en dos porte soun dosser,
In þe lymones goþ þe lymener
And on hys rugge he beruþ hys rygrope
Et al ventr*e* le venter,
Et a la cowe le vauner,
And at þe wombe hys womb*e*rope
And at þe tayl þe taylrope

[a] meer [b] avoumis git [c] souz [d]

Vent*rere* & vent*rer* il[a] y ad. [120ᵛ]

Divers sont com ff*ra*unceys dit me ad divers.
A mydwyff & a wombrop*e* me haþ
Þey beþ as Frenssh me haþ seyd
Ve*ntrere* est p*roprement* nomé
Une femme, que en ville[b] demurre
Ve*ntrere* ys p*roprelyche* ynamed
A womman þat in toune dwellyþ
P*ur* aider en cas sa vecine,
Q*uant* ele girr*a* en gesyne.
To helpe in cas her*e* neyȝbor*e*
Wh*anne* she shal lygge in gesyne
Mez p*roprement* dit ho*m*me ve*ntrer*,
Qe a vent*re* po*r*te le lemer.
But p*roprely* seyþ ma*n* vent*rer*
Þat at wo*m*be beruþ þe lemer
Le t*ra*ser od le braserole,
Que lez lymoms brace a cole
Þe t*ra*ys wyþ þe b*ra*syng eye
Þat þyze lymoms brasyþ togeder*e*

Devant lez b*ra*cerolez sou*n*t bilett*es*,
Taylez de coteaux[c] ou hachett*es*.
Afore þyze brasyngeyez beþ py*n*nes
Taylez ycorve w*ith* knyves or hachettes
Iil[a] vile[b] coteaux[c] leget*ur*[c] coteus

Lez coilez du chiv*a*les porte*n*t eisselez, [121r]
Escol*e*r*s*[a] de quyer oue l*our* hosselez.
Þese nekkes of hors beruþ h*aun*b*er*gez
Coleres of leþyr w*ith* har*e* b*er*yughames
Et si le ch*ar*uer ad sa riorte,
Dou*n*t lez chivalez en cou*r*s resorte,
And ȝyf þe cart*er* have hys whyppe
Where w*ith* þyze hors in cours he resortez
Donq*ue* ad tout q*ue* a luy[b] appent.
Et assez suffit, si luy tient.
þ*a*nne hath he al þat hym bylongeþ
And ynouȝght h*it* suffiȝeþ he hy*m* holdeþ
Mez p*ur* est*re*[c] pluis sach*a*unt,
Vo*us* dirr*a* eynez q*ue* passe av*a*nt.
But to be more cony*n*nge
Yow more y shal say her*e* y passe forþe
Le d*roi*t a fayr*e*[d] a char*eit*er
Et ensem*en*t le ch*ar*uer.
Þe ryȝtth to do to þe carter*e*
And also to þe godenge
Le ch*ar*ett*er* le st*ri*le av*er*a,
Dou*n*t lez chivalez correier*a*.
Þe karter*e* þe hors combe shal have
Wher w*ith* hys hors he shal corr*e*ye
ecolers[a] ly[b] etr*e*[c] fer*e*[d]

Et le bouer ne teigne a gas [121v]
P*ur* b*ie*n ff*roter* sez bestez[a] ove cordas.

And þe oxeh*er*de holdeþ hyt no t*ri*fle

(792) Ffor wel to ff*ro*te hys oxen w*ith* a waȝe
Einz [b]q'ils sou*n*t [c]bien enbeverez,
Mez al soir sou*n*t waiez.
Er*e* þey be wel ywate*re*d
But at even þey shal be wel wassh
Waier [d]yl ad p*ropremen*t,
796 Si dit l'autor q*ie* ne ment,
A wayr*e* me hath p*roprel*y
(796) So seyþ þe autor þat lyeþ nat
Qar [e]beofs & chivaley sou*n*t waiez
Et totez aut*re*s bestes lavez.
Ffore oxen & hors beþ ywatered

And al oþer bestes ywasshe
[De proprietatibus aratri]
Puis q'ore suff*it* du char*e*t,
800 De la ch*ar*ue ore me ent*re*met.
Aft*er* þat hyt suffiȝeth of þe cart
(800) Of þe plowe now y wyl me ent*re*mette
En la ch*ar*ue avez vous
Div*er*sez nou*n*s & m*er*veilous.
In þe plow have ye
Divers namez and m*er*weylous

[a]betez [b]qu[i]ls [c]been [d]Il [e]beefs

[122r]
P*ri*mez le [a]chieff & le penou*n*,
804 Donque le manuel & le tenou*n*.
Flyrst þe heved & þe foot
(804) þ*a*nne þe handle & þe stylte
Par [b]desoubz [c]gist le orilou*n*,
Et pluis amou*n*t est [d]leschecou*n*.
Bysythe lyþe þe ryȝtthe
And more above lyþe þe shelfryȝtth
Le soche ensy & le ffomer

Avera le ch*ar*ue de droyt dever.
Þe cultor also & þe shar
(808) Shal þe plow have of ryȝtth deute
En longe la ch*ar*ue gist la haie,
Qi vie[e]nt de boys ou de haye.
In longes þe plow lyþ þe beem
Þat comeþ of wode or of hegge
Unqore avez un mallet
812 Et un mo*n*delou*n* p*ur* fai[f]r[g]e luy nette.
ȝyt have ye a maylet
(812) And an gretstaf to make hyt clene
Les boofs portent lez jues
P*ur* cristienx & p*ur* Jewes.
Þyze oxen beryþ þyze yokes
Ffor cristen men & for Jewes
cheif[a] souz[b] gijt[c] Iechecou*n*[d] vint[e] fere[f] ly[g]

Et p*ar* lez acoms fichez en juês [122v]
816 Dont lez beofs si forts artês,
And by þese bowes ystyket in yokes
(816) Beþ þese oxen yforset so harde
Qy lez covie[a]nt maugré loure
Par l'aug*ui*lou*n* esch[b]uer errour.
Þat hem byhouyþ maug*re* hem
By þe gode eschue errour

Ad edifica*n*du*m* domos.
Si vo[c]*us* avez en pens[d]er
820 Measou*n* ou chambre p*ur* edifier,
Þyf ye have in þouȝth
(820) Howz or cha*u*mber for to buld
Il covie[e]nt al com*en*cem*en*t
P*ur* fay[f]re un bou*n* foundem*en*t,
Hyt byhovyþ at þe fyrste

To make a goud fou*n*deme*n*t
Et pluis p*ur* lever le meisere,
824 Dou*n*t fe*m*me est dit messnere.
And more to rere uppe þe helewoghes
(824) Whe*r*e of a wo*m*ma*n* ys sayd houswyf
Il y ad messier & meissere :
Entenduz en divers mane*r*e.
Me haþ messier & meissere
a b c d e f
covint echuer vou mesou*n* covint fere

Understande in div*er*s mane*r*e [123r]
Lez messierez ou*n*t lez champs en cure,
a
828 Mez meissiere fait le meason sure.
Þese haywardes haven þis feld in cure
(828) But hous woghes makyn hous sure
b
Ceo e*st* le mure qi enclose le court,
Mez ceo est meissiere on couple la zhourt.
Þat ys þe wal þat encloseþ þe court.
But þat ys meissere þat closeþ þe roff togedere
Et un pareye est ensem*en*t.
832 De l'une p*ar*t & de l'aut*r*e p*r*ent.
And a wal hyt ys also
(832) Off on p*ar*t & other hyt takeþ
c
S*ur* la meissere en t*rav*ers oult*re*
Amou*n*t le celer mettez pout*re*.
On þe woghe in t*rav*ers above
Above þe celer put a poudre
La pout*re* en sale doit ho*m*me poser
836 Et le pout*re* ensy en soler,
Þe poudre in halle shal ma*n* putte
(836) And þe poudre also in soler
Et s*ur* lez soiloms le plancyé,
De bord ou plast*re* b*ien* pavyé.
And on þese gystez þe plaunchys

a b c
feet ce outre

Of bord or plaster wel ypavyd [123v]

Sur la meissiere lez trahes mettez,

a b
De deux chiveroms un couple facez,

On þe woghes seþ youre bemez

(840) Of tuo rafters a couple makeþ

c
Qi ferme estera sur le meissere

d
Par kiville & par terere.

Þat faste shal stande uppon þe woghe

By þe treyn pyn & by þe wymbyl

e
Donque ne fault mez comble par noun,

f
844 De tout amount le measoun.

Þanne fayleþ nouȝth but rof by name

(844) Al abowe þe hovs

g
Covient d'aver un longe gwenchuron,

Dount le couple est pluis suor.

Hyt byhouyþ to have a long lyene

Wher of þe couple ys more suer

Mez pur pluis avaunt parler

h
848 Vous ne devez o[b]lier.

Butte for more ferther to speke

(848) Ye shulle nauȝth forȝete

Et vous covient d'aver brenchoms

i
De cloams ffychez a voz measonez,

And yow by houyþ to have latys

a b c d e f
deus chiveroums eiȝttera kivile faut mesoun

g h i
covint vou clays

Wyþ naylez ynayled to youre house [124r]

a
Et trenchoms a la pareie auxci.

852 Pur cele aprise jeo vous di,

And stantyz to walle also

(852) ffor swich a lernynge y yow say

Qar il y ad t*re*nchoms & t*re*nchesoms,
Dou*n*t discord ad de nouns,
Ffor me haþ t*re*nchoms & t*re*nchesoms
Wherof discord ys of namez
Qar tr*e*nchoms fou*n*t as measones
Et t*re*nchesoms fou*n*t morer chivalez[b].
Ffor stantiz beþ mad to housez
And t*re*nchesoms makyn hors dye
Et en chiv*a*lex sou*n*t nomeme*n*t,
Ou ils mangent malement.
And in hors they beþ namely
Whe*n* þey eten evyle
Unqore fait[c] b*ie*n a saver
Qe endroit measo*u*n a faire[d].
ȝytte be hyt wel to wyte
þat in ryȝth of a*n* hous to make
De dever il[e] covient estre[f]
Bone laumeire & fenestre[g].
Of deute hyt byhovyþ to be

a aucy b chivalez c feet d afere e Iil f etre g fenetre

[124v]

Goud lover & wyndow
Aumeire & ameire y ad.
A l'aumeire fume issera,
Lover & alm*a*rye me haþ
At þe lover fume goþ out
Qar en F*ra*unce est ameire nomé
Qy cy est lover apelle
þat en f*ra*unce ys aumeyre named
þat here lover ys apelyt i. no*mina*tus
Mez ceo est p*ropre*me*n*t aumeire,
Ou l'em mette viande ou viaire.
But þat ys p*roper*ly a alm*a*rie
Whe*r*ynne men putte viande

A l'ent*ré* de huis est le lyme,
Et oult*re* (a) la teste (b) est le suislyne.

At þe ent*re* of þe dore ys þe thresfold

And above þe heved ys þe ov*er*chek
P*ar* le costé sou*n*t (c) lez lymaux deux (d),

872 Ou l'em deyt p*re*ndre le huis.

Bysithe beþ þyse dore harrez tweyes

(872) When me*n* schal take þe dore

Et un gymel pendoms noz gu*m*phs,

Q*ua*unt deux v*er*tilez nous avoms.

In þe chymptr*e* we henge our*e* hokes
(a) outr*e* (b) tete (c) lymeus (d) deus

3yff tuo twystez we have [125r]
Ore fait*e*z (a) cleket & s*er*rure,

876 Et donq*ue* est le measou*n* tout sur*e*.

Now makeþ clyket & loke

(876) And þ*a*nne ys þe hous al seker
Mondez le measou*n* (b), coilez, jonchez,

Mettez la table, donq*ue* cov*er*ez la,

Make clene þe hous gader*e* rysshen

Laye þe table þ*a*nne kev*e*re hyr*e*
A meynz q*ue* soyt estable (c),

880 De unne nape coverey le haut table,

Anon þat hyt by do

(880) Wyth a cloth kevere þeheyzhe table
Et la secunde auxci cov*er*ez (d)
De blaunche nape, si vous avez (e).

And þe secunde also kevere

Wyþ whyt nap*er*ie 3yf ye have
Et si la sale soyt tr*op*t (f) salee,

884 N'est mye a pr*e*yser en sale.

And 3yf þe halle be over fowle

(884) Hyt ys nat to pr*e*yse in halle

Pluis vault[g] blaunche nape mult[h] usé

Qe la novel mult enbowé.

More ys worth why3t cloth yused

fetez[a] mesoun[b] etable[d] aucy[d] vou[e] t*ro*p[f] s*ecundu*m quosd*a*m vaut[g] meut[h]

[125v]

Þ*a*nne þe newe muche enboweþ

Lavez hanapez, moundez esquilez[a],

888 Lez anglez copez jesq*ue*[b] as ascieles[b].

Wassh coppez make clene dissches

(888) Þys angles swope in to corn*er*es

Ale a quyst*ro*n[c] ove toun havet

Et est*re*iez le hagyz du posnet,

Go to þe quist*ro*n wyþ þyñ fleshok

And draweþ out þe hagys of þe posnet

Et mettez a v*ost*re veile ruche

892 Desouth[d] voz potz[e], non p*as* la luche.

And put to you*r*e olde hyve

(892) Above you*r* pott nat þe ladyl

Alez a luch*er*e ove la luche,

Et priez la dame q*ue* ta coiffe luche.

Go ye to þe slykest*er*e w*ith* þe slykston

And p*ra*y þt dame þat she þy coyfe slyke

Mez a la ruche redirroms[f]

896 Ou pluis ap*r*endr*e* y p*ur*roms[g].

But to þe hyve say we a3en

(896) When more lerne we þere mowe

La ruche s*er*vir*a*[h] de aeps,

Ou noz vioms[i] voler les dees,

Þe hyve servyþ for been

equiles[a] jeqz[b] acilez[b] quit*ro*n[c] desouz[d] poz[e] rediroumis[f] puroumis[g] as[h] vioumis[i]

When we se fle þe swermez [126r]

Un p*ar* soy synglem*en*t.

A hony be est p*ro*prem*en*t

On by hy*m*selffe syngerly

(900) An hony bee ys p*ro*p*re*ly

Et p*ro*prem*en*t un dez d'ees

En anglysh est *a swarm of bees*.

And p*ro*p*re*ly on of þys bees

In Englys ys a swyrme of bees

Et ceo est un ree du meal nomé

Qe en ruche fou*n*t lez aeps de gré.

And þat ys a comb*e* of hony ycalled

(904) þat in hywe makyn þyze bees of gr*e*

De p*ro*p*ri*etatib*us* nominu*m*.

Requilez bon gent a mang*er*,
Si poez vo*us* mesmez alosé.

P*ra*yeþ goud folk to mete

So may yow yeself alose

Trenchez cest payn q'est paré,

Lez bisilez soient p*ur* Dieu doné.

Kerveþ þe bred þat ys pared

(908) þis p*ar*elez befor god yȝyue

De coteal tr*en*chez sez biseaux,

De quyler manguoms ceux meaux.

a b c d e f g h
ce meel vou memez biseus du cotel biseus
i k l
mangoumis ceus meyez

Wyþ knyff kerve ye þis crommez [126v]

Togydere ete we þis myez

Ffrusshez le payn*e* chaude de flour

Ffrusshez .i. brekeþ þis bred hot of owyn

Brussez les oos du venour.

(912) Brusseþ þis bones of þe hont*e*re

Rompés la corde du nusaunce,

Ff*re*ignez covenant de discev*au*nce.

Brekeþ þe corde of nusaunce

Brekeþ covenaunt of disceyvaunce

Cy vient[b] un garsoun tout sclavote,

916 Bien luy apert[c] distre[d] harlote.

Here comeþ a boy al by sqvyrt

(916) Hym semeth wel to be a harlot

Et plusours ad dez esclavos,

A cause q'il[e] ne feut a chival doos.

And manye he hath of sqvyrtis

Bycause he whas not on a hors bak

Ffiems qissera de measoun[f] sous,

920 Ffait[g] sale nape & table gracious,

Stynk þat goþ out of þe hoggys hous

(920) Make foul nape & table gracious

Et erbe que crest[h] a l'huis d'estable.

Ffait blaunche nape & megre table.

a oos b vint c ly d detre e qijl f meson g feet h cret

And erbe þat groweþ at þe dore of þe stable [127r]

Make whyȝt naperie & lene table

Pernez[a] valet en voz escouz

924 De haryng sour de ffraiel rous.

Takeþ yoman in youre slyttes

(924) Of haryng red of þe frayel red

Par devaunt avez escouz

Et de cousté[b] avez geroms.

Byfore ye have slyttys

And bysyde beþ gores

Deux[c] garsoms chacent grant pray,

928 Al chescun[d] moot l'une baylai.

Two gromez renneþ gret sped

(928) At every word þat on flafflet

Et l'autre[e] ne peut parler

Une parole sanz nascier.

And þat other may nat speke
A word w*ith*oute snefflynge
Et toutf[f]oith il nascie,
A peine v[g]ault une alye.
And alway he snefly þ
(932) Unne þ*e* ys he worth a pese
Il y ad tusser & escap*er*
Rup*er*, vomer & est*re*mer.
[a]ecouz [b]cou3tte [c]deus [d]checun [e]laut*re* [f]toutfoi3 [g]vaut

Me havyþ to cou3tthe & to spete [127v]
Remynge spwynge & spetynge
Ho*m*me doit tusser de d*ro*yt,
Qi [a]t*ro*p de servoise bevoyt.
A man shal cou3the of rytth*e*
(936) þat over moche of ale haþ ydronke
Covient [b]luy doyt [c]escop*er*
Et cel qi muche, [d]masche ou gouste.
Ynow3 he shal spete
And he þat smakkeþ swolleþ or takeþ
Un g*ra*nt gate luy mettez gouste,
Qar ruper luy [e]estut t*re*sb[f]*ie*n,
A g*re*t rebaud hy*m* put to ete
(940) Ffor respyn he mot fulwel
Ou vomer [g]mult maug*ré* so*u*n,
Mez qi est*re*mer [h]peut sovent.
O*n*er spwe muche maug*re* hym
But he þat snoze may ynow3
San est & ad leggem*e*nt
944 J'ay de femme ay disceyt g*ra*nt,
Hool he ys & hath moist*ur*e
(944) I of womma*n* have yhurd disceyt gret
Qi p*ar* orgoyle se forcent t*a*nt,
En p[ar]l*a*unce [i]toutditz a blesere,

a b c d e f g
t*r*of s*ecundu*m q*uo*sd*am* ly ecop*er* mache etut t*re*ben mut
h i
et*r*emer toutdiz

þat by pride he*m* forseþ muche [128r]

In spekynge alway to lypse

P*ur* so*un* aimez pluis a pleasere.
a

Ffor har*e* lovez more to plese

948 Un valet de la novell*er*ie,
b
Qi vient d'une gr*a*nt ma*nger*ie.

(948) A yoma*n* of þe newe get

þat cometh f*ra*m a greit feste

De la feste moy ad counté
c

Com lour servise feut araié.

Of þe feste me haþ ytold

As har*e* servise was arayde

952 Sanz payn & sanz bon servoise,

Ne serra ho*m*me al feste b*ie*n a eise.

(952) W*ith*oute bred & w*ith*oute goud ale

Ne shal ma*n* at feste be wel at eze

Mez d'ault*r*e chose fait a saver
d e

De co*urs* qi feut al p*ri*mer :

But of oþ*er* þynge hyt ys to wyte

Of þe cours þat was ffyrst

956 La teste du sengler armé

Et le g*ro*yn b*ie*n baneré,

(956) þe heved of þe boor yarmed

And þe groyn wel ybanereth

a b c d e
plesere vint fete dautre feet

958 Puis venesou*n* ove furm*en*te, [128v]

Et puis altre diversité.
a

Affter vensou*n* wyþ furmente

And after oþer diversite

960 Dez grus, pouns & cignez

b
Chiveraux, porceles & gelinez,

(960) Of c*ra*nes, pokokys & swanes

Kydes, pygges & hennes

Puis avoient conies en g*ra*ve,

c
Tr*es*b*ie*n en sug*r*e enfoundr*é*.

Aft*er* þey hadde conies in g*ra*vez

Fful wel in zeug*re* yfound*re*t

964 Puis y ou*n*t aut*er*e fusou*n* de rost,

d e
Chescun deux en autr*e* cost.

(964) Aft*er* þey hadde oþ*er* fusou*n* of rost

Ev*er*y tuo in oþ*er* side

Ffesantz d'asciez & perdryz,

f
Gryues, alows & toutz rostiz,

Ffesantez, wodekockes & p*er*drynches,

Ffeldfares larkes & alle yrostud

968 B*ra*yon c*ri*spis & f*rit*ur*e*.

Ove zugr*e* roset en temp*er*ur*e*

(968) Brawoun crispis & fret*ur*ys

W*ith* zeugre roset in temp*er*ur*e*

a b c d e f
autr*e* chivercus tr*es*ben checun dens touz

Macez, quibibz & clovez gilofrés [129r]

a
Et dez aut*re*s espicez assez,

Macez quibibz & cloues gyloffr*e*.

And of oþ*er* spicez ynow3

b c d
972 Et q*ua*unt la table fuist outé

G*ra*nt poudre ove bon d*ra*ggé

(972) And wh*a*nne þe table was yled

Gret poudr*e* wyþ goud d*ra*gge

e
Et d'aultr*e* nobleye fuist fusoun

Et ore finie icy ma reso*u*n

And of oþ*er* nobley was fuson

And now þe ende here my reso*u*n

De moribus infantis

Ore nurture f jeo voile aprendre
A totez qui sount d'age tendre,

(976) Now nurture y wyl teche
To al þat ben of age tendre
Et pur verité g je vous di.
Hony est il qui h n'est norry
And forsoth y yow say
Heny is he þat ys nat tauȝth
Ore escotez, moun i chier k fitz,
Coment jeo voile que soiez norrys.

(980) Now take hede my dere sone
a b c d e f
epicez quaunt cum u pro quando feut ouȝtthe dautre je
g h i k
vou nett cheer fiz

How y wyle þat ye be norshet [129v]
a
Jeo voile tout al primour
Qe soiez humble & plein de b doulçor.
I wyl at þe fyrst
þat ye be lowe & ful of goudnesse
Soiez ensy ffranke & bonere,
c d
Sanz misditz & sanz mesfayre.
(984) Be ye also fre & bonere
Withoute myssaynge & mysdoynge
Et de e beale porture entre le gent.
f g
Ne trop hault, mez mesnement
And a faire porter amongez folk
Nat to hye but menelych
De totez gentz serrez le pluis amé
Et sagez serres alosé.
(988) Of alle folk ye shal be more yloved
And wijs ye shal be alosed
Toutz jours h vous prie qe soiez sagez
Et que i vous ne facez nullez outragez.

Al dayz y pr*a*y yow þat ye be wys

And þat ye make noon outr*a*ges

992 A nulle ho*m*me [k]q'est vivant

Ne vers en fe*m*me ne vers enf*a*nt.[l]

(992) To noman þat ys levynge

[a]je [b]docour [c]mediz [d]mefer*e* [e]bele t*r*of [f]*secundu*m [g]q*uo*sd*a*m haut

[h]vos [i]nulez [k]qeet [l]enf*a*unt cum u

Ne a3ens wo*m*ma*n* ne chyld [130r]

994 Et [a]q*ua*unt vo*us* se*r*rez entr*e* le gent,

Gardez v*o*stre lange sagem*e*nt,

And wh*a*nne ye shul be amongez folk

Kep*e* y*o*ur*e* tonge wysly

996 Et sy avez [b]ascun enchesou*n*

P*ur* [c]demonstr*er* vos*t*re resou*n*:

(996) And 3yf ye have eny enchesou*n*

Ffor to shewe your*e* reso*u*n

Court & br*e*f soit v*o*stre langage,

Et le muz se*r*rez amé du sage.

Short & lytyl be your*e* langage

And þe bett*e*r*e* ye shalle be loved of þe wyze

1000 Et q*ua*unt voilez p*ar*ler

Et v*o*st*r*e reso*u*n demonstr*er*,

(1000) And wh*a*nne ye wyl speke

And you*r* reson shewe

Et si vo*us* soiez aresoné

De [d]jeone ho*m*me ou de eigné.

And 3yf ye be aresonet

Of yong ma*n* ne of old

1004 Luy entendez b*ie*n, ne soiez hastiz.

Et q*ua*unt se*r*roun*t* passez tout lo*ur* [e]ditz

(1004) Hy*m* understandyþ wel & be nat hasty

[a]q*ua*unt cum u p*ro* q*uando* [b]acun [c]demontr*e* [d]june [e]diz

And wh*a*nne þey be passed al har*e* speche [130v]

En my lo*ur* front regardez ly,

Voz pi[a]ees & mayns ne c*ro*ulez.

In myddys þe ffront hem byholdyþ

You*r* feet & handez ne waggeþ nat

1008 Mez sagem*e*nt & sanz mis[b]ditz

Respo[c]ignez a tout lour ditz.

(1008) But wysly & w*i*t*h*oute myssay*n*ge

Ansuer*e* to al har*e* say*n*g*e*

P*ur* Di[d]eu amo*ur* soiez boner*e*

Et cointez & sagez p*ur* bi[e]en fai[f]r*e*,

For godys love beth bon*er*e

And quynte & wys for wel to do

1012 Et de be[g]ale affaite[h]m*en*t,

P*ur* bien acoynt*er* ove le gent.

(1012) And of fayre affaitem*en*t

Ffor wel to be a coyntet with þe folk

Ne soiez p*as* dissa[i]faitéz.

Je[k]o voile q*ue* soiez affa[l]itéz,

Ne be ye nouth unm*a*ad

Y wyl þat ye be maad

1016 Ffrank, bon*er*e & c*ur*teys

Et p*ur* bien p*ar*ler en f*ra*nceys,

(1016) Ffre bon*er*e & curtays

pe[a]z my[b]diz repoi[c]nes du[d] bee[e]n fer[f]*e* be[g]le affate[h]m*e*nt

dissa[i]fetez je[k] affe[l]tez

And for wel to speke in ff*re*nsh*e* [131r]

Qar mu[a]lt est langage alosé

De jentyl ho*m*me & b*ie*n amé.

Ffor muche hyt ys langaget wel yp*re*ysed

Of gentyl ma*n* & wel yloved

1020 Ffau[b]xcete & fau[b]x gent

Sur tote ri[c]en jeo vo[d]*us* defend.

(1020) Ffalshede & fals folk

Over al þy*n*g y yow defende

Ne jammez a vo*st*re voile

Ne avez en cuer ascun[e] orgoyle,

Ne neve*re* at youre wylle

Ne havyþ in h*er*te eny p*ri*de

1024 Qar ceo[f] est le s*ur*se de toutz[g] malez

Et chief[h] dez pecchez criminalez.

(1024) Ffor hyt ys uppemest of alle eveles

And heved of synneȝ c*ri*minalez

C'est[i] le pecché q*ue* fait[k] le gent

Morer & fyner malem*en*t.

Þat ys þe synne þat makeþ folk

Deye & ende yvele

1028 Et alez toutfoitz[l] entre le gent

P*ur* oyer & ap*re*ndre faytem*en*t.[m]

(1028) And goþ alway amongez folk

mut[a] faussete[b] faus[b] reen[c] vou[d] acun[e] ce[f] touz[g] cheef[h]

ceet[i] feet[k] toutfoiz[l] fetem*en*t[m]

To here & lerne afetem*en*t [131ᵛ]

Et soiez de beal[a] conteig*n*m*en*t

Et portez vo*us*[b] mesnem*en*t.

And be ye of faire conteinem*en*t

And bere ye menely

1032 Et ne soiez p*as* envyous,

Ne plein dire ne anguissous.

(1032) And be ye nat envyous

Ne ful of yre ne anguissous

Unquore vous p*ri*e s*ur* tout rien[c]

Qi de pecché vo*us*[d] gardez bien

ȝytt y p*ra*y yow above al þy*n*g

þat of synne yow kepe welle

1036 Et en chescun[e] rien q*ue* com*en*cez

De la fyn toutfoitz p*ur*pensez.

(1036) And in ev*e*ry þyng þat ye bygynne

Of þe ende alway thenkeþ

Et soiez tout jour bon c*ri*stien,[f]

Amez Dieu[g] s*ur* tote rien.

And beth al day a goud c*ri*sty*n*ma*n*

Love god above al þyng*e*

1040 Dote Dieu & seynte eglyse,

Amez luy[h] byen & sou*n* se*r*vice.

(1040) Dowte god & holy ch*er*che

[a] beel [b] vou [c] reen [d] been [e] checun [f] c*ri*tyen [g] du [h] ly

Love hym wel & hys servise [132r]

Le muz vo*us* avend*ra* a toutz[a] jou*r*s.

A tote gentz[b] faitez[c] honou*r*s.

þe bet*er* shal ye come to al dayes

To all*e* folk do ye honour

1044 Et ore retenez[d] ceo de moy :

Oves[e]q*ue* lez bonez vo*us* mett*r*ay,

(1044) And now holdeþ þat of me

W*ith* þe goudmen ye melde

Tout jour se*r*rez le muz sachant,[f]

Le muz amé, le pluis vailant.[g]

Al day ye shal þe more konne

þe bet*er* loved þe more yworth

1048 Et vous covient[h] d'est*r*e am*a*ble[i]

V*er*s tout gent & compaign*a*ble.

(1048) And yow byhouyþ to be amyable

A gaynez al folk & co*m*paign*a*ble

De beal[k] porte v*er*s[l] chescun ho*m*me

De beal semblant.[m] Ceo est la so*m*me.

Of fair*e* port*e* agaynes every ma*n*

Of fayre chyr*e* þat ys þe best

1052 Et as fe*m*mes faitez[n] honouris

En v*ost*re[o] vie a toutz jours,

(1052) And to wo*m*ma*n* do ye honou*r*s
touz[b] gens[b] fetez[c] ce[d] oveq*ue*[e] sach*a*unt[f] cu*m*[g] u vailaunt
cu*m*[h] u covint[i] det*re*[k] beel[l] checu*n*[m] ce[n] fetez[o] vot*re*

In yo*ur* live at al dayes [132ᵛ]

Et a fe*m*me nomeme*n*t,

Ou ele est ensigné[a] d'affaiteme*n*t,

And to a wo*m*ma*n* namely

When she ys norshet & ytauyth

1056 Qar d'eux[b] veigne*n*t lez p*ru*estez,

Lez honou*r*s & lez hautissez,

(1056) Ffor of he*m* come*n* þys p*ru*esses

Þis honou*r*s & þis hyȝgnessez

Lez bienz[c] & lez joyez tout a un,

Dou*n*t moy est avys q*ue* il est sou*n*.

Þis joyey & þis goudes al to on

Wh*er*fore myn awyis ys

1060 Qi de eux[d] soy fayt hayer

Jammez ne luy[e] ve*r*rez bi*e*n chev*er*.

(1060) He þat of he*m* hy*m* makeþ hate

Neve*r*e shal ye se hy*m* wel achyve

P*ur* quele chose jeo[f] vo*us*[g] pr*ie*,

Qe a bone femme soiez amy,

Ffor whych þynge y yow pr*ay*

þat to a goud wo*m*ma*n* ye be frend

1064 Et sanz folye & sanz pecché.

Amez le bien sanz fauxcete[h]

(1064) And wi*th*oute folye & synne

daffetement[a] deus[b] beins[c] eus[d] ly[e] je[f] vou[g] facete[h]

Love here wel wi*th*oute falsede [133ʳ]

Mez de une chose vous[a] bien gardez :

Jammez en femme en affiez.

But of on þy*n*g take ye wel hede
Nevere in womman ne t*re*stuþ
1068 P*u*r sa valo*ur* ne pur sa priijs
(1068) Sanz bon conseyl de vo*us* amyz.
(1068) Ffor hyr*e* valour*e* ne for hyr*e* prijs
W*ith*oute goud co*n*seyl of yo*ur* frendes
Et jammez en v*ost*re vie
Ne vous av*au*ntez de vos*t*re amye.
And nevere in your*e* lyve
Ne av*au*nce yow na3th of yovr loue
1072 Et qu*au*nt vo*us* voilez p*ar*ler
Et v*ost*re resou*n* demonst*rer*,
(1072) And whan ye wyl speke
And yo*ur* reson shewe
Veiez q'il soit reso*u*n,
Sanz mysditz & tension.
And lokeþ þat hyt be reso*u*n
W*ith*oute myssaynge & chydynge
1076 Portez vo*us* b*ie*n ent*re* la gent,
Et toutfoitez menem*en*t,
(1076) Bere yowe wel amongez folk

vou q*ua*unt cu*m* u p*ro* q*ua*ndo demontr*e* qijl mediz
toutfoiz

And al way menely
Ne t*ro*p hault, ne t*ro*p bas,
Qe l'em ne face de vous gas.
Nat to hyye ne to lowe
þat men ne make of yow no skorn
1080 Amez, armez & chivalex,
Si vous lez avez bonez & bealex.
(1080) Loved armez & hors
3yf ye hem have goud & fayr*e*
Si t*er*re devez doner,

[133v]

Pensez p*ur* bien esploit*er*.

3yf lond ye shal yeve

þenkeþ for wel to fulfylle

1084 Si vo*us* donrez tout al com*en*cem*en*t,

Manger & boier ff*r*anchem*en*t,

(1084) 3yf ye shal yeve al at þe fyrst

Mete & drynk frely

A prodez hommez du pays,

Robes & chivalex du prys,

To goodemen of contre

Robez & hors of prys

1088 Et as lez vayl*a*untez chiv*a*lers,

Chivalez, villez & man*er*es

(1088) And to þis vaylaunt kny3tthez

a haut b trof c chivalez d belez e te*re* f bien g vilez

Hors townez & man*er*ez [134r]

Et a lez damez beaux jewês

Cotez de say, fyrmaux d'orrez,

And to þis ladyes fayre jewelley

Cotez of say brochys of gold

1092 Et a bourdez & damyselez

Symplez garlandez & chosez bealez.

(1092) And to minst*r*alez & damyselez

Symple garlandez & þy*n*gez fayre

Chose asconfoitz est a doner

Et asconfoitz a retener.

Thyng*es* oþ*er*whyle ys to 3yve

And oþher whyle to wyþhold

1096 Si l'autor dit en v*er*ité,

Querez Cato*u*n p*ur* autorité.

(1096) So þe autor seyþ in sothe

Secheþ Catou*n* for autorite

Dandu*m* et*en*im aliq*ui*d e*st* cu*m* te*mpus* postulat aut res.

To yeve for sothe þynges ys

Whan tyme askyþ of þyng
d
Pur Dieu gardez vous bien.
e
f g
1100 Ne promittez nulle rien,

Ffor god kepe yow welle

(1100) Ne byhoteþ noþyng
a b c d e f g
beus firmaus acunfoiz du been nule reen

a
Sur esperance d'autry. [134v]
b c d
Par ventur*e* n'est prest a luy,

On hope of on oþer man

Parauenture hyt ys nat redy to hym
e
Qar mult promittere & rien doner,
f
1104 Ceo fait le fool multe conforte.

For muche to byhote & lytyl yeve

(1104) þat makeþ þe fool moche conforte
f
Si vous disirés pur sagez aloser,
g
Sis choses gardez en vostre cuer :

3yf ye desyre to by holde wys

Syx þynges kepeþ in yowre herte

Cez sount com l'autor dit
h
1108 Et en latyn sount escript.

þyse hyt beþ as þe autor seyþ

(1108) And in latyn þey beþ ywryte

Si sapiens fore vis sex cerua que tibi mando,

Quid loqueris & ubi, cur cui, de quo, quomodo, quando.

3yf þu wylt be wyse syx þu kepe

þe whych to þe yhote

What þu speke & when of what

To whom why how whanne
i
Et sur tout rien jeo vous requere,

1112 Qe orgoyle n'aproche vostre cuer.
a b c d e f f
esperaunce cum u neet preet ly mut feet vou
g h i
votre & vetre secundum quosdam ecript je

And above al þy*n*g y yow byscche [135ʳ]

(1112) Þat p*r*ide aproche nat youre he*r*te
a b
Il dist*run*t totez vertuez
b
Et ouste d'o*m*me lez bonez duez.

Hyt distroieþ alle vertuez

And casteþ f*r*am man þis goud thewes
c d
Si ho*m*me ad bienz & soit sach*au*nt,
e
1116 Bien formé & vail*au*nt,

3yf ma*n* haþ goud & be co*n*ny*n*ge

(1116) Well yfo*u*rmed & vail*au*nt
f
Si orgoile soit en luy,
g h
Toutz sez bienz il ad p*er*dy,

3yf p*r*ide be in hym

And al hys goudes he haþ ylost
i
Com en escr*i*pt*ur*e est t*r*ové

1120 Et est veir en v*er*ité.

As in wrytte hyt ys yfounde

(1120) And hyt ys soþ in sothe

Si t*i*bi copia seu sapie*n*cia form*a* q*ue* det*ur*,

Sola sup*er*bia dest*ru*it o*m*nia si comitet*ur*.

3yf plente wyþ shappe to þe be yeve

Only p*r*ide distryeþ alle 3yf he þer to be put

Et ne soiez cou*r*rious,
k
1124 Et de tensiones gardez vo*us*.
a b b c d e
Iil ditrut ou3tte benez sachaunt cu*m* u vailaunt
f g h i k
cu*m* u ly touz Iil ecrit*ur*e vou

Ne be nat courrious [135ᵛ]

(1124) And of chydynge kepe yow
a b
Mult est beale vileinie
c
D'est*re* vencuz en tensorye.

Muche hyt ys a fayr*e* veleynie

To be ov*er*come in chydynge
d e
A ceo co*n*corde Catou*n* & dit

f
1128 En les v*er*s com est esc*ri*pt*e* :

To þat acordeþ Cato*u*n & seyþ

(1128) As in þis v*er*se hyt ys ywryte

Cont*ra* v*er*bosos noli co*n*te*n*dere v*er*bis,

Sermo dat*ur* c*unc*t*is* animi s*a*pi*encia* pauc*is*.

Aȝeins word me*n* st*ri*f nat w*ith* wordis

Word ys yeve to ev*er*y ma*n* but wysdo*m* to fewe

g
Parole est doné a chescuny,

h i k
1132 Mey sachance n'est en luy,

Word ys yeve to ev*er*y ma*n*

(1132) But co*nn*y*n*ge ys nat in hym

l
Qy en p*aro*lez est est*ri*vour,

Et jammez ne vendr*a* a l'honour.

Þat in word ys a stryvour

And nev*er*e shal he com to honour

Une chose uncquore jeo voile vo*us* dire :

1136 Ne soyez jammes plein de yr*e*.

a b c d e f g h
mut bele deet*re* ce dijt ecrit checuny sachaunce cu*m* u
i k l
neet ly et*ri*uour

On þyng*e* ȝyt I wyle yow teche [136r]

(1136) Be ye nev*er* ful of wrathe

a b
Hatie toutfoitz il engendr*e*,

Concord*a*unce amo*ur* veut rendr*e*.

Hate alway he engendreþ

Concordau*n*ce love wyl yelde

Ira odiu*m* gene*r*at co*n*cordia nut*ri*t amore*m*.

Wh*ra*the hate ge*n*d*re*þ acord norsheþ love

1140 Veiez q*ue* ne soiez losenger,

(1140) Loke ye be no losenger

Vers dame, ne v*er*s seignour s*ecunda*(sic).

Agaynes lady ne lord

c d
Et s'ils desirent q*ue* vo*us* moust*rez*

Toutz lez mals q*ue* vo*us* savez,

And 3yf þey desyre þat ye shewe

Alle þis evelez þat ye knowe

Ne pensez mys eux[e] en paier,

Mez p*ur* bien dir*e*[f] sanz g*re*ver.

(1144) Ne þenkeþ nou3th he*m* to paye

But for to say wel w*ith*oute g*re*vance

P*ur* Dieu[g] ne vo*us*[g] acostomez,

D'escharn*er*[h] ho*m*me q*ue* vo*us* poiez.

For goddys love acostome ye nayt

To skorne man 3yf ye may

toutfoi3[a] Iil[b] vou[c] mout*re*[d] eus[e] bein[f] du[g] cotomez[g]

decharn*er*[h]

Tout q'il soit povres & boseigno*us*, [136^{v}]

Ou q'il ne soit si beaux[a] come vo*us*.

(1148) you3gh he be poure & nedy

Or 3yf he be nat as fayre as ye

Si p*rodo*mme ne si vail*a*unt,[b]

Ne si c*ur*tais, ne si sachant,

So fayr ma*n* ne so vail*a*unt

Ne so c*ur*tais ne so co*n*nynge

Ja p*ur* ceo[c] ne luy[d] escharnez,

Qar p*ar* escharner bien sachez

(1152) Nev*er*e for þat hy*m* ne scorneþ

Ffor by scornynge ye knowe welle

Ne s*er*rez jammey alosé,

Mez haÿ mult[e] & rebetté.

Ne shal ye nev*er*e be aloset

But hatyd muche & rebatud

Cato*un* le sage eseigne & dit

Et en so*un* liv*er*e divine & myt :

(1156) Catou*n* þe wyzema*n* techeþ & seyth

And in hys boke divineþ & puttyþ

Corpo*r*is exigui vires co*n*tempn*er*e noli.

Dyspize þu nat þe body of a lytyl ma*n*
Le petit corps d'ascun ho*m*me
Ne escharnez, Ceo est le su*m*me.
beus vailaunt cu*m* u ce ly mut cors dacun eet

Þe lytyl body of eny man [137r]

(1160) Ne skorn þat nat þat ys þe su*m*me

Et tout q'il soit enpov*er*és,
Uncquore ne luy escharnez.

And þou3gh he be pour*e*

3yt hy*m* ne skorneþ nou3th

Paupertat*is* onus pacient*er* ferr*e* memen*to*.

Of pourte þe charge paciently have mynd to bere

Ne soiez hastiy, ne irrés
Toutfoitz de ceo b*ien* vous gardez :

(1164) Be nat hasty ne hangry

Al way of þat wel yow kepe

Poet*a* irat*us* rer*um* nescit discernere veru*m*.

Þe angry man of þy*n*ges ne can nat dis*c*erne þe soþe
Unquore, fitz, escotez,

Et un poy ap*r*endrez

3yt chyld take hede

(1168) And a lytyl lerneþ

Qe en sc*r*ipt*ur*e j'ay trové

Et en latyn t*ra*nslate :

þat in sc*r*ipt*ur*e y have fou*n*de

And in latyn y t*ra*nslated

Poet*a* Qui sc*i*t laudat*ur* qui nesc*i*t vitup*er*at*ur*.

He þat ca*n* ys to preyse he þat can nat ys to dyspyze
ly toutfoiz fiz ecotez c*r*iture

Quy b*ien* entent & sovent lytt, [137v]

Prow av*er*a & dylytt.

(1172) He þat wel entendeth & ynouth redeþ

Prow he shal have & delyte

Salam*on* : Inicium sap*ienc*ie timor d*omi*ni.

Le sage dit en sou*n* livere q*ue* co*m*me*n*cem*en*t de bi[a]en viv*er*e :

In þy bygy*n*ny*n*ge dred god

Þe wyzeman seyth in hys bok

Þat þe bygy*n*ny*n*ge of goud lyf

1176 Sur tote ri[b]en est doter

Dampn[c]edieu & lu[d]y hono*ur*er.

(1176) Above al þy*nge* ys to doud

Dredful god & hy*m* worshepe

Salomo*n* : In bonis sit cor tuu*m* in dieb*us* juve*n*tutis tue,

& acorde tuo amore maliciam.

In goud þynges be þy h*er*te in þe dayes of

Þyn yonghed And fram thyn h*er*te evyl to putte

1180 L'autor d*it* quy v*ost*re entente

Mett*er*e devez en ta juvente,

(1180) Þe autor seyþ þat yo*ur* entente

Putte þu sholdez þyn juvente

De toutz pecchey vous ret*ra*her*e*

Et bonez oou[e]prus user & fai[f]re.

Of alle synnez yow to w*ith*drawe

[a]beyn [b]reyn [c]damne du [d]ly [e]ovrs [f]fere

And goud werkys use & doo shal be [138r]

1184 Qui odit correp*cione*m i*n*cipie*ns* erit q*uia* melius est

a sapie*n*te corigi q*uam* stultor*um* v*er*ba adulari

(1184) He þat hatyþ und*er*nymy*nge* unwys*e* he for bet*er* ys

Of wyze to be corectud þ*a*n of folys in wordys to be shamed

Si vo[c]*us* haiez d'est[d]*re* rep*r*is,

Ne s*er*rez jammez b*ie*n ap*ri*s

ȝyf ye hate to be up take

Ne shal ye never be wel yloved

1188 Pluis va[a]ult tensoun de verdiso*ur*

Qe be[b]al disceyt de fa[c]ux me*n*to*ur*.

(1188) More ys worth chydynge of a t*r*ewe seir*e*
þ*a*nne fayr disceit of fals lier*e*
Elimosin*a* p*ur*gat p*eccatum* & fac*it* intr*a*re in vita*m* et*er*naz(sic).
Almesdede p*ur*gyþ synne And make þ me*n* to en*tr*e everlastyng lyf
Bon est estr*e* almoign*er*
1192 Des bi[d]enz q*ue* p*ur*rez gaynere,
Goud hyt ys to be a almesyev*er*e
(1192) Of goudes þat ye may gete
Dez voz pecchez remission
Et vie p*er*dur*a*ble en guerdon.
Ffor yowre sy*n*nes remission
And lyf ev*er*lastynge to mede
Vis h*ab*er*e* magnu*m*, imp*er*iu*m* imp*er*a te et h*ab*ebis magnu*m* honore*m*.
fer*e* vou[c] det[d]*re* vaut[a] beel[b] faus[c] benis[d]

[138v]

ȝyf þu wylt have governayle gov*er*ne þu þe
And þu shalt have muche honour
1196 Si vous disirez g*r*a[a]nt honour
Et dignitez d'emp*er*o*ur*,
(1196) ȝyf ye desir*e* gret honou*r*
And dignite of emp*er*o*ur*
Emp*er*o*ur* en dr*o*it nomer
Quy luy[b] mesmez[c] sciet justic*er*.
Emp*er*our in ryȝth ys named
þat hymself ca*n* justefie
1200 Ore p*r*iez Dieu[d] issint puissetez finer
Qe a sou*n* joye p*ur*rez vener.
(1200) Now p*r*ayeþ god so ȝe may end
þat to hys joye ye may kome so be hyt. Amen
[1] La rule q'est ensuant eseigne e*n*sem*en*t com*en*t
vo*us* sc*r*iv*er*ez vo*str*e fr*a*unceys, & ce est en la p*r*im*er* rule la ou il dit.
þe rule þat ys shewynge techeþ
Also how ye shal wryte yo*ur* frensh
And þat ys in þe furst Rule þ*er* where hyt seyþ

Regula sc*ripc*io*n*is en le ij^{e} lieu p*ro*chein ensevant a p*ar*t senest*re* la ou il dit. Reg*u*la locu*cion*is : si co*mm*e est esc*r*ipt, en mesme la rule en tiel man*ere* lirrez v*ost*re fr*an*ceys,

[5] & issint une rule enseigne a scrivere & l'aut*ere* a liere.

a b c d
gr*a*unt cu*m* u ly memez du Amen

Et en le tierce lien q'est devisé la ou il dit : [139^{r}]

Reg*u*la co*n*truc*cion*is. Ceste rule enseigne le Englysh dez voz parolez de ffraunceys et en tiel man*ere* la p*ri*m*er* rule enseigne p*ur* sc*ri*v*ere*, la s*econde* p*ur* lir*e*, la tierce p*ur* entend*re* et ensem*en*t enseigne plusou*rs* diff*er*encez du ff*ra*unceys.

Reg*u*la sc*ripcion*is In þe s*econ*de place nyxt folwynge on þe lyft syde þ*ere* where hyt seyþ.

Regula locu*cion*is as hyt ys wryty*n* in þe same rule in whych man*ere* shal ye rede yo*ur* Frensh & so on rule techeþ to wryte and a noþ*er* to rede and in þe iij place þere where he seyþ reg*u*la co*n*struc*cion*is þat rule techeþ þe Englyshe of yo*ur* wordez of Frensh & in swhych man*ere* þe fyrste rule techeþ to wryte þe s*econ*de to rede þe thryde to vnderstand.

And also hyt techeþ manye dyfferencez of Frensch.

[10] Incip*it* autor hoc kalendare p*er* A. Et ordine cu*m* suis seq*ue*ntib*us* finit.

Cest kalender com*mence* p*ar* A, Et ordinelm*en*t finist ove sez ensuantez.

Linia sc*ripcion*is	Reg*u*la locu*cion*is	Reg*u*la co*n*struc*cion*is [139^{v}]
Avant vel av*aunt*	Avant cu*m* v leget*ur*	to fore .s. temp*us*
Ascun ho*mm*e	Acun ho*mm*e	Eny man sine E
Ascune femne	Acune fe*mm*e	Et cu*m* E s*er*vit f*emin*ino gen*er*i
Aut*er* ho*mm*e	Ault*er* ho*mm*e	An oþer man
Aute*r*e fe*mm*e	Ault*er*e fe*mm*e	An oþer wo*mm*an
Alo*u*ns, e	Eod m*odo* leget*ur*	þe same man*ere* oþer placez
Auxci	Auci	cu*m* u & no*n* v Also
Ameir*e* — *dicitur*	Eod m*odo*	þe same man*ere* almerye
Aumair*e* — *dicitur*	Amayr*e*	A lover for smok*es*
Aeps	As	A bee
Ascies	Acies	A wodekok
Almez *vel* almes	Ames *vel* ame	soulys or soule
Aidant	Aid*a*unt cu*m* u	helpynge

Aloms	Alo*m*mis	go we
Aleigne	Aleine	goynge
Affiez	Eod*em* modo	trestuþ
Assell*e*	Assel	A sadel
Esselle	Essel	A ȝext*re*
Avient	Avint	hyt happyþ
Arrable — dicitur	Eod	A mapyl tr*e*
Arable — dicitur	Eod	lond arable
Apeine	Eode*m*	unneþe
Acier	Acer	steel
Arsevesq*ue*	Arseveq*ue*	A ershebisshop*e* [140r]
Almoigner	amenir	an almesyev*ere*
Ambedeux	ambedeus	boþe to
A s*er*vit dat*ivo* casui	Ut a mou*n* cher amy	as to my der*e* fr*e*nd
Al p*ro* accus*ativo* in sing*u*lari	Ut ad villa*m* ibo	to towne y shal go
As eid in plurali	Ut ad vill*as* ibo	to townys y shal go
Au p*ro* apud	Ut dat*ur* ap*u*d lond	Iȝeue at londone
Bien	ben	wel
Beau	beu	fayre
Beal ho*m*me	beel	fayr in mas*c*ulino
Beal fe*m*me	bele	fayr in fe*minino*
Bousche	bouche	a mouth
Bleise	eod m*odo*	to lypse
Bijs	eod m*odo*	est
Baas	eod m*odo*	west
Boseigne	boseyne	nede
Baale — dicitur	bale	happy
Bale — dicitur	eod m*odo*	a bagge of pyper .i. bale
Baleie — dicitur	eod m*odo*	to blete
Baile — dicitur	eod m*odo*	to gone for slep*e*
Baayle — dicitur	bayle	to take þy*n*g to kepe
Baylye — dicitur	eod m*odo*	to swope
Bevez	eod m*odo*	dryng*e*
Bye	eod m*odo*	aske
Bauley	eod m*odo*	to flafly in or*e* [140v]
Bauur*e*	eod m*odo*	dreflynge
Blesur*e*	eod m*odo*	an hurte
Beers	bers	a cradel
Bersere	eod m*odo*	a rokkester*e*
Blaunche vel bla*n*k s*ecundu*m q*uo*sda*m*	eod m*odo*	why3t

Chien se*cundu*m pikardiam Chaan se*cundu*m pa*r*isiu*m*	cheen v*e*l chaun	an hound
Chiet se*cundu*m pikardiam Chiat se*cundum* pa*r*isiu*m*	cheet *ve*l chaat	an kat
Chier*e*	Cher*e*	dier*e*
Chief	cheef	a heved
Coer *ve*l Cuer s*ic*	cuer	a herte
Ceost	cest	þat ys
Corps	cors	a body
Coste	cote	a syde
Countee — dicitur	eod m*odo*	a shire
Counte — dicitur	eod m*odo*	a Erl
Counstr*e*	countr*e*	to knowe
Ceo	ce	þat
Chescun	checun	ev*er*ych
Coteal	cotel	a knyf
Compaignou*n*	companiou*n*	a felawe
Combien	combeen	as wel or how moche
Covient	covint	hyt byhovyþ [141r]
Ceaux v*e*l ceux	ceus	þylke
Centier	center	to make wyþ chyld
Coigner — dicitur	coyner	a coyntr*e*
Coigne — dicitur	coyne	a wecch
Coignier — dicitur	coynour	a koynou*r* to make money
Chalandr*e*	Chalaundr*e* cu*m* u	a wodelarke
Ceal in fe*mi*ni*n*o ceale	cel in fe*mi*ni*n*o cele	swych on
Cigne	cyne	a swan
Chatoner	eod	to crepe
Chastell*e*	Chatel	a castel
Chiuaux	chivaus	a hors
Chiekier	cheker	a cheker
Champ*e*	Chaumpe cu*m* u	a feld
Doos Deis	dos eod m*odo*	a rugh ffyngres
Deniz	eod	wyþ ynne
Doulce	douce	swete
Demonstr*e*	demontr*e*	shewe
Defaitez	defetez	un mad
Dieux v*e*l dieu	deu	god
Demande	Demaunde	aske
Draps	dr*a*as	cloth

Dest*re*	det*re*	to be	
Deeistier	Deist*er*	to stande	[141^{v}]
Dame	eod	a lady	
Daam	Dam	a deo	
Disme	dyme	a tenthe part	
Disormez	eod m*odo*	fro hennes forward	
Devant v*el* dev*aun*t	devaunt cu*m* u	to fore	
Esploit*er*	eploit*er*	to fulfylle	
Est*re*	et*re*	to be	
Est	ey3th	ys	
Eistier	eister	stande	
Eigne	eyne	old	
Esglise	eglise	a cherche	
Eueske	eveke	a bysshop*e*	
Eschver*e*	echver*e*	to eschue	
Escharner	echarner	to scorne	
Estable	etable	stable	
Esc*ri*pt	ec*ri*pt	y wryte	
Esmond	edmound	emound	
Esperche	eperche	raksle aft*er* slep*e*	
Eyles — dicitur	eod m*odo*	fynnes of fyssh	
Eles — dicitur	eod m*odo*	wyngges of bryddys	
Espandre — dicitur	epandr*e*	discov*er*e co*n*sayl	
Espaundre — dicitur	epaundr*e*	shede mete	
Espeandre — dicitur	epeandr*e*	spele lettrys	
Enf*aun*t	enfaunt cu*m* u	a chyld	[142^{r}]
Esteant	eteaunt cu*m* u	beayge	
Ebiresse	eod m*odo*	dronknesse	
Erde	eod	a herd of feldfar*es*	

Sed herde cu*m* h sc*ri*pt*us* dicit*ur* a herd of c*ra*nes o*þer* of deer

Fuist v*el* sic	feijt	was
ffinist	finit	ende*þ*
fist	fi3th	dede
fitz — dicitur	fiz	a sone
file — dicitur	eod m*odo*	a dou3t*er*
fils — dicitur	eod m*odo*	a dred
filz — dicitur	eod m*odo*	sones in pl*urali*
feu	eod m*odo*	fier
feim	eod m*odo*	honger
fume	eod m*odo*	smyche of fier
faire	fer*e*	to do

fauxcete	fausete	falsede
fe*m*me	eod m*odo*	a wo*m*ma*n*
fusil	eod m*odo*	a spyndele
forsp*r*is	forp*r*is	outake
forsq*ue*	forq*ue*	butte
feve	eod m*odo*	a bene

G*r*ant vel grant gr*a*nt s*ed* sic leget*ur* g*r*aunt cu*m* u sona*n*te g*r*et

dicitur		
G*r*ante	eod m*odo*	yg*r*aunted
G*r*aunde	eod m*odo*	in fe*m*ini*n*o gene*r*e gret [142^{v}]
Guerr*e*	gere	werre
Gist	gyth	lyiþ
Gilliam	eod m*odo* s*ecund*um p*ar*isiu*m*	Willia*m*
Grues	grues	a cran
Gryue (dicitur)	eod m*odo*	a feldfar*e*
Groule	eod m*odo*	c*r*anez c*r*oulet
Grooule (dicitur)	eod m*odo*	hassil waget
Garoile	eod m*odo*	a ban*er* in war*r*e
Galeine	eod m*odo*	a handful aliq*uarum* rerum
Gelyne	eod m*odo*	a hen
Huis	eod m*odo*	a dore
Huissel	eod m*odo*	armputte
Huy	eod m*odo*	þys
Ho*m*me	eod m*odo*	a ma*n*
Hupe	eod m*odo*	clokky as a hen
Herde	eod m*odo*	a herd of c*r*anes oþer dere
Hony	eod m*odo*	heny
Hiussie	eod m*odo*	holun
Horaile	eod m*odo*	wodeshave
Illeoqes	illeqes	þere
jeo	je	y
jeoune	june	yonge
jameys	jammez	nevere
Ici	eod m*odo*	here [143^{r}]
jambey	eod m*odo*	legges
jaroiley	eod m*odo*	g*r*allet or jangleþ
jaroile	eod m*odo*	a q*ue*ket
Keville	kevile	a ankne
Kyvylle (dicitur)	kyvyle	a t*r*eyn pynne
K*au*nt		
Kar	s*ecund*um antiq*uos*	

Ky		
Keyne	eod	an Ok
Liege	lige	a lyge man to þe kynge
Leal	leel	trewe
loial	eod modo	laweful
lieu	lw	a place
luy	ly	hym
luchere	eod modo	a slykestere
luche	eod modo	a hyve
lyvere	eod modo	a booke
lyvere	eod modo	a lyppe
levere	eod modo	a hare leverer A Grewhond
lire	eod modo	a balaunce
layne	eod modo	wolle
liez	eod modo	byndethe
lyre	eod modo	to rede
Lesche	eod modo	to lykke [143v]
Littiere	eod modo	straw
Lettere	eod modo	a lyter þat men rydeþ ynne
Lyttire	eod modo	wombe straw
Lange	eod modo	a thonge
Leverer	eod modo	a grehound
Laas	eod modo	wery
Mesmez	memez	þe same
Mult	mut	muche
Mesditz	mediz	myssay
Mesfaire	mefere	mysdo
Miere	mere	a modyr
Mear	meer	þe see
Mounde	mounde cum u	þe wordle
Moel	Mool	þe yulk of a ʒey
Moal	mool	þe nave of a wheyl
Messuere	eod modo	a houswyf
Messiere	eod modo	helewogh
Messier	eod modo	a hayward
Multfoitz	mevtfoiz	many tymes
Mount	mount cum u	north
Mays	eod modo	butte
Mesque	meque	butte
Maintenant	maintenaunt cum u	hand holdynge
Meniz	eod modo	lasse [144r]

Majour	eod m*odo*	more
Mesgr*e*	megr*e*	lene
Measou*n*	mesou*n*	a hous
Mesdre	medr*e*	best
Nient	neint	nat
Nest	neet	nys nat
Nees	nes	y bore
Neff	eod m*odo*	snow
Neiff dicitur	nyffe	a shyp
Naif	eod m*odo*	a bondeman
Nase	eod m*odo*	a ȝene a reddryr*e*
Nease	nees	a nose
Nascie	nacie	snefel of þe noze
Nasciere	naciere	to snefly
Naer dicitur	eod m*odo*	to swymme
Noer	eod m*odo*	to drowne
Neger dicitur	eod m*odo*	to rowe
Nager	eod m*odo*	to snowe
Nadgars	nagars	.i. nouit*er* newely
Oilez	eulez	eyen
Oraylez eren sed horaylez cu*m* h		wodeshave
Oos	ous	a bon
Ops	vse	werk*e*
Oeff	oof	a ay [144^{v}]
Ore	eod m*odo*	.i. m*od*o now
Oor	or	gold .i. aur*um*
Oseaux	oseu	a bryd
Oneur*e*	onour*e*	onour
Ouste	ouȝte	cast out
Pier*e* dicitur	pere	a faȝer
Peer	eod m*odo*	a ston
Preigne	p*re*yne	taak
Pecche	eod m*odo*	synne
Pecchou*r* dicitur	pechou*r*	a synn*er*e
Peschou*r*	peshou*r*	a fyssh*er*
Poigne	poyne	a fust
Poun*e*	eod m*odo*	a paun in ches
Pou*n*	eod m*odo*	a pokoc
Poet *vel* peut	peut	may
Pus	eod m*odo*	aft*er*

Parel — dicitur	eod m*odo*	a payr*e*
Parele	eod m*odo*	a red dokke
Puisse	puse	may q*uasi* possu*m*
P*ar*	eod m*odo*	by
Pur	eod m*odo*	fore q*uasi* pro
Prest	prett	redy
Pry3tth	eod m*odo*	take*þ* *vel* *sic* prist
Prestre	pet*re*	a brest [145r]
Q*uant vel* quant	qant	how moche
Quaunt	eod m*odo*	whanne
Quele	eod m*odo* in fe*mi*ni*no*	what *þ*ynge

Sed legetur qele in masculino & neut*ro* gene*re*, reg*u*la no*n* fallit.

Que co*n*junct*io* quy	*vel* qui relat*ivum*	*þ*e wyche o*þer* *þ*at
Queux	queus	*þ*e wyche menn
Ryen	reyn	*þ*ynge
Roialme	reme	a kyngdom
Real	reel	a *þ*ynge
Roy — dicitur	eod m*odo*	a kynge
Roigne	Royne	a quene
S*ed* royne	*sic* scriptu*m* est	a tadde
Royn	eod m*odo*	a shorf
Rubie — dicitur	eod m*odo*	a p*re*ciouse ston
Rupie	eod m*odo*	a drop of *þ*yn nose
Rastuer	ratuer	a dow3gh rybe
Rastell*e*	ratel	a owyn rake
Raes — dicitur	eod m*odo*	spokys of weylez
Raies	eod m*odo*	sonne bemez
Raayes	rayes	ray fyssh
Ray	eod m*odo*	ray clo*þ*e
Saietez	setez	arwen
Sale	eod m*odo*	an halle
Sell	sale	foul o*þer* felthe [145v]
sile	seel	a seel in wex*e*
Sseauz	selez	salt
Sauntz	saluz	helthe
Soubz	south	under
Sur	eod m*odo*	.i. sup*ra* above
Treschier*e*	t*re*cher*e*	ful der*e*
Treshon*our*e	trehon*our*e	worsshepful
Treshon*our*ee *sic* in	feminino gen*ere*	worsshe$\bar{p}$pful lady
Tresreve*r*ent	trereve*r*ent	ful reve*r*ent

Tresexcelent	t*re*xcelent	ful exelent
T*re*sg*ra*cious	t*re*g*ra*cious	ful g*ra*cious
T*re*snoble	tr*e*noble	ful noble
T*re*spuissant	t*re*puissa*n*t	ful my3tty
T*re*haut	t*re*aut	ful hei3gh
T*re*sdoute	t*re*doute	ful doutous
T*re*s*re*sonable	t*re*resonable	ful resou*n*able
Tout puissant	eod m*o*d*o*	Almy3thy
T*re*ssage	t*re*sage	ful wy3
Tout	tut	al
T*a*unt *ve*l tant	taunt cu*m* u	so moche
Tesmoigne	temoyne	wetnesse
T*a*ntost	t*a*ntou3th	anoon ry3th
Trop̄	s*ecundu*m q*u*osda*m* t*ro*f	ov*er* moche
Tielx	telez	swyche [146r]
Taulpes	taupes	molles .i. talpa
Tenailles	eod m*o*d*o*	cole3
Tienailes dicitur	tenailez	tonges
Tennailes	eod m*o*d*o*	balkes
Tresq*ue*	t*re*q*ue*	in to tyme
Vient	veint	he come þ
Vint	eod m*o*d*o*	twenty
Vault	vaut	y worth
vostre *ve*l vo*t*re	vot*e*re	your*e*
veout *ve*l veult	veut	wyle
viande	viaunde cu*m* u	mete
ville	vile	a toun
vieiles	veilez	wacchez
veil	eod m*o*d*o*	a nonnes weyl
veil	eod m*o*d*o*	a seil
venturel	eod m*o*d*o*	to blowe
virole	eod m*o*d*o*	a wyrole of a knyf
varole *dicitur*	eod m*o*d*o*	a wort worym
verol	eod m*o*d*o*	pokke
verder	eod m*o*d*o*	a forest*er* .i. home
verreder *dicitur*	eod m*o*d*o*	a ruddok
vanelles	vaneles	a lepewy*n*ke
venelles	veneles	lanes y*n* tounes
vent*re*r*e*	eod m*o*d*o*	a mydwyf [146v]
vent*r*er	eod m*o*d*o*	a wombe rope

Hæc l*ite*ra X no*n* hic intitulat*ur*, q*uia* alie l*ite*re capiu*n*t eius sonu*m* in dictamine gallic*o*, p*r*out inferi*us* patet scripturis,

Yvereeod m*odo* Wynter

Y aliquando ponit*ur* p*ro* sy, aliqu*ando* p*ro* illeoques, aliqu*ando* p*ro* no*mi*ne demo*nstra*tivo, ut jeo y se*r*ra, y vous pleast, a y cestez & *cetera*, ut patet in regula dic*cio*nis se*u* l[a] Regula. Raro invenit*ur* h*æc* l*ite*ra Z in p*r*incipio ve*r*bor*um* ff*ra*ncor*um*, n*isi* sit in p*ropri*is nominib*us* locor*um*.

Qui sc*ri*psit carme*n* s*it* bened*ictus*, Amen.

Explic*it* Ffemina nova.

II.

上記の本文において就中，特記するに価する点は以下の通りである。

1）関係代名詞が省略される：

De chose [qui] n'est pas cy comun 219

Et glentre [que] porte piperongez 607

2）ō[に由来するueがo[に由来するeと押韻する：

aloser / cuer 1105-6

3）押韻の誤りが見られる：

3.1 過去分詞と不定法の混同

3.1.1 aler / oblier 587-88

oblierは過去分詞でなくてはならない。

3.1.2 manger / alosé 905-6

alosé は不定法でなくてはならない

3.2 語形のみの押韻

3.2.1 medicine / devine 575-76

devine は deviner でなくてはならない

3.2.2 Furmente / diversité 958-59

diversite は存在しない。

Femina には138^{v}よりつけ加えられてあるglossaryのほかに，特に発音に対する注意を喚気するため，写本の各葉の最下段，すなわち欄外にいくつかの単語の発音綴りが小筆記体赤字で記されている。ここではglossaryに挙げられていない語，又は語解に発音の記述してある語の異綴であって，特にANの特徴を示しているいくつかを提示しよう。15世紀のANの特徴の一端が窺われるであろう。*Femina*の中の特徴ある字母としては写字生がzとȝ(yogh)とを同綴で扱っていることである。ȝは英文ではȝe＝youとなるがþyȝe wyȝemen(4)と[z]の音も示している。フランス語綴りではlez sagez 4となりsとzは混同されている。oustez 160に対してはouȝtteȝという発音綴りがあらわれる。英文にはþが頻出する[5]。

発音

1）鼻母音[ã]はuの渡り音をもって発音するようにとの注意書きが多い。

*Femina*はどのようにフランス語を美しく話すかという観点から書かれ，どのようにフランス語を読むか，即ち発音するかというところに重点がおかれているようである。Beau enfaunt pur appren-

dre / En franceis devez bien entendre / Coment vous parlerez bealment / E devaunt lez sagez naturalment (1-4) と，この言葉が冒頭である。

linia scripcionis	regula locucionis
corant	coraunt
devant	devaunt cum u
discordant	discordaunt cum u
esperance	esperaunce cum u
france	fraunce cum u
fraunceys	fraunceys cum u
grant	graunt cum u
quaunt	quaunt pro quando cum u
	sine u pro quanto
	quaunt cum u ponitur pro quum
sachant	sachaunt cum u
sanz	saunz cum u
variance	variaunce cum u
valiant	valiaunt cum u 等々。

Orthographia Gallica(H 11) [以下 OG と略す] の記述は quant, grant, sachant などを u なしに書き，読む時は u 音を持つ，ということであるが，15世紀においてもこの音価は AN 語において好まれたと思える。ME にも aun の綴りは借用された。Geoffrey Chaucer, *Canterbury Tales*: *Prologue* にまず異国を訪れる巡礼の話があり，見知らぬ岸辺は straunge strondes と記されている。また，*Famina* に見られる quaunt の但し書きは興味深い。何となれば quando の意味を持つ時，それを quaunt と発音し，quanto の意味を持つ時は u なしに quant と発音するようにと指示するからである。When を意味する場合と how much を意味する場合とをわけて発音させることは，ちょうど chevill を keville と kyvylle (語解参照) に殊更わけ，二種の発音を教えることと同様，AN 語のひとつの特徴である。フランシアンの litiere に対応する言葉として，語解は littiere(straw) lettere (a lyter þat men rydeþ ynne) lyttire(wombe straw) と三者の区別ももうけている。

2) 二重母音 ai を e と発音することはまず T. H. 記述の *Tractatus Orthographiae*(2) [以下 TH と略す] および Coyfurelly の *Ortographie Gallicane*(1) [以下 CO と略す] が教えている。

affaitement	affetement
affaites	afetes
dissafaites	dissafetes
fait	fet または feet
faitez	fetez 等々。

CO(1)はローマ風の言葉を話す人々Romanici は完全な声で a を発音すると記している (Karl Brunner, *Die Englische Sprache* によると romanicum は北フランス語との解釈である)。

Famina では ai を音として ee と記述されているところもあり glossary には raies (sonne bemez) に対し eod modo との指示もある。曖昧なところがあったであろう。

3) OG(T 1)は ie [je] の発音を注意して e の前で i を発音しなくてはならないとしている。CO(7)の記述も同様である。しかし *Famina* では e [ɛ] を第一音節あるいは中間音節にもつ語が ie とはならずに発音は e と指示されている。ie が e と水平化されるのは AN の顕著な特徴であるがこの特徴は15世紀に至るまで保ち続けられた。

biers	bers
cercielez	cercelez
chie	che
chiet	chet
entiers	enters
flatier	flater
pies	pes
tresbien	treben　等々。

例えば maniere は AN で manere (本文 *l.* 490) となり，eschekier は語頭音消失とで chiekier となり，発音は ie の水平化で cheker となった (cf. 語解)。

ie に対しては ee の発音表記もあり ei の表記もある。

bien	been
chier	cheer
meal(miel)	meel
tiel	teel
rien	reen　等々。

CO(7)は言う。Romanici はガリア人と同様に書かず beins, reins, sceins のように書くと。*Famina* にも次の発音表記があらわれる。

bien	beins, beyns
chief	cheyff
derechief	derecheiff
fiert	feit
rien	rein, reyn
sciet	seit
tient	teynt

後期 AN にあたっては強勢音節の e が狭くなり i と発音されることがあった。すなわち vient は vint となるのである。この傾向は英語において15世紀に ē が狭くなった現象と平行する。*Famina* にもいくつの例が挙がっているが *Famina* の書法は AN のこの傾向を証明する最初の例であるかもしれない：

(cf. 語解	avient	avint	Hyt happy)
covient		covint	
devient		devint	
piert		pirt	
ryen		ryin	
viele		vile	

covint は語解にもとり上げられているが covint, devint の発音表記は欄外に幾度も繰返される。(cf. Pope : 30. 2. 4. 0., 28. 2. 0)

4）二重母音 [ɑw] は eu と発音表記され [ew] であったらしい。

beau	bew	
beaux	beus	debet legi beu
biseaux	biseus	
busteaux	buceus	
chiveraux	chivereus	
cordeaux	cordeus	
coteaux	legetur coteus	
(cf. 語解 coteal	cotel	a knyf)
esseux	esseus	

OG(CO49)は ceaux, eaux などの例をあげ，これらの語は a をもって，あるいは a なしに書き得ると記している。ceaux は ceux, eaux は eus である。綴りにも混乱が生じていたと思える。語尾の x は s と発音させていることも特徴。

5）AN では [ø] [jø] が排除された。

deux	deus
Dieu	du non dieu と記されている。
eux	eus
fieu	fu, feu
lieu	leu
(cf. 語解 liew	lw a place)

[ō [ ] に由来する [œ] は-oo 又は-ee と表記された。

beof	beef
boef	boof
oefs	oofs
(cf. 語解 oeff	oof a ay)

6）二重母音 ui [ɥi] は u, ou となるか，i となるか，曖昧なところが見られる。

distrut	ditrut
epougez	epouges
fuist	feut
(cf. 語解 fuist	feijt was)
(cf. 語解 luy	ly hym)

7）on が oun と表記されていることも多い。しかし欄外の発音表記には特に採上げていない。

mustresoun	moutresoun
nounz	nounes
sout	sount cum u

そのほか，chesoun, enfoundres, fusoun, resoum など。

8）動詞1人称複数語尾は on ではなく概ね oms と綴られており発音表記は oumis, ommis である。名詞については oum と表記されている：

avoms	avoumis
dioms	diommis
manguoms	mangoumis
passoms	passoumis
purroms	purrouuns
redirroms	redіroumis
syoms	syoumis
tendoms	tendoumis
usoms	usoumis
veioms	vioumis
vioms	vioumis
chiveroms	chiveroums
pissoms	pisoums

9）硬口蓋音 [ɲ] は AN では [n] であった：

compagnie　　companie　　sine g

(cf. 語解　compaignoun　　companioun)

certeigne	certeyne
respoignez	repoines

(CO5)は言う。「g が語中にあり母音，子音の間におかれるとほとんど n と g の音を持つ」と。そしてガリア人は ng ではなく ngn と書き，このほうがよい。例えば compaingnon の如く，と記すのであるがこれは [ɲ] を意識させる試みであったろうか。agnel に対し AN は anelle, angneau という綴りなどを持つ。

10）ȝ(yogh) が z と混同されて綴られていることは上述のとおりであるが ȝ は s 音の気音化を示すと思える綴りとしても使用されている：

couste	couȝtte
est	eyȝtt（但し eet という発音表記は数多く繰り返されている）
estera	eȝttera
fist	fiȝtth, fiȝth
oustez	ouȝttez
tantost	tauntouȝth

(cf. 語解　tantost　　tantowȝt)

teste	teȝtt, tete

(OG H35) には「s が t に付されると h の音を持つ。例えば est, plest は eght は eght, pleght と発音される」と記されてある。

(CO14)は語の中で単独の s に子音が続く場合は発音しないことを記し，発音する場合もまた詳細に論じている。語中の s の発音は AN では混乱していたかもしれない。発音表記にも estile は etyle, jesque は jeque とある。

11) その他：ANにおいてFrancienの語に対して語韻音消失形が屢あらわれるのであるが，*Femina*にあっては事例は多くはない。esquiers 40に対してsquiersの発音表記が認められるのはやがて語頭音の消失する過程を示しているのであろう。estile 90は英語でstileとなった。ANにまた見られるvとrの間の渡り音eの綴りも尚存在するj'averoie 332, livere 177, levere 172などが見られる。[ō[]>ou>euという発達はANにあってはouの段階でとどまったので，本文にはflour 573, honour 1134などの綴りが英語対訳の綴りflour, honourと共に認められる。

III. 更に音と綴りを明確に示すため，語解（Glossary）より発音Regula locucionisに対応する綴り方Regula scripcionisを採上げ「書法対応表」を作成し，どのような綴りが同じ音をあらわすかを明らかにした。M. K. Pope［前掲，Pと略す］およびJacques Chaurand, *Introduction à la dialectologie française*, Collection Etudes 302, Paris, Bordas 1972［Chと略す］の研究書を参照している。これらの研究書に該当しない事項は*Femina*において指摘する新しい事実である。

書法対応表

I. 母音（locutio : scriptio）

I. 1

（1 : 0）

1. e = 0　(語尾)assel=asselle — blank=blaunche — chatel=chastelle — messier=messiere — use=ops — parel=parele — ratel=rastelle — vanels=vanelles — verol=virole (P 1133, 1135 ; Ch 99)
(渡り音e)verder=verreder — votere=votre (P 1173 ; Ch 69, 99)

（1 : 1）

2. a = e　nager=neger
3. e = i　lettere=lyttire — verol=virole（参照4 ; cf. P 1200）
4. e = y　lettere=lyttiere（参照3 ; cf. P 1200）
5. y = i　dyme=disme — gyth=gist (P 734)
6. u = o　use=ops (P 1220)

（1 : 2）

7. a = aa　bale=baale — dam=daam
8. a = ae　as=aeps (cf. P 1219)
9. e = ai　defetez=defaitez — fere=faire — mefere=mesfaire (P 1157)
10. e = ea　bele=beal — catel=coteal — mesoun=measoun（参照28 ; P 1212）
11. e = ee　bers=beers — counte=countee — deister=deeistier — nes=nees — neet=nest (P 1235)
12. e = ei　neff=neiff（参照14）
13. e = eo　ce=ceo — cest=ceost — je=jeo (cf. P 1213)
14. e = ey　eles=eyles — jammez=jameys（参照12）
15. e = ie　acer=acier — ben=bien — chere=chiere — center=centier — cheker=chiekier — eister=eistier — lettere=littiere — mere=miere — pere=piere — trechere=treschiere — telez=tielx — tenailez=tienailes (P 1154 ; 1155)
16. i = ie　lige=liege — lyttire=littiere (cf. P 1320, vii ; xxxi)
17. o = oo　dos=doos — or=oor
18. u = ou　tut=tout (P 1220)

19. u = ui　　puse=puisse (P 1227)
20. y = uy　　ly=luy (P 1160 ; Ch 83)

(1 : 3)

21. e = aie　　setez=saietez

(2 : 1)

22. ou = o　　tantouȝth=tantost (P 1220)

(2 : 2)

23. ae = ay　　raes=ray (cf. 1219)
24. ae = oe　　naer=noer
25. ay = ai　　amayre=aumaire (P 1223)
26. ai = ei　　naif=neiff (P 1223)
27. ay = ei　　amayre=ameire (P 1223)
28. ee = ea　　beel=beal — leel=leal — meer=mear — nees=nease — leel=leal (参照 10 ; P 1212 ; Ch 96)
29. ee = ia　　cheet=chiat
30. ee = ie　　cheef=chief — cheet=chiet (cf. P 1189)
31. eu = oe　　peut=poet (voir 38 ; cf. P 1229)
32. ou = eu　　onoure=oneure (P 1238)
33. ie = ue　　messier=messuere (P 1142, iii)
34. oa = oe　　moal=moel
35. oo = oa　　mool=moal
36. oo = oe　　mool=moel — oof=oeff
37. ue = oe　　cuer=coer (参照 31 ; P 1156 ; Ch 63)
38. ou = oo　　ous=oos

(2 : 3)

39. ae = aie　　raes=raies
40. eu = eou　　veut=veout (cf. Ch 41)
41. eu = ieu　　deu=dieu/dieux (P 1168)
42. ou = oou　　groule=grooule
43. eu = eau　　beu=beau — ceus=ceaux — oseu=oseaux (P 1162)

I. 2　鼻母音

(2 : 3)

44. in = ien　　avint=avient — covint=covient (参照 51)
45. aun = an　　aidaunt=aidant — avaunt=avant — blaunche=blank — chalaundre=chalandre — chaumpe=campe — demaunde=demande — devaunt=devant — graunt=grant — graunte=grante — maintenaunt=maintenant — taunt=tant — viaunde=viande (P 1152 ; Ch 75)

(3 : 2)

46. oun = on　　Edmound=Esmond (P 1220 ; Ch 78-9)

(3 : 3)

47. aun = aan　　chaun=chaan
48. een = aan　　cheen=chaan
49. aun = ien　　chaun=chien
50. een = ien　　cheen=chien — combeen=combien

51. ein = ien　neint=nient — veint=vient (参照 52 ; Ch 96)
52. eyn = yen　reyn=ryen (参照 52 ; Ch 96)

II. 子音 (scriptio : locutio)

II. 1

(1 : 0)

53. b = 0　soubz=south
54. d = 0　nadgars=nagars (P 1210 ; 3 ; cf. 1175-7)
55. h = 0　trehaut=treaut (P 1237)
56. l = 0　almes=ames — almoigner=amenir — auter=aulter — autere=aulter — doulce=douce — filz=fiz — mult=mut — taulpes=taupes — vault=vaut (P 1163 ; Ch 72)
57. p = 0　corps=cors — aeps=as — draps=draas
58. s = 0　arsevesque=arseveque — ascun=acun — ascune=ascune — chastell=chatel — chescun=checun — coste=cote — counstre=countre — demonstre=demontre — destre=detre — disme=dyme — esglise=eglise — eveske=eveke — estable=etable — escript=ecript — espandre=epandre — espaundre=epaundre — espeandre=epeandre — esperche=eperche — esploiter=eploiter — estre=etre — esteant=eteant — ffinist=finit — forspris=forpris — forsque=forque — mesditz=mediz — mesfaire=mefere — mesque=meque — mesgre=megre — mesdre=medre — nest=neet — prest=prett — prestre=pretre — rastuer=ratuer — rastelle=ratel — treschiere=trechere — tresdoute=tredoute — tresgracious=tregracious — tres honouree=trehonoure — tresnoble=trenoble — tresresonable=treresonalbe — tresreverent=trereverent — tresque=treque — tesmoigne=temoyne — vostre=votre (P 1236)
59. x = 0　dieux=dieu — oseaux=oseu

(1 : 1)

60. b = p　rubie=rupie
61. d = s　Edmound=Esmond (P 1175-7)
62. p = f　trop=trof
63. s = ȝ　est=eyȝth — fist=fiȝht — ouste=ouȝt — tantost=tantouȝth (参照 64 ; P 1216, iv ; 1178)
64. s = j　faist=feijt (参照 63 ; P 1178 ; cf. P 1216, iv)
65. x = s　ambedeux=ambebeus — ceux=ceus — ceaux=ceus — chivaux=chivaus — queux=queus (P 1221)
66. s = z　almez=almes — jameys=jammez — vieiles=veilez (P 1231)
67. x = z　tielx=telez

(1 : 2)

68. m = mm　jameys=jammez
69. n = nn　tenailles/tienailes=tennailes
70. t = th　fist=fiȝth — tantost=tantouȝth
71. t = tt　prest=prett (P 729)
72. z = th　soubz=south

(2 : 1)

73. sc = c　ascies=acies — nasciere=naciere

74. xc = c　　auxci=auci (参照 82)
75. ff = f　　ffinist=finit (P 729 ; 1217, v)
76. gu = g　　guerre=gere (P 1180)
77. ch = k　　blaunche=blank (P 1209, 2)
78. ll = l　　asselle=assel — chastelle=chastel — keville=kevile — kyvylle=kyvyle — rastelle=ratel — ville=vile ; vanelles=vanels (P 729)
79. qu = q　　quant=qant (P 1180)
80. rr = r　　arrable=arable — gere=guerre — verreder=verder
81. xc = s　　fauxcete=fausete
82. tz = z　　fitz=fiz — mesditz=mediz — multfoitz=meutfoiz — salutz=salutz

(2 : 3)

83. st = ȝth　　fist=fiȝst (参照 63 ; P 1216, iv ; 1178)

(3 : 2)

84. cch = ch　　pecchour=pechour
85. sch = ch　　bousche=bouche — eschuere=echuerer — escharner=echarner (参照 86)
86. sch = sh　　peschour=peshour (参照 85)

II. 2　硬口蓋子音

2. 1　*n* (P 696)

(3 : 2)

87. ign = yn　　coigne=coyne — coignier=coyner — cigne=cyne — eigne=eyne — poigne=poyne (P 1230)

(3 : 3)

88. ign = ini　　compaignoun=compainioun

(4 : 2)

89. oign = en　　almoigner=amenir

(4 : 3)

90. eign = ein　　aleigne=aleine
91. eygn = eyn　　boseigne=boseyne
92. oign = oyn　　roigne=royne — tesmoigne=temoyne

2. 2　*l*

(3 : 2)

93. ayly = al　　baylye=bale

(3 : 3)

94. ieil = eil　　vieiles=veilez

(4 : 3)

95. oil = eul　　oilez=eulez

2. 3　*l* の母音化

(2 : 2)

96. ul = eu　　multfoitz=meutfoiz

(3 : 2)

97. eul = eu　　veult=veut

III. その他

(2 : 1)

98. au = a　　aumaire=amayre

99. es = e　　tresexcelent=trexcelent

(2 : 2)

100. er = ir　　almoigner=amenir

(3 : 1)

101. ieu = w　　lieu=lw (cf. P 1142 ; 1214)

(3 : 3)

102. ier = our　　coignier=coynour

(4 : 1)

103. oial = e　　roialme=reme

(4 : 2)

104. ms = mmis　　aloms=alommis

Anglo-Normanism

— 1 —(vowels) 1, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10, 13, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 26, 27, 28, 29, 31, 32, 33, 34, 38, 41, 42, 44, 46, 47, 52

— 2 —(consonants) 53, 55, 56, 57, 59, 62, 64, 65, 67, 72, 76, 77, 78, 79, 80, 84, 88, 101

Englishism (Pope, Chaurand に言及されていない)

— 1 —(vowels)

7(a=aa), 23(u=eou), 25(ae=oe, 〈noier〉 *nwejer* と *noer*), 29(ee=ia), 34(oa=oe), 35(oo=oa), 36(oo=oe), 38(ou=oo), 24(ae=aie), 40(eu=eou), 42(ou=oou, 〈ou〉と〈u〉の, interchangeability による), 45(in=ien, *i* に強勢をおく習慣による), 47(aun=aan), 50(een=ien), 92(oign=oyn)

— 2 —(consonants)

53(b=0), 57(p=0), 60(b=p), 62(p=f), 67(x=z), 68(m=mm), 69(n=nn), 70(t=th), 72(z=th), 73(sc=c), 74(xc=c), 80(rr=r), 81(xc=s), 84(cch=ch), 85(sch=ch), 86(sch=sh), 101(w=ieu)

注

1. M. R. James, *The Western Maunscripts in the Library of Trinity College, Cambridge : A Descriptive Catalogue* vol. 1. B. 14. 39-40 Cambridge University Press 1900, pp. 438-449.
2. F. J. Furnivall ed. *The Minor Poems of the Vernon MS* part II. EETS Os. 117, 1900-1901 pp. 522-609.
3. E. J. Arnold, "Les sources de Femina nova", *Studies in French Language and Medieval Literature presented to Professor Mildred K. Pope*, New York, 1939, rpt. 1969 pp. 1-9.
4. A. Chr. Thorn ed. *Proverbes de bon enseignement*, Lund, 1921 (cf. Arnold p. 7)
5. W. A. Wright ed. *Femina, now first printed from a unique MS in The Library of Trinity College Cambridge*, Cambridge University Press, 1909.

Wright の edition は ȝ(yogh) と z とを区別せずに転写した。この ȝ 文字は Wright の edition の中で時には z を意味し, 時には気音化した s を示し, また時には英字の y を示すので混乱が起こり得る。筆者は MS B. 40 と MS Gg 1. 1. とを照合しながら Wright の ȝ を修正した。

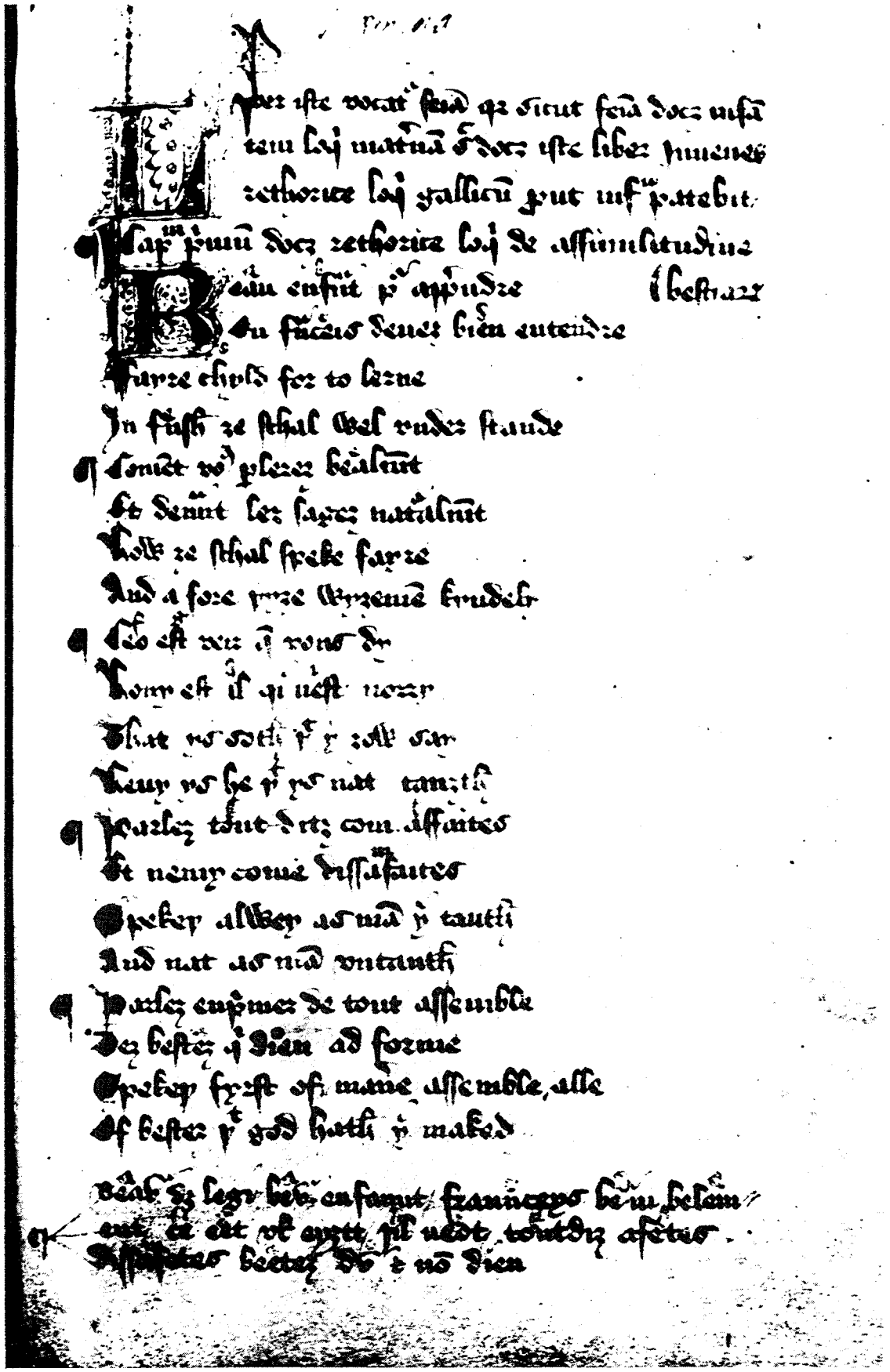
Femina

Cambridge Trinity College

MS B. 14-40

ff. 88^{r}-146^{v}

88r



Per iste vocat' feia qz sicut feia docz infa
tem loq matrna s docz iste liber Juuenes
rethorice loq gallicu put inf patebit.
Cap primu docz rethorice loq de assimilitudine
Beau enfant p appndre (bestiarz
En francois deuez bien entendre
Fayre child for to lerne
In frnsh ze schal wel vnder stande
Comet vo plerez bealmt
Et deuant lez sagez natralmt
Holl ze schal speke fayre
And a fore pyze wyzeme kyndely
Ceo est veiz q vous dy
Hony est il qi nest norry
That ys soth p y zoll say
Heuy ys he p ys nat tanzth
Parlez tout ditz com affaites
Et nemy come dissafaites
Speker alwey as ma y tanth
And nat as ma vntanth
Parlez enpmer de tout assemble
Dez bestez q dien ad forme
Speker fyrst of mane assemble alle
Of bester p god hath y maked

Beau dz legi bes enfant franceys be m belem
ent ce eet vk eyzt pl uedt toutdiz afetes
Dissafetes beetez dz t no dien

88v

¶ Et dez oseaux ensement
Parler doyt home natalment
And of bryddys also
Speke schal a man kyndely
¶ Vbi autem iste litere rubee super scribuntur semper pronosticant quomodo id verbum pronunciatur quia multociens gallicum uno modo scribitur et alio pronunciatur ut sic beb debz scribi beau enfant dz scribi enfant sine .v. Ideoque semper scrutate vbi dicte littere sunt scripte .s. rubie littere et eas quere in hoc margino huius libri te docent qualiter dicta verba le

¶ Primez ou cruez sont asemble
Vn herde donque est appelle
Fyrst when hertez bey assembled
And herde panne hyzt ys appeled
¶ Dez grues ensy vn herde
Et dez gruez sanz .h. erde
Of crues also an herde
And of feldfares wt oute .h. erde
¶ Nye dez fesauntez coueye dez perdryz
Dame dez alowez trippe dez bbyz
A nye of fesauntes a coueye of perdryz
A dame of larkes a trippe of chep
¶ Sounder dez porks et estruyz
Deueye dez heronez et pipe de oseaux

Oseaux sount cum .s. ait pors estruyz

A sondre of hogges & of stares
A deneye of herones a pipe of bryddys
¶ Gyle dez geleynez turbe dez cercieles
Lure de ffaukones & puselez
A gyle of hennes a turbe of teles
A lure of ffaukones & damezelez
¶ Eschele dit home en batayle
Fusoun dit home de vyf amayle
An ost seyy amā in batayle
Fusoun seyy mā of quyk bestayle
¶ Haraz dit home dez poleynez
Folye dit home dez vileynez
Haras seyy mā of coltys
Foleye seyy mā of chorlys
¶ Sūme du ble sūme du bieuez
Mace dargent fume dez fuez
Sūme of corn of sūme gond
Mas of seluer fume of fier
¶ Mut dez chieus en venerie
Et de corner apres vous die
A mut of houndez in venerie
And after to blowe y shal say
¶ Mut dez chieus vous dirrez
Et vint raccheez ensemble couplez delyez deux
Cercelez eschele chem sm parisiū chan apres vous deus

89v

A mut of houndes ze shul say
xviij racches ÿ coupled to gedere
¶ Vn lese dez leuers est nome
Quint tres en lese sount ensemble
A lese of ghoundes ys ÿ named
When iij en lese bey to gedere
¶ Et vn bras est dez leuers
Quint deux en lese sount entiers
And a bras of ghoundes ys
When ij en lese bey to gedere
¶ Brut dez barones doit home nomer
Ffrp dez clerkes & dit deuer
A brut of barones shal man name
A ffrp of clerkes wt ryzt deuere
¶ A ray dit home dez chiuals
Route dit home dez esquiers
A ray seyy man of knyzttys
A route seyy man of squiers
¶ Dez rebandez ensy vn route
Et dez beofs ensy sauz doute
Of rebandes also a route
And of oven also wt oute doute
¶ Et de vn chose bn vous garder
An pte senestre leuers meuer

Et deux entres clers equiers oÿ squiers qz fert
scutum beef sauz cum v senestre

And of o pyng take ze hede
On pe left half gehonder ledez
¶ Compaignie dez damez dirres
Et dez owes ensy ferres
A cōpanye of ladies ze schal say
And of gees also ze schal do
¶ Car vn fuceys tenēt de dit
Le maist baudemēt lettrit
For on frensch pey holder of Ryzth
pe maist baldely holder pto
¶ Si vous volez pfitemēt
Parler dent bon gent
Zyf ze wyller pfytely
Speke a fore goud folke
¶ Il y ad suffler vent ⁊ corner
Dont la resoū fait asauer
Me blower in iij manres .i. corner
When of pe resoū ys to wyte
¶ Le fieu suffle le quystrū .i. sufflet ppe vent
Le vent vente p my le busson suffler
pe fyer blower pe quystrū corner
pe wynd blower poru pe bussh
¶ Mez le venour ppmēt corneie
Quant chas prent pa quer pye

compaignie sme g. franceys cū v. met babde
mēt vos dernt cū v. feet fu quystrū quant cū
v. scrpt .i. quādo sme .v. vt sic quant point p quato

90v

But pe hūtes ꝓply corney i. blowey
Chaume chas he taket for to seche pye
A nom appellūt secdm eoꝝ voces
¶ O ve oyez natalmt
Dez bestez le diuersemt
Nolk herey kyndely
Of bestez de diuersite
¶ Chestun de eux & chestune
Solonq q sa nate done
Euy of hem he & sche i. maul & femaul
Aft pt har nate zeuyp
¶ Home p le ours bye
Ai de mesure ceo affye
Man speker bei byer
pt out of mesure hyt affrayer
¶ Hon romyt gue gule
Sache muche & courdi gule
Hon romyp cn gulyp
Rolk lowey hasyl blowey
¶ Chyual huist allowe chaunt
Colui jerist & cok chaunt
Hors neyer larke syngey
Colui jurrut & cok syngey
¶ Cheat minoie spent cifflie
Betez chacun eus ce huit jerit chat

Asyne retyne cigne retiflie
Bat mekker adkey cissit or fliet ppe
Asse ruger swan reflier
¶ Lowe & le chien baye
Quant le venor quert sa pye
Pe fox & pe hound bayer
Whane pe hunte secher hys pye
¶ Owne jangle sais jaroyle
Mez il ad garoyle & jaroyle
Goos jangler gandre galler
But me hay garoyle & jaroyle
¶ La differnce dis ieo voyle
Lane jaroyle en la ryn
Pe difference telle y wyl
Pe doke quekey in pe ryuer
¶ Quant le ffaukon volant ly quere
Mez deuit vne ville en gere
Whane pe ffaukon fleynge hys secher
But a fore a towen in werre
¶ Home fiche son baner en terre
Pur le barbycan defendey
A man stikyr hys baner in grunde
For pe barbycan to defende
¶ De le sault q home voint rendre

Codm pisiu ayne chaan cm pisiu quant [illegible]
cu. 6. ponit p quando ie [illegible] [illegible] [illegible]

91v

Ore a le noyse redirronis
Of ye saut yt mi wole zelde
Now to ye noyse say we a zen
¶ On plus aprendre y prronis
Cpande coile reigne gayle
When more lne we mowe
Fogge cowkey tadde pipyi
¶ Conlur ppremt regayle
Porcell gerist sengler relere
Snake pply swyey
Pig wrenney boor bowey
¶ Cheuei gerist tuere torrayle
True gundille quunt dge qrt
Tyche bletuy bole lelwey
The sowe gnekey when sche dif sechey
¶ Fauton tissel le plumlon fert
Gelme natralmt patille
Fauton tissel ye mallayd smytyy
The hen kendely kaklyy
¶ Quunt ponme en gardyn on en ville
Car en funce est tiel estile
Whe sche leyi in gardyn or towne
For in funce ys swyche a stile
¶ Re gelyne hupe ruke & patille

Sebt redirrovins prrovinis gerit toor patile ville
vile leget teel etyle patile

92r

Et q̄ tp̄ se auūte oultr̄ resoñ
p̄t hen clokker rekler & kakler
And he p̄t to moche auantyr hy̅ boue resoñ
¶ Ala gelyne dra compaignoñ
Car plus se auūte p̄ vn oeff
To pe hen he schal be selawe
For more sche auūter for on ey
¶ Ce p̄ sa arme fait le boef
Et q̄unt le gelyne comencea ruffille
Drawe for hys erynge doth pe oxe
And whanne p̄ ha takyr to ruffill
¶ Et monstre ceo a trepeler
Dez oefs luy donez le g̅mores
And schewer p̄t sche wyl syrtte a brod
Of eyren zyue hyr p̄ stn
¶ Noñ p̄ quer sont estgules
Barbyz baley dame balee
But uat p̄ p̄t bey adle
Schep bletur ladyes hoppyr
¶ Et le espic p̄ut sez mers de bale
Pur tp̄ vey lez hōme baale
The spic takey hys mers out of hys bale
For onmuche waak man gou p̄ baale
¶ A soñ suant sa chose bayle

trof s̄m quosd̄ oūte compaynoñ oof feet boof
mobtr̄ te trepiler oofs quens etgulez epyser

92v

Et one baleye home baleye
To hys ouat bys pyng he takep
And wt baleys me swopyp
¶ Regardez q la sale soit mucheie
Apres dormer home esprche
Tak hede pt pe halle be ryssheet
Aft slepp ma rakslet
¶ Le preste en la glyse preche
Le pischeor en la ryu peche
pe prest in pe chyrch prchep
pe fysser in pe ryu fyssep
¶ One sou rey on sou eche
Quant la poure femme mene le cresch
Wyp hys nett op wt hys hook
pe poure woma ledyp pe daunce
¶ Mele croyt en mayn le besche
Car ele nad a vme forps le besche
Bet schold be in hand a spade
For she nap to lyue by but hyr spade
¶ Pe payn frer bribe on lesche
Mon chael le baele lesche
For bred to gete loof op lasse
Myp welp pe pane lyckep
¶ Ore donez ceo chaele aflatier
Apres esprche pecy pichour beche leche chael flater

Ne lesche la rose del herber
Nous zyf pt welp lape
pt lycker pe rose of pe herber
¶ Et il est flatour qi soit flat
Et lez gentz qi voet espulip
And he ys a flatour pt can flate
And ys folk pt wyle by gyle
Hoc capitulum docz de proprietatibz infant
¶ Quant enfant est primer neez
Coment qil soit malloeez
When a chyld ys fyrst y bare
Hit be houyp pt hyt be swadyd
¶ Puis en son biers ly cochez
Et becere luy pueiez
Aft in hys cradel hy leyp
And a rokkestei hy pneyp
¶ Quant enfant comte a chatoner
Et eniz qil sache as pies aler
When a child by gynnep to crepe
And ei he conne on feet go
¶ Et il bane de sa nate
Pur sez dps saner de baneni
And he dueley of hys nate
For hys clopys to sane fm duelyng
Leche eet gens vedt epulip enfant cu v
ne coment malde bers pes dd

93v

¶ Ditez donqz a sa bcez
Gele face vn bon banere
Sey ze pinne to hys rokkestere
Pt sche make a gond dñelyng clowt
¶ Et puis qunt il comce daler
Et volunts luy mesmes voet enpalu
And aft when he by gynyp to go
And gladly wyle hy self by slobbe
¶ Pa mal maym ⁊ male blesure
Faitez vn gars luy garder sure
For enyl maym ⁊ enyl hurte
Make a boy hym kepe sure
¶ Si qil ne ceppe ne chie ceo
Mez garduz en suerte
So pt he stomble nat ne fall
But kept in suerte
¶ Et qunt il court en grunt age
Gettez ly appndre langage
And when he renney in gt age
Put hy to lne langage
¶ En funces a luy vo denez dyd
Come primez il doit son corps disce
In fusch to hy ze schal say
How fyrst he shal hys body distue

memez vebt fetes lyche ce qunt p qndo cu v
sine d p qnto funceys vob corps disce dece
¶ leget

¶ Et p̄ ordre garder de mon̄ & ma
Ton̄ & ta son̄ & sa .i. masculino & feio
And for ord̄ to kepe of mā & ma
Ton̄ & ta son̄ & sa for ma sounep
¶ Ama ma sonat feio mon̄ masculino
To femynyn gendre & mon̄ to masclyn
¶ Cy q̄ en p̄ le soit bn̄ apris
Et de nule homme estharnis
So p̄t in speche he be wel lerned
And of no mā ȳ storned
Capitulum de p̄tibz capitis
¶ Di ma teste on̄ mon̄ chief
Et la g̃ue de mon̄ chief
I say myn̄ heued & myn̄ heued
And p̄e shode of myn̄ heued
¶ Featez la g̃ue a ton̄ leuer
Et mangez la g̃ue a ton̄ dyn̄
Make p̄e shode at pyn̄ vpprist .i. in capite
And ete p̄e feldfar at pyn̄ dyn̄
¶ Jay lez cheuens recreelez
Mon̄ toop vo⁹ p̄e q̄ estouentez
I haue pyze oppse lokkys
Wy toop y pye p̄t ze shei
¶ En vre chief vo⁹ auez toop
etharnys teztte cheef vo⁹ etouencez cheef

94v



En la Ryme getez vn toup
In zo heued ze hauyp a top
In pe trouzgh caste pe toup
¶ Et serencez de lyn le top
De la lute prnez le tup
And hechelep of flex pe top
Of pe Weune takep pe tup
¶ Jay auxci mon hanapel
Mon front ensy & mon cruel
I haue also myn byn parme
Myn forhed also & myn byn
¶ Mon hatel one lez templez
Et lez ministres dit home teplez
Myn pol Wt pyse templez
And pyse ministres seyp ma teplez
¶ Vre regard est gracious
Mays vre eul est chacious
Zoure by holdynge ys gracious
But zo eyze ys spaduous
¶ Del eul oustez le chatie
Et dez neeaz auxci la Rupye
Of pe eye caste out pe spaduynge
And of pe nose also pe droppynge
¶ Mult vault la rubye escript p. B.
auxcy cu si ministres ouzttez neez vabt ecp

Mez poy vaulx il estrept p. p.
Much ys worth pe rubye y wryte by B.
But lytyl ys worth he y wryte by p.
¶ Ewe est rupye issant de veas
Mez rubye est pcio9 piers
Bat ys rupye goynge fin nosez
But rubie ys a pcio9 scon
¶ Del eul est tout saf le pnel
Si la papir soit bon & beal
Of pe eye ys al saff pe appyl
Zyf pe eye led be goud & fayre
¶ En lez papires sont lez cielez
Amont lez eulez sont lez scieles
In pyse eye ledes bep pe heres
A bone pe eyez bep pe browys
¶ Anci avez vos p bone reson
Deux narrys & un tendn
Also have ze by goud reson
ij nostrels & a gstlon
¶ Vos avez la lyre & le leue
Le lyue ensy & le luyer
Ze havep la lyr & le leue balance & pe hair
pe book also & pe lyppe
¶ Le luyr est q enclose lez dentez
ecp nees beel cylez scilez aucy cu si deus deuz

95v

16

Le leuer en boys soy tient de deuiz
Pe lyppe ys pt encloser pe ter
Pe hare in bassh hy holdyp wt ynne
¶ La lyr crit en marchaundyze
Le liure noz pnt al clergize
Pe balunce sruep in marchaundyze
Pe boke vs techep to clergyze
¶ En le bousche a mont est pallet
Pa tast vo chosez orde on nett
In pe monp on heyzgh ys pe palet
To taste zo pynges foule op clene
¶ Et lez damez sont ententiuez
Pa byen lauer lo genoins
And pyse ladyes bep ful besy
For wel to wassh hair knowes
¶ Cest la chesou pa creteigne
Pa auer le melo a leyne
Pe ys pe resou for creteyne
For to haue pe bette brethe
¶ Ele ad col gorge et mentou
Dont le funceys est comou
Sche hauyp necke gorge et chyn
When of pe frensh ys comyn
¶ De soubz la longe ys pe est furchele
tenut bouche creteyne funceys cu v south

Dos furche en fünce lem apele
Vnder ye tonge ys ye furche
Boon furchey in fünce me clepey
¶ De deuz le gorge est gargate
Et plus p founde la gist le rate
Ye ynne ye prote ys ye gargule
And more dezpei so lyp ye ryngbon
De anteriori pte capit
¶ En chief dent est fonteyne
Le soubtheyne luyre & souerne
In ye hened a fore ys a pnte
Ye nyp lyppe & ye ouer
¶ En le bousche sont meffallo
Et donq foremes oi tu les qre
In ye monp leth wrong teth
And pe ye fore tey zyf ye he sebyst
¶ A col xvi anez vn fosslet
De south la lange est le filet
At ye nekke zoes hauyp a lytyl hol
Vnder ye tonge ys ye fylet
¶ Et p cetesie la pole
Conust deuez le kakenole
And for to cetesie ye speche
Knows ze schal ye tem of ye byn
eet gtt denaunt cu v southene liue meffallo
¶ conuti

96v 18

¶ Et de south le oraple auez gnon
A lez espaulez auez blason
And vnder pe ere ze hauyp heer
At pe schulders ze haue a schulderbon
¶ De soub le chart gist le essel
De soub le bo auez hussel
Vnder pe carte lyp pe zeyp tre
Vnder pe arme ze haue a putte
¶ Le char chinage en le chare
Dont lez homes font lo eschar
pe fleyssh ryder ne pe char
Whof me makep har skoryn
¶ Sur le montayn cust le broyl
En bas tyr est tout foitz bon soil
Vppon pe hulle gewep pe myst
In lok lond ys alway goud soyl
¶ Entre pledous moue le toyl
Le vent de bys gue le oyl
By twyn pledous ys meued stif
pe wynd of pe eest gueep pe eye
¶ 8 A pres gele vient remoyl
A pres august chiet le foyl
Aft august fallep pe leff
Aft cffst comep pawe
epaulez south gitt ecar crut tep eet ap aust
chet venit

¶ Cestez parolez icy ieo coil
Qest le chesoun vous dis ieo voyl
Swyth speches hei y gadei
What ys pe chesoun zow y wyl say
¶ Pe mutz a corder en par launce
Et discorder en variance
For muche to a corde in spekynge
And to discorde in varyynge
Adhuc de corpe
¶ Il nest pe mist a distre
Le fumceys q chestun stiet die
Hyt ys non nede to distre
Pe freush pt euy mad ca say
¶ De vent de dos ne de chyue
Dez espaulez bras ne petrine
Of wombe rugge ne chyue
Of shuldres armez ne brestbon
¶ Mez ieo face le mustrsoun
De chose nest pe cy comun
But y make pe swewynge
Of pyng pt ys nat so comune
¶ Dez espaulez issint lez bras
Contes ne mayns ne lessom [illegible]
Out of pyze shulds goth pyse [illegible]
[illegible] ie muz variance [illegible]
espaulez montsoun

97v

Elbowes ne handez leue we nouth
¶ Jeo oytounq̄ com̄t il tonne
Dont la cruise piert en tonne
Jhurd doudes how he denede
Whe of pe ale pshede en tonne
¶ Mez pa estre en tout cteigne
Vo die de la cowe du mayne
But for to be in al ctayn
Zow y say of pe wrest of pe hand
¶ La pavme de deniz le chaie de hors
Et la poyn est la mayn cloos
Pe pavme vyr ynne pe clouth wt oute
And pe fust ys pe hand cloos
¶ Et le fel fert le poignon
A tuns son cōpaignon
And pe galle beryr pe longhe
To tuns hys felawe
¶ Et vne poine qauez en mayn
Ceo est la mayn tstout pleyn
And ou handful pt ze hauyr in hande
Pt ys pe hand ryzth ful
¶ Et ambedeux les mayns plenis
En [illegible] apelle galeyns
And [illegible] handes fulle
[illegible] poynon tstout ābedens

In fusch men clepep galeynes
¶ Mez plius vault vne pet poigne
De Cyngefe bn tre
Vnt more ys worth a lytyl handful
Of Cyngefe wel y tred
¶ Ne sont lez galeyns
De filamures toutez plenies
Pen beth a hundred galeynes
Of gossomer al fulle
¶ Vne cost del vn costee
Auoit adam p dieny ouste
A keb of a syd
Hath Adam by god vttake
¶ Quant dame Eue primez fist
Ne porta charge hen qil gist
When dame Eue fyrst he made
Hyt bare no charge in place pe hyt lay
¶ En my lyen del ventre est vmbil
Et p de south est le penil
In mydde place of pe wombe ys pe nauyl
And by vnder pe ys pe share
¶ Quisez & nagez oue le ffurche
Font gut ese pe chen a chuy
Thies & buttokkes forth wt twyste
Vabt peti den owztte quant fyrth len gut

98v 22

Doth get eze for Rydynge
¶ Jambez ⁊ jenoylez conusez
Nest mist q̄ a vo⁹ soiet cochez
Shankes ⁊ knowes ze shal knowe
Hyt ys no mist p̄t to zow pey be touched
¶ Mez en jambe vo⁹ auez lassuy
Et tanqz byn est ensuy
But in leggis ze haue sparluy
And as byn hyt ys p̄ vppon
¶ De mello fors home ce assuy
Et si le cauel soit sauz bleso
Of bet strengthe men hy assuyep
And zyf p̄e shynbon be wt out hurt
¶ Et lez garteres vo⁹ auez auyci
Pa cele apse ieo vo⁹ di
And pyze gartes ze hauyp also
For sweyche a lernynge p̄ zow say
¶ De celuy home du gartes
Si vient lusage dez gartes
Of pylbe me of p̄e gartes
So com p̄e vsage of p̄e gartes
¶ Auci auez vo⁹ lez kenilles
Mez uentendez p̄ knulles
Also ze hauyp pyse aukuees
Neent vob eet ie vient kenilles

99 23 99r

But vnderstādt nat tēn pynnes
¶ Reuille fait hōme ferme estier
Et la kuille fait le charpūt
Ankne makep mā faste stande
And pe tēn pyn makep pe carpēt
¶ Plante ad hōme vrtil & talon
Dont le fūnces est comoū
Sole hap mā too & hele
When of pe fūsh ys comyn
¶ De deniz le corps d ad chestim hōme
Coer fay & poignonē
Ut ynne pe body hap eny mā
Rte lyūe & longhen
¶ Splen bowel & reynonē
Stomak veyne nerf enbyronē
Mylthe parme & kydeney
Stomake veyne oynnes al a boute
¶ Et ne olliez pr nōn vessie
Ke al vente fait gūt aie
And for zyttep nat pe vessie .i. a bladdep
Pt to pe wombe dop get help
¶ Pmis q la vryne est aqlon
Ne lez reynez ne obliom
Aft pt pe vryne ys y gadred
Fait eyshtyn corps checun feet

99v 24

Ne pe reynes for zete ze nouzth
¶ Ore ne fault rien mez fel p nou
De deynz le corps q ad home
Nous faylep nouzth but pe galle by name
Wt ynne pe body pt hap aman
De vestura infantis ca.m
¶ Vestez vous one voz dpos pet enfant
Chancez voz bien petitez et gentz
Clope zous wt j zo clopys lytyl chyld
Dop on zo breche hosyn et shon
¶ Mettez le chapon couez le chief
Tachez vous botonez des chief
Put on pe hoth kouere pe hed
Tache zo botnes fm on ende to op
¶ One vne corsye vous seintez
A vous ne di ne ceyntes
Wt a gyrdyl gyrde zous
To zous y say nat wexe wt chyld
¶ A cause q feme est p home en ceynte
Et one vne seinte ele seinte
By cause pt wonia ys by ma wt chyld
And wt a ceynte she ys y gurd
¶ De la seinte le pendant
Passe p my le mordant
Faut [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

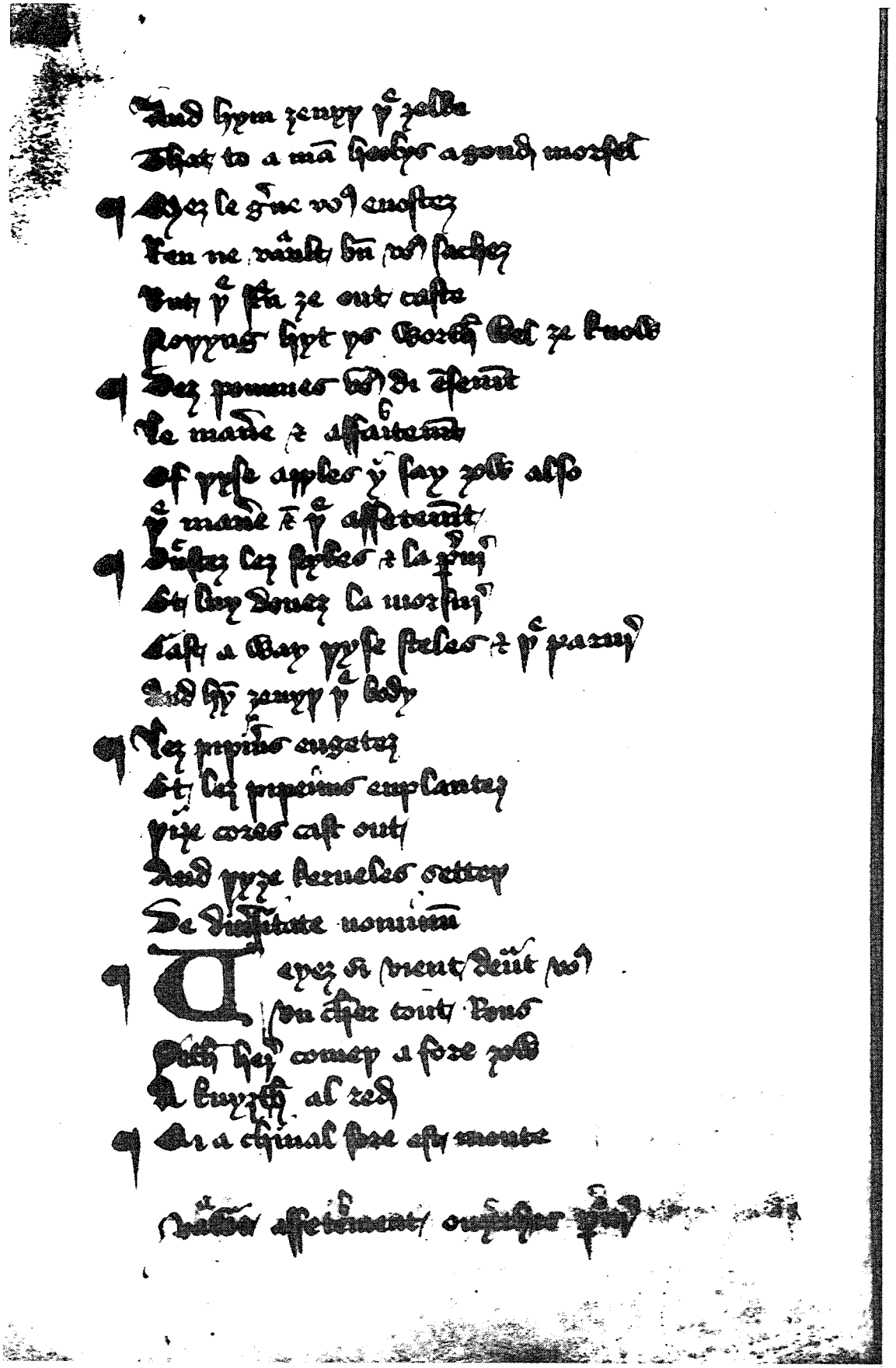
100r

2

Of re seynte de pendūt
Passer porn pe mordūt
¶ Ensy doyt le mordūt ⁊ le hardylon
Passer p tru le subilon
Also shal pe mordūt ⁊ pe tonge
Passe porn pe hool ⁊ al
¶ Si jeōne enfūt tien la mayn
Primer al matyn vers la payn
Zyf a zong chyld holdyr hys hand
Fyrst on morn toward breed
¶ Une brybe donqz luy donez
On vne lesshe oī pluis nauez
On lesshe prime hy zeuyr
Opr a shene zyf ze no more haue
¶ Mez sy vous luy donez dez ouefs
Ousy lez atiers a son oeps
Vnt zyf ze zene hy of egges
Also hem atir to hys vse
¶ Oustez le chale eynz qil hume
Le tru ⁊ la albume
Cast a way pe shulle qi he neme hyt
Pe reme also ⁊ pe wyte
¶ Et luy denez le moel
Ay a home seyn est bon morsel

[illegible] ouzethes [illegible] mool.

100v



Estime de goulez il porte
Pt on an hors red ys y styze
A shelle of red goulez he berny
¶ Vn launce rouge en lune mayn
De vyn vermoyl cou bouche est plein
A launce red in on hand
Of wyn red hys mouth ys ful
¶ Et ne mag de peson
Mez haryng cooe q ad non
And he etep no ffyssh
But heryng red by name
De eodem
¶ Ieo veie vne roigne sanz roy
Pr vne reyne fayd gnt affy
Sawe a quene wyp oute kyng
For a tadde made gret affy
¶ Et en my la realme la roy
Est vn yyom fait pr vn rei
And in myddys pe reme of pe kyng
Ys a fore y mad for a nett
Hoc capitulum docz de proprietatibz campi
¶ Ore alomis as pres e champs
Pa norier nre enfamitez
Now go we to mede and feld

Cou bouche ie fey reme feet alomis chamis
enfumitez cu v

101v

For to norsche ouer chyldryn
¶ Vne fanax fanche vn ambinge de pe
De fancyl est garbe & janel ancy
A syde mower a swad of pe mede
Of swad ys sheff & shosse al so
¶ Voz janelez en garber liez
En tresseanx voz garbez mettez
Zouer shossez in shessez byndyr
In tressez zo shessez putter
¶ Vn varrot de pois sins arechez
Et lez feues en warrot liez
A waze of pesyn vppon recheit
And pyse beins in wazes byndyr
¶ Mez il nad myster q vos dioms
De toter maneres dez blez le nouuz
But hyt ys noon ned pt ze say
Of al mane cornes pe names
¶ Del sigle dorge ne fument
Ne commus sont a tout gent
Of rye bey ne whete
pt commune beth to al folk
¶ Mez daulter se maile q crest
Ai cotiuers mult displet
But of oper seyth pt gower

[illegible] tressens dioumins nobnes daunt et mut
displet

pt tiliers much displesyp
¶ Reueray il est & le betoyl
Le haysoun anxcy & le noeil
Dgge hyt wexyp & deruell
pe wyld facche also & pe kokyl
¶ Le blauole & le mauls anxci
Charoyle & autrs q ne vous di
pe blewed also & le hocke
Charlok & opr pt ne zouls say
¶ Mar trop iauoie ore a fayr
De totez semailez vous dusse trhaer
For ou muche y shold hane a do
Of alle sedys zouls to say
¶ Mez quant temps est karier
Bonez chartes faitez charger
But whime tyme ys to karye
Goude cartys dop chge
¶ Le charit ad sa riorte
Mez charuers le anguillon porte
pe cartes hap hys whyppe
But pe plowmen pe gode bernd
¶ Et le chart coment qil porte
One luy toutfoitez sa ryorte
pe cartes be houyp pt he bes

auoy noil fes teus fetez cobiut [illegible]

102v



Hyp hym al way hys whyppe
¶ Dont il ad dobbe entedemt
Ne tout gent ne sauent ment
When of me hath double vnderstadyng
Pt alle folk knowe nouzth
¶ En la gunge voz blez mowez
De hors la gunge voz blez tassez
In pe gunge zoe cornes mowep
Wyp oute pe gunge zo cornes tassep
¶ Car vn mow est dit en gunge
Et vn tasse de hors la gunge
For a mowe ys seyd in gunge
And a tas wt oute gunge
¶ En gung gardez vos de harert
Es champs vre blez dautre best
In bne kepe zow fin pys eilez
In feld zou corn fin op best
¶ En sale chauntez lez gestez
Pa obliez lez gnez molestez
In halle ze shulle synge pyse gestez
To for zete pyse gnous hurtes
¶ Mez si vos prez gentz a vos festes
Pez ceux q sont en enquestez
But zyf ze pye folk to zo fest

[illegible] chaunz betez getez molestez gens
[illegible] cens enquestez

31 103r

Pray hem pt ben in enquest
¶ Pour lour malice q̄ sont si prestez
For hair malice pt ben so redy
De arte pistoris
¶ Quant vre ble est bn̄ batu
Puis vente et bn̄ molu
When zo korn ys wel y presse
After y wynwyd et wel y gunde
¶ Par le moulier deuient farin
Et donq pain prochem matyn
By pe gudynge comep mele
And pen bred nyxzt on morwe
¶ Auncy de gyn deuient flour
Par le bolenge del pistour
Also of corn comep flour
By pe bntynge of pe bakeir
¶ Et par la bolenger est seue
La flour et furfir qest si clei
And by pe bunte ys deceuet
Pe flour and bn̄ pt ys so clei
¶ As voz chinalez lez fourfre donez
Et one ewe teen le flour medlez
To zo hors pe bn̄ zenyp
And wyp wat warm pe flour medlep

Pres debuit prochem auncy pitour qeet

103v 32

¶ Et vre past ensy pesterez
One vne rastuer vre auge mundez
And zo past also kued hyt
Et a dowryb zo trowe make clene
¶ Mez il y ad rastuer et rastel
Le souent de dins myster
But me hap a ryb et a rake
Pt souen of dins myster
¶ Le pistor tient le rastel
Mez rastuer faut le auge beal
Pe bakers holdyp pe ouen rake
But pe ryb makep pe throwe clene
¶ Chaufez le four one fugers
Sy vous faulx boue lytre
Hettyp ouyn wyp spayes
Zyf zowe faylep goud strawe
¶ Lytre et liette sont dins
Distordant dionnt lez clerkes
Lytre et liette sont dins
Distordant seyp pyse clerkys
¶ Le faulto litte litte fanche
Pe eze en litte home chiuanche
Pe mowers stowe mowep
For eze en litte men rydyp

Rastuer yl rastel tenit fet beel faut clers
faulter

104r

¶ Mez ceo est litte sauz fayle
Qeu doulce ffrance home dit payle
But pt ys litte Cyp oute fayle
pt in doute frnce ma clept Combechaf
¶ Paile et pale sont dnis
Quant de gn sont seuez
Chaf et smal chaf bep dnis
Whanne of gyn pey bep seuerd
¶ Et si pile ne est pas
Peruez donqz le pefas
And zyf straws ne be nouch
Takep pnne pis straws
¶ Et quant le four est chaufe
Qe pele soit le past entre
And whenne pe ouen ys hoot
Et pe peyle be pe past y put yn
¶ Quant vre past est mys en four
Et le pisto put soyour
Whanne zo paste ys put in ouen
And pe bakes takep reste
¶ En demtis le mesure
Ne sra trop pt nouch alns
Rechelys out of mesurs
Lat nat hyt be to muche y bake

. douce mys

104v 34

Pena seianda

¶ Oie alez a semi vre lynois
Et ne obliez pr vre chanes
Nous gop to sowe zo flex
And forzete nouzt zous hemp
¶ Car de lynois vous avez les busteaux
Et de chueaus les cordeaux
For of flex ze haue pyze hoppes
And of hemp pyze cordes
¶ Vre lyn en temps sarchez
Et puis en temps sustyez
Zous flex in tyme wedyp
And aft tyme dwe hyt vpp
¶ Et douez en vne putte reheitez
Et puis al solayl le secchez
And punne in a putte reke hyt
And aft on pe sonne dyye hyt
¶ Et puis abatis vous forcez
Et oue ceo en yvne vous eschaufez
And aft to bete hyt ze forsep
And wt pt in wynt ze hetup
¶ Pour tout sauer mult seroit beal
Se sir vous coment al pissel
For al to knowe muche hyt wes fayr

Vous buscus cordeus tens sutyez ce eschaufez
mult cobint

35 105r

Ley hyt by honyy to pe swynglingstok
¶ Por byen estucher le lyn
Kar autrement vert ia fyn
For wel to swyngle zonz flex
For ell shal be pe noon ende
¶ Et quant al pessel ad son deu
Donqz vres a rastuer
And whenne atte swynglyngstok hyt hay
Pnne ze shulle go to rybbe Chys deute
¶ Et puis tantost serencez
Et puis vn knole vous pnez
And aft a nou pyzt to ecchele
And aft a dystaf ze pneyyp
¶ Et ordeynes vous vn fuson
Ki al art auer duissom
And ordeyne zow a spyndylle
Pt to cft haue we sholde
¶ Et le virel en failli
Plus al ore ne vous di
And pe wherwe lat nat fayle
More at pe tyme nel y zow nat say
¶ Mez vnquore monstr vn diuisite
Dont chestun nest mye abise
But zett y shal shewe a diuisyte

Coucher quant cu vpomt pr quando ratuer tu
tonzich vob mont chetun

105v 36

Chen enymad yo nat a Wysed
¶ De tis choses ont le fusill
Le fil est file one le fusill
Of iij pynges ennyp pe spindelle
pe pred yo y spone Wt pe spyndel
¶ Et puis le coilou fert le fusill
Et ble est molue p le fusill
And aft flynt smytep pe spindell
And corn yo grounde Wt pe spyndell
¶ Quant vre fil est file
Et vre fusill est peuple
Whune zo pred yo y spoune
And zo spindell yo y fould
¶ A la tyle vous couient aler
Et puis mes a la vaulder
To pe reel zoll by houyp to go
And aft ze shulle go to pe zarynwyndey
¶ Com de fileie est la maure
Pondez tutost apres le tul
As of spynynge yo pe maure
Weyze a non aft pe zarn
¶ Et puis apres testier le reil
Et la tisteresse quant pubble ad
And aft a non Wef pe Web

checun fusil combint vander tutoldzt apres titeresse

106r

And pe webestre whanne worpyn ohe
¶ Tuntost les tunez ele vandrat
Ore ay wus di quant apent
A non hyr tunez ohe wydep vpp
Nous y haue y seyd how muche longep
¶ Forispis laline soulement
Outtake pe oley oulyche
Ars braciatricis
¶ Ore ocroit a sau
Del art a bresser & brasyr
Now hit schal be to wyte
Of crafte to mylde & to brewe
¶ Comt homme fait ouoise
Pour noz ostez faire bn al ese
How ma makep ale
For ouer gestez to make wel at eze
¶ Une kene large primez pernez
Et vere orge enfoundres
A kene large syrst takep
And zo bey a zotep
¶ Et quant il est bn enfondre
Et la ewe est soit discouele
And whanne hyt yo wel y zote
And pe water be late out

Forpis lame feet fer quant cu v point p qu eet

106v

¶ Mondez donqz vn soler
Et veiez q̄ soit bn̄ laler
Make clene p̄une a soler
And lobe p̄t hyt be wel ȳ swopud
¶ Et la cochez vr̄e ble
Tanqz qil soit bn̄ grine
And p̄e ze shalle ley zouq̄ corn̄
For to hyt be wel a come
¶ Et donqz tu appellas
Vrese q̄ aunt ble nomas
And p̄une p̄ shalt clepe
Malt p̄t a fore corn̄ was named
¶ Le bres donqz oue voz maynez mewez
En mounteles ou en reuges
P̄t malt p̄une wt zo hand mewep
In hepes op̄ in rowes
¶ Et puis portez en vn corbeil
P̄ ensecher al torayl
And aft̄ bnp in a leep
For to drye at p̄e host
¶ Car corbeil ou cerbylon
Vous grimr̄ tout al fuson
For leep op̄ basket
Ze shal grinse al // at lust

¶ Puis sera le bys molu
Et en ewe chaude tout enbu
Aft shal pe malt be gunde
And in wat warm al y dowep
¶ Et douqz voz lessez decrep tant
En un couel mayntenant
And prime ze shal let hyt jenne so
In a pouel a noon
¶ Desqz qz plein soit un doige beal
Et puis remittes en un couel
In to pt ful be a drowep fayr
And aft put ht a zen in a messyn what
¶ Jesqz qi la bestes en cuer tient
Gele cit bal a sa talent
In to pe bowestre in hte holdyp
pt hit be wort at hys talent
¶ Et puis la bal prendre
De fiment on dorge qle a
And aft pe wort she shal take
Of whete op bes whep she hath
¶ Et p la gest et la bale
Dont plus et plus home sotile
And by pr berme et pe wort
When of more et more me sotilep

Desqz beel cuer tenit

107v

40

¶ Par dit deu du lecer
Dont tout deuiser ne say mye
By ryzth dente of bewynge
Chen of al deuise ne ca y nat
¶ Mer tout yci de art en art
Chestun autre en sa pt
Vut al hey fin cft in cft
Quy op in hys pt
¶ Tanq qil eit bone sinoise
Dont home deuient si bn a eise
In to hyt be goud ale
Whof ma by comer so wel at eze
¶ Car luy mesmez ad pne tnt
Qil ebn maintenuit
Pt hym self hath y take so muche
Pt he weyt duke a non
¶ Ebiresse tient layez homez & clerkys
Nulle autre comit fait si mers
Dukenesse holder lewed ma & clerkys
Non op knower hyt maker so derk
¶ Ebiresse fait home chaton
Et home aroie fayt hault huper
Dukenesse maker ma to cope
And ma hoz hyt maker heyze to ce

Chacun deuint meinez clers nule feet hautt

41 108r

108

¶ Ebiresse fait fate du brykon
Ters ruge saiz vmylon
Dukeuesse makep pe visage of a myx
Ful red wyp oute vmylon
¶ Et douqz dit home p seynt George
Qi trop ad bu du gete dorge
And prune seyp ma by seynt Gorge
Pt ou muche he hap duke fat of bey
¶ Qi luy comet daler a repose
A cause q ne puet fair alt chose
Pt hym by houyp go to reste
By cause pt he may do neon opr pyng
Ad pendendum pistes
¶ Si assau volez la mane
Comt pissher deuez en vine
Pyf knowe ze wylle pe mane
How fyssh me shal in ryne
¶ Ryn est ppriut nome
On ewe vif est tne
Ryn ys pply y named
When wat ys quyk y found
¶ Ne espong pmez espongez
Et douqz pissoms eqrez
Wyp a sponge fyrst led out

Tenge cobuit epog epongez pisobms

108v

109r

Non op̄ variaunce ys in hym
¶ Ore redirrons a la matere
Qi de pisshe vous doy dyr
Nous say we a zen to p̄e matere
p̄t of fysshynge zous y shal say
¶ La gourge de vase rensez
Lordure de deniz de gettez
pe botme of p̄e zeue torn̄ vp sedon̄
p̄e ordure ws ynne cast hyt out
¶ Espande ou sarde si vous trouez
Plez wymbrez lez pnez
Fgrge op̄ ewete zyf ze fynde
By p̄e chellez hem takep
¶ Et fil soit moeus de mer
Ouer luy deuez et espander
And zyf hyt be wellwel of p̄e zee
Opene ze shal t̄ spalde
¶ Le nos trutost en ouestez
Bowel ou eschyne ensy fres
p̄e gound a non cast hyt out
Bowel t̄ chyne also ze shal do
¶ Et retrouez vre meason
Jesq a lautr gesou
And trouep a zen to zo hous

variaunce cu v redirrons epander trutouzt
ouzitez echyne meson jeq

109v

In to a nopr tyme
¶ Et quant vous venez al verde tenayl
On le pastour est one la mayl
And whene ze come to a gyene bank
Whe pe hede ys wt hys bestayle
¶ Puis en boys alez soubz lumbry
Passez donqz par le horayl
Aft ni wode gop vnder pe shade
Gop prune by pe wode shane
¶ Yl y ad horail par h. estrept
Et orail cauz h. dit
Me hap horail by h. y wryte
And orail wt oute h. y ceyd
¶ De south le horayl gop kenne le larom
Et one orayl oit chestu hom
Vnder pe wodys efze hy kenep pe thef
And wt ei herup euy ma
¶ Mez q eiuz passons aunt
De la tenayl ora disant
But ei pt we passe fop
Of pe balk zow hyt shal be ceyd
¶ Pcco qyl y ad plusons desens
Et plusons dez defens
For pt hyt hath manye deuersitez

Cuz chescun passonnis pcce

And manye differenses
¶ Tenail est et tenon
Et tenayles daultre appaile
Handele pre ys et tenon
And tenayles of ore appail .i. tonges
¶ Les cultoiers tienent le tenon
Et par my le tenayl passe pardoin
Pyse tylyers holdyn pe handle
And porb pe balk passep pe goudman
¶ Mez tenayles seruent de distar
En yn quant a fyen syonis
But tonges seruep for colez
In kynt whene by pe fier we sitte
¶ Et al feure sit de custonnie
Quant le marcyl fiert al clume
And to pe smyth pey serue of custu
Whan pe hamer smytyp ou pe anfed
De tempe yenus
¶ Ore plint ore gele
Ore remoyle ore regele
Now hyt reynep now hit fist
Now hyt pakep now hit fresup azen
¶ Par le gele anoms glas
Et de glas vient verre glas

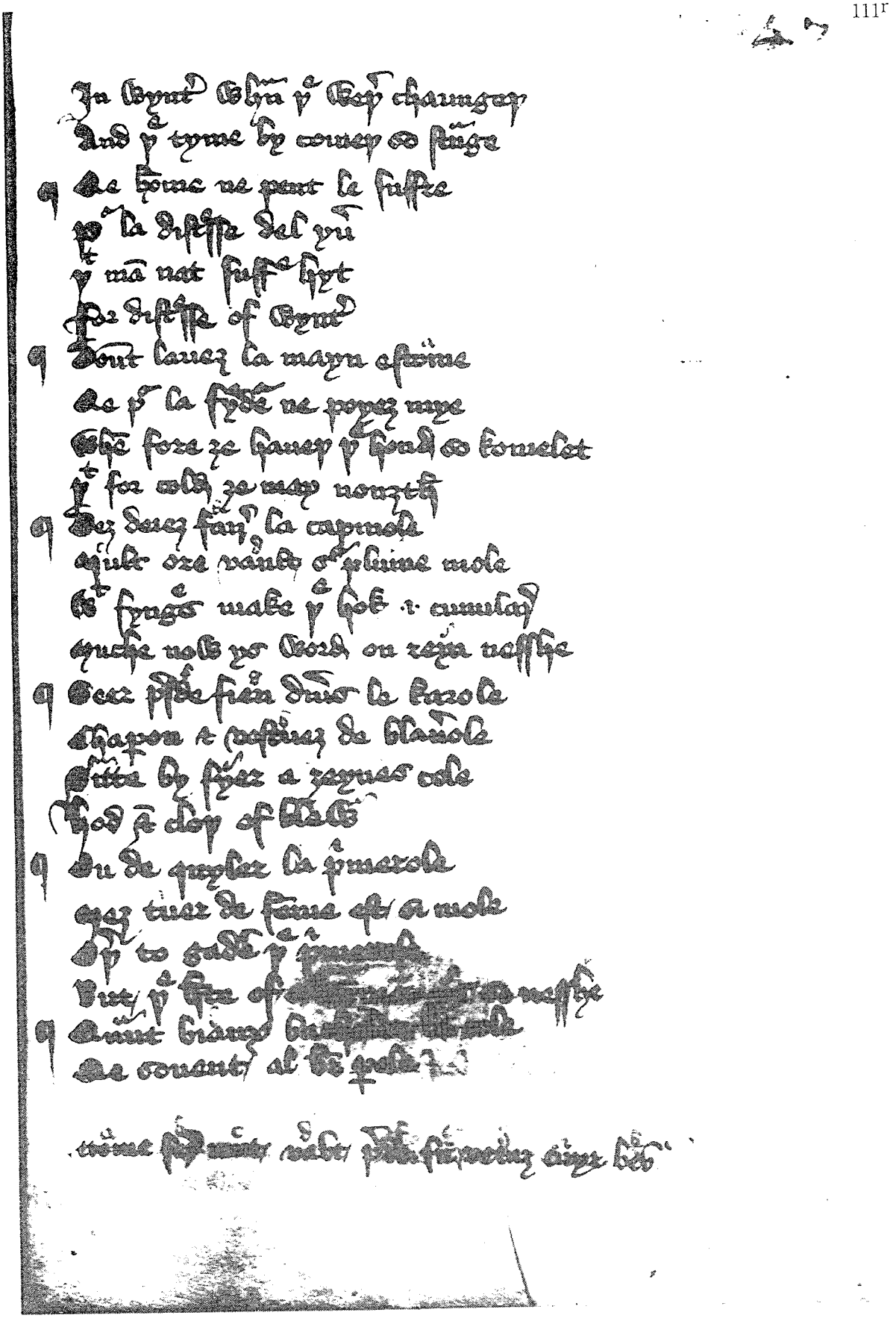
Dautre tenent fu syonis cotonne quintu
v par qu fert anonis vint

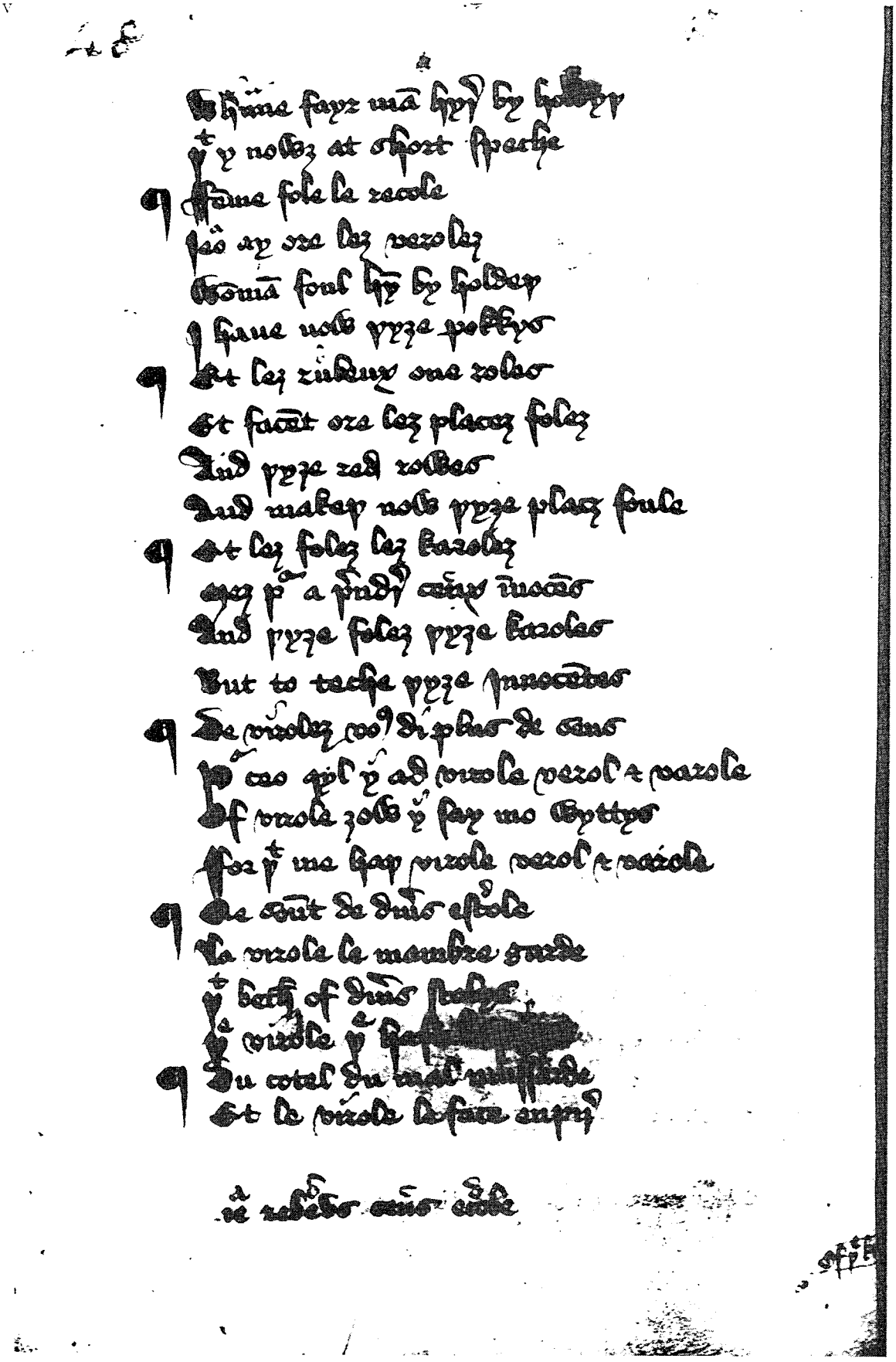
110v

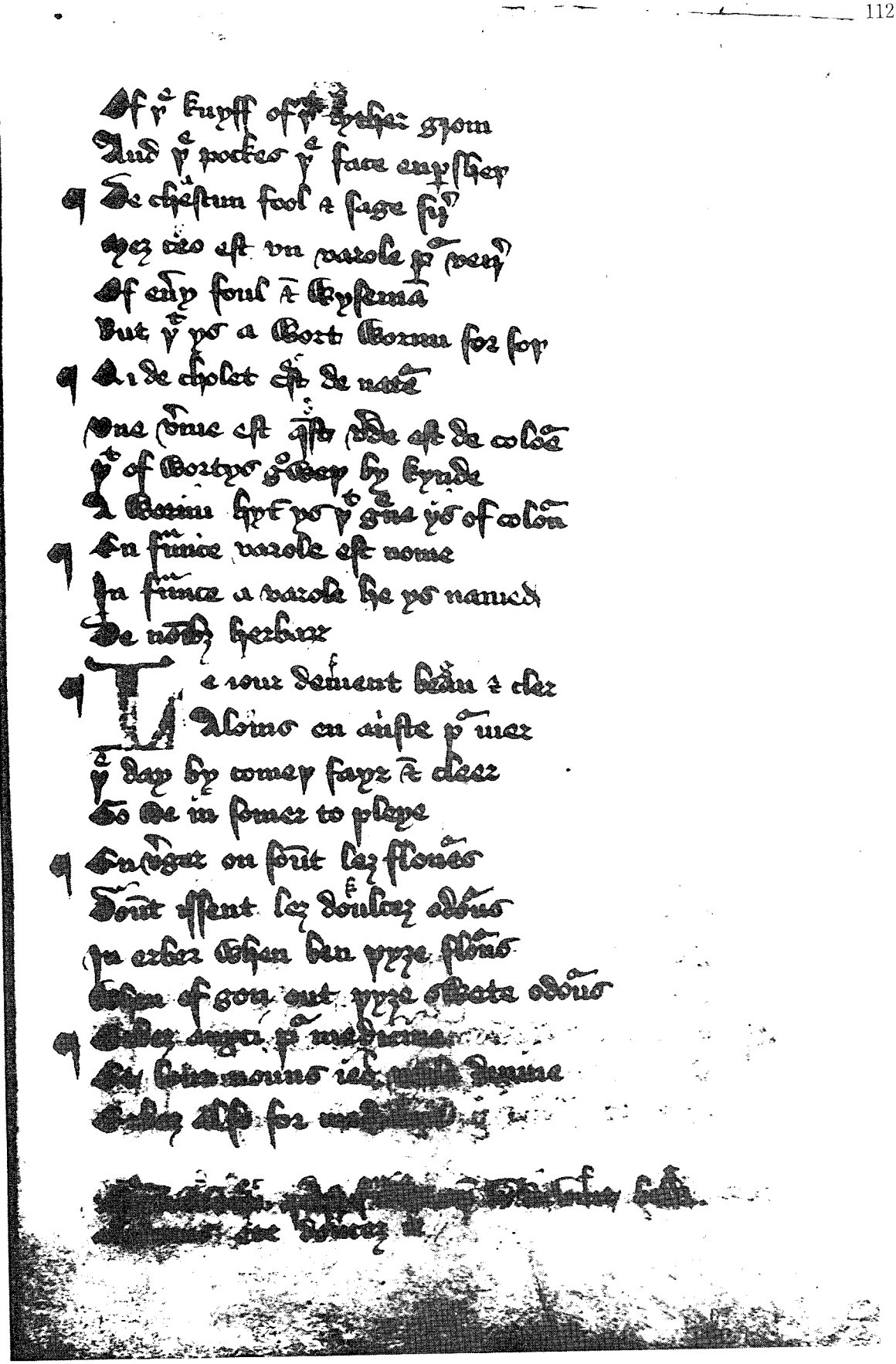
46

Vy fforst ke hauyr glas
And of glas comer vi glas
¶ Gele & pluue de ge tunt
Fount la chemyn tropledunt
Forst & reyn dou fallynge
Maken pe way ou hurtynge
¶ Ore nege ore remoie
Tiel temps piert uere boye
Nous hit sneket nous hit fletup
Swych tyme pshep ouy way
¶ En mou bousche vient vn auffe de neff
Yeo cy q est p gunt ceiff
In myn mouth comer a flade of snow
Y leue hyt be for gt derst
¶ Noz auons gresile & gele
Gryssyl gunt nou p gele
Ke hauer hayl & forst
Hayel gret nopyng lytyl
¶ Ore entendez mou pe tonne
Nulle de voz mot ne sonne
Nous takep hede myn fot slept
Non tu of zow a word spekep
¶ In yne qunt lauy chaunge
Et le temps deuient si stunge

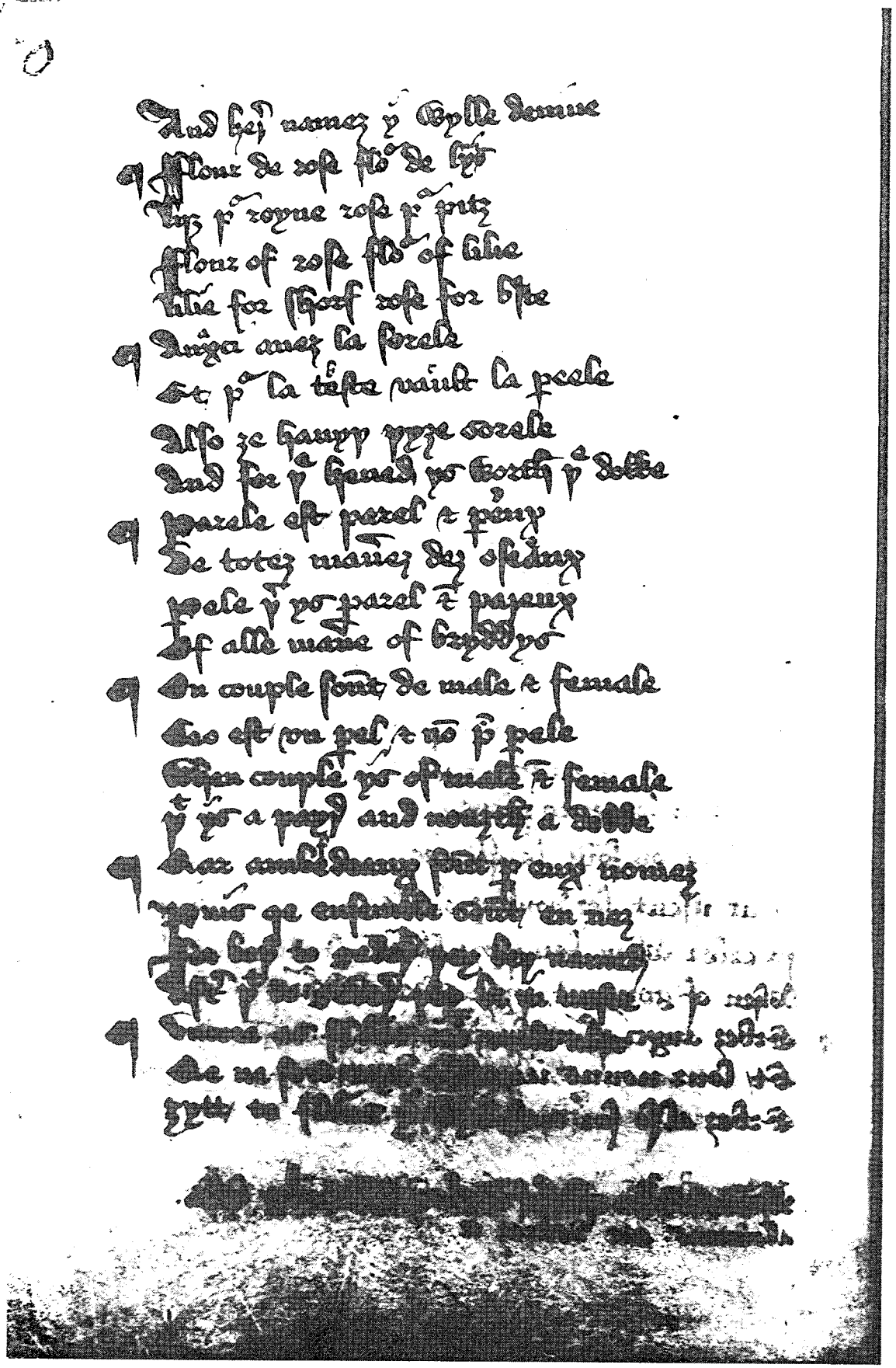
teus pt bouche vint auonus nule debyut

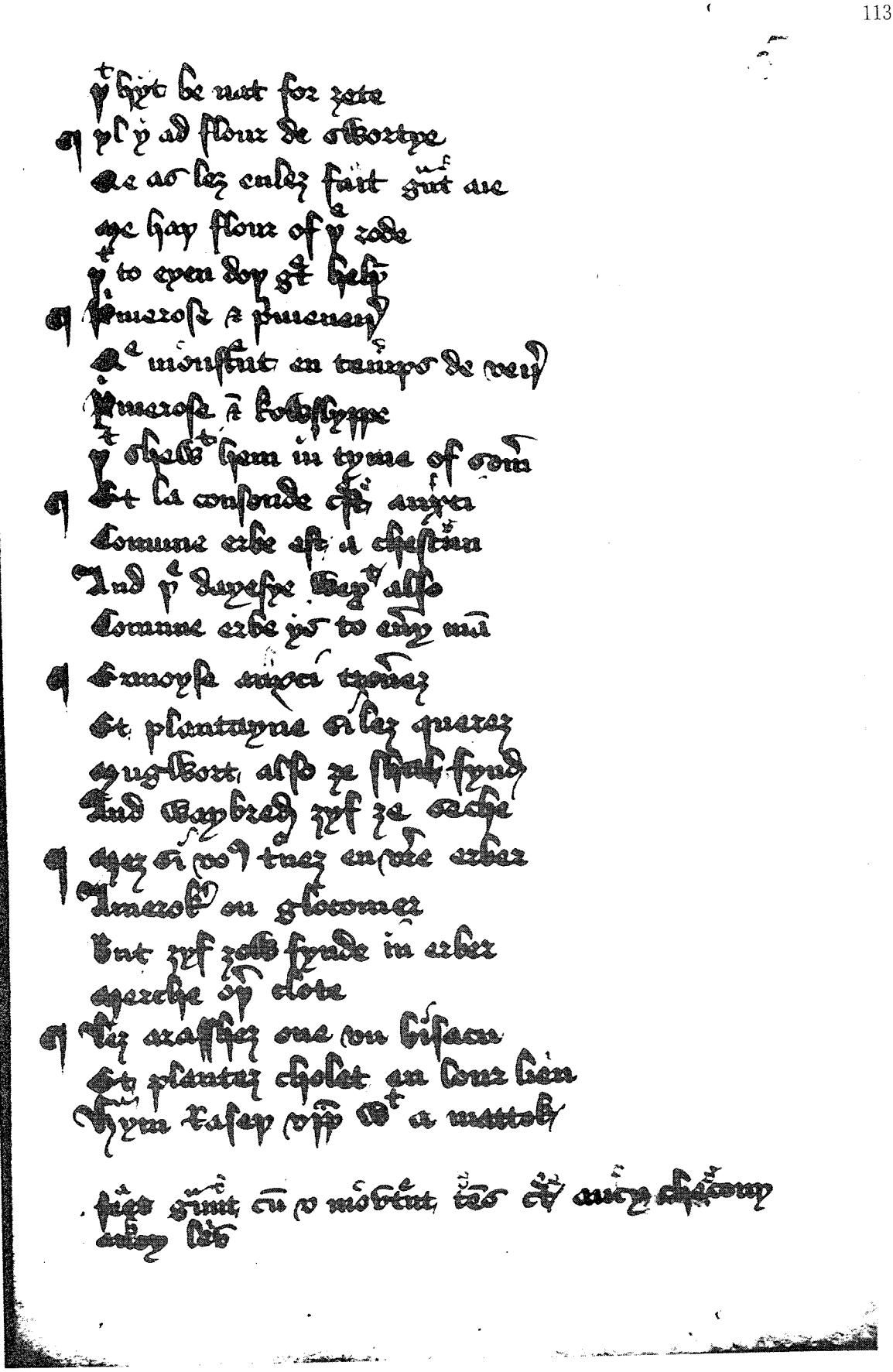






112v





113v

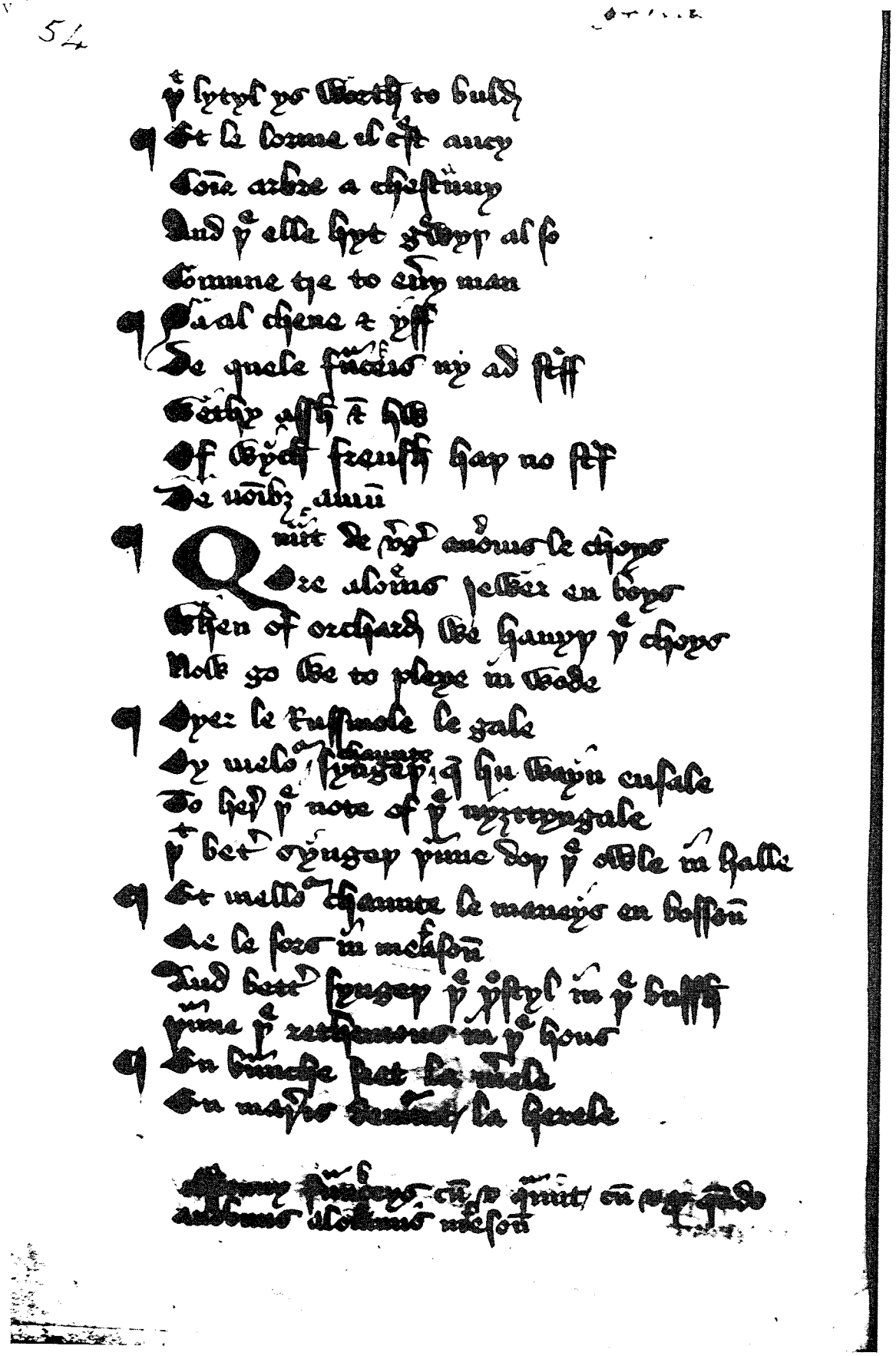
And settes wort in hay place
¶ En verger on arbers cressent
Par charge du frut, plusours abessent
In erber when tres wexyss
For charge of frut manye blowes
¶ Pomer peryfyr et seryser
Fere jonet et puer
Appilt peret et chyty
Assh brom et plowinty
¶ Ceneiler que ceneilez porte
Fourder que fourdeynez porte
Hawe sorin pt hawes berns
Glo sorin pt gloez berns
¶ Et glent porte lez piperongez
Et creter que porte lez crelez rounder
And bremyl pt berns pe hepe
And pe bolace tre pt berns pe bolacez round
¶ Auxi auez lez coignes
En plusours dez vergers
Also ze hanyss prys coigne treys
In manye of pe erbes
¶ Dont il y ad diuersite grant
Et multez ne sauent quant
When of me hap diuersite gret

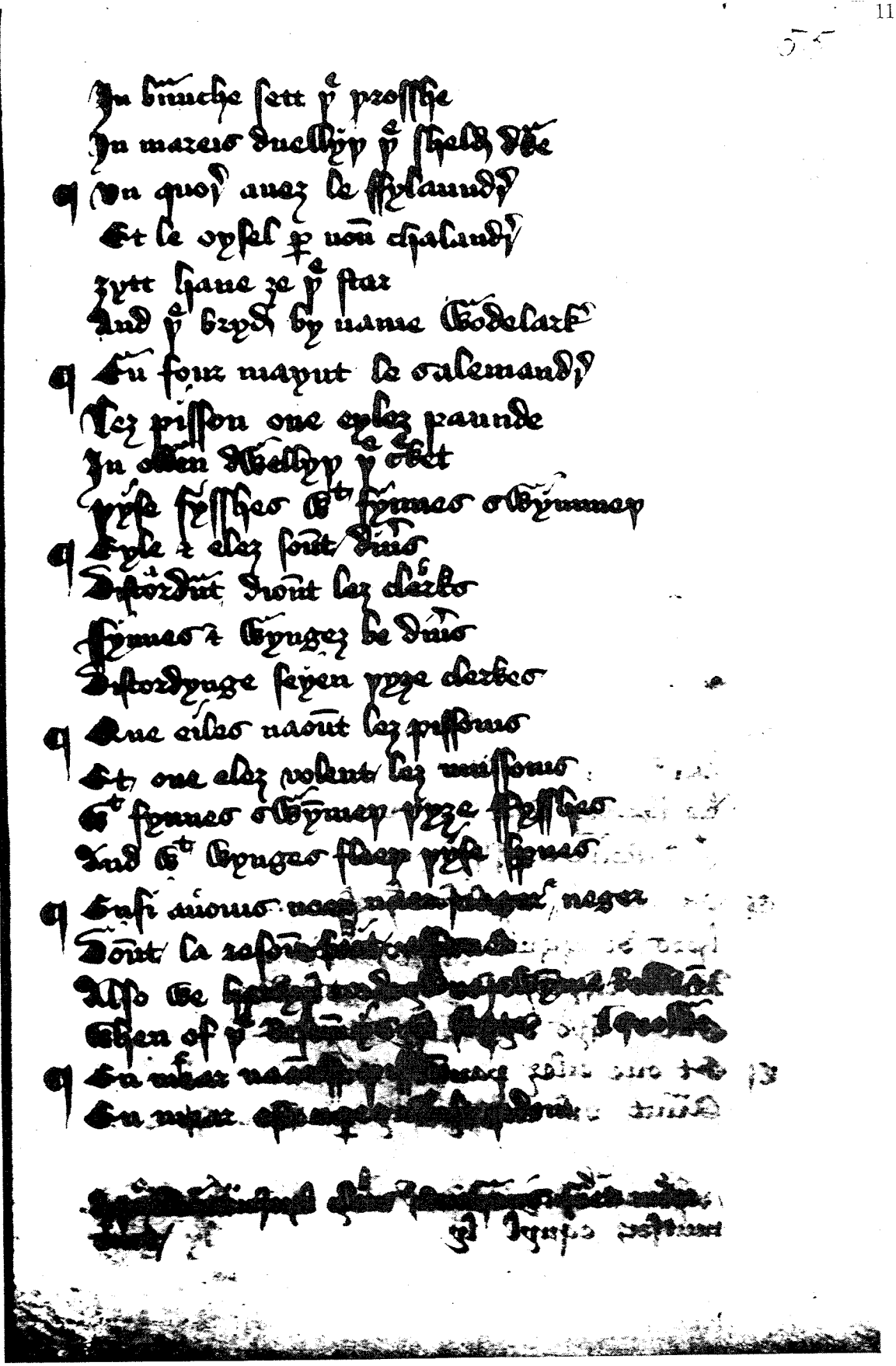
auez

And manye knowe nat bow manye
¶ Ler seignoers sount lour vaifes coigner
En lour ceeps pour chastiser
Pyse lordes doth pyse bondemen in stokkys
In hair ch kynes for to chaste
¶ Et pernez le coigne abatez le coignier
Et cepez un coyne du coignier
And takep pe quynz smytt doun pe coynte
And hakkep a wegge of pe coynte
¶ Et coigner est il ensement
Qi fait moneye de bone argent
And a coyner ys he al so
pt makep moneye of goud syluer
¶ Et autres arbres sount auxci
Pour aprendre chestuny
And opr tres pr bep al so
For to lerne of euyche
¶ Vinx paulmer et arrable
Qi crest multfoitz en tel arable
Bop palmer et mapyl
pt wexyp manye tymes in lond arable
¶ Et la hussie y crest ancy en verger
Qy poy vault pour edifier
And holim wexyp al so in orchard

Cet il feet ancy checuny palmer cest multfoiz
cest vault

54





115v 56

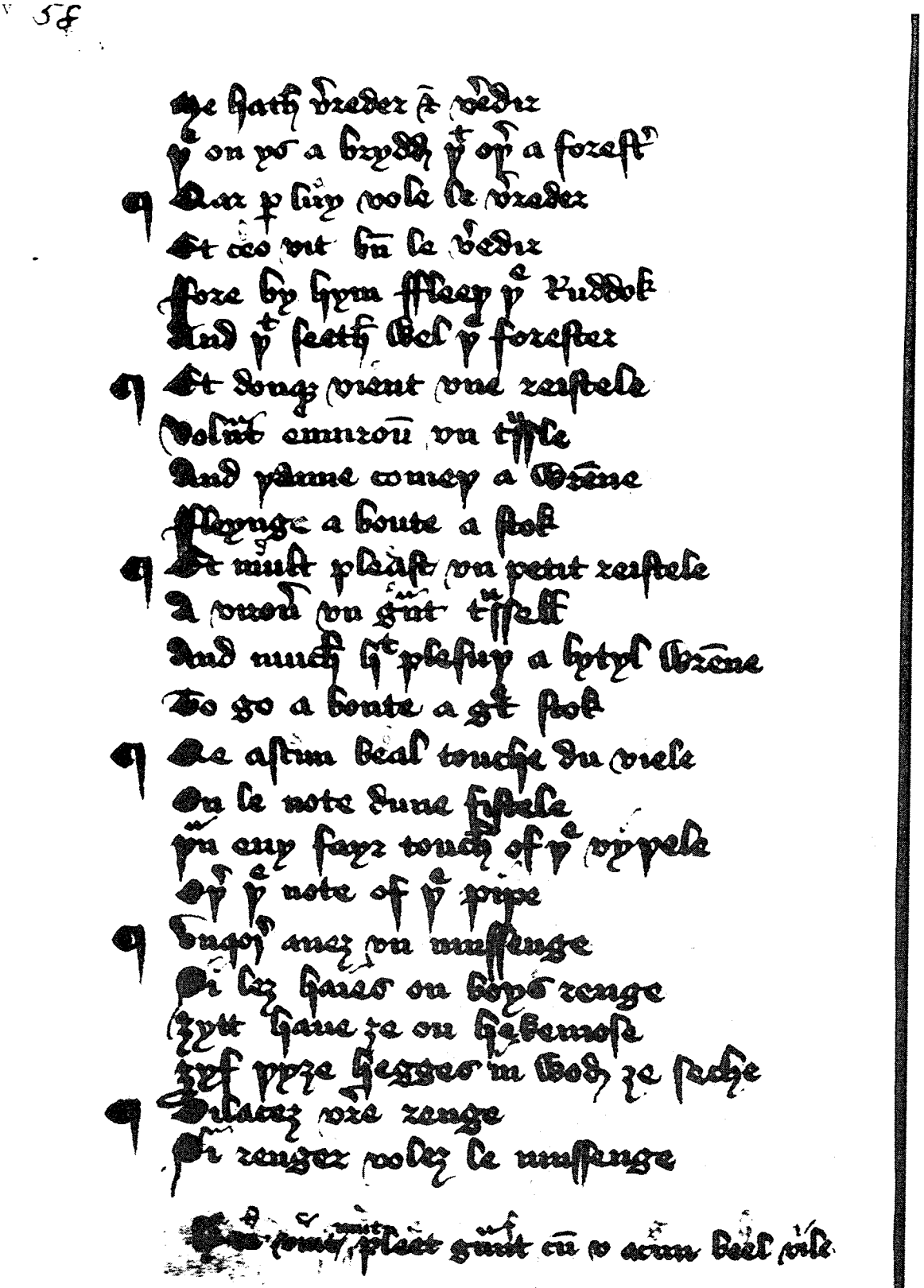
In zee swymer pe fysch
In zee ys dwued many goudman
¶ Et one vironnis doit home nager
En batil on est bon marmer
And wt ores shal man rowe
In boot when ys a goud marmer
¶ Mais en yue veionis neger
Et lez amphez en viron voler
But in wynt we seyth snowe
And pyze fladis a boute fle
¶ Anonis anxi espandi et espeandi
Espandi ensemit et panndi
We hauyr also espandi et espeandi
Espandi also et panndi
¶ Il espande conseil damy
Qi distone ne doit a nully
He shewer conseyl of a fiend
pt distone ne sholdi to no man
¶ Et leufnt multforth espeande
Hors de esquil con viande
And a chyld ofte tyme shedep
Out of hys dysch hys mete
¶ Et one eilez pannde pisson
Quant vif en rey luy pueon

vigbunis aucy epandi nuly leufnt [illegible]
multforz equyl ly

And wt fynnes swymep pe fysshe
Whune quyk in nett hym we takep
¶ Mez espeandy est vn pole
Ai clerks vsent in lon estole
But to spele ys a speche
pt clerk vsen in hay stole
¶ Et si ils espandent natalmt
Toutz lez lrez ensemble pignent
And zyf pey spele kyndely
Alle pyze lres to gedey pey takep
¶ Vnqy as oseaux redirronis
On plins aprudy y prronis
Zyt to bryddys say we azen
When more lerne pe we mowe
¶ En chambre ꝛ aillours auxci
Depemt home loisel asti
In chambre ꝛ op placez also
Peyntt nia pt bryd wodekok
¶ Et le vreder ensemt
Et il ad double entendemt
And pe rowddok also
And hyt hap double entendemt
¶ Ly ad vreder ꝛ vedir
Nune est oisel lanty forest

Clers ecole letres oseus redirrobunus prrobunus
auxy yl.

116v 5f



117r

59

Vngryd zour owerd gyrdyl
zyf ze wyle oeche p̄ hekemose
¶ Auxci auez le palenole
Et ensemt le chardinole
Also ze haue p̄ goddysbnow
And also p̄ goldfynch
¶ Vnqor anoms lez pampilouis
Ai volunt̄s volont p chardouis
zytt haue we pyze bottfliez
p̄ gladly fleep by thystles
¶ Et en lez rouncenx ensemt
Vsent a oeer natalmt
And in pyze breȳs also
pey vsyn to sytte kyndely
¶ Mez ceo ne veent p̄ le gressilon
Ne en cr̄tilagez p̄ut son soiour
But so wyl nat p̄ gr̄ hoppe
p̄ in curtelagez takep hys reste
¶ Ne le hyrson naynie ryen plus
Ne p̄ndr̄ p̄omes q̄ chiet jus
Ne p̄ yrchou loned no pyg more
p̄nne take apples p̄ lech lowe
¶ Mugez & wybez ne sont mye
Car ils ayment plus la vrtie

Auoy auoumus rouinseus ce vebt ryni

117v 60

Fliez ne guattez ne dop nouzth
For pey loue bett' p^e netle
¶ Eusy auons aue & pluisou
Et en Ryuer ou̅t lour mansyon
Also we hauyp heuede & doke
In Ryuer pey haue has dwellyug'
¶ En morez maiguent lez vanelez
En villez sou̅t lez venelez
In mores duellyp pyze lepewyukes
In towneo bep pyze lanez
¶ En gr̅uge vsouis la vaan
Et le enbions ad le haan
In gr̅uge we vsen pe wanne
Aud p^e enbions hap p^e hate
¶ Sy vient volaunt vn roser
Vne brallet a luy est socier
Hes comyp fleyuge a wylde goos
A br̅ndgoos to hy ys felawet
¶ Et mult vault vne b̅llet est^e pn
Mult melo q̅ char du fiu
Aud much ys worp a br̅ndgoos y rosted
Muche bete pn p^e flesh of a rook
¶ Et plus est ignel vne arounde
Re astune tygome q̅st en mode

auonus vilez vsouus vint ly mut vaut
acun qeest

And more ys swyft a swalue
pan eny suyte pt ys in world
¶ Et le apie a la seuounde
peut le musson e le arounde
And pe bee at pe hous efze
Takep pe sperne e pe swalue
¶ Et le oisel qi ad non bibikaz
pos la ryuer est pos en las
And pe bryd pt hap name beke
By pe ryn ys take in gen
¶ Chaunt de cokkow en este anoins
pe piser ceo ne tendoins
Song of kokkow in som we haue
To pe pyse pt take we non hede
¶ Mez pluis vault pel de ffonu
Ne chanut dasyne on de ponn
Vnt mor ys worp pe skyn of a foyn
pan song of asse op of pown .i. pane
¶ Mez du ponn la beale cowe
Est dilitable a la vewe
Vnt of pe pokok pe fayr tayl
ys dilatable to pe syzthe
¶ Mez pluis ayme arch penne de ponn
Ne en escheker mat de paun

anoinus tendoinus vaut dayne bele echeker

118v

62

Vut more louep p̄e arch p̄e pēne of p̄e pakok
p̄n in cheker amat of p̄e pann
De nōibz animaliū
¶ Ieo veie vugūt/ toisōn
Et guerpy ad sa mansion
i saw a g̃t brok
And hap for sake hys dwellyngplace
¶ Pur le fem dun gopyl
Si luy ad mys en eyl
For p̄e stynke of a voy
p̄ hym hap put owte
¶ Et houy soit le mal putoys
Si soit en ville ou en boys
And wo be p̄e enyl putoyse
zyf he be in tōn or wode
¶ Et mal auenter a luy soyt
La g̃te gelyne a luy retirt
And enyl auenter to hym be
p̄e g̃te hen to hym he drawep
¶ Mez plus vault vn belete
p̄ fayr ma g̃unge de ratōns nete
Vut more ys a keme
To make my g̃unge of ratones clene
¶ Ne toutz lez taulpes iesq̄ [illegible]

ie mys vile hy vaut fey tulpes ieq̄

119r

631

En sont tapmes en lez pres
Pme alle pe moulez fin hene to parys
Pt makep molhepes in pys medes
De ppetatibz bige
¶ Le chart ieo voi le distrs
Et mettrs yci en nre liue
Of pe cart y wyl distrue
And put hyt hers in ours book
¶ De lez roos vous di pmo
Et puis de bendeux q sont entro
Of pe whyles zow y say fyrst
And aft of pyze bendes pt bep a bonte
¶ En lez bendez q sont de fer
Sont lez chntez entachez de fer
In ps bondez pt bep of yrs
Bep pyze spichez y tachet of yrs
¶ [illegible] tez entrent lez jaes
Et [illegible] issent lez jayes
In ps fleghes entrn ps spokes
And of pe sonne gop out ps sonne beuies
¶ Mez lez raes en le charet
En lez moaux est lo resset
Put ps spokes in pe cart
In ps namez ys hars resset

tapmes dice bendeus mous

119v

64

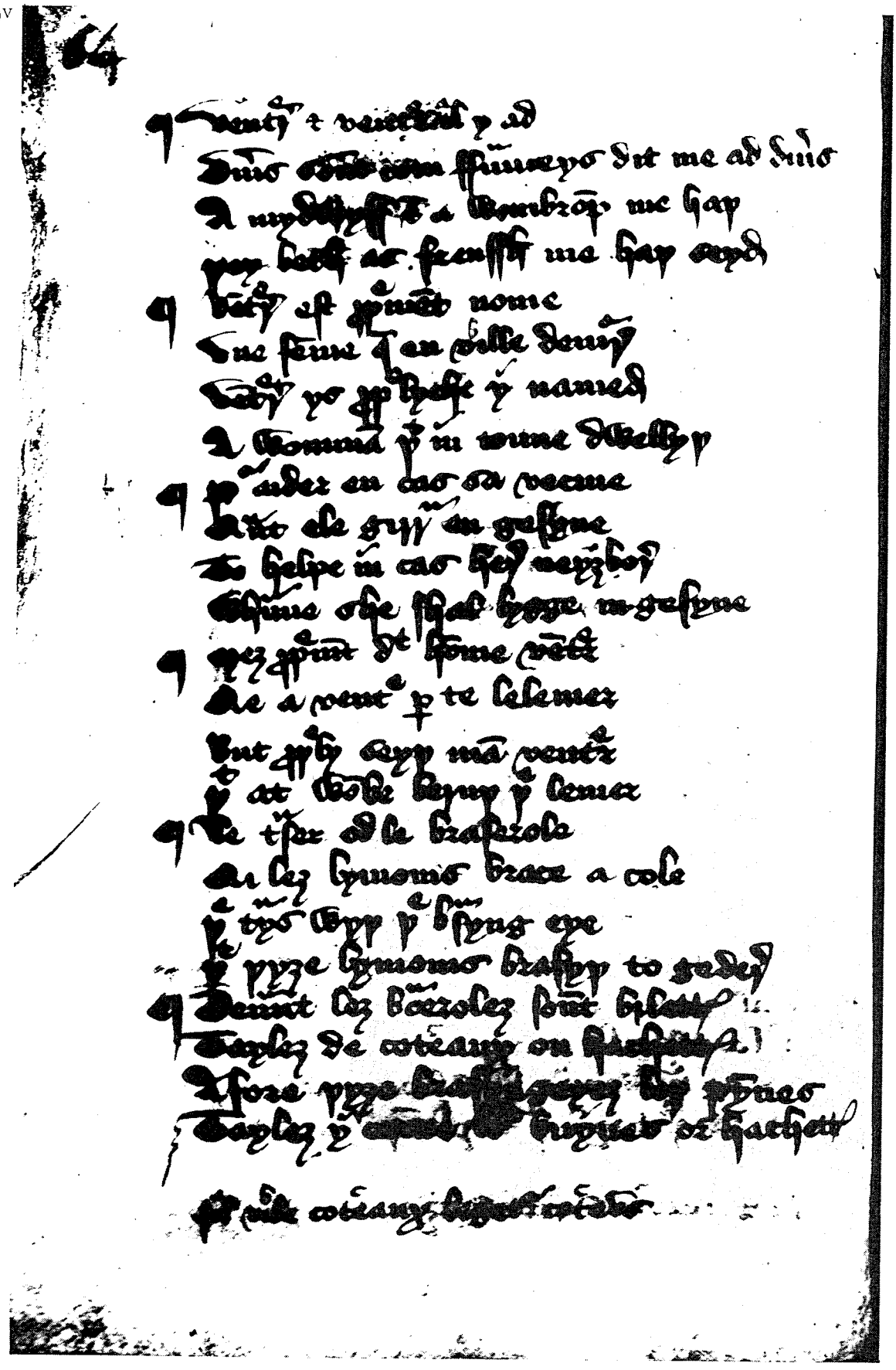
¶ Lez moaux gisent entre le roof
Doutdt com le moel del oof
Pe namez leggep Wt ynne pe Whyle
Ryzht as pe zelk of an ay
¶ Vn est fait pr grant charge port
Et luy autre pr bon mager
On ys mad to bey gt charge
Pt opr for gt gond mete
¶ Mez en le moel gist lessel
Et deux hetes se tiegnet
Vnt in pe name lyp pe zeyte
And two rouges holdyn hyt euene
¶ Si le chart ait bouez brasez
Ferme lye as lez esseux
Zyf pe cart haue gond boudes
Faste y bounde to pyze zeyte
¶ Et si deuis lez moaux so [illegible]
Donqz en fault rien forsqz [illegible]
And zyf Wt ynne pe nauez be cloutez
Pu faylep nopyng but laddeys
¶ Mez pr estre plus artilous
Dez esseux vous dirr plus
Vnt for to be pe more cfftious
Of zeyte zolk y shal say more

moel fect ly deus essens mous fabt forqz
ebeles vous

¶ En le mear uaent lez raies
Et vers lez fayres vaignent lez raies
In pe ze swymep pe rayes i. pistes
And toward fayres comep rayes i. vesta
¶ Auxi auons essel et assel
Et la tierce pole huissell
Also we hauyp essel et assel
And pe thrydde word huissell
¶ Le chart gist sur le assel
Et en le moel gist le essel
pe cart lyp on pe zeyty
An in pe nawe lyp pe zey
¶ Mez le huissell auez vous
En vre bras par de soubz
But pe arm hole haue zow
In zour armez by nethe
¶ En lez lymons vat le lymeour
Et en dos porte son dosser
In pe lymones gop pe lymener
And on hys rugge he berup hys rygrope
¶ Et al venty le venter
Et a la cowe le vanner
And at pe wombe hys wombe rop
And at pe tayl pe taylrop

mees auobmis gist soubz

120v



67

¶ Lez coilez du chuales portent eisselez
Estoles de quyer one lou hosselez
Pe nekkes of hors beriup hanbrgez
Coleres of lepyr wt hasp kynghamez
¶ Et si le chuer ad sa riorte
Dont lez chuales en corus resorte
And zyf pe carter haue hys whyppe
Whe wt pyze hors in corus he resortez
¶ Dougz ad tout q a luy appent
Et assez suffit si luy tient
Prune hath he al pt hy by longep
And y nonzght ht suffizep he hy holdep
¶ Mez pe estre plus sachment
Vous dyrr eyuez q passe aunt
But to be more couynge
Zow more y shal say hers y passe forp
¶ Le dt a fayr a charitr
Et ensemt le chuer
Pe ryzth to do to pe carter
And also to pe godenge
¶ Le chett le stle aura
Dont lez chuales corrieer
Pe carter pe horscombe shal haue
When wt hys hors he shal corrye

[illegible] ly etr fer

121v

68

¶ Et le boner ne teigne a gas
pr bn ffr sez bestez one cordas
And pe oxehde holdep hyt no trfle
For wel to ffte hys oxen wt a waze
¶ Eiuz qils sont bien enbeuez
Mez al soir sont waiez
Es pey be wel y watered
But at euen pey shal be wel wassh
¶ Waier yl ad ppriunt
Si dit lautor q ne ment
A wayr me hath pply
So seyp pe autor pt lyep nat
¶ Car beofs & chuulez sont waiez
Et totez autres bestes lauez
Fore oxen & hors bep y watered
And al opr bestes y wassh
¶ Pms qore suffit du chart
De la chue ore me entremet
Aft pt hyt suffizep of pe cart
Of pe plowe nowe y wyl me entremette
¶ En la chue auez vous
Diuers nons & merueilous
In pe plowe haue ze
Diuers namez and merweylous

Betez quils been yl beefs

¶ Primez le chieff & le penoū
Donqz le manuel & le tenoū
Fyrst p̄ heued & p̄ foot
Prime p̄ handle & p̄ stylte
¶ Par de soubz gist le orilou
Et pluis a mount est lesthecou
By fythe lyp̄ p̄ ryzthe
And more a boue lyp̄ p̄ shelfryzth
¶ Le soche ensy & le ffomer
Qua le chue de dryt deuer
p̄ cultor also & p̄ shar
Shal p̄ ploss haue of ryzth dente
¶ En longe la chue gist la haie
Ai vient de boys ou de haye
In longes p̄ ploss [illegible] p̄ beem
p̄t comep of [illegible] a [illegible] of hegge
¶ Unqor auez vn put a poi mallet
Et vn modelou [illegible] p̄ fair luy nett
Zyt haue ze a maylet
And an gretstaf to make hyt clene
¶ Lez boofs portēt lez jues
p̄ cristieux & p̄ jesses
Pyze oxen beryp pyze zokes
For cristen men & for jesses

Cheif conz gist lechecou vint fer ly

122v

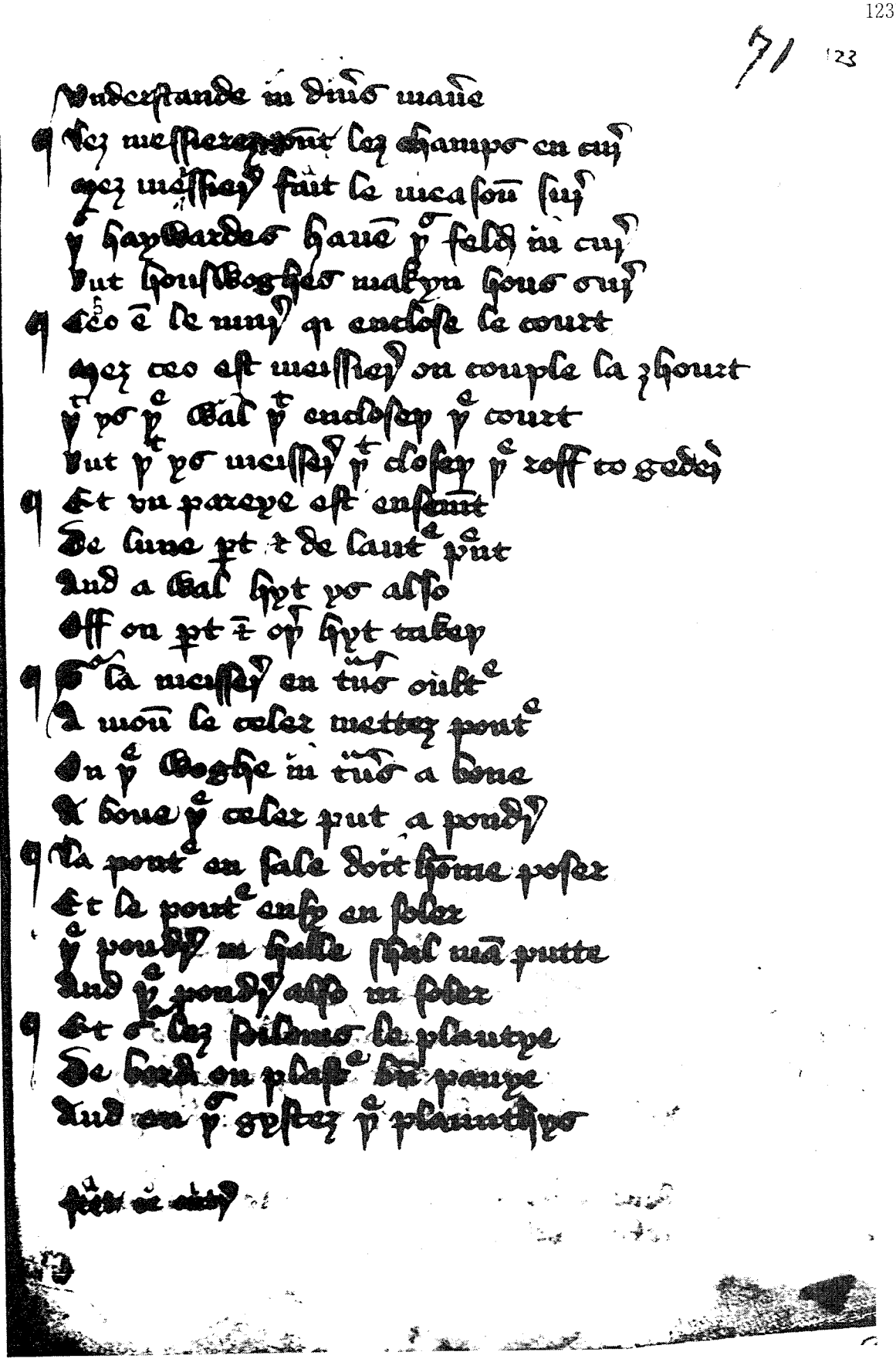


30

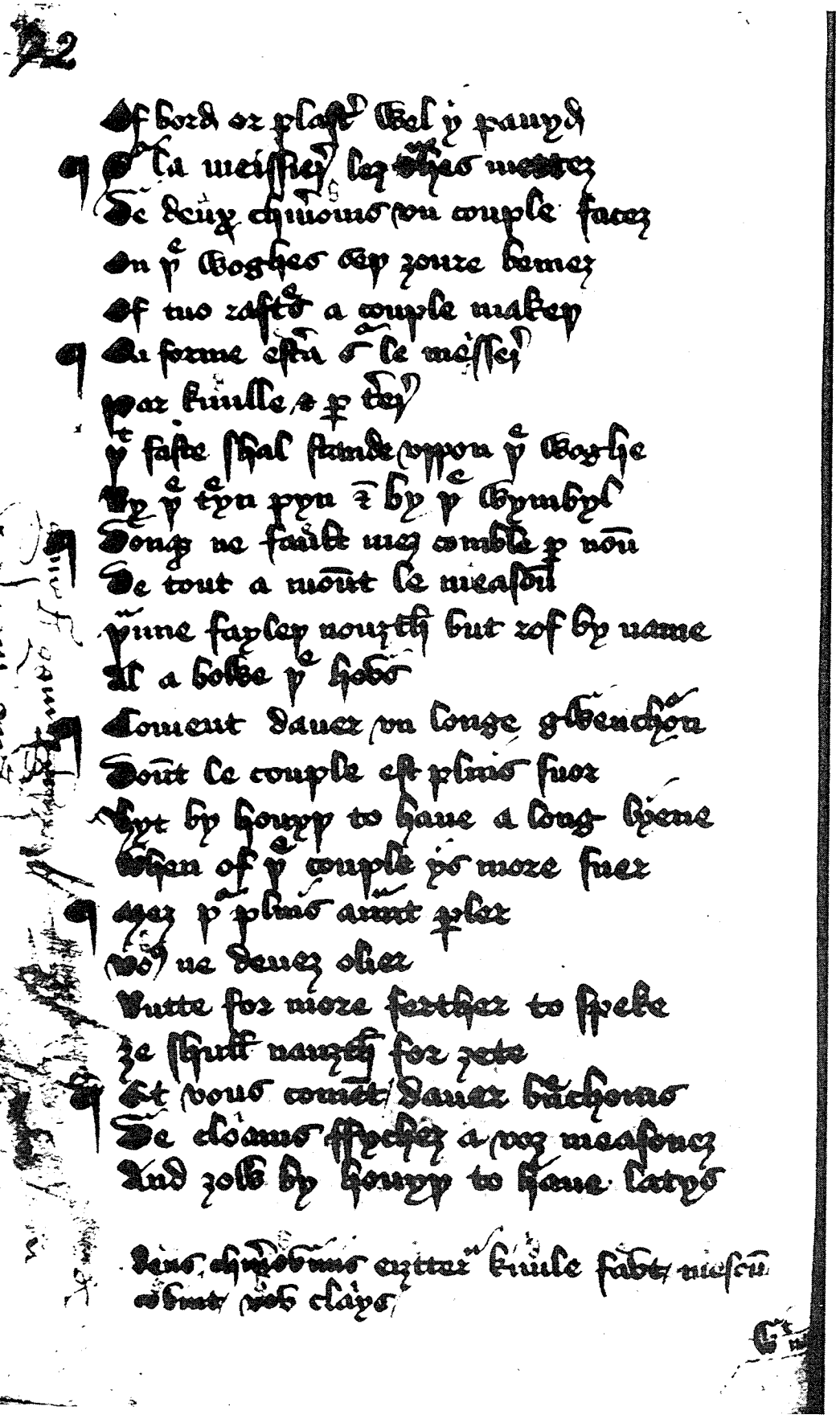
¶ Et p lez acouis fichez enhues
Dout lez beofs or forts artes
And by p bolkes y styket in zokes
Rep p open y forset so haide
¶ Ay lez comet mangi louri
Par langlou eschuer erroure
Pt hem by houyp mangi hem
By pe gode eschue erjour
Ad edificandu domos
¶ Si vos auez ou penser
Measou ou chambi pa edifier
Syf ze haue in pouzth
Holkz or chumber for to bulde
¶ Il comet al comencemt
Pa fuyi vn bou foundemt
Pt by houyp es y at pe syrste
To make a ore suffts goud foundemt
¶ Et pluis pe hue o lener be meisei
Dout feme est dit messuei
And more to rei vpp pe helekoghes
Whe of a [illegible] houskyf
¶ Il y ad messier e meissei
Entenduz en dues maner
Me hap messier e meissei

[illegible] echuer pob mesou cobint fei

71 123



123v



22

Of bord or plast' wel y pauyd
¶ Sa la meissier lez ~~[illegible]~~ mettez
De deux chiuonis vn couple facez
On p^e woghes sep zoure bemez
Of two rafters a couple makep
¶ Ou forme estra sa le meissier
Par kuulle et par terier
Pt faste shal stande vppon p^e woghe
Vy p^e tyn pyn et by p^e wymbyl
¶ Donqz ne fault mez comble par non
De tout a mont le meason
Pnne faylep nouzth but rof by name
Al a bowe p^e hoos
¶ Coment dauer vn longe gwenchon
Dont le couple est plus fuor
Lyt by houyp to haue a long lyene
When of p^e couple ys more fuer
¶ Mez p^a plus amant parler
Vous ne deuez olier
Rutte for more ferther to speke
Ze shull nauzth for zete
¶ Et vous comet dauer bnchonis
De cloanis ffychez a voz measonez
And zow by houyp to haue latys

Deus chiuonis eztter kuule fabt mescu
cobint vob clays

73

Hyp naylez ẏ nayled to zoure house
¶ Et trenchoms a la pere auyri
pa cele apse ieo vo di
And stantyz to walle also
For swich a lynynge ẏ zow say
¶ Mar il ẏ ad trenchoms ⁊ trenchesoms
Dont distord ad de noms
For me hap trenchoms ⁊ trenchesoms
When of distord ys of namez
¶ Mar trenchoms font as measones
Et trenchesoms font morer chinalez
For stantiz bep mad to housez
And trenchesoms makyn hors dye
¶ Et en chinalez sont nomemt
On ils mangent malement
And in hors pey bep namely
Whe pey eten eyle
¶ Vn qos fait bn asaner
Ne endroit meason afans
Zytt be hyt wel to wyte
Pat in ryzth of a hous to make
¶ De deuer il coment estes
Bone lanuen ⁊ fenestes
Of dente hyt by honyp to be

auoy chinalez feet afes pil et feuet

124v

74

Goud louer & Wyndoib
¶ Anmeny & ameny y ad
Al anmeny fume isser
Louer & almarye me hay
At pe louer fume gop out
¶ Car en fumce est ameny nome
Ay cy est louer apelle
Pt en fumce ys anmeny named
Pt hery louer ys apelyt .i. nominatus
¶ Mez ceo est ppmt anmeny
On lem mette viande on viany
But pt ys pply a almarie
Whe ynne men putte viande
¶ Al entre de huis est le lyme
Et oultre le teste est le sinslyne
At pe entre of pe dore ys pressold
And a bone pe heued ys pe ouchek
¶ Po le coste sont lez lymaux deux
On lem doyt prendre le huis
Vy sithe bey pyse dore hayez tweyes
When me shal take pe dore
¶ Et vn gymel pendoms noz gumphs
Quant deux vtilez nous auoms
In pe chymptry we honge ony hokes

outre tete lymeus deus

75

zyff tuo twystez we haue
¶ Ore faitez cleket ⁊ sruy
Et donqz est le meason tout fuy
Now makep clyket ⁊ lok
And pnne ys pe hous al seker
¶ Mondez le meason coilez jambez
Mettez la table donqz couez la
Make clene pe hous gadey ryssen
Leye pe table pnne keue hyy
¶ Ameynz q soyt estable
De vnne nape couez le hant table
A non pt hyt by do
Wyth a cloth keue pe heyzhe table
¶ Et la secunde auyci couez
De blauuche nape si vous auez
And pe secunde also keue
Wyp whyt napie zyf ze haue
¶ Et si la sale soyt tpt salee
Nest mye apeyser en sale
And zyf pe halle be ou ffowle
Hyt ys nat to peyse in halle
¶ Plus vault blauuche nape mult vse
Ce la nouel mult enbowe
More ys worth whyzt clop y vsed

Fetez meson etable ancy vov tp s^m quosdm
vadt ment/

125v

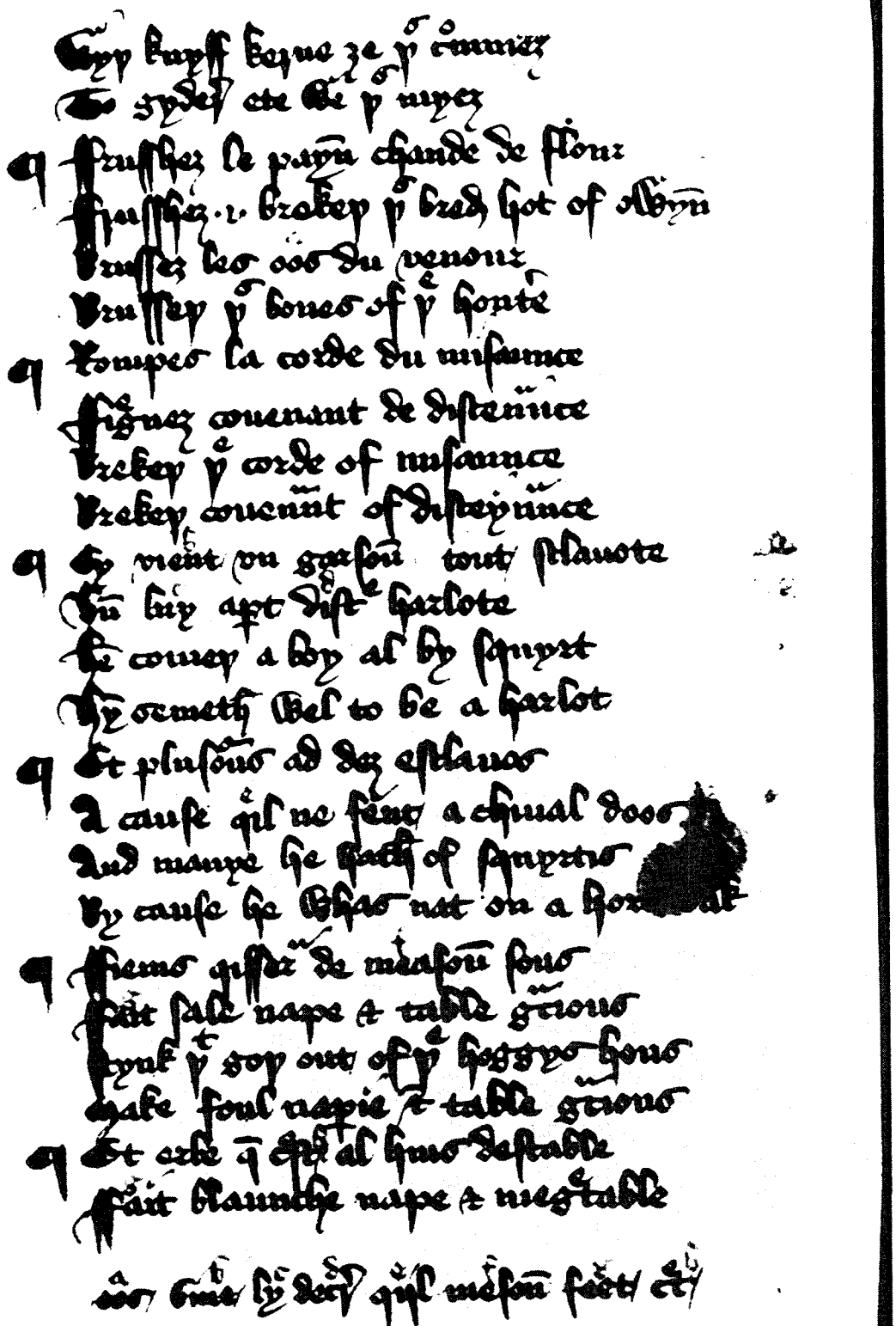
pnne pe newe muche enbowep
¶ Lauez hampez moundez esquilez
Lez anglez coper jesqz as a scieles
Wassh coppez make clene disshes
Pys angles swope in to cornes
¶ Ale a quystrn one tout hauet
Et estiez le hagyz du posnet
Go to pe quistrn wyp pyn fleshok
And dwep out pe hagys of pe posnet
¶ Et mettez a vre veile ruche
Desouth voz potz noup la luche
And put to zone olde hyne
A loue zon pett nat pe ladyl
¶ Alez a luche oue la luche
Et prez la dame q la coiffe luche
Goze to pe slykeste wt pe slykston
And pay pt dame pt she pyy coyfe
¶ Mez a la luche redirronis
Ou plus aprendi y prronis
Vnt to pe hyve say we a zen
When more lerne we pei mowe
¶ La luche sunt de aeps
Ou noz vionis voler lez dees
Pe hyve swyp for been

equales jesqz acilez quitrn desouz poz redrob
mus prrobmus as viobmus

126r

Chen lke ce fle p̄ ꝯkermez
¶ Vn ꝑ soy syng lmt
A hony be est ꝓpmt
On by hē selffe syngerly
An hony bee ys ꝓpely
¶ Et ꝓpmt vn dez dees
En anglysh est a ꝯkarm of bees
And ꝓpely on of pys bees
In englys ys a ꝯkyrm of bees
¶ Et ceo est vn ree du meal nome
Ne en ruche fout lez aps de gr
And pt ys a comb of hony y called
pt in hylke makyn pyze bees of gr
De ꝓpetatibz nominum
¶ E equilez bon gent a mang
Si poez vo mesmez a lose
[illegible] folk to mete
So m[illegible] folk ze self a lose
¶ Treuchez cest payn qest pay
Lez bisilez soient p dien done
Requeꝑ p bred pt ys pared
p pelez be for god y zyue
¶ De coteal trechez gez biseany
De quyler manguoms cenx meanx

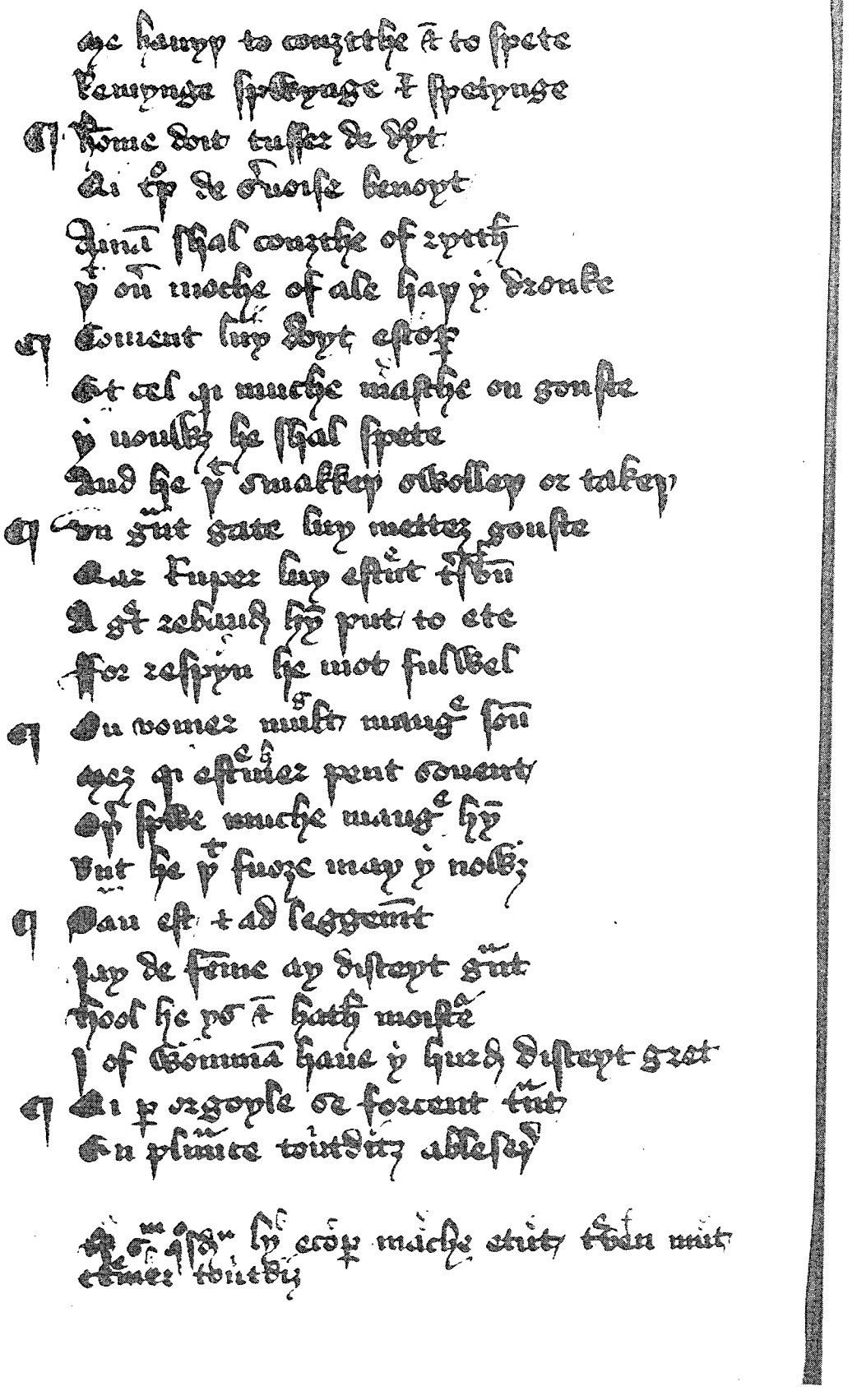
ce meel vob memez biseus de cotel biseus
mangobmus cebs meyez



127r

And erbe pt gowep at pe dore of pe stable
Make whyzt napie & lene table
¶ Puez valet en voz estouz
De haryng cour de ffiel rous
Takep zoma in zouz glytt
Of haryng red of pe frayl red
¶ Par deuant auez estouz
Et de couste auez gerouis
By fore ze haue glyttys
And by syde bep gores
¶ Deux garsouis chacent grant pry
Al chestun moot lune baylai
Two gomez rennep get sped
At euy word pt on flafflet
¶ Et lautre ne peut parler
Une parole sanz nastier
And pt opr may nat speke
A word wt onte gueffluyge
¶ Et toutfoith il nastie
A peine vault une alye
And al way he gueflyp
Vnnepe ys he worth a pese
¶ Il y ad tusser & estaper
Kuper vomer & estrimer

Ecouz couztte deus chescun lautre toutfoiz vabt



128r

pt by pride he forsey muche
In spekyuge alway to lypse
¶ Pr lon annez plus a pleasey
For hay louez more to plese
¶ Un valet de la nouellie
Qi vient dune grant magrie
A zoma of pe uelle get
pt cometh fui a grant feste
¶ De la feste moy ad counte
Com lour cuise fent a raie
Of pe feste me hay y told
As hay cuise was a rayde
¶ Sauz payn & sauz bon cuoise
Ne cuja home al feste bn a eise
Wt oute bred & wt oute goudale
Ne shal ma at feste be wel at eze
¶ Mez daulte chose fait asauer
De cours qi fent al primer
But of opr pyng hyt ys to wyte
Of pe cours pt was ffyrst
¶ La teste du sengler arme
Et le goyn bn bane
pe hened of pe boor y armed
And pe goyn wel y baneth

plesey vint fete dabte feet

128v

¶ Pius venesoū one fr̄mte
Et pius altr̄ diuersite
Aft̄ venson̄ wyp fr̄mente
And aft̄ op̄ diuersite
¶ Dez grus pomis ⁊ cignez
Chūrary porceles ⁊ gelinez
Of cr̄nes pokokys ⁊ swanes
Rydes pygges ⁊ hennes
¶ Pius anoient comes en gr̄ne
Tesbn̄ en sug̃e enfoundr̄
Aft̄ pey hadde comes in gr̄ney
Ful wel in zeng̃e y foundt
¶ Pius y ont aute fuson̄ de rost
Chestun deuy en autr̄ cost
Aft̄ pey hadde op̄ fuson̄ of rost
Guy tuo in op̄ oide
¶ Fesantz dastiez ⁊ pdryz
Grynes alowes ⁊ tontz rostiz
Fesantez wodekockes ⁊ pdryches
Feldfares larkes ⁊ alle y rostud
¶ Byon cr̄spis ⁊ fr̄e
One zugr̄ roset en temperur̄
Brawon cuspis ⁊ fretys
Wt zeng̃e roset in tēpe

autr̄ chūrens ⁊ ben checun deus touz

129r

130.

¶ Macez quibibz et clouez gilofre
Et dez autres espicez assez
Macez quibibz et clouez gylofre
And of oyr spicez y nowz
¶ Et quant la table finst ouste
Gnt pondre one bon dgge
And whune pe table was y led
Gret pondre wyp goud dgge
¶ Et daultre nobleye finst fuson
Et ore fune icy ma reson
And of oyr nobley was fuson
And now y ende hey my reson
De moribz infantis
¶ Ore mirte ieo voile aprendre
A totez q sont dage tendre
Now mirte y wyl teche
To al yt ben of age tendre
¶ Et pr vite ie vous di
Hony est il q nest norry
An for soth y zow say
Heuy ys he yt ys nat tanzth
¶ Ore estotez mon chier fitz
Coment ieo voile q soiez norrys
Now take hede my dey sone

Espicez quant cu v y qn feut ouzthe daut ie
vous nest cheer fiz

129v

Holl y wyl ꝑ ze be norshet
¶ Jeo voile tout al ꝑmour
Ne soiez hūble ⁊ plein de doulcor
I wyl at ꝑ fyrst
ꝑ ze be lowe ⁊ ful of goudnesse
¶ Soiez ensy ffūk ⁊ boney
Sauz nusditz ⁊ sauz meffayz
Be ze also fre ⁊ boney
Et oute myssayge ⁊ mysdoynge
¶ Et de beale porte ent le gent
Ne tꝑ hault mez mesuemt
And a fayr port a mongez folk
Nat to hye but menelych
¶ De totez gentz ꝯrez le plus ame
Et sagez ꝯres a lose
Of alle folk ze shal be more y loued
And wys ze shal be a losed
¶ Toutz iours vous ꝑe qe soiez sagez
Et q̄ vous ne facez nullez outgez
Al dayz y ꝑy zow ꝑ ze be wys
And ꝑ i ze make noon outgres
¶ A nulle home qest vivant
Ne vꝯ enfeme ne vꝯ enfūt
To uoma ꝑ ys lenynge

ie doiour mediz mefeyr bele tꝑ ꝯ qsdm habt
vos nulez qeet enfunt cu v

Ne a zeno wōmā ne chyld
¶ Et quant vous orrez entre le gent
Gardez vre lange sagemēt
And whūne ze shul be amongez folk
Kepe zouir tonge wysly
¶ Et sy auez astūn en chesoū
Pour demonstre vre resoū
And zyf ze haue eny enchesoū
For to shewe zouir resoū
¶ Court et dr soit vre langage
Et le muz orrez ame du sage
Short et lytyl be zouir langage
And pe bettir ze shall be loued of pe wyze
¶ Et quant voilez parler
Et vre resoū demonstre
And whūne ze wyl speke
And zoūr reson chewe
¶ Et si vous soiez a resone
De Jeone home ou de eigne
And zyf ze be a resonet
Of zoug mā ne of old
¶ Ruy entendez bn ne soiez hastiz
Et quant orroūt passez tout lour ditz
Hy vnderstandyp wel et be nat hasty

quant on v p qn acun demonstre jvne dize

130v 86

And whume yey be passed al hair speche
¶ En my lo^a fut regardez ly
Voz pies et mayns ne cules
In myddys p^e ffut hem by holdyr
Zon feet et handez ne waggey nat
¶ Mez sagement et sanz misditz
Respoignez a tout lour ditz
But wysly et w^t oute myssayge
Ausnes to al hair sayge
¶ P^a dien amo^a soiez bones
Et comtez et sagez p^a bien fair
For godyslone beth bone
And quynte et wys for wel to do
¶ Et de beale affaitement
P^a bien a coynt^r one le gent
And of fayr affaitement
For wel to be a coyntet w^t p^e folk
¶ Ne soiez p^r dissafaitez
Jeo voile q soiez affaitez
Ne be ze nouth vn maad
Y wyl p^t ze be maad
¶ Fut bone et cteys
Et p^a bien pler enfunceys
Fre bone et curtays

Par mydiz repoines du been fer bele affe
tenez dissafetez ie affetez

131r

And for wel to speke in ffrensh
¶ Car mult est langage a lose
De jentyl home ⁊ bn ame
For muche hyt ys langaget wel y pyesed
Of gentyl ma ⁊ wel y loued
¶ Faux cete ⁊ faux gent
Cur tote rien ieo vo defend
Falsede ⁊ fals folk
Ou al pyg y zoll defende
¶ Ne iamez a vre voile
Ne auez en cuer astum orgoyle
Ne neue at zoul wylle
Ne hauyp in hte eny pde
¶ Car ceo est le cse de toutz malez
Et chief dez pecchez criminalez
For hyt ys [illegible] of alle eueles
And heued of [illegible] criminalez
¶ Cest le pecche [illegible] le gent
Morer ⁊ fyner [illegible]
[illegible] folk
Deye ⁊ [illegible]
¶ Et alez [illegible] le gent
[illegible]
And gop al way [illegible] folk

[illegible] acum ce touz chief
[illegible] tousiours [illegible]

131v

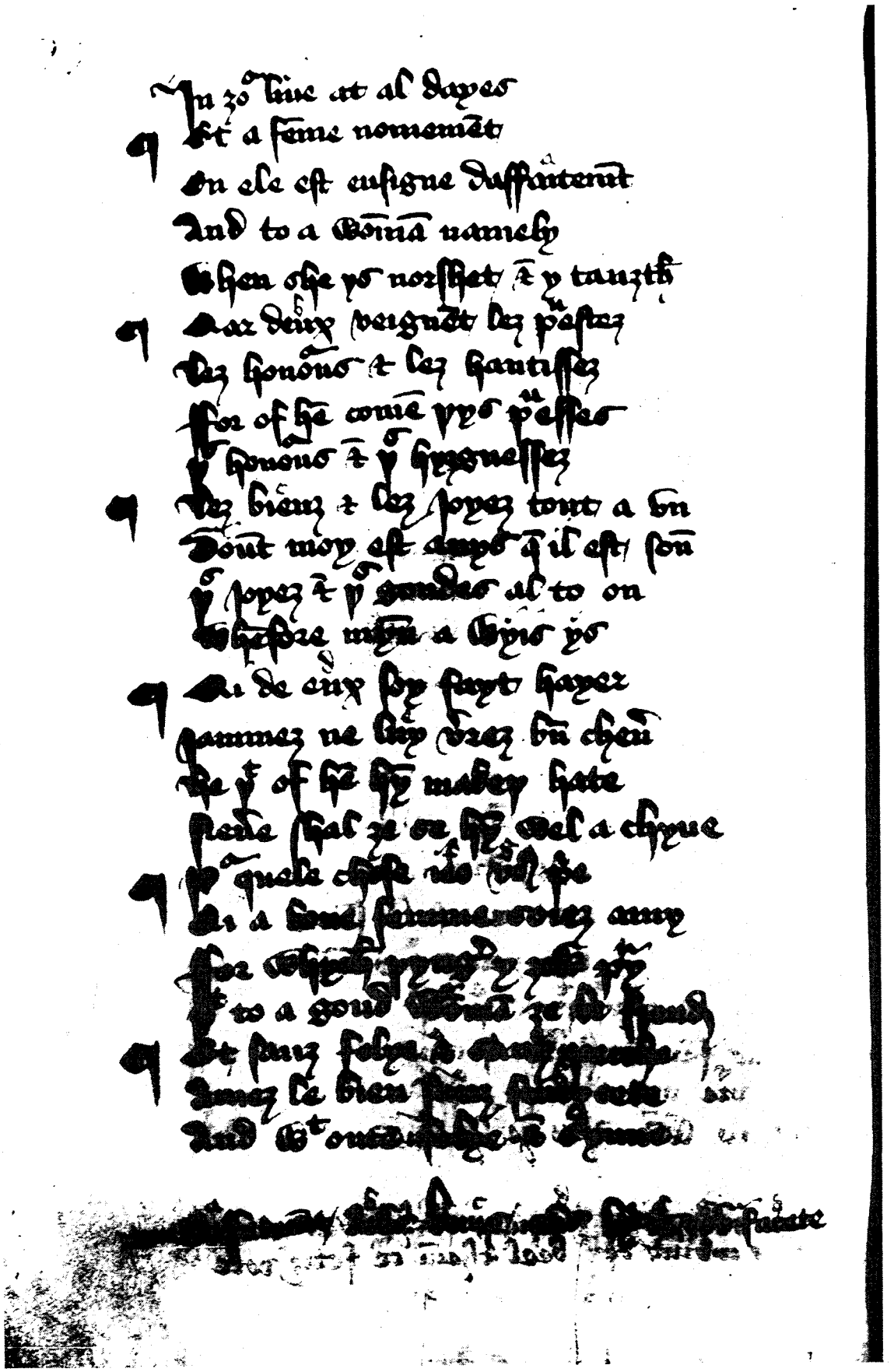
To hey ꝛ lerne a fetemēt
¶ Et soiez de beal conteignemēt
Et portez vos mesnemēt
And be ze of fayr contemenemēt
And bey ze menely
¶ Et ne soiez pr ennyous
Ne plein dyr ne anguissous
And be ze nat ennyous
Ne ful of yr ne anguissous
¶ Unquore vous pe sa tout rien
Ai de pecche vos gaydez bien
Zytt y pry zoll a boue al pyng
Pt of synne zoll kepe well
¶ Et en chescun rien q̄ comencez
De la fyn toutfoitz pensez
And in eny pyng pt ze by gynne
Of pe ende al day thenkey
¶ Et soiez tout io bon cristien
Amez dien sa tote ren
And beth al day a gond cristyma
Loue god a boue al pyng
¶ Dote dien ꝛ seynte eglyse
Amez luy byen ꝛ son seruice
Dowte god ꝛ holy chche

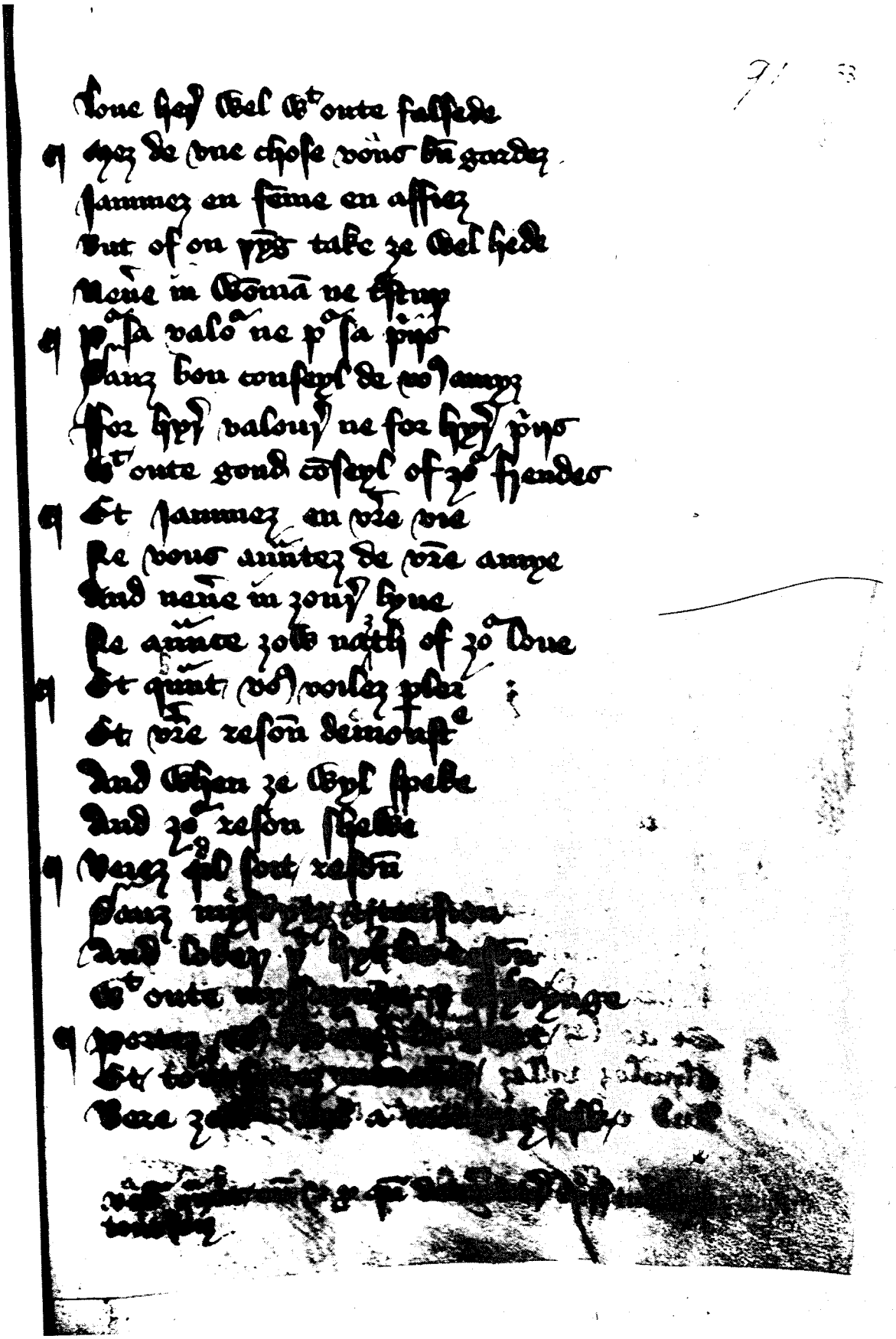
Beel vos reen been chedun cryen dr hy

132r

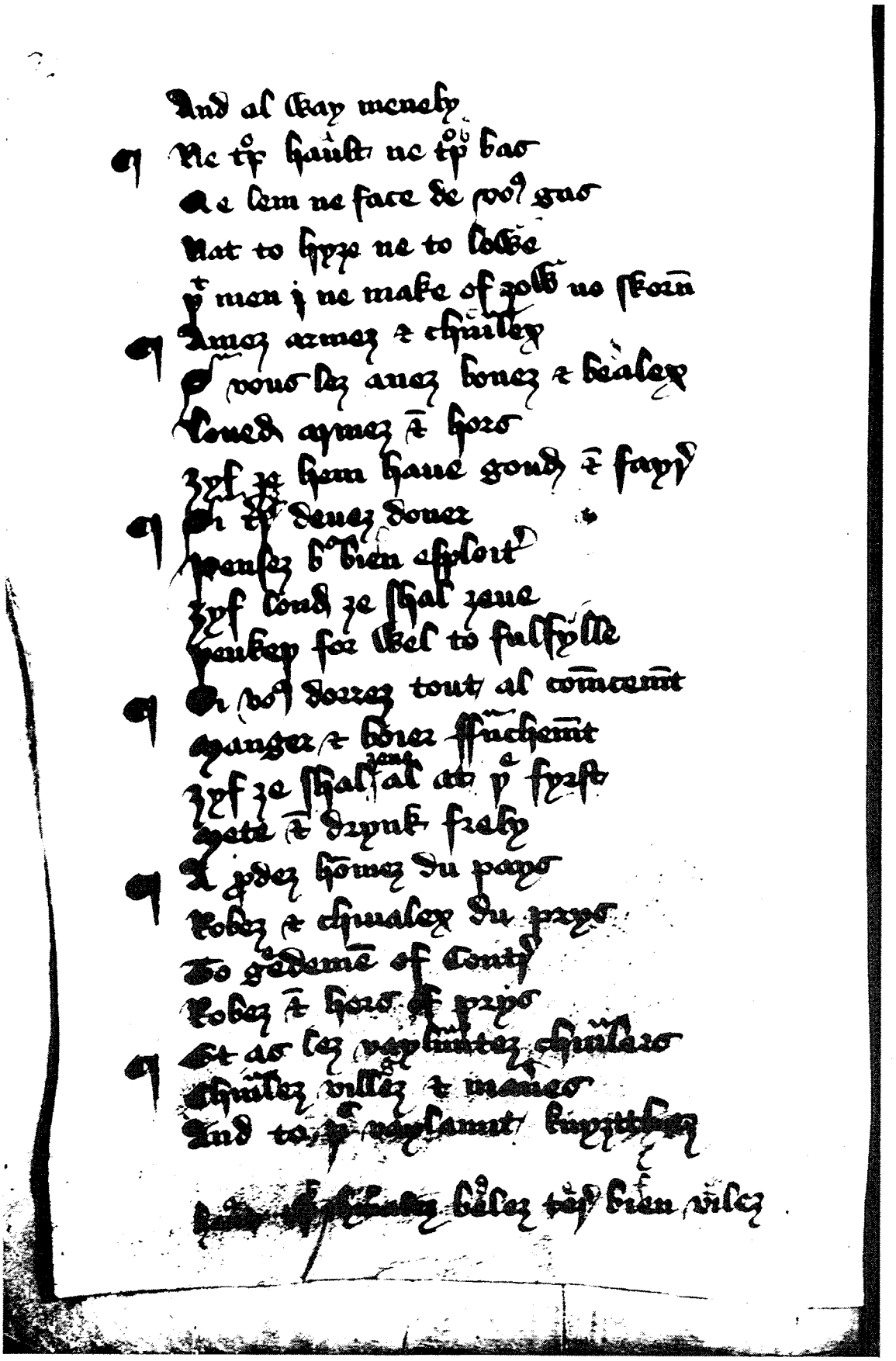
Lone hym wel & hys cruise
¶ Le muz vous auendra a toutz iours
A tote gentz faitez honours
Pe bet shal ze come to al dayes
To all folk do ze honour
¶ Et ore retenez ceo de moy
O uesqz lez bonez vous mettray
And now holdep pt of me
Wt pe gondmen ze melde
¶ Tout iour crez le muz sachant
Le muz ame le plus vailant
Al day ze shal pe more bonne
Pe bet loued pe more y worth
¶ Et vous coment destre amble
Vers tout gent & compaignable
And zow by houyp to be amyable
A gaynez al folk & compaignable
¶ De beal porte vers chescun home
De beal semblant ceo est la some
Of fair port a gaynes euy ma
Of fayre chyr pt ys pe best
¶ Et as femmes faitez honoris
En vre vie a toutz iours
And to woma do ze honours

touz gens fetez ce queqz sachunt cu v vailaunt
cu v cobunt det beel checun ce fetez vote





133v



And al kay menely
¶ Ne tp hault ne tp bas
Ne lem ne face de vo gas
Nat to hyze ne to lowe
p men i ne make of zow no skorn
¶ Amez armez & chuilex
Si vous lez auez bonez & bealex
Loued armez & hors
Zyf ze hem haue goud & fayr
¶ Si tp deuez doner
Pensez b bien esploit
Zyf lond ze shal zeue
Peukep for kel to fulfylle
¶ Si vo dorrez tout al comencemt
Manger & boier ffrachemt
Zyf ze shal zeue al at p fyrst
Mete & drynk frely
¶ A pdez homez du pays
Robez & chiualex du prys
To gedeme of Conty
Robez & hors of prys
¶ Et as lez vaylmntez chuilers
Chuilez villez & maners
And to p vaylamnt knyzthez

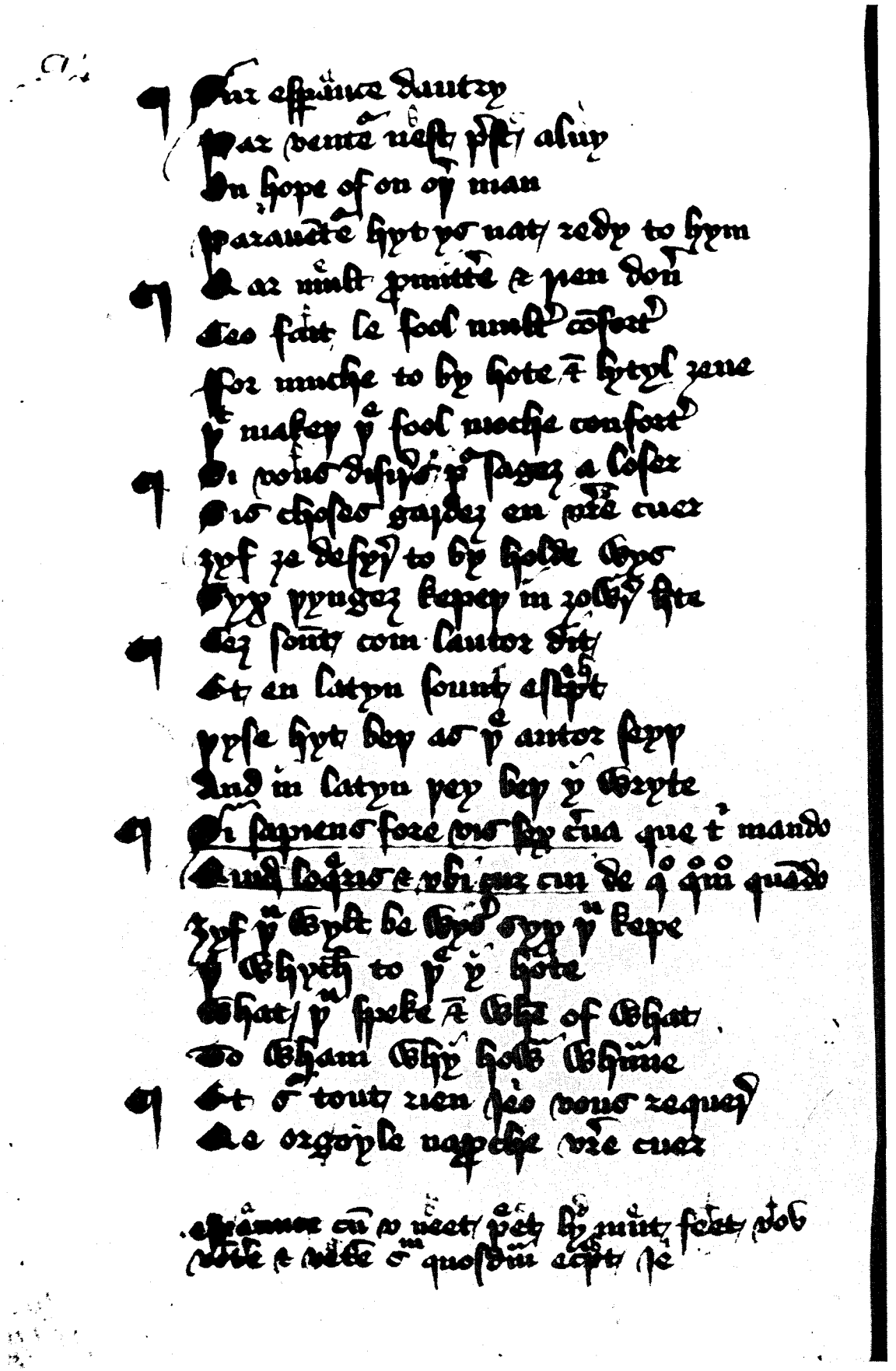
[illegible] belez tes bien vilez

134r

Hors townez ⁊ manez
¶ Et a lez damez beany jewes
Cotez de say fymany dorez
And to p̄ ladyes fayr jewelez
Cotez of say brochys of gold
¶ Et a bourdez ⁊ damyselez
Symplez garlandez ⁊ chosez bealez
And to minstrelez ⁊ damyselez
Symple garlandez ⁊ pyngez fayr
¶ Chose astonfortz est a doner
Et astunfortz a retener
Thyng' op whyle ys to zyne
And op whyle to wyp hold
¶ Si lautor dit en vite
Querez Caton p̄ autorite
So p̄ autor seyp in sothe
Sechep Caton for autorite
¶ Tandu etm aliqd ē cu tēp' postulat aut res
To zeue for sothe pyng' ys
Whn tyme ys askyp of pyng
¶ P̄ dien gardez vous bien
Ne pmittez nulle rien
For god kepe zow well
Ne by hotep no thyng

bebs fumabs acunfoiz de been mile reen

134v



¶ Sur esperance dautry
Par ventre nest prest aluy
On hope of on oy man
Parauentre hyt ys nat redy to hym
¶ Car mult promitte et pen don
Ceo fait le fool mult confort
For muche to by hote et lytyl zeue
Pe makep pe fool moche confort
¶ Si vous disiers pour sagez a loser
Sis choses gaidez en vre cuer
Zyf ze desyr to by holde wys
Syx pyngez kepep in zowr hte
¶ Cez sont com lautor dit
Et en latyn sount escript
Pyse hyt bep as pe autor seyp
And in latyn pey bep y wryte
¶ Si sapiens fore vis sey cura que tu mando
Quid loqueris et vbi cur cui de quo quomodo quando
Zyf pu wylt be wys syx pu kepe
Pe whych to pe y hote
What pu speke et whe of what
To wham why how whame
¶ Et sur tout rien ieo vous requer
Ne orgoyle naproche vre cuer

esperance cum vo neet pet hy mut feet vob
vote et vete sm quosdm ecpt ie

And a boue al pyg y zoll by seche
Pr pde aperche nat zouy hte
Il distr totez vtuez
Et ouste dome lez bouez duez
Hyt distriep alle vtues
And castep fm ma p goud theues
Si home ad bienz et soit sachant
Bien forme et vailant
Zyf ma hap goud et be conynge
Well y formed et vailant
Si orgoile soit en luy
Soutz sez bienz il ad pdy
Zyf pde be in hym
And al hys goudes he hap y lost
Com en escripte est true
Et est veir en vite
As in Crytt hyt ys y founde
And hyt ys sop in sothe
Si t copia seu sapiencia form qr det
Sola sbia destrut oia si comitet
Zyf plente Kyp shappe to pe be zene
Only pde distryep alle zyf he p to be put
Et ue soiez conrions
Et de tensiones gaidez vos

Il dist ouztte beuez sachaunt cu v vailaunt
cu v ly touz qil ecte vob

135v

Ne be nat couurious
And of chydynge kepe zoll
¶ Mult est beale vileinne
Destre vencuz en tensorye
Muche hyt ys a fayr veleynie
To be ouercome in chydynge
¶ A ceo concorde Caton et dit
En les vers com est escript
To yt a cordey Caton et seyy
As in ys verse hyt ys y Kryte
¶ Contra verbosos noli contendere verbis
Sermo datur cunctis animi sapientis paucis
A zemis Kord me stif nat Kt Kordis
Kord ys zeue to euy ma but Kysdo to fe
¶ Parole est done a chescuny
Mez sachaute nest en luy
Kord ys zeue to euy ma
But conynge ys nat in hym
¶ Oyen parolez est estrnour
Et Jamez ne vendu al honour
Yt in Kord ys a stryuour
And neuer shal he com to honour
¶ Vne chose vncquore ieo voile vous dire
Ne soyez Jamez plein de yre

Mult bele deeti ce dyt ecrit checuny sach
Annee cum v neet ly estnour

Du pp

136r

Ou pyng zyt i wyl zow teche
Be ze ven ful of wrathe
¶ Hatie toutfoitz il engendrer
Concordaunce amour vent rendrer
Hate alway he engendrep
Concordaunce loue wyl zelde
¶ Ira odium gerunt concordia nutrit amorem
Whethe hate gendrep acord norshep loue
Veiez que ne soiez losenger
¶ Loke ze be no losenger
Vers dame ne vers seignour sa
A gaynes lady ne lord
¶ Et als desirent que vous monstrez
Toutz lez mals que vous sauez
And zyf pey desyr pt ze shewe
Alle pt euelez pt ze knowe
¶ Ne pensez mys eux en paier
Mez pour bien dire sanz greuer
Ne penkep nouzth he to paye
But for to say wel wt oute greuance
¶ Pour dien ne vous a costomez
Descharn homme que vous poiez
For goddys loue a costome ze nazt
To skorne man zyf ze may

toutfoiz il vob mobtre eus bein de cotomez
de chaqun

136v

¶ Tout qil soit poures & boseignous
Ou qil ne soit si beaux come vous
Zouzgh he be poure & nedy
Or zyf he be nat as fayr as ze
¶ Sire dome ne si vailmt
Ne si cortais ne si sachant
So fayr ma ne so vailmt
Ne so cortais ne so conynge
¶ Ja pour ceo ne luy escharnez
Car par escharner bien sachez
Neuer for pt hy ne storney
For by stornynge ze knowe well
¶ Ne serez jammez a lose
Mez hay mult & rebette
Ne shal ze neuer be a loset
But hatyd muche & rebatud
¶ Caton le sage eseigne & dit
Et en son liure diuine & myt
Caton pe wyzema tehep & seyth
And in hys boke diuinep & puttyp
¶ Corpis exigui vires contepne noli
Dyspize pu nat pe body of a lytyl ma
Le petit corps dascun home
Ne escharnez ceo est le sume

Bebes vailmt cu v ce ly mut corps dacun cet

pe lytyl bodz of eny mā
Ne skorn̄ p nat pe ys pe sume
¶ Et tout qil vit enpones
Vncquore ne luy escharnez
And pouzgh he be pouy
zyt hy ne skorney nouzth
¶ Paupertatꝰ onus pacient fepꝰ memēto
Of pourte pe chaige paciently haue mynd
Ne sdiez hastiz ne irres ¶ to bey
Toutfoitz de ceo bn̄ vous gardez
Be nat hasty ne hangry
Al Bay of pe Bel zolb kepe
Iratꝰ Rex nescit distnery verū
pe angry mā of pynges ne cā nat distne
¶ Vnquore fitz escotez ¶ pe sope
Et vn poy aprndrez
zyt chyld take hede
And a lytyl lerney
¶ Ne en scripte jay tne
Et en latyn translate
pt in scripte y haue fonde
And in latyn y translated
Qui est laudatꝰ qui nest vituperatꝰ
He pt cā ys to preyse he pt cā nat ys to dyspyze

hy toutfoiz fiz ecotez ctuy

137v

¶ Quy bn̄ entent ⁊ souent lytt
Prouw aura ⁊ dylytt
He pt wel entendt ⁊ y nouth redey
Prouw he shal haue ⁊ delyt
Inicium sapie timor dn̄i
¶ Salamō Le sage dit en son liure Que conuiceunt de bien vnie
In py bygynnyge dred god
Pe wyzeman seyth in hys bok
Pt pe bygynnyge of goud lyf
¶ Sur tote rien est doter
Dampne dien ⁊ luy honorer
A boue al pynge ys to doud
Dredful god ⁊ hy worshepe
¶ Salomō In bonis sit cor tuum in diebz iuuentutis tue
⁊ a corde tuo amoue maliciam
In goud pynges be py hte In pe dayes of
pyn zoughed And fin py hte enyl to putte
¶ Lautor dt quy vre entente
Mettre deuez en ta iuuente
Pe autor seyp pt zo entente
Putte pu sholdez pyn iuuente
¶ De touz pecchez vous retheyr
Et bonez couprus vser ⁊ fayr
Of all synnez zouw to wt drawe

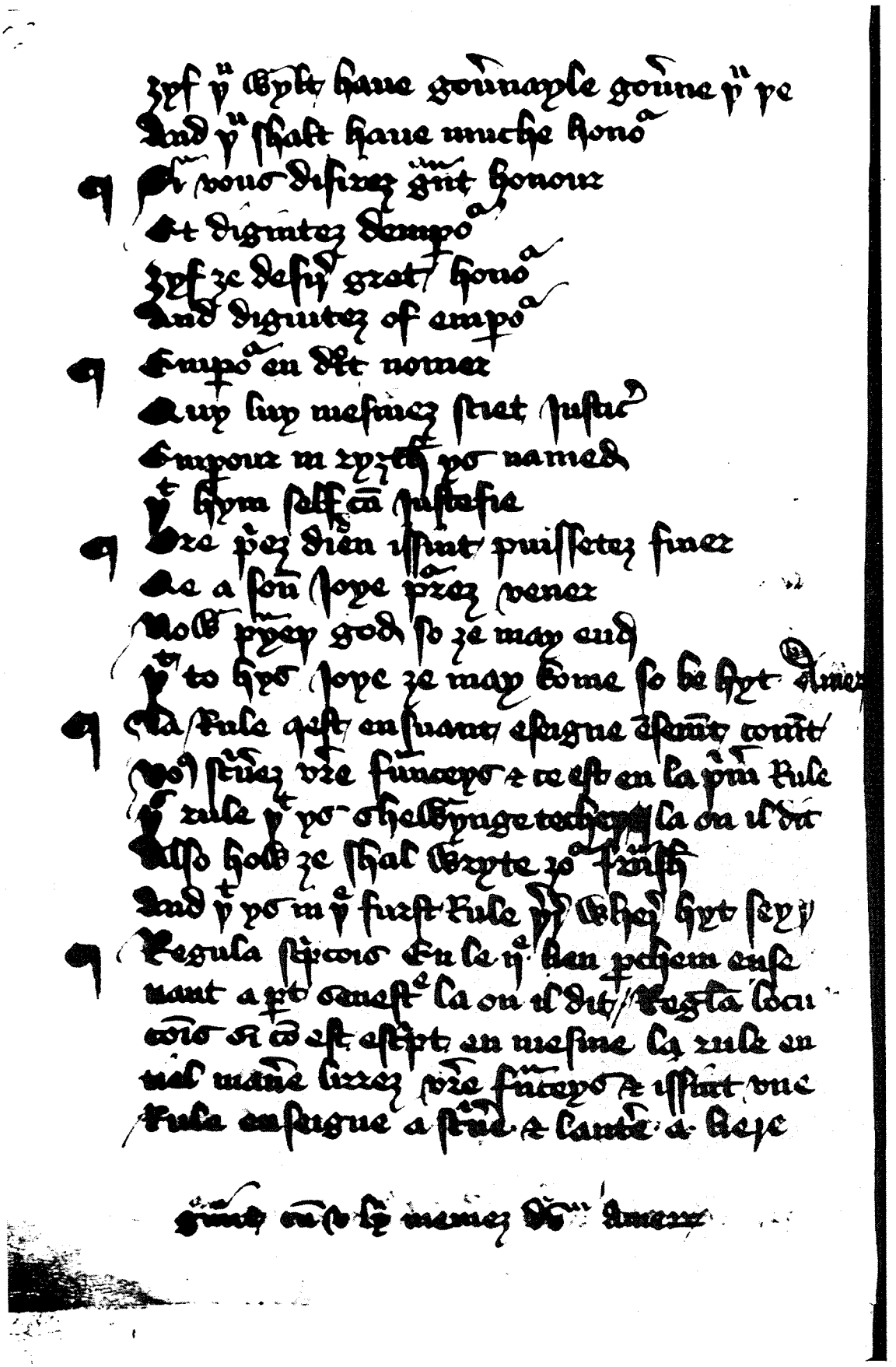
Beyn reyn damne dv ly ovrs fey

138r

And goud werkys vse & doo shal be
¶ Qui odit correpcoem icipies erit qr meliꝰ e
a sapiete corigi qꝫ stultorꝫ vba adulari
He pt hatyp vudrnymyg vuwys he for bet ys
of wyze to be corectud pn of folys in wordys
¶ Si vos haiez dest reps ¶ to be shamed
Ne sirez jamez bn aps
Zyf ze hate to be vp take
Ne shal ze neu be wel y loued
¶ plins vault tesou de vdiso
Ne beal disteyt de fauy meton
More ys worth chydynge of a twe seis
Panne fayr disteit of fals lies
¶ Eliniosina pgat pctm & fact mtꝫ in vita etnaz
Almesdede pgyp synne and makep me to ent
Bon est est alinoign ¶ eu lastyng lyf
Dez bieuz q prez gayneis
Goud hyt ys to be a almeszeue
Of godes pt he may gete
¶ Dez voz pecthez remission
Et vie pduꝫ ble en guerdon
For zowꝫ synes remission
And lyf eu lastynge to mede ¶ magnu honore
¶ Vis hei magnu nupnu nupate & hebis

Seis vos det vabt beel fabs benis

138v

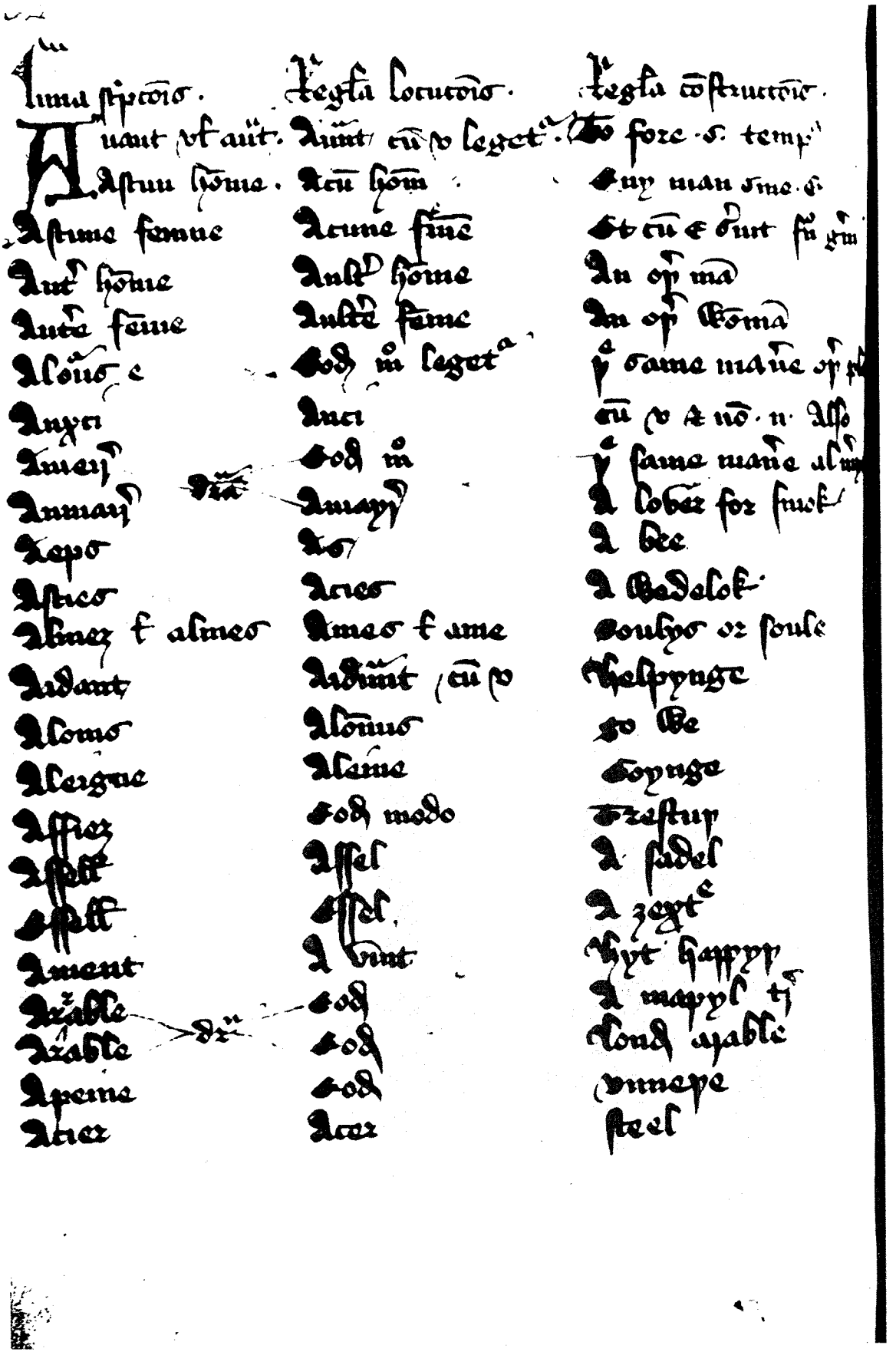


Et en le tierce lien qest demise la on il dit
Regla constructois ceste rule enseigne le en
glysch dez voz polez de ffrannceys et en tiel
mane la prim rule enseigne p̄ scrive la scde
p̄ lyr la tierce p̄ entende et ensemet en
seigne plusours differencez du ffrannceys
Regla scripcois In p̄ scde place nyyt folwy
nge on p̄ lyst syde p̄e whei hyt seyp
Regula locucois as hyt ys wryty in p̄
same rule in whych mane shal ze rede
30 frensch et so on rule techep to wryte
and a nop to rede and in p̄ iij place p̄e
whei he seyp Regla constructois p̄ rule
techep p̄ englys of 30 wordez of frensch
et in whych mane p̄ fyrste rule techep
to wryte p̄ scde to rede p̄ pryde to vnder
stand and also hyt techep manye dyffe
rencez of frensch

Incip̄t autor hoc kalendar p̄ A
Et ordine cū suis sequentibz finit
Cest kalender comte p̄ A
Et ordinelmt funst one sez ensuantez

139v

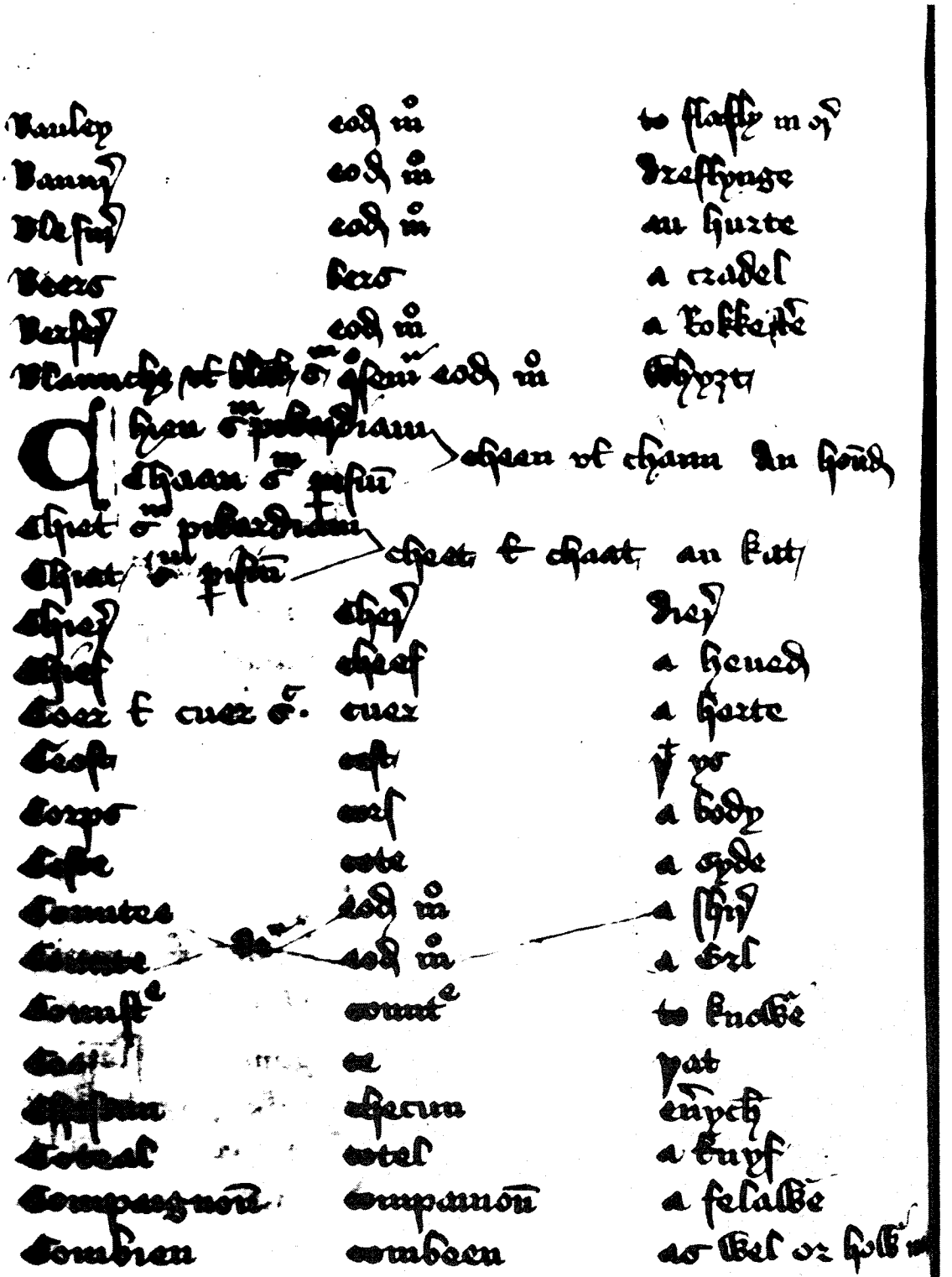
Lima scriptionis.	Regula locutionis.	Regula constructionis.
Auant vel aut.	Aut cum v leget.	To fore s. temp
Astun homme.	Acu hom	Eny man sme. s
Astune femme	Acune fme	Et cu e sunt fu gm
Aut homme	Aut homme	An op ma
Autre femme	Autre femme	An op Roma
Alous e	Eod m leget	p same mane op pl
Anxi	Anci	cu v et no. n. also
Amerj	Eod m	p same mane al m
Anmarj	Amarj	A lover for smok
Aeps	As	A bee
Astics	Acies	A Bedelok
Almez t almes	Ames t ame	Soulys or soule
Aidant	Aidunt cu v	Helpynge
Alonis	Alonus	go Be
Aleigne	Aleine	Coynge
Affiez	Eod modo	Trestup
Assell	Assel	A sadel
Essell	Essel	A zeyt
Ament	A vint	Hyt happyp
Arable	Eod	A mapyl tj
Arable	Eod	Lond ayable
Apeine	Eod	vnnepe
Acier	Acer	steel



140r

[illegible]senesp	[illegible]eneq	A erschebisshop
[illegible]lmoigner	amenir	an almeszene
[illegible]mbedeux	ambedeus	bop^e to
[illegible] dat^o casin	vt a mon ch a my	as to my dey fud
[illegible] acut^o in singlap	vt ad villa ibo	to tolbne y shal go
[illegible] eid in plurali	vt ad villas ibo	to tolbnys y shal go
[illegible] apud	vt dat^o apd lond	I zene at londone
Bien	ben	wel
Bean	beb	fayr
[illegible]eal home	beel	fayr in masclino
[illegible]eal feme	bele	fayr in feio
[illegible]ousthe	bouche	a mouth
[illegible]leise	eod m	to lypse
[illegible]ys	eod m	est
[illegible]aas	eod m	west
[illegible]oseigne	boseyne	nede
[illegible]ale	bale	happy
[illegible]ale	eod m	a bagge of pyper i bale
[illegible]aleie	eod m	to blete
[illegible]aile Dr	eod m	to gone for slep
[illegible]ayle	bayle	to take pyg to kepe
[illegible]aylye	eod m	to swope
[illegible]euez	eod m	dryng
[illegible]ye	eod m	aske

140v



141r

Coment	Covint	hyt by houyp
Ceanx vt cenx	Ceus	pylke
Centier	Center	to make Wyp chyld
Coignier	Coyner	a coynte
Coigne	Coyne	a Wech
Coignier	Coynour	a koyno to make mouey
Chalandi	Chalandi cū v	a Wodelarke
Ceal in fei ceale	Cel in fei cele	Wych on
Cigne	Cyne	a Swan
Chatoner	Cod	to crepe
Chasteff	Chatel	a castel
Chinanx	Chinabs	a hors
Chiekier	Cheker	a cheker
Chimp	Chavmp cū v	a feld
Doos	Dos	a Rugh
Deis	Eod m̄	Syngres
Deniz	Ead	Wyp ynne
Doulce	Douce	Swete
Demonste	Demonte	Shewe
Desaitez	Desei:ez	vn mad
Dieux f dieu	Deu	god
Demande	Demannde	aske
Draps	Dās	cloth
Deste	Dete	to be

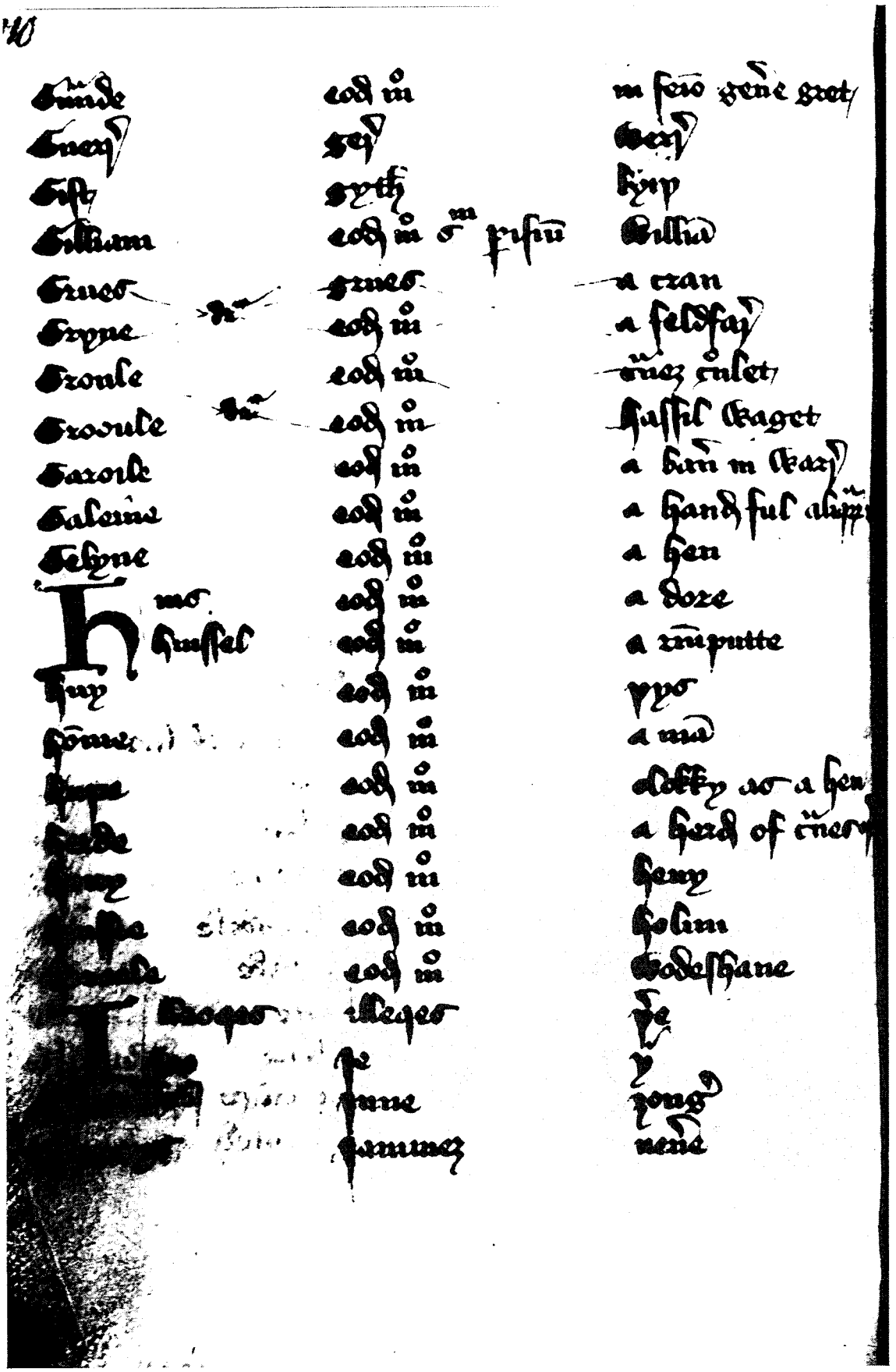
141v

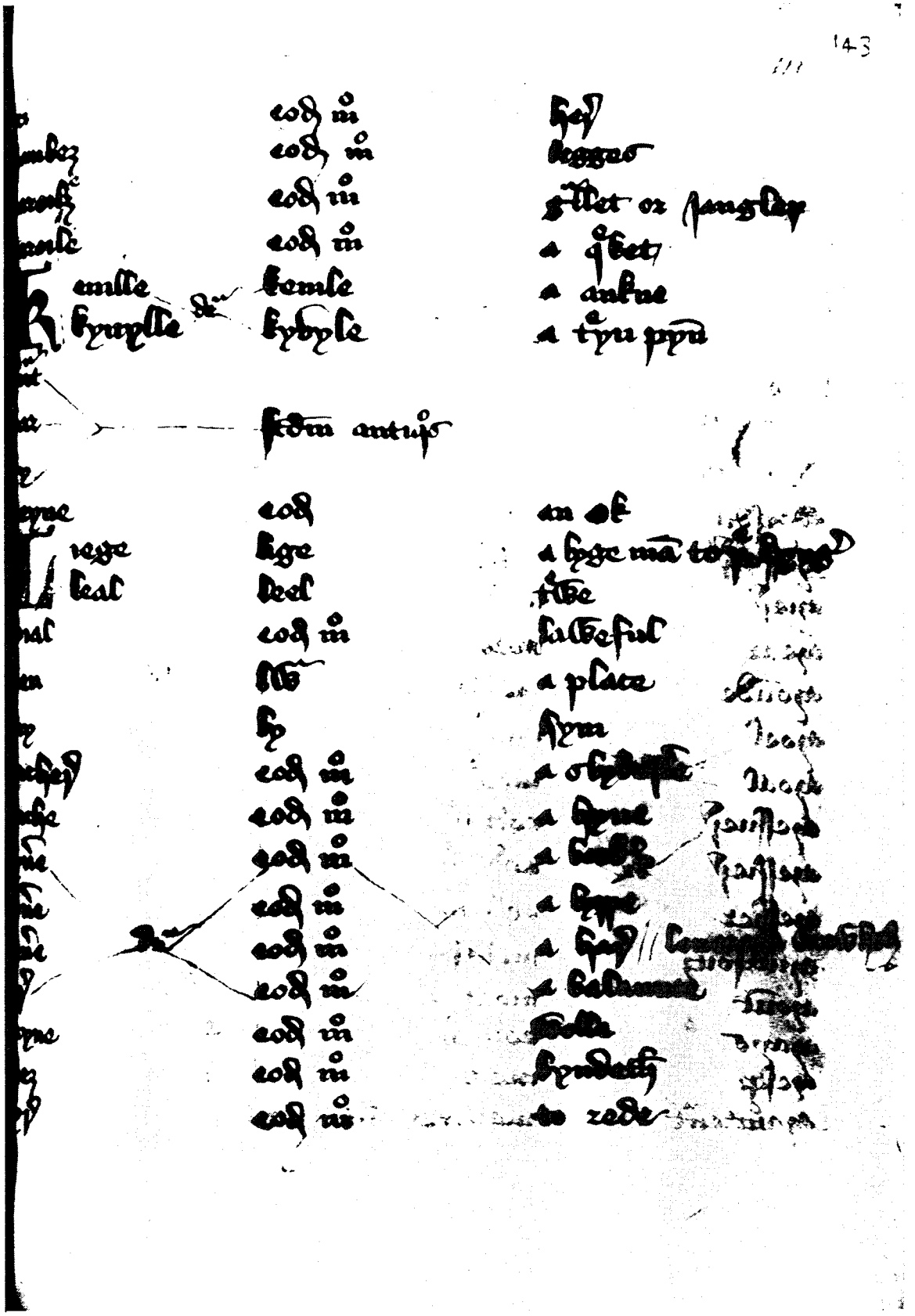
Deeistier	deist	to stande
Dame	ead	a lady
Daam	dam	a deo
Disme	dyme	a tenthe part
Disormez	eod m̊	fro hennes forbe
Deuant l deuant	deuannt cū v	to fore
Esploit	eploit	to fulfylle
Este	ete	to be
Est	eyzth	ys
Eistier	eister	stande
Eigne	eyne	old
Esglise	eglise	a cherche
Eueske	eueke	a bysshop
Eschuer	echuer	to eschue
Escharuer	echarner	to storne
Estable	etable	stable
Escript	ecript	y wryte
Esmond	edmound	emound
Espreche	epreche	rakfle aft slep
Eyles	ead m̊	fynnes of fyssh
Eles	ead m̊	wyngges of bryd
Espaudre	epaudre	distone cosayl
Espaundre	epaundre	shede mete
Espeandre	epeandre	spele lettrys

142r

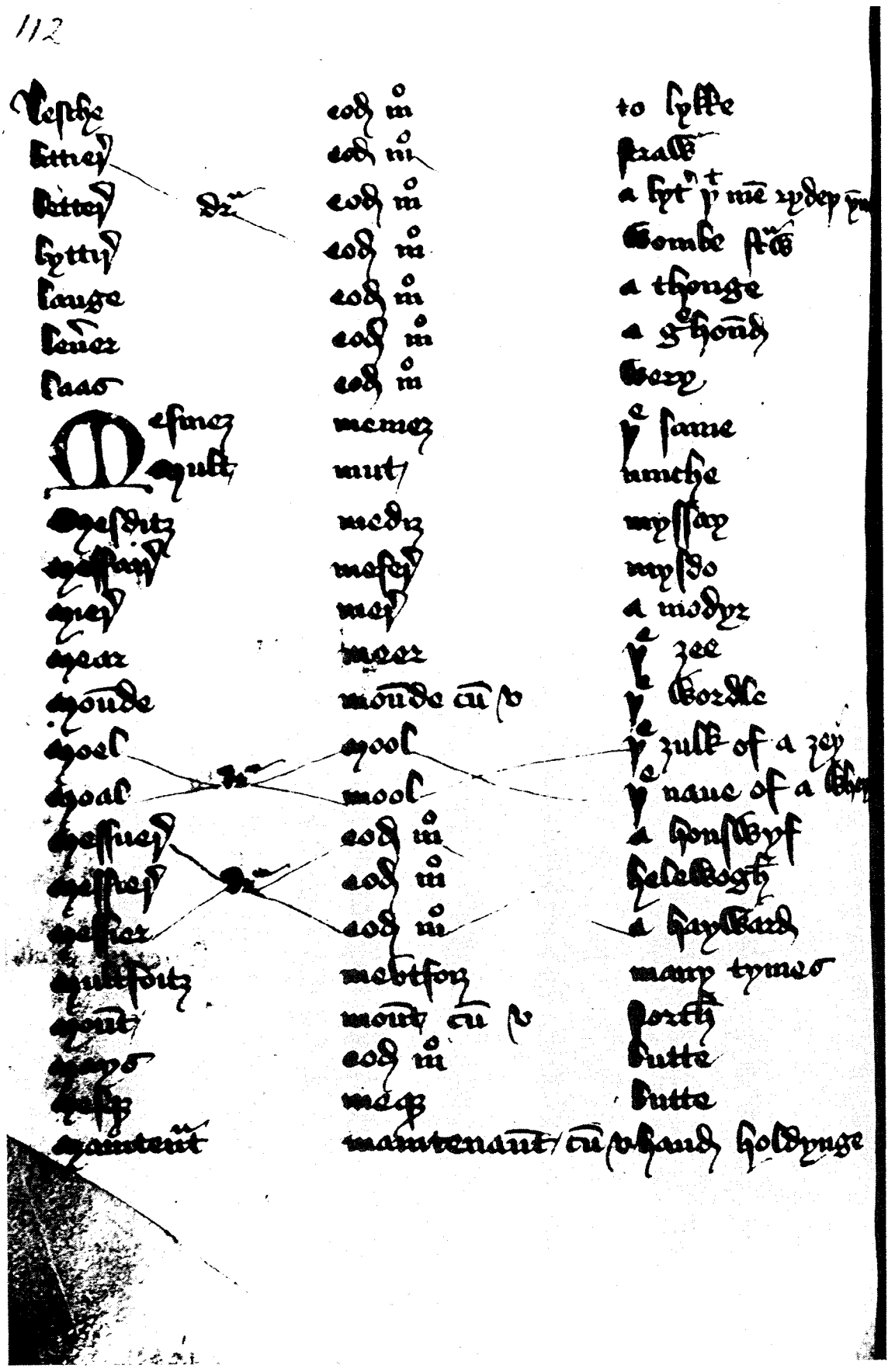
[illegible]fūt	enfūnt cū v	a chyld
[illegible]eaut	eteannt cū v	beuyge
[illegible]uesse	eod m̄	drouknesse
[illegible]rde	eadē	a herd of feldfarē
[illegible] herde cū h script.	dicit a herd of cūnes op̄	of deer
P[illegible]ust vl sic.	feyt	was
[illegible]ffuust	funt	endep
[illegible]	fizth	dede
[illegible]tz	fiz	a sone
[illegible]	eod m̄	a douzt
[illegible] dr̄	eod m̄	a dred
[illegible]lz	eod m̄	sones in plū
[illegible]n	eod m̄	fier
[illegible]nn	eadē m̄	houger
[illegible]nne	eod m̄	smyche of fier
[illegible]	fez	to do
[illegible]uycete	fausete	fallede
[illegible]ne	eod m̄	a wōmā
[illegible]sil	eod m̄	a spyndele
[illegible]espo	forpo	on take
[illegible]esq	forq	butte
[illegible]be	eod m̄	a bene
G[illegible]nt k graut.	gūt oz sic leget	gūnt cū v sonā [illegible]
Gute dr̄	eod m̄	ẏ gūnted

142v



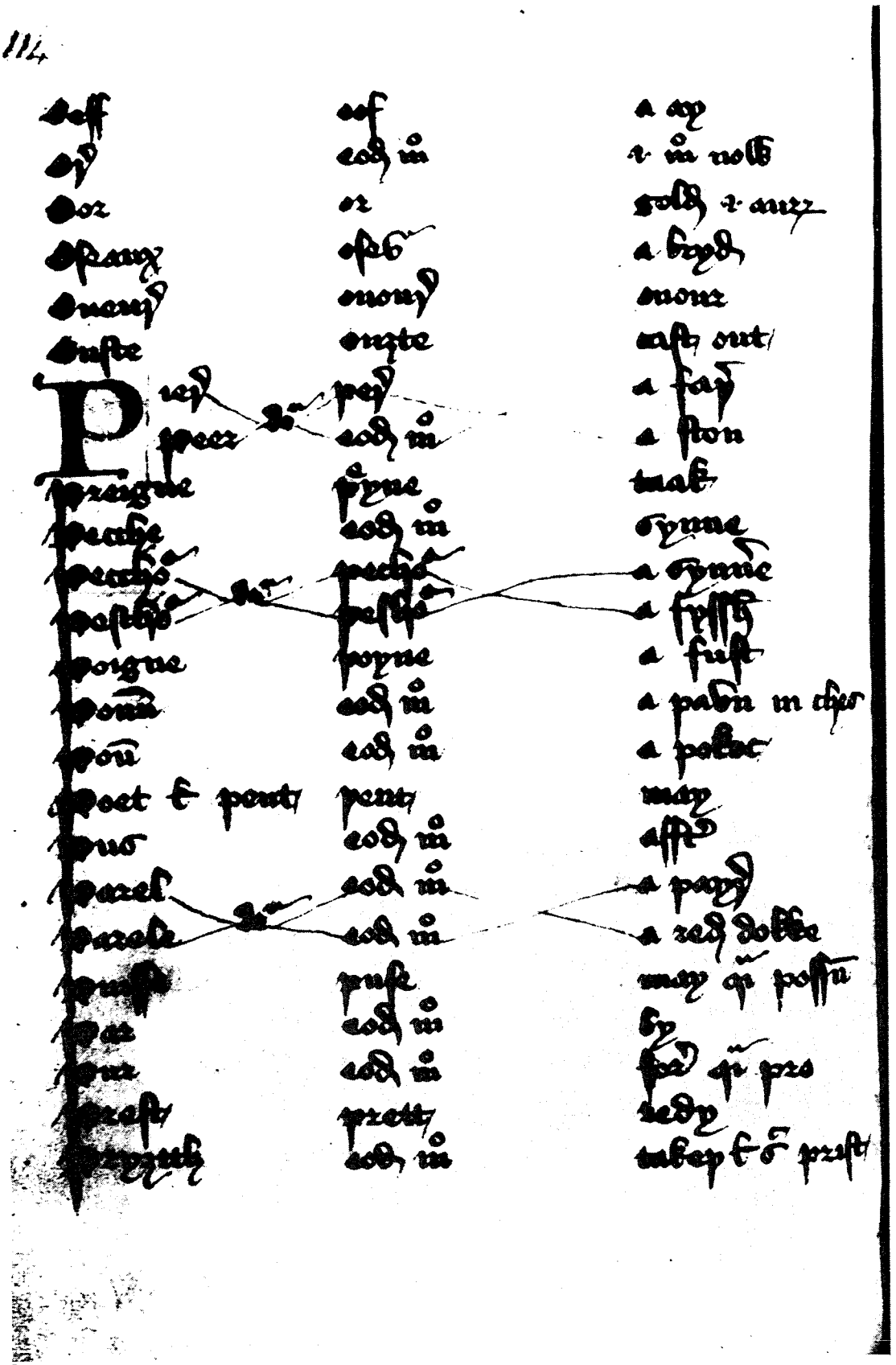


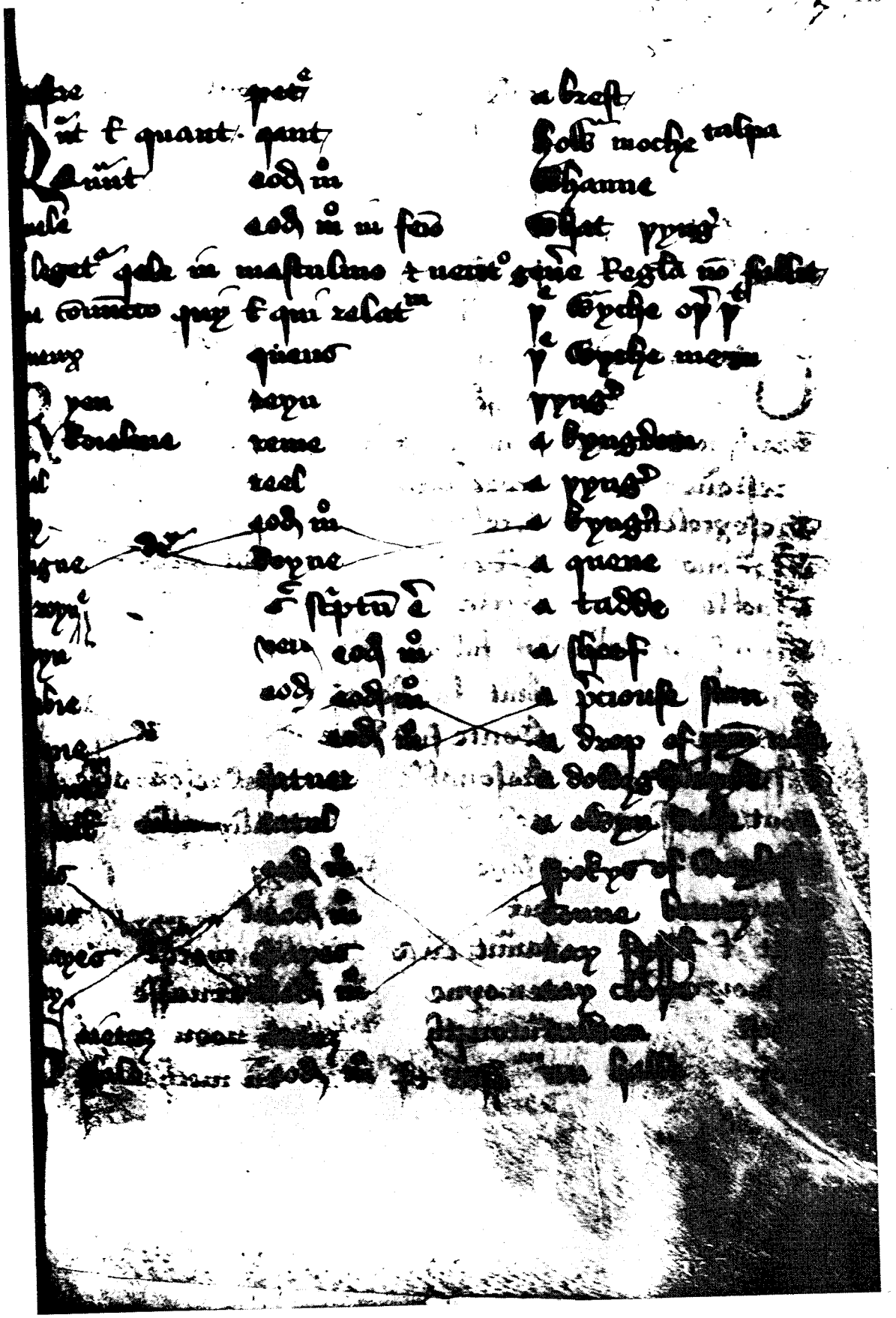
143v 112



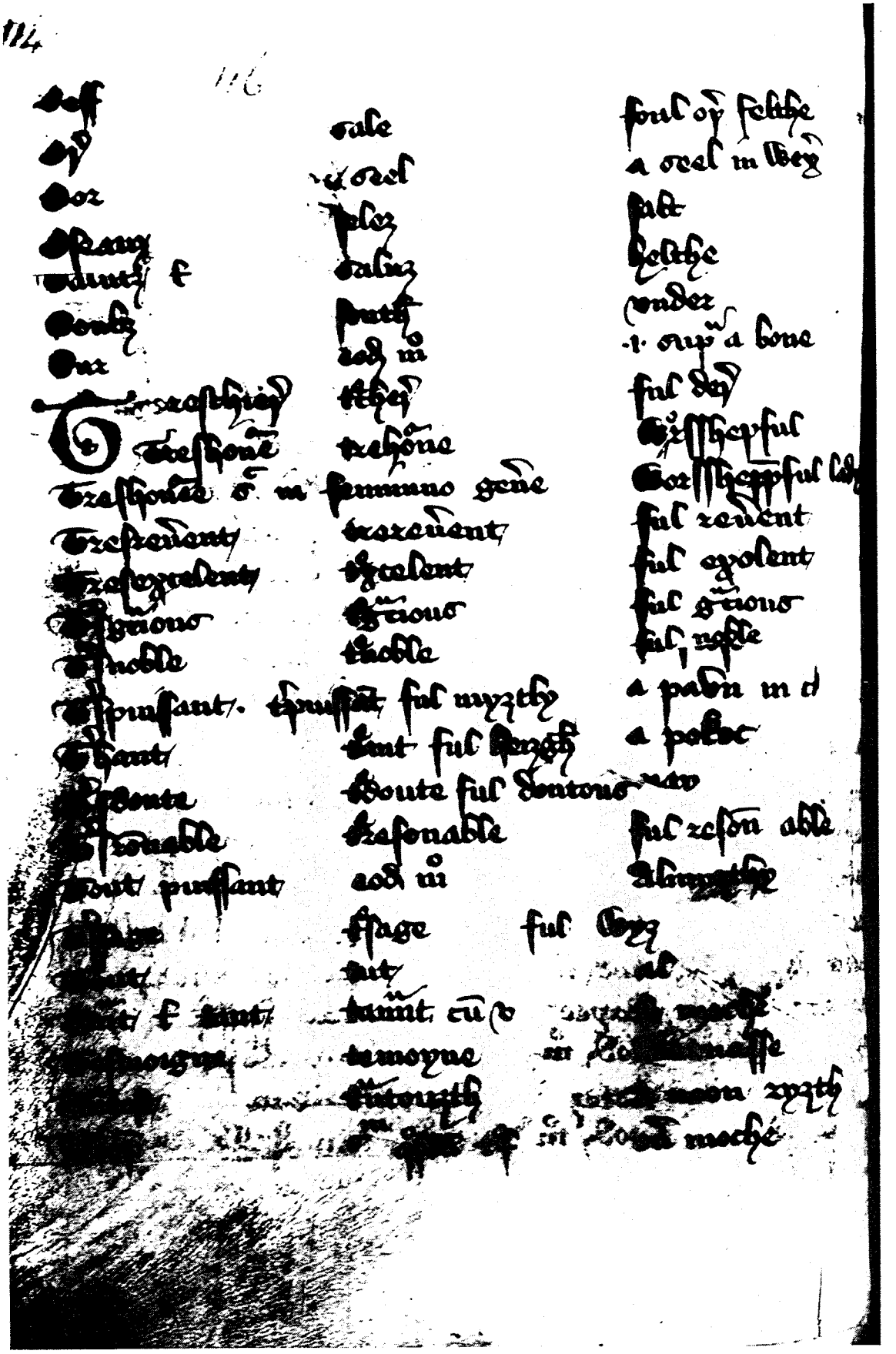
[illegible]mz	eod m̊	lasse
[illegible]nour	eod m̊	more
[illegible]sgi	megi	lene
[illegible]asou	mesou	a hous
[illegible]sdre	medi	best
Nient	nemt	nat
Nest	neet	nys nat
[illegible]es	nes	ẏ bore
[illegible]ff	eod m̊	[illegible]
[illegible]ff	nyff	a shyp
[illegible]f	eod m̊	a bondema
[illegible]se	eod m̊	a zelke a reddryr
[illegible]ase	nees	a nose
[illegible]stie	natie	[illegible] of ẏ noze
[illegible]stiej	natiej	to [illegible]
[illegible]er	eod m̊	to [illegible]
[illegible]er	eod m̊	to drolkne
[illegible]ger	eod m̊	to [illegible]
[illegible]ger	eod m̊	to [illegible]
[illegible]dgars	nagars	i. nomit [illegible]
Oilez	enlez	eyen
Oraylez eren	ꝫ horaylez cu h	[illegible]
[illegible]	ous	a bon
[illegible]	use	[illegible]

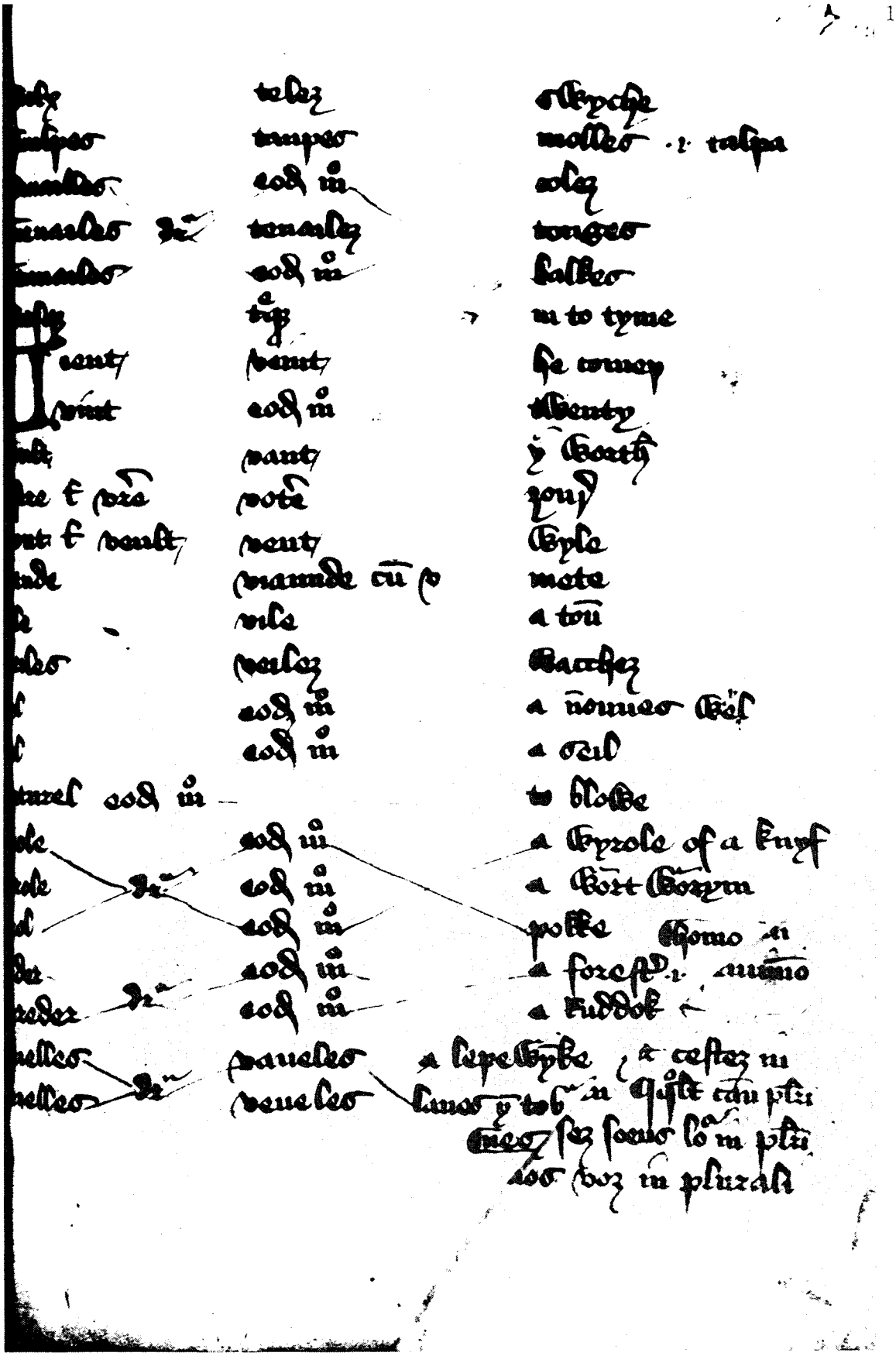
144v 114



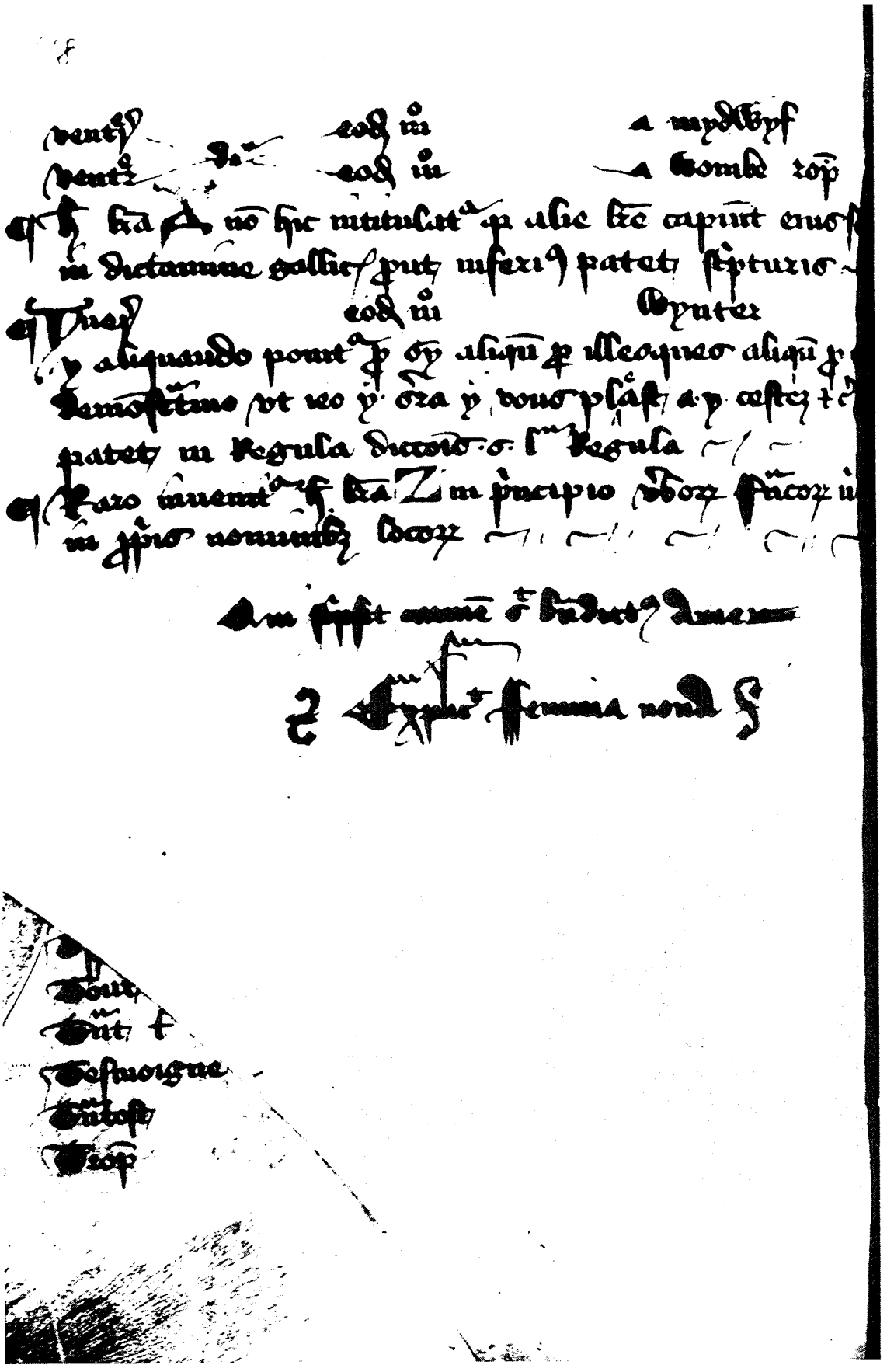


145v





146v



9) *Liber Donati*

Explicit ffemina nova と *Femina* の叙述が終る146^{v}と次葉147^{r}より数詞が書き写されてあり，曜日の語彙に続いて代名詞（単数復数）の説明がある。147^{v}から動詞活用変化が示される。動詞は amer, estre, voloir である。当該写本にあっては148^{v}で文法は終る。

4世紀の文法家 Aelius Donatus の著わした *Ars Minor* のラテン文法は，その後中世において作成された文法書の拠りどころとする模範本であったから Donatus の名は権威あるものとして屢借用され，ラテン文法だけではなくフランス文法教本にもその名はあらわれた。Liber Donati（15世紀）あるいは Donait français（15世紀，John Barton 作成）などとフランス文法書は名付けられている。13世紀以降に著わされたフランス文法書は Donatus の手法を踏襲しているのである。筆者の転写した文法（147^{v}—148^{v}）もその例に洩れない。本文転写各行の次段にイタリック体をもって異本の *Liber Donati* の記述を加えておく。説明文の文言の多少の差異，順序の異同はあるがそれらは容易に比較し得るからである。

代名詞に関しては Cambridge Univ, Library MS Gg 6. 44（14世紀）［Gと略す］f. 19^{r}に記載されてあるところを写し，数詞，名詞，動詞活用については Cambridge Univ. Library MS Dd 12. 23（15世紀）［Dと略す］ff. 2rb—3ra, 4^{va}および6^{v}, 7^{r}に記載されている変化形を記した。*Liber Donati* というタイトルは［D］f. 13^{r}に記されている。尚，転写については Brian Merrilees & Beata Sitarg-Fitzpatrick ed., *Liber Donati : A Fifteen-Century Manual of French* Anglo-Norman Text Society, *Plain Texts Series* 9, London, 1993を参照した。

数詞については Cambridge MS B 14—40に記された quatre vyntz という表現が septaunt, oettaunt, noefaunt と共に注目に価する。動詞変化については vous と tu の活用に混同があり，estre 活用にあっては接続法半過去と条件法現在の混同が見られる。動詞 voloir には半過去形に稀な活用が示され，接続法半過去形は［D］にアングロノルマン3人称の特異な形が表記されている。

I II III IV V VI VII VIII IX X [147^{r}]

1. un deuz treys quatez cynk cys sept oet noef dys
(*D* f. 7^{r}) *un, deux, trois, quatre, cinque, sis, sept, oet, noef, dis*

2. unsze dusze tresze quatorze quynsze sesze dyssep
unsze, dousze, tresze, quatours, quinsze, sesze, disept,

X X X XI X X X X L

3. disoet disnoef vynt vynt um etc trent e un etc quarant
disoet, disnoef, vint, vint et un, etcetera, trent et un, quarant et un, et cetera,

4. Cynguant sessaunt septaunt oettaunt vel quatrevyntz noe/faunt
cinquant et un et cetera, sessant et un et cetera, septant et un et cetera, oetant et un et cetera, noefant et un et cetera,

C CC

5. Cent deuxcent CCC CCCC D DC DCC DCCC DDCCCC myll etc
cent deux, centz trois, centz mile ou milers, un mile, trois mile, et cetera.

6. Le p*r*imer secunde tierce quartre
Le primer, le secunde, le tierce, le quarte

7. quynte cysme septisme oetime noefisme disme
le quinte, le sisme, le septisme, le oetisme, le noefisme, le disme

8. onszysme douzysme treszysme quatorszisme quynszisme
le unsisme, le dousisme, le tresisme, le quatresisme, le quinsisme

9. seszysme disseptisme disoetisme dysnoesme vintysme vynt
le seisisme, le diseptisme, le disoetisme, le disnoefisme, le vintisme, le ventisme

10. P*r*im*er* etc trentisme quarantisme cynquantisme sessantisme oet/antisme
primer et cetera, le trentisme etc. quarantisme, le cinquantisme etc. le sessanfisme, le oetantisme etc.

11. noeffantisme centisme millisme
le noefantisme etc. le centisme etc. le milisme. l'an de grace milisme, quatrecentisme quarantisme et septisme et cetera.

12. lunedy marsdy mekerdy jeody venderdy samady
(*D* f. 6^{v}) *Lunedy, marsdy, meskerdy, jeofdy, vendredy, samady,*

13. dysmenge hier huy demayn lendemayn l'aut*r*ejour
dysmeinge, hiere, hui, demayne, lendemayne, l'autre jours, l'autriere

14. semange quynseyne troys semangnez moys q*u*arte an de/my an
semaiqne, quinsizme, trois semaignez, mois, quarte an, dlemi an.

15. Ego in no*minativo* casu je et aliqu*is* moy et in ceteris casubz
(*G* f. 19^{r}) *Ego je / moy in noninativo singulari, in ceteris casibus*

16. in singlari moy us me et in q*uol*i*bet* casu plurali nous
singularibus moy vel me, in quolibet casu plurali nous.

17. in no*minativo* tu et in aliqu*is* cas*ibz* in sing*u*lari toy us te et in plurali / in
Tu in nominativo, in ceteris casibus singularibus toy vel te, in quolibet casu q*uo*b*ibet* casu vous
plurali vous

18. il us cyl ponu*ntur* semp*er* in no*minativo* casu
Ille, il et cil in nominativo, in ceteris casibus singularibus,

19. celuy luy se et soy in q*uol*i*bet* casu in singlari ils et semp*er* in
luy, cellui, se et soy, ils in nominativo plurali,

20. no*minativo* eux ceux les et lo*ur* in q*uol*ib*et* casu plur*ali* in masculio g*enere* in / femi*n*nio
eux. ceux, les et celles et loure in ceteris casibus pluralibus,

21. illa ele et cele et la in q*u*olib*et* casu in sing*u*lari eles
Illa, elle, cele et la in singulari, eux, ceux, les et

22. celes ceux et lez in q*uol*i*bet* casu in plurari
celles in quolibet casu plurali

23. iste : cesty ceste in q*uol*i*bet* in singulari cez *et* cestez in q*uol*i*bet* casu pl*urali*.
Iste : cesti et ceste in quolibet casu sinqulari, Ista : cez, cestez in quolibet casu plurali

24. ista me*us* : mou*n* ma tou*n* ta sou*n* sa mien
Meus : mon, ma, ton, ta, son, sa in singulari, mes, Tuus : tes, ses in plurali

25. in su*us* : soen soen in sinq*ul*ari mez tez sez soens lo*ur* in pl*ural*i
mien, toen, soen in singulari, mens, toens, soens, in plurali in neutro genere substantivale.

26. nost*er* ves*ter* : n*ost*re v*ost*re i*n* sing*ul*ari n*ost*res v*ost*res nos voz in plurali
Noster et vester nostre, vestre in singulari, nostres, vostres in plurali, noos, vous,

[amer]

(*D* f. 2vb) 1. Amo, J'ayme tu aymez il ayme pl*u*rielme*n*t no*us* aymons
En l'endicative moed et en le tens present : J'ayme, tu aymez, il ayme : pluraliter : nous aymons,

2. vo*us* aymez ils ayment
vous aymez, ils ayment

3. Amavi, J'amoy ou ama tu amoiez ou amas il amoit on amat
En le pretert nient parfit : j'amoy ou amay, tu amoiez ou amas, il amoit ou ama ;

4. pl*u*rielme*n*t no*us* amoiou*n*s ou amasmez vo*us* ~ oyez ~ ast ils ~ oye*n*t ou ~ eront
pluraliter : nous amoions ou amasmez, vous amoiez ou amastez, ils amoient ou ameront.

5. Amam, J'ay amé tu as amé il ad amé pl*uri*el nous
En le pretert parfit : j'ay amé, tu as amé, il a amé ; pluraliter : nous

6. avou*n*s amé vous avez amé ils ont amé
avons amé, vous avez amé, ils ont amé

7. Amasseiz, J'avoy amé tu avoys amé il avoit amé pl*uri*el no*us* avons
En le pretert plusque parfit : j'avoi amé, tu avoiez amé, il avoit amé ; pluraliter :

8. amé vous avoiez amé ils avoient amé
nous avoions amé, vous avoiez amé, ils avoient amé.

9. Amabo, J'ameray tu ~ rez il ~ ra pl*uri*el no*us* ~ rons vous ~ rez il ~ rent
En le tens avenier : j'ameray, tu ameras, il amera ; pluraliter : nous amerous, vous amerez, ils ameront

10. Ama, Ayme tu ametz il pl*uri*el aymons no*us* aymez vo*us* aymet / ceux
En le comaundant manere : aymez tu, aymet il, pluraliter (*D* f. 3ra) *aymons nous, aymez vous, aiment ils ou ceux.*

11. Amare, J'ameroy tu ~ roys il ~ royt pl*uri*el no*us* ~ royons vo*us* ~ royez ils ~ roient
En le desirant moed : plust a Dieu que j'ameroy, tu ameroiez, ils ameroit ; pluraliter ; nous ameroions, vous ameroiez, ils ameroient

12. Plust a Dieus, J'aymasse ou ~ eusse amé tu ~ sez ou eussez amé
En le pretert parfit et plus que parfit : plust a Dieu que j'amasse ou eusse amé tu amassez ou eussez, amé

13. il ~ setz ou eust amé pl*uri*el no*us* ~ souns ou eussons amé
il amasset ou eust amé ; pluraliter : nous amassons ou eussons amé,

14. vo*us* ~ sez ou eussez amé ils amassent ou eussent amé
vous amassez ou eussez amé, il amassent ou eussent amé.

15. Amem, Com ut si j'ayme etc sic*ut* indicati*vo* mo*do* p*resen*t te*m*poris
En le tens avenier : plust a Dieu que j'ayme, tu aymez et cetera si come en l'endicative moed.

16. Amare, Com ut si j'amoy ou aymerei tu amoiez ou aymereu*ez*
En le pretert nient parfit : come j'amoy ou ameroy, tu amoyez ou ameroyez,

17. Amavez, Com j'ay amé tu eiez amé il eit amé nous eiou*n*s amete
(*D* f. 3^{r}) *En le pretert parfit : Come j'eie amé, tu eiez amé, il eit amé ; pluraliter : nous eions amé, vous eiez amé, lis eient amé.*

18. Amssey, Com j'aymasse ou eusse amé tu amassez ou eussez amé
En le pretert parfit et plus que parfit : Come j'amasse ou eusse amé et cetera si come desus en le pretert parfit et plus que parfit en le desirant moed.

19. il ~ setz ou eust amé pl*uri*el nous amassou*n*s ou enssou*n*s vous

20. Amavero, Com j'auray amé tu aurey amé il aura amé pl*uriel*m*en*t
En le tens avenier : Come j'araie amé, tu aras amé, il ara amé, pluraliter :

21. Amare, Amer avoir amé aler amer ou estre amee
En le maner saunz fyne : amer ; en le pretert parfit et plus que parfit : avoir amé ; en le tens aveniere : aler amer ou estre amé.

22. Imp*er*sonal*ia* Amat*us*, l'en ayme l'en amoit ou l'en aymast l'en ad amé
l'en ayme, l'en amoit ou l'en amast, l'en a amé

23. l'en avoit amé le aymeray etc.
l'en avoit amé, l'en amera, et cetera,

24. Amor, Je suy amé tu es amé il est amé pl*uri*el nous summus amez
je su amé, tu es amé, il est amé : pluraliter : nous sumes amez,

25. Vo*us* estez amez il sou*n*t amez
vous estez amez, ils sont amez.

26. Meum q*ue*da*m* v*er*ba passiva declinatio P*er* P*artici*pi*um* sui acti*vus* et hoc v*er*bum

27. Sum es sui semp*er* ut je suy amee tu es amee etc. [148^{r}]

[estre]

1. Je su tu es il est no*us* sum*us* vo*us* *estez ils sont*
(*D* f. 2rb) *En l'endicative moed je su, tu es, il est pluraliter : nous sumes, vous ester, ils sont.*

2. J'estoy tu estoiez il estoit p*luri*el no*us* estoions vous ~ ez ils ~ ent
En le pretert nient parfit : J'estoie, tu estoiez, il estoit : pluraliter, nous esfoions vous estoiez, ils estoient

3. Je fu ou j'ay esté tu fusez ou as esté il fust ou a esté p*luri*el
En le pretert parfit : je fu ou j'ay esté, tu fuis ou as esté, il fuist ou a esté ; pluraliter :

4. no*us* fum*us* ou avoms esté vo*us* fusez ou avez esté ils furent / ou out esté
nous fuismes ou avons esté, vous fuistez ou avez esté, ils furent ou ount esté,

5. J'avoy esté tu avoys esté il avoit estee
En le pretert plus que parfit : j'avoi esté tu avoiez esté, il avoi[t] *esté, pluraliter*

6. no*us* avoiu*n*s esté vo*us* avoiez esté ils avoient esté
nous avoins esté vous avoier esté, ils avoient esté.

7. Je seray tu serez il serra p*luriel* serou*n*s vo*us* serez ils serou*n*t
(*D* f. 2va) *En le tens avenier : je serray, tu serras, il serra ; pluraliter : nous serrons, vous serrez, ils serront.*

8. Soiz tu soit il soioms no*us* soiez vo*us* sorént ils
En le comaundant manere : soielz tu, soit il ; pluraliter ; soions nous, soiez vous, soient ils ou ceux.

9. Plust a Dieu q*ue* je fuisse ou seroi tu fussez ou seroiez il
En le dèsirant moed : plust a Dieu que je fuisse ou serroie, tu fuissez ou serroiez il

10. fuse ou seroit p*luriel* nous fussoiu*n*s ou seroiou*n*s vo*us* fussez ou seroi / ez
fuist ou serroit pluraliter : nous fuismes ou serroions, vous fuistez ou serroiez

11. ils fussent ou seroient
ils fuissent ou serroi[e]*nt. En le pretert parfit et plus que parfit : en mesme le manere.*

12. Sachez que touz lez autrez temps sount si com l'endic*ative* moed
Et sachez que toutz lez autrez tens sont si come l'endicative moed

13. excep le p*retert* p*ar*fet et le pl*us* p*ar*fet en la co*n*juncti*ve* moed leq*uel*
except le pretert parfit et le pretert plus que parfit en le joyand moed lezquelez

14. fait ainse j'eusse esté tu eussez esté il euste no*us* eussens
sont ainsi come j'eusse esté, tu eussez esté, il eust esté : pluraliter ; nous eussons

15. esté vo*us* eusse esté ils eussent esté
esté, vous eussez esté, ils eussent esté.

[voloir]

16. Je voil ou je le vuys il vooet nous vuillons vo*us* vuillez ils / vuillent
(*D* f. 4^{v}) *Je voile veut voilons voilez voilent*

17. Je voloi : ou voilla tu voloiez ou voillas il
Je voloy ou volay, voloiez ou volas,

18. volait ou voilla p*luriel* voloions ou vuillasm*us* vo*us* ~ ez ou voilles ils voloiou*n*t ou voillost
voloit on vola, voloions on volumez, voloiez ou volustez, voloient ou voluerent

19. J'ay volu tu as volu il a volu p*luriel* no*us*
J'ay volu.

20. avons volu vo*us* avez volu ils ount volu

21. J'avoy volu tu avoiez volu il avoit volu p*luriel* nous avoiou*n*s

22. volu vous avoiez volu ils avoient volu

23. Je vorray tu vorras il vorra p*luriel* no*us* vorrou*n*s vo*us* ~ rez ils ~ re*n*t

Je vorray.

24. Je vodroy tu vodrois il vodroit p*luriel* no*us* vodroions vo*us* ~ ez ils ~ ent
Je vorroye ou vodroye.

25. Je vuisisse tu vuisissez il ~ setz p*luriel* no*us* ~ sou*n*s vo*us* ~ sez ils ~sent
Je vosiste ou eusse volu.

26. Com je vorray tu vorras il vorra p*luriel* no*us* vorrou*n*s vo*us* ~ rez [148^{v}]

27. ils ~ rent ut sic J'aray volu tu arez volu il ara volu

28. p*luriel* no*us* arons volu vo*us* ~ rez ils aront volu

29. Sachez que toutz lez autrez te*m*ps serou*n*t si com l'endi*cative* mod / ou l'opt*ative* moed

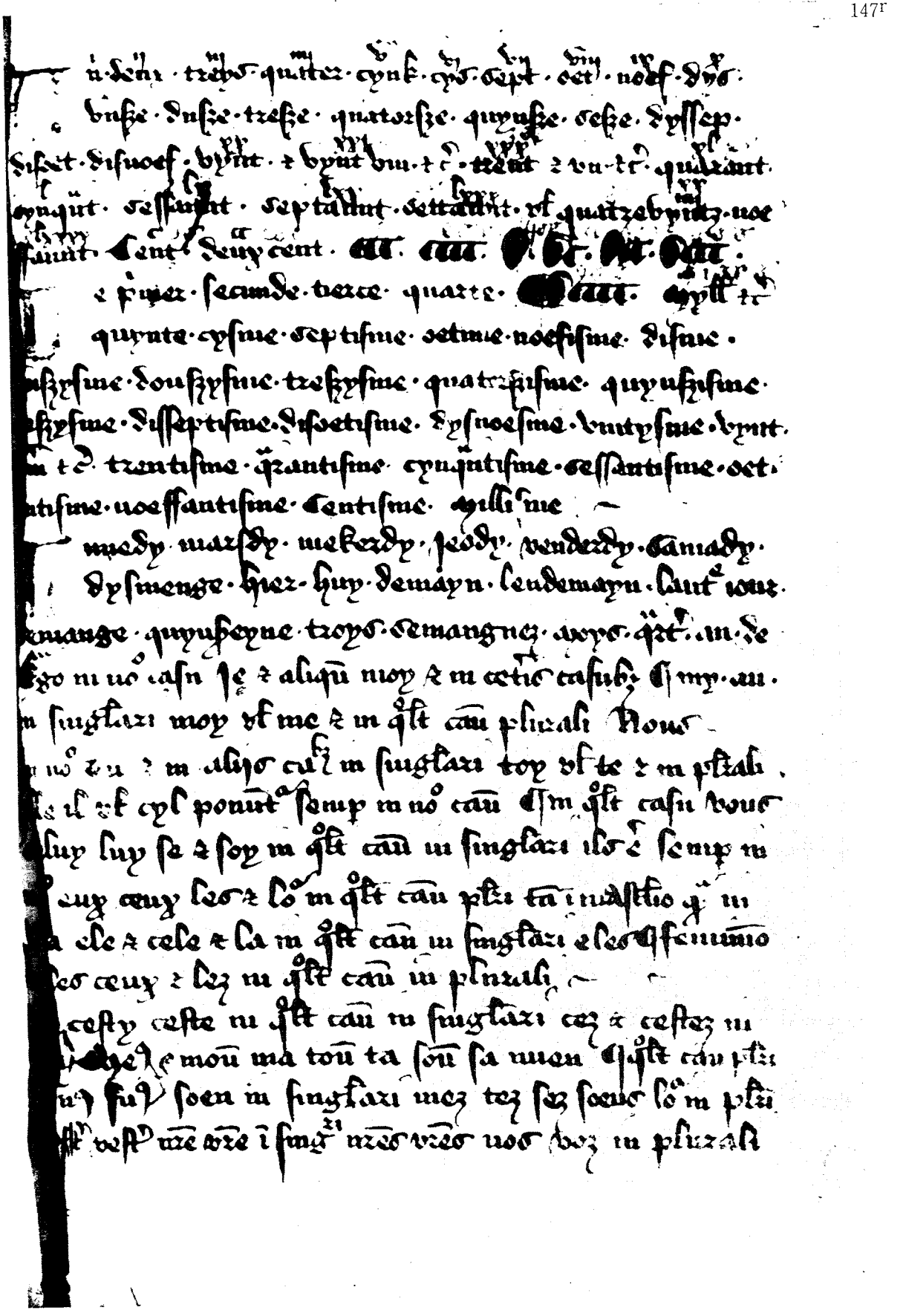
30. S'elle vuillez avoir volu vuillant
voiler, volu, voillant

Liber Donati

Cambridge Trinity College

MS B. 14-40

ff. 147^{r}-148^{v}



147v

Amo — Iayme · tu aymez · il ayme · pl̄ rielmēt nous aymons · vous aymez · ils aymēnt

Amabam — Ja moy ou ama · tu amoiez ou amas · il amoit ou amat · pl̄ rielmēt nous amoions ou amasmez · vous ez · ils oyēt

Amaui — Jay ame · tu as ame · il ad ame · pl̄ nous · q̄ on eront auons ame · vous auez ame · ils ont ame

Amauerez — Ja noy ame · tu anoys ame · il auoit ame · pl̄ rel nous anoūs ame · vous auoiez ame · ils auoient ame

Amabo — Ja mieray · tu rez · il ra · pl̄ nous rons · vous rez · il rent ·

Ama — Ayme tu ametz il pl̄ aymons nous aymez vous aymet

Amare — Jameroy · tu roys · il royt · pl̄ nous royūs · vous royez · q̄ ceux ils roient

Jaymasse ou eusse ame · tu sez ou eussez ame · il setz ou eust ame · pl̄ nous sons ou eussons ame · vous sez ou eussez ame · il amassēt ou eussent ame ·

Amem — Com vl̄ si Jayme &c sic indicat° m° p̄nt tēporis

Amare — Com vl̄ si Jamoy ou aymerei · tu amoiez ou aymereus

Amauerō — Com Jay ame · tu eiez ame · il eit ame · nous eions ame &c

Amissez — Com Jaymasse ou eusse ame · tu amassez ou eussez ame · il setz ou eust ame · pl̄ nous amassons ou eussons vous &c

Amauero — Com Jauray ame · tu aurez ame · il aura ame · pl̄ &c

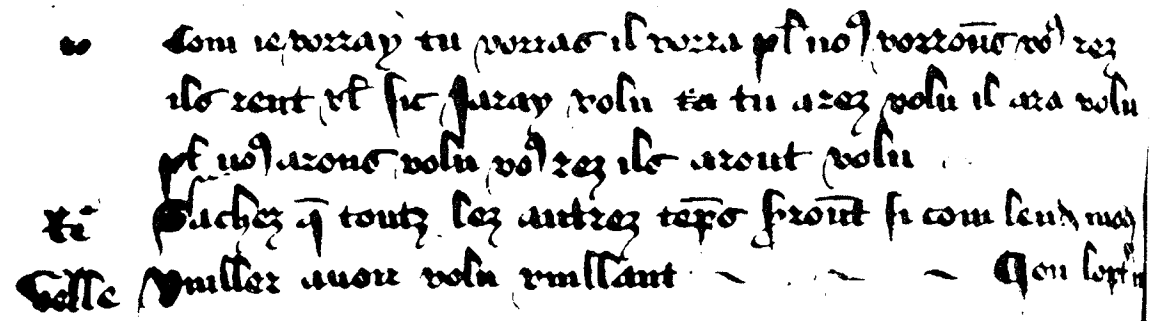
Amaq̄ — Amer auoir ame · aler amer · ou estre amee

Amat° — Amat° leu ayme · leu amoit · ou leu aymast · leu ad ame · leu auoit ame le aymeray &c

Amor — Je suy ame tu es ame il est ame pl̄ nous sumus amez · vous estez amez il sont amez

Re — Mes q̄d verba passiua decli° p̄ p̄ti m sin act &c hoc verbū

sum es fui semp vt je suy amee tu es amee &c
Je fu tu es il est nous fumus vous estez ils sont
Jestoy tu estoiez il estoit pl nous estoions vous ez ils ent
Je fu on iay este tu fusez on as este il fust on a este pl
nous fumus on a uoius este vous fusez on auez este ils furent
Jauoy este tu auoys este il auoit estee ¶ on ont este
pl nous auoions este vous auoiez este ils auoient este
Je seray tu serez il serra pl serons vous serez ils seront
Soiez tu soit il soioins nous soiez vous soiet ils
Plust a dieu q ie fuisse on seroi tu fussez on seroiez il
fusse on seroit pl nous fussoins on seroions vous fussez on seroi
ez ils fussent on seroient
Sachez q touz lez autrez temps sont sicom lendic moed
excep le pt perfet & le plus perfet en le coincti moed le ql
fail ainse Jeusse este tu eussez este il eust nous eussens
este vous eussez este ils eussent este
Je voil on ie le vuys il vooet nous vuillons vous vuillez ils
Je voloi on voilla tu voloiez on voillas il ¶ vuillent
volait on voilla pl voloions on vuillasmus vous ez on voillas
Jay volu tu as volu il a volu pl nous ¶ ils voloiont on [illegible]
auons volu vous auez volu ils ont volu
Jauoy volu tu auoiez volu il auoit volu pl nous auoions
volu vous auoiez volu ils auoient volu
Je vorray tu vorras il vorra pl nous vorrons vous rez ils ret
Je vedroy tu vedrois il vedroit pl nous vedroions vous ez ils ent
Je vinsisse tu vinsissez il setz pl nous sons vous sez ils sent



アングロノルマン語の顕著な特徴

アングロノルマン語，すなわち11世紀後半より15世紀に至るまでイングランドにおいて会話，そして文章に用いられた島嶼語の発音，あるいは綴りの特徴的な現象（typical Insularity）を考察すると次の諸点が挙げられるであろう。

1）二重母音［je］は特に接尾辞-ariu，-ariaに由来する-erにおいて［e］となった：

ex. ① littere (Bibbesworth［Bと略す］397, 398, 400 seqq. *Femina*［Fと略す］371, 373, 374, 375 lyttere F 371)＞ME litere
OED初例1300 *Cursor Mundi* 13817 Quen he had made me hale and fere, 'Rise up', he said, wit þi litere'. ModE litter
OF litiere

② manere (B 208, 217, 335, seqq. F 419, 476 seqq.)＞ME manere
OED初例1275 Layamon's *Brut* 18983 þes þinges weren forþriht in þilke manere idiht.
OF maniere

③ rivere (B 265 river 830 F 712)＞ME river, rivere
OED初例1297 R. Gloucester *Chronicle* 487 Gret plente hii found of fiss, … of wodes and of rivers, as is in þe contreie.
OF riviere

2）自由強勢音節において［e］は［ɛ］（ai, ay, e, ei, eyと綴られる）となり，［wɛ］（oiと綴られる）に進化しない：

ex. ① aveir (B 308 aver 25, 309, 860 seqq. Noreture 162)＞ME aver
OED初例ca. 1380 Wyclif *Works* 306 we aver þis what jude seiþ of apostataes.
OF avoir

② rey (B 318, 320 F roy 310)＞ME ray＝a King
OED初例ca. 1400 *Sir Perceval* 178 Scho tuke hir leve and went hir way, Bothe at barone and at raye.
OF roi

3）強勢音節の前ないし後における［e］は［i］となる：

ex. ① chival (*Amys e Amillyoun*［AAと略す］462, 464, 615 seqq. B. chivaus 889, 894, 904 F chivales 361)＞ME chival
chivaler (AA 220, 227, 380 seqq. B 311 F 303 chivalers F 39)＞ME chivaler
OED 1377 Langland *Piers Plowman* B XIX 99 ȝowre champioun chivaler, chief knyȝt of ȝow all.
chivalrie (AA 242, 876)
OED初例1300 *Kyng Alisaunder* 1495 He schipeth into Libie, with al his faire chivalrie.
OF cheval, chevalier

② chimenee＞ME chimenee
OED初例1330 *Syr Degarre* 352 Ase fer out of a chimenai.
OF cheminee

4）自由強勢音節における［o］（uないしouと綴られoと綴られることは少ない）は［u］となり［ɸ］

(eu と綴られる) に進化しない：

ex. ① flour (B 380, 383, 595 F 357,577) > ME flour

OED ca. 1400 *Lanfranc's Cirurgery* 46 Take mel roset … small flour of barly and medle hem togidere.

OF flour, fleur

② honour (AA 32 Noreture 6, 160 F 1134 AA honur 34, 35, 60 seqq) > ME honour

OED 1390 Gawer *Confessio* III, 24 So as she may … Her honour and her name Save.

OF onor

5) 口唇硬口蓋母音 [y] と [ø] は消失した：

fu (B 1003 1009 F fieu 53 fyeu 523 *fu* との発音表示がある)

[cf. coeverfu (AN) > ME 1330 curfu > ModE curfew]

OF feu

6) [y] は [ju] となる：

ex. ① pure (B. 403) > ME pure

OED 初例 1297 R. Gloucester *Chronicle* 184 So clene is al so þat lond and mannes blod so pur. [vrr. puir, pure]

OF pur f. pure

② sure (B 996. suire 948 F 876) > ME sure

OED ca. 1355 *Gawain* 588 Gurde wyth a bront ful sure.

OF sure, seur

7) 硬口蓋子音 [ɲ] と [ʎ] は消失し，それぞれ [n] と [l] になる：

ex. ① compaignie (F 45 companie sine g と発音表示がある)

compaignoun (F 229 compaignon 93 compaynoun と発音表示がある) > ME compainoun

companie (AA 20, 1062 compainie 523 compaynie 22) > ME compainie

OF compaigne, compaignon

② mountayne (B. 101 F montayn 204) > ME mountain

OED 1205 Layamon's *Brut* 1282 Bi Ruscikadan heo nomen þa sæ and bi þe montaine of Azare.

OF mont, montagne

③ bataille (AA 425, 499, 582 seqq.) > ME batayle, -aile, -aille.

OED 初例 1297 R. Gloucester *Chronicle* 369 þere, as þe batayle was, an abbey he let rere … þat ys ycluped in Engelond.

Chaucer *Canterbury Tales* Prol. 61 At mortal batailles hadde he been fiftene.

OF bataille

8) 無声語末母音 [ə] (e と綴る) は屢消失する：

ex. farin (B 378 F 355) OF farine

ventrer (B 883) OF ventriere

guers (B. 798) OF gueres

9) 中英語およびイングランドのフランス語 (AN) にあっては語幹に強勢がおかれる。その影響によって語頭音節が脱落する場合がある。

ex. ① esquiers (F 40 equers 又は squiers と発音表示がある F(40) squiers) > ME squier

OED 1300 *Kyng Alisaunder* '6022 fyve hundred thousand knyghtis…, withoute pages and skuyeris.

② proche (*Cur*tesyes 100) > ME prochen

MED ca. 1400 *Wars Alexander* 1926 Now he [Alexander] proches for pride, & propurly he wedis;

OF aprochier

10) ui[ɥi]は u となる：

ex. ① fruz (B 638(h)) > ME frut(e), fruit

OED ca. 1175 *Lambeth Homilies* 135 Me saweð sed on ane time and gedereð þet frut on oðer time

OF fruit

② dedure (B 639) > ME dedut (pa. ppl. of OF deduire)

OED 初例 1297 R. Gloucester *Chronicle* 564 [Hy] were in hor dedut, iwend an hontinge.

OF deduire

11) 動詞不定法語尾 -ir が -er に吸収される：

ex. pleiser (B 1092) OF plaisir

seer (B 774) OF seir

tusser (B 1093) OF tossir

12) その他鼻母音の綴り an, on が aun, oun と頻繁に綴られる：

John Palsgrave, *Esclarcissement de la langue franç*oyse, London, 1530. によると，a の後に m, n が続くとき a は二重母音 *au* の如く発音し，例えば amant, tant, quant は "… shall in redynge and spelynge be sownded *amaunt*, *taunt*, *quaunt*, soundyng the *a* lyke *au* and something through the noose, and so of all such other."と書かれてある。16世紀になってもイングランドにおいては尚 aun の音と綴りを好んでいたようである。また，AN において k, w, y を使用した綴りが頻繁であったことも前述の Bibbesworth : *Tretiz*, および *Femina* その他に見られる実例から証明されている。

Ⅳ　アングロノルマン文学

Amys e Amillyoun

I. Text

British Library MS Royal 12 C. XII
ff. 69ra-76rb

Qi voet oyr chaunzon d'amur, [69ra]
De leauté e de grant douçour ——
De troeffle ne voil jeo parler ——
En pees se tienge pur escoter!
De deus juvenceals vous dirray,
Sicom en escrit le trovay;
Q'en la court un counte estoient
E des armes li servoient.
Moult furent de grant vassalage,
Gentils e de grant parage;
Fiz estoient de barons,
Si vous dirroy bien lor nouns:
Li un estoit Amys par noun,
L'autre est appelé Amillyoun.
Li deus estoient de une nature,
Angeles resembleient de faiture.
Taunt s'amerent fierement
Que freres se firent par serement;
As autres ne fesoient unke semblaunt
De companie tant ne quant.
Ceus de la court avoint envie
De lour estre e de lour compaynie,
Q'amerent entre eus tant fierement,
E de ceo se coroucent sovent.
De cors de visage bien resembleyent:
Si de une robe vestu estoient,
N'est home el mound qe les avisast
Qe l'un de l'autre desceverast.
E si furent de une estature,
De une forme e de une nature.
Leals furent envers lor seygnur,

Bien le portent a honour ;
Si les amast mult tendrement,
Honur les fist a lour talent.
Chivalers lour fist a grant honur :
Touz les ad dobbez en estour,
Lour trova si com il voleint ;
Hautement lour feste teneint.
De Amys fist son botiler,
Car moult a ly puet affyer.
Amyllioun ne velt lesser :
De son hostel ly fist justizer,
Mestre mareschal sur touz [69rb]
Qi fort esteit e coragous.
De cel mester longtemps servirent
E par tot bien loé furent.
Amillion demorra
Atant qe son pere fina,
Qi de soi n'ad autre heyr.
Quant Amillioun sout pur veir
Qe son pere fuy affyné,
De son seignur le counte ad pris congé,
Qe li covient garder sa terre
Qe nul li fist treson ne gere,
Ne qe autre heyr n'i entrast
Ne ses droitz amenusast.
Le counte fust de ceo marriz,
Congé li done mes enviz ;
Mes le conte fist com bon seygnur,
Destourber ne vout son honur ;
Mes s'il eust od ly affere,
Fuist ceo en pees ou en guerre,
Maundast a ly hastivement,
E il od force de sa gent
Vendroit a ly, ceo li jura.
Amyllioun ly mercya.
Atant del counte departi,
Si ala parler a son amy
Amys, q'estoit son compaignoun,
En bone foy saunz treson.
De plur ne se poet tenir,
Car moult li greve le departir.

Donqe parla sire Amillioun
E dit : 'Amis, beau compaignoun,
En bone foy saunz tresoun
A nostre seignur servy avom.
Pur vostre honur vus cri mercy,
De une chose soiez garny :
Le counte ad seignz un seneschal
Qe mout est feloun e desleal
E si est de mult grant parenté ;
Pur ceo est il le plus doté.
Unke ne vous pout amer,
Mal vus ad quis a son poer,
Mes encheson ne pout trover [69va]
Par quoi il vus pout grever.
Mes quant jeo serray departi,
Donke vus serra il fort enemy.
Gardez vus de sa felonie !
Ne aiez od li compaignie,
Car qui s'acompanie od feloun
Ne porra trover si mal noun ;
Car piz ne porra avenir
Quant compaignoun velt autre trahir.
A tote gent bel responez,
Grant preu e grant honur avrez !
Lessez orgoil e envie,
Si vous gardez de glotonie !
Amez bien vostre seignur,
Ne soffrez q'il eit deshonur !
Mout li devez amour e foy,
Car bien ad amé vous e moy.'
Atant se sunt entrebeysés,
Plurent e crient de pité.
Suz cel n'ad home que la fust
Qe dolur de la pité n'en eust.
Paumez sunt chaeuz a terre ;
N'est home qi me vousist crere
Si jeo deisse la moyté
Del doel q'entre eus ount demené.
Li un s'en va ver son pays,
Li autres remeint tristes e pensifs.
Quant Amis de palmisoun levoit,

Vers la court sei retorneyt ;
Sitost com en la porte entra,
Li seneschal li encontra
Qe semlaunt d'amur li fesoyt,
Mes de quer poy li ameit.
'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant !
De vous suy ore alé pensant
E de misire Amillioun
Qi a vous ert leal compaignon.
Ne volez unke nul autre amer
Ne semblant a nul mustrer ;
Mes quant s'en est departi,
Requer qe soyez mon amy,
Mon ami e mon bien voilant.' [69vb]
Amis respount aitant :
'Sire seneschal, vostre amisté
En moy n'est si enploié
Qe ne puisse nul autre amer
Quant talent me doint e voler.
Si Amilliouns soit alé,
Son quer me est abandoné,
E jeo ly aym e ameray ;
Pur nul autre ne li lerray
Par [ceo] qu'il est chose esprové
Pur promesse saunz seurté.
Mes de taunt me poez crere
Qe, si vous eiez de moy affere,
Jeol vous fray od graunt douçour,
Sauve chescuny honur.'
Li seneschal ataunt se tint,
Qe d'anguisse pale devint ;
Purpense sei q'il se vengereit
Sitost com son leu verreyt.
Amis lessa le temps aler,
Ala e fist son mester ;
Servi le counte com il soleyt,
E le counte mout li amoyt :
Od sei le tint plus privé
Qe nul autre de sa meisné.

Ore vous dirrai de sir Amilloun :

Quant vint a sa regioun,
La gent qe de sa terre furent
Od grant nobley li receurent ;
Trestouz li firent homage.
Ore poet il mener grant baronage !
N'ust od ly ja si privé
Q'il n'out dis chivalers de maisné.
Tant fuit de sa gent amé,
E lour ad trestouz doné
Bons chevaus e deners,
E robes a ses esquiers.
E il memes si bel estoyt
Qe tut le pays le disoyt
Si Deu mesmes le eust purtret,
Plus bon ne meuz [ne] serra fet.
Sa gent durement l'amerent ; [70ra]
A femme prendre li consaillerent.
Par lour consail se mariat :
Une gentile femme esposat
Qe fille d'un counte estoit,
E pere e mere perdu avoit ;
Pur heritage la moyté
Li fuit escheu del counté.
De beauté avoit le pris
Sour touz les dames du pays.
Bien furent entre eux couplés
De parage e de beautez.

Ore lerray de Amyllioun ester,
E de sir Amys vus voil counter,
Qe fuit demoré od son seygnur
E meuz li servi de jour en jour.
Taunz com Amis meuz li serveyt,
Le seneschal plus li haeit ;
De son benfait avoit envie,
Mes Amys ne l'aparce[u]st mye.
Li quens une dame aveit
Q'il come sa vie ameit.
Une fille avoit la dame
Q'ele amoit come s'alme.
Mout fut gentile la damoysele,

En une realme ne out plus bele.
Deus countes la desirent,
E esposer la volirent,
Mes ele a trestouz respoundi
Ne vout uncore aver mary.
A grant cherté le tynt le pere,
E mout l'ama auxi la mere.
La damoysele fuit bien gardé:
Compaignes out a grant pleinté
Des dameseles del pais
En sa chambre noef e dis,
Qe touz fesoient sa volunté;
De countredit n'en ad parlé.

Un jour par aventure avint
Qe li quens une feste tynt
Par un jour de l'Ascensioun;
La fuit assemblé maint baroun.
Est veuz li mestre botiler, [70rb]
Amys, qi bien sout son mester:
De un drap vestu esteit,
La coupe devant li quens teneit.
Mout fu beals e aligné,
Des chivalers fuit moult prisé.
Entre eux communement disoient
Qe unque si bel chevaler ne veient;
E li quens meme le dist
Qe onqe si bel chivaler ne vist.
Touz ceus qe en la sale estoient
De sa beauté matire aveient.
Est venuz la novele
En la chaumbre a la damoisele
Del botiler qe tant ert beaus
E tres gentil dameyseals,
E q'il fuit tant bon chivaler
Q'en la court n'out son per.
La pucele en prist tendrour
Qe tant vers li ad getté s'amour;
Si forment comensa a amer
Q'ele ne pout boyvre ne manger.
Les damoyseles qe od li erent

Purquei ceo fuy ly demaunderent.
E ele dit que malade fuit,
Ne sout dont cel mal ly avenut.
Ele comaunda qe eus se teysent
E d'autre chose s'enveysent.
En cel langur demora
Tant que li quens s'en ala
A boys juwer en venerie,
Od ly tote sa chivalrie.
A l'ostel n'i out nul remis
Des chevalers for sire Amis,
E il remist pur maladie.
E la damesele ne targa mye :
De sa dame prist congé,
E ele tantost li ad doné.
Nomer vous dey la pucele :
Son dreit noun est Mirabele,
Mes Florie fust apelé
De ceux qe furent de sa meisné.
Florie, quant le congé en eust, [70va]
S'a hasté a plus que ele pust ;
Ove une soule chambere
Ala par congé de sa mere
Parler a Amys que ele ama.
Tant parla e taunt demora
Qe tot son corage descovery :
E dit pur l'amur de luy
Morust, s'il n'eust de li pité
E que ele fust de ly amé,
Que si de ly amour ne avoit,
Jamés home ne amereit.
Amis, quant l'ad escoté,
Quideit que ele fuit devee
Qe ele pout pur hounte descoverir
Sa volunté e son desir.
De respoundre se purpensoit
Com celi qi talent ne aveit
Q'il mesprist vers son seignur.
Estez vous Florie par grant errour !
Ele li respondi e dist : 'Coment
Vous ay amé celement ?

Qe jeo vus ay doné m'amur?
Ja en ma vie aprés ceo jour
Ne serray en mon quer heytez
Si jeo ne soye de vous vengez!
Certes ore suy jeo bien honye
Quant vous me dedeignez avere amye!
Tant gentils hommes m'ount prié,
E trestouz ai je refusé.
Certes n'estes pas chevaler!
Mescreaus estes e laner!
Un play bien dur vus bateray:
A mon pere le conteray
Qe vers li estes e moy forfet,
E serrés des chivals destret.
Donques serray de vous vengé!'
Atant s'est Florie retorné.
Amis mout se purpensa;
Le un mal e l'autre mout dota.
Corteisement ly respundi:
'Damoisel, pur Deu mercy,
Vostre amy suy e serray, [70vb]
E vostre serjant tant com jeo viveray.
Vers vous ne mesprendroie mye
Par quei vous en averez vilenye
Ne de vostre corps hontage.
Jeo preng Deu en tesmoignage:
Si ceo poet estre aparceu
Qe de moy feissez vostre dru,
Ne serrioms nous en fyn honye?'
'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,
'Nous le froms si privément
Touz deus a nostre talent
Ne[l] savera home de mere nee.'
Tant li ad dit e parlé
Ore sunt a un de cel affere,
Dount devisent la menere
Coment e quant s'assemblerunt.
Allas! Q'encusé serrount,
Qe trestot oy un vassal
De la meisnee le seneschal.
A son seignur le ala counter

Sitost com il poet espleiter.
Le seneschal fut molt lee ;
Ore quideit bien estre vengé
De vostre corteis botiler ;
Tot lour estre fist espier.
Qant vint le terme q'avoint dit,
Il ensembleront od grant delit :
Par grant duçour s'entrebeiserent,
De amour parlerent e juwerent.
De autre chose ne dirra[i] mie ;
Ne croy pas q'il y avoit vilaynie.
Le seneschal, quant sout la covine
Entre Amis e la meschine,
L'endemain vint tot a hounte :
Acounté est tot lor oevre al counte.
Li quens fu de ire enflé,
Ne parla mot une luwé.
'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,
Si ceo traitour m'ad issi hony,
Que tant amey e tant ting cher,
En qi me porrai affier ?
Si est grant desert venu : [71ra]
Ma fille est pute devenu.
Ele est honie, jeo suy trahi ;
Cel fel traitre m'ad icy servy.
A touz jours avera reprover
Si jeo ne me puisse de li venger.
Est ceo voir, sire seneschal ?
Jeo quide que l'avez dit pur mal.'
'Sire,' le seneschal respound,
Par celi qe fist le mound,
S'il le velt denier,
Com leal chevaler le voil prover,
E cil que de nous est vencu
Soit detret e puis pendu !'
E dit li quens : 'Ore vaut meins !
Ceste play m'est laid e vileins.'
Atant en la chambre entrat,
La dame sur un lit trovat.
'Dame,' dit il, 'ne savez
Quele fille vus avez !

Ele est ja femme de mester,
E ceo ad fait nostre botiler.
Pur nostre bien hounte nous rend:
Tray nous ad malement,
Qe nostre fille ad trahy e affolé.
Deu li doint male destiné!
Si avra il, si jeo vive tant;
Ne li ert nul de mal garrant.
Tut ert detret e puis pendu,
E la pute arse en fu!'
La dame ne sout quoy dire.
Le counte de mal ard e d'yre,
Devint plus noyr ke carboun.
Tost sailli hors de la mayson,
Si encontra le botiler.
A li soleit trop beal parler;
Les oils sur ly forment roylla.
Amis moult se merveilla.
'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!
Ma fille est par vous honye.
Mes vous ne irrez ja riant;
La mort vous va ja approchaunt!'
'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal.
Jeo suy vostre chivaler leal; [71rb]
Si nul vous ad de moy counté
For que dreit a verité,
Moult bien me deffenderay
Devant qe jeo denieray.'
Le seneschal atant se vint
E son gaunt en son poing tint,
E tendist en noun de gage
Com home de grant vasselage,
E dit que od li combat[er]eit
E la verité provereit.
Est veus tote la court ensemblé,
Ly chivalers e la meisné.
Li un countre l'autre tendi son gant,
E li quens [les] resceust atant.
E donqe jugga le baronage
Que plegges troverent en hostage.
Le seneschal ad taunz trové

Ke le counte fut bien payé.
Tant fuit li seneschal doté
Qe Amys un soul n'en ad trové,
Quoy pur doute quoy pur pour,
E trestouz virent qe le seignur
Haist Amys desqe a la mort,
Fust ceo a dreit fust ceo at tort.
Nul ne oseit pur li parler,
E le counte li velt venger.
Quant ne pout trover plevine,
Pausmé chei la meischine.
En la place estoit Amis
Com esgarré e com pensifs,
Ne sout lequel il pout eslire,
Mort ou vie, ne sout ke dire.
Plusors aveient de ly pité,
Mes li sire fust tant yrré
Qe la n'out home taunt hardi
Qe oseit un mot parler pur ly.
La dame ne se pout tenir
Ne pur vivere ne pur morir ;
Devant le counte se genula
E le chivaler demaunda :
En hostage pur li serreit,
En son plegge devendreit.
'Voir,' dit li quens, 'volez ensy ? [71va]
E jeo lealment vus dy
Qe, s'il defaut a la bataille,
Le juggement averez saunz faille,
Qe vostre fille fust destiné !'
La dame lermist pur pité,
Prist Amis en plevine ;
Moult fu dolente la meschine.
Amis se retret e purpensa
Com celi qe grant mester en a.
De son frere li sovynt ;
Tantost a la countesse vynt,
Congé li ala demaunder
Qe a son frere velt aler ;
Son enuy monstrer li vout,
E ala qe mult se redut.

Ele li dist : 'Beau sir Amys,
Traihir me volez, m'est avys !
Si vous ne venez a tel jour,
Vous savez bien qe mon seignur
Pur vous ad ma mort juré.'
'Dame,' dist il, 'par ma lealté,
Pur ma defaute ne murrez mie,
Tant com je puisse aver la vie !'
Atant congé ly dona,
E un palefroy mounta
Saunz garsoun e saunz esquier ;
N'ala pas com chivaler
Mes ala com pelrin.
Ne fina unke soir ne matyn,
Poy mangea e mains beust,
Si ne dormist nule nust.
Touz les noitz issi chevaucha,
Qe onke de nuyt ne se reposa,
Tant qe vers une vespré
En un grant boys est alé.
A force ly covynt dormir,
Aviz li fust qu'il deust morir.
Desouz un arbre se cocha,
E son chival a une raym lya.
Dormist, car mult fu travaillé,
E son chival fuist mesaysé.
Amyllioun en son lit giseit,
Deleez sa femme se cocheit ; [71vb]
Si s'avint en avisioun
Ke sir Amys son compaignoun
D'un leon fust assailli,
Qe li fuist mortel enemy.
Del sounge fut moult effraé
E tost sus sailli com home desvee.
Tost appela ses chevalers,
Ses garsouns e ses esquiers.
Touz lour fist mettre lour seeles ;
Unke ne lour dist autre noveles,
Mes dist q'il voleit visiter
Son frere qe tant pout amer.
Trusser s'en vount en mynuyt ;

As autres ne fuist pas deduit.
En cele nuyt tant errerent
Qe parmy le boys passerent
Ou sire Amis reposeit.
Sire Amillioun primes le veit ;
Tost est cele part torné,
Tendrement l'ad esveillé.
E sa gent passerent avant,
E [i]l entendi nepurqant ;
De son estre saver voleit.
Si li retint, si li diseit.
Fu la joie, fu la pité,
Quant l'un od l'autre est aquointé !
Donke li dit sir Amillioun
Paroles de mult grant resoun :
'Beau frere, quant avez forfait
E le serment avez fet,
Jeo me doute qe pur pecché
Del serment serrez encombré.
Pur vous la bataille fray,
E le serment lealment juray
Qe jeo unke ne li forfiz,
E quiderount qe jeo soye Amys.
Jeo espoir par la grace de Dé
Qe del feloun serrom vengé,
Qe vus quideit aver hony.
Mes chivalers qe sunt icy
Od vous desoremés demorront ;
A ma court od vous irrount.
E quant nous averoms robes chaungé, [72ra]
Donqe quideront de verité
Qe vous seiez lour seignur.
Si vous requer par amur
Qe de ma femme facez atant,
En fet e en semblant,
Come jeo memes iceo fuisse,
Qe ele encheson ne troesse
Qe illoke est autre de moy ;
Car jeo vous dy en bone foy
Qe ele [est] mout aparcevante !'
E sire Amist trestut le graunte.

Lour robes ount trestot chaungé,
E Amyllioun s'en est alé ;
Tut soul va saunz compainie.
Ore Deus li soit en aye
E doigne q'il puisse bien fere !
Grant chose enprent pur son frere !
Amys remaint od la meisné,
Cum li sire e envoyé ;
E quiderount trestouz pur voir
Qe ceo fuit lour dreit seignur.
E la dame, quant li veu aveit,
Qe Amillioun fuit bien quideit.
Les deuz furent issi d'un senblant
Ne crerreit home ja si parcevant
Qe l'un de l'autre sout deviser,
Si par noun les oist nomer,
Ne par cors ne par fasçon,
Par riens, si par la robe noun.
Amis, quant il se ajousta,
Leez la dame se coucha ;
Sa espeie nue entre eus posa.
La dame de ceo s'enmerveilla.
A la dame ne voleit parler,
Desqes al matin al lever.
Chescune nuyt issi se contint
Desques Amyllioun a meson vynt.

Ore lerrom de Amis ester ;
De sir Amillioun voloms parler.
Le jour vint qe fuist assis
Entre le seneschal e Amys.
Le seneschal se fist armer, [72rb]
Puis demaunda le botiler ;
E quant il ne pout estre trové,
La dame fuit pris e durement lié,
E la pucele ensement.
Grant pité avoient la gent :
Plurent e pleignent lour beauté.
Li quens, que mout fuit irré,
Ala hastaunt lour juggement,
E si jura grant serement

Qe il memes les verreit arder.
Ataunt virent vener un chevaler
Qe vers eux fist grant aleure,
Poignant plus qe amblure;
Del feu q'il vist fut grantment effraé
E de les dames eust grant pité.
'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!
Dount vous sert tot ceo fu
Qe pur les dames fait esteit?
Trop vilaine roste serreit!
Armes me fetes tost bailler
Pur cestes dames deliverer!
Jeo deffendray nostre dreit.'
Le quens, quant le chevaler veit,
Bien quideit qe ceo fuit Amys;
De cors resemblast e de vis.
Bons armes demaunda
E li memes le chivaler arma.
En son corage fust bien paié
Quant ad le chivaler si bien armé.
Puis li dist suef en son oraille
Qe, s'il pout deffendre la bataille,
Sa fille a femme ly dorreyt
E de tote sa terre heir li freit.
Est venuz l'asemblé;
Ore mes sourdra la medlé.
Le un l'autre desaffient
Qe entre eus nul amur ne eyent.
Ore s'en vount les chivalers
Qi mult sunt orguillous e fiers.
Ne avera mester de acord;
L'un hiet l'autre desq'a la mort.
Nul deigne a autre affier; [72va]
Chescun se prent a ferir.
Amillioun fiert le seneschal
D'un grant launce enpoignal
Parmi l'escu peint de asur,
Mes le hauberc fuist fort e dur
Qe de mal l'ad garri.
Le seneschal li referri;
Lour launces ount as coups brusé

E si sunt outrepassé.
A cel encountre tant firent bien
Qe l'un ne l'autre ne perdit ren.
Amillioun vint par corucer,
Par ire tret le brank d'asser ;
Le seneschal ferir ala,
En le healme grant coups dona.
Mes le healme tant fort fu
Qe de la mort l'ad deffendu,
Qe le coup ala descendant
Si chiet sur l'arsoun devant ;
Trestut trencha quir e fust
Com si rasour trenché le eust.
Parmy l'espaudle del chival
Cola le braunke en terre aval
Plus qe plein pé e demy ;
Le seneschal a terre chay.
Qe pout, quant son cheval li ment ?
Del cop parlent durement :
Dist l'un a l'autre qe le chivaler
Ses armes sout trop bien porter,
Mes son coup est trop pesant.
Le seneschal se leve ataunt,
Qe dolent est e corucé
Quant combatre deit a pié ;
A plus tost q'il pout se vengereit,
E Amyllioun a pié se mettreit.
Mes il aparceut tost la manere,
Si ceo retret tost arere.
Tost descendi de son destrer ;
Combatre voleit per a per,
Q'il n'eust de son cheval envie.
Tant fist il par sa cortesie :
Meuz a pié l'estut ferir
Que lessir son chival morir. [72vb]
Le seneschal, qe nel pout amer,
Un grant coup li vint doner
Amount el heaulme peint de flurs,
Qe tost abati les colurs.
Sur le senestre le coup descent,
Mailles trenchent plus de cent.

Bien pres passa le costé,
Mes la char n'ad pas toché.
Amyllioun, qe tant fu de vigour,
Meint coup li dona ceo jour.
La bataille ad bien duré
Desque noune fust passé.
Ly seneschal fist moult bien,
E sire Amillioun ne dota de rien.
Ne savoit [nul] del chaump juger
Lequel fuit meillour chevaler.
Amillioun fust bien anuié
Qe la bataille ad tant duré ;
Un coup li voudra ja doner
Qe li deit par dreit grever.
Mes le seneschal primes li ferist,
Qe son coup tres bien apparist :
La healme del coup enbarra,
Qe Amillioun fort estona.
Ore poet trop attendre :
S'il ne sache le coup rendre,
Li autre s'en irra gabbant.
E sire Amillioun atant
Ferir li vint par tel ayr
Qe le feu fist tresailler,
Qe le healme fust tot purfendant.
En la cervele cola le brank,
E l'oraille od tote la face
Voler fist enmi la place.
Le braz od le brank trencha ;
Desque en la haunche le branc cola.
En cel champ fu ben vengé ;
Par li mes n'iert encusé.
S'il chaist, n'est pas mervaille.
Ore finist la bataille.
Les uns chaunterent, les autres plorerent.
Les chevalers ja corerent,
Mes le counte vient premer ; [73ra]
Atant se fist desarmer.
S'il eust plaie li demaunda ;
Cil dist que mal n'en a :
Plus est sain qe pesson de mer.

Atant li vount touz beiser :
Sur touz li fist la dame joie,
E la pucele totevoie
Semblant li fist tant com osa,
Car son pere moult dota.
Le counte atant l'ad appelé :
'Dy moy,' fait il, 'fille bele,
Amys pur vous ad combatu,
Son enemi ad confundu ;
Ly e vous ad aquité
Del fait dount fuistes encusé.
S'il vous velt esposer,
Li porriez de quer amer ?'
E ele respount moult simplement :
'Tot soit a vostre talent !
Si vus me volez marier,
Jeo ne me deveroy pas corucer.'
Dount fut comaundé al baronage
Qe eus feussent al mariage.
L'endemain a terce sonant
Touz i furent, petit e grant,
Les barons e les chevalers,
Borgés, sergeans e esquiers.
Quant touz furent assemblé,
La pucele fut amené
A l'huis de moster.
Quant Amillioun deust son noun nomer,
Si se purpensa moult estreit ;
Oyst une voiz que li disoit : ——
Qe nul ne oist fors li noun ——
'Lessez, lessez, sire Amillioun !
Jeo vous di certeine novele :
Si vous esposez la damoisele,
Einz qe soint .iii. anz passez,
Aprés de ceste leprouz serrez.
Avant mes unke si laid ne fust
Home, com dire bien le poet.'
Amillioun l'ad bien entendu,
E la prist sicom son dreu,
Mes pur ceo ne vout lesser, [73rb]
Mes la resceit come sa mullier.

Ne voleit qe eus furent aparceu
Coment son frere eust deceu.
La damoisele fuit ben paé
Quant ad baroun a volunté.
Le counte tynt feste plenere
Une symaine tot entere ;
Mout i furent des robes donez
Dont les menestrauz furent feffez.
Le counte dona a ses esquiers
Les chivals e les destrers.
Ore vus dei jeo bien counter
Coment il firent a coucher :
La dame ad son dreu acolé
E par amour sovent baisé,
E en quidoit qe ceo fu Amys.
Mes Amillioun, qe fu pensifs,
Bien entendi en son corage
Fere ne li velt hountage
De son compaignoun trahir.
Moult parfound getta un sospir,
E el suspir geint forment.
La dame l'acola tendrement,
Si li demaunda quoi pensoit
E purquei tels suspirs getteit.
Donke dit sir Amillioun : ——
Ne vodra celer son noun ——
'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez ;
De vostre espoir failli avez.
A vous le peus bien counter,
Car bien le deverez celer.'
Tot lour estre luy ad counté,
E puis dit q'il prendra congé.
Quant il eust le congé pris,
E seignurs ove ly desqe a dis,
En son pais s'en est alé.
A Amys ad trestot counté
Coment eust finé la bataille
E coment eust fait la sposaille.
En une chambre puis estrerent
E lour robes chaungerent ;
Donpue ne fuit aparcevant

De lour estre tant ne quant.
A plus tost qe Amys poeit,
Congé ad pris, si s'en aloit
En son pays vers s'amye
Qe tant ama come sa vie.
Ore est mout en astage,
Car cru li est par mariage
Grant seignurie e grant honur :
De grant terres est il seignur,
De .iii. countez e demy,
Si tost come li quens est fini.

Ore est amé e tenu cher ;
N'estoet mes estre botiler.
Consailler fut fait e sire ;
Quantq'il voleit porreit dire.
Tenu fut par tote la terre,
Tant demeint grant affere.
Sa femme ly aime tendrement,
Si fist tot son commaundement ;
Tant qe le counte enmaladi.
E quant longtemps out langui,
Morust e a Deu rendist s'alme ;
E tost aprés morust la dame.
Quant mortz furent pere e mere,
Il ne eust soer ne frere
For soul la dame qe Amis aveit,
Pur ceo les terres recevoit.
Ore vodrom de Amis lesser,
Qe assez ad dount il ad mester.
Vus dirrai de sire Amillioun
Qe tant estoit leal compaignon.
Com il en son lit gisoit,
Sa bele dame a li disoit :
'Me diez par amour de moy ——
Car jeo vus aime en bone fey ——
Ta espee nue meistes entre nous,
Sire, purquei le feistes vous ?'
'Dame, jeo [ne] le dirrai mes ;
A ceo fui jeo confés.'
Par ceo savoit sir Amillioun

Qe Amis estoit leal compaignon.
Ove sa feme tant demorra [73vb]
Qe tot son pel ly arracha.
Si malade e si laid devint
Qe checun pur mesel li tint.
La dame li tint trop en despit:
Ne voleit entrer en son lit,
Ne voleit auxi od lui parler,
Ne od li beivre ne manger.
Meuz, ceo dit ele, veut morir
Qe a li vousist venir.
Cil soffri en cel an
Grant dolur e grant han.
Ses chevalers touz departoient,
Ses garsons touz li guerpeient;
Ne trova serjant ne esquier
Qe ewe froide li vodra doner.
Trestouz li ount deguerpi,
Estre un enfant q'il out norri.
Fiz de un counte, son parent,
Od li tint fer[m]ement,
E dit que li ne velt guerpir
Ne pur vivre ne pur morir.
La dame, que mout est ennuyé,
Ambedeus s'est hors getté;
E le seignur e le serjant,
Sire Amylloun e son enfant,
A chef de la vile a un bordel
Illoc lour fist aver hostel.
O, misires Amyllioun,
Mis estes a povre garisoun!
Jadis fu sire e seignur;
N'est pas merveile s'il ad dolur.
La mort desire plus qe la vie;
Nul solas ad ne compaignie:
N'ad home a qui parler,
Ne a qui poet son dolur moustrer,
Fors a l'enfant que ly serveit.
Amillioun com plus viveit,
Tant plus leid deveneit.
La dame par tant defendi

Qe nul ne fut si hardi [74ra]
Qe de rien li regardast,
Ne que manger li donast.
L'enfant, quant oy cel comaund,
Ne sout ou quere lour vivre avant.
Tantost counta a son seignur,
E il dit : 'C'est mal dolur
Quant n'avom a boivre ne a manger ;
Ne poums icy plus demorer.
Jhesu, le fiz seinte Marie,
Com longes me durra ceste vie ?
Jeo solei aver grant tresour,
Estre servi d'argent e d'or,
Ore suy tant demené
Qe de ma vie est grant pité.
Si jeo de feim morir deveray,
De mei memes force ne fray.'
L'enfant a soi donque appelast,
E pur Deu li conjurast
Qe illoec morir le lessast,
E yl en son pais alast.
L'enfant respoundi par grant douçur :
'Merci Deu, mon seignur,
Meuz voil od vous suffrir dolur
Qe sanz vous estre emperour.'
Quant l'un l'autre ad regarde,
Mout est entre eux grant pité :
Plurent e decirent lour draps,
Sovent se claiment cheitif e las ;
Plein[en]t de grant chivalrie
Le honur e la seignurie
Qe sire Amillioun avoit eu,
Qe ore est devencu.
Le noun vous dirray de l'enfant :
La gent l'appelent Amorant,
Mes Uwein fuit son dreit noun.
Donque li dist sire Amyllioun :
'Oweyn, a la dame irrez,
Nostre congé de li prendrez.
Hors de ceo pais irroms
A plus tost que nous pooms.

Mes jeo ne puis aler a pié ;
Priez a lui par charité [74rb]
Qe ele me face une ane doner
Qe jeo puisse chivacher.'
L'enfant a la dame ala,
Son message li counta.
Ele li fist un asne aver,
E pus sus les seintz jurer
Qe mes en le pais [ne] vendreit
De l'hure qe issi serreit.
Hors del pais s'en vont ;
Jamés quident qe revendrount.
Owein, le leal enfant,
Lour viaunde va querant,
Mes tant lour vint sur cherté
De pain, vin e de blé,
Qe donke ne poient home trover
Qe rien lour voille doner.
Einz ne pount plus entendre
Q'il covient lor asne vendre
Pur cink souz e diz e maille ;
De ceo acateront lour vitaille.
Estre ceo lour fount fere
Sur deus roes une cyvere
Qu'il pout sei meismes enchacer.
Amillion fist dedeinz cocher,
A plus q'il pout li eysa,
De long en long li enmena.
Par la terre tant alerent
Qe feym e me[s]aise troverent,
Desques eus vindrent el pais
Ou sojorna le counte Amys
Qe noble court illoeq tenoit
E moult grant ben fesoit.
La povre gent tot enviroun
Ala com a processioun.
Entre autres les deuz vount.
Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount ;
Si eus fuissent en la cort conuz,
A grant honur serreint receuz.
Pres [de] la porte se sount mis,

E l'enfant, qe bien fust apris
E moult ama son seignur,
Ala demaundant tut entour [74va]
Des povres les estres e les maneres
E les custumes de les terres.
Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt
E les povres regardant,
Veu ount l'enfant bel e parceu,
E [s']il fuit auke vestu,
Gentil home resemblereit.
Un de eux ly appeleyt,
Demaundast s'il vout servir.
E il getta un grant suspir ;
Cil dit q'il out un seignur
Q'il ne lerreit pur estre emperur.
Qy ceo fuit li demaundeient,
Mes sitost com il veu avoient
Celi q'il clama pur seignur,
Touz li tenoient a folur.
Mes de l'enfant avoient pité ;
Al counte Amys ount counté.
Cil, sitost com mangea,
Son premer mes li envoya
Par son mestre botiler,
Qe ert corteis chevaler.
De chescun mes qe l'em li porta
La moyté lor envoia.
Amis une coupe avoit
Ke mout ferement amoit,
Car Amillioun, qe tant amoyt,
Cele coupe li donait.
Amillioun mesmes avoit le per,
Qe ne vout vendre ne doner.
Mes le hanap tant ameyt
Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit.
Les deus hanaps tant resembleient
Qe, si en une mayn estoient,
N'est home qe tant de l'overaigne seust
Qe l'un de l'autre deviser deust.
[... ... ...]
Qe unke lesser le voleit.

Quant le counte ad pres mangé,
Son botiler ad appelé :
'Pernez ma coupe od tot le vin,
Si l'aportez a ceo frarin, [74vb]
Au povres qe tant est mesaysé.
Mes le hanap soit bien gardé :
En son esquiel le vin versez,
E ma coupe me reportez !'
E celi fist le comaundement
E vint e porta le present.
Le povres, qe mesel fuit en vein,
Prist sa coupe hors de son sain,
E l'autre la vist, si s'esmerveilla.
La coupe durement regarda ;
Pensa cil : 'Coment poet estre ?
Ces deus hanaps fist un mestre !'
Arere tantost se repeira,
Al counte de cel hanap counta
Coment a soen resembleit.
E le counte moult esmerveileit,
De Amillioun donqe li sovent :
'Bien sai', fait il, 'verraiment,
De mon frere l'ad emblé,
Qe cher serra achaté !'
Outre la table saut ataunt,
A cel povre vint errant ;
Forment l'ad feru du pé,
Qe en la bowe est il versé.
Les chevalers vindrent del deys,
Qe li estoient de molt prés ;
Enresoner li voleient,
Mes pur poer qe eus avoient,
Ne li poeient assuager
Q'il ne li velt ocier.
Quant batu li out e defolé
Que ses mains sunt allassé,
Donqe commaund qe l'en ly lyast
E en sa prison li gettast.
Amillioun donque maundereit
E la verité de li querreit
Qe son hanap out perdu

E coment est avenu.
Quant Amyllioun li oist nomer,
De dolur pout son quer crever :
'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez [75ra]
A Amillioun, qe tant amez,
Ne me facez enprisoner,
Mes le chef me faites tost trencher.
Mes certes ai jeo trop vesqui ;
Trop bien ai la mort deservi.'
'Voir,' dist il, 'vous l'averez !
De vostre demaunde ja ne faudrez !'
Tantost espeie demaunda,
E il memes dist q'il le tuera.
Tost l'espeie li fust baillé,
Puis l'ad en haut levé,
E Amillioun le col tendist.
Mais l'enfant avant saillist :
Uwein, qi ne poet suffrir
Qe son seignur deust morir,
En haut cria : 'Mercy, mercy !
Pur icel Deu qe onqe ne menti
E qi en croiz suffri passioun,
C'est mi sires, sire Amillioun !
Sire quens, remembrez, Amys,
Com vous li soleiez amer jadis.
Grant bosoigne li ad icy chacé.
Si le occiez, vous fetes pecché.'
Quant le counte ceo oist,
Tost estendu a terre chaist :
Bate ses mains, ses cheveuz detire,
Sa vie hiet, sa mort desire,
La hure maudist q'onqe fu nee,
Quant pecché l'ad ensi encombré
Qe son frere desconusseit
Qe touz biens li fesoit.
Trestouz plurent de pité.
Amis s'est tot adrescé,
Plus de cent foiz li ad beisé,
Tot ensi com ert de tay levé.
Entre ses braz li ad apporté,
En sa chambre li ad couché.

Bainer li fist e seigner,
Con son corps li fist garder,
Servir le fist tot a talent [75rb]
De viande e de boivre ensement.
E li memes a li vet
Chescun jour sis foiz ou sept ;
Tant com pout l'ad conforté.
La dame sovent a ly est alé,
Qe li ama molt de fin quer
Comme si ele fust sa soer ;
Plus ne li poet fere companie.
Treis anz demena tele vie ;
De ses eses ass[e]z avoyt
Tant com il memes desiroit.
Quant passa le temps issi,
Qe li quens une noyt dormi,
Une voiz oy qe li disoit
Qe Amillioun trop bien garreit
S'il en fist mettre cure
[Des] deus fiz de sa gendrure :
Si les enfantz tuast
E Amillioun en le saunk bainast,
Si sain devendreit com pessoun.
Quant veu avoit l'avisioun
E de cel sounge resperi,
'A, Deu !' dit il, 'qe onqe ne menti,
Doine qe voir soit mon sounge.
Mes ore, soit voir ou mensounge,
La merveile voiz voil prover.
Pur mes enfanz ne voil lesser.
Mout avera fait bone jorné
Si par lour saunk poet estre sauné.'
Un jour s'est par matyn levé,
E al matin est il alé ;
Deu requist e son haut noun
A son frere doine garisoun.
La dame vint, qe bone fust,
Sovent Deu pur li requist.
Atant le counte s'est repairé,
En une chambre est entré
Ou les deus enfanz dormerent ;

E doucement eux entreacolerent.
Le pere [n']eust de ses fiz pité : [75va]
Ambedeus ad le chef trenché ;
E le sanc de eux ad quillé
E Amillioun dedeinz ad envolupé.
Sitost com le saunc senti,
De son grant mal est il garri,
Qe en corps ne en face
De maladi ne appareust trace.
En Amis ne out qe regeir ;
Une bone robe li fist vener
E a mouster puis li mena.
La dame, sitost com vew li a,
Pres de joie se palma ;
Vint al seignur, si li demaunda
Si ceo fuist sire Amillioun,
Coment il out sa garisoun.
'Dame, certes, jeo vus dirray,
Mes vous desconforteray.
Sachez, dame, que pur sa saunté
Voz deus fiz ai estranglé.'
La dame ses meins a Deu tendi
E mout graces li rendi,
Donqe comence pur fere joie :
'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,
Si li plest, par son poer
Nous porra enfaunz doner.
Si Amyllioun perdu eussez,
Jamés tel autre ne averez.
De les enfaunz plus n'enpensoms ;
Si Deu velt, bien lé recoveroms.'
Atant la parole ount lessé
E le service Deu ount escoté.
Aprés la messe vint a mesoun ;
Joiouse est ele pur Amyllioun.
Amys donqe ove la dame ala
En la chambre ou les enfaunz lessa.
Les enfantz furent estranglés,
E tot vifs les ount trovez !
En lor lit s'entrebeyserent,
Del ray del solail s'enjoierent.

Pere e mere, quant ceo virent, [75vb]
A Deu graces en rendirent.
Sire Amillioun, quant fust sané
E de son grant mal netté,
Sitost com porra prist congé,
En son pais s'en est alé.
Quant la dame aveit oy
Qe son seignur estoit garri
E q'il revint el pais
E od li le counte Amis,
Tel ad el quer dolur
Qe unque femme ne out greignur.
Donqe se tint enfyn honie :
Ne quideit pas q'il fuit en vie.
Pur ceo fut tot appareillé
Q'en le mois deust estre esposé.
Mes ore se claime lasse cheitive ;
Moult luy poise qe ele est vive.
Ne saet ele pas quoi ele poet fere ;
Si se met hors de la terre,
Ne la savera plus aider.
Donqe comencea a purpenser
Q'entre nonaynes se muscereit ;
Son seignur jamés ne verrait.
Mes ne li ert pas destiné,
Car un jour par matyné
Les deus countes sunt venuz
E a la porte descenduz,
Qe nul fut aparcevant
De lour venue tant ne quant.
La meisnee fust endormie ;
De lour venue ne saveint mie.
Quant la dame oi counter,
En une chaumbre se ala muscer ;
Meuz velt estre pendue
Qe de son seignur estre veue.
Sire Amillioun fist com leal bier :
Sa gent fist tot assembler,
Chasteleins e chivalers,
Serjanz, vadlet e esquiers.
Touz devant li venerent ; [76ra]

Merci crier touz penserent.
Son maltalent lour pardona,
Od sei les tint e les ama.
Donque fist sa femme demaunder,
Car de li se veut venger.
Tant fuit quise q'ele fut trovẽ,
Mes de pour se fuist muscẽ.
Sitost com vist son seignur,
Ele pauma de pour.
Le seignur la fist relever,
Bel la comence a chastier:
'Dame,' dit il, 'lessez ester!
Ne deussez tel doil demener
Pur ceo qe sain suy revenu.
Molt vus fust ben avenu,
Si feussez tele com deussez estre,
Par Jhesu, le roy celestre.
Tourné me ert a grant vilté
Si jeo ne soie de vous vengé.
Si fu[i] malades e defet,
Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,
Qe vivre deusse bien du mien.
Dame, sovenez vous del bien,
Coment a manger me menastes
E del pais m'enchaceastes;
Puis feistes jurer mon serjant
Qe jeo ne deusse en mon vivant
En ceo pais revener,
Ne pur vivre ne pur morir.
Suvenez vous del bordel
[K']a moy livrastes pur hostel.
Celi averez tant com vus viverez;
En noun de dowere le tenez!'
Donke fist fere un turel:
Petit fut mes molt bel,
Si fut fort durement;
De loinz le virent tote sa gent
Outre tote la cité;
La fu la dame durement lié.
Jamés de illoec ne pout issir;
La demora desqe al morir.

Autre dames ensample averont [76rb]
Coment lour seignurs lour garderont.
Une garce la serveit
Qe par une fenestre luy porteit
Chescun jour sa liveré,
Coment le counte out comaundé.
Un an vesqui e un jour ;
A drein morust pur dolur.
Sire Amillioun fut molt prisé
Qe autre peine n'ad liveré.
Unke puis femme ne vout aver ;
Nul eyr out de sa mullier.
Owein l'enfant bien feffa :
De tote sa terre li herita,
Qe bien aveit deservy.
En bone vie longtemps vesqui ;
En bienfaitz se pena.
Aprés sa mort a Deu ala ;
Amis, son frere, ensement.
Moult se amerent fierement,
E bone fut la compaignie.
Lor corps gisent en Lombardie,
E Deu fait pur eus grant vertuz :
Les voegles ver, parler les mutz.
Tot ensi finist le sermoun
De sire Amis e de syre Amillioun.

REJECTED MANUSCRIPT READINGS

105 Sur cel. 111 un uount. 123 ami. 130 moy nestes. 137 Pas quil. 160 des chiualers. 171 lu mariast. 172 esposast. 176 Qe fuit. 233 La damoysele. 285 En play. 321 Tant uint. 374 Ainz moult. 437 emuy. 438 dedut. 468 De sir. 528 sire ad enuoye. 539 Ainz quant. 551 se bien armer. 596 launce ne pout gal. 653 bien arme. 682 Sil dist. 736 firent a soir. 745 Cel suspir meint. 790 Ele ne. 815 dit il. 875 cheitif allas. 924 autres de deuz. 932 Les poures. 945 com li ueu. 1061 Commes qe ele. 1070 nen fist. 1076 repairi. 1113 fiz ad. 1196 viure ne deusse. 1205 suruenez. 1227 Nul eyse. 1228 Ewein. 1241 finust.

II. 脚韻

1.

1—1 *ai : e*

forfait / fet 495-96

e :ai

defet / forfait 1194-95

1—2 *ant : aunt*

pesant / ataunt 623-24 riant / approchaunt 377-78

aunt : ant

ataunt / errant 994-95 juaunt / regardant 934-35 semblaunt / quant 19-20

ante : aunte

aparcevante / graunte 519-20

aund : ant

comaund / avant 850-51

1—3 *ant : ank* 語尾における子音字の使用が曖昧になった例

purfendant / brank 667-68

2.

2—1 *é : é(=ié)*

apelé / meisné 251-52 ensemblé / meisné 391-92 paé / volunté 727-28 privé / meisné 151-52

é(=ié) : e

moyté / counté 175-76 moyté / demené 109-110 prié / refusé 281-82 corucé / pié 625-626

e(=ié) : é(=ié)

effraé / pité 565-66 pité / adrescé 1046-47 pité / trenché 1094-95

ie / é

paié / armé 579-80

2—2 *ein / ain*

vein / sain 980-81

2—3 *ien / en(=ien)*

bien / ren 603-4

3.

3—1 *er(=ier) : er(=ier)*

botiler / chevaler 952-53 botiler / mester 211-12 chevaler / laner 283-84 mester / botiler 357-58

3—2 *ers(<ariu) : iers(<ariu)*

chevalers / esquiers 473-74, 705-6, 1172-73

deners / esquiers 163-64

3—3 *ier[s] : er[s](=ier[s])*

esquier / chivaler 449-50 esquiers / destrers 733-34

3－4　*er*(＜*a*) : *er*(＝*ier*)

marier / corucer 699-700　parler / manger 813-14　parler / venger 405-6

-aríu に由来する語尾 ier は ie が単母音化し，er と綴られていることが多いために er : er, er : ier, ier : er という脚韻が多くみられた。

この混乱により語源を等しくせぬ(＜aríu)と(＜a)から派生した脚韻，即ち chivaler / porter 621-22 や botiler / parler 371-72 なども使われている。

このように異なる語源に由来し，異なる音韻変化を行ったはずの語が脚韻に同じ綴で現らわれている例を以下に挙げておく。

3－5　*er*(＝*ier*＜*ariu*) : *er*(＜*a*)

botiler / affier 335-36　botiler / affyer 39-40　botiler / parler 371-72　chivaler / per 227-28　chivaler / porter 621-22　destrer / per 631-32　premer / desarmer 679-80

3－6　*ier* : *er*(＜*a*)

denier / prover 347-48　esquier / doner 821-22

3－7　*er*[*s*](＝*ier*[*s*]＜*ariu*) : *ier*[*s*](＜*ĕr*)

chivalers / fiers 589-90

3－8　*er*(＜*a*) : *er*(＝*ier*＜*eriu*)

aler / mester 147-8

3－9　*er*(＜*ya*) : *er*(*ar*)

cher / affier 335-36

3－10　*er*(＜*a*[) : *er*(＜*ē*[)

amer / poer 83-84

3－11　*ere*(＜*ay*) : (＜*aria*)

affere / manere 309-10

fere / cyvere 910-11

3－12　*ere*[*s*](＜*aria*) : *ere*[*erres*](＜*ĕ*])

manere / arere 629-30

maneres / terres 932-933

3－13　*ere*(＜*ay*) : *are*(＜*a*[)

fere / frere 525-26

3－14　*ere*(＜*ay*) : *erre*(＜*ĕ*])

affere / guerre 61-62

fere / terre 1152-53

3－15　*ere*(＜*ē*[) : *ere*(＜*ay*)

crere / affere 139-40

3－16　*erre*(＜*ĕ*]) : *ere*(＜*ay*)

terre / affere 781-82

3－17　*erre*(＜*ĕ*]) : *ere*(＜*ē*[)

terre / crere 107-8

3－18　不規則韻 (anomaly)

eir : *er*

regeir / vener 1102-3

er : ir

revener / morir 1202-3

ier : ir

affier / ferir 593-94

yr / er

ayr / tresailler 665-66

oir : ur

voir / seignur 529-30

es (< *ay*) : *és* (< *ess*)

mes / confés 803-4

oist : aist

oist / chaist 1038-39

uisse : oesse

fuisse / troesse 515-16

ust : oet

fust / poet 719-20

4.

4 — 1 *eit* (< *ĕy*) : *eit* (< *ĭ*[])

dreit / veit 573-74 aveit / ameit 189-90 esteit / serreit 567-68 vendreit / serreit 896-97 vengereit / mettreit 627-28

eit : eyt

resemblereit / appeleyt 938-39

eyt : eit

dorreyt / freit 583-84 ameyt / voleit 962-63 serveyt / haeit 185-86

4 — 2 *eit : ait*

mescereit / verrait 1156-57

4 — 3 *eit : oit*

aveit / recevoit 791-92 desconusseit / fesoit 1044-45 estreit / disoit 711-12 poeit / aloit 767-68

eyt : oyt

soleyt / amoyt 149-50

oit : eit

avoit / amereit 263-64 disoit / garreit 1068-69 pensoit / getteit 747-48 purpensoit / aveit 267-70

oit : eyt

levoit / retorneyt 113-14

oyt : eit

fesoyt / ameit 117-18

4 — 4 *oyt : ait*

amoyt / donait 958-59

4 — 5 *oy* (< *ē*[]) : *ey* (< *ĭ*[])

moy / fey 799-800

4 — 6 *eient : oient*

demaundeient / avoient 944-45 voleient / avoient 1000-1001

oient : eient

departoient / guerpeient 819-20 disoient / veient 217-18

5.

5 — 1 *oun : oun*

Amillioun / compaignoun 73-74 Amyllioun / garisoun 835-36 Amilloun / regioun 153-54 Ascensioun / basoun 209-10 avisioun / compaignoun 467-68 passioun / Amillioun 1032-33 pessoun / avisioun 1074-75

5 — 2 *oun : om*

tresoun / avom 75-6

5 — 3 *oun : on*

Amillioun / compaignon 121-22, 795-96, 805-6 carboun / mayson 369-70 compaignoun / treson 69-70

on(s) : oun(s)

fasçon / noun 537-38 barons / nouns 11-12

5 — 3 *ound : ound*

respound / mound 345-46

5 — 4 *onte : ounte*

hounte / counte 329-30

ont : ount

demorront / irrount 507-8 vont / revendrount 898-99

5 — 5 *unt : ount*

assemblerunt / serrount 311-12

6.

6 — 1 *our : ur*

douçour / honur 141-42 jour / dolur 1222-23 jour / seignur 441-42

pour / seignur 401-2

ur : our

seignur / pour 1182-83

6 — 2 *our (< oriu) : or (< auru)*

tresour / or 858-59

6 — 3 *out : ut* 綴り ou と u が同価値である例

vout / redut 437-38

6 — 4 *ur[s] : ur[s]*

dolur / greignur 1144-45 douçur / seignur 868-69 flurs / colurs 639-40 seignur / amur 511-512 seignur / dolur 837-38, 852-53 seignur / emperur 942-43 seignur / folur 946-47

7.

7 — 1 *uit : ut*

fuit / avenut 235-36

7－2　*ust : ist*
fust / requist 1088-89

8．　*y : uy*
descovery / luy 259-60

9．語尾子音字綴りの使用が曖昧になっていた例

9－1　*és : ez*
estranglés / trovez 1130-31　couplés / beautez 179-80

9－2　*iz : ys*
forfiz / Amys 501-2

9－3　*ys : ifs*
Amys / pensifs 739-40

7－3　*ui : oe*
fuisse / troesse 515-16

7－4　*u : oe*
fust / poet 719-20

III．「アミとアミロン物語」

「アミとアミロン」物語の系譜は中世紀において広くヨーロッパに流布していたfolk-taleの'Two brothers'などに由来するといわれる[1]。多くの言語によって書き残されてあり叙事詩，武勲詩，ロマンス，聖徒伝，奇蹟劇，そして散文の歴史物語と，物語の様式も多種多様である。

11世紀後半にFleuryの修道僧Radulfus Tortarius（Raoul le Tourtier）がラテン語で書いた書簡体詩 *Ad Bernardum* 340行のうち203行がAmicusとAmeliusの友情物語に割かれている。現存する記録としてはこの書簡体詩が最も古い[2]。12世紀のラテン散文 *Vita Amici et Amelii Carissimorum* は二人の主人公を愛のために一切を抛った聖者として扱った。1200年ごろ，フランシアンで綴られているchanson de gesteの*Ami et Amile*[3]が現われた。アングロノルマンのロマンス *Amys e Amillyoun* が作られたのは凡そ同時期である。1330年頃の作成と推定されているtail-rhyme romanceのME *Amys and Amylion*（又はAmis and Amiloun）はAN *Amys e Amillyoun* を翻案したと考えられるほど物語の構成，言葉遣いに類似点が多い。それは1200年より以前に書かれてあった，現在は現存せぬアングロノルマンの「アミとアミロン」物語を両者が共通の原典とした故であろう，とするのが大方の見解である。

ANによる *Amys e Amillyoun* は3写本が現存する。即ち以下の3本である：

Cambridge Corpus Christi College MS 50 ff. 94vb-102ra（13世紀後半）

Karlsruhe Badische Landesbibliothek MS 345（olim Durlac 38）ff. 52ra-61vb（14世紀後半）

London British Library MS Royal 12. C XII ff. 69ra-76rb（13世紀後半から14世紀初頭）

CambridgeMSとLondon MSの本文は似通っているがKarlsruhe MSの本文には多くの改竄が認められる。

E. Kölbingは1884年に「アミとアミロン」物語の批判本文を上梓[4]した（ME *Amis and Amiloun* AN *Amis e Amilun* ON *Amicus Rimur ok Amilius* L *Vita Amici et Amelii carissimorum*）。その批判本文のアングロノルマンの項について述べると，Kölbingは London MSを底本として選んだがCambridge MSとのcomposite editionを作成した，と言うことができる。ちなみにLondon MS BL Royal 12 C XIIとKölbing editionを読み較べると1241行の詩行のうちKölbingの手になるemendationは600余個所を数え得る。彼はANアミとアミロン物語の，彼の考えるところによる，prototype

を作り出したのである。よって，編者はここにMS BL Royal 12 C XIIに収められてあるAN *Amys e Amillyoun* のsingle MS editionを提示した[5]。当時多くの聴衆を魅了し，アングロノルマン語で読みものとしても重宝されたに違いないこの物語の概要を次に記しておく。

ある伯爵に二人の貴族の子息が仕えていた。一人はAmysと言い，他の一人はAmillyounと呼ばれていた。この子供達二人はまことによく似ていて人に抜きん出て美しく，天使とも見まがう程であった。又とない仲の良い友達になって篤い友情に結ばれている二人は立派な騎士として主君を敬愛し誠実に仕える。伯爵も二人を信頼し，Amysを大膳係に任じ，Amillyounは執事にとり立てられた。やがて両親を失くしたAmillyounは主君のもとを辞して先祖の領地へ戻る。かねがね二人の仲の良さを妬んでいた家令頭は，含む所あってAmysに見せかけの友誼を申し出るが断わられる。美しい立派な騎士様だと人々に誉めそやされているAmysは主君の息女に恋される。この二人の仲を知った家令頭は早速あるじに注進に及ぶのでAmysは姫の面目を保つ為に白を切って決闘裁判で戦わねばならぬ。彼は神の前に潔白を誓って決闘にのぞむ自信がない。思い余ってAmysは，今は奥方を迎え，領主となって立派に彼の地に暮している親友のAmillyounをひそかに訪ねる。Amillyounは主君の姫に対しては晴天白日の身であるから友の身替りになってやろうと申し出る。二人は衣服を変えてAmillyounが決闘に臨む。誰も身替りとは気付かない。Amillyounになりすましたは友の領地へ赴き，Amillyounの帰国を待つ間，白刃の剣を毎晩友の妻との間に置いて眠る。Amysにかわって決闘場に向かったAmillyounは首尾よく家令頭を打ちとった。Amysになりすまして結婚式を挙げようとするAmillyounに天の声が聞え，天罰として三年のうちには醜い病になるであろうと告げる。然し彼は友情を裏切ることを潔しとせず，身替りが発覚することを恐れ，天罰を覚悟で結婚の披露を済ませた。

Amillyounは事実を新妻Mirabeleにうちあけ，ひそかに帰国してAmysと入れ替わる。Amysはその後主君の息女Mirabeleと共に幸せに暮すが，一方Amillyounは天罰の癩となり遂には妻に領地から追い立てられる。彼は忠実な一人の従者と共に流浪の果てやつれ衰えてAmysの領地へ辿り着く。Amysはこの哀れな乞食が彼の無二の友とは思いも寄らぬ。AmysとAmillyounの二人だけが所持している筈の友愛のしるしの寸分たがわぬ酒杯を物乞いの病人が持っている所からAmysはてっきりこの乞食が盗みを働いたものと思い，立腹して刀に手を掛ける。その時，どこ迄もAmillyounを見捨てずに，誠を尽くして付添っていた従者のOweinがこの癩病患者こそAmillyounであるとAmysに告げる。Amysは驚愕し，嘆き悲しみ，友を城に請じて手厚く看病する。或る晩Amysの夢の中で声が聞こえ，Amillyounの病気を治すにはAmysの二人の幼児を殺してその血で病人を潔めるのがよいと彼に告げた。Amysは遂に子供を殺してその血で親友を浄める。Amysの妻は夫より話を聞いて，Amysの無二の親友の命を救う為であったのならと納得する。Amillyounの病は癒える。殺された子供達は翌朝何事もなかった様に目を醒ました。Amillyounは領地へ戻る。彼の悲情な妻を石牢へ閉じ込めて，最後迄あるじに忠誠を尽したOweinを自国の領主にし，AmysとAmillyuonはその後しあわせに暮らす。神に召された二人はロンバルディの墓に葬られたのであったが，神は彼等を嘉し給い，多くの奇蹟を示し給うた。

さて先に，このANの物語のadaptationがMEロマンス *Amys and Amilyon* であると述べたので，ANとMEにおいて叙述の類似しているところ，あるいは主題の扱い方に微妙な差異が認められるところなどを引用してみたい。まずはAmillyounになり済ましたAmysが親友の妻と臥所を共にする場面である。

Amys, quant il se ajousta,
Leez la dame se coucha ;

Sa espeie nue entre eus posa.
La dame de ceo s'enmerveilla.

AN *ll.* 539-542.

& whan þai were togider ylayd,
Sir Amys his swerd out braid
& layd bitvix hen tvo.
Þe levedi loked opon him þo
Wroþlich wiþ her eiȝen tvo,

ME *ll.* 1162-1166.

叙述は同じように進んでゆく。MEはANをそのままうつし取っている様子であるがANの奥方が驚いているのに対し，MEのAmylion夫人は夫を睨みつける。較べてみると類似しているとはいえ，各々個性が浮かび上がる。やがてAmillyounは哀れな乞食の姿と変り果て，Amysの領地へと流浪して行く。領主であるAmysが激怒して手にかけようとしたその物乞いこそ且て己れの危急を救ってくれた無二の親友であったと判明した時のAmysの驚愕をANとMEの両者はどのように表わしているであろうか。

Quant le counte ceo oist,
Tost estendu a terre chaist:
Bate ses mains, ses cheveuz detire,
Sa vie hiet, sa mort desire,
...
Trestouz plurent de pité,
Amys s'est tot adrescé,
Plus de cent foiz li ad beisé,
Tot ensi com ert de tay levé.

AN *ll.* 1038—1041,
1046—1049.

He fel aswon to þe grounde
& oft he seyd, "Allas þat stounde!"
...
For he saved mi liif biforn,
Ichave him ȝolden wiþ wo & sorn
& wrouȝt him michel wo.
"O broþer." he seyd, "par charite,
þis rewely dede forȝif þou me,
þat ichave smiten þe so!"
& he forȝave it him also swiþe
& kist him wel mani a siþe,
Wepeand wiþ eiȝen tvo.

ME *ll.* 2134—2135,
2140—2138.

MEはAmysの痛哭の独白を入れ，Amylionへの語りかけの言葉を導入した。ANの，特に心理描写

をMEにうつしとる際，MEでは屡会話体が導入される。会話体をもっていきいきとした個性の描出を試みるのは，ANより翻案されたMEの物語に認められる一つの特徴といえるだろう。
引用のANに会話はないがAmysの悲嘆の描写には迫力がある。やつれた癩者がAmillyounであると気付いたAmysは驚愕の余り地に倒れ伏す。手を打ち髪をかきむしり，我身をいとい死んでしまいたいとさえ思う。悲しみに暮れて涙を流しながら何回となくAmillyounを抱擁する。AN versionは昂揚した感情を生々しく巧みに描出するのである。この技巧はやがてイギリスのロマンスに摂入れられて，Chaucerにあっては自家薬籠中の物となる。

また，AN ME物語において基調となる言葉を考えてみたい。ANの物語は冒頭で語り手が聴衆にまず示すごとく，これはchaunzon d'amurなのである。AmysとAmillyounの二人は深く愛し合った'Taunt s'amerent fierement' *l.* 17。二人の間に自己を捨てた友情が成立するのも心の中に変らぬ愛があればこそ，である。二人の主君伯爵も彼等をいつくしんだ。'Si les amast mult tendrement' *l.* 33 二人のたぐい稀な愛，厳しい自己犠牲もいとわぬ一途な愛を神は嘉し給うたのである。一途なる愛と信頼という主題は聖書の故事アブラハムをさえ想起させる。この観点を強調すると物語は聖徒伝として扱われるだろう。一方，MEに見られる，keynoteとなる言葉は 'plighting of troth' *l.* 5である。二人は愛情があるからこそ友情の誓いを立てるのであるが，ひとたび誓いを立てた後は誓いを守ることが何よりの美徳となる。我々はここでゲルマン民族に伝わる，タキトス言うところのcomitatus[6]の関係を思い浮かべる。Comitatusは主従の間柄だけではなく主君に忠誠を誓い合った家臣たちの間にも成立した。

家令頭に友誼を持ちかけられてそれを断わるAmysは，Amylionとかわした誓約にそむけば全く私の立場はなくなる，とひたすら誓約を守ることに重点をおく：

…"Mi treuþe y pliȝt
To sir Amiloun, þe gentil kniȝt,
…
Y no scal never mi treuþe breke,
Noiþer for wele no wo.
…
Y schal be to him trewe;
& ȝif y were now forsworn,
& breke mi treuþe y were forlorn,
Wel sore it schuld me rewe."

ME *ll.* 367—368.
371—372. 378—381.

Amylionが領地を相続するために国へ帰ることとなり，親友のAmysと別れる時も一番重要な言葉はtrewþe-pliȝtであった。彼等は誓い合った中だからお互いが真実であれかしと念を押すのである。

Sir Amiloun, þat hendi kniȝt,
Was riȝt-wise man of rede
& seyd to sir Amis ful riȝt,
"Broþer, as we er *trewþe-pliȝt*
Bope wiþ word & dede,
Fro þis day forward never mo
To faily oþer for wele no wo,
To help him at his nede,

Broþer, be now trewe to me,
& y schel ben as trewe to þe,
Also god me spede!"

ME *ll.* 290—300

Amysに愛を打ち明ける主君の息女 Belisaunt (AN では Mirabele) も彼に言う…貴方は誠実であって，私を他の誰とも取り替えないと貴方の真実を誓って下さい。私もそのように致しましょう。死ぬまで誓いに背きません・・・と。

"Pliȝt me þi trewþe þou schalt be trewe
& chaunge me for no newe
Þat in þis world is born,
& y pliȝt þe mi treuþe also,
Til god & deþ dele ous ato,
Y schal never be forsworn."

ME *ll.* 583—588.

病身の Amillyoun を邸内に引取った Amys の妻 Mirabele は夫を愛するが故に Amillyoun を兄のごとく誠意をもって de fin quer *l.* 1060 愛する。この愛は宮廷恋愛詩にみられる fin amour に通じるところがあろう。ME では変り果てた Amiloun をみて Amys の妻は気絶するが甲斐々々しく世話をすることとなり，Amys 夫妻は Amiloun に真を尽くすのである。Ful trewe þai ware & kinde *l.* 2187.

さて，AN version では愛による献身という行為が物語の主旨である。ME version では友愛の誓いに，そして主従の，夫婦の，誓いにどれ程忠実であり得るか，が物語の関心事となっている。また決闘裁判でアミロンと家令頭が死力を尽くして戦う一騎打ちの場面は両雄互いにゆずらず，AN Amillyon と seneschal は武勲詩に活躍する剛勇さながらのイメージであるし，ME の二人これに勝るとも劣らない。ここには M. P. Ker[7] の言うところの英雄詩・武勲詩がかもし出す精神の類似がみられる。以上管見であるが AN *Amys e Amillyon* はすなわち，Roland と Olivier の友愛の姿を彷彿とさせる武勲詩と roman countois の性質を兼ね備え，ME *Amys and Amylion* は OE heroic poetry の伝統と外来ロマンスの要素を巧みに混淆していることが読みとれるであろう。両者を比較することにより文学的嗜好変遷 acculturation 期の作品の興味深い手法が一層明らかに顕示されることと思われる。

注

1. Mac Edward Leach ed. *Amis and Amiloun*, Oxford Univ. Press 〔EETS Os. 203〕 London rpt. 1960 pp. xxxii - lxxi.
2. Marbury B. Ogle and Dorothy M. Schullian ed. *Rodulfi Tortarii Carmina*, American Academy in Rome : Rome 1933 (Papers and Monographs of the American Acadamy in Rome viii)
   F. J. E. Raby. A *History of Secular Latin Poetry in the Middle Ages*, Oxford, 1934 vol. 2, pp. 23 - 26
3. Peter F. Dembowski ed. *Ami et Amile, chanson de geste*, Paris, 1969 〔CFMA 97〕
4. Eugen Kölbing, ed. *Amis and Amiloun*, (Altenglishe Bibliothek, II) Heilbronn, 1884
5. Hideka Fukui ed. *Amys e Amillyoun*, (Anglo - Normam Text Society, *Plain Texts Series* 7) London, 1990
   写本は vellum 123 folios, trilingual miscellany である。*Amys e Amillyoun* は二欄 42行をもって各葉に書かれてある。1320—1333年ごろ Hereford において写本に綴じられる以前，写字生によって書きとられてあったものらしい。
6. Cornelii Taciti, "Germania", *Opera Minora*, Oxford Univ. Press 1952, p. 311 seqq.
7. W. P. Ker, *Epic and Romance*, Dover Publication Inc., 1957, p. 51 seqq.

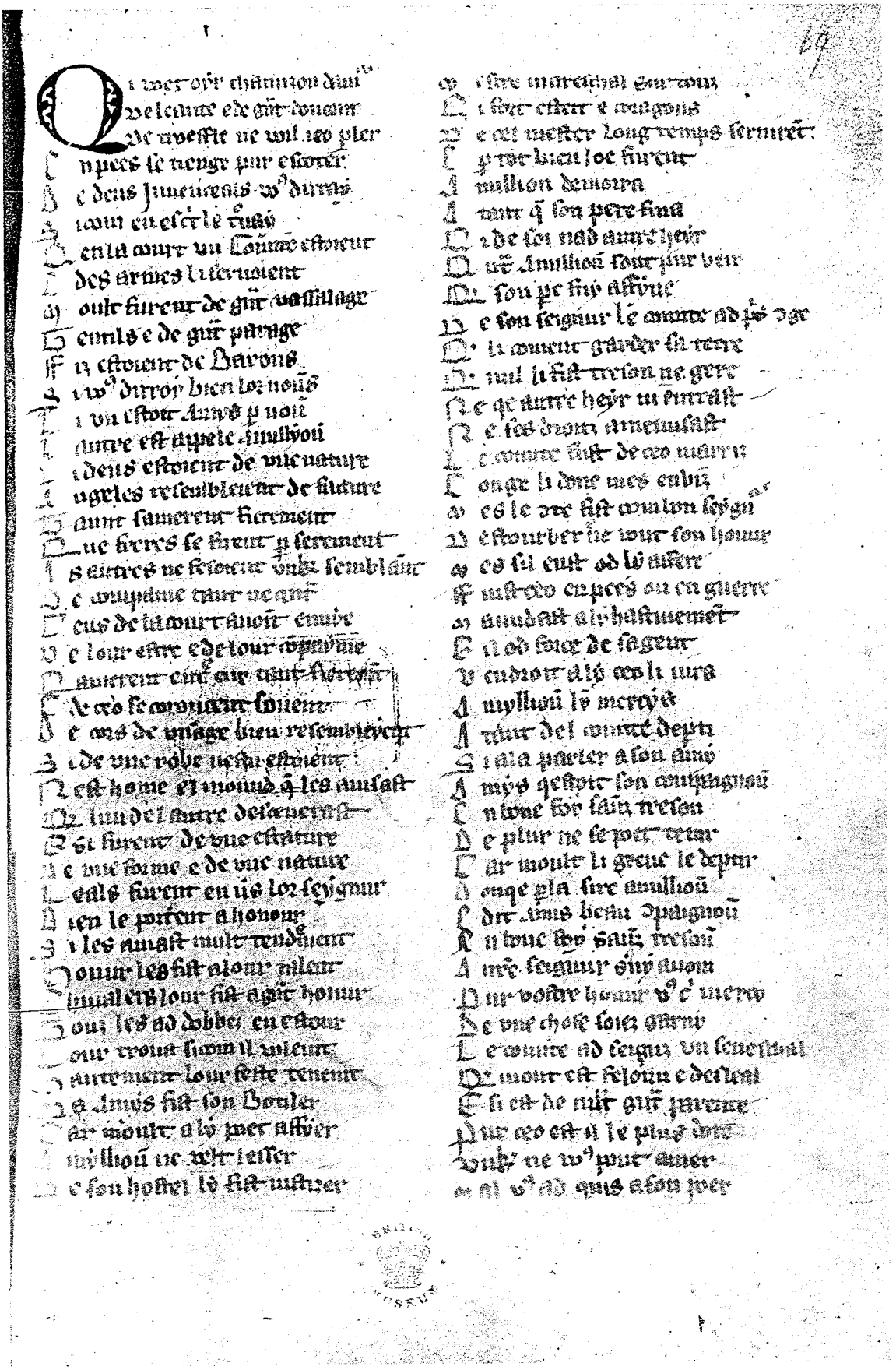
Amys e Amillyoun

British Library

MS Royal 12 C XII

ff. 69ra-76rb

69r



Mes enchesun ne pout estre
Par quei il vʰ pout greuer
Mes quīt ieo serrai depu
Onke vʰ serrai il fort enemi
Ender vʰ de sa felonie
E aier od li compaignie
Car qui sa compaignie ob seloū
E pur tant sui final noū
Car pur ne pert aucun
Quīt compaignō vers autre traitur
Tote gent lei respondi
Mut peu e gūt honur aiet
Lesse; ogrul e enuie
Si vʰ garde; de gloriuse
Mes bien vēt seignuri
E sofrez qil en deshonur
Quīt il deuez amour e fei
Car bien sa dame vʰ e uroi
Mut se furent entreveies
Lur cuer e lur de pite
Ne est nul hom que la fust
Dolur de la pite ne eust
Quant sun chaun trere
Est home qi me nousist trere
Si ieo deisse ja mo;te
Et doel gent eus oūt demene
Son tuit si son pais
Si altres reuenuz citez i pūs
Quīt anus de pamuloū lenor
Vers la cuntree ler reuoi
Si tost com entra pite eus
Li seneschal li encoru
Se mistēt demur li fesoi
Ses de quer poi li amer
Si Amis dit il bien veignanz
E vʰ suiuez ale pensanz
De mi sire Amillioū
Si vʰ ert leal compaignon
Ne volez vnke nul autre ami
Ne semuz faire amul mustier
Mes quīt ser est depu
Requer q soiez mon ami
Si on am e mon bien vuillanz
Amis respount atant
Sire seneschal vus mustre
Par moy nestes si empleie
Ne nule pusse nul autre ami
Quīt dient me donne e loer
Si Amillioūs sont ale
Si on quer me est abandone
Ceo ly ayme e amay
Pur nul autre ne lerrai
Pur; qui est chose egale
Pur pmesse saunz seurte
Mes de tuit me pez trere
Si vʰ eiez de moy affere
Ceol vʰ freiz od gūt dulcour
Tenuz chescun honur
Si seneschal ateint se tut
Mut dangwise pale devint
Purpensa ser qil se vengent
Si tost com son leu trevint
Amis lessa le temps aler
Si la e fist son mester
Si cum le comte com il soleit
Si le comte mout li amoit
Dd ser le tint pur pue
Nul amur de sū meisne
Ore vʰ durrai de sir Amilloū
Quīt vint asa regnoū
La gent q de sa terre furent
Od gūt nobley li receurent
Si restoin li firent homage
Ore per il mei gūt barunage
Mut od lur is li prime
Qil vint des chyualers de meisne
Tant furent de sa gent ame
Si sour ad restoin done
Bons cheuaus e deners
Si robes a ses esquiers
Si il meimes si bel estoit
Que tut le pais le desdoit
Si den meismes le eust purueu
Plus ne vus vus en serrai fer

70r

Sa gent dun enfant lauerent
A fenne prendre li cunseillerent
Pur lour cousin lur mariast
E ne gemble fenne espusast
Qe fille dun Comte estoit
Le pere e mere perdu auoit
Pur lur linage la noblie
Fut eschen del cuntie
De beaute auoit le pris
Sur tuz les dames du pais
Bien fureut ent eux acupiés
De parage e de beautez
Ore lerrum de Amyllioun ester
E de sir Amys vus uol cunter
Qe fut de noble od son leygnur
Mut li fu de tut en tut
Tuz cumunalment mut li crurent
E le seneschal plus la haerent
De sun ben fut auoit envie
Mes Amys ne l apartent mie
Laquens vne dame auoit
Qui come sa vie amoit
Vne fille auoit la dame
Qe le amoit come sa alme
Sa fut sa gemble la damoysele
E en vne realme ne out plus bele
Mes Comtes la de sa fut
E espuser la uolunte
Mes ele a tresdus respundi
Qe unt vncore auer ueuy
Qui sa chere le tynt le pe
Mut lama auri la mere
La damoysele fut bien garde
Cumpaignes out a gre pleine
Des damoiseles del pais
En sa chaumbre nocé e dis
Qui tuz festoient sa uolunte
Ne uolunters ne nul ad parle
Un iour pauenture auint
Qe laquens vne feste tynt
Pur un iour del ascensiun
La fut assemble mut barun

Et ueiz li mester hastier
Amys qui bien sout sun mester
De vn diap ne fu esbaer
Al coupe deuant li quens ueneit
Sa out si beals e alegne
Mes chiualers fut mout pris
Entre eux comunement disoient
Unque si bel chiualer ne veeient
Laquens meme le dist
Onqe si bel chiualer ne vist
Pour cels q en la sale esteient
De sa beaute merueile aueient
Et ueiz la nocele
En la chaumbre a la damoisele
Del bonier q tant ert beaus
Tresgentil damoyseals
Qui fut tant bon chiualer
En sa court nout son per
La pucele cupait tendroit
Tant vers li ad getee lamour
Si fourmeut enamura a amer
Ne ele ne pout boyre ne manger
La damoysele qe od li ereit
Pur quei ceo fuy li demaundereit
Ele dit que malade fut
Ne sout dont ceo mal li auenit
Le comaunda q eus se reposast
Et dautre chose ne enquesist
Ne el langur demoyst
Tant que laquens seu ala
Al bois uiler en uenerie
O sa chiualerie
Al hostel nu out nul reuus
Des chiualers fors sue suus
Il remist pur malade
La damesele ne targa mie
De sa dame pust auuge
Ele ne uost li ged dire
Amer vn dayn nen est mie sage
Son dayn nen est amurable
Ces floue fust apele
De ceus q fureut de sa meisne

Ffloue quit. le conge en ruit
s ahaste apres que ele puit
Que une soule chambere
A la p conge de sa mere
P mier a amys que ele ama
Saur paria e tuit demora
Dr cort sou corage desvoiy
Edit pur lamur de luy
q ouit sil neust de li pite
Que ele fust de li ame
Que si de li amour ne auoit
I ames home ne amiet
A mis quit lad esgarde
Quidet que ele fust deuee
Dr ele pout pur hoste desvoiur
s awiture e sondeiur
d e requmudre le pensoit
Com cein q talent ne auoit
Qil meprist uers sou seignr
Ostez wus floue p quit arrour
Cle li respndi e dit coment
v ous ay ame celement
Dr ieo v ay done mamur
I a en ma vie apres ceo iour
Ne serray en mon quer hevez
s i io ne loye de v vengez
Certes ce fuy ieo bien houre
quit v me dedeignez ami e amie
tant gentils homes mout p
Cl trestou a ne refuse
Certes ne estes pas chevaler
q esgardeins estes e amer
Cn play bien dut v batre ay
A mon pe le corigay
Dr vers li estes e moy fuser
Cf certes des ihuials deuez
Donques serray de v vengez
A tant fest floue treseme
A mis mout se pensa
Le vn mal e lautre mout dota
Correcement lv respudi
Zamoisel p dex mercy

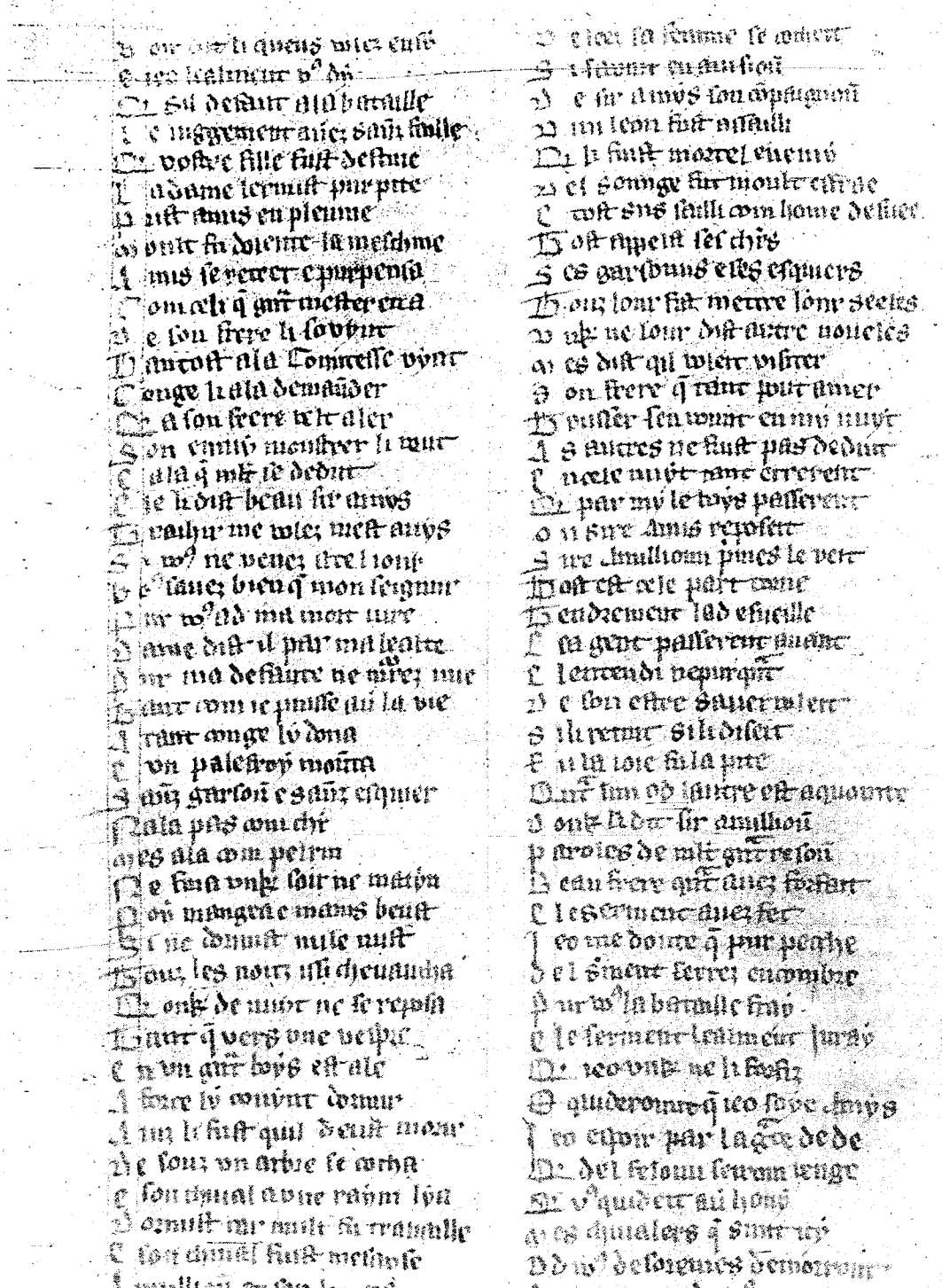
v ostre amy suy e serray
Cvostre seruant tut mon ieo vuldy
Ceo v me mesprendoie mye
Par quei v en aiez vilenye
Ne de vostre corps homage
I eo preng dex en desmoignage
I ceo poet ce apceu
Dr de muy fustez vre dru
Ne serrions no en fyn houye
Hostez hostez ceo dit floue
No le frons si pmement
Dous dens auostre talent
Ne suin home de mere nee
Tant lad dit e parle
Mye suit cun de cel atyre
d ount deuseur la menere
Coueut e quit lassembler
A llas qen ause seruoit
Dr trestot oy vn vassal
Ve la meisuce le seneschal
I sou seignur le ala comt
I tost com il poet espleter
Le seneschal fut mout lee
Qe quident bien estre venge
De nostre ostes bouter
Hor lour estre fust espier
Tant vint le time quauoit dit
Il ensemblerent od quit de lur
Par quit duoient seurtre bessez
De amour plerent e mlt parlerent
De autre chose ne durta mie
Ne croy pus qil y auoit vilayne
Le seneschal quit soit la coustme
Cnere amis e la meschyne
I endemain vint tot ahastez
Cunce est tot lor ocure al arbre
I iqueus fu de ne enele
Ne pla mot vne lusse
Dunke dreit deu nuy
I ceo trouvent mad isi hony
Ne tant amez e tant tenez chet
Ngi me pera aider

71r

71

Il est qm̃ de ferr venu
A fille est pute devenu
Le est home ceo sin̄ trahi
El fel traitre mad in̄ servi
Tut iours fait a reprover
I ceo ne me pusse de li venger
Et ceo voit sire seneschal
Ceo qui de q̃ lauez dit pur mal
Ne le seneschal respūd
Artelu q̃ fust le mound
Nul le vert demer
Com leal chevaler le voil prover
Mal que de no⁹ est venu
Ore de trer e puis pendu
Dit li quens ore vaut mens
Estre play mes laid e vilens
Traire en la chambre entrer
A dame sur vostre trouver
Ame dit il ne salues
Ne le fille v⁹ auez
Le est la feme de mester
Ceo ad fait nostre Bonter
Sur nostre bien honure no⁹ prend
Trahy no⁹ ad malement
E nost⁹ fille ad trahy e afole
Si en li doun male destine
I fait il si ceo vive tant
Ne li iert nul de mal gardant
Il iert detrer e puis pendu
Et la pute arse en fu
A dame ne soit quor dire
E Lowys de mal ard e dire
Devint plus noyr k̄ carbouu
Dost saillir hors de la maison
I encontra le Bonter
Si folent trop beal parler
Les oils sur ly forment reoylla
Mut moult le merueilla
Et fait il deu w⁹ maudie
La fille est p w⁹ honye
Mes w⁹ ne iuer ia viant
La mort w⁹ va ia apchaunt
Ceo dist Amys v⁹ dites mal

Ceo sin̄ trestut chivaler leal
A nul w⁹ ad de moy conture
Or que dirr e verite
Mut outrebien me defendu hy
Quant q̃ ceo deuerry
Le seneschal atant se vint
Son gaunt en son poing tint
Vendist en mon de gage
Com home de gr̃ vassel sage
Et dit que od li combatist
Et la verite puetist
Et vens tut ia avant ensemble
O chivalers e la meins
I vn autre lautre rendi son gant
Li quens resceut trestut
Donq̃ iugga le Barounge
Que pleges trouerent en present
Le seneschal ad tant trove
Et le Lowys sur bien pose
Dant fust li seneschal done
Amys un soul nen ad trove
Mes pur dutre quoy pur pour
Mes dous vit ent q̃ le seignur
Dist Amys deske ala mort
Fust ceo adeter fust ceo fevor
Nul ne oset pur li parler
Le comte li dest veez
Mes ne pout son pleyme
Pus enfine dist la meschyne
En la place estoit Amys
Com esguere e com penssif
Ne sout le quel il pus estre
Ou ont oubie ne sout k̄ dire
Pus fus auenent de ly pre
Mes li fiz fust tut vere
La noun-home tant hardi
Osert vn mot parler pur ly
La dame ne se put tenir
Ne pur vuere ne pur noun
Quant le comte le regarda
Le dist demaunda
En hy ostage pur li ferrer
En son plegge demander



72r

72

Quer ne uioms robes chaunge:
Ainz ounge quidereint de vivre:
Ore wo⁹ seez lour seignur
Si wo⁹ reuer par amur
Ore de ma feme fiez atraunt
Cu sere en semblaunt
Come ieo meimes ieo fusse
Ore ele encheson pe trocise
Quelloz est tut de moy
Car ieo wo⁹ dy en une foy
Ore ele mout apertaunte
Sire dunst ore estut le graunte
Cume robes ount tresbon chaunge
Amyllioū sen est ale
Ore sout va saūz compaume
Ne dens la tour en aūe
Ke dongne qil puisse bien fere
Ne chose cuntre pur son frere
Mes remaunt od la meisine
Mult me ad en uoie
Quidereint estoūz pur vous
Ceo fust lour dreit seignur
La dame qūt la ven amene
Amillioū fust bien quidete
Ke deus fureint ali dun semblaunt
Ke acorent home ja si parfaunt
Hundel dunce sont demuré
Si p nom les ont nomez
Ke p cors ne par faisons
Par riens si par la robe noun
Mes qūt il se mostra
Lez la dame le couchia
A espee nue entre eus pria
La dame de ceo semmonella
La dame ne volent parler
Ne espeir al matin al leuer
Ke dame nuyt ali se gurt
Ke eisses Amyllioū a mesoun vint

Ore le retrom de Amis ester
De Amillioū wous ai parler
Le iour vint q̄ fust aūis
Ore le seneschal e Amys

Ke seneschal ali se bien atirer
Pus den amdui se sorent
Qūt il ne pount estre trove
Adame fust pes edurement ke
Ke la prierie entierement
Grant pite auoient la gent
Hurent e pleignent lour beaute
Ke queus qile mout fust pur
Ha ha dame lour ount dit
Ke si nul qūt serement
Ke memes les veiez arder
Tant virent vener vn chir
Vers eus fist grūt leure
Aignaus plus q̄ arbre
Et feu qil vit sur gramcel estut
De les dames eust grāt pite
Ne dirrai ieo luy veir
Ount wo⁹ ferr tut ceo fu
Pur les dames fust estrut
Trop villaine voie serrer
Mes me feres tost baller
Tut ces dames deliurer
Ceo defendrai ly vne darte
Ke queus qūt le chir veit
Bien quidet qe ceo fust ange
Ke cors resemblast ede vis
Dous armes demaunda
Ke la meimes le chiualer armat
Ke a son corage fait bien pleit
Ne ad le chiualer si bien armé
Pus li dist suef en son oraille
Sil pust desfendre la bataille
La fille a deme le dorroit
De dote sa terre bien la dotot
Ke vent la semble
Ore mes sourdra la medle
Ke vn lautre desafiem
Entre eus nul amur ne aveint

Ore sen vont les chiualers
Mult ert gentz orgaillous e fiers
Ke auā mester de armes
Le vn lautre desafiu mare

Nul dergne a aut' aider
Chelam se prent a ferir
Amillioũ fiert le seneschal
Vn gũt launce ne pout gul
Vn lesu pent de azur
Es le hauberc fust forz e dur
De mal lad garni
E seneschal li referi
Lour launces out as coups brisé
Si sunt out passé
Cel encoñtre nut furent bien
Lun ne lautre ne pot rien
Amillioũ vint pojuer
Ar ire trest le brant dasser
E seneschal ferit ala
Le heaume gũt coups dous
Es le heaume nut fiert fu
De la mort lad defendu
Le coup ala descendant
Sur larsoñ dessant
Trestut trencha quant e fust
Ou si raison trenche le cust
Mes lespaule del chival
Ola le brant en terre aval
Plus q plein pe e demi
E seneschal a terre chaũ
Pur quer son cheual li ment
Cel oup parlent diuerset
Fust jun atturne q le chualer
Ses armes sout trop bien pe
Ces soñ coup est trop pesant
E seneschal se leue atant
Dolent est e corucé
Vit combatre dent a pie
Plus tost qil point se vengent
Amyllioũ a pie se mesure
Ces il a pecur tost la mancre
Leo retret tost arere
Est descendi de soñ destrer
Combatre volent per a per
Cil neust de soñ cheual en vie
Faut fust il pis corelie
Ou ert a pie le fust fermé
Ne lessir son cheual mout
Le seneschal q nel pout amer
Co ert gũt coup li unt doner
Amout el heaume pent de flurs
Tost abatu les colurs
Sur les ceinture le coup desent
Ou alles trenchent plus de cent
Bien pres passa le corde
Ou es la chaire nad pas tache
Amillioũ q tant fu de vigour
Cent coup li dona ce io vus
Labataille ad bien dure
Desque nonne fust passé
Le seneschal fist mout bien
Cure Amillioũ ne dota de rien
Ne savoit del champ vuger
E quoi fust meillour cher
Amillioũ fust bien arme
De la bataille ad tant dure
Vn coup li voud la doner
Li deit pdre e greuer
Ou es le seneschal pmes li ferist
Son coup trebuchi a pist
A heaume del coup enbarra
Amillioũ fort estona
Ce poet trop atendre
Sil ne sache le coup rendre
Cautre sen vint galopant
Sire Amillioũ dotant
Ert le vint pur tuer
Le feu fist estiller
Le heaume fust tot pursendrè
E nul ocuele ola le brant
Lorelle od tote la face
Voler fist en mi la place
Le braz od le brant trencha
Desque en la manche le braz ola
En cel champ fu ben venge
Par li mes enfes Amaufe
Cil chaist nest pas merueille
Ou le fust la bataille
Les vus chanterent les autres pleurs
Les dels la ameure

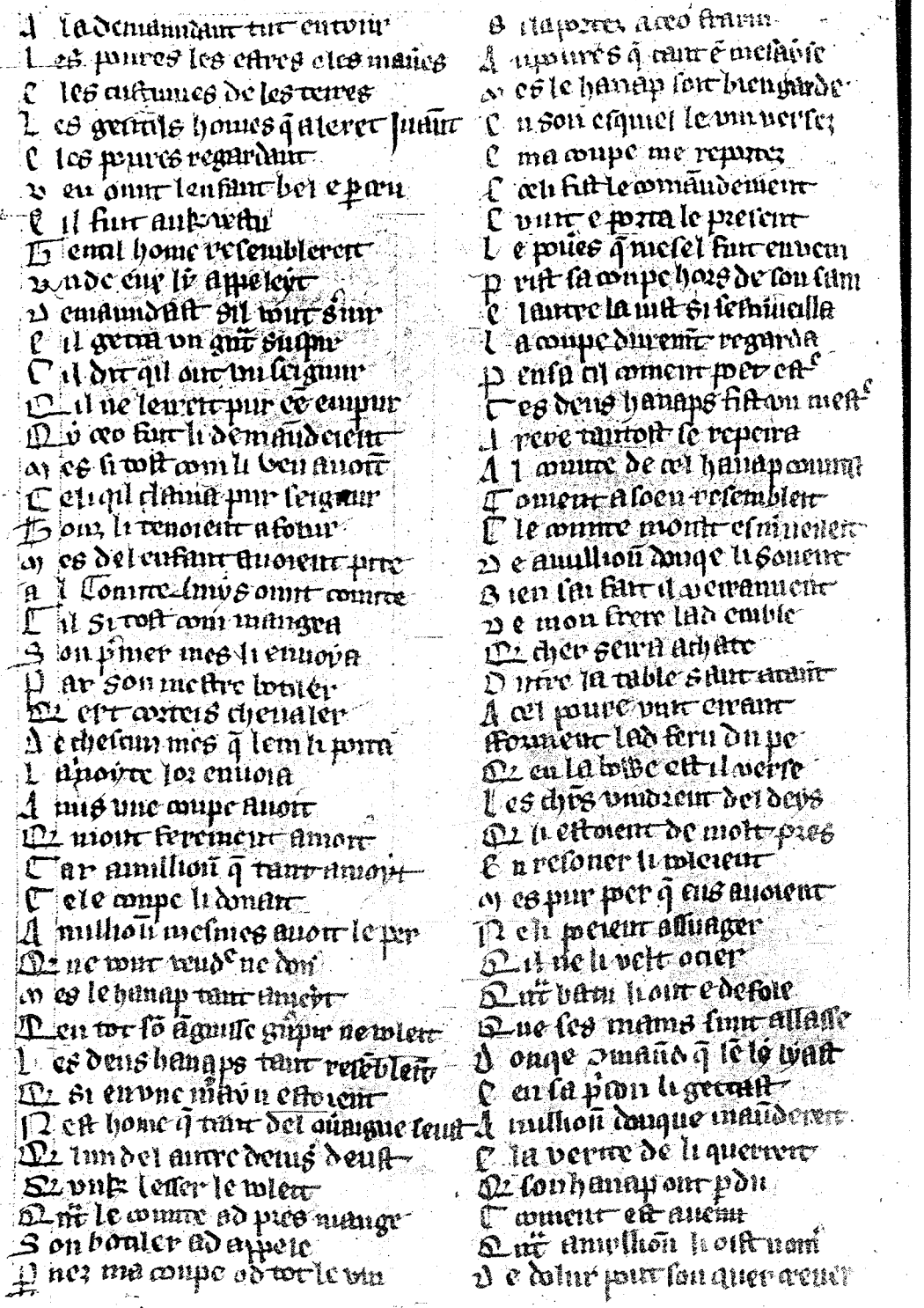
Mes le comte vient pleer
Tant se fist desarmer
Il eust plaie il demaunda
Il dist que mal uen a
Luis est sum q̃ pesson de mer
Tant li vint tout bresser
Sur tout li fist la dame ioie
La pucele tote voie
Emblant li fist tant com osa
Sur son pe mout le dota
E comte amout lad apele
Ami moy fust il fille bele
Amys pur vus ad combatu
Ou eu eu ad combatu
Pe vus ad aquite
Et fait dunt fustes enuise
Il vodra espuser
Ipurrez de quer amer
Cele reisunie mout simplement
Dor soit a vostre talent
Vme wlez marier
Ce ne me deuoy pas oreuer
Amur fust comaunde al barunage
Eus feussent al mariage
Lendemain a tire sonant
Dous ifurent petit egnt
Les barons e les chis
Borgeis sireins e esquiers
Sur tous furent assemble
La pucele fut amene
Luis de mostier
Nr amillioũ deust son noũ noun
Si se pensast mout esmeut
Dist vnes vus que li dusse
Nul ne ost fors li noun
Eust lessez sire amillioun
Ce vodi cercune nouele
Se vo espusez la damisele
E nus ge donc. nus sun passez
A pres de cele iesu serrez
Auant mes vus ke il laid ne fust
Home ne os dire bien le post
Amillioũ lad bien entendu
Q la puis fu com son dru

Mes pur ceo ne vout lesser
Mes la resta come il nul fer
Ne vint ge eus furent apurcen
Ament son frere les enst deren
Ladamoisele fut ben pue
Nr ad baroun a volunte
E comte vint feste pleuere
Ne sy nuntie tot entere
Ont iurent des robes donez
Dont les menestreaus furent fetes
E Comte dona a ses esquiers
Les chiuals e les destriers
Ore vodrei ceo bien aumer
Ament il furent a son
Ladame ad son dreu acole
Pur amour soment baise
En quidoit q̃ ceo fu amys
Mes Amillioun q̃ fu pensifs
Bien entendi en sonarage
Frere ne li velt hommage
De son compaignoũ trahir
Ont parlomad gent un soir
Et sufrir ment fourment
Ladame il vint tendrement
Si li demaunda quoi penson
Pur quei tels suspirs getez
Dont dit sir amillioũ
Ne vodra celer son noun
Ce ne suy pas ceu q̃ vo quidez
De vostre espusr fuilli auez
Vus le peus bien asurer
Car bien le deuez celer
Dor iour estre luy ad comte
Puis dit qi prendra conge
Kar il eust le conge pris
Ses gaunts ouc ly desge ades
En son pais sen ala
Amys ad tresfet comte
Ament eust fine la bataille
Ament eust fait la poestaille
Cu vne dyamble puis enterent
Lour robes changerent
Dunque ne fust apensum
Lour estre traire ne gist
Mes [illegible] Amys

A plus tost qe ams pot
Longe ad pus li fenaloe
En son pitz vers lamie
De tut dma come sa vie
Ore est mout en afrage
Car cil li est par mariage
E mut seignurie e gra honur
E qui tuz est il seignr
A e ni comunez e demy
Tut volt avne luy queus est fiu
Ore est ame e tenu cher
Q nettoer mes estre tuzlez
Conseiller fist fiu e fiz
De qil volent perrent dire
Le tuz sur p tote la terre
E tut de meiur gre affere
Sa fenie ly ame tendrement
Si fist tot son mandement
De tut q le Counte en malade
E qui long temps out langui
Mout e adeu rendist sa ame
E tost apes mourst la dame
Qui mut fu ueue pe e mere
Le ne out soer ne frere
Fors soul la dame q ams auer
P mi ces leis tres vertuous
Ore vodrom de Ams lesser
E alez ad dut il nd mener
Vo? diru de .f. amillioū
De tut e tout leal compaignō
Com il en son lit gisoit
E abele dame ali dulor
A ce diez pamour de moy
Car ieo v? ame en bone fey
E a espee nue mettes entre no?
Sur pur quei le fendes vo?
E ame ieo le dirra mes
Ceo fu ieo ames
Pur ceo fauon .f. amillioū
De tut ams estoit leal compaignō
Q ne sa fenie tut demurs
De tot son pei ly amblout
E malade e si fud denut
De dreit pur mester le tut
E la dame le tut p en dep
E volent entrer en son lit
E volent tut od lui parler
Qe od la beute ne mangt
A ueu ceo dit il ne veut mie
Ce il vousist venir
E il soffri ueer ai
E tute dolure e gre han.
E es dras tous depar volent
E es garsons tous le guerpent
E trous siant ne esquer
De eue froide lui d amer
E retorn lomet de qui pu
E fist vn enfant qui out nom
E il devn comme son pei
O de lui mut fer reuent
E dit que lui ne velt gaipur
Qe pur vuire ne pur mour
E la dame que mout est ennuie
A nu bedeus sest hors getee
E le seignr e le seruant
E nr amyloū estu enfant
A dreit de la ville amunder
E lloc lour fist auer hostel
E mi sires amyllioū
Mis estes a p tre garisoū
E adis fu fiz e seignur
E est pas mereuele sil ad dolur
E a mort desire plus q la vie
E ul soins ad ne compaignie
De ad home aqui parler
E ne aqui pet don dolur mouster
Fors al enfant que li seruent
A millioū ami plus vuent
E mut plus leal deuenir
E dame p mut de fiz

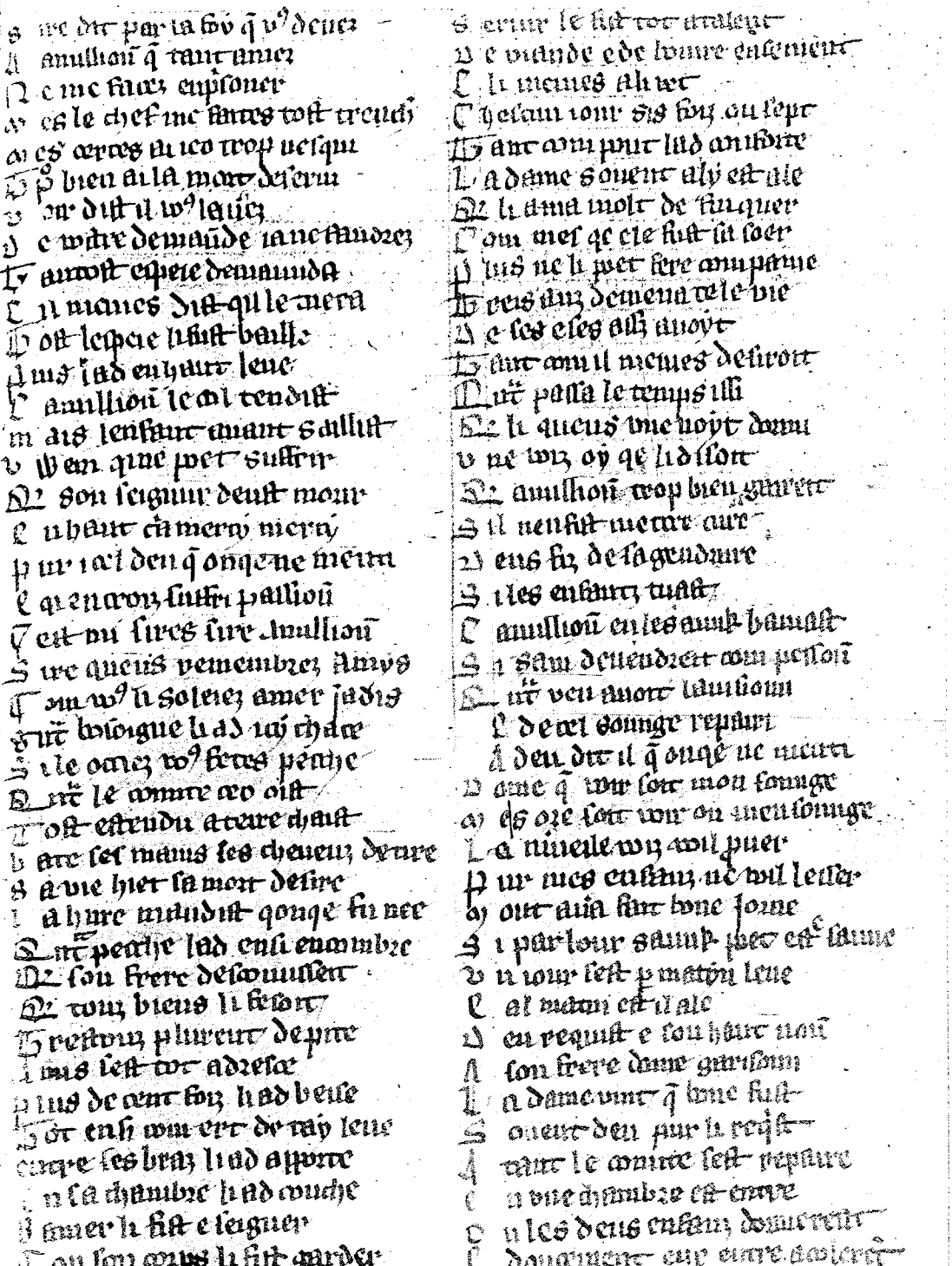
74r

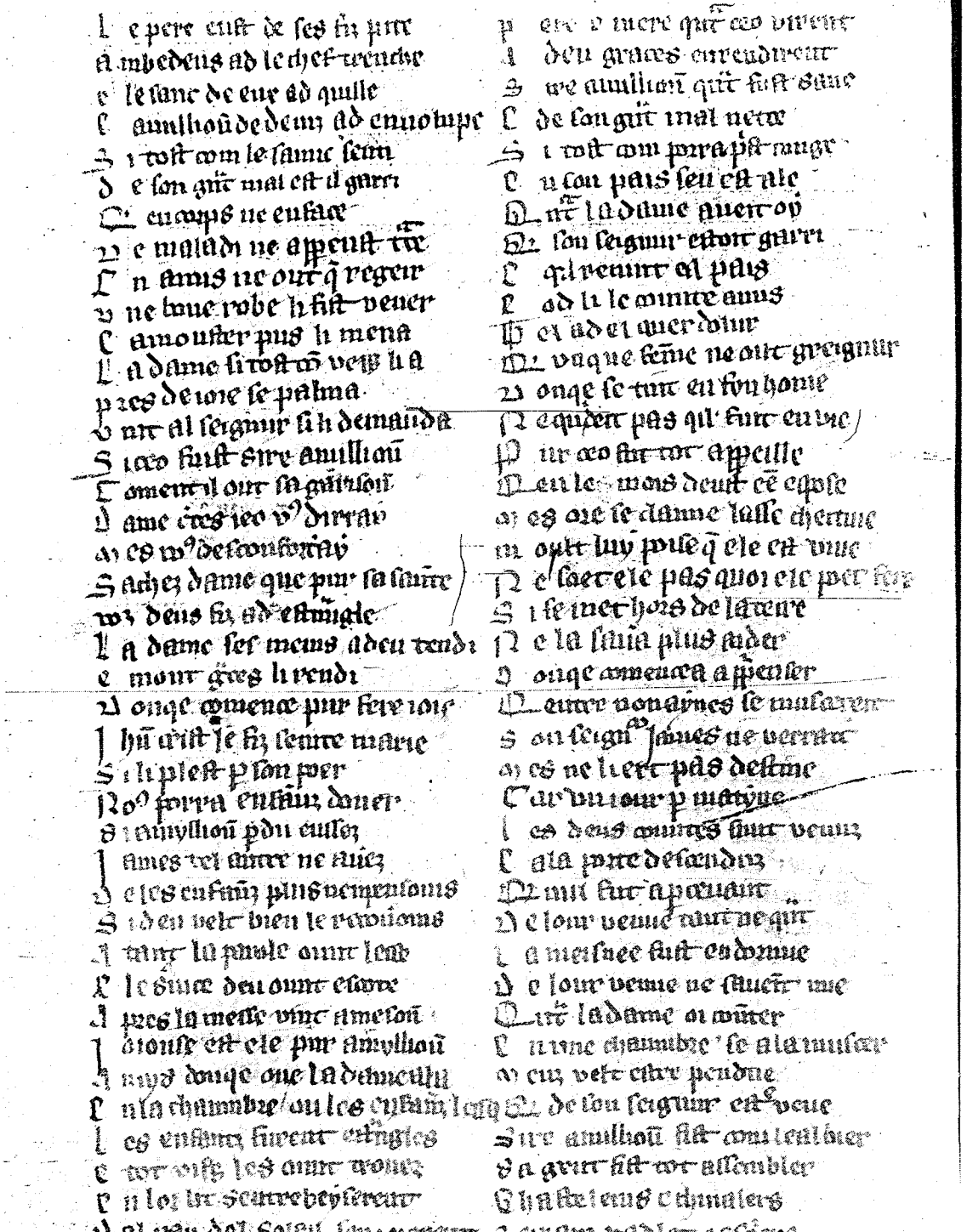
Nul ne fut si hardi
De rien li regarder
Ce que manger li donast
Enfant qui ot cel commãd
Le sont arqueré tout maintenãt
Antost coũa a son seignur
Il dit cest mal dolur
Nũ nauom a nourrir ne a manger
Ne pomms ioi pl⁹ demorer
Hũ le fiz feme marie
Com longes me durra cest eure
Ceo soler auer giũt tresjour
Estre serui dargent e dor
Or ai tut deneie
De ma vie est giũt pite
Ceo de fem mout deu hay
Ceuer memes force ne vay
Enfant a soi donque apelast
Pur den li cõmandast
Alloec mout le lessast
Il en son pais alast
Enfant respundi p giũt dauur
Ey era deu mon seignur
Ey eny voil od⁹ suffrir dolur
Fiuz ao⁹ estre empour
Nũ lim layrai od pregurde
Mout est cuit eny giũt pite
Plurent e crierent lour dreps
Bonem le claimerent cheres amis
Le mut de giũt chualrie
Le honur e la seignurie
Sue Amillioũ auoit eu
Ore est deuenu
Ceuoũ ⁹ durray de cest enfant
Il a gent lappelent amorant
Ey es vlbem furent lõ dreit nom
Donque li dist Amyllioũ
Oi Beyn ala dame nrez
Nostre ange de hpudrez
Hors de ceo pais nrems
Plus tost que no⁹ poms
Ey es ieo ne puis aler apie
Pes dun pchanter
Ele me fiste vne ane trouer
Ieo puisse chiualcher
Enfant ala dame ala
Son message li mustra
E le li fist vn asne trouer
E p⁹ tus les iours murer
Mes en le pais vendrent
Et lymre q̃ ilz serrent
Hors del pais fermerent
Ames qi dent q̃ veuendrount
Wem le leal cusyn
Lour vndunde vn querant
Es nũ lour vint sur cheual
E pain vin e de ble
Dunke ne pount home trouer
Rien lour valle donner
Nus ne pount plus entendre
Il auerent loi ahie vendre
Nr enfe sous e dis e maille
E ceo fi auoine lour vitaille
Estre ceo lour fount fere
Ur deus roes vne cyere
Nul pont ser meilluer enchaé
Amillion fiit de dens acheter
Plus qil pust li ert fait
E long en long li enmena
La reine tant alerent
Reym e meaus trouerent
Vesques eus vndrent el pais
Il corona le comte amurs
Noble amurt illoec tenoit
Mout giũt bien ser⁹oit
A poure gent tot entur out
La com il apellioũ
Entre Aimers de dens mut
Ne sacez q̃ eus vent qui sount
Ieus fiuseut en la cort amur
Giũt honur serement rendu
Pres la pute se sont mis
Lenfant q̃ bien fiust apris
Mout ama lon seignur



75r

75





76r

Tous devant li venerent
Mercia ceier tous penserent
Son mal talent lour pardona
Od sei les tint e les ama
Donque fist sa femme demander
Car de li se veut venger
Tant fuit quise qe le fut trouve
Mes de pour se fuist musce
Si tost com vist son seignur
Le pauma de pour
Le seignour la fist relever
Bel la comence achaster
Dame dit il lessez ester
Ne deussez tel doil demener
Pur ceo q̄ sam suy reveuu
Molt vous fust bien avenu
Si feussez tele com deussez estre
Par ihū le roy celestre
Homme me ert agrant vilte
Si ieo ne soie de vous venge
Si fu malades e defet
Pur ceo navoi ieo pas forfait
Qui vivre ne deusse bien du mien
Dame souvenez vous del bien
Coment amaugr me menastes
E del pais menchaceastes
Puis feistes mirer mon seriant
Qui ieo ne deusse en mon vivant
En ceo pais revener
Ne pur vivre ne pur morir
Survenez vous del bordel
Ne moy luiastes pur hostel
Tel aviez tant com vous vivez
En nom de dolbere le tenez
Donkz fist fere un turel
Petit fut mes molt bel
Si fut fort durement
De loing le virent tote sa gent
Outre tote la cite
La fu la dame durement lie
James de illoec ne pout issir
La demora desque al mourir

Autre dames ensample avoient
Coment lour seignours lour gardoient
Une garce la servoit
Qui par une fenestre luy portoit
Chescun iour sa liuere
Coment le comte ont commande
Un an vesqui e un iour
Adrien morust pur dolur
Sire amillioun fut molt prise
Qui autre peine nad liuere
Unkz puis femme ne vint aver
Nul eyse ont de sa mullier
Tuem lenfant bien feffa
De tote sa terre li herita
Qui bien aveit deservi
En bone vie lung temps vesqui
En bien faitz se pena
Apres sa mort a deu ala
Amis son frere ensement
Moult se amerent fierement
Et bone fut la compaignie
Lor corps gisent en lombardie
Et deu fait pur eus grant vertuz
Les voegles ver pler les muz
Tot ensi finist le sermoun
De sire amys e de sire amillioun

Explicit

2) Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon*

Hue de Rotelande の作とみなされている *Ipomedon* (ca. 1190) の本文は次の写本によって伝えられている：1) Cotton, Vespasian A vii. 羊皮紙 Octavo. 13世紀. ff. 39^{r}-106^{r}. (新しい頁付) 各葉2段書き37～38詩行；2) Egerton 2515. 羊皮紙 Folio. 14世紀前半. ff. 3^{r}-70^{v}；3) Rawlinson Miscellanea 1370, 14世紀初頭. 断片 f. 91. これらは Anglo-Norman 語で書かれている；4) Continental French Version *Ipomedon*. 14世紀中葉の断片. f. 106, f. 111.

ME の *Ipomadon* は Anglo-Norman の *Ipomedon* から直接あるいは間接に由来したとされているが，その本文は次の3写本が現存している：1) Chetham 8009. 紙製写本 Quarto. ff. 188^{r}-332^{r}. 12行 tail-rime stanza によるこの作品は1350年ごろ成立し，15世紀に転写された；2) Harley 2252. *The Lyfe of Ipomydon* 紙製写本 Folio. ff. 54^{r}-84^{r}. この作品は15世紀初頭に成立し，15世紀後半に転写された. Metrical Romance；3) Longleat 257. 《Marquis of Bath's MS. 25》 Longleat House, Wiltshire. 羊皮紙 Folio. ff. 90^{r}-105^{v}. これは14世紀後半か15世紀に書かれた散文の *Ipomedon* である. 以上の内容は H. L. D. Ward[1] や J. E. Wells[2], J. B. Severs[3], E. Stengel[4], C. H. Livingston[5] などによって紹介されてきた.

E. Kölbing と E. Koschwitz は1889年に *Ipomadon* の ME 3写本の本文と AN 写本 (Cotton Vesp. A vii) の本文とを合わせて刊行し，両語における本文間に緊密な関係があると指摘した. 更にこの刊本で AN 本文の底本として採択された AN *Ipomedon*, Cotton Vesp. A vii (以下 fr. Ip. a. と略す) と ME *Ipomadon*, Chetham 8009 (以下 Ip. A. と略す) との間には，物語の筋立てにおける共通点だけではなく，fr. Ip. a. は octosyllabic couplet で書かれており，Ip. A. は12行の tail-rime stanza の詩型であるにかかわらず，非常に多くの ME の詩句に AN 本文の逐語訳を見ている.[6] そして Kölbing-Koschwitz は語句や詩行の類以，反復される表現や内容を詳細に比較し，実例を挙げて Ip. A. が fr Ip. a. 以外の何等の副材料をも原典として使用しなかったという推定を下した.[7]

ここでは fr. Ip. a. と Ip. A. の中から一部の類似個所を提示しよう. そして類似点を明確にするだけでなく，写本の本文を忠実に転写して Kölbing の刊本，Ip. A. においてまず再検討されるべき点を指摘し，若干の問題提起をも試みたいと思う. fr. Ip. a. には参考のために邦訳を付けた.

* * * * *

掲示個所の話は，主人公 Apulia の王子 Ipomedon (ME Ipomadon) が想い人 Calabria の姫 La Fière の危急を救うために fool に変装し，援助を求めに来た，La Fière の侍女 Ismaine (ME Imayne) とその従者の矮人と共に Sicily の Meleager 王のもとから Calabria へ向かう途中の出来事である. Ismeine は旅の道中，決闘の場での Ipomedon の実力を目撃して，本物の愚か者かどうかと思案を始め，矮人と言い争うのであるが，Ipomedon は相変らず痴れ者を巧みに装っている所である.

* * * * *

① 音韻と韻律

Ip. A. の stanza は原則的に12行からなり，a a b c c b d d b e e b という押韻形式がみられる. この形式に厳重に従って Kölbing は end rime の読みを修正した. それは写本に出来る限り忠実な本文作成という方法からみれば再考を要するところである.

6968 sell, 6978 thare, 6980 dereynes, 6981 gas, 6986 he counteynes, 6996 gass, 7004 quake, 7006 sitt,

7015 drowe, 7017 dele, 7027 lyese, 7032 ben, 7034 layne, 7043 travayll, 7045 trowe, 7049 aylle, 7068 dele, 7074 serke, 7075 werke.

以上の修正はすべて押韻のためとみられる．ここでつぎに問題となるのは Ip. A. の方言であろう．Kölbing は Ip. A. の方言を Lancashire の北方，North-west Midlands と推定した．[8] 本文に南方方言を示す語彙や語尾変化が現われるが，それは写字生が原本文の北方語形を一貫性なく屢々南方方言，語形に置きかえた場合が多いようであると説明する．[9]

これに対して A. McI. Trounce は Ip. A. の方言を中部地方北西方言とみなさず，中部北東方言であると主張した．[10] Trounce によれば，Kölbing は Ip. A. での *e* と *i* の押韻の意味を無視したことになる．[11] Kölbing の読みの改竄は end rime においても再検討されるべき問題があろうと考えられる．また K. Brunner によれば，OE *ā* に対応する *o* の綴は中部地方の北寄りの部分では14世紀になっても確立せず，OE *ā* を持った語は比較的民衆的な詩では必要に応じて *ō* とライムしたり *ā* とライムしたりした[12] というが，これが Ip. A. に適用され得るとすれば，6981 gos : masse ; 6996 goos : has に対する Kölbing の修正形 gas ; gaas は正当化されないであろう．

6969-6970. folye : chevalrye は fr. Ip. a. に見られる押韻をそのまま踏襲したと思える．そのうえ，逐語的に ME が AN に対応している個所もある．fr. Ip. a. 7919-20 ; Retenuz est pur sa folie/Plus ke pur sa chevalerie : Ip. A. 6430-31 ; Thus is he kept for his folye/More then for his chevalrye.

6980. deveres から dereynes への変更も Kölbing は韻と意味とのためであると説明する．[13] dereynes (zweikämpfe と Kölbing は訳す．) に対応しては fr. Ip. a. 8572 に deredner <Act., défendre, soutenir par les armes> (Godefroy) があり，Ip, A. 6330 ; I shall the graunt the fyrst deryne <A fight ; esp., a single combat> (MED) がある．しかし deveres は「騎士のつとめ」という意味に解される．当該個所を nonsense にはしない．rime にとっては不適当であってもこの語をそのまま置くことも出来よう．

6978. there : fare における there を Kölbing が thare と改めるのであれば，同様に 7050-51 bare : there の 7051 there をも thare と修正すべきではなかったか．

6987. is his countenaunce から he counteynes(彼は振舞う)への修正は類似の表現方法，Ip. A. 7924 ; As a fole thou contenes ! (ms. conteynes) からとったと Kölbing は言うが，それでは単なる模倣という非難を免れ得ようか．韻の形式をととのえるために6977-6989のこの stanza では 4 個所の修正がみられるのである．

7045. rewe より trowe への変更もまた韻と意味のためのものであろう．

7074. 以下は tail-rime stanza がくずれている．shorte と serke は同じくシャツの意味があるが Kölbing は shorte を serke へ変更し，同時に押韻上から worke を werke と改めた．

7084. strounge は押韻上からではないが straunge に修正された．aun は an の AN 綴であるが，そのまま strounge を残すことも出来たと思われる．

Tail-Rhyme Romance と呼ばれる韻文 tail-rime stanza とは一般に 4 歩格を持つ 2 行 (couplet) と 3 詩脚を持つ 1 行 (tail-line) とのくみ合せによって構成されている 3 行が tail-rime をもって 4 回繰返されたものと言える．[14] Ipomadon もこの形のロマンスであるが Ip. A. の本文伝来に関しては正統性があまりにも欠けているために，正確な tail-rime stanza として韻律を面構成することはできないであろう．しかし，この点について Kölbing は多くの大胆な見解を掲げている．例えば 6992 の Loke と 6998 の come and とは削除すべきであり，7029 は詩行があまり短いので And tho the とでも加え，7035は詩人が Hym self feld two wyth speres orde とすることもできたであろうと呈示する．[15] (cf. Kyng Alisaunder ; l. 3815 þere were spere baþyng) 7058 は stondyng のかわりに Stond か stood を入れ，

7075は Wrought のかわりに That wrought とする等の提案を示している.[16] この提案はしかし，余りにも明確に規則と形式を尊重する独逸の文献学者のものである.

② Anaphora

Fr. Ip. a. の作者 Hue de Rotelande は anaphora を好んだらしい.[17] Wace も *Le Roman de Brut* においてこの様な repetition を好んで用いたし Layamon も *Brut* で Wace の用いる repetition を翻訳にうつしたようである.[18] この首語句反復は 4587ff., 4823ff., 5154ff., 5887ff., 6455ff., 6876ff., 6902ff., 7364ff., 7405ff., 7725ff., 8026ff., 8741ff., 8784ff., 8788ff., 9097ff., 9122ff., 9329ff., 9337ff., 9575ff. に現われる. Ip. A.もかなりの個所で fr. Ip. a.に対応させて anaphora を使用している. 例えば fr. Ip. a.の 8573 ff. が Ip. A. の 6981 ff. に対応していることは明らかである. ME の 6981 ff. に見られる手法は再び Ip. A. で，fr. Ip. a. とは対応せずに独自の繰返しで7922-7924に現れる. As fole thou comyst & fole þou goste (gas K 版)/As a fole all thy matters makyste (mas K 版)/As a fole thou conteynes (contenes K 版) となっている. Hue de Rotelande の文章上の明らかな特徴は二点あって，第一は上記の首語句反復である. この技巧を Ip. A. が模して fr. Ip. a. に密接に類似していることは写本本文の対照によって証明される. 第二は物語が内容的に関係のある個所で屢々類似の表現を用いることである.[19] 本論での提示個所は限られているのでここからは例証を挙げ得ないが，この手法も Ip. A. にはすっかり踏襲されていることを記しておく.

③ 語句の解釈

Kölbing の刊本が出版されると，Max Kaluza は批評を *Englische Studien*, Band 13 に載せた.[20] 本論の引用個所では 6975 に問題がある. Kaluza は6975で原文の読みの fyndes を保存することを主張した. たしかに finden には＜to support or maintain ; to provide the necessities of life for ; to nourish or feed＞(MED) の意味がある. Kölbing は fedes (＜feden) と写本の読みを変更したが、殊更に fedes を採る必要はなかったであろう. fedes より原本文の fyndes は6957行の格調を高めると思われる.

6992, Ofte より wyth us への修正は fr.Ip. a. 8582 の内容に基いたものであると Kölbing は言う.

6994. Kölbing は写本の the をとらず me をとり I hold me payde!とした.

7019, 冒頭の But を For に変更したのは意味上であろうがその必要はないと思われる.

7026-28. この詩行を Kölbing は難解であるとし，Anmerkungen においてこれを矮人の言葉とすればどうであろうかと提案する. (この際 Kölbing 自身の用いた punctuation は問題外となる.)「人々は実際に賢い者を愚か者と見做し，何の愚かさもない彼等を非難する. 貴女様が全くそうだ. 即ちこの間違いを貴女自身当然におかしている.」という意味になるが，この situation を矮人の言葉と受取るにふさわしくない7030の þerfore は Kölbing を困惑させたものであったらしい.[21] この時7028の them は the に変更する. 7026と類似した詩行 6647, Ye for to gette then (them K 版) loss & prise/Men make them folys that byn wyse/And off full grette renowene. (6646-6648), 及び fr. Ip. a. で似かよったことを言っている8593 以下とのかかわり合いにおいて Kölbing は7026-28の意味を解明しようとするが説得的ではない.

G. L. Kittredge が Kölbing の 'Anmerkungen' を批評した *Englische Studien*, Band 14 の当該個所を参照すると,[22] まず Kölbing の punctuation が問題となることを示唆している. Kittredge は言う.「7026-28の難点は若し人が witte を動詞とも名詞とも取らず全く簡単に少々間違って書かれた witti 又は witty (adj.) と考えるなら難なく解決する. そしてこの様な間違いは決して例外ではない.」彼は Chaucer の *Troilus and Criseyde*, II. 641 に many が mane になっている個所を例に挙げている. 意味は次のようになる：Imayne が矮人に言う「全くのところ賢明な男たちは屢々ばかげたことをする，つまりあれやこれやの関係においてばかさかげんを示す. 今や，お前様は丁度それなのです.」お前様は正

気ではなく．この騎士の全く明白な愚行を全然信じようとしない．大ばか者も時には思慮分別がある者のように現われる．Kittredge はこの説明が fr. Ip. a. 8597 ff. Teus trove l'um veisez e sagez ki tant sunt fol にふさわしく適合すると述べている．7027 non は kein (verstand) と取り，7028 them は Kittredge も the と読むのである．Kölbing と Kittredge の両碩学の見解には，しかしながら，私見をさしはさむ余地がないとは思えない．試みに 7028 them を原本文のままにして置く可能性を考えてみよう．7026-28の3行を一般的な実際であると Imayne が言った言葉と解する．7026は Kölbing 訳をとる．7027は makythe them witte として前者 7026と対照的意味を現わすものと考え「人は賢い者を愚者と見做し，分別のない愚か者を賢者と見做す．(non の解釈は Kittredge をとる) 明らかに人はそのようにするものです．」と解釈してはどうであろうか．Ip. A.には fr. Ip. a. に見当らない7019-22が挿入されているので Imayne の言葉は矮人との対話以外のものとは考えられない．しかし fr. Ip. a. の8594-8601は，この言葉を Ismeine が矮人に言ったとも考えられるし又 Ismeine が自分の好意を無下に拒絶した fol (Ipomedon) に腹を立て彼に直接投げかけた言葉であると考える事も可能なのである．

以上の断片的な比較によっても明らかであるが，fr. Ip. a. と Ip. A. の密接な類似を示す，興味深いロマンス AN および ME の *Ipomedon* を対照した批判本文は斯界において大いに期待されている[23]所のものであろう．

注

1．H. L. D. Ward, *Catalogue of Romances in the Department of Manuscripts in the British Museum*, I (London, 1883), rpt. 1961.

2．J. E. Wells, *A Maunal of the Writings in Middle English 1050-1400* (London, 1916).

3．J. B. Severs, *A Maunal of the Writings in Middle English 1050-1500* (New Haven, 1967).

4．E. Stengel, "Hs. Rawlinson Miscellanea 1370 alt 1262," *Zeitschrift für Romanische Philologie*, VI (1882), 390-396.

5．C. H. Livingston, "Manuscript Fragments of a Continental French Version of the *Roman d' Ipomedon*," *Modern Philology*, 40 (1942), 117-130. Cf. Marius Esposito, *Revue des bibliothèques*,XXIV (1914), 196-7.

6．E. Kölbing und E. Koschwitz, ed. *Hue de Rotelande's Ipomedon. Ein französischer abenteuerroman des 12. jahrhunderts. Als anhang zu der ausgabe der drei englischen versionen zum ersten male herausgegeben* (Breslau, 1889), pp. XXVI-XXXIX.

7．Kölbing, pp. LXV-CXVII.

8．*Ibid*., p. CLXXII, seqq.

9．*Ibid*., p. CLXXIV.

10. A. McI. Trounce, "The English Tail-Rhyme Romances," *Medium Ævum*, III (1934), 41-43.

11. *Ibid*., p. 41.

12. ブルンナー，「中世英語文法概説」，厨川文夫訳，英語学ライブラリー (52) (東京，1960)，pp. 18-19.

13. Kölbing, p. 441.

14. Trounce, *Medium Ævum*, I (1932), 87.

15. Cf. E. Koeppel, "Zur textkritik des Ipomadon," *Englische Studien*, 14 (1890), 383. Koeppel の見解も Kölbing に近いが彼は *To speres hym self dyd he* sheuer/*Off you he myghte gette a worde neuer* と提案する．

16. Kölbing, pp. 441-442.

17. Edmund Stengel, "Hue de Rotelande's *Ipomedon*," *Zeitschrift für französische Sprache und Litter-*

atur, XIII (1891), 10.

18. *Le Roman de Brut de Wace*, ed. Ivor Arnold (Paris, 1934), ll.10589-10620.
Layamon's Brut, ed. Sir Frederic Madden (London, 1847),ll,24685-24692, 24725-26.

19. Kölbing, pp. IX-X, CXLVII.
例えば7922-24は Ip. A. における anaphora の繰返しであるが，anaphora に限らず，このように既出の表現に類似した描写法が繰返し fr. Ip. a. に現われる．必ずしも fr. Ip. a. とは同順序で平行しているのではないけれども，その技巧を Ip. A. は充分に模倣している，

20. Max Kaluza, "Ipomedon in drei englischen bearbeitungen herausgegeben von Eugen Kölbing. Breslau 1889," *Englische Studien*, 13 (1889), 490.
Kölbing-koschwitz 版には積極的な批評がなされた．殊に fr. Ip. a. に関しては多くの改訂案が出されたが，この小論では Ip. A. の掲示個所に関連のある批評のみを取り上げる．fr. Ip. a. についての批評の主なものは次の通りである．
A. Mussafia, "Sulla critica del testo del romanzo in francese antico *Ipomedon*," *Sitzungsbericht der Wiener Akad.*, 121 (1890), cf. *Romania*,XIX (1890), 503.
E. Stengel, *Zeits.* f. franz. *spr. u. Lit.*, XIII,9f.

21. Kölbing, pp. 441-442.

22. G. L. Kittredge, "Anmerkungen zum mittelenglischen Ipomadon A. Zu Ipomadon B. Zu Ipomedon C." *Englische Studien*,14 (1890), 391.

23. M. D. Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background* (Oxford, 1963), rpt. 1971.
cf. A. J. Holden ed. *Ipomedon : poème de Hue de Rotelande (fin du XIIe siècle)* (Paris, 1979).

AN *Ipomedon* 訳

「この様に立派な騎士を二人打ち負かした（ものはいまだ曾ていなかった．Il n'eust ja mes a nul tens (8564行) Conquis (BK. の読みを採る) deus si bons chevalers) おろかな者よ，多分三千人と競っても，身を危険にさらすなど彼は決してしないことだろう(8567行)．というのは，彼は痴れ者で節度もなくシチリア王の宮廷では三千人がこの者を愚か者と見做している．彼処には一段と高い栄誉を守るために戦う多くの優れた騎士たちがいた (8572行)．阿呆の如くその宮廷を出発し，阿呆の如くやって来て，阿呆の如く私の傍に立つ．阿呆の如く振舞い，阿呆の如き身なりをし，阿呆の如く話し，語り，事を為す．阿呆の顔をし，阿呆の如く怒り，阿呆の如くものわかりがなく，阿呆の如く笑い，夢心持でいる．」(イスメーヌ独白) (8578行)

おとめは夕餉についた折ひそかに矮人を呼ぶ．「あの愚か者をこちらへ近寄らせ，我々と一緒に食事をするために来させなさい．」矮人はイスメーヌに大変感謝をし，かの騎士の許へ行きそう願ったが，彼(イポメドン) は，そうはしないと言う．心の底から愚か者のように話し，大いに怒っている風をよそおって彼は答える (8587行)．「あの性悪女は昨日食事時に私を殺させようとたくらんだ．又今日もそうだ．お二人は大層嬉しがらせを言う人だ．」矮人はその言葉を聞きいたく嘆いた．矮人は引き下って口をつぐんでしまった．イスメーヌは成行きをすっかり察知していう (8594行)．「少しも私を信じないのですか．よく目につくものを人は非難するという事を御存知ないのか．心底はずいぶん愚かであっても人は利巧で賢い人だと思うものです．人は見たことをわかろうとしない．わかっていることを信じようとしないのです．さあそれが友よ，今貴方の立場なのですわ．」(8601行)

矮人はここで大変心を痛めた．「姫様，貴女は間違っていらっしゃる．貴女様のために彼のお方は死ぬ目にお逢いでした．ですから彼のお方が心中非常に御立腹なのも不思議ではございますまい．決して良いお顔をあの騎士殿になさいますな．良いことも悪いことも仰有るな(8608行)．いささか仏頂面をして

おられる彼のお方はすぐにお腹立ちですよ．何時も運に恵まれずに仕えるお人はどんな大きな幸運も信じられないものです．彼のお人が余りにも不幸であるか或いは貴女様の心が余りにも傲慢であるか，でございましょう．」(8614行)

イポメドンに矮人はまめまめしく仕える．彼の世話は全く行き届いていた．彼等はゆっくりと夕食を取って，再び彼等の馬に乗り旅路を急ごうと努めたのであった(8619行)．日暮になりみすぼらしい町で投宿することになる．快適な宿は一軒すら見当らず，その地にある宿は大層狭苦しい．イポメドンは今回同じ宿に泊ることになった(8625行)．イスメーヌはそれに不平をいわなかった．というのは彼が自分を恥辱から守ってくれたことを屢々考え合わせたからである．イポメドンは武具を外し矮人はいそいそと手伝った．矮人は彼の武具を外し終えると短いマントをつけさせた，それは緋色で内側の黒いものだった(8633行)．その場に居合せた人人は驚いてつっ立っていた．彼は珍らしい風合の絹で出来た肌着をつけ，赤い布地の下穿きを履いていた．彼の身体つきも，脚も，足もどんなに美しくほっそりしていたか，私は言い現わし得なかった．又言うすべを知らぬ．

AN *Ipomedon*

Ke unkes deus si bons chevalers (;) f. 93^{v}
Fole(,) assez tost de treis milleres 8566
N(') avreut il james l(') aventu*ure* (;)
Kar il [est] fous e senz mesure(,)
E pur [fol] le tind*r*ent treis mile
En la curt le rei de Sezile(,)
U out meint meuldre chevaler
Pur mut haut dreit deredner (;)
Cu*m* fous [s'en] parti(,) cu*m* fous vent
E cu*m* fous p*r*es de mei se tent (,)
Cu*m* fout se cuntent(,) cu*m* fous vet(,)
Cu*m* fous parole e dit e fet (;)
Fole chere ad (,) cu*m* fous se desve(,)
Cu*m* fous set(,) cu*m* fous rit e resve(.") 8578

Al disner s(')aset la pucele(,)
Priveeme*n*t le naim apele (:)
Fetes cest fol ça procher(,)
Venge ce eenz od nus ma*n*ger (!")
Li naims Ismeine mut m*e*rcie(,)
Al chevaler vent si li p*ri*e(,)
E il li dit ke nu fera(;)
Tut de gré folement parla(,)
Respunt par se*m*blant de g*r*ant ire(:)
La putain me volt fere oscire
Her al disner e ui cest jur(:)
Andui erent si duneur(.") 8590

Li naims l(')oi(,) mut li pesa(,)
Arere vint(,) mot ne suna(;)
Ismeine le tresoi ben
E dit (:") creirez me v*us* de ren (?)
Ne savez v*us* ke l(')um reprove
Une ren(,) ke l(')u*m* suvent t*rov*e (:)
Teus t*ro*ve l(')u*m* iez e sagez(,)
Ki tant sun fol de lur curagez (;)
Saveir ne volent co ke il veie*n*t(,)
Ne co ke il seuent(,) pas ne creent (;)
Se est il ore(,) amis(,) de vus(.")
Es v*us* li maimes t*ro*p anguissus (:) 8602

(") Damaisele(,) v*us* avez tort(,) f. 93 c.
Pur v*us* ad este p*re*s de mort(,)
E pas ne v*us* esm*er*veillez(,)
Se il en sun quer est t*ro*p irez (:)
Unc bel sembla*n*t ne li feistes
Ne ben ne mal ne li deistes (;)
Cil s(')aire legerement(,)
A ki la levere aukettes pent (;)
Cil ke tuz jurz sert senz eur(,)
De nul g*ra*nt ben ne seit seur (;)
U cist est t*ro*p meseurus
U v*ost*re quer t*ro*p orgeillus(.")
Li naims sert ben Ipomedon(,) 8614
E sun servise esteit mut bon(.)
Q*ua*nt il unt a leisir disnē(,)
En lur chevaus resunt mu*n*tē
E se peinent de tost errer (;)
Herbergez sunt al vesprer
En une vile [mult] mulveise (:)
N(')i trove*n*t nul ostel a eise(,)
Li ostel i sunt mut estreiez(.)
Ipomedon a cele feiz
En meisme la maisun descent(;)
Ismeine n(')en grua neent(,) 8626
Kar ele se est suve*n*t p*ur*pensee(,)
Ke il aveit de hunte garde(.)
Ipomedon se desarma(,)
Li naims de bon quer li aida (;)

Q*ua*nt li naims l(')aveit desarmé(,)
De un curt mantel l(')at afublé (;)
De escharlet esteit(,) neir dedenz (;)
En estant fut m*er*veille est genz(.)
Il out une curte chemise(,)
Camoisse de est*ra*nge guise(,)
Cauces out de v*er*meil essai(.)
Jo ne pus dire ne ne sai(,) 8638
Cum il ert beaus e alignez
De cors(,) de jambes e de piez(,)

ME *Ipomadon*

In battell can he well endure f. 302r
Bothe be witte and be mesure(,)
So have I happe or seall (;)
How so he farithe w*yth* folye(,)
His dedis byn off grette chevalrye(,)
Be god and sent myghell (!)
There is a Ml. knyghtt*es* of skole(,)
That hold*es* this man but a fole
W*yth* in the land off Cesile(,)
That Mallenger fynd*es* w*yth* honoure(,)
Half so strong be not in stowre(,)
Cowde not have done so well (!) 6977

For a fole they hold hym there(,)
And pure foly is all his fare(,)
But bold is his dev*er*es (;)
As fole he comys(,) as folle he gos (;)
As fole all his matters masse(,)
As a fole he hym demeynes(:)
As a fole he lawghis(,) as a fole he lyes(,)
As a fole he sitt*es*(,) as a fole he rysis(,)
As a fole all way is his countenaunse(,)
Be god & sent myghell(,)
He fyghtt*es* so worthely & so well(,)
I hope(,) he dothe but faynes (!") 6989

She bad the dwarrfe p*re*bely (:)
(")Goo(,) byd yound knyght come sit me by(,)
Loke(,) yf hym lyste ofte to dyne (!)

Sethe þ*ou* haste so faste for hym p*r*ayed(,)
Lett hym come(,) I hold the payde(!")
There of they nouhgte tyne (:)
The dwarffe was glad & to hym he goos
And herttly p*r*ayed hym he has(,) f. 302^{v}
To come and drynke a draw3t of wyne (:)
(")And ye shall dyne of the wylde(,)
And w*yth* you shall younde maydon mylde
Male a sufficiante fyne (!") 7001

As he were halff wood(,) he faris(,)
And on the dwarff sternly he staris(,)
That for feyre he quakys (:)
(")Nay(,) I p*r*aye to god(,) I lesse my witte(,)
By none suche rapokys will I sett(,)
For all the fare(,) ye make (!)
For hyr prowde word*es* too
Now wott I well(,) she will me sloo(,)
Downe for I theme strake(.)
For all your trappyng & yo*ur* trayne(,)
There wyt*h* shull ye bothe agayne
The debyll off hell you take (!") 7013

Then had the dwarff sorow inough(,)
Sorofully agayne he drowee(,)
So sore aferde was hee(.)
Imayn harde ev*er*y deale(,)
She sayd (:")Sy*r*(,) so have I sell(,)
But thou trowest nou3te me
Off the tale(,) that I the tolde(,)
Be the grette god(,) thy selff I hold
A more fole then hee (!)
Hit farythe by the(,) as bothe be moo (:)
Ye know that ye here also(,)
Ye beleve not(,) that ye see(!) 7025

Men makythe them folis(,) þ*a*t ar wyse(,)
And witte them(,) þ*a*t non in lyethe f. 303^{r}
So fayreth of them playne (!")
The dwarff was angurd sore
And wrothely spake to hy*r* þ*er*fore (:)

(")Lett be thy fare(,) Imayne (!)
In poynte of dethe we bothe hathe byn(,)
He hathe vs savyd(,) and þ*a*t is sene(,)
The sothe is not to laye (!)
To spere hym self dyd hym orde(,)
Off you he myghte gette nev*er* a worde
For his godenes agayne (!)

Syne the fyrste tyme(,) þ*a*t yo mett(,)
A mery word myght he no*n* gett(,)
Thereffore(,) w*yth* oute*n* fayle(,)
He(,) that s*er*vys thanke aye(,)
May thynke well set(,) I darr*e* well say(,)
Att the laste his longe travell(.)
Right as ye say(,) hit farithe be you(,)
That ye se(,) ye will not rewe (:)
This myghtty man under mayle(,)
Full worthely wrought hathe hee(,)
And þ*er*of ye will not knowe bee(,)
What so ev*er* ye ayell (!")

The dwarff mett to hym bare(,)
Full egurly e he ette*es* there (;)
Imayne on hym can loke(.)
Whe*n* they had dyned(,) forthe they rode(,)
Right as a fole(,) w*yth* outen bode(,)
Ev*er* more his hedde he shoke(.)
Hit drew to the nyghte faste(,)
They saw a towen at the laste
Stondyng on the syde of a broke(.)
Hit was but a meane velage(,)
So littil wan the harburage(,)
That both one inne they toke(.)

The inne was so streyte(,) for thy
They bothe must in a chambur lye (;)
Imayne grogyd noughte(,)
In her hertte she thynk*es* sone(,)
Ov*er* mekyll amys has she done(,)
To amend it(,) she hathe thought(.)
He put of his armore ev*er*y deyle(,)

f. 303^{v}

The dwarffe hym s*er*vyd wond*er* well(,)
A mantill to hym he broughte(,)
Blake w*yth* in and red w*yth* oute (;)
He wrapud hym worthely abowte(,)
That richely was iwroughte(.) 7073

Off sylke he hade one a shorte
Wrought of a wondyr worke(,)
Sowyde bothe well & clene(,)
A kyrtyll and a crochett fyne(.....)
Full wele idyght well all bedene(.)
Imayne hym behyld*es* on the face (:)
A ffayrer knyght(,) thanne he wan(,)
Her thought(,) she hade not sene (:)
(")Ys this a fole (?) nay(,) cert*es*(,) hee (!)
In hertte sore for thenk*es* mee(,)
So strounge that I habe been (!") 7084

Imayne repent*es*(,) that she hathe done(,)
And in her hertte she thynk*es* sone(,)
To amend hit mekyll more(.)

以下に AN *Ipomedon* の異本文を記す．左側に写本 Cotton Vesp. A vii. の読みを掲げ，右側に Kölbing-Koschwitz 版の修正された読みに (K) を附し，写本 Egerton 2515 の読みには (B) を附して掲げた．上記の転写に際して写本の綴りの略号はイタリック体で復元し，写本にない読みで K 版に加えられているものは[ ]に入れて示した．句読法は K 版をそのまま( )にいれて採用した．

8565 Ke unkes] Conquis BK. 8566 milleres] millers K. 8568 il] il est BK. 8569 pur] pur fol BK. 8573 parti]s'en parti BK. 8575 fout] fous K. 8581 ca procher] ça aprocher K. 8582 eenz] (e)enz K. 8590 duneur] duneour K. 8597 l'um iez] l'um veisez BK. 8598 sun] sount B., sunt K. 8599 le il] k'il K. 8600 ke il] k'il K. 8602 maimes] naym B., naim K. 8606 se il] s' il K. 8610 la leuere] l'eur K.; aukettes] alkes B., aukes K.; pent] apent BK. 8612 ne] se K. 8620 Herbergez] Herberger BK.; sunt] se vunt K. 8621 malveise] mult malveise K. 8623 estreiez] estreiz K. 8626 grua] gruca K. 8627 Kar ele] K'ele BK.; se est] s'est K. 8628 Ke il] K'il K.; aveit] l'avoit B., l'aveit K.; garde] gardee K. 8632 De un] D'un K. 8633 De escharlet] D'escharlet K. 8634 merveille est] merueillous B., merveilles K. (K 版は est を削除) 8636 Camoisse] Camoissee K.; de estrange] d'estrange K.

ME *Ipomadon* に関しては，以下写本 Chetham 8009 の読みを左側に示し右側に Köbling-Koschwitz 版の修正された読みを示す．転写に際して写本の綴りの略号はイタリック体で復元し，句読法は K 版そのままを採用した．

6968 seall] sell 6975 fyndes]fedes 6978 there] thare 6980 deveres] dereynes 6981 gos] gas 6986 is his covntenaunse] he counteynes 6990 p*re*bely] prevely 6992 ofte] wyth us 6994 K 版は the のかわりに me を採用 6996 goos] gaas 7004 quakys] quake 7006 sett] sitt 7015 drowee] drowe 7017 deale] dele 7019 But] For 7024 Ye know] Ye know not. (not)を付加 7025 belebe] beleve 7027 lyethe] lyese 7032 byn] ben] 7034 laye] layne 7043 travell] travayll 7045 rewe] trowe 7049 ayell] aylle 7051 e]は KF 版で削除 7068 deyle] dele 7074 shorte] serke 7075 worke] werke 7078 well]KF. 版では削除 7084 stounge] straunge.

AN *Ipomedon*

British Library MS Cotton Vesp. A VII

ff. 93rb-93va

ME *Ipomadon*

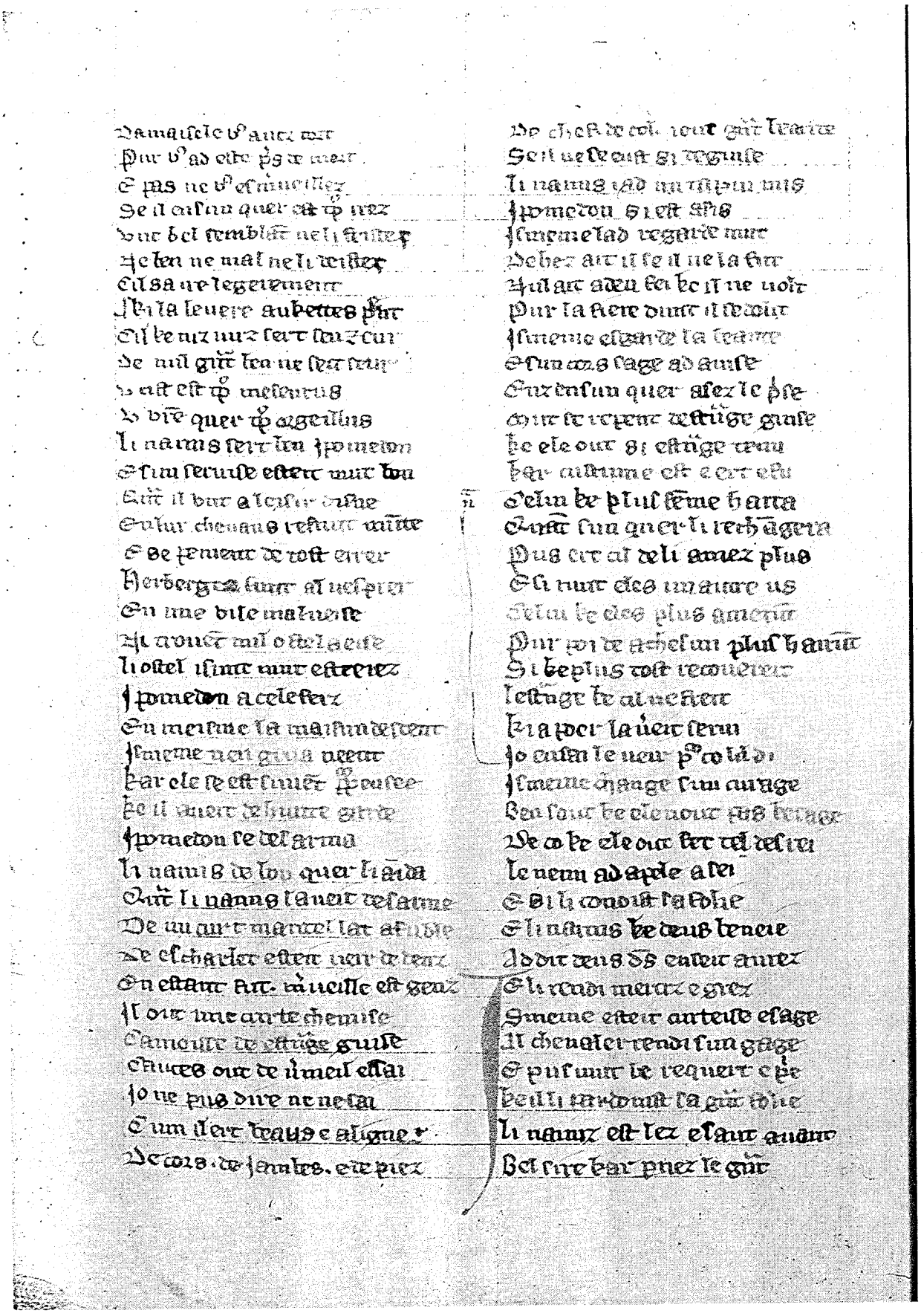
MS Chetham 8009

ff. 302^{r}-303^{v}

Ipomedon lespee brandie
Il meist pas le quer ou la chaire
Et auanis ad chef la trait
Si le odie lon bon eschaufu
Vint lor elle mettre en fuir
Vn cheual a veire estrait
Al naim ad lube le retrait
Et li le il cuhace sumer
Al os meme bien le gart
Ore pumeis auer bone auenture
Creon un sou vadlet auenir
Bien lui ai dis les ventures
Ainz il vint chacer cum le ligard
Ayene had a vn chaceur
Ipomedon muster le fer
A cum le ligard aler le let
Et li mande bien ses feuz fuille
Lasiere qa la ses bestailles
Et chaun semmes li fuit mustre
Malgre li auent ne dire
Et ast accru li pus mustre
Had cure ai il aduis
Si meme est nestee estage
Dubes estrue a lur auantage
Mes le adb fuist le plus sage hume
Et le plus fol de li ne a nume
Et il vel oue cunt emps
Se p̄o amur le fol le uer
Pur cest al dur mener od mer
Mes tost le ist pas ne uet
Mes pas si sous ai il se let
Mes sa se il se oue solement
Ayes mue se aiust sa gernement
Mur en ordre nument
Sens estor ou guit hardement
Reconeut od cheualere
Et seul e mesure e acadie
Se apruent autres de pres
Il ne cuit iames seul estre
Le vntes eus si bons chenalers
Fort a lez tost de cels milleres
Ha dex il ames la merite
Par il sous e seul mestre
E pur le cuhur mes nule
En la cort le fil de ferle
Dour mein meuldre cheualer
Pur un nun haue dreit verdier
Et sous pmis ai sous mort
E ai sous pis de mal de mort
Et sour le amur ai sous nez
Et sous parole e dit estre
Fole chere ad. ai sous it blue
Et sous ser ai sous rat e refue

Al disner saler la pucele
Ipomedon le nain apele
Feres ast fol ai prochein
Berge ai ceur od nus maiger
Li nains semeine mun haie
Al chenaler uenir et lupe
Et il li dit de mis en
Sur de gre solement en la
Bespium par vblians de gaire me
La pruhum me wit tere dure
Mes ai dinare vj ait mur
Andui eurent li dimeur
Li nains lor unt lupeia
Arere dun mot ne sunt
Semeine le arrot len
Et dit ceuez me v̄o ten
Delaez u̇ le lum repeine
Vne ten le hoc sunent une
Deul tue lit ... ez estages
Li valur li dit le lur auages
Semeir ne volent co le il neiet
Mes co le il sauent pas ne creem
Se est dure anus de nus
Et u̇ li nains tp sanglutus

93v



302r

Ipomadon · 3 · 302

In battell can he well endure
Bothe be witte and be mesure
So have I happe or skall
How so he faithe wt folye
Hic dedic byn off grette chevalyye
Be god and sent myghell
Thoye is a mt knyghtt of skole
That holdt this man but a fole
Wt in the land off cesile
That mallenge fynde wt honoure
Halff so stiong be not in stowye
Cowde not have done so well
For a fole they hold hym there
And puye foly is all his faye
But bold is his deweres
As fole he comys as folle he goes
As fole all his matters masse
As a fole he hym demeynes
As a fole he lawghis as a fole he lyes
As a fole he sitts as a fole he rysis
As a fole all way is his countenamse
Be god sr sent myghell
He fyghtt so woithely sr so well
I hope he dothe but faynes
She bad the dwarffe pribely
Goo byd yound knyght come sit me by
Loke yf hym lyste oste to dyne
Sethe pr haste so faste for hym pcyed
Lett hym come I hold the me payde
Thoye off they noughte tyne.
The dwarffe was glad sr to hym he goes

302v

And heittly prayed hym he has
To come and drynke a drawzt of wyne
And ye shall dyne of the wylde
And wt yaw shall yonde maydon mylde
Make a sufficiante fyne
As he were halff wood he fares
And on the dwarff steinly he stares
That for feyre he qualys
Nay I prye to god I lesse my witte
By none suche rapolys will I sett
For all the fare ye make
For hyr prowde wordes too
Now wott I well she will me sloo
Downe for I theme strake
For all your trappyng & yo trayne
There wt shull ye bothe agayne
The debyll off hell yaw take
Then had the dwarff sorow I nough
Sorofully agayne he drowe
So sore a feyde was hee
I mayn haide every deale
She sayd ser so hane I sell
But than trowest nouzte me
Off the tale that I the tolde
Be the grette god thy selff I holde
A more fole then hee
Hit farythe by the as dothe be moo
Ye know that ye here also
Ye be lebe not that ye see
Men makythe them folis pt ar wyse

Ipomadon . 3 . 303

And witte thoun pt nou in lyethe
So fayleth of thom playne
The dwarff was angurd sore
And wrothely spake to thy pfore
Lett be thy fare imayne
In poynte of dethe we bothe hathe byn
He hathe us savyd and pt is sene
The sothe is not to laye
To spere hym self dyd hym ode
Off you he myghte gette neu aworde
Ffor his godenes agayne
Syne the fyrste tyme pt ye mett
A mery word myght he no gett
Therefore wt ontē fayle
He that sernys thanke aye
May thynke well set I dare well say
At the laste his longe travell
Right as ye say hit faithe be you
That ye se ye will not relbe
This myghty man under mayle
Ffull worthely wrought hathe hee
And pof ye will not knowe bee
What so eu ye ayell
The dwarff mett to hym bare
Ffull egurly & he ett there
Imayne on hym can loke
Whē they had dyned forthe they rode
Right as a fole wt ontē bode
Eu more his hedde he shoke
Hit drew to the nyghte faste

303v

They saw a towne at the laste
Stondyng on the syde of a broke
Hit was but a meane velage
So littill was the harburage
That both one Inne they toke
The Inne was so freyte for thy
They bothe must in a chambur lye
Imayne grogyd nonghte
In her hertte she thynk sone
Ond mekyll amys has she done
To amend it she hathe thought
He put of his armore enyr deyle
The dwarffe hym seruyd wonder well
A mantill to hym he bronghte
Blake wt in and red wt oute
He wrapyd hym woithely a bowte
That richely was I wronghte
Off sylke he hade one a shorte
Wronght of a wondyr worke
So wyde bothe well si cleue
A kyrtyll and a crochett fyne
Full wele I dyght well all bedene
Imayne hym be hyld on the face
Affayrer knyght thanne he was
Hei thought she hade not sone
Ys this a fole nay certe hee
In hertte sore for thynk mee
So fromige that I habe been
Imayne repent that she hathe done
And In hei hertte she thynk sone
To amend hit mekyll more

3) Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*

——はじめに——

イギリスにノルマン王朝が築かれ，プランタジネットの Henry 2 世がイギリスの覇者として国を治めていた頃，ノルマンの詩人 Wace は年代記 *Roman de Brut*「ブリュ物語」(*Ca.* 1155) を書き，それをヘンリー 2 世の后 *Eleanor* に献呈した。この *Wace* の列王記の中に現われるブリテンの王者達の中でアーサー王と彼を取巻く円卓の騎士の肖像はフランス文学では12世紀の詩人 *Chrétien de Troyes* (1135—90？) の宮廷文学や，*Marie de France* (12世紀後半) の短詩の中に受継がれてゆき，*roman courtois* の題材となった。

それから凡そ50年後，*Roman de Brut* はまた，ウスタシャーの僧侶 Layamon が Early Middle English で書いた *Brut* (Ca. 1205) の原典となったのである。そして Layamon の *Brut* も其の後の英文学に現われるアーサー王物語の発展に寄与することになる。

Layaman は Wace の *Brut* を自由訳して，物語の構成から叙述の順序迄殆んど其尽に Wace をうつし取った。

物語はイギリス建国伝説の王者 Brutus の曽祖父にあたる Eneas が新天地を求めてトロイを逃れる所から始まってブリトン人の Albion 定住，其の後国威を輝かせるアーサー王の偉業が情熱的に語られてゆき(アーサーに関する物語に Wace も Layamon もおよそ全体の三分の一を費している)，ブリトン最後の王 Cadwalader (689A. D.) が国をサクソン王 Athelstan の統治にゆだねて島を離れ，その子孫がウェールズに戻って落着く所で話は終っている。

Wace の octosyllabic couplet 14866行 (Ivor Arnold 編) は Layamon では hemistich の32241行 (Francis Madden 編) になっている。Wace と比べて Layamon の詩行の長々しいのは彼が物語を進める際登場人物の会話を沢山とり入れたり，Wace の叙述を更に詳しく説明したり，彼独自の挿話をつけ加えたりしているためである。

このワースとラヤモンの *Brut* 物語を比べた時にラヤモンの特徴として先づ挙げられて来た事は OE heroic poetry の伝統を色濃く受継いでいる彼の Englishness[1] である。ラヤモンはワースを訳したのであるが，訳出にあたってラヤモンの醸し出したアングロ・サクソン的な英雄詩の雰囲気を強調するあまりに，彼が *Brut* に描いた世界は古代的であってワースの描き出したロマンス風の騎士の社会とは対蹠的であるときめたり，ラヤモンひとりが Brut の中で残忍で野蛮な特徴を持っているか[2]の様な評価を与えることには一考の余地があると思われる。

そこでこの小論は実際に Wace と Layamon のテキストを並べて検討し，果して彼等の描いた *Brut* の世界は大層違ったものなのか，Wace はどの様に Layamon に受継がれていったのかを探ってみようとするものである。つまり Layamon がどの程度 archaic であり less sophisticated[3] なのか調べたいと思う。それから両者を比較する事によって当然浮かび上って来る Wace の特徴的なフランス風嗜好や Layamon のアングロ・サクソン的気質にも焦点をあててみたいのである。以下問題を 5 つの項に分けて話を進めよう。

第 I は中世のロマンスに織込まれてくる女性との恋愛関係の描写や roman courtois で troubadour が

語った woman-worship と courtesy のたしなみがどの程度に Wace と Layamon に現われてくるかを調べ,

第IIは Wace と Layamon の描く King Arthur と円卓の騎士達の肖像には果して大きな差異があるのだろうかと検討し，第IIIは Layamon に対する一つの批評から彼の特徴といわれる ferociousness について Wace と対比して考え，第IVは *Roman de Brut* を翻訳するにあたって Layamon がみせる Anglo-Saxon 気質から彼の Englishness の一つの特徴を明らかにし，第Vは Layamon のイギリス人らしさと好対照をなす Wace のフランス的な嗜好を全篇を通じて考察する。それは courtly sentiment[4] であるよりむしろ彼の Norman gaity であるようだ。その具体的特徴をテクストからとりあげる。

I

婦人に対する愛情や優しい心づかいを描く点では Layamon は Wace より多少ひかえめでこそあれ，決してひけを取らない。我々はまず女性への恋心の描写を，アーサーの父王ユーサーがコーンウォール公ゴロワの妻イガーナに横恋慕する場面に認めることができる。(彼女は後にユーサーの子を宿しアーサー王を生む)

……Ygerne, sa femme,
Curteise esteit e bele e sage
E mult esteit de grant parage.
Li reis en ot oï parler
E mult l'aveit oï loer ;
Ainz que nul semblant en feïst,
Veire assez ainz qu'il la veïst,
L'out il cuveitee e amee,
Kar merveilles esteit loee.
Mult l'ad al mangier esguardee,
S'entente i ad tute turnee.
Se il mangout, se il beveit,
Se il parlout, se il taiseit,
Tutes eures de li pensot
E en travers la regardot.
En regardant, li surrieit,
E d'amur signe li faiseit.
Par ses privez la saluot
E ses presens li enveot,
Mult li ad ris e mult clunied
E maint semblant fait d'amistied ;
Ygerne issi se conteneit
Qu'el n'otriout ne desdiseit.

Wace *ll.* 8573—8596

Þe king sende his sonde
to Igærne þere hende.
Gorlois eorles wif

wifmone alre hendest.
Ofte he hire lokede on
& leitede mid eʒene.
ofte he his birles sende
fron to hire borde.
ofte he hire loh to
& makede hire letes.
and 〔heo〕 hine leofliche biheold
ah inæt whær heo hine luuede.
Næs þe king noht swa wis
ne swa ʒære witele.
þ imong his duʒeþe
his þoht cuðe dernen.

Layamon *ll.* 18534—18549[5]

Uther は Gorlois に伴われて王の饗宴に列席した Igerne をみそめるのである。Wace のユーサーはイガーナを恋して食べる間も，飲む間も，話す間も，黙っている間も，彼女を想い，彼女を見詰めて微笑みかけ，愛の合図を送る。Layamon のユーサーも負けてはいない。彼は度々酌人を彼女の食卓へとつかわし，彼女を見詰めて笑いかける。彼は彼の心を隠すことが出来ない。ユーサーは遂にイガーナに恋ぐるいをして股肱の重臣の Ulfin に何とかしてくれなければ彼女恋しさの余りに死んでしまうなどと言う。

L'amur Ygerne m'ad suspris,
Tut m'ad vencu, tut m'ad conquis,
Ne puis aler, ne puis venir,
Ne puis veillier, ne puis dormir,
Ne puis lever, ne puis culchier,
Ne puis beivre, ne puis mangier,
Que d'Ygerne ne me suvienge;
Mais jo ne sai cum jo la tienge.
Morz sui se tu ne me conseilles.

W. *ll.* 8659—8667

Ulfin ræd me sumne ræd
oðer ich beo ful reðe dæde.
swa swiðe me longeð
þ ne mai i noht libben.
after þere faire Ygærne

L. *ll.* 18718—18722

この様に Wace も Layamon もユーサーの恋情をロマンスの主人公の雰囲気で以て描き出している。また，アーサーが王妃グィニヴアを大切にしていたことは，簡単な passage においてではあるが，Wace と Layamon が異口同音に記している。

'Artur l'ama mult e tint chiere;' (W. *l.* 9656), 'Arður heo nom to wife / & luuede heo wunder swiðe' (L. *ll.* 22241—22242).

Woman-worship の精神や courtoisie (curteisie)[6] は Layamon にはまだ鮮明に現われず，Wace の描

写のはしばしに見られるのであるが，*Roman de Brut* で amour courtois を思わせる言葉は円卓の騎士の交わす冗談と，アーサーの戴冠式に参集する騎士の資格を述べたところに散見する程度である。[7] この言及を全篇の中からとりあげ殊更重視して，Wace の物語の特徴は courtly sentiment であると言い，Layamon の描いた *Brut* の世界を Wace から昔に遡った古い社会であるかの様に考えるのには疑問の余地があろう。

II

Wace の騎士達は Layamon の武将達の住む世界からかけ離れた，中世封建社会の住人であってロマンス風の騎士であると殊更に強調するのは危険なのである。Wace のアーサー像は courtoisie を心得た王であって確かに Layamon のアーサーと比べると洗練されている。礼節正しさ，生まれの良さ，勇気のあること，気前の良さに於て他の君主を凌駕しているのだが（*ll*, 9030—9032），彼はまた，強くて剛胆で勝ち誇っている自信満々の王者でもあるのだ。名声を愛し，名誉を愛し，ほまれの名を残さんと望む英雄である（*ll.* 9021, 9025—9026)。

Les thecches Artur vus dirrai,
Neient ne vus en mentirai;
Chevaliers fu mult vertuus,
Mult fu preisanz, mult glorius;
Cuntre orguillus fu orguillus
E cuntre humles dulz e pitus;
Forz e hardiz e conqueranz,
Large dunere e despendanz;
E se busuinnus le requist,
S'aidier li pout, ne l'escundist.
Mult ama preis, mult ama gloire,
Mult volt ses faiz mettre en memoire,
Servir se fist curteisement
Si ce cuntint mult noblement.
Tant cum il vesqui e regna
Tuz altres princes surmunta
De curteisie e de noblesce
E de vertu e de largesce.

W. *ll.* 9015—9032

Eugene Mason はアーサー像を次の様に現代語訳した：

He was a stout knight and a bold: a passing crafty captain, (Forz e hardiz e conqueranz, *l*, 9021,) ……He was one of Love's lovers; a lover also of glory; and his famous deeds are right fit to be kept in remembrance,[8] (Mult ama preis, mult ama gloire, / Mult volt ses faiz mettre en memoire, *ll.* 9025—9026).

'preis' は戦による名声だけではなく，淑女を礼譲を以て愛する能力をも評価の中に含んでいる。[9] 同様に 'conqueranz' も征服者として勝ち誇っているだけではなく，異性に対する自信満々の意味があるが，此処では女性への愛だけに 'preis', 'conqueranz' を解釈してよいだろうか。Mason は 'Mult ama preis, を 'He was one of Love's lovers,' と訳したが筆者は 'アーサーは名声を大層愛した' と直訳して，こ

の '名声' を愛するということは，武将としての統率力，栄誉を評価されるべく望んでいるものと考えたい。

Wace の Artur は chanson de geste に描かれている heroic age の英雄の美徳を具えている。彼のイメージはアングロ・サクソンの伝統的な英雄像を継承している Layamon の Arður とさしてかけ離れてはいない。何となれば英雄時代の hero の美徳は広い世界に共通したものであるから。

þa þe Arður wes king
hærne nu seollic þing.
he was mete-custi
ælche quike monne.
cniht mid þan bezste
wunder ane kene.
he was þan ȝungen for fader
þan alden for frouer
and wið þan unwise
wunder ane sturnne.
woh him wes wūder lað
and þat rihte a leof.
Ælc of his birlen
& of his bur-þæinen.
& his ber-cnihtes
gold beren an honden.
to ruggen and to bedde
iscrud mid gode webbe.
Nefde he neuere nænne coc
þat he nes keppe swide god.
neuær nanes cnihtes swein
þat he næs bald þein.
þe king heold al his hired
mid hæȝere blise.
& mid swulche þinges
he ouer-com alle kinges.
mid ræhȝere strengðe
& mid riche-dome.
swulche weoren his custes
þat al uolc hit wuste.
Nu wes Arður god king
his hired hine lufede.

L. *ll.* 19930—19961

Layamon は Wace の詩行 'Servir se fist curteisement / Si ce cuntint mult noblement.' (*ll.* 9027—28) を具体的にアーサーにはべる従者の様子を述べて説明し，翻訳しようと試みている様だ (L. *ll.* 19932—19952)。Arður はまた，Germanic hero で，brave, daring, boast-uttering, boast-performing,

hostage-hanging king[10]であるといわれるがこれは Layamon の Arður に限らない。Wace の Artur も又而り，fierce king なのだ[11]。

Wace の chevaliers はロマンス風の騎士というより，*Chanson de Roland* のシャルマーニュの12臣将の如くに，'Les vaillanz humes les meillurs, / Les plus hardiz cumbateürs,' (W. *ll.* 9865—9866) であって，王に生死をゆだねて戦に明け暮れ，目ざましい手柄をたて、は太っ腹のアーサーから褒賞を授かる剛勇の武将達である。御婦人の愛を求めて武者修業に専念する騎士の姿は Wace の *Brut* に見られない。それらしい騎士の姿勢への言及はほんの数行である。

III

Layamon は僧職にありながら残忍な心を持っていたという批評がある。R. S. Loomis は特に彼の野蛮な一例としてアーサーが Yuletide feast で宴席の順列優劣争いを起した張本人一族の男達の首をはねさせ，女達の鼻をそがせる描写[12]をとりあげている[13]。然しアーサーは '…wið þan unwise / wunder ane sturnne. (*ll.* 19938—39) なのだから味方同志でアーサー王のクリスマスの饗宴に血を流す争いを起したおろか者の一族に厳しい罰を与えるのは不自然ではない。Wace はこの紛争については特に何も記していないからこれは Layamon の補足であろうが，この争いと懲罰のいきさつは，この様なつまらぬいさかいが二度と起らぬために皆が平等に坐れる円卓をアーサーが採用するという話の導入部になって，円卓の謂が生彩を帯びて印象づけられてくるのであるから，ここでは我々は Layamon の残忍性を論ずるより物語作家としての彼の巧みさを買って然るべきかと思う。Layamon だけが ferocious であるというのは片手落ちだ。このような懲らしめは殊更彼が考え出したわけではないのだから。殺戮の残忍な場面は Wace にも描かれている。例えばブルータスがイギリス国統一に至る過程に獅子奮迅のいくさをする時，Wace の描写は生々しく残酷である。

Li Greu esteient endormi,
Ainz que il fussent estormi,
Out par les trés maint cop doné,
Maint puin, maint braz, maint pié copé,
Espandue mainte cervele
E perciee mainte büele.

W. *ll.* 467—472

his horn he vastliche bleu.
Iherden hit Troynisce
& tuhten to þon Gricken.
heo heom aweihten
mid heora wæles igrure.
þar fluwen haueden on felde
fæiðe þer feollen.
moni hond moni fot
þe hæp wæs þe wrse.

L. *ll.* 808—816

Brutus のひきいるトロイの軍勢は眠っているギリシャ軍に不意打をかけ，こぶしや腕や足を沢山ちょん切り，脳みそを飛び散らし，いたる所で腸を突きやぶる。この場合 Layamon はどうかというと，'þar fluwen haueden on felde / …… / moni hond moni fot' と Wace を真似てはいるがそれ以上具体的

に残忍な描写を続けず，OE 風 epic formulæ の 'fæiðe þer feollen' を使い，'þe hæp wæs wrse.' と切上げてしまった。

Wace の円卓の騎士達も仲々savage である。ローマ皇帝のもとへ使者として迎えられた Gerin, Bos, Gawain の 3 人の中，ガーウェインは使者の役目も果さぬうち，皇帝に縁続きの Quintilien の言葉が気に喰わぬからと，いきなり彼を叩き切り 3 人があたふと逃げ帰る話は Wace も Layamon も変らないが，Wace のガーウェインが「御免」とも断らずに馬に飛び乗るのに対して (W. *ll.* 11757—11760)，Layamon のガーウェインは「我々を追って来られる勇敢なお方がおられても，私は容赦なく刀で叩き切りますぞ」と少くとも断りの捨てぜりふを残す (L. *ll.* 26465—26470)。果してどちらのガーウェインが野蛮であろう。

Ⅳ

Dorothy Everett は Layamon のイギリス人らしさを，彼が Wace のフランス風 *Brut* を訳した際にその拠り所とした伝統的な Old English の英詩の概念，古きものへの強い憧れを示した彼の詩作の方法に認めている。いくさの身ごしらえをするアーサー王のいでたちを語る Layamon の言葉から Everett は *Beowulf* を連想する[14]。確かに，Layamon の戦いの描写は古代英語で書かれた battle song の雰囲気を彷彿とさせる。Layamon がこの意味でイギリス的なのは言う迄もないが，この項では，Layamon が示すアングロ・サクソン気質を *Brut* に登場する戦士達の会話の中から Wace と対比して摂り上げてみようと思う。

ブルータス勢の勢いに押されて浮足立った Poitou 王 Goffar のひきいる軍勢にブルータスの重臣の一人 Corineus は '敵に後を見せるとは卑怯なり' と大みえ切って呼びかけるのであるが，Wace の描くコリネウスの叩く大口と，Layamon の描くコリネウスの生真面目な説教風の詰問調とは面白い対照をなしている。

Vus fuiez trop vilainnement
Ki fuiez pur mei sulement;
Ja estes vus plus d'un millier
Si fuiez pur un chevalier.
Ne savez cele part fuïr
Que jo ne vus face murir;
Mais riches conforz vus puet estre
Que vus murrez od ceste destre
Dunt jo ai maint bon cop duné
E maint millier d'omes tué
E maint gaiant par mi trenchié
E en enfern maint enveié.
E quatre e quatre, e treis e treis,
Venez ça, ferez demaneis!

W. *ll.* 887—900

Goffar mid þire ferde
wi wolt þu fleam makian.
Ne miht þu na wiht so fleon
ȝif þu us wlt heonne fleman.

þu most swiþer fehten
er we heonne iwenden.

L. *ll.* 1576—1581

'私一人のために逃げるとはふらち千万……いや，だが御安心召されい。御前がた死ぬのは儂のやっつけた御連れと一緒だからな。何千人も殺して，大男の首をはねて地獄へ送り込んでやりましたぞ。さあ，三人ずつでも四人ずつでもかゝって来なされ。'

と Wace は皮肉たっぷりなのだ。Layamon の方は，'ゴファーよ何故軍勢を引き連れて逃げるのだ，我々を此の地から追い払うつもりなら逃げてはならぬ。我々が退却するより先に貴殿はしっかり戦うべきですぞ。' と至極御尤なことを言って敵を呼び戻そうとするのである。Wace の物語を大体に於て内容を変えずに写し取っている Layamon なのであるが Wace がひとたびフランス風のからかいや，駄洒落や，軽口を叩き始めると Layamon は其の個所を削除するか，或いは彼独特の生真面目な精神で翻訳してしまう。

Layamon のこの特徴はローマ皇帝 Lucius からアーサーの恭順を強要する使節の到来に接して，善後策を講ずるために召集された騎士達の間に交される会話にも認められる。

Quant Cador dist en suzriant,
Oiant le rei, ki ert avant:
En grant crieme ai, dist il, esté,
E mainte feiz en ai pensé,
Que par oisdives e par pais
Devenissent Bretun malveis.
Kar oisdive atrait malvaistied
E maint hume ad aperecied.
Uisdive met hume en peresce,
Uisdive amenuse prüesce,
Uisdive esmuet les lecheries,
Uisdive esprent lé drueries.
Par lunc repos e par uisdive
Est juvente tost ententive
A gas, a deduit e a tables,
E a altres geus deportables.
Par lunc sujur e par repos
Poüm nus perdre nostre los.
Pose avum esté endormi,
Mais Damnedeu, sue merci,
Nus ad un petit resveilliez,
Ki Romains ad encuragiez
De chalengier nostre païs
E les altres qu'avum cunquis.

W. *ll.* 10735—10758

þa stod þer up Cador
þe eorl swiðe riche ær.

and þas word sæide
bifore þan riche kinge.
Ich þonkie mïe drihte
þat scop þes dæies lihte.
Þisses dæies ibiden
Þa to hirede is ibo3en.
and þissere tidinge
Þe icumen is to ure kïge.
Þat we ne þuruen na mare
aswunden liggen here.
For idelnesse is luðer
on ælchere þeode.
for idelnesse makeð mon
his monscipe leose.
ȳdelnesse makeð cnihte
for-leosen his irihte.
idelnesse græiðeð
feole uuele craften.
idelnesse makeð leosen
feole þusend monnen.
Þurh eðeliche dede
lute men wel spedeð.
For 3are we habbeoð stille ileien
ure wurðscipe is þa lasse.
ah nu ic þokie drihtne
þæ scop þas da3es lihte.
Þat Romanisce leodē
sunden swa ræie.
& heore beot makieð
to cumen to ure burh3es.

L. *ll.* 24899—24930

Cornwall の Cador は戦が始まりそうでやれやれだとばかりの口調で… '暇があって平和ですと，我々は悪くなりますな。無為はろくなことにならない…。' と口を開く。Wace のカドー公が 'Uisdive met hume en peresce, / Uisdive amenuse prüesce,' / Uisdive esmuet les lecheries, / Uisdive espreut lé drueries.'(*ll.* 10743—46) と得意の repetition を始めると Layamon はその口調を取って '…idelnesse makeð mon / his monscipe leose. / ydelnesse makeð cnihte / for-leosen his irihte. / idelnesse græiðeð / feole uuele craften. / idelnesse makeð leosen / feole þusend monnen. / þurh eðeliche dede / lute men wel rpedeð.' (*ll.* 24913—22) この様に真似ているが，彼は Wace の 'Quant Cador dist en suzriant' (カドーが笑いながら言った…) という言葉を訳さなかった。Layamon は重大な会議の討論をにこにこと冗談まじりに話す態度が納得出来なかったのか或いはそれは彼の生真面目な性格の好みに合わなかったのでもあろうか。

カドー伯に答える Wace の Gawain〔Walwein〕は，'殿，何卒そうお怒りになられますな，いくさの後の平和は宜しいものにございます。土地は美しくも豊かにもなります。まことに，巫山戯ますのも，御婦人との愛も結構なことで，恋人のため，愛を獲得するために騎士達は騎士道に励みまする。と軽く応酬する。

Layamon のガーウェイン〔Walwain〕は真正面から怒ってカドーに反対し，平和は神聖なる神の創り給うた誰にも結構なもので，平和は善良な人間に善行をさせるのです，と真面目くさってカドーに喰ってかゝっている。

Sire cuens, dist Walwein, par fei,
De neient estes en effrei.
Bone est la pais emprés la guerre,
Plus bele e mieldre en est la terre;
Mult sunt bones les gaberies
E bones sunt les drueries.
Pur amistié e pur amies
Funt chevaliers chevaleries.

W. *ll.* 10765—10772

þat iherde Walwain
þe wes Ardures mæi.
and wraððede hine wið Cador swide
þa þas word kende.
and þus andswærede
Walwain þe sele.
Cador þu ært a riche mon
þine ræddes ne beod noht idon.
for god is grið and god is frið
þe freoliche þer haldeð wið.
and godd sulf hit makede
þurh his godd-cunde.
for grið makeð godne mon
gode workes wurchen.
for alle monnen bið þa bet
þat lond bið þa murgre.

L. *ll.* 24949—24964

Layamon の騎士達は優しい気持は持ち合わていても冗談をいわない。Wace は此処ではロマンスの騎士の宮廷風な姿を垣間見せて呉れている。それに対して Layamon のガーウェインは説教臭い坊様のようだ。Cador と Gawain の軽快なフランス風の軽口の応酬は Layamon の苦手とする所である。二人の会話を大真面目な論争に変えてしまった。これは Layamon の職業がらというだけではなく彼の生来の生真面目アングロ・サクソン気質が彼の文学にうつり伝わっているように我々は思う。

V

Layamon のアングロ・サクソン気質に対して Wace のフランス人的嗜好が見られるのは彼が当時親

しんでいたアンジェヴァンの宮廷の模様をうつし入れたと思われるアーサー王の戴冠式の華やかな祝宴の様子である。式の模様は Wace も Layamon も共にアーサー王宮廷の富と権勢を示す豪華絢爛さを以て描いている。豪華さという点だけを挙げれば，あまたの従者，給仕人の末に至る迄きらびやかに純金で装っている Layamon のアーサー宮廷が勝っているやも知れぬ。然し祝宴の酒盛りも果て、其の後の競技となると，Wace の描く宮廷の淑女は如何にもフランスの女性らしく生きいきとしたあでやかさを現わして来る。彼女達は余興の競技者をみるために壁へ登り意中の人を見付けると秋波を送り，顔を振向ける（W. *ll.* 10539—42)。Layamon の貴婦人は Wace の淑女達よりもおとなしい。彼女達は壁によりかゝって競技の面々を眺めるのである（L. *ll.* 24713—24720)。

さあそれからの余興となると，Wace の雄弁はにわかに活気を帯びてくる。彼はフランス風の賑やかで華やかな情景を満喫させてくれる。宮廷には軽業師や，歌い手，楽師，勝負師が集まり，武勲詩や恋のうたや，手回し琴弾きの唄や，評判の詩やハープやフリュート伴奏のうたなどが聞かれる。堅琴，太鼓，笛，管絃楽，七絃琴，一絃琴，ティンパニー，トランペットと楽器の賑やかな音色の中にダイスとテーブルを持って来させている声も混じる。喧嘩をしたり叫んだり，'お前はごま化しただろう，外へ投げろ，掌を動かして骰子を振れ！…' 等と聞こえて来る。沢山着込んでいた者が身ぐるみはがれてゆく情景も見られる。

Quant li reis leva del mangier,
Alez sunt tuit esbanier ;
De la cité es chans eissirent,
A plusurs gieus se departirent ;
. . . .
Les dames sur les murs muntoent
Pur esgarder cels ki juoent ;
Ki ami aveit en la place
Tost li turnot l'oil e la face.
Mult out a la curt jugleürs,
Chanteürs, estrumenteürs ;
Mult peüssiez oïr chançuns,
Rotruenges e novels suns,
Vïeleüres, lais de notes,
Lais de vïeles, lais de rotes,
Lais de harpes, lais de frestels,
Lires, tympes, e chalemels,
Symphonies, psalteriuns,
Monacordes, timbes, coruns,
Assez i out tresgeteürs,
Joeresses e jugleürs ;
Li un dient contes e fables,
Alquant demandent dez e tables.
. . . .
Assez suvest noisent e crient ;
Li un as altres suvent dient :

"Vus me boisiez, defors getez,
Crollez la main, hochez les dez!
Jo l'envi avant vostre get!
Querez deniers, mettez, jo met!"
Tels i puet aseeir vestuz
Ki al partir s'en lieve nuz.

W. *ll.* 10521—10524, 10539—10556, 10581—10588

Wace の賑やかさに比べて Layamon の余興の描写は次のようである。彼は苦々しい気持で Wace の騒騒しさを削除したのであろうか，彼の興味は専ら Arður にかしづく廷臣達の群像と競技の晴れの勝者が，アーサーより褒賞を授かることである。

Þa þe king ȝetē hafde
and al his mon-weorede.
Þa buȝen ut of burhȝe
þeines swiðe balde.
alle þa kinges
and heore hereþringes.
alle þa biscopes
and alle þa clærckes.
alle þa eorles
and alle þa beornes.
alle þa þeines
alle þa sweines.
feire iscrudde
helde ȝeond felde.

L. *ll.* 24681—24694

Monianes kunnes gomen
þer heo gunnen driuen.
& wha swa mihte iwinne
wurðscipe of his gomene.
hine me ladde mid songe
at-forē þan leod-kinge.
and þe kĭg for his gomene
ȝæf him ȝeune gode.
Alle þa quene
þe icumen weoren þere.
and alle þa lafdies
leoneden ȝeond walles.
to bihalden þa duȝeðen
and þat folc plæie.
þis ilæste þreo dæȝes
swulc gomes & swulc plæȝes.

þa a þā ueorðe dæie
þe king gon to spekene.
and aʒæf his gode cnihten
al heorere rihten.
he ʒef feoluer he ʒæf gold
he ʒef hors he ʒef lond.
castles & cleðes eke
his monnen he iquende.
þer wes moni bald Brut
biuoren Arðure.

L. *ll.* 24705—24730

饗宴がおひらきになるとアーサー王は持前の気前の良い寛大さを発揮して賓客に贈物をする。再び Wace の筆はとゞまる所を知らぬ程滑らかになり，得意の repetition で anaphora を用い，アーサー王の引出物を列挙する。

Treis jurs dura la feste issi.
Quant vint al quart, al mecresdi,
Li reis ses bachelers feufa,
Enurs delivres devisa ;
Lur servises a cels rendi
Ki pur terres l'ourent servi ;
Burcs duna e chasteleries
E evesquiez e abeïes.
A cels ki d'altre terre esteient,
Ki pur amur al rei veneient.
Duna cupes, duna destriers,
Duna de ses aveirs plus chiers.
Duna deduiz, duna joiels,
Duna levriers, duna oisels,
Duna peliçuns, duna dras,
Duna cupes, duna hanas,
Duna palies, duna anels,
Duna blialz, duna mantels,
Duna lances, duna espees,
Duna saietes barbelees.
Duna cuivres, duna escuz,
Ars e espiez bien esmoluz,
Duna lieparz e duna urs,
Seles, lorains e chaceürs.
Duna haubercs, duna destriers,
Duna helmes, duna deniers,
Duna argent e duna or,

Duna le mielz de sun tresor.
N'i out hume qui rien valsist
Qui d'altre terre a lui venist
Cui li reis ne dunast tel dun
Qui enur fust a tel barun.

W. *ll.* 10589—10620

祝宴の4日目, Artur は騎士見習の従者に恩賞を与え官職封を分かち, 領地を司って彼に仕えた者には城市や城を与え, 司教区や修道院を与えた。外国から敬意を表して王のもとに参じた面々には盃や軍馬やとアーサーの高価な財宝を与え彼等に満足と喜びを与えるのであった。贈物の品目は, グレーハウンドあり, 鳥あり, 毛皮裏付き外套, 衣服, 大盃, 高台付酒盃, 上衣, 指輪, チュニック, マント, 槍, 刀, 矢, 逆刺, 真鍮, 三角楯, 弓, 研ぎすました矛, レオパード, くま, 段梯子, 甲冑, 房付鞭, 鎖かたびら, 馬, かぶと, デナリウス銀貨, 銀, 金等々, 大層なもてなしである。

Layamon と比べてみよう。彼はもう Wace に従ってゆけない。彼は口調も構文も其侭に 'he ȝef seoluer he ȝæf gold' (L. *l.* 24725) 〔cf. 'Duna argent e duna or,' (W. *l.* 10615)〕と Wace を写し始めるが, Arður は銀や金を与え, 馬や土地を与え, 城や衣服も与え彼の臣下を喜ばせた (*ll.* 24725—24728)。と, このあたりでぷっつり Wace のお喋りを削除してしまう。戴冠式の豪華な Arður 宮廷の雰囲気は終幕に近付くと Wace の賑々しさに比べて急に貧弱にみえてくる。が然し Layamon は賑やかな管絃や悪巫山戯や騒々しい宮廷や止まる所を知らぬ有様の饒舌はアーサー王と廷臣達の威厳を傷つけるとでも考えて, 敢て Wace の賑やかさを抹殺した模様である。我々は此処に Wace と Layamon の歴然とした相違を認め得る。

Wace のこの際限なしのお喋りは極めてフランス的な特徴と言えるであろう。武勲詩の *Chanson de Roland* にも既にそれは認められるし, 中世随一の詩人ヴィヨンや, ルネサンスの華, ラブレーの「ガルガンチュア・パンタグリュエル物語」にも顕著な *'verbiage'* の一面がある。つまり, *Roman de Brut* に於てみられる極立った Wace のフランス人的嗜好は騎士道華やかな世界に具現される courtoisie ではなくて, それは, いずれは生真面目で沈鬱なアングロ・サクソンの国民性を変化させ, Merry England[15] の出現に影響を与えることになる。Norman gaity[16] なのである。

——結　び——

我々は以上五項目に分けてワースとラーヤモンのテキストを対比させて来た。その結果, Brut の世界が双方共多分に heroic age の伝統に則とった英雄時代の社会である事に気付く。ワースとラーヤモンの描く王候の肖像は英雄時代に広く共通していた, いくさ人の社会倫理, 美徳を具えているから, 彼等の英雄のイメージは一致するのである。ワースがロマンスの洗練された騎士の住む社会を *Roman de Brut* に描き, ラーヤモンは OE poetry に見られるような古いアングロ・サクソン風の世界に住む粗野な武将の社会を彼の *Brut* に創り出していると考えるのは妥当ではない。野蛮な心を持つと言われるラーヤモンの ferocity はラーヤモンひとりに限らずワースにも又認め得るものである。

貴婦人の愛を得んために騎士道に励む, という esprit courtois の woman worship の精神はワースの中に認められるのだが *Roman de Brut* の全詩行を眺める時, その数行の言及を以てワースの特徴は courtly sentiment であると言える程重要視できるものではないだろう[17]。

女性に対する愛情や優しさを描く点ではラーヤモンは控え目でこそあれワースに習って恋愛描写を行なっている。しかし, アングロノルマン文学と翻案する ME 文学の舞台へ複雑で魅力的な女性が賑やかに登場するのは今暫く時を待たなければならない。ラーヤモンがワースより more archaic であって less

sophisticated であったと言う時，それが OE poetry の伝統を強く受継いだ言語から受ける印象であるのは言う迄もないが，又一面それはラーヤモンの生真面目で冗談や駄洒落を言わぬ気質にも関係しているだろう。less sophisticated なラーヤモンの世界とは，即ち軽味のある，巫山戯た，賑やかなノルマン風のワースの気心を充分に写し取れなかったところにあると思われる。

注

1 Dorothy Everett, *Essays on Middle English Literature* (Oxford, 1955), pp. 35—37.
also see : R. S. Loomis, "Layamon's Brut, "*Arthurian Literature in the Middle Ages* (Oxford, 1961), pp. 110—111.
W. H. Schofield, *English Literature from the Norman Conquest to Chaucer,* reprint (New York, 1969), pp. 351—352.

2 Loomis, *Op, cit*. pp. 107—108.

3 *Selections from Layamon's Brut,* preface by C. S. Lewis, ed. by G. L. Brook (Oxford, 1963), P. viii

4 Schofield, p. 351.

5 Wace の作品の引用は *Le Roman de Brut de Wace,* ed. by Ivor Arnold (Paris, 1934) に拠り，Layamon の作品の引用は *Layamon's Brut*, ed. Sir Frederic Madden K. H. (London, 1847) に拠った。Wace よりの引用には W., Layamon よりは L. の略記号をしるし，引用文は各 lines を示した。

6 'curteis' は既に武勲詩 *Chanson de Roland* に見られる。'Oliver li proz e li curteis,' の如くに使われていた。しかし 'curteisie' という言葉が多く用いられるようになるのは12世紀頃といわれる。アーサー宮廷の礼節正しき有様を述べるこの言葉は Wace にはまだ3回しか出て来ない。

7 see : Wace *ll*., 10770—10772.
当時のアーサー宮廷の騎士達は三たび戦って腕をためし騎士として立派な資格を証明出来なければ女性の愛は得られなかった。このことは Wace も Layamon もしるしている。W. *ll*. 10511—10520, L. *ll*. 24661—24680. Wace が 'Ja peüst aveir druerie / Ne curteise dame a amie,' (*ll*. 10513—14) と必ずしも結婚を対象としない 'druerie' という語を使っているのに対し Layamon は腕をためした 'cniht' でなければ高貴な婦人は 'laverd' に選ばなかったし，'hif oht-scipen icudde' (*l*. 24671)，彼の勇敢さを明らかにした騎士だけが花嫁を求めることが出来たのだと言う。この場合 Wace も Layamon も女性の愛を獲得するための騎士の資格を問題にしている。Layamon は女性への礼譲を描かないわけではない。然し両者の間には微妙な違いが認められる。Wace の詩は amour courtois を思わせる。Layamon は Wace の詩行をうつし取ってはいるが騎士と婦人の関係を結婚を対象としたものに翻訳している。

8 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles,* Introduction by Gwyn Jones, trans. by Eugene Mason, (Everyman's Library, 1966) p. 43.

9 'Pris' Tobler-Lommatzsch, *Altfranzösisches Wörterbuch*, 参照。然しながら Mason の現代語自由訳から 'one of Love's lovers' という phrase をとってきて，それがあたかも Wace のアーサーのイメージであるかのように紹介している C. S. Lewis には承服できかねる。see : *Selections from Layamon's Brut*. ed. by G. L. Brook, *introduction* by C. S. Lewis, (Oxford, 1963), p. ix

10 Gwyn Jones, p. xii.

11 see : boast-uttering (W. *ll*. 9317—9336) (L. *ll*. 19980—19995, 20102—20119)
boast-performing (W. *ll*. 9337—9356) (*L. ll*. 20070—20081., 20120—20145)
hostage-hanging (W. *ll*. 9261—9262) (*L. ll*. 21101—21109)

12 L. *ll*. 22827—22846.

13 Loomis, p. 107. 裏切者の耳や鼻をそぎ落し，女達を宙吊りにする話は既に古く，「オデュッセイア」にも出ている (XXII)。

14 Everett, pp. 35—36.

15 アングロ・サクソン気質を変化させた Merry England 出現の背景は厨川文夫博士の「中世の英文学と英語」, 研究社, 1962, pp. 149—156に詳解されている。

16 アーサーの戴冠式を控えての, 準備にせわしく活気あふれる賑やかな描写もその一つの特徴と言えよう。

17 Wace は 'courtoisie' を学びつゝある社会に語りかけているのだと Gwyn Jones は言う。 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles,* p. viii. *Brut* の中で Wace の 'amorous sentiment' を過大視することは出来ない。see : Charles Foulon, "Wace" in *Arthurian Literature in the Middle Ages,* p. 101.
La Partie Arthurienne du Roman de Brut, ed. I. D. O. Arnold et M. M. Pelan (Paris, 1962) の Introduction には, 理想の王として Wace が描いた Arthur と Charlemagne のイメージとの類似が指摘されている。see : pp. 30—31.

4) *Les Dytees* attributed to Walter de Bibbesworth

——ビブズワスの *Les Dytees* 「詩」——

I. Text

British Library MS Addit. 46919

[92^{r}]

0 Cy comencent les dytees mou*n* syre Gauter de Bybeswurthe,
1 Amours m'ount si enchau*n*té Regardez, lysez, apernez.
Qe jeo ay tut dys deschauntee,
Tut q*u*antke jeo chau*n*toye
4 Qar touzjours deschauntoye
Pur ceo tieng mon chau*n*t a deschaunt.
Qaunt jeo enchau*n*tau*n*t
Chaunt chaunt, par qey j'enchau*n*t
8 La chau*n*te qe jeo chau*n*te.
Chaunçoun ou chau*n*çounette
Qe n'est chau*n*çoun nette,
Qar la mieuth chau*n*tau*n*te
12 Sy est deschau*n*tau*n*te.
Qaunt ele chau*n*te tel chau*n*z
Qe n'ad en sey ly douz chau*n*z,
Qar par lour chauns deschau*n*teez
16 Unt les genz sy enchau*n*teez,
Q'yl quydent estre chau*n*teours
Mes yl su*n*t tut deschau*n*teours,
Qar lour ames deschau*n*tent
20 Touz les chau*n*z q'yl chau*n*tent.
Ore par une suy sy enchau*n*té
De qy j'ay mes chau*n*s chauntee,
Qe ly plusours y vou*n*t chau*n*tau*n*t.
24 Mes ore dy en mon chau*n*t tau*n*t
Qe ja plus ne chau*n*teray
De Maryot mon chau*n*t trerray,
Qar de Marye voyl chau*n*ter
28 Pur le chau*n*tour enchaunter,
Qau*n*t sovent me enchau*n*toyt
Par Maryot qe chau*n*toyt.
Ha, dame Eve, mal chau*n*t chau*n*tas,

Qau*n*t Adam tau*n*t enchau*n*tas
Q'yl manga vos chau*n*çonz,
Qar tolu nous ount douz chau*n*çou*n*s
Par toun mal enchau*n*tement
Qy autrement chau*n*te yl ment.
Ne fust ly chau*n*t douz dou*n*t chau*n*ta
«Ave» qe Gabriel chaunta.

[92^v]

Jamés ne chaunteroyes
Nul chaunt qe chauntereies.
Adam e tu chaunterez
Tau*n*ke ly faufee enchaunterez,
Car Eva deschauntames
E par Eva countre chau*n*tames.
Qau*n*t nous «Ave» ben chauntoms
Touz maufeez enchau*n*toms,
E ja ne deschaunterons
Tau*n*t com «Ave» bien chaunteroms.
E ledement yl chaunte Eva
Qy Ave lest pur Eva.
En touz ses jours ad ve
Qy volu*n*ters ne dyt: «Ave».
La treduce Maria
Qe fiz e pere e Mary ad,
Qar qy est *plena gratia*
Ou k'ele seyt, graunt grace y ad,
Qar *Dominus* est ove ly
Q'en eubrew ad nou*n* Hely.
Qaunt vient a «*Benedictatu*
in mulieribz es tu»,
Del haut salu te esmayas
Donk dyt ly angle: «*Ne timeas*»,
*E aprés tau*nt te conforte
Qe respou*n*dis com forte:
«Auncele suy, veiez me cy,
Solom ton dyt *Fiat michi,*
A toun message bien m'accord»
E ensi comença nostre acord.
Par la duce «Ave Marie»
Le corps a la suye Marie.
Qe volu*n*ters ne chau*n*t: «Elyt

Ave» al mouster *et* al lyt,
E Maria qe chau*n*t emende,
Par ly fu fete l'amende.
A Deu de vos *grant* trespas
Vous savez touz qe jeo ne trespas.
Lesons donks les chaunçouns sales
Qe ceus faus chau*nten*t en sale,
Qar les chau*n*tau*n*s en salysent
Sovent eyns qe la sale yssent.
E chauntoms de la Pucele,
Qar unkes nule puyscele
Ne fu de sy noble afere
S'amour m'aprent de chau*n*t a ffere.
En novel compas de ryme
En la mer la ou jeo ryme,
E me fet chaunçou*n*s rymer
E en la mer myeuth rymer.
D'assez q'avau*n*t ne rymoye
Qaunt jeo de foles rymoye,
Dou*n*t les fous y vou*n*t rymau*n*t
Par quey yl serche*n*t rymau*n*t.
E en la mer ou yceus ryment
Qe touz jours saunz ryme ryment,
Pur ceo sageme*n*t rymez
Vous qy les beaus motz rymeez,
Qar si vos chau*n*çou*n*s rymees
Meynent en orde rymeez.
La lasse alme al rymour
Jeo le tiens a mal rymour.

[93r]

Hey, las! taunt longes rymay
Q'a poy qe jeo rymay.
En cele oscure ryme
Ou meynte alme ad mal ryme,
Pur ceo qe le mal rymeyent
Tau*n*t com en siecle rymeyent.
Jamés mes ne rymeray
Fors les chauntz q'arymeray,
De Madame a qy rymoyt
L'aungele q*au*nt de tel rymoyt
Vers Nazareth ou yl ryma.

L' «Ave Marie» ou tel ryme a
Qe q*aun*t nous bien la rymons
Tut dreyt ver le port rymou*n*s,
La ou ly bons seyntz rymeru*n*t
Pur ceo qe «Ave» rymeru*n*t,
Ou il touz jours rymeru*n*t
Loenges a qy rymerunt.
Gabriel, bone ryme as
E ta chaunçoun ben rymé as,
Qar qy la rymera,
En paradys rymera
Ou nous trestouz rymeroms,
Par «Ave» qe nous cryeroms.
Ore, vous ay, Dame, rymee.
Veyez si jeo ay bien rymé.

II. Les Dytees と写本 Addit. 46919

Walter de Bibbesworth と言えば13世紀後半，イングランドにおいて，さる豪族（anglophone landowner）の夫人[1]のために家事を司る際に必要なフランス語教本 *Le Tretiz* をあらわした作者としてまず知られている。

Bibbesworth はフランス語を教えようとするとき，前述のごとく *Tretiz* の中で特に同音異義語 homonyms に関心を寄せた。例えば，太陽からは光線 rais が迸り，海からは魚の鱏 raies がとれ，市にむかって縞模様の布地 rays の荷が行く，車輪の輻も rais という，などと，このように homonyms を並べてその違いを認識させようとするのである。しかし，これらの様相を明瞭に示そうとする試みはかえってアングロノルマンの特徴を際立たせることになるのでもあった。

Bibbesworth は *Tretiz* のほかに短かい詩も作った。*Les Dytees* と呼ばれており，それは現在 British Library の写本 Additional 46919 の中に残されている。*Tretyz* の書かれてある現存写本は断片も含めると16本を数えるが，*Dytees* は単独写本，すなわち Addit. 46919ff. 92^{r}-93^{r} にのみ書き残されているらしい。この詩はかつて *Romania* 13 に碩学 Paul Meyer が紹介しているものであるし[2]，また M. Dominica Legge : *Anglo-Norman Literature and its Back-ground,* における Bibbesworth の作品解説にも *Tretiz* のほかに *Débat* とこの *Dytees* が記載されてある。しかし，筆者の知るかぎりにおいて，いまだこの全文は翻刻されていない現状であるから，ここに *Dytees* を翻字し，また Bibbesworth の意図を明らかにするために多少の説明を加えることとした。Legge は自著の中でこの詩について 'an exercise in grammatical rhymes'[3] と紹介している。*Dytees* の技法に関しては Meyer が 'La première chanson, qui est une pièce en l'honneur de la Vierge, prouve que la goût des vers équivoqués avait pénétré en Angleterre.' と記した[4]。Vers équivoqués は同音異義の脚韻であるが曖昧な韻を作る一種のしゃれ，修辞の遊びであろうか。例えば，この *Dytees* において，巧みにラテン語とフランス語を合わせて脚韻を作っているところ，Qar qy est plena *gratia*/Ou k'ele seyt, graunt *grace y ad* vv. 55-56［イタリック筆者］などはその典型的な例であろう。写本には見られる如く詩行の2行を1行に纏めて，あたかも中間韻を踏んでいるように綴られている。アングロノルマンの詩行については alexandrin とか hémistiche とか octosyllabe とか判然と認められない。英語の stress accent の影響を多分に受けて

heptasyllabe が octosyllabe と混ざり合う詩行もアングロノルマンの一つの特徴である[5]。Bibbesworth はこの小品において，もっぱら動詞の種々の活用形を押韻に用い，また様々な品詞を使用して文法の理解を勧めようとつとめたらしい。彼が *Tretiz* の中で深い関心を寄せている homonyms も使われているし，上述の vers équivoqués もちりばめてある。

'Amours m'ount si enchauntẽ' で始まる詩が記されているこの写本 Addit. 46919 は William Herbert (d. 1333?) collection[6] と言われる写本（前述）である（Vellum ; ff ii+211 230 mm×160 mm. British Library では select manuscript 扱い）。*Pastoralia* と称し得る写本[7] ということだが説教や教訓詩，マリア，キリスト讃美の抒情詩に加えてかなり多くの世俗的な詩が含まれている。アングロノルマン語の作品が数多く収録されていることは Bibbesworth の *Tretyz* を転写した際に紹介した。狩猟についての最も早い時期の教本も収められてある，それはエドワードII世の宮廷に仕えていた英国人 Guillaume Twiti の作ということだ。

III. Les Dytees の特徴

この短詩は P. Meyer が Gautier de Biblesworth による聖母マリアの讃歌と紹介しているのであるが，その構成は三部分に分かれている。まず，(1-48行) 名詞 chaunt と動詞 chaunter をとりあげ，動詞は様々な活用形が示される。マリアと対照的なエヴァの姿も現れる。ついで (49-84行) 恩寵深きマリアを称える歌である。最後 (85-126行) は動詞 rymer を使って同音異義語また，多義をも示す。

第一部　1-48行

chanter に接頭辞 en-, des- を加え，それぞれ意味の異なることを示している。en- を附した1行目の enchauntẽ は「愛に心を奪われて」魅了されたという意味であるが，この言葉と押韻する deschauntee は「対旋律を歌っていた」，即ち愛の旋律にたいして随唱していた，ということになろうか。しかし，何を歌っても単旋律を歌い deschauntoye 4 私の唄は調子外れの歌 deschaunt 5 である。エヴァはアダムを魅惑する悪い唄を歌った。我々から美しい歌をとり上げてしまった。chaunt や，chaunter という綴りは AN の特徴ある綴りである。同様に［o］+鼻子音［n］が oun と綴られている。

この第一部において特徴のある押韻を以下に示しておく：

A. participe passé (m)/participe passé (f)
　　1-2, 21-22

B. ① substantif/indicatif prés. (3)
　　35-36
　② substantif/participe prés.
　　5-6
　③ substantif/adjectif
　　9-10

C. gérondif/adverbe
　　23-24

D. -onz/-ounz 33-34, -ons/-oms 47-48
　-oyes/-eies 39-40

語尾にはこのような綴りも散見する。

E. chaunçounette/chaunçoun nett 9-10
　chauntaunt/chaunt taunt 23-23

chaunteray/chaunt trerray 25-26

Eの脚韻は Meyer が言及した vers équivoqués と言えるだろう。Bibbesworth が最後に 'Veyez si jeo ay bien rymé' と言っているのはこのような技法も指してのことであろうか。

第二部　49-84行

恵み深きマリアを讃美する主題が展開する。

押韻の特徴としては第一部と同様にまず，同一品詞の語が互いに押韻しない場合が顕著である。加えてフランス語がラテン語 [L] と押韻している詩行やヘブライ語 [H] と押韻している詩行も認められる。

A. ① préterite (2)/subjonctif prés. (2) [L]
61-62
② indicatif prés. (3)/adjectif (f)
63-64

B. ① substantif/indicatif prés (1)
75-76
② substantif/indicatif prés. (3)
53-54
③ indicatif prés. (3)/substantif
67-68, 73-74
④ substantif (ablatif) [L]/indicatif prés. (3)
55-56
⑤ substantif/infinitif
83-84
⑥ substantif [H]/substantif
71-72
⑦ pronom/substantif [H]
57-58
⑧ substantif/interjection [L]
51-52
⑨ adjectif (pl)/substantif (sg)
77-78

C. ① adverbe/pronom [L] (datif)
65-66
② participe passé [L]/pronom (2) [L]
59-60

E. ad ve/Ave 51-52
Maria/Mary ad 53-54
gratia/grace y ad 55-56
conforte/com forte 63-64
me cy/michi 65-66
Ely/al lyt 71-72

第三部　85-126行

rymer という動詞を使って同音異義，多義を示す。また，法，時制，人称などを種々違えて押韻に用い，文法的な理解を奨めているようである。rimer には「詩(ウタ)を作る，歌う，韻を踏む」という意味，「漕ぐ，航行する，世を渡る」という意味がある。ちなみに，「漕ぐ」，「航行する」という動詞 rymer は86, 88, 93, 94, 106, 111, 114行において使われており，「うたを作る，歌う」という意味では87, 90, 91, 96, 97, 101, 102, 105, 107, 110, 113, 115, 116, 117, 118, 122, 123, 125行であろうし，「押韻する」という場合は89, 92, 95, 98, 108, 109, 120, 121, 126行である。そのほか名詞では「櫂」85, 94,「歌」112, 119「歌人」99, 100,「氷霧」103行がある。また，彼等は常に海で出鱈目に漕ぐ，という個所，93-94は手法を知らずして詩を作るという意も含んでいるだろう。

第一部，第二部と同様に Bibbesworth の押韻の特徴をとりあげておく：

A. ① indicatif prés (pred.) (2)/indicatif prés. (aux.) (2)
119-120

② indicatif prétérit (3)/indicatif prés. (3)
111-112

③ participe passé (f)/participe passé (m)
125-126

B. ① substantif/indicatif prés. (1)
85-86

② gérondif/substantif (p. prés.)
91-92

D. -ez/-eez 95-96, -ees/eez 97-98
-ons/ouns 113-114, -oms/-oms 123-124

E. ryms/ryme a 111-112

Ⅳ. 品詞別押韻

名詞：名詞

11-12 chauntaunte (p. prés.)/deschauntaunte (p. prés)
13-14 chaunz/chaunz
17-18 chaunteours/deschaunteours
33-34 chaunçonz/chaunçouns
49-50 Eva/Eva
69-70 Marie/Marie
71-72 Elyt/lyt
81-82 pucele/puyscele
99-100 rymour/rymour
103-104 ryme/ryme

代名詞：名詞

57-58 ly/Hely

名詞：動詞

5-6 deschaunt/enchauntaunt
35-36 enchauntement/ment
53-54 Maria/ad
55-56 gratia [L]/ad
75-76 trespas/trespas
83-84 afere/a ffere
85-86 ryme/ryme

動詞：名詞

67-68 acord/acord
73-74 emende/amende

91-92 rymaunt/rymaunt (p. prés.)

名詞：感嘆詞

51-52 ve/Ave

名詞：形容詞

9-10 chauncounette/nette

形容詞：名詞

77-78 sales/sale

動詞：形容詞

63-64 conforte/forte

動詞：副詞

23-24 chauntaunt/taunt

動詞：代名詞

59-60 benedictatu [L]/tu [L]

副詞：代名詞

65-66 cy/michi [L]

動詞：動詞

1-2 enchauntẽ/deschauntee
3-4 chauntoye/deschauntoye
7-8 enchaunte/chaunte
15-16 deschaunteez/enchaunteez
19-20 deschauntent/chauntent
21-22 enchauntẽ/chauntee
25-26 chaunteray/trerray
27-28 chaunter/enchaunter
29-30 enchauntoyt/chauntoyt
31-32 chauntas/enchauntas
37-38 chaunta/chaunta
39-40 chaunteroyes/chauntereies
41-42 chaunterez/enchaunterez
43-44 deschauntames/chauntames
45-46 chauntoms/enchauntoms
47-48 deschaunterons/chaunteroms
61-62 esmayas/timeas [L]
79-80 salysent/yssent
87-88 rymer/rymer
89-90 rymoye/rymoye
93-94 ryment/ryment
95-96 rymez/rymeez
97-98 rymees/rymeez
101-102 rymay/rymay
105-106 rymeyent/rymeyent
107-108 rymeray/arymeray
109-110 rymoyt/rymoyt
111-112 ryma/a
113-114 rymons/rymouns
115-116 rymerunt/rymerunt
117-118 rymerunt/rymerunt
119-120 as/as
121-122 rymera/rymera
123-124 rymeroms/cryeroms
125-126 rymee/rymẽ

V. Anglonormanism

1) a＋鼻子音 n＞aun

aungele 110　avaunt 89　chaunçoun 9, 10, 120　chaunçcounette 9
chaunçouns 34, 77, 87, 97,　chaunçounz 33　chauns 15, 22
chaunt 5, 7, 24, 26, 31, 37, 40, 73, 84　chauntauns 79　chauntaunte 11
chaunte 8　chaunteours 17　chauntour 28　chauntz 108

chaunz 13, 14, 20　deschaunt 5　deschauntaunte 12
deschaunteours 18　enchauntement 35　grunt 56
qaunt 6, 13, 29, 32, 45, 59, 90　rymaunt 92　saunz 94　taunke 42
taunt 24, 32, 48, 63, 101, 106

[verb]

chaunt 71　chaunta 37, 38　chauntames 44,　chauntas 31
chaunte 8, 13, 36, 49　chauntee 22　chauntent 20, 78　chaunter 27
chaunteray 25　chauntereis 40　chaunterez 41　chaunteroms 48
chaunteroyes 39　chauntoms 45, 81　chauntoye 3　chauntoyt 30
deschauntames 43　deschauntee 2　deschaunteez 15
deschauntent 19　deschaunterons 47　deschauntoye 4
enchauntas 32　enchauntaunt 6　enchaunte 7　enchauntė 1, 21
enchaunteez 16　enchaunter 28　enchaunterez 42
enchauntoms 46　enchauntoyt 29　rymaunt 91

2）o＋鼻子音 n＞oun

chaunçoun 9, 10, 120　chaunçounette 9　chaunçouns 34, 77, 87, 97,
countre 44　dont 37, 91　moun 0　noun 58　toun 35, 67

[verb]

ount 1, 34　respoundis 64　rymouns 114

3）ai → e

afere 83　ensi 68　ledement 49

[verb]

ffere 84　fet 87　fete 74

4）e → ee の使用

dytees 0　faufee 42　maufeez 46

[verb]

chauntee 22　deschauntee 2　deschaunteez 15　rymee 125
rymees 97　rymeez 96, 98

5）ie → e

ben 45, 120　dytees 0

6）ier → er

mouster 72　volunters 52, 71

7）o → u

tut 2, 3, 18, 114

8）on → om

[verb]

chaunteroms 48　chauntoms 45
cryeroms 124　enchauntoms 46
rymeroms 123

9）on → un

unkes 82

10) eur → our

lour 15, 19　plusours 23　rymour 99, 100

11) oi → ey

dreyt 114　quey 92　sey 14　seyt 56

[verb]

veyez 126

12) ou → u

treduce 53

13) c → sc

puyscele 82

14) ç → s

lesons 77

15) qu → q

qar 4, 11, 15, 19, 27, 34, 55, 57, 79, 82, 97, 121,　qe 2, 8, 10, 14, 23, 25, 30, 38, 40, 54, 64, 71, 73, 76, 78, 80, 94, 102, 105, 113, 116, 124

qey 7　qy 22, 36, 50, 52, 55, 96, 109, 118, 121

16) re → er (métathèse)

[verb]

apernez 0

17) z → th

mieuth 11　myeuth 88

18) k

donk 62　donkes 77　quantke 3　unkes 82

19) y の使用

dreyt 114　dys 2　dyt 66　dytees 0　ly 14, 23, 37, 42, 57, 62, 74　lyt 72　meynte 104　meynent 98　myeuth 88　paradys 122　poy 102　puyscele 82　qey 7　quey 92　qy 22, 36, 50, 52, 55, 96, 109, 118, 121　rymaunt 92　ryme 85, 94, 103, 104, 112, 119　rymour 99, 100　sey 14　seyntz 115　seyt 56　sy 12, 21, 83　syre 0　yl 18, 20, 33, 36, 49, 111

[verb]

arymeray 108　ay 2, 22, 125, 126　chaunterey 25　chaunteroges 39　chauntoye 3　chauntoyt 30　cryeroms 124　deschauntoye 4　dy 24　dyt 62　enchauntoyt 29　esmayas 61　lysez 0　quydent 17　ryma 111　rymaunt 91　rymay 101, 102　ryme 86　rymé 120, 126　rymee 125　rymees 97　rymeez 96, 98　ryment 93, 94　rymer 87, 88　rymera 121, 122　rymeray 107　rymeroms 123　rymerunt 115, 116, 117, 118　rymeyent 105, 106　remez 95　rymons 113　rymouns 114　rymoye 89, 90　rymoyt 109, 110　suy 21, 65　suye 70　trerray 26　veyez 126　voyl 27

20) 古形

ove (—apud) 57

注

1) Dame Denise de Monchensy は Waterbeech に女子修道院を建立した女性であったろうとは Paul Meyer の説 (d. 1304)、see : *Romania* 13 p. 501. A. C. Baugh (1959) の調査によるとこの *Traité* は1240から1250年の間に書かれたもので，献呈された夫人は Warin of Munchensy の second wife, Dionysia of Ansty であるという。いずれもいまだ確証がない。

see : Baugh, A. C. 'The Date of Walter of Bibbesworth's *Traité', Festschrift für Walther Fischer*, Heidelberg, 1955 pp. 21-33

Beebe, B. 'The English Baronage and the Crusade of 1270', *Bulletin of the Institute of Historical Ressarch*, vol. XLVIIINo. 118, pp. 127-148

Walter de Bibbesworth (現写本では Gauter de Bybeswurthe と綴る) は knight であり，crusader であり且つ grammarian であった。see : M. Dominica Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background*, Oxford, 1963 p. 283

2) *Paul Meyer, 'Notice et extraits du MS 8336 de la Bibliothèque de Sir Thomas Phillips' Romania* 13, 1884 pp. 531-532 (写本紹介 pp. 497-541)

3) D. Legge, p. 348

4) P. Meyer, p. 531

5) R. C. Johnston, 'On Scanning Anglo-Norman Verse' *Anglo-Norman Studies* 5, 1983 pp. 153-164

6) William Herbert Collection の写本は後に著名な蔵書家 Sir Thomas Phillipps のコレクションに入り Phillipps MS 8336 と記された。Phillips MS 8336 は現在の Brithish Library MS Addit. 46919 である。

7) David L. Jeffrey and Brian J. Levy eds. & trans. *The Anglo-Norman Lyric : An Anthology*, Pontifical Institute of Mediaeval Studies, Toronto, 1990, see : pp. 3-5

＊ 92 recto より始まるビブズワスの『詩(うた)』の前には聖母マリア讃歌 (91^{v}- 92^{r}) が書かれてあり 'Trop pres de la male marche' と終っている。93^{r}からは Bozon の'De bone femme la bounte'が続く (93^{r}-95^{v})。

Les Dytees

British Library MS Addit. 46919

ff. 92r-93r

Ꝑ grant orgoyl se maryad. } bon est qaylours no maryom.
E puys ken enfer vn maryad.
Qar en luy aue marya. } fet maryage a maryon.
La dist chascun qe marya.
Chescun pleynt son mal marthe } de puys qen enfer marthe.
Dysaunt qyl ad mes marthe.
Mal martha ver le marthee } trop pres de la male marthe.
Ou yl ad souent marthee.

Cy comencent les dytees mon syre Gauter de bybesskurthe
regardez lysez apernez.

Amours mount si enchaunte. qe ieo ay tut dys deschauntee.
Tut quantke ieo chauntoye, qar touz iours deschauntoye.
Pur ceo tieng mon chaunt a deschaunt, qaunt ieo enchauntaunt.
Chaunt, chaunt: par qey ienchaunte la chaunte qe ieo chaunte.
Chauncoun ou chauncounette: qe nest chauncoun nette.
Qar la mieuth chauntaunte: sy est deschauntaunte.
Qaunt ele chaunte tel chaunz. qe nad en sey ly douz chaunz.
Qar par lour chauns deschauntee. vnt les genz sy enchauntee.
Qyl quydent estre chauntoours: mes yl sunt tut deschauntoours.
Qar lour ames deschauntent: touz les chaunz qyl chauntent.
Ore par vne suy sy enchaunte. de qy iay mes chaunz chauntee.
Qe ly plusours yuount chauntaunt. mes ore dy en mon chaunt taunt.
Qe ia plus ne chauntery. de maryot mon chaunt trerray
Qar de marye voyl chaunter. pur le chauntour enchaunter.
Qaunt souent me enchauntoyt. par maryot qe chauntoyt.
Ha dame eue mal chaunt chauntas. qaunt adam taunt enchauntas.
Qyl manga vos chauncouz, qar tolu nous ount douz chauncouns.
Par toun mal enchauntement. qy autrement chaunte: yl ment.
Ne fust ly chaunt douz dount chaunta. aue qe gabriel chaunta.

92v

James ne chaunteroyes / mil chaunt qe chaunter eies.
Adam e tu chaunterez / taunke ly faufee enchaunterez.
Car eua deschauntames / e par eua countrechauntames.
qaunt nous aue ben chauntoins: tout maufeez enchauntoins.
E ia ne deschaunterons / taunt com aue bien chaunteroins.
E ledement ylchaunte eua / qy aue lest pur eua.
En tout ses iours ad ve. / qy volunters ne dyt aue.
La treduce maria. qe fit e pere e mary ad.
qar qy est plena gra / ou kele seyt graunt grace y ad.
qar dns est oue ly / qen enbresst ad nou hely.
qaunt vient a bndcta tu. In mlribz estu.
Vel haut salu te esmayas / donk dyt ly angle. ne timeas.
E apres taunt te conforte / qe respondis comforte.
Auncele suy veiez me cy. solom ton dyt fiat michi.
A toun message ben macord / e ensi comenca nostre acord.
Par la duce aue marie / le corps a la suye marie.
qe volunters ne chaunt elyt. Aue al mouster et al lyt.
E maria qe chaunt emende / par ly fu fete lamende.
A deu de vos grant trespas. vous sauez tout qe ieo ne trespas.
Lesons donks les chauntoins sales / qe ceus faus chauntent en sales
qar les chauntaunts ensalysent: souent eyns qe la sale yssent.
E chauntoins de la pucele / qar vnkes mile puys cele.
Ne fu de sy noble afere / samour maprent de chaunt affere.
En nouel compas de ryme / en la mer la ou ieo ryme.
E me fet chauntoins rymer / e en la mer myeuth rymer.
Vasset qauaunt ne rymoye / qaunt ieo de foles rymoye.
Vount les fous yvount rymaunt / par quey yl serchent rymaunt.
E en la mer ou yceus ryment / qe tout iours saunt ryme ryment.
Pur ceo sagement rymez / vous qy les beaus mots rymeez.
qar si vos chauntoins rymees / meynent en orde rymeez.
La lasse alme al rymour. Ieo le tiens a mal rymour.

Hey las tant longes rymay / qa poy qe ieo rymay
En cele oscure ryme / ou meynte alme ad mal ryme.
Pur ceo qe le mal rymeyent / tant com en siecle rymeyent.
Iames mes ne rymeray / fors les chauntz qa rymer ay.
De ma dame a qy rymoyt. Iaungele quant de cel rymoyt.
Vers nazareth ou yl ryma / Iane marie ou tel ryme a
qe quant nous bien la rymons: tut dreyt ver le port rymons.
La ou ly bons seyntz rymerunt / pur ceo qe aue rymerunt.
Ou il touz iours rymerunt / loenges a qy rymer vnt.
Gabriel bone ryme as / e ta chauncoun ben ryme as.
Car qy la rymera: en paradys rymera.
Ou nous trestouz rymeroms / par aue qe nous cryeroms.
Ore vous ay dame rymee / veyez si ieo ay bien ryme.

De bone fēme la bounte
Vorroy byen qe fust counte } Si ee puysse.
Ieo fuse a blamer pur verite
Si ieo celasse lour bounte. } ⁊ me teusse.
Pur vn char qay charpente
Ou tut le mounde i est entre. } haut ⁊ bas.
Vne feme fu coroucee
⁊ si nouist il fors verite. } ⁊ beau solas.
Vnkes nentendy reuyler.
Fāme qe deusse tant amer. } a bon droyt.
Bone fāme doit hom pryser
⁊ pur autre doit hon prier } qe meuth ly soyt
Bone fāme est souent blamee
Pur la fole qest enfamee. } de folye.

5) *Le Jeu d'Adam*

An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century

——アングロノルマン「アダム劇」——

—序—

「アダム劇」は現存する唯一の写本 MS Tours 927 によって伝えられてきたフランス語による最も古い宗教劇の一つである。その本文は12世紀半ばに成立したと推定される。

フランス，イギリスにおいて宗教劇の萌芽は凡そ10世紀ごろ教会の内部から発生した。教会の聖務日課の祭式や祝祭日の礼拝式は元来劇的側面を具えていたのである。聖職者たちは，これら典礼の重要なものをわかり易くして民衆を信心に導こうという目的のために短い劇にしくみ，彫琢を加えた。祝日，主日のミサ式文のところどころで歌われるラテン語の交誦，進句 trope には衣裳や小道具を使用した説明の場面がつけ加えられた。

この試みは教会堂内で聖職者が演ずる典礼劇へと発展するのである。古い記録ではウインチェスター司教，Æthelwold の制定した *Concordia Regularis*「修道士規則」965-75の中に，劇的な復活祭朝課の一場面の演出が書き残されているという[1]。

やがて典礼劇は聖堂から外へ出て，教会の正面入口を背景に前庭 parvis の広場で上演されるようになり，劇の言葉も俗語がラテン語にとって代った。拡大してゆく内容に個人的創作がつけ加わり，工夫が凝らされてくると劇は次第に聖務から離れて独立し，変貌してゆく。

「アダム劇」[2]はちょうど教会内の典礼劇が教会を離れ民衆のものとなり，宗教劇 Mystery Play として発展してゆく初期の第一歩を示していて，準典礼劇の傑作である。準典礼劇と見做すべき所以は，三つの主題即ち，アダムとエヴァ，カインとアベル，予言者たちの証言（あかし），という場面を持つこの劇の枠を一応形づくっているのが七旬節主日 Septuagesima の典礼，ラテン語による交誦と，降臨節の際の同じくラテン語による応答であるからだ[3]。礼拝式用の型どおりの liturgic なラテン語が朗誦されるとその意味を説明し，解釈を行う俗語，フランス語（AN）による劇が展開する。このドラマツルギーは，しかし，作品が全く初期のものであるに拘わらず見事に統一がとれており，活気に溢れ，観衆の心に訴えかける魅力ある主役たちを舞台に登場させるのである。上演に必要な ト書がラテン語で書きつけられてある所から察して役者は一部の者を除き修道僧，あるいは修道院附属学校の学僧，生徒であったと考えられている。悪役のサタン及びその手下共という配役は僧侶にとっては喜ばしくない配役なので旅回りの芸人，吟遊詩人等がその役を貰い活躍したであろうという楽しい推測もできる[4]。

現存する写本は13世紀後半のものでこれを筆写した写字生は南仏の人間であっただろう[5]。然し随所に AN の特徴が見られ，アングロノルマン韻律の特徴が顕著である。古英語の「創世記」*Genesis* B[6] に見られるアダム誘惑の描写と「アダム劇」におけるその場面の類似性が認められることなどによってこの劇が英国に於て成立した可能性も考慮し得るし，また，ノルマンディに於て成立したという見解も多い[7]。いずれで成立したにせよ，現在一致を見ている諸学者の見解は，まず劇の原典がアングロノルマン語で書かれてあったということ，それはジョン王又はヘンリー３世の治世に Aquitaine 周辺へ極めて容易に伝達されたであろうということ，そしてその写しが Tours の単一写本となって残ったであろうということである。写本は229葉から成り，Wace の *Vie de la Vierge Marie* や *La Vie de sainte Marguerite*

も含まれており，「アダム劇」は写本の 20 recto—40 recto に書かれてある。そのうちアダムとエヴァの物語は $20^{r.}$ より $31^{v.}$ までである。

作者は僧職であったのか，教会の教えである十分の一教区税について，収護の初物を神に捧げる習わしについて言及する[8]。作者はしかし，僧であると同時に劇作家であった。彼は当時の観衆が大いに関心を持ったであろう話題，人びとの生活に浸透した事柄を巧みに把えて，人類の歴史の始まりという厳粛で厖大な背景の中に何の苦もなく移し入れる。E. アウエルバッハの言うリアリズムである[9]。更に彼は登場人物の心理描写に優れた手腕を示し，彼等の性格づくりに非凡な冴をみせているので，この素朴な劇の登場人物はまるで親しみの持てる隣人のように見る者に迫り，語りかけてくる。octosyllabic と decasyllabic をもって流れる詩のリズムに変化をつける対話は，微妙な心理の綾を短い応酬に凝縮させる絶妙な扱いであって，その短い対話と対照的なアダムとエヴァの愁嘆場の長台詞と共に聴く者を舞台に惹きつけたことであろう。翻訳はアダムとエヴァの楽園喪失の物語に限った。Aebischer 版を底本として随時写本を参照している。原文ラテン語の部分は［ ］を付して示した。

—訳—

アダム劇の演出手順

［一段と高い所に天国の楽園がしつらえられる。天国の中にいる人物は肩から上だけが見えるよう，その高さに楽園の回りをカーテンと絹の布がとり囲む。香りの良い花々や木の葉が散りばめられる。その場所が大層楽しい所と見えるように果実をつけた種々の樹を置く。やがてダルマチカを身に着けた救世主が現われる。アダムとエヴァは彼の面前に立つ。アダムは赤チュニック上衣を着け，エヴァはまことに女らしい白い服，白い絹の上服を着けており，二人は神に向かって立つ。アダムは然し神に近く落着いた顔付きで立ち，エヴァは少し顔を俯けている。アダムが答えねばならぬ時は速すぎも遅すぎもせず答えられるように充分弁えねばならね。彼自身だけでなく全ての人達が落着いて話すように，又話題にしている事柄につき当事者にふさわしい身振りをするように教えられていること。リズムを以て話すときは音節を加えたり省略したりせずに全ての音節を正確に発音し，言うべき事は次々と順に言う。科白を言うものが誰であれ天国を名指す時は，天国の方をみてそれを手で指し示す。

さて朗誦が始まる：

(朗誦)　最初に神は天と地を創られた

それが終るとコーラスが歌う：応誦

　　主はかくして造り給うた

歌が終り，神（FIGURA，形姿（ファイグラ）と呼ばれる）が口を開く］：

アダム（Adam）よ！　アダム答えて：主よ！

F．大地の土から私はお前を創った。

A．よく存じております。

F．お前は私の似姿にした。私の姿を写して土から造ったのだ。以降決して私に背いてはならぬ。

A．背きはいたしません。貴方様を信じ，私の創り主に服従します。

F．私はお前によい仲間を与えた。(10)それはエヴァというお前の妻である。妻でありお前と同じものだ。彼女には誠実でなければならない。お前は妻を愛し，妻はお前を愛する，そうすればお前達二人は私の寵愛を受ける。彼女はお前に従い，そして二人は私の思いの儘になるように。汝の脇骨から彼女を造った。お前から生まれたのだから他人ではない。まさしくお前の身体から作り（20）女はお前から出てきた，他からではない。理性によって彼女を支えよ。お前達の間にいさかいがなく，大いな

る愛と豊かな理解があるように。それが結婚の掟である。

[神はエヴァ（Eva）に向かって]：

エヴァよ，さてお前に話そう。言う事をよく聞き，よく覚えておくのだ。私の言う通りにすればお前の心に優しさが宿るであろう。汝の創り主なる私を敬い，(30) 私を主（あるじ）と認めなさい。汝の考え，力，知恵の全てをもって私に仕えることだ。アダムを愛し，いとしみなさい。彼は夫でお前はその妻である。彼には常に従い，彼の言い付けからは，はずれぬように。優しい心で彼に仕え，愛するのだ，それが結婚のつとめであるから。汝がアダムの良き伴侶となるならば (40) 私は汝をアダムと共に栄えしめよう。

E．主よ，私はそのように致します。貴方様のお気に入りますように，何事も背きは致しません。貴方様を主と認め，アダムを私と同じもの，そして又，より力強きものと認めましょう。アダムには常に忠実であって，良い相談相手となりましょう。あらゆることについてお気に召しますように，主よ，お仕えいたします。

[そこで神はアダムを近くへ呼び寄せ，ねんごろに言う]：

アダム，私の言うことを良く聞くのだ。(50)汝を造ったからにはふさわしいものを汝に与える。私の掟を守ればお前は永遠に生き，病に苦しむことなく，健やかに過ごす。飢えることもなく，渇きのために飲まねばならぬこともない。寒さもなく，暑さも知らぬ。お前は喜びの中にあり，疲れを知らず，楽しみの中にあり，決して悲しみを知らぬ。お前の生命は常に喜びに浴し，とこしえであり，生命に限りはない。私はそのことを汝に告げる，エヴァにもそれを聞かせたい。(60)エヴァが分からねば自ら愚かものということだ。汝は大地の全ての支配権を持つ，鳥類，獣類，其の他諸々の富の。羨む者は無益である，何となれば全世界は汝に従うのだから。汝に善きもの悪しきものをわきまえさせる，そのような才覚を持つ者は自由を享受するのだ。全てを公平に秤にかけよ。私の忠告を信じ，私に忠実であって欲しい。悪を捨てて善に従え。(70)汝の主を愛し，主と共にあれ。たとえどの様な助言を受けても私の忠告をおろそかにするな。若しお前がそれを守れば決して罪を犯しはしない。

A．貴方様のお恵（めぐみ）に深く感謝します。貴方様は私を創られ，善と悪とを私の権限の中におくという恩恵を授けて下された。私は喜んで貴方に奉仕します。貴方様は私の主であり，私は主に造られしもの。貴方は造り賜い，私は主の被造物です。心を尽してお仕えせぬような (80) よこしまな心には決してなりません。

[そこで神は片手で天国の楽園をアダムに示し，次のように言う]：

F．アダムよ。

A．主よ。

F．私の考えを聞かせよう。さあ，この園を見よ。

A．何という所ですか。

F．天国だ。

A．ほんとうに大変美しい。

F．私は天国を其処に置いた。其処にとどまる者は私の友である。お前は楽園にとどまり，それを守るように。

[彼等を楽園に送り，言う]：

この中にお前たちを住まわせよう。

A．我々は此処に長く住めるのですか。

F．間違いなく永遠に生きるのだ。決して死ぬことなく，病にも罹らぬ。

[コーラスが歌う：応誦

そこで神は人を連れて行かれた
それから神は片手を天国に向けて上げ，言う]：
この園の自然のさまを教えよう。(90)此処では如何なる楽しみも欠けることがないのだ。この世で凡て被造物が欲しがる善きものはそれぞれ此のところで望み通りに与えられる。此の園では女は男の怒りを知らず，男は女にたいして恥も恐怖も覚えさせぬ。男は罪なくして子供をつくり，女は苦しまずして子供を産む。汝は永遠の生命を得，幸福に生きる。お前は決して年をとらぬ。死を恐れることはない，それは汝に危害を加えぬ。(100) 汝は楽園から外へ出ずに，此処で暮らすのだ。
[コーラスが歌う：応誦
主はアダムに語られた
そこで神はアダムに楽園の木を示して言う]：
お前は気儘にこの果実の全てを食してよい。
[それから禁じられた樹とその実を示して言う]：
お前にこれは禁じる。どんな楽しみもこれから得てはいけない。若しこの木の実を味わうならば，直ちに死を感じ，私の愛を失う。お前の境遇も悪しきさまに変わるのだ。
A．私は貴方様の掟を全て守ります。私もエヴァも決して掟を背くことはありません。たった一個の果実でこのような領地が失くなるのでしたら，私が外へ風の中へ投げ捨てられるのは当然です。リンゴ一つのために私が貴方様の愛を捨てるのならば，(110) 正気であれ狂気であれ，私は反逆者に対する法により裁かれるべきです。誓いを破り自分のあるじを裏切るんですから。
[そこで神は教会の方へ行き，アダムとエヴァは誠実な心をもって喜びながら天国を逍遥する。その間悪魔たちは舞台の方へ集まってきて様子を窺う悪魔らしい身振りをする。彼等はやがて楽園へ近付き，禁じられた木の実をエヴァに指し示し，食べるようにと何やら誘っている。
それから悪魔 (DIABOLUS) はアダムに近寄り，そして言う]：
何をしているのかね，アダム？
A．とても楽しく此処で過ごしています。
D．うまくやっているのかい。
A．苦しみなど何もありません。
D．もっと良くなれるのだがな。
A．どの様にしてなれるのか分かりませんが。
D．知りたいかね。
A．私がもっと上手くやれるんですって！
D．どんな工合にするのか知っているぞ。
A．何の必要がありましょう。
D．必要でないことはなかろう。
A．役に立ちません。
D．いや，役に立つ。
A．どれ程だか分かりません。
D．(120) 性急にお前に言うことはできぬが。
A．まあ，言って下さい。
D．言わぬぞ。お前さんが頼み疲れるのを見るまでは。
A．私は知らなくとも良いですよ。
D．つまりだな，お前さんはもうそれ以上の善いものを持つ必要はないのだ，お前は最も善いものを持

っているのにそれを楽しむすべを知らんのだね。
A．どうしてですか。
D．聞きたいか，こっそりと教えてやろう。
A．是非そう願いたいです。
D．アダム，まあお聞き，しっかりと聞くのだぞ。(130) お前の得になることだ。
A．それでは聞きます。
D．私を信じるかね。
A．ええ，しっかりと。
D．まったく全てだぞ。
A．一つだけは別ですが。
D．どんな事だ。
A．言いましょう，私は創り主には背きませんよ。
D．そんなに畏れているのか。
F．ええ，確かに。私はあのお方を愛し，そしてまた，恐れています。
D．お前は分かっちゃいないね，自分に何ができるのか。
A．善いことも悪いこともできます。
D．悪いことが起るなどと思った日が禍いだ。(140) お前さんは栄光に包まれており死にはしないのだろう。
A．神は私に言われました。掟をふみはずした時は死ぬのだと。
D．その大それた違反とはどんなものか，今すぐに聞きたいね。
A．ええ，すぐに言いますよ。神は私に命じられました。楽園にあるあらゆる木の実を食べても良いと，但したった一つだけはいけないと，そう教えて下さいました。その木は禁じられていますから (150) 手を触れぬようにしています。
D．それは一体どの木だ？
[その時アダムは手を差し伸べ，悪魔に禁断の木の実を示して言う]：
A．あの木が見えますか，まさしく神が禁じ給うた木です。
D．何故なのか知っているのかい。
A．勿論知りません。
D．その理由を教えてやろう。他の果物は彼にとって何も重要ではない。
[片手で禁じられた果実を示し，そしてアダムに言う]：
あの高い所にぶら下っている果実の他はだ。あれは知恵の木の実だ。全ての知識についての知恵を与える。あれを食べればお前は善いことをするのだよ。
A．(160) 私がどんなことを。
D．いずれ分かろう。お前の眼は直ちに開け，あるべき事柄は全てお前に明らかとなる。お前のやりたい事は全てできる。木の実を引張って摘みとればお前さんは良いことをするのだよ。お食べ，ためになるから。何も神を怖れなくなるよ。食べてしまえば，お前は神と等しい者だ，だから彼はその木の実を禁じようとするんだ。私を信じるかね？　果実を食べてごらん。
A．そうはしません。
D．可笑しなことを聞くものだ，食べんのか？
A．(170) 食べない。
D．何とお前は愚かだな。この言葉をお前はまた思い出すだろうよ。

[そこで悪魔は退場し，他の悪魔のところへ行く。舞台を一回りしてしばらく間を置いてから楽しそうに嬉しそうに，アダムを再び誘惑に行く，そして言う]：

D．アダム，何をしている？　考えを変えるかね，お前さんはまだ馬鹿な考えをしているのか？　さきにお前に言っておこうと思っていたのだが，神の施しを受ける者として，この果実を食べるようにと神はお前を此処へ置かれたんだよ。他の楽しみはあるのかい。

A．ええ，勿論欠けるものは何もありません。

D．(180) もっと高望みをしないのかい？　神があんたを庭番にしたのだからもっともっと自分の身を大切に楽しくできるだろう！　神はお前を自分の場所の守り番にしたのだ。お前さんは他の楽しみを求めないのかい？　だた腹一杯食べさせようとお前を造ったのかい？　もっと別な栄誉は与えられないのか，よくお聞き，アダム，私の言うことを聞くのだよ。私は心底お前に忠告しよう。お前は主などいらなくなる，(190) つまり創り主と同等になるんだ。総てを言って上げよう。あの林檎を食べればだ，

[悪魔は天国の方へ手をあげる]：

汝は尊厳を以て支配し，神と力を分かつことができる。

A．ここから出てゆけ！

D．アダム，何と言ったんだ？

A．この場から立ち去れ，お前はサタンだ。悪い忠告を私に吹き込む。

D．私がどのようにしてだ？

A．お前は私を神罰の苦しみに落としたいのだな。我が主といさかいをさせ，(200) 私から喜びを奪い，苦悩に陥れようとする。お前なんか信じないぞ，悪魔よ去れ！私の眼の前に再び現れるんじゃないぞ！　そんなに厚かましくするな！　お前は裏切者で真心のない奴だ。

[そこで悪魔は悲しそうに頭を垂れてアダムから離れ，地獄の門の所まで行き，他の悪魔と話をする。それから観衆の中を一めぐりし，やがてエヴァのいるあたりから楽園へ近付く。嬉しそうな顔をしてエヴァにおべっかを使い，次のように話しかける]：

エヴァさん，さあ，貴方の所へ来ましたよ。

E．サタンよ，どうしてなの，言って下さらない？

D．貴方のためになることと貴女の栄誉を求めているんです。

E．神様がそうして下さいますように！

D．怖がってはいけませんね。天国に関する全ゆるもくろみを，かなり前から (210) 私は聞いて知っていますよ。その一部分を貴女に言って上げようと思って。

E．じゃ始めて下さいまし，聞きますわ。

D．聞きますか。

E．ええ，聞きましょう。何も貴方を怒らせたくありませんから。

D．私の話を隠しておけますか。

E．ええ，たしかに。

D．露見するだろうがなあ。

E．絶対にそんなことしません。

D．それでは貴女を信頼しよう。それ以上の確証はいらない。

E．わたしの言葉を信じて下さってよろしいのよ。

A．(220) 貴女は育ちが良いね。アダムに逢ったがあれは全く馬鹿だよ。

E．少し堅物なのです。

D．いずれ柔かくなるさ。今のところ地獄[10]より固い。

E．彼は高貴なのですわ。

D．それどころか奴隷だ。自分のことを気遣おうとしない。少くともせめて貴女は考えなさいよ。貴女は弱くて優しいものなのだ。薔薇よりも瑞々しく，水晶よりも白く，(230) 谷間の氷上に降る雪よりも白い。創り主は悪い夫婦(カップル)を造ったものだ。あんたはとても柔かく，彼は堅すぎる。然しながらあんたがずっと賢い，心に立派な分別が宿っている。だからこそ貴女とお近付きになるのがよいんだ。貴女と話したい。

E．ええ，結構です。

D．誰にも知らさぬように。

E．一体誰が知るんですの？

D．アダムにも。

E．知らせません，私からは。

D．それでは言うから，言うことを聞いて欲しい。(240) 我々二人しか此の場にはいない。アダムは向こうだから我々の話は聞こえない。

E．大きな声で話して下さいな。彼には何も分からぬでしょうから。

D．この庭で貴女のために仕組まれてある大いなるはかりごとを話して上げよう。神が貴女に与えた果実というのはたいして善い所がなく，貴女に厳しく禁じた果実はその中にたいした力を持っている。その中にこそ生命の恩寵と，(250) 力と支配と，善と悪の全ての知識の恵みがある。

E．どんな味ですの。

D．天上の味わいだ。貴女の美しい肢体，美しい顔にこの様な僥倖はふさわしい筈，貴女が全世界の女主人(あるじ)，天上と地底の女主人となり，存在すべき全ての物事を知り，全てのものの良き主となる，この様な幸運は全くあなたにふさわしい。

E．この果物がそのようなものなんですか。

D．そうだ，たしかに。

[そこでエヴァは念入りに禁じられた果実を見る。それを長い間見つめてから言う]：

E．(260) 見ているだけでも気持の良いものだわ。

D．それを食べれば貴女はどうなるか。

E．私が，どうなるか知りません。

D．私を信じないのかね。では先ずそれを取りアダムに与えなさい。直ちに天上の王冠が手には入る。貴方がたは天上の創り主と同等になり，神は彼のはかりごとをあんたたちに隠しだてできなくなる。その果実を食べるや否や心は変わる。あんたたちは間違いなく神と共にあって (270) 同様の至善と同様の権能を持つのだ。さあ，その果実を食べてごらん！

E．どうしましょうか。

D．アダムなんぞ信じるな。

E．そうしましょう。

D．何時何べるかね？

E．待っていただきたいの，アダムが休息するまで。

D．さあ，食べるのだよ。怖がらずに！　ぐずぐずするのは子供じみている！

[それから悪魔はエヴァを離れ，そして地獄の方へ行く。アダムがエヴァに近付いてくる，彼女が悪魔と話していたので腹を立てながらエヴァに言う]：

妻よ，私に言いなさい。悪いサタンが何を求めたのだ。お前に何を望んでいたのだ。

E．彼はわたしたちの利益について話しましたの。
A．(280) 裏切者など信じてはいけない，あいつは裏切者だよ。よく分かっている[11]。
E．どうしてですの？
A．試したんだ。
E．それで彼に逢ってどうなるっていうの。考えを変えさせるんでしょう。
A．そんなことはさせん。あいつを試してみるまでは何も信じないぞ。
奴がお前の側に来るのを決して許すな。全く不実な奴なんだから。且て自分の主を裏切り (290) 神の高い位に身を置こうとした。そんなことをした恥知らずがお前の方に逃げてこられては困る。
[その時人工的に作られた蛇が禁断の木の幹にくっついて登る。その木の傍らのエヴァは小さい耳をそれに近付けて恰も蛇の勧言を聞く振りをする。それからエヴァは林檎を受け取り，アダムに手渡す。彼はそれをまだ受け取らない。エヴァがアダムに言う]：
食べてごらんなさい，アダム！　貴方はこれがどの様なものか知らないんです。私たちのために用意されてあるこの素晴らしいものをとりましょう。
A．本当にそんなに良いものか？
E．お分かりになるわ。でも味わってみなければ分からないでしょう。
A．どうか怪しいなあ。
E．ためらわないで下さいな。
A．いや，そうはしない。
E．ぐずぐずしているなんていやになってしまう。
A．じゃあ，それを貰うよ。
E．さあ，召し上れ。(300) これを食べて善悪を知るようになるのよ，私が先に食べましょう。
A．私はあとだ。
E．そうね。きっとよ。
[エヴァはそこで林檎を少しかじり，アダムに言う]：
食べましたわ。まあ，何という味でしょう。こんな美味しいもの食べたことがない，この林檎はそんな味なの……
A．どんな味だって？
E．人が味わったことのないようなもの。私には今とても判然とものが見える。全能の神のようよ。全てこれまでに有ったこと，又これから有るべきことが (310) 私には完全に分かります。私は全てのものの主。アダム，お食べなさい。躊躇せずに，それを取るのが一番よいのよ。
[そこでアダムはエヴァの手から林檎を受け取り言う]：
A．お前を信じよう。お前は私と同じものだから。
E．あがりなさいな，疑ってはいけないわ。
[そこでアダムは林檎を少し食べ始める。それを食べると直ちに自らの罪を悟り，人々に見られぬように身をかがめる。立派な衣服を脱ぎ，無花果の葉でできた貧しい衣をつけて，この上なく悲し相に嘆きの言葉を言い始める]：
ああ，罪人よ，私は何をしたのだ。取り返しはつかず，私は今死んでしまった。救いの望みもなく私は生命を落とした。私の運命は随分ひどい所へ落ちこんだ。私の幸せな状態は不幸に変わった。(320) とても幸福だったのに今や何という惨めさ。私は悪い妻の助言に従って私の創り主に背いた。ああ情けない，罪深い私はどうしよう。我が主をどの様にしてお待ちするのか。自分の愚かさ故におろそかにした主のみ前にどの様にして罷り出られようか。こんな悪い取引きはしたことがない。今，私は何

が罪かを知っている。ああ，死よ！何故私を生かしておくのか，(330) 私を世界から引き離さぬのか。何故私に尚も世界を穢させる？　私は地獄の底を味わうべきだ。地獄の中が私の住みかとなろう。私を救うお方がやってくるまで地獄で私は日々を過ごそう。いづこから其処へ私のために助けが来ようか？　いづこから地獄へ，私のために救いがこよう。誰がその苦しみから私を引き離してくれよう。我が主に背いた私に (340) 誰一人友となってくれる者はいない。私を地獄から引き出す程の大きな力を持つ人は誰もないだろう。もうどうしようもなく私は破滅だ。我が主に対しこの様な悪事を働いたからには弁明に立つ余地もない。まこと私の過ちで，彼は正しいのだから。ああ神よ！　こんなに呪われたひどい状態です。誰が今後私を思い出してくれましょう。栄光ある王に背いたのです。天上の王に対し罪を犯したのですから (350) 一言の弁解の言葉もありません。この状態にけりをつけ私を裁きから引き出してくれる友人も隣人もおりません。神が私に等しいものとして与えて下さった私の妻さえ私を裏切った今，私を助けて下さるよう誰に祈ったらよいでしょう。彼女は私に悪い忠告を与えたんです。ああ，エヴァよ！

[そこで自分の妻であるエヴァをつくづくと眺めて言う]：

ああ，心を狂わせた妻よ！　お前は不幸にも私から生まれた。(360) こんな不幸な境遇に私を陥れたこのあばら骨は焼かれてしまっておればよかった。こんなひどい騒動を起こしたのだからそのあばら骨は火にくべられて然るべきだった。神はあばら骨を私から取られた時どうしてそれを焼いてしまわず，私を殺しもされなかったのか。脇腹の骨が全身を裏切りそして狂わせ，我が身を虐待した。どう言ったら良いかどうしたら良いか私には分からない。もし天上の恩寵が下らぬとすれば私は苦しみから免れられない。(370) 私の心をさいなむのはこの心痛だ。ああ，エヴァよ！　何という不幸！　お前が且て私と同じものになった時，何たる重荷を私に背負わせたか。今私はお前の助言のために身を滅ぼし，お前の助言ゆえに不幸となり，大層な高みから下に落とされた。権能ある神でない限り，この世に生を享けた人の手によってでは其処から引き上げられぬだろう。私は何を言ったのか。ああ，何故神の名を呼んだのか。神は私を助けて下さろうか？ (380) 私はあの方を怒らせた。マリアよ，生まれる御子のほかには如何なる救いも求められまい。神に信仰を捧げなかったのだから希望が持てるかどうかは分からない，今は全て神の思し召しになりますように。我々には死があるのみだ。

[そこでコーラスが始まる：応誦

その時神は逍遥されていた

コーラスがそう歌うと神は長い衣服を着けて現われる。あたりを見廻しながら天国の楽園へと入り，ちょうどアダムが何処にいるかを探している様子である。アダムとエヴァは恰も自分たちの哀れな有様を知っているかのように楽園の隅に隠れている。そこで神が言う]：

アダムよ，いづこか。

[その時両人が神の方にむかって立ち現われる。然し完全に直立しているのではなく自らの罪に対する恥ずかしさから少し身体をかがめ，大変悲しげである。アダムが答えて言う]：

我が主よ，私はここにいます。貴方様のお怒りを怖れて身を隠していました。そして私が裸であったので (390) こんな工合に隠れていたのです。

F．お前は何をしたのか。どんな過ちをしたのか。誰がお前を幸せな状態から引き離したのか。一体何をしたのだ。何故恥ずかしいのか。

A．どの様に貴方様に話を申し上げてよいのか。

F．これまでお前は自らを辱しめるようなものは何も持っていなかった。今お前は大層悲しげで憂鬱な顔付をしている。そのようにしているのは何か咎めるところがあるのだな。

A．貴方様の前で大変恥ずかしい思いをしています。

F．(400) どうしてか。

A．大きな羞恥が心をがんじがらめにしているので私は貴方様のお顔をみつめる勇気がありません。

F．何故お前は私の禁令を破ったか。それはお前にとって大いに益であったか。汝は私のしもべである。私は汝の主だ。

A．貴方様にさからうことはできません。

F．汝を私の似姿として造った。何故私の命令に背いたか。まさしく，汝を私の姿どうりに造り上げた。(410) その故にこのような侮辱を私に与えた。汝は私の禁令を守らず，故意にそれを破った。お前は果実を味わった。それは私がお前に話しておいた果実であり，禁じておいたものだ。食べたことでお前は私と同等になろうと考えたのか。嘲弄する心算だったのか，どうかね。

[そこでアダムは神にむかって手を差し伸べ，そのあとでエヴァを指差し，そして言う]：

貴方様が私に与えられた妻がまず貴方に背くこの罪を犯しました。果物を私にくれまして，それを私は食べました。(420) 思いますに，それが害毒になりました。この食べものを不幸にも知りました。私は妻ゆえに悪い事をしたんです。

F．お前は私を信じるより自分の妻を信じ，私の許しなくして果実を食べたのだ。お前に似合う報酬を与える。大地は呪われるであろう。その大地に麦の種を播くとも，それは実をなさぬ。お前の手の下で大地は呪われ (430) 耕作はいたづらに徒労となる。大地はその果実を拒み，いばらやおになべなを成長させる。お前の罪状ゆえに呪われて，お前の播く種を変えてしまうのだ。大いに精出して働き，大いに苦しんでパンを食べなければならない。大いなる苦悩を以て，大いに汗を流して，お前は夜も昼も生きることになる。

[そこで神はエヴァの方へ振り向き，恐ろしい顔で次のように言う]：

汝，エヴァよ，悪しき妻よ，(440) お前はいち早く私に反抗を始めた。私のいましめをほとんど守らずに。

E．悪い蛇が私を騙しました。

F．蛇の言葉でお前は私と等しくなれると思ったのか。何が起こるか分かっているのか。汝は生ある全てのものを支配しておったのに。何とこの様に早く汝はその支配権を失ってしまったことだ。私は汝が今悲しみにくれ，不幸になったのを見る。お前は利を得たのか，あるいは失ったのか。(450) 私は汝にふさわしいものを与えよう。お前の奉仕に報いるのだ。全ゆる点でお前の状態は悪くなる。悲しみの中に子供を生み，子供たちはみな苦しんで年月を過ごす。お前の子供たちは苦しみの中に生まれ，苦悩の中に死ぬ。この様な苦難と悲惨をお前とその子孫に味わわせる。汝から生まれ出ずる者は (460) 汝の罪を歎き悲しむであろう。

[エヴァは答えて，言う]

E．私は罪を犯しました。それは狂気のせいです。たった一個の林檎のために私の子孫を苦難に陥れるという程の大きな災難を受けるのでしょうか。些細な利得のために私は大きな債務を負うのですね。私が悪を行ったとしても，それはたいして不思議じゃありません。人を誘惑する蛇が私を騙したんですから。蛇は悪いことを沢山知っていて小羊とは比ぶべくもありませんわ。蛇に助言を求める者は不幸になります。私は林檎を取りました。(470) 愚かな行為をしたのは存じています。貴方様の禁止にも拘わらず，それに対し不誠実な行動をしました。悪を味わい，貴方様から憎まれております。果物を一かじりしたために私は生命を失わねばなりません。

[そこで神は蛇を脅し，そして言う]

F．汝，蛇よ，呪われてあれ！　汝に私の権限を再び行使する。汝は生涯くる日もくる日も腹を地につけて這い回るがよい。森にあってもあるいは平野，荒地にあっても塵埃のみが常に汝の食物となるで

あろう。女はお前を憎み，(480) お前の危険な隣人となる。お前は女の踵を待ち伏せするであろうが，女はお前の舌をひき裂く，お前が非常な打撃を被ることとなるその様な槌で，女はお前の頭を打つ。また更に，女はどの様にして汝に復讐できるかを熟慮するのだ。お前が女と知り合ったのは運が悪かった。女はお前の頭を下げさせるであろう。さらに，女からその子孫が生まれ (490) 彼は汝の力を打ち砕くこととなる。

[そこで神は彼等二人を天国の楽園から追放し，そして言う]

さあ，天国の外へ出て行くのだ。お前達はこの園を愚かにも交換してしまった。お前達は大地に家を建てるのだ。最早楽園に留まる理由がない。当然の権利としてもう何も要求できぬのだ。永久にここから立ち去れ，裁きによって，もう何も所有することはできぬ。他の場所で住み家を求めよ。至福の地を離れよ。(500) かくして一週の一日たりとも飢えと疲労は尽きず，悲歎と苦悩は尽き果てぬ。大地にあって汝等は幸せ薄き日々を過ごし，その後遂に生命を落とす。死なるものを味わったあとは息つく暇なく地獄へおもむくのだ。肉体はこの世に追放され，魂は地獄で苦しみを受ける。サタンが汝等を支配し，(510) お前達を助け得る者はいないのだ。もし私がお前達に憐れみをかけねば誰がお前達を救うであろうか。

[コーラスが歌う：応誦

汝の顔に汗宿り

その間に天使が白衣を着て現われる。光り輝く剣を手にしている。その剣を神は天国の門に置き，そして次のように言う]：

天国をしっかりと守護せよ。この追放されし者が決して楽園へは入らぬように。この無法者が生命の果実に触れるという権力と権限を二度と持たぬように焔と燃えているこの剣を以て，侵害者に対し充分に楽園への道を守れ。

[楽園より追放されたので，いかにも悲しそうに困惑して，二人は地面につくほど，踵の上にかがみ込む。神は彼等を片手でさし示し，顔を天国の方へ振り向ける。

コーラスが歌い始める：応誦

見よ，アダムは孤独となりて

それが終ると神は教会の方へ退場。それからアダムは鋤を，エヴァはまぐわを持ち二人は大地を耕し始め，その地に麦を播く。播き終ると仕事に疲れたようにかたわらへ腰を下ろしに行く。弱々しく屡々天国を見上げ，自分の胸を叩く。その間に悪魔がやって来て彼等の耕地にとげのある茨や薊を植え，立ち去る。やがてアダムとエヴァは耕地の方へ来て茨や薊が立ち現われたのを見付け，激しい悲しみに打ちのめされて大地にひれ伏す。そしてやおら起き上り自分の胸と太腿を打ちながら絶望の身振りをする。アダムは嘆きの言葉を始める]：

ああ，情けない！みじめなさまよ，人間が崇め奉る主を捨てたという私の罪が私にふりかかった (520) この不幸な時を見ようとは。主が私を救って下さるようにと，誰がとりなしてくれようか？

[その場でアダムは天国を振り返り，両手を天国の方へ上げ頭を垂れ，そして言う]：

おお，楽園よ，最も美しいすみかよ，緑の木々多き栄光の庭よ，それはお前の眼に何と美しく映ることか。まことに私は己れの罪故に其の場所から放り出された。楽園へ戻る希望も全て失ってしまった。私は天国の中にいた，けれども楽園を享受するすべを知らなかった。天国から直ちに私を立ち去らせることとなったあの助言を信じた。今は私は悔んでいる，私が腹を立てるのも当然だ。(530) しかし遅すぎる，私の嘆きは何の役にも立たない。私の判断力は何処へ行ったのか。何を考えていたのか。栄光ある王をサタンのために捨てたとは！　今や私は一生懸命に働くのだが，ほんの少ししか益はない。私の罪は物語に書かれるだろう。

[そこでエヴァにむかって手を上げる，彼女は少し離れたところにいる。アダムは非常に憤慨して頭をふりながら言う]：

ああ，悪い妻よ！裏切りに満ちた女よ！全くの滅びの道へとお前は直ちに私を誘った。何として私の理性と判断力を失わせたのか。私は今，後悔しているが許しは得られない。哀れなエヴァよ！何と悪に引きずり込まれたことか，(540) お前はすぐさま蛇の忠告を信じてしまった。お前ゆえに私は死ぬ，私は生命を失った。お前の罪は書物に記されるのだ。お前には大いなる混乱の徴(しるし)がみえるか。大地は我々の呪を感じとっている。我々は小麦を播いたが，土地にはおになべなが生じた。様々の罰の始まりだ，悲惨なことだ。然し更に恐ろしい死が我々を待ち受けている。それから地獄へ連れて行かれるだろう。思うに，(550) 其処では苦悩にも責苦にも欠けることはない。

みじめなエヴァよ！　どう思うかね。お前はそれを手に入れた。それがお前に寡婦資産として与えられたのだ。以後お前は決して男に善きものを提供することはなかろう。常に理性の正道には従わぬだろう。我々の家系から生れてくる全ての者はお前の罪の重荷を感ずることとなる。お前は悪事を働いた。その罪は全ての人にふりかかる。その罪の苦しみを変え得る人はなかなか現われないのだ。

[そこでエヴァはアダムに答える]：

アダム，御立派な貴方，随分私を侮辱なさったのね。(560) 私の悪いところを並べ立てて非難なさった。私が卑劣な行為をしたのなら，私がその咎を受けましょう。私は罪人で，神のお裁きを受けます。私は神に対しても貴方に対しても大変悪いことをしました。私の悪行はこれからも長い間誹謗されるでしょう。私の罪は重くその罪過に私は恥じ入ります。私は罪人で，善いところは全然ありません。神に対し弁明する余地はありませんし，自分を罪過ある者と認めないわけにはまいりません。お許し下さい。私には償いができませんから。(570) もしできるならば捧げ物によっていたしましょうに。私は過ちを犯した哀れなみじめな者です。私の背信ゆえ，神に対し恥ずかしくてなりません。死よ，私を捕えておくれ。私の息の根を止めておくれ！　私は危難に溺れ岸にはたどり着けないのです。邪悪な性質の堕落した蛇が危険な果実を私に食べさせました。私はそれを貴方に上げました。善いことをしていると思ったのです。そして貴方を罪に陥れました。そこから貴方も逃れられないんです。何故私は創り主に従わなかったのでしょう。(580) どうして私は貴方の言い付けを守らなかったのかしら。貴方は罪を犯しました，けれどもそれは私が原因です。我々の罪の償いは長いことかかりましょう。私の罪咎，私の大きな不幸については，私達の子孫が高価な犠牲を支払うでしょう。罪の果実は甘かったけれども苦しみは厳しいものです。食べたのが悪いのです。叛逆は我々のなしたことです。けれども，私の希望は神の御手のうちにあります。この罪科のあがないは高価でありましょうが，神は私に恩寵をお与え下さり，顕現遊ばされて，(590) みちからを以て我々を地獄の果てから連れ出して下さいましょう。

[その時，3，4人の悪魔と共に悪魔の頭(かしら)がやってくる。手に手に鎖と鉄の桎梏を持ってきてそれをアダムとエヴァの首につける。或る者は二人をせかして立て，他の者は彼等を引張って地獄の方へ行く。他の悪魔たちは地獄へ落ちる連中を出迎えに地獄の入口の所までやってくる。二人の破滅を喜びお互いに大騒ぎをしながら。そのうちの悪魔の一人は地獄へ近付くアダムとエヴァを指し，彼等をささえて地獄へ落とす。そうすると地獄は濃い煙をもくもくと出す。悪魔の仲間たちが地獄の中で喜び叫び合う声が大釜や鍋を打ち叩く音に混じって聞こえてくる。ほどなく悪魔たちが舞台に現れて歩き回る。数人の悪魔はそのまま地獄に残っている。]：

—アダムとエヴァの楽園喪失の場面おわる—

—跋—

神とアダム，エヴァ，そして悪魔の語る言葉は，この劇を楽しんで見物した当時の観客の思想や感情をうつし出す鏡でもある。観衆はアダム，エヴァと共に一喜一憂したことだろう。彼等が実感として殊に共鳴したであろうと思える表現を今少し詳しくとり上げてみることにする。まず，アダムについて述べよう。Tu le devez estre ben fiel (12)／お前はエヴァに誠実であれ，と神はアダムに命じた。そしてアダムは理性によって彼女を支配するのである。Tu la governe par raison (21)／されば二人の間には大いなる愛と理解が生まれる。それが結婚の掟である Tel soit la lei de mariage (24)／と神は諭した。これは封建時代の社会であっても理想的な結婚の姿であったろう。神に全身全霊を祝福された最初の人間の美しい姿である。アダムは神の園をあづかる jardenier (182) 庭番ではあるけれども君主より封土をあづかり受けた臣下のように堂々と威厳に満ちた存在だ。「彼は全ての大地の支配権を持ち」De tote terre avez la seignorie (61)／，公平に判断して，善きもの，悪しきものを選び得る権限 poëstė (75) は彼の掌中にある。seignorie には領主の権利という意味がある。poëstė は力であるが律法による権限ということだから，まず最初の人間として現われたアダムには，アングロノルマン時代の君主の寵愛を受けている，上流社会に属する領主の風格さえ散見する。観客は身近な社会の理想像であるアダムをみるのである。神が一つの禁令を言い渡すとアダムは答えて，たった一個の果実と引き換えに領地 (107)（封土という意味がある）を失うならば裏切者に対する法 (111) によって裁かれるべきだ，と決然として言い切る。その時代は隙があれば君主を殪して下剋上の世界が繰り広げられた社会であった。この様な社会にあっては，ひとたび裏切行為が勃発すると社会秩序は混乱の極みに達し，君主の地位も危うくなる。裏切者 traïtor (111) とは最もいむべき破廉恥な罪人の代名詞であったのだ。アダムは，若し神に背くような場合は最も破廉恥な罪人として裁かれるべし，と自らの覚悟を雄々しく述べる。彼は誠実な男で，神には忠実に誠を示そうと精一杯の努力をする。然し自分こそ絶対に神に背かない，というこの自負こそ人間の弱さを覆い隠そうとするアイロニーである。覧る人は彼等の始祖アダムの言葉に人間が自らを陥れる罠の危険性を感じとり，身辺にある周囲の状況とひき較べて心を動かされたことであろう。

アダムが豪語した直後に悪魔が何気なくアダムに近寄ってくるのも全く巧みな演出と言わねばならない。それはまるで近所の悪友がふらりとやってきて，不埒なことをしでかそうと誘いかける如く何処にでもありそうな会話だ。一たん諦めかけた悪魔が思い直して，再びつくり笑いをしながらアダムの前に現れるのもたいへん人間臭い。このような悪友の姿は身分の上下を問わず万人の近くにいるはずだ。ドラマにおけるアダムとエヴァの神秘な世界は，時を越え空間を越えて親しく実感を分かち合える現実感に溢れた世界である。アダムは悪魔の言葉に多少興味を示すのであるが最後には怒って怒鳴りつける。お前は裏切者で真心のない奴だ (204) 二度と現われるな，と悪魔を退散させ，彼はまず最初の誘惑を神に誠実な男として切り抜けた。しかしほっと安心する間もなく，アダムは蛇に誘惑されたエヴァに勧められて林檎をかぢり，罪に陥るのであった。さて誘惑に負け，罪を自覚したアダムの嘆きようはまるで社会的特権を剝奪されて裁きの庭に立たされた，頼りない裸の人間の有様である。立派であったアダムは姿を消した。生活の規範を法におき，商業取引にも腕を揮った当時の人びとの考え方が再びアダムの言葉に現われる。アダムは言うのである……たった一個の林檎と安住のすみかを取り替えるなどという (cf. 107—112)「こんな悪い取引はしたことがない」Unches ne fis tant mal marchié (327)／と，そして悲歎にくれる。この大罪の苦悩から自分を救い出し得るほどの大きな力を持つ人（即ち辨護人）は誰もいない，このように大それた悪事であるから自分は神に対し何も言い立てる entrer en plait (344)

ことができない。誰がこの裁き plait (352) から私を救ってくれるだろうかと。一躍栄光の座から身を墜落させたアダムを観衆は自分たちの生活の一場面である法廷に引きずり出したのだ。アダムはそこで更に情けない姿をさらけ出す。嘲笑を買うほどの弱々しい一面を見せるのである。特権を楽しみ，自信に満ちていた彼が一たび悲惨な境遇に陥ると女々しく泣きごとを述べる。この落差の激しさはまことに哀しい人間の姿として眼前に迫る。彼は罪を妻のエヴァの所為にしてくどくどと繰り言をのべたて，まさにアウエルバッハの言うごとくフランスの百姓か町人かのように[12]非常に動揺して妻を責め立てる。エヴァに対し，地獄の苦しみを手に入れたお前には地獄が寡婦資産 duaire (552) として与えられたと厭味を言う。duaire (=douaire) などという言葉も当時の人びとは聞き慣れていた言葉であったのだろう。エヴァが語る嘆きの中にも債務 traüage (464) (=treuage) というような言葉が現われ，それは封建時代，君主と臣下の関係の賦課租を思わせる。

さてそれではこのアングロノルマン時代の最も古い劇，現存する写本にはじめて姿を現わす女性，エヴァは果してどのような女性なのか。彼女は優美でやさしい。薔薇よりも瑞々しく，肌は透き通り，谷間の氷上に降る雪よりも白く (227—230) 美しい。そして終始魅力的である。神に対してもアダムに対しても，また，悪魔に対しても素直に心を開いて語る。彼女は罪がどのようなものかを明瞭に理解していない，軽はずみなところもある可愛いい女である。貴女はアダムよりずっと賢いんだからなどと言うお世辞に弱く，好奇心が強い。常に夫に従い，彼の言うことを守るように (35—36) と神の命じた掟を一時は忘れたかの如く，甘美な果物を齧ってしまい，夫も食べるようにと執拗に勧めた。しかし明るくて大らかなエヴァは，アダムと較べても人間として遜色がないどころか美しい心を持ち合わせている。彼女は憎めない。この劇の作者はまことに魅力溢れる素晴らしい女性を文学に登場させたのだ。うっかり蛇の甘言に乗ったエヴァではあったが，一たび罪の重さを自覚した彼女は大変いさぎよい。自らの罪をくどくどと人のせいにしたりせずに，自己の罪を潔く神とアダムに詫びるのである。イギリス中世聖史劇，コーパス・クリスティ祝祭劇とよばれるサイクル劇に登場するエバの姿を垣間みても，例えばチェスターの「天地創造とアダムとエバ」においても，ヨークの「アダムとエバの創造」においても，この初期のアングロノルマン「アダム劇」に登場するエヴァほどの魅力を持ち合わせない。チェスター劇にあっては，エバは「美味しいものが好きだから」For women are full liccorie 219[13]／まず悪魔の誘いに惹かれる，そして神のように賢くなれると言われて木の実の味を試すのである。ヨーク劇では蛇を装った Satan が，友達だよと名乗ってエバに近付き，この果実を食べれば善悪を知るようになり，神の如く賢明になり，あがめられるのだと唆かす。エバは唆かされ，その気になってアダムを説得してしまうのだ。然し[14]神に詰問されるとエバは両劇とも自らの罪を蛇の所為だと言い立てるのみであった。

「アダム劇」のエヴァの言葉は率直である。自分が卑劣な行為をしたのならその咎を受け，神の裁きを受けようと飾り気のない誠実さを溢れさせ，「神と貴方に対し大変悪いことをしました」Je suis vers Deu e vers toi mult mesfeite (563)／「お許し下さい，償いができないのです」Pardonez le moi, kar ne puis faire amende (569)／「貴方は罪を犯したけれどもそれは私が原因です」Tu mesfesis, mes jo sui la racine (581)／と，罪の責任を充分に自覚するのだ。軽卒で可愛いい女であったエヴァは自らの苦悩を通して他の人の苦痛も思い遣ることのできる人間に成長する。自分の罪のために苦しみを受ける子孫にも思いを馳せて心を痛めるのである。しかし，罪を悔いた彼女は希望を捨てなかった。これこそ信仰である。彼女は救いの道の光を見出すのだ。

Deus me rendra sa grace a sa mustrance ; /Gieter nus voldra d'emfer par pussance (589—590)／「神は私に恩寵をお与え下さり，顕現遊ばされて，御ちからを以て私たちを地獄から連れ出して下さいましょう」というエヴァ敬虔な祈りの言葉を終幕に観衆は心を引き締める。改めて彼等は原罪を想い，神の慈悲を想うたであろう。「アダム劇」は当時の人びとにとって身近に感じられる親しみ深いドラマであ

ると同時に崇高なる感動を観衆の心に蘇らせ，時空を越えた永遠の神秘の世界へといざなう深い魅力を湛えているのである。

注

1．cf. E. K. Chambers, *The Mediaeval Stage*, Oxford, 1903, vol. ii. p. 308.

2．「アダム劇」は *Le Jeu d'Adam*，又は *Le Mystère d'Adam* と呼ばれる。Willem Noomen は CFMA 叢書所収の edition1971年に *Le Jeu d'Adma* と題した。'mystère' という語が14世紀以前には使われていなかったというのが Noomen の主張である（see "*Le Jeu d'Adam*. Étude descriptive et analytique," *Romania* 89, p. 145）．TLF 叢書所収「アダム劇」1963年の編者 Paul Aebischer は *Le Mystère d'Adam* (*Ordo Representacionis Ade*) と題している。

3．Paul Studer ed. *Le Mystère d'Adam, An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century*, Manchester University Press, 1918 (rpt. 1967) pp. xix—xxiv. Noomen, *op. cit*. pp. 145—163.
但しこの劇が従来の典礼劇と同じく教会の祝祭日と緊密な関係をもって演じられたかどうかは不確実である。

4．see Studer, *op. cit*. p. xvii., p. xxii.

5．P. Aebischer, *op cit*.はこの写本がプロヴァンスで書かれたとしている p. 15.

6．Old English *Genesis* の悪魔は自ら神の使いでアダムの所へ現れたと称する。悪魔の誘いを退けるアダムは理路整然と答え，威厳がある。神は美しいエヴァにはアダムに少々劣る弱々しい心を授けられた。God had assigned her a weaker mind という表現は繰返して二度現われる。神の使いを拒絶すれば神を怒らせることになるとひたすら怖れて林檎を口にするエヴァは哀れで美しく，同情をそそる姿である。(—hæfde hire wacran hyȝe／Meotod ȝemearcod—590).

7．Studer, p. lvi., Willem Noomen ed. *Le Jeu d'Adam* 〔CFMA〕 1971, p. 7.

8．アダムとエヴァの物語に続くカインとアベルの話603—604行。

9．Erich Auerbach, *Mimesis*, translated by W. R. Trask, Princeton University Press 1974, p. 151.

10. Il est plus dors que n'est emfers 223)／地獄 emfers の綴にはアングロノルマンの特徴の唇歯音の前の m が現われているのである。「中世英国の聖書劇」研究社選書，33．において魅力的に紹介されている「アダム劇」ではこの個所が「全く，火よりも堅いんだから」と訳されている。

11. 写本には話者の頭に概ね F. A. E. D. の表示があるのだがちょうどこの個所には混乱がみられる。Aebischer と Noomen 版には対話をするアダムとエヴァのせりふ配分のちがいはない。Auerbach は自己の異った読みを主張する（*Mimesis* pp. 143—151）. Studer は Auerbach と 1 個所異っている。翻訳は Aebiscer 版を底本としているのであるが，この280—287行は Auerbach の読みに従った。Aebischer, Noomen の対話ではエヴァの言葉があまりにもその場かぎりの言い逃れになるのである。

12. cf. *Mimesis*, p. 147, p. 151.

13. Peter Happé ed. "The Creation, and Adam and Eve," *English Mystery Plays*, Penguin Books, 1975, p. 70.

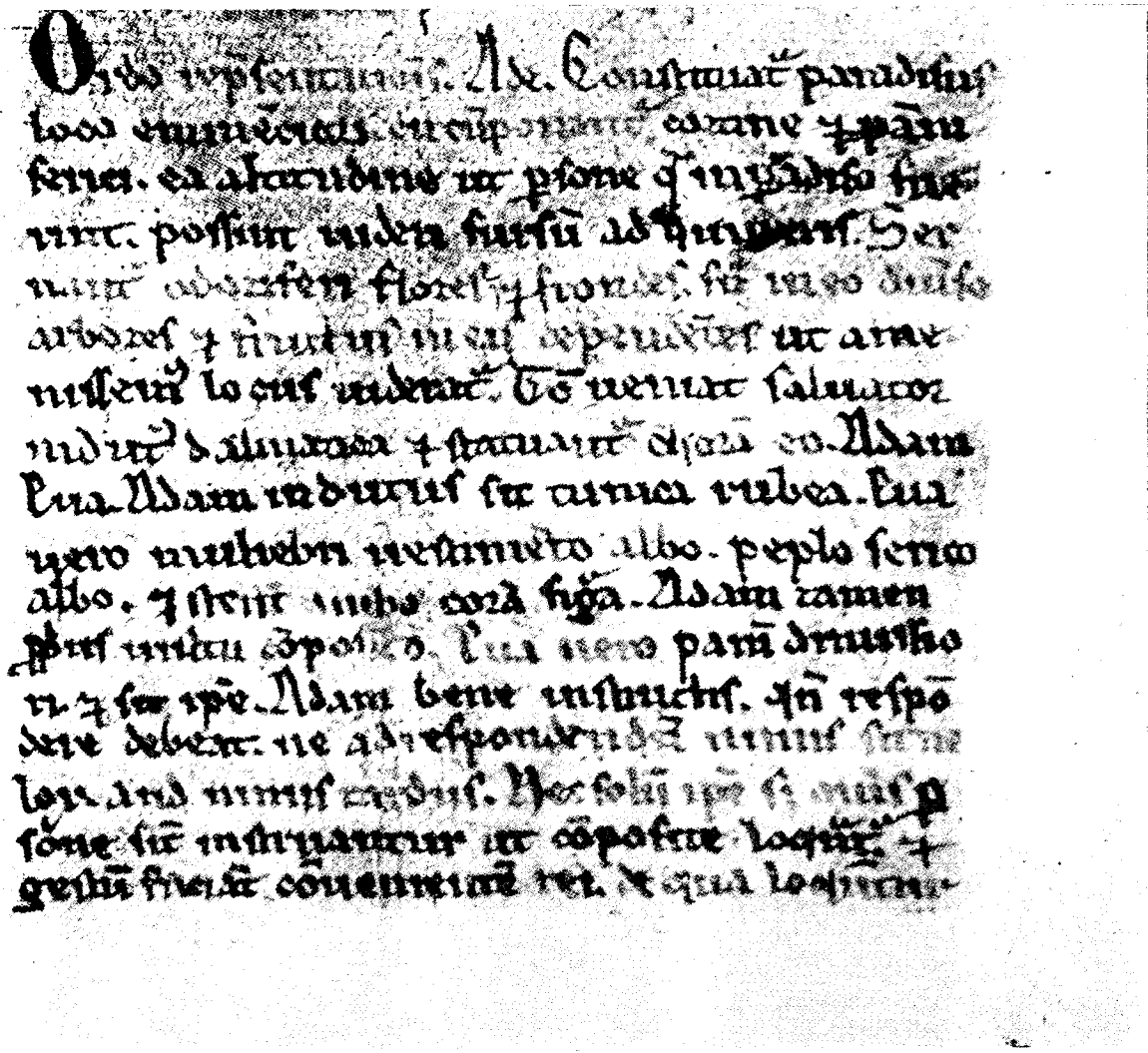
14. A. C. Cawley ed. "The Fall of Man," *Everyman and Medieval Miracle Plays*, London, 1967, pp. 21—24.

＊＊写本31^{v} 12行でアダムとエヴァの劇は終る。続いて13行よりカインとアベルの劇が始まる。

Le Jeu d'Adam

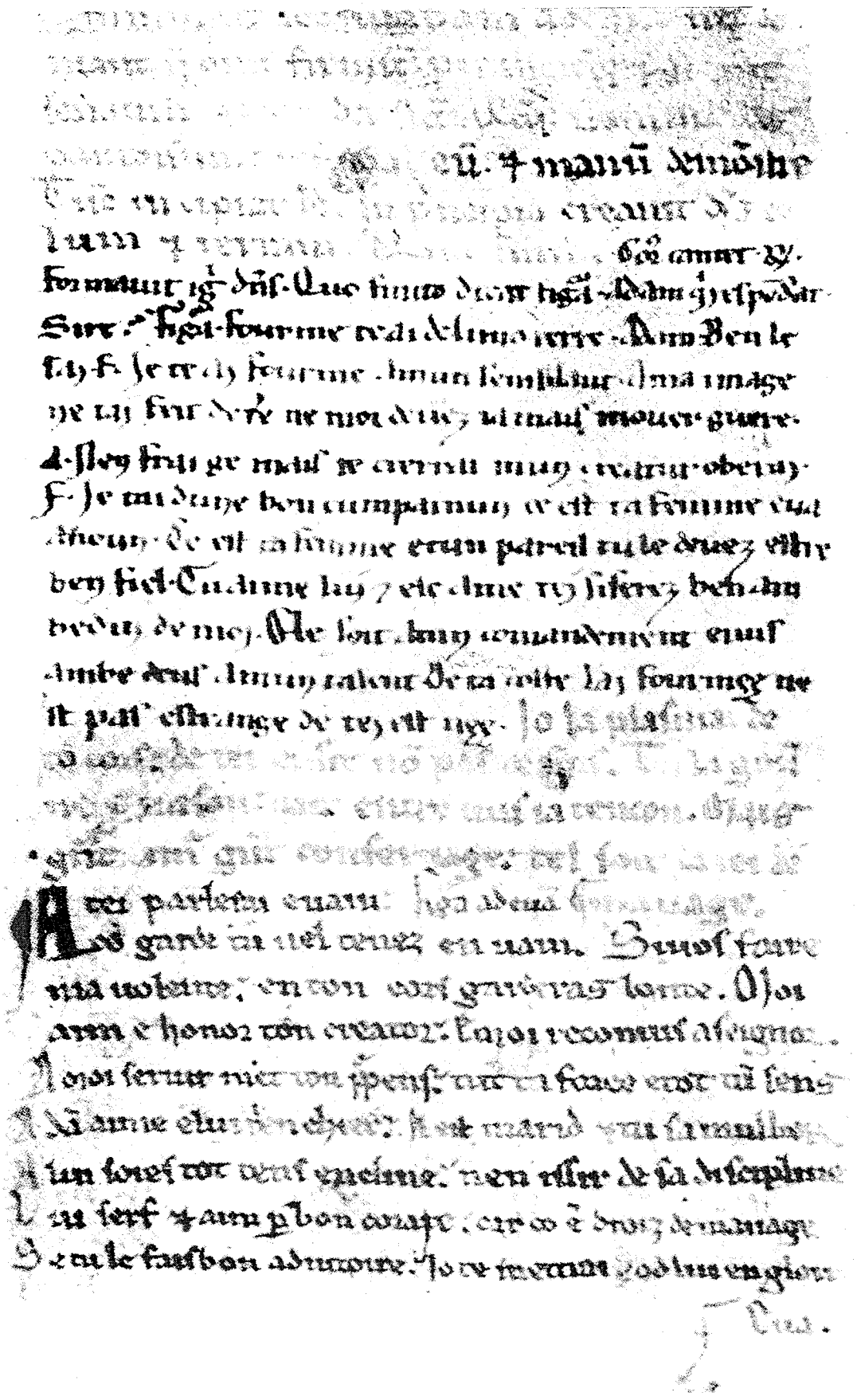
Bibliothèque municipale de Tours MS 927

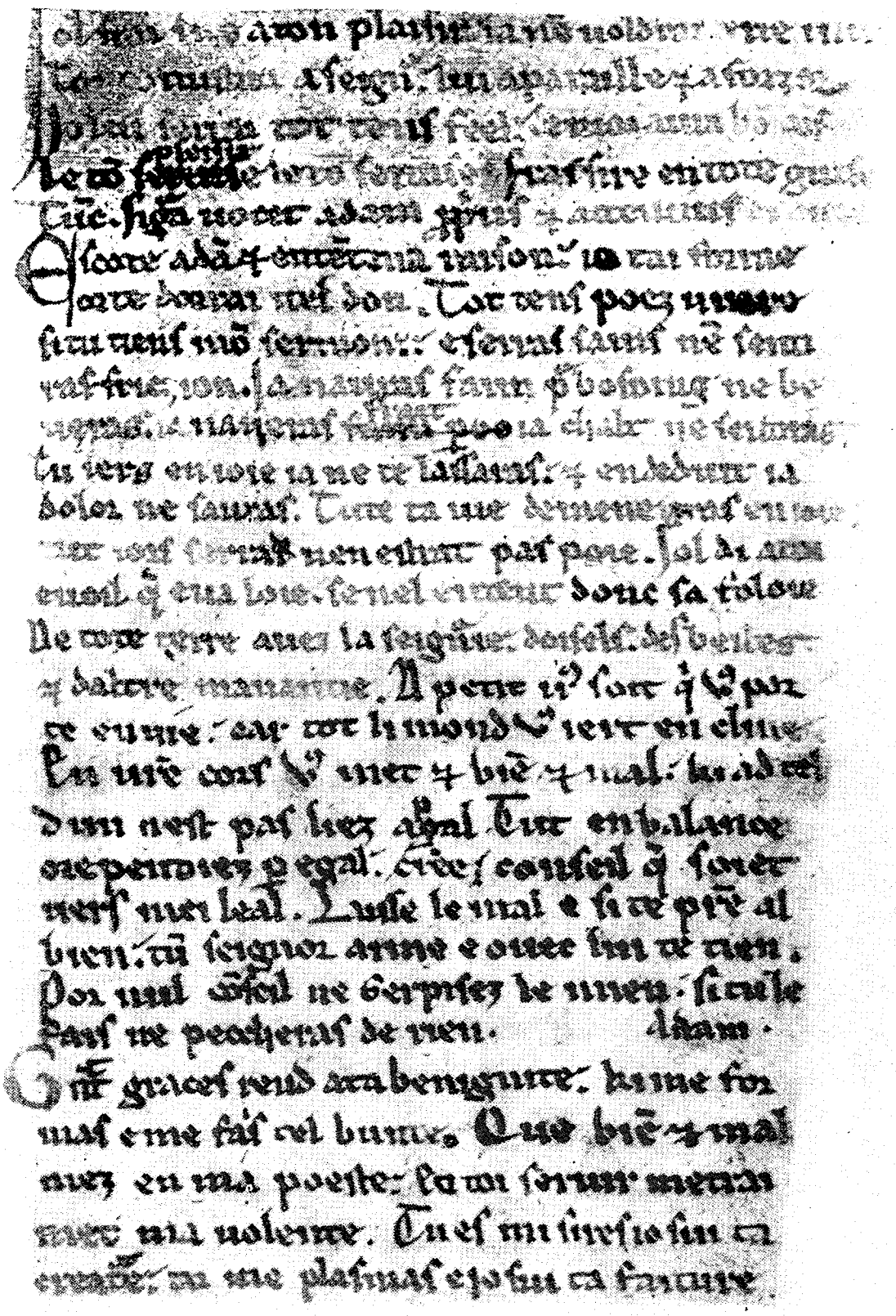
ff. 20^{r}-31^{v}



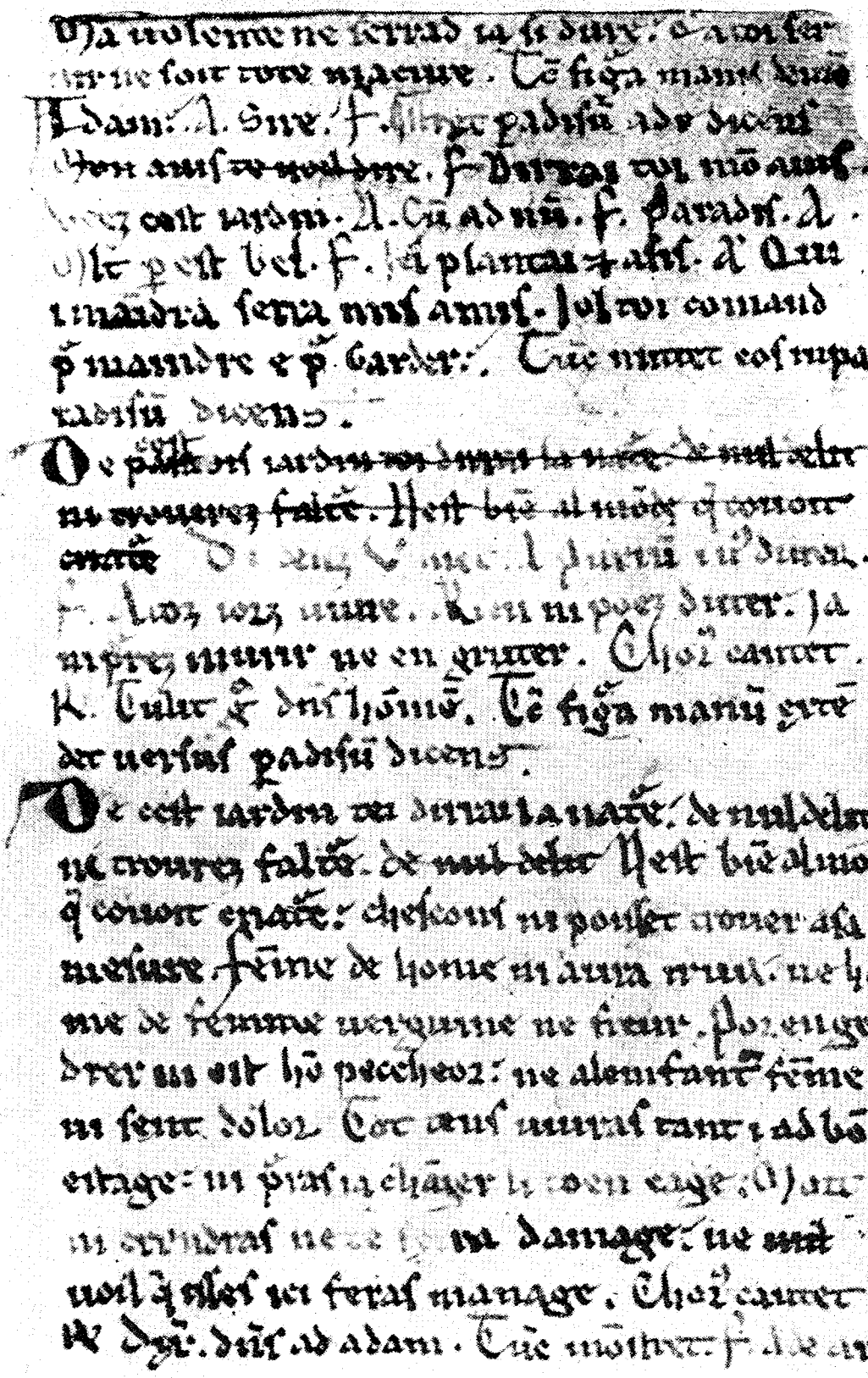
(Ordo representacionis Ade)

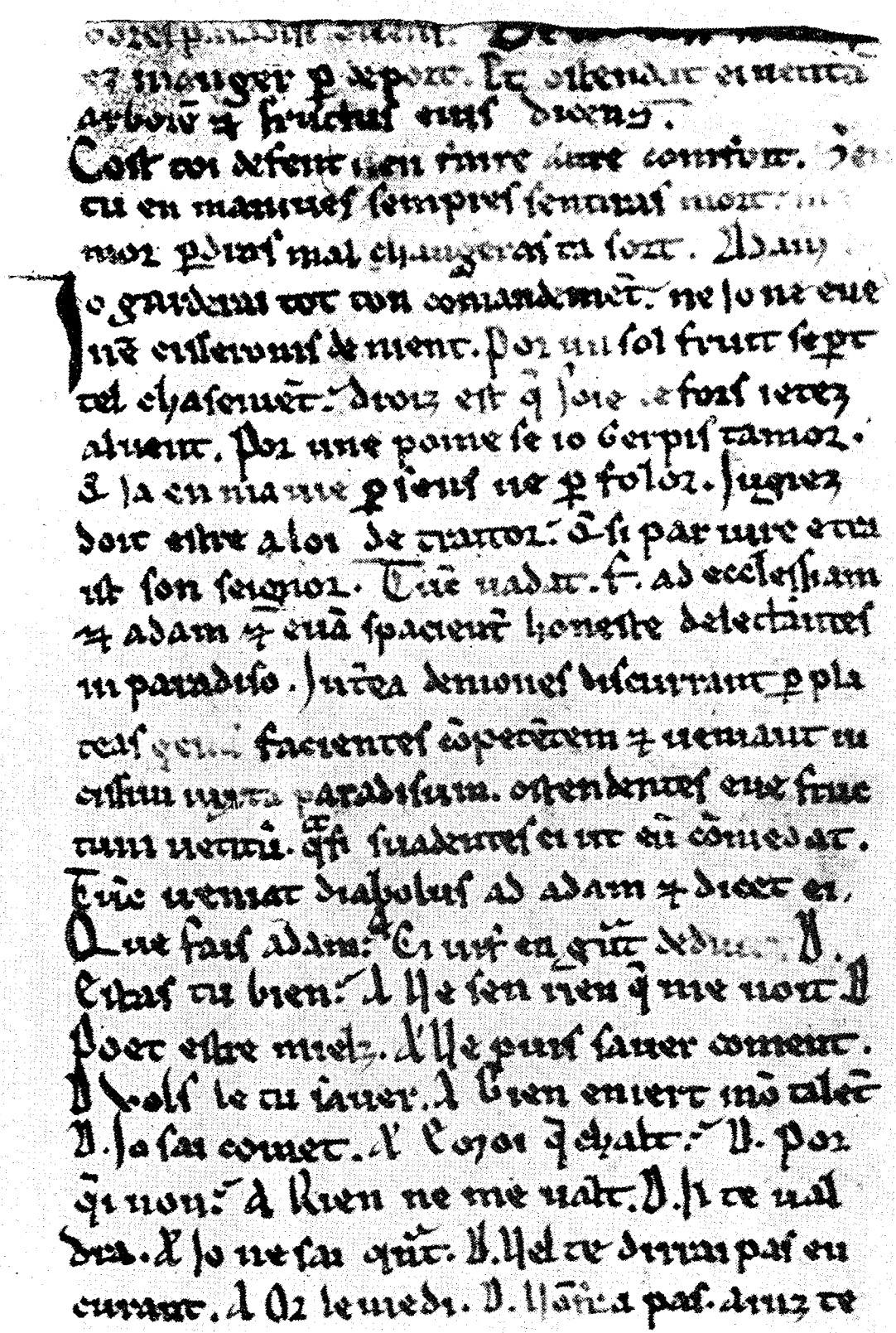
20v



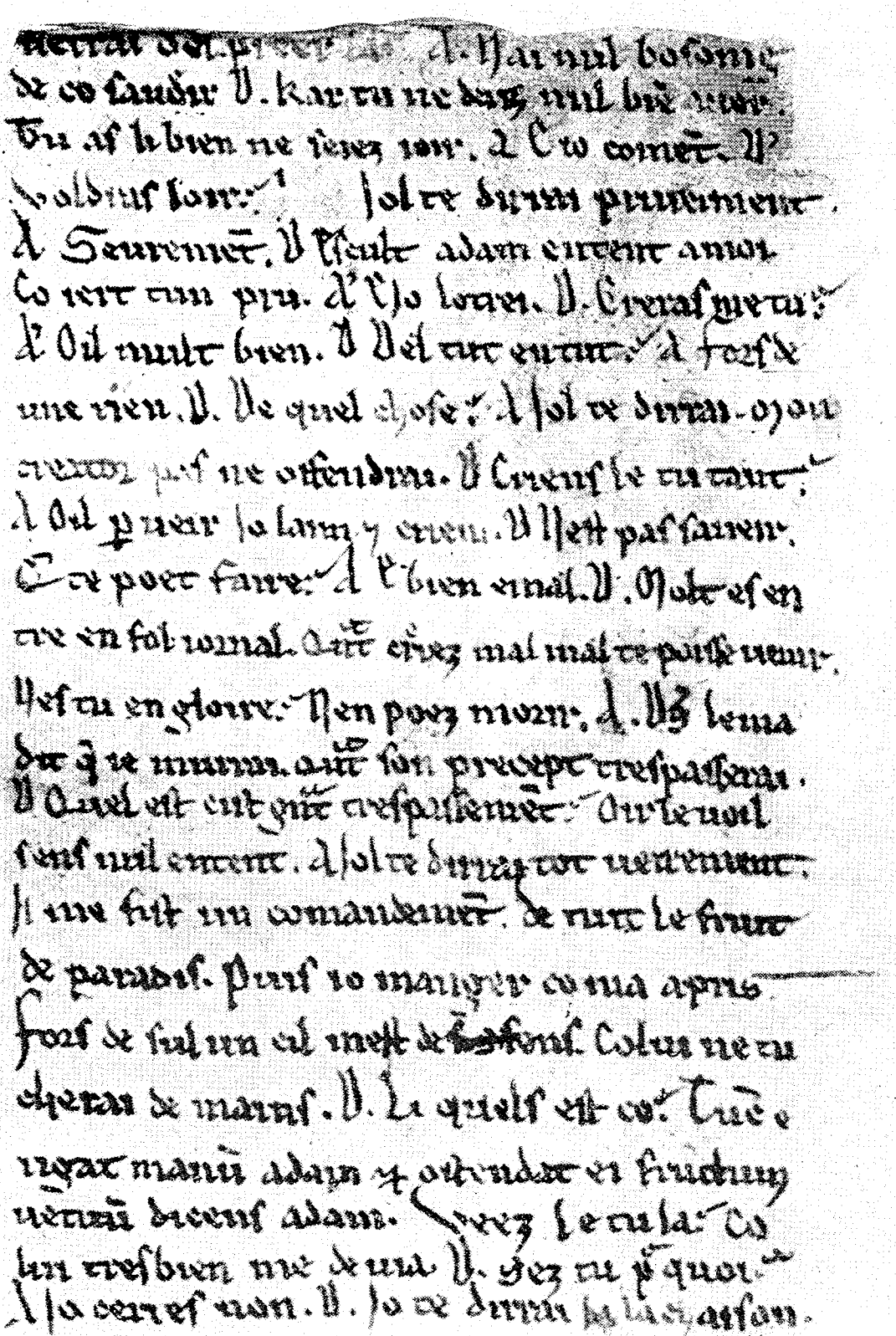


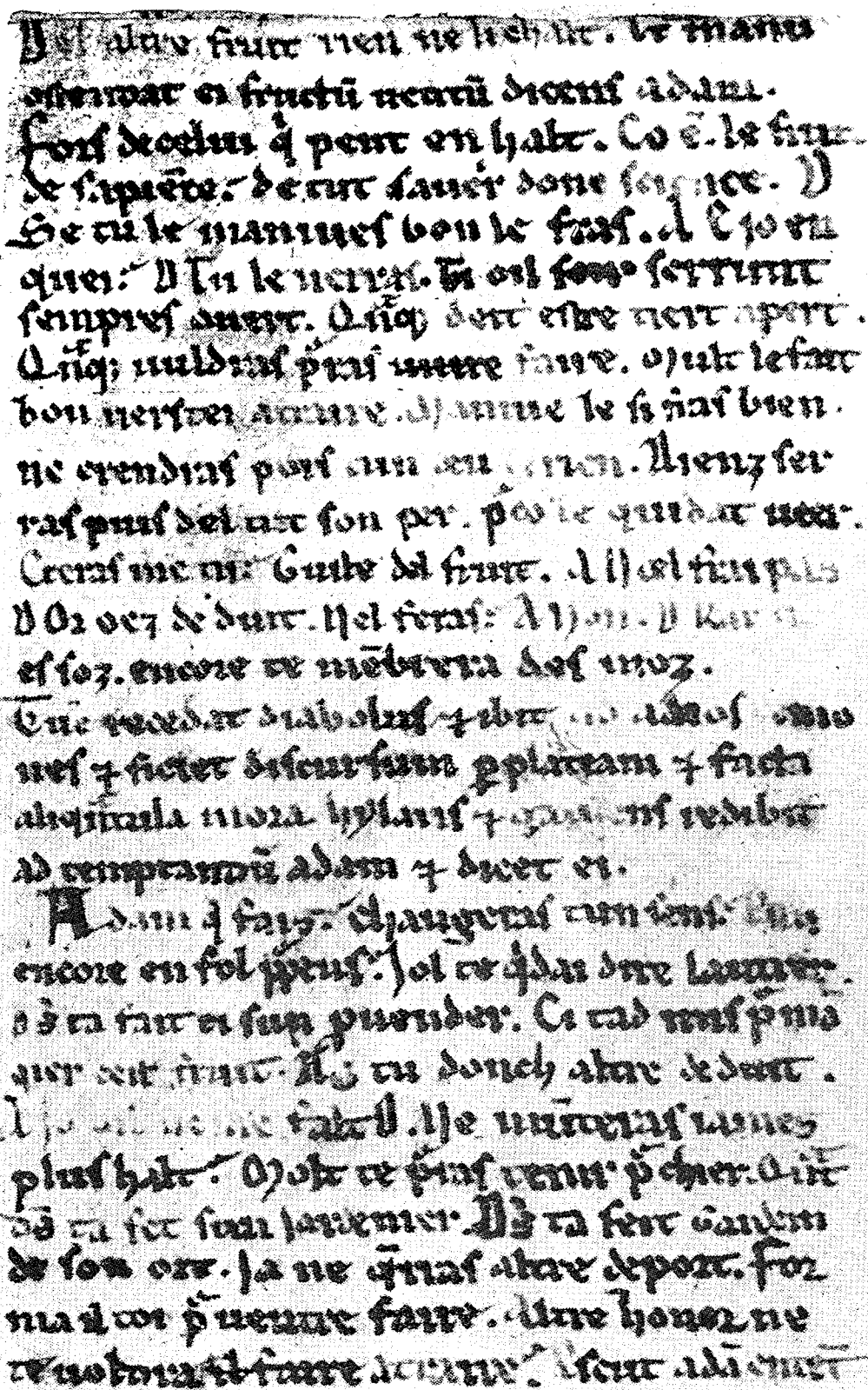
21v



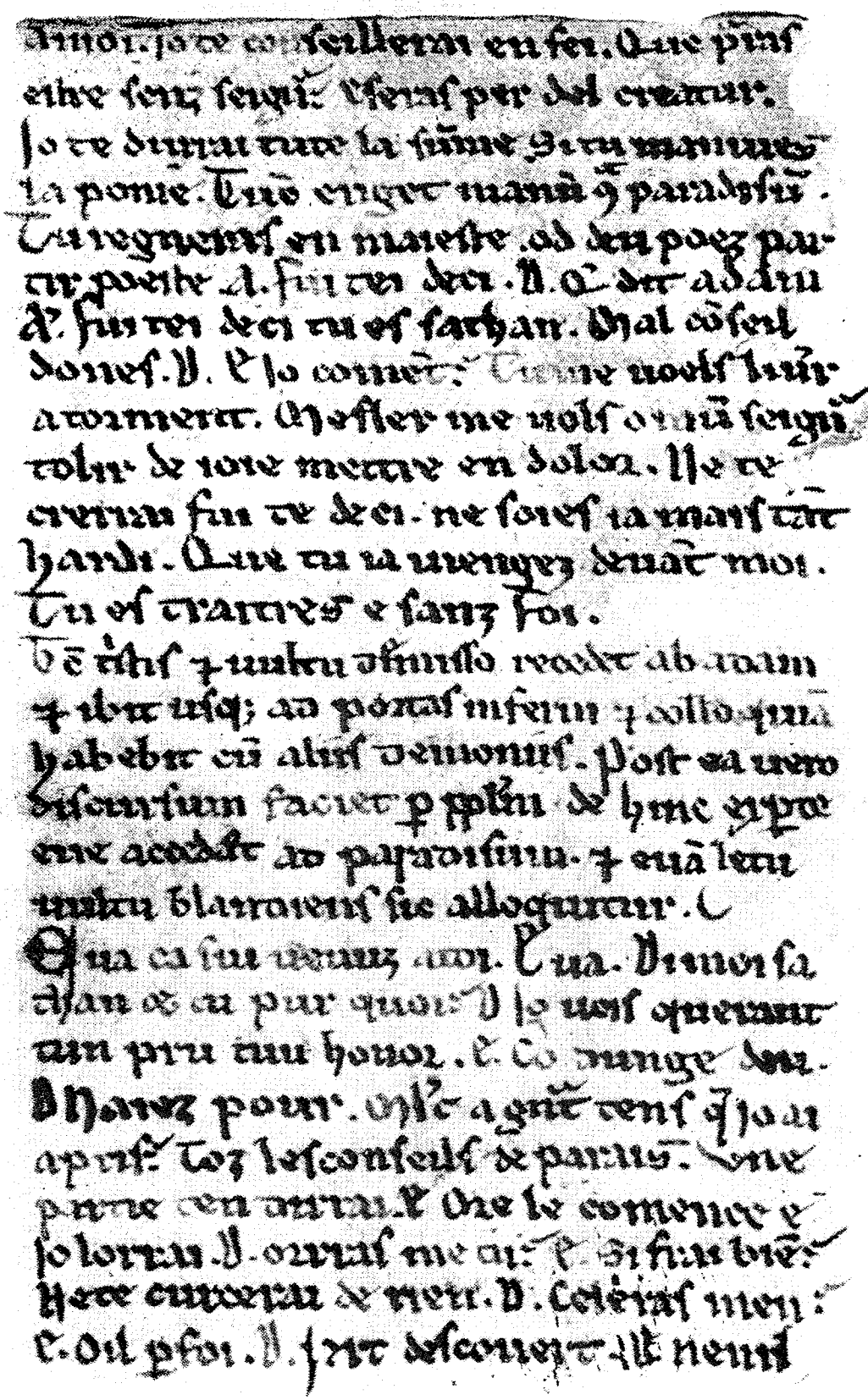


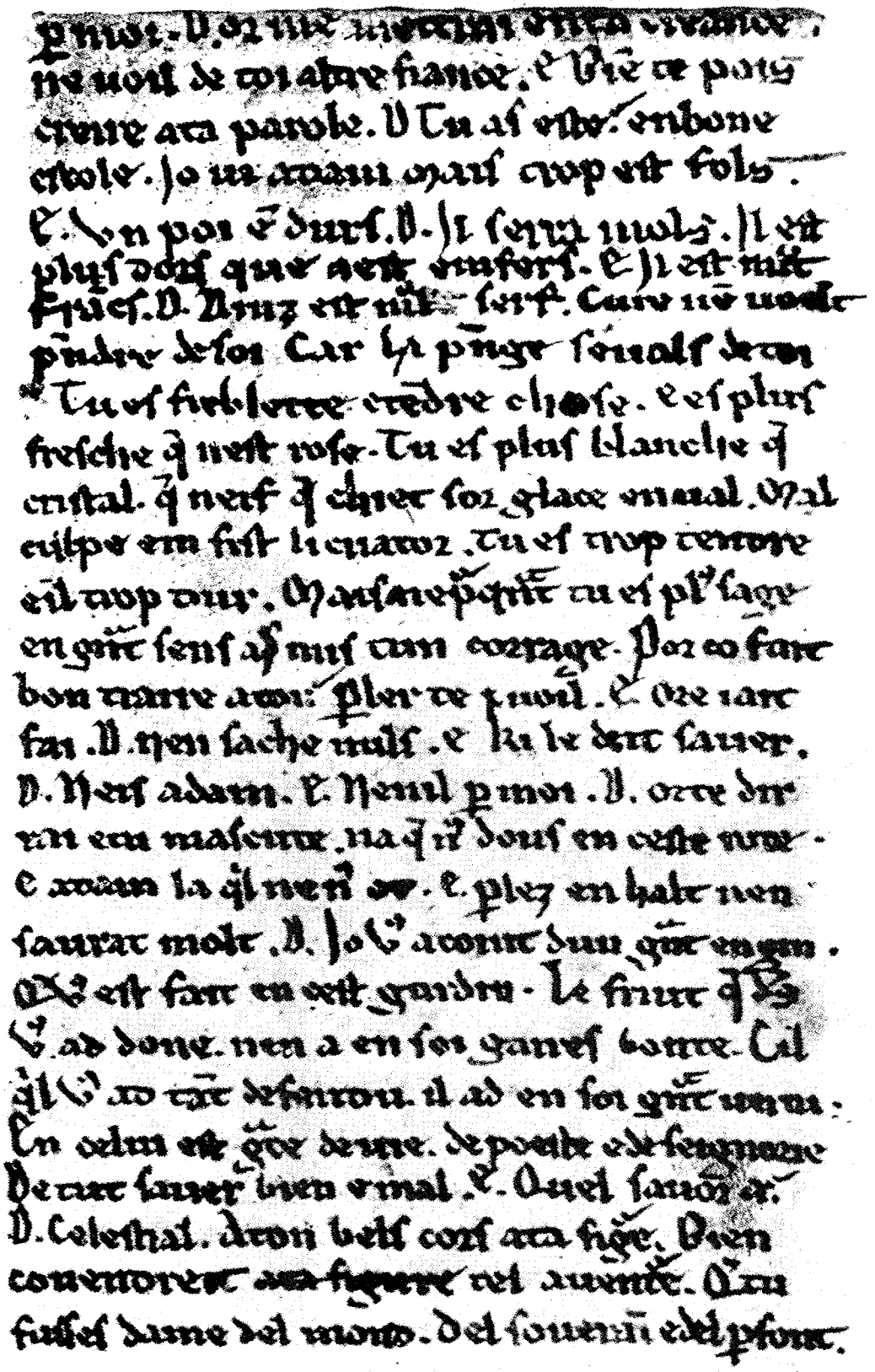
22v



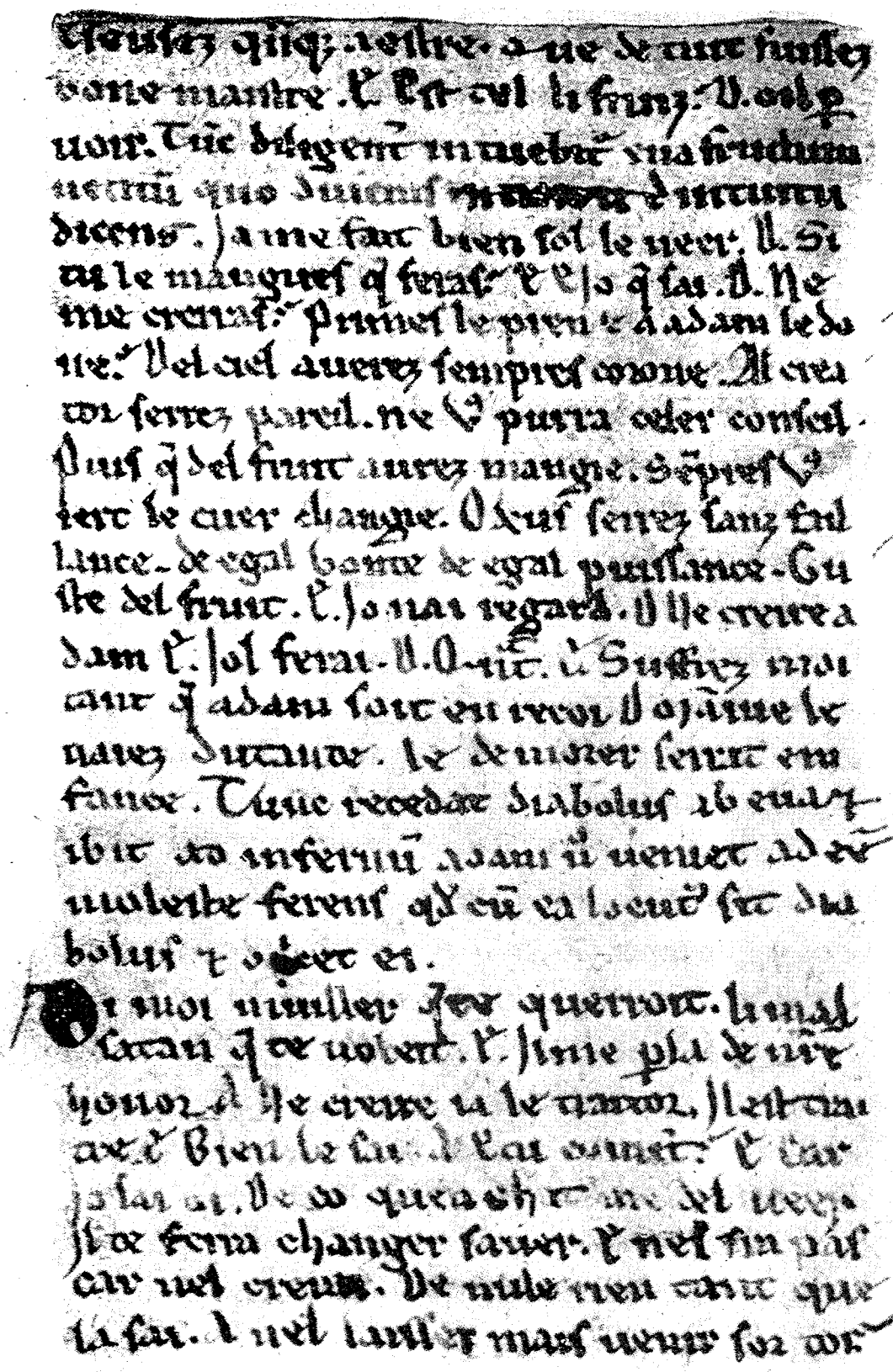


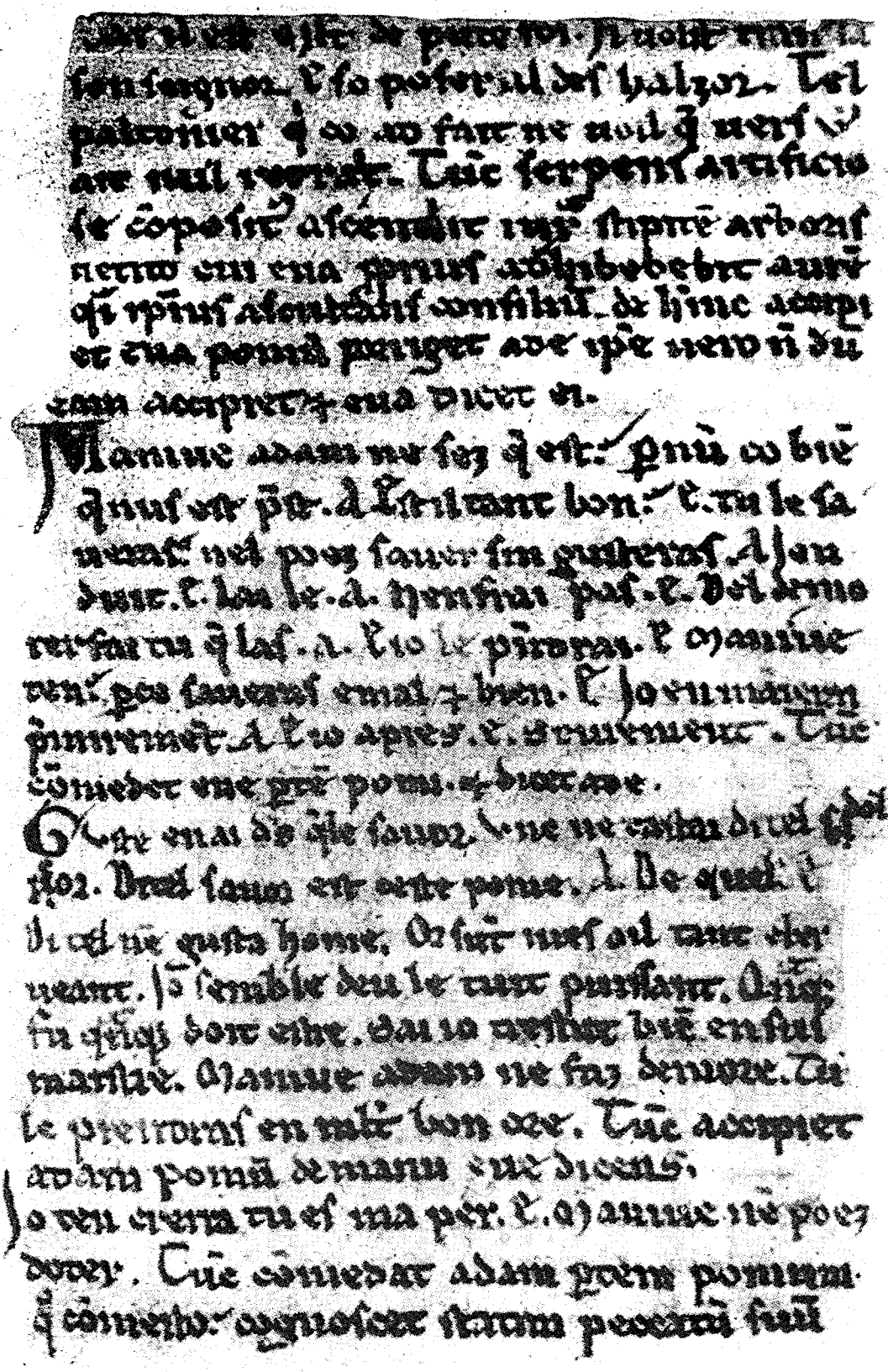
23v

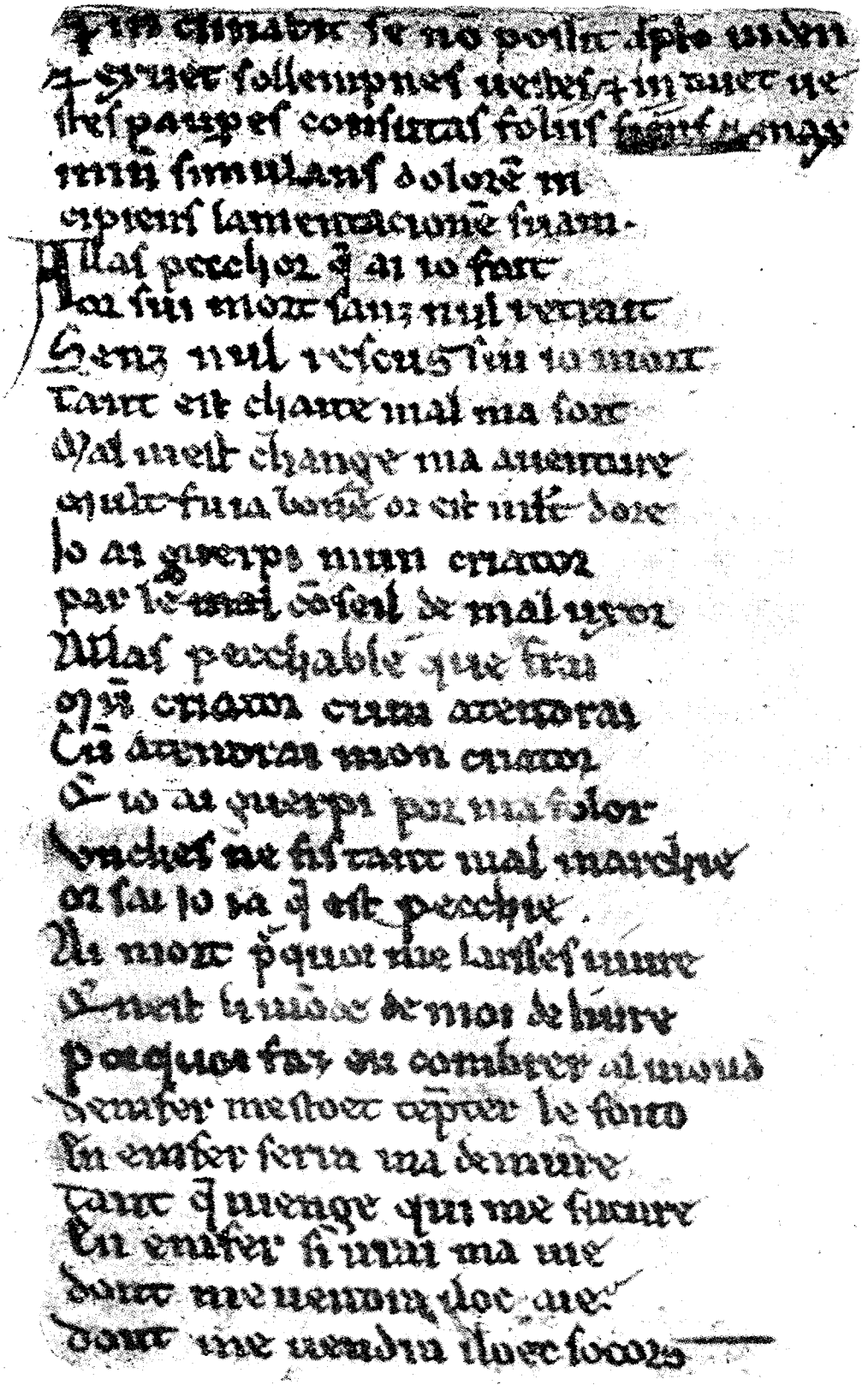


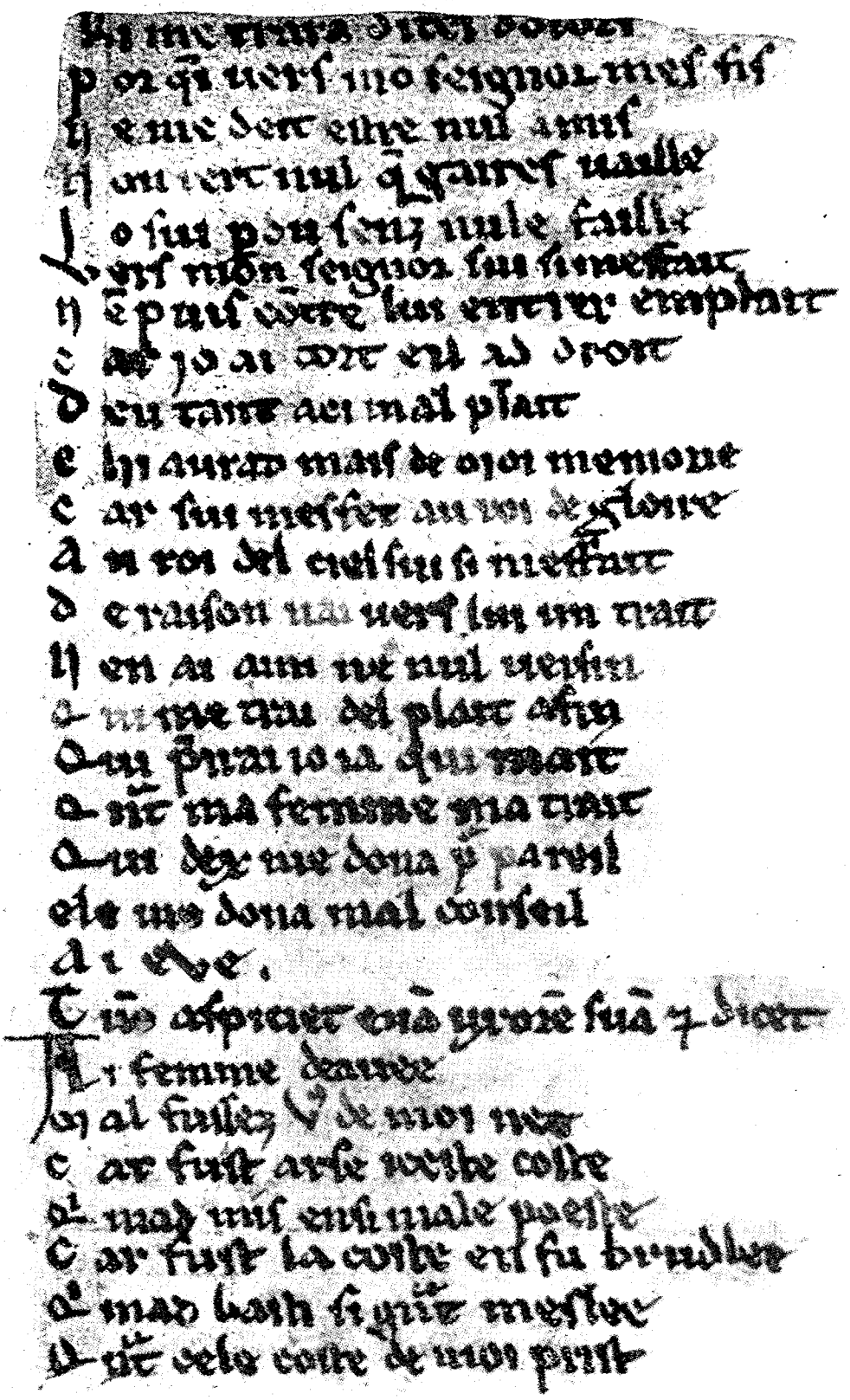


24v

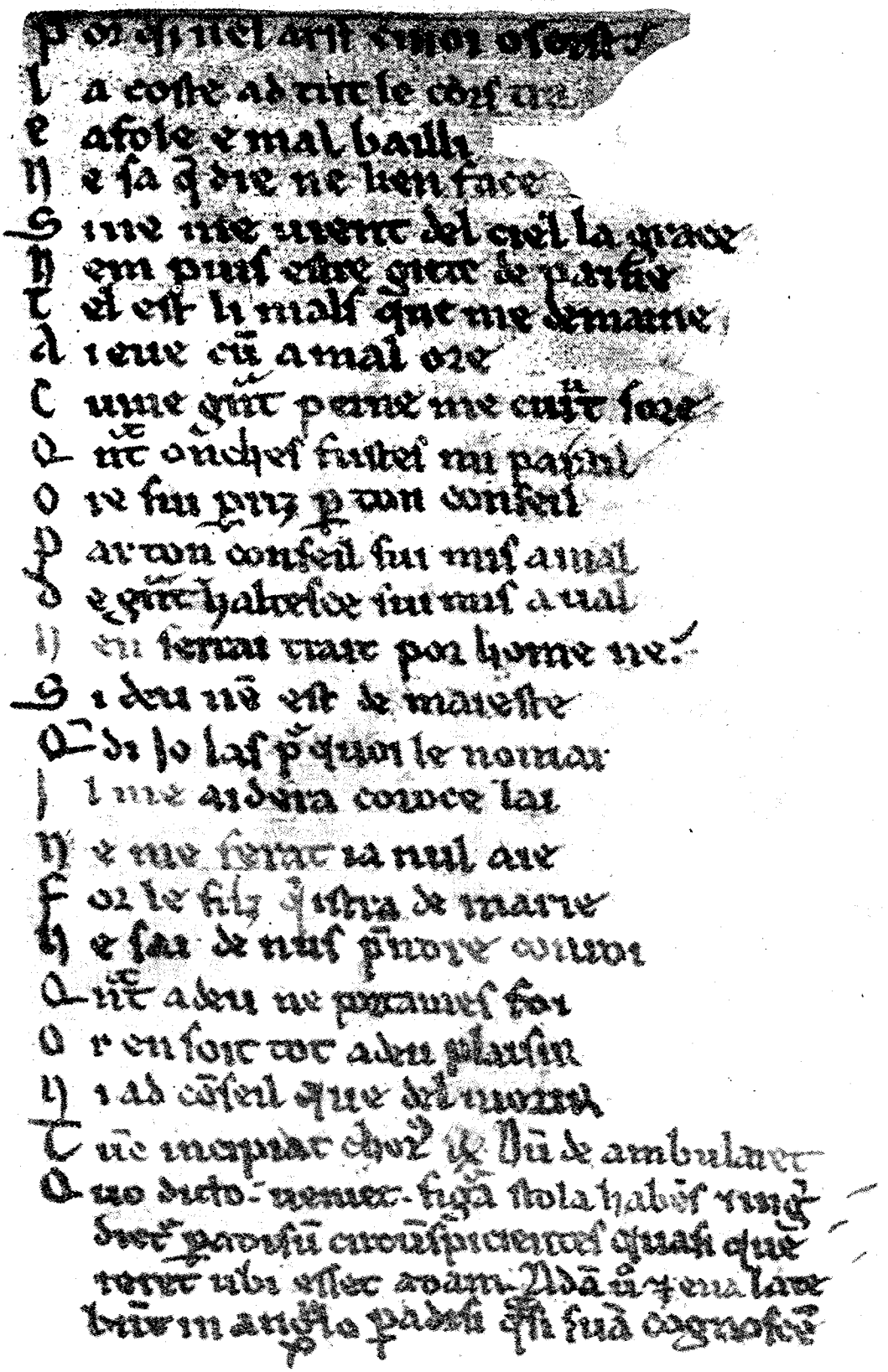








26v

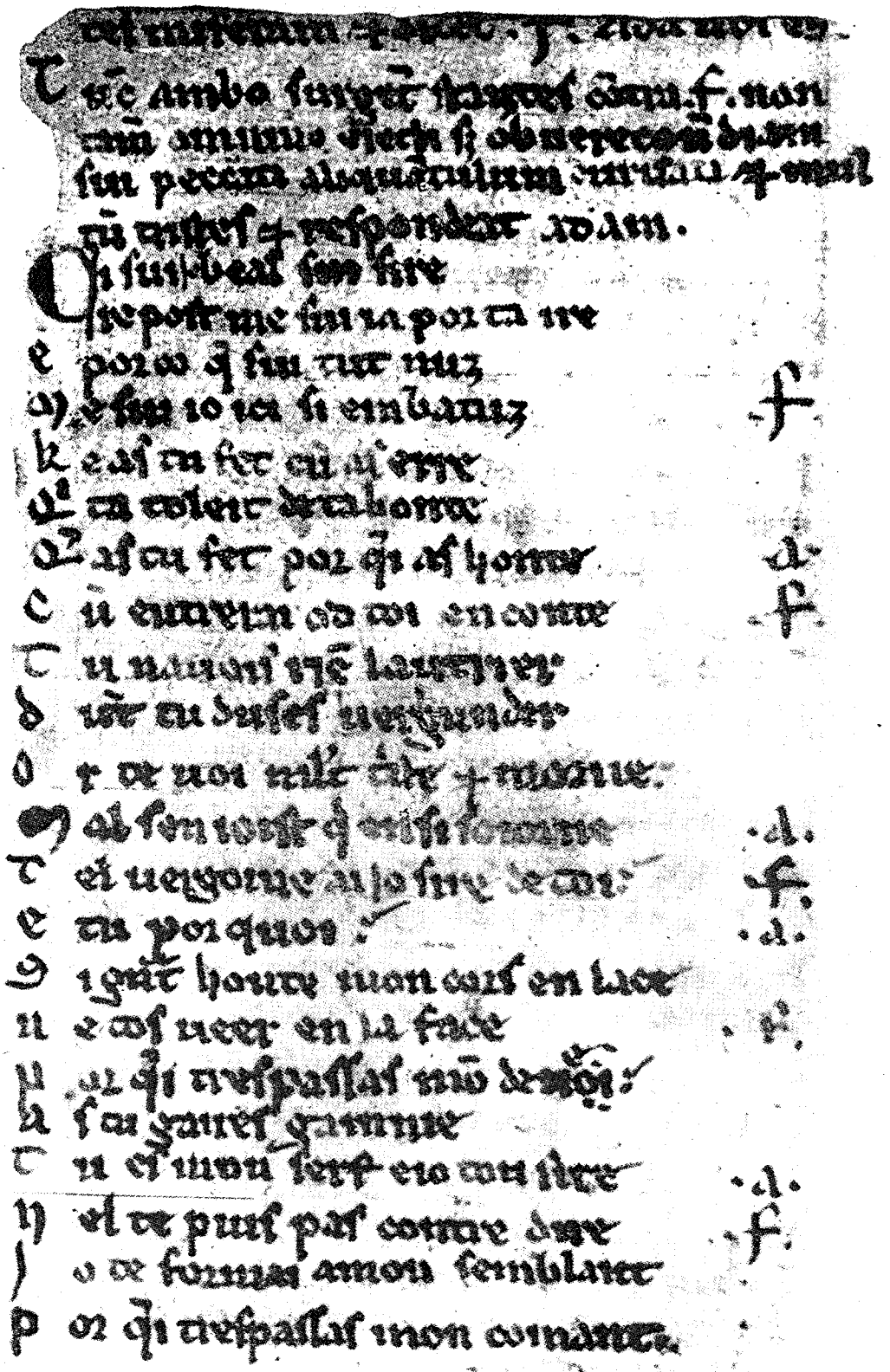


27r

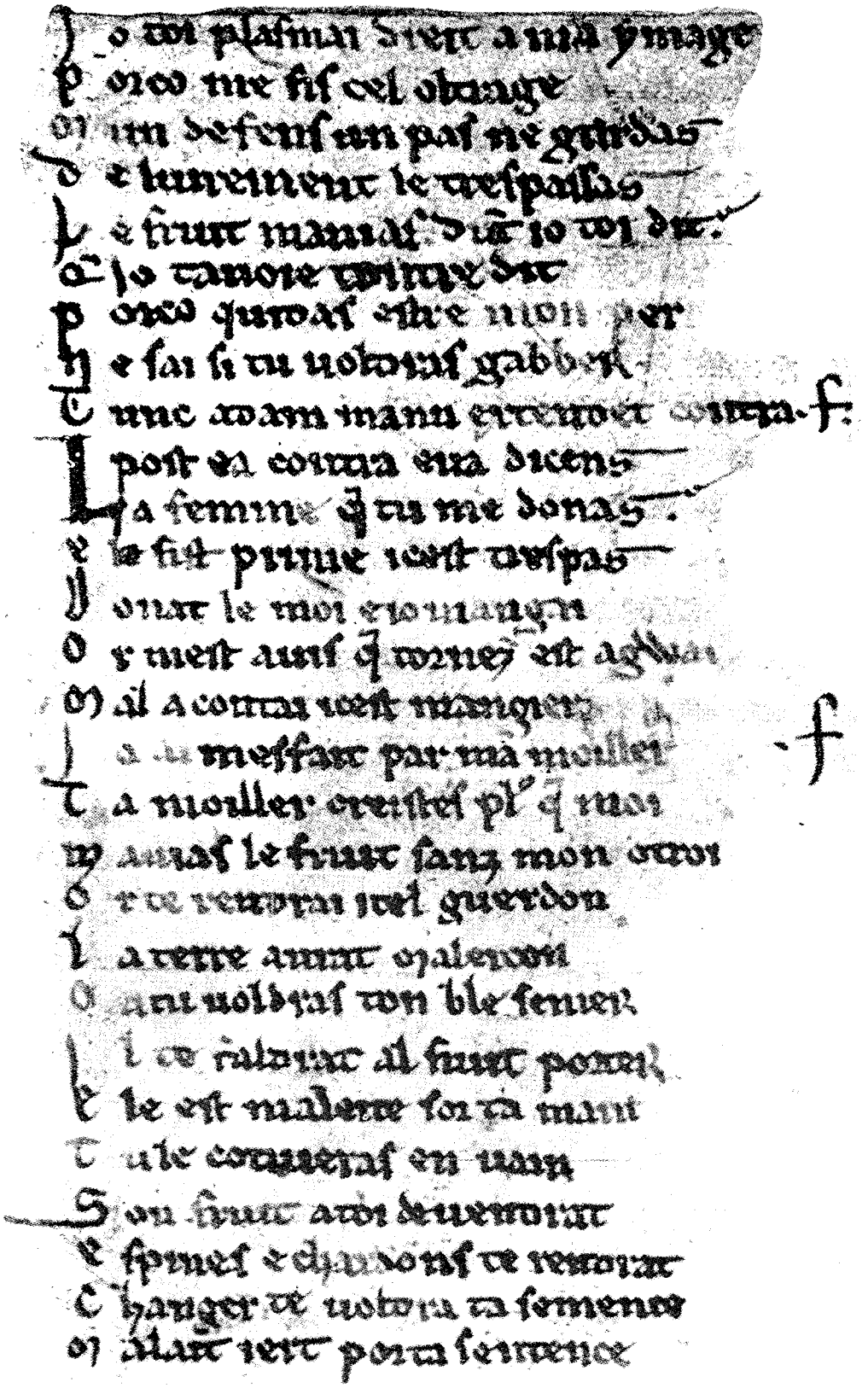
[illegible]

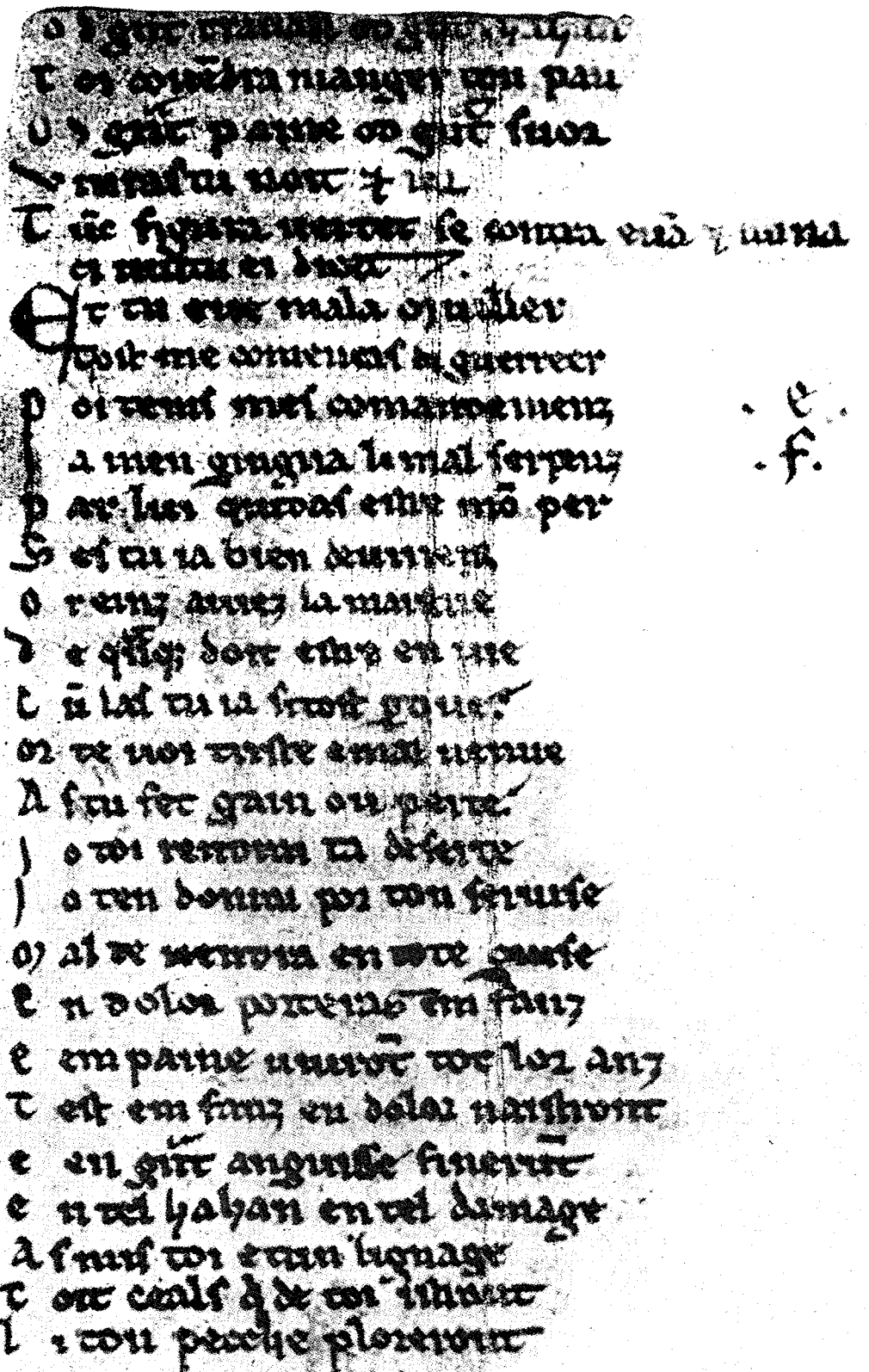
Tunc ambo surgent stantes contra f. non
tamen omnino erecti sed obuere condiam
sui peccati aliquantulum [illegible] et mul
tum tristes et respondent adam.

Qui sui beal sire
Crepost me sui ia por ta ire
e por co que sui tut nuz
me sui io ici si embatuz f.
k e as tu fet cu as erre
Qui ta toleit de ta bonte
Qui as tu fet por qui as honte a.
c u entrerai od toi en conte f.
T u nauois rien lautrier
d uent tu duses uergunder
o r te uoi mult triste et morne.
M al sen ioist qui mi si soiorne a.
T el uergoine ai jo sire de toi f.
e tu por quoi a.
S i gnt honte mon cors en lace
n e tos ueer en la face f.
P or qui trespassas mon deuoi
A s tu gaires gamme
T u es mon serf e io ton sire a.
N el te puis pas contre dire f.
I o te formai a mon semblant
P or qui trespassas mon comant.

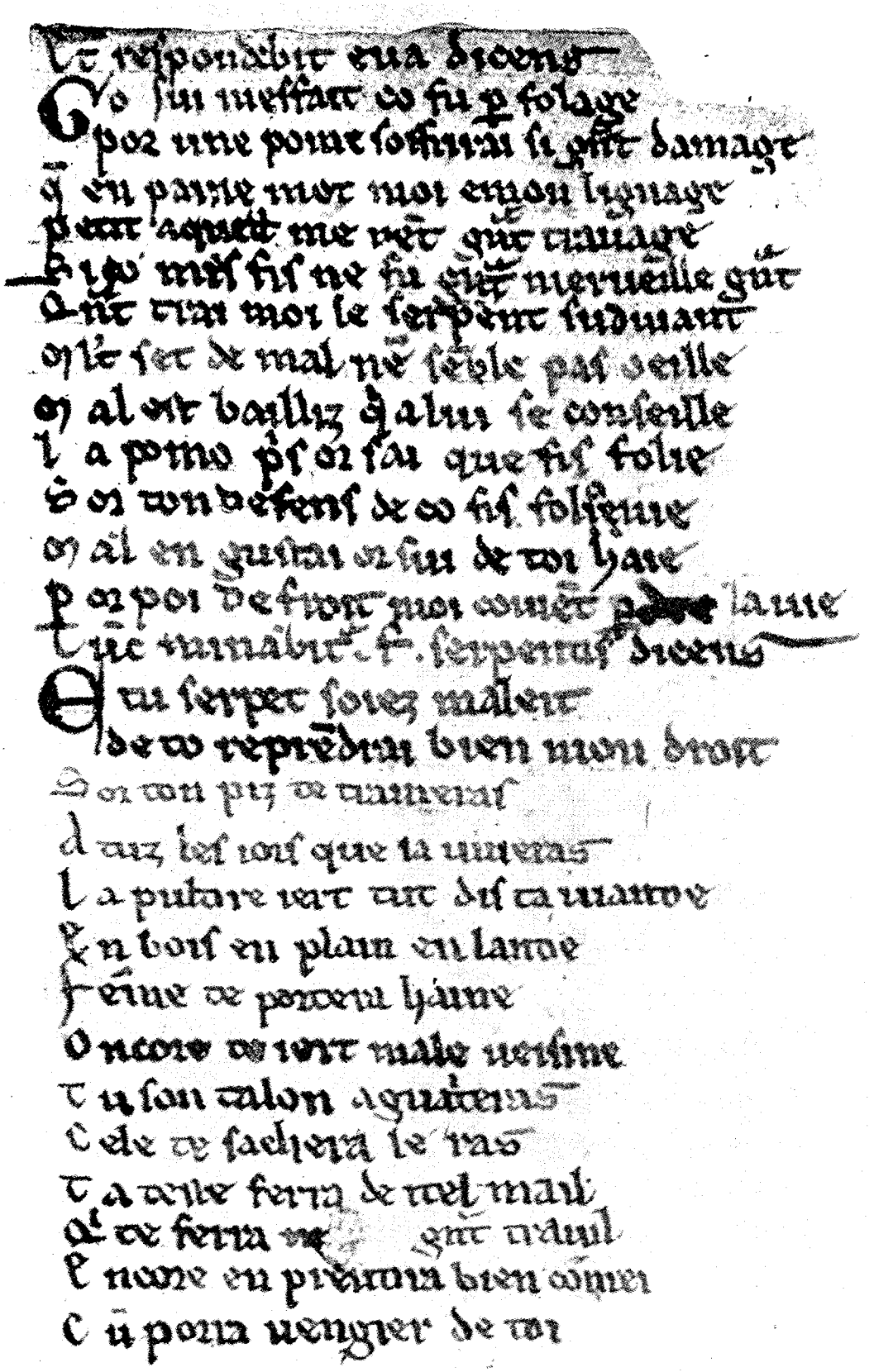


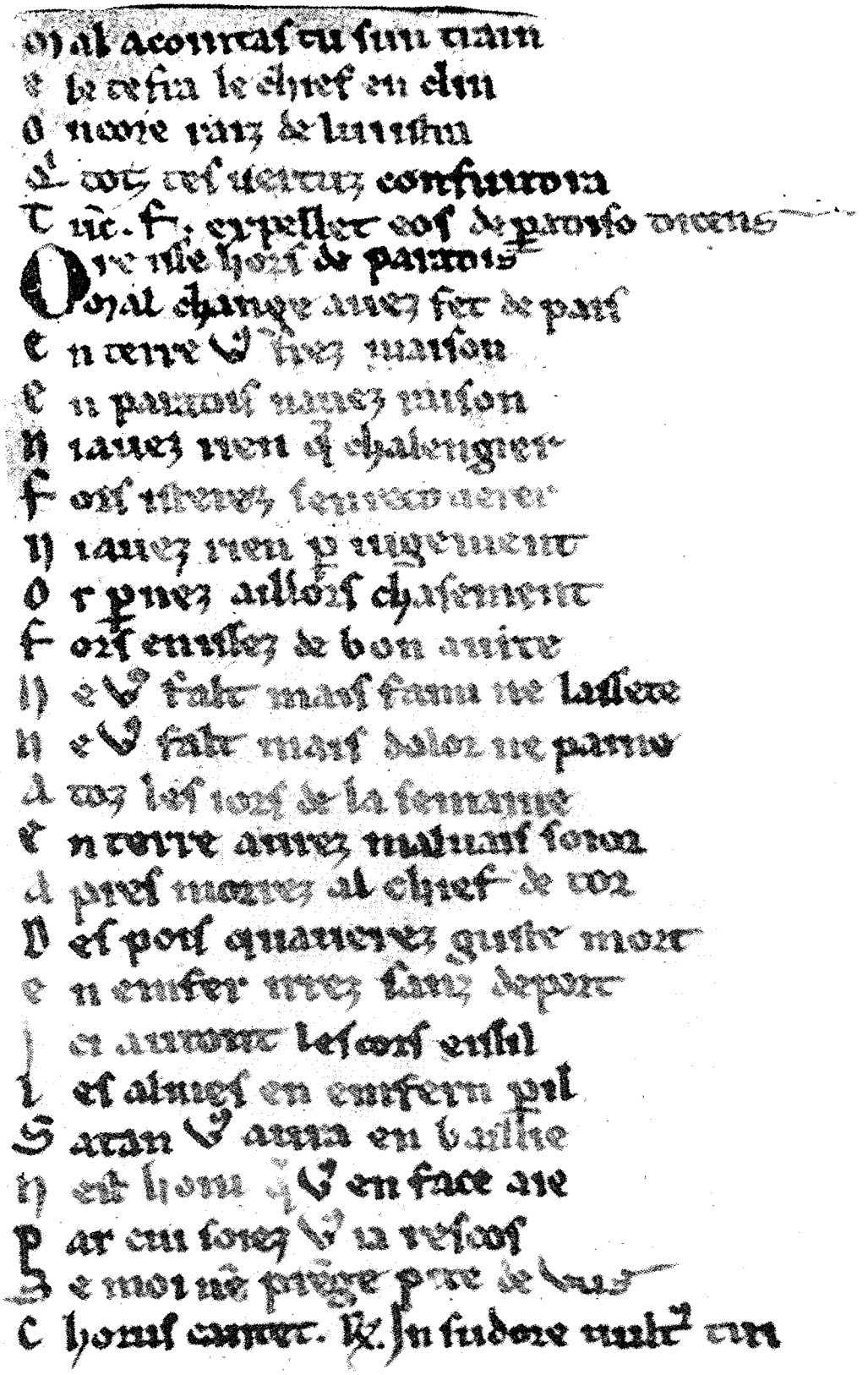
27v



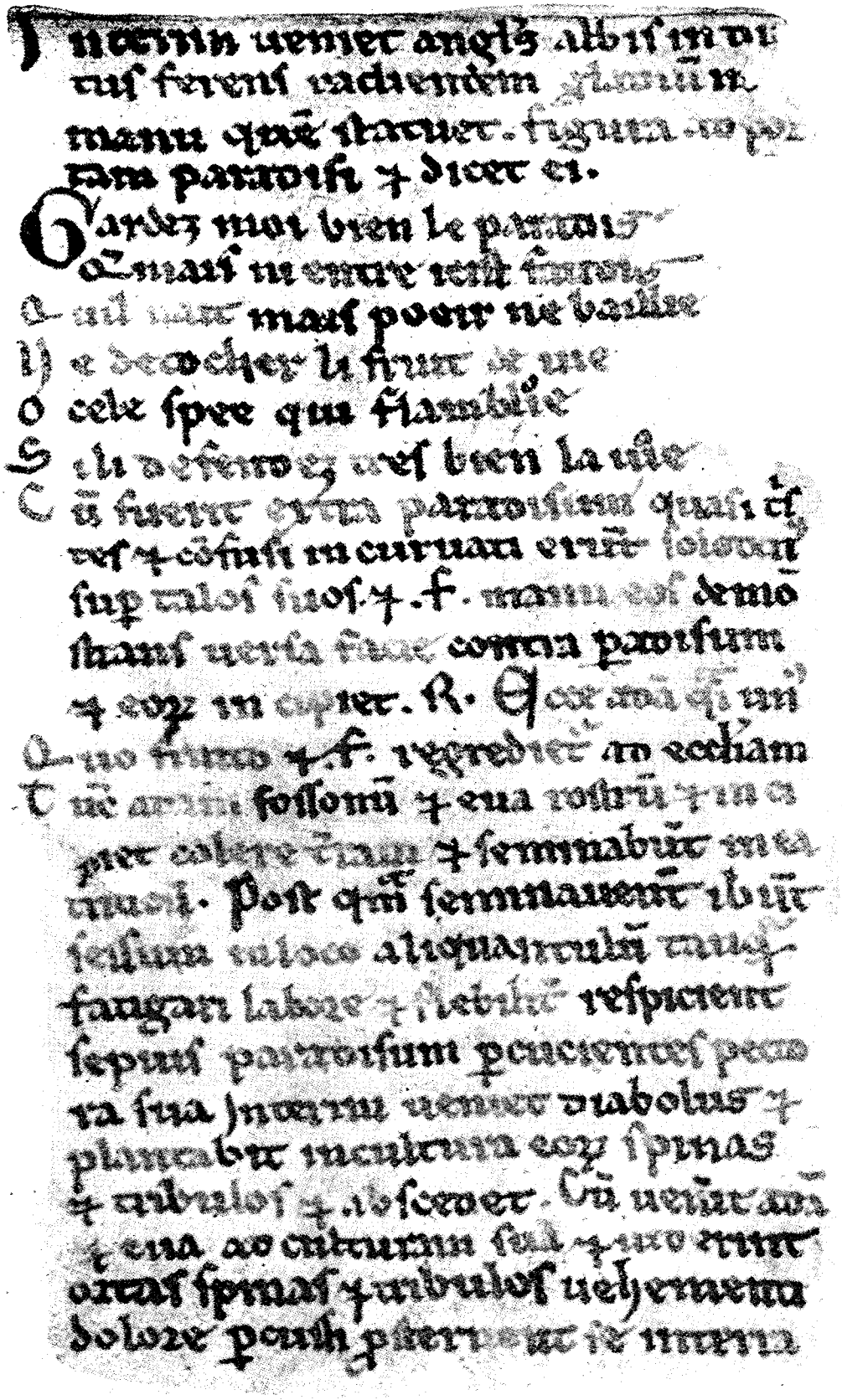


28v





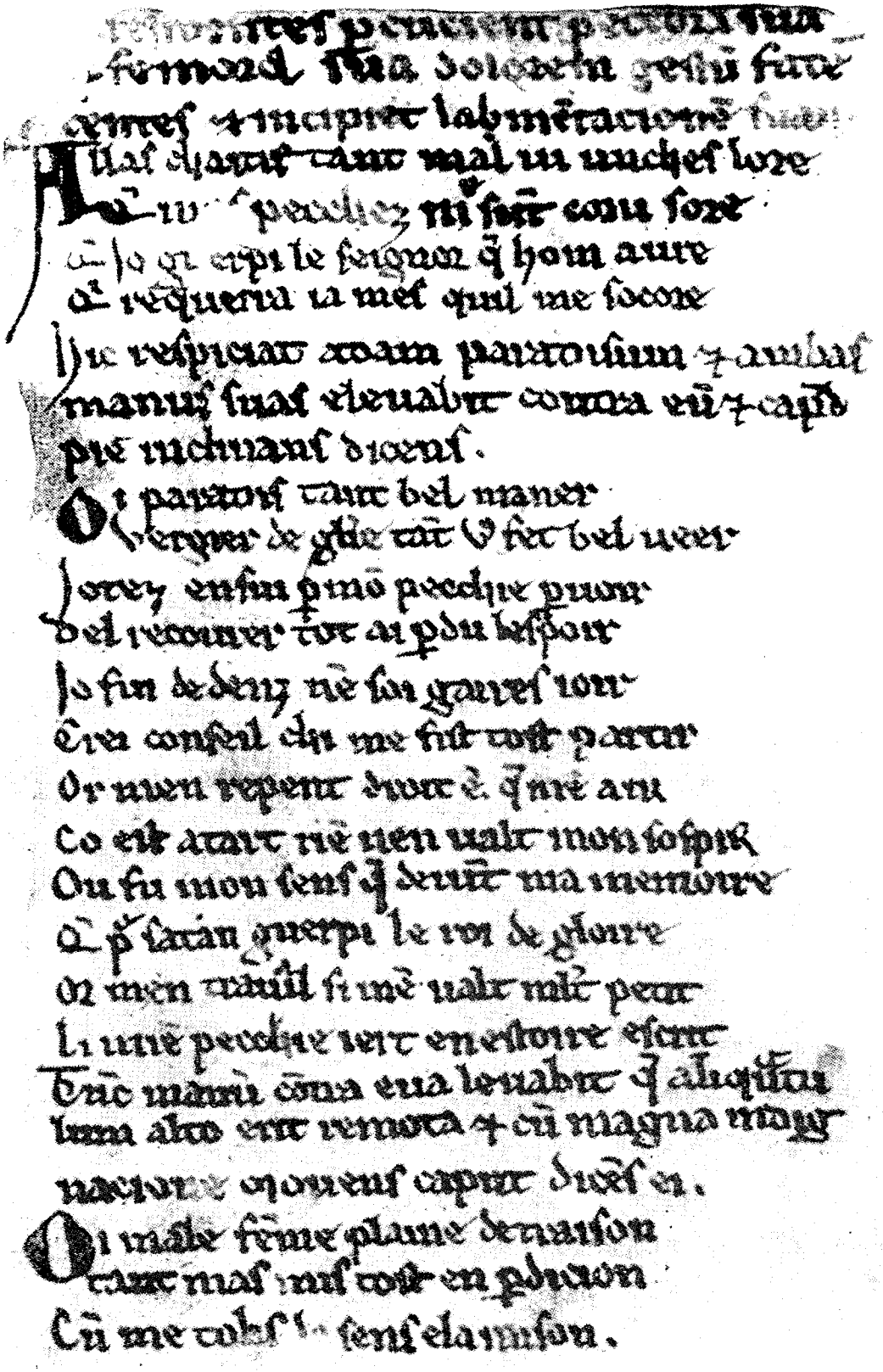
29v



Interim veniet angl's albis in di
tus ferens vachendem gladium in
manu quem statuet. figura ad por
tam paradisi et dicet ei.

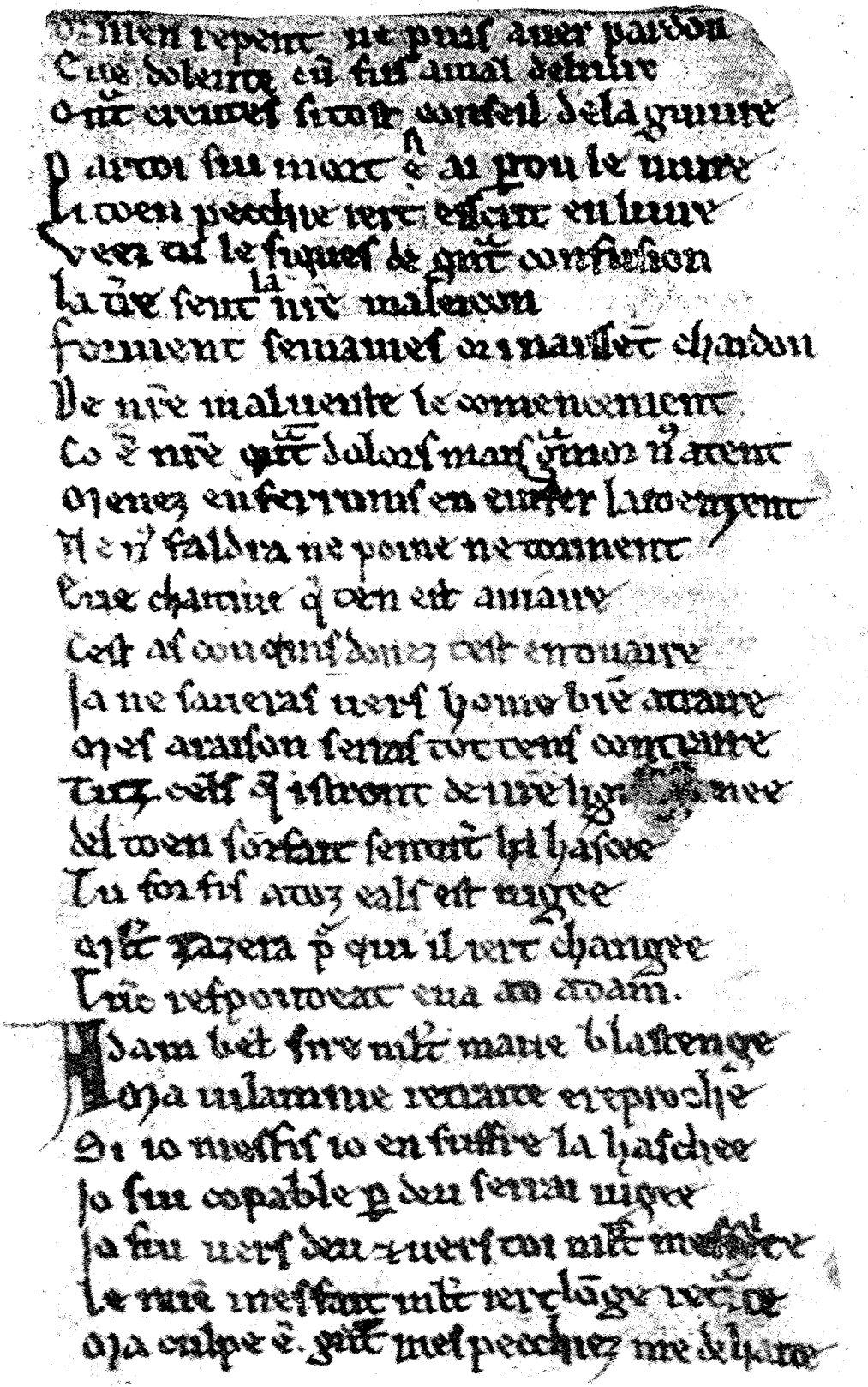
Gardez moi bien le paradis
Qu'mais ni entre icist faudis
Qu'il n'ait mais poeir ne baillie
Ne decocher li fruit de vie
O cele spee qui flambloie
Si li defendez tres bien la voie
Cum fuerint extra paradisum quasi tris
tes et confusi incurvati erunt solo dentes
sup talos suos et .f. manu eos demon
strans versa facie contra paradisum
et eorum incipiet. R. Ecce adam quasi unus
Quo fruito et .f. regredietur ad ecclesiam
Tunc adam fossonum et eva rostrum et in ci
piet colere terram et seminabunt in ea
tinuit. Post quam seminaverunt ibunt
sessum in loco aliquantulum tanquam
fatigari labore et flebiliter respicient
sepius paradisum percucientes pecto
ra sua Interim veniet diabolus et
plantabit in cultura eorum spinas
et tribulos et abscedet. Cum venerint adam
et eva ad culturam suam et viderint
ortas spinas et tribulos vehementi
dolore percussi prosternent se in terra

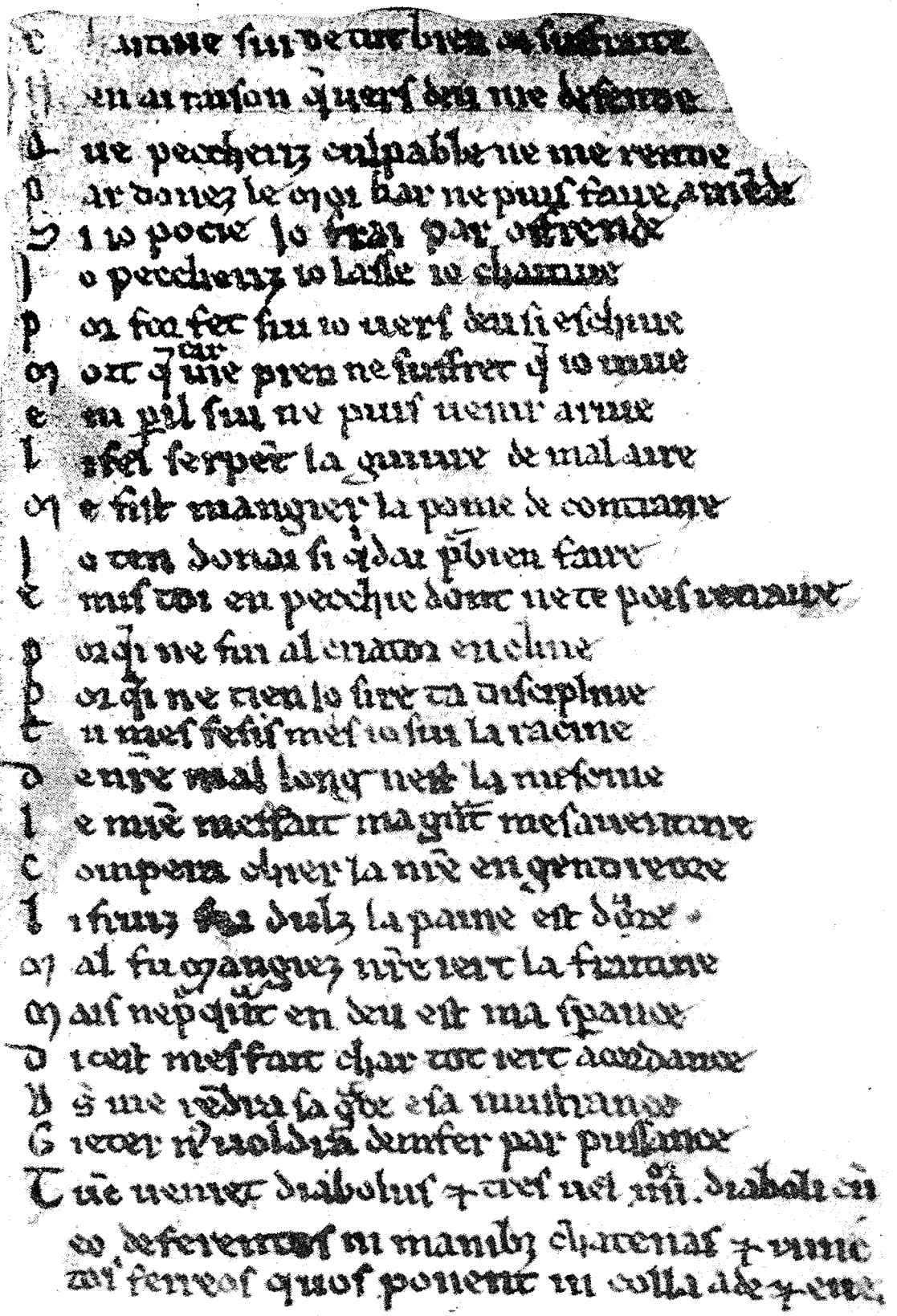
30r



[illegible] percutient pectora sua
[illegible] femora sua dolorem gestu fatentes
[illegible] et incipiet lamentacionem suam
Allas chaitis tant mal ui unches lore
Que [illegible] pecchez mi sunt coru sore
Que jo guerpi le seignor que hom aure
Qui requerra ia mes quil me socore
Hic respiciat adam paradisum et ambas
manus suas eleuabit contra eum et caput
pie inclinans dicens.
Oi paradis tant bel maner
Vergier de glorie tant u fet bel ueer
Jotez ensui per mon pecchie puoir
Del recouurer tot ai perdu lespoir
Jo fui de denz nen soi gaires ioir
Crei conseil chi me fist tost partir
Or men repent droit est que nen aiu
Co est atart nien uen ualt mon sospir
Ou fu mon sens que deuint ma memoire
Que per satan guerpi le roi de gloire
Or men trauail si men ualt mult petit
Li mien pecchie iert en estoire escrit
Tunc manum contra eua leuabit que aliquantu
lum alto erit remota et cum magna moig
nacione mouens caput dicens ei.
Oi male femme plaine de traison
Tant mas mis tost en perdicion
Cum me tolis [illegible] sens ela maison.

30v





31v

* *

Select Bibliography

Anonymous 1550. *A very necessarye boke bothe in Englysshe and in Frenche wherin thou mayst learne to speake and wryte Frenche truly in a litle space yf thou gyve thy mynde and diligence there unto.* London : Nycholas Hyll. [rpt. Menston : Scolar Press, 1967]

Arnold, Ivor. ed. 1934. *Le Roman de Brut de Wace, Société des Anciens Textes Français.*

————. 1937. "Thomas Sampson and the *Orthographia Gallica*", *Med. Aev.* 6. 193-209.

Arnould, E. J. 1939. "Les sources de *Femina nova*", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professer Mildred K. Pope.* Manchester. 1-9.

Audiau, J. 1927. *Les Troubadours et l'Angleterre. Contribution à l'étude des poètes anglais de l'amour au moyan âge, XIIIe et XIVe siècles.* Paris.

Baker, John H. 1979. *Manual of Law French.* Avebury : Avebury Press. [Second ed., 1989]

————. 1989. "A French Vocabulary and Conversation Guide in a Fifteenth-Century Legal Notebook", *Med. Aev.* 58. 80-102.

Bar, Francis. 1982. "Raoul le Tourtier et la chanson de geste d'*Ami et Amile*", *La chanson de geste et le mythe carolingien* (*Mélanges René Louis publiés par ses collègues, ses amis et ses élèves à l'occasion de son 75e anniversaire*), Saint-Père-sous-Vézelay. II, 973-86.

Barnett, F. J. 1984. "*Nihil in textu nisi quoque in intellectu* : That *n̄ lostanit* Passage in the *Strasbourg Oaths*", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid.* ed. Ian Short. London. 33-40.

Baugh, A. C. 1959. "The Date of Walter of Bibbesworth's *Traité*", *Festschrift für Walther Fischer.* Heidelberg. 21-33.

———— & Thomas Cable. 1978. *A History of the English Language.* Prentice-Hall.

Beaulieux, Charles. 1904. "Liste des dictionnaires, lexiques et vocabulaires français antérieurs au *Thrésor* de Nicot (1606)", *Mélanges de philologie offerts à Ferdinand Brunot.* Paris : Société nouvelle de librairie et d'édition. 371-398.

————. 1913. "Le premier traité d'orthographe française imprimé", *Mélanges offerts à M. Emile Picot, membre de l'Institut, par ses amis et ses élèves.* vol. 2, Paris : Morgand / Rahir. 557-568.

Bedier, Joseph. ed. 1954. *La Chanson de Roland.* Piazza.

Bell, A. 1962. "Notes on Walter of Bibbesworth's *Treatise*", *Philological Quarterly* 41. 361-72.

————. 1993. "The Anglo-Norman *Description of Britain* : An Edition", *Anglo-Norman Anniversary Essays.* London. 31-47.

Berndt, Rolf. 1965. "The Linguistic Situation in England From the Norman Conquest to the Loss of Normandy (1066-1204)", *Philologica Pragensia* 8. 145-163. [rpt. *Approaches to English Historical Linguistics. An Anthology.* ed. Roger Lass, 369-391. New York : Holt, Rinehart and Winston, 1969]

————. 1972. "The Period of the Final Decline of French in Medieval England", *Zeitschrift für Anglistik und Amerikanistik* 20. 341-369.

————. 1976. "French and English in Thirteenth-Century England. An Investigation into the Linguistic Situation after the Loss of the Duchy of Normandy and Other Continental Dominions", *Sitzungsberichte der Akademie der Wissenschaften der DDR, Gesellschaftswissenschaften* 1G. 129-150.

Bischoff, B. 1961. "The Study of Foreign Language in the Middle Ages", *Speculum* 36. 209-224.

Blacker, J. 1993. "Ne vuil sun livre translater" : Wace's Omission of Merlin's Prophecies from the *Roman de Brut*, *Anglo-Norman Anniversary Essays.* London. 49-59.

Blake, Norman Francis. 1965. "The *Vocabularie in French and English* Printed by William Caxton", *English Language Notes* 3. 7-15.

Bolland, W. C. 1912. 'Of a treatise on medieval French orthography', *Eyre of Kent, 6 & 7 Edward II, 1313-14*, Selden Society 27. London. II. xliii-li.

Brandin, Louis. 1939. "Le dit des trois signes" *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 11-20.

Brereton, Georgine E. 1939. "Some Grammatical Changes made by Two Continental Revisers of the Anglo-Norman Prose Version of *Des Grantz Geanz*", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 21-28.

Brunner, Karl. 1960 & 62. *Die englische Sprache*. 2 vol. Tubingen.

Burgess, G. S. 1993. "Repetition and Ambivalence in the *Anglo-Norman Voyage of St. Brendan*", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 61-74.

————. 1994 "The Term *Chevalerie* in Twelfth-Century French", *Medieval codicology, iconography, literature and translation : studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden ; New York. 343-58.

Busby, K. 1993. "The Text of Chrêtien's *Perceval* in MS London College of Arms Arundel XIV", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 75-85.

Cahill, E., S. J. 1938. "Norman French and English Languages in Ireland 1170-1540", *Irish Ecclesiastical Record* 51. 159-173.

Caxton, William. 1480. *Dialogues in French and English*. London : Caxton. (Editions by Henry Bradley, London : EETS. 1900.)

Cerquiglini, B. 1981. *la Parole médiévale*. Paris.

Chambers, Raymond W. ed. 1914. *A Fifteenth Century Courtesy Book*. EETS 148. London.

Chesney, Kathleen. 1939. "A Fifteenth-century Miscellany. Notes on *MS. Douce* 252", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 61-70.

Creytens, Raymond. 1946. "Le Manuel de Conversation de Philippe de Ferrare", *Archivum Fratrum Praedictorum* 16. 107-35.

Damian-Grint. 1993. "A 12th-century Alglo-Norman *Brut* Fragment (MS BL Harley 4733, f. 128)", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 87-104.

Dean, Ruth J. 1939. "An Essay in Anglo-Norman Palæography", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 79-87.

————. 1939. "Anglo-Norman Studies", *Romanic Review* 30. 3.

————. 1954. "A Fair Field Needing Folk : Anglo-Norman", *PMLA* 69. 965-78.

De Mandach, A. 1993. "*The Creation* of Herman de Valenciennes : An Unpublished Anglo-Norman Mystery Play of the 12th century", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 251-272.

Dembowski, P. F. ed. 1969. *Ami et Amile*, CFMA 97. Paris.

Diverres, A. H. 1984. "The Life of Saint Melor", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 41-53.

Dobbie, Elliott Van Kirk. ed. 1958. *The Anglo-Saxon Minor Poems*. Columbia Univ. Press.

Dufournet, Jean. ed. 1987. *Ami et Amile : une chanson de geste de l'amitié*. Paris.

Emerson, Oliver F. 1916. "English or French in the Time of Edward III", *Romanic Review* 7. 127-143.

Evans, D. 1993. "The Taxonomy of Bird-naming in Anglo-Norman and in Channel Island Patois", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 105-134.

Ewert, Alfred. 1934. *A Fourteenth-Century Latin French Nominale (St. John's College, Oxford, Ms. No. 178)*, *Med. Aev.* 3. 13-18.

————. 1939. "On the Text of Beroul's *Tristran*", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 89-98.

————. 1956. *The Glasgow Latin French Glossary*, *Med. Aev.* 25, 154-163.

Formisano, L. 1993. "Le Chansonnier anglo-français du ms. Rawlinson G. 22 de la Bodléienne", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 135-147.

Foulet. Lucien. 1939. "Tous les combien passe-t-il?", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 103-114.

French, Walter Hoyt and Hale, Charles Brockway, ed. 1964. *Middle English Metrical Romances*. Russell & Russell. Inc.

Fukui, H. 1993. "The All Souls Continuation of the *Maniere de langage", Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 149-157.

Gessler, Jean. 1931. *Le livre des mestiers de Bruges et ses dérivés*. Bruges: Fondation universitaire de Belgique.

———. 1933. *Fragments d'anciens Traités pour l'Enseignement du français en Angleterre. Paris*.

———. 1934. *La manière de langage qui enseigne à bien parler et écrire le français: modèles de conversation composés en Angleterre à la fin du XIVe siècle*. Paris: Droz.

———. 1940. "Deux manuels de conversation imprimés en Angleterre au XVe siècle par deux élèves de William Caxton", *Leuvensche Bijdragen* 32. 93-126.

———. ed. 1941. *Deux manuels de conversation*. Brussels.

Gieben, Servus. 1967. "Robert Grosseteste and Medieval Courtesy Books", *Vivarium* 5. 47-78.

Glixelli, Stefan. 1918. "Les Contenances de Table", *Romania* 47. 1-40.

Gollancz, Israel. ed. 1964. *Sir Gawain and the Green Knight*. Oxford Univ. Press, EETS.

Harvey, R. E. 1993. "*En sa Veillesce set li prodom*", *Anglo-Norman Anniversary Essays*, London. 159-178.

Heinimann, Siegfried. 1966. "*L'Ars minor de Donat traduit en ancien français*", *Cahiers Ferdinand de Saussure* 23. 49-59.

Highfield, John R. 1950. "A Note on the Introduction of English into the Proceedings of the Convocation of Canterbury in the reign of Edward III", *Med. Aev.* 19. 60-63.

Hill, G. 1904. *Some Consequences of the Norman Conquest*.

Hofmann, Konrad. ed. 1882. *Amis et Amiles und Jourdains de Blaivies*. Erlangen.

Holden, A. J. ed. 1979. *Ipomedon*. Paris.

Holt, James C. 1976. "A Vernacular Text of the Magna Carta, 1215", *English Historical Review* 89. 346-364.

Holtz, Louis. 1981. *Donat et la tradition de l'enseignement grammatical*. Paris: CNRS.

Hope, T. H. 1971. *Lexical Borrowing in the Romance Languages*. vol. 2. Oxford.

Hunt, Tony. 1979. *Vernacular glosses in medieval manuscripts*, *CN* 39. 9-37.

———. 1979. *Les gloses en langue vulgaire dans les manuscrits de l'Unum omnium de Jean de Garlande*, *RLiR* 43. 162-178.

———. 1979. *Les gloses en langue vulgaire dans les manuscrits de De Nominibus Ustensilium d'Alexandre Nequam*, *RLiR* 43. 235-262.

———. 1979. *The vernacular entries in the Glossae in Sidonium (Ms. Oxford. Digby* 172), *ZfS* 89. 130-150.

———. 1980. *The Anglo-Norman Vocabularies in Ms. Oxford Bodleian Library, Douce 88, Med. aev.* 49. 5-25.

———. 1981. "The Trilingual Vocabulary in MS Westminster Abbey 24 / 11", *Notes & Queries* 28. 14-15.

———. 1984. "*Une Petite Sume de les set pechez morteus* (MS London B. L. Harley 4657)", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid.* ed. Ian Short. London. 65-98.

———. 1993. "Anglo-Norman Medical Receipts", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 179-233.

———. 1994. "An Anglo-Norman Treatise on the Religious Life", *Medieval codicology, iconography, literature and translation: studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden; New York. 267-75.

Ikegami, T. ed. 1983. *The Lyfe of Ipomydon*. 2 vol. Tokyo.

Jeffrey, D. L. and B. J. Levy. ed. 1990. *The Anglo-Norman Lyric : An Anthology*. Pontifical Institute of Mediaeval Studies.

Johnston, R. C. 1939. "How close *O* tonic and free became *Ö*. A Discussion Of Some Current Theories", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 215-224.

———. 1987. *Orthographia Gallica* (*Anglo-Norman Text Society, Plain Text Series*, 5). London : Anglo-Norman Text Society.

Jud, J. 1939. "Observations sur le lexique de la Franche-Comté et du francoprovençal", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 225-240.

Kahane, Henry & Renée Kahane. 1979. "Decline and Survival of Western Prestige Languages", *Language* 55. 183-198.

Kibbee, Douglas A. 1991. *For to Speke Frenche Trewely*. Amsterdam / Philadelphia : John Benjamins Publishing Company.

Kölbing, Eugen. ed. 1884. *Amis and Amiloun*, Altenglische Bibliothek 2. Heilbronn. lxxiii-lxxvi (intro.), 111-187 (text).

Kristol, A. M. 1993. "La prononciation du français en Angleterre au XVe siècle", *Mélanges de philologie et de littérature médiévales offerts á Michel Burger*.

Lambley, K. 1920. *The Teaching and Cultivation of the French Language in England during Tudor and Stuart Times, with an Introductory Chapter on the Preceding Period*. Manchester.

Langlois, Charles-Victor. 1893. "Les Anglais du moyen âge d'après les sources françaises", *Revue Historique* 52. 298-315.

Leader, Damian R. 1983. "Grammer in late-medieval Oxford and Cambridge", *History of Education* 12. 9-14.

Leaeh, MacEdward. ed. 1960. *Amis and Amiloun*. Oxford Univ. Press, EETS.

Lecoy, Félix. 1994. "Sur la vraie valeur de l'expression *perdre l'alleluya*", *Medieval codicology, iconography, literature and translation : studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden ; New York. 359-60.

Lefèvre, Yves. 1973. "De l'usage du français en Grand-Bretagne á la fin du XIIe siècle". *Études de langue et de littérature du moyen âge, offertes à Felix Lecoy*. Paris : Champion. 301-305.

Legge, M. D. 1939. "William of Kingsmill—A Fifteenth-Century Teacher of French in Oxford", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professer Mildred K. Pope*. Manchester. 241-246.

———. 1976. "L'anglo-normand : langue coloniale ?", *Actes du 13e congrès international de linguistique et philologie romanes* ed. Marcel Boudreault & Frankwalt Möhren, 85-91. Québec : Presses universitaires de l'Université Laval.

———. 1979. "Anglo-Norman as a Spoken Language", *Anglo-Norman Studies* 2. 108-117.

Le Saux, Françoise. ed. 1993. *Amys and Amylion*. Univ. of Exeter Press.

Lusignan, Serge. 1987. *Parler vulgairement : Les intellectuels et la langue française aux XIIIe et XIVe siècles*. Vrin PUM.

Macbain, W. 1993. "Anglo- Norman Women Hagiographers", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 235-250.

Malkiel, Y. 1984. "The Discovery in Old French Phonology of the *niece, piece, tierç, cierge* Type", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 99-118.

Marshall, J. H. 1984. "Textual Transmission and Complex Musico-metrical Form in the Old French Lyric", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 119 -148.

Matzke, John E. 1905-6. "Some Examples of French as Spoken by Englishmen in Old French Literature",

Modern Philology 3. 47-60.

McKnight, George H. 1962. *King Horn, Floris and Blauncheflur, The Assumption of Our Lady*. Oxford Univ. Press, EETS.

Meech, Sanford B. 1935. "An Early Treatise in English Concerning Latin Grammar", *University of Michigan Publications in Language and Literature* 13. 81-125.

Mênard, P. 1984. "Tradition manuscrite et édition de textes : le cas des fabliaux", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid.* ed. Ian Short. London. 149-166.

Menger, Louis E. 1904. *The Anglo-Norman Dialect : A Manual of its Phonology and Morphology.* New York : Columbia Univ. Press. [rpt. New York : AMS Press, 1966]

Merrilees, Brian. 1985. "Le dialogue dans la méthodologie du français langue seconde au Moyen Age", *Le Dialogue.* ed. Pierre Léon & Paul Perron. Lasalle, Québec : Didier. 105-115.

———. 1987a. "An aspect of grammatical terminology in insular French", *Cahiers de lexicologie* 51. 193-201.

———. 1993. "Donatus and the Teaching of French in Medieval England", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 273-91.

Meyer, P. 1873. "La manière de language qui enseigne à parler et à écrire le français", *Revue critique d'histoire et de littérature* 12. 373-408.

———. 1879. "Les manuscrits français de Cambridge. 1. St. John's College", *Romania* 8. 305-342.

———. 1884. "Notice et extraits du MS. 8336 de la Bibliothèque de Sir Thomas Phillipps à Cheltenham", *Romania* 13. 497-541.

———. 1886. "Les manuscrits français de Cambridge. 2. Bibliothèque de l'Université", *Romania* 15. 236-357.

———. 1903. "Les manuscrits français de Cambridge. 3. Trinity College", *Romania* 32. 18-20.

Michael, Ian. 1970. *English Grammatical Categories and the Tradition to 1800*. Cambridge : Cambridge Univ. Press.

Mok, Q. I. M. 1975, "*Un traité médiéval de syntaxe latine en français*", *Mélanges Lein Geschiere*. 37-53.

Mustanoja, Tauno F. ed. 1948. *How the Good wife Taught Her Daughter*. Annales Academiae Scientiarum Fennicae, Ser. B, 61, 2. Helsinki.

Noonan, J. A. 1939. "An Anglo-Norman Version of the Pseudo-Turpin", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 247-251.

Orr. J. 1939. "On Homonymics", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 253-297.

———. 1953. *Words and Sounds in English & French*. Oxford.

———. 1962. *Old French and Modern English Idiom*. Oxford.

Otaka, Y. 1993. "Sur la Langue des *Leis Willelme*", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 293-308.

Owen, Annie. ed. 1929. *Le traité de Walter de Bibbesworth sur la langue française.* Paris : Presses universitaires. [rpt. Geneva : Slatkine, 1977]

Parsons, H. Rosamund. 1929. "Anglo-Norman Books of Courtesy and Nurture", *PMLA* 44. 383-455. [rpt. New York, 1967.]

Paton, D. A. 1939. "On the Origin of Aller", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 299-303.

Percival, W. Keith. 1975. "The Grammatical Tradition and the Rise of the Vernaculars", *Current Trends in Linguistics* 13, 231-275. ed. Thomas Sebeok. The Hague : Mouton.

Petit, Herbert H. 1960. "A Wood Needing—Clearing, Desiderata in Anglo-Norman—English Linguistics", *AnM* 1. 102-7.

Place, Edwin B. 1962. "The First French Grammar", *The French Review* 35. 578-582.

Pope, M. K. 1903. *Étude sur La Langue de Frère Angier.* Oxford.

———. 1910. "The Tractatus Orthographiae of T. H., Parisii Studentis", *MLR* 5. 185-192.

———. 1934. *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*. Manchester.

———. 1944. *The Anglo-Norman Elements in our Vocabulary : its Significance for our Civilization*. Manchester.

Price, H. T. 1947. *Foreign Influence on Middle English*. Michigan.

Priebsch, J. 1905. "Ein anglonormannisches Glossar", *Bausteine zur romanischen Philologie, Festgabe für Adolfo Mussafia*. 534-556. Halle : Niemeyer.

Prins, A. A. 1952. *French Influence in English Phrasing*. Leiden.

Reid, T. B. W. 1939. "*Non, Nen*, and *Ne* with Finite Verbs in French", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 305-313.

Richardson, Helen G. 1939. "An Oxford Teacher of the Fifteenth Century", *Bulletin of the John Rylands Library* 23. 436-457.

———. 1940. "A Twelfth-Century Anglo-Norman Charter", *Bulletin of the John Rylands Library* 24. 168-172.

———. 1941a. "Business Training in Medieval Oxford", *The American Historical Review* 46. 259-280.

———. 1941b. "The Oxford Law School under John", *Law Quarterly Review* 57. 319-338.

Richter, Michael. 1979. *Sprache und Gesellschaft im Mittelalter. Untersuchungen zur mündlichen Kommunikation in England von der Mitte des elften bis zum Beginn des vierzehnten Jahrhunderts*. Stuttgart : A. Hiersemann.

Rickert, Edith. trans. 1908. *The Babees Book : Medieval Manners for the Young : Done into Modern English from Dr. Furnivall's Texts*. London.

Ritchie, R. L. G. 1939. "Early Instances of French Loan-words in Scots and English", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 315-319.

Robinson, F. N. ed. 1957. *The Works of Geoffrey Chaucer*. Boston.

Roques, Mario. 1939. "Entre les dous furceles (Roland, vv. 1294 et 2249)", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 321-328.

Rothwell, William. 1968. "The Teaching of French in Medieval England", *MLR*. 63. 37-46.

———. 1978. "A quelle époque a-t-on cessé de parler français en Angleterre?", *Mélanges de philologie romane offerts à Charles Camproux*. vol. 2. Montpellier : CEO Montpellier. 1075-1089.

———. 1982. "A Mis-Judged Author and a Mis-Used Text : Walter de Bibbesworth and his *Tretiz*", *MLR* 77. 282-293.

———. 1983. "Language and Government in Medieval England", *Zeitschrift für französischen Sprache und Literatur* 93. 258-270.

———. 1984. "Glimpses into our Ignorance of the Anglo-Norman Lexis", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London 167-179.

———. 1993. "The Legacy of Anglo-French : *faux amis* in French and English", *zeitschrift für Romanische Philologie*. Tübingen : Maxniemeyer Verlag.

———. 1993. "The 'Faus français d'Angleterre' : Later Anglo-Norman", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 309-326.

Ruelle, Pierre. 1967. *L'ornement des dames (Ornatus mulierum), texte anglonormand du XIIIe siècle. Travaux de la Faculté de Philosophie et Lettres* 36. Bruxelles : *Université libre de Bruxelles*.

———. 1984. "Les Synonymes dans le *Dialogue des Créatures*, traduction par Colard Mansion du *Dialogus Creaturarum*", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 180-186.

Russell, D. W. 1993. "The New *OED* Project and Anglo-Norman Lexicography", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 327-336.

Rychner, J. 1984. "Deux copistes au travail : pour une étude textuelle globale du MS 354 de la Bibliothèque de la Bourgeoisie de Berne", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 187-218.

Schellenberg, G. 1933. *Bemerkungen zum Traité des Walter von Bibbesworth* (dissertation, University of Berlin).

Serjeantson, M. S. 1935. *A History of Foreign Words in English*. London.

Shelly, P. Van Dyke. 1921. *English and French in England*. Philadelphia : Univ. of Pennsylvania Press.

Shields, H. 1993. "More Poems by Philippe de Thaon?", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 337-359.

Short, Ian. and B. Merrilees. ed. 1979. *The Anglo-Norman Voyage of St. Brendan*. Manchester.

Short, Ian. 1980. "On Bilingualism in Anglo-Norman England", *Romance Philology* 33. 467-479.

Sinclair, K. V. 1962. "Notes on the Vocabulary of *Tristan de Nanteuil*", *Zeitschrift für romanische Philologie* 78. 452-63.

———. 1963. "The Versification of *Tristan de Nanteuil*", *Romanische Forschungen* 75. 39-53.

———. 1963. "Proverbial Material in the Late French Epic of *Tristan de Nanteuil*", *Speculum* 38. 285-94.

———. 1965. "Anglo-Norman Studies : The last Twenty Years", *Australian Journal of French Studies* 2, 113-55, 225-78.

———. 1975. "An Anglo-Norman Proverb of the Chase", *Notes and Queries* 220. 436-7.

———. 1978. "Evidence for a Lost Anglo-Norman Copy of *Octavian*", *Neuphilologische Mitteilungen* 79. 216-18.

———. 1978-79. "Nature in a Late French Epic : Topos or Supernumerary", *Olifant* 6. 99-106.

———. 1980. "Anglo-Norman Bidding Prayers from Ramsey Abbey", *Mediaeval Studies* 42. 454-62.

———. 1984. "Anglo-Norman at Waterford : The Mute Testimony of MS Cambridge C. C. C. 405", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid.* ed. Ian Short. London. 219-238.

———. 1985. "The Originality of the Anglo-Norman Hospitallers' *Riwle*", *Parergon* 3. 63-72.

———. 1986. "The Anglo-Norman Miracles of the Foundation of the Hospital of St John in Jerusalem", *Med. Aev.* 55. 102-8.

———. 1992. "The Anglo-Norman Patrons of Robert the Chaplain and Robert of Greatham", *Forum for Modern Language Studies* 28. 193-208.

———. 1993. "Fierabras in Anglo-Norman : Some Cultural Perspectives", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 361-377.

Skeat, Walter W. 1880-1881a. "A Rough List of English Words Found in Anglo-French, Especially During the Thirteenth and Fourteenth Centuries : With Numerous References", *Transactions of the Philological Society* 1880-1881. 91-168. (=Appendix V)

———. 1903-6. "Nominale sive verbale in gallicis cum expositione eiusdem in anglicis", *Transactions of the Philological Society*, supplement. 1-50.

Smith, Lucy Toulmin and Paul Meyer. ed. 1889. *Les contes moralisés de Nicole Bozon, frère mineur* (= *Société des anciens textes français* 21). Paris : Firmin Didot.

Södergård, Östen. 1953. "Une manière de parler. Ms. Cambridge, University Library I.i.6.17", *Neuphilologische Mitteilungen* 54. 201-225.

———. 1955. "Le plus ancien traité grammatical français", *Studia Neophilologica* 27. 192-194.

———. ed. 1956. "Un *Art d'aimer* anglo-normand", *Romania* 77. 289-330.

Städtler, Thomas. 1988. *Zu den Anfängen der französischen Grammatiksprache. Textausgaben und Wortschatzstudien.* (=*Beihefte zur Zeitschrift für romanische Philologie 223.*) Tübingen : Max Niemeyer.

Stein, Gabriele. 1982. "The English Dictionary in the Fifteenth Century", *Logos Semantikos. Studia Linguistica in honorem Eugenio Coseriu*, 1921-1981. vol. 1 : *Geschichte der Sprachphilosophie und der Sprachwissenschaft* ed. Horst Geckeler, Brigitte Schlieben-Lange, Jürgen Trabant, & Harald Weydt. 313-322. Berlin : De Gruyter ; Madrid : Gredos.

Stengel, E. 1879. "Die ältesten Anleitungsschriften zur Erlernung der französischen Sprache", *Zeitschrift*

für neufranzösische Sprache und Literatur 1. 1-40.

Streuber, A. 1962. "Die ältesten Anleitungsschriften zur Erlernung des Französischen in England und der Niederlanden bis zum 16. Jahrhundert", *Zeitschrift für französische Sprache und Literatur* 72. 37-86 ; 186-211.

Studer, P. 1910-11. *The Oak Book of Southampton of c. A. D. 1300, including Anglo French Ordinances of the Ancient Guild Merchant of Southampton.* 2 vol.

————. 1920. *The Study of Anglo-Norman.* Oxford.

Stürzinger, Jakob. 1884. *Orthographia Gallica. . Ältester Traktat über französische Aussprache und Orthographie* (=*Altfranzösische Bibliothek* 8.). Heilbronn : Henninger. [rpt. Wiesbaden : M. Sandig, 1968]

Suggett, Helen. 1946. "The Use of French in England in the Later Middle Ages", *Transactions of the Royal Historical Society* 28. 61-83.

Sutherland, D. R. 1939. "On the Use of Tenses in Old and Middle French", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope.* Manchester. 329-337.

Swiggers, Pierre. 1986. "Le Donait françois : La plus ancienne grammaire du français. Édition avec introduction", *Revue des langues romanes* 89. 235-251.

———— & Willy van Hoecke. ed. 1989, *La langue française au XVIe siècle : Usage, enseignement et approches descriptifs.* Louvain : Leuven Univ. Press.

————. 1990a. "Histoire et historiographie de l'enseignement du français : modèles, objets et analyses", *Études de linguistique appliquée* 78. 27-44.

Tanquerey F. J. P. 1915. *L'Evolution du Verbe en anglo-français. XIIe-XIVe siècles.*

————. 1916. *Recueil de Lettres anglo-française (1265-1399).* Paris.

————. 1939. "Et particule", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope.* Manchester. 339-350.

Tardif, E. J. 1903. *Coutumiers de Normandie.* Paris.

Thorn, A Chr. ed. 1921. *N. Bozon : Proverbes des bon Enseignement.* Lund.

Uerkvitz, W. 1898. *Tractate zur Unterweisung in der anglo-normannischen Briefschreibekunst.* Greifswald.

Van Emden, W. 1984. "A Fragment of an Old French Poem in Octosyllables on the Subject of Pyramus and Thisbe", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid.* ed. Ian Short. London. 239-253.

Van Selm, Bert. 1973. "Some Early Editions of Gabriel Meurier's School-Books", *Quaerendo* 3. 217-225.

Vinaver, Eugène. 1939. "Principles of Textual Emendation", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope.* Manchester. 351-369.

Vising, Johan. 1923. *Anglo-Norman Language & Literature.* London : Oxford Univ. Press.

————. 1882. *Etude sur le dialecte anglo-normand du XIIe siècle.* Uppsala.

Watkin, Morgan. 1939. "Albert Stimming's Welsche Fassung in the Anglonormannishe Boeve de Haumtone. An Examination of a Critique", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope.* Manchester. 371-379.

Webster, T. B. L. 1939. "The Architecture of Sentences", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope.* Manchester. 381-392.

Whitehead, Frederick. 1966-67. "Norman French : The Linguistic Consequences of the Conquest", *Memoirs and Proceedings of the Manchester Literary and Philosophical Society* 109. 78-83.

Wilshere, A. D. 1993. "A Plea for Syntax", *Anglo-Norman Anniversary Essays.* London. 395-404.

Woledge, B. 1984. "The Problem of Editing *Yvain*", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid.* ed. Ian Short. London. 254-267.

Wolff, P. 1974. "Alexandre Neckam et l'article", *Études de civilisation médiévale (IXe et XIIe siècles) Mélanges offerts à Edmond-René Labande.* Poitiers. 763-766.

Woodbine, George E. 1910. *Four Thirteenth Century Law Tracts.* New Haven : Yale Univ. Press.

———. 1943. "The Language of English Law", *Speculum* 18. 395-436.
Wooldridge, Terence R. 1977. *Les débuts de la lexicographie française*. Toronto : Univ. of Toronto Press.
Wright, Thomas. 1882. *A Volume of Vocabularies*. 2nd ed. Liverpool : D. Marples. (1st ed : 1857)
Wright, W. Aldis. 1909. *Femina*. Cambridge : Publications of the Roxburghe Club.
Yvon, Henri. 1946. "Étude sur notre vocabulaire grammatical. Le mot *conditionnel*", *Études romanes dédiées à Mario Roques*. Paris : Droz. 149-168.
Zachrisson, R. E. 1909. *A Contribution to the Study of Anglo-Norman Influence on English Place-Names*.
———. 1913. *The Pronunciation of English Vowels, 1400-1700*. Goteborg : W. Zachrisson.
Zumthor, Paul. 1972. *Essai de poétique médiévale*. Paris.

Alford, John A. & Dennis P. Seniff. 1984. *Literature and Law in the Middle Ages. A Bibliography of Scholarship*. New York : Garland.
Allen, Hope Emily. 1918. "The Mystical Lyrics of the *Manuel des Pechiez*", *Romanic Review* 9. 154-193.
Aubert, Marcel. 1909. "Les anciens Donats de la Bibliothèque Nationale", *Bibliographe Moderne* 13. 220-240
Baldwin, Dean R. 1980. "*Amis and Amiloun* : The Testing of *Treupe*", *PLL* 16. 353-65.
Barlow, Frank. 1979. *The English Church 1066-1154 : A History of the Anglo-Norman Church*. London.
Baugh, A. C. 1948. *A literary history of England*. New York,
———. 1967. "The Middle English Romance : Some Questions of Creation, Presentation, and Preservation", *Speculum* 42. 1-31.
Baumgartner, E. 1993. "Figures du destinataire : Salomon, Arthur, le roi Henri d'Angleterre." *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 1-10.
Blacker-Knight, Jean. 1985. *From Historia to Estoire : Literary Form and Social Function of the Twelfth-Century Old French Verse and Latin Prose Chronicle of the Anglo-Norman Regnum*. Unpublished PhD Thesis, Univ. of California, Berkeley.
Boase, Roger. 1977. *The Origin and Meaning of Courtly Love : A Critical Study of European Scholarship*. Manchester.
Breul, Karl. 1886. "'The Boke of Curtesy'", *Englische Studien* 9. 51-63.
Brody, Saul Nathaniel. 1974. *The Disease of the Soul : Leprosy in Medieval Literature*. Ithaca.
Brunner, Karl. 1961. "Sprachlehrbücher im Mittelalter", *Language and Society. Essays presented to Arthur M. Jensen on his seventieth birthday*. Copenhagen : Det Berlingske Bogtrykkeri. 37-43.
Buridant, Claude. ed. 1986. *La lexicographie au Moyen Age* (=*Lexique* 4). Lille : Presses universitaires de Lille.
Burnley, J. D. 1980. "*Fin' Amor* : Its Meaning and Context", *RES*, n. s. 31. 129-48.
Calin, William. 1966. *The Epic Quest : Studies in four Old French Chansons de Geste*. Baltimore.
Carlyle, A. J. 1939 . "The Survival of the Constitutional Traditions of Mediaeval France in the Seventeenth Century", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 29-42.
Carroll, John B. 1975. *The Teaching of French as a Foreign Language in Eight Countries*. New York : Wiley & Sons.
Cazamian, L. 1960. *A History of French Literature*. Oxford Univ. Press.
Chase, Wayland J. 1922. *The Distichs : A Famous Medieval Textbook*. University of Wisconsin Studies in Social Sciences and History 7. Madison.
Childress, Diana T. 1978. "Between Romance and Legend : 'Secular Hagiography' in Middle English

Literature", *PQ* 57. 311-22.

Clanchy, M. T. 1979. *From Memory to Written Record. England, 1066-1307*. Cambridge : Harvard Univ. Press.

Clark, Cecily. 1976. "People and Languages in Post-Conquest Canterbury", *Journal of Medieval History* 2. 1-33.

————. 1978. "Women's Names in Post-Conquest England : Observations and Speculations", *Speculum* 53. 223-251.

Cline, Ruth Huff. 1945. "The Influence of Romances on Tournaments of the Middle Ages", *Speculum* 20. 204-11.

Cohen, Gustave. 1945. *La Grande Clarté du Moyen-Age*. Gallimard.

Coghill, Neville. 1971. *Chaucer's Idea of What is Noble*. English Association : Presidential Address.

Collas, John P. & Theodore F. T. Plucknett. 1953. "Problems of Translation", *Year Books of Edward II vol. XXIV 12 Edward II. Hilary and Part of Easter, 1319* (=*Publications of the Selden Society* 70). xii-lxiv. London : Quaritch.

————. 1964. "Problems of Language and Interpretation", *Year Books 12 Edward II* (=*Publications of the Selden Society* 81), xiv-cxxvii. London : Quaritch.

Coulton, George G. 1913. 'Monastic Schools in the Middle Ages', *Contemporary Review* 103. 818-28.

Crane, Susan. 1986. *Insular Ramance. Politics, Faith, and Culture in Anglo-Norman and Middle English Literature*. Berkeley : Univ. of California Press.

Dannenbaum, Susan. 1982. "Anglo-Norman Romances of English Heroes : 'Ancestral Romance'?", *Romance Philology* 35. 601-608.

————. 1983. "Insular Tradition in the Story of Amis and Amiloun", *Neophil*. 67. 611-22.

Davis, H. W. C. 1905. *England under the Normans and Angevins, 1066-1272*. London.

Davis, Ralph H. C. 1976. *The Normans and Their Myth*. London.

Deansley, Margaret. 1926. "Medieval Schools to *c*. 1300", *The Cambridge Medieval History*. ed. Joseph R. Tanner, C. W. Previté-Orton, & Z. N. Brooke. Vol. V. [rpt. Cambridge. 1957. 765-79.]

Denholm-Young, Noël. 1948. "The Tournament in the Thirteenth Century", *Studies in Medieval History Presented to Frederick Maurice Powicke*. ed. R. W. Hunt et al. Oxford. 240-68.

De Vreis, Jan. 1963. *Heroic Song and Heroic Legend*. trans. B. J. Timmer, Oxford Univ. Press.

Duby, Georges. 1968, "The Diffusion of Cultural Patterns in Feudal Society", *Past and Present* 39. 3-10.

Douglas, David C. 1969. *The Norman Achievement. 1050-1100*. London.

Dyer, Christopher. 1980. *Lords and Peasants in a Changing Society : The Estates of the Bishopric of Worcester, 680-1540*. Cambridge.

Eccles, Mark. 1986. "Claudius Hollyband and the earliest French-English dictionaries", *Studies in Philology* 83. 51-61.

Elliott, Alison G. 1977. "The *Facetus* ; or the *Art of Courtly Living*". *Allegorica* 2. 27-57.

Evans, W. O. 1967. "'Cortaysye' in Middle English", *MS* 29. 143-57.

Everett, Dorothy. 1955. *Essays on Middle English Literature*. Oxford Univ. Press.

Ewert, A. : 1958. *Of the Precellence of the French Tongue*. Oxford : Clarendon.

Faral, E. 1971. *les Arts poétiques du XIIe et du XIIIe siècle*. Paris.

Favier, J. 1980. *la Guerre de Cent Ans*. Paris.

Ferrante, Joan M. 1980. "*Cortes' Amor* in Medieval Texts", *Speculum* 55. 686-95.

Fisher, Fay. 1938. *Narrative Art in Medieval Romances*. Cleveland.

Foreville, Raymonde. 1974. "La Typologie du roi dans la littérature historiographique anglo-normande aux XIe et XIIe siècles", *Etudes de civilisation médiévale (IXe-XIIe siècles) : Mélanges offerts à Edmond-René Labande*. Poitiers. 275-92

Francis, E. A. 1939. "The Trial in Lanval", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 115-124.

Freeman, Edward A. 1901. *A Short History of the Norman Conquest of England*. 5 vol. 3rd Ed. Oxford: Clarendon.

Furnivall, Frederick J. ed. 1901. *The Minor Poems of the Vernon MS*. vol. 2. EETS 117. London.

————. ed. 1931. *Early English Meals and Manners*. EETS 32. London.

Galbraith, Vivian H. ed. 1927. *The Anonimalle Chronicle 1333 to 1381*. Manchester: Manchester Univ. Press. [rpt. with minor corrections, 1970]

————. 1935. "The literacy of the medieval English kings", *Proceedings of the British Academy* 1935. 201-238.

————. 1941. "Nationality and Language in Medieval England", *Transactions of the Royal Historical Society* 23. 113-128.

Ganim, John. 1979-80. "History and Consciousness in Middle English Romance", *Literary Review* 23. 481-96.

————. 1983. *Style and Consciousness in Middle English Narrative*. Princeton.

Gardiner, Dorothy. 1929. *English Girlhood at School. A Study of Women's Education Through Twelve Centuries*. Oxford: Oxford Univ. Press.

Garnett, George. 1985. "Franci et angli': The Legal Distinctions Between Peoples After the Conquest". *Anglo-Norman Studies* 8. 109-137.

Gist, Margaret A. 1947. *Love and War in the Middle English Romances*. Philadelphia.

Green, Dennis Howard. 1979. *Irony in the Medieval Romamce*. Cambridge.

Green, Judith. 1982. "The Sheriffs of William the Conqueror", *Anglo-Norman Studies* 5. 129-145.

Haidu, Peter. 1973. "Humor and the Aesthetics of Medieval Romance", *RR* 64. 54-68.

Hanning, Robert W. 1972. "The Social Significance of Twelfth-Century Chivalric Romance", *M&H* n. s. 3. 3-29.

————. 1977. *The Individual in Twelfth-Century Romance*. New Haven.

Haskins, Charles H. 1927. *The Renaissance of the Twelfth Century*. Cambridge, Mass.

————. 1929. *Studies in Mediæval Culture*. Oxford: Clarendon.

Hazleton, Richard. 1957. "The Chistianization of Cato: The *Disticha Catonis* in the Light of Late Medieval Commentaries", *Med. St*. 19. 157-73.

Hohler, Christopher. 1966. "Kings and Castles: Court Life in Peace and War", *Flowering of the Middle Ages*. ed. Joan Evans. London. 133-78.

Hollister, C. Warren. 1976. "Normandy, France and the Anglo-Norman *Regnum*", *Speculum* 51. 202-42.

Holmes, Urban T. 1952. *Daily Living in the Twelfth Century*. Madison.

Holt, J. C. 1965. *Magna Carta*. Cambridge.

Horner, Patrick. 1977. "The Use and Knowledge of Spoken French in Early Fifteenth-Century England", *Notes and Queries* 24. 488.

Howatt, Anthony Philip Reid. 1984. *A History of English Language Teaching*. Oxford: Oxford Univ. Press.

Huet, Gédéon. 1919. "*Ami et Amile*. Les origines de la légende", *Le Moyen Age* 31. 162-86.

Hume, Kathryn. 1973. "Amis and Amiloun and the Aesthetics of Middle English Romance", *SP* 70. 19-41.

————. 1970. "Structure and Perspective: Romance and Hagiographic Features in the Amicus and Amelius Story", *JEGP* 69. 89-107.

Hunt, Richard W. 1964. "Oxford Grammar Masters in the Middle Ages", *Oxford Historical Society* New Series 16. 163-193.

Hunt, Tony. 1981. "The Emergence of the Knight in France and England, 1000-1200", *FMLS* 17. 93-114.

————. 1985. "Anecdota Anglo-Normannica", *The Yearbook of English Studies* 15. 1-17.

Huntsman, Jeffrey. 1980. "The state of Lexicography and and Lexicology in Plantagenet England: A Data Base", *Data Bases in the Humanities and Social Sciences*. ed. Joseph Raben & Gregory Marks. 197-201. Amsterdam: North Holland Publishing.

Iglesias-Rábade, Luis. 1987. "Norman England : A Historical Sociolinguistic Approach", *Revista Canaria de Estudios Ingleses* 15. 101-112.

Jacob, E. F. 1939. "To and from the Court of Rome in the Early Fifteenth Century", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 161-181.

James, Montague R. 1900. *Western Manuscripts in the Library of Trinity College, Cambridge*. Cambridge : Cambridge Univ. Press.

Jamison, Evelyn. 1939. "Some Notes on the Anonymi Gesta Francorum, with Special Reference to the Norman Contingent from South Italy and Sicily in the First Crusade", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 183-208.

Jeanroy, Alfred. 1939. "Les genres lyriques secondaires dans la poésie provençale du XIVe siècle", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 209-214.

Johnson, L. 1993. "The Anglo-Norman *Description of Britain* : An Introduction", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 11-30.

Jones, Robin F. 1980. "The Precocity of Anglo-Norman and the *Voyage of Saint Brendan*", *The Nature of Medieval Narrative*. ed. Minnette Grunmann-Gaudet and Robin F. Jones. French Forum Monographs 22. Lexington, Ky. 145-58.

John Trevisa. 1869. *Polychronicon Ranulphi Higden Monachi Cestrensis together with English Translations of John Trevisa and of an Unknown Writer of the Fifteenth Century*. Londres, Rolls Publ. 41, vol. 2.

Karnein, Alfred. 1981. "La Réception du *De Amore* d'André Le Chapelain au XIIIe siècle", *Romania* 102. 324-51, 501-42.

Keen, Maurice. 1983. "Chaucer's Knight, the English Aristocracy and the Crusade", *English Court Culture in the Later Middle Ages*. ed. V. J. Scattergood and J. W. Sherborne. New York. 45-61.

———. 1976. "Chivalrous Culture in Fourteenth-Century England", *Historical Studies* 10. 1-24.

Kelly, Henry Ansgar. 1975. *Love and Marriage in the Age of Chaucer*. Ithaca.

Ker, William Paton. 1908. *Epic and Romance. Essays on Medieval Literature*. 2nd ed. London.

Kibbee, Douglas A. 1989. "L'enseignement du français en Angleterre au seizième siècle". Swiggers & Van Hoecke 54-77.

———. 1994. "Bilingual Lexicography in the Middle Ages", *Variis loqui lingwagiis : Le pluralisme linguistique dans la société médiévale*. ed. Pierre Boglioni & Geneviève Hasenohr. Montréal : Presses universitaires.

Klaeber, Fr. 1950. *Beowulf and the Fight at Finnsburg*. D. C. Heath and Company.

Kramer, Dale. 1968. "Structural Artistry in *Amis and Amiloun*", *AnM* 9. 103-22.

Krappe, A. H. 1923. "The Legend of Amicus and Amelius", *MLR* 18. 152-61.

Kratins, Ojars. 1966. "Middle English *Amis and Amiloun* : Chivalric Romance or Secular Hagiography?", *PMLA* 81. 347-54.

Kristol, Andres Max. 1989. "Le début du rayonnement parisien et l'unité du français au moyen âge : le témoignage des manuels d'enseignement du français écrits en Angleterre entre le XIIIe et le début du XVe siècle", *Revue de Linguistique Romane* 53. 335-367.

Krynen, J. 1981. *Idéal du prince et pouvoir royal en France à la fin du moyen âge (1380-1440)*. Paris.

Kukenheim, Louis. 1962. *Esquisse historique de la linguistique française et de ses rapports avec la linguistique générale (=Leidse romanistische reeks 8)*. Leiden : Universitaire Pers.

Lazar, Moshé. 1964. *Amour courtois et "Fin' Amors" dans la littérature du XIIe siècle*. Paris.

Le Gentil, Pierre. 1953-54. "La Légende de Tristan vue par Béroul et Thomas", *RPh* 7. 111-29.

Legge, Mary Dominica. 1934. "The Salient Features of the Language of the Earlier Year Books", *Publications of the Selden Society* 52. xxx-xlii.

———. 1939. "William of Kingsmill—A Fifteenth Century Teacher of French in Oxford", *Studies in*

French Language and Medieval Literature Presented to M. K. Pope. 241-246. Manchester
————. 1941. "Anglo-Norman and the Historian", *History* 26. 163-175.
————. 1950. "The French Language and the English Cloister", *Medieval Studies Presented to Rose Graham*. ed. Veronica Ruffer & A. J. Taylor. 146-162. Oxford : Oxford Univ. Press.
————. 1950. *Anglo-Norman in the Cloisters. The Influence of the Orders upon Anglo-Norman Literature*. Edinburgh.
————. 1956. "Archaism and the Conquest", *MLR* 51. 227-29.
————. 1961. "'Letre' in Old French", *MLR* 58. 333-334.
————. 1963. *Anglo-Norman Literature and its Background*. Oxford : Clarendon.
————. 1965. "La Précocité de la littérature anglo-normande", *CCM* 8. 327-49.
————. 1967. "Les origines de l'anglo-normand littéraire", *Revue de Linguistique Romane* 31. 44-54.
————. 1975. "Anglo-Norman Hagiography and the Romances", *M&H* n. s. 6. 41-49.
————. 1978. "La 'Courtoisie' en anglo-normand", *Orbis Mediaevalis : Mélanges de langue et de littérature médiévales offerts à Reto Raduolf Bezzola*. ed. Georges Güntert et al. Berne. 235-39.
Legros, Huguette. 1986. "Quand les jugements de Dieu deviennent artifices littéraires ou la profanité impunie d'une poétique", *La Justice au moyen âge (Sanction ou impunité?)*. Aix-en-Provence : Université de Provence, (Senefiance 16), 197-212.
Lejeune, Rita. 1958. "Rôle littéraire de la famille d'Aliénor d'Aquitaine", *CCM* 1. 319-37.
Le Patourel, John. 1976. *The Norman Empire*. Oxford.
Le Saux, Françoise. 1989. *Layamon's Brut : The Poem and its Sources*. D. S. Brewer.
Lévi-Strauss, Claude. 1978. *The Origin of Table Manners. Vol. 3 of Introduction to a Science of Mythology*. Trans. John & Doreen Weightman. London.
Levy, Bernard S., and Paul E. Szarmach. ed. 1974-75 "The Rise and Fall of Anglo-Norman Literature", *Mosaic* 8 : 4. 1-6.
————. 1968. "The Significance of Anglo-Norman", University of Edinburgh Inaugural Lecture 38. Edinburgh.
Levy, Brian Joseph. 1966. "The Ancestral Romance in Mediaeval French with Special Reference to Anglo-Norman Literature", Diss. Univ. of Edinburgh.
————. 1975. "Waltheof 'Earl' de Huntingdon et de Northampton : la naissance d'un héros anglo-normand", *CCM* 18. 183-96.
Loomis, Laura Hibbard. 1963. *Mediaeval Romance in England*. New ed. New York.
Lot-Borodine, Myrrha. 1961. *De l'amour profane à l'amour sacré*. Paris.
Lytle, Guy F. 1978. "The Social Origins of Oxford Students in the Late Middle Ages : New College, c. 1380-c. 1510". *The Universities in the Late Middle Ages* (= *Mediœvalia Lovaniensia*, Series I, Studia VI). ed. Jozef Ijsewijn & Jacques Paquet. 426-454. Leuven : Leuven Univ. Press.
Mackenzie, Fraser. 1939. *Les Relations de l'Angleterre et de la France d' après le vocabulaire*. Paris : Droz.
Madika, Geneviève. 1987. "La religion dans *Ami et Amile*", *Ami et Amile (Une chanson de geste de l'amitié)*. ed. Jean Dufournet, Paris : Champion. (Unichamp 16), 39-50.
Maitland, F. W. 1903. Year Books of Edward II. vol. 1. Selden Society.
————. 1933. "The Anglo-French Law Language", *The Cambridge History of English Literature* ed. A. W. Ward & A. R. Waller, 455-460. Cambridge : Cambridge Univ. Press. [rpt. of a section of Maitland's introduction to the *Selden Society Series* 17]
Map, Walter. 1914. *De Nugis Curialium*. ed. Montague Rhodes James. Oxford. (trans. Frederick Tupper and M. B. Ogle. *Courtiers' Trifles*. London, 1924.)
Marchello-Nizia, Christiane. 1979. *Histoire de la langue française aux XIVe et XVe siècles*.Paris : Bordas.
Mathew, Gervase. 1948. "Ideals of Knighthood in Late-Fourteenth-Century England", *Studies in Medieval History Presented to Frederick Maurice Powicke*. ed. R. W. Hunt et al. Oxford. 354-62.
————. 1947. "Marriage and *Amour Courtois* in Late Fourteenth-Century England", *Essays Presented to*

Charles Williams. London. 128-35.

———. 1966. "Ideals of Friendship", *Patterns of Love and Courtesy : Essays in memory of C. S. Lewis*. London. 45-53.

McFarlane, Kenneth B. 1973. *The Nobility of Later Medieval England*. Oxford : Clarendon.

———. 1981. *England in the Fifteenth Century. Collected Essays*. London : The Hambledon Press.

McKisack, May. 1959. *The Fourteenth Century, 1307-1399*. The Oxford History of England, vol. 5. Oxford.

McMahon, Clara. 1947. *Education in Fifteenth Century England* (=*Johns Hopkins University Studies in Education* 35). Baltimore : Johns Hopkins Univ. Press.

Mead, William E. 1931. *The English Medieval Feast*. [rpt. London, 1967.]

Mehl, Dieter. 1968. *The Middle English Romances of the Thirteenth and Fourteenth Centuries*. London.

Ménard, Philippe. 1977. "Les Fous dans la société médiévale : le témoignage de la littérature au XIIe et au XIIIe siècle", *Romania* 98. 433-59.

———. 1988. "La légende d'*Ami et Amile* au XIIe siècle : la chanson de geste et les traditions antérieures", *Bien dire et bien aprandre*. special issue "Sur *Ami et Amile*" 7-13

Merrilees, B. 1987b. "Teaching Latin in French : Adaptations of Donatus' *Ars Minor*", *Fifteenth Century Studies* 12. 87-98.

——— & Beata Sitarz-Fitzpatrick. ed. 1993 *The Liber Donati. A Fifteenth-Century Manual of French*. London : Anglo-Norman Text Society.

Michael, Ian. 1979. "The Historical Study of English as a Subject : a Preliminary Enquiry into some Questions of Method", *History of Education* 8. 193-206.

Mickel, Emanuel. 1985. "The Question of Guilt in *Ami et Amile*", *Romania* 106. 19-35.

Millet, Adrien. 1933. *Les grammairiens et la phonétique,ou,l'enseignement des sons du français depuis le XVIe siècle jusqu'à nos jours*. Paris : J. Monnier.

Miner, John N. T. (Brother Bonaventure, F. S. C.). 1961. "The Teaching of Latin in Later Medieval England", *Mediœval Studies* 23. 1-20.

———. 1962-3. "Schools and Literacy in Late Medieval England", *British Journal of Educational Studies* 11. 16-27.

———. 1989. *The Grammar Schools of Medieval England. A. F. Leach in historical perspective*. Montreal & Kingston : McGill-Queen's University Press.

Morris, Colin. 1972. *The Discovery of the Individual, 1050-1200*. New York.

Muscatine, Charles. 1957. *Chaucer and the French Tradition*. Berkeley and Los Angeles.

Nelson, William. ed. 1956. *A Fifteenth Century School Book*. Oxford.

Nicholls, J. W. 1985. *The Matter of Courtesy*. Suffolk.

Oelsner, Hermann. 1905. "Early French Manuals for English Use", *The Athenœum* 4033 (Feb. 11, 1905). 182-3.

Orme, Nicholas. 1973. *English Schools in the Middle Ages*. London : Methuen.

———. 1976. *Education in the West of England 1066-1548*. Exeter : Univ. of Exeter Press.

———. 1983. "The Education of the Courtier", *English Court Culture in the Later Middle Ages*. ed. V. J. Scattergood and J. W. Sherborne. New York. 63-85.

Oschinsky, Dorothea. 1971. *Walter of Henley and other treatises on estate management and accounting*. Oxford : Clarendon Press.

Painter, Sidney. 1960. "The Family and the Feudal System in Twelfth-Century England", *Speculum* 35. 1-16.

Paré, Gérard M., A. Brunet, & P. Tremblay. 1933. *La Renaissance du XIIe Siècle*. Publications de l'Institut d'Etudes Médiévales d'Ottawa, 3. Paris.

Parkes, Malcolm B. 1973. "The Literacy of the Laity", *The Medieval World*. vol. 2 of *Literature and Western Civilization*. ed. David Daiches & Anthony Thorlby. London. 555-77.

Parry, Albert W. 1920. *Education in England in the Middle Ages*. London.

Pearsall, Derek. 1965. "The Development of Middle English Romance", *MS* 27. 91-116.

Pirenne, Henri. 1929. "L'instruction des marchands au moyen âge", *Annales d'Histoire Économique et Sociale* 1. 13-28.

Plucknett, Theodore F. T. 1960. *Edward I and Criminal Law*. Cambridge : Cambridge Univ. Press

Pollard, Alfred. 1915. "Claudius Hollyband and his *French Schoolmaster* and *French Littelton*", *Transactions of the Bibliographical Society* 13. 253-272.

Poole, Austin L. 1955. *From Domesday Book to Magna Carta 1087-1216*. Oxford History of England. 2nd ed. Oxford.

Pope, Mildred K. 1952. *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*. Rev. ed. London.

Postan, M. M. 1972. *The Mediaeval Economy and Society*. London.

Potter, George R. 1936. "Education in the Fourteenth and Fifteenth Centuries", *The Cambridge Medieval History*. ed. Charles W. Previté-Orton, & Zachary N. Brooke. vol. 8. [rpt. Cambridge, 1967. 688-716.]

Power, Eileen E. 1922. *Medieval English Nunneries, c.* 1275-1535. Cambridge Studies in Medieval Life and Thought. Cambridge. [rpt. New York, 1964]

————. 1941. *The Wool Trade in English Medieval History*. Oxford : Oxford Univ. Press.

————. 1975. *Medieval Women*. ed. Michael M. Postan. Cambridge.

Powicke, Maurice. 1962. *The Thirteenth Century, 1216-1307*. 2nd ed. Oxford.

Press, A. R. 1981. "The Precocious Courtesy of Geoffrey Gaimar", *Court and Poet*. ed. Glyn S. Burgess. Liverpool. 267-76.

Raby, F. J. E. 1934. *A History of Secular Latin Poetry in the Middle Ages*. Oxford : Clarendon. vol. 2. 23-26

Ramsey, Lee C. 1983. *Chivalric Romances : Popular Literature in Medieval England*. Bloomington.

Rashdall, Hastings. 1936. *The Universities of Europe in the Middle Ages. A New Edition in Three Volumes ed. Frederick M. Powicke and Alfred B. Emden*. Oxford : Clarendon.

Reiss, Edmund. 1979. "*Fin' Amors* : Its History and Meaning in Medieval Literature", *Journal of Medieval and Renaissance Studies* 8. 74-99.

Remy, Paul. 1946. "La Lèpre, thème littéraire au moyen âge", *MA* 52. 195-242.

Richards, Peter. 1977. *The Medieval Leper and his Northern Heirs*. Cambridge.

Rickard, Peter 1956. *Britain in Medieval French Literature 1100-1500*. Cambridge : Cambridge Univ. Press.

Ridyard, Susan J. 1986. "*Condigna veneratio* : Post-Conquest Attitudes to the Saints of the Anglo-Saxons", *Anglo-Norman Studies* 9. 179-206.

Riedel, Frederick Carl. 1938. *Crime and Punishment in the Old French Romances*. New York.

Ritchie, Robert L. G. 1948. *The Normans in England Before Edward the Confessor*. Exeter : W. V. Cole.

Rosenberg, Samuel N. 1987. "Lire *Ami et Amile*, le regard sur les personnages féminins", *Ami et Amile (Une chanson de geste de l'amitié)*. ed. Jean Dufournet, Paris : Champion. (Unichamp 16) 69-78

Rothwell, William. 1975. "Anglo-Norman Perspectives", *MLR* 70. 41-49.

————. 1976. "The Rôle of French in Thirteenth-Century England", *Bulletin of the John Rylands University Library of Manchester* 58. 445-466.

————. 1985. "Stratford atte Bowe and Paris", *MLR* 80. 39-54.

Rychner, Jean. ed. 1968. *Les Lais de Marie de France*. Champion.

Schellenberg, Gerhard. 1933. *Bemerkungen zum Traité des Walter von Bibbesworth*. Berlin : Liebheit & Thiesen.

Schelp, Hanspeter. 1965. "Nurture : ein mittelenglischer Statusbegriff", *Anglia* 83. 253-70.

Schofield, William H. 1969. *English Literature from the Norman Conquest to Chaucer*. rpt. Phaeton Press.

Shelby, L. R. 1970. "The Education of Medieval Master Masons", *Med. St.* 32. 1-26.

Shelly, Percy Van Dyke. 1921. *English and French in England, 1066-1100*. Philadelphia.

Shuman, R. Baird. 1958. "A Middle English Note on Female Education", *School and Society* 86. 36.

Smalley, Vera. 1948. *The sources of A Dictionary of the French and English Tongues*. Baltimore : Johns Hopkins Univ. Press.

Smythe-Palmer, Abram. 1908. *The Ideal of A Gentleman*. London.

Southern, Richard W. 1953. *The Making of the Middle Ages*. London.

———. 1960. "The Place of England in the Twelfth-Century Renaissance", *History*, 45. 201-16.

Smyser, Hamilton Martin. 1948. "The List of Norman Names in the Auchinleck Ms. (Battle Abbey Roll)", *Mediæval Studies in Honor of Jeremiah Denis Matthias Ford* ed. Urban T. Holmes, Jr. & Alexander J. Denomy, C. S. B., 257-287. Cambridge, MA : Harvard Univ. Press.

Speed, Diane. 1994. "Havelok's Predecessor", *Medieval codicology, iconography, literature and translations : studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden ; New York.

Steadman, J. M. 1957. "Adam's *Tunica Rubea* : Vestiary Symbolism in the Anglo-Norman *Adam*", *Modern Language Notes* 72. 497-499.

Stowell, William A. 1906. "Personal Relationships in Medieval France", PMLA 21. 3.

Studer, Paul. ed. 1927. "Une définition d'amour en prose anglo-normande", *Mêlanges de philologie et d'histoire offerts à M. Antoine Thomas*. Paris. 433-36.

Suggett, Helen. 1942-3. "An Anglo-Norman return to the Inquest of Sheriffs", *Bulletin of the John Rylands Library* 27. 170.

Taciti, Cornelii. 1952. "Germania", *Opera Minora*, Oxford Univ. Press.

Thiolier, J. C. 1993. "Pierre de Langtoft : historiographe d'Edouard ler Plantagenêt", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 379-394.

Thompson, James Westfall. 1931. *Economic and Social History of Europe in the Later Middle Ages (1300-1530)*. New York : Century.

———. 1939. *The Literacy of the Laity in the Middle Ages*. (= *University of California Publications in Education* 9.) Berkeley : Univ. of California Press.

Thorndike, Lynn. 1940. "Elementary and Secondary Education in the Middle Ages", *Speculum* 15. 400-08.

Thrupp, Sylvia L. 1948. *The Merchant Class of Medieval London (1300-1500)*. Chicago.

Türk, Egbert. 1977. *Nugae Curialium : Le Règne d'Henri II Plantegenêt (1145-1189) et l'éthique politique*. Geneva.

Ullmann, Walter. 1977. *Medieval Foundations of Renaissance Humanism*. Ithaca.

Uitti, Karl D. 1975. "The Clerkly Narrator Figure in Old French Hagiography and Ramance", *MedR* 2. 394-408.

Vale, Juliet. 1982. *Edward III and Chivalry : Chivalric Society and Its Context 1270-1350*. Bury St. Edmunds.

Vale, Malcolm. 1981. *War and Chivalry : Warfare and Aristocratic Culture in England, France and Burgundy at the End of the Middle Ages*. London.

Verger, J. 1973. *les Universitês au moyen âge*. Paris : P. U. F.

Vinaver, Eugène. 1971. *The Rise of Romance*. Oxford.

Wadsworth, Rosalind. 1972. *Historical Romance in England : Studies in Anglo-Norman and Middle English Romance*, Diss. York.

Wakely, Richard. 1988. "The History of French Teaching in Britain : Some Remarks", *Newsletter of the Association for French Language Studies* 20. 17-25.

Walberg, E. 1936. *Quelques aspects de la littérature anglo-normande*. Paris.

Watson, Foster. 1908. *The English Grammar Schools to 1600 : Their Curriculum and Practice*. Cambridge : Cambridge Univ. Press.

Waugh, William Templeton. 1967 (1925). "The Administration of Normandy, 1420-22", *Essays in Medieval History Presented to Thomas Frederick Tout* ed. A. G. Little & Frederick M. Powicke. Freeport NY : Books for Libraries Press. 349-359.

Webster, Charles. 1975. "The Curriculum of the Grammar Schools and Universities 1500-1660 : A Critical Review of the Literature", *History of Education* 4. 51-68.

Wells, Henry W. 1940. "The Boy Standing at the Table", *Sewanee Review* 48. 217-20.

West, Constance B. 1938. *Courtoisie in Anglo-Norman Literature*, Medium Aevum Monographs 3. Oxford.

Whatley, Gordon. 1983. "*Vita Erkenwaldi* : An Anglo-Norman's Life of an Anglo-Saxon Saint", *Manuscripta* 27. 67-81.

Whitehead, Frederick. 1939. "Tristan and Isolt in the Forest of Morrois", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 393-400

Wildeblood, Joan, & Peter Brinson. 1965. *The Polite World : A Guide to English Manners and Deportment from the thirteenth to the nineteenth century*. London.

Wilmotte, M. 1939. "Reminiscences ovidiennes dans le conte de Guillaume d'Angleterre", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 413-419.

Wilson, Richard M. 1943. 'English and French in England 1100-1300', *History* 28. 37-60.

Wind, Bartina. 1970. "Nos incertitudes au sujet du 'Tristan' de Thomas", *Mélanges de langue et de littérature du moyen-âge et de la renaissance offerts à Jean Frappier*. vol. 2. Geneva. 1129-38.

Wittig, Susan. 1978. *Stylistic and Narrative Structures in the Middle English Romances*. Austin.

Wood, Charles T. 1970. *The Age of Chivalry. Manners and Morals, 1000-1450*. London.

Woodward, William H. 1967 [1906]. *Studies in Education in the Age of the Renaissance 1400-1600* (= *Classics in Education* 32). New York : Teachers College Press of Columbia University.

Wüest, Jakob. 1969. *Die Leis Willelme : Untersuchungen zum ältesten Gesetzbuch in französischer Sprache.* (=*Romanica Helvetica* 79.) Bern : Francke Verlag.

Anglo-Norman Studies

I 1978

Brooks, N. P. and the late H. E. Walker. The authority and interpretation of the Bayeux Tapestry 1
Chibnall, Marjorie. Feudal Society in Orderic Vitalis 35
Foreville, Raymonde. Le sacre des rois anglo-normands et angevins et le serment du sacre (XIe-XIIe siècles) 49
Godfrey, John. The defeated Anglo-Saxons take service with the Eastern emperor 63
Hill, Rosalind. Crusading warfare : a camp-follower's view 1097-1120 75
Hooper, Nicholas. Anglo-Saxon warfare on the eve of the Conquest : a brief survey 84
Cook, David R. The Norman military revolution in England 94
Le Patourel, John. The Norman conquest, 1066, 1106, 1154? 103
Loyn, H. R. Domesday Book 121
Walker, David. The Norman settlement in Wales 131
Williams, Ann. Some notes and considerations on problems connected with the English Royal succession, 860-1066 144
Zarnecki, George. Romanesque sculpture in Normandy and England in the eleventh century 168

II 1979

Clark, Cecily. Battle c. 1110 : an anthroponymist looks at an Anglo-Norman new town 21
Curnow, P. E. Some developments in military architecture c. 1200 : Le Coudray-Salbart 42
Harper-Bill, C. The piety of the Anglo-Norman knightly class 63

Hermans, Jos. The Byzantine view of the Normans 78
Hollister, C. W. Henry I and the Anglo-Norman magnates 93
Legge, M. D. Anglo-Norman as a spoken language 108
Mason, Emma. Magnates, curiales and the Wheel of Fortune 118
Owen, Dorothy M. Bishop's Lynn : the first century of a new town ? 141
Searle, Eleanor M. The abbey of the conquerors : defensive enfeoffment and economic development in Anglo-Norman England 154

III 1980

Brown R. Allen. The Battle of Hastings 1
Bur, Michel. Les comtes de Champagne et la 'Normanitas' : semiologie d'un tombeau 22
Gem, R. D. H. The Romanesque rebuilding of Westminster Abbey (with a reconstruction by W. T. Ball) 33
Gem R. D. H. Chichester Cathedral : when was the Romanesque church begun ? 61
Golding, Brian. The coming of the Cluniacs 65
Hare, J. H. The buildings of Battle Abbey 78
Hockey, S. F. William fitz Osbern and the endowment of his abbey of Lyre 96
van Houts, Elizabeth M. C. The *Gesta Normannorum Ducum* : a history without an end 106
Mortimer, Richard. The beginnings of the Honour of Clare 119
Rowlands, I. W. The making of the March : aspects of the Norman settlement in Dyfed 142
Searle, Eleanor. Women and the legitimization of succession at the Norman Conquest 159
Williams, Ann. Land and power in the eleventh century : the estates of Harold Godwineson 171
Wilson, David M. Danish kings and England in the late tenth and early eleventh centuries — economic implications 188

IV 1981

Bates, David. The origins of the justiciarship 1
Beresford, Guy. Goltho manor, Lincolnshire : the buildings and their surrounding defences c. 850-1150 13
Bouet, Pierre. La *Felicitas* de Guillaume le Conquérant dans les *Gesta Guillelmi* de Guillaume de Poitiers 37
Gillingham, John. The introduction of knight service into England 53
Gransden, Antonia. Baldwin, abbot of Bury St Edmunds, 1065-1097 65
Hyams, Paul. The Common Law and the French Connection 77
King, Edmund. John Horace Round and the *Calendar of Documents Preserved in France* 93
Loud, G. A. The *Gens Normannorum* — myth or reality ? 104
Nelson, Janet L. The rites of the Conqueror 117
Renoux, Annie. Fouilles sur le site du château ducal de Fécamp (Xe-XIIe siècle) 133
Rumble, Alexander R. The purposes of the Codex Wintoniensis 153

V 1982

Baylé, Maylis. Interlace Patterns in Norman Romanesque Sculpture : Regional Groups and their Historical Background 1
Bennett, Matthew. Poetry as History ? The*Roman de Rou* of Wace as a source for the Norman conquest 21
Bernstein, David. The Blinding of Harold and the Meaning of the Bayeux Tapestry 40
Chibnall, Marjorie. Military Service in Normandy before 1066 65
Ciggaar, Krijnie. England and Byzantium on the Eve of the Norman Conquest (the reign of Edward the Confessor) 78
Decaens, Joseph. La datation de l'abbatiale de Bernay : quelques observations architecturales et résultats des fouilles récentes 97

Gem, Richard. The Early Romanesque Tower of Sompting Church, Sussex 121
Green, Judith. The Sheriffs of William the Conqueror 129
Hockey, Frederick. The House of Redvers and its Monastic Foundations 146
Johnston R. C. On Scanning Anglo-Norman Verse 153
Keen, Laurence. The Umfravilles, the Castle and the Barony of Prudhoe, Northumberland 165
Darlington, R. R. and McGurk, P. The *Chronicon ex Chronicis* of Florence' of Worcester and its Use of Sources for English History before 1066 185
Mahany, Christine and Roffe, David. Stamford: the Development of an Anglo-Scandinavian Borough 197
Walker, David. Crown and Episcopacy under the Normans and Angevins 220

IV 1983

Bradbury, Jim. Battles in England and Normandy, 1066-1154 1
Coulson, Charles. Fortress-Policy ds Capetian Tradition and Angevin Practice: aspects of the conquest of Normandy by Philip II 13
Foreville, Raymonde. La crise de l'ordre de Sempringham au XIIe siècle: nouvelle approche du dossier des frères lais 39
Fröhlich, Walter. The Letters Omitted from Anselm's Collection of Letters 58
Hollister, C. Warren. War and Diplomacy in the Anglo-Norman World: the reign of Henry I 72
Holt, J. C. The Introduction of Knight Service in England 89
van Houts, Elisabeth M. C. Scandinavian Influence in Norman Literature of the Eleventh Century 107
Huisman, Gerda C. Notes on the Manuscript Tradition of Dudo of St Quentin's *Gesta Normannorum* 122
Klukas, Arnold William. The Architectural Implications of the *Decreta Lanfranci* 136
Maccarini, Pier Andrea. William the Conqueror and the Church of Rome (from the *Epistolae*) 172
Owen, Dorothy. The Norman Cathedral at Lincoln 188
Park, David. The 'Lewes Group' of Wall Paintings in Sussex 200
Gem, Richard. An Early Church of the Knights Templars at Shipley, Sussex 238

VII 1984

Abels, Richard. Bookland and Fyrd Service in Late Saxon England 1
Abulafia, David. The Norman Kingdom of Africa and the Norman Expeditions to Majorca and the Muslim Mediterranean 26
Clark, Cecily. British Library Additional MS. 40,000 ff. lv-12r 50
Franklin, M. J. The Identification of Minsters in the Midlands 69
Gazeau-Goddet, Véronique. L'aristocration autour du Bec au tournant de l'année 1077 90
Gillmor, C. M. Naval Logistics of the Cross-Channel Operation, 1066 105
Graboïs, A. Anglo-Norman England and the Holy Land 132
Harper-Bill, Christopher. Bishop William Turbe and the Diocese of Norwich, 1146-1174 142
Hooper, Nicholas. The Housecarls in England in the Eleventh Century 161
Kiff, Jennie. Images of War: Illustrations of Warfare in Early Eleventh-Century England 177
Lewis, Christopher. The Norman Settlement of Herefordshire under Willam I 195
le Maho, Jacques. Note sur l'histoire d'un habitat seigneurial des XIe et XIIe siècles en Normandie: Mirville (S. Mme) 214
Martindale, Jane. Aimeri of Thouars and the Poitevin Connection 224

VIII 1985

Bachrach, Bernard S. Some Observations on the Military Administration of the Norman Conquest 1
Baylé, Maylis. Le décor sculpté de Saint-Georges-de-Boscherville: quelques questions de style et d'iconographie 27

Baylé, Maylis. Note sur les chapiteaux provenant de l'ancienne abbaye de Hyde conservés à St Bartholomew Hyde (Winchester) 46
Biddle, Martin. Seasonal Festivals and Residence : Winchester, Westminster and Gloucester in the Tenth to Twelfth Centuries 51
Counihan, Joan. Mrs Ella Armitage, John Horace Round, G. T. Clark and Early Norman Castles 73
Eales, Richard. Local Loyalties in Norman England : Kent in Stephen's Reign 88
Garnett, George. *Fraci et Angli* : the Legal Distinctions Between Peoples After the Conquest 109
Holdsworth, Christopher. St Bernard and England 138
Mason, Emma. Change and Continuity in Eleventh-Century Mercia : the Experience of St Wulfstan of Worcester 154
Mortimer, Richard. Land and Service : the Tenants of the Honour of Clare 177
Searle, Eleanor. Frankish Rivalries and Norse Warriors 198
Williams, Ann. The Knights of Shaftesbury Abbey 214

IX 1986

Beech, George. The Participation of Aquitanians in the Conquest of England 1066-1100 1
Bennett, Matthew. Stereotype Normans in Old French Vernacular Literature 25
Ciggaar, Krijnie. Byzantine Marginalia to the Norman Conquest 43
Aerts, W. J. Appendix : The Latin-Greek Wordlist in Ms. 236 of the Municipal Library of Avranches, fol. 97v 64
Fernie, Eric. The Effect of the Conquest on Norman Architectural Patronage 71
Fleming, Robin. Domesday Book and the Tenurial Revolution 87
Greenway, Diana E. Henry of Huntingdon and the Manuscripts of his *Historia Anglorum* 103
Hyams, Paul. 'No Register of Title' : The Domesday Inquest and Land Adjudication 127
Loud, G. A. The Abbey of Cava, its Property and Benefactors in the Norman Era 143
Ridyard, S. J. Condigna Veneratio : Post-Conquest Attitudes to the Saints of the Anglo-Saxons 179
Roesdahl, Else. The Danish Geometrical Viking Fortresses and their Context 209
Webb, Diana M. The Holy Face of Lucca 227

X 1987

Baylé, Maylis. Les ateliers de sculpture de S-Etienne de Caen au XIe et au XIIe siècles 1
de Boüard, Michel. Y a-t-il eu, au XVIe siècle un project de béatification de Guillaume le Conquérant ? 25
Chibnall, Marjorie. The Empress Matilda and Bec-Hellouin 35
Cowdrey, H. E. J. Towards an Interpretation of the Bayeux Tapestry 49
Davis, R. H. C. The Warhorses of the Normans 67
Decaens, Joseph. Les origines du village et du chateau de Saint-Vaast-sur-Seulles (Calvados) 83
Fröhlich, Walter. St Anselm's special relationship with William the Conqueror 101
Grant, Lindy. The Architecture of the Early Savignacs and Cistercians in Normandy 111
Hollister, C. Warren. St Anselm on Lay Investiture 145
van Houts, Elisabeth M. C. The Ship List of William the Conqueror 159
Keynes, Simon. Regenbald the Chancellor (*sic*) 185
Loyn, H. R. William's bishops : some further thoughts 223
Peirce, Ian. Arms, Armour and Warfare in the Eleventh Century 237
Vaughn, Sally N. Eadmer's *Historia Novorum* : A Reinterpretation 259

V 1988

Anderson, Freda. St Pancras Priory, Lewes : its Architectural Development to 1200 1
Bennett, Matthew. Wace and Warfare 37
Brett, Caroline. John Leland and the Anglo-Norman Historian 59
Counihan, Joan. The Growth of Castle Studies in England and on the Continent since 1850 77

Gillmor, Carroll. The Logstics of Fortified Bridge Building on the Seine under Charles the Bald 87
Dearden, Brian. Charles the Bald's Fortified Bridge at Pitres (Seine) : Recent Archaeological Investigations 107
Harper-Bill, Christopher. The Struggle for Benefices in Twelfth-Century East Anglia 113
Keen, Laurence. Coastal Salt Production in Norman England 133
Maund, K. L. The Welsh Alliances of Earl Ælfgar of Mercia and his Family in the mid-Eleventh Century 181
Moore, John S. Domesday Slavery 191
Neumann, J. Hydrographic and Ship-Hydrodynamic Aspects of the Norman Invasion, AD 1066 221
Ruud, Marylou. Monks in the World : the Case of Gundulf of Rochester 245
Ward, Jennifer C. Royal Service and Reward : the Clare Family and the Crown, 1066-1154. 261
Williams, Ann. A Vice-Comital Family in Pre-Conquest Warwickshire 279

XII 1989

Holdsworth, Christopher. R. Allen Brown 1
Brown, Shirley Ann. The Bayeux Tapestry : Why Eustace, Odo and William? 7
Cooke, Kathleen. Donors and Daughters : Shaftesbury Abbey's Benefactors, Endowments and Nuns c. 1086-1130 29
Franklin, Michael. The Bishops of Winchester and the Monastic Revolution 47
Hudson, John. Life-Grants of Land and the Development of Inheritance in Anglo-Norman England 67
Huneycutt, Lois L. The Idea of the Perfect Princess : the *Life of St Margaret* in the Reign of Matilda II (1100-1118) 81
McNeill, T. E. The Great Towers of Early Irish Castles 99
Mortimer, Richard. The Charters of Henry II : What are the Criteria for Authenticity? 119
Potts, Cassandra. Normandy or Brittany? A Conflict of Interests at Mont Saint Michel (966-1035) 135
Roffe, David. From Thegnage to Barony : Sake and Soke, Title and Tenants-in-Chief 157
Strickland, Matthew. Securing the North : Invasion and the Strategy of Defence in Twelfth-Century Anglo-Scottish Warfare 177
Teunis, H. B. Benoit of St Maure and William the Conqueror's *amor* 199
Tudor-Craig, Pamela. Controversial Sculptures : the Southwell Tympanum, the Glastonbury Respond, the Leigh Christ 211
van Houts, Elisabeth M. C. Historiography and Hagiography at Saint-Wandrille : the *Inventio et Miracula Sancti Vulfranni* 233

XIII 1990

Searle, Eleanor. 'Inter Amicos' : The Abbey, Town and Early Charters of Battle (Allen Brown Memorial Lecture) 1
Barker, Lynn K. Ivo of Chartres and the Anglo-Norman Cultural Tradition 15
Baylé, Maylis. Réminiscences anglo-scandinaves dans la sculpture romane de Normandie 35
Blackburn, Mark. Coinage and Currency under Henry I : A Review 49
Fleming, Donald F. Landholding by Milites in Domesday Book : A Revision 83
Gillingham, John. The Context and Purposes of Geoffrey of Monmouth's *History of the Kings of Britain* 99
Golding, Brian. Robert of Mortain 119
Grabois, Aryeh. The Description of Jerusalem by William of Malmesbury : A Mirror of the Holy Land's Presence in the Anglo-Norman Mind 145
Keats-Rohan, K. S. B. William I and the Breton Contingent in the non-Norman Conquest 1060-1087 157
Keynes, Simon. The Æthelings in Normandy 173
Lewis, C. P. The Early Earls of Norman England 207
Leyser, Karl. The Anglo-Norman Succession 1120-1125 225

Mason, J. F. A. Barons and their Officials in the Later Eleventh Century 243
Thompson, Kathleen. Robert of Bellême Reconsidered 263

XIV 1991

Taylor, Arnold J. 'Belrem' (Allen Brown Memorial Lecture) 1
Barrow, G. W. S. The Charters of David I 25
Dalton, Paul. In Neutro Latere: The Armed Neutrality of Ranulf II Earl of Chester in King Stephen's Reign 39
Gauthiez, Bernard. Hypothèses sur la Fortification de Rouen au Onzième Siècle. Le Donjon, La Tour de Richard II et l'Enceinte de Guillaume 61
Graham-Campbell, James. Anglo-Scandinavian Equestrian Equipment in Eleventh-Century England 77
Green, Judith. Financing Stephen's War 91
King, Edmund. Dispute Settlement in Anglo-Norman England 115
LoPrete, Kimberly A. Adela of Blois and Ivo of Chartres: Piety, Politics and the Peace in the Diocese of Chartres 131
Moore, John S. The Anglo-Norman Family: Size and Structure 153
Patterson, Robert B. The Author of the 'Margam Annals': Early Thirteenth-Century Margam Abbey's Compleat Scribe 197
Reynolds, Susan. Bookland, Folkland and Fiefs 211
Short, Ian. Patrons and Polyglots: French Literature in Twelfth-Century England 229
Tanner, Heather J. The Expansion of the Power and Influence of the Counts of Boulogne under Eustace II 251

XV 1992

Alexander, J. J. G. Ideological Representation of Military Combat in Anglo-Norman Art 1
Beech, George. A Norman-Italian Adventurer in the East: Richard of Salerno 1097-1112 25
Bennett, Matthew. Norman Naval Activity in the Mediterranean c. 1060-c. 1108 41
Bisanti, Armando. Mimo Giullaresco e Satira del Villano nel *De Clericis et Rustico* 59
Cowdrey, H. E. J. Simon Magus in South Italy 77
D'Alessandro, Vincenzo. Nobiltà e Parentela nell'Italia Normanna 91
Fröhlich, Walter. The Marriage of Henry VI and Constance of Sicily: Prelude and Consequences 99
Grierson, Philip. The Coinages of Norman Apulia and Sicily in their International Setting 117
Johns, Jeremy. The Norman Kings of Sicily and the Fatimid Caliphate 133
Lendinara, Patrizia. The *Oratio de Utensilibus ad domum regendum pertinentibus* by Adam of Balsham 161
Loud, G. A. The Genesis and Context of the Chronicle of Falco of Benevento 177
Martindale, Jane. The Sword on the Stone: Some Resonances of a Medieval Symbol of Power (The Tomb of King John in Worcester Cathedral) 199
Melazzo, Lucio. The Normans through their languages 243
Peirce, Ian. The Knight, his Arms and Armour, c. 1150-1250 251
Shepard, Jonathan. The Uses of the Franks in Eleventh-Century Byzantium 275
Varga, Livia. A New Aspect of the Porphyry Tombs of Roger II, First King of Sicily, in Cefalù 307

XVI 1993

Aird, W. M. St Cuthbert, the Scots and the Normans 1
Babcock, Robert S. Rhys ap Tewdwr, king of Deheubarth 21
Brand, Paul. 'Time out of mind': the knowledge and use of the eleventh- and twelfth- century past in thirteenth-century litigation 37
Brown, Shirley Ann and Herren Michael W. The *Adelae Comitissae* of Baudri of Bourgeuil and the Bayeux Tapestry 55
D'Angelo, Edoardo. Giuseppe Del Re's 'critical' edition of Falco of Benevento's Chronicle 75

Dumville, David N. Anglo-Saxon books: treasure in Norman hands? 83
Dunbabin, Jean. Geoffrey of Chaumont, Thibaud of Blois and William the Conqueror 101
Gauthiez, Bernard. Paris, un Rouen capétien? (Développements comparés de Rouen et Paris sous les règnes de Henri II et Philippe-Auguste) 117
Hiley, David. Changes in English chant repertories in the eleventh century as reflected in the Winchester sequences 137
Kemp, B. R. Towards admission and institution: English episcopal formulae for the appointment of parochial incumbents in the twelfth century 155
Renn, Derek F. Burhgeat and gonfanon: two sidelights from the Bayeux Tapestry 177
Smith, Mary Frances. Archbishop Stigand and the eye of the needle 199
Thompson, Benjamin. Free alms tenure in the twelfth century 221
Vaughn, Sally N. Anselm in Italy, 1097-1100 245
Williams, John Bryan. Judhael of Totnes: the life and times of a post-Conquest baron 271

Publications of the Anglo-Norman Text Society

No. I (for 1939) *La Petite Philosophie*, ed. W. H Trethewey (1939)
No. II (for 1940) *La Livre de Seyntz Medicines*, ed. E. J. Arnould (1940)
No. III (for 1941-2) *Anglo-Norman Letters and Petitions from All Souls MS 182*, ed. M. Dominica Legge (1941)
No. IV (for 1943) *La Seinte Resureccion*, ed. M. K. Pope, T. Atkinson Jenkins, J. M. Manley and Jean G. Wright (1943)
No. V (for 1944) *le Secré de Secrez, by Pierre d'Abernun of Fetcham*, ed. O. A. Beckerlegge (1944)
No. VI (for 1945-6) *An Anglo-Norman Rhymed Apocalypse, With Commentary*, ed. Olwen Rhys and Sir John Fox (1946)
No. VII (for 1947-8) *St Modwenna*, ed. A. T. Baker and A. Bell (1947)
No. VIII (for 1949) *Dialogue de s. Julien et son disciple*, ed. Adrien Bonjour (1949)
Nos. IX-X (for 1950-2) *Romance of Horn, by Thomas*, Vol. II, ed. M. K. Pope (1955)
No. XI (for 1953) *Anglo-Norman Political Songs*, ed. I. S. T. Aspin (1953)
Nos. XII-XIII (for 1954-5) *Romance of Horn*, Vol. II, ed. M. K. Pope and T. B. W. Reid (1964)
Nos. XIV-XVI (for 1956-8) *Estoire des Engleis, by Gaimar*, ed. A. Bell (1960)
No. XVII (for 1959) *Crusade and Death of Richard I*, ed. R. C. Johnston (1961)
No. XVIII (for 1960) *Life of St Catherine, by Clemence of Barking*, ed. W. MacBain (1964)
No. XIX (for 1961) *La Vie de seint Auban*, ed. A. R. Harden (1968)
No. XX (for 1962) *Le Petit Plet, by Chardri*, ed. B. S. Merrilees (1970)
Nos. XXI-XXII (for 1963-4) *An Anglo-Norman Brut (Ms. B.M. Royal 13 .A.* xxi), ed. A. Bell (1969)
No. XXIII (for 1965) *The Anglo-Norman Text of the Holkham Bible Picture Book*, ed. F. P. Pickering (1971)
No. XXIV (for 1966) *Le Lai du Cor*, ed. C. T. Erickson (1973)
No. XXV (for 1967) *The Anglo-Norman Pseudo-Turpin Chronicle of William de Briane*, ed. I. Short (1973)
Nos. XXVI-XXVIII (for 1968-70) *Fouke le Fitz Waryn*, ed. E. J. Hathaway, P. T. Ricketts, C. A. Robson and A. D. Wilshere (1975)
Nos. XXIX-XXXI (for 1971-73) *The Anglo-Norman Alexander (Le Roman de toute chevalerie), by Thomas of Kent*, Vol. I, ed. B. Foster (1976)
Nos. XXXII-XXXIII (for 1974-75) *The Anglo-Norman Alexander*, Vol. II, ed. B. Foster (1977)
No. XXXIV (for 1976) *La Vie de saint Laurent*, ed. D. W. Russell (1976)
No. XXXV (for 1977) *La Vie des Set Dormanz, by Chardri*, ed. B. S. Merrilees (1977)
No. XXXVI (for 1978) *La Passiun de seint Edmund*, ed. J. Grant (1978)

No. XXXVII (for 1979) *La Livre de Sibile, by Philippe de Thaon*, ed. H. Shields (1979)
No. XXXVIII (for 1980) *The Life of Saint John the Almsgiver*, Vol. I, ed. K. Urwin (1980)
No. XXXIX (for 1981) *The Life of Saint John the Almsgiver*, Vol. II, ed. K. Urwin (1981)
No. XL (for 1982) *Mirour de Seinte Eglyse*, ed. A. D. Wilshere (1982)
No. XLI (for 1983) *La Estoire de seint Aedward le Rei, by Matthew Paris*, ed. K. Y. Wallace (1983)
No. XLII (for 1984) *The Hospitallers' Riwle . . ., ed. K. V. Sinclair* (1984)
No. XLIII (for 1985) *Les Enfaunces de Jesu Crist*, ed. M. Boulton (1985)
No. XLIV (for 1986) *Les Proverbes de Salemon, by Sanson de Nantuil*, Vol. I, ed. C. Isoz (1988)
No. XLV (for 1987) *Les Proverbes de Salemon, by Sanson de Nantuil*, Vol. I, ed. C. Isoz (1988)
No. XLVI (for 1988) *La Novele Cirurgerie*, ed. C. Hieatt & R. Jones (1990)
No. XLVII (for 1989) *Protheselaus, by Hue de Rotelande*, Vol. I, ed. A. J. Holden (1991)
No. XLVIII (for 1990) *Protheselaus, by Hue de Rotelande*, Vol. II, ed. A. J. Holden (1991)
No. XLIX (for 1991) *Protheselaus, by Hue de Rotelande*, Vol. III, ed. A. J. Holden (1993)

Occasional Publications Series:

1 *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*, ed. Ian Short (1984)
2 *Anglo-Norman Anniversary Essays*, ed. Ian Short (1993)

Plain Text Series:

1 *Rauf de Linham, Kalender*, ed. Tony Hunt (1983)
2 *Philippe de Thaon, Comput*, ed. Ian Short (1984)
3 *Les Gius Partiz des Eschez*, ed. Tony Hunt (1985)
4 *Le Petit Bruit*, ed. D. Tyson (1988)
5 *Orthographia Gallica*, ed. R. C. Johnston (1988)
6 *Walter de Bibbesworth, Le Tretiz*, ed. W. Rothwell (1990)
7 *Amys e Amillyoun*, ed. Hideka Fukui (1990)
8 *La Destruction de Rome*, ed. Luciano Formisano (1990)
9 *Liber Donati*, ed. B. Merrilees & B. Sitarz-Fitzpatrick (1993)

Anglo-Norman Dictionary [published in conjunction with M. H. R. A.]:

Fasc. 1 A-C (1977) Fasc. 2 D-E (1981) Fasc. 3 F-L (1983) Fasc. 4 M-O (1985) Fasc. 5 P-Q (1988) Fasc. 6 R-S (1990) Fasc. 7 T-Z (1992)

Select Bibliography

本論文は以下の別個に公表した論文に加筆し，それらに修正を加えて更に新資料を補って纏め上げたものである。

初出

1）Middle English *Amis and Amiloun* と Anglo-Norman *Amis e Amilun* についての一考察。大阪大学大学院英文学談話会　No. IX　1970.

2）Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut* 大阪大学大学院英文学談話会　No. X　1971.

3）「アングロノルマン文学素描」大手前女子大学論集 6 号　1972, 11月

4）Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon* 村上至考教授退官記念論文集　1974, 4月

5）「アングロノルマン研究」大手前女子大学論集 9 号　1975, 11月

6）「ビブズワスのフランス語教本」大手前女子大学論集10号　1976, 11月

7）「ビブズワスのフランス語教本（続）」大手前女子大学論集15号　1981, 11月

8）*Le Jeu d'Adam* : An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century—訳—大手前女子大学論集19号　1985, 11月

9）「パリの学生 T. H. による正綴論」—訳述—大手前女子大学論集20号　1986, 11月

10）「ガリア語正綴論」—訳述—大手前女子大学論集21号　1987, 12月

11）「M. T. コワフュルリィの『ガリア語正綴論』」—訳—大手前女子大学論集22号　1988, 12月

12）「アングロノルマン『礼節の書』」大手前女子大学論集23号　1989, 12月

13）「フランス語の話し方，書き方教本」—訳—大手前女子大学論集24号　1990, 12月

14）*Amys e Amillyoun* ed., Hideka Fukui : *Anglo-Norman Text Society*, Plain Texts Series 7, London, 1990

15）「アングロノルマン『礼節』論」中世英文学への巡礼の道　斎藤勇教授還暦記念論文集　1993, 3 月

16）*Les Dytees attributed to Walter de Bibbesworth*　佐藤輝夫先生卒寿記念論文集1993, 6 月

17）「ビブズワスのフランス語教本II」大手前女子大学論集27号　1993, 12月

18）The All Souls Continuation of *La Maniere de Langage* in Anglo-Norman Anniversary Essays ed. Ian Short, *Anglo-Norman Text Society, Occasional Publication Series* No. 2 London, 1993.

CONCORDANCE

of

AMYS E AMILLYOUN

Edited by

HIDEKA FUKUI

231	li ad getté s'amour;/ Si forment comensa	a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger./ Les damoyseles qe
1015	'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/	A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le
760	ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/	A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la bataille/ E
257	Ala par congé de sa mere/ Parler	a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son
593	hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne	a autre affier;/ Chescun se prent a ferir./ Amillioun fiert le
854	E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom	a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le
241	langur demora/ Tant que li quens s'en ala/	A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel
603	as coups brusé/ E si sunt outrepassé./	A cel encountre tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit
995	serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/	A cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la
973	ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez	a ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap
804	vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/	A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis
1185	seignur la fist relever,/ Bel la comence	a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil
833	le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/	A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O,
736	vus dei jeo bien counter/ Coment il firent	a coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E par amour sovent
432	e purpensa/ Com celi qe grant mester en	a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/
1233	En bienfaitz se pena./ Aprés sa mort	a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se amercnt
1077	l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ '	A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon
1135	Pere e mere, quant ceo virent,/	A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E
787	E quant longtemps out langui,/ Morust e	a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ Quant
1114	deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins	a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere
758	le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe	a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/
1223	out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/	A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe
404	Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo	a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte
170	serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/	A femme prendre li consaillerent./ Par lour consail se mariat:/
583	s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille	a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz
594	deigne a autre affier;/ Chescun se prent	a ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant launce
947	q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient	a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al counte Amys ount
459	une vespré/ En un grant boys est alé./	A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./
199	respoundi/ Ne vout uncore aver mary./	A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La
927	sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/	A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la porte se sount
35	les fist a lour talent./ Chivalers lour fist	a grant honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova si
202	fuit bien gardé:/ Compaignes out	a grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En sa chambre noef e
1192	Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert	a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e
32	envers lor seygnur,/ Bien le portent	a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour
329	e la meschine,/ L'endemain vint tot	a hounte:/ Acounté est tot lor oevre al counte./ Li quens fu de
425	E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut	a la bataille,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe vostre
434	en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost	a la countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere
892	Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant	a la dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne
884	Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn,	a la dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais
543	eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./	A la dame ne voleit parler,/ Desqes al matin al lever./
224	Est venuz la novele/ En la chaumbre	a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil
403	virent qe le seignur/ Haist Amys desqe	a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li
1161	matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E	a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue
621	Del cop parlent durement:/ Dist l'un	a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes
843	Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors	a l'enfant que ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant
709	furent assemblé,/ La pucele fut amené/	A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust son noun nomer,/
798	Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame	a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus aime en
372	de la mayson,/ Si encontra le botiler./	A li soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly forment roylla./
1056	viande e de boivre ensement./ E li memes	a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad
816	Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe	a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant
243	en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./	A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il
34	amast mult tendrement,/ Honur les fist	a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz les ad
889	Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez	a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
65	E il od force de sa gent/ Vendroit	a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte
1059	com pout l'ad conforté./ La dame sovent	a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa
63	Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast	a ly hastivement,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo
40	De Amys fist son botiler,/ Car moult	a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel ly
508	sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/	A ma court od vous irrount./ E quant nous averoms robes
1198	Dame, sovenez vous del bien,/ Coment	a manger me menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis
854	mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne	a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte
546	nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun	a meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun
1126	Deu ount escoté./ Aprés la messe vint	a mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove
286	e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/	A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E

1104	qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E	**a** mouster puis li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de
76	En bone foy saunz tresoun/	**A** nostre seignur servy avom./ Pur vostre honur vus cri mercy
306	'Nous le froms si privément/ Touz deus	**a** nostre talent/ Ne[l] savera home de mere nee.'/ Tant li ad dit
124	volez unke nul autre amer/ Ne semblant	**a** nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer qe soyez
632	de son destrer;/ Combatre voleit per	**a** per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa
626	dolent est e corucé/ Quant combatre deit	**a** pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié
635	envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz	**a** pié l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal
888	que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler	**a** pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe
628	tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun	**a** pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret
682	plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en	**a**:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser
914	enchacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/	**A** plus q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la
254	Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté	**a** plus que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de
767	aparcevant/ De lour estre tant ne quant./	**A** plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En
627	est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/	**A** plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se
887	de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/	**A** plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez
836	O, misires Amyllioun,/ Mis estes	**a** povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas merveile
1105	puis li mena./ La dame, sitost com vew li	**a**,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si
923	La povre gent tot enviroun/ Ala com	**a** processioun./ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus
1155	Ne la savera plus aider./ Donqe comencea	**a** purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son seignur
841	Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home	**a** qui parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant
842	compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne	**a** qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
154	vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint	**a** sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li
164	doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes	**a** ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le
733	menestrauz furent feffez./ Le counte dona	**a** ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien
988	Al counte de cel hanap counta/ Coment	**a** soen resembleit./ E le counte moult esmerveileit,/ De
864	De mei memes force ne fray.'/ L'enfant	**a** soi donque appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir
68	Atant del counte departi,/ Si ala parler	**a** son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En bone foy
1087	est il alé;/ Deu requist e son haut noun/	**A** son frere doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust
436	vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe	**a** son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult
84	Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis	**a** son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout
852	ou quere lour vivre avant./ Tantost counta	**a** son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a
315	un vassal/ De la meisnee le seneschal./	**A** son seignur le ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le
1054	son corps li fist garder,/ Servir le fist tot	**a** talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet
441	me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez	**a** tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma
703	Qe eus feussent al mariage./ L'endemain	**a** terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les
1039	Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu	**a** terre chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet
618	Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal	**a** terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop
107	de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz	**a** terre;/ N'est home qi me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté
95	Quant compaignoun velt autre trahir./	**A** tote gent bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez
341	suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./	**A** touz jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger
197	desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele	**a** trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A grant
833	Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile	**a** un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun
309	mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt	**a** un de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
462	Desouz un arbre se cocha,/ E son chival	**a** une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival
382	nul vous ad de moy counté/ For que dreit	**a** verité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'
728	damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun	**a** volunté./ Le counte tynt feste plenere/ Une symaine tot
698	respount moult simplement:/ 'Tot soit	**a** vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy
122	alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi	**a** vous ert leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
753	quidez;/ De vostre espoir failli avez./	**A** vous le peus bien counter,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot
134	Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est	**abandoné**,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray
640	el heaulme peint de flurs,/ Qe tost	**abati** les colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ Mailles
909	Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo	**acateront** lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur deus
993	De mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra	**achaté**!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre vint errant
737	il firent a coucher:/ La dame ad son dreu	**acolé**/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys
591	orguillous e fiers./ Ne avera mester de	**acord**;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre
330	L'endemain vint tot a hounte:/	**Acounté** est tot lor oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé
102	Mout li devez amour e foy,/ Car bien	**ad** amé vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e
971	le counte ad pres mangé,/ Son botiler	**ad** appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo
1050	ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li	**ad** apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e
693	Son enemi ad confundu;/ Ly e vous	**ad** aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt esposer
728	deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant	**ad** baroun a volunté./ Le counte tynt feste plenere/ Une
1048	s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li	**ad** beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad
647	Meint coup li dona ceo jour./ La bataille	**ad** bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly seneschal fist

691 moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous **ad** combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del
692 Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi **ad** confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé
1051 ses braz li ad apporté./ En sa chambre li **ad** couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist
755 bien le deverez celer.'/ Tot lour estre luy **ad** counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le
381 Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous **ad** de moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
308 Ne[l] savera home de mere nee.'/ Tant li **ad** dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la
36 lour fist a grant honur:/ Touz les **ad** dobbez en estour,/ Lour trova si com il voleint
838 fu sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il **ad** dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne
248 De sa dame prist congé,/ E ele tantost li **ad** doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit noun est
794 Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez **ad** dount il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant
1144 el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel **ad** el quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Donqe se
1097 sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz **ad** envolupé./ Sitost com le saunc senti,/ De son grant mal est
358 avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo **ad** fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend
230 pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li **ad** getté s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout
1036 li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li **ad** icy chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le
1095 pere [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus **ad** le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun
580 En son corage fust bien paié/ Quant **ad** le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe
443 savez bien qe mon seignur/ Pur vous **ad** ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma
360 nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous **ad** malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint
794 de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il **ad** mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal
840 La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas **ad** ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son
206 fesoient sa volunté;/ De countredit n'en **ad** parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li quens une feste
970 Qe unke lesser le voleit./ Quant le counte **ad** pres mangé,/ Son botiler ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od
52 pere fuy affyné,/ De son seignur le counte **ad** pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist
768 A plus tost qe Amys poeit,/ Congé **ad** pris, si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama
1096 ad le chef trenché;/ E le sanc de eux **ad** quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé./ Sitost com le
84 doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus **ad** quis a son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il
872 vous estre emperour.'/ Quant l'un l'autre **ad** regarde,/ Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e decirent
79 De une chose soiez garny:/ Le counte **ad** seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est
737 Coment il firent a coucher:/ La dame **ad** son dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe
654 Amillioun fust bien anuié/ Qe la bataille **ad** tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit
397 troverent en hostage./ Le seneschal **ad** taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li
361 Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille **ad** trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo
760 a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys **ad** trestot counté/ Coment eust finé la bataille/ E coment eust
162 maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour **ad** trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
400 li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en **ad** trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe
333 fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ ' **Adonke**,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony
1047 Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot **adrescé**./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de
309 Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel **affere**,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
61 ne vout son honur;/ Mes s'il eust od ly **affere**,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly
140 me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy **affere**,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve chescuny
782 fut par tote la terre,/ Tant demeint grant **affere**./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist tot son
593 l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre **affier**;/ Chescun se prent a ferir./ Amillioun fiert le
336 amey e tant ting cher,/ En qi me porrai **affier**?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute devenu
361 ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e **affolé**./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant
40 fist son botiler,/ Car moult a ly puet **affyer**./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel ly fist
51 Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy **affyné**,/ De son seignur le counte ad pris congé,/ Qe li
1113 dame, que pur sa saunté/ Voz deus fiz **ai** estranglé.'/ La dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li
282 gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz **ai** je refusé./ Certes n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e
1018 chef me faites tost trencher./ Mes certes **ai** jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist
1019 Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien **ai** la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre
1154 se met hors de la terre,/ Ne la savera plus **aider**./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes se
90 fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne **aiez** od li compaignie,/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne
800 diez par amour de moy —/ Car jeo vus **aime** en bone fey —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire
783 Tant demeint grant affere./ Sa femme ly **aime** tendrement,/ Si fist tot son commaundement;/ Tant qe
128 ami e mon bien voilant.'/ Amis respount **aitant**:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/ En moy n'est si
539 si par la robe noun./ Amis, quant il se **ajousta**,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus
759 ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est **alé**,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la bataille
458 qe vers une vespré/ En un grant boys est **alé**./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir
701 pas corucer.'/ Dount fut comaundé **al** baronage/ Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a terce
949 a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ **Al** counte Amys ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son
987 fist un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ **Al** counte de cel hanap counta/ Coment a soen resembleit./ E
330 tot a hounte:/ Acounté est tot lor oevre **al** counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé

1085 s'est par matyn levé./ E al matin est il **alé**;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine garisoun
544 la dame ne voleit parler,/ Desqes al matin **al** lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a
702 comaundé al baronage/ Qe eus feussent **al** mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i furent, petit e
544 A la dame ne voleit parler,/ Desqes **al** matin al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques
1085 sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé./ E **al** matin est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere
1215 de illoec ne pout issir;/ La demora desqe **al** morir./ Autre dames ensample averont/ Coment iour
120 dit il, 'bien veignant!/ De vous suy ore **alé** pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
1059 l'ad conforté./ La dame sovent a ly est **alé**,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer
1139 porra prist congé,/ En son pais s'en est **alé**./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E
1107 vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint **al** seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun
133 me doint e voler./ Si Amilliouns soit **alé**,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur
522 trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est **alé**;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E
240 cel langur demora/ Tant que li quens s'en **ala**/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A
1233 bienfaitz se pena./ Aprés sa mort a Deu **ala**;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se amercnt fierement
923 ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ **Ala** com a processioun./ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet
451 esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes **ala** com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e
315 meisnee le seneschal./ A son seignur le **ala** counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut
931 fust apris/ E moult ama son seignur,/ **Ala** demaundant tut entour/ Des povres les estres e les
435 Tantost a la countesse vynt,/ Congé li **ala** demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li
611 Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup **ala** descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha
148 leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ **Ala** e fist son mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le
1128 pur Amyllioun./ Amys donqe ove la dame **ala**/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent
607 tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir **ala**,/ En le healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort
559 lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ **Ala** hastaunt lour juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il
1167 la dame oi counter,/ En une chaumbre se **ala** muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur estre
256 que ele pust:/ Ove une soule chambere/ **Ala** par congé de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant
68 ly mercya./ Atant del counte departi,/ Si **ala** parler a son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En
438 velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E **ala** qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me
892 jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la dame **ala**,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus
867 illoec morir le lessast,/ E yl en son pais **alast**./ L'enfant respoundi par grant douçur:/ 'Merci Deu
888 tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis **aler** a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane
147 son leu verreyt./ Amis lessa le temps **aler**,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E
436 li ala demaunder/ Qe a son frere velt **aler**:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele
934 de les terres./ Les gentils homes, qe **alere[n]t** juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant
916 long en long li enmena./ Par la terre tant **alerent**/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent
563 vener un chevaler/ Qe vers eux fist grant **aleure**,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut
215 devant li quens teneit./ Mout fu beals e **aligné**,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
312 menere/ Coment e quant s'assemblerunt./ **Allas**! Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ De la
1005 batu li out e defolé/ Que ses mains sunt **allassé**,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li
768 qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en **aloit**/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie
274 Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay **amé** celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie
161 chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent **amé**,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E
777 Si tost come li quens est fini./ Ore est **amé** e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut
262 s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly **amé**,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit
102 Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad **amé** vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e
770 aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant **ama** come sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par
1177 lour pardona,/ Od sei les tint e les **ama**./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut
1060 La dame sovent a ly est alé,/ Qe li **ama** molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li
930 E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult **ama** son seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des povres les
257 congé de sa mere/ Parler a Amys que ele **ama**./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage descovery
33 Bien le portent a honour;/ Si les **amast** mult tendrement,/ Honur les fist a lour talent
1095 Le pere [n']eust de ses fiz pité:/ **Ambedeus** ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E
830 morir./ La dame, que mout est ennuyé,/ **Ambedeus** s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire
564 eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe **amblure**;/ Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les
118 d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li **ameit**./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De vous suy ore
190 Li quens une dame aveit/ Q'il come sa vie **ameit**./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme
708 Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut **amené**/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust son noun
56 Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz **amenusast**./ Le counte fust de ceo marriz,/ Congé li done
696 S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer **amer**?'/ E ele respount moult simplement:/ 'Tot soit a vostre
1035 remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez **amer** jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez
83 est il le plus doté./ Unke ne vous pout **amer**,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne pout
123 compaignon./ Ne volez unke nul autre **amer**/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi
231 ad getté s'amour;/ Si forment comensa a **amer**/ Q'ele ne pout boyvre ne manger./ Les damoyseles qe

131	n'est si enploié/ Qe ne puisse nul autre	**amer**/ Quant talent me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé
478	q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pout	**amer**./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As autres ne fuist pas
637	chival morir./ Le seneschal, qe nel pout	**amer**,/ Un grant coup li vint doner/ Amount el heaulme peint
135	quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e	**ameray**;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose
1235	Amis, son frere, ensement./ Moult se	**amercnt** fierement,/ E bone fut la compaignie./ Lor corps
264	si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne	**amereit**./ Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee
335	Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant	**amey** e tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant
962	vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant	**ameyt**/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus
99	e envie,/ Si vous gardez de glotonie!/	**Amez** bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur
1015	la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant	**amez**,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites tost
127	departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon	**ami** e mon bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire
47	servirent/ E par tot bien loé furent./	**Amillion** demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad
913	Qu'il pout sei meismes enchacer./	**Amillion** fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De
664	rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire	**Amillioun** atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist
878	chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire	**Amillioun** avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous
844	moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit./	**Amillioun** com plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La
1108	seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire	**Amillioun**,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo
1097	chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E	**Amillioun** dedeinz ad envolupé./ Sitost com le saunc senti
710	fut amené/ A l'huis de moster./ Quant	**Amillioun** deust son noun nomer,/ Si se purpensa moult
990	E le counte moult esmerveileit,/ De	**Amillioun** donqe li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment
1008	qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast./	**Amillioun** donque maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe
73	li greve le departir./ Donqe parla sire	**Amillioun**/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone foy
1073	fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E	**Amillioun** en le saunk bainast,/ Si sain devendreit com
595	a autre affier;/ Chescun se prent a ferir./	**Amillioun** fiert le seneschal/ D'un grant launce enpoignal
1170	Qe de son seignur estre veue./ Sire	**Amillioun** fist com leal bier:/ Sa gent fist tot assembler
660	La healme del coup enbarra,/ Qe	**Amillioun** fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne
532	E la dame, quant li veu aveit,/ Qe	**Amillioun** fuit bien quideit./ Les deuz furent issi d'un
653	juger/ Lequel fuit meillour chevaler./	**Amillioun** fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un
1224	e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire	**Amillioun** fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke
714	oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire	**Amillioun**!/ Jeo vous di certeine novele:/ Si vous esposez
721	ne fust/ Home, com dire bien le poet.'/	**Amillioun** l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son dreu
1026	li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E	**Amillioun** le col tendist./ Mais l'enfant avant saillist
960	qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait./	**Amillioun** mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre ne doner
650	Ly seneschal fist moult bien,/ E sire	**Amillioun** ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger
749	purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir	**Amillioun**: —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas
493	od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir	**Amillioun**/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant
484	passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire	**Amillioun** primes le veit;/ Tost est cele part torné
805	A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir	**Amillioun**/ Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove sa feme
740	baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes	**Amillioun**, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son corage/ Fere
1015	'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A	**Amillioun**, qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le
958	avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car	**Amillioun**, qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun
795	ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire	**Amillioun**/ Qe tant estoit leal compaignon./ Com il en son
121	De vous suy ore alé pensant/ E de misire	**Amillioun**/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne volez unke
1136	virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire	**Amillioun**, quant fust sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost
1033	croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire	**Amillioun**!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
50	fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant	**Amillioun** sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son
1069	noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe	**Amillioun** trop bien garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des]
605	bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./	**Amillioun** vint par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le
548	vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir	**Amillioun** voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre
1241	finist le sermoun/ De sire Amis e de syre	**Amillioun**./
133	amer/ Quant talent me doint e voler./ Si	**Amilliouns** soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly
153	autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir	**Amilloun**:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre
14	estoit Amys par noun,/ L'autre est appelé	**Amillyoun**./ Li deus estoient de une nature,/ Angeles
791	ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe	**Amis** aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis
74	Donqe parla sire Amillioun/ E dit: '	**Amis**, beau compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun/ A
409	chei la meischine./ En la place estoit	**Amis**/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout
113	Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant	**Amis** de palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt
119	fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re]	**Amis**,' dit il, 'bien veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E
1241	mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire	**Amis** e de syre Amillioun./
244	n'i out nul remis/ Des chevalers for sire	**Amis**,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye
328	Le seneschal, quant sout la covine/ Entre	**Amis** e la meschine,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté
429	destiné! '/ La dame lermist pur pité,/ Prist	**Amis** en plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis se
547	Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de	**Amis** ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe

806 Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe **Amis** estoit leal compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ Qe
147 se vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ **Amis** lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le
793 ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de **Amis** lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de
185 meuz li servi de jour en jour./ Taunz com **Amis** meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son
374 parler;/ Les oils sur ly forment roylla./ **Amis** moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie
291 vous vengé!'/ Atant s'est Florie retorné./ **Amis** mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota
1102 en face/ De maladi ne appareust trace./ En **Amis** ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a
539 fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ **Amis**, quant il se ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie
265 ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ **Amis**, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele
483 Qe parmy le boys passerent/ Ou sire **Amis** reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est cele
128 amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ **Amis** respount aitant:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/ En
431 plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ **Amis** se retret e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De
1047 biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ **Amis** s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi
1234 se pena./ Aprés sa mort a Deu ala;/ **Amis**, son frere, ensement./ Moult se amercnt fierement,/ E
1143 E q'il revint el pais/ E od li le counte **Amis**,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur
956 qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ **Amis** une coupe avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car
129 respount aitant:/ 'Sire seneschal, vostre **amisté**/ En moy n'est si enploié/ Qe ne puisse nul autre amer
520 Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire **Amist** trestut le graunte./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E
957 Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement **amoit**,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait
192 vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele **amoit** come s'alme./ Mout fut gentile la damoysele,/ En une
881 dirray de l'enfant:/ La gent l'appelent **Amorant**,/ Mes Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist
639 pout amer,/ Un grant coup li vint doner/ **Amount** el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs
799 Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par **amour** de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee
101 soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez **amour** e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt
263 pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly **amour** ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad
324 Par grant duçour s'entrebeiserent./ De **amour** parlerent e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie
738 coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E par **amour** sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes
958 ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant **amoyt**,/ Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit le
150 counte com il soleyt,/ E le counte mout li **amoyt**:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné
588 Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul **amur** ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt
512 seiez lour seignur./ Si vous requer par **amur**/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant
68 del counte departi,/ Si ala parler a son **amy**/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En bone foy saunz
126 s'en est departi,/ Requer qe soyez mon **amy**,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis respount aitant
295 'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre **amy** suy e serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray
280 honye/ Quant vous me dedeignez avere **amye**!/ Tant gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je
546 Chescune nuyt issi se contint/ Desques **Amyllioun** a meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir
628 pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E **Amyllioun** a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere
1127 messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur **Amyllioun**./ Amys donqe ove la dame ala/ En la chambre ou
465 fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ **Amyllioun** en son lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit
181 De parage e de beautez./ Ore lerray de **Amyllioun** ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit
1012 out perdu/ E coment est avenu./ Quant **Amyllioun** li oist nomer,/ De dolur pout son quer crever
66 de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ **Amyllioun** ly mercya./ Atant del counte departi,/ Si ala
835 Illoc lour fist aver hostel./ O, misires **Amyllioun**,/ Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire e
41 son botiler,/ Car moult a ly puet affyer./ **Amyllioun** ne velt lesser:/ De son hostel ly fist justizer
883 fuit son dreit noun./ Donque li dist sire **Amyllioun**:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé de li
1120 son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si **Amyllioun** perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les
645 le costé./ Mes la char n'ad pas toché./ **Amyllioun**, qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo
522 Lour robes ount trestot chaungé,/ E **Amyllioun** s'en est alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore
832 hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire **Amylloun** e son enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc
760 desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A **Amys** ad trestot counté/ Coment eust finé la bataille/ E
1034 sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, **Amys**,/ Com vous li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad
575 le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit **Amys**;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes demaunda
403 E trestouz virent qe le seignur/ Haist **Amys** desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul
1128 mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ **Amys** donqe ove la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz
39 Hautement lour feste teneint./ De **Amys** fist son botiler,/ Car moult a ly puet affyer
502 ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye **Amys**./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom
550 vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e **Amys**./ Le seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le botiler
739 sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu **Amys**./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son
188 haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes **Amys** ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il
949 Mes de l'enfant avoient pité:/ Al counte **Amys** ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son premer
13 vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit **Amys** par noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li deus
767 De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe **Amys** poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers
691 appelé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ **Amys** pur vous ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e

919	eus vindrent el pais/ Ou sojorna le counte	**Amys**/ Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit
69	counte departi,/ Si ala parler a son amy/	**Amys**, q'estoit son compaignoun,/ En bone foy saunz treson
212	baroun./ Est veuz li mestre botiler,/	**Amys**, qi bien sout son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La
257	Ala par congé de sa mere/ Parler a	**Amys** que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son
527	fere!/ Grant chose enprent pur son frere!/	**Amys** remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E
468	se cocheit;/ Si s'avint en avisioun/ Ke sir	**Amys** son compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist
439	ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir	**Amys**,/ Traihir me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel
400	payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe	**Amys** un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour
379	vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist	**Amys**, 'vus dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul
182	Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir	**Amys** vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E
817	Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel	**an**/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz departoient
1222	Coment le counte out comaundé./ Un	**an** vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun
890	Priez a lui par charité/ Qe ele me face une	**ane** doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la dame ala
16	Li deus estoient de une nature,/	**Angeles** resembleient de faiture./ Taunt s'amerent fierement
963	Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son	**anguisse** guerpir ne voleit./ Les deus hanaps tant
653	meillour chevaler./ Amillioun fust bien	**anuié**/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner
1063	Plus ne li poet fere companie./ Treis	**anz** demena tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il
717	esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii.	**anz** passez,/ aprés de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si
725	come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent	**aparceu**/ Coment son frere eust deceu./ La damoisele fuit ben
301	Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre	**aparceu**/ Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous en
629	E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il	**aparceut** tost la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost
765	E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit	**aparcevant**/ De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe
1162	venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut	**aparcevant**/ De lour venue tant ne quant./ La meisnee fust
519	vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout	**aparcevante**!'/ E sire Amist trestut le graunte./ Lour robes
251	dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust	**apelé**/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé
1148	quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot	**appareillé**/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore se
1101	Qe en corps ne en face/ De maladi ne	**appareust** trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe
658	primes li ferist,/ Qe son coup tres bien	**apparist**:/ La healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort
14	Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est	**appelé** Amillyoun./ Li deus estoient de une nature,/ Angeles
689	son pere moult dota./ Le counte atant l'ad	**appelé**:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad
971	le counte ad pres mangé,/ Son botiler ad	**appelé**:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo
473	E tost sus sailli com home desvee./ Tost	**appela** ses chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./ Touz
864	force ne fray.'/ L'enfant a soi donque	**appelast**,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast
939	Gentil home resemblereit./ Un de eux ly	**appeleyt**,/ Demaundast s'il vout servir./ E il getta un grant
1050	com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad	**apporté**./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e
378	vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja	**approchaunt**!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy
929	se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust	**apris**/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut entour
276	Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie	**aprés** ceo jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo ne soye
718	Einz qe soint .iii. anz passez,/	**aprés** de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne fust
1126	ount lessé/ E le service Deu ount escoté./	**Aprés** la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur
788	Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost	**aprés** morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne
1233	vesqui;/ En bienfaitz se pena./	**Aprés** sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult
693	Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad	**aquité**/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt esposer
492	joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est	**aquointé**!/ Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant
461	Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un	**arbre** se cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car
368	dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal	**ard** e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de
561	grant serement/ Qe il memes les verreit	**arder**./ Ataunt virent vener un chevaler/ Qe vers eux fist grant
986	estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre!'/	**Arere** tantost se repeira,/ Al counte de cel hanap counta
630	aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost	**arere**./ Tost descendi de son destrer;/ Combatre voleit per a
580	bien paié/ Quant ad le chivaler si bien	**armé**./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre
578	armes demaunda/ E li memes le chivaler	**arma**./ En son corage fust bien paié/ Quant ad le chivaler si
551	seneschal e Amys./ Le seneschal se fist	**armer**,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre
577	De cors resemblast e de vis./ Bons	**armes** demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En son corage
8	Q'en la court un counte estoient/ E des	**armes** li servoient./ Moult furent de grant vassalage
571	fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/	**Armes** me fetes tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo
622	Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses	**armes** sout trop bien porter,/ Mes son coup est trop pesant
808	sa feme tant demorra/ Qe tot son pel ly	**arracha**./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li
366	Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute	**arse** en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e
19	Que freres se firent par serement;/	**As** autres ne fesoient unke semblaunt/ De companie tant ne
480	amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/	**As** autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe
601	Le seneschal li referri;/ Lour launces ount	**as** coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encountre tant
894	Son message li counta./ Ele li fist un	**asne** aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne]
907	ne pount plus entendre/ Q'il covient lor	**asne** vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront

469 Amys son compaignoun/ D'un leon fust **assailli**,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut moult
707 sergeans e esquiers./ Quant touz furent **assemblé**,/ La pucele fut amené/ A l'huis de moster./ Quant
210 tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit **assemblé** maint baroun./ Est veuz li mestre botiler,/ Amys
1171 fist com leal bier:/ Sa gent fist tot **assembler**,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e
794 Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe **assez** ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe
1064 Treis anz demena tele vie;/ De ses eses **ass[e]z** avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant passa le
549 voloms parler./ Le jour vint qe fuist **assis**/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer
1002 pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient **assuager**/ Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e defolé
771 Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en **astage**,/ Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant
597 launce enpoignal/ Parmi l'escu peint de **asur**,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le
404 desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo **at** tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger
447 mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'/ **Atant** congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e
67 a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ **Atant** del counte departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys
394 tendi son gant,/ E li quens [les] resceust **atant**./ E donqe jugga le baronage/ Que plegges troverent en
513 requer par amur/ Qe de ma femme facez **atant**,/ En fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse
353 meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'/ **Atant** en la chambre entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame
664 autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun **atant**/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le
1124 Si Deu velt, bien lé recoveroms.'/ **Atant** la parole ount lessé/ E le service Deu ount escoté
689 osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte **atant** l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur
1090 qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ **Atant** le counte s'est repairé./ En une chambre est entré/ Ou
684 n'en a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ **Atant** li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la
48 tot bien loé furent./ Amillion demorra/ **Atant** qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant
680 ja corerent,/ Mes le counte vient premer;/ **Atant** se fist desarmer./ S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist
103 e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ **Atant** se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel
385 Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal **atant** se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en
290 destret./ Donques serray de vous vengé!'/ **Atant** s'est Florie retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le un
994 Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut **ataunt**,/ A cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe
624 est trop pesant./ Le seneschal se leve **ataunt**,/ Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A
143 Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal **ataunt** se tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il
562 serement/ Qe il memes les verreit arder./ **Ataunt** virent vener un chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure
661 Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop **attendre**:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra
974 od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ **Au** povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé
937 ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit **auke** vestu,/ Gentil home resemblereit./ Un de eux ly
593 hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a **autre** affier;/ Chescun se prent a ferir./ Amillioun fiert le
123 ert leal compaignon./ Ne volez unke nul **autre** amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en est
131 En moy n'est si enploié/ Qe ne puisse nul **autre** amer/ Quant talent me doint e voler./ Si Amilliouns
325 De amour parlerent e juwerent./ De **autre** chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynie
1216 ne pout issir;/ La demora desqe al morir./ **Autre** dames ensample averont/ Coment iour seignurs lour
517 Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est **autre** de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout
152 amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul **autre** de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant
55 terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe **autre** heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte
49 Atant qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad **autre** heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy
1121 Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel **autre** ne averez./ De les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu
136 E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul **autre** ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur
476 fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour dist **autre** noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant
1225 dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe **autre** peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul
663 attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li **autre** s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint
94 ne porra avenir/ Quant compaignoun velt **autre** trahir./ A tote gent bel responez,/ Grant preu e grant
924 enviroun/ Ala com a processioun./ Entre **autres** les deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si
19 Que freres se firent par serement;/ As **autres** ne fesoient unke semblaunt/ De companie tant ne
480 amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As **autres** ne fuist pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe
677 la bataille./ Les uns chaunterent, les **autres** plorerent./ Les chevalers ja corerent,/ Mes le counte
112 demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li **autres** remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun
200 grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama **auxi** la mere./ La damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes out
813 Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit **auxi** od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit
616 del chival/ Cola le braunke en terre **aval**/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe
487 l'ad esveillé./ E sa gent passerent **avant**,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son estre saver voleit
719 passez,/ aprés de ceste leprouz serrez./ **Avant** mes unke si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.'
1027 E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant **avant** saillist:/ Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe son seignur
851 cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre **avant**./ Tantost counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal
413 Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors **aveient** de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out
222 qe en la sale estoient/ De sa beauté matire **aveient**./ Est venuz la novele/ En la chaumbre a la damoisele
1230 feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien **aveit** deservy./ En bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz

1140 En son pais s'en est alé./ Quant la dame **aveit** oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E
791 soer ne frere/ For soul la dame qe Amis **aveit**,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis
531 lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu **aveit**,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent issi
189 ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame **aveit**/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele
270 se purpensoit/ Com celi qi talent ne **aveit**/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous Florie par
93 trover si mal noun;/ Car piz ne porra **avenir**/ Quant compaignoun velt autre trahir./ A tote gent
207 De countredit n'en ad parlé./ Un jour par **aventure** avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de
1011 Qe son hanap out perdu/ E coment est **avenu**./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pout son
1189 qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben **avenu**,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy
236 que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly **avenut**./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose
894 message li counta./ Ele li fist un asne **aver**,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne]
858 longes me durra ceste vie?/ Jeo solei **aver** grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant
505 del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit **aver** hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés
834 chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist **aver** hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre
446 ne murrez mie,/ Tant com je puisse **aver** la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta
198 ele a trestouz respoundi/ Ne vout uncore **aver** mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi
1226 n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout **aver**;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa
1082 Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout **avera** fait bone jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné.'
591 Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne **avera** mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul
341 fel traitre m'ad icy servy./ A touz jours **avera** reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo
280 jeo bien honye/ Quant vous me dedeignez **avere** amye!/ Tant gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz
1121 perdu eussez,/ Jamés tel autre ne **averez**./ De les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien
426 s'il defaut a la bataille,/ Le juggement **averez** saunz faille,/ Qe vostre fille fust destiné! '/ La dame
1206 [K']a moy livrastes pur hostel./ Celi **averez** tant com vus viverez;/ En noun de dowere le tenez!'
298 ne mesprendroie mye/ Par quei vous en **averez** vilenye/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu
509 A ma court od vous irrount./ E quant nous **averoms** robes chaungé,/ Donqe quideront de verité/ Qe vous
1216 desqe al morir./ Autre dames ensample **averont**/ Coment iour seignurs lour garderont./ Une garce la
752 qe vous quidez;/ De vostre espoir failli **avez**./ A vous le peus bien counter,/ Car bien le deverez celer
356 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus **avez**!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler
496 frere, quant avez forfait/ E le serment **avez** fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment serrez
495 de mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant **avez** forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur
207 n'en ad parlé./ Un jour par aventure **avint**/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun
27 estoient,/ N'est home el mound qe les **avisast**/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent de une
467 sa femme se cocheit;/ Si s'avint en **avisioun**/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un leon fust
460 boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ **Aviz** li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E
945 li demaundeient,/ Mes sitost com il veu **avoient**/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a folur
556 lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité **avoient** la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens
1001 li voleient,/ Mes pur poer qe eus **avoient**,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant
948 Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant **avoient** pité:/ Al counte Amys ount counté./ Cil, sitost com
21 companie tant ne quant./ Ceus de la court **avoint** envie/ De lour estre e de lour compaynie,/ Q'amerent
187 seneschal plus li haeit;/ De son benfait **avoit** envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une
878 honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun **avoit** eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous dirray de
263 ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne **avoit**,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté
956 La moyté lor envoia./ Amis une coupe **avoit**/ Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant
191 aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille **avoit** la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut gentile la
1075 sain devendreit com pessoun./ Quant veu **avoit** l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe
960 Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes **avoit** le per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant
177 Li fuit escheu del counté./ De beauté **avoit** le pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien furent entre
174 d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu **avoit**;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De
326 chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y **avoit** vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine/ Entre
76 foy saunz tresoun/ A nostre seignur servy **avom**./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ De une chose soiez
1064 anz demena tele vie;/ De ses eses ass[e]z **avoyt**/ Tant com il memes desiroit./ Quant passa le temps
363 e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si **avra** il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert
96 bel responez,/ Grant preu e grant honur **avrez**!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de glotonie
440 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez, m'est **avys**!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon
274 Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous **ay** amé celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie
275 Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus **ay** doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray en
524 va saunz compainie./ Ore Deus li soit en **aye**/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose enprent pur
135 alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly **aym** e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est
665 sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel **ayr**/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant
1024 dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust **baillé**./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist
571 vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost **bailler**/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray nostre
1073 les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk **bainast**,/ Si sain devendreit com pessoun./ Quant veu avoit

1052 ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ **Bainer** li fist e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir
738 ad son dreu acolé/ E par amour sovent **baisé**,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu
158 li firent homage./ Ore poet il mener grant **baronage**!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de
701 pas corucer.'/ Dount fut comaundé al **baronage**/ Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a terce
395 [les] resceust atant./ E donqe jugga le **baronage**/ Que plegges troverent en hostage./ Le seneschal
705 sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les **barons** e les chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant
11 Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de **barons**,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys
728 La damoisele fuit ben paé/ Quant ad **baroun** a volunté./ Le counte tynt feste plenere/ Une
210 de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint **baroun**./ Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qi bien sout son
647 vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La **bataille** ad bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly
654 Amillioun fust bien anuié/ Qe la **bataille** ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit
761 ad trestot counté/ Coment eust finé la **bataille**/ E coment eust fait la sposaille./ En une chambre
499 serment serrez encombré./ Pur vous la **bataille** fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li
425 E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la **bataille**,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe vostre fille
676 chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la **bataille**./ Les uns chaunterent, les autres plorerent./ Les
582 en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la **bataille**,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir
1040 ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ **Bate** ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort
285 estes e laner!/ Un play bien dur vus **bateray**:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy
1004 assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant **batu** li out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe
372 Si encontra le botiler./ A li soleit trop **beal** parler;/ Les oils sur ly forment roylla./ Amis moult se
215 La coupe devant li quens teneit./ Mout fu **beals** e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
74 Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, **beau** compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun/ A nostre
495 Paroles de mult grant resoun:/ ' **Beau** frere, quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me
439 vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: ' **Beau** sir Amys,/ Traihir me volez, m'est avys!/ Si vous ne
225 a la damoisele/ Del botiler qe tant ert **beaus**/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler
177 la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De **beauté** avoit le pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien
557 avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour **beauté**./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour
222 Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa **beauté** matire aveient./ Est venuz la novele/ En la chaumbre
180 furent entre eux couplés/ De parage e de **beautez**./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus
1048 s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad **beisé**,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad
684 qe pesson de mer./ Atant li vount touz **beiser**:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie
814 lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li **beivre** ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li
218 eux communement disoient/ Qe unque si **bel** chevaler ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si
220 E li quens meme le dist/ Qe onqe si **bel** chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa
936 E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant **bel** e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home
165 E robes a ses esquiers./ E il memes si **bel** estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust
1185 de pour./ Le seignur la fist relever,/ **Bel** la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne
95 velt autre trahir./ A tote gent **bel** responez,/ Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil
1209 fist fere un turel:/ Petit fut mes molt **bel**,/ Si fut fort durement;/ De loinz le virent tote sa gent
690 atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille **bele**,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad confundu
798 Com il en son lit gisoit,/ Sa **bele** dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo
194 la damoysele,/ En une realme ne out plus **bele**./ Deus countes la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes
1189 Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust **ben** avenu,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le
921 noble court illoeq tenoit/ E moult grant **ben** fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com a
727 son frere eust deceu./ La damoisele fuit **ben** paé/ Quant ad baroun a volunté./ Le counte tynt feste
673 haunche le branc cola./ En cel champ fu **ben** vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas
187 Le seneschal plus li haeit;/ De son **benfait** avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li
453 soir ne matyn,/ Poy mangea e mains **beust**,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi
102 Mout li devez amour e foy,/ Car **bien** ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés
1019 Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop **bien** ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De
653 fuit meillour chevaler./ Amillioun fust **bien** anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja
658 primes li ferist,/ Qe son coup tres **bien** apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun
580 fust bien paié/ Quant ad le chivaler si **bien** armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout
1230 bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe **bien** aveit deservy./ En bone vie longtemps vesqui;/ En
1197 bien du mien./ Dame, sovenez vous del **bien**,/ Coment a manger me menastes/ E del pais
753 vostre espoir failli avez./ A vous le peus **bien** counter,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot lour estre luy
735 Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo **bien** counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame ad son
1196 n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse **bien** du mien./ Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a
647 coup li dona ceo jour./ La bataille ad **bien** duré/ Desque noune fust passé./ Ly seneschal fist moult
285 Mescreaus estes e laner!/ Un play **bien** dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li
649 fust passé./ Ly seneschal fist moult **bien**,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del
741 fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ **Bien** entendi en son corage/ Fere ne li velt hountage/ De son
721 com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad **bien** entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne

318 Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit **bien** estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre
1228 Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant **bien** feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy
525 Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse **bien** fere!/ Grant chose enprent pur son frere!/ Amys remaint
179 le pris/ Sour touz les dames du pays./ **Bien** furent entre eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore
929 [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe **bien** fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut
201 l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit **bien** gardé:/ Compaignes out a grant pleinté/ Des dameseles
975 qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit **bien** gardé:/ En son esquiel le vin versez,/ E ma coupe me
1069 voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop **bien** garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa
279 soye de vous vengez!/ Certes ore suy jeo **bien** honye/ Quant vous me dedeignez avere amye!/ Tant
359 E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre **bien** hounte nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre
1123 enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, **bien** lé recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé/ E le service
754 avez./ A vous le peus bien counter,/ Car **bien** le deverez celer.'/ Tot lour estre luy ad counté,/ E puis
720 mes unke si laid ne fust/ Home, com dire **bien** le poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist sicom
32 nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ **Bien** le portent a honour;/ Si les amast mult tendrement
46 cel mester longtemps servirent/ E par tot **bien** loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina
12 Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy **bien** lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est
383 moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult **bien** me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal
579 le chivaler arma./ En son corage fust **bien** paié/ Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef
398 seneschal ad taunz trové/ Ke le counte fut **bien** payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en
622 l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop **bien** porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le seneschal se
643 descent,/ Mailles trenchent plus de cent./ **Bien** pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché
603 outrepassé./ A cel encountre tant firent **bien**/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par
442 Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez **bien** qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist
532 quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit **bien** quideit./ Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerreit
575 dreit.'/ Le quens, quant le chevaler veit,/ **Bien** quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis
25 se coroucent sovent./ De cors de visage **bien** resembleyent:/ Si de une robe vestu estoient,/ N'est
991 De Amillioun donqe li sovent:/ ' **Bien** sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe
212 Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qi **bien** sout son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe
119 quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, ' **bien** veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E de misire
127 qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon **bien** voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal
99 Si vous gardez de glotonie!/ Amez **bien** vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li
1232 En bone vie longtemps vesqui;/ En **bienfaitz** se pena./ Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere
1045 Qe son frere desconusseit/ Qe touz **biens** li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot
1170 estre veue./ Sire Amillioun fist com leal **bier**:/ Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e chivalers
903 tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de **blé**./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille
1055 Servir le fist tot a talent/ De viande e de **boivre** ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz
854 E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a **boivre** ne a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le
227 E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant **bon** chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele en prist
168 Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus **bon** ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A
59 li done mes enviz;/ Mes le conte fist com **bon** seygnur,/ Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il eust
800 par amour de moy —/ Car jeo vus aime en **bone** fey —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire, purquei
518 est autre de moy;/ Car jeo vous dy en **bone** foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist
70 Amys, q'estoit son compaignoun,/ En **bone** foy saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult
75 E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En **bone** foy saunz tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur
1088 frere doine garisoun./ La dame vint, qe **bone** fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le counte s'est
1236 Moult se amercnt fierement,/ E **bone** fut la compaignie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E
1082 enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait **bone** jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est
1103 trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une **bone** robe li fist vener/ E a mouster puis li mena./ La dame
1231 terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En **bone** vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Aprés sa
577 fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ **Bons** armes demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En son
163 de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ **Bons** chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si
833 e son enfant,/ A chef de la vile a un **bordel**/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun
1204 pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del **bordel**/ [K']a moy livrastes pur hostel./ Celi averez tant com
706 e grant,/ Les barons e les chevalers,/ **Borgés**, sergeans e esquiers./ Quant touz furent assemblé
1036 Com vous li soleiez amer jadis./ Grant **bosoigne** li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'
371 sailli hors de la mayson,/ Si encontra le **botiler**./ A li soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly forment
971 Quant le counte ad pres mangé,/ Son **botiler** ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si
211 maint baroun./ Est veuz li mestre **botiler**,/ Amys, qi bien sout son mester:/ De un drap vestu
39 lour feste teneint./ De Amys fist son **botiler**,/ Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt
778 est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre **botiler**./ Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit
552 seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le **botiler**;/ E quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e
358 ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre **botiler**./ Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous ad
952 premer mes li envoya/ Par son mestre **botiler**,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li

225 En la chaumbre a la damoisele/ Del **botiler** qe tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit
319 bien estre vengé/ De vostre corteis **botiler**;/ Tot lour estre fist espier./ Qant vint le terme
997 errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la **bowe** est il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li
458 Tant qe vers une vespré/ En un grant **boys** est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il
241 demora/ Tant que li quens s'en ala/ A **boys** juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i
482 En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le **boys** passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun
232 Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout **boyvre** ne manger./ Les damoyseles qe od li erent/ Purquei
672 brank trencha:/ Desque en la haunche le **branc** cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert
606 Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret le **brank** d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant
668 fust tot purfendant./ En la cervele cola le **brank**./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place
671 Voler fist enmi la place./ Le braz od le **brank** trencha:/ Desque en la haunche le branc cola./ En cel
616 Parmy l'espaudle del chival/ Cola le **braunke** en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal
1050 Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses **braz** li ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist
671 tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le **braz** od le brank trencha:/ Desque en la haunche le branc cola
601 li referri;/ Lour launces ount as coups **brusé**/ E si sunt outrepassé./ A cel encountre tant firent bien
958 coupe avoit/ Ke mout ferement amoit,/ **Car** Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait
102 deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ **Car** bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés
754 failli avez./ A vous le peus bien counter,/ **Car** bien le deverez celer.'/ Tot lour estre luy ad counté,/ E
772 come sa vie./ Ore est mout en astage,/ **Car** cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De
1179 ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ **Car** de li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes
518 ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ **Car** jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'
800 li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ **Car** jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue meistes entre
40 feste teneint./ De Amys fist son botiler,/ **Car** moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son
72 saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ **Car** moult li greve le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E
463 E son chival a une raym lya./ Dormist, **car** mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun
93 od feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ **Car** piz ne porra avenir/ Quant compaignoun velt autre trahir
91 de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ **Car** qui s'acompanie od feloun/ Ne porra trover si mal noun
688 totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ **Car** son pere moult dota./ Le counte atant l'ad appelé:/ 'Dy
1159 ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ **Car** un jour par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la
369 de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke **carboun**./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontra le
309 Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de **cel** affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
817 morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en **cel** an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz
673 Desque en la haunche le branc cola./ En **cel** champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist
850 que manger li donast./ L'enfant, quant oy **cel** comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre avant./ Tantost
603 as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A **cel** encountre tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren
340 devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ **Cel** fel traitre m'ad icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si
987 Arere tantost se repeira,/ Al counte de **cel** hanap counta/ Coment a soen resembleit./ E le counte
239 teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En **cel** langur demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en
236 E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont **cel** mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre
45 sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De **cel** mester longtemps servirent/ E par tot bien loé furent
105 Plurent e crient de pité./ Suz **cel** n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust
995 achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A **cel** povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe
1076 Quant veu avoit l'avisioun/ E de **cel** sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti
959 amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ **Cele** coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne
481 As autres ne fuist pas deduit./ En **cele** nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire
485 Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est **cele** part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent
274 li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé **celement**?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés
750 Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra **celer** son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De
754 le peus bien counter,/ Car bien le deverez **celer**.'/ Tot lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra
1191 tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy **celestre**./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous
1206 bordel/ [K']a moy livrastes pur hostel./ **Celi** averez tant com vus viverez;/ En noun de dowere le tenez
978 vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E **celi** fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le
346 mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par **celi** qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler
432 Amis se retret e purpensa/ Com **celi** qe grant mester en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a
751 vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas **celi** qe vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous le
270 desir./ De respoundre se purpensoit/ Com **celi** qi talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez
946 Mes sitost com il veu avoient/ **Celi** q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de
642 coup descent,/ Mailles trenchent plus de **cent**./ Bien pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché
1048 de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de **cent** foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses
404 Haist Amys desqe a la mort,/ Fust **ceo** a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le
909 vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De **ceo** acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur deus
358 vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E **ceo** ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend
404 desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust **ceo** at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt

815	Ne od li beivre ne manger./ Meuz,	**ceo** dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel
304	nous en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!'	**ceo** dit Florie,/ 'Nous le froms si privément/ Touz deus a
62	honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist	**ceo** en pees ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od
82	E si est de mult grant parenté;/ Pur	**ceo** est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad
973	ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a	**ceo** frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit
739	E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe	**ceo** fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en
568	dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot	**ceo** fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit
804	vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A	**ceo** fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis
1108	Vint al seignur, si li demaunda/ Si	**ceo** fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame
575	quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe	**ceo** fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes
944	Q'il ne lerreit pur estre emperur./ Qy	**ceo** fuit li demaundeient,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi
530	E quiderount trestouz pur voir/ Qe	**ceo** fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe
1148	Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur	**ceo** fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes
234	Les damoyseles qe od li erent/ Purquei	**ceo** fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout
646	qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona	**ceo** jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust passé
276	vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés	**ceo** jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo ne soye de
792	frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur	**ceo** les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez
65	E il od force de sa gent/ Vendroit a ly,	**ceo** li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte departi
910	De ceo acateront lour vitaille./ Estre	**ceo** lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei
57	ses droitz amenusast./ Le counte fust de	**ceo** marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist com
1195	vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur	**ceo** n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien
723	E la prist sicom son dreu,/ Mes pur	**ceo** ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit
1038	vous fetes pecché.'/ Quant le counte	**ceo** oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, ses
886	Nostre congé de li prendrez./ Hors de	**ceo** pais irroms/ A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne
1202	Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En	**ceo** pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous
301	Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si	**ceo** poet estre aparceu/ Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne
1188	ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur	**ceo** qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez
137	e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [	**ceo]** qu'il est chose esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes
630	Mes il aparceut tost la manere,/ Si	**ceo** retret tost arere./ Tost descendi de son destrer;/ Combatre
805	le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par	**ceo** savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal compaignon
24	Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de	**ceo** se coroucent sovent./ De cors de visage bien
542	Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de	**ceo** s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler,/ Desqes al
334	luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si	**ceo** traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher
1134	solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant	**ceo** virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant
343	Si jeo ne me puisse de li venger./ Est	**ceo** voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal.'
715	lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di	**certeine** novele:/ Si vous esposez la damoisele,/ Einz qe
1018	Mes le chef me faites tost trencher./ Mes	**certes** ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'
1110	Coment il out sa garisoun./ 'Dame,	**certes**, jeo vus dirray,/ Mes vous desconforteray./ Sachez
283	m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./	**Certes** n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un
279	heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez!/	**Certes** ore suy jeo bien honye/ Quant vous me dedeignez
668	Qe le healme fust tot purfendant./ En la	**cervele** cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist
985	regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre?/	**Ces** deus hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al
853	Tantost counta a son seignur,/ E il dit: '	**C'est** mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne
1033	ne menti/ E qi en croiz suffri passioun,/	**C'est** mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez
718	Einz qe soint .iii. anz passez,/ aprés de	**ceste** leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/ Home
352	pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/	**Ceste** play m'est laid e vileins.'/ Atant en la chambre entrat
857	le fiz seinte Marie,/ Com longes me durra	**ceste** vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi d'argent
572	serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur	**cestes** dames deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit.'/ Le
21	semblaunt/ De companie tant ne quant./	**Ceus** de la court avoint envie/ De lour estre e de lour
221	Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz	**ceus** qe en la sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est
252	est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De	**ceux** qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust
1036	amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy	**chacé**./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo
107	dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt	**chaeuz** a terre;/ N'est home qi me vousist crere/ Si jeo deisse
1039	le counte ceo oist,/ Tost estendu a terre	**chaist**:/ Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa
675	ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il	**chaist**, n'est pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns
255	hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule	**chambere**/ Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys que ele
353	play m'est laid e vileins.'/ Atant en la	**chambre** entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il
1091	Atant le counte s'est repairé./ En une	**chambre** est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E
1051	levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa	**chambre** li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son
204	pleinté/ Des dameseles del pais/ En sa	**chambre** noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ De
1129	Amys donqe ove la dame ala/ En la	**chambre** ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent estranglés
763	E coment eust fait la sposaille./ En une	**chambre** puis entrerent/ E lour robes chaungerent;/ Donque
673	en la haunche le branc cola./ En cel	**champ** fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist

644 cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la **char** n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint
889 Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par **charité**/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
1172 leal bier:/ Sa gent fist tot assembler,/ **Chasteleins** e chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz
1185 seignur la fist relever,/ Bel la comence a **chastier**:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil
224 aveient./ Est venuz la novele/ En la **chaumbre** a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres
1167 mie./ Quant la dame oi counter,/ En une **chaumbre** se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son
651 ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del **chaump** juger/ Lequel fuit meillour chevaler./ Amillioun fust
509 irrount./ E quant nous averoms robes **chaungé**,/ Donqe quideront de verité/ Qe vous seiez lour
521 le graunte./ Lour robes ount trestot **chaungé**,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va saunz
764 une chambre puis entrerent/ E lour robes **chaungerent**;/ Donque ne fuit aparcevant/ De lour estre tant
677 mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns **chaunterent**, les autres plorerent./ Les chevalers ja corerent
1 Qi voet oyr **chaunzon** d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/ De
618 qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre **chay**./ Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop parlent
810 ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe **checun** pur mesel li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne
833 serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A **chef** de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O
1017 amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le **chef** me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui
1095 [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le **chef** trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz
408 Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé **chei** la meischine./ En la place estoit Amis/ Com esgarré e
875 e decirent lour draps,/ Sovent se claiment **cheitif** e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la
1150 estre esposé./ Mes ore se claime lasse **cheitive**;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas
335 issi hony,/ Que tant amey e tant ting **cher**,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma
777 come li quens est fini./ Ore est amé e tenu **cher**;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut fait e sire
993 De mon frere l'ad emblé./ Qe **cher** serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre
902 va querant,/ Mes tant lour vint sur **cherté**/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home
199 Ne vout uncore aver mary./ A grant **cherté** le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La
1220 la serveit/ Qe par une fenestre luy porteit/ **Chescun** jour sa liveré,/ Coment le counte out comaundé
1057 de boivre ensement./ E li memes a li vet/ **Chescun** jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté
954 botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De **chescun** mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis
594 desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier;/ **Chescun** se prent a ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un
545 voleit parler,/ Desqes al matin al lever./ **Chescune** nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a meson
142 Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve **chescuny** honur.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe
633 voleit per a per,/ Q'il n'eust de son **cheval** envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut
619 a terre chay./ Qe pout, quant son **cheval** li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a
652 del chaump juger/ Lequel fuit meillour **chevaler**./ Amillioun fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant
953 Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis **chevaler**./ De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor
348 le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal **chevaler** le voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit
283 E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas **chevaler**!/ Mescreaus estes e laner!/ Un play bien dur vus
218 communement disoient/ Qe unque si bel **chevaler** ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel
562 les verreit arder./ Ataunt virent vener un **chevaler**/ Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe
574 nostre dreit.'/ Le quens, quant le **chevaler** veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors
705 i furent, petit e grant,/ Les barons e les **chevalers**,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz furent
244 A l'ostel n'i out nul remis/ Des **chevalers** for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la
678 chaunterent, les autres plorerent./ Les **chevalers** ja corerent,/ Mes le counte vient premer;/ Atant
473 sailli com home desvee./ Tost appela ses **chevalers**,/ Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist
819 en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses **chevalers** touz departoient,/ Ses garsons touz li guerpeient
998 du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les **chevalers** vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt prés
455 ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi **chevaucha**,/ Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une
163 gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons **chevaus** e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel
1040 a terre chaist:/ Bate ses mains, ses **cheveuz** detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist
612 deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si **chiet** sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si
891 ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse **chivacher**.'/ L'enfant a la dame ala,/ Son message li counta
462 morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son **chival** a une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son
615 trenché le eust./ Parmy l'espaudle del **chival**/ Cola le braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy
464 Dormist, car mult fu travaillé,/ E son **chival** fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez
636 Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son **chival** morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant
578 Bons armes demaunda/ E li memes le **chivaler** arma./ En son corage fust bien paié/ Quant ad le
420 morir;/ Devant le counte se genula/ E le **chivaler** demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son
380 Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy vostre **chivaler** leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For que dreit a
450 garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com **chivaler**/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn
220 E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel **chivaler** ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa
227 gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon **chivaler**/ Q'en la court n'out son per./ La pucele en prist
621 parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le **chivaler**/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes son coup est
580 En son corage fust bien paié/ Quant ad le **chivaler** si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe

160 N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis **chivalers** de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad
392 Est veus tote la court ensemblé,/ Ly **chivalers** e la meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant
216 teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des **chivalers** fuit moult prisé./ Entre eux communement
35 tendrement,/ Honur les fist a lour talent./ **Chivalers** lour fist a grant honur:/ Touz les ad dobbez en
506 vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes **chivalers** qe sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/ A ma
589 eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les **chivalers**/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera mester
1172 Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e **chivalers**./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li
242 A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa **chivalrie**./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers for sire
876 cheitif e las;/ Plein[en]t de grant **chivalrie**/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit
288 Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des **chivals** destret./ Donques serray de vous vengé!'/ Atant s'est
734 feffez./ Le counte dona a ses esquiers/ Les **chivals** e les destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment
526 aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant **chose** enprent pur son frere!/ Amys remaint od la meisné
137 nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est **chose** esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt me
325 De amour parlerent e juwerent./ De autre **chose** ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le
238 Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre **chose** s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant que li quens
78 Pur vostre honur vus cri mercy,/ De une **chose** soiez garny:/ Le counte ad seignz un seneschal/ Qe
984 La coupe durment regarda;/ Pensa **cil**: 'Coment poet estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre!'
682 desarmer./ S'il eust plaie li demaunda;/ **Cil** dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson de mer
942 vout servir./ E il getta un grant suspir;/ **Cil** dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperur
349 Com leal chevaler le voil prover,/ E **cil** que de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li
950 pité:/ Al counte Amys ount counté./ **Cil**, sitost com mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son
817 dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ **Cil** soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers
908 Q'il covient lor asne vendre/ Pur **cink** souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille
1212 loinz le virent tote sa gent/ Outre tote la **cité**;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout
1150 le mois deust estre esposé./ Mes ore se **claime** lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne
875 Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se **claiment** cheitif e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le
946 Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il **clama** pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant
461 fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se **cocha**,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu
466 en son lit giseit,/ Deleez sa femme se **cocheit**;/ Si s'avint en avisioun/ Ke sir Amys son
913 meismes enchacer./ Amillion fist dedeinz **cocher**,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena
1026 Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le **col** tendist./ Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, qi ne poet
672 trencha:/ Desque en la haunche le branc **cola**./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé
668 healme fust tot purfendant./ En la cervele **cola** le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la
616 le eust./ Parmy l'espaudle del chival/ **Cola** le braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le
640 heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les **colurs**./ Sur le senestre le coup descent,/ Mailles trenchent
923 fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala **com** a processioun./ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe
185 E meuz li servi de jour en jour./ Taunz **com** Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De
59 li done mes enviz;/ Mes le conte fist **com** bon seygnur,/ Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il
432 la meschine./ Amis se retret e purpensa/ **Com** celi qe grant mester en a./ De son frere li sovynt
270 son desir./ De respoundre se purpensoit/ **Com** celi qi talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur
450 Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas **com** chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne
1190 Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele **com** deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert
720 Avant mes unke si laid ne fust/ Home, **com** dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la
115 Vers la court sei retorneyt;/ Sitost **com** en la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt
1049 Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi **com** ert de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa
410 la meischine./ En la place estoit Amis/ **Com** esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire
388 poing tint,/ E tendist en noun de gage/ **Com** home de grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit
472 sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli **com** home desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns
797 Qe tant estoit leal compaignon./ **Com** il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez
1065 tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant **com** il memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li
316 A son seignur le ala counter/ Sitost **com** il poet espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit
149 Ala e fist son mester;/ Servi le counte **com** il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus
945 Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost **com** il veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li
37 les ad dobbez en estour,/ Lour trova si **com** il voleint;/ Hautement lour feste teneint./ De Amys fist
446 Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant **com** je puisse aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un
296 amy suy e serray,/ E vostre serjant tant **com** jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei
1098 E Amillioun dedeinz ad envolupé./ Sitost **com** le saunc senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en
1170 seignur estre veue./ Sire Amillioun fist **com** leal bier:/ Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e
348 celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ **Com** leal chevaler le voil prover,/ E cil que de nous est vencu
857 plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ **Com** longes me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour
950 Al counte Amys ount counté./ Cil, sitost **com** mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son mestre
687 E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant **com** osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte atant l'ad
451 esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala **com** pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e

410 En la place estoit Amis/ Com esgarré e **com** pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne
1074 en le saunk bainast,/ Si sain devendreit **com** pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge
844 Fors a l'enfant que ly serveit./ Amillioun **com** plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La dame par tant
1138 sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost **com** porra prist congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant la
1058 vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant **com** pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li
614 devant;/ Trestut trencha quir e fust/ **Com** si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaudle del chival
146 Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost **com** son leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son
1105 E a mouster puis li mena./ La dame, sitost **com** vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li
1182 trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost **com** vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist
1035 Sire quens, remembrez, Amys,/ **Com** vous li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy
1206 livrastes pur hostel./ Celi averez tant **com** vus viverez;/ En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist
701 ne me deveroy pas corucer.'/ Dount fut **comaundé** al baronage/ Qe eus feussent al mariage
850 manger li donast./ L'enfant, quant oy cel **comaund,**/ Ne sout ou quere lour vivre avant./ Tantost counta
1221 jour sa liveré,/ Coment le counte out **comaundé**./ Un an vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolur
237 fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele **comaunda** qe eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent
978 E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le **comaundement**/ E vint e porta le present./ Le povres, qe
389 home de grant vasselage,/ E dit que od li **combat[er]eit**/ E la verité provereit./ Est veus tote la court
626 ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant **combatre** deit a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E
632 tost arere./ Tost descendi de son destrer;/ **Combatre** voleit per a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie
691 fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad **combatu,**/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del
515 facez atant,/ En fet e en semblant,/ **Come** jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe
776 seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost **come** li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes
724 pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit **come** sa mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment
190 mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il **come** sa vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit
770 En son pays vers s'amye/ Qe tant ama **come** sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par
192 Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit **come** s'alme./ Mout fut gentile la damoysele,/ En une realme
1185 de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la **comence** a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne
1116 Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe **comence** pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si
1155 la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe **comencea** a purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son
231 tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment **comensa** a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger./ Les
1198 du mien./ Dame, sovenez vous del bien,/ **Coment** a manger me menastes/ E del pais m'enchaceastes
988 repeira,/ Al counte de cel hanap counta/ **Coment** a soen resembleit./ E le counte moult esmerveileit
311 de cel affere,/ Dount devisent la menere/ **Coment** e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé serrount
1011 de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E **coment** est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur
762 counté/ Coment eust finé la bataille/ E **coment** eust fait la sposaille./ En une chambre puis entrerent
761 s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ **Coment** eust finé la bataille/ E coment eust fait la sposaille
736 destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/ **Coment** il firent a coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E par
1109 li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ **Coment** il out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray
1217 al morir./ Autre dames ensample averont/ **Coment** iour seignurs lour garderont./ Une garce la serveit
1221 luy porteit/ Chescun jour sa liveré,/ **Coment** le counte out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A
984 La coupe durment regarda;/ Pensa cil: ' **Coment** poet estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arere
726 mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu/ **Coment** son frere eust deceu./ La damoisele fuit ben paé
273 par grant errour!/ Ele li respondi e dist: ' **Coment**/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur
1006 Que ses mains sunt allassé,/ Donqe **commaund** qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast
784 ly aime tendrement,/ Si fist tot son **commaundement**;/ Tant qe le counte enmaladi./ E quant
1061 a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ **Comme** si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie
217 Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux **communement** disoient/ Qe unque si bel chevaler ne veient
202 la mere./ La damoysele fuit bien gardé:/ **Compaignes** out a grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En
90 Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li **compaignie,**/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne porra
1236 se amercnt fierement,/ E bone fut la **compaignie**./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait
840 desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne **compaignie**:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son
796 de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal **compaignon.**/ Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li
122 E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal **compaignon.**/ Ne volez unke nul autre amer/ Ne semblant a
806 savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal **compaignon.**/ Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son pel ly
468 Si s'avint en avisioun/ Ke sir Amys son **compaignoun**/ D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel
69 ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son **compaignoun,**/ En bone foy saunz treson./ De plur ne se
74 parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau **compaignoun,**/ En bone foy saunz tresoun/ A nostre
743 corage/ Fere ne li velt hountage/ De son **compaignoun** trahir./ Moult parfound getta un sospir,/ E el
94 mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant **compaignoun** velt autre trahir./ A tote gent bel responez
523 s'en est alé;/ Tut soul va saunz **compainie**./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse
20 As autres ne fesoient unke semblaunt/ De **companie** tant ne quant./ Ceus de la court avoint envie/ De
1062 si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere **companie**./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses ass[e]z
22 court avoint envie/ De lour estre e de lour **compaynie,**/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de ceo

1053 li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ **Con** son corps li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De
1058 jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad **conforté**./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin
804 jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo **confés**.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal
692 pur vous ad combatu,/ Son enemi ad **confundu**;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé
768 ne quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ **Congé** ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe
885 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre **congé** de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost
256 pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par **congé** de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e
247 damesele ne targa mye:/ De sa dame prist **congé**,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la pucele
253 qe furent de sa meisné./ Florie, quant le **congé** en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule
1138 grant mal netté,/ Sitost com porra prist **congé**,/ En son pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe
435 li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/ **Congé** li ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy
58 amenusast./ Le counte fust de ceo marriz,/ **Congé** li done mes enviz;/ Mes le conte fist com bon
447 Tant com je puisse aver la vie!'/ Atant **congé** ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz
757 dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le **congé** pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en
52 affyné,/ De son seignur le counte ad pris **congé**,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne
756 luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra **congé**,/ Quant il eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe
865 a soi donque appelast,/ E pur Deu li **conjurast**/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais alast
171 femme prendre li consaillerent./ Par lour **consail** se mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un
779 e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./ **Consailler** fut fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire
170 durement l'amerent;/ A femme prendre li **consaillerent**./ Par lour consail se mariat:/ Une gentile
59 Congé li done mes enviz;/ Mes le **conte** fist com bon seygnur,/ Destourber ne vout son honur
286 play bien dur vus bateray:/ A mon pere le **conteray**/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals
545 al matin al lever./ Chescune nuyt issi se **contint**/ Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de
926 qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort **conuz**,/ A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la porte se
620 Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del **cop** parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses
259 Tant parla e taunt demora/ Qe tot son **corage** descovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il
741 qe fu pensifs,/ Bien entendi en son **corage**/ Fere ne li velt hountage/ De son compaignoun trahir
579 E li memes le chivaler arma./ En son **corage** fust bien paié/ Quant ad le chivaler si bien armé
44 Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e **coragous**./ De cel mester longtemps servirent/ E par tot
678 les autres plorerent./ Les chevalers ja **corerent**,/ Mes le counte vient premer;/ Atant se fist
24 entre eus tant fierement,/ E de ceo se **coroucent** sovent./ De cors de visage bien resembleyent
1237 E bone fut la compaignie./ Lor **corps** gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz
299 quei vous en averez vilenye/ Ne de vostre **corps** hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet
1053 Bainer li fist e seigner,/ Con son **corps** li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de
1100 De son grant mal est il garri,/ Qe en **corps** ne en face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne
25 E de ceo se coroucent sovent./ De **cors** de visage bien resembleyent:/ Si de une robe vestu
537 Si par noun les oist nomer./ Ne par **cors** ne par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis
576 veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De **cors** resemblast e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes
926 eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la **cort** conuz,/ A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la porte
319 Ore quideit bien estre vengé/ De vostre **corteis** botiler;/ Tot lour estre fist espier./ Qant vint le
953 li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert **corteis** chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté
293 purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota./ **Corteisement** ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy
634 de son cheval envie./ Tant fist il par sa **cortesie**:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival
625 seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e **corucé**/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout se
700 me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas **corucer**.'/ Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus feussent
605 l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par **corucer**,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala
643 plus de cent./ Bien pres passa le **costé**./ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de
1051 braz li ad apporté./ En sa chambre li ad **couché**./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist
540 quant il se ajousta,/ Leez la dame se **coucha**;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de ceo
736 dei jeo bien counter/ Coment il firent a **coucher**:/ La dame ad son dreu acolé/ E par amour sovent
949 avoient pité:/ Al counte Amys ount **counté**./ Cil, sitost com mangea,/ Son premer mes li envoya
760 son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot **counté**/ Coment eust finé la bataille/ E coment eust fait la
176 Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del **counté**./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les dames du pays
755 le deverez celer.'/ Tot lour estre luy ad **counté**,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé
381 chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy **counté**/ For que dreit a verité,/ Moult bien me deffenderay
852 sout ou quere lour vivre avant./ Tantost **counta** a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant
987 se repeira,/ Al counte de cel hanap **counta**/ Coment a soen resembleit./ E le counte moult
893 L'enfant a la dame ala,/ Son message li **counta**./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer
970 ... ...]/ Qe unke lesser le voleit./ Quant le **counte** ad pres mangé,/ Son botiler ad appelé:/ 'Pernez ma
52 son pere fuy affyné,/ De son seignur le **counte** ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li
79 cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le **counte** ad seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal
1143 garri/ E q'il revint el pais/ E od li le **counte** Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out
949 a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al **counte** Amys ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son

919 eus vindrent el pais/ Ou sojorna le **counte** Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant
689 com osa,/ Car son pere moult dota./ Le **counte** atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele
1038 Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le **counte** ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses mains
149 aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le **counte** com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le
987 un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al **counte** de cel hanap counta/ Coment a soen resembleit./ E le
368 en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le **counte** de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun
67 li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del **counte** departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son
733 Dont les menestrauz furent feffez./ Le **counte** dona a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore
785 fist tot son commaundement;/ Tant qe le **counte** enmaladi./ E quant longtemps out langui,/ Morust e a
7 en escrit le trovay;/ Q'en la court un **counte** estoient/ E des armes li servoient./ Moult furent de
173 Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un **counte** estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la
57 n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le **counte** fust de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le
398 Le seneschal ad taunz trové/ Ke le **counte** fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys
330 tot a hounte:/ Acounté est tot lor oevre al **counte**./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé
406 at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le **counte** li velt venger./ Quant ne pout trover plevine
989 counta/ Coment a soen resembleit./ E le **counte** moult esmerveileit,/ De Amillioun donqe li sovent
150 Servi le counte com il soleyt,/ E le **counte** mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre
1221 Chescun jour sa liveré,/ Coment le **counte** out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A drein
419 Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le **counte** se genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li
1090 fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le **counte** s'est repairé./ En une chambre est entré/ Ou les deus
825 Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un **counte**, son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne
729 ben paé/ Quant ad baroun a volunté./ Le **counte** tynt feste plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i
679 Les chevalers ja corerent,/ Mes le **counte** vient premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie
753 espoir failli avez./ A vous le peus bien **counter**,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot lour estre luy ad
735 e les destrers./ Ore vus dei jeo bien **counter**/ Coment il firent a coucher:/ La dame ad son dreu
1166 venue ne saveint mie./ Quant la dame oi **counter**,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre
182 Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil **counter**,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li servi de
315 le seneschal./ A son seignur le ala **counter**/ Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut molt
195 En une realme ne out plus bele./ Deus **countes** la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a
1160 destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus **countes** sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut
434 a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la **countesse** vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere velt
775 De grant terres est il seignur,/ De .iii. **countez** e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est amé
393 Ly chivalers e la meisné./ Li un **countre** l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust atant
206 e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ De **countredit** n'en ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li
611 fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le **coup** ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut
641 tost abati les colurs./ Sur le senestre le **coup** descent,/ Mailles trenchent plus de cent./ Bien pres
659 coup tres bien apparist:/ La healme del **coup** enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop
623 armes sout trop bien porter,/ Mes son **coup** est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent
646 Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint **coup** li dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune
638 Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant **coup** li vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost
655 anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un **coup** li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le
662 Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache le **coup** rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun
658 Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son **coup** tres bien apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe
956 li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une **coupe** avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe
214 son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La **coupe** devant li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des
983 E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La **coupe** durment regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces
981 Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa **coupe** hors de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla
959 Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele **coupe** li donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne vout
977 En son esquiel le vin versez,/ E ma **coupe** me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e
972 Son botiler ad appelé:/ 'Pernez ma **coupe** od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe
179 les dames du pays./ Bien furent entre eux **couplés**/ De parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun
601 seneschal li referri;/ Lour launces ount as **coups** brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encountre tant firent
608 seneschal ferir ala,/ En le healme grant **coups** dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad
21 De companie tant ne quant./ Ceus de la **court** avoint envie/ De lour estre e de lour compaynie
391 E la verité provereit./ Est veus tote la **court** ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un countre
920 Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble **court** illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre gent
228 E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la **court** n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers
508 icy/ Od vous desoremés demorront;/ A ma **court** od vous irrount./ E quant nous averoms robes chaungé
114 Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la **court** sei retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li
7 Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la **court** un counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult
53 seignur le counte ad pris congé,/ Qe li **covient** garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe
907 doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il **covient** lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo
327 vilaynie./ Le seneschal, quant sout la **covine**/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a

459 En un grant boys est alé./ A force ly **covynt** dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un
139 saunz seurté./ Mes de taunt me poez **crere**/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od
108 chaeuz a terre;/ N'est home qi me vousist **crere**/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount
534 Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne **crerreit** home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser
1013 li oist nomer,/ De dolur pout son quer **crever**:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe
77 servy avom./ Pur vostre honur vus **cri** mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le counte ad seignz un
1030 Qe son seignur deust morir./ En haut **cria**: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qi en
104 Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e **crient** de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la
1175 esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci **crier** touz penserent./ Son maltalent lour pardona,/ Od sei les
1117 Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu **Crist**, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous
1032 Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qi en **croiz** suffri passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire
326 De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne **croy** pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la
772 sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car **cru** li est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De
528 son frere!/ Amys remaint od la meisné,/ **Cum** li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo
1070 trop bien garreit/ S'il en fist mettre **cure**/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E
933 Des povres les estres e les maneres/ E les **custumes** de les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t
911 ceo lour fount fere/ Sur deus roes une **cyvere**/ Qu'il pout sei meismes enchacer./ Amillion fist
503 soye Amys./ Jeo espoir par la grace de **Dé**/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony
798 Com il en son lit gisoit,/ Sa bele **dame** a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus
737 counter/ Coment il firent a coucher:/ La **dame** ad son dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en
1128 ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove la **dame** ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz
892 Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la **dame** ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E
1140 En son pais s'en est alé./ Quant la **dame** aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el
189 Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une **dame** aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la dame
1110 Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ ' **Dame**, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous desconforteray
542 coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La **dame** de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler
444 seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'/ ' **Dame**,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie
1186 fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ ' **Dame**,' dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur
355 entrat,/ La dame sur un lit trovat./ ' **Dame**,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est ja
1213 tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la **dame** durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora
554 E quant il ne pout estre trové,/ La **dame** fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant
884 li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la **dame** irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais
803 nous,/ Sire, purquei le feistes vous?'/ ' **Dame**, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo
685 li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la **dame** joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com
746 un sospir,/ E el suspir geint forment./ La **dame** l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E
428 faille,/ Qe vostre fille fust destiné! '/ La **dame** lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu
811 devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La **dame** li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne
417 hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La **dame** ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le
367 e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La **dame** ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint
543 La dame de ceo s'enmerveilla./ A la **dame** ne voleit parler,/ Desqes al matin al lever./ Chescune
1166 De lour venue ne saveint mie./ Quant la **dame** oi counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt
846 plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La **dame** par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li
247 E la damesele ne targa mye:/ De sa **dame** prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey
791 mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la **dame** qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom
191 Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la **dame**/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut gentile la
531 voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la **dame**, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les
788 rendist s'alme;/ E tost aprés morust la **dame**./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne
829 guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La **dame**, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le
1112 Mes vous desconforteray./ Sachez, **dame**, que pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame
540 noun./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez la **dame** se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de
1114 sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ La **dame** ses meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe
1105 fist vener/ E a mouster puis li mena./ La **dame**, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al
1197 forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ **Dame**, sovenez vous del bien,/ Coment a manger me
1059 ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La **dame** sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme
354 vileins.'/ Atant en la chambre entrat,/ La **dame** sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille
1088 noun/ A son frere doine garisoun./ La **dame** vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le
572 Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes **dames** deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit.'/ Le quens
178 De beauté avoit le pris/ Sour touz les **dames** du pays./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e de
1216 issir;/ La demora desqe al morir./ Autre **dames** ensample averont/ Coment iour seignurs lour
566 feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les **dames** eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount
569 Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les **dames** fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes me fetes
246 sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la **damesele** ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele
203 Compaignes out a grant pleinté/ Des **dameseles** del pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz

226 Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil **dameyseals**,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la court
294 mout dota./ Corteisement ly respundi:/ ' **Damoisel**, pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E
224 Est venuz la novele/ En la chaumbre a la **damoisele**/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil
716 di certeine novele:/ Si vous esposez la **damoisele**,/ Einz qe soint .iii. anz passez,/ aprés de ceste
727 aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La **damoisele** fuit ben paé/ Quant ad baroun a volunté./ Le
193 amoit come s'alme./ Mout fut gentile la **damoysele**,/ En une realme ne out plus bele./ Deus countes
201 le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La **damoysele** fuit bien gardé:/ Compaignes out a grant pleinté
233 Q'ele ne pout boyvre ne manger./ Les **damoyseles** qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent
1 Qi voet oyr chaunzon **d'amur**,/ De leauté e de grant douçour —/ De troeffle ne voil
117 Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt **d'amur** li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,'
144 honur.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe **d'anguisse** pale devint;/ Purpense sei q'il se vengereit
859 Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi **d'argent** e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant
606 vint par corucer,/ Par ire tret le brank **d'asser**;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant coups
238 Ele comaunda qe eus se teysent/ E **d'autre** chose s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant que li
591 sunt orguillous e fiers./ Ne avera mester **de** acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre
990 E le counte moult esmerveileit,/ **De** Amillioun donqe li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment
547 Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom **de** Amis ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint
793 Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom **de** Amis lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de
324 delit:/ Par grant duçour s'entrebeiserent./ **De** amour parlerent e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie
181 De parage e de beautez./ Ore lerray **de** Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit
39 il voleint;/ Hautement lour feste teneint./ **De** Amys fist son botiler,/ Car moult a ly puet affyer
597 launce enpoignal/ Parmi l'escu peint **de** asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri
325 De amour parlerent e juwerent./ **De** autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit
11 Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient **de** barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys
177 la moyté/ Li fuit escheu del counté./ **De** beauté avoit le pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien
180 furent entre eux couplés/ De parage e **de** beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus
903 tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e **de** blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille
1055 Servir le fist tot a talent/ De viande e **de** boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis
309 nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un **de** cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
987 Arere tantost se repeira,/ Al counte **de** cel hanap counta/ Coment a soen resembleit./ E le counte
45 sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ **De** cel mester longtemps servirent/ E par tot bien loé furent
1076 pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E **de** cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti
642 le coup descent,/ Mailles trenchent plus **de** cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché
1048 de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus **de** cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre
909 asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ **De** ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur
57 Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust **de** ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist
886 irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors **de** ceo pais irroms/ A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne
24 Q'amerent entre eus tant fierement,/ E **de** ceo se coroucent sovent./ De cors de visage bien
542 Sa espeie nue entre eus posa./ La dame **de** ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler,/ Desqes al
718 Einz qe soint .iii. anz passez,/ aprés **de** ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/ Home
252 est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ **De** ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust
954 mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ **De** chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis
20 As autres ne fesoient unke semblaunt/ **De** companie tant ne quant./ Ceus de la court avoint envie/ De
25 E de ceo se coroucent sovent./ **De** cors de visage bien resembleyent:/ Si de une robe vestu
576 veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ **De** cors resemblast e de vis./ Bons armes demaunda/ E li
206 noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ **De** countredit n'en ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li
503 jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace **de** Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony
5 parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ **De** deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay
1013 avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ **De** dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus
1207 averez tant com vus viverez;/ En noun **de** dowere le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes
1096 Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc **de** eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé./ Sitost
939 vestu,/ Gentil home resemblereit./ Un **de** eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il getta un
16 de une nature,/ Angeles resembleient **de** faiture./ Taunt s'amerent fierement/ Que freres se firent par
862 Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo **de** feim morir deveray,/ De mei memes force ne fray.'
1060 dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt **de** fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere
639 li vint doner/ Amount el heaulme peint **de** flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup
387 en son poing tint,/ E tendist en noun **de** gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od li
98 Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez **de** glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit
876 se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t **de** grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun
2 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e **de** grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees
10 furent de grant vassalage,/ Gentils e **de** grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy bien
774 mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ **De** grant terres est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si
9 E des armes li servoient./ Moult furent **de** grant vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient

388 E tendist en noun de gage/ Com home **de** grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité
775 honur:/ De grant terres est il seignur,/ **De** .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore
1214 cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés **de** illoec ne pout issir;/ La demora desqe al morir./ Autre
331 est tot lor oevre al counte./ Li quens fu **de** ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu
1106 La dame, sitost com vew li a,/ Pres **de** joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist
184 demoré od son seygnur/ E meuz li servi **de** jour en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le
21 De companie tant ne quant./ Ceus **de** la court avoint envie/ De lour estre e de lour compaynie
370 plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors **de** la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li soleit trop beal
314 serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ **De** la meisnee le seneschal./ A son seignur le ala counter
610 dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe **de** la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet
106 Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur **de** la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home
928 A grant honur serreint receuz./ Pres [**de**] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E
1153 ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors **de** la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a
833 Sire Amylloun e son enfant,/ A chef **de** la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires
209 Qe li quens une feste tynt/ Par un jour **de** l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li
28 home el mound qe les avisast/ Qe l'un **de** l'autre desceverast./ E si furent de une estature,/ De une
967 qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un **de** l'autre deviser deust./ [... ... ...]/ Qe unke lesser le voleit
535 Ne crerreit home ja si parcevant/ Qe l'un **de** l'autre sout deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne par
2 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ **De** leauté e de grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler
948 seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes **de** l'enfant avoient pité:/ Al counte Amys ount counté./ Cil
880 Qe ore est devencu./ Le noun vous dirray **de** l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit
566 Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E **de** les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu
1122 perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ **De** les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien lé
933 les estres e les maneres/ E les custumes **de** les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les
897 jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ **De** l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés
261 E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust **de** li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit
885 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé **de** li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que nous
1009 Amillioun donque maunderеit/ E la verité **de** li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu
1179 Donque fist sa femme demaunder,/ Car **de** li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de
342 jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse **de** li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que
1211 fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ **De** loinz le virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la
915 dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ **De** long en long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym
22 de la court avoint envie/ De lour estre e **de** lour compaynie,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de
22 ne quant./ Ceus de la court avoint envie/ **De** lour estre e de lour compaynie,/ Q'amerent entre eus tant
766 chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/ **De** lour estre tant ne quant./ A plus tost qe Amys poeit
1165 ne quant./ La meisnee fust endormie;/ **De** lour venue ne saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ En
1163 porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ **De** lour venue tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De
966 une mayn estoient,/ N'est home qe tant **de** l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
260 son corage descovery:/ E dit pur l'amur **de** luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé
262 s'il n'eust de li pité/ E que ele fust **de** ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne
263 de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si **de** ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant
413 ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient **de** ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt
513 lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe **de** ma femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo
861 d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe **de** ma vie est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De
160 od ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers **de** maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné
368 La dame ne sout quoy dire./ Le counte **de** mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli
364 Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul **de** mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en
599 asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe **de** mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount
1101 mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ **De** maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une
863 grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ **De** mei memes force ne fray.'/ L'enfant a soi donque appelast
683 que mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson **de** mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame
307 deus a nostre talent/ Ne[l] savera home **de** mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere
357 Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme **de** mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien
121 veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E **de** misire Amillioun/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne
999 vindrent del deys,/ Qe li estoient **de** molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus
992 sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ **De** mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table
709 assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis **de** moster./ Quant Amillioun deust son noun nomer,/ Si se
140 de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez **de** moy affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve
517 encheson ne troesse/ Qe illoke est autre **de** moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout
799 bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour **de** moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue
381 suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad **de** moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
302 Si ceo poet estre aparceu/ Qe **de** moy feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'
81 Qe mout est feloun e desleal/ E si est **de** mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne

494 Donke li dit sir Amillioun/ Paroles **de** mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le
349 leal chevaler le voil prover,/ E cil que **de** nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens
456 Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke **de** nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant
903 va querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ **De** pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe
113 remeint tristes e pensifs./ Quant Amis **de** palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com
180 du pays./ Bien furent entre eux couplés/ **De** parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de
1046 Qe touz biens li fesoit./ Trestouz plurent **de** pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé
104 se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient **de** pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en
71 En bone foy saunz treson./ **De** plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le departir
1183 Sitost com vist son seignur./ Ele pauma **de** pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier
1181 Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes **de** pour se fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele
696 S'il vous velt esposer,/ Li porriez **de** quer amer?'/ E ele respount moult simplement:/ 'Tot soit a
118 Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes **de** quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De
269 descoverir/ Sa volunté e son desir./ **De** respoundre se purpensoit/ Com celi qi talent ne aveit/ Q'il
848 par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe **de** rien li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant
650 fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota **de** rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit meillour
222 ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ **De** sa beauté matire aveient./ Est venuz la novele/ En la
247 maladie./ E la damesele ne targa mye:/ **De** sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous
89 vus serra il fort enemy./ Gardez vus **de** sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie
1071 S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz **de** sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk
161 n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit **de** sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e
64 Maundast a ly hastivement,/ E il od force **de** sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya
252 Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent **de** sa meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus
152 Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre **de** sa meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a
256 Ove une soule chambere/ Ala par congé **de** sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt
1227 puis femme ne vout aver;/ Nul evr out **de** sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li
155 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe **de** sa terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li
1064 companie./ Treis anz demena tele vie;/ **De** ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant
1094 eux entreacolerent./ Le pere [n']eust **de** ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux
548 meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ **De** sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis
153 Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai **de** sir Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa
182 Ore lerray de Amyllioun ester,/ E **de** sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur
795 Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai **de** sire Amillioun/ Qe tant estoit leal compaignon./ Com il en
1241 les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ **De** sire Amis e de syre Amillioun./
49 demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi **de** soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son
187 li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ **De** son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye
633 Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust **de** son cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié
743 en son corage/ Fere ne li velt hountage/ **De** son compaignoun trahir./ Moult parfound getta un sospir
631 Si ceo retret tost arere./ Tost descendi **de** son destrer;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de son
489 avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ **De** son estre saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie
433 purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ **De** son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé
1099 ad envolupé./ Sitost com le saunc senti,/ **De** son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De
1137 Sire Amillioun, quant fust sané/ E **de** son grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En
42 puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ **De** son hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi
981 qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors **de** son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe
1169 ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe **de** son seignur estre veue./ Sire Amillioun fist com leal bier
52 sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ **De** son seignur le counte ad pris congé,/ Qe li covient garder
1241 Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e **de** syre Amillioun./
139 esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes **de** taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol
1049 de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert **de** tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa chambre li ad
584 bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E **de** tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes
1229 de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ **De** tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
3 d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/ **De** troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter
825 Estre un enfant q'il out norri./ Fiz **de** un counte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li
213 botiler,/ Amys, qi bien sout son mester:/ **De** un drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit
78 avom./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ **De** une chose soiez garny:/ Le counte ad seignz un seneschal
29 Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent **de** une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals furent
30 desceverast./ E si furent de une estature,/ **De** une forme e de une nature./ Leals furent envers lor seygnur
15 est appelé Amillyoun./ Li deus estoient **de** une nature,/ Angeles resembleient de faiture./ Taunt
30 si furent de une estature,/ De une forme e **de** une nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le
26 De cors de visage bien resembleyent:/ Si **de** une robe vestu estoient,/ N'est home el mound qe les
510 robes chaungé,/ Donqe quideront **de** verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si vous requer par amur
1055 li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ **De** viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun

645 n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu **de** vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien
576 qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e **de** vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma
25 E de ceo se coroucent sovent./ De cors **de** visage bien resembleyent:/ Si de une robe vestu estoient
299 mye/ Par quei vous en averez vilenye/ Ne **de** vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si
319 molt lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ **De** vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist espier./ Qant
1021 deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ **De** vostre demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda
752 —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ **De** vostre espoir failli avez./ A vous le peus bien counter
120 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ **De** vous suy ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous
289 des chivals destret./ Donques serray **de** vous vengé!'/ Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se
1193 Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie **de** vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo
278 serray en mon quer heytez/ Si jeo ne soye **de** vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye/ Quant vous
726 eus furent aparceu/ Coment son frere eust **deceu.**/ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a volunté
874 Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e **decirent** lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e las
280 ore suy jeo bien honye/ Quant vous me **dedeignez** avere amye!/ Tant gentils hommes m'ount prié
1097 E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun **dedeinz** ad envolupé./ Sitost com le saunc senti,/ De son
913 sei meismes enchacer./ Amillion fist **dedeinz** cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long en long li
480 vount en mynuyt;/ As autres ne fuist pas **deduit.**/ En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys
425 ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il **defaut** a la bataille,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe
445 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma **defaute** ne murrez mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'
846 Tant plus leid deveneit./ La dame par tant **defendi**/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que
1194 ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e **defet,**/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien
383 For que dreit a verité,/ Moult bien me **deffenderay**/ Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant se
573 bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo **deffendray** nostre dreit.'/ Le quens, quant le chevaler veit
582 li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout **deffendre** la bataille,/ Sa fille a femme 1y dorreyt/ E de tote
610 le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad **deffendu,**/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun
1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e **defolé**/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en
823 froide li vodra doner./ Trestouz li ount **deguerpi,**/ Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un counte
735 Les chivals e les destrers./ Ore vus **dei** jeo bien counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame ad
593 L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul **deigne** a autre affier;/ Chescun se prent a ferir./ Amillioun
109 N'est home qi me vousist crere/ Si jeo **deisse** la moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li un
626 Qe dolent est e corucé/ Quant combatre **deit** a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a
656 duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li **deit** par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe
1197 bien du mien./ Dame, sovenez vous **del** bien,/ Coment a manger me menastes/ E del pais
1204 Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous **del** bordel/ [K']a moy livrastes pur hostel./ Celi averez tant
225 la novele/ En la chaumbre a la damoisele/ **Del** botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il
651 ne dota de rien./ Ne savoit [nul] **del** chaump juger/ Lequel fuit meillour chevaler./ Amillioun
615 rasour trenché le eust./ Parmy l'espaudle **del** chival/ Cola le braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e
620 Qe pout, quant son cheval li ment?/ **Del** cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler
176 Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu **del** counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les dames du
67 ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant **del** counte departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit
659 son coup tres bien apparist:/ La healme **del** coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop
998 bowe est il versé./ Les chevalers vindrent **del** deys,/ Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner li volcient
110 me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ **Del** doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver son pays
694 enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ **Del** fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li
504 Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe **del** feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes
565 grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ **Del** feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant
203 out a grant pleinté/ Des dameseles **del** pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa
1199 bien,/ Coment a manger me menastes/ E **del** pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon serjant/ Qe
898 vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors **del** pais s'en vont;/ Jamés quident qe revendrount./ Owein, le
1133 ount trovez!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ **Del** ray del solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent
498 avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ **Del** serment serrez encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le
1133 En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray **del** solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu
471 fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ **Del** sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli com home
466 mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit,/ **Deleez** sa femme se cocheit;/ Si s'avint en avisioun/ Ke sir
322 q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant **delit**:/ Par grant duçour s'entrebeiserent./ De amour parlerent
572 me fetes tost bailler/ Pur cestes dames **deliverer**!/ Jeo deffendray nostre dreit,'/ Le quens, quant le
681 Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li **demaunda**;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson
1022 demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie **demaunda,**/ E il memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust
577 De cors resemblast e de vis./ Bons armes **demaunda**/ E li memes le chivaler arma./ En son corage fust
420 Devant le counte se genula/ E le chivaler **demaunda**:/ En hostage pur li serreit,/ En son plegge
552 e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis **demaunda** le botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La dame
747 La dame l'acola tendrement,/ Si li **demaunda** quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit
1107 de joie se palma;/ Vint al seignur, si li **demaunda**/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa

931 fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala **demaundant** tut entour/ Des povres les estres e les maneres
940 resemblereit./ Un de eux ly appeleyt,/ **Demaundast** s'il vout servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil
1021 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre **demaunde** ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il
944 lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li **demaundeient**,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il
1178 les tint e les ama./ Donque fist sa femme **demaunder**,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele
435 a la countesse vynt,/ Congé li ala **demaunder**/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li
234 qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly **demaunderent**./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel
782 dire./ Tenu fut par tote la terre,/ Tant **demeint** grant affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist
110 deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount **demené**./ Li un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint
860 Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant **demené**/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim morir
1063 Plus ne li poet fere companie./ Treis anz **demena** tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il
1187 dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil **demener**/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben
183 E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit **demoré** od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour
1215 lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La **demora** desqe al morir./ Autre dames ensample averont
258 a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt **demora**/ Qe tot son corage descovery:/ E dit pur l'amur de luy
239 d'autre chose s'enveysent./ En cel langur **demora**/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en venerie
855 a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus **demorer**./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes me durra
47 E par tot bien loé furent./ Amillion **demorra**/ Atant qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr
807 leal compaignon./ Ove sa feme tant **demorra**/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid
507 chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés **demorront**;/ A ma court od vous irrount./ E quant nous
617 braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e **demy**;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son cheval
775 terres est il seignur,/ De .iii. countez e **demy**,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher
163 .E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e **deners**,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe
347 Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt **denier**./ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de nous
384 Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo **denieray**.'/ Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en son
87 il vus pout grever./ Mes quant jeo serray **departi**,/ Donke vus serra il fort enemy./ Gardez vus de sa
125 a nul mustrer;/ Mes quant s'en est **departi**,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien
67 Amyllioun ly mercya./ Atant del counte **departi**,/ Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son
72 ne se poet tenir,/ Car moult li greve le **departir**./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau
819 dolur e grant han./ Ses chevalers touz **departoient**,/ Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova
8 Q'en la court un counte estoient/ E **des** armes li servoient./ Moult furent de grant vassalage
244 sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ **Des** chevalers for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la
216 li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ **Des** chivalers fuit moult prisé./ Entre eux communement
288 Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés **des** chivals destret./ Donques serray de vous vengé!'/ Atant
203 gardé:/ Compaignes out a grant pleinté/ **Des** dameseles del pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz
1071 bien garreit/ S'il en fist mettre cure/ [**Des**] deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E
932 son seignur,/ Ala demaundant tut entour/ **Des** povres les estres e les maneres/ E les custumes de les
731 Une symaine tot entere;/ Mout i furent **des** robes donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le counte
587 Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre **desaffient**/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount
680 Mes le counte vient premer;/ Atant se fist **desarmer**./ S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en
611 de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala **descendant**/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha
631 la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost **descendi** de son destrer;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il
1161 Les deus countes sunt venuz/ E a la porte **descenduz**,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant ne
641 abati les colurs./ Sur le senestre le coup **descent**,/ Mailles trenchent plus de cent./ Bien pres passa le
28 el mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre **desceverast**./ E si furent de une estature,/ De une forme e de
1111 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous **desconforteray**./ Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz deus
1044 pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere **desconusseit**/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de
267 que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte **descoverir**/ Sa volunté e son desir./ De respoundre se
259 parla e taunt demora/ Qe tot son corage **descovery**:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li
337 cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant **desert** venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy
1019 ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort **deservi**.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre
1230 De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit **deservy**./ En bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se
100 bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit **deshonur**!/ Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous
268 pur hounte descoverir/ Sa volunté e son **desir**./ De respoundre se purpensoit/ Com celi qi talent ne
1041 ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort **desire**,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad
839 N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort **desire** plus qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad
195 realme ne out plus bele./ Deus countes la **desirent**,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz
1065 eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes **desiroit**./ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt
80 seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e **desleal**/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus
507 Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous **desoremés** demorront;/ A ma court od vous irrount./ E quant
461 dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ **Desouz** un arbre se cocha,/ E son chival a une raym lya
811 pur mesel li tint./ La dame li tint trop en **despit**:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui
592 avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre **desq'a** la mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se prent a

758 il eust le congé pris,/ E seignurs ove ly **desqe** a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot
403 trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys **desqe** a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit
1215 Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora **desqe** al morir./ Autre dames ensample averont/ Coment iour
544 A la dame ne voleit parler,/ **Desqes** al matin al lever./ Chescune nuyt issi se contint
672 la place./ Le braz od le brank trencha:/ **Desque** en la haunche le branc cola./ En cel champ fu ben
648 li dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ **Desque** noune fust passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E
546 al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ **Desques** Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester
918 alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ **Desques** eus vindrent el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe
1158 jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas **destiné**,/ Car un jour par matyné/ Les deus countes sunt
427 averez saunz faille,/ Qe vostre fille fust **destiné**! '/ La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine
362 fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male **destiné**!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal
60 Mes le conte fist com bon seygnur,/ **Destourber** ne vout son honur;/ Mes s'il eust od ly affere
631 retret tost arere./ Tost descendi de son **destrer**;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de son
734 dona a ses esquiers/ Les chivals e les **destrers**./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a
288 li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals **destret**./ Donques serray de vous vengé!'/ Atant s'est Florie
472 moult effraé/ E tost sus sailli com home **desvee**./ Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses
1040 terre chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz **detire**,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu
350 prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit **detret** e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste
365 tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert **detret** e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout
1233 En bienfaitz se pena./ Aprés sa mort a **Deu** ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se amercnt
1077 l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A, **Deu**!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon
300 Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng **Deu** en tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy
1238 Lor corps gisent en Lombardie,/ E **Deu** fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz
1135 Pere e mere, quant ceo virent,/ A **Deu** graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de
865 L'enfant a soi donque appelast,/ E pur **Deu** li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais
362 Qe nostre fille ad trahy e affolé./ **Deu** li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li
333 Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, ' **Deu** mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e
294 ly respundi:/ 'Damoisel, pur **Deu** mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant tant
167 si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si **Deu** mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet
869 respoundi par grant douçur:/ 'Merci **Deu**, mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz
1125 Atant la parole ount lessé/ E le service **Deu** ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse est
1089 La dame vint, qe bone fust,/ Sovent **Deu** pur li requist./ Atant le counte s'est repairé./ En une
1031 En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel **Deu** qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri passioun,/ C'est mi
787 quant longtemps out langui,/ Morust e a **Deu** rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ Quant
1086 par matyn levé./ E al matin est il alé;/ **Deu** requist e son haut noun/ A son frere doine garisoun./ La
1114 fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a **Deu** tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere
1123 De les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si **Deu** velt, bien lé recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé/ E
375 Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, ' **Deu** vous maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Mes vous ne
306 'Nous le froms si privément/ Touz **deus** a nostre talent/ Ne[l] savera home de mere nee.'/ Tant li
195 En une realme ne out plus bele./ **Deus** countes la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a
1160 pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les **deus** countes sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut
1092 repairé./ En une chambre est entré/ Ou les **deus** enfanz dormerent;/ E doucement eux entreacolerent./ Le
15 noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li **deus** estoient de une nature,/ Angeles resembleient de faiture
1113 Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz **deus** fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu tendi/ E mout
1071 garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des] **deus** fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en
985 Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces **deus** hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al
964 tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les **deus** hanaps tant resembleient/ Qe, si en une mayn estoient
5 —/ En pees se tienge pur escoter!/ De **deus** juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en
524 alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore **Deus** li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant
911 vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur **deus** roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes enchacer
1196 Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre **deusse** bien du mien./ Dame, sovenez vous del bien
1201 Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne **deusse** en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne
1190 vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com **deussez** estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a
1187 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne **deussez** tel doil demener/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt
1149 Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois **deust** estre esposé./ Mes ore se claime lasse cheitive;/ Moult
460 force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il **deust** morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a une
1029 Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe son seignur **deust** morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe
967 seust/ Qe l'un de l'autre deviser **deust**./ [... ... ...]/ Qe unke lesser le voleit./ Quant le counte
710 A l'huis de moster./ Quant Amillioun **deust** son noun nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst
533 Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les **deuz** furent issi d'un senblant/ Ne crerreit home ja si
924 Ala com a processioun./ Entre autres les **deuz** vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent
419 se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ **Devant** le counte se genula/ E le chivaler demaunda:/ En
214 De un drap vestu esteit,/ La coupe **devant** li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des

1174 Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz **devant** li venerent;/ Merci crier touz penserent./ Son
384 a verité,/ Moult bien me deffenderay/ **Devant** qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant se vint/ E son
612 coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun **devant**;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour trenché le
266 quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit **devee**/ Qe ele pout pur hounte descoverir/ Sa volunté e son
879 Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est **devencu**./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent
1074 E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain **devendreit** com pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E de
422 En hostage pur li serreit,/ En son plegge **devendreit**./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo
845 com plus viveit,/ Tant plus leid **deveneit**./ La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi
338 Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute **devenu**./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy
862 vie est grant pité./ Si jeo de feim morir **deveray**,/ De mei memes force ne fray.'/ L'enfant a soi
754 A vous le peus bien counter,/ Car bien le **deverez** celer.'/ Tot lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il
700 Si vus me volez marier,/ Jeo ne me **deveroy** pas corucer.'/ Dount fut comaundé al baronage/ Qe
1014 quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus **devez**/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner
101 Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li **devez** amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se
369 quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ **Devint** plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la mayson
144 ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale **devint**;/ Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost com son leu
809 tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid **devint**/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint trop en
310 e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount **devisent** la menere/ Coment e quant s'assemblerunt./ Allas
967 de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre **deviser** deust./ [... ... ...]/ Qe unke lesser le voleit./ Quant le
535 ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout **deviser**,/ Si par noun les oist nomer./ Ne par cors ne par
249 E ele tantost li ad doné./ Nomer vous **dey** la pucele:/ Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust
998 est il versé./ Les chevalers vindrent del **deys**,/ Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner li voleient
715 lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous **di** certeine novele:/ Si vous esposez la damoisele,/ Einz qe
799 lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me **diez** par amour de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey
720 mes unke si laid ne fust/ Home, com **dire** bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist
367 la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy **dire**./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke
412 il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke **dire**./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe
780 fut fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit **dire**./ Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa
153 Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous **dirrai** de sir Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe
795 Qe assez ad dount il ad mester./ Vus **dirrai** de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal compaignon
803 le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le **dirrai** mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir
325 parlerent e juwerent./ De autre chose ne **dirra[i]** mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le
880 eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous **dirray** de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein
1110 il out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus **dirray**,/ Mes vous desconforteray./ Sachez, dame, que pur sa
5 pur escoter!/ De deus juvenceals vous **dirray**,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la court un counte
12 parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous **dirroy** bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun,/ L'autre
160 N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out **dis** chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad
758 le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a **dis**,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté
204 dameseles del pais/ En sa chambre noef e **dis**,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ De countredit n'en ad parlé
490 son estre saver voleit./ Si li retint, si li **diseit**./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est
217 moult prisé./ Entre eux communement **disoient**/ Qe unque si bel chevaler ne veient;/ E li quens
798 il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li **disoit**:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus aime en
1068 quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li **disoit**/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist mettre
712 moult estreit;/ Oyst une voiz que li **disoit**: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez
166 E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le **disoyt**/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne]
379 La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' **dist** Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si
476 lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour **dist** autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere qe
439 li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li **dist**: 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez, m'est avys!/ Si vous
273 Florie par grant errour!/ Ele li respondi e **dist**: 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné
444 Pur vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' **dist** il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant
1020 Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' **dist** il, 'vous l'averez!/ De vostre demaunde ja ne faudrez!'
621 li ment?/ Del cop parlent durement:/ **Dist** l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien
219 chevaler ne veient;/ E li quens meme le **dist**/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale
1023 Tantost espeie demaunda,/ E il memes **dist** q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en
477 Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes **dist** q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pout amer./ Trusser
682 S'il eust plaie li demaunda;/ Cil **dist** que mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li
883 Uwein fuit son dreit noun./ Donque li **dist** sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé
581 Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li **dist** suef en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa
74 departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E **dit**: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun
853 Tantost counta a son seignur,/ E il **dit**: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne
308 savera home de mere nee.'/ Tant li ad **dit** e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la
815 Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo **dit** ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an
304 en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo **dit** Florie,/ 'Nous le froms si privément/ Touz deus a nostre

119 Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' **dit** il, 'bien veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E de
333 enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' **dit** il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant
321 fist espier./ Qant vint le terme q'avoint **dit**,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par grant duçour
567 E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' **dit** il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les
1186 Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' **dit** il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe
355 La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' **dit** il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme de
1077 E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' **dit** il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon sounge
351 est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E **dit** li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vileins
423 En son plegge devendreit./ 'Voir,' **dit** li quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il
1014 De dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' **dit**, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne
260 demora/ Qe tot son corage descovery:/ E **dit** pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele
344 voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez **dit** pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi qe fist le
942 servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil **dit** q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperur./ Qy
756 Tot lour estre luy ad counté,/ E puis **dit** q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E
827 son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E **dit** que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame
235 Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele **dit** que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
389 gage/ Com home de grant vasselage,/ E **dit** que od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus
749 E purquei tels suspirs getteit./ Donke **dit** sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy
493 l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li **dit** sir Amillioun/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere
379 ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus **dites** mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de
908 covient lor asne vendre/ Pur cink souz e **diz** e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour
36 lour fist a grant honur:/ Touz les ad **dobbez** en estour,/ Lour trova si com il voleint;/ Hautement
110 vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del **doel** q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li
525 compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E **doigne** q'il puisse bien fere!/ Grant chose enprent pur son
1187 dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel **doil** demener/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben
1087 Deu requist e son haut noun/ A son frere **doine** garisoun./ La dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur
1078 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ **Doine** qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou
132 ne puisse nul autre amer/ Quant talent me **doint** e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est
362 Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li **doint** male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul
625 pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe **dolent** est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost
430 pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu **dolente** la meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi qe
106 de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe **dolur** de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est
818 vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant **dolur** e grant han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses
838 sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad **dolur**./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne
842 N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son **dolur** moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit./ Amillioun
1013 Quant Amyllioun li oist nomer,/ De **dolur** pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus
870 mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir **dolur**/ Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant l'un l'autre ad
1144 E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer **dolur**/ Qe unque femme ne out greignur./ Donqe se tint enfyn
853 counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal **dolur**/ Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums icy
1223 an vesqui e un jour;/ A drein morust pur **dolur**./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad
162 fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz **doné**/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il
275 Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus ay **doné** m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon
248 sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad **doné**./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit noun est
733 les menestrauz furent feffez./ Le counte **dona** a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore vus dei
646 qe tant fu de vigour,/ Meint coup li **dona** ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust
447 je puisse aver la vie!'/ Atant congé ly **dona**,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier
608 ferir ala,/ En le healme grant coups **dona**./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu
959 Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe li **donait**./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre
849 Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li **donast**./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere
58 Le counte fust de ceo marriz,/ Congé li **done** mes enviz;/ Mes le conte fist com bon seygnur
638 qe nel pout amer,/ Un grant coup li vint **doner**/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les
905 poient home trover/ Qe rien lour voille **doner**./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient lor asne
961 avoit le per,/ Qe ne vout vendre ne **doner**./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse
890 a lui par charité/ Qe ele me face une ane **doner**/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la dame ala
655 bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja **doner**/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes li
1119 li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz **doner**./ Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez
822 serjant ne esquier/ Qe ewe froide li vodra **doner**./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out
731 tot entere;/ Mout i furent des robes **donez**/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le counte dona a
749 pensoit/ E purquei tels suspirs getteit./ **Donke** dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son noun
1208 viverez;/ En noun de dowere le tenez!'/ **Donke** fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort
493 pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ **Donke** li dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant resoun
904 vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe **donke** ne poient home trover/ Qe rien lour voille doner
88 grever./ Mes quant jeo serray departi,/ **Donke** vus serra il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne

1116 a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ **Donqe** comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte
1155 hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ **Donqe** comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit
1006 out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ **Donqe** commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast
395 gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E **donqe** jugga le baronage/ Que plegges troverent en hostage
990 moult esmerveileit,/ De Amillioun **donqe** li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon
1128 Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys **donqe** ove la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa
73 tenir,/ Car moult li greve le departir./ **Donqe** parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun
510 E quant nous averoms robes chaungé,/ **Donqe** quideront de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si
1146 dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ **Donqe** se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie
864 mei memes force ne fray.'/ L'enfant a soi **donque** appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le
1178 lour pardona,/ Od sei les tint e les ama./ **Donque** fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut venger
883 Mes Uwein fuit son dreit noun./ **Donque** li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez
1008 E en sa prison li gettast./ Amillioun **donque** maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe son hanap
765 puis entrerent/ E lour robes chaungerent;/ **Donque** ne fuit aparcevant/ De lour estre tant ne quant./ A
289 moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ **Donques** serray de vous vengé!'/ Atant s'est Florie retorné
236 E ele dit que malade fuit,/ Ne sout **dont** cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E
732 entere;/ Mout i furent des robes donez/ **Dont** les menestrauz furent feffez./ Le counte dona a ses
859 aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e **d'or**,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si
1092 une chambre est entré/ Ou les deus enfanz **dormerent**;/ E doucement eux entreacolerent./ Le pere
1067 passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt **dormi**,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien
459 un grant boys est alé./ A force ly covynt **dormir**,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se
463 se cocha,/ E son chival a une raym lya./ **Dormist**, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé
454 Poy mangea e mains beust,/ Si ne **dormist** nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke
583 deffendre la bataille,/ Sa fille a femme ly **dorreyt**/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé
399 fut bien payé./ Tant fuit li seneschal **doté**/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy
82 mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus **doté**./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer
292 se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout **dota**./ Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy
650 fist moult bien,/ E sire Amillioun ne **dota** de rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit
688 li fist tant com osa,/ Car son pere moult **dota**./ Le counte atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille
1093 entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E **doucement** eux entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses fiz
310 ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ **Dount** devisent la menere/ Coment e quant s'assemblerunt
694 ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait **dount** fuistes encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez de
701 marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ **Dount** fut comaundé al baronage/ Qe eus feussent al mariage
794 Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad **dount** il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant
568 grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ **Dount** vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop
2 chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant **douçour** —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se
141 de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt **douçour**,/ Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal ataunt se
497 forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me **doute** qe pur pecché/ Del serment serrez encombré./ Pur vous
401 Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur **doute** quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist
868 pais alast./ L'enfant respoundi par grant **douçur**:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir
1207 averez tant com vus viverez;/ En noun de **dowere** le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes
213 Amys, qi bien sout son mester:/ De un **drap** vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu
874 eux grant pité:/ Plurent e decirent lour **draps**,/ Sovent se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de grant
1223 out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A **drein** morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe
382 Si nul vous ad de moy counté/ For que **dreit** a verité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo
404 Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a **dreit** fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li
656 Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par **dreit** grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup
573 dames deliverer!/ Jeo deffendray nostre **dreit**.'/ Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo
882 l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit son **dreit** noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la
250 ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son **dreit** noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe
530 trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour **dreit** seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun
737 il firent a coucher:/ La dame ad son **dreu** acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu
722 l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son **dreu**,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa
56 gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses **droitz** amenusast./ Le counte fust de ceo marriz,/ Congé li
302 estre aparceu/ Qe de moy feissez vostre **dru**,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo
1196 jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien **du** mien./ Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a manger
996 cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru **du** pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del
178 beauté avoit le pris/ Sour touz les dames **du** pays./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e de
173 Une gentile femme esposat/ Qe fille **d'un** counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la
596 a ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ **D'un** grant launce enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur
469 Ke sir Amys son compaignoun/ **D'un** leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del
533 fuit bien quideit./ Les deuz furent issi **d'un** senblant/ Ne crerreit home ja si parcevant/ Qe l'un de
323 Il ensembleront od grant delit:/ Par grant **duçour** s'entrebeiserent./ De amour parlerent e juwerent./ De

647 coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien **duré**/ Desque noune fust passé./ Ly seneschal fist moult bien
598 peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e **dur**/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour
654 fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant **duré**;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever
285 Mescreaus estes e laner!/ Un play bien **dur** vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e
1210 turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort **durement**;/ De loinz le virent tote sa gent/ Outre tote la cité
620 son cheval li ment?/ Del cop parlent **durement**:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout
169 Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent **durement** l'amerent;/ A femme prendre li consaillerent./ Par
554 il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e **durement** lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité avoient la
1213 sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame **durement** lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora
983 l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe **durment** regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces deus
857 le fiz seinte Marie,/ Com longes me **durra** ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi
518 Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo vous **dy** en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist
690 dota./ Le counte atant l'ad appelé:/ ' **Dy** moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son
424 li quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus **dy**/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement averez saunz
368 ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e **d'yre**,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la
787 E quant longtemps out langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ Quant
1161 par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue
1104 qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres
361 ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant
1085 sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere
438 velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me
215 devant li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
135 Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose
1097 chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé./ Sitost com le saunc senti
1073 fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain devendreit com
1026 li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant saillist
628 a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere
522 Lour robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore
550 jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le botiler
1236 ensement./ Moult se amercnt fierement,/ E bone fut la compaignie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E
978 le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le
358 vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend
1172 Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li
349 Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li
410 En la place estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne
1011 de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De
762 counté/ Coment eust finé la bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une chambre puis
44 Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps servirent/ E par tot bien
625 seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout se
104 Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la
238 avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant que
180 Bien furent entre eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys
903 tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille
1055 Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis
1076 pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti
24 Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De cors de visage bien
2 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En
10 Moult furent de grant vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy
566 Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu
22 de la court avoint envie/ De lour estre e de lour compaynie,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E
121 veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne
182 beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son
1137 Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En
1241 Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
584 la bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes
30 E si furent de une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le
576 qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma
874 Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e las
1194 ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien
1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe
1199 bien,/ Coment a manger me menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon serjant/ Qe
617 le braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son cheval
775 terres est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu

163 E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe
8 trovay;/ Q'en la court un counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult furent de grant vassalage
80 seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus
1238 Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les
204 dameseles del pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ De countredit n'en ad
273 Florie par grant errour!/ Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné
74 le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun
351 nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e
260 demora/ Qe tot son corage descovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele
827 son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame
389 de gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus
908 covient lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour
525 compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose enprent pur son
395 son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donqe jugga le baronage/ Que plegges troverent en hostage
859 aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si
1093 est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E doucement eux entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses fiz
598 peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour
554 il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité avoient la
368 ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la
745 trahir./ Moult parfound getta un sospir,/ E el suspir geint forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li
235 erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
697 velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele respount moult simplement:/ 'Tot soit a vostre talent
248 ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit
739 dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs
1007 Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun donque maundereit/ E la
514 amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele
97 preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien vostre
528 Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit
196 out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout
706 barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut amené
1173 Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci crier touz
590 les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la
148 verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte
101 q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt
613 sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaudle del
818 venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses garsons
96 A tote gent bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de
773 Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant terres est il seignur,/ De .iii. countez
704 a terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e
853 avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger
488 l'ad esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son estre saver voleit./ Si li
941 appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne
1023 ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis
165 chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu
64 en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun
245 nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa
424 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le
135 soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo]
324 s'entrebeiserent./ De amour parlerent e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y
531 pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit
246 for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele
392 tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens
328 quant sout la covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté est tot
722 le poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la
555 trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e
686 touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son
366 mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de
877 Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu
1009 li gettast./ Amillioun donque maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est
390 vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus tote la court ensemblé,/ Ly
284 n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A mon pere le
875 lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie
982 vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda

292 Amis mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota./ Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel
420 pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son
406 ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout trover plevine
989 counta/ Coment a soen resembleit./ E le counte moult esmerveileit,/ De Amillioun donqe li sovent
150 mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul
1096 fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé
831 est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef
831 Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile a
496 resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del
500 encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
1125 recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun
929 receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala
1177 maltalent lour pardona,/ Od sei les tint e les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut
705 Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz
933 Des povres les estres e les maneres/ E les custumes de les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t
734 Le counte dona a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a
932 tut entour/ Des povres les estres e les maneres/ E les custumes de les terres./ Les gentils homes
935 Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E
1056 talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com
578 e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En son corage fust bien paié
394 Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donqe jugga le baronage/ Que
219 Qe unque si bel chevaler ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz
669 purfendant./ En la cervele cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le braz od
162 de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
764 En une chambre puis entrerent/ E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/ De lour
977 gardé:/ En son esquiel le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint
908 lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount
453 Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi
789 morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit
174 Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del
1134 Del ray del solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire
917 Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent el pais/ Ou
184 counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li
127 Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal
930 sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des
921 Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala
1115 La dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu
200 mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé
102 devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité
287 A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ Donques serray de
1143 seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme
738 a coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes
46 De cel mester longtemps servirent/ E par tot bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son
936 povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home resemblereit
308 savera home de mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la menere
112 va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court sei
174 esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit
557 Grant pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala
979 E celi fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa
756 celer.'/ Tot lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E
350 E cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play
365 Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire
865 fray.'/ L'enfant a soi donque appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son
431 fu dolente la meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son frere li
748 tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne
895 li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De
1032 mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun
227 tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La
1142 aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer
553 se fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié
786 Tant qe le counte enmaladi./ E quant longtemps out langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme
509 demorront;/ A ma court od vous irrount./ E quant nous averoms robes chaungé,/ Donqe quideront de
311 Dount devisent la menere/ Coment e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot

262 de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés
502 lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé
529 od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur
164 ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le
487 part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son
449 E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala com pelrin
1052 En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot a
837 Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire
758 congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A
295 pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
288 conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ Donques serray de vous vengé!'
474 Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour
81 seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté
29 avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent de une estature,/ De une forme e de une nature
560 fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt
809 Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint
602 referri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encountre tant firent bien/ Qe l'un
937 Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home resemblereit./ Un de eux
664 coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist
650 passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump
520 foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte./ Lour robes ount trestot
779 mes estre botiler./ Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la terre
462 deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E
464 raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit
268 pout pur hounte descoverir/ Sa volunté e son desir./ De respoundre se purpensoit/ Com celi qi talent
832 E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver
386 denieray.'/ Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de gage
1086 levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe
335 traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant desert
258 Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage descovery:/ E dit pur l'amur
387 se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de grant vasselage,/ E
777 tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut fait e
788 langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere
472 enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli com home desvee./ Tost appela ses chevalers
1131 lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ Del
226 damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la
282 Tant gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler
402 ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort
1222 le counte out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt
448 aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala
352 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la chambre entrat,/ La dame sur un lit
979 reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein
132 nul autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est abandoné
296 pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
693 ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt
867 li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur
565 amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment **effraé**/ E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy
471 mortel enemy./ Del sounge fut moult **effraé**/ E tost sus sailli com home desvee./ Tost appela ses
140 Mes de taunt me poez crere/ Qe, si vous **eiez** de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve
906 home trover/ Qe rien lour voille doner./ **Einz** ne pount plus entendre/ Q'il covient lor asne vendre
717 novele:/ Si vous esposez la damoisele,/ **Einz** qe soint .iii. anz passez,/ aprés de ceste leprouz serrez
100 bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il **eit** deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad amé
639 Un grant coup li vint doner/ Amount **el** heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le
27 de une robe vestu estoient,/ N'est home **el** mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si
1142 Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint **el** pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque
918 me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent **el** pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble court illoeq
1144 el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad **el** quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Donqe se tint
745 Moult parfound getta un sospir,/ E **el** suspir geint forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li
197 la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes **ele** a trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A grant
257 par congé de sa mere/ Parler a Amys que **ele** ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage
237 fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ **Ele** comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent
235 erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E **ele** dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
516 Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe **ele** encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo

339	desert venu:/ Ma fille est pute devenu./	**E**le est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A
357	dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/	**E**le est ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur
519	de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe	**e**le [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte
1151	lasse cheitive;/ Moult luy poise qe	**e**le est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met
266	Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que	**e**le fuit devee/ Qe ele pout pur hounte descoverir/ Sa volunté e
262	de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que	**e**le fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home
1061	Qe li ama molt de fin quer/ Comme si	**e**le fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz
439	monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./	**E**le li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez, m'est avys!/ Si
894	a la dame ala,/ Son message li counta./	**E**le li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en
273	Estez vous Florie par grant errour!/	**E**le li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe
890	puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe	**e**le me face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant
1152	Moult luy poise qe ele est vive./ Ne saet	**e**le pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la
1183	muscé./ Sitost com vist son seignur./	**E**le pauma de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence
1152	qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi	**e**le poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus
267	l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe	**e**le pout pur hounte descoverir/ Sa volunté e son desir./ De
1127	la messe vint a mesoun;/ Joiouse est	**e**le pur Amyllioun./ Amys donqe ove la dame ala/ En la
254	le congé en eust,/ S'a hasté a plus que	**e**le pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de sa mere
697	velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E	**e**le respount moult simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!/ Si
248	ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E	**e**le tantost li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit
815	Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit	**e**le, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an
992	fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad	**emblé**./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A
871	od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre	**emperour**.'/ Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout est entre
943	out un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre	**emperur**./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost com il
432	e purpensa/ Com celi qe grant mester	**e**n a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt
1102	ne en face/ De maladi ne appareust trace./	**En** Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a
771	Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout	**e**n astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant
298	vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous	**e**n averez vilenye/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng
467	Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint	**e**n avisioun/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un leon fust
524	va saunz compainie./ Ore Deus li soit	**e**n aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose enprent
1232	En bone vie longtemps vesqui;/	**En** bienfaitz se pena./ Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son
800	par amour de moy —/ Car jeo vus aime	**e**n bone fey —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire
518	illoke est autre de moy;/ Car jeo vous dy	**e**n bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist
70	amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/	**En** bone foy saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car
75	E dit: 'Amis, beau compaignoun,/	**En** bone foy saunz tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur
1231	sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./	**En** bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Aprés
817	morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri	**e**n cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz
673	Desque en la haunche le branc cola./	**En** cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il
239	se teysent/ E d'autre chose s'enveysent./	**En** cel langur demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer
481	mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./	**En** cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou
1202	serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/	**En** ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez
1100	senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe	**e**n corps ne en face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis
1032	Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qi	**e**n croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire
811	pur mesel li tint./ La dame li tint trop	**e**n despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui
6	De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom	**e**n escrit le trovay;/ Q'en la court un counte estoient/ E des
36	fist a grant honur:/ Touz les ad dobbez	**e**n estour,/ Lour trova si com il voleint;/ Hautement lour feste
253	de sa meisné./ Florie, quant le congé	**e**n eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule
1100	son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne	**e**n face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe
514	par amur/ Qe de ma femme facez atant,/	**En** fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele
1070	Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il	**e**n fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les
366	Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse	**e**n fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e
303	feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous	**e**n fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le
62	eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou	**e**n guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa
1030	poet suffrir/ Qe son seignur deust morir./	**En** haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E
1025	Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad	**e**n haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant
396	jugga le baronage/ Que plegges troverent	**e**n hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke le counte fut
421	se genula/ E le chivaler demaunda:/	**En** hostage pur li serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,'
184	od son seygnur/ E meuz li servi de jour	**e**n jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus
997	vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe	**e**n la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe
668	Qe le healme fust tot purfendant./	**En** la cervele cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler
353	Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant	**e**n la chambre entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il
1129	Amys donqe ove la dame ala/	**En** la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent
224	matire aveient./ Est venuz la novele/	**En** la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E
926	qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent	**e**n la cort conuz,/ A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la

672 Le braz od le brank trencha:/ Desque **e n** la haunche le branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par
409 plevine,/ Pausmé chei la meischine./ **En** la place estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout
115 Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com **e n** la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt
221 onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe **e n** la sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la
608 le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ **En** le healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu
896 aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes **e n** le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del
1073 Si les enfantz tuast/ E Amillioun **e n** le saunk bainast,/ Si sain devendreit com pessoun./ Quant
1237 fut la compaignie./ Lor corps gisent **e n** Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles
915 cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long **e n** long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e
1132 estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ **En** lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray del solail s'enjoierent
276 Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja **e n** ma vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo
277 Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray **e n** mon quer heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes
1201 jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse **e n** mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur
130 aitant:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/ **En** moy n'est si enploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant
479 qe tant pout amer./ Trusser s'en vount **e n** mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt tant
1207 Celi averez tant com vus viverez;/ **En** noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit
387 E son gaunt en son poing tint,/ E tendist **e n** noun de gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od
62 Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo **e n** pees ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od
4 —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ **En** pees se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray
429 '/ La dame lermist pur pité,/ Prist Amis **e n** plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis se retret e
229 Q'en la court n'out son per./ La pucele **e n** prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment
336 hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/ **En** qi me porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est
739 dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E **e n** quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs
1135 e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces **e n** rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son grant
1051 de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ **En** sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son
204 a grant pleinté/ Des dameseles del pais/ **En** sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ De
1007 Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E **e n** sa prison li gettast./ Amillioun donque maundereit/ E la
514 Qe de ma femme facez atant,/ En fet e **e n** semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson
741 Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi **e n** son corage/ Fere ne li velt hountage/ De son compaignoun
579 demaunda/ E li memes le chivaler arma./ **En** son corage fust bien paié/ Quant ad le chivaler si bien
976 mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/ **En** son esquiel le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi
465 E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun **e n** son lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en
797 Qe tant estoit leal compaignon./ Com il **e n** son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par
812 li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer **e n** son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne
581 le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef **e n** son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a
867 Qe illoec morir le lessast,/ E yl **e n** son pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur
759 pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ **En** son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment
1139 netté,/ Sitost com porra prist congé,/ **En** son pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son
769 poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ **En** son pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est
422 demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ **En** son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E
386 Le seneschal atant se vint/ E son gaunt **e n** son poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de
616 l'espaudle del chival/ Cola le braunke **e n** terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre
300 de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu **e n** tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissez
458 ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ **En** un grant boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li
1091 li requist./ Atant le counte s'est repairé./ **En** une chambre est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E
763 bataille/ E coment eust fait la sposaille./ **En** une chambre puis entrerent/ E lour robes chaungerent
1167 saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ **En** une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de
965 Les deus hanaps tant resembleient/ Qe, si **e n** une mayn estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne
194 s'alme./ Mout fut gentile la damoysele,/ **En** une realme ne out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E
980 porta le present./ Le povres, qe mesel fuit **e n** vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si
241 Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer **e n** venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul
1147 tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit **e n** vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre
659 tres bien apparist:/ La healme del coup **enbarra**,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop attendre
912 roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes **enchacer**./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li
85 amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes **encheson** ne pout trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes
516 Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele **encheson** ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo
498 doute qe pur pecché/ Del serment serrez **encombré**./ Pur vous la bataille fray,/ E le serment lealment
1043 q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi **encombré**/ Qe son frere desconusseit/ Qe touz biens li fesoit
371 Tost sailli hors de la mayson,/ Si **encontra** le botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oils
116 com en la porte entra,/ Li seneschal li **encontra**/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li
603 coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel **encountre** tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren
674 cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert **encusé**./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la
694 Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes **encusé**./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E

1164 lour venue tant ne quant./ La meisnee fust **endormie**;/ De lour venue ne saveint mie./ Quant la dame oi
692 bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son **enemi** ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount
470 D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel **enemy**./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli com
88 serray departi,/ Donke vus serra il fort **enemy**./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie
832 seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son **enfant**,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver
900 quident qe revendrount./ Owein, le leal **enfant**,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour vint sur
824 Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un **enfant** q'il out norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li
1130 En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les **enfantz** furent estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ En lor
1072 cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les **enfantz** tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain
1092 En une chambre est entré/ Ou les deus **enfanz** dormerent;/ E doucement eux entreacolerent./ Le pere
1081 La merveile voiz voil prover,/ Pur mes **enfanz** ne voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par
1119 Si li plest, par son poer/ Nous porra **enfaunz** doner./ Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre
1129 ove la dame ala/ En la chambre ou les **enfaunz** lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs les
1122 eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les **enfaunz** plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien lé recoveroms
331 tot lor oevre al counte./ Li quens fu de ire **enflé**./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy
1146 femme ne out greignur./ Donqe se tint **enfyn** honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot
785 son commaundement;/ Tant qe le counte **enmaladi**./ E quant longtemps out langui,/ Morust e a Deu
915 plus q'il pout li eysa,/ De long en long li **enmena**./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise
670 E l'oraille od tote la face/ Voler fist **enmi** la place./ Le braz od le brank trencha:/ Desque en la
829 ne pur morir./ La dame, que mout est **ennuyé**,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant
130 vostre amisté/ En moy n'est si **enploié**/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent me doint e
596 fiert le seneschal/ D'un grant launce **enpoignal**/ Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuist
526 doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose **enprent** pur son frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li
1016 A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez **enprisoner**,/ Mes le chef me faites tost trencher./ Mes
1000 del deys,/ Qe li estoient de molt prés:/ **Enresoner** li voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li
1216 La demora desqe al morir./ Autre dames **ensample** averont/ Coment iour seignurs lour garderont
391 la verité provereit./ Est veus tote la court **ensemblé**,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un countre l'autre
322 Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il **ensembleront** od grant delit:/ Par grant duçour
1055 le fist tot a talent/ De viande e de boivre **ensement**./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept
555 dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele **ensement**./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent
1234 Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere, **ensement**./ Moult se amerent fierement,/ E bone fut la
1049 Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot **ensi** com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa
1043 maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad **ensi** encombré/ Qe son frere desconusseit/ Qe touz biens li
1240 Les voegles ver, parler les mutz./ Tot **ensi** finist le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
423 devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez **ensy**?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le
741 Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien **entendi** en son corage/ Fere ne li velt hountage/ De son
488 E sa gent passerent avant,/ E [i]l **entendi** nepurqant;/ De son estre saver voleit./ Si li retint, si
906 lour voille doner./ Einz ne pount plus **entendre**/ Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e
721 dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien **entendu**,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne vout
730 tynt feste plenere/ Une symaine tot **entere**;/ Mout i furent des robes donez/ Dont les menestrauz
931 ama son seignur,/ Ala demaundant tut **entour**/ Des povres les estres e les maneres/ E les custumes
1091 counte s'est repairé./ En une chambre est **entré**/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E doucement eux
115 sei retorneyt;/ Sitost com en la porte **entra**,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt
55 li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i **entrast**/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust de ceo
353 laid e vileins.'/ Atant en la chambre **entrat**,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez
328 Le seneschal, quant sout la covine/ **Entre** Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a hounte
924 tot enviroun/ Ala com a processioun./ **Entre** autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount
588 la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe **entre** eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi
541 Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue **entre** eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne
23 estre e de lour compaynie,/ Q'amerent **entre** eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De
217 e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ **Entre** eux communement disoient/ Qe unque si bel chevaler
179 Sour touz les dames du pays./ Bien furent **entre** eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray de
873 Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout est **entre** eux grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent
550 parler./ Le jour vint qe fuist assis/ **Entre** le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis
801 en bone fey —/ Ta espee nue meistes **entre** nous,/ Sire, purquei le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le
1050 li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ **Entre** ses braz li ad apporté./ En sa chambre li ad couché
1093 deus enfanz dormerent;/ E doucement eux **entreacolerent**./ Le pere [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus
103 bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt **entrebeysés**,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad home
812 La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit **entrer** en son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li
763 fait la sposaille./ En une chambre puis **entrerent**/ E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit
437 demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son **enuy** monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist
31 une forme e de une nature./ Leals furent **envers** lor seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si les amast
21 tant ne quant./ Ceus de la court avoint **envie**/ De lour estre e de lour compaynie,/ Q'amerent entre

187 plus li haeit;/ De son benfait avoit **envie**,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame
97 preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e **envie**,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien vostre
633 per a per,/ Q'il n'eust de son cheval **envie**./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir
922 grant ben fesoit./ La povre gent tot **enviroun**/ Ala com a processioun./ Entre autres les deux
58 fust de ceo marriz,/ Congé li done mes **enviz**;/ Mes le conte fist com bon seygnur,/ Destourber ne
955 mes qe l'em li porta/ La moyté lor **envoia**./ Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement amoit
1097 de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad **envolupé**./ Sitost com le saunc senti,/ De son grant mal est
528 remaint od la meisné,/ Cum li sire e **envoyé**;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit
951 sitost com mangea,/ Son premer mes li **envoya**/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De
233 ne manger./ Les damoyseles qe od li **erent**/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade
995 la table saut ataunt,/ A cel povre vint **errant**:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il versé
481 ne fuist pas deduit./ En cele nuyt tant **errerent**/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire Amis reposeit
272 son seignur./ Estez vous Florie par grant **errour**!/ Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé
1192 Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me **ert** a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i]
225 a la damoisele/ Del botiler qe tant **ert** beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon
953 li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe **ert** corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La
1049 de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com **ert** de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa chambre li
365 tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut **ert** detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout
122 E de misire Amillioun/ Qi a vous **ert** leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
364 Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li **ert** nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute
1158 Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li **ert** pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus countes
176 avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit **escheu** del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les
1125 la parole ount lessé/ E le service Deu ount **escoté**./ Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur
265 Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad **escoté**,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte
4 voil jeo parler —/ En pees se tienge pur **escoter**!/ De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit le
6 deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en **escrit** le trovay;/ Q'en la court un counte estoient/ E des
1064 Treis anz demena tele vie;/ De ses **eses** ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant passa
410 En la place estoit Amis/ Com **esgarré** e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort
411 e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout **eslire**,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly
989 a soen resembleit./ E le counte moult **esmerveileit**,/ De Amillioun donqe li sovent:/ 'Bien sai'
801 —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta **espee** nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le feistes vous?'
1022 vostre demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost **espeie** demaunda,/ E il memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie
541 il se ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa **espeie** nue entre eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A
320 vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist **espier**./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od
316 seignur le ala counter/ Sitost com il poet **espleiter**./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien estre
752 ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre **espoir** failli avez./ A vous le peus bien counter,/ Car bien le
503 E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo **espoir** par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe
1149 tot appareillé/ Q'en le mois deust estre **esposé**./ Mes ore se claime lasse cheitive;/ Moult luy poise
172 consail se mariat:/ Une gentile femme **esposat**/ Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu
196 plus bele./ Deus countes la desirent,/ E **esposer** la volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout
695 fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt **esposer**,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele respount moult
716 Jeo vous di certeine novele:/ Si vous **esposez** la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez,/ aprés
137 autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose **esprové**/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt me poez
976 Mes le hanap soit bien gardé:/ En son **esquiel** le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist
449 palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz **esquier**;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne
821 touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne **esquier**/ Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount
164 Bons chevaus e deners,/ E robes a ses **esquiers**./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt
733 furent feffez./ Le counte dona a ses **esquiers**/ Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien
706 e les chevalers,/ Borgés, sergeans e **esquiers**./ Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut amené
1173 e chivalers./ Serjanz, vadlet e **esquiers**,/ Touz devant li venerent;/ Merci crier touz
474 appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses **esquiers**./ Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour
134 Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me **est** abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li
759 ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en **est** alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la
458 Tant qe vers une vespré/ En un grant boys **est** alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust
1059 pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly **est** alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer
1139 com porra prist congé,/ En son pais s'en **est** alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri
522 ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en **est** alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye
777 demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore **est** amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler
14 Li un estoit Amys par noun,/ L'autre **est** appelé Amillyoun./ Li deus estoient de une nature
492 la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre **est** aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de mult
517 Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke **est** autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est]
1011 Qe son hanap out perdu/ E coment **est** avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pout
485 Sire Amillioun primes le veit;/ Tost **est** cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent

343 Si jeo ne me puisse de li venger./ **Est** ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal
137 Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il **est** chose esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt
81 Qe mout est feloun e desleal/ E si **est** de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke
125 semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en **est** departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien
879 Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore **est** devencu./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent
625 Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent **est** e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout
1127 Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse **est** ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove la dame ala/ En la
829 vivre ne pur morir./ La dame, que mout **est** ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le
1091 le counte s'est repairé./ En une chambre **est** entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E doucement eux
873 Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout **est** entre eux grant pité:/ Plurent e decirent lour draps
80 counte ad seignz un seneschal/ Qe mout **est** feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo
776 countez e demy,/ Si tost come li quens **est** fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler
337 tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si **est** grant desert venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie
861 e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie **est** grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei memes
339 venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele **est** honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A
1085 Un jour s'est par matyn levé./ E al matin **est** il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine
1099 com le saunc senti,/ De son grant mal **est** il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust
82 E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo **est** il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis
774 seignurie e grant honur:/ De grant terres **est** il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens
997 Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe **est** il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient
357 dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele **est** ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur
974 l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant **est** mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/ En son esquiel
250 vous dey la pucele:/ Son dreit noun **est** Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa
519 Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [**est**] mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte./ Lour
771 s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore **est** mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant
772 sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li **est** par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant
376 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille **est** par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous
338 affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille **est** pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre
683 demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus **est** sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur
330 L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté **est** tot lor oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla
623 sout trop bien porter,/ Mes son coup **est** trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e
349 chevaler le voil prover,/ E cil que de nous **est** vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut
223 estoient/ De sa beauté matire aveient./ **Est** venuz la novele/ En la chaumbre a la damoisele/ Del
585 ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ **Est** venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre
391 od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ **Est** veus tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li
211 La fuit assemblé maint baroun./ **Est** veuz li mestre botiler,/ Amys, qi bien sout son mester
1151 lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele **est** vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de
29 de l'autre desceverast./ E si furent de une **estature**,/ De une forme e de une nature./ Leals furent envers
44 Mestre mareschal sur touz/ Qi fort **esteit** e coragous./ De cel mester longtemps servirent/ E par
213 qi bien sout son mester:/ De un drap vestu **esteit**,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals e
569 vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait **esteit**?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost
1039 pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/ Tost **estendu** a terre chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz detire
547 a meson vynt./ Ore lerrom de Amis **ester**;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist
181 e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun **ester**,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son
1186 a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez **ester**!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain suy
836 aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis **estes** a povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas
284 Certes n'estes pas chevaler!/ Mescreaus **estes** e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A mon pere le
287 A mon pere le conteray/ Qe vers li **estes** e moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ Donques
272 ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ **Estez** vous Florie par grant errour!/ Ele li respondi e dist
11 Gentils e de grant parage;/ Fiz **estoient** de barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un
999 Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li **estoient** de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer
221 chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale **estoient**/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la novele
15 L'autre est appelé Amillyoun./ Li deus **estoient** de une nature,/ Angeles resembleient de faiture
7 escrit le trovay;/ Q'en la court un counte **estoient**/ E des armes li servoient./ Moult furent de grant
26 bien resembleyent:/ Si de une robe vestu **estoient**,/ N'est home el mound qe les avisast/ Qe l'un de
965 tant resembleient/ Qe, si en une mayn **estoient**,/ N'est home qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un
409 Pausmé chei la meischine./ En la place **estoit** Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il
13 Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un **estoit** Amys par noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li
173 femme esposat/ Qe fille d'un counte **estoit**,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li
1141 Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur **estoit** garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel
796 Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant **estoit** leal compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa bele
806 Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis **estoit** leal compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ Qe tot
660 del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort **estona**./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache le coup rendre

36 fist a grant honur:/ Touz les ad dobbez en **estour**,/ Lour trova si com il voleint;/ Hautement lour feste
165 E robes a ses esquiers./ E il memes si bel **estoyt**/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust
1113 dame, que pur sa saunté/ Voz deus fiz ai **estranglé**.'/ La dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li
1130 ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent **estranglés**./ E tot vifs les ount trovez!/ En lor lit
301 preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet **estre** aparceu/ Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne serrioms
778 Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes **estre** botiler./ Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il voleit
910 e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ **Estre** ceo lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout
984 regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet **estre**?/ Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se
22 Ceus de la court avoint envie/ De lour **estre** e de lour compaynie,/ Q'amerent entre eus tant
871 voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous **estre** emperour.'/ Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout est
943 dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur **estre** emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost com
1149 ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust **estre** esposé./ Mes ore se claime lasse cheitive;/ Moult luy
320 De vostre corteis botiler;/ Tot lour **estre** fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il
755 Car bien le deverez celer.'/ Tot lour **estre** luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il
1190 ben avenu,/ Si feussez tele com deussez **estre**,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté
1168 une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt **estre** pendue/ Qe de son seignur estre veue./ Sire Amillioun
1083 fait bone jorné/ Si par lour saunk poet **estre** sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé./ E al matin est il
489 avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son **estre** saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la
859 ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ **Estre** servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma
766 Donque ne fuit aparcevant/ De lour **estre** tant ne quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad
553 demaunda le botiler;/ E quant il ne pout **estre** trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele
824 vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ **Estre** un enfant q'il out norri./ Fiz de un counte, son parent
318 seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien **estre** vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist
1169 Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur **estre** veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist
711 son noun nomer,/ Si se purpensa moult **estreit**;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li
932 demaundant tut entour/ Des povres les **estres** e les maneres/ E les custumes de les terres./ Les
486 Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad **esveillé**./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi
878 e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit **eu**,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La
1001 Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe **eus** avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier
702 Dount fut comaundé al baronage/ Qe **eus** feussent al mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i
926 Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si **eus** fuissent en la cort conuz,/ A grant honur serreint receuz
725 la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe **eus** furent aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La
1238 gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur **eus** grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi
588 medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre **eus** nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult
110 Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre **eus** ount demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li autres
541 la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre **eus** posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit
237 dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe **eus** se teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur
23 e de lour compaynie,/ Q'amerent entre **eus** tant fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De cors de
925 Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe **eus** veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A
918 Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques **eus** vindrent el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble
1120 porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu **eussez**,/ Jamés tel autre ne averez./ De les enfaunz plus
726 qe eus furent aparceu/ Coment son frere **eust** deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a
762 Coment eust finé la bataille/ E coment **eust** fait la sposaille./ En une chambre puis entrerent/ E lour
761 alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment **eust** finé la bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une
566 vist fut grantment effraé/ E de les dames **eust** grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert
757 E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il **eust** le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son
61 Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il **eust** od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a
614 quir e fust/ Com si rasour trenché le **eust**./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le braunke en terre
106 home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en **eust**./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi me vousist
681 premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il **eust** plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain
167 Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le **eust** purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent
253 de sa meisné./ Florie, quant le congé en **eust**,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule chambere
790 Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne **eust** soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les
1096 Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de **eux** ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé./ Sitost com
217 Des chivalers fuit moult prisé./ Entre **eux** communement disoient/ Qe unque si bel chevaler ne
179 touz les dames du pays./ Bien furent entre **eux** couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun
1093 les deus enfanz dormerent;/ E doucement **eux** entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses fiz pité
563 Ataunt virent vener un chevaler/ Qe vers **eux** fist grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il
873 l'un l'autre ad regarde,/ Mout est entre **eux** grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se
939 vestu,/ Gentil home resemblereit./ Un de **eux** ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il getta un
1227 Unke puis femme ne vout aver;/ Nul **evr** out de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa
822 Ne trova serjant ne esquier/ Qe **ewe** froide li vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un
588 desaffient/ Qe entre eus nul amur ne **eyent**./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt orguillous

914 fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li **eysa**,/ De long en long li enmena./ Par la terre tant alerent
1100 grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en **face**/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe regeir
890 a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me **face** une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la
669 cola le brank./ E l'oraille od tote la **face**/ Voler fist enmi la place./ Le braz od le brank trencha
513 Si vous requer par amur/ Qe de ma femme **facez** atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo
1016 devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me **facez** enprisoner,/ Mes le chef me faites tost trencher./ Mes
426 a la bataille,/ Le juggement averez saunz **faille**,/ Qe vostre fille fust destiné! '/ La dame lermist pur
752 pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir **failli** avez./ A vous le peus bien counter,/ Car bien le deverez
1082 mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera **fait** bone jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour
694 ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del **fait** dount fuistes encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez
779 mes estre botiler./ Consailler fut **fait** e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la
569 vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames **fait** esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost
375 roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' **fait** il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Mes
690 Le counte atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' **fait** il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad
991 Amillioun donqe li sovent:/ 'Bien sai', **fait** il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra
762 eust finé la bataille/ E coment eust **fait** la sposaille./ En une chambre puis entrerent/ E lour robes
358 Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad **fait** nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray
1238 Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu **fait** pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz
1017 Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me **faites** tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop
16 de une nature,/ Angeles resembleient de **faiture**./ Taunt s'amerent fierement/ Que freres se firent par
537 noun les oist nomer./ Ne par cors ne par **fasçon**./ Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se
1021 'vous l'averez!/ De vostre demaunde ja ne **faudrez**!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le
1228 out de sa mullier./ Owein l'enfant bien **feffa**:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En
732 robes donez/ Dont les menestrauz furent **feffez**./ Le counte dona a ses esquiers/ Les chivals e les
862 Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de **feim** morir deveray,/ De mei memes force ne fray.'/ L'enfant
302 Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy **feissez** vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'
1200 E del pais m'enchaceastes;/ Puis **feistes** jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant
802 nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le **feistes** vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo
375 roylla./ Amis moult se merveilla./ ' **Fel**,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous honye
340 devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel **fel** traitre m'ad icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si jeo
89 vus serra il fort enemy./ Gardez vus de sa **felonie**!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie od
80 ad seignz un seneschal/ Qe mout est **feloun** e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il
91 li compaignie,/ Car qui s'acompanie od **feloun**/ Ne porra trover si mal noun;/ Car piz ne porra avenir
504 Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del **feloun** serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes
807 Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove sa **feme** tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si
357 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est ja **femme** de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre
1178 Od sei les tint e les ama./ Donque fist sa **femme** demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit quise
172 Par lour consail se mariat:/ Une gentile **femme** esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere
513 Si vous requer par amur/ Qe de ma **femme** facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo memes
783 la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa **femme** ly aime tendrement,/ Si fist tot son commaundement
1145 Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque **femme** ne out greignur./ Donqe se tint enfyn honie:/ Ne
1226 Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis **femme** ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein
170 serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A **femme** prendre li consaillerent./ Par lour consail se mariat
466 Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez sa **femme** se cocheit;/ Si s'avint en avisioun/ Ke sir Amys son
583 s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a **femme** ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz
1219 Une garce la serveit/ Qe par une **fenestre** luy porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le
1062 si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet **fere** companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses
525 li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien **fere**!/ Grant chose enprent pur son frere!/ Amys remaint od la
1116 mout graces li rendi,/ Donqe comence pur **fere** joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par
742 fu pensifs,/ Bien entendi en son corage/ **Fere** ne li velt hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult
1152 ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet **fere**;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider
910 lour vitaille./ Estre ceo lour fount **fere**/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes
1208 En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist **fere** un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement
957 envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout **ferement** amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe
607 Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal **ferir** ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes le healme
594 deigne a autre affier;/ Chescun se prent a **ferir**./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant launce
665 irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ **Ferir** li vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme
635 fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut **ferir**/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal, qe nel pout
657 dreit grever./ Mes le seneschal primes li **ferist**,/ Qe son coup tres bien apparist:/ La healme del coup
826 Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint **fer[m]ement**,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne
996 A cel povre vint errant:/ Forment l'ad **feru** du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers
205 pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz **fesoient** sa volunté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un jour
19 se firent par serement;/ As autres ne **fesoient** unke semblaunt/ De companie tant ne quant./ Ceus

921 court illoeq tenoit/ E moult grant ben **fesoit**./ La povre gent tot enviroun/ Ala com a processioun
1045 son frere desconusseit/ Qe touz biens li **fesoit**./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé
117 li encontra/ Qe semlaunt d'amur li **fesoyt**,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien
729 ad baroun a volunté./ Le counte tynt **feste** plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i furent des
38 trova si com il voleint;/ Hautement lour **feste** teneint./ De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly puet
208 jour par aventure avint/ Qe li quens une **feste** tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé
514 amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En **fet** e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele
496 quant avez forfait/ E le serment avez **fet**,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment serrez encombré
168 eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra **fet**./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme prendre li
1037 li ad icy chacé./ Si le occiez, vous **fetes** pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu a terre
571 Trop vilaine roste serreit!/ Armes me **fetes** tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray
666 atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le **feu** fist tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la
565 aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del **feu** q'il vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant
702 Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus **feussent** al mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i
1190 suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si **feussez** tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre
800 de moy —/ Car jeo vus aime en bone **fey** —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le
917 li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe **feym** e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent el pais/ Ou
1235 son frere, ensement./ Moult se amercnt **fierement**,/ E bone fut la compaignie./ Lor corps gisent en
23 compaynie,/ Q'amerent entre eus tant **fierement**,/ E de ceo se coroucent sovent./ De cors de visage
17 resembleient de faiture./ Taunt s'amerent **fierement**/ Que freres se firent par serement;/ As autres ne
590 les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e **fiers**./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la
595 Chescun se prent a ferir./ Amillioun **fiert** le seneschal/ D'un grant launce enpoignal/ Parmi l'escu
583 Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa **fille** a femme 1y dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est
361 rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre **fille** ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il
191 dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une **fille** avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut
690 atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait il, ' **fille** bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad
173 mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe **fille** d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur
376 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma **fille** est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort
338 affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma **fille** est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel
427 juggement averez saunz faille,/ Qe vostre **fille** fust destiné! '/ La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en
356 trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele **fille** vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait
761 A Amys ad trestot counté/ Coment eust **finé** la bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une
1060 sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de **fin** quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere
48 Amillion demorra/ Atant qe son pere **fina**,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur
452 com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne **fina** unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne
776 countez e demy,/ Si tost come li quens est **fini**./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler
676 S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore **finist** la bataille./ Les uns chaunterent, les autres plorerent
1240 voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi **finist** le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
736 Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il **firent** a coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E par amour
603 si sunt outrepassé./ A cel encountre tant **firent** bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint
157 Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li **firent** homage./ Ore poet il mener grant baronage!/ N'ust od
18 Taunt s'amerent fierement/ Que freres se **firent** par serement;/ As autres ne fesoient unke semblaunt
35 les fist a lour talent./ Chivalers lour **fist** a grant honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova
34 Si les amast mult tendrement,/ Honur les **fist** a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz les
551 le seneschal e Amys./ Le seneschal se **fist** armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre
834 A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour **fist** aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre
59 Congé li done mes enviz;/ Mes le conte **fist** com bon seygnur,/ Destourber ne vout son honur;/ Mes
1170 son seignur estre veue./ Sire Amillioun **fist** com leal bier:/ Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e
913 pout sei meismes enchacer./ Amillion **fist** dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long en
680 Mes le counte vient premer;/ Atant se **fist** desarmer./ S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal
1052 En sa chambre li ad couché./ Bainer li **fist** e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot
670 brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler **fist** enmi la place./ Le braz od le brank trencha:/ Desque en la
320 De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre **fist** espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront
1208 En noun de dowere le tenez!'/ Donke **fist** fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement
1053 Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li **fist** garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre
563 virent vener un chevaler/ Qe vers eux **fist** grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il vist
634 Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant **fist** il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son
42 ne velt lesser:/ De son hostel ly **fist** justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e
685 Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li **fist** la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant
978 versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi **fist** le comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres
346 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi qe **fist** le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le voil
1070 Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en **fist** mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz
475 Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour **fist** mettre lour seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes

649 Desque noune fust passé./ Ly seneschal **fist** moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit
1184 Ele pauma de pour./ Le seignur la **fist** relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il
1178 Od sei les tint e les ama./ Donque **fist** sa femme demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit
39 Hautement lour feste teneint./ De Amys **fist** son botiler,/ Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne
148 verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e **fist** son mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte
687 joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li **fist** tant com osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte atant
1054 Con son corps li fist garder,/ Servir le **fist** tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes
1171 Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent **fist** tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet
784 affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si **fist** tot son commaundement;/ Tant qe le counte enmaladi./ E
666 atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu **fist** tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la
54 Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li **fist** treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz
894 dame ala,/ Son message li counta./ Ele li **fist** un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais
985 'Coment poet estre?/ Ces deus hanaps **fist** un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al counte de cel
1103 Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li **fist** vener/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com
1113 Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz deus **fiz** ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu tendi/ E mout
1071 garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus **fiz** de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le
825 deguerpi,/ Estre un enfant q'il out norri./ **Fiz** de un counte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit
11 vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ **Fiz** estoient de barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un
1094 entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses **fiz** pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad
856 Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le **fiz** seinte Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo solei
1117 comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le **fiz** seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra
251 Son dreit noun est Mirabele,/ Mes **Florie** fust apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie
304 en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit **Florie**,/ 'Nous le froms si privément/ Touz deus a nostre
272 mesprist vers son seignur./ Estez vous **Florie** par grant errour!/ Ele li respondi e dist: 'Coment
253 apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ **Florie**, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust
290 serray de vous vengé!'/ Atant s'est **Florie** retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre
639 li vint doner/ Amount el heaulme peint de **flurs**,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup
1048 Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent **foiz** li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz
1057 E li memes a li vet/ Chescun jour sis **foiz** ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame sovent a
947 q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a **folur**./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al counte Amys ount
382 leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ **For** que dreit a verité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe
244 A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers **for** sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa
791 pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ **For** soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit
64 Maundast a ly hastivement,/ E il od **force** de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly
459 une vespré/ En un grant boys est alé./ A **force** ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir
863 de feim morir deveray,/ De mei memes **force** ne fray.'/ L'enfant a soi donque appelast,/ E pur Deu li
495 grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez **forfait**/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché
1195 malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas **forfait**,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame, sovenez vous
287 pere le conteray/ Qe vers li estes e moy **forfet**,/ E serrés des chivals destret./ Donques serray de vous
501 serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li **forfiz**,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la
30 E si furent de une estature,/ De une **forme** e de une nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien
231 Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si **forment** comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger
745 getta un sospir,/ E el suspir geint **forment**./ La dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi
996 saut ataunt,/ A cel povre vint errant:/ **Forment** l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les
373 li soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly **forment** roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il
843 parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ **Fors** a l'enfant que ly serveit./ Amillioun com plus viveit
713 une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist **fors** li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di
1210 un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut **fort** durement;/ De loinz le virent tote sa gent/ Outre tote la
598 l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuist **fort** e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour
88 jeo serray departi,/ Donke vus serra il **fort** enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li
44 justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi **fort** esteit e coragous./ De cel mester longtemps servirent/ E
660 healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun **fort** estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache le coup
609 grant coups dona./ Mes le healme tant **fort** fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant
910 ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour **fount** fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes
101 q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e **foy**,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt
518 autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone **foy**/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut le
1014 pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la **foy** qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
70 q'estoit son compaignoun,/ En bone **foy** saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult li
75 dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone **foy** saunz tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur vostre
973 ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo **frarin**,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit
499 serrez encombré./ Pur vous la bataille **fray**,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
863 morir deveray,/ De mei memes force ne **fray**.'/ L'enfant a soi donque appelast,/ E pur Deu li conjurast
141 Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous **fray** od graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li

584 ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li **freit**./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un
526 bien fere!/ Grant chose enprent pur son **frere**!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E
1044 Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son **frere** desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz plurent
1087 il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son **frere** doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust,/ Sovent
1234 Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son **frere**, ensement./ Moult se amerent fierement,/ E bone fut la
726 voleit qe eus furent aparceu/ Coment son **frere** eust deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun
790 furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne **frere**/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres
992 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon **frere** l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut
433 Com celi qe grant mester en a./ De son **frere** li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala
478 Mes dist q'il voleit visiter/ Son **frere** qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As
495 Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau **frere**, quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute
436 vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son **frere** velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se
18 faiture./ Taunt s'amerent fierement/ Que **freres** se firent par serement;/ As autres ne fesoient unke
822 Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe **froide** li vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un
305 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le **froms** si privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[l] savera
739 amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo **fu** Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son
215 La coupe devant li quens teneit./ Mout **fu** beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
673 la haunche le branc cola./ En cel champ **fu** ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas
331 est tot lor oevre al counte./ Li quens **fu** de ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu
645 char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant **fu** de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien
430 pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult **fu** dolente la meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi
1213 virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La **fu** la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La
366 ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en **fu**!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre
491 saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ **Fu** la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé
491 Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, **fu** la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir
1042 sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe **fu** nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere
740 qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe **fu** pensifs,/ Bien entendi en son corage/ Fere ne li velt
609 coups dona./ Mes le healme tant fort **fu**/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si
568 il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot ceo **fu**/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit
837 Mis estes a povre garisoun!/ Jadis **fu** sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort
463 chival a une raym lya./ Dormist, car mult **fu** travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son
804 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo **fui** jeo confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit
1194 vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si **fu[i]** malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe
515 fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo **fuisse**,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de
926 Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus **fuissent** en la cort conuz,/ A grant honur serreint receuz
549 Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe **fuist** assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist
62 son honur;/ Mes s'il cust od ly affere,/ **Fuist** ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement
598 l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc **fuist** fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri
464 car mult fu travaillé,/ E son chival **fuist** mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez sa
470 D'un leon fust assailli,/ Qe li **fuist** mortel enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus
1181 fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se **fuist** muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma de pour
480 s'en vount en mynuyt;/ As autres ne **fuist** pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys
1108 Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo **fuist** sire Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame
694 Ly e vous ad aquité/ Del fait dount **fuistes** encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer
575 le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo **fuit** Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes
765 E lour robes chaungerent;/ Donque ne **fuit** aparcevant/ De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe
210 tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La **fuit** assemblé maint baroun./ Est veuz li mestre botiler
937 Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il **fuit** auke vestu,/ Gentil home resemblereit./ Un de eux ly
727 son frere eust deceu./ La damoisele **fuit** ben paé/ Quant ad baroun a volunté./ Le counte tynt feste
201 E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele **fuit** bien gardé:/ Compaignes out a grant pleinté/ Des
532 la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun **fuit** bien quideit./ Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne
161 Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant **fuit** de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e
183 E de sir Amys vus voil counter,/ Qe **fuit** demoré od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour
266 Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele **fuit** devee/ Qe ele pout pur hounte descoverir/ Sa volunté e
980 e porta le present./ Le povres, qe mesel **fuit** en vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la
1147 se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il **fuit** en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust
176 perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li **fuit** escheu del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les
558 lour beauté./ Li quens, que mout **fuit** irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura grant
944 Q'il ne lerreit pur estre emperur,/ Qy ceo **fuit** li demaundeient,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il
399 trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant **fuit** li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy
530 E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo **fuit** lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe
652 Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel **fuit** meillour chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe la
216 Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers **fuit** moult prisé./ Entre eux communement disoient/ Qe unque

235 fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade **fuit**,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se
554 E quant il ne pout estre trové,/ La dame **fuit** pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité
1180 Car de li se veut venger./ Tant **fuit** quise q'ele fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost
882 La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein **fuit** son dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn
227 beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il **fuit** tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele
46 longtemps servirent/ E par tot bien loé **furent**./ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de soi
725 resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus **furent** aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La damoisele
707 Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz **furent** assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de moster
9 estoient/ E des armes li servoient./ Moult **furent** de grant vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz
252 Mes Florie fust apelé/ De ceux qe **furent** de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a
29 Qe l'un de l'autre desceverast./ E si **furent** de une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals
731 plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i **furent** des robes donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le
179 pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien **furent** entre eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray
31 De une forme e de une nature./ Leals **furent** envers lor seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si les
1130 ou les enfaunz lessa./ Les enfantz **furent** estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ En lor lit
732 des robes donez/ Dont les menestrauz **furent** feffez./ Le counte dona a ses esquiers/ Les chivals e les
533 Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz **furent** issi d'un senblant/ Ne crerreit home ja si parcevant
155 vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre **furent**/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent
789 E tost aprés morust la dame./ Quant mortz **furent** pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame
704 L'endemain a terce sonant/ Touz i **furent**, petit e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés
251 Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie **fust** apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le
929 la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien **fust** apris/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut
469 sir Amys son compaignoun/ D'un leon **fust** assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut moult
1024 memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li **fust** baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist
1189 Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus **fust** ben avenu,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu
653 Lequel fuit meillour chevaler./ Amillioun **fust** bien anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra
579 memes le chivaler arma./ En son corage **fust** bien paié/ Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist
404 le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ **Fust** ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E
404 Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit **fust** ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt
613 l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e **fust**/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaudle del
57 Ne ses droitz amenusast./ Le counte **fust** de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte
262 Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele **fust** de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne
427 averez saunz faille,/ Qe vostre fille **fust** destiné! '/ La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en
1164 De lour venue tant ne quant./ La meisnee **fust** endormie;/ De lour venue ne saveint mie./ Quant la dame
719 leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne **fust**/ Home, com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien
648 La bataille ad bien duré/ Desque noune **fust** passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun
105 e crient de pité./ Suz cel n'ad home que la **fust**/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre
460 alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li **fust** qu'il deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son
1061 Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele **fust** sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz
1136 en rendirent./ Sire Amillioun, quant **fust** sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost com porra prist
1088 doine garisoun./ La dame vint, qe bone **fust**,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le counte s'est repairé
414 Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire **fust** tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot
667 ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme **fust** tot purfendant./ En la cervele cola le brank./ E l'oraille
708 Quant touz furent assemblé,/ La pucele **fut** amené/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust son
1162 venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul **fut** aparcevant/ De lour venue tant ne quant./ La meisnee fust
398 Le seneschal ad taunz trové/ Ke le counte **fut** bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul
701 Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount **fut** comaundé al baronage/ Qe eus feussent al mariage
779 N'estoet mes estre botiler./ Consailler **fut** fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par tote
1210 fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si **fut** fort durement;/ De loinz le virent tote sa gent/ Outre tote
193 la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout **fut** gentile la damoysele,/ En une realme ne out plus bele
565 plus qe amblure;/ Del feu q'il vist **fut** grantment effraé/ E de les dames eust grant pité./ 'Sire,'
1236 Moult se amerent fierement,/ E bone **fut** la compaignie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu
1209 le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit **fut** mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz le virent
317 com il poet espleiter./ Le seneschal **fut** molt lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De vostre corteis
1224 A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun **fut** molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme
471 Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge **fut** moult effraé/ E tost sus sailli com home desvee./ Tost
781 sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu **fut** par tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly
847 La dame par tant defendi/ Qe nul ne **fut** si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast
1148 Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo **fut** tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore
1180 de li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele **fut** trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com vist son
51 Amillioun sout pur veir/ Qe son pere **fuy** affyné,/ De son seignur le counte ad pris congé,/ Qe li
234 Les damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo **fuy** ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont
303 feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous en **fyn** honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms

663 ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra **gabbant**./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe
387 en son poing tint,/ E tendist en noun de **gage**/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od li
393 la meisné./ Li un countre l'autre tendi son **gant**,/ E li quens [les] resceust atant./ E donqe jugga le
1218 iour seignurs lour garderont./ Une **garce** la serveit/ Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun jour
201 auxi la mere./ La damoysele fuit bien **gardé**:/ Compaignes out a grant pleinté/ Des dameseles del
975 tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien **gardé**:/ En son esquiel le vin versez,/ E ma coupe me reportez
53 le counte ad pris congé,/ Qe li covient **garder** sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr
1053 li fist e seigner,/ Con son corps li fist **garder**,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre
1217 averont/ Coment iour seignurs lour **garderont**./ Une garce la serveit/ Qe par une fenestre luy
98 avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous **gardez** de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez
89 departi,/ Donke vus serra il fort enemy./ **Gardez** vus de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui
1109 fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa **garisoun**./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
836 O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre **garisoun**!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad
1087 requist e son haut noun/ A son frere doine **garisoun**./ La dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li
78 honur vus cri mercy,/ De une chose soiez **garny**:/ Le counte ad seignz un seneschal/ Qe mout est feloun
364 il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal **garrant**./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La
1069 oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien **garreit**/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure
1141 la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit **garri**/ E q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el
599 le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad **garri**./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as coups
1099 le saunc senti,/ De son grant mal est il **garri**,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust trace
820 Ses chevalers touz departoient,/ Ses **garsons** touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe
449 ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz **garsoun** e saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala
474 desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses **garsouns** e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles
386 Le seneschal atant se vint/ E son **gaunt** en son poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com
745 parfound getta un sospir,/ E el suspir **geint** forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda
1071 en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa **gendrure**:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk
161 dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa **gent** amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E
95 compaignoun velt autre trahir./ A tote **gent** bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez
169 Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa **gent** durement l'amerent;/ A femme prendre li consaillerent
1171 Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa **gent** fist tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz
881 Le noun vous dirray de l'enfant:/ La **gent** l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit noun
1211 fort durement;/ De loinz le virent tote sa **gent**/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de
487 torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa **gent** passerent avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son estre
556 pucele ensement./ Grant pité avoient la **gent**:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout
155 Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La **gent** qe de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent
922 E moult grant ben fesoit./ La povre **gent** tot enviroun/ Ala com a processioun./ Entre autres les
64 a ly hastivement,/ E il od force de sa **gent**/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant
226 Del botiler qe tant ert beaus/ E tres **gentil** dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la
938 bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ **Gentil** home reseblereit./ Un de eux ly appeleyt
172 Par lour consail se mariat:/ Une **gentile** femme esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e
193 Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut **gentile** la damoysele,/ En une realme ne out plus bele./ Deus
10 Moult furent de grant vassalage,/ **Gentils** e de grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous
934 E les custumes de les terres./ Les **gentils** homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres regardant
281 vous me dedeignez avere amye!/ Tant **gentils** hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes
419 vivere ne pur morir;/ Devant le counte se **genula**/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit
54 garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne **gere**,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast
830 mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors **getté**;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant
230 pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad **getté** s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout
941 Demaundast s'il vout servir./ E il **getta** un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne
744 compaignoun trahir./ Moult parfound **getta** un sospir,/ E el suspir geint forment./ La dame l'acola
1007 qe l'en ly lyast/ E en sa prison li **gettast**./ Amillioun donque maundereit/ E la verité de li
748 quoi pensoit/ E purquei tels suspirs **getteit**./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son
465 fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit **giseit**,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en avisioun
1237 E bone fut la compaignie./ Lor corps **gisent** en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les
797 leal compaignon./ Com il en son lit **gisoit**,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy
98 Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de **glotonie**!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit
503 qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la **grace** de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver
1135 Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu **graces** en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de
1115 La dame ses meins a Deu tendi/ E mout **graces** li rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist
782 Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint **grant** affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist tot son
563 virent vener un chevaler/ Qe vers eux fist **grant** aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut
158 li firent homage./ Ore poet il mener **grant** baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis
921 Qe noble court illoeq tenoit/ E moult **grant** ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com a

1036 Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis./ **Grant** bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes
458 se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un **grant** boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust
199 respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A **grant** cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La
876 se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de **grant** chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun
526 en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ **Grant** chose enprent pur son frere!/ Amys remaint od la
638 Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un **grant** coup li vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs
608 Le seneschal ferir ala,/ En le healme **grant** coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort
322 le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od **grant** delit:/ Par grant duçour s'entrebeiserent./ De amour
337 ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est **grant** desert venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie
818 a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ **Grant** dolur e grant han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses
2 voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e de **grant** douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se
868 en son pais alast./ L'enfant respoundi par **grant** douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous
323 dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par **grant** duçour s'entrebeiserent./ De amour parlerent e juwerent
272 vers son seignur./ Estez vous Florie par **grant** errour!/ Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé
818 venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e **grant** han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses garsons touz
96 A tote gent bel responez,/ Grant preu e **grant** honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de
773 cru li est par mariage/ Grant seignurie e **grant** honur:/ De grant terres est il seignur,/ De .iii. countez
927 Si eus fuissent en la cort conuz,/ A **grant** honur serreint receuz./ Pres [de] la porte se sount mis
35 les fist a lour talent./ Chivalers lour fist a **grant** honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova si
596 ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un **grant** launce enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le
704 a terce sonant/ Touz i furent, petit e **grant**,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e
1099 Sitost com le saunc senti,/ De son **grant** mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne
1137 Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son **grant** mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En son pais
432 Amis se retret e purpensa/ Com celi qe **grant** mester en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la
156 regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od **grant** nobley li receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore
10 furent de grant vassalage,/ Gentils e de **grant** parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy bien
81 mout est feloun e desleal/ E si est de mult **grant** parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pout
556 e durement lié,/ E la pucele ensement./ **Grant** pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté
873 l'autre ad regarde,/ Mout est entre eux **grant** pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se claiment
861 Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est **grant** pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei memes
566 fut grantment effraé/ E de les dames eust **grant** pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot
202 fuit bien gardé:/ Compaignes out a **grant** pleinté/ Des dameseles del pais/ En sa chambre noef e
96 autre trahir./ A tote gent bel responez,/ **Grant** preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si
494 li dit sir Amillioun/ Paroles de mult **grant** resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le serment
773 en astage,/ Car cru li est par mariage/ **Grant** seignurie e grant honur:/ De grant terres est il seignur
560 Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura **grant** serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt virent
941 Demaundast s'il vout servir./ E il getta un **grant** suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur
774 Grant seignurie e grant honur:/ De **grant** terres est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost
858 longes me durra ceste vie?/ Jeo solei aver **grant** tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant
9 E des armes li servoient./ Moult furent de **grant** vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de
388 E tendist en noun de gage/ Com home de **grant** vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité
1238 gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus **grant** vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi
1192 Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a **grant** vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e
565 plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut **grantment** effraé/ E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit
141 eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od **graunt** douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal
520 aparcevante!'/ E sire Amist trestut le **graunte**./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun
1145 ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out **greignur**./ Donqe se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il
72 De plur ne se poet tenir,/ Car moult li **greve** le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis
656 li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit **grever**./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres
86 ne pout trover/ Par quoi il vus pout **grever**./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus serra il
820 touz departoient,/ Ses garsons touz li **guerpeient**;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li
827 li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt **guerpir**/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que mout est
963 hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse **guerpir** ne voleit./ Les deus hanaps tant resembleient/ Qe, si
62 eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en **guerre**,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa gent
186 meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li **haeit**;/ De son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne
403 pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ **Haist** Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort
818 Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant **han**./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses garsons touz li
987 Arere tantost se repeira,/ Al counte de cel **hanap** counta/ Coment a soen resembleit./ E le counte moult
1010 E la verité de li querreit/ Qe son **hanap** out perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun li
975 Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le **hanap** soit bien gardé:/ En son esquiel le vin versez,/ E ma
962 per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le **hanap** tant ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit
985 Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces deus **hanaps** fist un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al counte
964 son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus **hanaps** tant resembleient/ Qe, si en une mayn estoient

847 La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si **hardi**/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast
415 sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt **hardi**/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir
254 Florie, quant le congé en eust,/ S'a **hasté** a plus que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par
559 beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala **hastaunt** lour juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il
63 ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly **hastivement**,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li
598 Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le **hauberc** fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li
672 Le braz od le brank trencha:/ Desque en la **haunche** le branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li
1030 suffrir/ Qe son seignur deust morir./ En **haut** cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qi
1025 Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en **haut** levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant
1086 E al matin est il alé;/ Deu requist e son **haut** noun/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe
38 en estour,/ Lour trova si com il voleint;/ **Hautement** lour feste teneint./ De Amys fist son botiler
659 Qe son coup tres bien apparist:/ La **healme** del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore
667 par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le **healme** fust tot purfendant./ En la cervele cola le brank./ E
608 d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le **healme** grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de
609 En le healme grant coups dona./ Mes le **healme** tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup
639 Un grant coup li vint doner/ Amount el **heaulme** peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le
584 fille a femme 1y dorreyt/ E de tote sa terre **heir** li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé
1229 l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li **herita**,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie longtemps
175 estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur **heritage** la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté
55 Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre **heyr** n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust de
49 qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre **heyr**./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné
277 vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer **heytez**/ Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy jeo
592 e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un **hiet** l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier
1041 ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie **hiet**, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant
157 nobley li receurent;/ Trestouz li firent **homage**./ Ore poet il mener grant baronage!/ N'ust od ly ja
841 vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad **home** a qui parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a
720 serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/ **Home**, com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu
388 tint,/ E tendist en noun de gage/ Com **home** de grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la
307 Touz deus a nostre talent/ Ne[l] savera **home** de mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel
472 fut moult effraé/ E tost sus sailli com **home** desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses
27 Si de une robe vestu estoient,/ N'est **home** el mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast
534 deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerreit **home** ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par
264 amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés **home** ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele
966 Qe, si en une mayn estoient,/ N'est **home** qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser
108 eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est **home** qi me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel
105 Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad **home** que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt
938 e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil **home** resemblereit./ Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il
415 Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out **home** taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne
904 pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient **home** trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne pount plus
934 E les custumes de les terres./ Les gentils **homes**, qe alere[n]t juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount
281 me dedeignez avere amye!/ Tant gentils **hommes** m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes
339 venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est **honie**, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A touz
1146 ne out greignur./ Donqe se tint enfyn **honie**:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot
32 envers lor seygnur,/ Bien le portent a **honour**;/ Si les amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour
299 en averez vilenye/ Ne de vostre corps **hontage**./ Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre
96 gent bel responez,/ Grant preu e grant **honur** avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de
773 li est par mariage/ Grant seignurie e grant **honur**:/ De grant terres est il seignur,/ De .iii. countez e
877 e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le **honur** e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est
34 a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ **Honur** les fist a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honur
142 fray od graunt douçour,/ Sauve chescuny **honur**.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale
60 bon seygnur,/ Destourber ne vout son **honur**;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en
927 Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant **honur** serreint receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E
35 a lour talent./ Chivalers lour fist a grant **honur**:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il
77 A nostre seignur servy avom./ Pur vostre **honur** vus cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le counte
505 feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver **hony**./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés
334 il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi **hony**,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En qi me porrai affier
303 vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn **honye**?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si
376 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous **honye**./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja
279 de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien **honye**/ Quant vous me dedeignez avere amye!/ Tant gentils
886 dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ **Hors** de ceo pais irroms/ A plus tost que nous pooms./ Mes
370 Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli **hors** de la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li soleit trop
1153 saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met **hors** de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a
981 qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe **hors** de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La

898 [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ **Hors** del pais s'en vont;/ Jamés quident qe revendrount
830 que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est **hors** getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son
396 le baronage/ Que plegges troverent en **hostage**./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke le counte fut bien
421 se genula/ E le chivaler demaunda:/ En **hostage** pur li serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit
1205 vous del bordel/ [K']a moy livrastes pur **hostel**./ Celi averez tant com vus viverez;/ En noun de
42 Amyllioun ne velt lesser:/ De son **hostel** ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort
834 de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver **hostel**./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun
304 serrioms nous en fyn honye?'/ 'Hostez, **hostez**!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si privément/ Touz
304 dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'/ ' **Hostez**, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si privément
742 entendi en son corage/ Fere ne li velt **hountage**/ De son compaignoun trahir./ Moult parfound
329 e la meschine,/ L'endemain vint tot a **hounte**:/ Acounté est tot lor oevre al counte./ Li quens fu de
267 Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur **hounte** descoverir/ Sa volunté e son desir./ De respoundre se
359 ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien **hounte** nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille
1042 detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La **hure** maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré
731 plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout **i** furent des robes donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le
704 L'endemain a terce sonant/ Touz **i** furent, petit e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés
1031 morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur **icel** Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri passioun
515 En fet e en semblant,/ Come jeo memes **iceo** fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est autre
1036 soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad **icy** chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le counte
506 quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt **icy**/ Od vous desoremés demorront;/ A ma court od vous
855 n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums **icy** plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes me
340 honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad **icy** servy./ A touz jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse de
717 esposez la damoisele,/ Einz qe soint . **iii**. anz passez,/ aprés de ceste leprouz serrez./ Avant mes
775 De grant terres est il seignur,/ De . **iii**. countez e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est
794 de Amis lesser,/ Qe assez ad dount **il** ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal
1085 jour s'est par matyn levé./ E al matin est **il** alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine
629 E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes **il** aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost
119 de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit **il**, 'bien veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E de misire
333 Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit **il**, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant
375 Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait **il**, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Mes vous
853 avant./ Tantost counta a son seignur,/ E **il** dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger
797 Qe tant estoit leal compaignon./ Com **il** en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par
322 espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ **Il** ensembleront od grant delit:/ Par grant duçour
488 esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [**i**]l entendi nepurqant;/ De son estre saver voleit./ Si li retint
757 E puis dit q'il prendra congé,/ Quant **il** eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son
690 counte atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait **il**, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad
736 Ore vus dei jeo bien counter/ Coment **il** firent a coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E par amour
88 quant jeo serray departi,/ Donke vus serra **il** fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li
1099 com le saunc senti,/ De son grant mal est **il** garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust trace
941 Demaundast s'il vout servir./ E **il** getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne
567 E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit **il**, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames
82 E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est **il** le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a
1186 Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit **il**, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain
1065 vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com **il** memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une
1023 ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E **il** memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis
561 juggement,/ E si jura grant serement/ Qe **il** memes les verreit arder./ Ataunt virent vener un chevaler
165 e deners,/ E robes a ses esquiers./ E **il** memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu
158 Trestouz li firent homage./ Ore poet **il** mener grant baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out
790 la dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ **Il** ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur
553 armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant **il** ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la
355 La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit **il**, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme de mester
64 en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E **il** od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly
1109 Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment **il** out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
444 Pur vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist **il**, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je
634 Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist **il** par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son
316 A son seignur le ala counter/ Sitost com **il** poet espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien
411 esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel **il** pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient
1077 E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit **il**, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes
245 nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E **il** remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa
539 riens, si par la robe noun./ Amis, quant **il** se ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus
774 e grant honur:/ De grant terres est **il** seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est
363 Deu li doint male destiné!/ Si avra **il**, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret
149 e fist son mester;/ Servi le counte com **il** soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé

991 donqe li sovent:/ 'Bien sai', fait **il**, 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra
997 l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est **il** versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient de
945 ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost com **il** veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a
37 ad dobbez en estour,/ Lour trova si com **il** voleint;/ Hautement lour feste teneint./ De Amys fist son
1020 bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist **il**, 'vous l'averez!/ De vostre demaunde ja ne faudrez!'
86 Mes encheson ne pout trover/ Par quoi **il** vus pout grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus
834 son enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ **Illoc** lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes
866 appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe **illoec** morir le lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant
1214 La fu la dame durement lié./ Jamés de **illoec** ne pout issir;/ La demora desqe al morir./ Autre dames
920 sojorna le counte Amys/ Qe noble court **illoeq** tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre gent tot
517 fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe **illoke** est autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele
1217 Autre dames ensample averont/ Coment **iour** seignurs lour garderont./ Une garce la serveit/ Qe par une
331 est tot lor oevre al counte./ Li quens fu de **ire** enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu
606 ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par **ire** tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme
558 lour beauté./ Li quens, que mout fuit **irré**,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura grant serement
663 S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en **irra** gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr
377 fille est par vous honye./ Mes vous ne **irrez** ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist
884 dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame **irrez**,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms
886 congé de li prendrez./ Hors de ceo pais **irroms**/ A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a
508 demorront;/ A ma court od vous **irrount**./ E quant nous averoms robes chaungé,/ Donqe
455 Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz **issi** chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers
533 fuit bien quideit./ Les deuz furent **issi** d'un senblant/ Ne crerreit home ja si parcevant/ Qe l'un
334 dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad **issi** hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En qi me porrai
1066 il memes desiroit./ Quant passa le temps **issi**,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit
545 Desqes al matin al lever./ Chescune nuyt **issi** se contint/ Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore
897 mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe **issi** serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés quident qe
1214 durement lié./ Jamés de illoec ne pout **issir**;/ La demora desqe al morir./ Autre dames ensample
378 vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va **ja** approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy
678 les autres plorerent./ Les chevalers **ja** corerent,/ Mes le counte vient premer;/ Atant se fist
655 la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra **ja** doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes
276 celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ **Ja** en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si
357 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est **ja** femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre
1021 il, 'vous l'averez!/ De vostre demaunde **ja** ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il memes dist q'il
377 est par vous honye./ Mes vous ne irrez **ja** riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys
534 issi d'un senblant/ Ne crerreit home **ja** si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun
159 il mener grant baronage!/ N'ust od ly **ja** si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa
837 Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun!/ **Jadis** fu sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La
1035 Amys,/ Com vous li soleiez amer **jadis**./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez, vous
1214 tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ **Jamés** de illoec ne pout issir;/ La demora desqe al morir
264 de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ **Jamés** home ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit
1157 nonaynes se muscereit;/ Son seignur **jamés** ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par
899 qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont;/ **Jamés** quident qe revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour
1121 doner./ Si Amyllioun perdu eussez,/ **Jamés** tel autre ne averez./ De les enfaunz plus n'enpensoms
446 Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com **je** puisse aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy
282 hommes m'ount prié,/ E trestouz ai **je** refusé./ Certes n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e
735 Les chivals e les destrers./ Ore vus dei **jeo** bien counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame ad son
279 ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy **jeo** bien honye/ Quant vous me dedeignez avere amye!/ Tant
804 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui **jeo** confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit
862 demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si **jeo** de feim morir deveray,/ De mei memes force ne fray.'
573 tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ **Jeo** deffendray nostre dreit.'/ Le quens, quant le chevaler veit
109 terre;/ N'est home qi me vousist crere/ Si **jeo** deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li un
384 Moult bien me deffenderay/ Devant qe **jeo** denieray.'/ Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en son
503 forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ **Jeo** espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe
424 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E **jeo** lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le
135 soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E **jeo** ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il
497 quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ **Jeo** me doute qe pur pecché/ Del serment serrez encombré
515 facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come **jeo** memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke
1201 Puis feistes jurer mon serjant/ Qe **jeo** ne deusse en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur
803 Sire, purquei le feistes vous?'/ 'Dame, **jeo** [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit
700 a vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ **Jeo** ne me deveroy pas corucer.'/ Dount fut comaundé al
342 servy./ A touz jours avera reprover/ Si **jeo** ne me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal
888 A plus tost que nous pooms./ Mes **jeo** ne puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face
1193 celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si **jeo** ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo

278 jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si **jeo** ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye
751 —/ Ne vodra celer son noun —/ ' **Jeo** ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir failli
3 e de grant douçour —/ De troeffle ne voil **jeo** parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ De deus
1195 Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi **jeo** pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame
300 vilenye/ Ne de vostre corps hontage./ **Jeo** preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe
891 charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe **jeo** puisse chivacher.'/ L'enfant a la dame ala,/ Son message
344 li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ **Jeo** quide que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal
87 Par quoi il vus pout grever./ Mes quant **jeo** serray departi,/ Donke vus serra il fort enemy./ Gardez
858 Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ **Jeo** solei aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore
502 Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe **jeo** soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun
339 Ma fille est pute devenu./ Ele est honie, **jeo** suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A touz jours
567 les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, ' **jeo** suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames
380 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ **Jeo** suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy counté
1018 me faites tost trencher./ Mes certes ai **jeo** trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il
501 fray,/ E le serment lealment juray/ Qe **jeo** unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo
363 Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si **jeo** vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e
296 suy e serray,/ E vostre serjant tant com **jeo** viveray./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous
715 —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ **Jeo** vous di certeine novele:/ Si vous esposez la damoisele
518 troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car **jeo** vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E
800 'Me diez par amour de moy —/ Car **jeo** vus aime en bone fey —/ Ta espee nue meistes entre nous
275 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe **jeo** vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne
1110 il out sa garisoun./ 'Dame, certes, **jeo** vus dirray,/ Mes vous desconforteray./ Sachez, dame, que
141 crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ **Jeol** vous fray od graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'
1117 li rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ ' **Jhesu** Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son poer
856 a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ **Jhesu**, le fiz seinte Marie,/ Com longes me durra ceste vie
1191 Si feussez tele com deussez estre,/ Par **Jhesu**, le roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne
685 vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame **joie**,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com osa
491 voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la **joie**, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li
1116 graces li rendi,/ Donqe comence pur fere **joie**:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son
1106 La dame, sitost com vew li a,/ Pres de **joie** se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist
1127 escoté./ Aprés la messe vint a mesoun;/ **Joiouse** est ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove la dame ala
1082 ne voil lesser./ Mout avera fait bone **jorné**/ Si par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est par
1222 counte out comaundé./ Un an vesqui e un **jour**;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé
209 avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un **jour** de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est
184 demoré od son seygnur/ E meuz li servi de **jour** en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal
646 tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo **jour**./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly
276 ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo **jour**/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo ne soye de vous
207 volunté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un **jour** par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour
1159 verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un **jour** par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte
1220 Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun **jour** sa liveré,/ Coment le counte out comaundé./ Un an
1084 Si par lour saunk poet estre sauné.'/ Un **jour** s'est par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e
1057 ensement./ E li memes a li vet/ Chescun **jour** sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame
184 od son seygnur/ E meuz li servi de jour en **jour**./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li
549 De sir Amillioun voloms parler./ Le **jour** vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le
441 volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel **jour**,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort
341 Cel fel traitre m'ad icy servy./ A touz **jours** avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger./ Est
934 terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t **juaunt**/ E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e
651 dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump **juger**/ Lequel fuit meillour chevaler./ Amillioun fust bien
395 E li quens [les] resceust atant./ E donqe **jugga** le baronage/ Que plegges troverent en hostage./ Le
426 vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le **juggement** averez saunz faille,/ Qe vostre fille fust destiné
559 que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour **juggement**,/ E si jura grant serement/ Qe il memes les
443 bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort **juré**.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne
65 od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li **jura**./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte departi,/ Si ala
560 irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si **jura** grant serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt
500 la bataille fray,/ E le serment lealment **juray**/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye
1200 E del pais m'enchaceastes;/ Puis feistes **jurer** mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo
895 li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz **jurer**/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit
42 ne velt lesser:/ De son hostel ly fist **justizer**,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e
5 En pees se tienge pur escoter!/ De deus **juvenceals** vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la
241 Tant que li quens s'en ala/ A boys **juwer** en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out
324 s'entrebeiserent./ De amour parlerent e **juwerent**./ De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y
1205 ne pur morir./ Suvenez vous del bordel/ [**K'**]a moy livrastes pur hostel./ Celi averez tant com vus
369 de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr **ke** carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontra le

412 lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout **k**e dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré
398 en hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ **K**e le counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe
957 lor envoia./ Amis une coupe avoit/ **K**e mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt
468 se cocheit;/ Si s'avint en avisioun/ **K**e sir Amys son compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li
1123 plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien **l**é recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé/ E le service Deu
647 de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ **L**a bataille ad bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly
654 chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe **l**a bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit
761 Amys ad trestot counté/ Coment eust finé **l**a bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une chambre
499 Del serment serrez encombré./ Pur vous **l**a bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne
425 E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a **l**a bataille,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe vostre fille
676 chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist **l**a bataille./ Les uns chaunterent, les autres plorerent./ Les
582 en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre **l**a bataille,/ Sa fille a femme 1y dorreyt/ E de tote sa terre heir
997 errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en **l**a bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li
668 Qe le healme fust tot purfendant./ En **l**a cervele cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist
353 play m'est laid e vileins.'/ Atant en **l**a chambre entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il
1129 Amys donqe ove la dame ala/ En **l**a chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent
644 de cent./ Bien pres passa le costé./ Mes **l**a char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour
224 matire aveient./ Est venuz la novele/ En **l**a chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E
1212 De loinz le virent tote sa gent/ Outre tote **l**a cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout
1185 de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel **l**a comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne
1236 Moult se amercnt fierement,/ E bone fut **l**a compaignie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait
926 eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en **l**a cort conuz,/ A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la
434 en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a **l**a countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere
214 son mester:/ De un drap vestu esteit,/ **L**a coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des
983 sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ **L**a coupe durment regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre
21 De companie tant ne quant./ Ceus de **l**a court avoint envie/ De lour estre e de lour compaynie
391 E la verité provereit./ Est veus tote **l**a court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un countre
228 E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en **l**a court n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant
114 Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers **l**a court sei retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li
7 dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en **l**a court un counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult
327 avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout **l**a covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a
737 bien counter/ Coment il firent a coucher:/ **L**a dame ad son dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en
1128 est ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove **l**a dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz
892 Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a **l**a dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne aver
1140 congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant **l**a dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el
542 se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ **L**a dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler
1213 tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu **l**a dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La
554 le botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ **L**a dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant
884 li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a **l**a dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais
685 li vount touz beiser:/ Sur touz li fist **l**a dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com
746 un sospir,/ E el suspir geint forment./ **L**a dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E
428 faille,/ Qe vostre fille fust destiné! '/ **L**a dame lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu
811 laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ **L**a dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne
417 hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ **L**a dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant
367 detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ **L**a dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre
543 posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A **l**a dame ne voleit parler,/ Desqes al matin al lever./ Chescune
1166 De lour venue ne savcint mie./ Quant **l**a dame oi counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz
846 plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./ **L**a dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li
791 e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul **l**a dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore
191 Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit **l**a dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut gentile la
531 pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E **l**a dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit
788 a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust **l**a dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne
829 velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ **L**a dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E
540 noun./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez **l**a dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de
1114 pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ **L**a dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe
1105 li fist vener/ E a mouster puis li mena./ **L**a dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al
1059 ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ **L**a dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer
354 e vileins.'/ Atant en la chambre entrat,/ **L**a dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille
1088 haut noun/ A son frere doine garisoun./ **L**a dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant
246 for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E **l**a damesele ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele
224 Est venuz la novele/ En la chaumbre a **l**a damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil
716 vous di certeine novele:/ Si vous esposez **l**a damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez,/ aprés de ceste
727 aparceu/ Coment son frere eust deceu./ **L**a damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a volunté./ Le

193 amoit come s'alme./ Mout fut gentile la damoysele,/ En une realme ne out plus bele./ Deus countes
201 tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes out a grant
1215 lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora desqe al morir./ Autre dames ensample averont
195 realme ne out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz
669 cervele cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le braz od le brank trencha
1184 seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il
1014 pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
1213 le virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La
210 feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li mestre botiler
105 e crient de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a
881 Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit noun
556 E la pucele ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout
155 sir Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent
503 qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit
672 Le braz od le brank trencha:/ Desque en la haunche le branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li
659 li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore
1042 detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi
491 saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke
629 a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost descendi de son
370 plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li soleit trop beal
586 Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne
408 ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la place estoit Amis/ Com esgarré e com
527 enprent pur son frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur
392 tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens
1164 aparcevant/ De lour venue tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour venue ne saveint mie
314 serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son seignur le ala counter/ Sitost
310 sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé
200 cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes out a
1080 Mes ore, soit voir ou mensounge,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser
430 Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi qe grant
328 quant sout la covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté est tot
1126 E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun
1019 certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre
839 N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie
403 virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li
610 dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur
592 mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se prent a ferir
378 vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus
109 home qi me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver
175 E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris
955 De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout
415 de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La
223 De sa beauté matire aveient./ Est venuz la novele/ En la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant
1124 Si Deu velt, bien lé recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la
106 Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi
491 Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir
409 plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la place estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout
670 E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le braz od le brank trencha:/ Desque en la haunche
1161 matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant
115 la court sei retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur
928 A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult
922 illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com a processioun./ Entre
722 le poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la
229 chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté s'amour
555 La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e
708 e esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun
249 E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé
686 beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son
366 garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de
724 dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu
538 par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez la dame se
221 si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la
1154 poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre

877 Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e **l a** seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu
1218 iour seignurs lour garderont./ Une garce **l a** serveit/ Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun jour sa
762 eust finé la bataille/ E coment eust fait **l a** sposaille./ En une chambre puis entrerent/ E lour robes
994 l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre **l a** table saut ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment l'ad
1153 pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de **l a** terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a
916 li eysa,/ De long en long li enmena./ Par **l a** terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques
781 voleit porreit dire./ Tenu fut par tote **l a** terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly aime
1009 gettast./ Amillioun donque maundereit/ E **l a** verité de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est
390 E dit que od li combat[er]eit/ E **l a** verité provereit./ Est veus tote la court ensemblé,/ Ly
446 ne murrez mie,/ Tant com je puisse aver **l a** vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz
839 s'il ad dolur./ La mort desire plus qe **l a** vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui parler
833 Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de **l a** vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires
982 Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre **l a** vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda;/ Pensa
196 Deus countes la desirent,/ E esposer **l a** volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout uncore
746 E el suspir geint forment./ La dame **l'acola** tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei
689 Car son pere moult dota./ Le counte atant **l'ad** appelé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad
721 Home, com dire bien le poet.'/ Amillioun **l'ad** bien entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne
1058 jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout **l'ad** conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de
610 Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort **l'ad** deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun
992 sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere **l'ad** emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt
1025 le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis **l'ad** en haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant
1043 hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché **l'ad** ensi encombré/ Qe son frere desconusseit/ Qe touz biens
265 Jamés home ne amereit./ Amis, quant **l'ad** escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte
486 Tost est cele part torné,/ Tendrement **l'ad** esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi
996 ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment **l'ad** feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers
599 Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal **l'ad** garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as
809 Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si **laid** devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint trop
352 quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est **laid** e vileins.'/ Atant en la chambre entrat,/ La dame sur un
719 ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si **laid** ne fust/ Home, com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad
200 A grant cherté le tynt le pere,/ E mout **l'ama** auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé
169 ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement **l'amerent**;/ A femme prendre li consaillerent./ Par lour
260 Qe tot son corage descovery:/ E dit pur **l'amur** de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de
284 n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e **laner**!/ Un play bien dur vus bateray:/ A mon pere le conteray
786 counte enmaladi./ E quant longtemps out **langui**,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust
239 E d'autre chose s'enveysent./ En cel **langur** demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en
188 son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne **l'aparce[u]st** mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come sa
973 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si **l'aportez** a ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes
881 Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent **l'appelent** Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit noun
612 Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur **l'arsoun** devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour
875 lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e **las**;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe
209 Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de **l'Ascensioun**;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li
585 E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz **l'asemblé**;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre
1150 deust estre esposé./ Mes ore se claime **lasse** cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele
596 Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant **launce** enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le
601 l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour **launces** ount as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel
872 Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant l'un **l'autre** ad regarde,/ Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e
587 Ore mes sourdra la medlé./ Le un **l'autre** desaffient/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en
28 home el mound qe les avisast/ Qe l'un de **l'autre** desceverast./ E si furent de une estature,/ De une
592 Ne avera mester de acord;/ L'un hiet **l'autre** desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se
967 qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de **l'autre** deviser deust./ [... ... ...]/ Qe unke lesser le voleit
14 lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun,/ **L'autre** est appelé Amillyoun./ Li deus estoient de une nature
492 Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od **l'autre** est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de
982 vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E **l'autre** la vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda
292 Amis mout se purpensa;/ Le un mal e **l'autre** mout dota./ Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel
604 cel encountre tant firent bien/ Qe l'un ne **l'autre** ne perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire
621 Del cop parlent durement:/ Dist l'un a **l'autre** qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes
535 crerreit home ja si parcevant/ Qe l'un de **l'autre** sout deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne par
393 Ly chivalers e la meisné./ Li un countre **l'autre** tendi son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E
1020 ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous **l'averez**!/ De vostre demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie
344 ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que **l'avez** dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi
1075 com pessoun./ Quant veu avoit **l'avisioun**/ E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe
315 la meisnee le seneschal./ A son seignur **le** ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut
395 quens [les] resceust atant./ E donqe jugga **le** baronage/ Que plegges troverent en hostage./ Le seneschal

371	sailli hors de la mayson,/ Si encontra	le	botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly
552	seneschal se fist armer,/ Puis demaunda	le	botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e
482	En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy	le	boys passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun
672	le brank trencha:/ Desque en la haunche	le	branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert
606	Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret	le	brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant
668	fust tot purfendant./ En la cervele cola	le	brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place
671	face/ Voler fist enmi la place./ Le braz od	le	brank trencha:/ Desque en la haunche le branc cola./ En cel
616	eust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola	le	braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le
671	od tote la face/ Voler fist enmi la place./	Le	braz od le brank trencha:/ Desque en la haunche le branc
1017	tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes	le	chef me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui
1095	pere [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus ad	le	chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun
574	deffendray nostre dreit.'/ Le quens, quant	le	chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors
578	vis./ Bons armes demaunda/ E li memes	le	chivaler arma./ En son corage fust bien paié/ Quant ad le
420	pur morir;/ Devant le counte se genula/ E	le	chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son
621	parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe	le	chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes son coup
580	En son corage fust bien paié/ Quant ad	le	chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe
1026	Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun	le	col tendist./ Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, qi ne
978	E ma coupe me reportez!'/ E celi fist	le	comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres, qe
253	ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant	le	congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule
757	puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust	le	congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais
59	marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes	le	conte fist com bon seygnur,/ Destourber ne vout son honur
286	play bien dur vus bateray:/ A mon pere	le	conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des
643	trenchent plus de cent./ Bien pres passa	le	costé./ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu
970	... ...]/ Qe unke lesser le voleit./ Quant	le	counte ad pres mangé,/ Son botiler ad appelé:/ 'Pernez ma
52	Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur	le	counte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul
79	cri mercy,/ De une chose soiez garny:/	Le	counte ad seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal
1143	estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li	le	counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out
919	Desques eus vindrent el pais/ Ou sojorna	le	counte Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant
689	tant com osa,/ Car son pere moult dota./	Le	counte atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele
1038	Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant	le	counte ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses
149	temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi	le	counte com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le
368	arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./	Le	counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun
733	donez/ Dont les menestrauz furent feffez./	Le	counte dona a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore
785	Si fist tot son commaundement;/ Tant qe	le	counte enmaladi./ E quant longtemps out langui,/ Morust e
57	n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./	Le	counte fust de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes
398	hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke	le	counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys
406	ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E	le	counte li velt venger./ Quant ne pout trover plevine
989	counta/ Coment a soen resembleit./ E	le	counte moult esmerveileit,/ De Amillioun donqe li sovent
150	mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E	le	counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul
1221	porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment	le	counte out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A drein
419	tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant	le	counte se genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur
1090	fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant	le	counte s'est repairé./ En une chambre est entré/ Ou les deus
729	fuit ben paé/ Quant ad baroun a volunté./	Le	counte tynt feste plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i
679	Les chevalers ja corerent,/ Mes	le	counte vient premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust
611	fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe	le	coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut
641	Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre	le	coup descent,/ Mailles trenchent plus de cent./ Bien pres
662	Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache	le	coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun
72	plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve	le	departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau
754	A vous le peus bien counter,/ Car bien	le	deverez celer.'/ Tot lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il
803	purquei le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne]	le	dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir
166	E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays	le	disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne meuz
219	bel chevaler ne veient;/ E li quens meme	le	dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la
614	trencha quir e fust/ Com si rasour trenché	le	cust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le braunke en terre
167	Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes	le	eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent
802	nue meistes entre nous,/ Sire, purquei	le	feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo
666	atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe	le	feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la
1054	Con son corps li fist garder,/ Servir	le	fist tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E li
856	Ne poums icy plus demorer./ Jhesu,	le	fiz seinte Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo
1117	comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist,	le	fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra
305	'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous	le	froms si privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[l] savera
520	mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut	le	graunte./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun
975	Au povres qe tant est mesaysé./ Mes	le	hanap soit bien gardé:/ En son esquiel le vin versez,/ E ma
962	le per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes	le	hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit

598 Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal
667 par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la cervele cola le brank./ E
608 brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de
609 En le healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup
877 e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore
549 ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le
426 vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe vostre fille fust destiné
900 Jamés quident qe revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour vint
866 E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi par
1149 en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore se claime lasse cheitive
346 le seneschal respound,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le voil
880 Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant
1037 jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/ Tost
896 E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais
166 esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne
960 li donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt
199 uncore aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien
1094 E doucement eux entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché
753 De vostre espoir failli avez./ A vous le peus bien counter,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot lour
82 est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son
720 unke si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son
32 Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ Honur les
980 E vint e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son
979 celi fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe
177 Li fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien furent entre eux
574 deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit.'/ Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit
1191 tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de
1096 fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé
1098 dedeinz ad envolupé./ Sitost com le saunc senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne
1073 Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain devendreit com pessoun./ Quant veu
831 ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef
402 doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust
1184 vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,'
314 Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son seignur le ala counter/ Sitost com il poet
618 en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment
397 Que plegges troverent en hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant
385 me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E
595 Chescun se prent a ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant launce enpoignal/ Parmi l'escu peint
550 parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis
607 par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes
317 ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut molt lec;/ Ore quideit bien estre vengé/ De
600 fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si
186 jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes
657 ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist
637 l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant coup li vint doner
327 mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine/ Entre Amis e la meschine
345 Jeo quide que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt
551 fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant
624 porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant
641 de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ Mailles trenchent plus de cent
831 Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile a un
496 resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment
500 encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
1240 ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
1125 Atant la parole ount lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun
147 Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il
1066 Tant com il memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li
1207 tant com vus viverez;/ En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si
321 Tot lour estre fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par
151 E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai
6 juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la court un counte estoient/ E des armes li
1023 espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E
199 Ne vout uncore aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit

587 l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ **Le** un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore
292 Florie retorné./ Amis mout se purpensa;/ **Le** un mal e l'autre mout dota./ Corteisement ly respundi
484 Amis reposeit./ Sire Amillioun primes **le** veit;/ Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E
347 respound,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il **le** velt denier./ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de
972 ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot **le** vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est
976 le hanap soit bien gardé:/ En son esquiel **le** vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le
1211 molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz **le** virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame
348 S'il le velt denier./ Com leal chevaler **le** voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis
969 deviser deust./ [... ... ...]/ Qe unke lesser **le** voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ Son botiler ad
1170 estre veue./ Sire Amillioun fist com **leal** bier:/ Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e
348 fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com **leal** chevaler le voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit
796 dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit **leal** compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a
122 E de misire Amillioun/ Qi a vous ert **leal** compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
806 ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit **leal** compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son pel
900 Jamés quident qe revendrount./ Owein, le **leal** enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour vint sur
380 'vus dites mal./ Jeo suy vostre chivaler **leal**;/ Si nul vous ad de moy counté/ For que dreit a verité
500 Pur vous la bataille fray,/ E le serment **lealment** juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo
424 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo **lealment** vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement
31 estature,/ De une forme e de une nature./ **Leals** furent envers lor seygnur,/ Bien le portent a honour
444 ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma **lealté**,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse
2 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ De **leauté** e de grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler
317 il poet espleiter./ Le seneschal fut molt **lee**;/ Ore quideit bien estre vengé/ De vostre corteis botiler
540 la robe noun./ Amis, quant il se ajousta,/ **Leez** la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La
845 Amillioun com plus viveit,/ Tant plus **leid** deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi
954 ert corteis chevaler./ De chescun mes qe **l'em** li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit
1006 mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe **l'en** ly lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun donque
703 al baronage/ Qe eus feussent al mariage./ **L'endemain** a terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les
329 la covine/ Entre Amis e la meschine,/ **L'endemain** vint tot a hounte:/ Acounté est tot lor oevre al
892 une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ **L'enfant** a la dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist
864 deveray,/ De mei memes force ne fray.'/ **L'enfant** a soi donque appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe
1027 levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais **l'enfant** avant saillist:/ Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe son
948 seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de **l'enfant** avoient pité:/ Al counte Amys ount counté./ Cil
936 juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount **l'enfant** bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home
1228 aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein **l'enfant** bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit
880 ore est devencu./ Le noun vous dirray de **l'enfant**:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit son
929 receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E **l'enfant**, qe bien fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala
850 li regardast,/ Ne que manger li donast./ **L'enfant**, quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre
843 Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a **l'enfant** que ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant
868 morir le lessast,/ E yl en son pais alast./ **L'enfant** respoundi par grant douçur:/ 'Merci Deu, mon
469 Ke sir Amys son compaignoun/ D'un **leon** fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut
718 qe soint .iii. anz passez,/ aprés de ceste **leprouz** serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/ Home, com
652 rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ **Lequel** fuit meillour chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe
411 Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout **lequel** il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors
428 Qe vostre fille fust destiné! '/ La dame **lermist** pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente la
181 eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore **lerray** de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil counter
136 E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li **lerray**/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur promesse saunz
943 suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne **lerreit** pur estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes
547 Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore **lerrom** de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le
36 Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz **les** ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il voleint
1177 maltalent lour pardona,/ Od sei les tint e **les** ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut
33 seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si **les** amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour talent
677 finist la bataille./ Les uns chaunterent, **les** autres plorerent./ Les chevalers ja corerent,/ Mes le
27 vestu estoient,/ N'est home el mound qe **les** avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent de une
705 terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ **Les** barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers
705 Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e **les** chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz
678 uns chaunterent, les autres plorerent./ **Les** chevalers ja corerent,/ Mes le counte vient premer
998 feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./ **Les** chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt prés
589 eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount **les** chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera
734 feffez./ Le counte dona a ses esquiers/ **Les** chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien counter
640 el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati **les** colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ Mailles
933 Des povres les estres e les maneres/ E **les** custumes de les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t
178 De beauté avoit le pris/ Sour touz **les** dames du pays./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e
566 Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de **les** dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount

569 venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur **les** dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes me
233 a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger./ **Les** damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly
734 counte dona a ses esquiers/ Les chivals e **les** destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a
1160 ert pas destiné,/ Car un jour par matyné/ **Les** deus countes sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul
1092 repairé./ En une chambre est entré/ Ou **les** deus enfanz dormerent;/ E doucement eux entreacolerent
964 Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit./ **Les** deus hanaps tant resembleient/ Qe, si en une mayn
533 aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ **Les** deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerreit home ja si
924 Ala com a processioun./ Entre autres **les** deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus
1130 ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ **Les** enfantz furent estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ En
1072 cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si **les** enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain
1129 donqe ove la dame ala/ En la chambre ou **les** enfaunz lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs
1122 eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De **les** enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien lé
932 Ala demaundant tut entour/ Des povres **les** estres e les maneres/ E les custumes de les terres./ Les
34 Si les amast mult tendrement,/ Honur **les** fist a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz
934 les maneres/ E les custumes de les terres./ **Les** gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres regardant
932 tut entour/ Des povres les estres e **les** maneres/ E les custumes de les terres./ Les gentils homes
732 Mout i furent des robes donez/ Dont **les** menestrauz furent feffez./ Le counte dona a ses esquiers
1239 eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler **les** mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre
455 beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz **les** noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant
373 le botiler./ A li soleit trop beal parler;/ **Les** oils sur ly forment roylla./ Amis moult se merveilla
536 l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun **les** oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si par
1131 Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs **les** ount trovez!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray del
935 Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E **les** povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il
394 l'autre tendi son gant,/ E li quens [**les**] resceust atant./ E donqe jugga le baronage/ Que plegges
895 Ele li fist un asne aver,/ E pus sus **les** seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe
933 les estres e les maneres/ E les custumes de **les** terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les
792 For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo **les** terres recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad
1177 Son maltalent lour pardona,/ Od sei **les** tint e les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li
677 pas mervaille./ Ore finist la bataille./ **Les** uns chaunterent, les autres plorerent./ Les chevalers ja
561 E si jura grant serement/ Qe il memes **les** verreit arder./ Ataunt virent vener un chevaler/ Qe vers
1239 E Deu fait pur eus grant vertuz:/ **Les** voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun
597 D'un grant launce enpoignal/ Parmi **l'escu** peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de
615 Com si rasour trenché le eust./ Parmy **l'espaudle** del chival/ Cola le braunke en terre aval/ Plus qe
1024 E il memes dist q'il le tuera./ Tost **l'espeie** li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun
1124 lé recoveroms.'/ Atant la parole ount **lessé**/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a
147 Sitost com son leu verreyt./ Amis **lessa** le temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte
1129 la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz **lessa**./ Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs les ount
866 E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le **lessast**,/ E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi par
41 a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt **lesser**:/ De son hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur
969 l'autre deviser deust./ [... ... ...]/ Qe unke **lesser** le voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ Son botiler
723 sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne vout **lesser**,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus
1081 voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil **lesser**./ Mout avera fait bone jorné/ Si par lour saunk poet
793 les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis **lesser**,/ Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire
1186 la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, ' **lessez** ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain suy
714 —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ ' **Lessez**, lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di certeine novele
97 Grant preu e grant honur avrez!/ **Lessez** orgoil e envie,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez
714 Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez, **lessez**, sire Amillioun!/ Jeo vous di certeine novele:/ Si
636 sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que **lessir** son chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un
635 Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié **l'estut** ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal, qe
146 sei q'il se vengereit/ Sitost com son **leu** verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester
1084 estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn **levé**./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A
1025 l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut **levé**./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant
1049 foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay **levé**./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa chambre li ad
624 coup est trop pesant./ Le seneschal se **leve** ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a pié
544 dame ne voleit parler,/ Desqes al matin al **lever**./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a
113 e pensifs./ Quant Amis de palmisoun **levoit**,/ Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com en la porte
709 furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A **l'huis** de moster./ Quant Amillioun deust son noun nomer
897 jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De **l'hure** qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés
1105 puis li mena./ La dame, sitost com vew **li** a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda
1050 ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz **li** ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e
1048 Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz **li** ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad
1051 ses braz li ad apporté./ En sa chambre **li** ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist
308 Ne[l] savera home de mere nee.'/ Tant **li** ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la

248 De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit noun est
230 La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele ne
1036 li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le
435 Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer
1060 La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li
118 d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De vous suy
150 le counte com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné
663 attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li
112 demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun
814 lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li
389 home de grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus tote la court
90 Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne porra
865 a soi donque appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais alast
170 durement l'amerent;/ A femme prendre li consaillerent./ Par lour consail se mariat:/ Une gentile
893 L'enfant a la dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer
53 son seignur le counte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe
656 tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe
681 Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson
747 forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit
1107 Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa
944 ne lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il
15 par noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li deus estoient de une nature,/ Angeles resembleient de
101 Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se
490 De son estre saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est
798 Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus aime en
1068 li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist mettre
712 moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez
439 li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez, m'est avys!/ Si
883 Mes Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre
581 Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille
493 Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere
362 Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert
646 qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust
959 Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre
849 Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere
58 Le counte fust de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist com bon seygnur
554 estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité avoient la gent
116 com en la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li
915 A plus q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise
951 Cil, sitost com mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler
233 boyvre ne manger./ Les damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade
364 destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute
1158 Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus countes
772 sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant
287 bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ Donques
999 Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer
914 fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la terre tant alerent
657 dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist:/ La healme del coup
1045 Qe son frere desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé
117 li encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il
157 Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore poet il mener grant baronage!/ N'ust od
1052 En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist
1053 Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre
685 mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant
687 joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte
54 Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses
894 la dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le
1103 En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com
501 le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la
584 a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le
470 D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus
176 mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz
1024 il memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col

460 est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son
1007 commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun donque maundereit/ E la verité de li
72 De plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis
820 touz departoient,/ Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li
186 Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne
1229 l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie longtemps
1213 Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora desqe al morir
65 E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte departi,/ Si
1143 estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out
136 E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur promesse
1056 De viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com
578 e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En son corage fust bien paié
1104 bone robe li fist vener/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma
619 a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le
674 cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore
211 La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qi bien sout son mester:/ De un drap
827 parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que
713 voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di
1012 E coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par
823 Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un
1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund
405 a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout trover
261 pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit
1118 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si
1002 Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e
1062 quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses
696 fuistes encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele respount moult simplement
954 corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke
885 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que nous
776 De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre
331 Acounté est tot lor oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit
394 Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donqe jugga le baronage/ Que
219 Qe unque si bel chevaler ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz
351 est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'
558 la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E
240 En cel langur demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa
214 De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit
189 envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille
208 ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit
1067 desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe
423 En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a
1009 donque maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu
156 gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore poet il mener
600 e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si sunt
848 defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant oy cel
1115 ses meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz
1089 dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le counte s'est repairé./ En une chambre est
273 Estez vous Florie par grant errour!/ Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo
490 nepurqant;/ De son estre saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od
1179 Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour
143 graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale devint
399 Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur
116 retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes
421 E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens
185 de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit
184 Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le
8 la court un counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult furent de grant vassalage,/ Gentils e de
528 frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit
414 ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un
524 Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose
1035 quens, remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le
372 de la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly forment roylla
990 moult esmerveileit,/ De Amillioun donqe li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad

433 celi qe grant mester en a./ De son frere **li** sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala
947 Celi q'il clama pur seignur,/ Touz **li** tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al counte
826 norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od **li** tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre
810 e si laid devint/ Qe checun pur mesel **li** tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son
811 Qe checun pur mesel li tint./ La dame **li** tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit
393 ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ **Li** un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust
13 barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ **Li** un estoit Amys par noun,/ L'autre est appelé Amillyoun
111 Del doel q'entre eus ount demené./ **Li** un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs
742 Bien entendi en son corage/ Fere ne **li** velt hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult
1003 avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne **li** velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt
406 Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte **li** velt venger./ Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la
1174 Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant **li** venerent;/ Merci crier touz penserent./ Son maltalent lour
342 avera reprover/ Si jeo ne me puisse de **li** venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez
1056 e de boivre ensement./ E li memes a **li** vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad
531 fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant **li** veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent
638 qe nel pout amer,/ Un grant coup **li** vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati
665 gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir **li** vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust
822 Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide **li** vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il
1000 Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner **li** voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient
655 Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup **li** voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le
684 a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant **li** vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele
816 Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a **li** vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han
437 a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer **li** vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys
465 chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son **lit** giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en
797 estoit leal compaignon./ Com il en son **lit** gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de
812 trop en despit:/ Ne voleit entrer en son **lit**,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger
1132 E tot vifs les ount trovez!/ En lor **lit** s'entrebeyserent,/ Del ray del solail s'enjoierent./ Pere e
354 en la chambre entrat,/ La dame sur un **lit** trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele
1220 une fenestre luy porteit/ Chescun jour sa **liveré**,/ Coment le counte out comaundé./ Un an vesqui e un
1225 fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad **liveré**./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa
1205 Suvenez vous del bordel/ [K']a moy **livrastes** pur hostel./ Celi averez tant com vus viverez;/ En
46 longtemps servirent/ E par tot bien **loé** furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de
1211 mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De **loinz** le virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame
1237 fut la compaignie./ Lor corps gisent en **Lombardie**,/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles
915 cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De **long** en long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e
915 A plus q'il pout li eysa,/ De **long** en **long** li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise
857 Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com **longes** me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour
786 Tant qe le counte enmaladi./ E quant **longtemps** out langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E
45 Qi fort esteit e coragous./ De cel mester **longtemps** servirent/ E par tot bien loé furent./ Amillion
1231 Qe bien aveit deservy./ En bone vie **longtemps** vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Aprés sa mort a
907 Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient **lor** asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo
1237 fierement,/ E bone fut la compaignie./ **Lor** corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant
955 chescun mes qe l'em li porta/ La moyté **lor** envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement amoit
1132 E tot vifs les ount trovez!/ En **lor** lit s'entrebeyserent,/ Del ray del solail s'enjoierent./ Pere
12 estoient de barons,/ Si vous dirroy bien **lor** nouns:/ Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est appelé
330 vint tot a hounte:/ Acounté est tot **lor** oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot
31 e de une nature./ Leals furent envers **lor** seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si les amast mult
669 En la cervele cola le brank./ E **l'oraille** od tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le braz od
243 en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A **l'ostel** n'i out nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il
162 de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E **lour** ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
557 pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent **lour** beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour
22 de la court avoint envie/ De lour estre e de **lour** compaynie,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de
171 A femme prendre li consaillerent./ Par **lour** consail se mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe fille
476 lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne **lour** dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere
874 entre eux grant pité:/ Plurent e decirent **lour** draps,/ Sovent se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de
530 E quideront trestouz pur voir/ Qe ceo fuit **lour** dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe
22 quant./ Ceus de la court avoint envie/ De **lour** estre e de lour compaynie,/ Q'amerent entre eus tant
320 vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot **lour** estre fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il
755 counter,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot **lour** estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant
766 Donque ne fuit aparcevant/ De **lour** estre tant ne quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé
38 Lour trova si com il voleint;/ Hautement **lour** feste teneint./ De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly
35 Honur les fist a lour talent./ Chivalers **lour** fist a grant honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour
834 A chef de la vile a un bordel/ Illoc **lour** fist aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes a

475 Ses garsouns e ses esquiers./ Touz **lour** fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles
910 De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo **lour** fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei
1217 ensample averont/ Coment iour seignurs **lour** garderont./ Une garce la serveit/ Qe par une fenestre luy
559 Li quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt **lour** juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il memes les
601 de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ **Lour** launces ount as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel
1176 crier touz penserent./ Son maltalent **lour** pardona,/ Od sei les tint e les ama./ Donque fist sa
764 En une chambre puis entrerent/ E **lour** robes chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/ De lour
521 E sire Amist trestut le graunte./ **Lour** robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé
1083 Mout avera fait bone jorné/ Si par **lour** saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé
475 e ses esquiers./ Touz lour fist mettre **lour** seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il
511 Donqe quideront de verité/ Qe vous seiez **lour** seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma femme facez
34 amast mult tendrement,/ Honur les fist a **lour** talent./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz les ad
37 honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ **Lour** trova si com il voleint;/ Hautement lour feste teneint
1165 ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De **lour** venue ne saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ En une
1163 descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De **lour** venue tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour
901 qe revendrount./ Owein, le leal enfant,/ **Lour** viaunde va querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De
902 Lour viaunde va querant,/ Mes tant **lour** vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne
909 souz e diz e maille;/ De ceo acateront **lour** vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur deus roes une
851 quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere **lour** vivre avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il dit
905 Qe donke ne poient home trover/ Qe rien **lour** voille doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient
966 mayn estoient,/ N'est home qe tant de **l'overaigne** seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
889 Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a **lui** par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
813 entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od **lui** parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut
621 li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist **l'un** a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter
28 N'est home el mound qe les avisast/ Qe **l'un** de l'autre desceverast./ E si furent de une estature,/ De
967 home qe tant de l'overaigne seust/ Qe **l'un** de l'autre deviser deust./ [... ... ...]/ Qe unke lesser le
535 Ne crerreit home ja si parcevant/ Qe **l'un** de l'autre sout deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne
592 e fiers./ Ne avera mester de acord;/ **L'un** hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier
872 Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant **l'un** l'autre ad regarde,/ Mout est entre eux grant pité
604 A cel encountre tant firent bien/ Qe **l'un** ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par
492 si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant **l'un** od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun
332 Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une **luwé**./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi
755 Car bien le deverez celer.'/ Tot lour estre **luy** ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le
260 son corage descovery:/ E dit pur l'amur de **luy**/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé
1151 Mes ore se claime lasse cheitive;/ Moult **luy** poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere
1219 Une garce la serveit/ Qe par une fenestre **luy** porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le counte out
61 ne vout son honur;/ Mes s'il eust od **l y** affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly
783 Tant demeint grant affere./ Sa femme **l y** aime tendrement,/ Si fist tot son commaundement;/ Tant qe
262 s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de **l y** amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit
263 li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de **l y** amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad
939 Gentil home resemblereit./ Un de eux **l y** appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il getta un grant
808 Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son pel **l y** arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li
236 dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal **l y** avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose
135 alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo **l y** aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est
65 E il od force de sa gent/ Vendroit a **l y**, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte
392 Est veus tote la court ensemblé,/ **Ly** chivalers e la meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant
459 vespré/ En un grant boys est alé./ A force **l y** covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un
234 damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo fuy **l y** demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel
758 il eust le congé pris,/ E seignurs ove **l y** desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot
447 com je puisse aver la vie!'/ Atant congé **l y** dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier
693 ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ **Ly** e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous
1059 pout l'ad conforté./ La dame sovent a **l y** est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa
42 Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel **l y** fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e
373 A li soleit trop beal parler;/ Les oils sur **l y** forment roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il
63 ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a **l y** hastivement,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li
159 poet il mener grant baronage!/ N'ust od **l y** ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de
416 taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur **l y**./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir
1006 sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en **l y** lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun donque
66 Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun **l y** mercya./ Atant del counte departi,/ Si ala parler a son amy
413 vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de **l y** pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt
40 De Amys fist son botiler,/ Car moult a **l y** puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel ly
293 un mal e l'autre mout dota./ Corteisement **l y** respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e
649 ad bien duré/ Desque noune fust passé./ **Ly** seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de

843 son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que **l y** serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant plus leid
242 s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od **l y** tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des
462 arbre se cocha,/ E son chival a une raym **l ya.**/ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist
1006 sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly **l yast/** E en sa prison li gettast./ Amillioun donque
977 gardé:/ En son esquiel le vin versez,/ E **ma** coupe me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e
972 mangé,/ Son botiler ad appelé:/ 'Pernez **ma** coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres
508 icy/ Od vous desoremés demorront;/ A **ma** court od vous irrount./ E quant nous averoms robes
445 juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur **ma** defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'
513 seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de **ma** femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo
376 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ **Ma** fille est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La
338 porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ **Ma** fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel
444 ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par **ma** lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse
443 savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad **ma** mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute
276 Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en **ma** vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo ne
861 e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de **ma** vie est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei
340 est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre **m'ad** icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si jeo ne me
334 dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour **m'ad** issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En qi me
908 lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e **maille**;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount
642 colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ **Mailles** trenchent plus de cent./ Bien pres passa le costé
453 fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e **mains** beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi
1040 Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses **mains**, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La
1005 ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses **mains** sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en
210 jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé **maint** baroun./ Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qi bien
1027 en haut levé./ E Amillioun le col tendist./ **Mais** l'enfant avant saillist:/ Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe
160 ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de **maisné**./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné
368 La dame ne sout quoy dire./ Le counte de **mal** ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli
853 counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est **mal** dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums
292 retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le un **mal** e l'autre mout dota./ Corteisement ly respundi
1099 Sitost com le saunc senti,/ De son grant **mal** est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne
364 avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de **mal** garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'
379 'Sire,' dist Amys, 'vus dites **mal**./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy
599 Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de **mal** l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as
236 E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel **mal** ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre
682 S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist que **mal** n'en a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li vount
1137 quant fust sané/ E de son grant **mal** netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En son pais s'en
92 s'acompanie od feloun/ Ne porra trover si **mal** noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant compaignoun velt
344 seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur **mal**.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi qe fist le mound
84 il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ **Mal** vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne pout trover
809 demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si **malade** e si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame
235 ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que **malade** fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda
1194 Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] **malades** e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre
1101 est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De **maladi** ne appareust trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une
245 chevalers for sire Amis,/ E il remist pur **maladie**./ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame prist
362 nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint **male** destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal
360 bien hounte nous rend:/ Tray nous ad **malement**,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint
1176 Merci crier touz penserent./ Son **maltalent** lour pardona,/ Od sei les tint e les ama./ Donque
275 ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné **m'amur**?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer
629 a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la **manere**,/ Si ceo retret tost arere./ Tost descendi de son
932 tut entour/ Des povres les estres e les **maneres**/ E les custumes de les terres./ Les gentils homes, qe
970 lesser le voleit./ Quant le counte ad pres **mangé**,/ Son botiler ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot le
453 pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy **mangea** e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les
950 Amys ount counté./ Cil, sitost com **mangea**,/ Son premer mes li envoya/ Par son mestre botiler
232 comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne **manger**./ Les damoysceles qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly
849 si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que **manger** li donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout
1198 Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a **manger** me menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis
814 auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne **manger**./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir
854 mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a **manger**;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte
43 De son hostel ly fist justizer,/ Mestre **mareschal** sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel mester
772 Ore est mout en astage,/ Car cru li est par **mariage**/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant terres est
702 comaundé al baronage/ Qe eus feussent al **mariage**./ L'endemain a terce sonant/ Touz i furent, petit e
171 li consaillerent./ Par lour consail se **mariat**:/ Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un counte
856 icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte **Marie**,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant
1117 pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte **Marie**,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz doner

699 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus me volez **marier**,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount fut
57 droitz amenusast./ Le counte fust de ceo **marriz**,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist com
198 a trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver **mary**./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la
544 A la dame ne voleit parler,/ Desqes al **matin** al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques
1085 Un jour s'est par matyn levé./ E al **matin** est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere
222 ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté **matire** aveient./ Est venuz la novele/ En la chaumbre a la
1159 Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par **matyné**/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte descenduz
1084 poet estre sauné.'/ Un jour s'est par **matyn** levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut
452 Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne **matyn**,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule nust
375 se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous **maudie**!/ Ma fille est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja
1042 Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure **maudist** q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe
63 ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ **Maundast** a ly hastivement,/ E il od force de sa gent
1008 sa prison li gettast./ Amilliouη donque **maundereit**/ E la verité de li querreit/ Qe son hanap out perdu
965 hanaps tant resembleient/ Qe, si en une **mayn** estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne seust/ Qe
370 noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la **mayson**,/ Si encontra le botiler./ A li soleit trop beal parler
280 ore suy jeo bien honye/ Quant vous **me** dedeignez avere amye!/ Tant gentils hommes m'ount prié
383 counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien **me** deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant
700 talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne **me** deveroy pas corucer.'/ Dount fut comaundé al baronage
799 son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ ' **Me** diez par amour de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey
132 Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent **me** doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est
497 avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo **me** doute qe pur pecché/ Del serment serrez encombré./ Pur
857 Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes **me** durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi
1192 estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné **me** ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i]
134 voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer **me** est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li
890 aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele **me** face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a
1016 devez/ A Amilliouη, qe tant amez,/ Ne **me** facez enprisoner,/ Mes le chef me faites tost trencher
1017 Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef **me** faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop
571 esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes **me** fetes tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo
1198 vous del bien,/ Coment a manger **me** menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer
139 Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt **me** poez crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray
336 Que tant amey e tant ting cher,/ En qi **me** porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute
342 A touz jours avera reprover/ Si jeo ne **me** puisse de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo
977 En son esquiel le vin versez,/ E ma coupe **me** reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e porta le
699 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus **me** volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount fut
440 Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir **me** volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous
108 sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi **me** vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del docl q'entre eus
586 Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la **medlé**./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne
863 pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De **mei** memes force ne fray.'/ L'enfant a soi donque appelast,/ E
652 savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit **meillour** chevaler./ Amilliouη fust bien anuié/ Qe la bataille
1114 Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses **meins** a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence
351 e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut **meins**!/ Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la
646 toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ **Meint** coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque
408 ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la **meischine**./ En la place estoit Amis/ Com esgarré e com
912 Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei **meismes** enchacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus
527 pur son frere!/ Amys remaint od la **meisné**,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur
252 Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa **meisné**./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus que
392 tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la **meisné**./ Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens
152 sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa **meisné**./ Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa
1164 De lour venue tant ne quant./ La **meisnee** fust endormie;/ De lour venue ne saveint mie
314 serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ De la **meisnee** le seneschal./ A son seignur le ala counter/ Sitost
801 jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue **meistes** entre nous,/ Sire, purquei le feistes vous?'/ 'Dame
219 si bel chevaler ne veient;/ E li quens **meme** le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe
1056 De viande e de boivre ensement./ E li **memes** a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout
1065 De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il **memes** desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une
1023 faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il **memes** dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis
863 Si jeo de feim morir deveray,/ De mei **memes** force ne fray.'/ L'enfant a soi donque appelast,/ E pur
515 atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo **memes** iceo fuisse,/ Qe cle encheson ne troesse/ Qe illoke
578 e de vis./ Bons armes demaunda/ E li **memes** le chivaler arma./ En son corage fust bien paié/ Quant
561 E si jura grant serement/ Qe il **memes** les verreit arder./ Ataunt virent venir un chevaler/ Qe
165 e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il **memes** si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes
1104 robe li fist vener/ E a mouster puis li **mena**./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma
1198 vous del bien,/ Coment a manger me **menastes**/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon
1199 a manger me menastes/ E del pais **m'enchaceastes**;/ Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne

158 Trestouz li firent homage./ Ore poet il **mener** grant baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis
310 sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la **menere**/ Coment e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé
732 Mout i furent des robes donez/ Dont les **menestrauz** furent feffez./ Le counte dona a ses esquiers/ Les
1079 soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou **mensounge**,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur mes enfanz
619 a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li **ment**?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le
1077 resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne **menti**,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit voir
1031 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne **menti**/ E qi en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire
683 mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson de **mer**./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie
1175 e esquiers,/ Touz devant li venerent;/ **Merci** crier touz penserent./ Son maltalent lour pardona,/ Od
869 L'enfant respoundi par grant douçur:/ ' **Merci** Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe
77 servy avom./ Pur vostre honur vus cri **mercy**,/ De une chose soiez garny:/ Le counte ad seignz un
1030 son seignur deust morir./ En haut cria: ' **Mercy**, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz
1030 deust morir./ En haut cria: 'Mercy, **mercy**!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri
333 mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu **mercy**,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant
294 ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu **mercy**,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant tant com
66 Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly **mercya**./ Atant del counte departi,/ Si ala parler a son amy
789 la dame./ Quant mortz furent pere e **mere**,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit
200 le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la **mere**./ La damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes out a
307 deus a nostre talent/ Ne[l] savera home de **mere** nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere
256 une soule chambere/ Ala par congé de sa **mere**/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora
174 Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e **mere** perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del
1134 Del ray del solail s'enjoierent./ Pere e **mere**, quant ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire
675 mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas **mervaille**./ Ore finist la bataille./ Les uns chaunterent, les
838 Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas **merveile** s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul
1080 Mes ore, soit voir ou mensounge,/ La **merveile** voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser
374 sur ly forment roylla./ Amis moult se **merveilla**./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par
803 le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai **mes**;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe
451 e saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/ **Mes** ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy
740 baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ **Mes** Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son corage
188 li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ **Mes** Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame aveit
1018 Mes le chef me faites tost trencher./ **Mes** certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'
506 vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ **Mes** chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/ A
948 pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ **Mes** de l'enfant avoient pité:/ Al counte Amys ount counté
1181 venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ **Mes** de pour se fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele
118 encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ **Mes** de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien
139 esprové/ Pur promesse saunz seurté./ **Mes** de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy affere
477 seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ **Mes** dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pout amer
197 la desirent,/ E esposer la volirent,/ **Mes** ele a trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A
896 asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe **mes** en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors
85 pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ **Mes** encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout grever
1081 La merveile voiz voil prover,/ Pur **mes** enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par
58 counte fust de ceo marriz,/ Congé li done **mes** enviz;/ Mes le conte fist com bon seygnur,/ Destourber
778 fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet **mes** estre botiler./ Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il voleit
251 la pucele:/ Son dreit noun est Mirabele,/ **Mes** Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie
629 E Amyllioun a pié se mettreit./ **Mes** il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost
888 irroms/ A plus tost que nous pooms./ **Mes** jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me
644 plus de cent./ Bien pres passa le costé./ **Mes** la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour
724 son dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ **Mes** la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent
1017 qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ **Mes** le chef me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop
59 de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ **Mes** le conte fist com bon seygnur,/ Destourber ne vout son
679 plorerent./ Les chevalers ja corerent,/ **Mes** le counte vient premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust
975 frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ **Mes** le hanap soit bien gardé:/ En son esquiel le vin versez
962 le per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ **Mes** le hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne
598 enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur,/ **Mes** le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le
609 ala,/ En le healme grant coups dona./ **Mes** le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le
657 ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ **Mes** le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres bien
951 Cil, sitost com mangea,/ Son premer **mes** li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis
414 sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ **Mes** li sire fust tant yré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe
1209 tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut **mes** molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz le virent tote sa
1158 Son seignur jamés ne verrait./ **Mes** ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus
674 cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li **mes** n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore
1150 Q'en le mois deust estre esposé./ **Mes** ore se claime lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est
1079 menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ **Mes** ore, soit voir ou mensounge,/ La merveile voiz voil

723 bien entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ **Mes** pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier
1001 de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ **Mes** pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne
954 Qe ert corteis chevaler./ De chescun **mes** qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe
87 pout trover/ Par quoi il vus pout grever./ **Mes** quant jeo serray departi,/ Donke vus serra il fort enemy
125 autre amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ **Mes** quant s'en est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon
61 seygnur,/ Destourber ne vout son honur;/ **Mes** s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre
945 emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ **Mes** sitost com il veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur
623 Ses armes sout trop bien porter,/ **Mes** son coup est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt
586 heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore **mes** sourdra la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus
902 le leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ **Mes** tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke
719 aprés de ceste leprouz serrez./ Avant **mes** unke si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.'
882 l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ **Mes** Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist sire
1111 garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ **Mes** vous desconforteray./ Sachez, dame, que pur sa saunté
377 maudie!/ Ma fille est par vous honye./ **Mes** vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'
917 Par la terre tant alerent/ Qe feym e **me[s]aise** troverent/ Desques eus vindrent el pais/ Ou
464 car mult fu travaillé,/ E son chival fuist **mesaysé**,/ Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez sa femme se
974 a ceo frarin,/ Au povres qe tant est **mesaysé**./ Mes le hanap soit bien gardé:/ En son esquiel le
430 Amis en plevine;/ Moult fu dolente la **meschine**./ Amis se retret e purpensa/ Com celi qe grant
328 quant sout la covine/ Entre Amis e la **meschine**,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté est tot
284 ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler!/ **Mescreaus** estes e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A
980 E vint e porta le present./ Le povres, qe **mesel** fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre
810 Si malade e si laid devint/ Qe checun pur **mesel** li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer
960 amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun **mesmes** avoit le per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le
167 estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu **mesmes** le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa
546 issi se contint/ Desques Amyllioun a **meson** vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun
1126 Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a **mesoun**;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove la
297 tant com jeo viveray./ Vers vous ne **mesprendroie** mye/ Par quei vous en averez vilenye/ Ne de
271 Com celi qi talent ne aveit/ Q'il **mesprist** vers son seignur./ Estez vous Florie par grant
893 chivacher.'/ L'enfant a la dame ala,/ Son **message** li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les
1126 E le service Deu ount escoté./ Aprés la **messe** vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys
440 dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez, **m'est** avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe
352 dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play **m'est** laid e vileins.'/ Atant en la chambre entrat,/ La dame
591 Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera **mester** de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne
212 li mestre botiler,/ Amys, qi bien sout son **mester**:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens
357 Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme de **mester**,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte
432 se retret e purpensa/ Com celi qe grant **mester** en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse
45 sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel **mester** longtemps servirent/ E par tot bien loé furent
148 Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son **mester**;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte mout li
794 de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il ad **mester**./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal
985 poet estre?/ Ces deus hanaps fist un **mestre**!'/ Arere tantost se repeira,/ Al counte de cel hanap
211 fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li **mestre** botiler,/ Amys, qi bien sout son mester:/ De un drap
952 Son premer mes li envoya/ Par son **mestre** botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes qe
43 lesser:/ De son hostel ly fist justizer,/ **Mestre** mareschal sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel
1153 Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se **met** hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe
1070 Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist **mettre** cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz
475 garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist **mettre** lour seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes
628 pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se **mettreit**./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost
635 envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ **Meuz** a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le
815 od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ **Meuz**, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil
185 li servi de jour en jour./ Taunz com Amis **meuz** li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait
184 Qe fuit demoré od son seygnur/ E **meuz** li servi de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li
168 Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne **meuz** [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme
1168 counter,/ En une chaumbre se ala musser;/ **Meuz** velt estre pendue/ Qe de son seignur estre veue./ Sire
870 grant douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ **Meuz** voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperour
1033 E qi en croiz suffri passioun,/ C'est **mi** sires, sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys
325 e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] **mie**;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant
1165 fust endormie;/ De lour venue ne saveint **mie**./ Quant la dame oi counter,/ En une chaumbre se ala
445 par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez **mie**,/ Tant com je puisse aver la vie!'/ Atant congé ly dona
1196 jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du **mien**./ Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a manger me
250 vous dey la pucele:/ Son dreit noun est **Mirabele**,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa
928 receuz./ Pres [de] la porte se sount **mis**,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son seignur
836 fist aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ **Mis** estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est
121 De vous suy ore alé pensant/ E de **misire** Amillioun/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne volez

835 un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, **misires** Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu
1149 en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le **mois** deust estre esposé./ Mes ore se claime lasse cheitive
1209 Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes **molt** bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz le virent tote sa
1060 La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama **molt** de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet
317 com il poet espleiter./ Le seneschal fut **molt** lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De vostre corteis
1224 morust pur dolur./ Sire Amillioun fut **molt** prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne
999 vindrent del deys,/ Qe li estoient de **molt** prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus
1189 doil demener/ Pur ceo qe sain suy revenu./ **Molt** vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com deussez estre
127 est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ **Mon** ami e mon bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire
126 quant s'en est departi,/ Requer qe soyez **mon** amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis respount
127 Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e **mon** bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal
992 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De **mon** frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table
286 e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A **mon** pere le conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés
277 Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray en **mon** quer heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore
869 respoundi par grant douçur:/ 'Merci Deu, **mon** seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous
442 ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe **mon** seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par
1200 pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer **mon** serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais
1078 il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit **mon** sounge./ Mes ore, soit voir ou mensounge,/ La merveile
1201 jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse en **mon** vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir
437 Qe a son frere velt aler:/ Son enuy **monstrer** li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau
1215 illoec ne pout issir;/ La demora desqe al **morir**./ Autre dames ensample averont/ Coment iour seignurs
460 ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust **morir**./ Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a une raym
418 ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur **morir**;/ Devant le counte se genula/ E le chivaler demaunda
862 de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim **morir** deveray,/ De mei memes force ne fray.'/ L'enfant a soi
1029 qi ne poet suffrir/ Qe son seignur deust **morir**./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne
828 que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur **morir**./ La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors
866 E pur Deu li conjurast/ Qe illoec **morir** le lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi
636 a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival **morir**./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant coup li
815 ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut **morir**/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur
1203 En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur **morir**./ Suvenez vous del bordel/ [K']a moy livrastes pur
1233 vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Aprés sa **mort** a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se
1019 certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la **mort** deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre
1041 mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa **mort** desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché
839 N'est pas merveile s'il ad dolur./ La **mort** desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad
403 qe le seignur/ Haist Amys desqe a la **mort**,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li
443 bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma **mort** juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne
610 dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la **mort** l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur
592 de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la **mort**./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se prent a ferir
412 pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ **Mort** ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes
378 honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La **mort** vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites
470 D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist **mortel** enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli
789 E tost aprés morust la dame./ Quant **mortz** furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la
787 E quant longtemps out langui,/ **Morust** e a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame
788 e a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés **morust** la dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust
1223 Un an vesqui e un jour;/ A drein **morust** pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre
261 descovery:/ E dit pur l'amur de luy/ **Morust**, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si
709 La puccle fut amené/ A l'huis de **moster**./ Quant Amillioun deust son noun nomer,/ Si se
416 Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un **mot** parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne
332 counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla **mot** une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour
40 teneint./ De Amys fist son botiler,/ Car **moult** a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son
930 mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E **moult** ama son seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des
649 noune fust passé./ Ly seneschal fist **moult** bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit
383 ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ **Moult** bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le
688 li fist tant com osa,/ Car son pere **moult** dota./ Le counte atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait il
471 Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut **moult** effraé/ E tost sus sailli com home desvee./ Tost appela
989 Coment a soen resembleit./ E le counte **moult** esmerveileit,/ De Amillioun donqe li sovent:/ 'Bien
711 deust son noun nomer,/ Si se purpensa **moult** estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist
430 lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ **Moult** fu dolente la meschine./ Amis se retret e purpensa
9 estoient/ E des armes li servoient./ **Moult** furent de grant vassalage,/ Gentils e de grant parage
921 Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E **moult** grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com
72 treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car **moult** li greve le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit
1151 Mes ore se claime lasse cheitive;/ **Moult** luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet
744 hountage/ De son compaignoun trahir./ **Moult** parfound getta un sospir,/ E el suspir geint forment

216 fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit **moult** prisé./ Entre eux communement disoient/ Qe unque si
1235 a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ **Moult** se amercnt fierement,/ E bone fut la compaignie./ Lor
374 Les oils sur ly forment roylla./ Amis **moult** se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma
697 Li porriez de quer amer?'/ E ele respount **moult** simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus me
27 une robe vestu estoient,/ N'est home el **mound** qe les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si
346 le seneschal respound,/ Par celi qe fist le **mound**,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le voil prover
281 avere amye!/ Tant gentils hommes **m'ount** prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas
448 Atant congé ly dona,/ E un palefroy **mounta**/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com
1104 regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a **mouster** puis li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de
842 a qui parler,/ Ne a qui poet son dolur **moustrer**,/ Fors a l'enfant que ly serveit./ Amillioun com
519 Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] **mout** aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte./ Lour
1082 prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser./ **Mout** avera fait bone jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné
292 mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre **mout** dota./ Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu
771 s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est **mout** en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e
829 Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que **mout** est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e
873 emperour.'/ Quant l'un l'autre ad regarde,/ **Mout** est entre eux grant pité:/ Plurent e decirent lour draps
80 Le counte ad seignz un seneschal/ Qe **mout** est feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur
957 lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke **mout** ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele
215 esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ **Mout** fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre
558 e pleignent lour beauté./ Li quens, que **mout** fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura grant
193 avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ **Mout** fut gentile la damoysele,/ En une realme ne out plus
1115 La dame ses meins a Deu tendi/ E **mout** graces li rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu
731 feste plenere/ Une symaine tot entere;/ **Mout** i furent des robes donez/ Dont les menestrauz furent
200 mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E **mout** l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé
150 le counte com il soleyt,/ E le counte **mout** li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa
101 seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/ **Mout** li devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'
291 Atant s'est Florie retorné./ Amis **mout** se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota
140 de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de **moy** affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve
102 amour e foy,/ Car bien ad amé vous e **moy**.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité
517 ne troesse/ Qe illoke est autre de **moy**;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout
799 dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de **moy** —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue
381 vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de **moy** counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
690 dota./ Le counte atant l'ad appelé:/ 'Dy **moy**,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son
302 Si ceo poet estre aparceu/ Qe de **moy** feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'
287 A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e **moy** forfet,/ E serrés des chivals destret./ Donques serray de
1205 morir./ Suvenez vous del bordel/ [K']a **moy** livrastes pur hostel./ Celi averez tant com vus viverez
130 'Sire seneschal, vostre amisté/ En **moy** n'est si enploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant
109 home qi me vousist crere/ Si jeo deisse la **moyté**/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver
175 E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la **moyté**/ Li fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris
955 De chescun mes qe l'em li porta/ La **moyté** lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement
724 ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa **mullier**./ Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment son frere
1227 femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa **mullier**./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li herita
463 son chival a une raym lya./ Dormist, car **mult** fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en
81 Qe mout est feloun e desleal/ E si est de **mult** grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous
494 Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de **mult** grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le
438 aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe **mult** se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez
590 eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi **mult** sunt orguillous e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un
33 Bien le portent a honour;/ Si les amast **mult** tendrement,/ Honur les fist a lour talent./ Chivalers lour
445 dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne **murrez** mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'/ Atant congé ly
1181 quise q'ele fut trové/ Mes de pour se fuist **muscé**./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le
1167 dame oi counter,/ En une chaumbre se ala **muscer**;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur estre
1156 a purpenser/ Q'entre nonaynes se **muscereit**;/ Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas
124 unke nul autre amer/ Ne semblant a nul **mustrer**;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer qe soyez mon
1239 grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les **mutz**./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre
246 pur maladie./ E la damesele ne targa **mye**:/ De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné
188 avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st **mye**./ Li quens une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une
297 jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie **mye**/ Par quei vous en averez vilenye/ Ne de vostre corps
479 qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en **mynuyt**;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt tant
49 Atant qe son pere fina,/ Qi de soi **n'ad** autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son pere
841 qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ **N'ad** home a qui parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer
105 Plurent e crient de pité./ Suz cel **n'ad** home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez
1225 Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine **n'ad** liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa
644 Bien pres passa le costé./ Mes la char **n'ad** pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint coup

450	mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/	**N'ala** pas com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke
15	Amillyoun./ Li deus estoient de une	**nature**,/ Angeles resembleient de faiture./ Taunt s'amerent
30	de une estature,/ De une forme e de une	**nature**./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le portent a
1195	vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo	**n'avoi** jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame
854	seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant	**n'avom** a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus demorer
854	'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre	**ne** a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte
842	ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/	**Ne** a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly
90	il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/	**Ne** aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne
264	Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home	**ne** amereit./ Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit
1101	garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi	**ne** appareust trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe
270	se purpensoit/ Com celi qi talent	**ne** aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous Florie
591	Qi mult sunt orguillous e fiers./	**Ne** avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort
1121	Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre	**ne** averez./ De les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu velt
263	que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour	**ne** avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté
840	mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad	**ne** compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son
534	Les deuz furent issi d'un senblant/	**Ne** crerreit home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout
326	juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie;/	**Ne** croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la
299	mye/ Par quei vous en averez vilenye/	**Ne** de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage
1201	Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo	**ne** deusse en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre
1187	a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/	**Ne** deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt
325	parlerent e juwerent./ De autre chose	**ne** dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le
961	mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre	**ne** doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse
454	matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si	**ne** dormist nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe
650	fist moult bien,/ E sire Amillioun	**ne** dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit
1100	son grant mal est il garri,/ Qe en corps	**ne** en face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe
821	touz li guerpeient;/ Ne trova serjant	**ne** esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount
790	dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il	**ne** eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo
588	l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur	**ne** eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt
1021	il, 'vous l'averez!/ De vostre demaunde ja	**ne** faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le
19	freres se firent par serement;/ As autres	**ne** fesoient unke semblaunt/ De companie tant ne quant
452	pas com chivaler/ Mes ala com pelrin./	**Ne** fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si
863	feim morir deveray,/ De mei memes force	**ne** fray.'/ L'enfant a soi donque appelast,/ E pur Deu li
790	mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer	**ne** frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres
480	Trusser s'en vount en mynuyt;/ As autres	**ne** fuist pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le
765	E lour robes chaungerent;/ Donque	**ne** fuit aparcevant/ De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe
719	leprouz serrez./ Avant mes unke si laid	**ne** fust/ Home, com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien
847	La dame par tant defendi/ Qe nul	**ne** fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li
54	garder sa terre/ Qe nul li fist treson	**ne** gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast
377	Ma fille est par vous honye./ Mes vous	**ne** irrez ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,'
1154	ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/	**Ne** la savera plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre
188	De son benfait avoit envie,/ Mes Amys	**ne** l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come sa
604	A cel encountre tant firent bien/ Qe l'un	**ne** l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire
803	purquei le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [	**ne**] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir
943	suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il	**ne** lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient
364	destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/	**Ne** li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la
1158	Son seignur jamés ne verrait./ Mes	**ne** li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus
501	E le serment lealment juray/ Qe jeo unke	**ne** li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la
136	E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre	**ne** li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur promesse
1002	voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/	**Ne** li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out
1062	fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus	**ne** li poet fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses
742	Bien entendi en son corage/ Fere	**ne** li velt hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult
1003	eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il	**ne** li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt
476	Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke	**ne** lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son
232	comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre	**ne** manger./ Les damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly
814	voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre	**ne** manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist
452	Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir	**ne** matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule
700	talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo	**ne** me deveroy pas corucer.'/ Dount fut comaundé al baronage
1016	qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/	**Ne** me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites tost trencher
342	A touz jours avera reprover/ Si jeo	**ne** me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo
1077	sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe	**ne** menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit
1031	cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe	**ne** menti/ E qi en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire
297	serjant tant com jeo viveray./ Vers vous	**ne** mesprendroie mye/ Par quei vous en averez vilenye/ Ne de
168	Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon	**ne** meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme

445 dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute **ne** murrez mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'/ Atant congé
814 en son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ **Ne** od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a
713 Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul **ne** oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo
405 Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul **ne** oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne
1145 Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme **ne** out greignur./ Donqe se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas
194 fut gentile la damoysele,/ En une realme **ne** out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer la
1102 De maladi ne appareust trace./ En Amis **ne** out qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a mouster puis
537 deviser,/ Si par noun les oist nomer./ **Ne** par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la robe noun
537 Si par noun les oist nomer./ Ne par cors **ne** par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il
332 oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ **Ne** parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo
604 tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre **ne** perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret le
1028 Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, qi **ne** poet suffrir/ Qe son seignur deust morir./ En haut cria
904 cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke **ne** poient home trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne
93 Ne porra trover si mal noun;/ Car piz **ne** porra avenir/ Quant compaignoun velt autre trahir./ A tote
92 Car qui s'acompanie od feloun/ **Ne** porra trover si mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant
855 Quant n'avom a boivre ne a manger;/ **Ne** poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com
906 trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz **ne** pount plus entendre/ Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink
232 Si forment comensa a amer/ Q'ele **ne** pout boyvre ne manger./ Les damoyseles qe od li erent
553 Puis demaunda le botiler;/ E quant il **ne** pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la
1214 fu la dame durement lié./ Jamés de illoec **ne** pout issir;/ La demora desqe al morir./ Autre dames
85 vus ad quis a son poer,/ Mes encheson **ne** pout trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo
407 parler,/ E le counte li velt venger./ Quant **ne** pout trover plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la
888 A plus tost que nous pooms./ Mes jeo **ne** puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une
131 amisté/ En moy n'est si enploié/ Qe **ne** puisse nul autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si
418 La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere **ne** pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le chivaler
828 E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre **ne** pur morir./ La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est
1203 En ceo pais revener,/ Ne pur vivre **ne** pur morir./ Suvenez vous del bordel/ [K']a moy livrastes
418 parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ **Ne** pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le
828 fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ **Ne** pur vivre ne pur morir./ La dame, que mout est ennuyé
1203 en mon vivant/ En ceo pais revener,/ **Ne** pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del bordel/ [K']a
55 sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ **Ne** qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le
766 ne fuit aparcevant/ De lour estre tant **ne** quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en
20 unke semblaunt/ De companie tant **ne** quant./ Ceus de la court avoint envie/ De lour estre e de lour
1163 Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant **ne** quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour venue ne
849 ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ **Ne** que manger li donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne
1147 greignur./ Donqe se tint enfyn honie:/ **Ne** quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en
662 fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il **ne** sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire
1152 Moult luy poise qe ele est vive./ **Ne** saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre
1165 La meisnee fust endormie;/ De lour venue **ne** saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ En une chaumbre
355 La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, ' **ne** savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E
651 bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ **Ne** savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit meillour
925 Entre autres les deuz vount./ **Ne** sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort
71 En bone foy saunz treson./ De plur **ne** se poet tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla
417 Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame **ne** se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte
456 noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt **ne** se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant boys est
124 Ne volez unke nul autre amer/ **Ne** semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi
168 le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [**ne**] serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme prendre
277 m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ **Ne** serray en mon quer heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez
303 aparceu/ Qe de moy feissez vostre dru,/ **Ne** serrioms nous en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit
56 ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ **Ne** ses droitz amenusast./ Le counte fust de ceo marriz
100 de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ **Ne** soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car
1193 Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo **ne** soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo
236 demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ **Ne** sout dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se
412 sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, **ne** sout ke dire./ Plusors avcient de ly pité,/ Mes li sire fust
411 estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ **Ne** sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire
851 donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ **Ne** sout ou quere lour vivre avant./ Tantost counta a son
367 pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame **ne** sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus
278 jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo **ne** soye de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye
751 —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo **ne** suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir failli avez
246 E il remist pur maladie./ E la damesele **ne** targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad
516 jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson **ne** troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo vous dy en
821 Ses garsons touz li guerpeient;/ **Ne** trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner
218 disoient/ Qe unque si bel chevaler **ne** veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne

827 Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li **ne** velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que mout
41 Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun **ne** velt lesser:/ De son hostel ly fist justizer,/ Mestre
896 sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [**ne**] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont
441 Traihir me volez, m'est avys!/ Si vous **ne** venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur
1157 se muscereit;/ Son seignur jamés **ne** verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné
220 meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler **ne** vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire
750 getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ **Ne** vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous
3 leauté e de grant douçour —/ De troeffle **ne** voil jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ De deus
1081 voiz voil prover,/ Pur mes enfanz **ne** voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par lour saunk
813 en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ **Ne** voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz
812 li tint./ La dame li tint trop en despit:/ **Ne** voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne
963 tant ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir **ne** voleit./ Les deus hanaps tant resembleient/ Qe, si en une
543 La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame **ne** voleit parler,/ Desqes al matin al lever./ Chescune nuyt
725 lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ **Ne** voleit qe eus furent aparceu/ Coment son frere eust deceu
123 Qi a vous ert leal compaignon./ **Ne** volez unke nul autre amer/ Ne semblant a nul mustrer
83 Pur ceo est il le plus doté./ Unke **ne** vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes
1226 autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme **ne** vout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien
723 E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo **ne** vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe
60 conte fist com bon seygnur,/ Destourber **ne** vout son honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en
198 volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ **Ne** vout uncore aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E
961 Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe **ne** vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot
1042 sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu **nee**,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere
307 nostre talent/ Ne[l] savera home de mere **nee**.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount
637 lessir son chival morir./ Le seneschal, qe **nel** pout amer,/ Un grant coup li vint doner/ Amount el
307 si privément/ Touz deus a nostre talent/ **Ne[l]** savera home de mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore
682 eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal **n'en** a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz
206 touz fesoient sa volunté;/ De countredit **n'en** ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li quens une
400 fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul **n'en** ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz
106 n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité **n'en** eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi me
1122 tel autre ne averez./ De les enfaunz plus **n'enpensoms**;/ Si Deu velt, bien lé recoveroms.'/ Atant la
488 E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi **nepurqant**;/ De son estre saver voleit./ Si li retint, si li
27 Si de une robe vestu estoient,/ **N'est** home el mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre
966 Qe, si en une mayn estoient,/ **N'est** home qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre
108 n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ **N'est** home qi me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del
675 Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, **n'est** pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns
838 povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ **N'est** pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie
130 'Sire seneschal, vostre amisté/ En moy **n'est** si enploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent me
283 prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes **n'estes** pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un play
778 quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ **N'estoet** mes estre botiler./ Consailler fut fait e sire
1137 quant fust sané/ E de son grant mal **netté**,/ Sitost com porra prist congé,/ En son pais s'en est
261 E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il **n'eust** de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour
1094 doucement eux entreacolerent./ Le pere [**n'**]**eust** de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le
633 destrer;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il **n'eust** de son cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie
55 li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr **n'i** entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust de ceo
243 Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel **n'i** out nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur
674 En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes **n'iert** encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la
920 el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe **noble** court illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre
156 La gent qe de sa terre furent/ Od grant **nobley** li receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore poet il
204 Des dameseles del pais/ En sa chambre **noef** e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ De countredit n'en
455 beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les **noitz** issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe
1012 est avenu./ Quant Amyllioun li oist **nomer**,/ De dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy
536 l'autre sout deviser,/ Si par noun les oist **nomer**./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la robe
710 moster./ Quant Amillioun deust son noun **nomer**,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz que li
249 prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ **Nomer** vous dey la pucele:/ Son dreit noun est Mirabele
1156 Donqe comencea a purpenser/ Q'entre li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out **nonaynes** se muscereit;/ Son seignur jamés ne verrait./ Mes
824 mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur **norri**./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement
359 Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait **nostre** bien hounte nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe
358 Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ **nostre** botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous
885 cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray **Nostre** congé de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus
573 nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe **nostre** dreit.'/ Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien quideit
361 En bone foy saunz tresoun/ A **nostre** fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si
76 'Nous le froms si privément/ Touz deus a **nostre** seignur servy avom./ Pur vostre honur vus cri mercy
306 **nostre** talent/ Ne[l] savera home de mere nee.'/ Tant li ad dit

1086	al matin est il alé;/ Deu requist e son haut	**noun**/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust
538	ne par fasçon./ Par riens, si par la robe	**noun**./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa
92	od feloun/ Ne porra trover si mal	**noun**;/ Car piz ne porra avenir/ Quant compaignoun velt
1207	Celi averez tant com vus viverez;/ En	**noun** de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut
387	gaunt en son poing tint,/ E tendist en	**noun** de gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od li
882	Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit	**noun**./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame
250	Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit	**noun** est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent
750	dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son	**noun** —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre
13	bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par	**noun**,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li deus estoient de une
536	Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par	**noun** les oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si
713	que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li	**noun** —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di
710	de moster./ Quant Amillioun deust son	**noun** nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz
880	avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le	**noun** vous dirray de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant
648	ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque	**noune** fust passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E sire
12	de barons,/ Si vous dirroy bien lor	**nouns**:/ Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est appelé
360	Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray	**nous** ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li
509	A ma court od vous irrount./ E quant	**nous** averoms robes chaungé,/ Donqe quideront de verité/ Qe
303	de moy feissez vostre dru,/ Ne serrioms	**nous** en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous
349	leal chevaler le voil prover,/ E cil que de	**nous** est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore
305	'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ '	**Nous** le froms si privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[l]
887	Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que	**nous** pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par
1119	seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/	**Nous** porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu eussez
359	nostre botiler./ Pur nostre bien hounte	**nous** rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e
801	bone fey —/ Ta espee nue meistes entre	**nous**,/ Sire, purquei le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai
160	baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il	**n'out** dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E
415	ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la	**n'out** home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La
228	E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la court	**n'out** son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad
223	De sa beauté matire aveient./ Est venuz la	**novele**/ En la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant ert
715	sire Amillioun!/ Jeo vous di certeine	**novele**:/ Si vous esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii
476	lour seeles;/ Unke ne lour dist autre	**noveles**,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pout
369	Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus	**noyr** ke carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontra
1067	passa le temps issi,/ Qe li quens une	**noyt** dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop
541	Leez la dame se coucha;/ Sa espeie	**nue** entre eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame
801	Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee	**nue** meistes entre nous,/ Sire, purquei le feistes vous?'
588	Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus	**nul** amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt
123	ert leal compaignon./ Ne volez unke	**nul** autre amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en est
131	En moy n'est si enploié/ Qe ne puisse	**nul** autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si Amilliouns
152	li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe	**nul** autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun
136	abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur	**nul** autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur
364	Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert	**nul** de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse
593	acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./	**Nul** deigne a autre affier;/ Chescun se prent a ferir./ Amillioun
651	Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [	**nul**] del chaump juger/ Lequel fuit meillour chevaler
1227	liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/	**Nul** evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote
1162	sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe	**nul** fut aparcevant/ De lour venue tant ne quant./ La meisnee
54	congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe	**nul** li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses
124	volez unke nul autre amer/ Ne semblant a	**nul** mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer qe soyez
847	deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe	**nul** ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li
713	Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe	**nul** ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun
405	la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./	**Nul** ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant
243	Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out	**nul** remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur
840	ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/	**Nul** solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui
381	mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si	**nul** vous ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien
454	mangea e mains beust,/ Si ne dormist	**nule** nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt
159	Ore poet il mener grant baronage!/	**N'ust** od ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné
454	e mains beust,/ Si ne dormist nule	**nust**./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se
545	Desqes al matin al lever./ Chescune	**nuyt** issi se contint/ Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore
456	les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de	**nuyt** ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant boys
481	As autres ne fuist pas deduit./ En cele	**nuyt** tant errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire Amis
835	a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./	**O**, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu
1037	Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le	**occiez**, vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/ Tost
1003	Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt	**ocier**./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt allassé
91	od li compaignie,/ Car qui s'acompanie	**od** feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car piz ne porra
64	guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il	**od** force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly

322 le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront **od** grant delit:/ Par grant duçour s'entrebeiserent./ De amour
156 sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ **Od** grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore
141 vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray **od** graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal
527 enprent pur son frere!/ Amys remaint **od** la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur
492 diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un **od** l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de
671 la face/ Voler fist enmi la place./ Le braz **od** le brank trencha:/ Desque en la haunche le branc cola./ En
814 son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne **od** li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li
389 Com home de grant vasselage,/ E dit que **od** li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus tote la
90 Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez **od** li compaignie,/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne porra
233 boyvre ne manger./ Les damoyseles qe **od** li erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que
1143 estoit garri/ E q'il revint el pais/ E **od** li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne
826 out norri./ Fiz de un counte, son parent,/ **Od** li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur
813 voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi **od** lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele
61 ne vout son honur;/ Mes s'il eust **od** ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly
159 Ore poet il mener grant baronage!/ N'ust **od** ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit
242 quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ **Od** ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des
151 il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ **Od** sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous
1177 penserent./ Son maltalent lour pardona,/ **Od** sei les tint e les ama./ Donque fist sa femme demaunder
183 Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré **od** son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com
972 Son botiler ad appelé:/ 'Pernez ma coupe **od** tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est
669 En la cervele cola le brank./ E l'oraille **od** tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le braz od le brank
507 aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ **Od** vous desoremés demorront;/ A ma court od vous irrount./ E
508 vous desoremés demorront;/ A ma court **od** vous irrount./ E quant nous averoms robes chaungé
870 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil **od** vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant
330 vint tot a hounte:/ Acounté est tot lor **oevre** al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une
1166 lour venue ne saveint mie./ Quant la dame **oi** counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre
373 botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les **oils** sur ly forment roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,'
713 Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne **oist** fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo
1012 E coment est avenu./ Quant Amyllioun li **oist** nomer,/ De dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la
536 de l'autre sout deviser,/ Si par noun les **oist** nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la
1038 vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo **oist**,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, ses
456 nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe **onke** de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un
1077 de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe **onqe** ne menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes ore
1031 haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe **onqe** ne menti/ E qi en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires
220 ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe **onqe** si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient
581 si bien armé./ Puis li dist suef en son **oraille**/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a femme
120 dit il, 'bien veignant!/ De vous suy **ore** alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
524 est alé;/ Tut soul va saunz compainie./ **Ore** Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant
777 e demy,/ Si tost come li quens est fini./ **Ore** est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler
879 Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe **ore** est devencu./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent
771 vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ **Ore** est mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant
676 encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ **Ore** finist la bataille./ Les uns chaunterent, les autres
181 eux couplés/ De parage e de beautez./ **Ore** lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil
547 Desques Amyllioun a meson vynt./ **Ore** lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms parler
586 terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ **Ore** mes sourdra la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre
158 li receurent;/ Trestouz li firent homage./ **Ore** poet il mener grant baronage!/ N'ust od ly ja si privé
661 coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ **Ore** poet trop attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre
318 espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ **Ore** quideit bien estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot
1150 Q'en le mois deust estre esposé./ Mes **ore** se claime lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive
589 Qe entre eus nul amur ne eyent./ **Ore** s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers
1079 Doine qe voir soit mon sounge./ Mes **ore**, soit voir ou mensounge,/ La merveile voiz voil prover
309 home de mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ **Ore** sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la menere
279 Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes **ore** suy jeo bien honyc/ Quant vous me dedeignez avere amye
860 tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ **Ore** suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de
351 Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: ' **Ore** vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la
793 Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ **Ore** vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester
153 plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ **Ore** vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La
735 a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ **Ore** vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a coucher:/ La
97 Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez **orgoil** e envie,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien
590 Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt **orguillous** e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet
687 totevoie/ Semblant li fist tant com **osa**,/ Car son pere moult dota./ Le counte atant l'ad appelé
405 Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne **oseit** pur li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout
416 yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe **oseit** un mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur

62 s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees **ou** en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa
1092 s'est repairé./ En une chambre est entré/ **Ou** les deus enfanz dormerent;/ E doucement eux
1129 donqe ove la dame ala/ En la chambre **ou** les enfaunz lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot
1079 soit mon sounge./ Mes ore, soit voir **ou** mensounge,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur mes
851 L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout **ou** quere lour vivre avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il
1057 E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz **ou** sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly
483 errerent/ Qe parmy le boys passerent/ **Ou** sire Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost
919 troverent/ Desques eus vindrent el pais/ **Ou** sojorna le counte Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E
412 Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort **ou** vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li
601 Le seneschal li referri;/ Lour launces **ount** as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encountre
949 de l'enfant avoient pité:/ Al counte Amys **ount** counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son premer mes li
823 Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li **ount** deguerpi,/ Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un
110 jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus **ount** demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint
1125 la parole ount lessé/ E le service Deu **ount** escoté./ Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele
936 juaunt/ E les povres regardant,/ Veu **ount** l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil
1124 bien lé recoveroms.'/ Atant la parole **ount** lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint
521 sire Amist trestut le graunte./ Lour robes **ount** trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va
1131 enfantz furent estranglés./ E tot vifs les **ount** trovez!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray del solail
202 damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes **out** a grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En sa chambre
1221 jour sa liveré,/ Coment le counte **out** comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A drein morust pur
1227 Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr **out** de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre
1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li **out** e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe
1145 Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne **out** greignur./ Donqe se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il
786 le counte enmaladi./ E quant longtemps **out** langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés
824 li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il **out** norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint
243 Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i **out** nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur
1010 E la verité de li querreit/ Qe son hanap **out** perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist
194 gentile la damoysele,/ En une realme ne **out** plus bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer la
1102 maladi ne appareust trace./ En Amis ne **out** qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a mouster puis li
1109 Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il **out** sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
942 E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il **out** un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit
994 frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ **Outre** la table saut ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment
1212 De loinz le virent tote sa gent/ **Outre** tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de
602 launces ount as coups brusé/ E si sunt **outrepassé**./ A cel encountre tant firent bien/ Qe l'un ne
1128 est ele pur Amyllioun./ Amys donqe **ove** la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les
758 Quant il eust le congé pris,/ E seignurs **ove** ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad
807 Qe Amis estoit leal compaignon./ **Ove** sa feme tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si
255 en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ **Ove** une soule chambere/ Ala par congé de sa mere/ Parler a
900 vont;/ Jamés quident qe revendrount./ **Owein**, le leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant
1228 ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ **Owein** l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien
884 noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ ' **Oweyn**, a la dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors
850 Ne que manger li donast./ L'enfant, quant **o y** cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre avant./ Tantost
1068 Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz **o y** qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist
1140 pais s'en est alé./ Quant la dame aveit **o y**/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le
313 Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot **o y** un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son seignur le
1 Qi voet **o y r** chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/ De
712 nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ **Oyst** une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun
617 le braunke en terre aval/ Plus qe plein **pé** e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son
996 povre vint errant:/ Forment l'ad feru du **pé**./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del
727 frere eust deceu./ La damoisele fuit ben **paé**/ Quant ad baroun a volunté./ Le counte tynt feste plenere
579 le chivaler arma./ En son corage fust bien **paié**/ Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en
903 querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De **pain**, vin e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien
867 Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son **pais** alast./ L'enfant respoundi par grant douçur:/ 'Merci Deu
1142 son seignur estoit garri/ E q'il revint el **pais**/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque
203 out a grant pleinté/ Des dameseles del **pais**/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté
886 Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo **pais** irroms/ A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis
1199 Coment a manger me menastes/ E del **pais** m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo
896 E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le **pais** [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais
918 troverent/ Desques eus vindrent el **pais**/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble court illoeq
1202 Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo **pais** revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del
759 E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son **pais** s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust
1139 Sitost com porra prist congé,/ En son **pais** s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur
898 De l'hure qe issi serreit./ Hors del **pais** s'en vont;/ Jamés quident qe revendrount./ Owein, le

144 seneschal ataunt se tint,/ Qe d'anguisse
448 aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un
1106 dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se
113 remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de
799 Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez
738 a coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E
512 vous seiez lour seignur./ Si vous requer
207 De countredit n'en ad parlé./ Un jour
346 pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/
137 aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/
805 [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/.
889 Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui
256 ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala
537 deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne
605 ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint
656 Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit
537 par noun les oist nomer./ Ne par cors ne
868 yl en son pais alast./ L'enfant respoundi
323 dit,/ Il ensembleront od grant delit:/
272 vers son seignur./ Estez vous Florie
606 perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/
1191 Si feussez tele com deussez estre,/
1014 dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, '
503 quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir
538 Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si
916 li eysa,/ De long en long li enmena./
674 branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/
171 A femme prendre li consaillerent./
1083 lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si
444 vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il,
772 Ore est mout en astage,/ Car cru li est
1159 Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour
1084 saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est
13 dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys
536 Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si
298 Vers vous ne mesprendroie mye/
86 son poer,/ Mes encheson ne pout trover/
538 oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./
634 n'eust de son cheval envie./ Tant fist il
18 s'amerent fierement/ Que freres se firent
952 com mangea,/ Son premer mes li envoya/
1118 Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest,
846 viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La dame
665 E sire Amillioun atant/ Ferir li vint
46 De cel mester longtemps servirent/ E
781 Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut
209 aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/
1219 lour garderont./ Une garce la serveit/ Qe
376 fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est
180 pays./ Bien furent entre eux couplés/ De
10 de grant vassalage,/ Gentils e de grant
936 povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e
534 issi d'un senblant/ Ne crerreit home ja si
1176 crier touz penserent./ Son maltalent lour
825 q'il out norri./ Fiz de un counte, son
81 est feloun e desleal/ E si est de mult grant
744 De son compaignoun trahir./ Moult
308 savera home de mere nee.'/ Tant li ad dit e
206 sa volunté;/ De countredit n'en ad
258 sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant
332 al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne
73 Car moult li greve le departir./ Donqe
620 pout, quant son cheval li ment?/ Del cop

pale devint;/ Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost com son
palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas
palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire
palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com
par amour de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta
par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes
par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant
par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de
Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal
Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur promesse saunz seurté
Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal
par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
par congé de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e
par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis
par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir
par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son
par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se
par grant douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od
Par grant duçour s'entrebeiserent./ De amour parlerent e
par grant errour!/ Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay
Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le
Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo
par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me
par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus
par la robe noun./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez la dame se
Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent
Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille
Par lour consail se mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe
par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn
par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je
par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant terres
par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte
par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut
par noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li deus estoient de
par noun les oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par
Par quei vous en averez vilenye/ Ne de vostre corps hontage
Par quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo serray departi
Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se ajousta
par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival
par serement;/ As autres ne fesoient unke semblaunt/ De
Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun
par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu
par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast
par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot
par tot bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere
par tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly
Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun
par une fenestre luy porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment
par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va
parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir
parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy bien lor
parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home resemblereit
parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun les
pardona,/ Od sei les tint e les ama./ Donque fist sa femme
parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir
parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer
parfound getta un sospir,/ E el suspir geint forment./ La
parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la menere
parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt
parla e taunt demora/ Qe tot son corage descovery:/ E dit pur
parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo
parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En
parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses

257 chambere/ Ala par congé de sa mere/ **Parler** a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot
68 mercya./ Atant del counte departi,/ Si ala **parler** a son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En
543 ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit **parler**,/ Desqes al matin al lever./ Chescune nuyt issi se
405 a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li **parler**,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout trover
3 grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo **parler** —/ En pees se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals
548 de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms **parler**./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys
1239 pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, **parler** les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e
372 encontra le botiler./ A li soleit trop beal **parler**;/ Les oils sur ly forment roylla./ Amis moult se
841 solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui **parler**,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que
813 entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui **parler**,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut
416 n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot **parler** pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur
324 grant duçour s'entrebeiserent./ De amour **parlerent** e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne
597 seneschal/ D'un grant launce enpoignal/ **Parmi** l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe
482 pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe **parmy** le boys passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire
615 quir e fust/ Com si rasour trenché le eust./ **Parmy** l'espaudle del chival/ Cola le braunke en terre aval
1124 Deu velt, bien lé recoveroms.'/ Atant la **parole** ount lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la
494 est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun/ **Paroles** de mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait
485 Amillioun primes le veit;/ Tost est cele **part** torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent passerent
751 Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy **pas** celi qe vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous
283 E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes **pas** chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un play bien dur vus
450 Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala **pas** com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne
700 vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy **pas** corucer.'/ Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus
480 s'en vount en mynuyt;/ As autres ne fuist **pas** deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys
1158 seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert **pas** destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus countes sunt
1195 fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo **pas** forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame, sovenez
675 li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est **pas** mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns chaunterent
838 garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est **pas** merveile s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul
1147 Donqe se tint enfyn honie:/ Ne quideit **pas** q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois
326 De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy **pas** q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine
1152 luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele **pas** quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera
644 pres passa le costé./ Mes la char n'ad **pas** toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint coup li
648 bataille ad bien duré/ Desque noune fust **passé**./ Ly seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun ne
643 trenchent plus de cent./ Bien pres **passa** le costé./ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe
1066 Tant com il memes desiroit./ Quant **passa** le temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz
487 Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent **passerent** avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son estre
482 cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys **passerent**/ Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le
717 la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz **passez**,/ aprés de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si
1032 Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri **passioun**,/ C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens
1183 muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele **pauma** de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a
107 que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ **Paumez** sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi me vousist crere
408 venger./ Quant ne pout trover plevine,/ **Pausmé** chei la meischine./ En la place estoit Amis/ Com
398 ad taunz trové/ Ke le counte fut bien **payé**./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad
178 avoit le pris/ Sour touz les dames du **pays**./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e de beautez
166 E il memes si bel estoyt/ Qe tut le **pays** le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne
111 eus ount demené./ Li un s'en va ver son **pays**,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de
769 Congé ad pris, si s'en aloit/ En son **pays** vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en
497 le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur **pecché**/ Del serment serrez encombré./ Pur vous la bataille
1043 La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant **pecché** l'ad ensi encombré/ Qe son frere desconusseit/ Qe
1037 li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes **pecché**.'/ Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu a terre
62 Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en **pees** ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force
4 —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En **pees** se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray
1225 Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre **peine** n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr
597 grant launce enpoignal/ Parmi l'escu **peint** de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad
639 coup li vint doner/ Amount el heaulme **peint** de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le
808 Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son **pel** ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur
451 N'ala pas com chivaler/ Mes ala com **pelrin**./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains
1232 vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se **pena**./ Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement
350 que de nous est vencu/ Soit detret e puis **pendu**!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est
365 nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis **pendu**,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le
1168 chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre **pendue**/ Qe de son seignur estre veue./ Sire Amillioun fist
984 La coupe durment regarda;/ **Pensa** cil: 'Coment poet estre?/ Ces deus hanaps fist un
120 il, 'bien veignant!/ De vous suy ore alé **pensant**/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
1175 Touz devant li venerent;/ Merci crier touz **penserent**./ Son maltalent lour pardona,/ Od sei les tint e

740 qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu **pensifs**,/ Bien entendi en son corage/ Fere ne li velt
410 la place estoit Amis/ Com esgarré e com **pensifs**,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout
112 ver son pays,/ Li autres remeint tristes e **pensifs**./ Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court sei
747 l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi **pensoit**/ E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir
632 descendi de son destrer;/ Combatre voleit **per** a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa
228 tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son **per**./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté
960 li donait./ Amillioun mesmes avoit le **per**,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt
632 de son destrer;/ Combatre voleit per a **per**,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa
604 tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne **perdit** ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret le brank
174 Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere **perdu** avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté
1010 E la verité de li querreit/ Qe son hanap out **perdu**/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer
1120 Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun **perdu** eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les enfaunz plus
789 aprés morust la dame./ Quant mortz furent **pere** e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis
174 esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E **pere** e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu
1134 Del ray del solail s'enjoierent./ **Pere** e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces en rendirent
199 aver mary./ A grant cherté le tynt le **pere**,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien
48 furent./ Amillion demorra/ Atant qe son **pere** fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout
51 Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son **pere** fuy affyné,/ De son seignur le counte ad pris congé,/ Qe
286 Un play bien dur vus bateray:/ A mon **pere** le conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des
688 Semblant li fist tant com osa,/ Car son **pere** moult dota./ Le counte atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,' fait
1094 E doucement eux entreacolerent./ Le **pere** [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E
972 ad pres mangé,/ Son botiler ad appelé:/ ' **Pernez** ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au
623 trop bien porter,/ Mes son coup est trop **pesant**./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé
683 Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe **pesson** de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la
1074 le saunk bainast,/ Si sain devendreit com **pessoun**./ Quant veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge
704 L'endemain a terce sonant/ Touz i furent, **petit** e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans
1209 le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ **Petit** fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz le
753 De vostre espoir failli avez./ A vous le **peus** bien counter,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot lour estre
626 dolent est e corucé/ Quant combatre deit a **pié**;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se
635 Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a **pié** l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal
888 que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a **pié**;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe
628 q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a **pié** se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret
948 tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient **pité**:/ Al counte Amys ount counté./ Cil, sitost com mangea
1094 entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses fiz **pité**:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé
1046 touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de **pité**./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé
556 lié,/ E la pucele ensement./ Grant **pité** avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li
261 pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li **pité**/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit
413 ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly **pité**,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi
106 cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la **pité** n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi me
873 ad regarde,/ Mout est entre eux grant **pité**:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se claiment
428 fille fust destiné! '/ La dame lermist pur **pité**,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente la meschine
491 Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la **pité**./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir
861 suy tant demené/ Qe de ma vie est grant **pité**./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei memes force ne
566 effraé/ E de les dames eust grant **pité**./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu
104 se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de **pité**./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en
93 feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car **piz** ne porra avenir/ Quant compaignoun velt autre trahir./ A
409 Pausmé chei la meischine./ En la **place** estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout
670 l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la **place**./ Le braz od le brank trencha:/ Desque en la haunche le
681 premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust **plaie** li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe
285 chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un **play** bien dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li
352 E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste **play** m'est laid e vileins.'/ Atant en la chambre entrat,/ La
422 En hostage pur li serreit,/ En son **plegge** devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo
396 atant./ E donqe jugga le baronage/ Que **plegges** troverent en hostage./ Le seneschal ad taunz trové
557 Grant pité avoient la gent:/ Plurent e **pleignent** lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala
617 Cola le braunke en terre aval/ Plus qe **plein** pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant
876 draps,/ Sovent se claiment cheitif e las;/ **Plein[en]t** de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe
202 fuit bien gardé:/ Compaignes out a grant **pleinté**/ Des dameseles del pais/ En sa chambre noef e dis
729 ad baroun a volunté./ Le counte tynt feste **plenere**/ Une symaine tot entere;/ Mout i furent des robes
1118 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li **plest**, par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si
429 La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en **plevine**;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis se retret e
407 li velt venger./ Quant ne pout trover **plevine**,/ Pausmé chei la meischine./ En la place estoit
677 bataille./ Les uns chaunterent, les autres **plorerent**./ Les chevalers ja corerent,/ Mes le counte vient
71 En bone foy saunz treson./ De **plur** ne se poet tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe

1046 Qe touz biens li fesoit./ Trestouz **plurent** de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li
104 vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ **Plurent** e crient de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe
874 regarde,/ Mout est entre eux grant pité:/ **Plurent** e decirent lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e
557 ensement./ Grant pité avoient la gent:/ **Plurent** e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré
1154 Si se met hors de la terre,/ Ne la savera **plus** aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes
194 la damoysele,/ En une realme ne out **plus** bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer la volirent
168 le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ **Plus** bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent
642 le coup descent,/ Mailles trenchent **plus** de cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas
1048 plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé./ **Plus** de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé
855 a boivre ne a manger;/ Ne pouns icy **plus** demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes me
82 de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le **plus** doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son
906 Qe rien lour voille doner./ Einz ne pount **plus** entendre/ Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink souz e
683 li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ **Plus** est sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser
845 Amillioun com plus viveit,/ Tant **plus** leid deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si
186 com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal **plus** li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne
1062 de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ **Plus** ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De
1122 Jamés tel autre ne averez./ De les enfaunz **plus** n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien lé recoveroms.'/ Atant
369 Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint **plus** noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si
151 E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint **plus** privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir
564 Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant **plus** qe amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de
839 pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire **plus** qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui
617 del chival/ Cola le braunke en terre aval/ **Plus** qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout
914 Amillion fist dedeinz cocher,/ A **plus** q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la
254 quant le congé en eust,/ S'a hasté a **plus** que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de
767 De lour estre tant ne quant./ A **plus** tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son
627 e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A **plus** tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se
887 li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A **plus** tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez
844 a l'enfant que ly serveit./ Amillioun com **plus** viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La dame par tant
413 eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ **Plusors** aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la
1002 Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li **poeient** assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e
767 estre tant ne quant./ A plus tost qe Amys **poeit**,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers s'amye
84 ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son **poer**,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout
1118 le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son **poer**/ Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu eussez
1001 prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur **poer** qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt
720 si laid ne fust/ Home, com dire bien le **poet**.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son
316 son seignur le ala counter/ Sitost com il **poet** espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien
301 Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo **poet** estre aparceu/ Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne
984 durment regarda;/ Pensa cil: 'Coment **poet** estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se
1083 avera fait bone jorné/ Si par lour saunk **poet** estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé./ E al matin
1062 Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li **poet** fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses
1152 qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele **poet** fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider
158 Trestouz li firent homage./ Ore **poet** il mener grant baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il
842 N'ad home a qui parler,/ Ne a qui **poet** son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
1028 l'enfant avant saillist:/ Uwein, qi ne **poet** suffrir/ Qe son seignur deust morir./ En haut cria
71 En bone foy saunz treson./ De plur ne se **poet** tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla sire
661 enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore **poet** trop attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre
139 promesse saunz seurté./ Mes de taunt me **poez** crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od
904 De pain, vin e de blé./ Qe donke ne **poient** home trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne
564 chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure,/ **Poignant** plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment
386 atant se vint/ E son gaunt en son **poing** tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de grant
1151 ore se claime lasse cheitive;/ Moult luy **poise** qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si
887 de ceo pais irroms/ A plus tost que nous **pooms**./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par charité
93 Ne porra trover si mal noun;/ Car piz ne **porra** avenir/ Quant compaignoun velt autre trahir./ A tote
1119 Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous **porra** enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel
1138 E de son grant mal netté,/ Sitost com **porra** prist congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant la dame
92 Car qui s'acompanie od feloun/ Ne **porra** trover si mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant
336 Que tant amey e tant ting cher,/ En qi me **porrai** affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute
780 fut fait e sire;/ Quantq'il voleit **porreit** dire./ Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint grant
696 encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li **porriez** de quer amer?'/ E ele respount moult simplement
954 chevaler./ De chescun mes qe l'em li **porta**/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout
979 E celi fist le comaundement/ E vint e **porta** le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa
1161 Les deus countes sunt venuz/ E a la **porte** descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant
115 la court sei retorneyt;/ Sitost com en la **porte** entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur li

928 grant honur serreint receuz./ Pres [de] la **porte** se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult
1219 garce la serveit/ Qe par une fenestre luy **porteit**/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le counte out
32 Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le **portent** a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ Honur les
622 qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien **porter**,/ Mes son coup est trop pesant./ Le seneschal se leve
541 dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus **posa**./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit
855 Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne **poums** icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com
906 trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne **pount** plus entendre/ Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink
401 n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur **pour**,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la
1183 com vist son seignur./ Ele pauma de **pour**./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier
1181 Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de **pour** se fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma
83 Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous **pout** amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne
478 dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant **pout** amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As autres ne fuist
637 son chival morir./ Le seneschal, qe nel **pout** amer,/ Un grant coup li vint doner/ Amount el heaulme
232 Si forment comensa a amer/ Q'ele ne **pout** boyvre ne manger./ Les damoyseles qe od li erent
582 Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il **pout** deffendre la bataille,/ Sa fille a femme 1y dorreyt/ E de
411 esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il **pout** eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de
553 Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne **pout** estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la
86 encheson ne pout trover/ Par quoi il vus **pout** grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus serra
1214 la dame durement lié./ Jamés de illoec ne **pout** issir;/ La demora desqe al morir./ Autre dames ensample
1058 Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com **pout** l'ad conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama
914 Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus q'il **pout** li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la terre tant
267 escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele **pout** pur hounte descoverir/ Sa volunté e son desir./ De
619 pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe **pout**, quant son cheval li ment?/ Del cop parlent durement
627 combatre deit a pié;/ A plus tost q'il **pout** se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il
912 fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il **pout** sei meismes enchacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A
1013 Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur **pout** son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A
417 oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se **pout** tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte se
85 vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne **pout** trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo serray
407 E le counte li velt venger./ Quant ne **pout** trover plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la place
836 O, misires Amyllioun,/ Mis estes a **povre** garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas merveile
922 tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La **povre** gent tot enviroun/ Ala com a processioun./ Entre
995 achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel **povre** vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe
932 seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des **povres** les estres e les maneres/ E les custumes de les terres
980 E vint e porta le present./ Le **povres**, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son
974 tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au **povres** qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé
935 gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les **povres** regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il
118 semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer **poy** li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De vous
453 com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ **Poy** mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz
679 ja corerent,/ Mes le counte vient **premer**;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li demaunda
951 counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son **premer** mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis
756 lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il **prendra** congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E seignurs ove
170 Sa gent durement l'amerent;/ A femme **prendre** li consaillerent./ Par lour consail se mariat:/ Une
885 a la dame irrez,/ Nostre congé de li **prendrez**./ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que nous
300 Ne de vostre corps hontage./ Jeo **preng** Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de
594 Nul deigne a autre affier;/ Chescun se **prent** a ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant launce
1106 li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ **Pres** de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo
928 conuz,/ A grant honur serreint receuz./ **Pres** [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris
970 unke lesser le voleit./ Quant le counte ad **pres** mangé,/ Son botiler ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot
643 Mailles trenchent plus de cent./ Bien **pres** passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun
979 fist le comaundement/ E vint e porta le **present**./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe
96 trahir./ A tote gent bel responez,/ Grant **preu** e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous
281 amye!/ Tant gentils hommes m'ount **prié**,/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler
889 nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ **Priez** a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo
484 Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun **primes** le veit;/ Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad
657 li deit par dreit grever./ Mes le seneschal **primes** li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist:/ La healme
52 fuy affyné,/ De son seignur le counte ad **pris** congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson
554 quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit **pris** e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité
757 prendra congé,/ Quant il eust le congé **pris**,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé
216 beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult **prisé**./ Entre eux communement disoient/ Qe unque si bel
1224 pur dolur./ Sire Amillioun fut molt **prisé**/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout
768 A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad **pris**, si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama
177 fuit escheu del counté./ De beauté avoit le **pris**/ Sour touz les dames du pays./ Bien furent entre eux
1007 Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en sa **prison** li gettast./ Amillioun donque maundereit/ E la verité

429 fust destiné! '/ La dame lermist pur pité,/ **Prist** Amis en plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis
247 E la damesele ne targa mye:/ De sa dame **prist** congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la
1138 de son grant mal netté,/ Sitost com porra **prist** congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant la dame aveit
981 Le povres, qe mesel fuit en vein,/ **Prist** sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si
722 poet.'/ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la **prist** sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la
229 Q'en la court n'out son per./ La pucele en **prist** tendrour/ Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment
151 counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus **privé**/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir
159 mener grant baronage!/ N'ust od ly ja si **privé**/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa
305 hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si **privément**/ Touz deus a nostre talent/ Ne[l] savera home de
923 La povre gent tot enviroun/ Ala com a **processioun.**/ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus
138 Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur **promesse** saunz seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, si
348 le velt denier./ Com leal chevaler le voil **prover,**/ E cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu
1080 ou mensounge,/ La merveile voiz voil **prover,**/ Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait bone
390 E dit que od li combat[er]eit/ E la verité **provereit.**/ Est veus tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e
999 vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt **prés**:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient
229 chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La **pucele** en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si
555 La dame fuit pris e durement lié,/ E la **pucele** ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e
708 esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ La **pucele** fut amené/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust
249 ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la **pucele**:/ Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé
686 beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la **pucele** totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son pere
40 De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly **puet** affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel ly fist
888 A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne **puis** aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane
552 e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ **Puis** demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La
756 celer.'/ Tot lour estre luy ad counté,/ E **puis** dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E
763 eust fait la sposaille./ En une chambre **puis** entrerent/ E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit
1200 me menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ **Puis** feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon
1226 prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke **puis** femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein
1025 q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ **Puis** l'ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais
581 paié/ Quant ad le chivaler si bien armé./ **Puis** li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la
1104 Une bone robe li fist vener/ E a mouster **puis** li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se
350 E cil que de nous est vencu/ Soit detret e **puis** pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play
365 li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e **puis** pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire
446 ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je **puisse** aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy
525 Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il **puisse** bien fere!/ Grant chose enprent pur son frere!/ Amys
891 Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo **puisse** chivacher.'/ L'enfant a la dame ala,/ Son message li
342 A touz jours avera reprover/ Si jeo ne me **puisse** de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide
131 anisté/ En moy n'est si enploié/ Qe ne **puisse** nul autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si
1127 la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele **pur** Amyllioun./ Amys donqe ove la dame ala/ En la chambre
82 e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ **Pur** ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus
1148 honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ **Pur** ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé
792 ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ **Pur** ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe
1195 de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ **Pur** ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien
723 entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes **pur** ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne
1188 ester!/ Ne deussez tel doil demener/ **Pur** ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si
572 serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ **Pur** cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit.'/ Le
908 entendre/ Q'il covient lor asne vendre/ **Pur** cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille
865 fray.'/ L'enfant a soi donque appelast,/ E **pur** Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son
294 Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel, **pur** Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant
1223 Un an vesqui e un jour;/ A drein morust **pur** dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad
401 Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy **pur** doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist
4 ne voil jeo parler —/ En pees se tienge **pur** escoter!/ De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit
943 Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit **pur** estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost
1238 corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait **pur** eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot
1116 E mout graces li rendi,/ Donqe comence **pur** fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest
175 counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ **Pur** heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté
1205 vous del bordel/ [K']a moy livrastes **pur** hostel./ Celi averez tant com vus viverez;/ En noun de
267 Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout **pur** hounte descoverir/ Sa volunté e son desir./ De respoundre
1031 morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ **Pur** icel Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri passioun
260 Qe tot son corage descovery:/ E dit **pur** l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust
569 suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe **pur** les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes
405 ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit **pur** li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout trover
1089 La dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu **pur** li requist./ Atant le counte s'est repairé./ En une chambre
421 E le chivaler demaunda:/ En hostage **pur** li serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens

416	home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler	**pur** ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir
445	juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/	**Pur** ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse aver la vie
344	sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit	**pur** mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi qe fist le
245	Des chevalers for sire Amis,/ E il remist	**pur** maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame prist
1081	La merveile voiz voil prover,/	**Pur** mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si
810	Si malade e si laid devint/ Qe checun	**pur** mesel li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit
418	La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne	**pur** morir;/ Devant le counte se genula/ E le chivaler
828	dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne	**pur** morir./ La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est
1203	En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne	**pur** morir./ Suvenez vous del bordel/ [K']a moy livrastes pur
359	de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./	**Pur** nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous ad malement
136	est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/	**Pur** nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové
497	E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe	**pur** pecché/ Del serment serrez encombré./ Pur vous la
428	fille fust destiné! '/ La dame lermist	**pur** pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente la
1001	molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes	**pur** poer qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li
401	soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy	**pur** pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a
138	lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/	**Pur** promesse saunz seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe
1112	vous desconforteray./ Sachez, dame, que	**pur** sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a
946	sitost com il veu avoient/ Celi q'il clama	**pur** seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant
526	puisse bien fere!/ Grant chose enprent	**pur** son frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e
50	n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout	**pur** veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur le counte ad
418	pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne	**pur** vivere ne pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le
828	E dit que li ne velt guerpir/ Ne	**pur** vivre ne pur morir./ La dame, que mout est ennuyé
1203	en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne	**pur** vivre ne pur morir./ Suvenez vous del bordel/ [K']a moy
529	li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz	**pur** voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li
77	tresoun/ A nostre seignur servy avom./	**Pur** vostre honur vus cri mercy,/ De une chose soiez garny
691	'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys	**pur** vous ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad
443	jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/	**Pur** vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur
499	pecché/ Del serment serrez encombré./	**Pur** vous la bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo
667	le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot	**purfendant**./ En la cervele cola le brank./ E l'oraille od tote
431	fu dolente la meschine./ Amis se retret e	**purpensa**/ Com celi qe grant mester en a./ De son frere li
291	Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se	**purpensa**;/ Le un mal e l'autre mout dota./ Corteisement ly
711	Amillioun deust son noun nomer,/ Si se	**purpensa** moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe
145	se tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/	**Purpense** sei q'il se vengereit/ Sitost com son leu verreyt
1155	la savera plus aider./ Donqe comencea a	**purpenser**/ Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son seignur
269	Sa volunté e son desir./ De respoundre se	**purpensoit**/ Com celi qi talent ne aveit/ Q'il mesprist vers
234	manger./ Les damoyseles qe od li erent/	**Purquei** ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit
802	Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire,	**purquei** le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A
748	Si li demaunda quoi pensoit/ E	**purquei** tels suspirs getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne
167	le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust	**purtret**,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement
895	li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E	**pus** sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De
254	le congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele	**pust**:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de sa mere
366	garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la	**pute** arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal
338	Si est grant desert venu:/ Ma fille est	**pute** devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre
23	envie/ De lour estre e de lour compaynie,/	**Q'amerent** entre eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent
321	botiler;/ Tot lour estre fist espier./	**Qant** vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant
321	lour estre fist espier./ Qant vint le terme	**q'avoint** dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par grant
816	manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/	**Qe** a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant
436	countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/	**Qe** a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe
934	de les terres./ Les gentils homes,	**qe** alere[n]t juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant
564	vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus	**qe** amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les
660	apparist:/ La healme del coup enbarra,/	**Qe** Amillioun fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne
532	seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/	**Qe** Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent issi d'un
1069	une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/	**Qe** Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des]
791	Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame	**qe** Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de
806	confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/	**Qe** Amis estoit leal compaignon./ Ove sa feme tant demorra
767	De lour estre tant ne quant./ A plus tost	**qe** Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays
400	bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/	**Qe** Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour
794	recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/	**Qe** assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun
55	sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne	**qe** autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte
1225	pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/	**Qe** autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout aver
1230	bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/	**Qe** bien aveit deservy./ En bone vie longtemps vesqui;/ En
929	[de] la porte se sount mis,/ E l'enfant,	**qe** bien fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant
1088	son frere doine garisoun./ La dame vint,	**qe** bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le counte s'est

739 E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi
575 quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes
530 e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit
810 pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint trop en despit
993 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre
144 honur.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il se vengereit
610 coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si
513 lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo
861 d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De
599 de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces
302 tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye
848 par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant
155 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li
1169 se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur estre veue./ Sire Amillioun fist com leal
504 Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes
625 pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost
106 de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre
904 vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille doner
516 semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car
519 de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte
1151 claime lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met
890 ne puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'
267 l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte descoverir/ Sa volunté e son desir./ De
1100 senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust trace./ En
997 vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del deys
221 onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz
588 sourdra la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers
953 mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La
1001 Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier
702 Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i
725 Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La
237 dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur
925 Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A
822 guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre
917 long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent el pais
173 se mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur
346 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le
740 quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son corage/ Fere ne li velt
549 Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist
183 ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour
252 Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a
432 Amis se retret e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la
561 lour juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt virent vener un chevaler
866 donque appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant
517 iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe
897 Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés quident qe
384 Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en
1201 Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur
891 par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la dame ala,/ Son
502 Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del
501 fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo
275 e dist: 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne
654 chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li
415 de ly pité,/ Mes li sire fust tant yré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly
839 s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui
621 cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes son coup
785 Si fist tot son commaundement;/ Tant qe le counte enmaladi./ E quant longtemps out langui
611 tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant
666 Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En
667 vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la cervele cola le brank
402 doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit
954 Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit
1006 mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun donque

27	vestu estoient,/ N'est home el mound	qe les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent de
1060	conforté./ La dame sovent a ly est alé,/	Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne
53	De son seignur le counte ad pris congé,/	Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne
656	ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/	Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist
1068	Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy	qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist mettre
999	versé./ Les chevalers vindrent del deys,/	Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur
470	compaignoun/ D'un leon fust assailli,/	Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost
208	ad parlé./ Un jour par aventure avint/	Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La
1067	desiroit./ Quant passa le temps issi,/	Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe
28	N'est home el mound qe les avisast/	Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent de une estature,/ De
967	N'est home qe tant de l'overaigne seust/	Qe l'un de l'autre deviser deust./ [... ... ...]/ Qe unke lesser le
535	Ne crerreit home ja si parcevant/	Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun les oist nomer
604	A cel encountre tant firent bien/	Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par corucer
896	un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/	Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors
980	E vint e porta le present./ Le povres,	qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E
442	ne venez a tel jour,/ Vous savez bien	qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il
80	garny:/ Le counte ad seignz un seneschal/	Qe mout est feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté
438	aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala	qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me
131	vostre amisté/ En moy n'est si enploié/	Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si
961	donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/	Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en
637	lessir son chival morir./ Le seneschal,	qe nel pout amer,/ Un grant coup li vint doner/ Amount el
920	el pais/ Ou sojorna le counte Amys/	Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La
361	nous rend:/ Tray nous ad malement,/	Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné
152	mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/	Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun
1162	sunt venuz/ E a la porte descenduz,/	Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant ne quant./ La
54	pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/	Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne
847	leid deveneit./ La dame par tant defendi/	Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger
713	estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/	Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun
233	pout boyvre ne manger./ Les damoyseles	qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que
456	nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/	Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un
1077	E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, '	qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes ore
1031	En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu	qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires
220	ne veient;/ E li quens meme le dist/	Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale
879	la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/	Qe ore est devencu./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent
416	tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/	Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne
1219	lour garderont./ Une garce la serveit/	Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun jour sa liveré
482	pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/	Qe parmy le boys passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire
683	Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain	qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist
617	Cola le braunke en terre aval/ Plus	qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant
619	pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./	Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop parlent durement
569	suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/	Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit
497	E le serment avez fet,/ Jeo me doute	qe pur pecché/ Del serment serrez encombré./ Pur vous la
1102	ne appareust trace./ En Amis ne out	qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a mouster puis li
899	Hors del pais s'en vont;/ Jamés quident	qe revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va
905	de blé./ Qe donke ne poient home trover/	Qe rien lour voille doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il
1188	Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo	qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele
871	seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/	Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant l'un l'autre ad regarde
117	la porte entra,/ Li seneschal li encontra/	Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit
965	Les deus hanaps tant resembleient/	Qe, si en une mayn estoient,/ N'est home qe tant de
140	saunz seurté./ Mes de taunt me poez crere/	Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt
425	volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/	Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement averez saunz faille
582	armé./ Puis li dist suef en son oraille/	Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt
878	grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/	Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun
717	Si vous esposez la damoisele,/ Einz	qe soint .iii. anz passez,/ aprés de ceste leprouz serrez
658	Mes le seneschal primes li ferist,/	Qe son coup tres bien apparist:/ La healme del coup enbarra
1044	fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/	Qe son frere desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz
1010	maundereit/ E la verité de li querreit/	Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu./ Quant
48	bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant	qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun
51	heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/	Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur le counte ad pris
1029	avant saillist:/ Uwein, qi ne poet suffrir/	Qe son seignur deust morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur
1141	pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/	Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le
126	Mes quant s'en est departi,/ Requer	qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis
506	Qe vus quideit aver hony./ Mes chivalers	qe sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/ A ma court od

770 si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ **Qe** tant ama come sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li
1015 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, **qe** tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites
958 Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, **qe** tant amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes
966 Qe, si en une mayn estoient,/ N'est home **qe** tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
225 la chaumbre a la damoisele/ Del botiler **qe** tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant
974 vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres **qe** tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/ En son
796 ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ **Qe** tant estoit leal compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa
645 Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, **qe** tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille
478 Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere **qe** tant pout amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As autres
230 son per./ La pucele en prist tendrour/ **Qe** tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer
640 doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/ **Qe** tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup descent
259 que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ **Qe** tot son corage descovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust
808 compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ **Qe** tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe
1045 encombré/ Qe son frere desconusseit/ **Qe** touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est
205 del pais/ En sa chambre noef e dis,/ **Qe** touz fesoient sa volunté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un
313 Allas! Q'encusé serrount,/ **Qe** trestot oy un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son
166 a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ **Qe** tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus
969 l'un de l'autre deviser deust./ [... ... ...]/ **Qe** unke lesser le voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ Son
1145 od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ **Qe** unque femme ne out greignur./ Donqe se tint enfyn honie
218 prisé./ Entre eux communement disoient/ **Qe** unque si bel chevaler ne veient;/ E li quens meme le dist
563 arder./ Ataunt virent vener un chevaler/ **Qe** vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del
287 dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ **Qe** vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret
457 Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant **qe** vers une vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly
1196 e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ **Qe** vivre deusse bien du mien./ Dame, sovenez vous del bien
1078 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine **qe** voir soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou mensounge
427 Le juggement averez saunz faille,/ **Qe** vostre fille fust destiné! '/ La dame lermist pur pité,/ Prist
751 celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi **qe** vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous le peus
511 chaungé,/ Donqe quideront de verité/ **Qe** vous seiez lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma
1014 son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy **qe** vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
505 grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ **Qe** vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous
192 sa vie ameit./ Une fille avoit la dame/ **Q'ele** amoit come s'alme./ Mout fut gentile la damoysele
1180 Car de li se veut venger./ Tant fuit quise **q'ele** fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com vist
232 s'amour;/ Si forment comensa a amer/ **Q'ele** ne pout boyvre ne manger./ Les damoyseles qe od li
228 dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ **Q'en** la court n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe
7 vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ **Q'en** la court un counte estoient/ E des armes li servoient
1149 q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ **Q'en** le mois deust estre esposé./ Mes ore se claime lasse
963 ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ **Q'en** tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus hanaps
312 Coment e quant s'assemblerunt./ Allas! **Q'encusé** serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee
110 crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel **q'entre** eus ount demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li
1156 plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ **Q'entre** nonaynes se muscereit;/ Son seignur jamés ne
69 departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys, **q'estoit** son compaignoun,/ En bone foy saunz treson./ De
122 ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ **Qi** a vous ert leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer
212 Est veuz li mestre botiler,/ Amys, **qi** bien sout son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe
49 demorra/ Atant qe son pere fina,/ **Qi** de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe
1032 mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E **qi** en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun
44 fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ **Qi** fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps servirent
336 Que tant amey e tant ting cher,/ En **qi** me porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute
108 Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home **qi** me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre
590 ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ **Qi** mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera mester de acord
1028 Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, **qi** ne poet suffrir/ Qe son seignur deust morir./ En haut cria
270 De respoundre se purpensoit/ Com celi **qi** talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous
1 **Qi** voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant douçour
946 Mes sitost com il veu avoient/ Celi **q'il** clama pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de
190 mye./ Li quens une dame aveit/ **Q'il** come sa vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit
907 doner./ Einz ne pount plus entendre/ **Q'il** covient lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De
100 Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez **q'il** eit deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad
1147 se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas **q'il** fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust
227 ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E **q'il** fuit tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La
1023 espeie demaunda,/ E il memes dist **q'il** le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut
271 purpensoit/ Com celi qi talent ne aveit/ **Q'il** mesprist vers son seignur./ Estez vous Florie par grant
943 grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ **Q'il** ne lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient
1003 qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ **Q'il** ne li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses
633 son destrer;/ Combatre voleit per a per,/ **Q'il** n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie

160 grant baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ **Q'il** n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent amé
824 li ount deguerpi,/ Estre un enfant **q'il** out norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint
942 servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil dit **q'il** out un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperur./ Qy ceo
914 Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus **q'il** pout li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la terre
627 Quant combatre deit a pié;/ A plus tost **q'il** pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il
756 Tot lour estre luy ad counté,/ E puis dit **q'il** prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E seignurs
525 Ore Deus li soit en aye/ E doigne **q'il** puisse bien fere!/ Grant chose enprent pur son frere
1142 aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E **q'il** revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur
145 Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei **q'il** se vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le
565 Poignant plus qe amblure;/ Del feu **q'il** vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant pité
477 Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes dist **q'il** voleit visiter/ Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en
326 autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas **q'il** y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine
1042 vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist **q'onqe** fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son
766 ne fuit aparcevant/ De lour estre tant ne **quant**./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en
728 eust deceu./ La damoisele fuit ben paé/ **Quant** ad baroun a volunté./ Le counte tynt feste plenere/ Une
580 arma./ En son corage fust bien paié/ **Quant** ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son
710 La pucele fut amené/ A l'huis de moster./ **Quant** Amillioun deust son noun nomer,/ Si se purpensa
50 son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ **Quant** Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De
113 Li autres remeint tristes e pensifs./ **Quant** Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt
1012 hanap out perdu/ E coment est avenu./ **Quant** Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pout son quer
495 de mult grant resoun:/ 'Beau frere, **quant** avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur
1004 li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./ **Quant** batu li out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe
1134 ray del solail s'enjoierent./ Pere e mere, **quant** ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun
20 unke semblaunt/ De companie tant ne **quant**./ Ceus de la court avoint envie/ De lour estre e de lour
626 se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ **Quant** combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit
94 si mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ **Quant** compaignoun velt autre trahir./ A tote gent bel
1136 Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, **quant** fust sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost com porra
757 ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ **Quant** il eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis
553 fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E **quant** il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié
539 Par riens, si par la robe noun./ Amis, **quant** il se ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue
87 trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes **quant** jeo serray departi,/ Donke vus serra il fort enemy
1140 prist congé,/ En son pais s'en est alé./ **Quant** la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il
1166 De lour venue ne saveint mie./ **Quant** la dame oi counter,/ En une chaumbre se ala muscer
1163 nul fut aparcevant/ De lour venue tant ne **quant**./ La meisnee fust endormie;/ De lour venue ne saveint
265 avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, **quant** l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur
574 Jeo deffendray nostre dreit.'/ Le quens, **quant** le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De
253 De ceux qe furent de sa meisné./ Florie, **quant** le congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove
970 [... ... ...]/ Qe unke lesser le voleit./ **Quant** le counte ad pres mangé,/ Son botiler ad appelé
1038 chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ **Quant** le counte ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate
531 Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, **quant** li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz
786 Tant qe le counte enmaladi./ E **quant** longtemps out langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme
872 dolur/ Qe sanz vous estre emperour.'/ **Quant** l'un l'autre ad regarde,/ Mout est entre eux grant pité
492 retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ **Quant** l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun
789 s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ **Quant** mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For
854 a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ **Quant** n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus
407 pur li parler,/ E le counte li velt venger./ **Quant** ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la meischine
509 A ma court od vous irrount./ E **quant** nous averoms robes chaungé,/ Donqe quideront de
850 Ne que manger li donast./ L'enfant, **quant** oy cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre avant
1066 avoyt/ Tant com il memes desiroit./ **Quant** passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une
1043 desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ **Quant** pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere desconusseit
311 Dount devisent la menere/ Coment e **quant** s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot
125 amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes **quant** s'en est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami
619 Le seneschal a terre chay./ Qe pout, **quant** son cheval li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist
327 pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, **quant** sout la covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain
132 si enploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ **Quant** talent me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son
707 chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ **Quant** touz furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de
1075 Si sain devendreit com pessoun./ **Quant** veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu
154 meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ **Quant** vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od
280 vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye/ **Quant** vous me dedeignez avere amye!/ Tant gentils hommes
780 estre botiler./ Consailler fut fait e sire;/ **Quantq'il** voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la terre
349 Com leal chevaler le voil prover,/ E cil **que** de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens
382 leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For **que** dreit a verité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo
257 Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys **que** ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage

266 Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit **que** ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte descoverir/ Sa
262 de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E **que** ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés
254 quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus **que** ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de sa
18 de faiture./ Taunt s'amerent fierement/ **Que** freres se firent par serement;/ As autres ne fesoient unke
105 e crient de pité./ Suz cel n'ad home **que** la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz
344 Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide **que** l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par
636 par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ **Que** lessir son chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer
712 se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz **que** li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez
827 son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit **que** li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que
240 s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant **que** li quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa
843 poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant **que** ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant plus leid
682 S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist **que** mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li
235 ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit **que** malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
849 ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne **que** manger li donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne
829 Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, **que** mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le
558 e pleignent lour beauté./ Li quens, **que** mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura
887 Hors de ceo pais irroms/ A plus tost **que** nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par
389 Com home de grant vasselage,/ E dit **que** od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus tote la
396 atant./ E donqe jugga le baronage/ **Que** plegges troverent en hostage./ Le seneschal ad taunz
1112 Mes vous desconforteray./ Sachez, dame, **que** pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses
1005 li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ **Que** ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast
263 n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ **Que** si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis
335 mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ **Que** tant amey e tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est
298 Vers vous ne mesprendroie mye/ Par **quei** vous en averez vilenye/ Ne de vostre corps hontage
356 un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ **Quele** fille vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad
776 De .iii. countez e demy,/ Si tost come li **quens** est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre
331 Acounté est tot lor oevre al counte./ Li **quens** fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il
394 Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li **quens** [les] resceust atant./ E donqe jugga le baronage/ Que
219 Qe unque si bel chevaler ne veient;/ E li **quens** meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz
351 vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li **quens**: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'
574 Jeo deffendray nostre dreit.'/ Le **quens**, quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys
558 gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li **quens**, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si
1034 C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire **quens**, remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis
240 En cel langur demora/ Tant que li **quens** s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa
214 un drap vestu esteit,/ La coupe devant li **quens** teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit
189 Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li **quens** une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille
208 parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li **quens** une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit
1067 Quant passa le temps issi,/ Qe li **quens** une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe
423 En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li **quens**, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la
696 S'il vous velt esposer,/ Li porriez de **quer** amer?'/ E ele respount moult simplement:/ 'Tot soit a
1060 sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin **quer**/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere
1013 li oist nomer,/ De dolur pout son **quer** crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun
1144 el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el **quer** dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Donqe se tint
277 ma vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon **quer** heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy
134 e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son **quer** me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre
118 Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de **quer** poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De
901 Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va **querant**,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé
851 quant oy cel comaund,/ Ne sout ou **quere** lour vivre avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il
1009 donque maundereit/ E la verité de li **querreit**/ Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu
841 solas ad ne compaignie:/ N'ad home a **qui** parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant
842 N'ad home a qui parler,/ Ne a **qui** poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
91 felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car **qui** s'acompanie od feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car
344 Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo **quide** que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respound
505 Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus **quideit** aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous
318 espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore **quideit** bien estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour
532 li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien **quideit**./ Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerreit home
1147 greignur./ Donqe se tint enfyn honie:/ Ne **quideit** pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le
575 Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien **quideit** qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons
266 ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté,/ **Quideit** que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte descoverir
899 serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés **quident** qe revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde
510 nous averoms robes chaungé,/ Donqe **quideront** de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si vous
502 juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E **quiderount** qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé
529 od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E **quiderount** trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur

751 son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous **quidez**;/ De vostre espoir failli avez./ A vous le peus bien
739 acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en **quidoit** qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien
460 A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust **qu'il** deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a
137 Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] **qu'il** est chose esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de
912 lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ **Qu'il** pout sei meismes enchacer./ Amillion fist dedeinz
925 les deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, **qu'il** sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant honur
1096 ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad **quillé**/ E Amillioun dedeinz ad envolupé./ Sitost com le
613 chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha **quir** e fust/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaudle
84 Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad **quis** a son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il
1180 Car de li se veut venger./ Tant fuit **quise** q'ele fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com
1152 luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas **quoi** ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera
86 poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par **quoi** il vus pout grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke
747 dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda **quoi** pensoit/ E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir
367 E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout **quoy** dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke
401 doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ **Quoy** pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur
401 un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute **quoy** pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys
944 seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperur./ **Qy** ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost com il veu avoient
614 Trestut trencha quir e fust/ Com si **rasour** trenché le eust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le
1133 trovez!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ Del **ray** del solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent,/ A
462 un arbre se cocha,/ E son chival a une **raym** lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist
194 Mout fut gentile la damoysele,/ En une **realme** ne out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer
156 qe de sa terre furent/ Od grant nobley li **receurent**;/ Trestouz li firent homage./ Ore poet il mener
927 en la cort conuz,/ A grant honur serreint **receuz**./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien
792 la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres **recevoit**./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il
1123 plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien lé **recoveroms**.'/ Atant la parole ount lessé/ E le service Deu
438 enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se **redut**./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez, m'est
600 dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li **referri**;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si sunt
282 hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je **refusé**./ Certes n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner
983 vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment **regarda**;/ Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces deus hanaps
935 homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres **regardant**,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke
848 Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li **regardast**,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant oy cel
872 estre emperour.'/ Quant l'un l'autre ad **regarde**,/ Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e decirent
1102 ne appareust trace./ En Amis ne out qe **regeir**;/ Une bone robe li fist vener/ E a mouster puis li mena
154 dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa **regioun**,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li
1184 Ele pauma de pour./ Le seignur la fist **relever**,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez
527 Grant chose enprent pur son frere!/ Amys **remaint** od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount
112 Li un s'en va ver son pays,/ Li autres **remeint** tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun levoit
1034 mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens, **remembrez**, Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis./ Grant
243 ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul **remis**/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur maladie
245 remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il **remist** pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame
604 firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit **ren**./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser
359 botiler./ Pur nostre bien hounte nous **rend**:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e
1115 ses meins a Deu tendi/ E mout graces li **rendi**,/ Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz
1135 e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces en **rendirent**./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son grant
787 longtemps out langui,/ Morust e a Deu **rendist** s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ Quant mortz
662 poet trop attendre:/ S'il ne sache le coup **rendre**,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant
1090 Deu pur li requist./ Atant le counte s'est **repairé**./ En une chambre est entré/ Ou les deus enfanz
986 hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se **repeira**,/ Al counte de cel hanap counta/ Coment a soen
977 son esquiel le vin versez,/ E ma coupe me **reportez**!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e porta le
456 issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se **reposa**,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant boys est alé
483 parmy le boys passerent/ Ou sire Amis **reposeit**./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est cele part
341 traitre m'ad icy servy./ A touz jours avera **reprover**/ Si jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo voir
512 Qe vous seiez lour seignur./ Si vous **requer** par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en
126 nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ **Requer** qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'
1089 vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li **requist**./ Atant le counte s'est repairé./ En une chambre est
1086 matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu **requist** e son haut noun/ A son frere doine garisoun./ La
724 dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la **resceit** come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu
394 l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] **resceust** atant./ E donqe jugga le baronage/ Que plegges
576 Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors **resemblast** e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le
16 Li deus estoient de une nature,/ Angeles **resembleient** de faiture./ Taunt s'amerent fierement/ Que
964 guerpir ne voleit./ Les deus hanaps tant **resembleient**/ Qe, si en une mayn estoient,/ N'est home qe
988 de cel hanap counta/ Coment a soen **resembleit**./ E le counte moult esmerveileit,/ De Amillioun
938 E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home **resemblereit**./ Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il

25 sovent./ De cors de visage bien **resembleyent**:/ Si de une robe vestu estoient,/ N'est home
494 li dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant **resoun**:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le serment avez fet
1076 veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge **resperi**,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir
273 Estez vous Florie par grant errour!/ Ele li **respondi** e dist: 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo
95 velt autre trahir./ A tote gent bel **responez**,/ Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e
345 l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal **respound**,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier
197 E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz **respoundi**/ Ne vout uncore aver mary./ A grant cherté le tynt
868 lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant **respoundi** par grant douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur
269 descoverir/ Sa volunté e son desir./ De **respoundre** se purpensoit/ Com celi qi talent ne aveit/ Q'il
128 Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis **respount** aitant:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/ En moy
697 esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele **respount** moult simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!/ Si
293 mal e l'autre mout dota./ Corteisement ly **respundi**:/ 'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e
490 De son estre saver voleit./ Si li **retint**, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od
290 serray de vous vengé!'/ Atant s'est Florie **retorné**./ Amis mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout
114 de palmisoun levoit,/ Vers la court sei **retorneyt**;/ Sitost com en la porte entra,/ Li seneschal li
431 Moult fu dolente la meschine./ Amis se **retret** e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son
630 Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo **retret** tost arere./ Tost descendi de son destrer;/ Combatre
899 del pais s'en vont;/ Jamés quident qe **revendrount**./ Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va
1202 jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais **revener**,/ Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del
1188 tel doil demener/ Pur ceo qe sain suy **revenu**./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com
1142 oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il **revint** el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur
377 est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja **riant**;/ La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys
848 tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de **rien** li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant
905 blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe **rien** lour voille doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il
650 moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de **rien**./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit meillour
538 nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par **riens**, si par la robe noun./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez la
1103 En Amis ne out qe regeir;/ Une bone **robe** li fist vener/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost
538 cors ne par fasçon./ Par riens, si par la **robe** noun./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez la dame se
26 de visage bien resembleyent:/ Si de une **robe** vestu estoient,/ N'est home el mound qe les avisast/ Qe
164 trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E **robes** a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays
509 od vous irrount./ E quant nous averoms **robes** chaungé,/ Donqe quideront de verité/ Qe vous seiez
764 En une chambre puis entrerent/ E lour **robes** chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/ De lour estre
731 symaine tot entere;/ Mout i furent des **robes** donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le counte
521 E sire Amist trestut le graunte./ Lour **robes** ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut
911 Estre ceo lour fount fere/ Sur deus **roes** une cyvere/ Qu'il pout sei meismes enchacer./ Amillion
570 Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine **roste** serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes dames
1191 tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le **roy** celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de
373 trop beal parler;/ Les oils sur ly forment **roylla**./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous
222 vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De **sa** beauté matire aveient./ Est venuz la novele/ En la
798 compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ **Sa** bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car
1051 levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En **sa** chambre li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son
204 grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En **sa** chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volunté;/ De
242 ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote **sa** chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers for
634 de son cheval envie./ Tant fist il par **sa** cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival
981 Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist **sa** coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla
247 maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De **sa** dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous
541 il se ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ **Sa** espeie nue entre eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla
89 vus serra il fort enemy./ Gardez vus de **sa** felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie
807 Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove **sa** feme tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e
1178 Od sei les tint e les ama./ Donque fist **sa** femme demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit quise
783 tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ **Sa** femme ly aime tendrement,/ Si fist tot son
466 Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez **sa** femme se cocheit;/ Si s'avint en avisioun/ Ke sir Amys
583 Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ **Sa** fille a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est
1109 ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out **sa** garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
1071 S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de **sa** gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk
161 dis chivalers de maisné./ Tant fuit de **sa** gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners
169 purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ **Sa** gent durement l'amerent;/ A femme prendre li
1171 veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ **Sa** gent fist tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz
1211 fut fort durement;/ De loinz le virent tote **sa** gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés
487 part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E **sa** gent passerent avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son
64 a ly hastivement,/ E il od force de **sa** gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya
254 meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ **S'a** hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala
1220 par une fenestre luy porteit/ Chescun jour **sa** liveré,/ Coment le counte out comaundé./ Un an vesqui e un

252 Florie fust apelé/ De ceux qe furent de **s a** meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus
152 Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de **s a** meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa
256 une soule chambere/ Ala par congé de **s a** mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora
1233 vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Aprés **s a** mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se
1041 mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, **s a** mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché
724 ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come **s a** mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment son frere
1227 puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de **s a** mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li
1007 Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en **s a** prison li gettast./ Amillioun donque maundereit/ E la verité
154 vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a **s a** regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li
1112 desconforteray./ Sachez, dame, que pur li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust **s a** saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu
1061 **s a** soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele
155 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de **s a** terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent
584 Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote **s a** terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la
1229 Owein l'enfant bien feffa:/ De tote **s a** terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
53 ad pris congé,/ Qe li covient garder **s a** terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i
190 mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come **s a** vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come
1041 Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ **S a** vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee
770 son pays vers s'amye/ Qe tant ama come **s a** vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par mariage
205 sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient **s a** volunté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un jour par aventure
268 devee/ Qe ele pout pur hounte descoverir/ **S a** volunté e son desir./ De respoundre se purpensoit/ Com
662 estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne **sache** le coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire
1112 vus dirray,/ Mes vous desconforteray./ **Sachez**, dame, que pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'
91 Ne aiez od li compaignie,/ Car qui **s'acompanie** od feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car
1152 Moult luy poise qe ele est vive./ Ne **saet** ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne
991 De Amillioun donqe li sovent:/ 'Bien **sai'**, fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher
472 Del sounge fut moult effraé/ E tost sus **sailli** com home desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses
370 Devint plus noyr ke carboun./ Tost **sailli** hors de la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li soleit
1027 le col tendist./ Mais l'enfant avant **saillist**:/ Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe son seignur deust
1074 E Amillioun en le saunk bainast,/ Si **sain** devendreit com pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E
981 fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son **sain**,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment
683 Cil dist que mal n'en a:/ Plus est **sain** qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz
1188 Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe **sain** suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele
221 si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la **sale** estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la
787 out langui,/ Morust e a Deu rendist **s'alme**;/ E tost aprés morust la dame./ Quant mortz furent
192 Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come **s'alme**./ Mout fut gentile la damoysele,/ En une realme ne
17 Angeles resembleient de faiture./ Taunt **s'amerent** fierement/ Que freres se firent par serement;/ As
230 en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté **s'amour**;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre
769 ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers **s'amye**/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en astage
1136 en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust **sané**/ E de son grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé
1096 pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le **sanc** de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé
871 Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe **sanz** vous estre emperour.'/ Quant l'un l'autre ad regarde
311 devisent la menere/ Coment e quant **s'assemblerunt**./ Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy
1083 bone jorné/ Si par lour saunk poet estre **sauné**.'/ Un jour s'est par matyn levé./ E al matin est il alé
1098 dedeinz ad envolupé./ Sitost com le **saunc** senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en
1073 Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le **saunk** bainast,/ Si sain devendreit com pessoun./ Quant veu
1083 Mout avera fait bone jorné/ Si par lour **saunk** poet estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé./ E al
1112 desconforteray./ Sachez, dame, que pur sa **saunté**/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu
523 E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va **saunz** compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il
449 E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e **saunz** esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala com pelrin
426 defaut a la bataille,/ Le juggement averez **saunz** faille,/ Qe vostre fille fust destiné! '/ La dame lermist
449 congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ **Saunz** garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes
138 qu'il est chose esprové/ Pur promesse **saunz** seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de
70 q'estoit son compaignoun,/ En bone foy **saunz** treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le
75 'Amis, beau compaignoun,/ En bone foy **saunz** tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur vostre
994 Qe cher serra achaté!'/ Outre la table **saut** ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé
142 affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ **Sauve** chescuny honur.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe
1165 meisnee fust endormie;/ De lour venue ne **saveint** mie./ Quant la dame oi counter,/ En une chaumbre se
489 E [i]l entendi nepurqant;/ De son estre **saver** voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité
307 Touz deus a nostre talent/ Ne[l] **savera** home de mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a
1154 fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la **savera** plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre
442 avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous **savez** bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'
355 dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne **savez**/ Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E
467 giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si **s'avint** en avisioun/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un

651 E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne **savoit** [nul] del chaump juger/ Lequel fuit meillour chevaler
805 mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo **savoit** sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove
925 Entre autres les deuz vount./ Ne **sciet**, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort
539 riens, si par la robe noun./ Amis, quant il **se** ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus
1167 la dame oi counter,/ En une chaumbre **se** ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur
1235 ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult **se** amercnt fierement,/ E bone fut la compaignie./ Lor corps
1150 Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore **se** claime lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne
875 Plurent e decirent lour draps,/ Sovent **se** claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le
461 li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre **se** cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu
466 en son lit giseit,/ Deleez sa femme **se** cocheit;/ Si s'avint en avisioun/ Ke sir Amys son
545 al matin al lever./ Chescune nuyt issi **se** contint/ Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de
24 entre eus tant fierement,/ E de ceo **se** coroucent sovent./ De cors de visage bien resembleyent
540 Amis, quant il se ajousta,/ Leez la dame **se** coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de ceo
18 Taunt s'amerent fierement/ Que freres **se** firent par serement;/ As autres ne fesoient unke semblaunt
551 Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal **se** fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout
680 Mes le counte vient premer;/ Atant **se** fist desarmer./ S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal
1181 fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour **se** fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma de
419 vivere ne pur morir;/ Devant le counte **se** genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit
624 son coup est trop pesant./ Le seneschal **se** leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a
171 prendre li consaillerent./ Par lour consail **se** mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un counte
374 oils sur ly forment roylla./ Amis moult **se** merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est
1153 Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si **se** met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe
628 q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié **se** mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost
1156 comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes **se** muscereit;/ Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas
1106 dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie **se** palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire
1232 bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz **se** pena./ Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement
71 En bone foy saunz treson./ De plur ne **se** poet tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla sire
417 Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne **se** pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte se
594 mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun **se** prent a ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant
291 Atant s'est Florie retorné./ Amis mout **se** purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota./ Corteisement ly
711 Amillioun deust son noun nomer,/ Si **se** purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe
269 Sa volunté e son desir./ De respoundre **se** purpensoit/ Com celi qi talent ne aveit/ Q'il mesprist vers
438 Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult **se** redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me volez, m'est
986 hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost **se** repeira,/ Al counte de cel hanap counta/ Coment a soen
456 noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne **se** reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant boys est alé
431 Moult fu dolente la meschine./ Amis **se** retret e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son
928 honur serreint receuz./ Pres [de] la porte **se** sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son
103 Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant **se** sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad
237 cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus **se** teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur
4 De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees **se** tienge pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom
1146 Qe unque femme ne out greignur./ Donqe **se** tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo
143 chescuny honur.'/ Li seneschal ataunt **se** tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il se
627 combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout **se** vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il aparceut
145 d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il **se** vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le
1179 fist sa femme demaunder,/ Car de li **se** veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se
385 qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant **se** vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de
475 e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour **seeles**;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit
151 il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od **sei** le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous
1177 Son maltalent lour pardona,/ Od **sei** les tint e les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car
912 fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout **sei** meismes enchacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus
145 Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense **sei** q'il se vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa
114 Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court **sei** retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li seneschal li
511 Donqe quideront de verité/ Qe vous **seiez** lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma femme
1052 sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e **seigner**,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot a
930 qe bien fust apris/ E moult ama son **seignur**,/ Ala demaundant tut entour/ Des povres les estres e
774 e grant honur:/ De grant terres est il **seignur**,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est
1029 Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe son **seignur** deust morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel
852 lour vivre avant./ Tantost counta a son **seignur**,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre
530 trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit **seignur**./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit
831 ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le **seignur** e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de
1182 pour se fuist muscé./ Sitost com vist son **seignur**./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel
271 qi talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son **seignur**./ Estez vous Florie par grant errour!/ Ele li respondi
1141 est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son **seignur** estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte

1169 Meuz velt estre pendue/ Qe de son **seignur** estre veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa
402 quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le **seignur**/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust
1157 Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son **seignur** jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un
1184 vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le **seignur** la fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,'
315 De la meisnee le seneschal./ A son **seignur** le ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le
52 pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son **seignur** le counte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre
869 par grant douçur:/ 'Merci Deu, mon **seignur**,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre
99 gardez de glotonie!/ Amez bien vostre **seignur**,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e
837 estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire e **seignur**;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire
442 venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon **seignur**/ Pur vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma
942 getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un **seignur**/ Q'il ne lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li
76 En bone foy saunz tresoun/ A nostre **seignur** servy avom./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ De
1107 vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al **seignur**, si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun
511 quideront de verité/ Qe vous seiez lour **seignur**./ Si vous requer par amur/ Qe de ma femme facez
946 com il veu avoient/ Celi q'il clama pur **seignur**,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient
773 astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant **seignurie** e grant honur:/ De grant terres est il seignur,/ De
877 de grant chivalrie/ Le honur e la **seignurie**/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu
1217 dames ensample averont/ Coment iour **seignurs** lour garderont./ Une garce la serveit/ Qe par une
758 congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E **seignurs** ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A
79 De une chose soiez garny:/ Le counte ad **seignz** un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de
856 Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz **seinte** Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo solei
1117 pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz **seinte** Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz
895 Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les **seintz** jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi
124 Ne volez unke nul autre amer/ Ne **semblant** a nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer
514 Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en **semblant**,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson
687 li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ **Semblant** li fist tant com osa,/ Car son pere moult dota./ Le
19 par serement;/ As autres ne fesoient unke **semblaunt**/ De companie tant ne quant./ Ceus de la court
117 porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe **semlaunt** d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re]
240 En cel langur demora/ Tant que li quens **s'en** ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A
768 tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si **s'en** aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie
759 seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais **s'en** est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la
1139 com porra prist congé,/ En son pais **s'en** est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit
522 robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun **s'en** est alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit
125 Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant **s'en** est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon
663 S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre **s'en** irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel
111 Del doel q'entre eus ount demené./ Li un **s'en** va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs
898 De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais **s'en** vont;/ Jamés quident qe revendrount./ Owein, le leal
479 Son frere qe tant pout amer./ Trusser **s'en** vount en mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele
589 Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore **s'en** vount les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne
533 fuit bien quideit./ Les deuz furent issi d'un **senblant**/ Ne crerreit home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre
314 Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee le **seneschal**./ A son seignur le ala counter/ Sitost com il poet
618 en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le **seneschal** a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment
397 Que plegges troverent en hostage./ Le **seneschal** ad taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant
385 deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le **seneschal** atant se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E
143 douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li **seneschal** ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale devint
399 Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li **seneschal** doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur
595 se prent a ferir./ Amillioun fiert le **seneschal**/ D'un grant launce enpoignal/ Parmi l'escu peint
550 Le jour vint qe fuist assis/ Entre le **seneschal** e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis
607 corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le **seneschal** ferir ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes le
649 bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly **seneschal** fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien
317 counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le **seneschal** fut molt lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De
343 me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire **seneschal**?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le
116 Sitost com en la porte entra,/ Li **seneschal** li encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes
600 fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le **seneschal** li referri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si
186 Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le **seneschal** plus li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes
657 doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le **seneschal** primes li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist
79 soiez garny:/ Le counte ad seignz un **seneschal**/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de mult
637 ferir/ Que lessir son chival morir./ Le **seneschal**, qe nel pout amer,/ Un grant coup li vint doner
327 Ne croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le **seneschal**, quant sout la covine/ Entre Amis e la meschine
345 quide que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le **seneschal** respound,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt
551 assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le **seneschal** se fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant
624 Mes son coup est trop pesant./ Le **seneschal** se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant
129 voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire **seneschal**, vostre amisté/ En moy n'est si enploié/ Qe ne

641 de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le **senestre** le coup descent,/ Mailles trenchent plus de cent
1133 lit s'entrebeyserent,/ Del ray del solail **s'enjoierent.**/ Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces
542 nue entre eus posa./ La dame de ceo **s'enmerveilla.**/ A la dame ne voleit parler,/ Desqes al
1098 dedeinz ad envolupé./ Sitost com le saunc **senti**,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face
323 od grant delit:/ Par grant duçour **s'entrebeiserent.**/ De amour parlerent e juwerent./ De autre
1132 E tot vifs les ount trovez!/ En lor lit **s'entrebeyserent**,/ Del ray del solail s'enjoierent./ Pere e
238 qe eus se teysent/ E d'autre chose **s'enveysent.**/ En cel langur demora/ Tant que li quens s'en
1057 memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou **sept**;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly est
18 fierement/ Que freres se firent par **serement**;/ As autres ne fesoient unke semblaunt/ De
560 hastaunt lour juggement,/ E si jura grant **serement**/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt virent vener
706 Les barons e les chevalers,/ Borgés, **sergeans** e esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ La pucele
821 Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova **serjant** ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li
1200 m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon **serjant**/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais revener
831 s'est hors getté;/ E le seignur e le **serjant**,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile a un
296 Vostre amy suy e serray,/ E vostre **serjant** tant com jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie
1173 tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ **Serjanz**, vadlet e esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci
496 'Beau frere, quant avez forfait/ E le **serment** avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment
500 encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le **serment** lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
498 avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del **serment** serrez encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le
1240 ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le **sermoun**/ De sire Amis e de syre Amillioun./
993 De mon frere l'ad emblé./ Qe cher le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] **serra** achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre vint
168 Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus **serra** fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme prendre li
88 E serrés des chivals destret./ Donques **serra** il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li
289 quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo **serray** de vous vengé!'/ Atant s'est Florie retorné./ Amis
87 pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e **serray** departi,/ Donke vus serra il fort enemy./ Gardez vus de
295 m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne **serray**,/ E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
277 fuissent en la cort conuz,/ A grant honur **serray** en mon quer heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez
927 les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste **serreint** receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant
570 le chivaler demaunda:/ En hostage pur li **serreit**!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes dames
421 en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi **serreit**,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens
897 .iii. anz passez,/ aprés de ceste leprouz **serreit**./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés quident qe
718 Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment **serrez**./ Avant mes unke si laid ne fust/ Home, com dire bien
498 Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne **serrez** encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le serment
303 espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun **serrioms** nous en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit
504 e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé **serrom** vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe
312 conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E **serrount**,/ Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee le
288 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous **serrés** des chivals destret./ Donques serray de vous vengé!'
568 dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly **sert** tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine
843 seignurs lour garderont./ Une garce la **serveit**./ Amillioun com plus viveit,/ Tant plus leid deveneit
1218 de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li **serveit**/ Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun jour sa
185 vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre **serveyt**,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit
859 Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li **servi** d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est
184 le temps aler,/ Ala e fist son mester;/ **servi** de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le
149 Atant la parole ount lessé/ E le **Servi** le counte com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt
1125 de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout **service** Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun
940 e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ **servir**./ E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur
1054 e coragous./ De cel mester longtemps **Servir** le fist tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E
45 la court un counte estoient/ E des armes li **servirent**/ E par tot bien loé furent./ Amillion demorra
8 jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy **servoient**./ Moult furent de grant vassalage,/ Gentils e de
340 bone foy saunz tresoun/ A nostre seignur **servy**./ A touz jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li
76 Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ **servy** avom./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ De une chose
622 Tot ensi com ert de tay levé./ Entre **Ses** armes sout trop bien porter,/ Mes son coup est trop
1050 sus sailli com home desvee./ Tost appela **ses** braz li ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li
473 soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./ **ses** chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist
819 estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, **Ses** chevalers touz departoient,/ Ses garsons touz li
1040 ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne **ses** cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure
56 Treis anz demena tele vie;/ De **ses** droitz amenusast./ Le counte fust de ceo marriz,/ Congé li
1064 doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a **ses** eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant
164 furent feffez./ Le counte dona a **ses** esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le
733 appela ses chevalers,/ Ses garsouns e **ses** esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien
474 eux entreacolerent./ Le pere [n']eust de **ses** esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour
1094 han./ Ses chevalers touz departoient,/ **ses** fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad
820 **Ses** garsons touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier

474 desvee./ Tost appela ses chevalers,/ **Ses** garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles
1040 oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate **ses** mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La
1005 velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que **ses** mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E
1114 Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame **ses** meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe
982 hors de son sain,/ E l'autre la vist, si **s'esmerveilla**./ La coupe durment regarda;/ Pensa cil
290 Donques serray de vous vengé!'/ Atant **s'est** Florie retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le un mal e
830 La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus **s'est** hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e
1084 par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour **s'est** par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son
1090 Deu pur li requist./ Atant le counte **s'est** repairé./ En une chambre est entré/ Ou les deus enfanz
1047 li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis **s'est** tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com
138 est chose esprové/ Pur promesse saunz **seurté**./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy
966 N'est home qe tant de l'overaigne **seust**/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [... ... ...]/ Qe unke
31 e de une nature./ Leals furent envers lor **seygnur**,/ Bien le portent a honour;/ Si les amast mult
59 mes enviz;/ Mes le conte fist com bon **seygnur**,/ Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il eust od ly
183 vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son **seygnur**/ E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis
68 ly mercya./ Atant del counte departi,/ **Si** ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun
133 amer/ Quant talent me doint e voler./ **Si** Amilliouns soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly
1120 par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ **Si** Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les
363 e affolé./ Deu li doint male destiné!/ **Si** avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut
218 eux communement disoient/ Qe unque **si** bel chevaler ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si
220 veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe **si** bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa
165 E robes a ses esquiers./ E il memes **si** bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust
580 fust bien paié/ Quant ad le chivaler **si** bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout
1108 palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ **Si** ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa garisoun
301 Jeo preng Deu en tesmoignage:/ **Si** ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne
630 mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ **Si** ceo retret tost arere./ Tost descendi de son destrer
334 une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ **Si** ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher
612 l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ **Si** chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com
37 Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova **si** com il voleint;/ Hautement lour feste teneint./ De Amys
263 de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que **si** de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis
26 De cors de visage bien resembleyent:/ **Si** de une robe vestu estoient,/ N'est home el mound qe les
167 si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ **Si** Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet
1123 De les enfaunz plus n'enpensoms;/ **Si** Deu velt, bien lé recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé
1061 alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme **si** ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz
965 Les deus hanaps tant resembleient/ Qe, **si** en une mayn estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne
371 carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ **Si** encontra le botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oils
130 seneschal, vostre amisté/ En moy n'est **si** enploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent me doint
81 seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E **si** est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke
337 e tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ **Si** est grant desert venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est
926 vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ **Si** eus fuissent en la cort conuz,/ A grant honur serreint receuz
1190 suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ **Si** feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre
784 affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ **Si** fist tot son commaundement;/ Tant qe le counte enmaladi
231 Qe tant vers li ad getté s'amour;/ **Si** forment comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger
1194 vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ **Si** fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe
29 avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E **si** furent de une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals
1210 fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ **Si** fut fort durement;/ De loinz le virent tote sa gent/ Outre
847 La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut **si** hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast
862 tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ **Si** jeo de feim morir deveray,/ De mei memes force ne fray.'
109 a terre;/ N'est home qi me vousist crere/ **Si** jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li
342 icy servy./ A touz jours avera reprover/ **Si** jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal
1193 roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ **Si** jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur
278 ceo jour/ Ne serray en mon quer heytez/ **Si** jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye
363 Deu li doint male destiné!/ Si avra il, **si** jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e
560 fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E **si** jura grant serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt
809 Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e **si** laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint
719 de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke **si** laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad
973 appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ **Si** l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes
1037 jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ **Si** le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo oist
33 lor seygnur,/ Bien le portent a honour;/ **Si** les amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour talent
1072 mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ **Si** les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain
747 forment./ La dame l'acola tendrement,/ **Si** li demaunda quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit
1107 Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, **si** li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa
490 De son estre saver voleit./ Si li retint, **si** li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est

joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ **Si** li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si
nepurqant;/ De son estre saver voleit./ **Si** li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od
s'acompanie od feloun/ Ne porra trover **si** mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant compaignoun
tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ **Si** malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La
ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ **Si** ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe
dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ **Si** nul vous ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult
Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, **si** par la robe noun./ Amis, quant il se ajousta,/ Leez la dame
voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ **Si** par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn
Qe l'un de l'autre sout deviser,/ **Si** par noun les oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par
issi d'un senblant/ Ne crerreit home ja **si** parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun les
il mener grant baronage!/ N'ust od ly ja **si** privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa
hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms **si** privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[l] savera home de
devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com **si** rasour trenché le eust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le
tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ **Si** sain devendreit com pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun
lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ **Si** s'avint en avisioun/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un
vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ **Si** se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe
Quant Amillioun deust son noun nomer,/ **Si** se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit
plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, **si** s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa
coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, **si** s'esmerveilla./ La coupe durment regarda;/ Pensa cil
Lour launces ount as coups brusé/ E **si** sunt outrepassé./ A cel encountre tant firent bien/ Qe l'un
est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ **Si** tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher
de grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ **Si** vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun
seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, **si** vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour
Amillioun!/ Jeo vous di certeine novele:/ **Si** vous esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez
honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ **Si** vous gardez de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne
sir Amys,/ Traihir me volez, m'est avys!/ **Si** vous ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur
de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ **Si** vous requer par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e
simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!/ **Si** vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'
escoter!/ De deus juvenceals vous dirray,/ **Sicom** en escrit le trovay;/ Q'en la court un counte estoient
Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist **sicom** son dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit
fu sire e seignur;/ N'est pas merveile **s'il** ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne
fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ **S'il** chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les
volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, **s'il** defaut a la bataille,/ Le juggement averez saunz faille
li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ **S'il** en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les
Destourber ne vout son honur;/ Mes **s'il** eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre
vient premer;/ Atant se fist desarmer./ **S'il** eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est
Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [**s'**]**il** fuit auke vestu,/ Gentil home resemblereit./ Un de eux
respound,/ Par celi qe fist le mound,/ **S'il** le velt denier./ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil
fort estona./ Ore poet trop attendre:/ **S'il** ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E
E dit pur l'amur de luy/ Morust, **s'il** n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly
armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, **s'il** pout deffendre la bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E
ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ **S'il** vous velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E cle
Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast **s'il** vout servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un
de quer amer?'/ E ele respount moult **simplement**:/ 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus me volez
E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit **sir** Amillioun: —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy
l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit **sir** Amillioun/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere
A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit **sir** Amillioun/ Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove sa feme
vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De **sir** Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis
nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de **sir** Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre
se cocheit;/ Si s'avint en avisioun/ Ke **sir** Amys son compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li
E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau **sir** Amys,/ Traihir me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a
Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de **sir** Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E
rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E **sire** Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist
chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe **sire** Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous
al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist **sire** Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame, certes
moult li greve le departir./ Donqe parla **sire** Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone
pendue/ Qe de son seignur estre veue./ **Sire** Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist tot assembler
e un jour;/ A drein morust pur dolur./ **Sire** Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré
ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, **sire** Amillioun!/ Jeo vous di certeine novele:/ Si vous
passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E **sire** Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump
boys passerent/ Ou sire Amis reposeit./ **Sire** Amillioun primes le veit;/ Tost est cele part torné
assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de **sire** Amillioun/ Qe tant estoit leal compaignon./ Com il en
ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ **Sire** Amillioun, quant fust sané/ E de son grant mal netté

1033 en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, **sire** Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
119 li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ ' **Si[re]** Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De vous suy ore alé
1241 les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De **sire** Amis e de syre Amillioun./
244 n'i out nul remis/ Des chevalers for **sire** Amis,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa
483 errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou **sire** Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est
520 foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E **sire** Amist trestut le graunte./ Lour robes ount trestot
883 Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist **sire** Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé de li
832 hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ **Sire** Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile a un bordel
379 La mort vous va ja approchaunt!'/ ' **Sire**,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal
567 effraé/ E de les dames eust grant pité./ ' **Sire**,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur
1014 nomer,/ De dolur pout son quer crever:/ ' **Sire**,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez
528 Amys remaint od la meisné,/ Cum li **sire** e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour
837 Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu **sire** e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort
414 dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li **sire** fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un
345 Jeo quide que l'avez dit pur mal.'/ ' **Sire**,' le seneschal respound,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il
802 fey —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ **Sire**, purquei le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes
779 mes estre botiler./ Consailler fut fait e **sire**;/ Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la terre
1034 C'est mi sires, sire Amillioun!/ **Sire** quens, remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez amer
343 ne me puisse de li venger./ Est ceo voir, **sire** seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le
129 bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ ' **Sire** seneschal, vostre amisté/ En moy n'est si enploié/ Qe
1033 E qi en croiz suffri passioun,/ C'est mi **sires**, sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com
1057 E li memes a li vet/ Chescun jour **sis** foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame
115 levoit,/ Vers la court sei retorneyt;/ **Sitost** com en la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe
316 seneschal./ A son seignur le ala counter/ **Sitost** com il poet espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore
945 Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes **sitost** com il veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz
1098 quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé./ **Sitost** com le saunc senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe
950 pité:/ Al counte Amys ount counté./ Cil, **sitost** com mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son
1138 quant fust sané/ E de son grant mal netté,/ **Sitost** com porra prist congé,/ En son pais s'en est alé
146 devint;/ Purpense sei q'il se vengereit/ **Sitost** com son leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e
1105 E a mouster puis li mena./ La dame, **sitost** com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur
1182 fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./ **Sitost** com vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur
988 Al counte de cel hanap counta/ Coment a **soen** resembleit./ E le counte moult esmerveileit,/ De
790 Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust **soer** ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les
1061 molt de fin quer/ Comme si ele fust sa **soer**;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele
100 glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne **soffrez** q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car
817 ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil **soffri** en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz
864 De mei memes force ne fray.'/ L'enfant a **soi** donque appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir
49 demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de **soi** n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son
1193 Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne **soie** de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi
78 honur vus cri mercy,/ De une chose **soiez** garny:/ Le counte ad seignz un seneschal/ Qe mout est
717 Si vous esposez la damoisele,/ Einz qe **soint** .iii. anz passez,/ aprés de ceste leprouz serrez./ Avant
452 Mes ala com pelrin./ Ne fina unke **soir** ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist
698 E ele respount moult simplement:/ 'Tot **soit** a vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me
133 talent me doint e voler./ Si Amilliouns **soit** alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray
975 qe tant est mesaysé./ Mes le hanap **soit** bien gardé:/ En son esquiel le vin versez,/ E ma coupe
350 voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ **Soit** detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins
524 Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li **soit** en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose
1078 dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir **soit** mon sounge./ Mes ore, soit voir ou mensounge,/ La
1079 qe voir soit mon sounge./ Mes ore, **soit** voir ou mensounge,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur
919 Desques eus vindrent el pais/ Ou **sojorna** le counte Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E
1133 En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray del **solail** s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu
840 dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul **solas** ad ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui
858 Com longes me durra ceste vie?/ Jeo **solei** aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy
1035 quens, remembrez, Amys,/ Com vous li **soleiez** amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le
372 la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li **soleit** trop beal parler;/ Les oils sur ly forment roylla./ Amis
149 e fist son mester;/ Servi le counte com il **soleyt**,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé
68 Atant del counte departi,/ Si ala parler a **son** amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En bone foy
963 Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot **son** anguisse guerpir ne voleit./ Les deus hanaps tant
187 serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De **son** benfait avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li
971 voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ **Son** botiler ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si
39 lour feste teneint./ De Amys fist **son** botiler,/ Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt
633 Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de **son** cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié
619 Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant **son** cheval li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a

462 deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E **s o n** chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E
464 lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E **s o n** chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit
636 Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir **s o n** chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant
784 Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist tot **s o n** commaundement;/ Tant qe le counte enmaladi./ E quant
468 Si s'avint en avisioun/ Ke sir Amys **s o n** compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel
69 Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit **s o n** compaignoun,/ En bone foy saunz treson./ De plur ne se
743 son corage/ Fere ne li velt hountage/ De **s o n** compaignoun trahir./ Moult parfound getta un sospir,/ E
259 ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot **s o n** corage descovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il
741 qe fu pensifs,/ Bien entendi en **s o n** corage/ Fere ne li velt hountage/ De son compaignoun
579 E li memes le chivaler arma./ En **s o n** corage fust bien paié/ Quant ad le chivaler si bien armé
1053 ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con **s o n** corps li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e
623 Ses armes sout trop bien porter,/ Mes **s o n** coup est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe
658 Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe **s o n** coup tres bien apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe
268 pout pur hounte descoverir/ Sa volunté e **s o n** desir./ De respoundre se purpensoit/ Com celi qi talent ne
631 Si ceo retret tost arere./ Tost descendi de **s o n** destrer;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de son
842 N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet **s o n** dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
882 l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit **s o n** dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la
250 li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ **S o n** dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux
737 Coment il firent a coucher:/ La dame ad **s o n** dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo
722 l'ad bien entendu,/ E la prist sicom **s o n** dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa
692 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ **S o n** enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount
832 E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e **s o n** enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver
437 li ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ **S o n** enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist
976 Mes le hanap soit bien gardé:/ En **s o n** esquiel le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi
489 avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De **s o n** estre saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu
526 bien fere!/ Grant chose enprent pur **s o n** frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé
1044 Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe **s o n** frere desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz
1087 est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A **s o n** frere doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust
1234 se pena./ Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, **s o n** frere, ensement./ Moult se amerent fierement,/ E bone fut
726 Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment **s o n** frere eust deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad
433 Com celi qe grant mester en a./ De **s o n** frere li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li
478 noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ **S o n** frere qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en mynuyt
436 vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a **s o n** frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult
393 e la meisné./ Li un countre l'autre tendi **s o n** gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donqe jugga le
386 denieray.'/ Le seneschal atant se vint/ E **s o n** gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com
1099 envolupé./ Sitost com le saunc senti,/ De **s o n** grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi
1137 Sire Amillioun, quant fust sané/ E de **s o n** grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En son
1010 maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe **s o n** hanap out perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun
1086 levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e **s o n** haut noun/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe
60 com bon seygnur,/ Destourber ne vout **s o n** honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou
42 affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De **s o n** hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort
146 Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost com **s o n** leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son
465 son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en **s o n** lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en
797 tant estoit leal compaignon./ Com il en **s o n** lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour
812 li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en **s o n** lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne
1176 li venerent;/ Merci crier touz penserent./ **S o n** maltalent lour pardona,/ Od sei les tint e les ama
893 chivacher.'/ L'enfant a la dame ala,/ **S o n** message li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les
212 li mestre botiler,/ Amys, qi bien sout **s o n** mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li
148 Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist **s o n** mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte mout
952 mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par **s o n** mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes
750 dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer **s o n** noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre
710 l'huis de moster./ Quant Amillioun deust **s o n** noun nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une
581 chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en **s o n** oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a
867 Qe illoec morir le lessast,/ E yl en **s o n** pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur:/ 'Merci
759 pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En **s o n** pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust
1139 netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En **s o n** pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur
825 un enfant q'il out norri./ Fiz de un counte, **s o n** parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt
111 eus ount demené./ Li un s'en va ver **s o n** pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de
769 poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En **s o n** pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout
808 Ove sa feme tant demorra/ Qe tot **s o n** pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur
228 fuit tant bon chivaler/ Q'en la court n'out **s o n** per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté
48 loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe **s o n** pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun
51 heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe **s o n** pere fuy affyné,/ De son seignur le counte ad pris congé

688 Semblant li fist tant com osa,/ Car **s o n** pere moult dota./ Le counte atant l'ad appelé:/ 'Dy moy,'
422 demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En **s o n** plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E
84 ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a **s o n** poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout
1118 Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par **s o n** poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu
386 seneschal atant se vint/ E son gaunt en **s o n** poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de
951 ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ **S o n** premer mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert
1013 Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pout **s o n** quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A
134 doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ **S o n** quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul
981 mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de **s o n** sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe
930 l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama **s o n** seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des povres les
1029 saillist:/ Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe **s o n** seignur deust morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur
852 quere lour vivre avant./ Tantost counta a **s o n** seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a
1182 de pour se fuist muscé./ Sitost com vist **s o n** seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist relever
271 celi qi talent ne aveit/ Q'il mesprist vers **s o n** seignur./ Estez vous Florie par grant errour!/ Ele li
1141 s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe **s o n** seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte
1169 muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de **s o n** seignur estre veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa
1157 Q'entre nonaynes se muscereit;/ **S o n** seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car
315 un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A **s o n** seignur le ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le
52 sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De **s o n** seignur le counte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa
183 vus voil counter,/ Qe fuit demoré od **s o n** seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis
703 feussent al mariage./ L'endemain a terce **s o n a n t**/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les
744 trahir./ Moult parfound getta un **s o s p i r**,/ E el suspir geint forment./ La dame l'acola
791 pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For **s o u l** la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore
400 Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un **s o u l** n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz
523 chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut **s o u l** va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne
255 S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une **s o u l e** chambere/ Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys que
471 assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del **s o u n g e** fut moult effraé/ E tost sus sailli com home desvee
1078 onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon **s o u n g e**./ Mes ore, soit voir ou mensounge,/ La merveile
1076 Quant veu avoit l'avisioun/ E de cel **s o u n g e** resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine
928 serreint receuz./ Pres [de] la porte se **s o u n t** mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son
925 deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il **s o u n t**;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant honur
178 del counté./ De beauté avoit le pris/ **S o u r** touz les dames du pays./ Bien furent entre eux couplés
586 li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes **s o u r d r a** la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul
535 home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre **s o u t** deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne par cors ne par
236 E ele dit que malade fuit,/ Ne **s o u t** dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent
412 sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne **s o u t** ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant
327 y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant **s o u t** la covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint
411 Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne **s o u t** lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire
851 L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne **s o u t** ou quere lour vivre avant./ Tantost counta a son seignur
50 de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun **s o u t** pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur le
367 pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne **s o u t** quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus
212 Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qi bien **s o u t** son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li
622 l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses armes **s o u t** trop bien porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le
908 Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink **s o u z** e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo
1197 Qe vivre deusse bien du mien./ Dame, **s o v e n e z** vous del bien,/ Coment a manger me menastes/ E
1059 Tant com pout l'ad conforté./ La dame **s o v e n t** a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele
738 La dame ad son dreu acolé/ E par amour **s o v e n t** baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun
990 esmerveileit,/ De Amillioun donqe li **s o v e n t**:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad
24 eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent **s o v e n t**./ De cors de visage bien resembleyent:/ Si de une
1089 garisoun./ La dame vint, qe bone fust,/ **S o v e n t** Deu pur li requist./ Atant le counte s'est repairé./ En
875 grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ **S o v e n t** se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de grant
433 celi qe grant mester en a./ De son frere li **s o v y n t**;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala
502 jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo **s o y e** Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun
278 Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo ne **s o y e** de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye/ Quant
126 Mes quant s'en est departi,/ Requer qe **s o y e z** mon amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis
762 eust finé la bataille/ E coment eust fait la **s p o s a i l l e**./ En une chambre puis entrerent/ E lour robes
581 ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist **s u e f** en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa
1032 icel Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz **s u f f r i** passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens
870 Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous **s u f f r i r** dolur/ Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant l'un
1028 l'enfant avant saillist:/ Uwein, qi ne poet **s u f f r i r**/ Qe son seignur deust morir./ En haut cria: 'Mercy
309 de mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore **s u n t** a un de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e
1005 Quant batu li out e defolé/ Que ses mains **s u n t** allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en sa
107 Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez **s u n t** chaeuz a terre;/ N'est home qi me vousist crere/ Si jeo

103	Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se	**sunt** entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad home
506	vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe	**sunt** icy/ Od vous desoremés demorront;/ A ma court od vous
590	Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult	**sunt** orguillous e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet
602	Lour launces ount as coups brusé/ E si	**sunt** outrepassé./ A cel encountre tant firent bien/ Qe l'un ne
1160	Car un jour par matyné/ Les deus countes	**sunt** venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De
902	viaunde va querant,/ Mes tant lour vint	**sur** cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home
911	lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/	**Sur** deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes enchacer
612	Qe le coup ala descendant/ Si chiet	**sur** l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour
641	peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs./	**Sur** le senestre le coup descent,/ Mailles trenchent plus de
373	A li soleit trop beal parler;/ Les oils	**sur** ly forment roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il
685	de mer./ Atant li vount touz beiser:/	**Sur** touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li
43	hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal	**sur** touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps
354	Atant en la chambre entrat,/ La dame	**sur** un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus
895	li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus	**sus** les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure
472	Del sounge fut moult effraé/ E tost	**sus** sailli com home desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses
941	s'il vout servir./ E il getta un grant	**suspir**;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre
745	Moult parfound getta un sospir,/ E el	**suspir** geint forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li
748	li demaunda quoi pensoit/ E purquei tels	**suspirs** getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer
1204	pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./	**Suvenez** vous del bordel/ [K']a moy livrastes pur hostel
295	'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre amy	**suy** e serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers
279	jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore	**suy** jeo bien honye/ Quant vous me dedeignez avere amye
120	Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De vous	**suy** ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
751	—/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne	**suy** pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A
1188	deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain	**suy** revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com
860	tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore	**suy** tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim
339	fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo	**suy** trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A touz jours avera
567	dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo	**suy** venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait
380	'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo	**suy** vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For
105	entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./	**Suz** cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust
730	Le counte tynt feste plenere/ Une	**symaine** tot entere;/ Mout i furent des robes donez/ Dont les
1241	ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de	**syre** Amillioun./
801	moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/	**Ta** espee nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le feistes vous
994	emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la	**table** saut ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru
34	mult tendrement,/ Honur les fist a lour	**talent**./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz les ad
1054	corps li fist garder,/ Servir le fist tot a	**talent**/ De viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet
132	Qe ne puisse nul autre amer/ Quant	**talent** me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer
270	De respoundre se purpensoit/ Com celi qi	**talent** ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous
306	le froms si privément/ Touz deus a nostre	**talent**/ Ne[l] savera home de mere nee.'/ Tant li ad dit e parlé
698	moult simplement:/ 'Tot soit a vostre	**talent**!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas
916	De long en long li enmena./ Par la terre	**tant** alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus
770	s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe	**tant** ama come sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est
335	Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que	**tant** amey e tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est
962	ne vout vendre ne doner./ Mes le hanap	**tant** ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les
1015	'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe	**tant** amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites
958	mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe	**tant** amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit
227	E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit	**tant** bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele en
1065	tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/	**Tant** com il memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe
446	ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/	**Tant** com je puisse aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un
296	Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant	**tant** com jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par
687	E la pucele totevoie/ Semblant li fist	**tant** com osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte atant l'ad
1058	a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/	**Tant** com pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe
1206	moy livrastes pur hostel./ Celi averez	**tant** com vus viverez;/ En noun de dowere le tenez!'/ Donke
966	si en une mayn estoient,/ N'est home qe	**tant** de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
846	Tant plus leid deveneit./ La dame par	**tant** defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne
782	porreit dire./ Tenu fut par tote la terre,/	**Tant** demeint grant affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si
860	Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy	**tant** demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim
807	estoit leal compaignon./ Ove sa feme	**tant** demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid
654	fust bien anuié/ Qe la bataille ad	**tant** duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit
481	autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt	**tant** errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire Amis
225	la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe	**tant** ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon
974	Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe	**tant** est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/ En son
796	mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe	**tant** estoit leal compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa
23	de lour compaynie,/ Q'amerent entre eus	**tant** fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De cors de

603 E si sunt outrepassé./ A cel encountre **tant** firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun
634 a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ **Tant** fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir
609 healme grant coups dona./ Mes le healme **tant** fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala
645 la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe **tant** fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad
161 Q'il n'out dis chivalers de maisné./ **Tant** fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons
399 taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./ **Tant** fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové
1180 demaunder,/ Car de li se veut venger./ **Tant** fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se fuist muscé
281 Quant vous me dedeignez avere amye!/ **Tant** gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé
308 talent/ Ne[l] savera home de mere nee.'/ **Tant** li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount
902 enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes **tant** lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne
363 doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive **tant**;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu
766 Donque ne fuit aparcevant/ De lour estre **tant** ne quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si
20 fesoient unke semblaunt/ De companie **tant** ne quant./ Ceus de la court avoint envie/ De lour estre e
1163 Qe nul fut aparcevant/ De lour venue **tant** ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour venue ne
258 de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ **Tant** parla e taunt demora/ Qe tot son corage descovery:/ E dit
845 ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ **Tant** plus leid deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe nul ne
478 Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere qe **tant** pout amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As autres ne
785 Si fist tot son commaundement;/ **Tant** qe le counte enmaladi./ E quant longtemps out langui
457 Qe onke de nuyt ne se reposa,/ **Tant** qe vers une vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly
240 s'enveysent./ En cel langur demora/ **Tant** que li quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly
964 guerpir ne voleit./ Les deus hanaps **tant** resembleient/ Qe, si en une mayn estoient,/ N'est home
335 traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e **tant** ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant desert
230 son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe **tant** vers li ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer
414 aveient de ly pité,/ Mes li sire fust **tant** yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot
434 mester en a./ De son frere li sovynt;/ **Tantost** a la countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a
852 Ne sout ou quere lour vivre avant./ **Tantost** counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur
1022 De vostre demaunde ja ne faudrez!'/ **Tantost** espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le tuera./ Tost
248 mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele **tantost** li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit
986 Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arere **tantost** se repeira,/ Al counte de cel hanap counta/ Coment a
246 E il remist pur maladie./ E la damesele ne **targa** mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné
258 Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e **taunt** demora/ Qe tot son corage descovery:/ E dit pur l'amur
415 li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home **taunt** hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se
139 Pur promesse saunz seurté./ Mes de **taunt** me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol
17 nature,/ Angeles resembleient de faiture./ **Taunt** s'amerent fierement/ Que freres se firent par serement
185 seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./ **Taunz** com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit
397 troverent en hostage./ Le seneschal ad **taunz** trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li
1049 cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de **tay** levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa chambre li ad
1144 revint el pais/ E od li le counte Amis,/ **Tel** ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Donqe
1121 Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés **tel** autre ne averez./ De les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si
665 E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par **tel** ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot
1187 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez **tel** doil demener/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust
441 volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a **tel** jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma
1190 Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez **tele** com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me
1063 li poet fere companie./ Treis anz demena **tele** vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes
748 Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei **tels** suspirs getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra
147 com son leu verreyt./ Amis lessa le **temps** aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il
1066 com il memes desiroit./ Quant passa le **temps** issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li
1114 ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu **tendi**/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere joie
393 e la meisné./ Li un countre l'autre **tendi** son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donqe
387 se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E **tendist** en noun de gage/ Com home de grant vasselage,/ E
1026 Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col **tendist**./ Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, qi ne poet
33 le portent a honour;/ Si les amast mult **tendrement**,/ Honur les fist a lour talent./ Chivalers lour
486 primes le veit;/ Tost est cele part torné,/ **Tendrement** l'ad esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l
783 demeint grant affere./ Sa femme ly aime **tendrement**,/ Si fist tot son commaundement;/ Tant qe le
746 el suspir geint forment./ La dame l'acola **tendrement**,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei tels
229 la court n'out son per./ La pucele en prist **tendrour**/ Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment
38 si com il voleint;/ Hautement lour feste **teneint**./ De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly puet
214 vestu esteit,/ La coupe devant li quens **teneit**./ Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult
1207 com vus viverez;/ En noun de dowere le **tenez**!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si
71 foy saunz treson./ De plur ne se poet **tenir**,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla sire
417 un mot parler pur ly./ La dame ne se pout **tenir**/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte se genula
947 Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li **tenoient** a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al counte
920 le counte Amys/ Qe noble court illoeq **tenoit**/ E moult grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun

777 tost come li quens est fini./ Ore est amé e **tenu** cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut fait e
781 fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./ **Tenu** fut par tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa
703 Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a **terce** sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les
321 Tot lour estre fist espier./ Qant vint le **terme** q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par grant
616 l'espaudle del chival/ Cola le braunke en **terre** aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay
1039 Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu a **terre** chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet
618 Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a **terre** chay./ Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop
155 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa **terre** furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent
584 Sa fille a femme 1y dorreyt/ E de tote sa **terre** heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la
1229 Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa **terre** li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
1153 quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la **terre**,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a purpenser
107 la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a **terre**;/ N'est home qi me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté
53 ad pris congé,/ Qe li covient garder sa **terre**/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i
916 eysa,/ De long en long li enmena./ Par la **terre** tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus
781 voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la **terre**,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly aime
774 Grant seignurie e grant honur:/ De grant **terres** est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come
933 estres e les maneres/ E les custumes de les **terres**./ Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres
792 soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les **terres** recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad
300 vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en **tesmoignage**:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissez
237 mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se **teysent**/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur demora
4 troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se **tienge** pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom
335 m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant **ting** cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant desert venu
1177 Son maltalent lour pardona,/ Od sei les **tint** e les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se
386 atant se vint/ E son gaunt en son poing **tint**,/ E tendist en noun de gage/ Com home de grant
1146 unque femme ne out greignur./ Donqe se **tint** enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut
826 Fiz de un counte, son parent,/ Od li **tint** fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne
810 e si laid devint/ Qe checun pur mesel li **tint**./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son
151 E le counte mout li amoyt:/ Od sei le **tint** plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de
143 chescuny honur.'/ Li seneschal ataunt se **tint**,/ Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il se
811 Qe checun pur mesel li tint./ La dame li **tint** trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit
644 pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas **toché**./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona
485 primes le veit;/ Tost est cele part **torné**,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent passerent avant
404 a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at **tort**./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger
640 Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe **tost** abati les colurs./ Sur le senestre le coup descent
473 E tost sus sailli com home desvee./ **Tost** appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers
788 langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E **tost** aprés morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere
630 il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret **tost** arere./ Tost descendi de son destrer;/ Combatre voleit
571 vilaine roste serreit!/ Armes me fetes **tost** bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray
776 il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si **tost** come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet
631 tost la manere,/ Si ceo retret tost arere./ **Tost** descendi de son destrer;/ Combatre voleit per a per
485 reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ **Tost** est cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent
1039 fetes pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/ **Tost** estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz
629 a pié se mettreit./ Mes il aparceut **tost** la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost descendi de son
1024 demaunda,/ E il memes dist q'il le tuera./ **Tost** l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E
767 De lour estre tant ne quant./ A plus **tost** qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son
627 corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus **tost** q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit
887 Hors de ceo pais irroms/ A plus **tost** que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui
370 e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ **Tost** sailli hors de la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li
472 enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E **tost** sus sailli com home desvee./ Tost appela ses chevalers
1017 facez enprisoner,/ Mes le chef me faites **tost** trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la
329 Amis e la meschine,/ L'endemain vint **tot** a hounte:/ Acounté est tot lor oevre al counte./ Li quens fu
1054 son corps li fist garder,/ Servir le fist **tot** a talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes a li
1047 Trestouz plurent de pité./ Amis s'est **tot** adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de
1148 Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut **tot** appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore se
1171 Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist **tot** assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e
46 De cel mester longtemps servirent/ E par **tot** bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina
568 dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert **tot** ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste
1049 tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ **Tot** ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En
1240 vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ **Tot** ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun
730 counte tynt feste plenere/ Une symaine **tot** entere;/ Mout i furent des robes donez/ Dont les
922 E moult grant ben fesoit./ La povre gent **tot** enviroun/ Ala com a processioun./ Entre autres les deuz
972 botiler ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od **tot** le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est
330 vint tot a hounte:/ Acounté est **tot** lor oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot

320 estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ **Tot** lour estre fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il
755 bien counter,/ Car bien le deverez celer.'/ **Tot** lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé
667 Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust **tot** purfendant./ En la cervele cola le brank./ E l'oraille od
698 E ele respount moult simplement:/ ' **Tot** soit a vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me
963 ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en **tot** son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus hanaps tant
784 Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist **tot** son commaundement;/ Tant qe le counte enmaladi./ E
259 ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe **tot** son corage descovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust
808 Ove sa feme tant demorra/ Qe **tot** son pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun
1131 lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E **tot** vifs les ount trovez!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray
95 Quant compaignoun velt autre trahir./ A **tote** gent bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez
1212 De loinz le virent tote sa gent/ Outre **tote** la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne
391 E la verité provereit./ Est veus **tote** la court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un
669 En la cervele cola le brank./ E l'oraille od **tote** la face/ Voler fist enmi la place./ Le braz od le brank
781 Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par **tote** la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly aime
242 s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly **tote** sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers
1211 Si fut fort durement;/ De loinz le virent **tote** sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié
584 Sa fille a femme ly dorreyt/ E de **tote** sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes
1229 mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De **tote** sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
686 Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele **totevoie**/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son pere moult
1192 deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ **Tourné** me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si
684 est sain qe pesson de mer./ Atant li vount **touz** beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele
1045 encombré/ Qe son frere desconusseit/ Qe **touz** biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot
221 le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ **Touz** ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire aveient
819 Grant dolur e grant han./ Ses chevalers **touz** departoient,/ Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova
306 dit Florie,/ 'Nous le froms si privément/ **Touz** deus a nostre talent/ Ne[l] savera home de mere nee.'
1174 e chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ **Touz** devant li venerent;/ Merci crier touz penserent./ Son
205 del pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe **touz** fesoient sa volunté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un
707 Borgés, sergeans e esquiers./ Quant **touz** furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de
704 al mariage./ L'endemain a terce sonant/ **Touz** i furent, petit e grant,/ Les barons e les chevalers
341 trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A **touz** jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger
36 Chivalers lour fist a grant honur:/ **Touz** les ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il voleint
178 del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour **touz** les dames du pays./ Bien furent entre eux couplés/ De
455 e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ **Touz** les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa
685 de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur **touz** li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li
820 chevalers touz departoient,/ Ses garsons **touz** li guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide
947 veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ **Touz** li tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al
475 chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./ **Touz** lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour dist autre
1175 Touz devant li venerent;/ Merci crier **touz** penserent./ Son maltalent lour pardona,/ Od sei les tint
43 ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur **touz**/ Qi fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps
1101 corps ne en face/ De maladi ne appareust **trace**./ En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist vener
339 est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy **trahi**;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A touz jours avera
94 avenir/ Quant compaignoun velt autre **trahir**./ A tote gent bel responez,/ Grant preu e grant honur
743 ne li velt hountage/ De son compaignoun **trahir**./ Moult parfound getta un sospir,/ E el suspir geint
361 nous ad malement,/ Qe nostre fille ad **trahy** e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo
440 se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ **Traihir** me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour
334 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo **traitour** m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En
340 Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel **traitre** m'ad icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si jeo ne
463 a une raym lya./ Dormist, car mult fu **travaillé**,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son
360 Pur nostre bien hounte nous rend:/ **Tray** nous ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé
1063 sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ **Treis** anz demena tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant
1095 de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef **trenché**;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad
614 Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour **trenché** le eust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le
671 fist enmi la place./ Le braz od le brank **trencha**:/ Desque en la haunche le branc cola./ En cel champ
613 Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut **trencha** quir e fust/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy
642 Sur le senestre le coup descent,/ Mailles **trenchent** plus de cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la
1017 enprisoner,/ Mes le chef me faites tost **trencher**./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la
658 seneschal primes li ferist,/ Qe son coup **tres** bien apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe
226 damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E **tres** gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la
666 Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist **tresailler**,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la cervele
70 son compaignoun,/ En bone foy saunz **treson**./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le
54 Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist **treson** ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz
75 beau compaignoun,/ En bone foy saunz **tresoun**/ A nostre seignur servy avom./ Pur vostre honur vus
858 me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant **tresour**,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené

521 Amist trestut le graunte./ Lour robes ount **trestot** chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va
760 dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad **trestot** counté/ Coment eust finé la bataille/ E coment eust
313 Allas! Q'encusé serrount,/ Qe **trestot** oy un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son
282 Tant gentils hommes m'ount prié,/ E **trestouz** ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler
162 Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad **trestouz** doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
157 furent/ Od grant nobley li receurent;/ **Trestouz** li firent homage./ Ore poet il mener grant
823 ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./ **Trestouz** li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out norri
1046 desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./ **Trestouz** plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de
529 Cum li sire e envoyé;/ E quiderount **trestouz** pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame
197 E esposer la volirent,/ Mes ele a **trestouz** respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A grant
402 trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E **trestouz** virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort
520 ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist **trestut** le graunte./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E
613 descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ **Trestut** trencha quir e fust/ Com si rasour trenché le eust
606 ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire **tret** le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme
112 s'en va ver son pays,/ Li autres remeint **tristes** e pensifs./ Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la
3 De leauté e de grant douçour —/ De **troeffle** ne voil jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter
516 memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne **troesse**/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone
661 Qe Amillioun fort estona./ Ore poet **trop** attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra
372 Si encontra le botiler./ A li soleit **trop** beal parler;/ Les oils sur ly forment roylla./ Amis moult
1019 trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ **Trop** bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez
1069 Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun **trop** bien garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa
622 a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout **trop** bien porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le
811 checun pur mesel li tint./ La dame li tint **trop** en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od
623 sout trop bien porter,/ Mes son coup est **trop** pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e
1018 me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo **trop** vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il
570 tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ **Trop** vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur
397 en hostage./ Le seneschal ad taunz **trové**/ Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté
553 le botiler;/ E quant il ne pout estre **trové**,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele
1180 li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut **trové**/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com vist son
400 seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad **trové**./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le
821 Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne **trova** serjant ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner
37 Touz les ad dobbez en estour,/ Lour **trova** si com il voleint;/ Hautement lour feste teneint./ De
354 en la chambre entrat,/ La dame sur un lit **trovat**./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele
6 vous dirray,/ Sicom en escrit le **trovay**;/ Q'en la court un counte estoient/ E des armes li
85 quis a son poer,/ Mes encheson ne pout **trover**/ Par quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo serray
407 E le counte li velt venger./ Quant ne pout **trover** plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la place
904 vin e de blé./ Qe donke ne poient home **trover**/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne pount plus
92 Car qui s'acompanie od feloun/ Ne porra **trover** si mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant
917 la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise **troverent**/ Desques eus vindrent el pais/ Ou sojorna le
396 E donqe jugga le baronage/ Que plegges **troverent** en hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke le
1131 furent estranglés./ E tot vifs les ount **trovez**!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray del solail
479 visiter/ Son frere qe tant pout amer./ **Trusser** s'en vount en mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit
1072 deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz **tuast**/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain devendreit
1023 espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le **tuera**./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E
1208 de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un **turel**:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz
931 moult ama son seignur,/ Ala demaundant **tut** entour/ Des povres les estres e les maneres/ E les custumes
365 vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ **Tut** ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne
166 esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe **tut** le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon
523 chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ **Tut** soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E
729 Quant ad baroun a volunté./ Le counte **tynt** feste plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i furent des
199 vout uncore aver mary./ A grant cherté le **tynt** le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit
208 par aventure avint/ Qe li quens une feste **tynt**/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint
1222 liveré,/ Coment le counte out comaundé./ **Un** an vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire
461 Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz **un** arbre se cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car
894 ala,/ Son message li counta./ Ele li fist **un** asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne]
833 e son enfant,/ A chef de la vile a **un** bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun
562 les verreit arder./ Ataunt virent vener **un** chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe
7 Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la court **un** counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult furent de
825 Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de **un** counte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne
393 ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li **un** countre l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust
655 bien anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ **Un** coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le
309 nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a **un** de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
939 auke vestu,/ Gentil home resemblereit./ **Un** de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il

213 Amys, qi bien sout son mester:/ De **un** drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu
824 doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre **un** enfant q'il out norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li
13 Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li **un** estoit Amys par noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li
458 ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En **un** grant boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust
638 morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ **Un** grant coup li vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs
941 Demaundast s'il vout servir./ E il getta **un** grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur
1222 le counte out comaundé./ Un an vesqui e **un** jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt
209 avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par **un** jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est
207 sa volunté;/ De countredit n'en ad parlé./ **Un** jour par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un
1159 ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car **un** jour par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte
1084 Si par lour saunk poet estre sauné.'/ **Un** jour s'est par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu
587 l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le **un** l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en
354 Atant en la chambre entrat,/ La dame sur **un** lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez
292 retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le **un** mal e l'autre mout dota./ Corteisement ly respundi
985 poet estre?/ Ces deus hanaps fist **un** mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al counte de cel hanap
416 Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit **un** mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere
448 aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E **un** palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas
285 pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ **Un** play bien dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe
942 E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out **un** seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li
111 Del doel q'entre eus ount demené./ Li **un** s'en va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs
79 chose soiez garny:/ Le counte ad seignz **un** seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de mult
744 trahir./ Moult parfound getta **un** sospir,/ E el suspir geint forment./ La dame l'acola
400 Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys **un** soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E
1208 noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere **un** turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De
313 Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy **un** vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son seignur le ala
198 Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout **uncore** aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout
890 Priez a lui par charité/ Qe ele me face **une** ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la dame
1103 trace./ En Amis ne out qe regeir;/ **Une** bone robe li fist vener/ E a mouster puis li mena./ La
1091 requist./ Atant le counte s'est repairé./ En **une** chambre est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E
763 E coment eust fait la sposaille./ En **une** chambre puis entrerent/ E lour robes chaungerent
1167 mie./ Quant la dame oi counter,/ En **une** chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de
78 Pur vostre honur vus cri mercy,/ De **une** chose soiez garny:/ Le counte ad seignz un seneschal/ Qe
956 l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis **une** coupe avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe
911 Estre ceo lour fount fere/ Sur deus roes **une** cyvere/ Qu'il pout sei meismes enchacer./ Amillion fist
189 Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens **une** dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la
29 l'un de l'autre desceverast./ E si furent de **une** estature,/ De une forme e de une nature./ Leals furent
1219 garderont./ Une garce la serveit/ Qe par **une** fenestre luy porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le
208 Un jour par aventure avint/ Qe li quens **une** feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé
191 une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ **Une** fille avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut
30 E si furent de une estature,/ De **une** forme e de une nature./ Leals furent envers lor seygnur
1218 Coment iour seignurs lour garderont./ **Une** garce la serveit/ Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun
172 Par lour consail se mariat:/ **Une** gentile femme esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E
332 Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot **une** luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad
965 deus hanaps tant resembleient/ Qe, si en **une** mayn estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne seust
15 appelé Amillyoun./ Li deus estoient de **une** nature,/ Angeles resembleient de faiture./ Taunt
30 furent de une estature,/ De une forme e de **une** nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le portent
1067 Quant passa le temps issi,/ Qe li quens **une** noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop
462 Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a **une** raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival
194 Mout fut gentile la damoysele,/ En **une** realme ne out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E
26 cors de visage bien resembleyent:/ Si de **une** robe vestu estoient,/ N'est home el mound qe les avisast
255 eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove **une** soule chambere/ Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys
730 a volunté./ Le counte tynt feste plenere/ **Une** symaine tot entere;/ Mout i furent des robes donez/ Dont
457 onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers **une** vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly covynt
1068 temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ **Une** voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il
712 Si se purpensa moult estreit;/ Oyst **une** voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun
969 de l'autre deviser deust./ [... ... ...]/ Qe **unke** lesser le voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ Son
501 fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo **unke** ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir
476 Touz lour fist mettre lour seeles;/ **Unke** ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter
83 parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ **Unke** ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes
123 Qi a vous ert leal compaignon./ Ne volez **unke** nul autre amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant
1226 molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ **Unke** puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier
19 par serement;/ As autres ne fesoient **unke** semblaunt/ De companie tant ne quant./ Ceus de la court
719 aprés de ceste leprouz serrez./ Avant mes **unke** si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.'

452 chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina **unke** soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne
1145 li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe **unque** femme ne out greignur./ Donqe se tint enfyn honie
218 Entre eux communement disoient/ Qe **unque** si bel chevaler ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe
677 pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les **uns** chaunterent, les autres plorerent./ Les chevalers ja
882 La gent l'appelent Amorant,/ Mes **Uwein** fuit son dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun
1028 tendist./ Mais l'enfant avant saillist:/ **Uwein**, qi ne poet suffrir/ Qe son seignur deust morir./ En
378 Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous **va** ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo
901 Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde **va** querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de
523 E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul **va** saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il
111 doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en **va** ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant
1173 Chasteleins e chivalers./ Serjanz, **vadlet** e esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci crier touz
313 Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy un **vassal**/ De la meisnee le seneschal./ A son seignur le ala
9 armes li servoient./ Moult furent de grant **vassalage**,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de
388 en noun de gage/ Com home de grant **vasselage**,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité
351 detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore **vaut** meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la
218 disoient/ Qe unque si bel chevaler ne **veient**;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne
119 poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien **veignant**!/ De vous suy ore alé pensant/ E de misire
980 le present./ Le povres, qe mesel fuit en **vein**,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si
50 autre heyr./ Quant Amillioun sout pur **veir**/ Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur le counte ad
574 nostre dreit.'/ Le quens, quant le chevaler **veit**,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de
925 autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus **veit**, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant
484 Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le **veit**;/ Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E
436 Congé li ala demaunder/ Qe a son frere **velt** aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut
94 piz ne porra avenir/ Quant compaignoun **velt** autre trahir./ A tote gent bel responez,/ Grant preu e
1123 les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu **velt**, bien lé recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé/ E le
347 Par celi qe fist le mound,/ S'il le **velt** denier./ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de
695 Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous **velt** esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele respount moult
1168 En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz **velt** estre pendue/ Qe de son seignur estre veue./ Sire
827 Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne **velt** guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que mout
742 Bien entendi en son corage/ Fere ne li **velt** hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult parfound
41 Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne **velt** lesser:/ De son hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal
1003 Ne li poeient assuager/ Q'il ne li **velt** ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt
406 Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li **velt** venger./ Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la
349 le voil prover,/ E cil que de nous est **vencu**/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut
961 mesmes avoit le per,/ Qe ne vout **vendre** ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son
907 plus entendre/ Q'il covient lor asne **vendre**/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour
896 sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] **vendreit**/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont
65 ly hastivement,/ E il od force de sa gent/ **Vendroit** a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del
1103 ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist **vener**/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com vew li
562 il memes les verreit arder./ Ataunt virent **vener** un chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant
1174 Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li **venerent**;/ Merci crier touz penserent./ Son maltalent lour
241 que li quens s'en ala/ A boys juwer en **venerie**,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis
441 Traihir me volez, m'est avys!/ Si vous ne **venez** a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous
289 chivals destret./ Donques serray de vous **vengé**!'/ Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se purpensa
318 fut molt lee;/ Ore quideit bien estre **vengé**/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist espier
673 le branc cola./ En cel champ fu ben **vengé**;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas
504 par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom **vengé**,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy
1193 ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous **vengé**./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas
342 avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li **venger**./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez
406 ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt **venger**./ Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la
1179 sa femme demaunder,/ Car de li se veut **venger**./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se fuist
627 deit a pié;/ A plus tost q'il pout se **vengereit**,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il aparceut
145 pale devint;/ Purpense sei q'il se **vengereit**/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le temps
278 mon quer heytez/ Si jeo ne soye de vous **vengez**!/ Certes ore suy jeo bien honye/ Quant vous me
816 ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist **venir**./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses
567 eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy **venu**!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit
337 En qi me porrai affier?/ Si est grant desert **venu**:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi
1165 La meisnee fust endormie;/ De lour **venue** ne saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ En une
1163 descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour **venue** tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour
1160 un jour par matyné/ Les deus countes sunt **venuz**/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour
223 De sa beauté matire aveient./ Est **venuz** la novele/ En la chaumbre a la damoisele/ Del botiler
585 dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est **venuz** l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre
1239 fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles **ver**, parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis

111 q'entre eus ount demené./ Li un s'en va **ver** son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant
1009 Amillioun donque maundereit/ E la **verité** de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est
382 nul vous ad de moy counté/ For que dreit a **verité**,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'
390 E dit que od li combat[er]eit/ E la **verité** provereit./ Est veus tote la court ensemblé,/ Ly
510 robes chaungé,/ Donqe quideront de **verité**/ Qe vous seiez lour seignur./ Si vous requer par amur
991 donqe li sovent:/ 'Bien sai', fait il, ' **verraiment**,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté
1157 se muscereit;/ Son seignur jamés ne **verrait**./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné
561 E si jura grant serement/ Qe il memes les **verreit** arder./ Ataunt virent vener un chevaler/ Qe vers eux
146 sei q'il se vengereit/ Sitost com son leu **verreyt**./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester
563 Ataunt virent vener un chevaler/ Qe **vers** eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu
114 Quant Amis de palmisoun levoit,/ **Vers** la court sei retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li
997 l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il **versé**./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient de
230 per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant **vers** li ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele
287 vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe **vers** li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret
769 Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays **vers** s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en
271 Com celi qi talent ne aveit/ Q'il mesprist **vers** son seignur./ Estez vous Florie par grant errour!/ Ele li
457 Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe **vers** une vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly covynt
297 E vostre serjant tant com jeo viveray./ **Vers** vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous en averez
976 soit bien gardé:/ En son esquiel le vin **versez**,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le
1238 en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant **vertuz**:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le
457 de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une **vespré**/ En un grant boys est alé./ A force ly covynt dormir
1222 Coment le counte out comaundé./ Un an **vesqui** e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun
1231 aveit deservy./ En bone vie longtemps **vesqui**;/ En bienfaitz se pena./ Aprés sa mort a Deu ala
1018 tost trencher./ Mes certes ai jeo trop **vesqui**;/ Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous
213 qi bien sout son mester:/ De un drap **vestu** esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals
26 bien resembleyent:/ Si de une robe **vestu** estoient,/ N'est home el mound qe les avisast/ Qe l'un
937 l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke **vestu**,/ Gentil home reseblereit./ Un de eux ly appeleyt
1056 e de boivre ensement./ E li memes a li **vet**/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad
531 fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li **veu** aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent
945 fuit li demaundeient,/ Mes sitost com il **veu** avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a
1075 Si sain devendreit com pessoun./ Quant **veu** avoit l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il
936 alere[n]t juaunt/ E les povres regardant,/ **Veu** ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu
1169 velt estre pendue/ Qe de son seignur estre **veue**./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist tot
391 combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est **veus** tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un
815 li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, **veut** morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant
1179 fist sa femme demaunder,/ Car de li se **veut** venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se
211 La fuit assemblé maint baroun./ Est **veuz** li mestre botiler,/ Amys, qi bien sout son mester:/ De
1105 puis li mena./ La dame, sitost com **vew** li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li
1055 fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De **viande** e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun
901 revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour **viaunde** va querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De pain
190 Li quens une dame aveit/ Q'il come sa **vie** ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme
276 Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma **vie** aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo ne
446 murrez mie,/ Tant com je puisse aver la **vie**!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz
1063 fere companie./ Treis anz demena tele **vie**;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desiroit
861 e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma **vie** est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei
1041 Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa **vie** hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee
857 seinte Marie,/ Com longes me durra ceste **vie**?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or
1231 herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone **vie** longtemps vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Aprés sa mort a
412 Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou **vie**, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire
839 s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la **vie**;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui parler
770 pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa **vie**./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant
1147 enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en **vie**./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre
679 Les chevalers ja corerent,/ Mes le counte **vient** premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li
1131 Les enfantz furent estranglés./ E tot **vifs** les ount trovez!/ En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray del
645 n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de **vigour**,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien
570 ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop **vilaine** roste serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes
326 ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit **vilaynie**./ Le seneschal, quant sout la covine/ Entre Amis e
833 Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de la **vile** a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires
352 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e **vileins**.'/ Atant en la chambre entrat,/ La dame sur un lit
298 mye/ Par quei vous en averez **vilenye**/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en
1192 le roy celestre./ Tourné me ert a grant **vilté**/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet
903 Mes tant lour vint sur cherté/ De pain, **vin** e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour
972 ad appelé:/ 'Pernez ma coupe od tot le **vin**,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé

976 hanap soit bien gardé:/ En son esquiel le **vin** versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le
998 Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers **vindrent** del deys,/ Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner li
918 feym e me[s]aise troverent/ Desques eus **vindrent** el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble court
1126 service Deu ount escoté./ Aprés la messe **vint** a mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys donqe
154 Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant **vint** a sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant
1107 com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ **Vint** al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun
638 qe nel pout amer,/ Un grant coup li **vint** doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati
979 reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E **vint** e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein
385 qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant se **vint**/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de
995 Outre la table saut ataunt,/ A cel povre **vint** errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il
321 botiler;/ Tot lour estre fist espier./ Qant **vint** le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit
605 l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun **vint** par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal
665 gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li **vint** par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot
1088 A son frere doine garisoun./ La dame **vint**, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le
549 De sir Amillioun voloms parler./ Le jour **vint** qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal
902 Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour **vint** sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient
329 Entre Amis e la meschine,/ L'endemain **vint** tot a hounte:/ Acounté est tot lor oevre al counte./ Li
1134 s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo **virent**,/ A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant
402 Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz **virent** qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a
1211 bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz le **virent** tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement
562 Qe il memes les verreit arder./ Ataunt **virent** vener un chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure
576 ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de **vis**./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En
25 E de ceo se coroucent sovent./ De cors de **visage** bien resembleyent:/ Si de une robe vestu estoient
477 dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit **visiter**/ Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en
565 Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il **vist** fut grantment effraé/ E de les dames eust grant pité
982 sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la **vist**, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda;/ Pensa cil
1182 Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com **vist** son seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist
220 meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne **vist**./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire
909 souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour **vitaille**./ Estre ceo lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere
1201 mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon **vivant**/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir
1151 lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est **vive**./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la
363 li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo **vive** tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis
844 que ly serveit./ Amillioun com plus **viveit**,/ Tant plus leid deveneit./ La dame par tant defendi
296 e serray,/ E vostre serjant tant com jeo **viveray**./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous en
418 pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur **vivere** ne pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le
1206 pur hostel./ Celi averez tant com vus **viverez**;/ En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un
851 oy cel comaund,/ Ne sout ou quere lour **vivre** avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est
1196 defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe **vivre** deusse bien du mien./ Dame, sovenez vous del bien
828 E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur **vivre** ne pur morir./ La dame, que mout est ennuyé
1203 mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur **vivre** ne pur morir./ Suvenez vous del bordel/ [K']a moy
750 getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne **vodra** celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez
822 trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li **vodra** doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il
793 aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore **vodrom** de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester./ Vus
1239 E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les **voegles** ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De
1 Qi **voet** oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant douçour
182 de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus **voil** counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li servi
3 e de grant douçour —/ De troeffle ne **voil** jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ De deus
1081 voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne **voil** lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par lour saunk
870 douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz **voil** od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperour.'
348 S'il le velt denier./ Com leal chevaler le **voil** prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis
1080 voir ou mensounge,/ La merveile voiz **voil** prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait
127 qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien **voilant**.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal, vostre
905 ne poient home trover/ Qe rien lour **voille** doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient lor
1020 vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'/ ' **Voir**,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre demaunde ja ne
423 li serreit,/ En son plegge devendreit./ ' **Voir**,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe
1079 qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit **voir** ou mensounge,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur mes
529 sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur **voir**/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu
343 Si jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo **voir**, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire
1078 Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe **voir** soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou mensounge,/ La
1068 issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une **voiz** oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en
712 Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une **voiz** que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez
1080 soit voir ou mensounge,/ La merveile **voiz** voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera
1000 Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner li **voleient**,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li pocient

37 ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il **voleint**;/ Hautement lour feste teneint./ De Amys fist son
813 despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne **voleit** auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz
812 li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne **voleit** entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od
963 ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne **voleit**./ Les deus hanaps tant resembleient/ Qe, si en une
543 dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne **voleit** parler,/ Desqes al matin al lever./ Chescune nuyt issi
632 Tost descendi de son destrer;/ Combatre **voleit** per a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist
780 Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il **voleit** porreit dire./ Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint
725 Mes la resceit come sa mullier./ Ne **voleit** qe eus furent aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La
969 deust./ [... ... ...]/ Qe unke lesser le **voleit**./ Quant le counte ad pres mangé,/ Son botiler ad
489 entendi nepurqant;/ De son estre saver **voleit**./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant
477 ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il **voleit** visiter/ Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en
670 cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ **Voler** fist enmi la place./ Le braz od le brank trencha
132 nul autre amer/ Quant talent me doint e **voler**./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E
423 plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens, **volez** ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la
699 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus me **volez** marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount fut
440 Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me **volez**, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez
123 Qi a vous ert leal compaignon./ Ne **volez** unke nul autre amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes
196 Deus countes la desirent,/ E esposer la **volirent**,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver
548 lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun **voloms** parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal
205 chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa **volunté**;/ De countredit n'en ad parlé./ Un jour par aventure
268 Qe ele pout pur hounte descoverir/ Sa **volunté** e son desir./ De respoundre se purpensoit/ Com celi
728 damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a **volunté**./ Le counte tynt feste plenere/ Une symaine tot
898 l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en **vont**;/ Jamés quident qe revendrount./ Owein, le leal enfant
129 Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal, **vostre** amisté/ En moy n'est si enploié/ Qe ne puisse nul
295 ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy,/ **Vostre** amy suy e serray,/ E vostre serjant tant com jeo
380 dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy **vostre** chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For que
299 Par quei vous en averez vilenye/ Ne de **vostre** corps hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si
319 lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De **vostre** corteis botiler;/ Tot lour estre fist espier./ Qant vint
1021 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De **vostre** demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E
302 ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissez **vostre** dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'/ 'Hostez
752 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De **vostre** espoir failli avez./ A vous le peus bien counter,/ Car
427 Le juggement averez saunz faille,/ Qe **vostre** fille fust destiné! '/ La dame lermist pur pité,/ Prist
77 A nostre seignur servy avom./ Pur **vostre** honur vus cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le
99 Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien **vostre** seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez
296 Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E **vostre** serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
698 respount moult simplement:/ 'Tot soit a **vostre** talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy
655 Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li **voudra** ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal
479 Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en **vount** en mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt
589 Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en **vount** les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera
924 com a processioun./ Entre autres les deuz **vount**./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en
684 Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li **vount** touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele
693 combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e **vous** ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt
691 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur **vous** ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad
381 mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul **vous** ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
443 Vous savez bien qe mon seignur/ Pur **vous** ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma
274 errour!/ Ele li respondi e dist: 'Coment/ **Vous** ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en
802 entre nous,/ Sire, purquei le feistes **vous**?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'
1197 deusse bien du mien./ Dame, sovenez **vous** del bien,/ Coment a manger me menastes/ E del pais
1204 Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez **vous** del bordel/ [K']a moy livrastes pur hostel./ Celi averez
1111 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes **vous** desconforteray./ Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz
507 aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od **vous** desoremés demorront;/ A ma court od vous irrount./ E
249 congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer **vous** dey la pucele:/ Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie
715 —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo **vous** di certeine novele:/ Si vous esposez la damoisele,/ Einz
153 privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore **vous** dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La
880 avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun **vous** dirray de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes
5 se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals **vous** dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la court un
12 grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si **vous** dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun
518 Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo **vous** dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire
102 li devez amour e foy,/ Car bien ad amé **vous** e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de
140 Mes de taunt me poez crere/ Qe, si **vous** eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour
298 Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei **vous** en averez vilenye/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo
122 alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a **vous** ert leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
716 Jeo vous di certeine novele:/ Si **vous** esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez

871 Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz **vous** estre emperour.'/ Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout
1037 bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez, **vous** fetes pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu a
272 Q'il mesprist vers son seignur./ Estez **vous** Florie par grant errour!/ Ele li respondi e dist: 'Coment
141 Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol **vous** fray od graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li
98 honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si **vous** gardez de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne
376 fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par **vous** honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja
508 desoremés demorront;/ A ma court od **vous** irrount./ E quant nous averoms robes chaungé,/ Donqe
499 Del serment serrez encombré./ Pur **vous** la bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo
1020 bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, ' **vous** l'averez!/ De vostre demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost
753 quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A **vous** le peus bien counter,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot
1035 Sire quens, remembrez, Amys,/ Com **vous** li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé
375 moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu **vous** maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Mes vous ne
280 Certes ore suy jeo bien honye/ Quant **vous** me dedeignez avere amye!/ Tant gentils hommes
377 Ma fille est par vous honye./ Mes **vous** ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'
297 serjant tant com jeo viveray./ Vers **vous** ne mesprendroie mye/ Par quei vous en averez vilenye
441 Amys,/ Traihir me volez, m'est avys!/ Si **vous** ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur
83 Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne **vous** pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes encheson
751 celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe **vous** quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous le peus
512 de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si **vous** requer par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en
442 m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ **Vous** savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'
511 chaungé,/ Donqe quideront de verité/ Qe **vous** seiez lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma
568 pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount **vous** sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop
870 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od **vous** suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant l'un
120 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De **vous** suy ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous
378 Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort **vous** va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal
695 aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il **vous** velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele respount
289 des chivals destret./ Donques serray de **vous** vengé!'/ Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se
1193 me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de **vous** vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas
278 en mon quer heytez/ Si jeo ne soye de **vous** vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye/ Quant vous me
108 sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi me **vousist** crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus
816 Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li **vousist** venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han
1226 peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne **vout** aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien
437 son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li **vout**,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys
723 E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne **vout** lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus
940 Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il **vout** servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un
60 fist com bon seygnur,/ Destourber ne **vout** son honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees
198 Mes ele a trestouz respoundi/ Ne **vout** uncore aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E
961 Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne **vout** vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son
1113 Sachez, dame, que pur sa saunté/ **Voz** deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu tendi/ E
84 plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal **vus** ad quis a son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par
800 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo **vus** aime en bone fey —/ Ta espee nue meistes entre nous
356 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille **vus** avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre
275 'Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo **vus** ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray
285 estes e laner!/ Un play bien dur **vus** bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy
77 seignur servy avom./ Pur vostre honur **vus** cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le counte ad
89 Donke vus serra il fort enemy./ Gardez **vus** de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui
735 esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore **vus** dei jeo bien counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame
1014 son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe **vus** devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
795 lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester./ **Vus** dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal compaignon
1110 il out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo **vus** dirray,/ Mes vous desconforteray./ Sachez, dame, que pur
379 va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, ' **vus** dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de
424 dit li quens, volez ensy?/ E jeo lealment **vus** dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement averez
1189 Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt **vus** fust ben avenu,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par
699 'Tot soit a vostre talent!/ Si **vus** me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount
86 Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il **vus** pout grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus
505 de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe **vus** quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous
88 Mes quant jeo serray departi,/ Donke **vus** serra il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od
1206 pur hostel./ Celi averez tant com **vus** viverez;/ En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un
182 lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys **vus** voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li
434 frere li sovynt;/ Tantost a la countesse **vynt**,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son
546 se contint/ Desques Amyllioun a meson **vynt**./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms
326 chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il **y** avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine/ Entre
583 deffendre la bataille,/ Sa fille a femme l **y** dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé

867 li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E **y l** en son pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur
414 aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant **y rré**/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur